

青森市埋蔵文化財調査報告書 第66集

いな やま
稲 山 遺 跡

発掘調査報告書

(第一分冊 本文編)

平成14年度

青森市教育委員会



第20号竖穴式住居跡（N）



第20号配石遺構（SE）



第851号土坑（SE）



狩獵文土器、動物形土製品

序

青森市内では、300ヶ所を超える多数の遺跡が確認されており、近年では、これまで大規模な調査例の少なかった東部地区においても県新総合運動公園建設事業に係る調査等、多くの発掘調査が実施されております。

当委員会においても、東北縦貫自動車道路八戸線建設に係る市内諏訪沢地区所在の稲山遺跡について、その記録保存を図るため、これまで平成10年度より平成13年度まで四次にわたる発掘調査を実施しており、本書は第三次にあたる平成12年度に実施した発掘調査の成果をまとめたものであります。

当該年度の調査では、遺構、遺物の密集区東側の調査を実施しており、調査の結果これまでの西側の調査と同様、竪穴式住居跡、土坑、配石遺構等を検出し、また、土器、石器等の遺物もこれまでの調査と同様、多数が出土いたしております。

本書が、今後の埋蔵文化財の保護並びに活用にささやかなりとも役立つことができれば幸いと存じます。

最後となりましたが、調査の実施から本書の作成にわたる、調査員、関係各機関並びに各位からのご指導、地元各町会からのご協力、さらに工事主体者であります日本道路公団並びに青森市都市整備部のご理解に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

青森市教育委員会

教育長 角 田 詮 二 郎

例 言

1. 本書は、日本道路公団並びに青森市都市政策部（現 青森市都市整備部）より委託を受け青森市教育委員会が平成10年度より実施している東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）建設事業並びに高規格道路建設促進事業に係る青森市大字諏訪沢字山辺に所在する稲山遺跡の、第三次調査に相当する平成12年度調査の発掘調査報告書である。
2. 稲山遺跡の現地調査は、これまで平成10～13年度に四次にわたり実施しており、平成14年度には、整理・報告書刊行作業を実施した。なお、平成15年度以降に第五次調査を予定している。
3. 第一次、第二次調査である平成10、11年度調査については、これまで平成12年度に「稲山遺跡発掘調査報告書」（第1～4編）平成13年度に「稲山遺跡発掘調査報告書」（第5編）として刊行しており、本書の構成もこれらに引き続き「第6編 平成12年度発掘調査成果」とした。第一分冊は、本文編、第二分冊は、表・写真図版編である。なお、平成12年度刊行の「稲山遺跡発掘調査概報」は、平成12年度調査成果について速報的にまとめたものであり、記載内容については、本書が優先する。
4. 本遺跡の遺跡番号は、01045である。
5. 本書の執筆並びに編集は、青森市教育委員会が行った。小野貴之が担当した。
6. 出土遺物の分類については、種別毎に凡例に記載した。
7. 調査区におけるグリッドの設定、測量原点（B・M）基本層序については、第一次調査に相当する平成10年度発掘調査を踏襲し、これと同様である。また、土層の注記については、「新版標準土色帳」（小山正忠、竹原秀雄1993）に準拠した。なお、各遺構の計測値については、確認面から計測した数値である。
8. 遺構番号は、第一次調査より継続して、原則的に遺構の種別毎に、確認順に番号を付した。また、精査後、遺構でないことが判明したものについては欠番とした。
9. 図版番号及び表番号は、原則的に「第 図」、「第 表」とし、順番に通し番号を付した。
10. 挿図の縮尺は、各図ごとに示した。また、写真図版の縮尺については統一を図っていない。
11. 資料の鑑定及び分析について次の方々々に依頼した。（順不同・敬称略）

石器の石質鑑定	青森県総合学校教育センター指導主事	工藤 一 彌
水晶の鑑定	山梨学院大学教授	十菱 駿 武
12. 土器実測並びに石器実測及びそのトレースは、一部を次の業者に委託した。

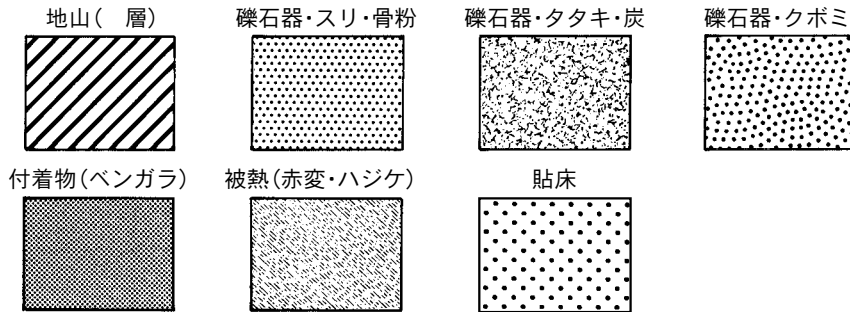
土器の実測・トレース	アイシン精機株式会社文化財プロジェクト
石器の実測・トレース	株式会社シン技術コンサル
〃	株式会社アルカ
13. 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森市教育委員会で保管している。
14. 発掘調査及び報告書の作成にあたって次の各機関・各氏からご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する（順不同・敬称略）。

青森県教育庁文化財保護課・青森県埋蔵文化財調査センター・東部二区連合町会・諏訪沢地区農事振興会・財団法人山形県埋蔵文化財センター・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館・稲野 裕介・岡田 康博・小笠原 雅行・葛城 和穂・川崎 利夫・齊藤 主税・佐野 一絵・鈴木 徹・高橋 潤・高橋 忠彦・竹田 純子・中島 友文・中村 哲也・成田 滋彦・秦 光次郎・林 謙作・平山 明寿

凡 例

1. 本報告書内で使用する、スクリーン・トーン・表現方法・略称は以下のとおりである。

(1) 図中で使用したスクリーン・トーン



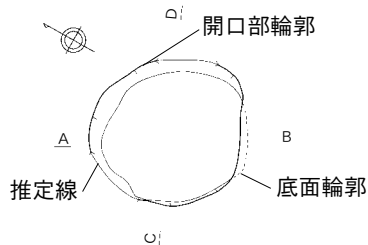
(2) 土器片利用土製品研磨範囲



(3) 石器実測図の剥片石器原礫面については、ドットを用いた。また、調査・整理時における欠損と思われる剥離面は、空白とした。

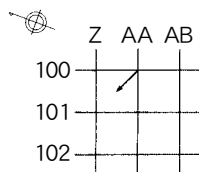
(4) 遺構の推定線等

(例) 第510号土坑



(5) グリッドの呼称

(例) A A - 100グリッド



(6) 図中、表中で使用した遺構の略称

「第○号竪穴式住居跡」 「○住」 「第○号土坑」 「○土」 「第○号埋設土器遺構」 「埋」
 「第○号配石遺構」 「配」 「第○号溝状遺構」 「溝」 「第○号焼土遺構」 「焼」

(7) 図中で使用したアルファベットを用いた略称

P...土器 S...石器 L B...ロームブロック

2. 出土遺物の分類

本遺跡の出土遺物の分類については、第一次調査である平成10年度調査時より継続するものであり、本書並びに今後刊行予定である本遺跡の調査報告書についても基本的には同様である。各種遺物の分類やその詳細については、青森市埋蔵文化財調査報告書第56集『稲山遺跡発掘調査報告書』（青森市教育委員会2001）において記述しており、第56集を参照されたい。

（1）出土土器の分類

本遺跡で出土した土器は以下のように分類した。

第 群土器	縄文時代早期の土器
第 群土器	縄文時代前期の土器
第 群土器	縄文時代中期の土器
第 群土器	縄文時代後期の土器
第 群土器	縄文時代晩期の土器
第 群土器	続縄文・弥生時代の土器
第 群土器	平安時代の土器

（2）出土石器の分類

本遺跡で出土した石器は以下のように分類した。

（1）剥片石器

・石鏃

1 無茎

（1）凹基

（2）平基

2 円・尖基

（1）円基

（2）尖基

3 有茎

（1）凹基

（2）平基

（3）凸基

4 その他の石鏃

5 欠損品等で基部が無く、細分できないもの

6 石鏃未製品

・銚先鏃

・石槍（6 cm以上のもの）

1 幅広のもの

2 細長のもの

3 欠損品等で細分できないもの

- ・石錐
 - 1 錐部のみ二次調整を行うもの
 - 2 全体に二次調整を行うもの
 - (1) つまみ部を有するもの
 - (2) 直線的な棒状のもの
 - 3 錐部の欠損品等で細分できないもの

- ・石匙
 - 1 縦型
 - 2 横型
 - 3 欠損品等で細分できないもの

- ・大石平型石篋

- ・石篋
 - 1 撥形を呈するもの
 - 2 側縁が弧状のもの
 - 3 側縁が直線的なもの
 - 4 欠損品等で細分できないもの

- ・異形石器

- ・不定形石器

- 1 刃部の調整が一側縁の1/2以上にわたるもの
 - A 側縁部のみに調整が施されるもの
 - B 端部のみに調整が施されるもの
 - C 側縁部及び端部に調整が施されるもの
 - D 尖頭状の刃部を有するもの
 - E 円形、楕円形の周囲に調整が施されるもの
 - F 定形石器の欠損品と思われるもの
 - G 挟入部をもつもの
 - H 鋸齒縁のもの
- 2 刃部の調整が一側縁の1/2未満のもの
- 3 刃部は作出されていないが、微細剥離が認められるもの
- 4 欠損品等で細分できないもの

- ・その他の剥片石器

- ・剥片

- ・石核

(2) 石斧

- 1 磨製石斧
 - A 小型磨製石斧
 - B 擦切磨製石斧
 - C A、B以外のもの
- 2 打製石斧

(3) 礫石器

・礫石錘

- 1 器体の長軸に平行な側縁に抉りを作成するもの
- 2 器体の短軸に平行な側縁に抉りを作成するもの
- 3 器体の長軸及び短軸に平行な側縁に抉りを作成するもの
- 4 欠損品等で細分できないもの

・有溝石錘

- 1 円形・扁平な礫の器体長軸に全周する1条の溝を有するもの
- 2 円形・扁平な礫の器体短軸に全周する1条の溝を有するもの
- 3 2条以上の溝を有するもの

・敲磨器類

- 1 磨痕のみを有するもの
 - A 円形、楕円形を呈する礫の側縁に磨痕を有するもの
 - B 断面が三角形を呈する礫の側縁に磨痕を有するもの
 - C 円形、楕円形を呈する礫の全面に磨痕を有するもの
 - D 円形、楕円形を呈する礫の平坦面中央に磨痕を有するもの
 - E 磨痕の部位が複合するもの
 - F 上記以外の形態の自然礫を用いているもの
 - G 他の石器を転用しているもの
- 2 敲打痕のみを有するもの
 - A 円形、楕円形を呈する扁平な礫の平坦面に敲打痕を有するもの
 - B 円形、楕円形を呈する扁平な礫の端部に敲打痕を有するもの
 - C 球状を呈する礫の広範囲に敲打痕を有するもの
 - D 断面が三角形を呈する礫の側縁に敲打痕を有するもの
 - E 敲打痕の部位が複合するもの
 - F 上記以外の形態の自然礫を用いているもの
 - G 他の石器を転用しているもの
- 3 凹痕のみを有するもの
- 4 磨痕、敲打痕、凹痕を複合し有するもの
- 5 1～4に含まれないもの

・半円状扁平打製石器及び類似する石器

・挟入扁平磨製石器及び類似する石器

・剥離のある礫

・擦切具

・砥石

・石皿・台石

- 1 石皿
- 2 台石

(3) 水晶

- 1 加工しているもの

2 加工していないもの

A 群晶

B 単体

(3) 出土土製品の分類

本遺跡で出土した土製品は以下のように分類した。

- ・土偶
- ・鐸形土製品
- ・ミニチュア土器
- ・耳飾
- ・腕輪状土製品
- ・動物形土製品
- ・有孔土製品
- ・紐状土製品
- ・笠形土製品
- ・三角形土版
- ・円形土版
- ・土器片利用土製品
- ・焼成粘土塊
- ・茸形土製品
- ・靴形土製品

(4) 出土石製品の分類

本遺跡で出土した石製品は以下のように分類した。

- ・三角形岩版
- ・円形岩版
- ・その他の岩版
- ・岩版関係資料
- ・有孔石製品
- ・球状石製品
- ・椀状石製品
- ・耳飾
- ・イモ貝状石製品
- ・線刻礫
- ・採集石製品
- ・石冠
- ・石棒
- ・石刀
- ・軽石石製品
- ・その他の石製品

目 次

(第一分冊 本文編)

序

例言

凡例

本文目次

図版目次

第 6 編	平成12年度発掘調査成果.....	1
第 1 章	平成12年度稲山遺跡発掘調査要項.....	1
第 2 章	調査経過.....	5
第 3 章	検出遺構と出土遺物.....	11
第 1 節	検出遺構.....	11
1 .	竪穴式住居跡.....	11
2 .	土坑.....	117
3 .	埋設土器遺構.....	446
4 .	配石遺構.....	456
5 .	溝状遺構.....	467
6 .	焼土遺構.....	469
第 2 節	出土遺物.....	471
1 .	土器.....	471
第 群土器	471
第 群土器	497
2 .	石器.....	530
3 .	土製品.....	614
4 .	石製品.....	630
	平成12年度調査のまとめ.....	658
	引用・参考文献.....	659
	報告書抄録.....	660
	既刊埋蔵文化財関係報告書一覧	

図版目次

第 1 図	稲山遺跡位置図	2	第 62 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅶ)	88
第 2 図	調査区設定図	3・4	第 63 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅷ)	89
第 3 図	平成10～12年度遺構配置図	7・8	第 64 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅸ)	90
第 4 図	平成12年度遺構配置図	9・10	第 65 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅹ)	91
第 5 図	第13号竪穴式住居跡	25・26	第 66 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅺ)	92
第 6 図	第14号竪穴式住居跡	27	第 67 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅻ)	93
第 7 図	第15号竪穴式住居跡(1)	29・30	第 68 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅼ)	94
第 8 図	第15号竪穴式住居跡(2)	31	第 69 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅽ)	95
第 9 図	第16号竪穴式住居跡	33・34	第 70 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅾ)	96
第 10 図	第17号竪穴式住居跡	35	第 71 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅿ)	97
第 11 図	第18号竪穴式住居跡	36	第 72 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅰ)	98
第 12 図	第19号竪穴式住居跡	37	第 73 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅱ)	99
第 13 図	第20号竪穴式住居跡	38	第 74 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅲ)	100
第 14 図	第21号竪穴式住居跡	39・40	第 75 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅳ)	101
第 15 図	第22号竪穴式住居跡	41	第 76 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅴ)	102
第 16 図	第22・23号竪穴式住居跡	42	第 77 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅵ)	103
第 17 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅰ)	43	第 78 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅶ)	104
第 18 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅱ)	44	第 79 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅷ)	105
第 19 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅲ)	45	第 80 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅸ)	106
第 20 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅳ)	46	第 81 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅹ)	107
第 21 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅴ)	47	第 82 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅺ)	108
第 22 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅵ)	48	第 83 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅻ)	109
第 23 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅶ)	49	第 84 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅼ)	110
第 24 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅷ)	50	第 85 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅽ)	111
第 25 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅸ)	51	第 86 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅾ)	112
第 26 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅹ)	52	第 87 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	113
第 27 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅺ)	53	第 88 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	114
第 28 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅻ)	54	第 89 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	115
第 29 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅼ)	55	第 90 図	遺構内出土土製品・石製品(竪穴式住居跡)	116
第 30 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅽ)	56	第 91 図	土坑(1 Ⅹ 277土・282土・295土・296土・ 304土・306土)	308
第 31 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅾ)	57	第 92 図	土坑(2 Ⅹ 318土・327土A・327土B・328土・ 330土・349土・451土)	309
第 32 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 Ⅿ)	58	第 93 図	土坑(3 Ⅹ 501～506土)	310
第 33 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅰ)	59	第 94 図	土坑(4 Ⅹ 507土・509土・510土・516土・ 522～524土・530土)	311
第 34 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅱ)	60	第 95 図	土坑(5 Ⅹ 534～539土)	312
第 35 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅲ)	61	第 96 図	土坑(6 Ⅹ 540～546土)	313
第 36 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅳ)	62	第 97 図	土坑(7 Ⅹ 550土・552～556土)	314
第 37 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅴ)	63	第 98 図	土坑(8 Ⅹ 557～560土・565土・566土・568土)	315
第 38 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅵ)	64	第 99 図	土坑(9 Ⅹ 569土・570土・572土・574土・ 575土・578土・579土)	316
第 39 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅶ)	65	第100 図	土坑(10 Ⅹ 580土～584土)	317
第 40 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅷ)	66	第101 図	土坑(11 Ⅹ 586～588土・590土・592土・594土)	318
第 41 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅸ)	67	第102 図	土坑(12 Ⅹ 591土・595土・596土・599土・ 602土・604土)	319
第 42 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅹ)	68	第103 図	土坑(13 Ⅹ 606～609土・613～615土)	320
第 43 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅺ)	69	第104 図	土坑(14 Ⅹ 616～619土・624土)	321
第 44 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅻ)	70	第105 図	土坑(15 Ⅹ 625～628土・631土・647土・648土)	322
第 45 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅼ)	71	第106 図	土坑(16 Ⅹ 649～654土)	323
第 46 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅽ)	72	第107 図	土坑(17 Ⅹ 655～659土・662土・664土・ 665土・669土)	324
第 47 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅾ)	73	第108 図	土坑(18 Ⅹ 670～675土・679土・680土・682土)	325
第 48 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	74	第109 図	土坑(19 Ⅹ 681土・683～686土)	326
第 49 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	75	第110 図	土坑(20 Ⅹ 687～693土・695土)	327
第 50 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	76	第111 図	土坑(21 Ⅹ 696土・697土・703土・704土・706土)	328
第 51 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	77	第112 図	土坑(22 Ⅹ 705土・707土・711土・715土・ 722～725土)	329
第 52 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	78	第113 図	土坑(23 Ⅹ 726土・727土・730土・731土・ 733土・734土)	330
第 53 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	79	第114 図	土坑(24 Ⅹ 735～742土)	331
第 54 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	80			
第 55 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	81			
第 56 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	82			
第 57 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	83			
第 58 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	84			
第 59 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	85			
第 60 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	86			
第 61 図	遺構内出土石器(竪穴式住居跡 ⅿ)	87			

第115图	土坑(25)	743±·744±·746 ~ 750±)	332
第116图	土坑(26)	751±·753 ~ 756±·760±·761±· 763±·764±)	333
第117图	土坑(27)	762±·770±·774±·776 ~ 778±· 792±·802 ~ 806±)	334
第118图	土坑(28)	807 ~ 812±·841±·843±)	335
第119图	土坑(29)	844 ~ 849±·852±)	336
第120图	土坑(30)	851±·853±·854±·868±· 881±·890±)	337
第121图	土坑(31)	891 ~ 897±·908±)	338
第122图	土坑(32)	909±·910±·913±·914±· 920 ~ 922±)	339
第123图	土坑(33)	923±·924±·936 ~ 938±·945±)	340
第124图	土坑(34)	946 ~ 948±·949± A·949± B· 955±·956±·958±·959±)	341
第125图	土坑(35)	960±·963 ~ 968±·973±·974±)	342
第126图	土坑(36)	975±·976± A·976± B· 977±·978±·983±)	343
第127图	土坑(37)	984 ~ 989±)	344
第128图	土坑(38)	990± ~ 992±·999±·1030±)	345
第129图	土坑(39)	1036 ~ 1038±·1040±· 1041±·1044±)	346
第130图	土坑(40)	1045±·1046±·1048± A·1048± B· 1049 ~ 1051±)	347
第131图	土坑(41)	1052±·1054±·1055±· 1057± ~ 1061±)	348
第132图	土坑(42)	1062 ~ 1065±·1069 ~ 1071±· 1073±)	349
第133图	土坑(43)	1072·1074 ~ 1079±)	350
第134图	土坑(44)	1080±·1081±·1083±·1085±· 1089 ~ 1094±)	351
第135图	土坑(45)	1095 ~ 1097±·1099±·1100±· 1127 ~ 1133±)	352
第136图	土坑(46)	1134±·1136 ~ 1139±· 1143 ~ 1145±·1153±)	353
第137图	土坑(47)	1154 ~ 1159±·1190 ~ 1194±)	354
第138图	土坑(48)	1195 ~ 1197±·1199±· 1220 ~ 1225±·1227±·1241±)	355
第139图	土坑(49)	1226±·1242 ~ 1244±· 1248 ~ 1250±)	356
第140图	土坑(50)	1251±·1252±·1257 ~ 1261±)	357
第141图	土坑(51)	1262±·1264 ~ 1167±· 1269±·1271±)	358
第142图	土坑(52)	1272 ~ 1274±·1278±·1280±)	359
第143图	土坑(53)	1279±·1281±·1282±· 1285±·1288±)	360
第144图	土坑(54)	1289 ~ 1292±·1400±·1401±)	361
第145图	土坑(55)	601±·605±·610 ~ 612±·629±· 630±·646±·661±·779 ~ 801±· 868±·871±·872±)	362
第146图	土坑(56)	335 ~ 338±·512±·513±·515±·517±· 519 ~ 521±·567±·880±·884±·885±)	363
第147图	土坑(57)	526 ~ 528±·531±·532±·548±·549±·551±· 561 ~ 564±·598±·600±·620 ~ 623±·660±· 676 ~ 678±·728±·729±)	364
第148图	土坑(58)	632 ~ 635±·637±·638±·640 ~ 642±· 698 ~ 702±·771±·772±)	365
第149图	土坑(59)	708 ~ 710±·712 ~ 721±·745±· 757 ~ 759±·765±·768±·769±)	366
第150图	土坑(60)	813 ~ 820±·822 ~ 829±· 831 ~ 840±·863±·864±)	367
第151图	土坑(61)	865 ~ 867±·877 ~ 879±·882±·883±· 889±·926 ~ 935±·939 ~ 941±)	368

第152图	土坑(62)	969±·970±·972±·993±·994± A· 995 ~ 998±·1032±·1043±· 1160 ~ 1175±·1178 ~ 1189±· 1200 ~ 1213±·1216 ~ 1219±· 1228 ~ 1240±·1245 ~ 1247±· 1254±·1263±)	369
第153图	土坑(63)	1163 ~ 1175±·1178 ~ 1189±·1200 ~ 1213±· 1216 ~ 1219±·1228 ~ 1231·1233±)	370
第154图	土坑(64)	1122±·1123±·1125±·1126±·1176±· 1177±·1214±·1215±·1232±·1234 ~ 1240±· 1245 ~ 1247±·1254±·1263±)	371
第155图	遺構内出土土器(土坑)	1)	372
第156图	遺構内出土土器(土坑)	2)	373
第157图	遺構内出土土器(土坑)	3)	374
第158图	遺構内出土土器(土坑)	4)	375
第159图	遺構内出土土器(土坑)	5)	376
第160图	遺構内出土土器(土坑)	6)	377
第161图	遺構内出土土器(土坑)	7)	378
第162图	遺構内出土土器(土坑)	8)	379
第163图	遺構内出土土器(土坑)	9)	380
第164图	遺構内出土土器(土坑)	10)	381
第165图	遺構内出土土器(土坑)	11)	382
第166图	遺構内出土土器(土坑)	12)	383
第167图	遺構内出土土器(土坑)	13)	384
第168图	遺構内出土土器(土坑)	14)	385
第169图	遺構内出土土器(土坑)	15)	386
第170图	遺構内出土土器(土坑)	16)	387
第171图	遺構内出土土器(土坑)	17)	388
第172图	遺構内出土土器(土坑)	18)	389
第173图	遺構内出土土器(土坑)	19)	390
第174图	遺構内出土土器(土坑)	20)	391
第175图	遺構内出土土器(土坑)	21)	392
第176图	遺構内出土土器(土坑)	22)	393
第177图	遺構内出土土器(土坑)	23)	394
第178图	遺構内出土土器(土坑)	24)	395
第179图	遺構内出土土器(土坑)	25)	396
第180图	遺構内出土土器(土坑)	26)	397
第181图	遺構内出土土器(土坑)	27)	398
第182图	遺構内出土土器(土坑)	28)	399
第183图	遺構内出土土器(土坑)	29)	400
第184图	遺構内出土土器(土坑)	30)	401
第185图	遺構内出土土器(土坑)	31)	402
第186图	遺構内出土土器(土坑)	32)	403
第187图	遺構内出土土器(土坑)	33)	404
第188图	遺構内出土土器(土坑)	34)	405
第189图	遺構内出土土器(土坑)	35)	406
第190图	遺構内出土土器(土坑)	36)	407
第191图	遺構内出土土器(土坑)	37)	408
第192图	遺構内出土土器(土坑)	38)	409
第193图	遺構内出土石器(土坑)	1)	410
第194图	遺構内出土石器(土坑)	2)	411
第195图	遺構内出土石器(土坑)	3)	412
第196图	遺構内出土石器(土坑)	4)	413
第197图	遺構内出土石器(土坑)	5)	414
第198图	遺構内出土石器(土坑)	6)	415
第199图	遺構内出土石器(土坑)	7)	416
第200图	遺構内出土石器(土坑)	8)	417
第201图	遺構内出土石器(土坑)	9)	418
第202图	遺構内出土石器(土坑)	10)	419
第203图	遺構内出土石器(土坑)	11)	420
第204图	遺構内出土石器(土坑)	12)	421
第205图	遺構内出土石器(土坑)	13)	422
第206图	遺構内出土石器(土坑)	14)	423

第207回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ15)	424	第270回	遺構外出土第 群石器(13)	515
第208回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ16)	425	第271回	遺構外出土第 群石器(14)	516
第209回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ17)	426	第272回	遺構外出土第 群石器(15)	517
第210回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ18)	427	第273回	遺構外出土第 群石器(16)	518
第211回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ19)	428	第274回	遺構外出土第 群石器(17)	519
第212回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ20)	429	第275回	遺構外出土第 群石器(18)	520
第213回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ21)	430	第276回	遺構外出土第 群石器(19)	521
第214回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ22)	431	第277回	遺構外出土第 群石器(20)	522
第215回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ23)	432	第278回	遺構外出土第 群石器(21)	523
第216回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ24)	433	第279回	遺構外出土第 群石器(22)	524
第217回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ25)	434	第280回	遺構外出土第 群石器(23)	525
第218回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ26)	435	第281回	遺構外出土第 群石器(24)	526
第219回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ27)	436	第282回	遺構外出土第 群石器(25)	527
第220回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ28)	437	第283回	遺構外出土第 群石器(26)	528
第221回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ29)	438	第284回	遺構外出土第 群石器(27)	529
第222回	遺構内出土石器(土坑Ⅰ30)	439	第285回	遺構外出土石器(1)	541
第223回	遺構内出土土製品(土坑Ⅰ1)	440	第286回	遺構外出土石器(2)	542
第224回	遺構内出土土製品(土坑Ⅰ2)	441	第287回	遺構外出土石器(3)	543
第225回	遺構内出土土製品(土坑Ⅰ3)	442	第288回	遺構外出土石器(4)	544
第226回	遺構内出土土製品(土坑Ⅰ4)	443	第289回	遺構外出土石器(5)	545
第227回	遺構内出土石器製品(土坑Ⅰ1)	444	第290回	遺構外出土石器(6)	546
第228回	遺構内出土石器製品(土坑Ⅰ2)	445	第291回	遺構外出土石器(7)	547
第229回	埋設土器遺構	450	第292回	遺構外出土石器(8)	548
第230回	遺構内出土土器(埋設土器遺構Ⅰ1)	451	第293回	遺構外出土石器(9)	549
第231回	遺構内出土土器・石器(埋設土器遺構)	452	第294回	遺構外出土石器(10)	550
第232回	遺構内出土土器(埋設土器遺構Ⅱ2)	453	第295回	遺構外出土石器(11)	551
第233回	遺構内出土土器(埋設土器遺構Ⅲ3)	454	第296回	遺構外出土石器(12)	552
第234回	遺構内出土土器(埋設土器遺構Ⅳ4)	455	第297回	遺構外出土石器(13)	553
第235回	配石遺構(1)	459	第298回	遺構外出土石器(14)	554
第236回	配石遺構(2)	460	第299回	遺構外出土石器(15)	555
第237回	配石遺構(3)	461	第300回	遺構外出土石器(16)	556
第238回	遺構内出土石器(配石遺構Ⅰ1)	462	第301回	遺構外出土石器(17)	557
第239回	遺構内出土石器(配石遺構Ⅱ2)	463	第302回	遺構外出土石器(18)	558
第240回	遺構内出土石器(配石遺構Ⅲ3)	464	第303回	遺構外出土石器(19)	559
第241回	遺構内出土石器(配石遺構Ⅳ4)	465	第304回	遺構外出土石器(20)	560
第242回	遺構内出土石器(配石遺構Ⅴ5)	466	第305回	遺構外出土石器(21)	561
第243回	溝状遺構・焼土遺構	470	第306回	遺構外出土石器(22)	562
第244回	遺構外出土第 群石器(1)	483	第307回	遺構外出土石器(23)	563
第245回	遺構外出土第 群石器(2)	484	第308回	遺構外出土石器(24)	564
第246回	遺構外出土第 群石器(3)	485	第309回	遺構外出土石器(25)	565
第247回	遺構外出土第 群石器(4)	486	第310回	遺構外出土石器(26)	566
第248回	遺構外出土第 群石器(5)	487	第311回	遺構外出土石器(27)	567
第249回	遺構外出土第 群石器(6)	488	第312回	遺構外出土石器(28)	568
第250回	遺構外出土第 群石器(7)	489	第313回	遺構外出土石器(29)	569
第251回	遺構外出土第 群石器(8)	490	第314回	遺構外出土石器(30)	570
第252回	遺構外出土第 群石器(9)	491	第315回	遺構外出土石器(31)	571
第253回	遺構外出土第 群石器(10)	492	第316回	遺構外出土石器(32)	572
第254回	遺構外出土第 群石器(11)	493	第317回	遺構外出土石器(33)	573
第255回	遺構外出土第 群石器(12)	494	第318回	遺構外出土石器(34)	574
第256回	遺構外出土第 群石器(13)	495	第319回	遺構外出土石器(35)	575
第257回	遺構外出土第 群石器(14)	496	第320回	遺構外出土石器(36)	576
第258回	遺構外出土第 群石器(1)	503	第321回	遺構外出土石器(37)	577
第259回	遺構外出土第 群石器(2)	504	第322回	遺構外出土石器(38)	578
第260回	遺構外出土第 群石器(3)	505	第323回	遺構外出土石器(39)	579
第261回	遺構外出土第 群石器(4)	506	第324回	遺構外出土石器(40)	580
第262回	遺構外出土第 群石器(5)	507	第325回	遺構外出土石器(41)	581
第263回	遺構外出土第 群石器(6)	508	第326回	遺構外出土石器(42)	582
第264回	遺構外出土第 群石器(7)	509	第327回	遺構外出土石器(43)	583
第265回	遺構外出土第 群石器(8)	510	第328回	遺構外出土石器(44)	584
第266回	遺構外出土第 群石器(9)	511	第329回	遺構外出土石器(45)	585
第267回	遺構外出土第 群石器(10)	512	第330回	遺構外出土石器(46)	586
第268回	遺構外出土第 群石器(11)	513	第331回	遺構外出土石器(47)	587
第269回	遺構外出土第 群石器(12)	514	第332回	遺構外出土石器(48)	588

第333圖	遺構外出土石器(49)	589
第334圖	遺構外出土石器(50)	590
第335圖	遺構外出土石器(51)	591
第336圖	遺構外出土石器(52)	592
第337圖	遺構外出土石器(53)	593
第338圖	遺構外出土石器(54)	594
第339圖	遺構外出土石器(55)	595
第340圖	遺構外出土石器(56)	596
第341圖	遺構外出土石器(57)	597
第342圖	遺構外出土石器(58)	598
第343圖	遺構外出土石器(59)	599
第344圖	遺構外出土石器(60)	600
第345圖	遺構外出土石器(61)	601
第346圖	遺構外出土石器(62)	602
第347圖	遺構外出土石器(63)	603
第348圖	遺構外出土石器(64)	604
第349圖	遺構外出土石器(65)	605
第350圖	遺構外出土石器(66)	606
第351圖	遺構外出土石器(67)	607
第352圖	遺構外出土石器(68)	608
第353圖	遺構外出土石器(69)	609
第354圖	遺構外出土石器(70)	610
第355圖	遺構外出土石器(71)	611
第356圖	遺構外出土石器(72)	612
第357圖	遺構外出土石器(73)	613
第358圖	遺構外出土土製品(1)	618
第359圖	遺構外出土土製品(2)	619
第360圖	遺構外出土土製品(3)	620
第361圖	遺構外出土土製品(4)	621
第362圖	遺構外出土土製品(5)	622
第363圖	遺構外出土土製品(6)	623
第364圖	遺構外出土土製品(7)	624
第365圖	遺構外出土土製品(8)	625
第366圖	遺構外出土土製品(9)	626
第367圖	遺構外出土土製品(10)	627
第368圖	遺構外出土土製品(11)	628
第369圖	遺構外出土土製品(12)	629
第370圖	遺構外出土石製品(1)	635
第371圖	遺構外出土石製品(2)	636
第372圖	遺構外出土石製品(3)	637
第373圖	遺構外出土石製品(4)	638
第374圖	遺構外出土石製品(5)	639
第375圖	遺構外出土石製品(6)	640
第376圖	遺構外出土石製品(7)	641
第377圖	遺構外出土石製品(8)	642
第378圖	遺構外出土石製品(9)	643
第379圖	遺構外出土石製品(10)	644
第380圖	遺構外出土石製品(11)	645
第381圖	遺構外出土石製品(12)	646
第382圖	遺構外出土石製品(13)	647
第383圖	遺構外出土石製品(14)	648
第384圖	遺構外出土石製品(15)	649
第385圖	遺構外出土石製品(16)	650
第386圖	遺構外出土石製品(17)	651
第387圖	遺構外出土石製品(18)	652
第388圖	遺構外出土石製品(19)	653
第389圖	遺構外出土石製品(20)	654
第390圖	遺構外出土石製品(21)	655
第391圖	遺構外出土石製品(22)	656
第392圖	遺構外出土石製品(23)	657

第6編 平成12年度発掘調査成果

第1章 平成12年度稲山遺跡発掘調査要項

1. 調査目的

東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）建設工事、高規格道路建設促進事業に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

2. 遺跡名及び所在地

稲山遺跡（いなやま）
青森市大字諏訪沢字山辺地内

3. 事業実施期間 平成12年4月1日～平成13年3月31日
（発掘調査期間 平成12年5月22日～平成12年10月31日）

4. 調査対象面積 23,300㎡（全調査対象面積）
5,452㎡（平成12年度調査実施面積）

6. 調査委託者 日本道路公団、青森市都市政策部（現 青森市都市整備部）

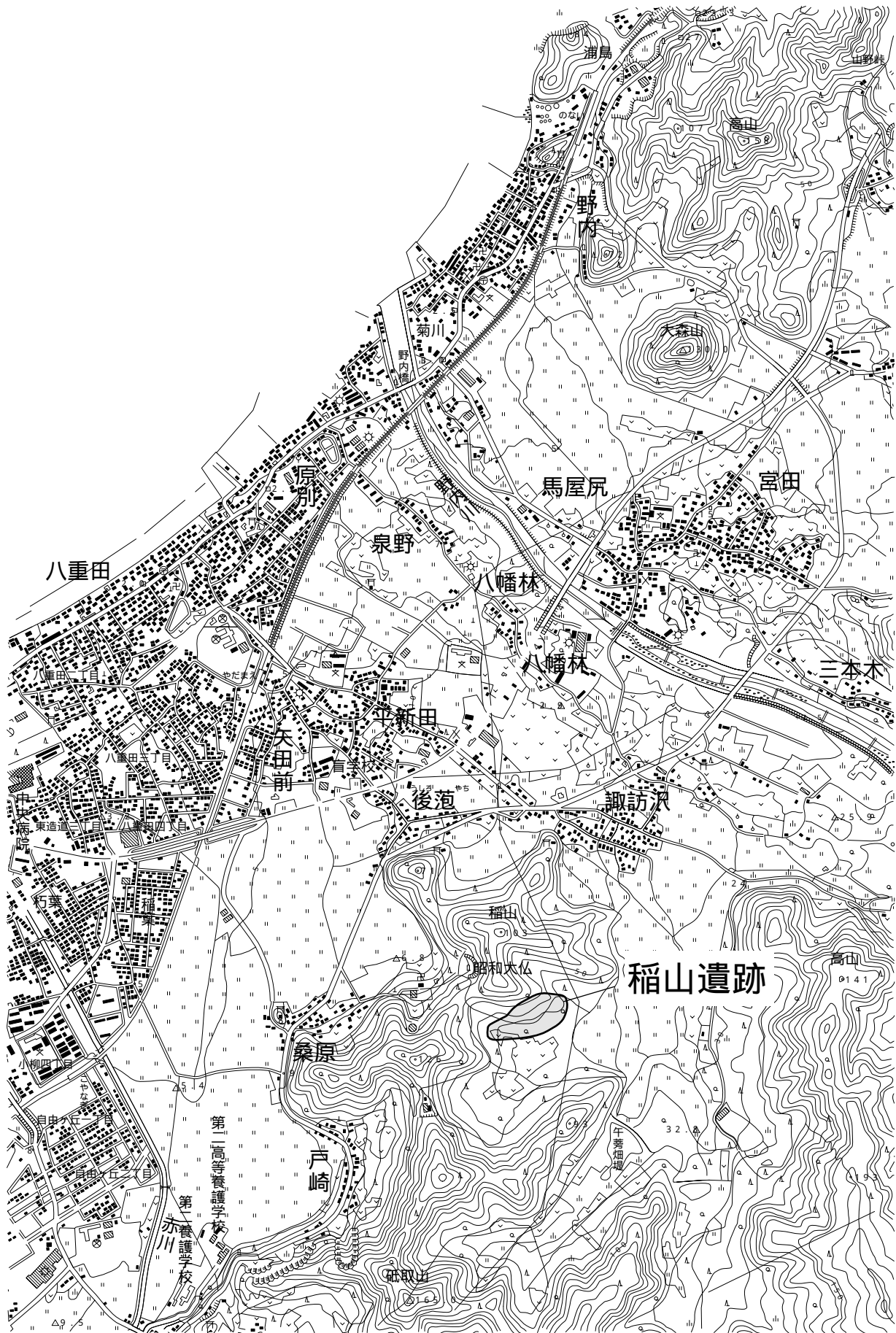
7. 調査受諾者 青森市教育委員会

8. 調査担当機関 青森市教育委員会生涯学習部文化財課（現 青森市教育委員会文化財課）

9. 調査指導機関 青森県教育庁文化課（現 青森県教育庁文化財保護課）

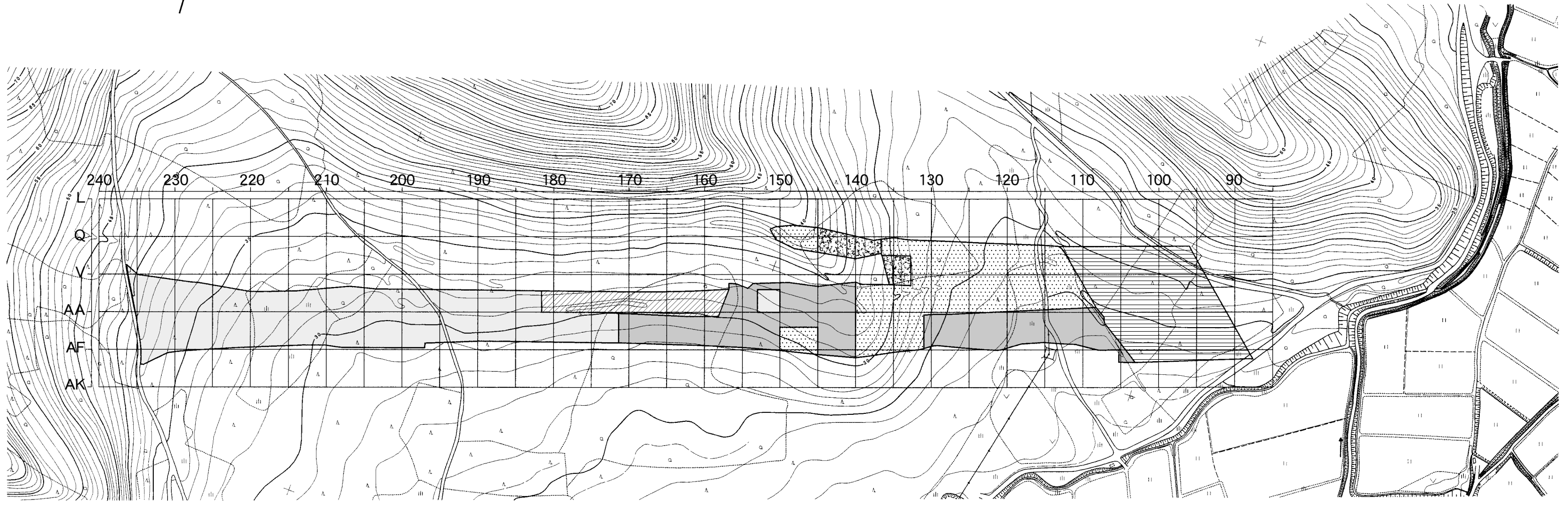
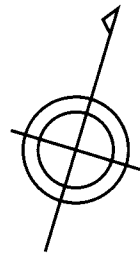
10. 調査体制

調査指導員	村越 潔	青森大学教授	（考古学）
調査員	藤沼 邦彦	弘前大学教授	（考古学）
〃	十菱 駿武	山梨学院大学教授	（考古学）
〃	葛西 勵	青森短期大学助教授	（考古学）
〃	市川 金丸	青森県考古学会会長	（考古学）
〃	工藤 一彌	青森県総合学校教育センター指導主事	（地質学）
調査協力員	小笠原 実	東部二区連合町会長	
〃	斎藤 義隆	諏訪沢地区農事振興会会長	
〃	豊川 功		
〃	斎藤 誠		

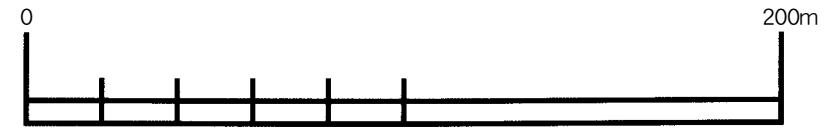


第1図 稲山遺跡位置図 (S=1/25,000)

※本図は、青森市教育委員会が作成した「青森市遺跡地図(数値地図)」を一部複写の上、加工・転載したものである。



凡 例	
	平成10年度 調査終了範囲
	平成11年度 調査終了範囲
	平成12年度 調査終了範囲
	平成12年度 確認調査終了範囲
	平成13年度 調査終了範囲
	平成15年度以降調査予定範囲



第2図 調査区設定図

調査事務局	青森市教育委員会	
	教 育 長	池 田 敬 (現 青森市民図書館長)
		角 田 詮二郎
	生涯学習部長	中 西 秀 吉 (現 市民室内プール館長)
	事務局 長	三 浦 賢 吾
	”	大 柴 正 文
	教 育 部 長	大 柴 正 文
	生涯学習部次長	三 浦 賢 伍
	教 育 次 長	竹 内 徹
	参事・文化財課長事務取扱	遠 藤 正 夫
	課 長 補 佐	蝦 名 淳 一
	”	工 藤 勝 則
	主 査	堀 谷 久 子 (現 青森市国保医療課医療助成係長)
	”	木 浪 貴 子
	主 事	小 野 貴 之 (調査担当)
	”	木 村 淳 一
	”	児 玉 大 成
	”	設 楽 政 健
	”	足 澤 愛 子 (庶務担当)
	調 査 補 助 員	蝦 名 純
	”	長 内 礼 二
	”	工 藤 かおり
	”	堀 内 万里子
	”	本 多 顕 子
	”	横 山 智 子
	”	久米田 さやか
	”	松 橋 智佳子
	”	松 原 千佳子

第2章 調査経過

5月22日、調査開始式をおこない、越冬対策をしていた調査区内外の環境整備を開始した。

5月23日、環境整備と並行して、遺物包含層並びに遺構の精査を開始した。調査委託者側からは、工事工程上、平成10年度調査終了範囲である調査区170ライン以西へ到る取り付け道路造成のため、本年度調査区の南側調査区130～140ラインについて早期に引渡しを希望する旨の要望があり、引渡し予定地点及び安全対策上、調査区南半の調査を優先して精査等進めることとした。

6月初旬、調査区南端に位置する第14号竪穴式住居跡の精査において、調査区外南側へ住居の分布が広がることを確認した。

6月中旬、調査区南半を主体に精査を進めた。丘陵頂部から斜面中位にかけて土坑が密集し、斜面下位においては、縄文時代前期の竪穴式住居跡を確認した。また、土坑については、これまで確認してきた袋状、フラスコ状のものと形態が異なる。平面形が隅丸長方形、楕円形を呈する土坑を新たに確認した。

7月上旬、調査区南側の引渡し予定地点及びその北側の安全を保持できると思われる範囲の調査が終了したので、調査委託者側立会いの上で引渡しを行った。調査区北半を主体に精査を進めた。

8月初旬、Y - 134グリッド第 a 層において、複数の土器が重ねられた状況で出土した。第61号埋設土器遺構として、精査を進めた。

8月中旬、本遺跡において石棺墓や配石遺構は、丘陵頂部付近において確認してきたが、調査区丘陵斜面中位の調査区A A - 100グリッドにおいて、弧状に礫が配置されている第20号配石遺構を確認した。

8月下旬、X - 135グリッド第 a 層において、壺形土器が埋設されたと思われる、第64号埋設土器遺構を確認した。

9月初旬、縄文時代前期の遺物包含層は、竪穴式住居跡廃絶後の窪地を利用したものが主体的であったが、調査区R・S - 131～135地点の精査において、自然地形の斜面を利用した遺物包含層を確認した。最下層からは、円筒下層b式土器が出土した。

9月中旬、標高が最も高い調査区北端部の精査を開始した。遺構精査では、土坑覆土中において円筒土器と石匙や磨製石斧が共伴する状況を確認した。

9月下旬、前年度の南側の調査結果から遺構・遺物は少ないと思われた調査区120～130ラインの精査をおこなった。土坑3基を検出したに留まった。

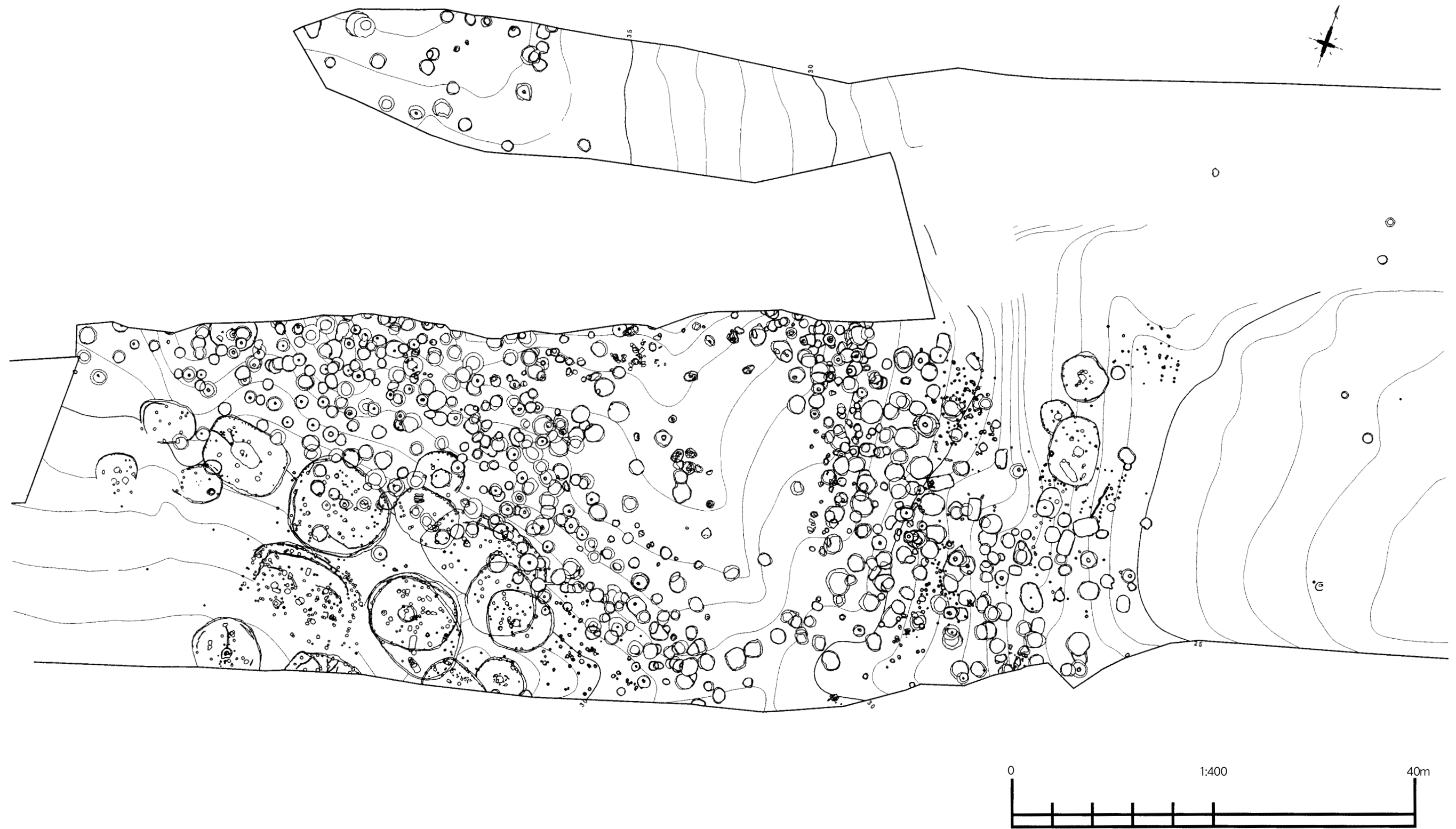
10月上旬、平成13年度以降に調査予定であった調査区東端部の共有地（第1図 平成12年度確認調査終了範囲）について調査可能な状況となった。委託者側からは、工事工程上この地点の調査を優先して欲しい旨の要望があり、協議の結果、一部遺構精査を実施していた調査区北端部について部分的（第1図 平成13年度調査終了範囲）に翌年度以降に調査を実施することとし、調査区東端部の調査を実施することとした。この地点については、これまでの調査状況より遺跡の縁辺部である可能性が高いと思われたことから、まず部分的にトレンチを設定し状況を把握することとした。また、他の調査区においては、引き続き遺構精査を続けた。

10月15日、現地見学会を実施した。一般市民等約50名が現地を訪れた。

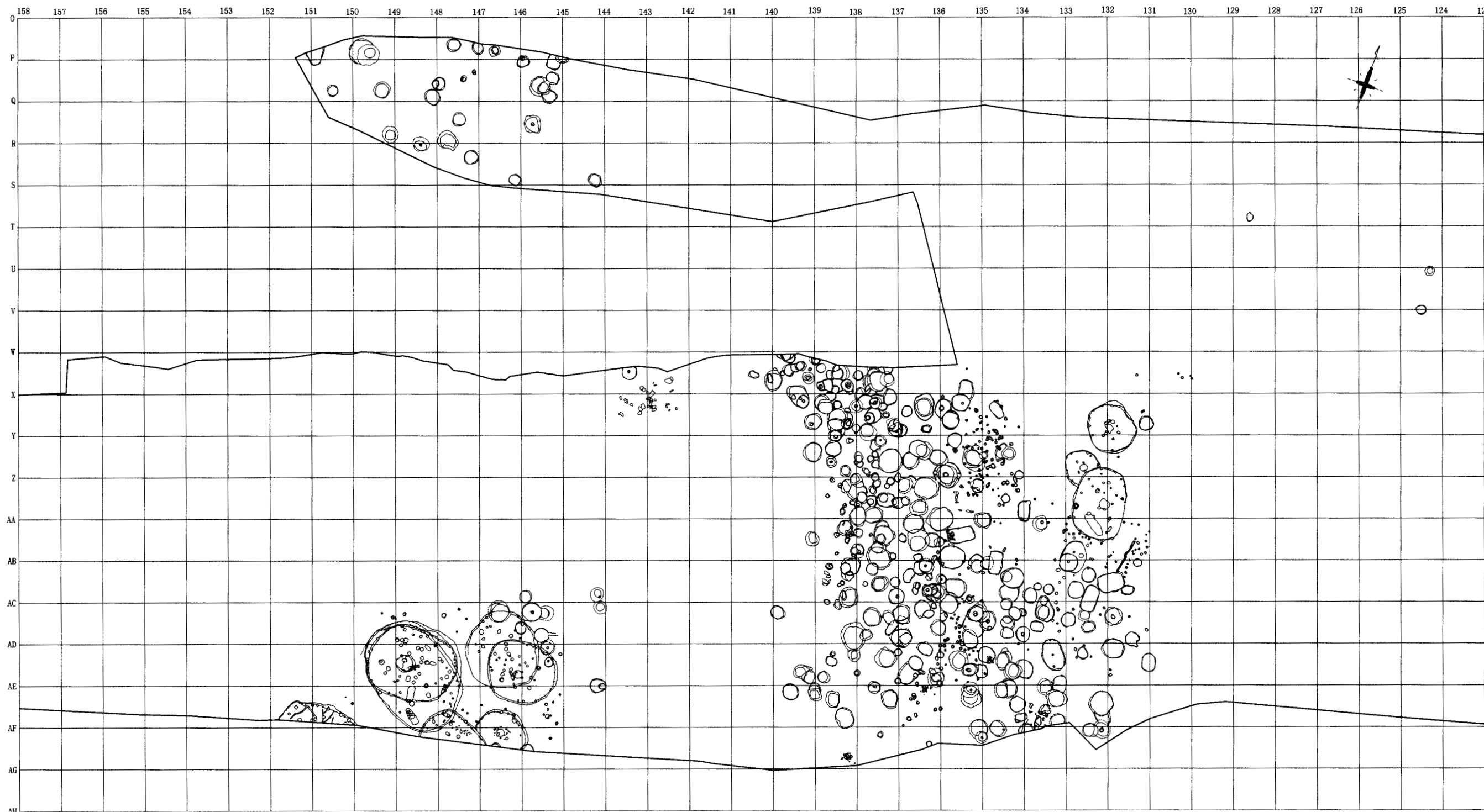
10月下旬、調査区東端部分では2×4m幅を主体に42ヵ所にトレンチを設定し、状況把握をしたが、遺構は確認しなかった。また遺物も流れ込みと考えられるような土器細片等が主体であった。この地点については、遺跡の縁辺部と思われるが全面調査を実施するまでには至らないとの判断をして、調査を終了した。

なお、平成14年度、本遺跡より北東方向へ約60m離れた地点で新規遺跡を確認しており、調査区東端部出土遺物については、こちらからの流れ込みの可能性も考えられる。

10月31日、作図、写真撮影等遺構の検出が終了した。現地調査最終日であり、調査終了式を行い、平成12年度の調査を終了した。検出遺構数は、竪穴式住居跡11軒、土坑613基、埋設土器遺構15基、配石遺構8基、溝状遺構4基、焼土遺構3基である。出土遺物は、土器、石器、土製品、石製品等段ボール箱換算で550箱が出土した。



第3図 平成10~12年度遺構配置図



第4図 平成12年度遺構配置図
 (遺構番号は付図を参照)

第3章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

1. 竪穴式住居跡

第13号竪穴式住居跡（第5図）

[位置・確認層] A D・A E - 145～147、A F - 146グリッドに位置する。第 層、第 層において確認した。

[重複] 第2号竪穴式住居跡、第19号竪穴式住居跡、第277号土坑、第282号土坑、第349号土坑と重複し、本遺構は第2号竪穴式住居跡、第19号竪穴式住居跡より新しく、第277号土坑、第282号土坑、第349号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、長径7.6mである。

[壁] 床面端から外側へ緩やかに立ち上がる。一部は直線的に立ち上がる。壁高は、北壁確認面より直下の床までが56cm、床面までの最大幅が70cm、東壁確認面より直下の床までが80cm、床面までの最大幅が83cm、西壁確認面から直下の床までが床面までの最大幅で28cm、南西側は壁を確認できなかった。

[床] 第 層及び第19号竪穴式住居跡覆土を床面としており、第 層上面の床は堅く締まる。第19号竪穴式住居跡覆土上の床面は、若干落ち込んでいる。若干の起伏を有し、全体に北西側から南東側への傾斜が見られる。

[柱穴] 床面において36基のピットを確認した。ピット3、4、7、8、15は、規模的に支柱穴の可能性が考えられる。次いでピット14、26、32、33が規模は小さくなるが支柱穴の可能性が考えられる。ピット5、17、24、35、36は壁柱穴と思われる。

[炉] 床面中央部北寄り焼土が堆積した浅いピットを確認しており、炉の可能性が考えられる。

[その他の附属施設] なし。

[堆積土] 12層に分層した。第1～5層は、褐色～にぶい黄褐色土が堆積し各層ローム、第 層出自と思われる角礫を含む。第7層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第6、8～10、12層は暗褐色～褐色土が堆積し、第8、12層の暗褐色土は、ロームを中量含む。また本遺構が位置する丘陵からは、不自然と思われる南～南西側からの堆積である。第11層は、黒褐色土が堆積しロームを少量含む。第7、11層は、自然堆積、他は、人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第 群3、5 a、5 b、6類土器が出土している。第12層より第 群6類土器（第50図165、166）、第10層より第 群6類土器（第50図167）、第9層より第 群3類土器（第50図168）、第8層より第 群6類土器（第50図169）、第7層より第 群3類土器（第50図170）、5 a類土器（第50図171）、第5層より第 群5 a類土器（第50図172）、第4層より第 群6類土器（第50図173）、第3層より第 群3類土器（第50図174）、第 群5 a類土器（第50図175）、第2層より第 群3類土器（第50図177）、第 群5 a類土器（第50図176）、第1層より第 群3類土器（第50図180）、第 群5 a類土器（第17図1、第50図178、179）覆土より、第 群5 b類土器（第50図181）が出土している。また、ピット4第1層より第 群6類土器（第50図161、162）、ピット7第1層より第 群5 a類土器（第50図163）、ピット9覆土より第 群3類土器（第50図164）が出土している。

石器は、第8層より不定形石器3類が1点（図示していない）、4類が1点（図示していない）敲

磨器類2類Eが1点(第68図92)、4類Bが1点(第70図103)、第5層より石鏃1類2が1点(第56図1)、挟入扁平磨製石器が1点(第70図105)、砥石が2点(第71図109、110)、第3層より石匙1類が2点(第56図2、3)、第2層より敲磨器類1類Dが1点(第68図89)、2類Bが1点(第68図91)、3類が1点(第69図98)、4類Aが1点(第70図101)、覆土より不定形石器1類Aが3点(第56図4、6、1点は図示していない)、不定形石器1類Cが1点(第56図5)、3類が5点(図示していない)、4類が2点(図示していない)、石斧1類Aが1点(第68図87)、敲磨器類1類Aが1点(第68図88)、2類Aが1点(第69図93)、2類Bが1点(第68図90)、3類が1点(第69図95)、4類Aが4点(第69図94、97、99、100)、4類Bが1点(第70図102)、4類Dが1点(第70図104)、半円状扁平打製石器が2点(第70、71図106、107)出土している。また、ピット7第1層より敲磨器類4類Aが1点(第69図96)、ピット11第1層より不定形石器3類が1点(図示していない)、ピット16第1層より砥石が1点(第71図108)、ピット27覆土より石皿・台石2類が1点(第71図111)出土している。

土製品は、覆土より焼成粘土塊が1点(第90図1)出土している。

石製品は、第5層より軽石石製品が1点(第90図4)、第1層より軽石石製品が1点(第90図3)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉の竪穴式住居跡と思われる。

第14号竪穴式住居跡(第6図)

[位置・確認層] AF-149~151グリッドに位置する。第～層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 調査区端に位置し、平面形は不明である。残存部最長は7.18mである。

[壁] 床面端から外側へ屈曲し立ち上がる。西壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は、北壁確認面より直下の床までが45cm、床面までの最大幅が53cm、東壁確認面より直下の床までが54cm、床面までの最大幅が57cm、西壁確認面より直下の床までが57cm、床面までの最大幅が58cm、南側は不明である。

[床] 第層及び貼床と思われる第9層を床面としており、堅く締まる。貼床は床面西側では広く、東側では部分的に確認した。おおむね平坦であるが若干の起伏を有し、西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[柱穴] 28基のピットを検出した。ピット9~11、13は、上面に貼床が見られる。ピット、9、10は規模的に支柱穴の可能性が考えられる。ピット1~5、11~13、15、28は、壁柱穴と思われる。

貼床の存在する新しい段階と存在しない古い段階が考えられ、古い段階では、ピット9、10について支柱穴の可能性が考えられる。また、ピット11、13は、壁柱穴と思われ、ピット1~5、12も規模的に同じ古い段階の壁柱穴と考えられる。新しい段階では支柱穴は未調査部分に存在すると思われ、ピット21~28については拡張後の壁柱穴と思われる。また、ピット15~20についても規模的に同じ新しい段階での壁柱穴と思われる。

[炉] 明確に炉と思われる施設は確認していない。

[その他の附属施設] 溝を確認しており、西側の溝は上面に貼床が見られ古い段階に伴うものと思われる。

[堆積土] 第1~4層は、黒褐色~褐色土が堆積する。黒褐色土は、ローム、炭化物を中量含む。第c層に相当すると思われる。第5、6層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第7層は黒色土

が堆積し、ロームを中量含む。第8層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第9層は、黒色土が堆積し堅く締まる。貼床と思われる。第6～8層は、自然堆積、その他は人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3群3類、5a類、6類土器が出土している。床面より第3群3類土器(第50図183)、第5a類土器(第50図182)、第8層より第6類土器(第50図185)、第6層より第3群3類土器(第50図188)、第5a類土器(第17図2、第50図186、187)、第5層より第3群3類土器(第50図189)、第5、2層より第5a類土器(第50図190)、第4層より第3群3類土器(第51図191、192)、第3層より第3群3類土器(第51図194)、第5a類土器(第51図193、195)、第3、1層より第5a類土器(第17図3)第2層より第3群3類土器(第51図196)、第5a類土器(第17図4、第51図197、198)、第1層より第3群3類土器(第50図201)、第5a類土器(第17図5、第51図199、200)が出土している。また、ピット5覆土より第5a類土器(第50図184)が出土している。

石器は、床面より石匙1類が1点(第56図8)、第4層より石匙1類が1点(図示していない)、敲磨器類1類Aが1点(第72図113)、4類Aが1点(第72図114)、半円状扁平打製石器が1点(第72図117)、第3層より半円状扁平打製石器が1点(第72図115)、第2層より石匙2類が1点(第56図9)、不定形石器1類Bが1点(図示していない)、敲磨器類1類Aが1点(第72図112)、第1層より不定形石器1類Aが1点(図示していない)、剥離のある礫が1点(第72図116)、覆土より石匙1類が2点(第56図7、1点は図示していない)、石匙2類が1点(第57図10)、不定形石器1類Dが1点(図示していない)、3類が1点(図示していない)、4類が4点(図示していない)、その他の剥片石器が1点(図示していない)出土している。

石製品は、第4層より石刀が1点(第90図5)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉の竪穴式住居跡と思われる。

第15号竪穴式住居跡(第7、8図)

[位置・確認層] AD-148、149、AE・AF-147～149、AG-147、148グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第16号竪穴式住居跡、第17号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、長軸11m×短軸7.6mである。

[壁] 床面端から外側へおおむね緩やかに立ち上がる。壁高は、北壁確認面より直下の床までが84cm、床面までの最大幅が90cm、東壁確認面より直下の床までが84cm、床面までの最大幅が112cm、西側確認面より直下の床までが45cm、床面までの最大幅が52cmである。南側確認面より直下の床までが65cm、床面までの最大幅が74cmである。

[床] 第層及び第16、17号竪穴式住居跡覆土を底面としており、第層上面の床は堅く締まる。第16、17号竪穴式住居跡覆土上面の床面は、若干落ち込んでいる。若干の起伏を有し、南側から北側への傾斜が見られる。

[柱穴] 48基のピットを確認した。ピット1、2、8、15、23、24、42、44、45は、規模、配置より主柱穴と思われる。ピット5、12、13、16～18、20～22、25～29、32～41、48は、壁柱穴と思われる。複数回の建替があったものと思われる。

[炉] 焼土1、2は、いずれも火床面の見られない堆積土と判断したが、いずれも同規模の浅い掘り込

み上面に位置し、炉の可能性を必ずしも否定できないと考える。他には確認していない。

[その他の附属施設] 焼土1、2下の浅いピットは、隅丸長方形ないし楕円形を呈する。焼土1下のピットは、底面断面形が波状を呈するものである。なんらかの施設と思われる。

[堆積土] 29層に分層した。第1～25層は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。第26層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第27層は、黒褐色土が堆積しロームを多量含む。第28、29層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第26層は、自然堆積、他は人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第群3類、5a類、6類、7類土器が出土している。貼床より第群5a類土器(第51図202) 焼土より第群5a類土器(第51図203) 第群6類土器(第51図204) 第25層より第群5a類土器(第18図8、第51図210～213) 第群6類土器(第51図214) 第25層、覆土より第群5a類土器(第18図9) 第24層より第群3類土器(第51図217) 第群5a類土器(第19図10、11、第51図215、216) 第23層より第群3類土器(第52図218、219) 第群5a類土器(第20、21図14、15、19) 第群7類土器(第52図220～223) 第23、16、10、8層より第群5a類土器(第19図13) 第23、10層より第群5a類土器(第20図16、18) 第23、10、8層より第群5a類土器(第20図17、第図) 第22層より第群3類土器(第52図224、226) 第群5a類土器(第52図225) 第21層より第群3類土器(第52図227、229) 第群5a類土器(第21図22、第52図228) 第21、19層、覆土より第群6類土器(第21図20) 第20層より第群3類土器(第52図232) 第群5a類土器(第52図230、231) 第20、19層より第群5a類土器(第21図21) 第19層より第群3類土器(第52図233、234) 第群5a類土器(第21、22図23～27) 第18層より第群3類土器(第52図235) 第群5a類土器(第52図236) 第群6類土器(第52図237) 第17層より第群6類土器(第52図241) 第16層より第群3類土器(第52図238) 第群5a類土器(第23図29) 第16層、覆土より第群5a類土器(第23図28、32) 第15層より第群5a類土器(第52図239、240) 第14層より第群6類土器(第52図242) 第13層より第群6類土器(第52図243) 第11層より第群3類土器(第52図244) 第群5a類土器(第52図245) 第11、10層、覆土より第群5a類土器(第23図31) 第10層より第群3類土器(第52図246) 第群5a類土器(第23、24図30、34、35) 第10、8層より第群5a類土器(第23、24図33、36、37) 第8層より第群5a類土器(第24、25図38～40、42、43) 第群7類土器(第52図247) 第8層、覆土より第群5a類土器(第25図41) 第6層より第群6類土器(第52図248) 第5層より第群3類土器(第52図249) 第群5a類土器(第26図44、第52図250、251) 第群6類土器(第52図252) 第4層より第群6類土器(第52図253) 第3層より第群6類土器(第26図45) 第2層より第群5a類土器(第53図254) 第1層より第群5a類土器(第53図255) 覆土より第群5a類土器(第26図46、第53図256～258) 第群5b類土器(第53図259) 第群6類土器(第53図260～263) が出土している。また、ピット2覆土より第群5a類土器(第51図205) ピット13覆土より第群5a類土器(第51図206) ピット15覆土より第群5a類土器(第51図207) ピット24覆土より第群5a類土器(第51図208) ピット34覆土より第群3類土器(第51図209) ピット42覆土より第群5a類土器(第18図6、7) が出土している。

石器は、第27層より不定形石器4類が1点(図示していない) 敲磨器類1類Aが1点(図示していない) 2類Aが1点(図示していない) 2類Eが1点(図示していない) 4類Cが1点(第77図

152) 第25層より石匙1類が2点(第57、58図16、23) 石匙3類が1点(図示していない) 不定形石器1類G類が1点(第60図35) 不定形石器3類が2点(図示していない) その他の剥片石器が1点(図示していない) 石斧1類Bが1点(第73図118) 敲磨器類1類Aが2点(第73図120、1点は図示していない) 1類Dが1点(図示していない) 2類Bが4点(第74図129、3点は図示していない) 4類Aが3点(第75図137、138、141) 4類Bが1点(第76図150) 半円扁平打製石器が2点(第77、78図158、159) 砥石が1点(第79図166) 第25、24層よりその他の剥片石器が(1点図示していない) 敲磨器類2類Bが1点(図示していない) 第25、23層より敲磨器類2類Bが1点(図示していない) 第24層より石匙1類が1点(第57図17) 敲磨器類4類Dが1点(第77図153) 挟入扁平磨製石器が1点(第78図162) 第21層より不定形石器3類が1点(図示していない) 第19、17層より石匙1類が1点(第57図20) 不定形石器4類が1点(図示していない) 砥石が1点(第78図164) 第18層より不定形石器1類Aが1点(図示していない) 敲磨器類2類Eが2点(第74、75図134、135) 4類Aが2点(図示していない) 半円状扁平打製石器が1点(第77図156) 第17層より石鏃2類2が2点(第57図12、14) 石匙2類が1点(第59図27) 3類が1点(図示していない) 不定形石器1類Aが3点(図示していない) 1類Fが1点(図示していない) 3類が3点(図示していない) 4類が2点(図示していない) 敲磨器類1類Aが1点(図示していない) 1類Bが1点(図示していない) 1類Dが1点(図示していない) 1類Eが1点(図示していない) 4類Aが1点(第75図142) 第17~14層より石匙1類が1点(第58図24) 敲磨器類1類Eが1点(図示していない) 剥離のある礫が1点(図示していない) 第16層より石匙1類が1点(第58図21) 2類が1点(第58図26) 不定形石器1類Aが3点(第59図29、32、1点は図示していない) 1類Bが1点(図示していない) 1類Hが1点(図示していない) 2類が1点(図示していない) 石斧が1点(図示していない) 敲磨器類2類Eが1点(第74図131) 4類Aが2点(第76図147、1点は図示していない) 4類Bが1点(第76図151) 第16~14層より敲磨器類4類Bが1点(第77図155) 第15層より不定形石器3類が1点(図示していない) 敲磨器類1類Aが1点(第73図123) 石皿・台石1類が1点(第79図169) 第14層より不定形石器1類Cが1点(第60図36) 敲磨器類1類Aが2点(第73図119、1点は図示していない) 1類Bが1点(第73図121) 1類Dが1点(図示していない) 1類Eが1点(第73図124) 2類Bが2点(第73図126、1点は図示していない) 2類Eが1点(図示していない) 半円状扁平打製石器が1点(第78図160) 石皿・台石1類が1点(第80図174) 第13層より不定形石器4類が1点(図示していない) 敲磨器類4類Aが1点(第75図140) 砥石が2点(第78、79図163、165) 第11層より石匙1類が1点(図示していない) 不定形石器1類Eが1点(図示していない) 1類Fが1点(図示していない) 3類が1点(図示していない) 4類が1点(図示していない) 敲磨器類2類Bが1点(図示していない) 水晶2類が1点(第89図235) 第10層より石匙2類が1点(第58図25) 不定形石器4類が1点(図示していない) 敲磨器類2類Bが1点(図示していない) 2類Eが1点(第74図133) 4類Aが2点(第74、75図127、143) 第7層より敲磨器類1類Aが1点(図示していない) 第6、5層より不定形石器1類Aが1点(図示していない) 第5層より石鏃1類1が1点(第57図11) 石匙1類が1点(第58図22) 3類が1点(図示していない) 石筥2類が1点(第59図28) 不定形石器1類Aが1点(第59図33) 1類Bが1点(図示していない) 1類Dが1点(図示していない) 2類が1点(第59図31) 3類が1点(図示していない) 4類が1点(図示していない) 敲磨器類1類Aが2点(図示していない) 2類Aが1点(第75図144) 4類A

が1点(第76図145)、剥離のある礫が2点(第77図157、1点は図示していない)、第5、4層より敲磨器類2類Dが1点(第74図128)、第1層より敲磨器類4類Aが1点(第75図139)、剥離のある礫が1点(第78図161)、覆土より石鏃2類2が1点(第57図13)、石匙1類が3点(第57図15、18、19)、不定形石器1類Aが1点(図示していない)、1類Bが1点(第60図34)、1類Cが2点(第59図30、1点は図示していない)、1類Fが1点(図示していない)、2類が1点(図示していない)、3類が1点(図示していない)、4類が3点(図示していない)、その他の剥片石器が3点(図示していない)、石斧が1点(図示していない)、敲磨器類1類Bが1点(第73図122)、1類Eが1点(図示していない)、2類Aが1点(第73図125)、2類Bが1点(第74図130)、2類Eが1点(第74図132)、4類Aが1点(第76図146)、4類Bが2点(第76図148、149)、5類が1点(第77図154)、石皿・台石1類が6点(第79、80図167、168、170~173)、また、ピット25覆土より敲磨器類1類Aが1点(図示していない)、4類Aが1点(図示していない)、ピット38覆土より敲磨器類2類Eが1点(図示していない)、ピット44覆土より敲磨器類3類が1点(第75図136)出土している。

石製品は、第25層より有孔石製品が1点(第90図7)、第18層より石棒が1点(第90図8)、第12層よりその他の岩版が1点(第90図6)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉もしくはそれ以降の竪穴式住居跡と思われる。

第16号竪穴式住居跡(第9図)

[位置・確認層] AD~AF-147~149グリッドに位置する。第c層、第層において確認した。

[重複] 第15号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で最大残存幅は9.6mである。

[壁] 床面端から外側へ途中屈曲して立ち上がる。壁高は、北壁確認面より直下の床までが108cm、床面までの最大幅が113cm、東壁確認面より直下の床までが102cm、床面までの最大幅が130cm、南壁確認面より直下の床までが床面までの最大幅で27cm、西壁確認面より直下の床までが40cm、床面までの最大幅が47cmである。

[床] 第層を床面とし、堅く締まる。若干の起伏を有し、全体に東側から西側への傾斜が見られる。

[柱穴] 49基のピットを確認した。ピット1、3、4、6~13、23、28は、規模、配置より支柱穴と思われる、数度の建替えがあったと思われる。ピット17~22、29~49は、壁柱穴と思われる。

[炉] 床面北壁際及び東壁際で焼土及び炭化物を検出しており、炉と思われる。

[その他の附属施設] 床面中央部にて浅く広がるピットを確認した。

[堆積土] 8層に分層した。第1、2層は、褐色土及びローム、炭化物を含む黒褐色土が堆積する。第3、4層は、黒色~黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第5~7層は、黄褐色~明黄褐色土が堆積し、黒色土を含む。第8層は、暗褐色土が堆積する。第1、2層は人為堆積、他は自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第群3、5a、6類土器が出土している。第3層より第群6類土器(第53図267)、第2層より第群3類土器(第26図47、第53図268、269)、第群5a類土器(第53図270)、第1層より第群3類土器(第53図271、272)が出土している。また、ピット10第1層より第群3類土器(第53図264、265)、ピット16第2層より第群5a類土器(第53図266)が出土している。

石器は、第2層より石匙1類が2点(第60図37、38)、不定形石器1類Gが1点(第60図39)、不定形石器3類が2点(図示していない)、4類が1点(図示していない)、敲磨器類1類Aが2点(第81図175、177)、1類Bが1点(第81図176)、3類が1点(図示していない)、4類Aが1点(第81図180)、4類Bが2点(第81図178、181)、4類Cが1点(第82図183)、石皿・台石1類が1点(第82図185)、第1層より挟入扁平磨製石器が1点(第82図184)、覆土より敲磨器類4類Dが1点(第81図179)、5類が1点(第82図182)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉の竪穴式住居跡と思われる。

第17号竪穴式住居跡(第10図)

[位置・確認層] A F - 147、148、A G - 146~148グリッドに位置する。第 c 層、第 層において確認した。

[重複] 第15号竪穴式住居跡、第18号竪穴式住居跡と重複し、本遺構は第15号竪穴式住居跡より古く、第18号竪穴式住居跡より新しい。

[平面形・規模] 調査区端に位置し、平面形は不明である。残存部最長は5.7mである。

[壁] 全体として、床面端から外側へおおむね直線的に立ち上がる。東壁は一部屈曲して立ち上がる。

壁高は、北壁確認面より直下の床までが60cm、床面までの最大幅が77cm、東壁確認面より直下の床までが114cm、床面までの最大幅が122cm、西壁確認面より直下の床までが92cm、床面までの最大幅が103cm、南側は壁を確認できなかった。

[床] 第 層を床面とし堅く締まる。若干の起伏が見られ、全体に北側から南側への傾斜が見られる。

[柱穴] 45基のピットを確認した。

ピット1は、その規模から支柱穴と思われる。ピット2、7、28~45は壁柱穴と思われる。

[炉] 明確に炉と思われる施設は確認していない。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 12層に分層した。第1、3、6、9層は、黒褐色~暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第2、4、5、7、8、11層は、黒褐色~暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物、土器片を中量ないし多量含む。第10、12層は、黒色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。第1、3、6、9、10、12層は自然堆積、他は人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第 群3、5 a、6類土器が出土している。第11、8層より第 群3類土器(第26、27図48、49)、第9~7、4層より第 群3類土器(第27図50)、第8層より第 群3類土器(第27、28図51~54、57、第53図275)、第 群5 a類土器(第28図56、第53図273、274)、第7層より第 群5 a類土器(第53図276)、第 群6類土器(第28図55)、第6層より第 群3類土器(第53図278、279)、第5層より第 群3類土器(第53図280)、第4層より第 群3類土器(第53図281)、第3層より第 群3類土器(第53図282、284)、第 群5 a類土器(第53図283)、第2層より第 群3類土器(第54図285、286)、第1層より第 群3類土器(第54図287)、覆土より第 群5 a類土器(第54図288)が出土している。

石器は、第8層より石匙1類が2点(第60図40、41)、不定形石器3類が1点(図示していない)、敲磨器類4類Aが1点(第83図191)、第7層より不定形石器1類Dが1点(第61図43)、敲磨器類4類Aが1点(第83図189)、第6層より不定形石器1類Dが1点(第61図42)、第4層より石斧1類Cが1

点(第83図186)、不定形石器3類が1点(図示していない)、第3層より敲磨器類2類Eが1点(第83図187)、挟入扁平磨製石器が1点(第83図194)、第2層より不定形石器4類が1点(図示していない)、敲磨器類5類が1点(第83図192)、第1層より敲磨器類4類Aが1点(第83図190)、覆土より敲磨器類1類Bが1点(第83図188)、挟入扁平磨製石器が1点(第83図193)出土している。

土製品は、第8層より土器片利用土製品が1点(第90図2)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉の竪穴式住居跡と思われる。

第18号竪穴式住居跡(第11図)

[位置・確認層] AF・AG-145~147グリッドに位置する。第c層、第層において確認した。

[重複] 第17号竪穴式住居跡、第746号土坑、第747号土坑、第879号土坑と重複し、本遺構は第17号竪穴式住居跡、第746号土坑、第747号土坑より古く、第879号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 調査区端に位置し平面形は不明である。残存部最長は5.1mである。

[壁] 北壁、東壁は、床面端から外側へ緩やかに立ち上がる。西壁は、床面端から外側へ直線的に立ち上がる。壁高は、北壁確認面より直下の床までが105cm、床面までの最大幅が124cm、東壁確認面より直下の床までが80cm、床面までの最大幅が100cm、西壁確認面より直下の床面までが床面までの最大幅で28cm、南側は、調査区端のため壁を確認できなかった。

[床] 第層を床面とし堅く締まる。起伏が見られ、全体として北東側から南西側への傾斜が見られる。

[柱穴] 37基のピットを確認した。ピット9、12は規模、配置より支柱穴と思われる。ピット2~7、10、27~37は壁柱穴と思われる。

[炉] 明確に炉と思われる施設は確認していない。ピット1は、床面中央部と思われる地点に位置し、浅い掘り込み部とより深い掘り込み部を有し、2段階の時間差が考えられるが、浅い掘り込み部については、炉の可能性も考えられる。

[その他の付属施設] ピット12~26は、ピット1を取り囲むように位置し、何らかの施設の可能性も考えられる。

[堆積土] 14層に分層した。第1~6、9、10層は、黒褐色~褐色土が堆積し、ローム、炭化物、土器片を中量ないし多量含む。第7、8、14層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第11~13層は、黒色~暗褐色土が堆積する。壁の崩落土の可能性が考えられる。第1~6、9、10層は、人為堆積、他は自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第群3類、5a類、6類土器が出土している。第12層より第群3類土器(第54図290、291)、第10層より第群3類土器(第29図58、59、第54図292)、第群5a類土器(第54図293)、第10、9、5、3、1層より第群3類土器(第29図60)、第9層より第群3類土器(第54図294、295)、第8層より第群3類土器(第54図296)、第7層より第群3類土器(第54図297)、第5層より第群3類土器(第30図63、第54図298、299)、第群5a類土器(第30図62)、第5、4層より第群5a類土器(第54図300)、第5、2層より第群3類土器(第30図61)、第4層より第群5a類土器(第54図301)、第3層より第群3類土器(第54図302)、第2層より第群3類土器(第54図304)、第群5a類土器(第54図303)、第1層より第群3類土器(第54図306)、第群5a類土器(第54図305)が出土している。また、住居内土坑ピット1第2層より第群6類土器(第54図289)が出土している。

石器は、第10層より石匙1類が1点(第61図44)、石筥4類が1点(第61図46)、不定形石器1類Bが1点(図示していない)、その他の剥片石器が1点(図示していない)、挟入扁平磨製石器が1点(第84図201)、第9層より敲磨器類1類Aが1点(第84図195)、4類Dが1点(第84図198)、第5層より敲磨器類1類Cが1点(第84図197)、第3層より敲磨器類5類が1点(第84図199)、第2層より石匙1類が1点(第61図45)、第1層より不定形石器1類Aが1点(第61図47)、敲磨器類2類Dが1点(第84図196)、覆土より不定形石器1類Gが1点(第62図48)出土している。また、ピット1第1層より石皿・台石1類が1点(第84図200)出土している。

[時期] 出土遺物、及び遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉もしくはそれ以前の竪穴式住居跡と思われる。

第19号竪穴式住居跡(第12図)

[位置・確認層] AD～AF-145、146グリッドに位置する。第c層、第層、第層において確認した。

[重複] 第13号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、長径は7.0mである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。壁高は、北壁確認面より直下の床面までが31cm、床面までの最大幅が46cm、東壁確認面より直下の床面までが52cm、床面までの最大幅が68cm、南壁確認面より直下の床までが床面までの最大幅で40cm、西壁確認面より直下の床までが25cm、床面までの最大幅が40cmである。

[床] 第9層及び第層を床面とし、堅く締まる。また、若干の起伏を有し、全体に北東側から南西側への傾斜が見られる。

[柱穴] 35基のピットを確認した。ピット2～4、7、8、10、11、14、35は規模、配置より支柱穴と思われる。またピット12～34は、壁柱穴と思われる。

[炉] 明確に炉と思われる施設は確認していない。床面中央部南よりに位置するピット6は、浅い掘り込み部とやや深い掘り込み部を有しており、2段階の時期差が考えられる。浅い掘り込み部は炉の可能性も考えられる。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 7層に分層した。第7層は堅く締まり貼床と思われる。第1～4、6層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。第5層は、黒褐色土を中量含む。第1～6層は人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第群3類、5a類、6類土器が出土している。

第6層より第群3類土器(第54図308、309、313)、第5層より第群3類土器(第54図310)、第4層より第群3類土器(第54図311)、第2層より第群3類土器(第54図312、314)、第群5a類土器(第54図315)、第1層より第群3類土器(第図)、第群5a類土器(第30図65)、第1層、覆土より第群3類土器(第30図64)、覆土より第群3類土器(第55図316)が出土している。また、ピット10覆土より第群6類土器(第54図307)が出土している。

石器は、第6層より石匙1類が1点(第62図50)、不定形石器1類Gが1点(第62図52)、3類が1点(図示していない)、敲磨器類4類Bが1点(第82図205)、4類Dが1点(第85図207)、第4層より

石匙1類が1点(図示していない)、第2層より石匙1類が1点(第62図51)、不定形石器1類Gが1点(図示していない)、覆土より石匙1類が1点(第62図49)、石斧1類Bが1点(第85図202)、1類Cが1点(第85図204)、敲磨器類4類Aが1点(第85図203)、4類Bが1点(第85図206)出土している。
[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉の竪穴式住居跡と思われる。

第20号竪穴式住居跡(第13図)

- [位置・確認層] A B・A C - 132、133グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第681号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、最大残存幅は3.05mである。
- [壁] 北壁、西壁は、外側へ直線的に立ち上がる。南壁は、外側へ直線的に立ち上がるが、一部内側へ直線的に立ち上がる。第681号土坑の壁面を利用したものと思われる。壁高は、北壁確認面より直下の床までが6cm、床面までの最大幅が22cm、南壁確認面より直下の床面までが床面までの最大幅で43cm、西壁確認面より直下の床面までが32cm、床面までの最大幅が40cmである。南壁は確認していない。
- [床] 第 層及び第681号土坑覆土を床面としており、どちらの床面も固く締まる。第681号土坑上の床面は10~20cm程落ち込んでいる。他は平坦であるが北側から南側へ若干の傾斜が見られる。
- [柱穴] 12基のピットを確認した。床面では支柱穴は確認していない。ピット2~11は住居跡周囲を取り囲み本遺構の柱穴と思われる。
- [炉] 明確に炉と思われる施設は確認していない。
- [その他の付属施設] なし。
- [堆積土] 3層に分層した。第1、3層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第2層は、褐色土が堆積し、ローム、暗褐色土を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第 群5a類土器が出土している。第3層より第 群5a類土器(第55図317)、第2層より第 群5a類土器(第55図318)、覆土より第 群5a類土器(第55図319)が出土している。土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点(第108図10)出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉もしくはそれ以後の竪穴式住居跡と思われる。

第21号竪穴式住居跡(第14図)

- [位置・確認層] Z・A A・A B - 131、132グリッドに位置する。第 ~ 層、及び第23号竪穴式住居跡覆土上において確認した。
- [重複] 第23号竪穴式住居跡、第928号土坑と重複し、本遺構は第23号竪穴式住居跡より新しく、第928号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、長軸6.85m、短軸4.83mである。
- [壁] 床面端から外側へ直線的に立ち上がる。西壁は一部緩やかに立ち上がる。壁高は、北壁確認面より直下の床面までが42cm、床面までの最大幅が55cm、東壁確認面より直下の床面までが床面までの最大幅で4cm、南壁確認面より直下の床までが52cm、床面までの最大幅が55cm、西壁確認面より直下の床面までが88cm、床面までの最大幅が100cmである。南東壁は確認していない。
- [床] 第 層を床面とし堅く締まる。起伏を有し、傾斜が見られる。また、全体として北東側から南西

側への傾斜が見られる。

[柱穴] 31基のピットを確認した。ピット3、12、14、15、23は規模、配置より支柱穴と思われる。ピット6、19、22、24、25～28、30、31は壁柱穴と思われる。

[炉] 床面中央部に位置するピット2は、浅い掘り込みを有し、焼土、炭化物が出土しており、炉と思われる。

[その他の付属施設] 床面西壁際に位置するピット20は、掘り込み周囲に第 層及び黒褐色土、黄色褐色土を堤状に盛り上げた構造を持ち、特殊施設と思われる。

[堆積土] 13層に分層した。第1、3、5、6、層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第2、4、7～11層は、黒褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土、黒褐色土はロームを中量含む。第12、13層は、第7層中にブロック状に存在する。第1、3、5、6層は自然堆積、その他は人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第 群3類、5 a類、5 b類、6類土器が出土している。第10層より第 群5 a類土器(第55図323)、第7層より第 群5 a類土器(第55図324)、第7、4層より第 群5 a類土器(第31図66)、第7、2層、覆土より第 群5 a類土器(第31図67)、第7、1層、覆土より第 群5 a類土器(第31図68)、第5層より第 群5 a類土器(第55図325)、第4、2、1層より第 群5 a類土器(第55図326)、第3層より第 群5 a類土器(第55図327)、第3層、覆土より第 群5 a類土器(第31図69)、第2層より第 群3類土器(第 図)、第 群5 a類土器(第31図70、74、第55図329)、第 群5 b類土器(第55図328)、第2、1層より第 群5 a類土器(第32、33図71、72、75)、第2、1層、覆土より、第 群3類土器(第55図330)、第 群5 a類土器(第32図73)、第1層より第 群5 a類土器(第33図76、78～81、第55図331)、第 群6類土器(第33図77)が出土している。また、住居内土坑覆土より第 群6類土器(第55図320)、ピット2覆土より第 群5 a類土器(第55図321)、第 群6類土器(第55図322)が出土している。

石器は、第10層より不定形石器4類が1点(図示していない)、第4層より不定形石器1類Aが1点(第63図56)、第2層より石匙1類が1点(第62図53)、2類が1点(第62図55)、不定形石器2類が1点(図示していない)、4類が2点(図示していない)、敲磨器類4類Aが1点(第86図213)、4類Bが1点(第86図210)、第1層より不定形石器1類Eが1点(63図57)、2類が1点(図示していない)、4類が1点(図示していない)、敲磨器類1類Dが1点(第86図209)、2類Bが1点(第85図208)、4類Aが1点(第86図211)、覆土より石匙1類が1点(第62図54)、不定形石器2類が1点(図示していない)、3類が1点(図示していない)、敲磨器類4類Bが1点(第86図212)、4類Dが1点(第86図214)、半円状扁平打製石器が1点(第86図215)出土している。また、ピット1覆土より石匙1類が1点(図示していない)出土している。

石製品は、第1層より有孔石製品が1点(第90図9)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期末葉もしくはそれ以降の竪穴式住居跡と思われる。

第22号竪穴式住居跡(第15、16図)

[位置・確認層] Y・Z - 131、132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、長径5.05mである。

[壁] 床面端から外側へおおむね直線的に立ち上がる。北壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。また、南壁は、一部内側へ立ち上がる。壁高は、北壁確認面より直下の床面までが60cm、床面までの最大幅が67cm、東壁確認面より直下の床面までが37cm、床面までの最大幅が30cm、南壁確認面より直下の床面までが72cm、床面までの最大幅が75cm、西壁確認面より直下の床までが65cm、床面までの最大幅が73cmである。

[床] 第 層を床面とし、堅く締まっている。若干の起伏を有し、全体に南西側から北東側への傾斜が見られる。

[柱穴] 14基のピットを確認した。ピット2～4は、規模、配置より主柱穴と思われる。ピット5～12は壁柱穴と思われる。

[炉] ピット1は床面中央部に位置しており炉の可能性が考えられる。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 10層に分層した。第1～6層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。第4層からは、50個体以上の復元可能な土器が出土している。第7～9層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。第10層は、黒色土が堆積し、ロームを多量含む。第7～9層は自然堆積その他は、人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第 群3、5a、6類土器が出土している。第8層より第 群3類土器(第34図82、83) 第6層より第 群3類土器(第35、36図84～88、90) 第 群5a類土器(第36図89) 第5層より第 群5a類土器(第55図332) 第4層より第 群3類土器(第36～48図91～96、98～119、121～136、139～149) 第 群5a類土器(第37図97、第45図138、第48図150～153) 第 群6類土器(第42図120、第49図154～156、第55図333) 第2層より第 群5a類土器(第55図334) 第1層より第 群3類土器(第55図335) 覆土より第 群5a類土器(第55図336) 第 群6類土器(第55図337)が出土している。

石器は、第6層より石匙1類が1点(第65図71) 2類が1点(第66図80) 不定形石器4類が1点(図示していない) 第5層より石匙1類が1点(第65図75) 3類が1点(図示していない) 敲磨器類4類Bが1点(第88図228) 第4層より石鏃2類2が1点(第63図58) 石匙1類が8点(第63、64図61、62、64、66～70) 2類が1点(第66図81) 異形石器が1点(第66図82) 不定形石器1類Aが2点(第66、67図83、85) 1類Bが1点(第67図84) 1類Fが1点(図示していない) 敲磨器類2類Eが1点(第87図219) 3類が1点(第87図220) 4類Aが2点(第87図221、223) 4類Bが2点(第88図226、227) 4類Dが1点(第88図229) 挟入扁平磨製石器が2点(第89図231、232) 第2層より石鏃2類2が1点(第63図59) 敲磨器類1類Aが1点(第87図217) 5類が1点(第88図230) 覆土より石匙1類が9点(第64～66図63、65、72～74、76～78、1点は図示していない) 2類が1点(第66図79) 異形石器が1点(第63図60) 不定形石器1類Aが1点(図示していない) 1類Dが1点(図示していない) 1類Fが1点(図示していない) 3類が1点(図示していない) 4類が2点(図示していない) 石斧1類Bが1点(第87図216) 敲磨器類1類Aが1点(図示していない) 1類Cが1点(図示していない) 1類Dが1点(第87図218) 4類Aが2点(第87図222、224) 4類Bが1点(第88図225) 挟入扁平磨製石器が1点(第89図233)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期中葉の竪穴式住居跡と思われる。

第23号竪穴式住居跡（第16図）

[位置・確認層] AA - 132、Z - 132、133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第21号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、長径3.56mである。

[壁] 床面端から外側へ緩やかに立ち上がる。壁高は、北壁確認面より直下の床面までが26cm、床面までの最大幅が28cm、東壁確認面より直下の床面までが28cm、床面までの最大幅が42cm、西壁確認面より直下の床面までが床面までの最大幅で28cm、南壁は重複のため確認していない。

[床] 第 層を床面とし、堅く締まる。若干の起伏を有し、全体に西側から東側への傾斜が見られる。

[柱穴] 15基のピットを確認した。ピット2、3は規模、配置より主柱穴と思われる。ピット4～13は、壁柱穴と思われる。

[炉] 明確に炉と思われる施設は確認していない。床面中央部のピット1は、位置的に炉の可能性も考えられる。

[その他の附属施設] なし。

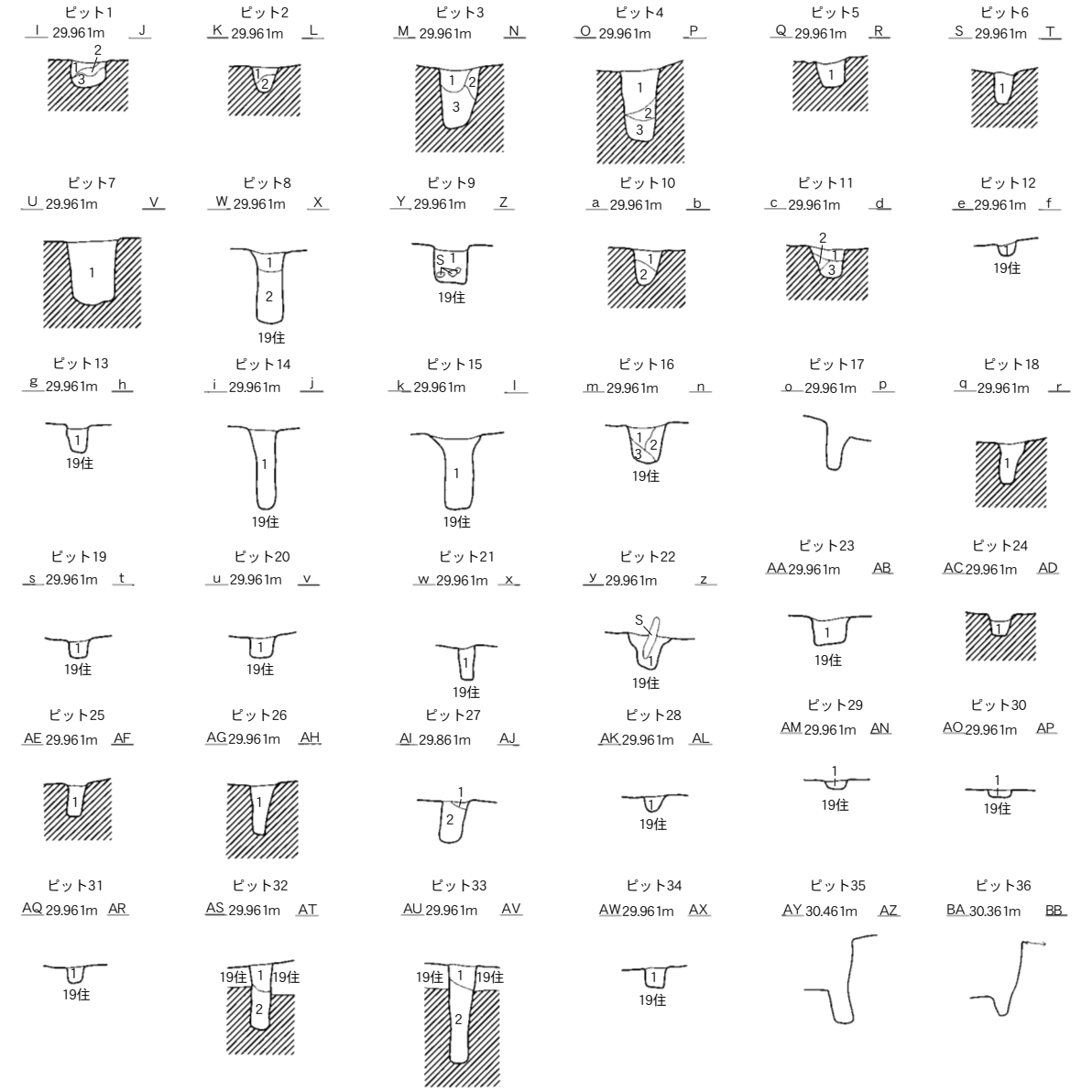
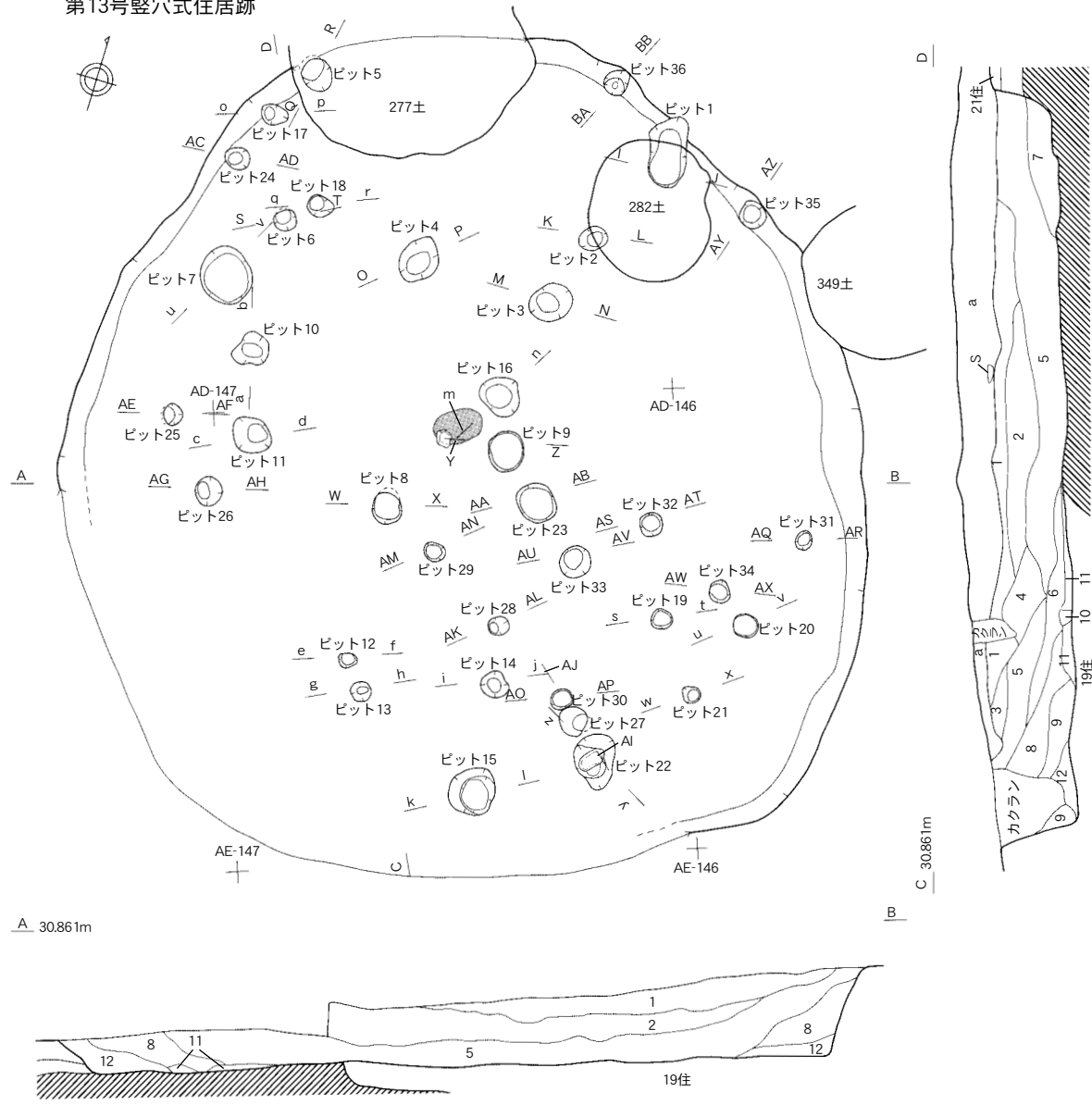
[堆積土] 3層に分層した。黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第 群3類、6類土器が出土している。第3層より第 群3類土器（第49図157～160、第55図338）第 群6類土器（第55図339）第2層より第 群3類土器（第55図340）が出土している。

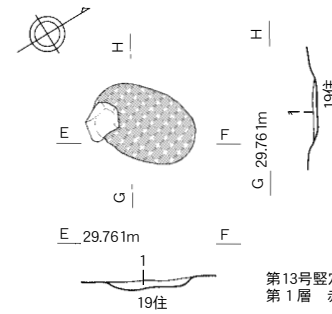
石器は、第3層より不定形石器が1点（図示していない）敲磨器類4類Dが1点（第89図234）第2層より不定形石器1類Eが1点（第67図86）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期中葉～末葉の竪穴式住居跡と思われる。

第13号竪穴式住居跡



第13号竪穴式住居跡内焼土

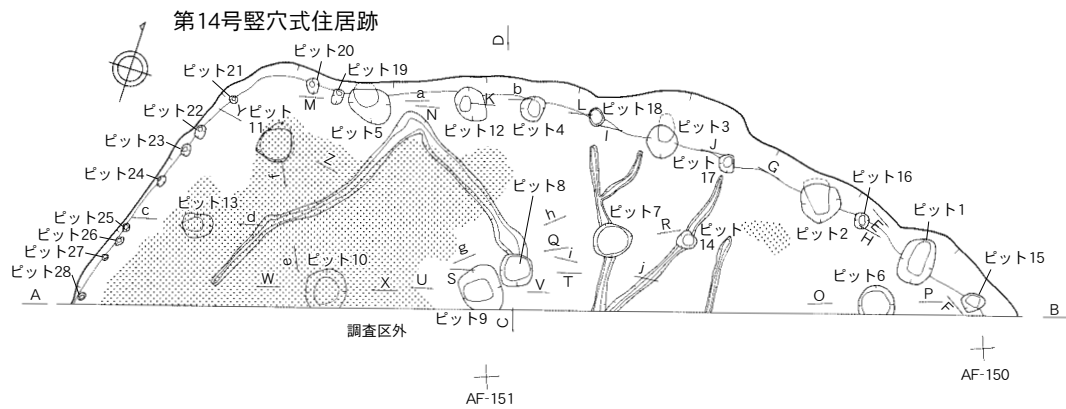


- 第13号竪穴式住居跡
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量、炭化物少量、焼土微量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/4) 角礫多量
 - 第3層 灰褐色土 (10YR4/3) ローム粒中量、炭化物微量
 - 第4層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第5層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第6層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物少量
 - 第7層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物少量
 - 第8層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第9層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第10層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・角礫微量
 - 第11層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第12層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量、褐色土 (7.5YR4/4) 少量

- 第13号竪穴式住居跡内焼土
- 第1層 赤褐色土 (5YR4/6) ローム粒・炭化物少量、パミス微量

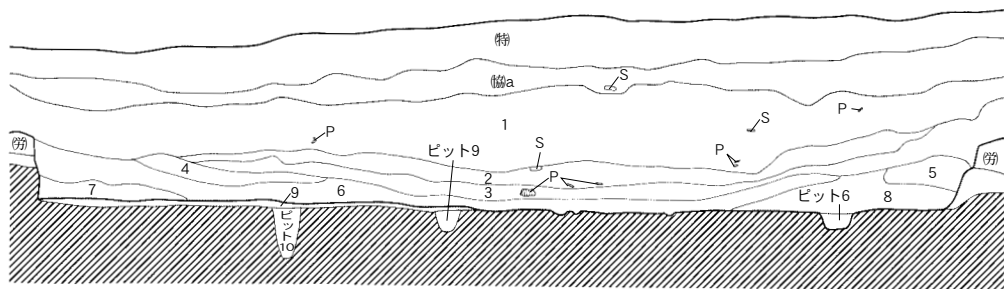
- | | | |
|---|---|--|
| <p>第13号竪穴式住居跡内ピット1</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量 第3層 褐色土 (10YR4/4) L B・ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット2</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒多量 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒・炭化物少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット3</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒・炭化物少量 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット4</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒・暗褐色土少量 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色土 (7.5YR4/6) 少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット5</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット6</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット7</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット8</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット9</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒中量、角礫少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット10</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒中量 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット11</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・炭化物少量 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) パミス少量 第3層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒少量 | <p>第13号竪穴式住居跡内ピット12</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 灰褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット13</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 灰褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量、角礫微量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット14</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒・炭化物少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット15</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒中量、炭化物少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット16</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、パミス・炭化物・焼土少量 第2層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒中量 第3層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒・パミス少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット18</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒・炭化物少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット19</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット20</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒中量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット21</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット22</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒微量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット23</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒中量、炭化物少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット24</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット25</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット26</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット27</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色土少量 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒微量 | <p>第13号竪穴式住居跡内ピット28</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット29</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット30</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒中量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット31</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット32</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒少量 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒微量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット33</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量 <p>第13号竪穴式住居跡内ピット34</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量 |
|---|---|--|

第5図 第13号竪穴式住居跡



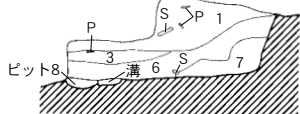
A 29.114m

B



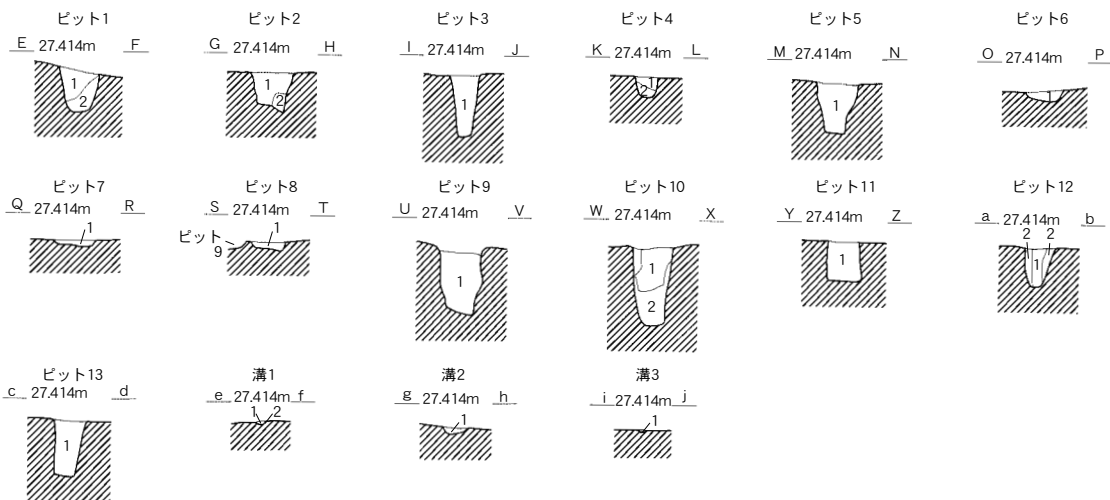
C 28.114m

D



第14号竪穴式住居跡

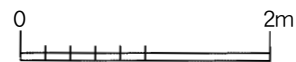
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) パミス・ローム粒中量、炭化物少量
- 第2層 黒褐色土 (10YR3/2) パミス・炭化物中量、ローム粒少量
- 第3層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物少量
- 第4層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒中量、パミス・炭化物微量
- 第5層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス・ローム粒少量
- 第6層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化物微量
- 第7層 黒色土 (10YR2/1) パミス・ローム粒中量、炭化物微量
- 第8層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス・ローム粒少量、炭化物微量
- 第9層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒中量



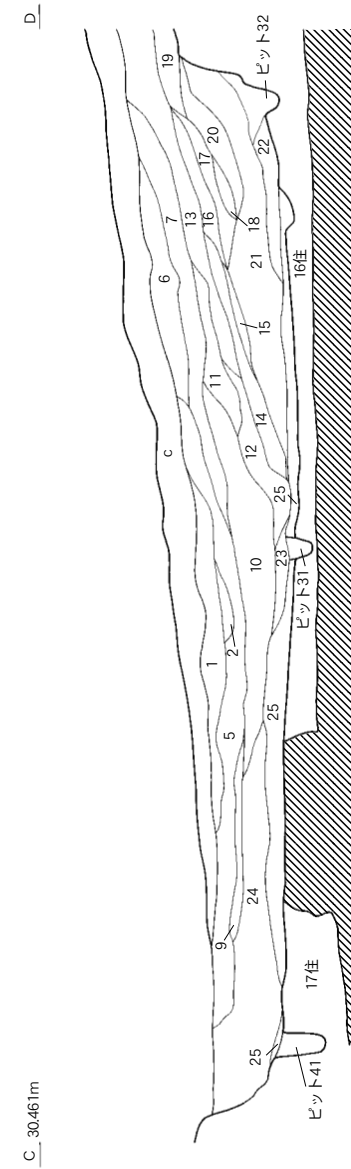
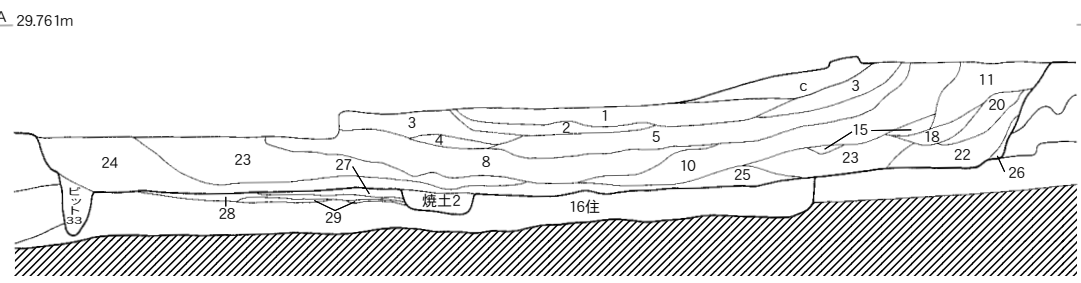
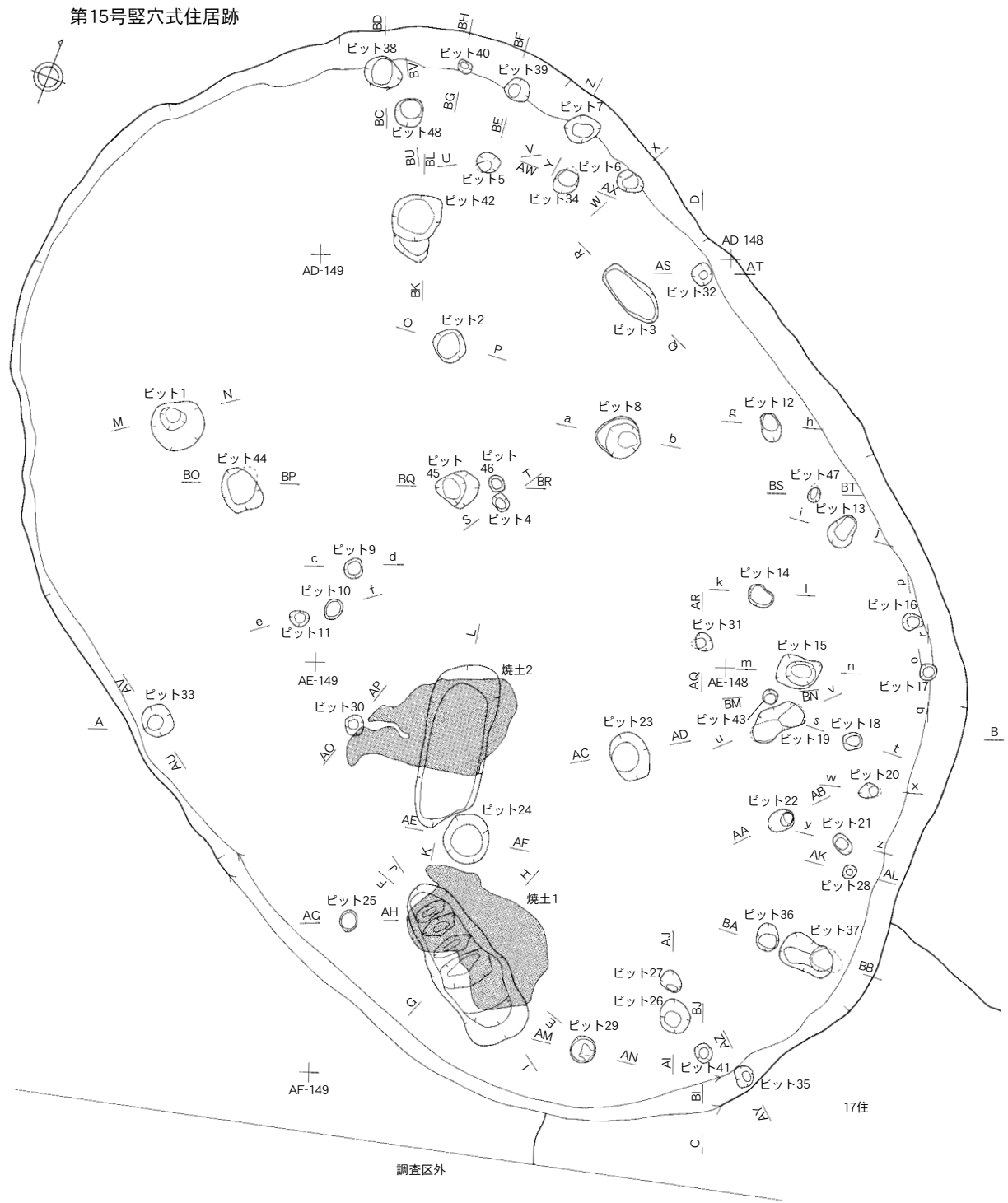
- 第14号竪穴式住居跡内ピット1
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、パミス微量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒多量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット2
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) パミス・ローム粒微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒多量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット3
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット4
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒多量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒多量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット5
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット6
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、パミス微量

- 第14号竪穴式住居跡内ピット7
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) パミス・ローム粒・炭化物微量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット8
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・砂少量、パミス・炭化物微量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット9
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット10
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量
 - 第2層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒・黒色土少量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット11
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量
- 第14号竪穴式住居跡内ピット12
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒多量

- 第14号竪穴式住居跡内ピット13
 - 第1層 黒色土 (10YR2/1)
- 第14号竪穴式住居跡内溝1
 - 第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒少量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/3)
- 第14号竪穴式住居跡内溝2
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、パミス・炭化物微量
- 第14号竪穴式住居跡内溝3
 - 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) 角礫少量

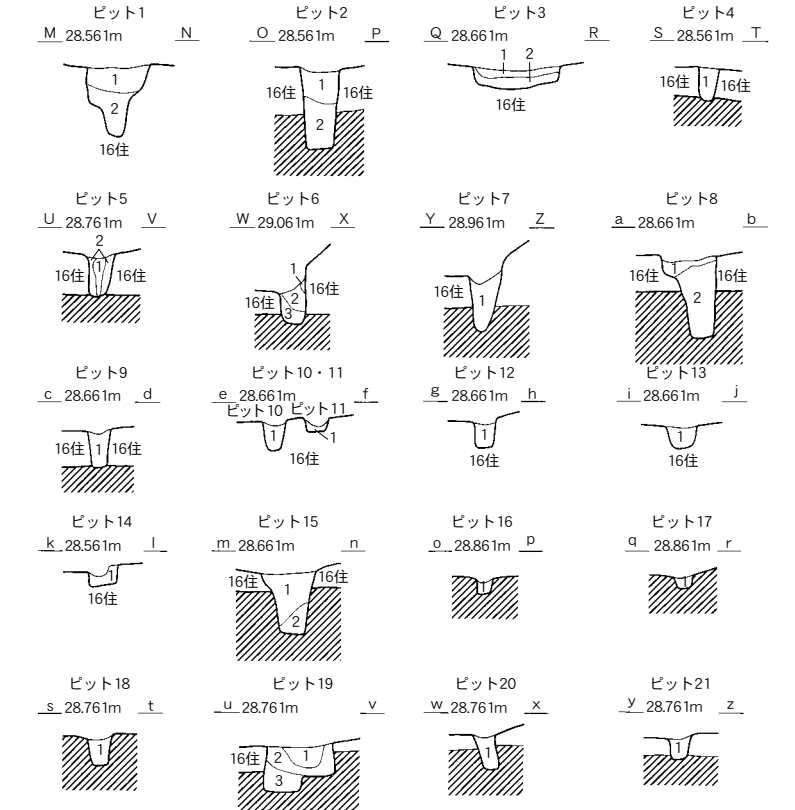


第6図 第14号竪穴式住居跡



- 第15号竪穴式住居跡
- 第1層 赤褐色土 (10YR4/3) ローム粒・炭化物中量、角礫少量
 - 第2層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物中量、ローム粒少量
 - 第4層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量
 - 第5層 暗褐色土 (7.5YR3/3) 炭化物多量、ローム粒少量
 - 第6層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒中量
 - 第7層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒中量
 - 第8層 褐色土 (7.5YR4/4) 土器多量、ローム粒・炭化物少量
 - 第9層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒中量
 - 第10層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒多量、褐色土 (10YR4/6) 中量
 - 第11層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第12層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒少量
 - 第13層 赤褐色土 (10YR4/3) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第14層 褐色土 (10YR4/6) L.B・ローム粒中量、炭化物少量
 - 第15層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第16層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、炭化物微量
 - 第17層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量
 - 第18層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量
 - 第19層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第20層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、炭化物微量
 - 第21層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒中量
 - 第22層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・褐色土中量
 - 第23層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒多量、炭化物・角礫微量
 - 第24層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒多量、炭化物少量
 - 第25層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量、炭化物中量、L.B少量
 - 第26層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
 - 第27層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒多量、炭化物微量
 - 第28層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第29層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量

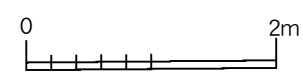
- 焼土1
- E 28.661m
- G 28.661m
- I 28.661m
- 第15号竪穴式住居跡内焼土1
- 第1層 赤褐色土 (2.5YR4/6) ローム粒少量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・炭化物少量
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒・炭化物少量、パミス微量
 - 第4層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒微量
 - 第5層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第6層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒・角礫・黒色土 (10YR4/6) 少量、炭化物微量
 - 第7層 黒褐色土 (7.5YR3/1)
- 焼土2
- K 28.561m
- 第15号竪穴式住居跡内焼土2
- 第1層 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 黒色土 (7.5YR2/1) 少量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、パミス・角礫少量、炭化物微量



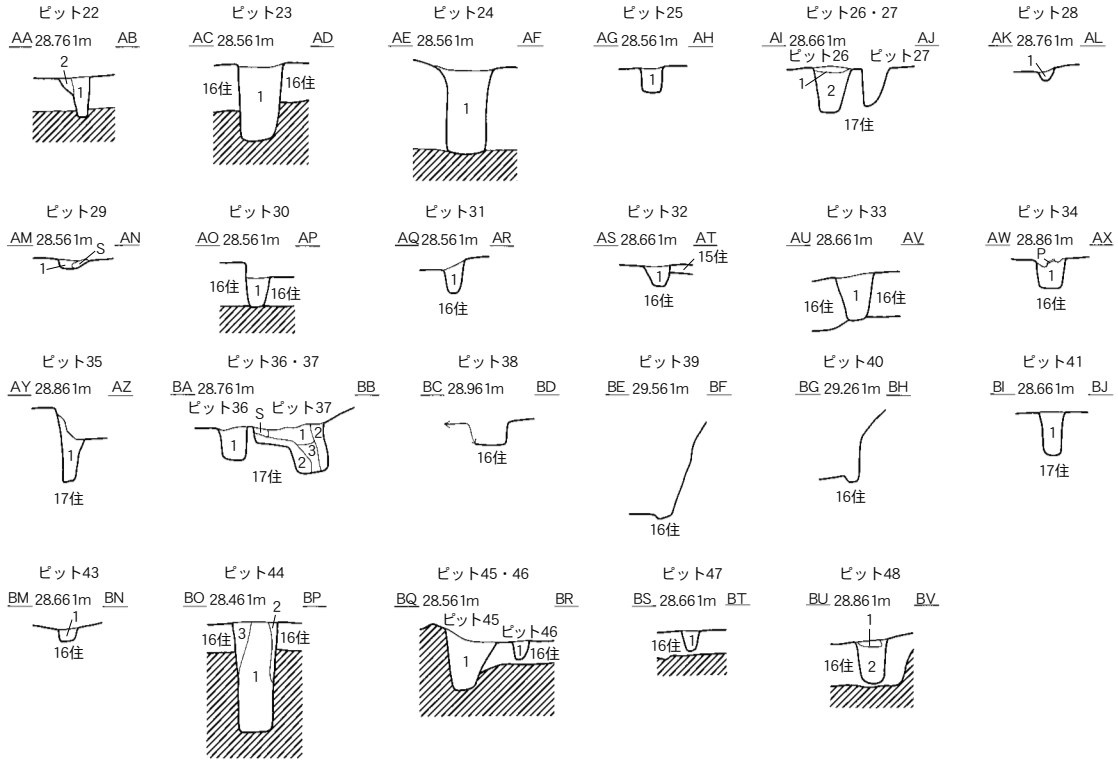
- 第15号竪穴式住居跡内ピット1
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット2
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物少量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット3
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット4
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット5
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・暗褐色土 (7.5YR3/3) 少量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、パミス・炭化物少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット6
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒中量、炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット7
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒多量、褐色土 (7.5YR4/4) 少量

- 第15号竪穴式住居跡内ピット8
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット9
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット10
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 砂質層
- 第15号竪穴式住居跡内ピット11
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 暗褐色土 (10YR3/4) 少量、ローム粒微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット12
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒・炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット13
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、炭化物・褐色土 (7.5YR4/6) 少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット14
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット15
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒中量、炭化物・暗褐色土 (7.5YR3/3) 少量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量

- 第15号竪穴式住居跡内ピット16
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) 砂質層
- 第15号竪穴式住居跡内ピット17
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット18
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット19
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒多量、炭化物微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒中量、炭化物微量
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒中量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット20
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット21
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量、炭化物微量



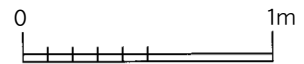
第7図 第15号竪穴式住居跡 (1)



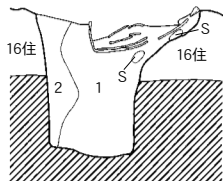
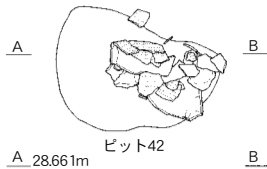
- 第15号竪穴式住居跡内ピット22
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量
第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット23
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物中量、ローム粒少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット24
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット25
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット26
第1層 褐色土 (7.5YR4/6) 砂質層
第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒中量、褐色土 (7.5YR4/6) 少量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット28
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット29
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫中量、ローム粒少量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット30
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット31
第1層 褐色土 (7.5YR4/6) 砂質層

- 第15号竪穴式住居跡内ピット33
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒中量、黒色土少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット34
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) 砂質層 ローム粒・炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット35
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・炭化物少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット36
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、パミス少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット37
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒多量、炭化物微量
第2層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒多量、炭化物少量
第3層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、パミス少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット41
第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量、黒褐色土 (10YR3/3) 少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット43
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒中量

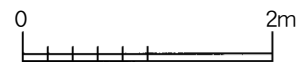
- 第15号竪穴式住居跡内ピット44
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒多量、炭化物少量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒多量、炭化物微量
第3層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、黒褐色土 (7.5YR2/2) 少量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット45
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、黒色土 (7.5YR2/1) 少量、炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット46
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット47
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒微量
- 第15号竪穴式住居跡内ピット48
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、炭化物微量
第2層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒少量、炭化物微量



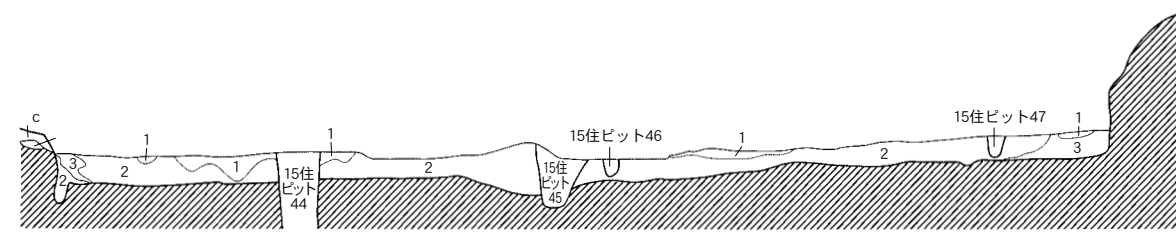
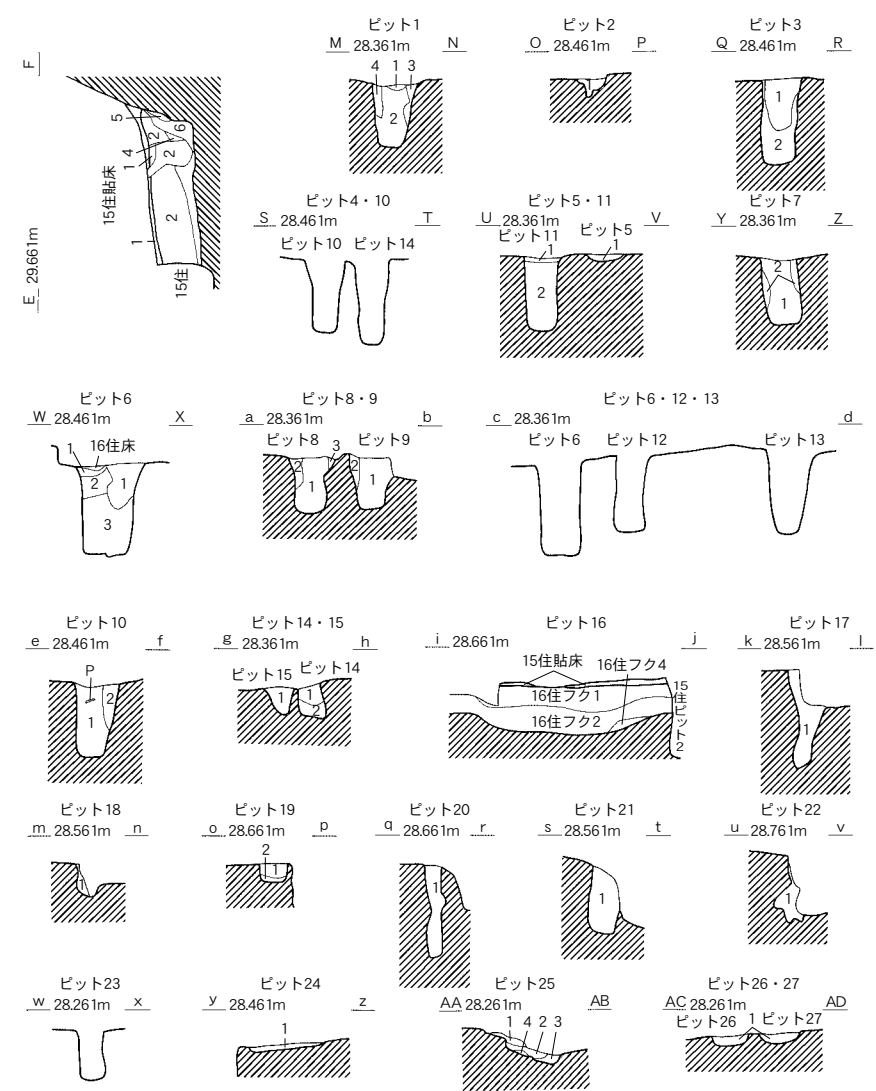
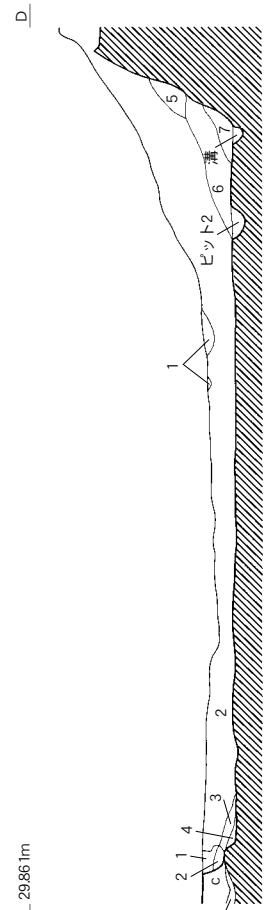
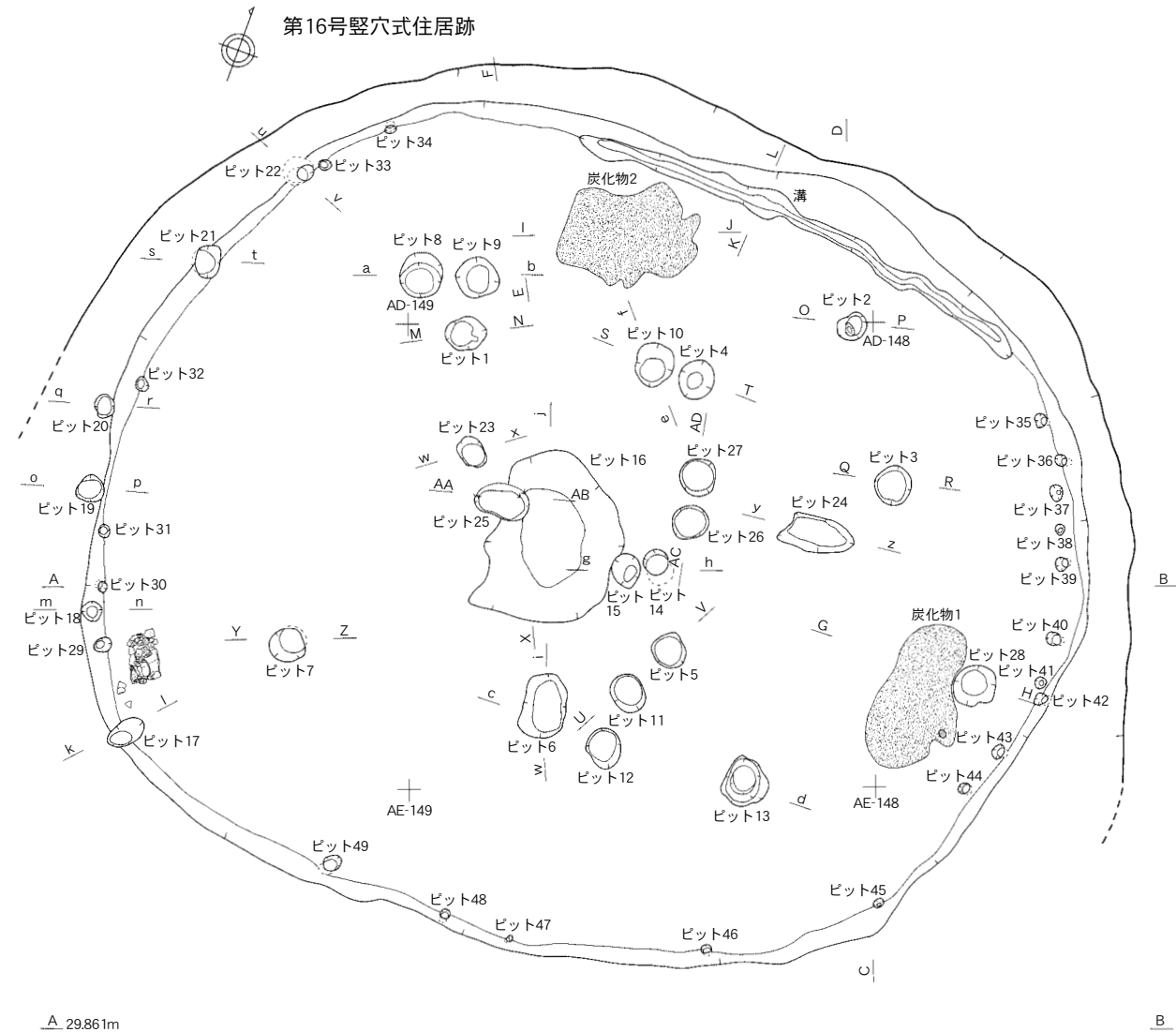
ピット42内埋設土器



- 第15号竪穴式住居跡内ピット42
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、黒褐色土 (7.5YR3/2) 少量、炭化物微量
第2層 黒褐色土 (7.5YR3/2) ローム粒多量、炭化物微量

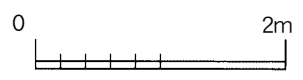


第8図 第15号竪穴式住居跡 (2)



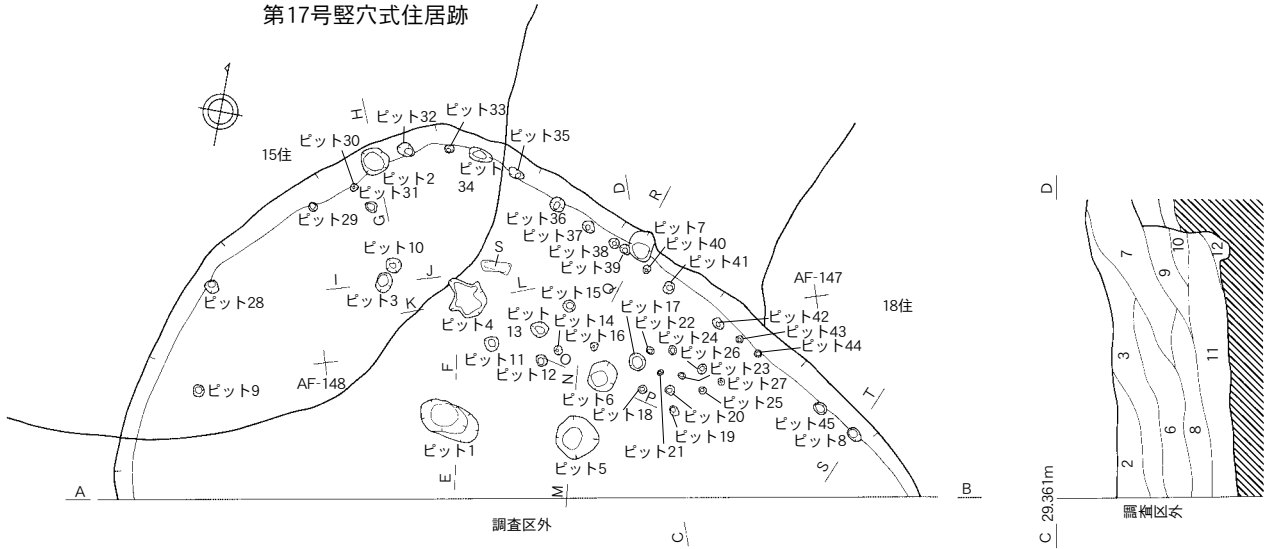
- 第16号竪穴式住居跡**
- 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒多量、炭化物中量
 - 第3層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒少量
 - 第4層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量
 - 第5層 明黄褐色土 (10YR7/6) 砂質層
 - 第6層 黄褐色土 (10YR5/8) 砂質層 黒色土 (10YR2/1) 多量
 - 第7層 橙色土 (7.5YR6/8) 黒色土 (10YR2/1) 少量
- 第16号竪穴式住居跡内炭化物1・ピット28**
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量
 - 第2層 橙色土 (7.5YR6/8)
 - 第3層 橙色土 (7.5YR6/8)
- 第16号竪穴式住居跡内炭化物2**
- 第1層 赤褐色土 (2.5YR4/8) 炭化物中量
- 第16号竪穴式住居跡内溝**
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム層
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量

- 第16号竪穴式住居跡内ピット1**
- 第1層 黄褐色土 (10YR5/6) 砂質層 ローム粒・炭化物少量
 - 第2層 明赤褐色土 (5YR5/8) ローム・褐色土 (10YR4/4) 少量
 - 第3層 黄褐色土 (10YR5/6) 砂質層 ローム粒少量、炭化物微量
 - 第4層 褐色土 (10YR4/4) 砂質層 黒褐色土少量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット2**
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量、炭化物微量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット3**
- 第1層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒・砂ブロック中量、炭化物微量
 - 第2層 明褐色土 (7.5YR5/6) 砂質層 黒褐色土 (7.5YR2/2)・明赤褐色土少量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット5**
- 第1層 黄褐色土 (10YR5/6) 砂質層 炭化物少量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット6**
- 第1層 明黄褐色土 (10YR6/8) と黒褐色土 (10YR2/2) との混合土
 - 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
 - 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒多量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット7**
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第3層 明赤褐色土 (5YR5/8) ローム層
 - 第4層 明褐色土 (7.5YR5/6) 砂質層
- 第16号竪穴式住居跡内ピット9**
- 第1層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒中量、炭化物・明褐色土 (7.5YR2/2) 少量
 - 第2層 明赤褐色土 (5YR5/8)
- 第16号竪穴式住居跡内ピット10**
- 第1層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒中量、炭化物微量
 - 第2層 明赤褐色土 (5YR5/6) ローム層
- 第16号竪穴式住居跡内ピット11**
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) 砂質層 黒褐色土 (7.5YR2/2) 少量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット14**
- 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量
 - 第2層 明褐色土 (7.5YR5/8)
- 第16号竪穴式住居跡内ピット15**
- 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット16**
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量、炭化物・黒色土 (少量) (メインセク1層)
 - 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒中量 (メインセク2層)
 - 第3層 明黄褐色土 (10YR6/8) と黒色土 (10YR2/1) との混合土
- 第16号竪穴式住居跡内ピット17**
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒中量、黄褐色土 (10YR5/6) 少量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット18**
- 第1層 黒褐色土 (7.5YR2/2) 黒色土 (10YR2/1) 少量、ローム粒微量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット19**
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒中量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/4) 砂質層
- 第16号竪穴式住居跡内ピット20**
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒・炭化物微量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、炭化物少量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット22**
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒中量、黄褐色土 (10YR5/6) 少量、炭化物微量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット24**
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒多量、炭化物中量、パミス微量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット25**
- 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒多量、LB・暗褐色土 (7.5YR3/3) 少量
 - 第2層 明黄褐色土 (10YR6/6) ローム層
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒・炭化物中量
 - 第4層 明褐色土 (7.5YR5/6) 砂質層
- 第16号竪穴式住居跡内ピット26**
- 第1層 黄褐色土 (10YR5/6) 砂質層 炭化物多量
- 第16号竪穴式住居跡内ピット27**
- 第1層 黄褐色土 (10YR5/6) 砂質層 炭化物多量

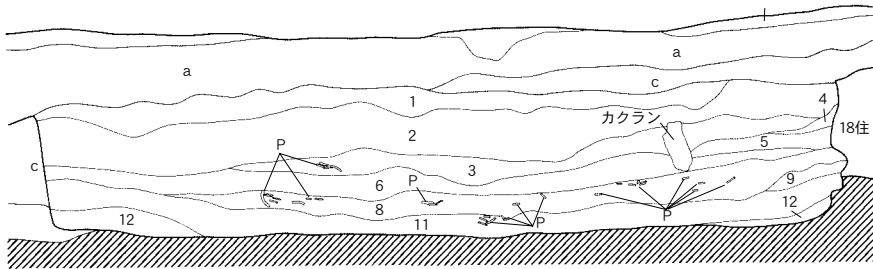


第9図 第16号竪穴式住居跡

第17号竪穴式住居跡



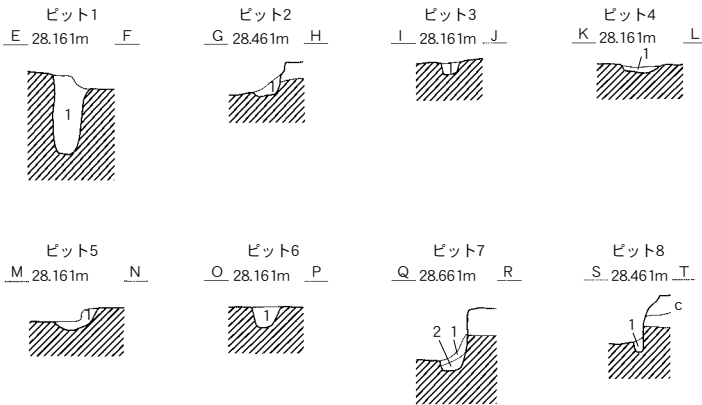
A 29.861m



B

第17号竪穴式住居跡

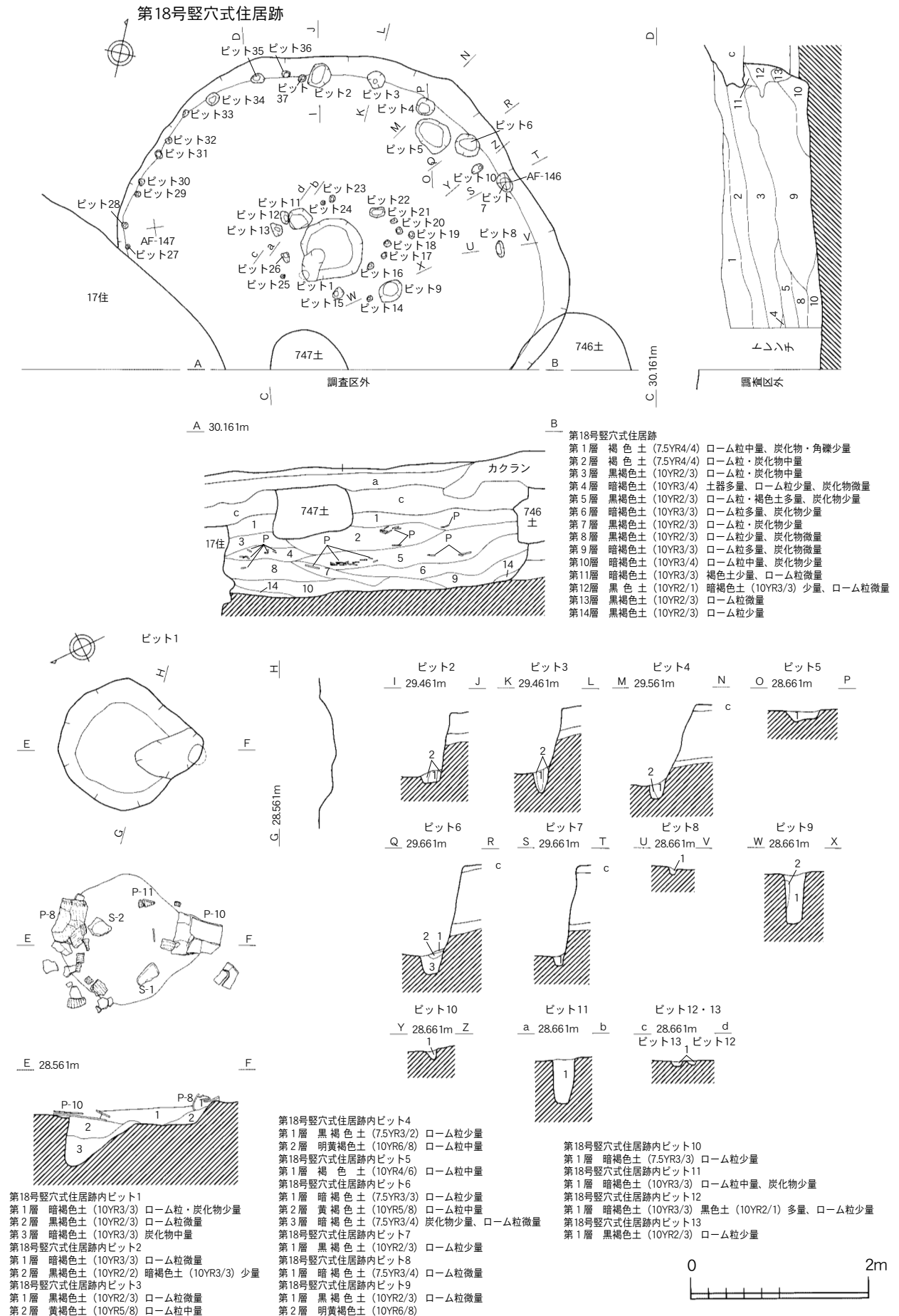
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒少量、炭化物微量
- 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒中量、炭化物・角礫少量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・炭化物少量
- 第4層 暗褐色土 (7.5YR3/3) 炭化物・土器中量、ローム粒・角礫少量
- 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒多量、炭化物微量
- 第6層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物少量
- 第7層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒多量、炭化物少量
- 第8層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物・土器多量、ローム粒中量
- 第9層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・炭化物少量
- 第10層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒少量、炭化物微量
- 第11層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒多量、炭化物微量
- 第12層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量



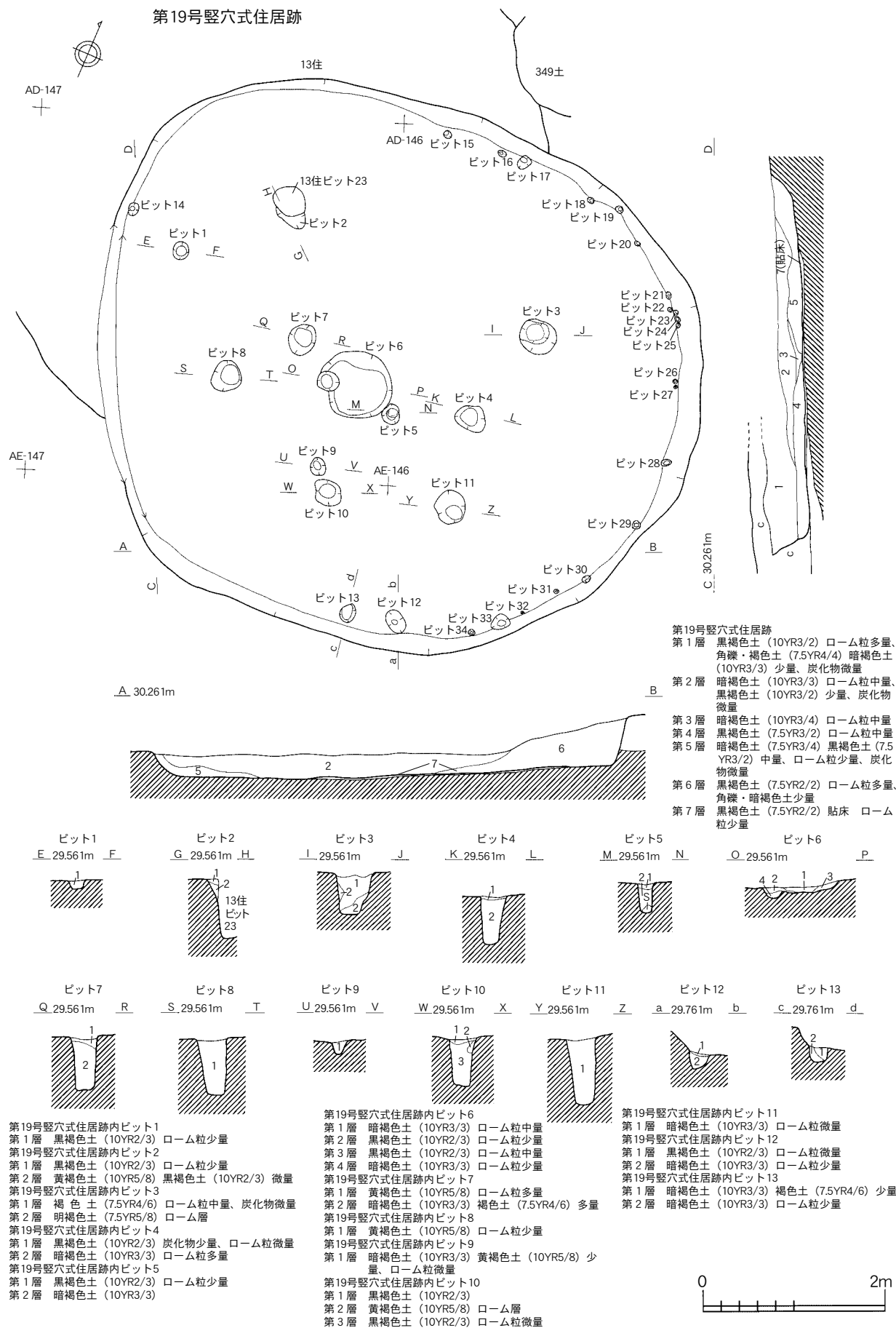
- 第17号竪穴式住居跡内ピット1
第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・褐色土少量
- 第17号竪穴式住居跡内ピット2
第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・炭化物微量
- 第17号竪穴式住居跡内ピット3
第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・炭化物微量
- 第17号竪穴式住居跡内ピット4
第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化物微量
- 第17号竪穴式住居跡内ピット5
第1層 褐色土 (10YR4/4) 砂質層 黒色土 (10YR2/1) 少量
- 第17号竪穴式住居跡内ピット6
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土 (10YR5/6) 少量、炭化物微量
- 第17号竪穴式住居跡内ピット7
第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒中量、炭化物微量
第2層 褐色土 (10YR4/6) 砂質層
- 第17号竪穴式住居跡内ピット8
第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量



第10図 第17号竪穴式住居跡

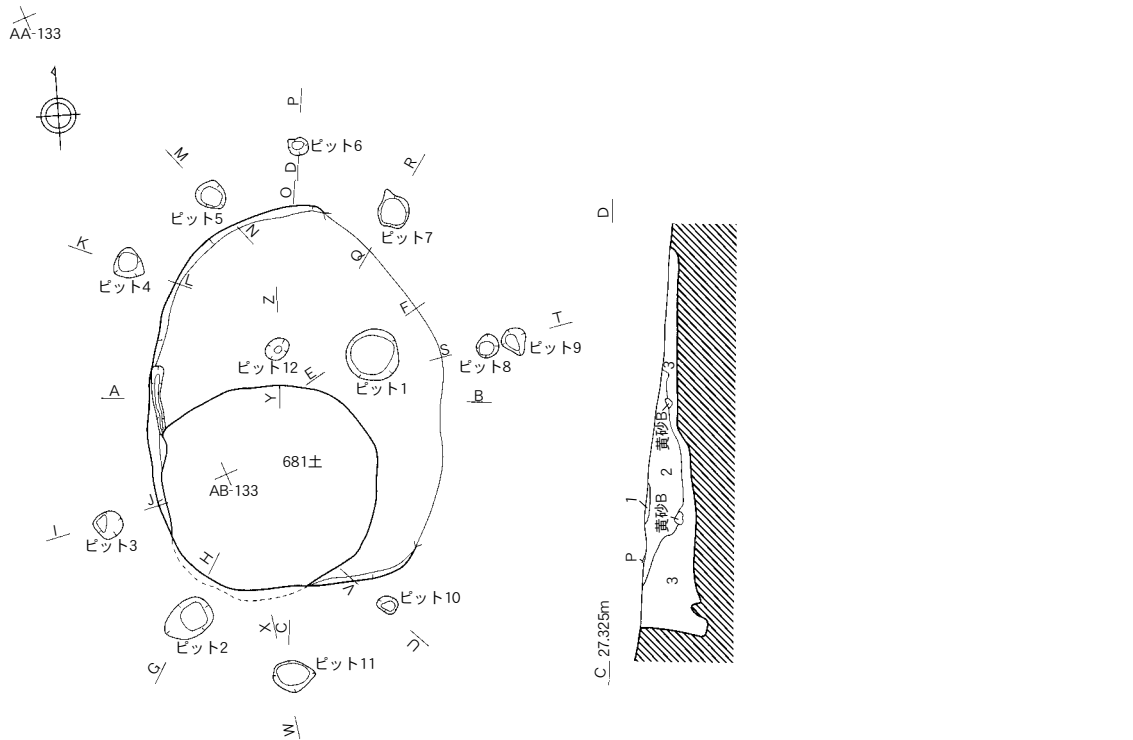


第11図 第18号竪穴式住居跡



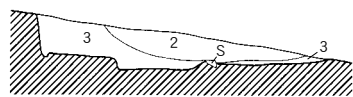
第12図 第19号竪穴式住居跡

第20号竪穴式住居跡

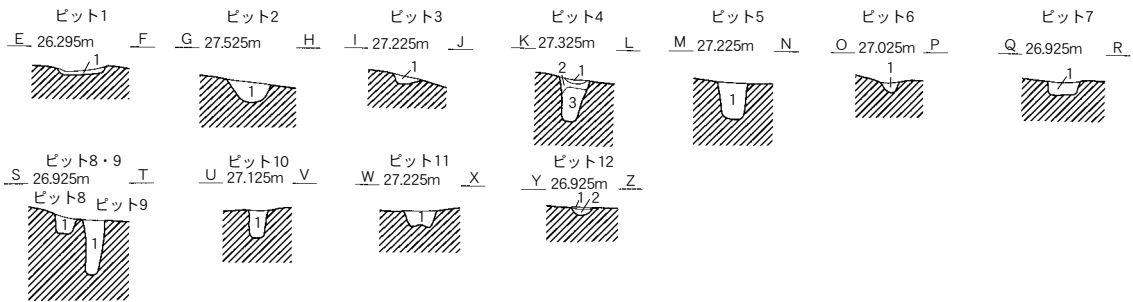


A. 27.325m

B.



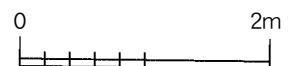
第20号竪穴式住居跡
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) LB・ローム粒・暗褐色土 (10YR3/4) 少量
 第3層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量



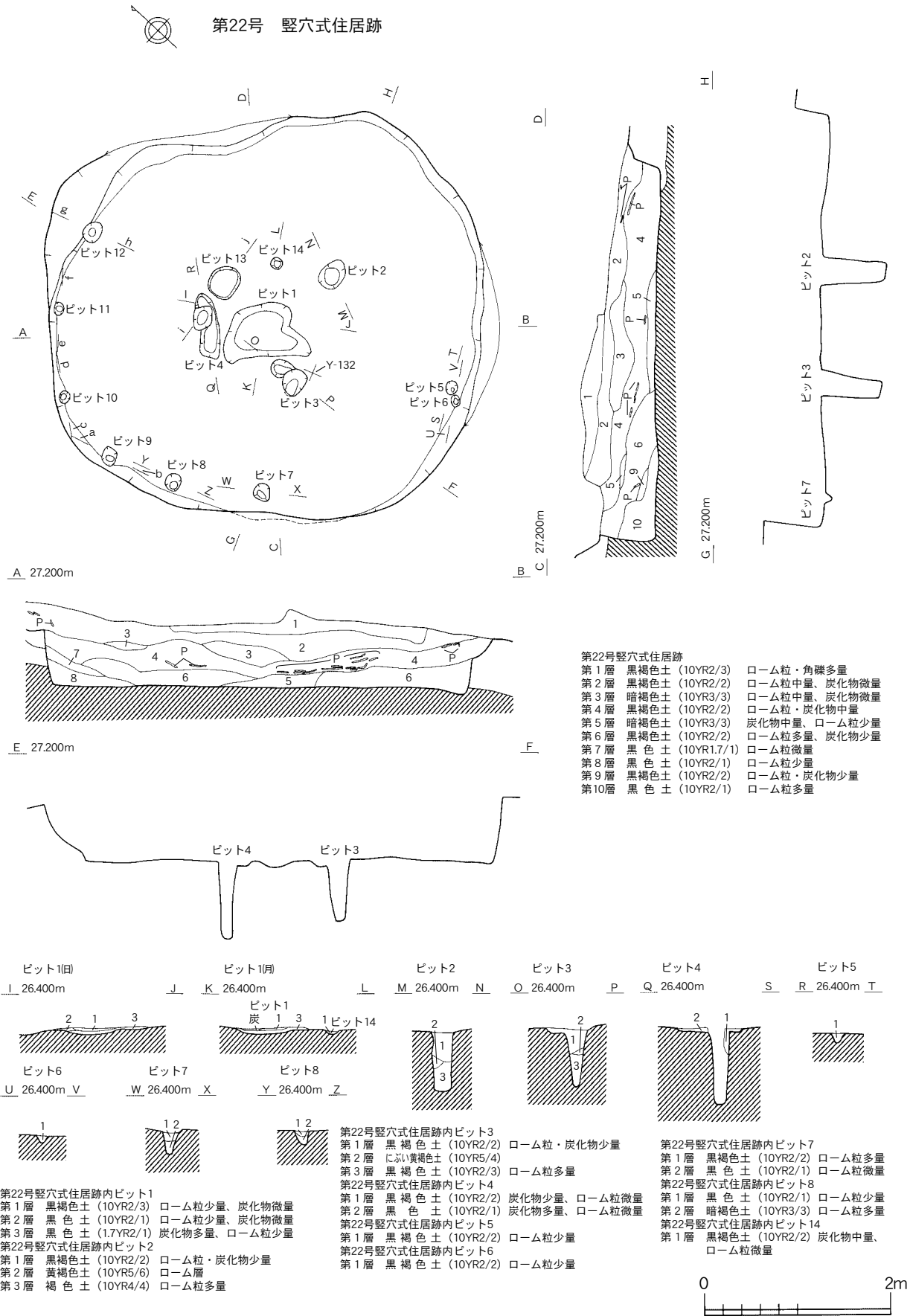
第20号竪穴式住居跡内ピット1
 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量、パミス・ローム粒微量
 第20号竪穴式住居跡内ピット2
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量
 第20号竪穴式住居跡内ピット3
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
 第20号竪穴式住居跡内ピット4
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量
 第3層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量

第20号竪穴式住居跡内ピット5
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化物微量
 第20号竪穴式住居跡内ピット6
 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量
 第20号竪穴式住居跡内ピット7
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量
 第20号竪穴式住居跡内ピット8
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
 第20号竪穴式住居跡内ピット9
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量

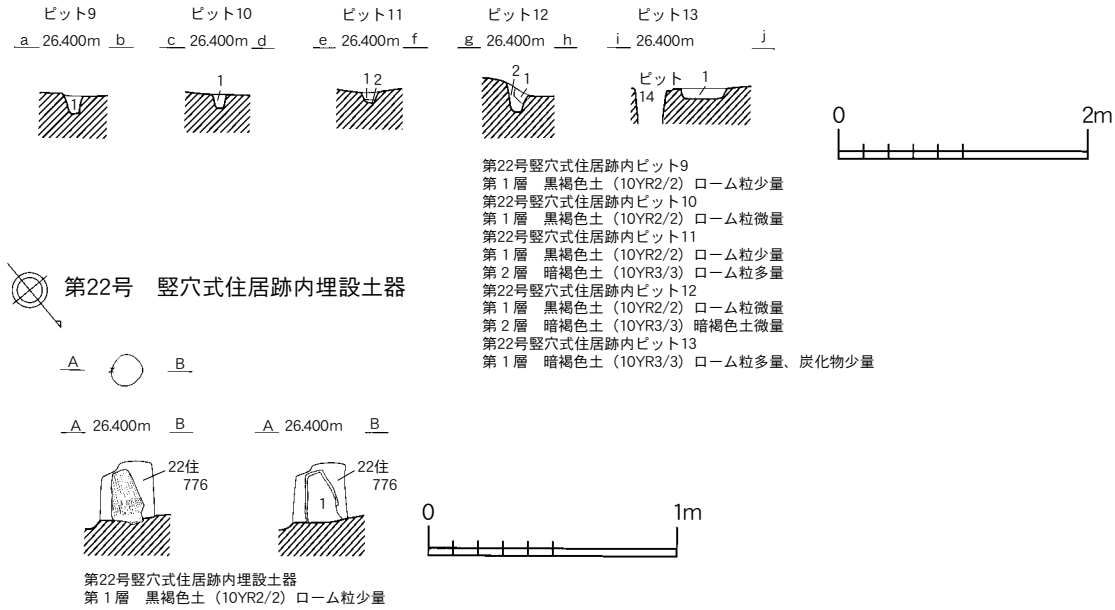
第20号竪穴式住居跡内ピット10
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
 第20号竪穴式住居跡内ピット11
 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量
 第20号竪穴式住居跡内ピット12
 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒微量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) LB微量



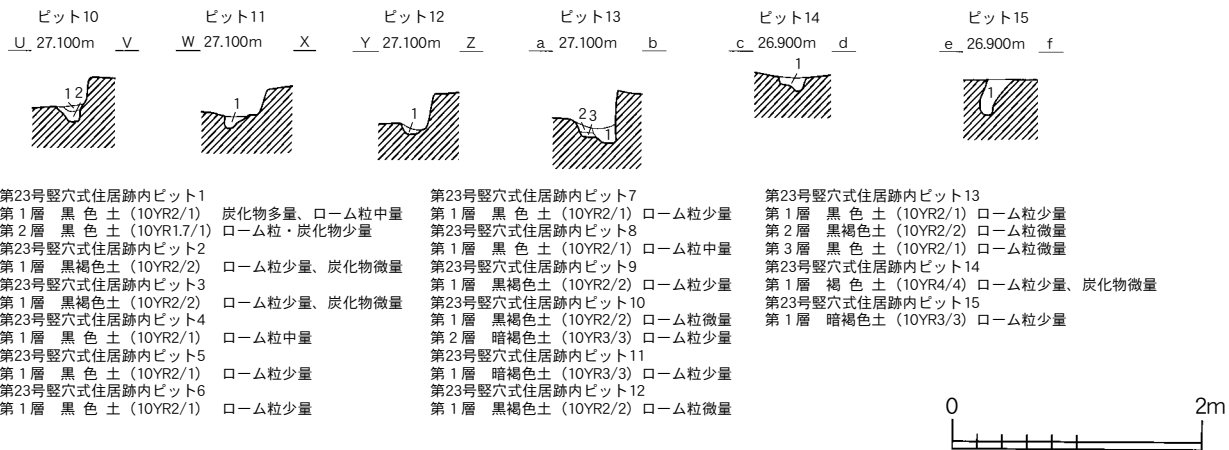
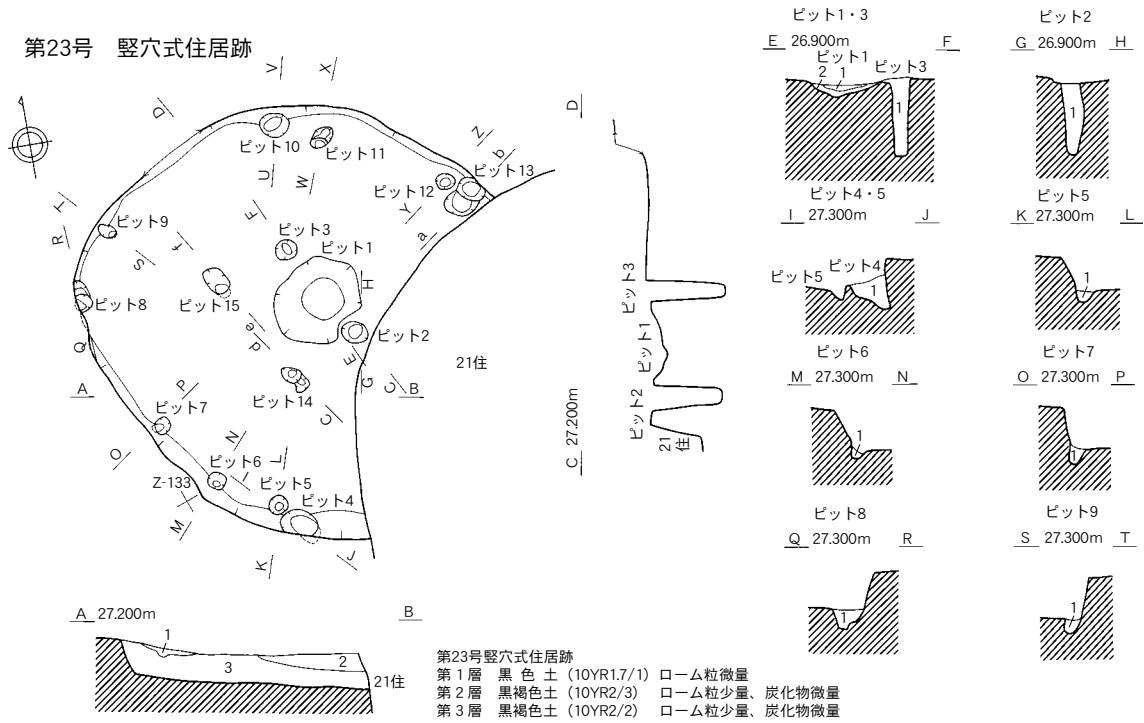
第13図 第20号竪穴式住居跡



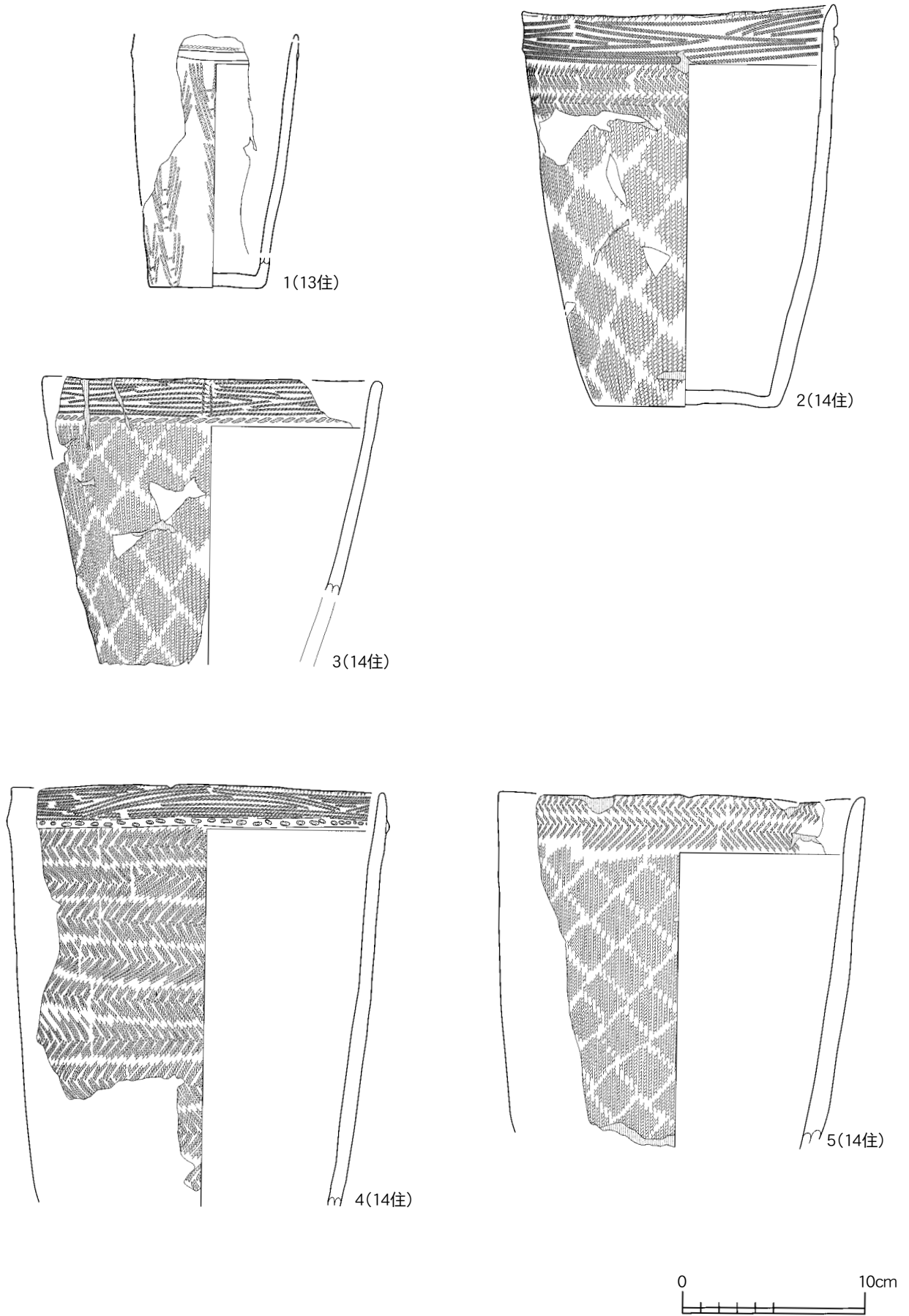
第15図 第22号竪穴式住居跡



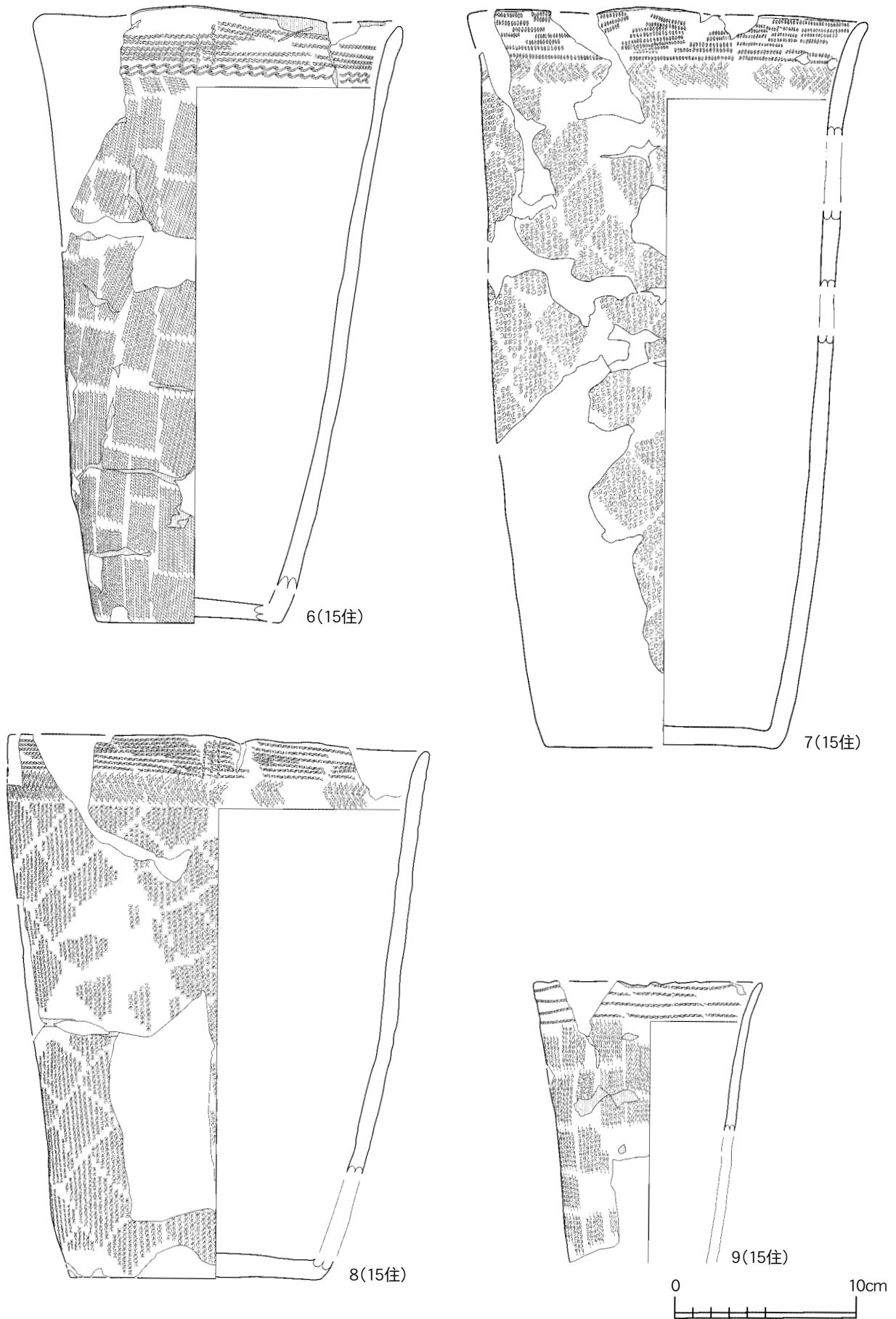
第23号 竪穴式住居跡



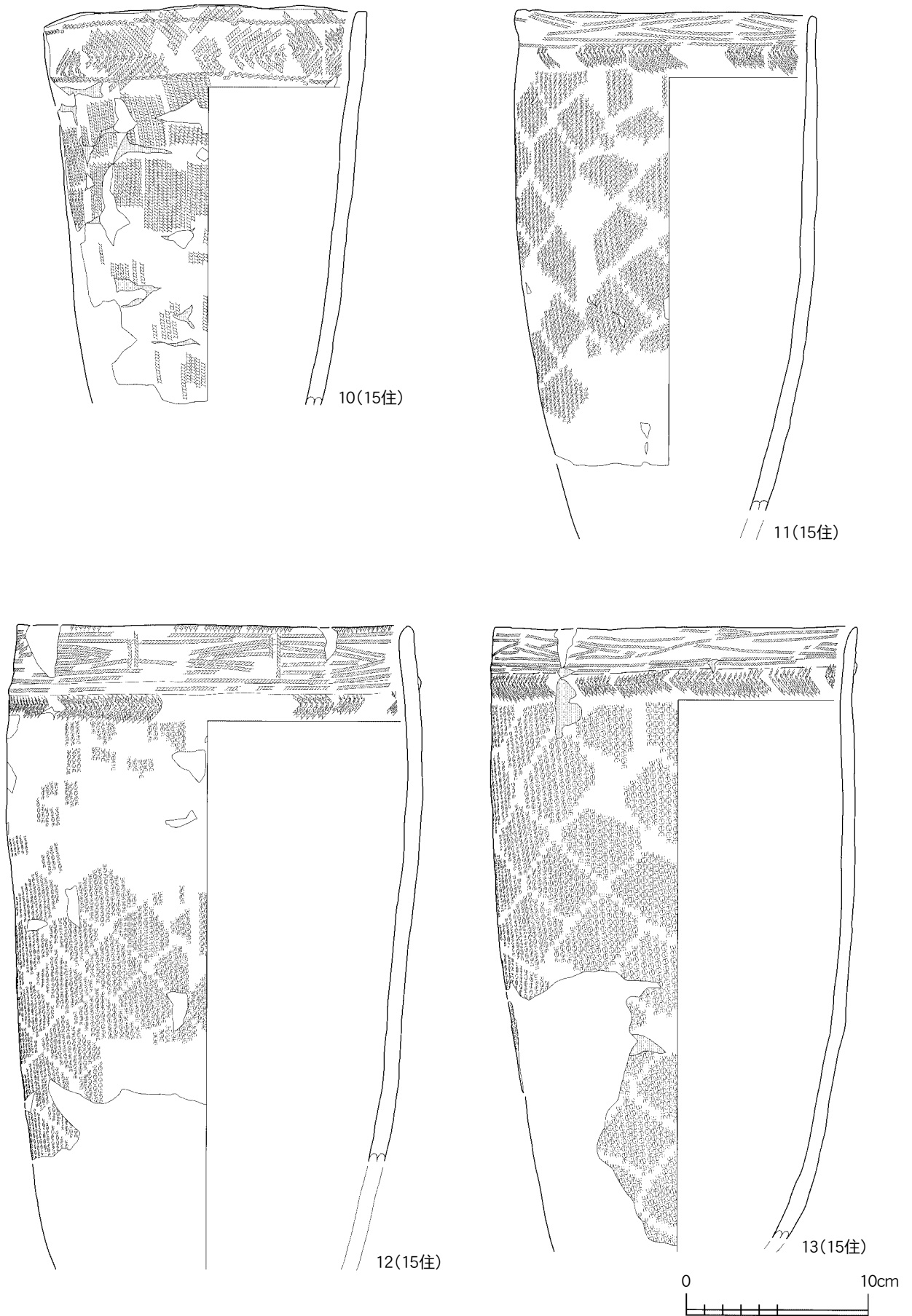
第16図 第22・23号竪穴式住居跡



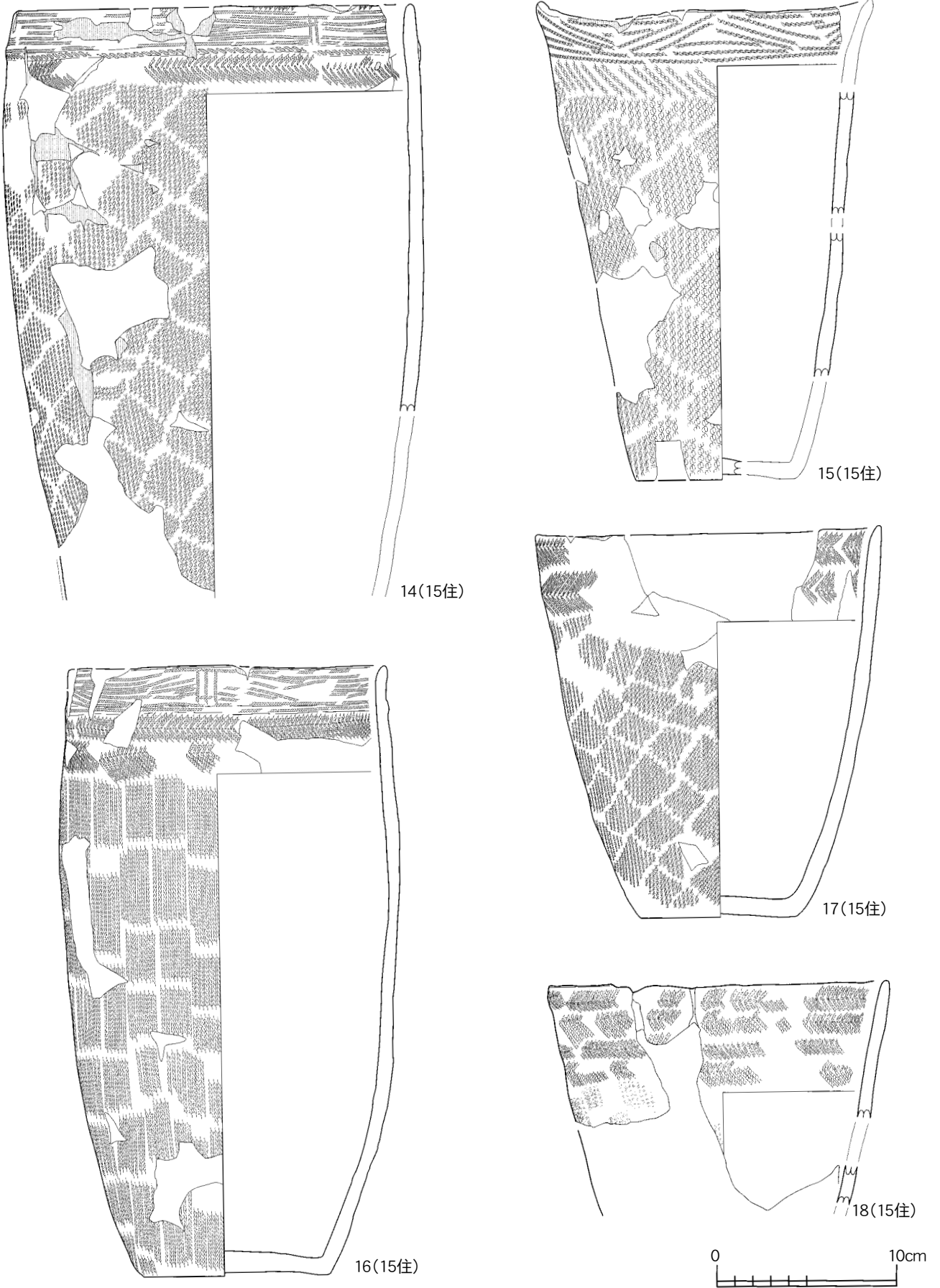
第17図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（1）



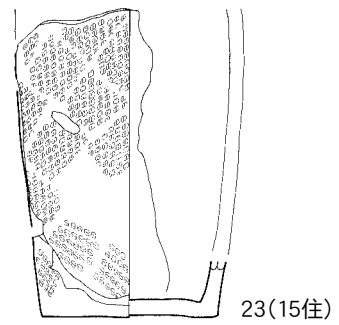
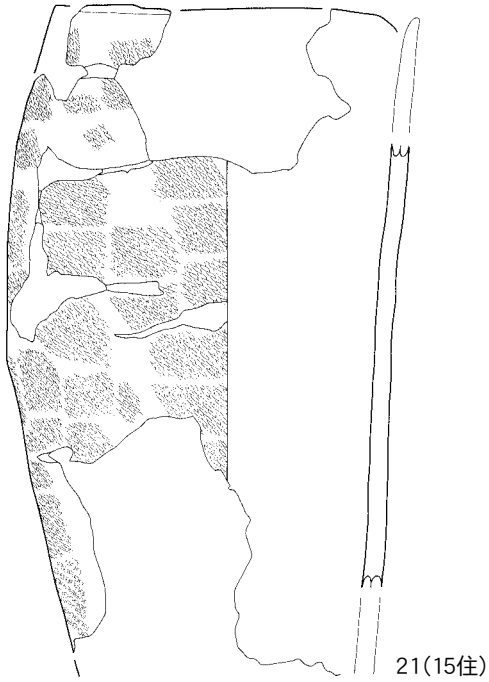
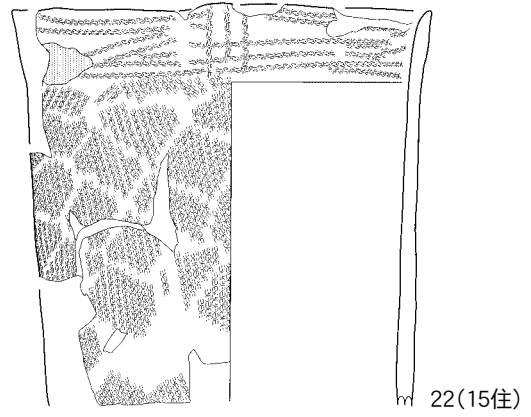
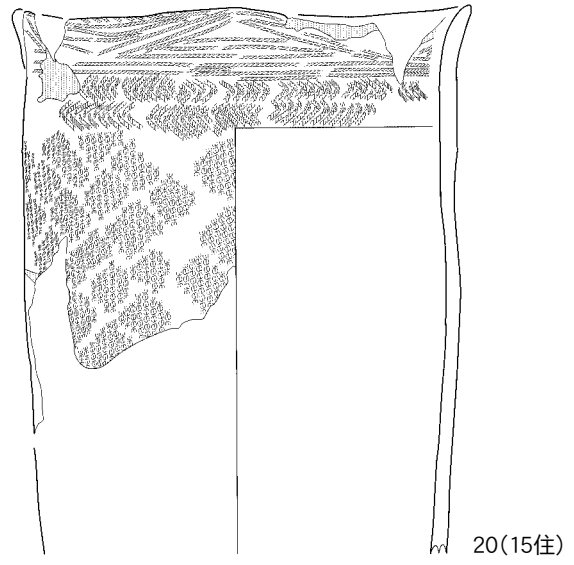
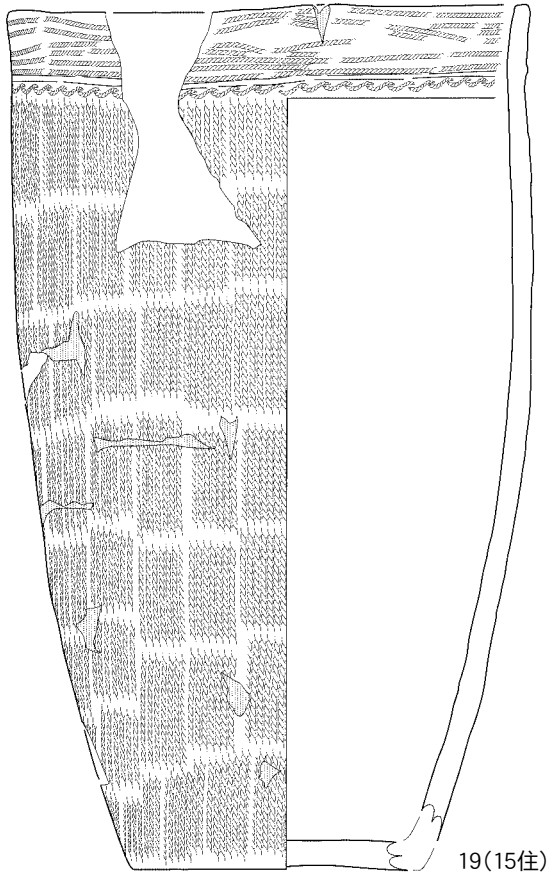
第18図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（2）



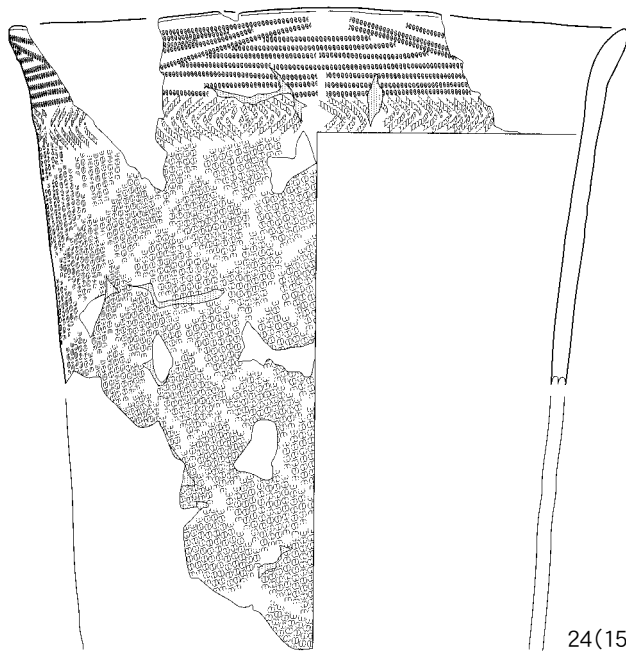
第19図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(3)



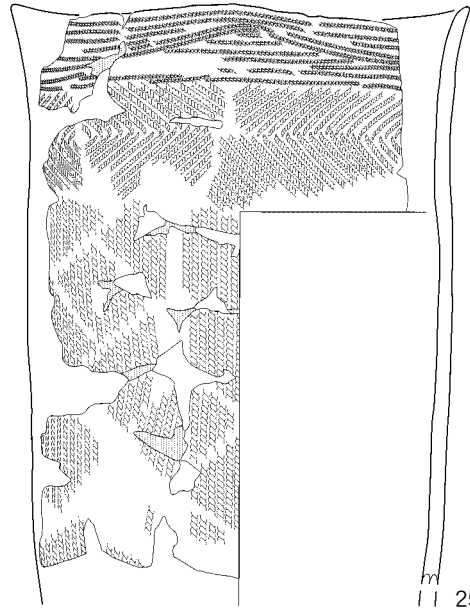
第20図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（4）



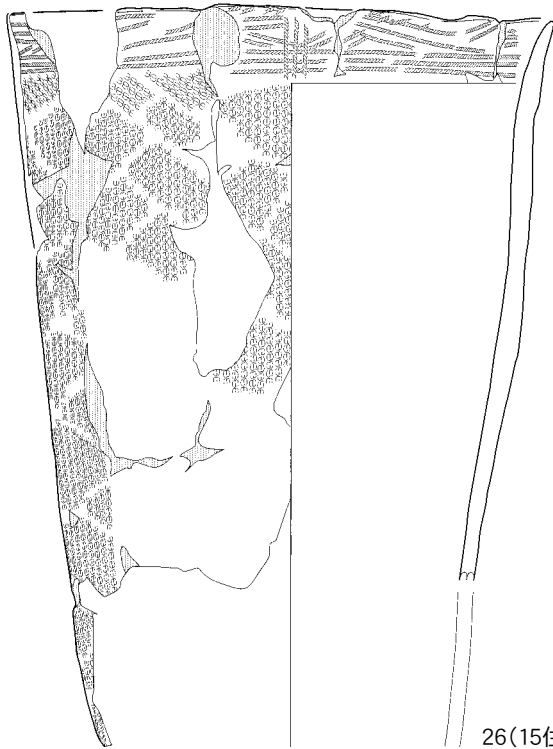
第21図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（5）



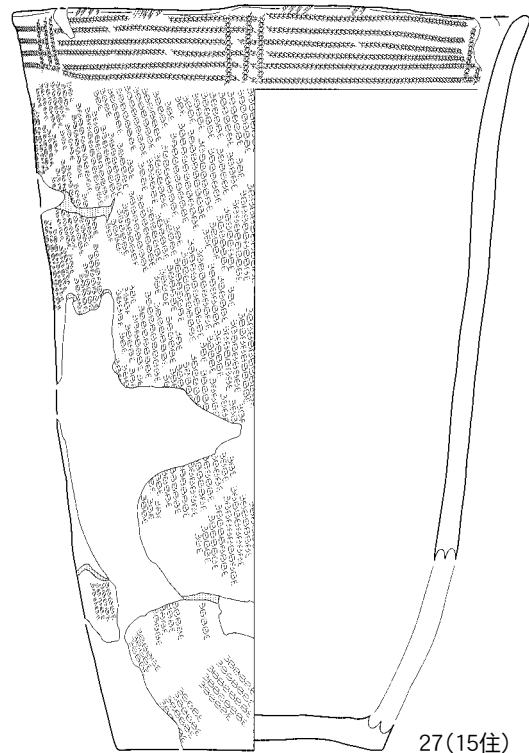
24(15住)



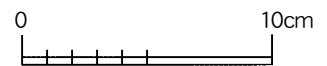
25(15住)



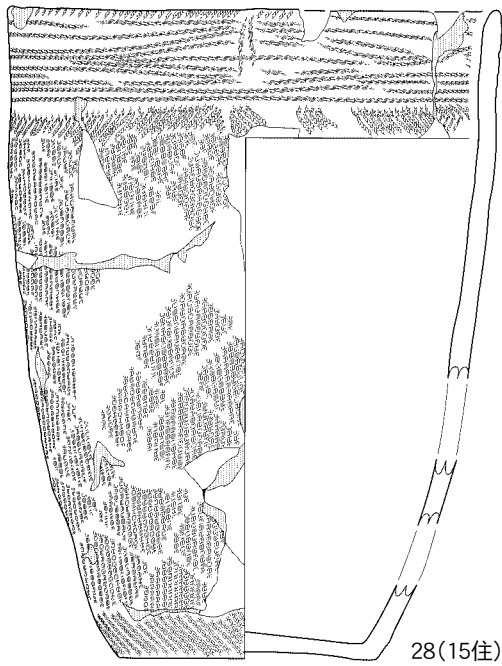
26(15住)



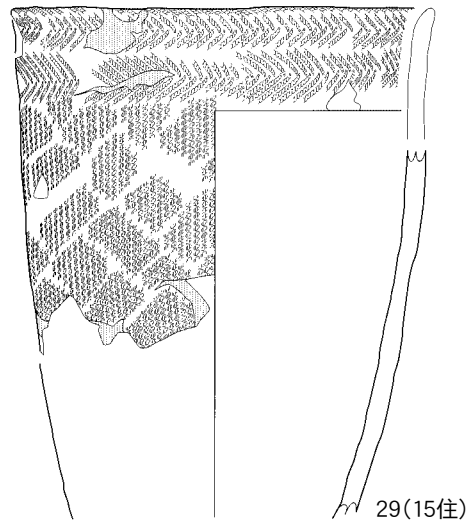
27(15住)



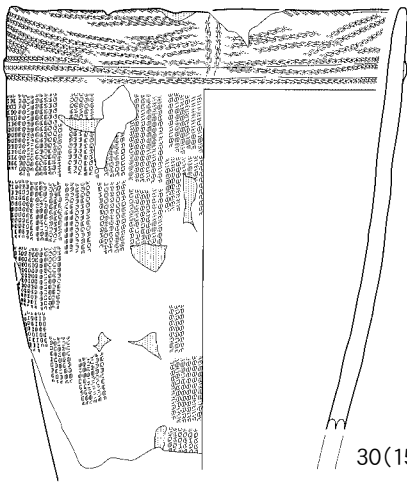
第22図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（6）



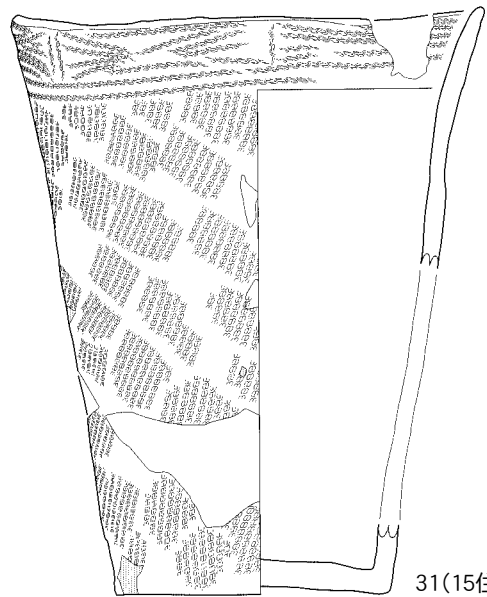
28(15住)



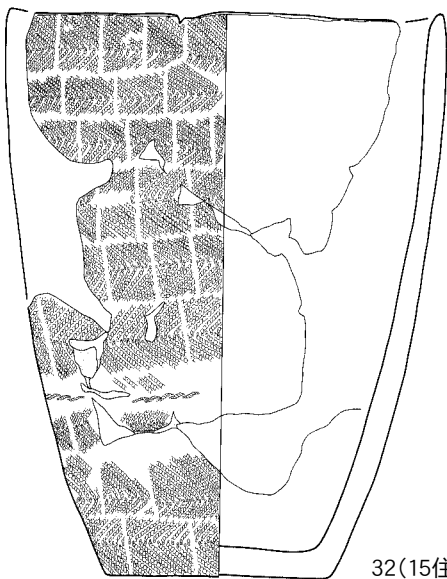
29(15住)



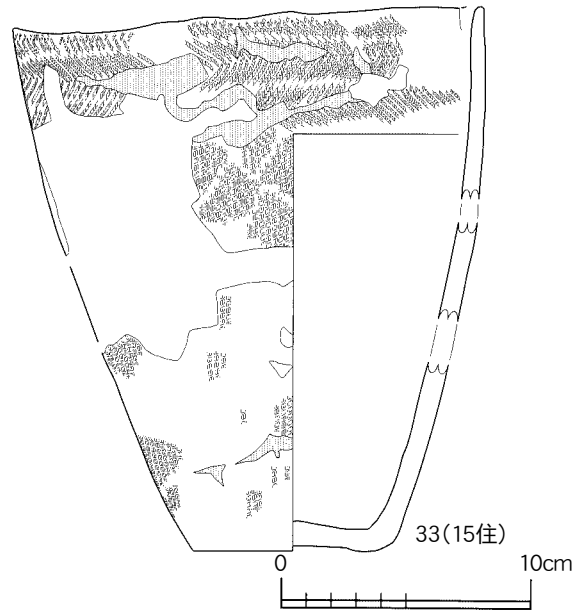
30(15住)



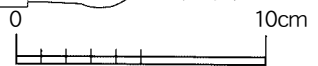
31(15住)



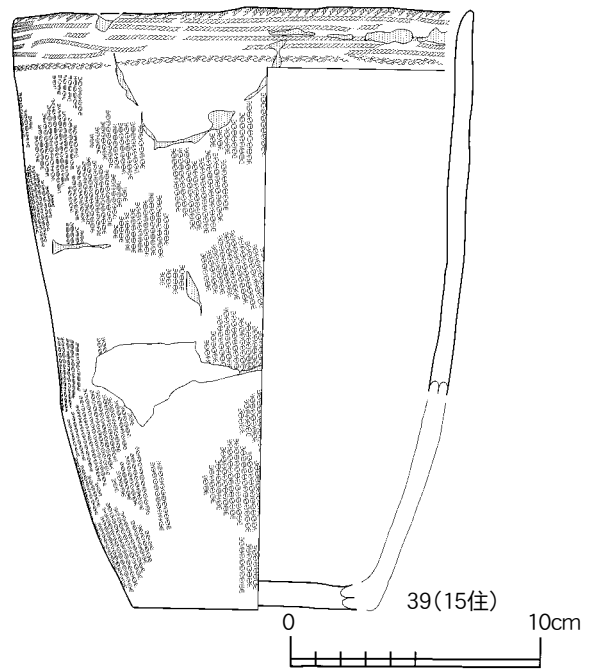
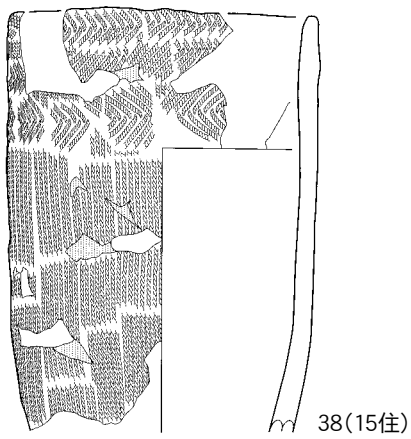
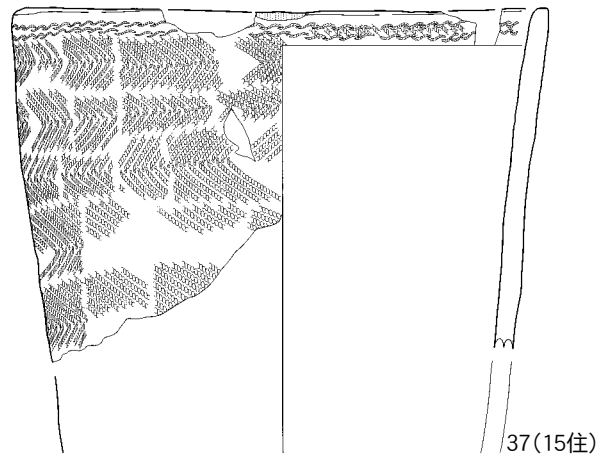
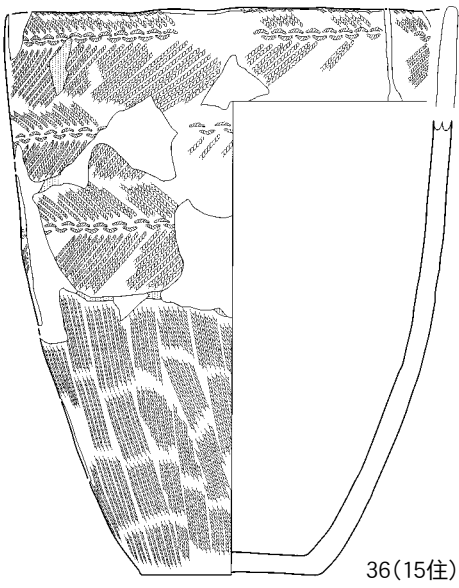
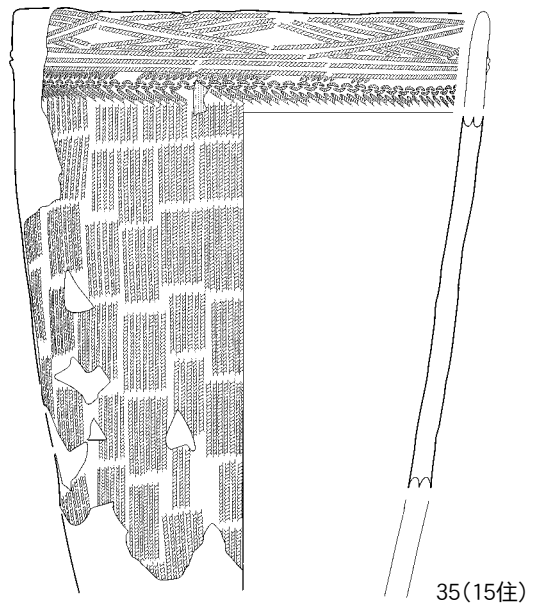
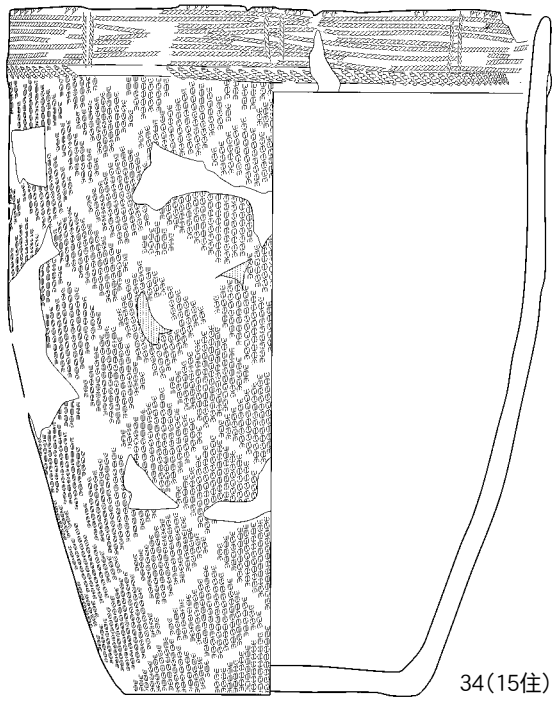
32(15住)



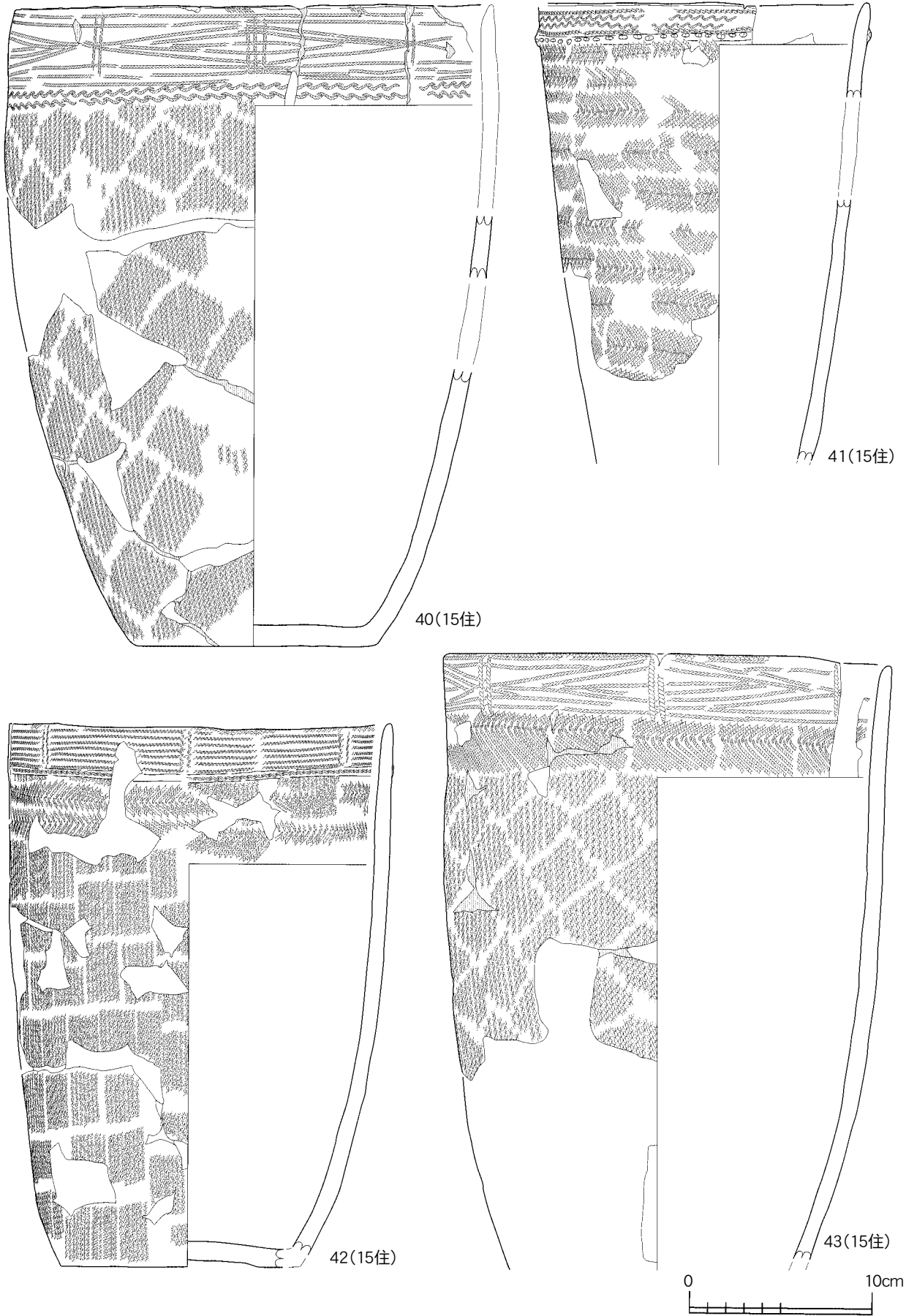
33(15住)



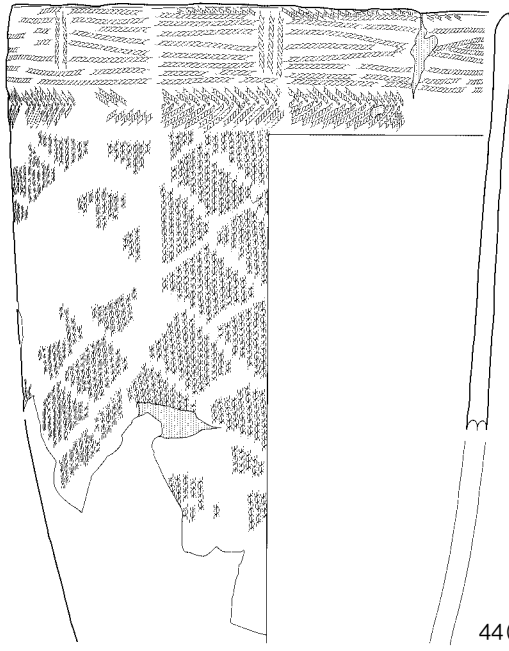
第23図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(7)



第24図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（8）



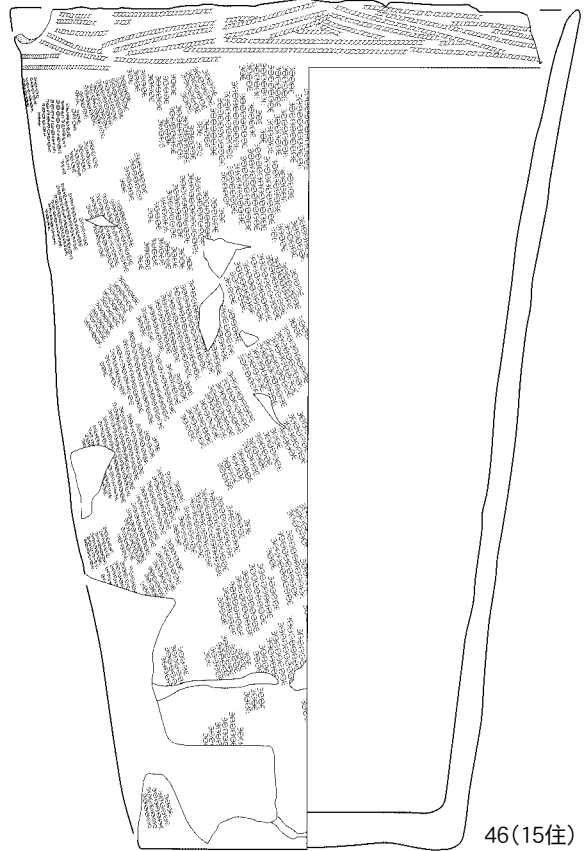
第25図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（9）



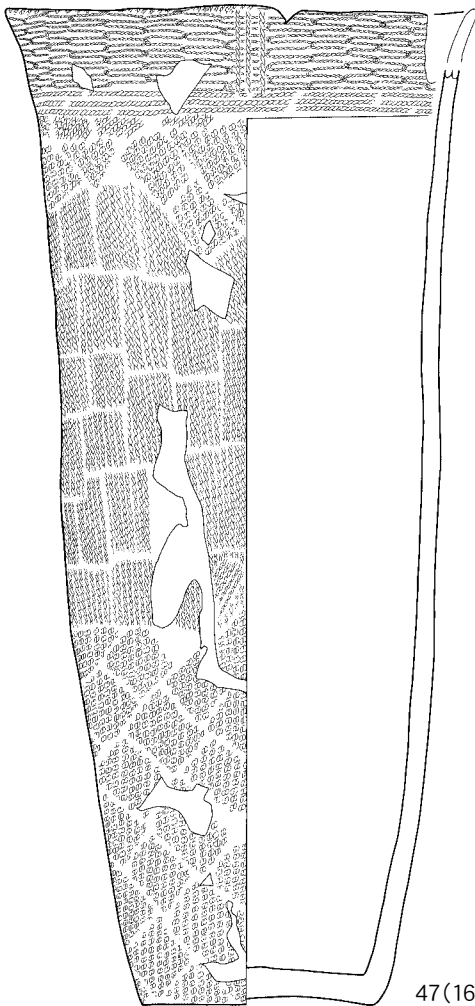
44(15住)



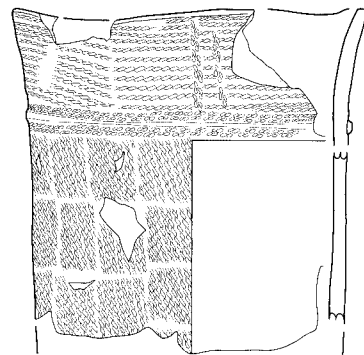
45(15住)



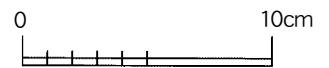
46(15住)



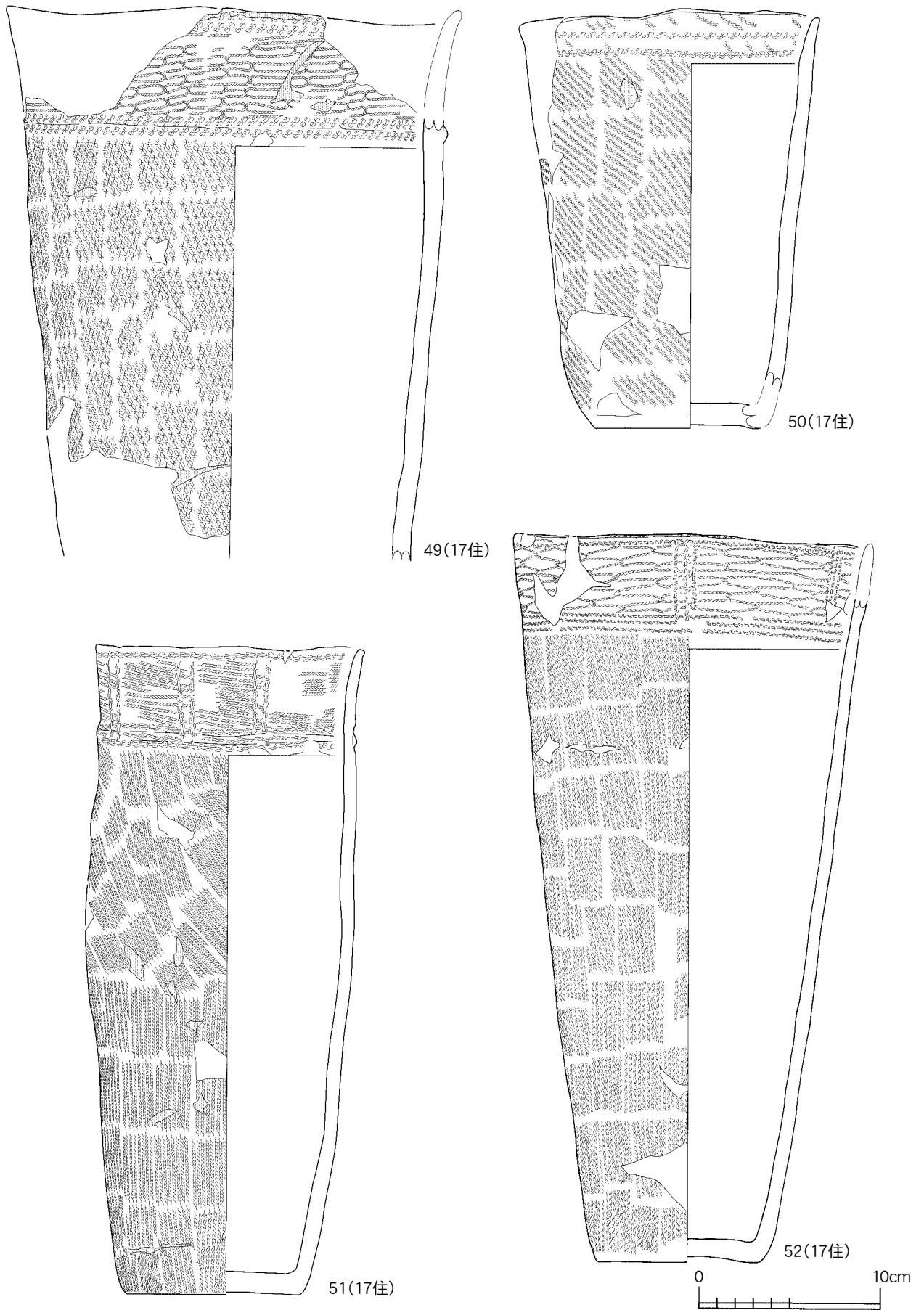
47(16住)



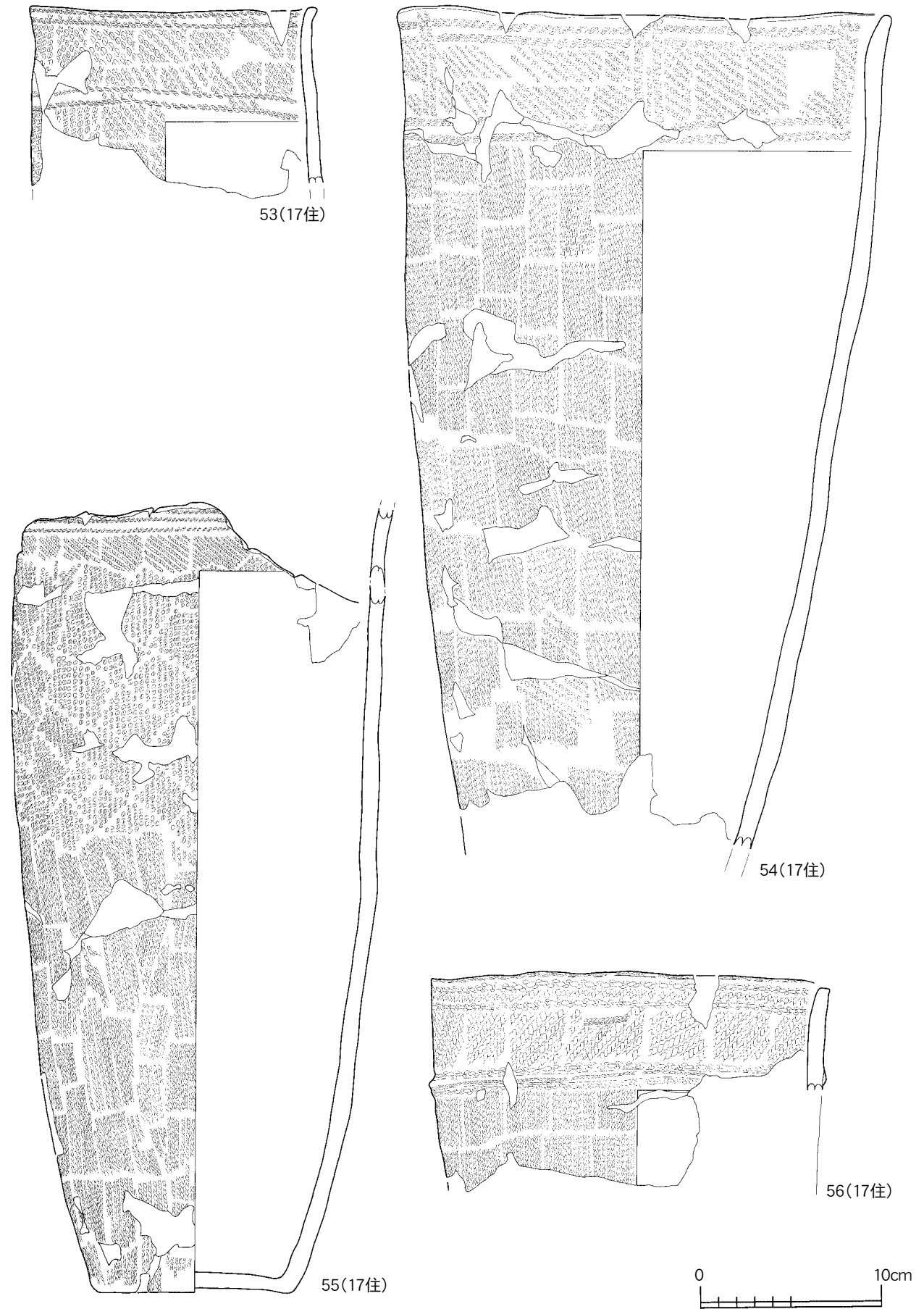
48(17住)



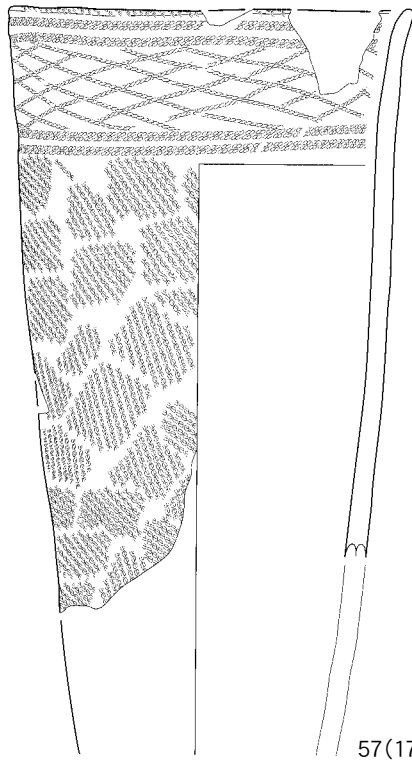
第26図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（10）



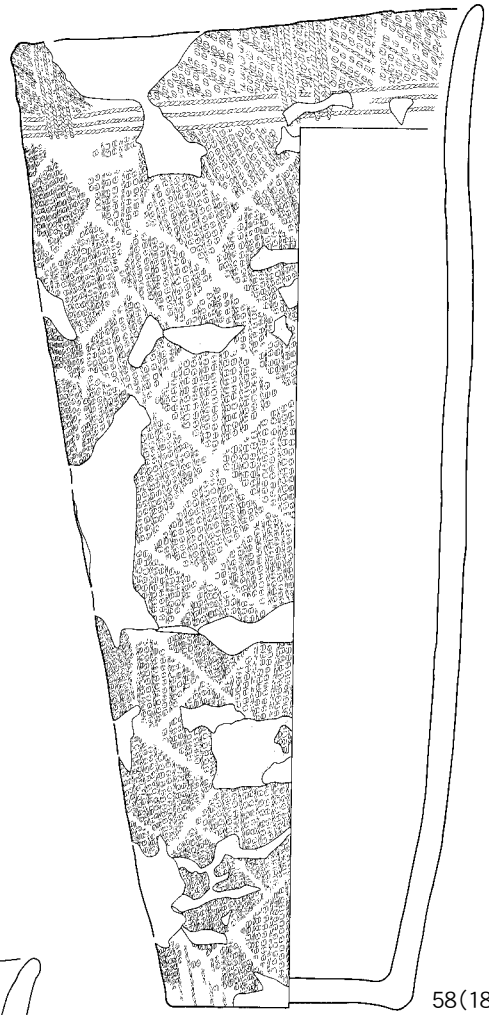
第27図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（11）



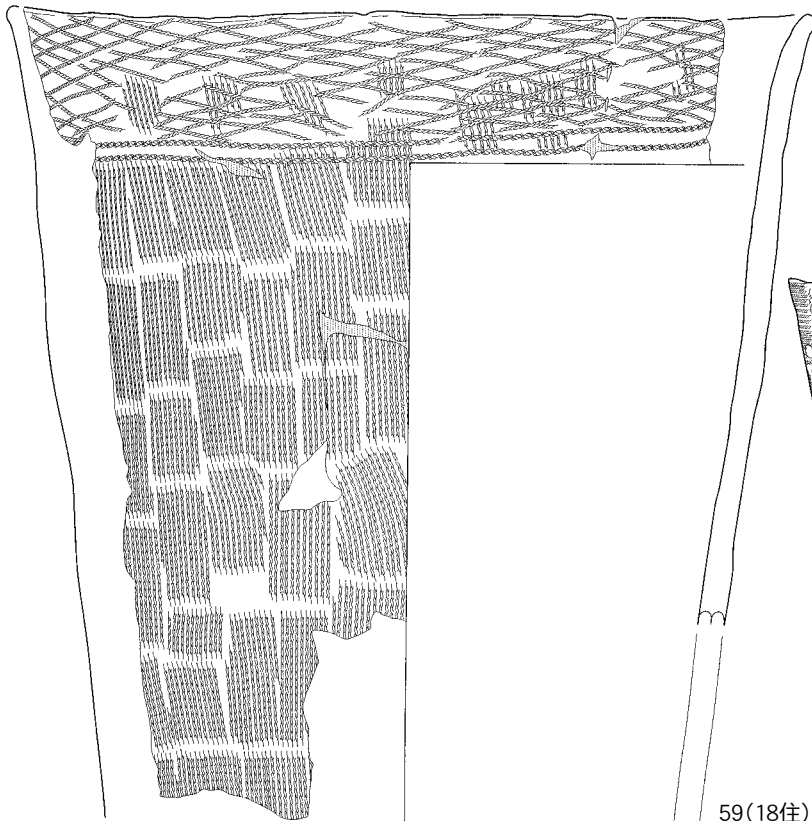
第28図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（12）



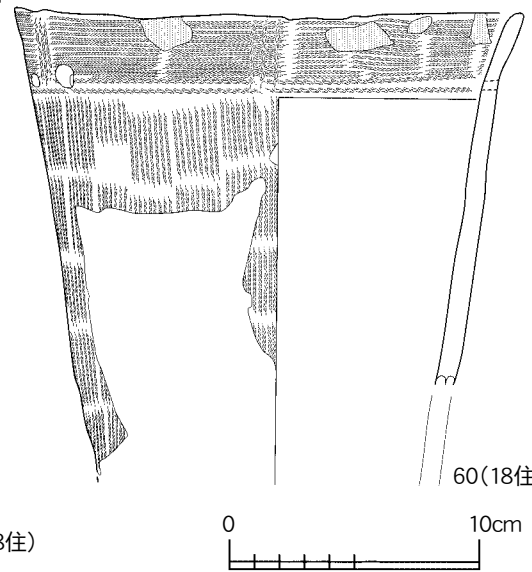
57(17住)



58(18住)



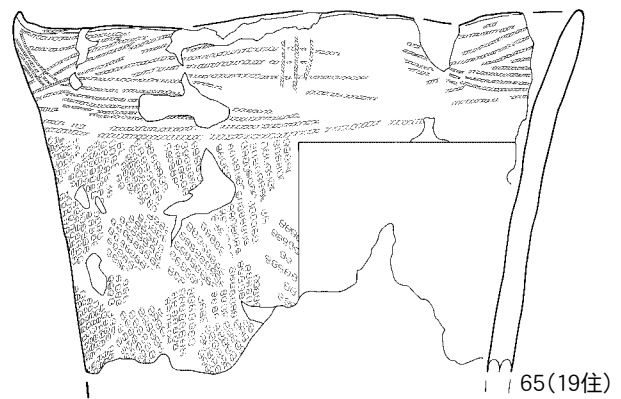
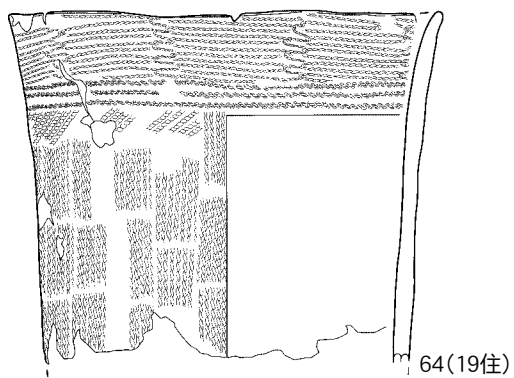
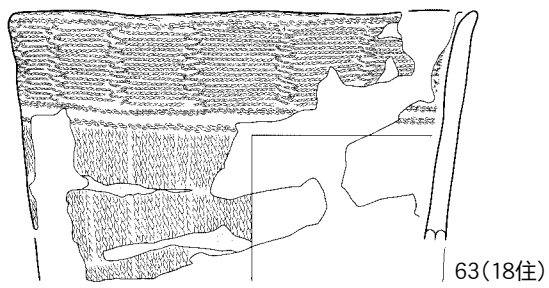
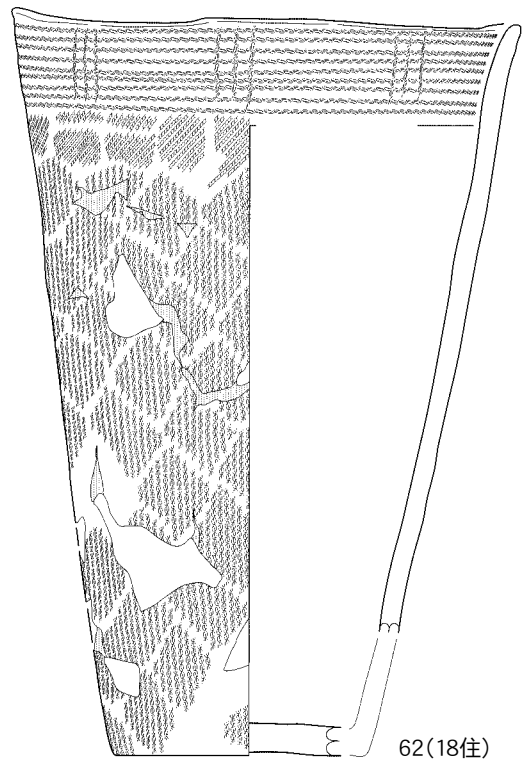
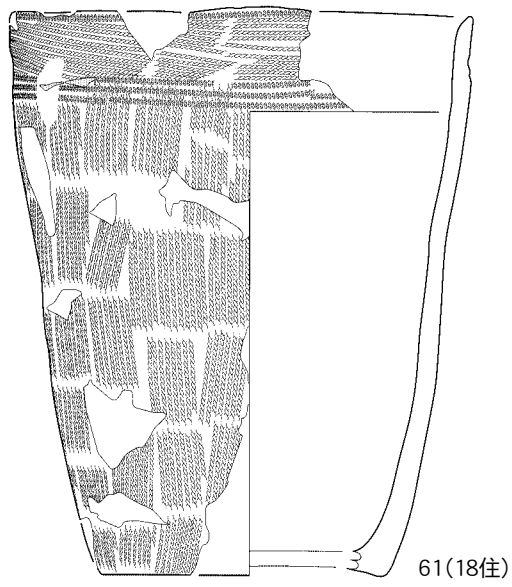
59(18住)



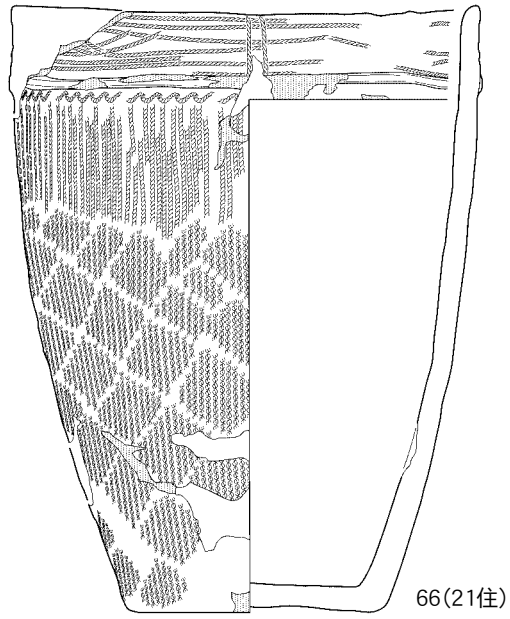
60(18住)



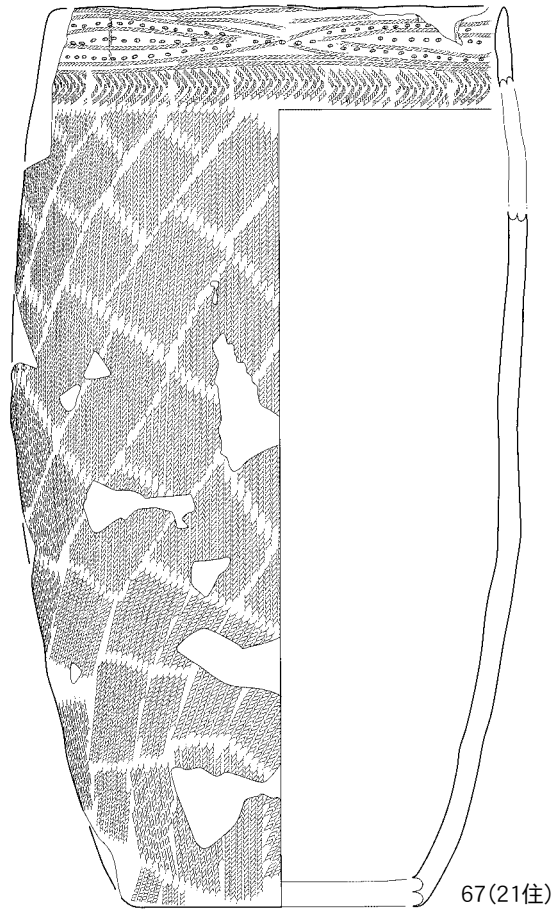
第29図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（13）



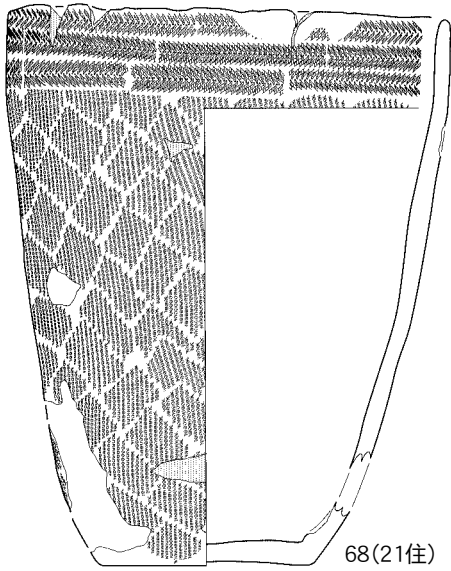
第30図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（14）



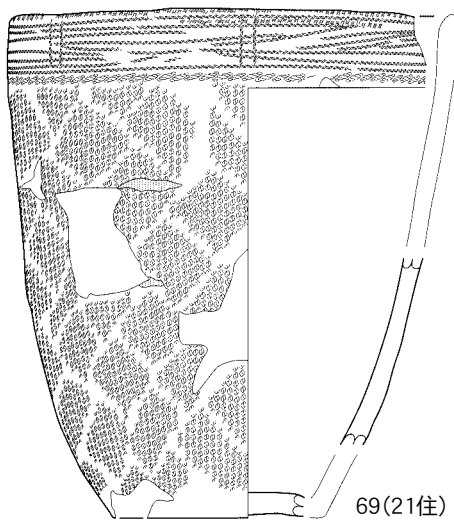
66(21住)



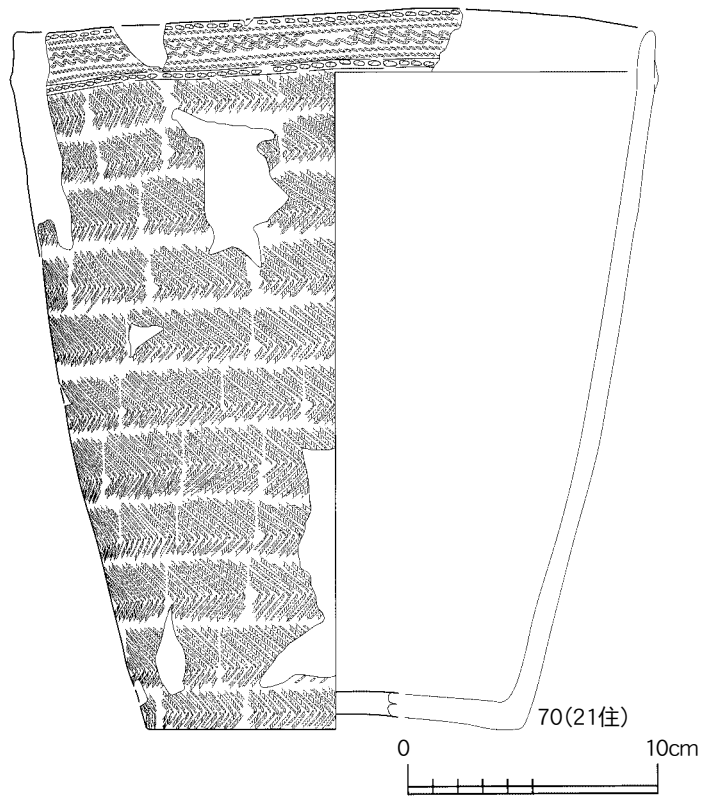
67(21住)



68(21住)

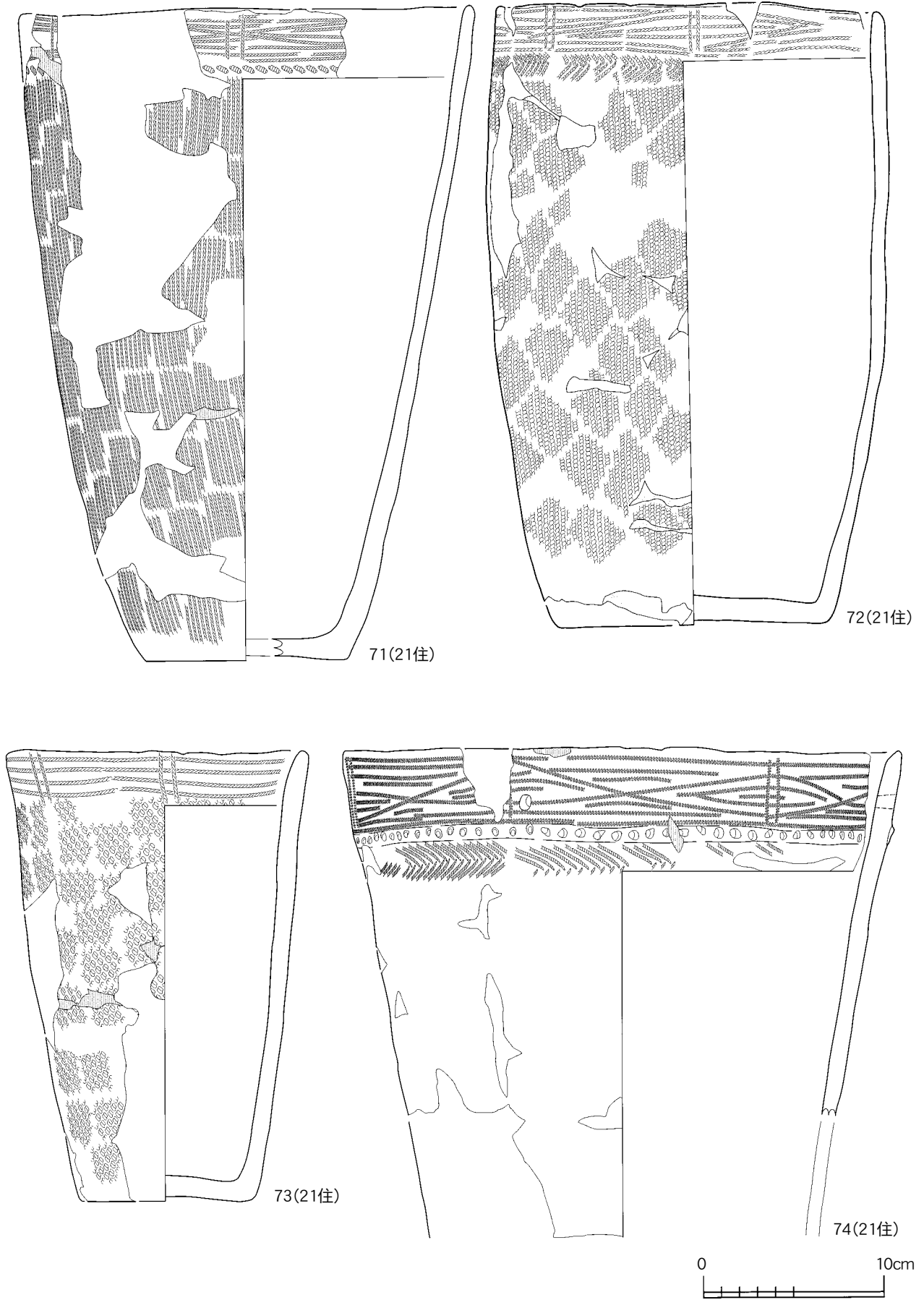


69(21住)

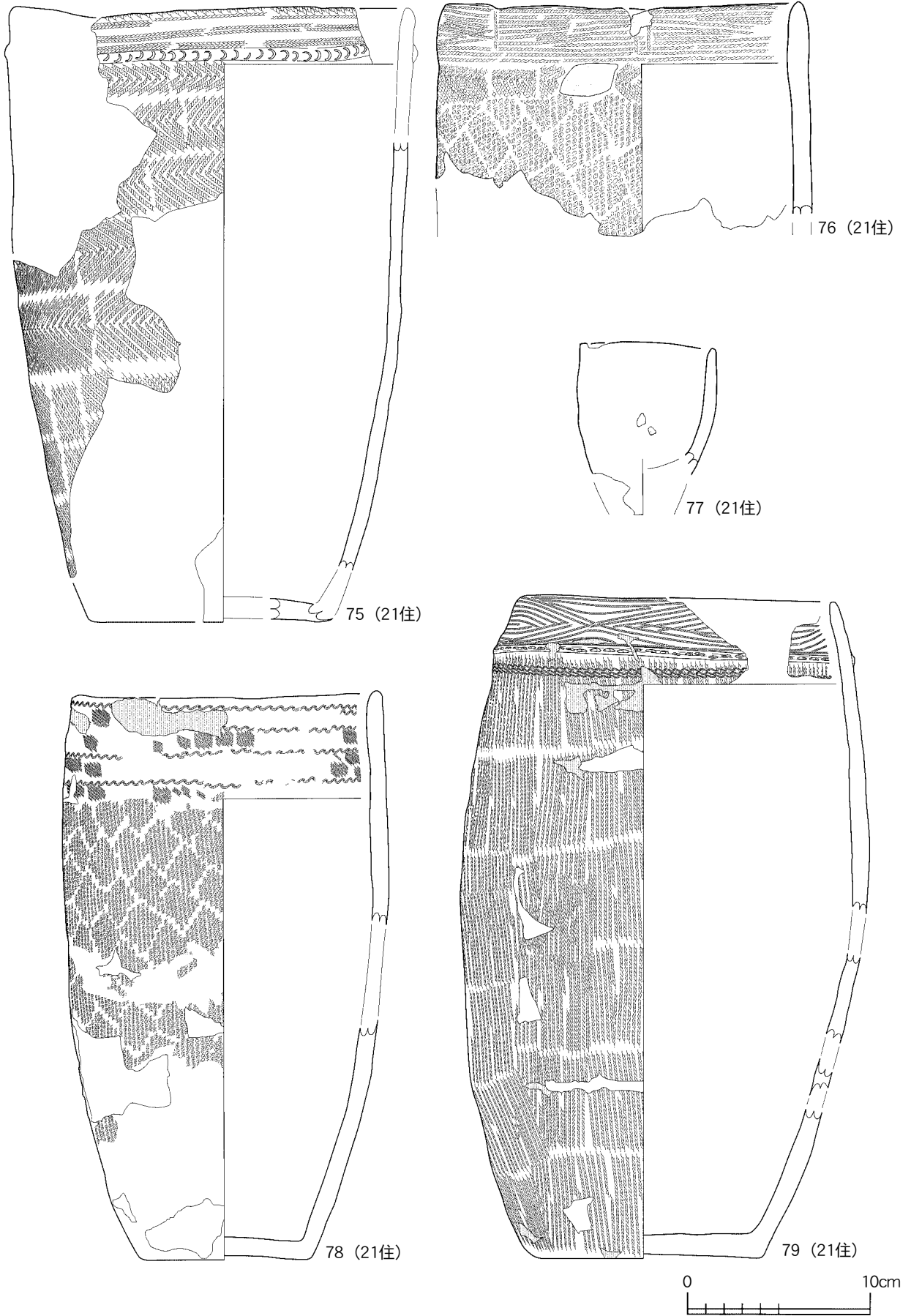


70(21住)

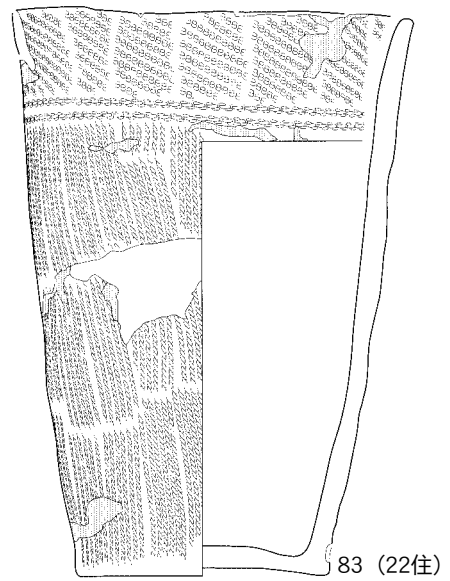
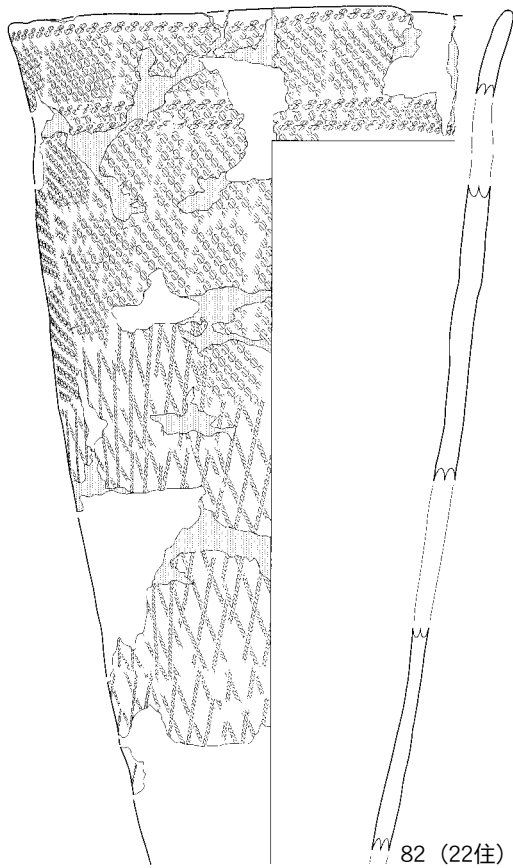
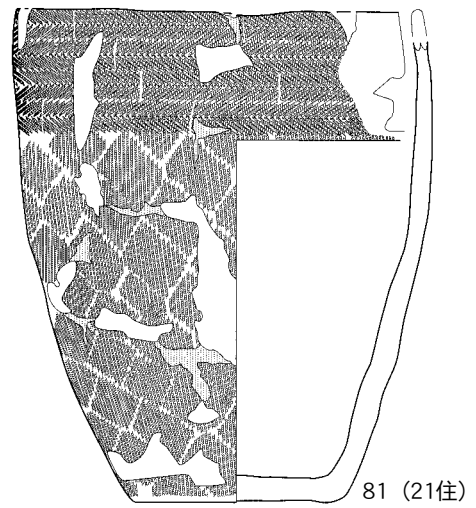
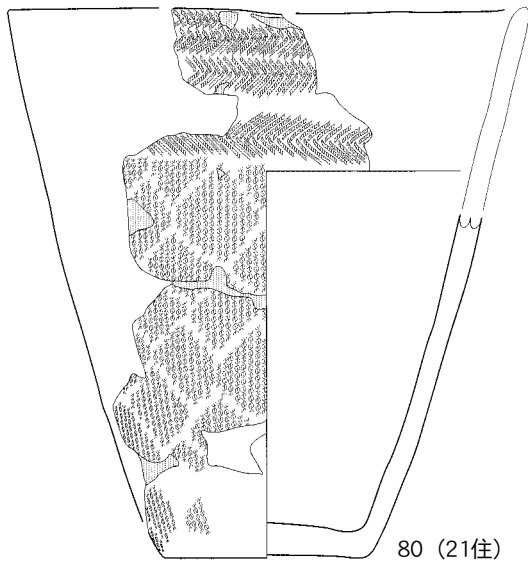
第31図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（15）



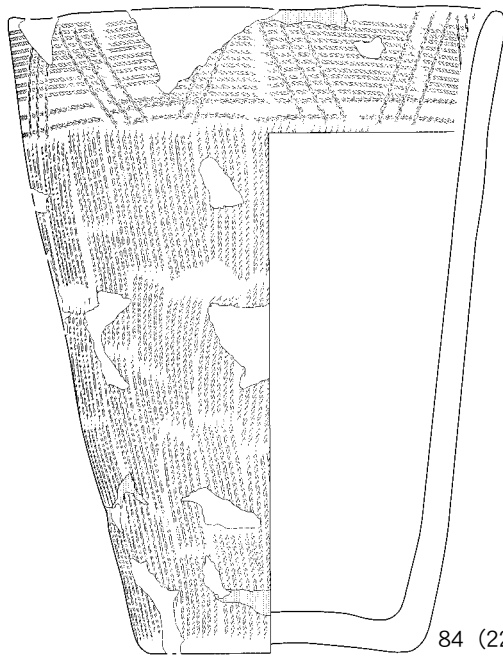
第32図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（16）



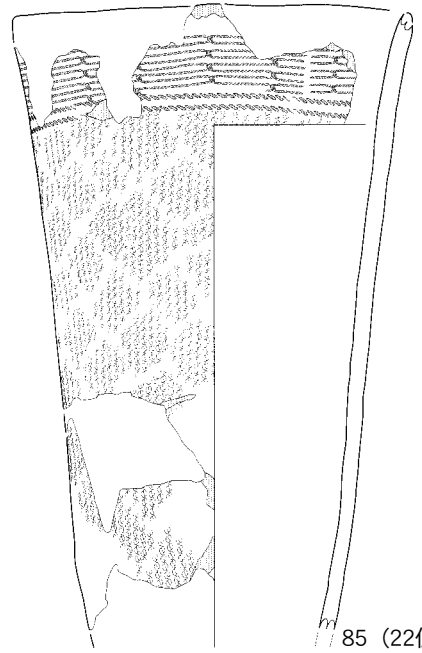
第33図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（17）



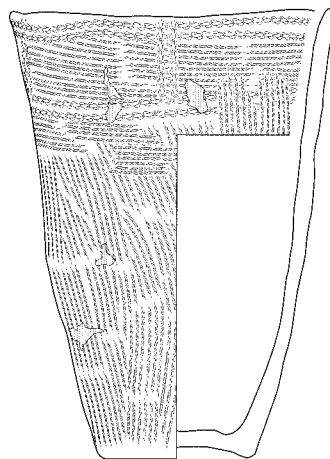
第34図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（18）



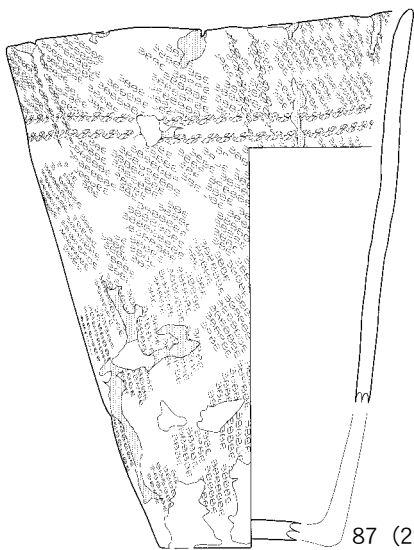
84 (22住)



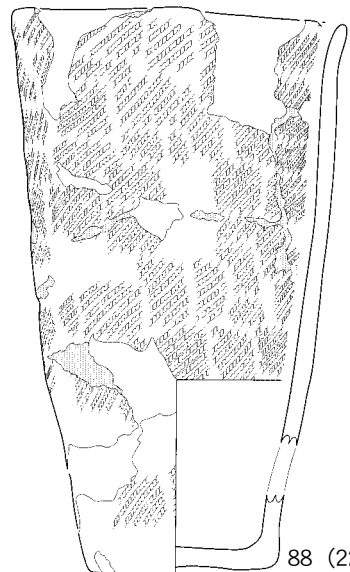
85 (22住)



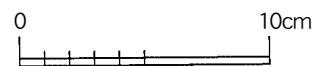
86 (22住)



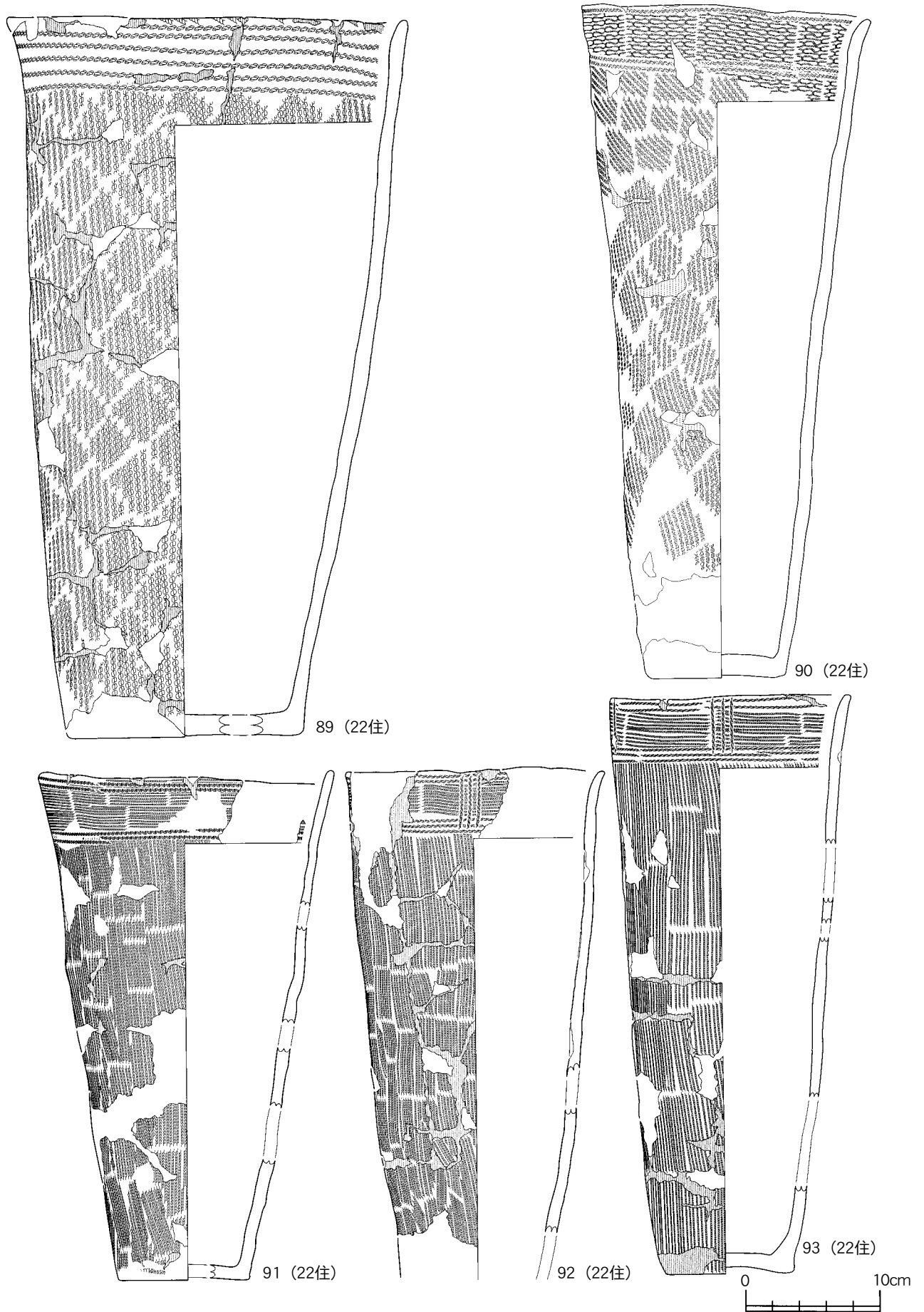
87 (22住)



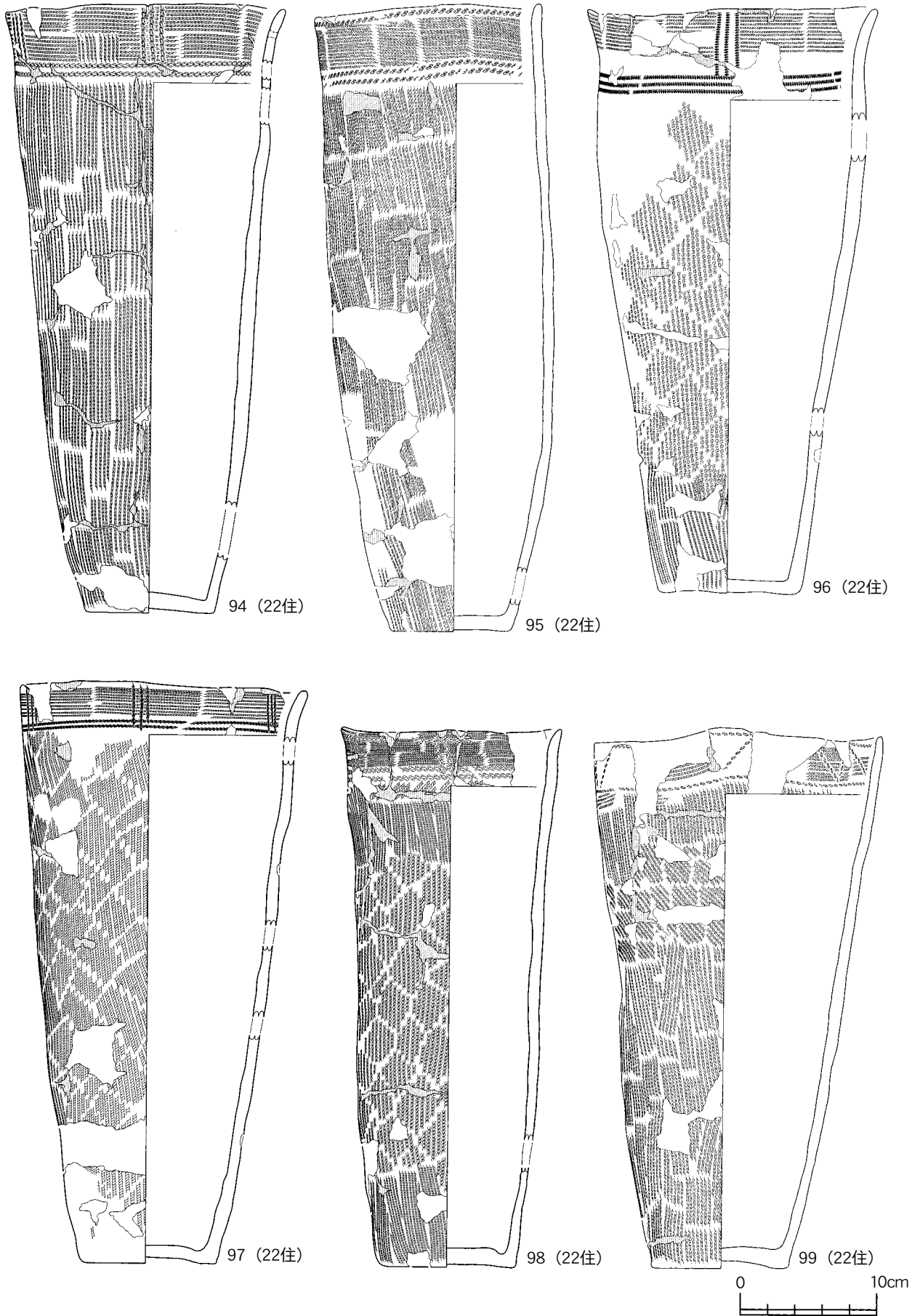
88 (22住)



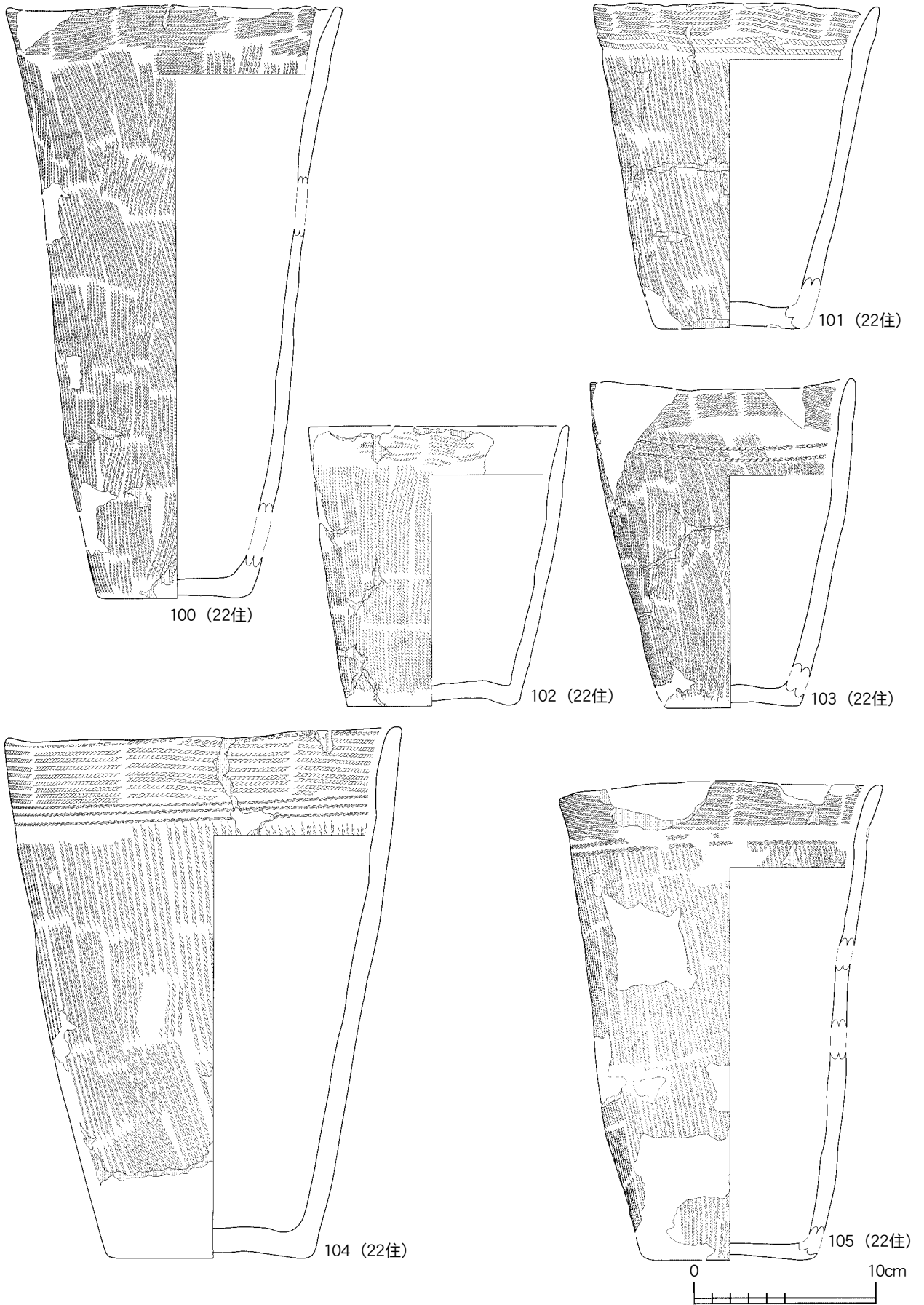
第35図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（19）



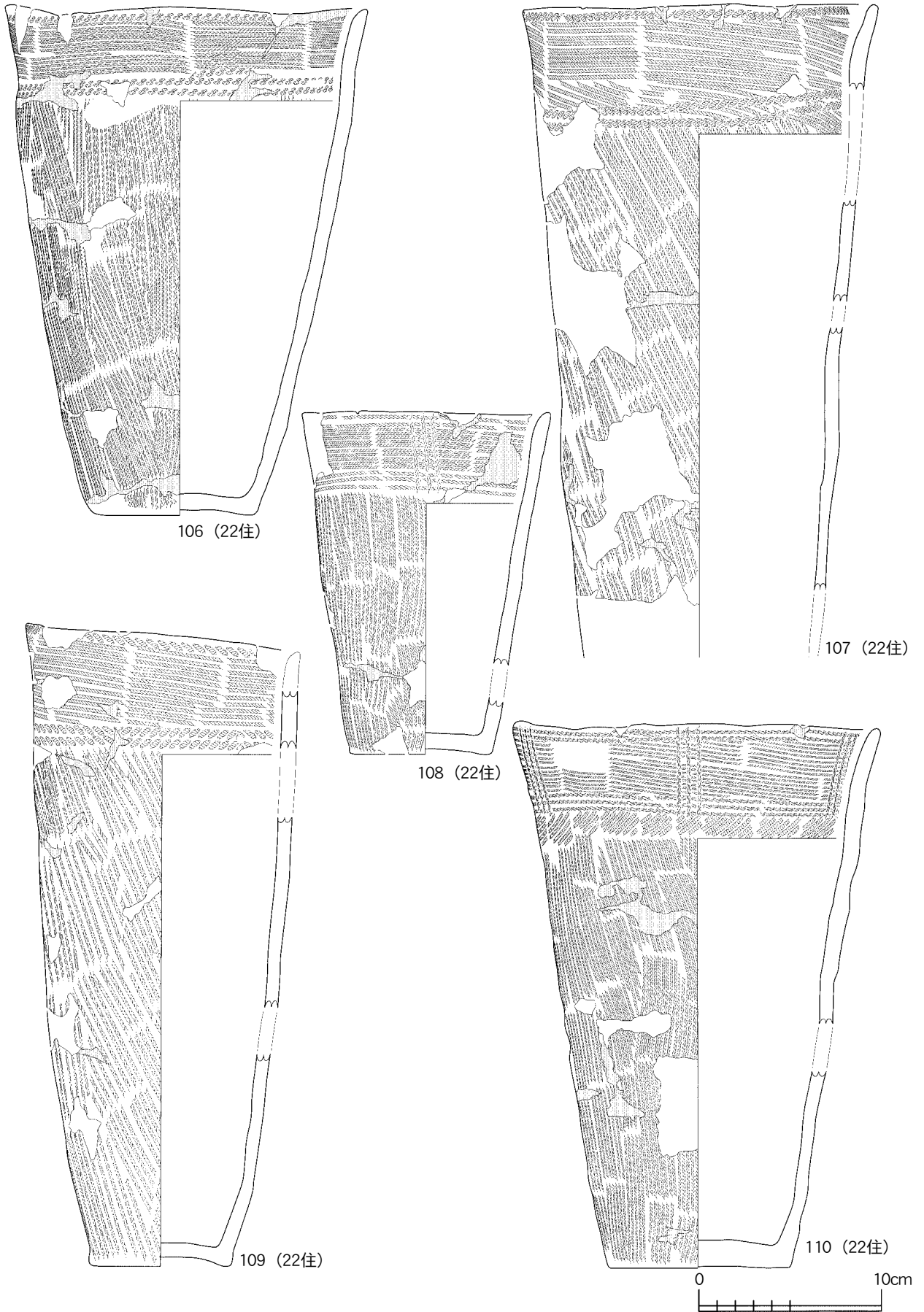
第36図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(20)



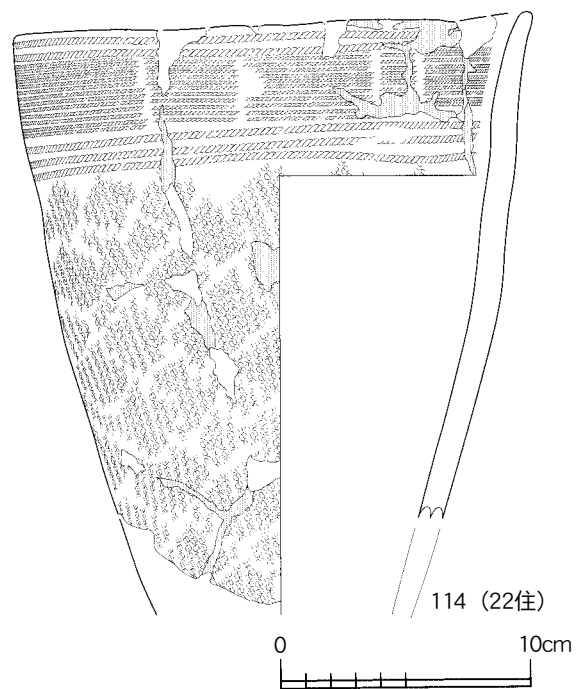
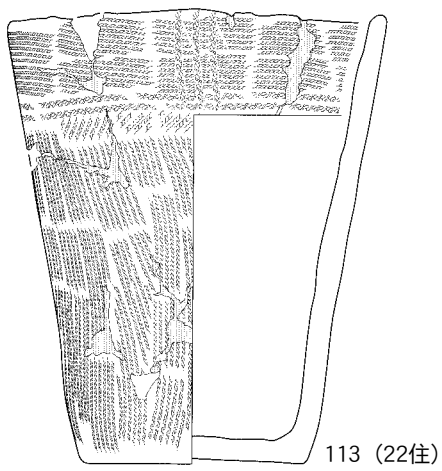
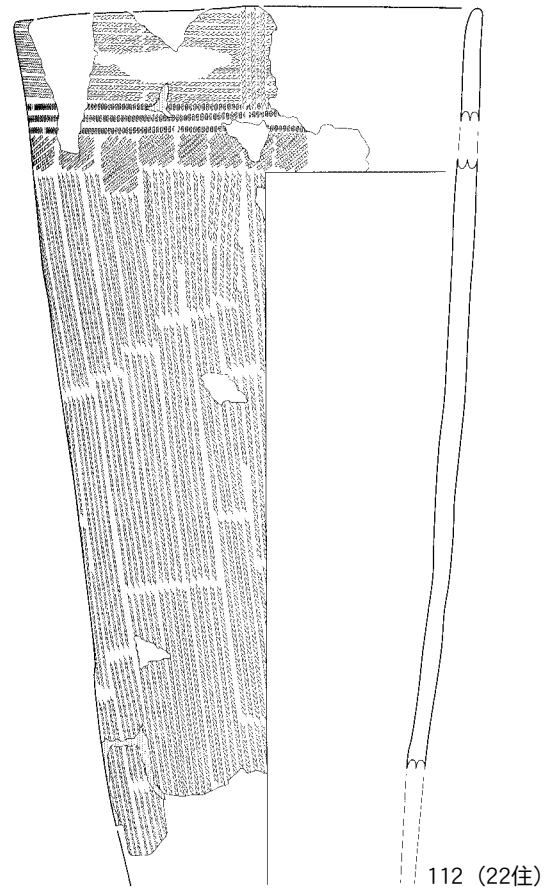
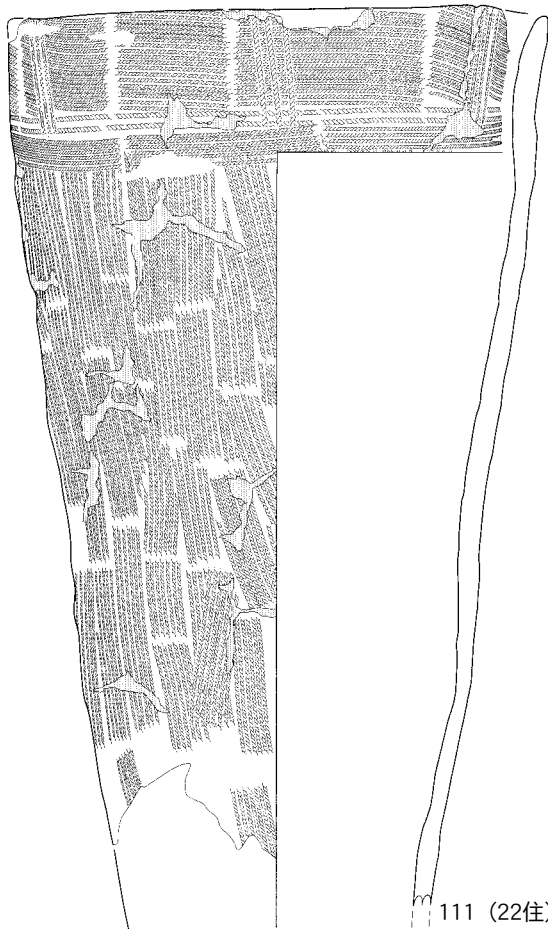
第37図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(21)



第38図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）（22）



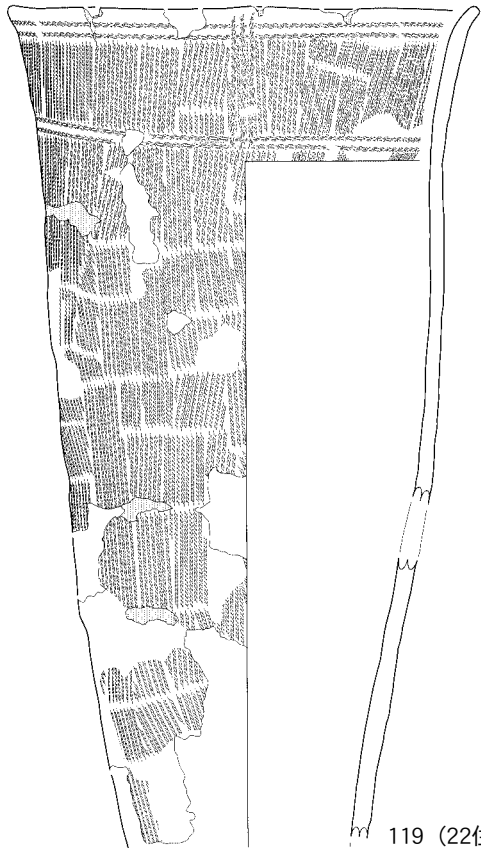
第39図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(23)



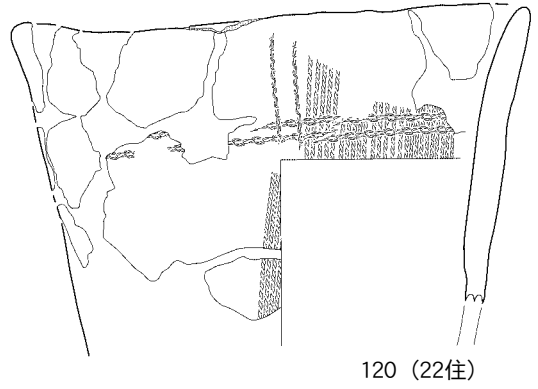
第40図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(24)



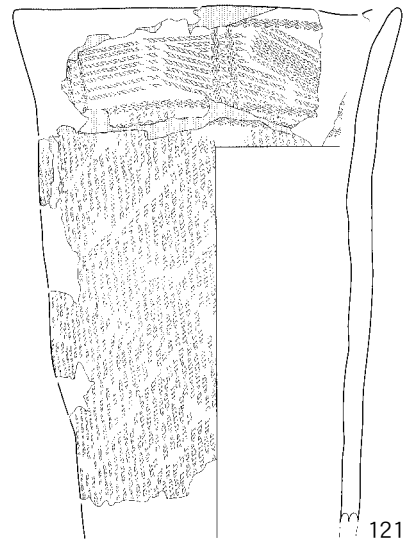
第41図 遺構内出土土器 (竪穴式住居跡) (25)



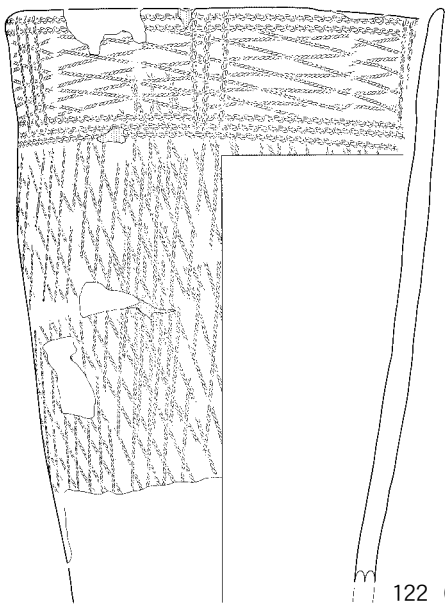
119 (22住)



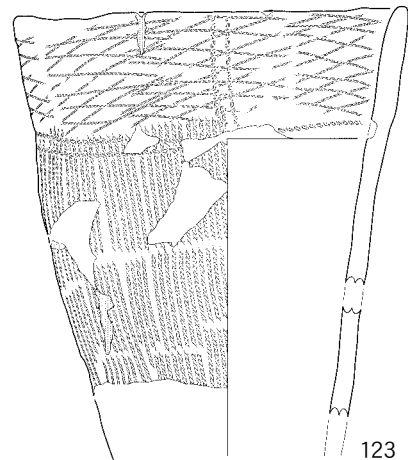
120 (22住)



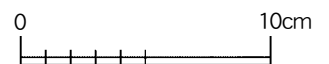
121 (22住)



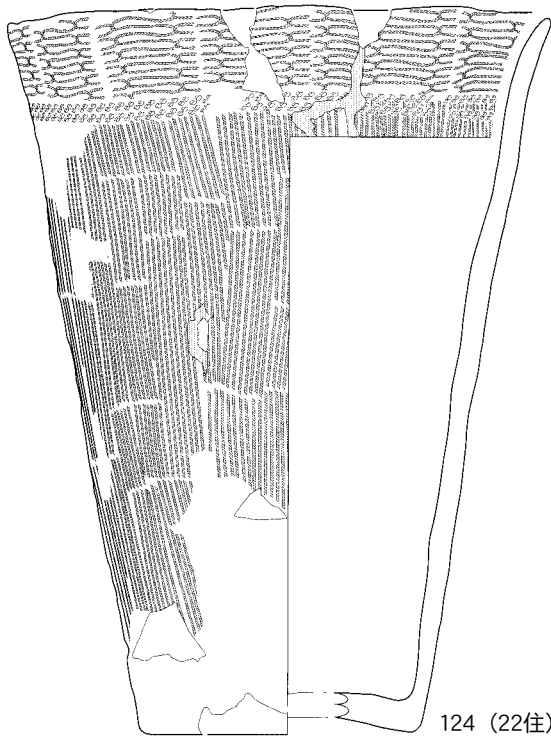
122 (22住)



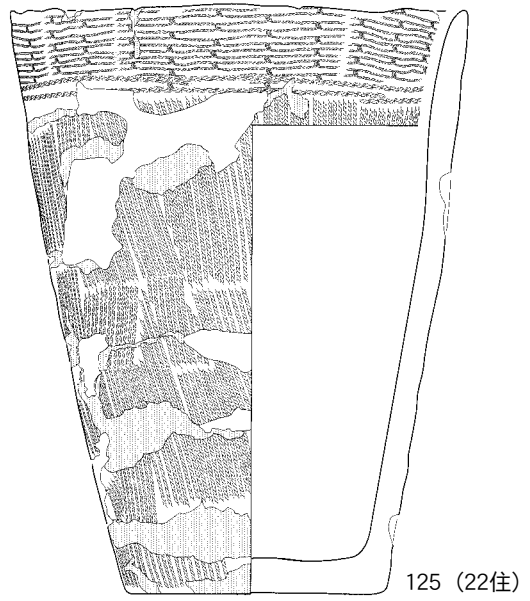
123 (22住)



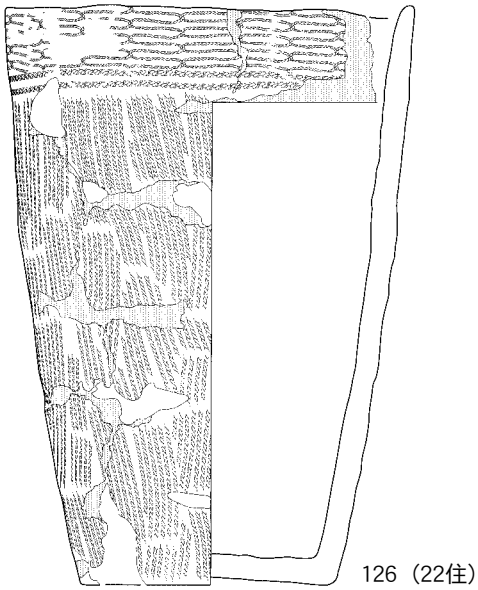
第42図 遺構内出土土器 (竪穴式住居跡) (26)



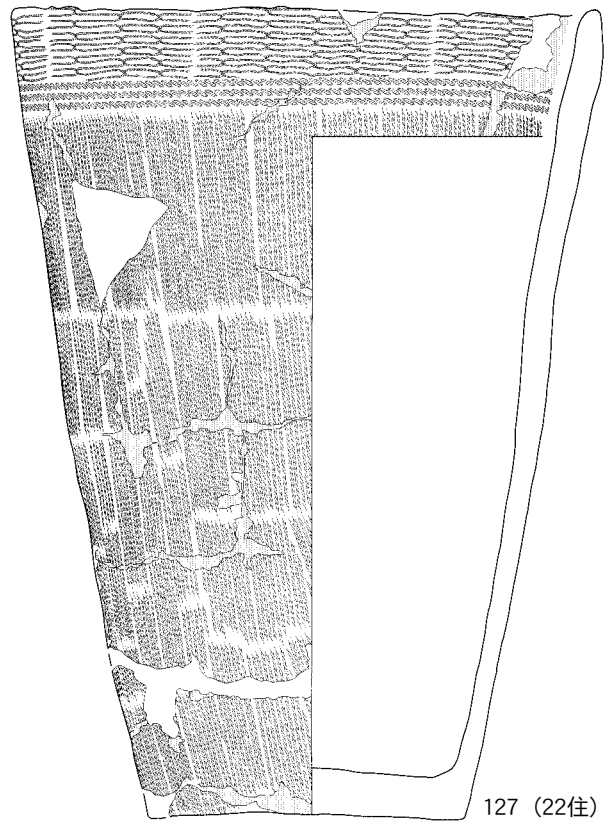
124 (22住)



125 (22住)



126 (22住)



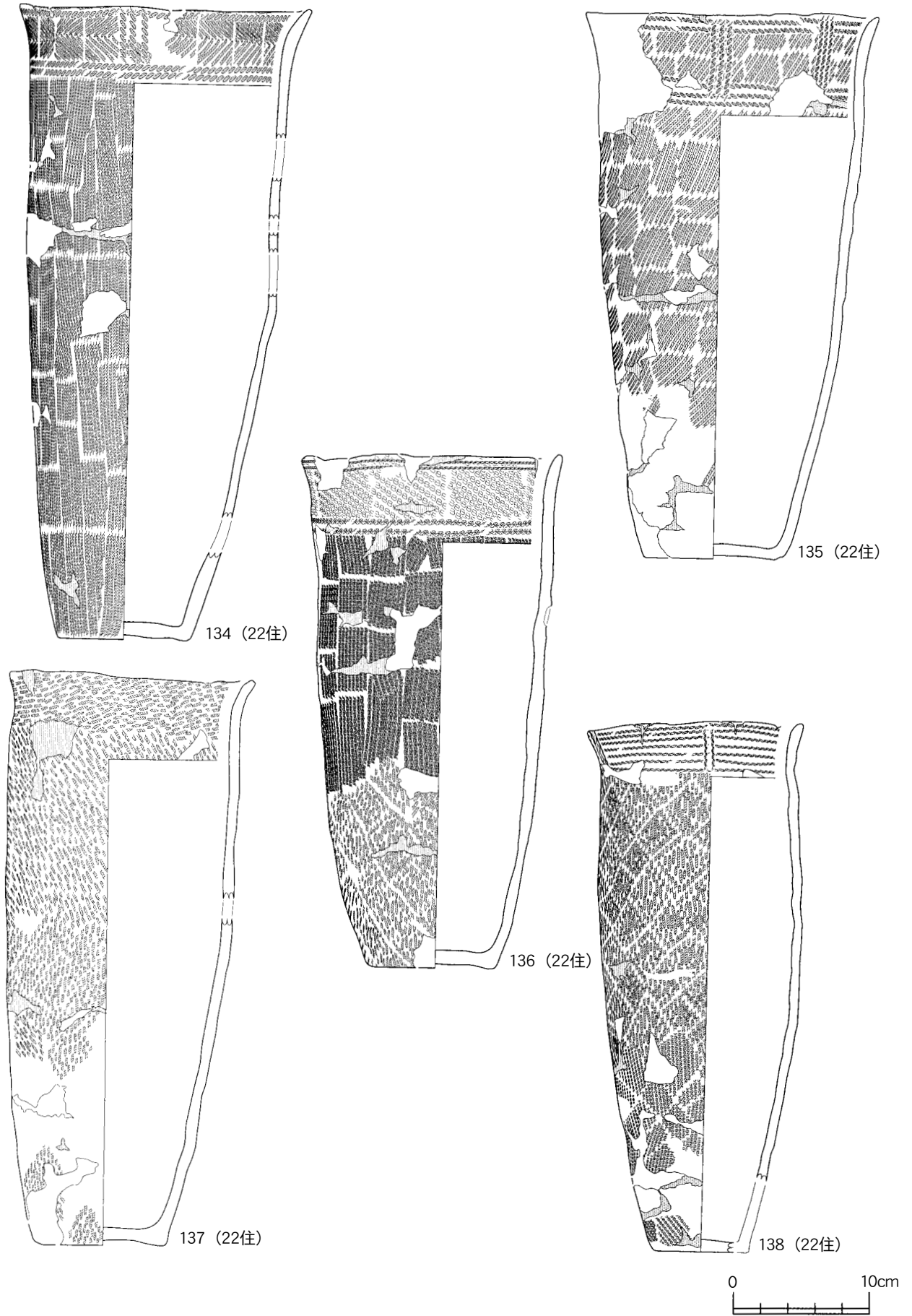
127 (22住)



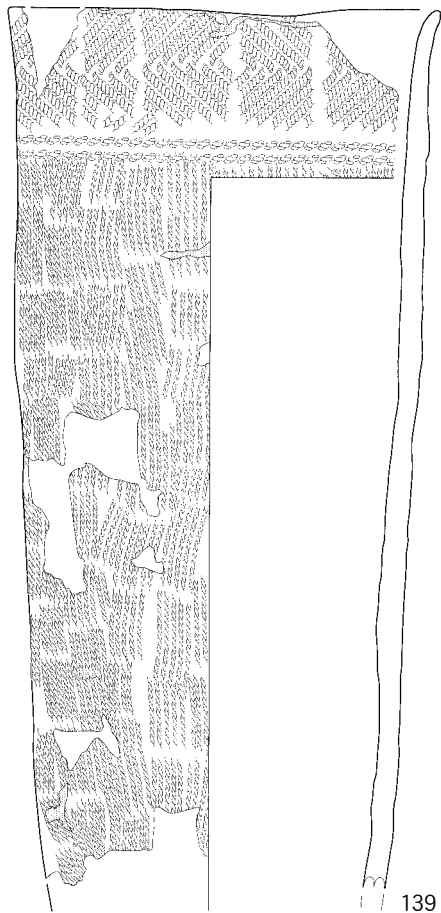
第43図 遺構内出土土器 (竪穴式住居跡) (27)



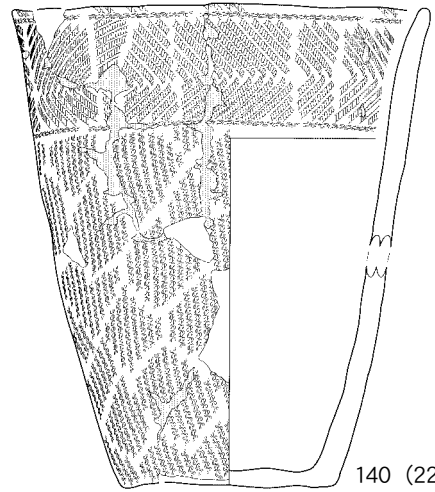
第44図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(28)



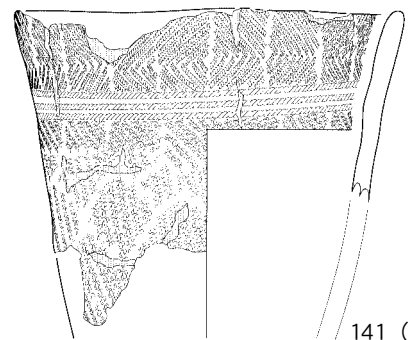
第45図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(29)



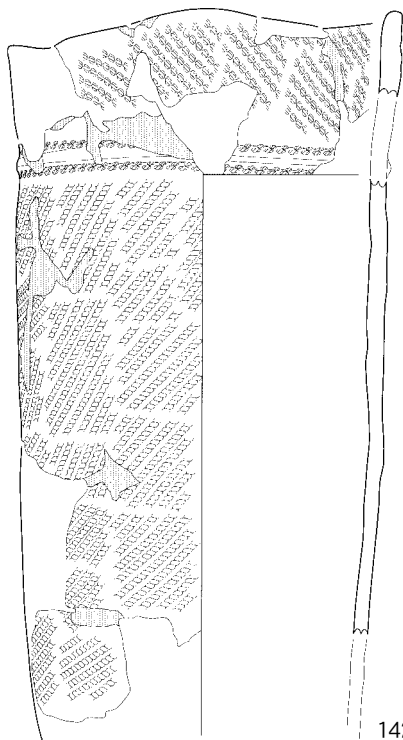
139 (22住)



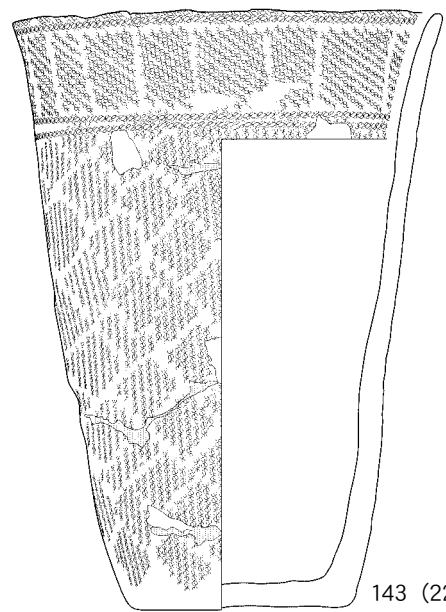
140 (22住)



141 (22住)



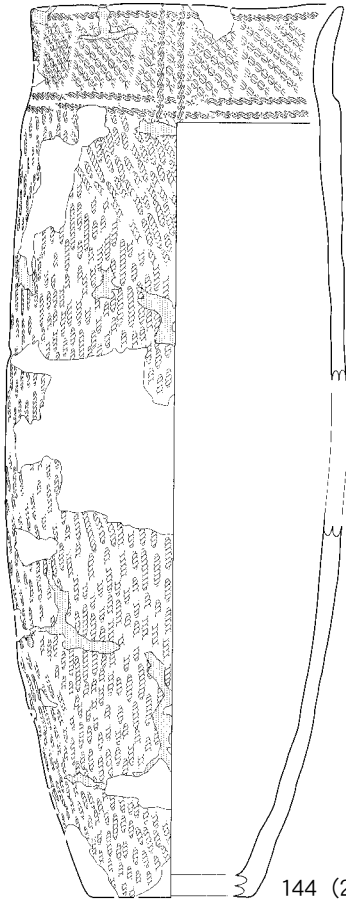
142 (22住)



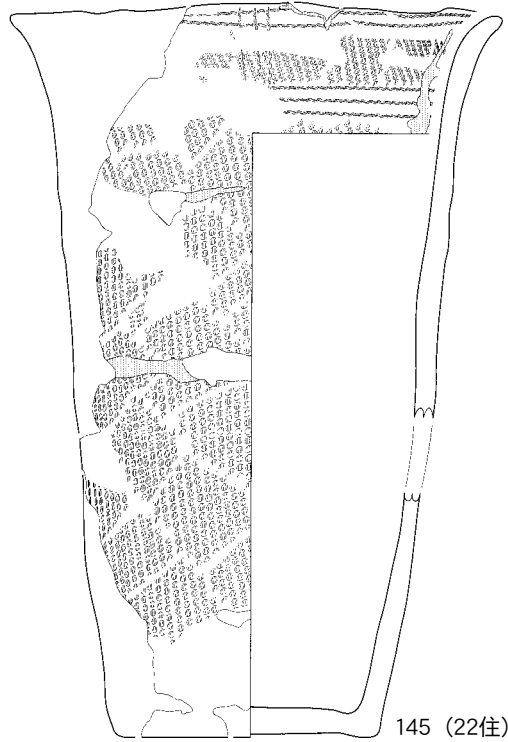
143 (22住)



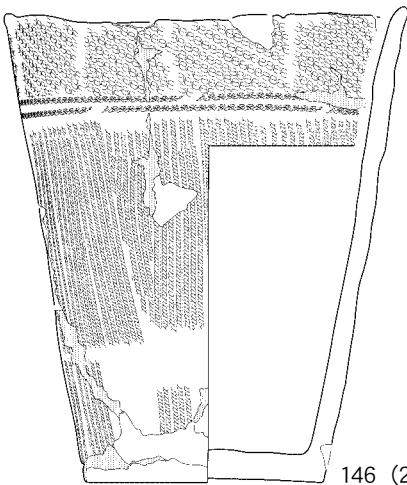
第46図 遺構内出土土器 (竪穴式住居跡) (30)



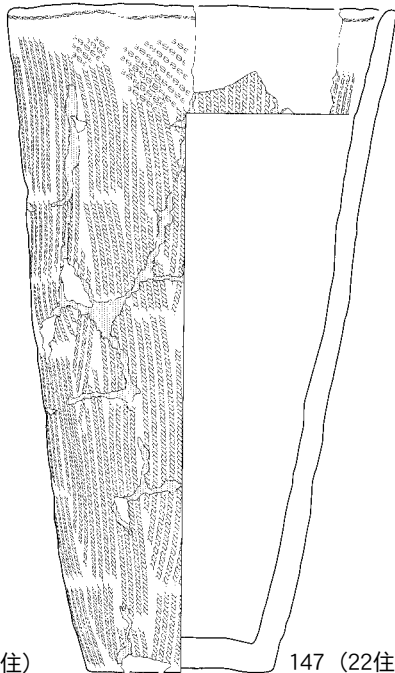
144 (22住)



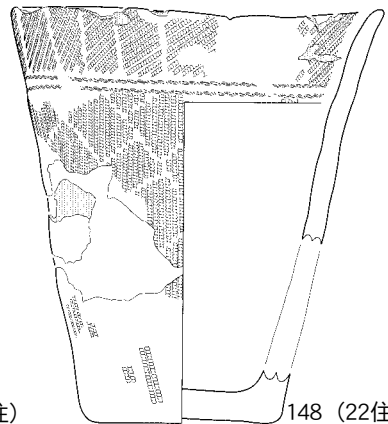
145 (22住)



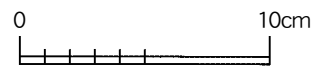
146 (22住)



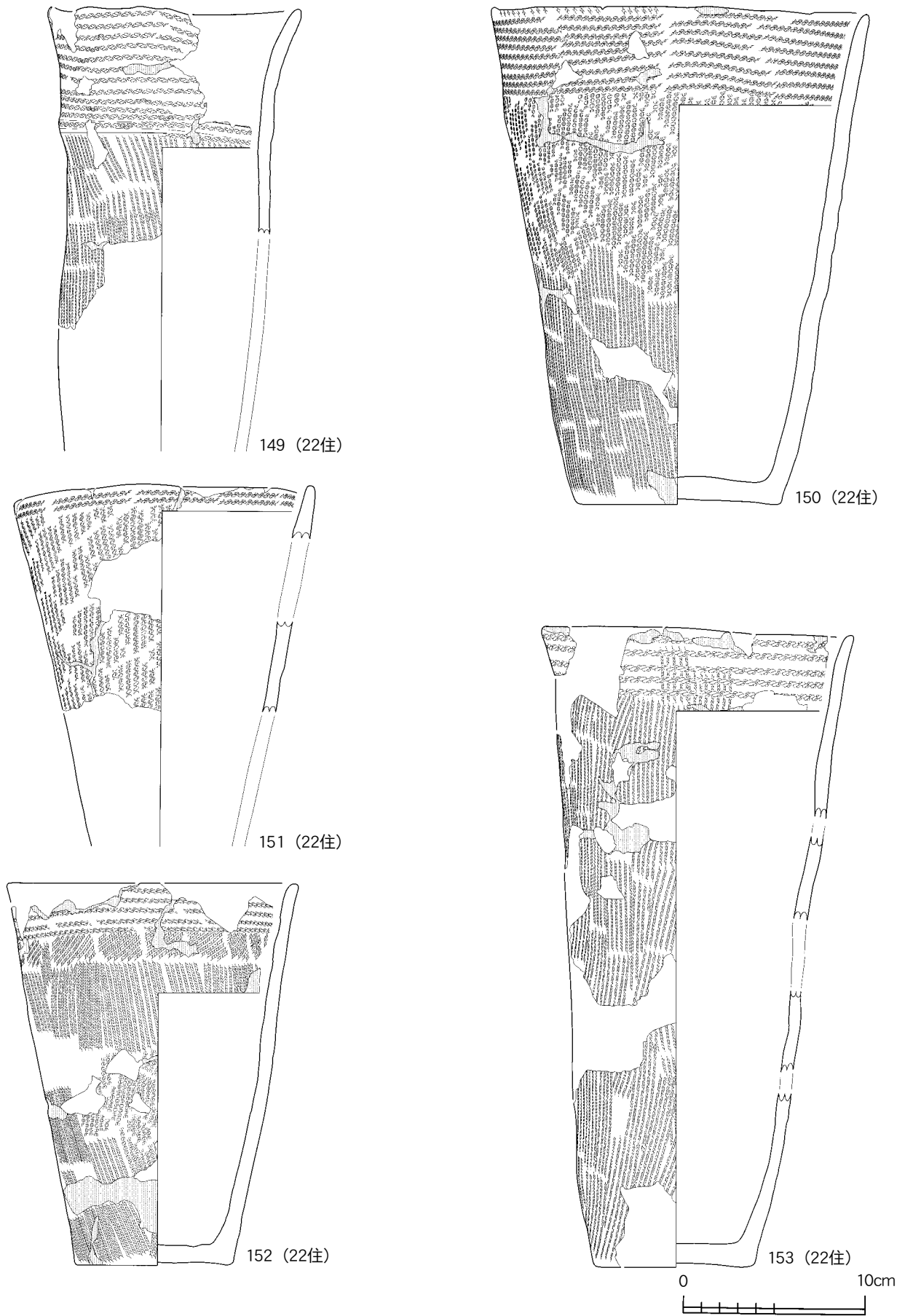
147 (22住)



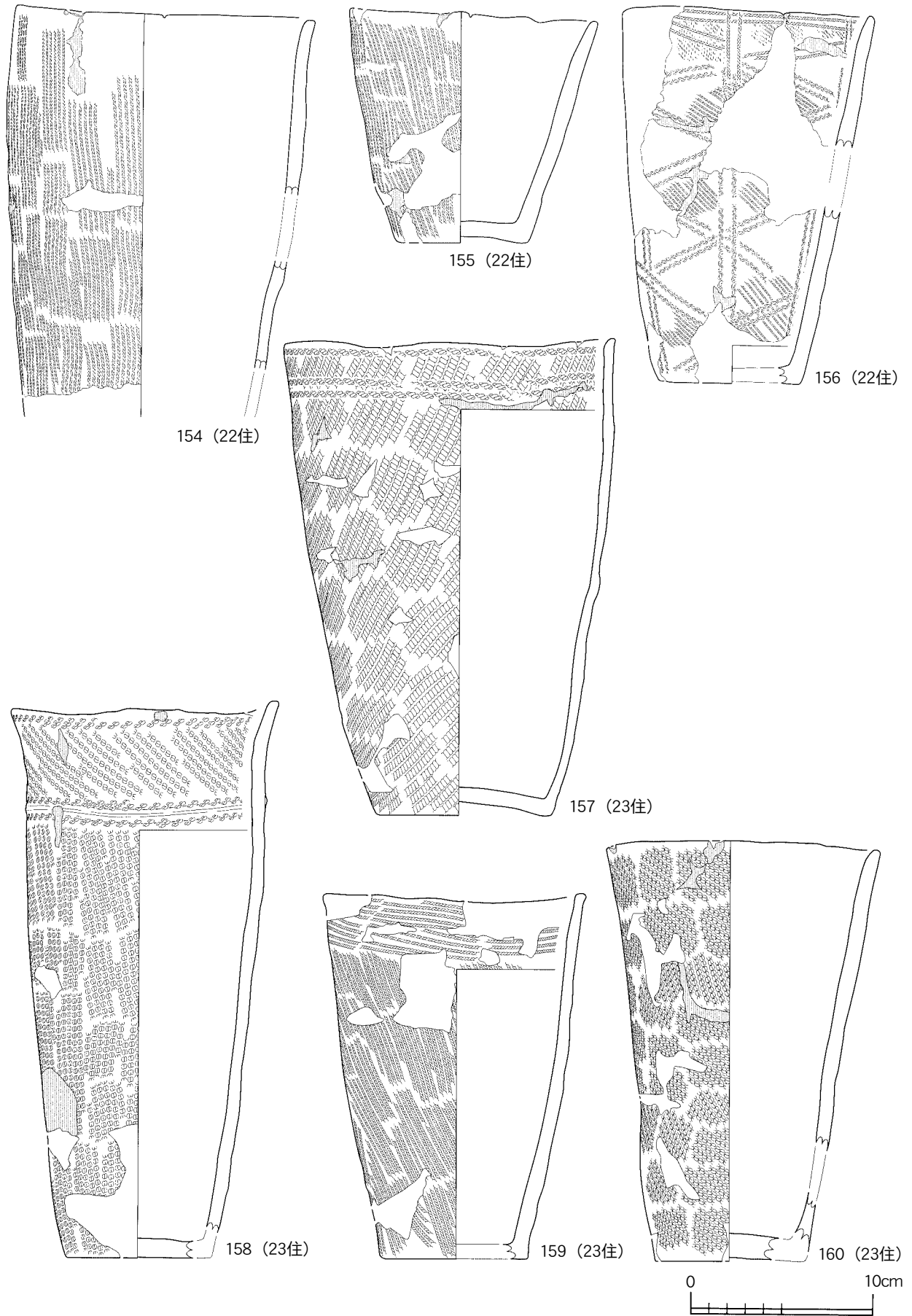
148 (22住)



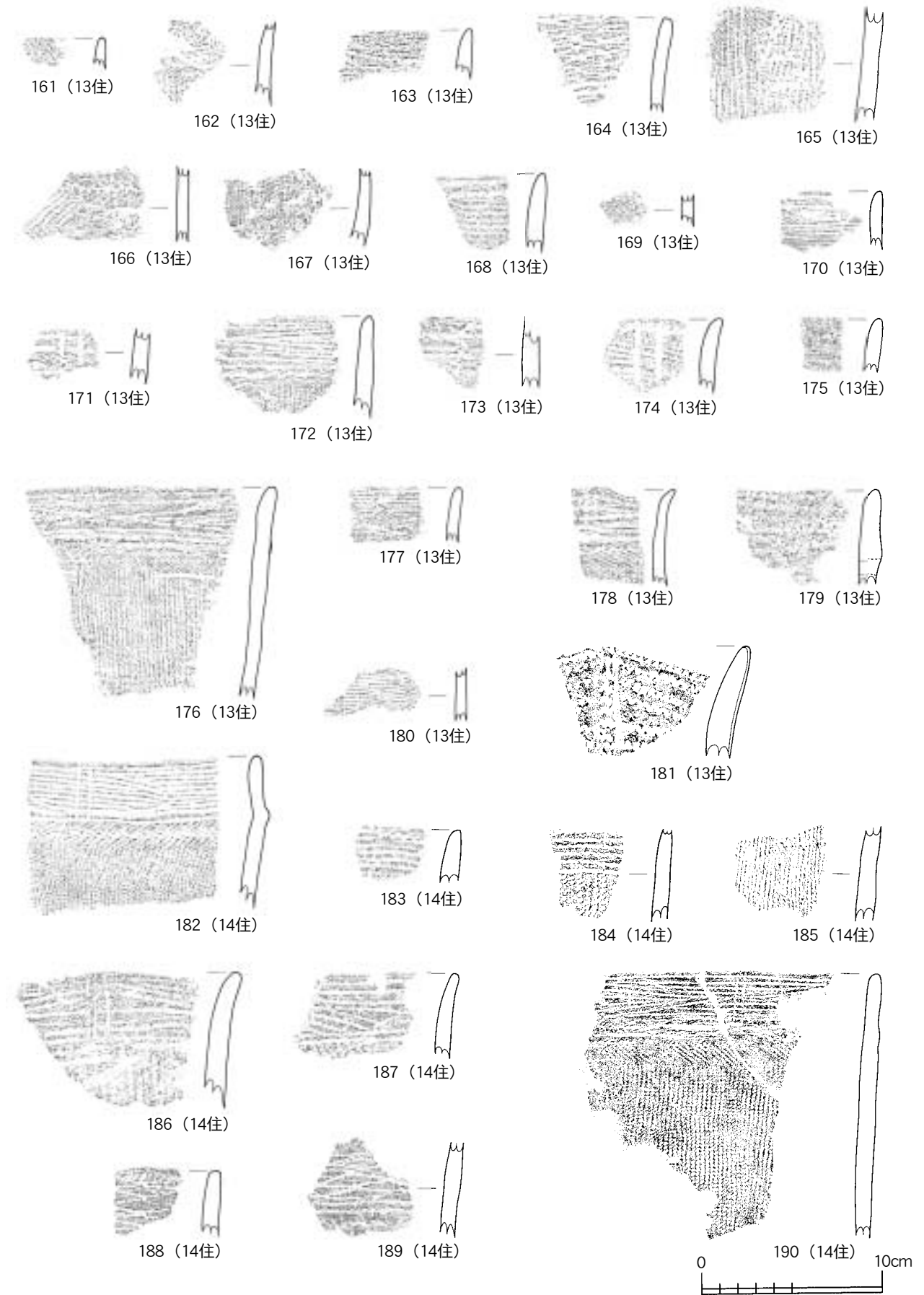
第47図 遺構内出土土器 (竪穴式住居跡) (31)



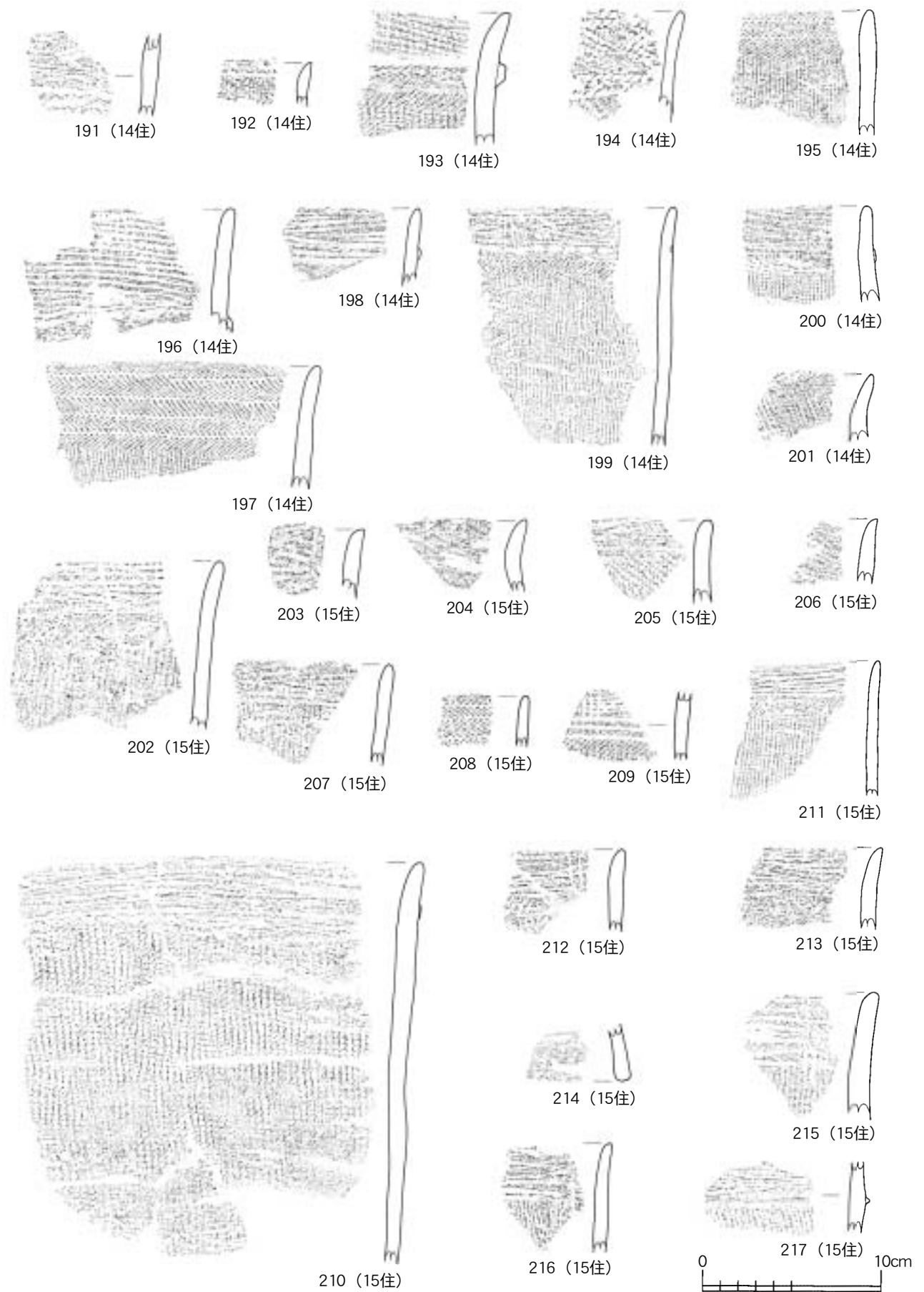
第48図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(32)



第49図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(33)



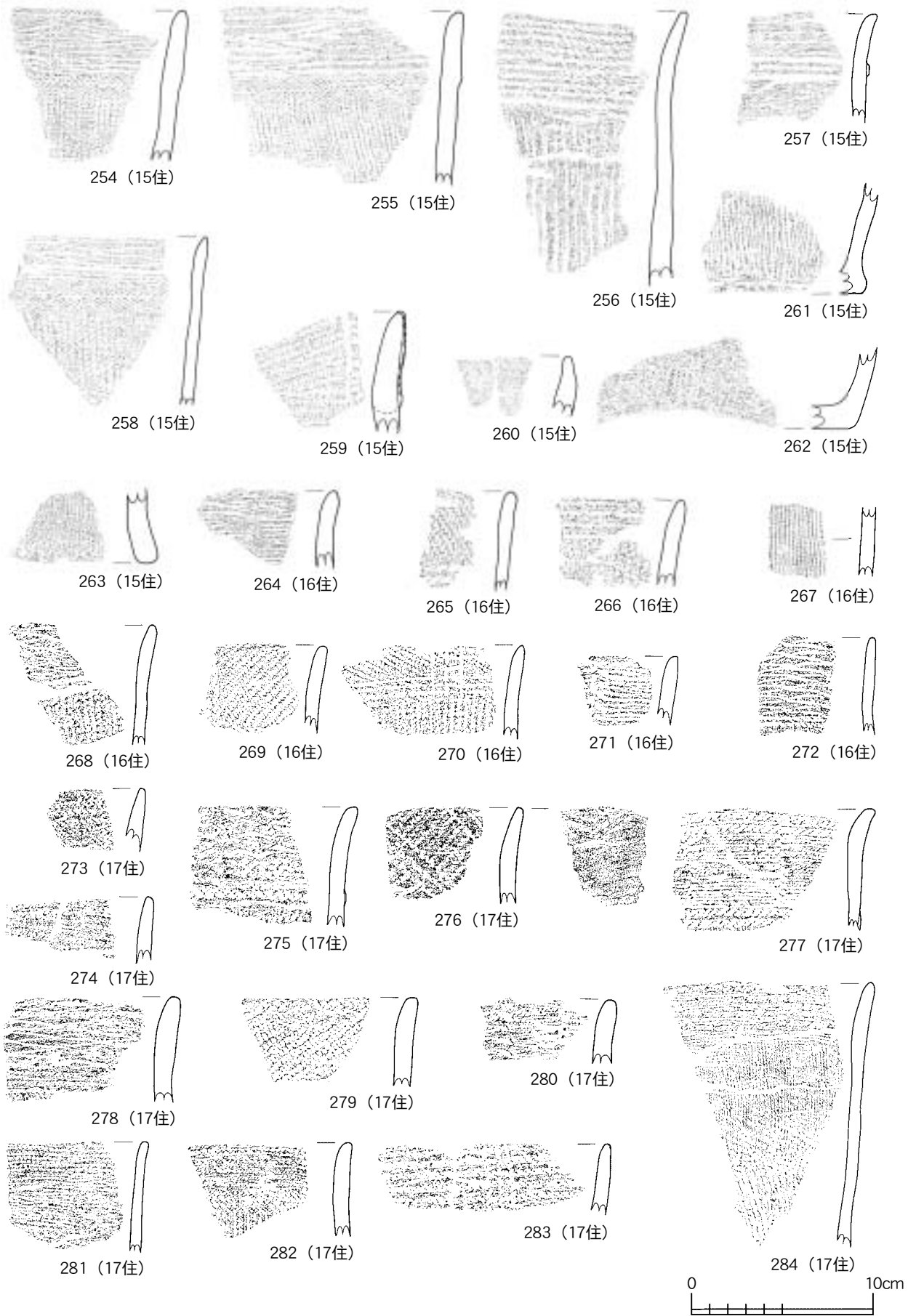
第50図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(34)



第51図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(35)



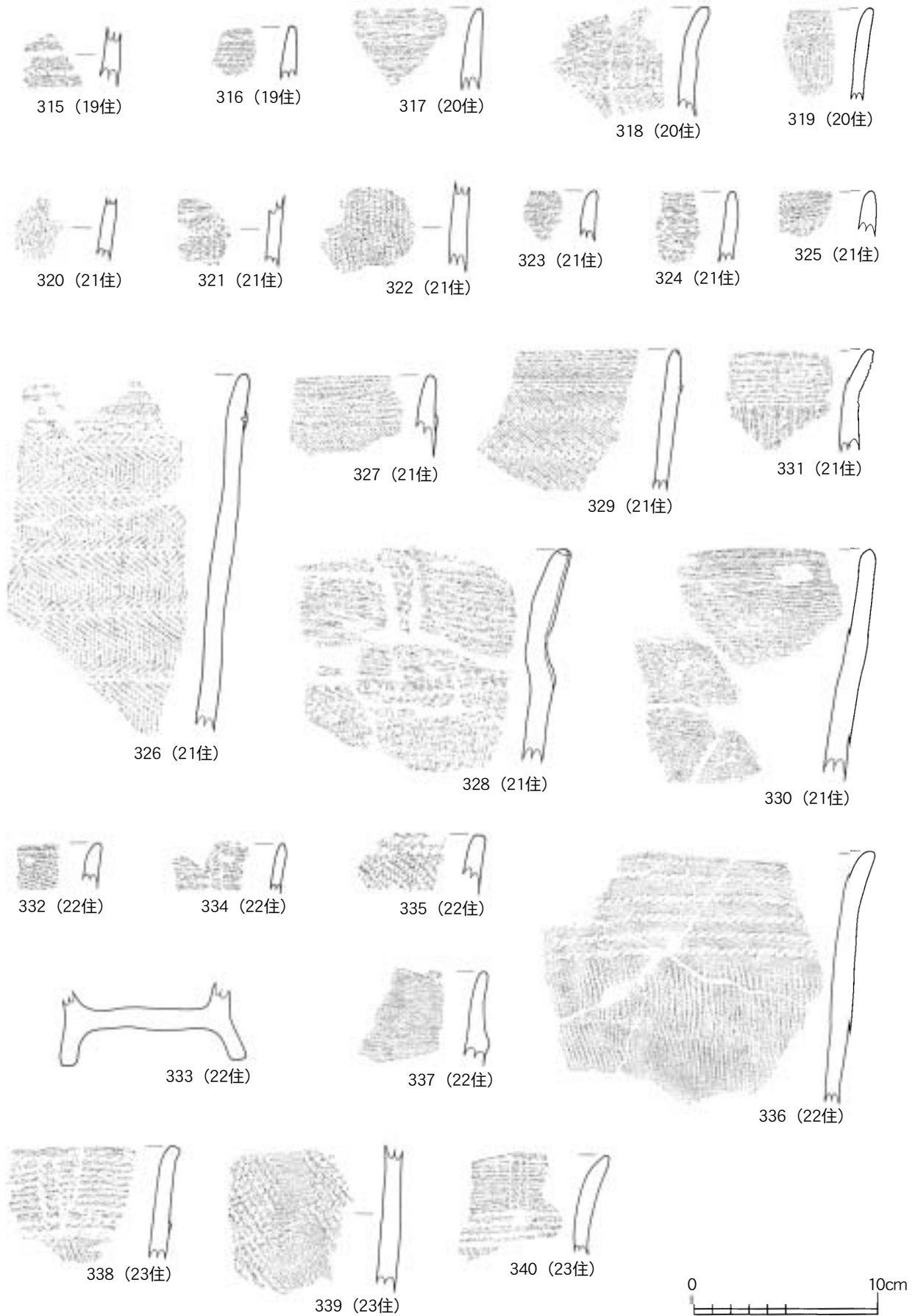
第52図 遺構内出土土器 (竪穴式住居跡) (36)



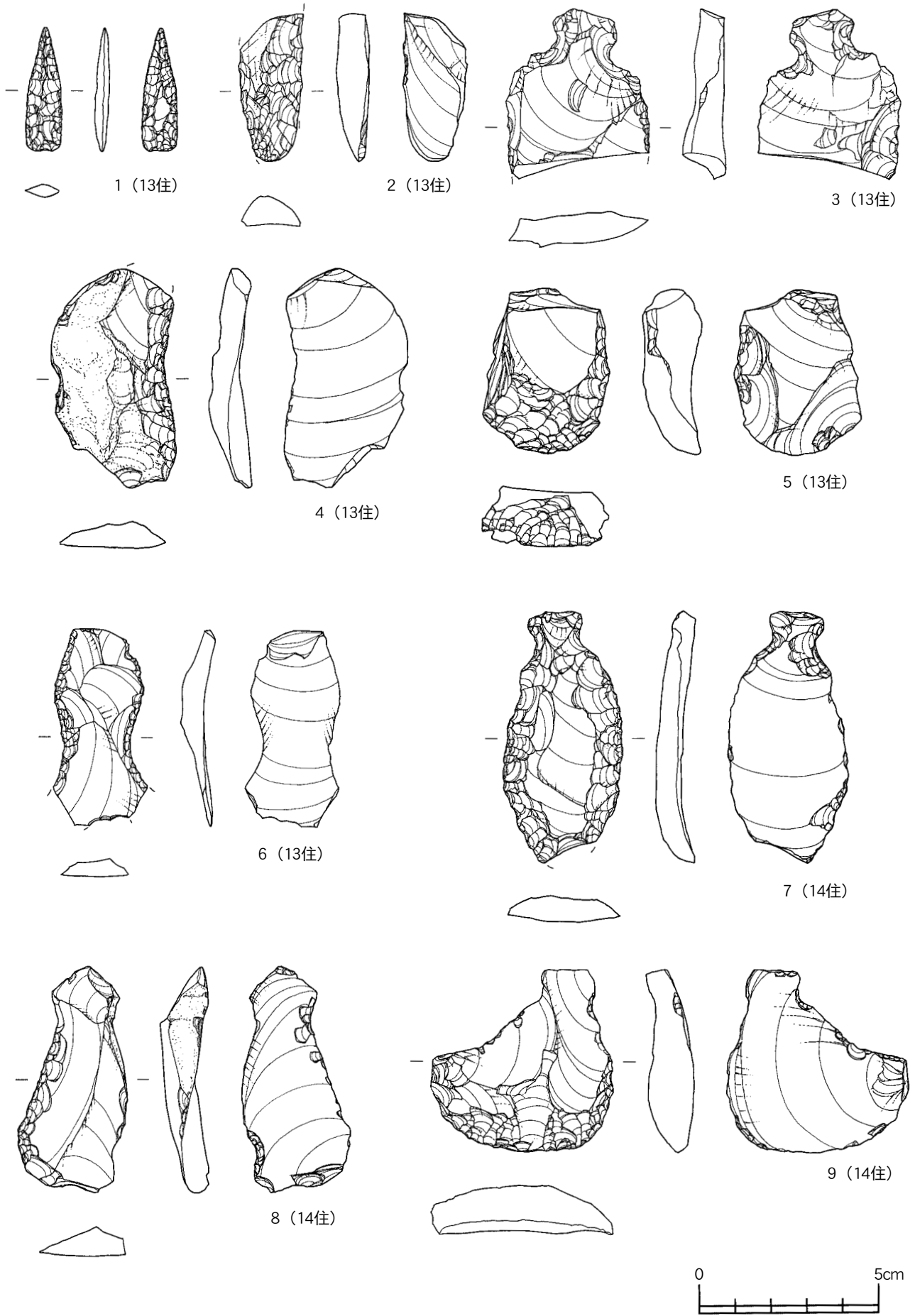
第53図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(37)



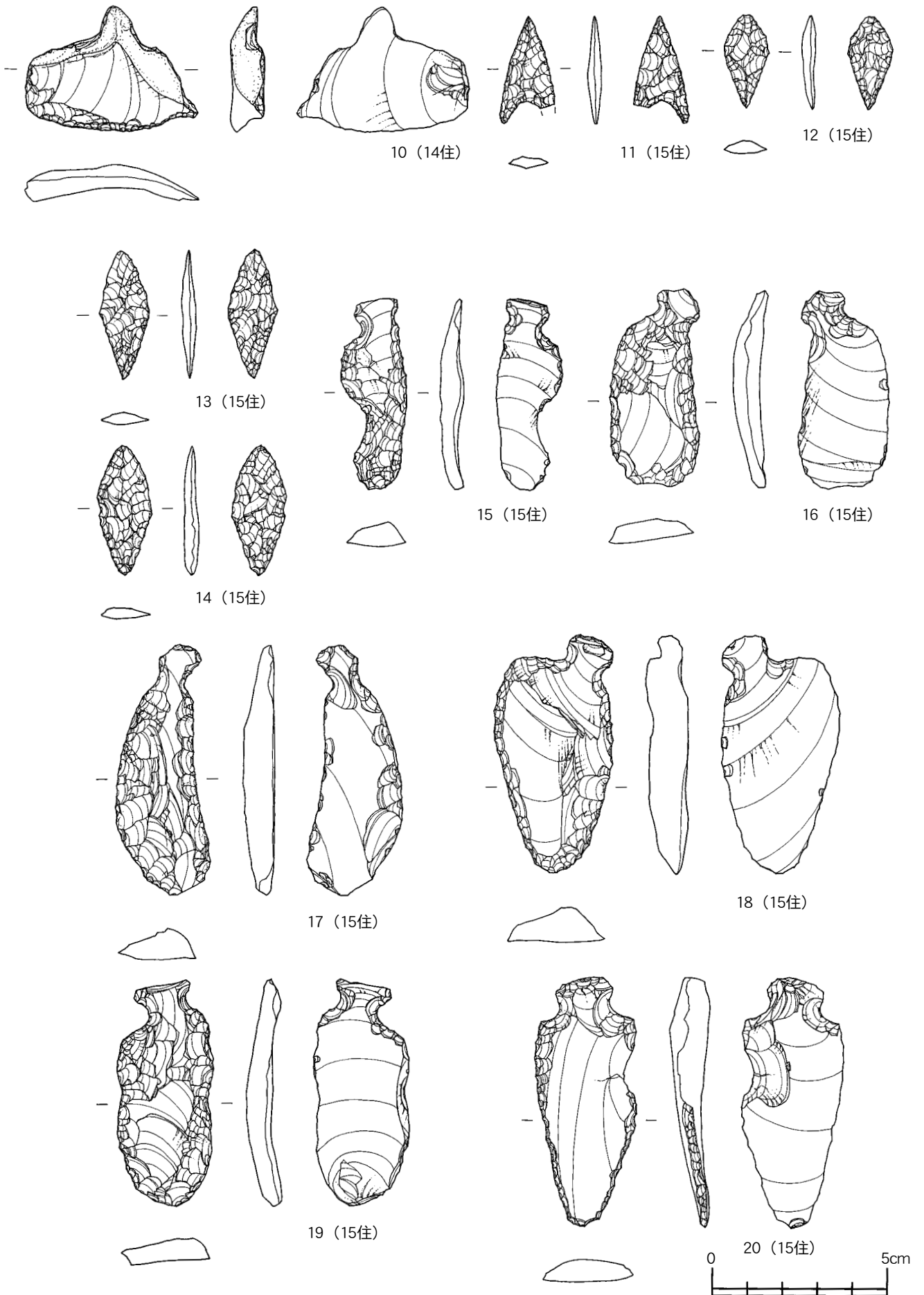
第54図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(38)



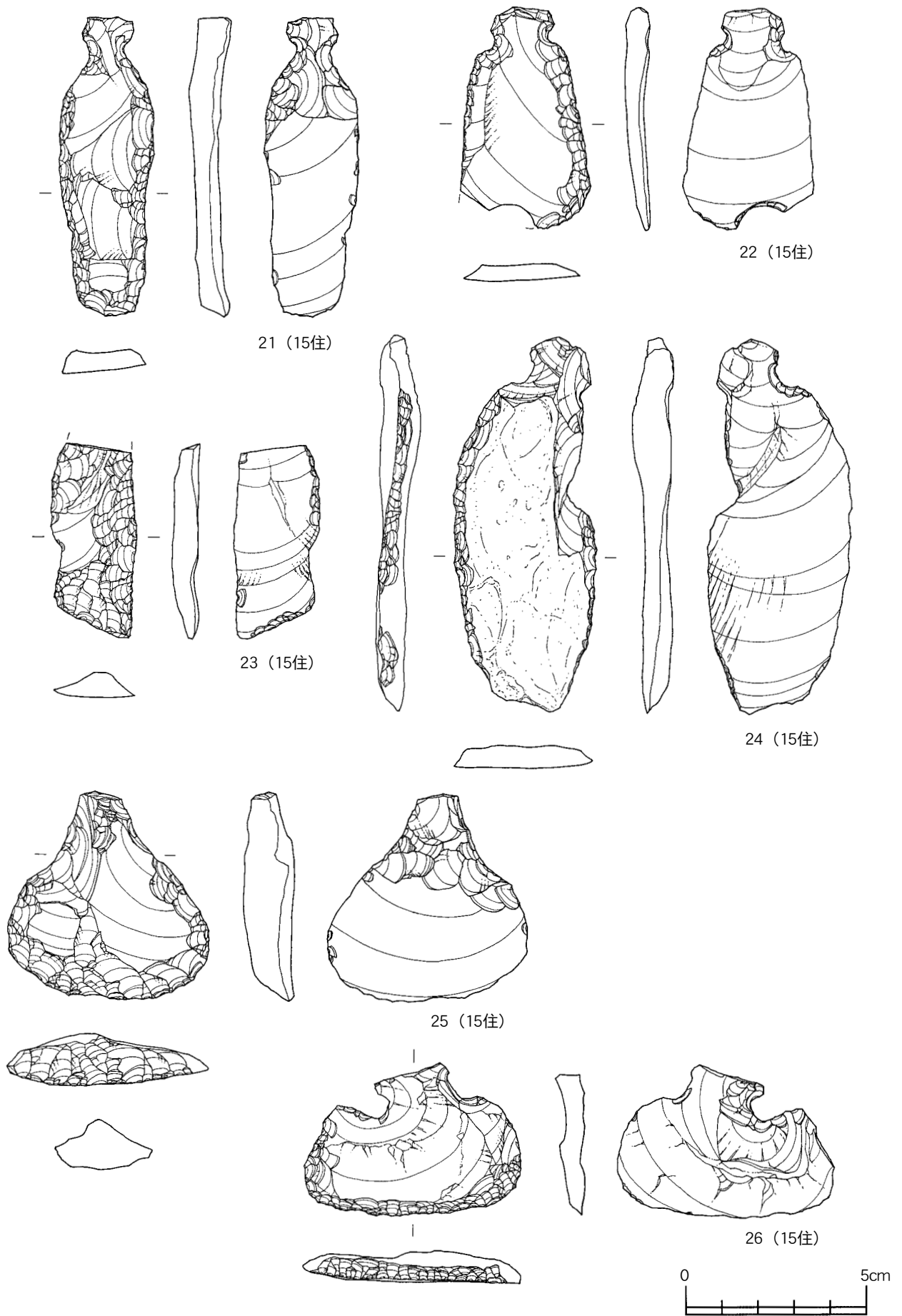
第55図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(39)



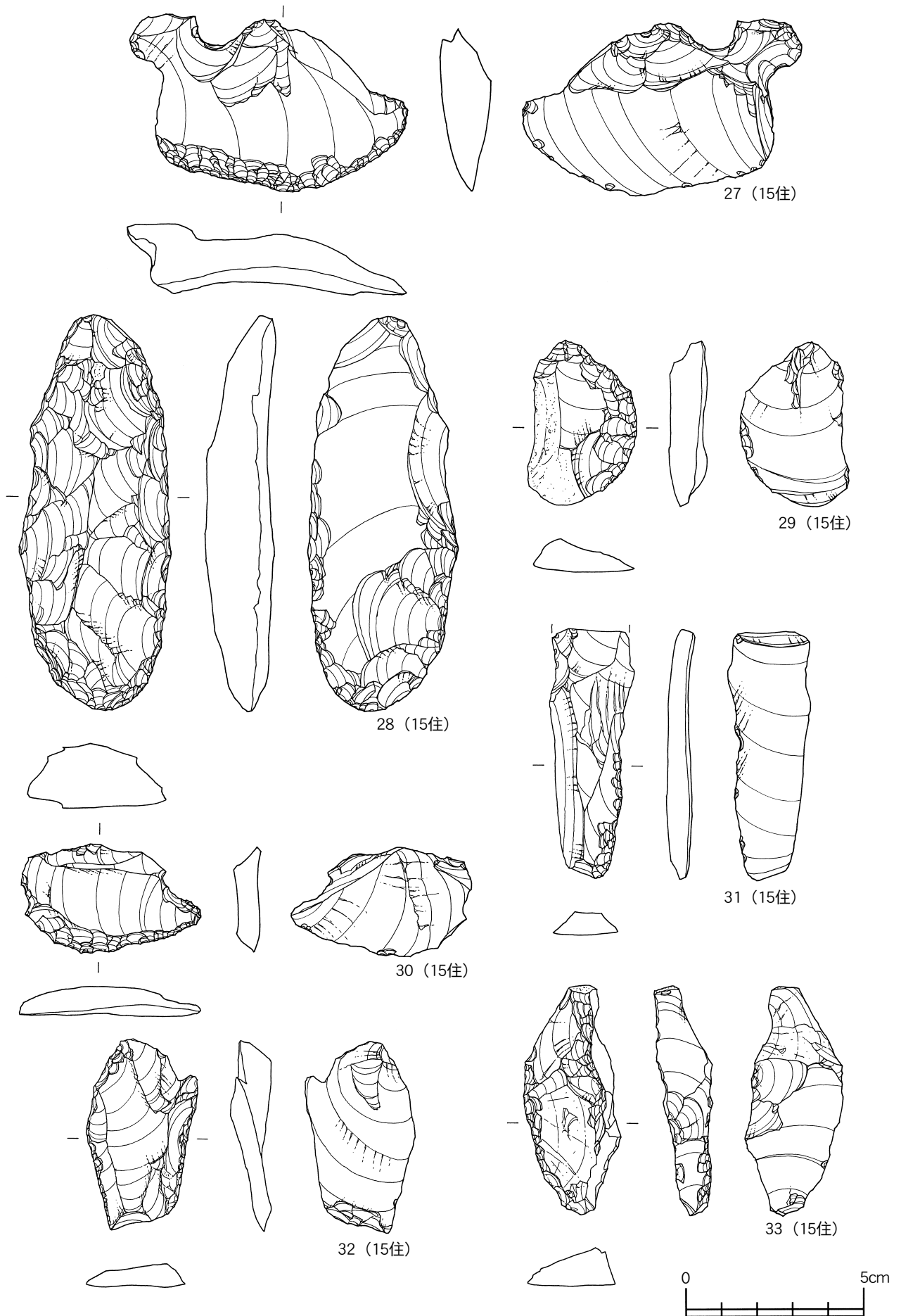
第56図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（1）



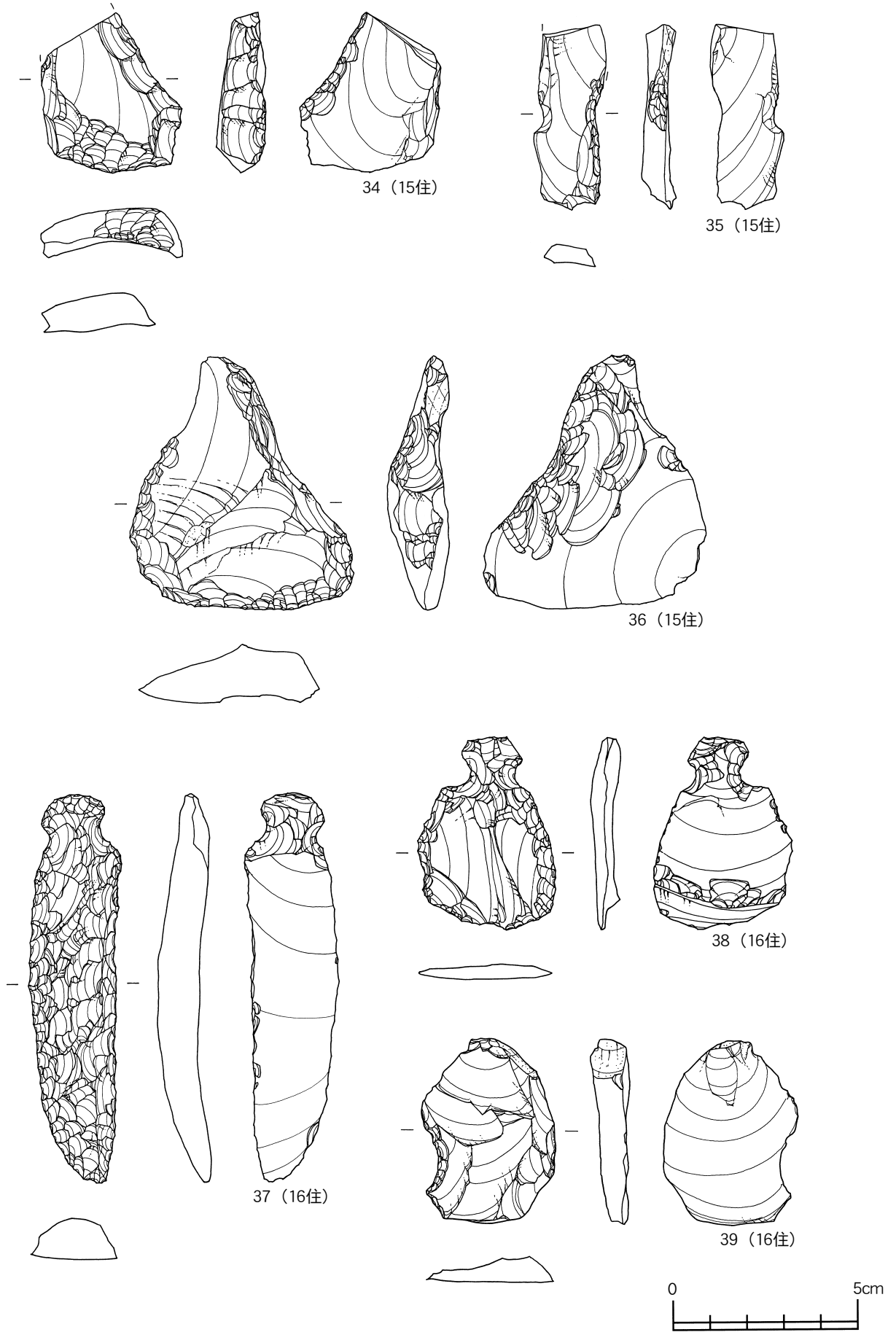
第57図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(2)



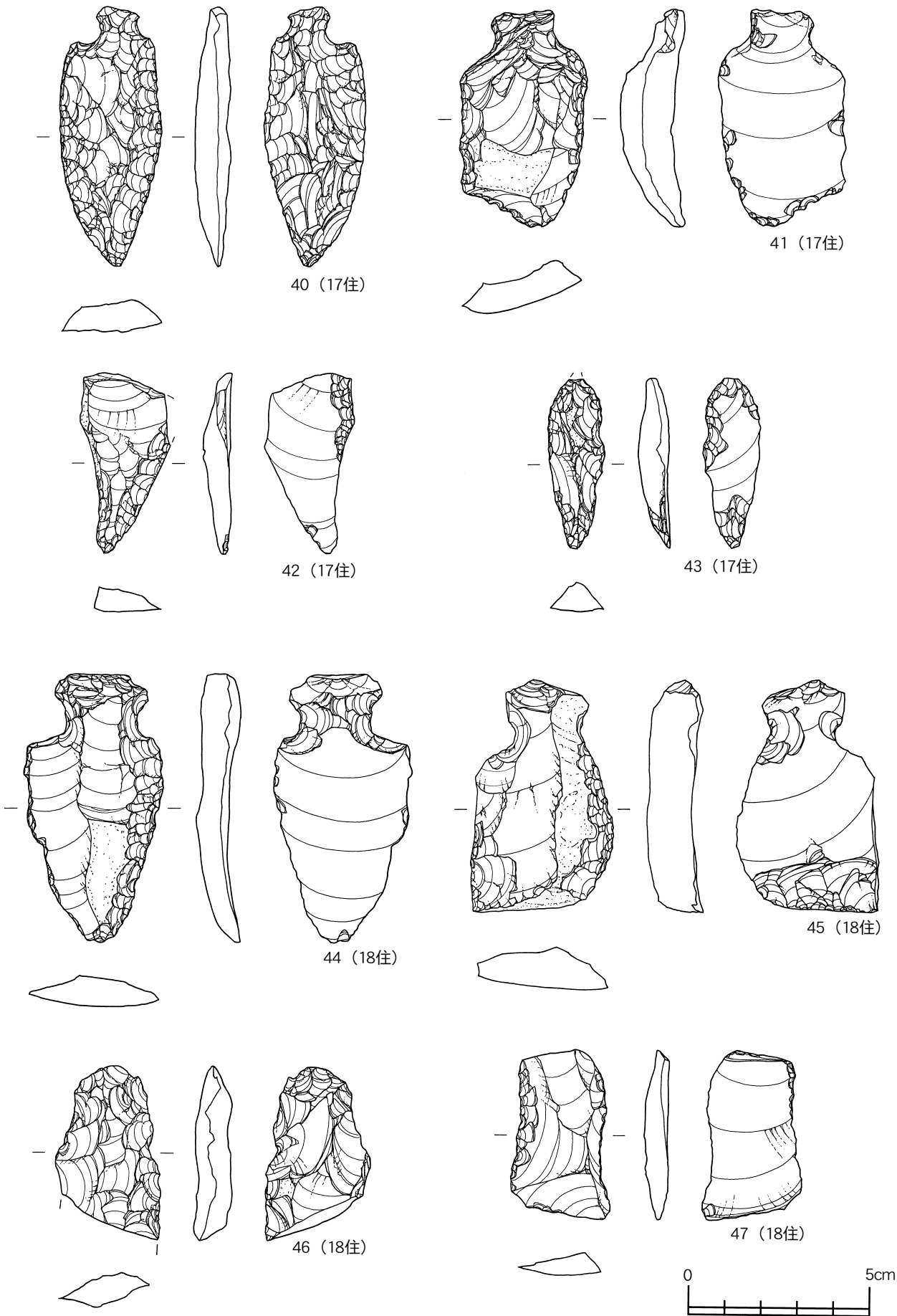
第58図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（3）



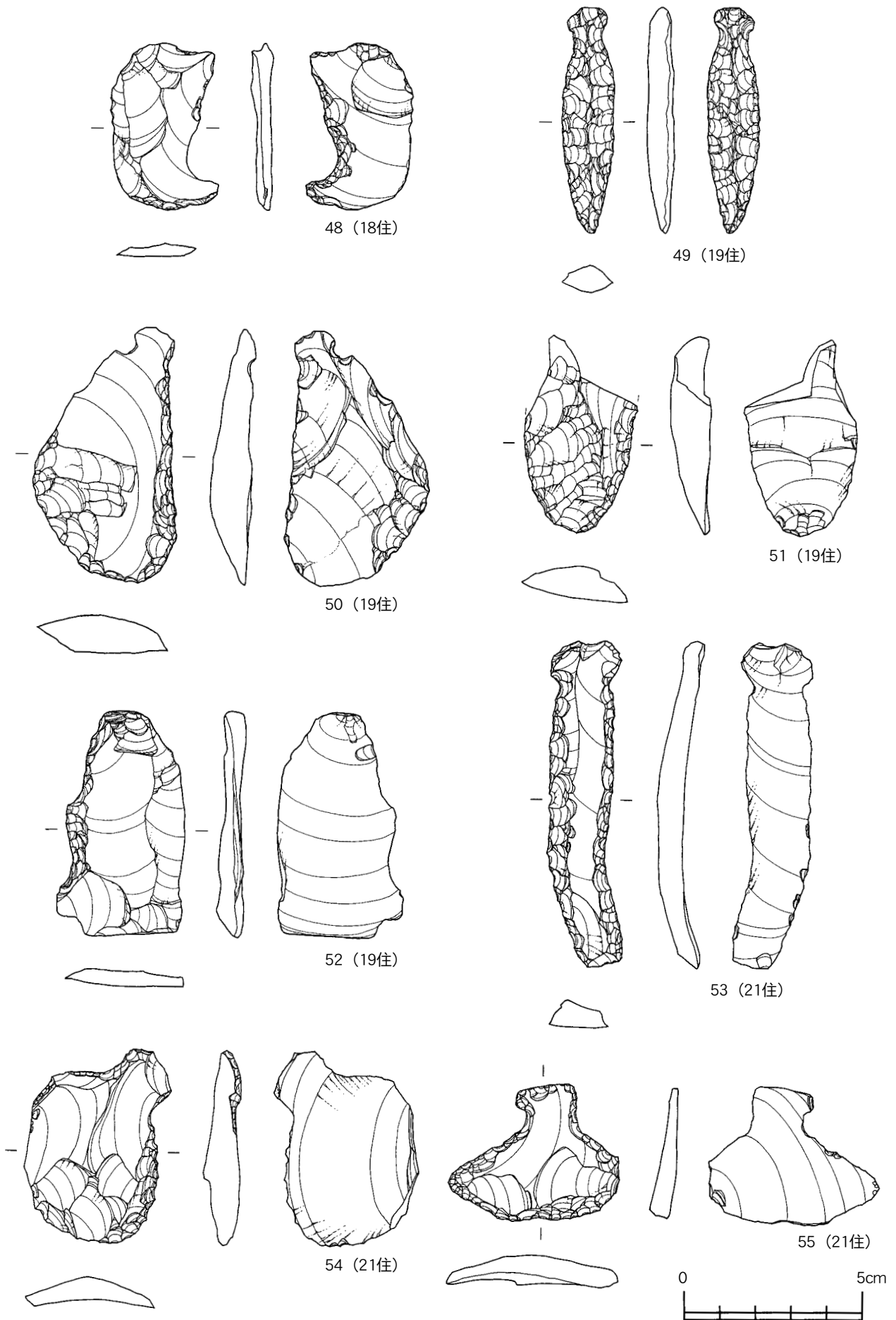
第59図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（4）



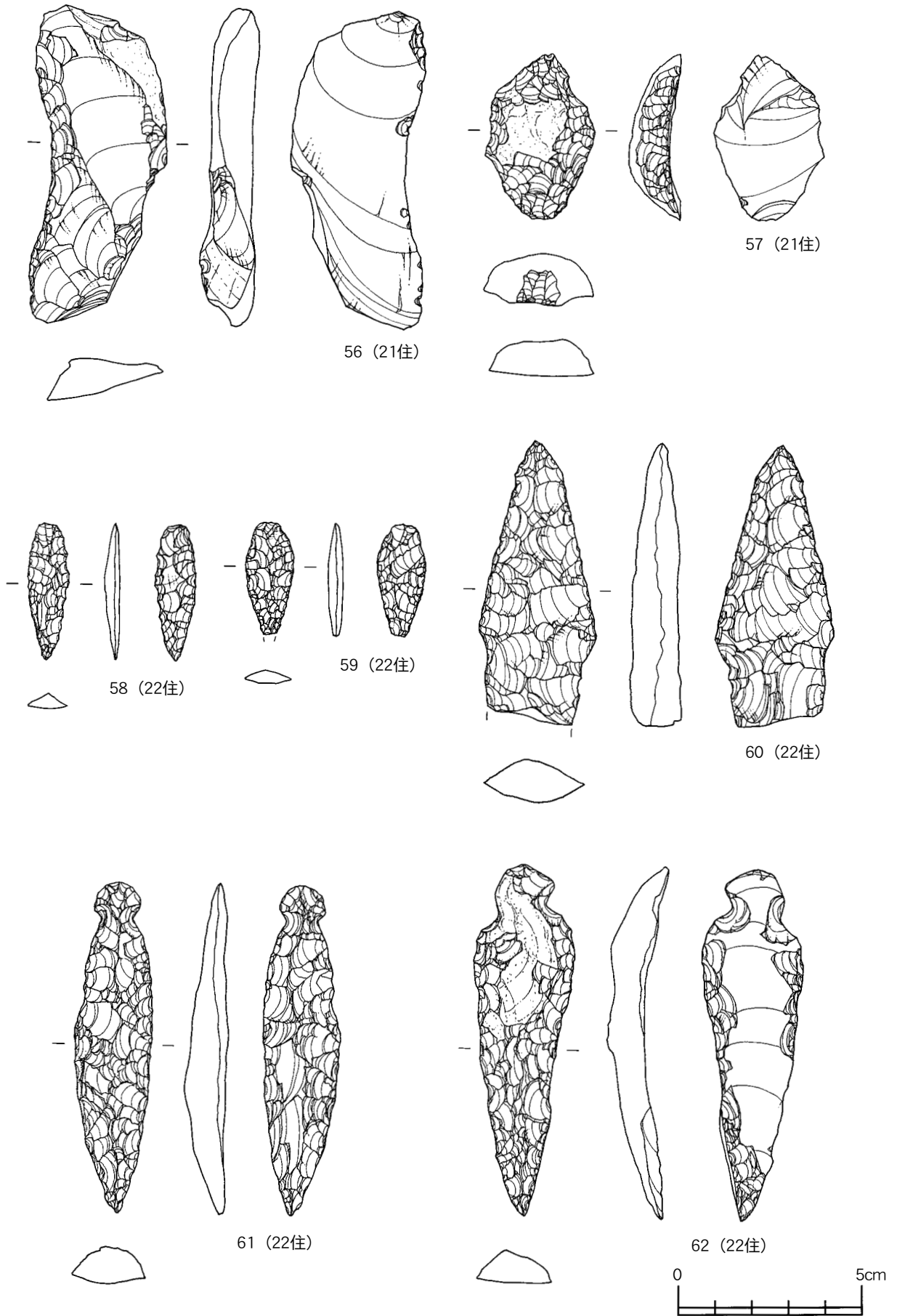
第60図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（5）



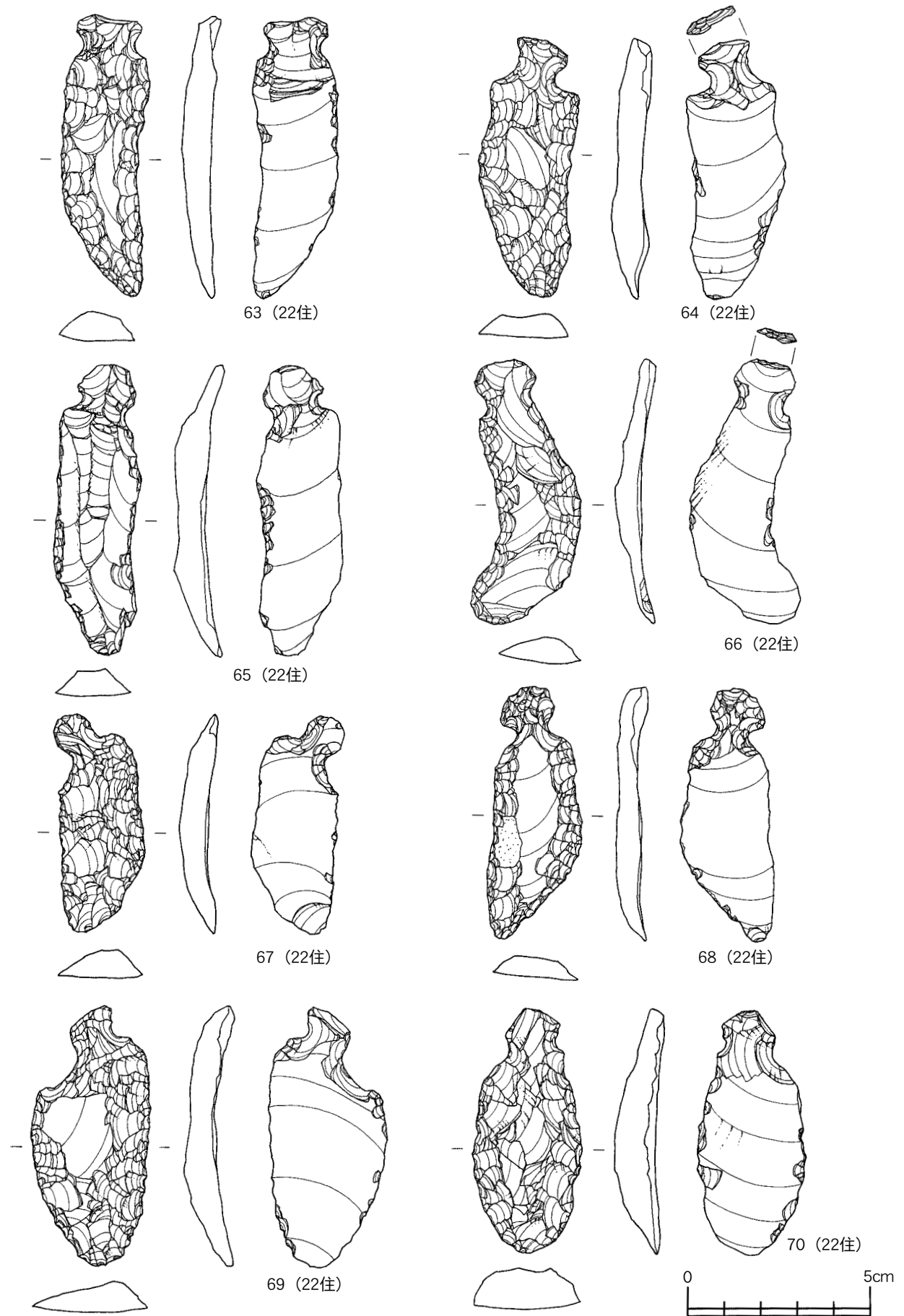
第61図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(6)



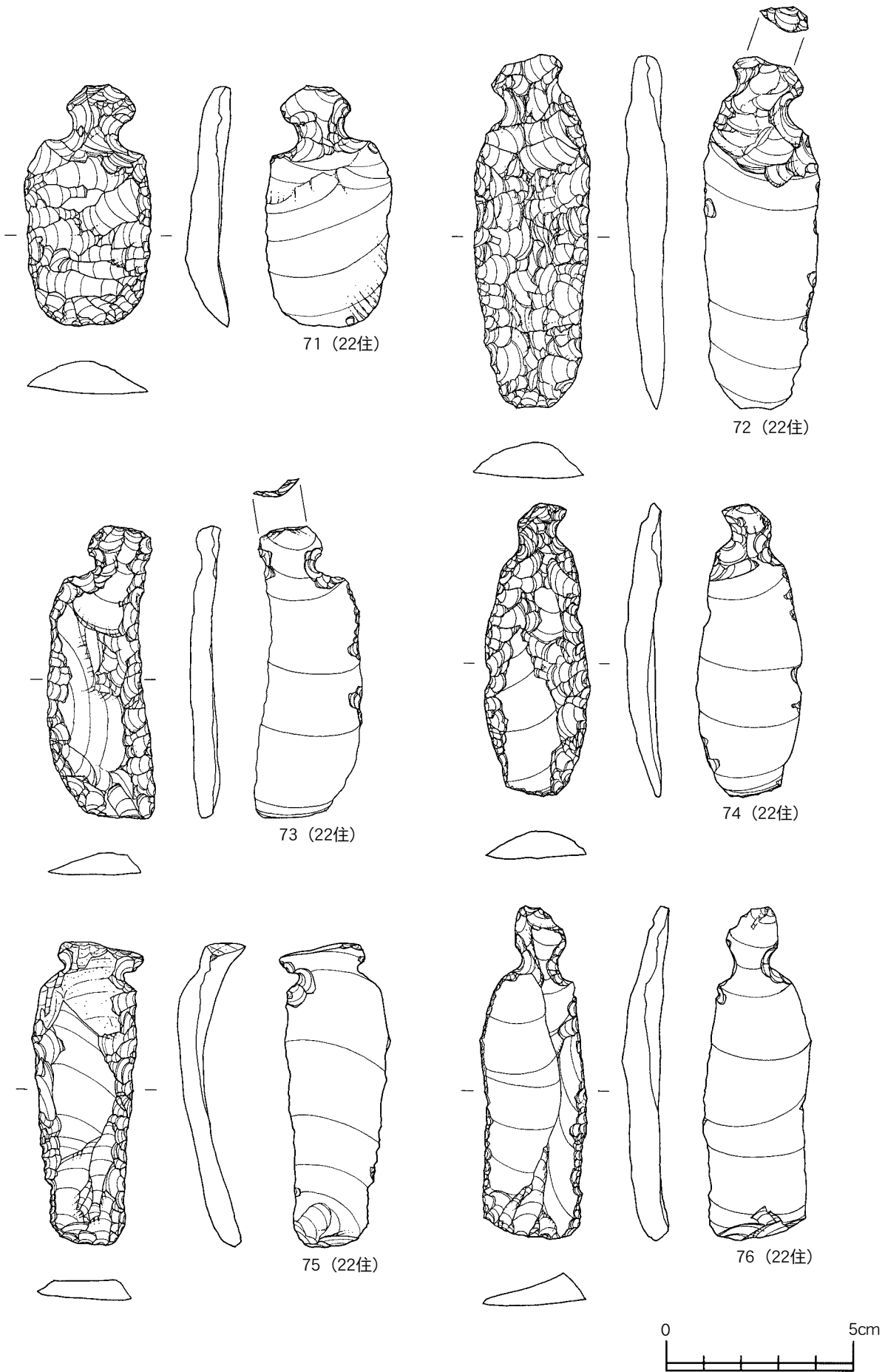
第62図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(7)



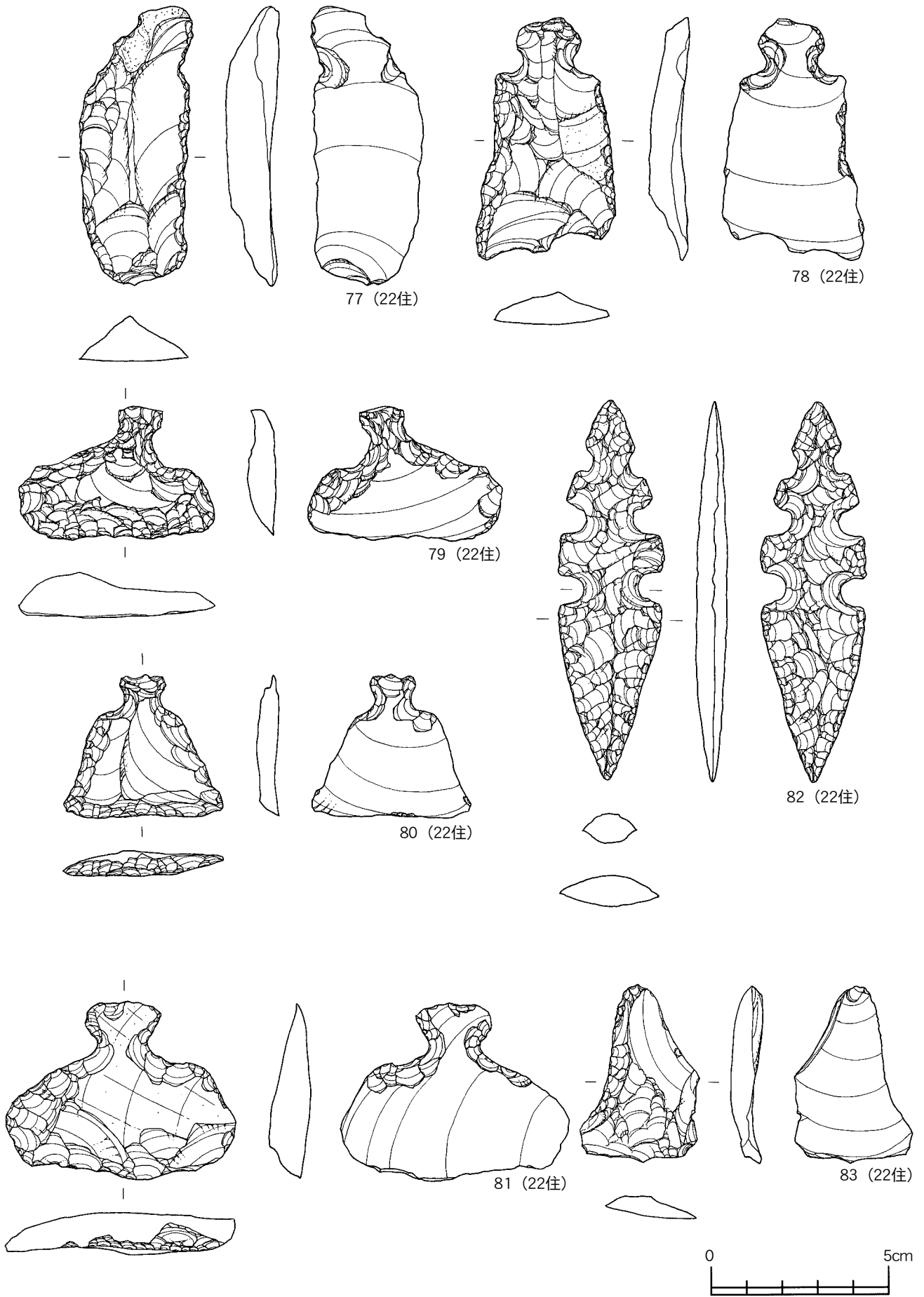
第63図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(8)



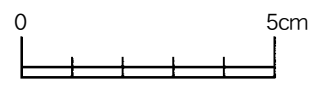
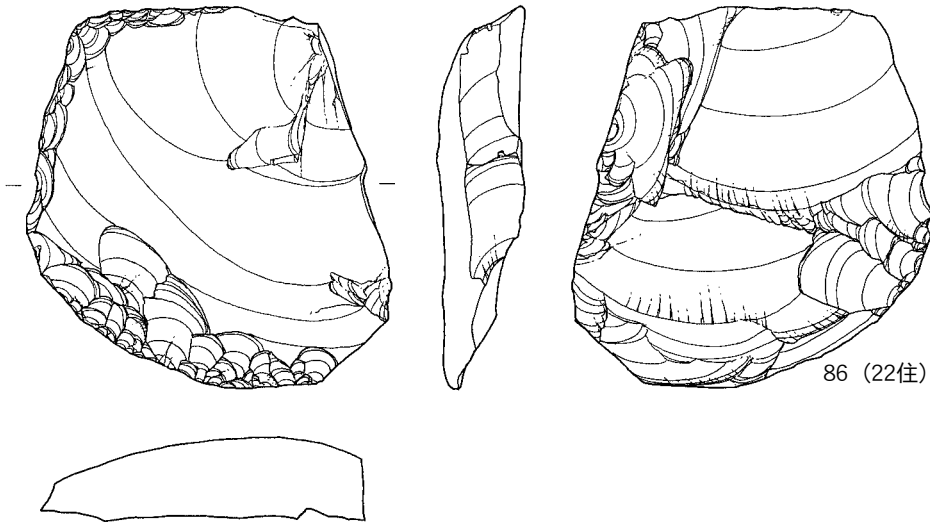
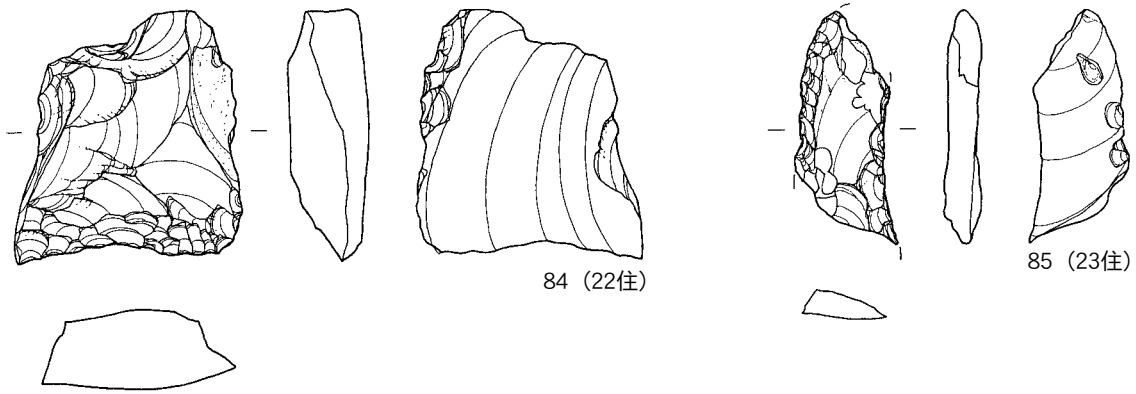
第64図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(9)



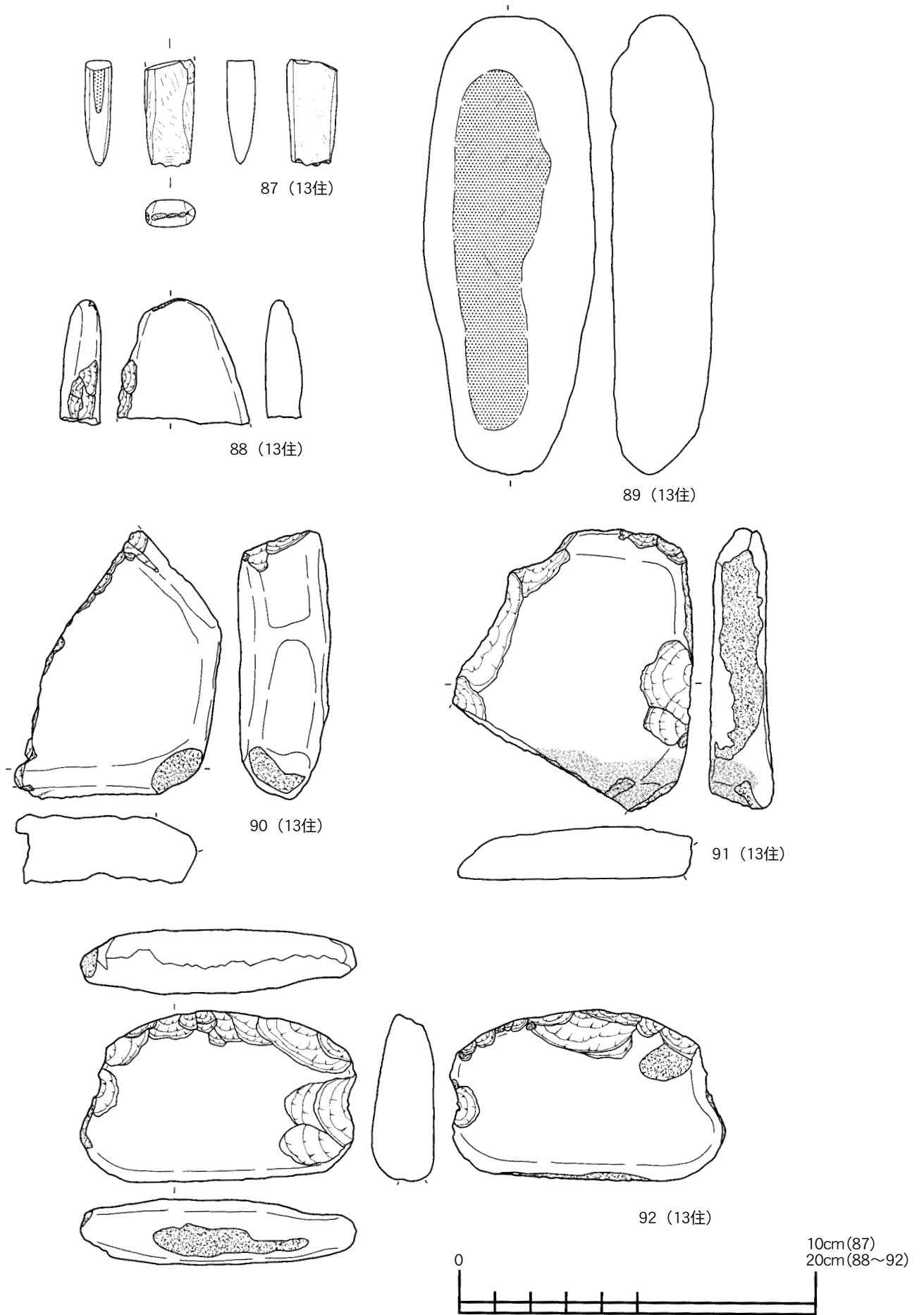
第65図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（10）



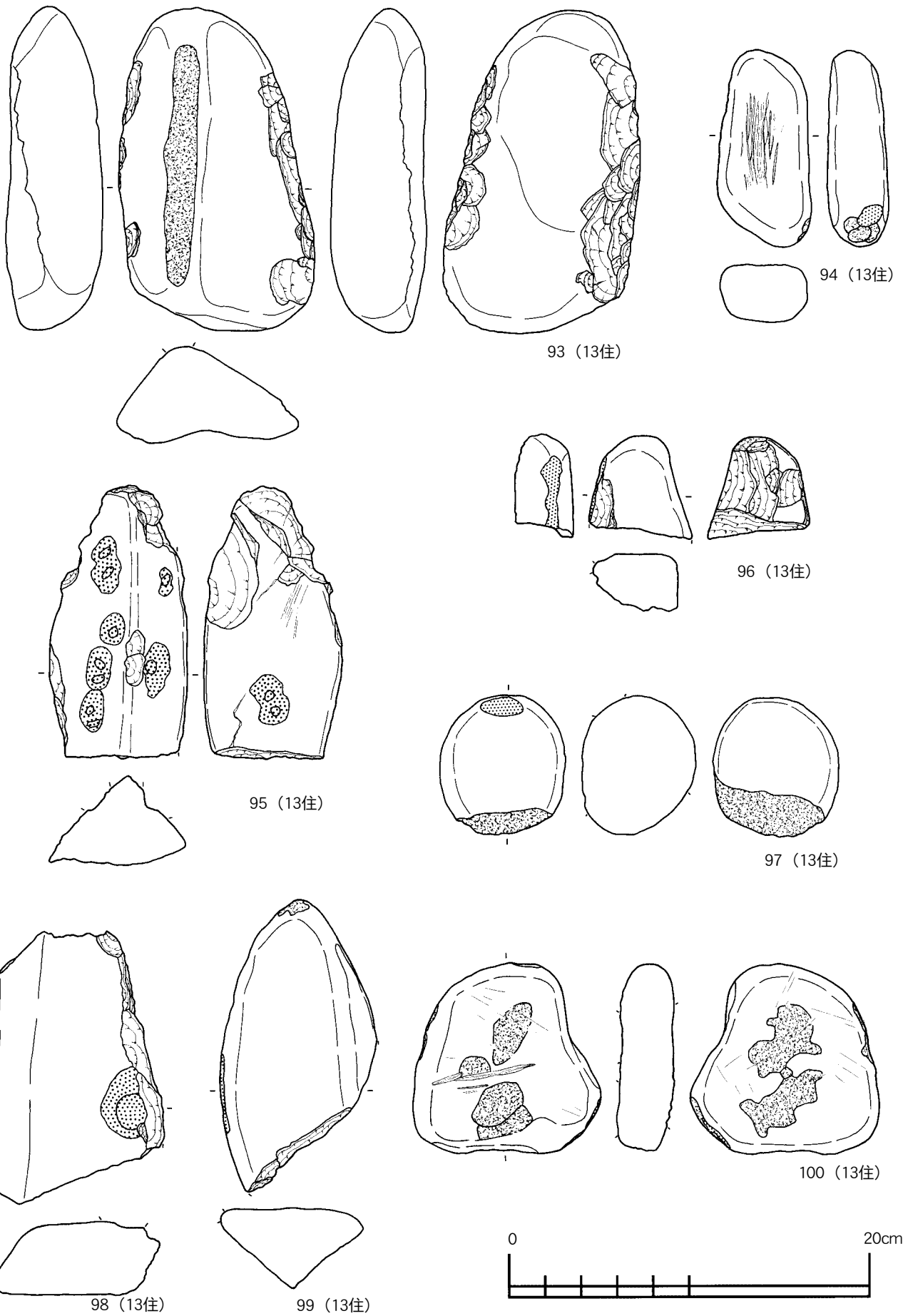
第66図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（11）



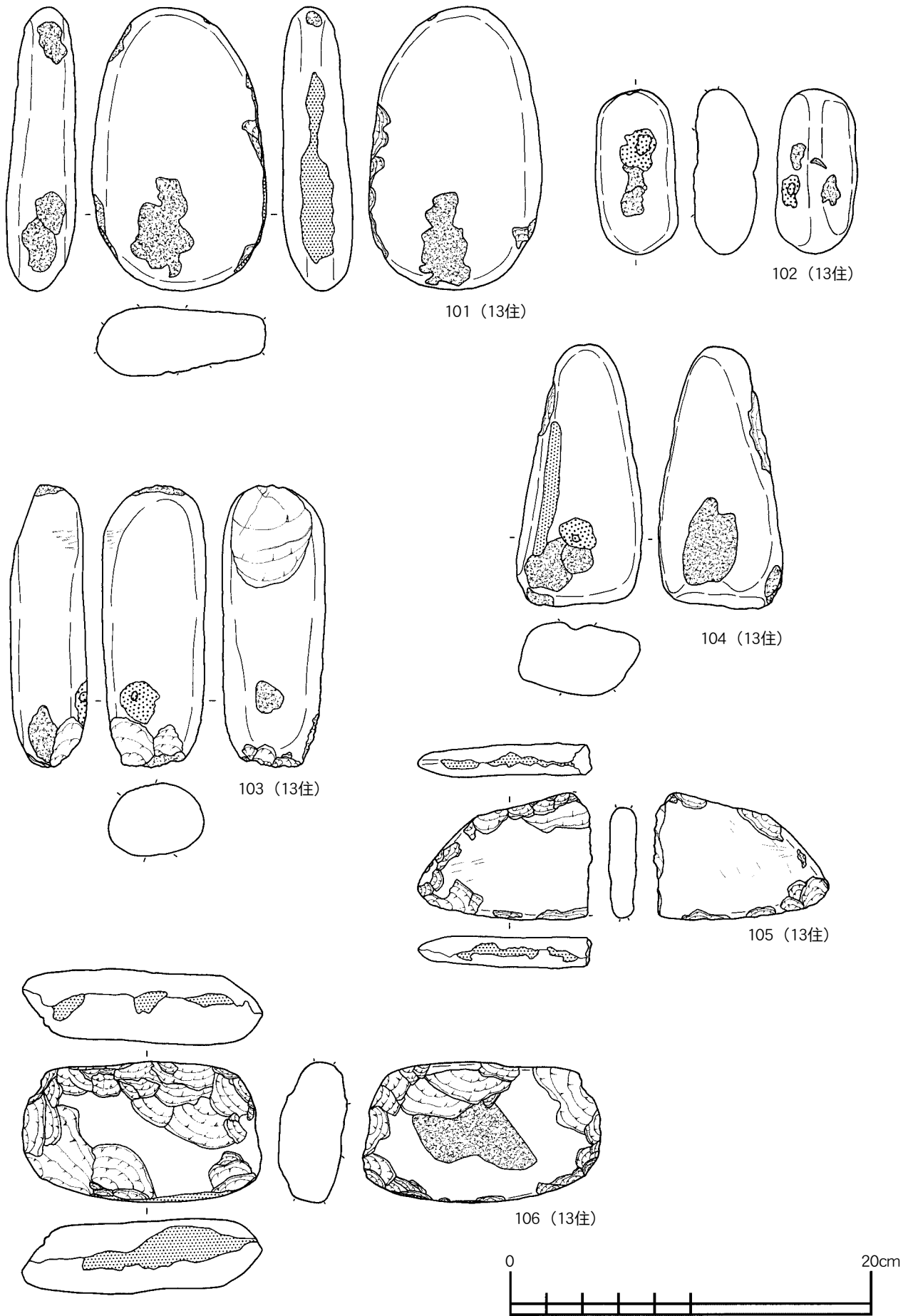
第67図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（12）



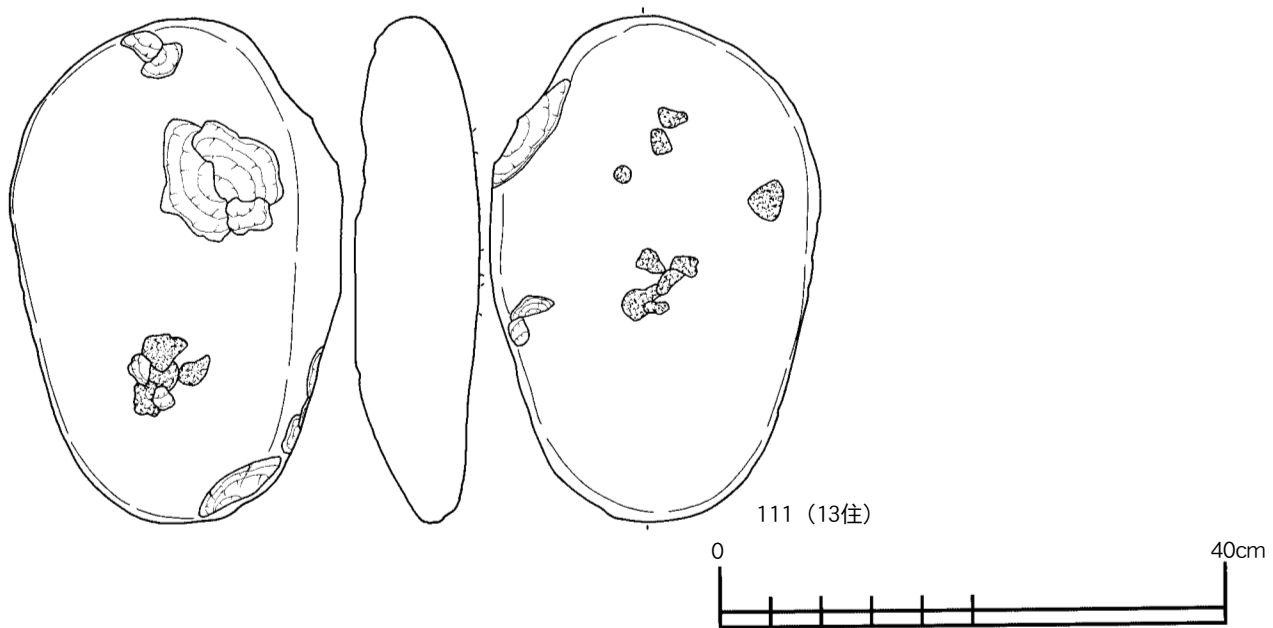
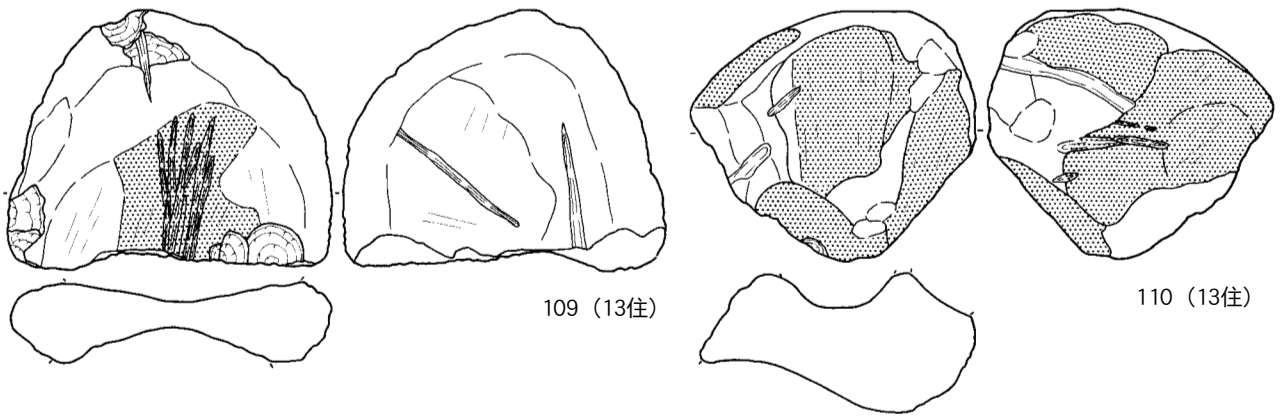
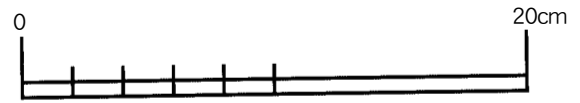
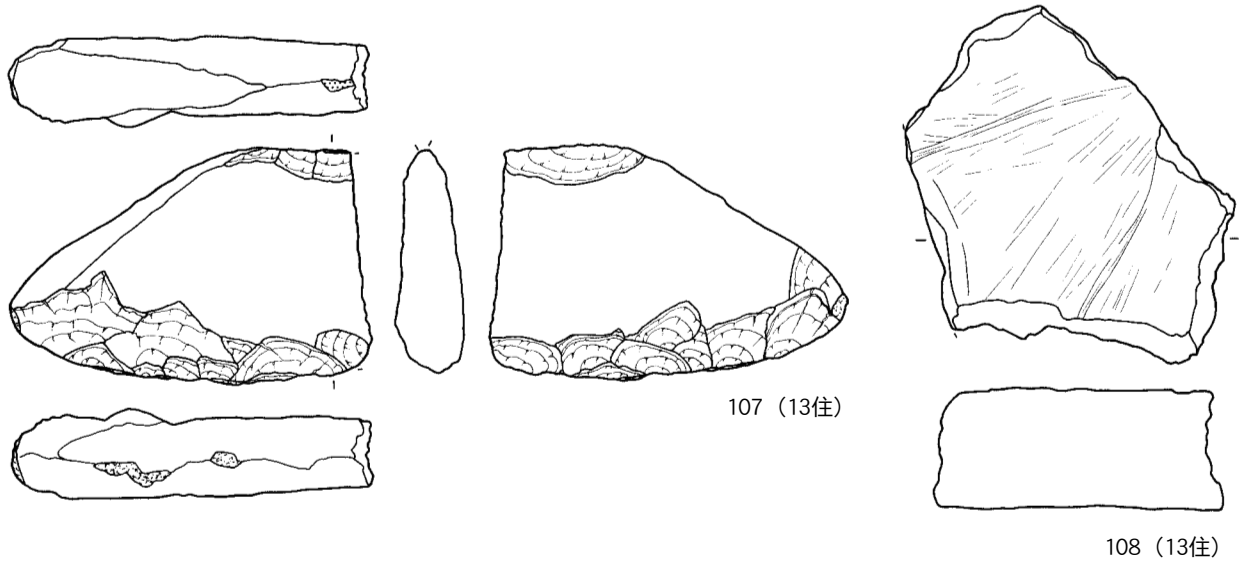
第68図 遺構内出土石器 (竪穴式住居跡) (13)



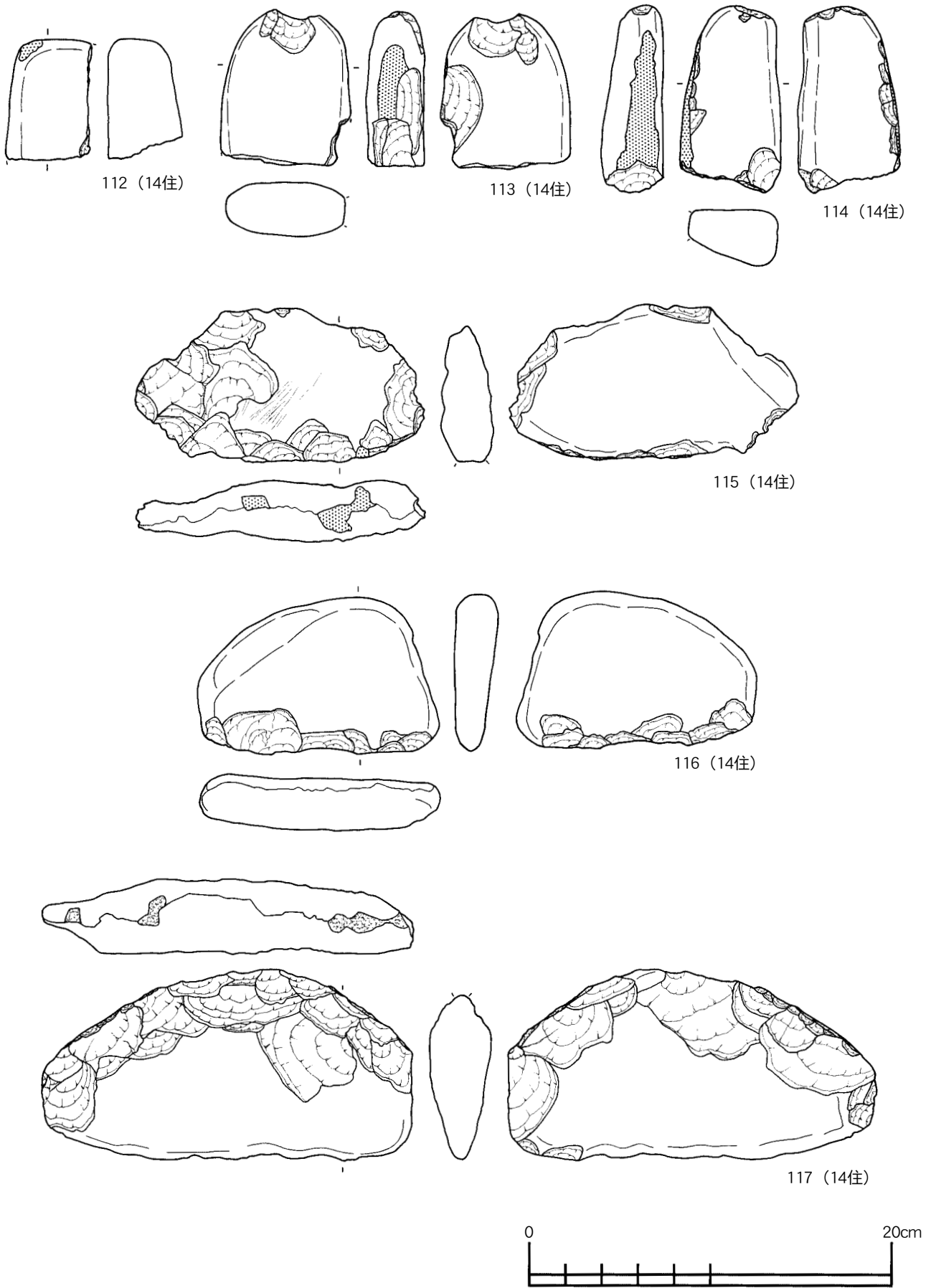
第69図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（14）



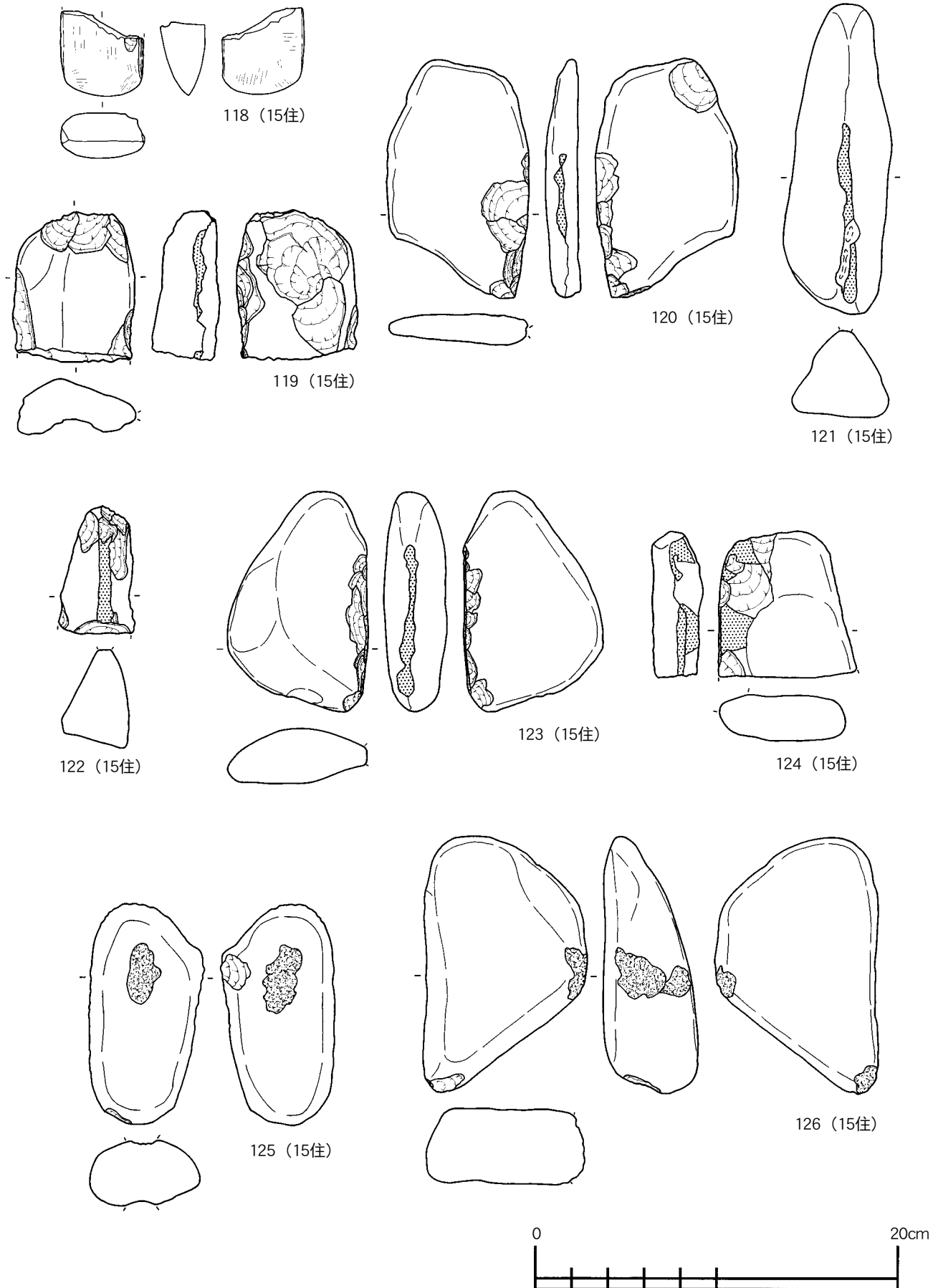
第70図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（15）



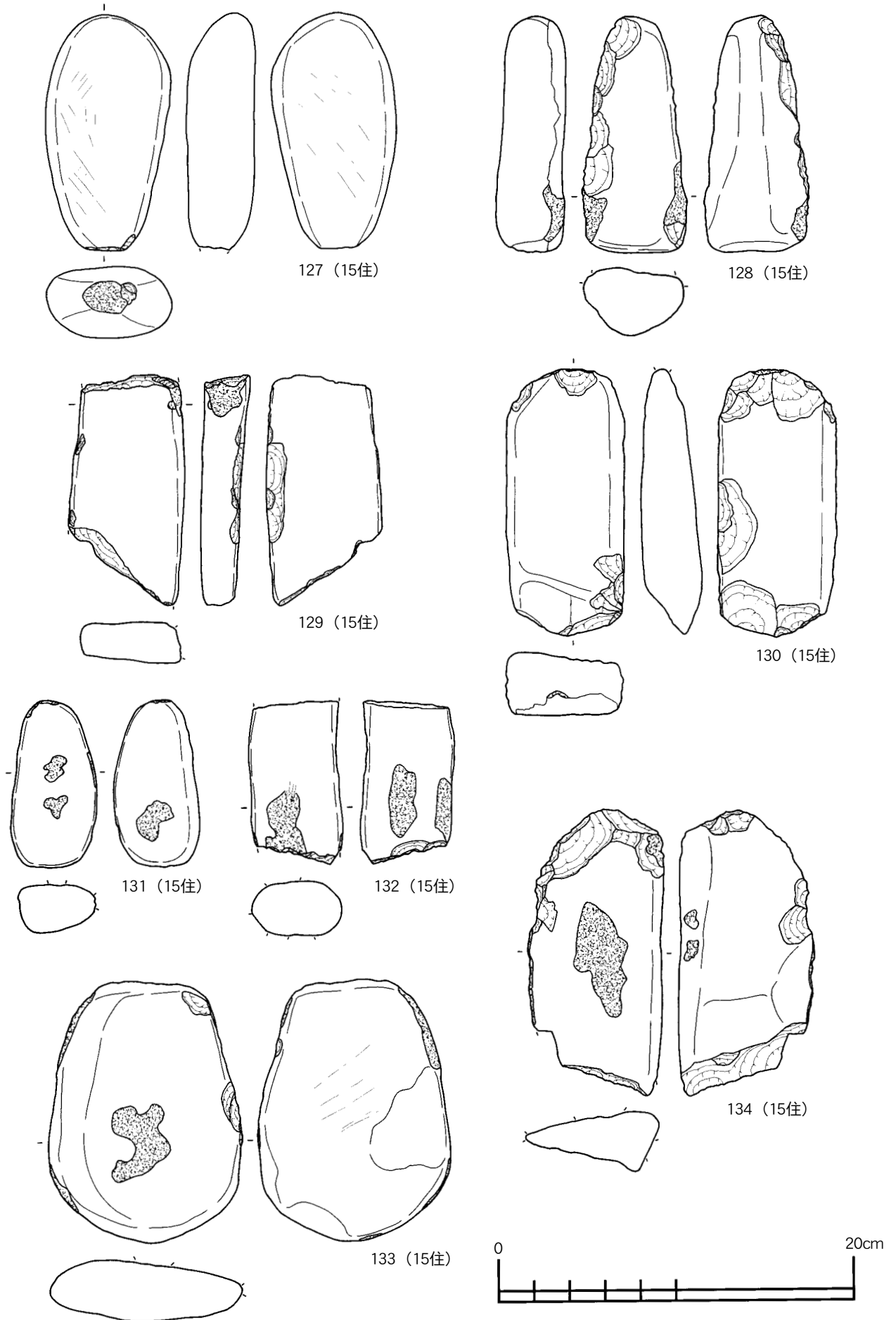
第71図 遺構内出土石器 (竪穴式住居跡) (16)



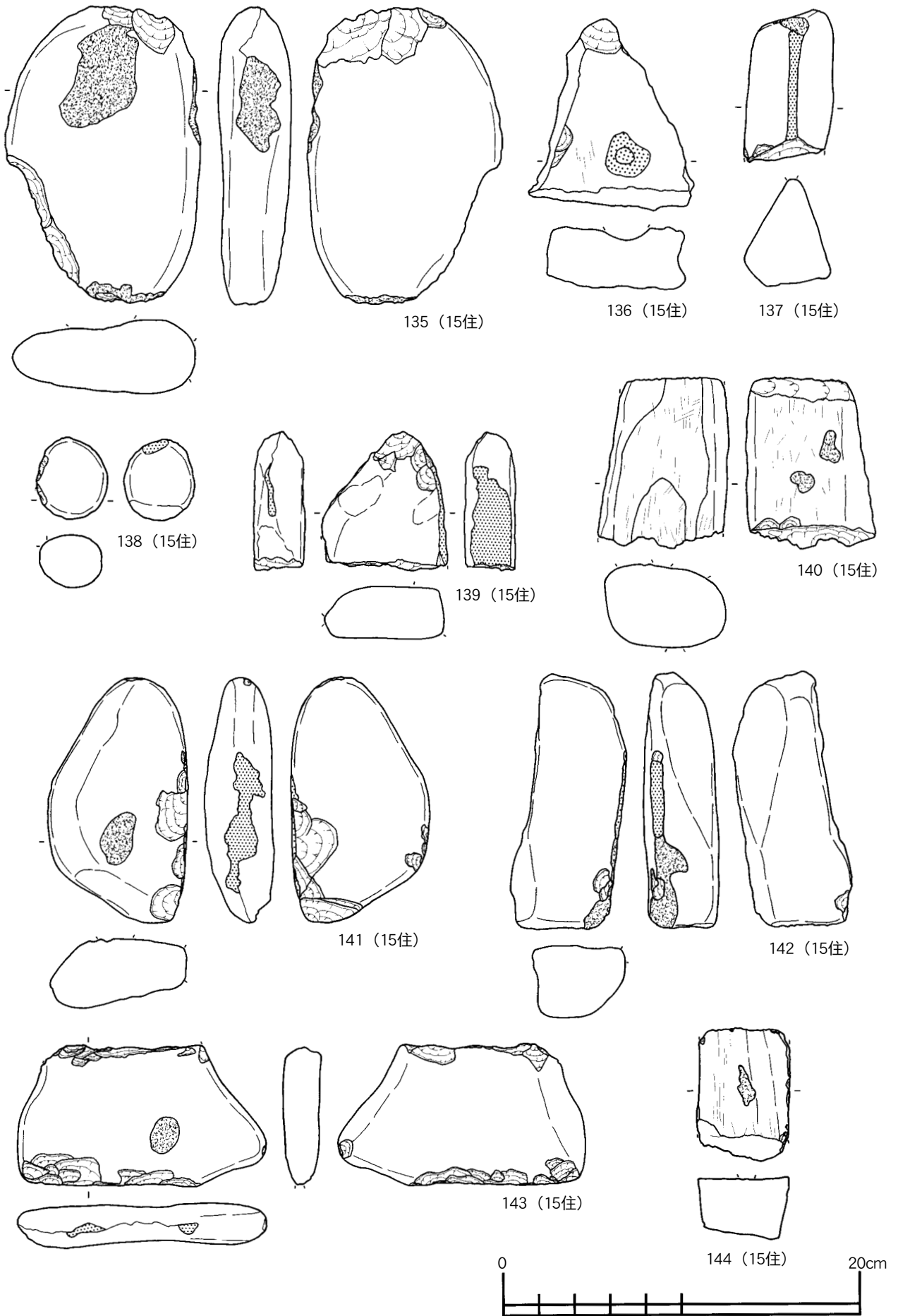
第72図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（17）



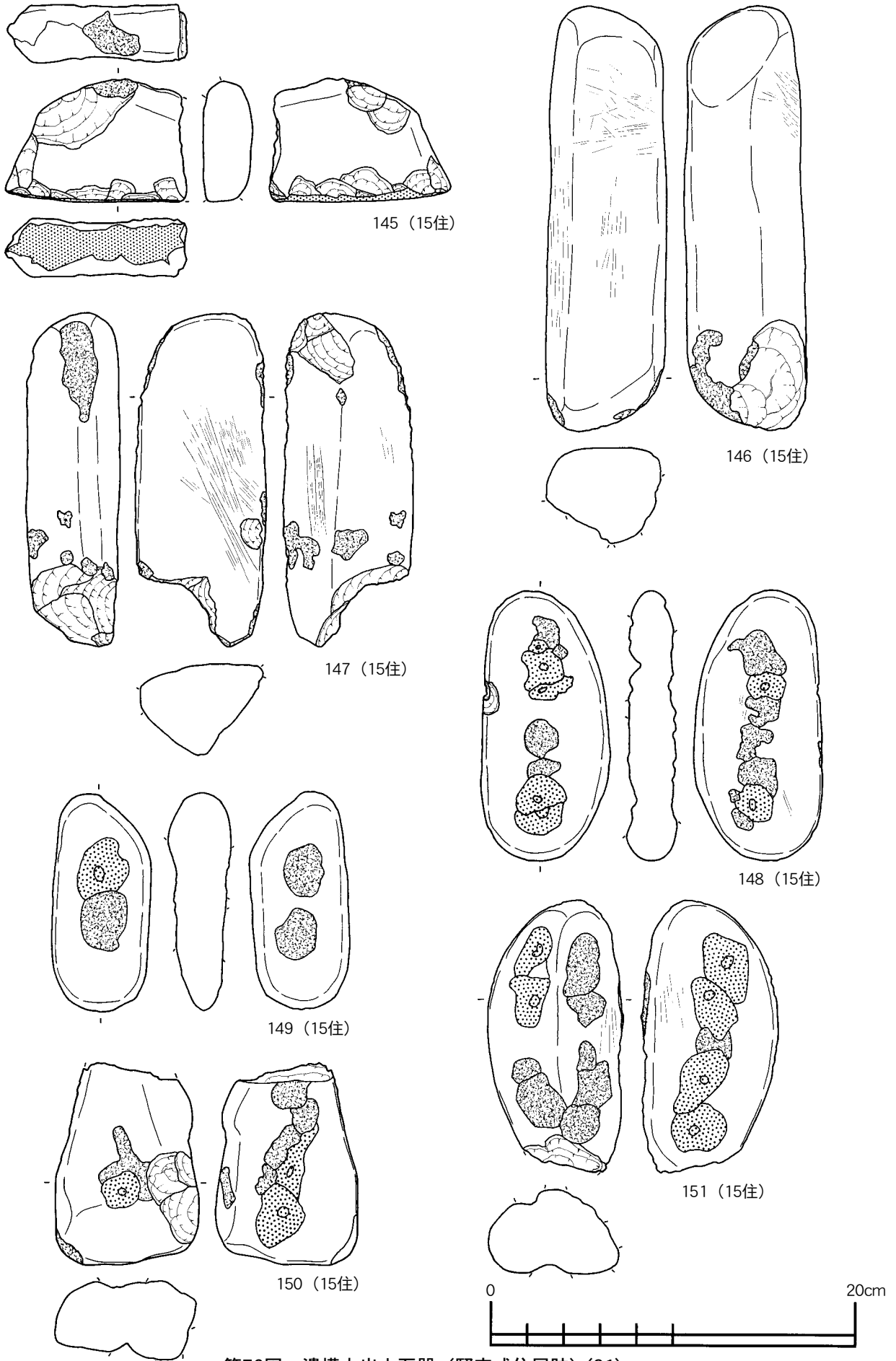
第73図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（18）



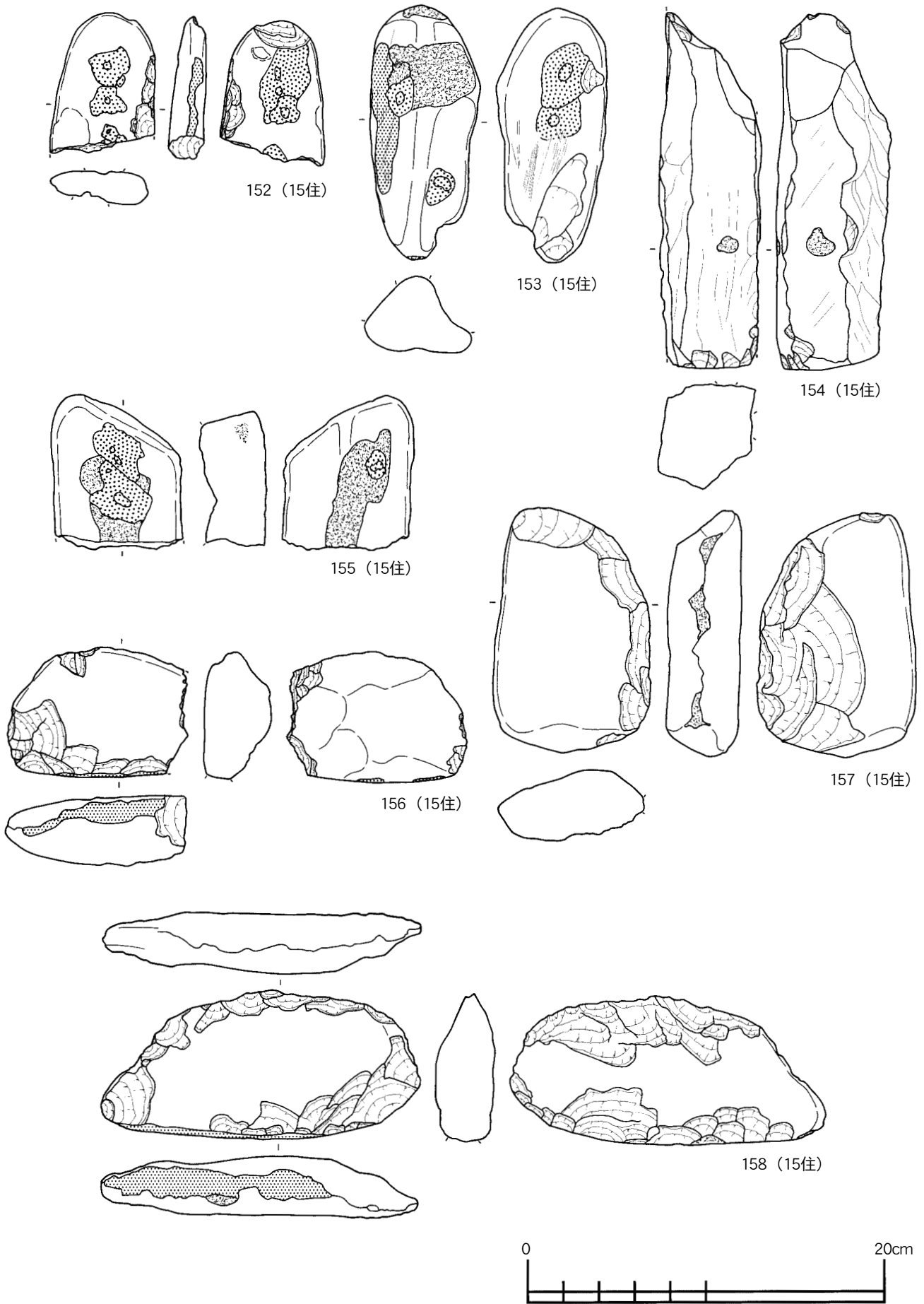
第74図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（19）



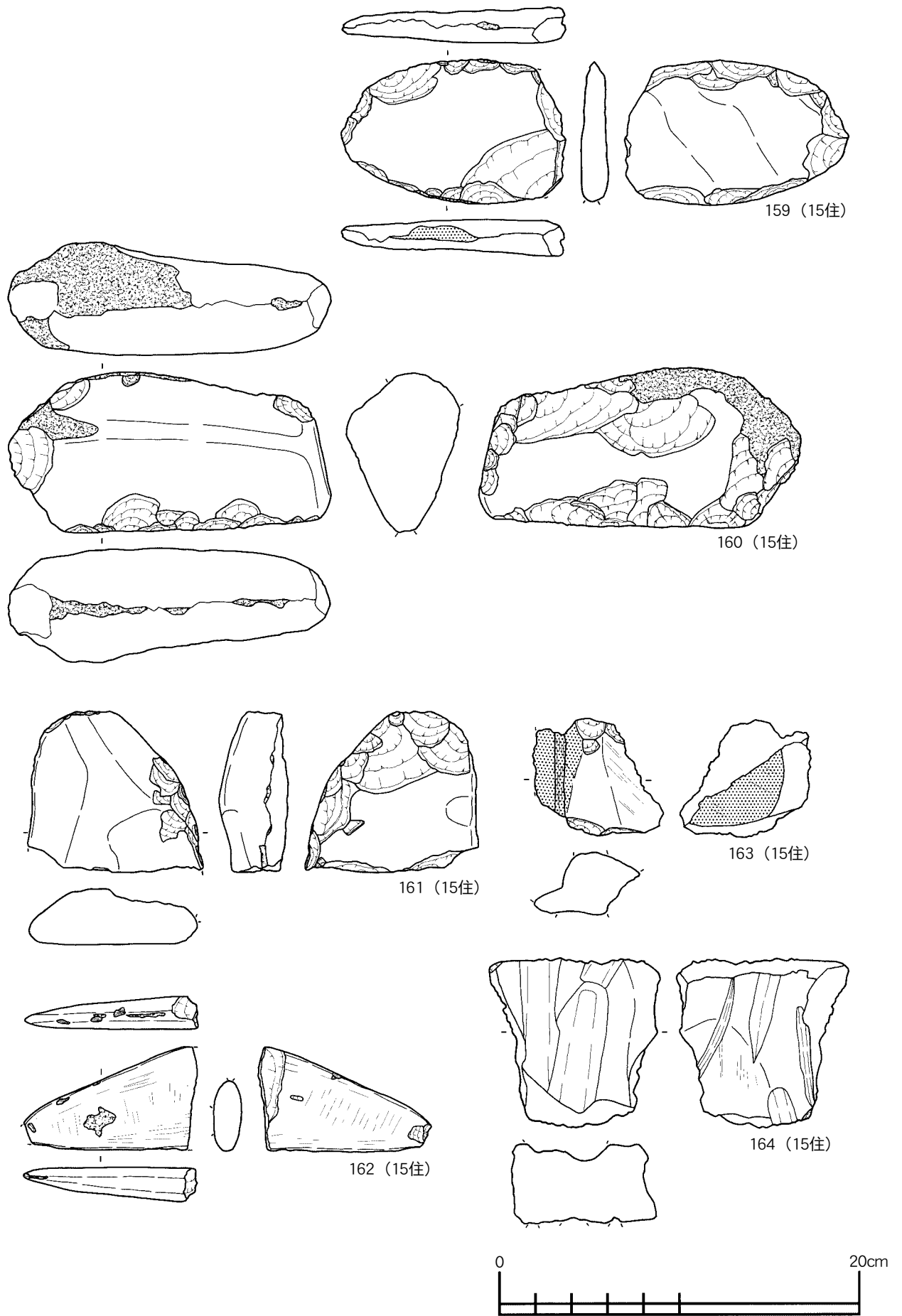
第75図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(20)



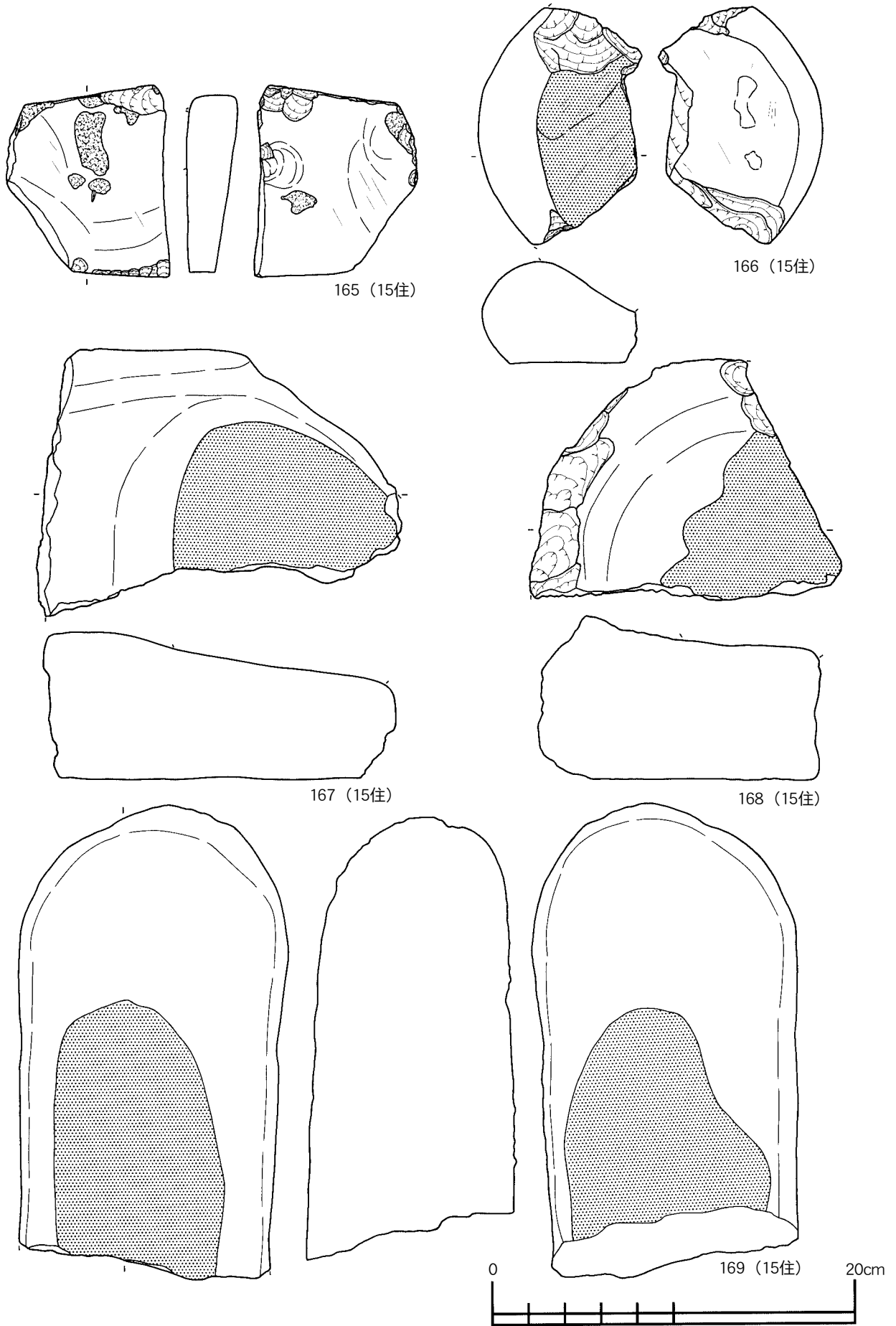
第76図 遺構内出土石器 (竪穴式住居跡) (21)



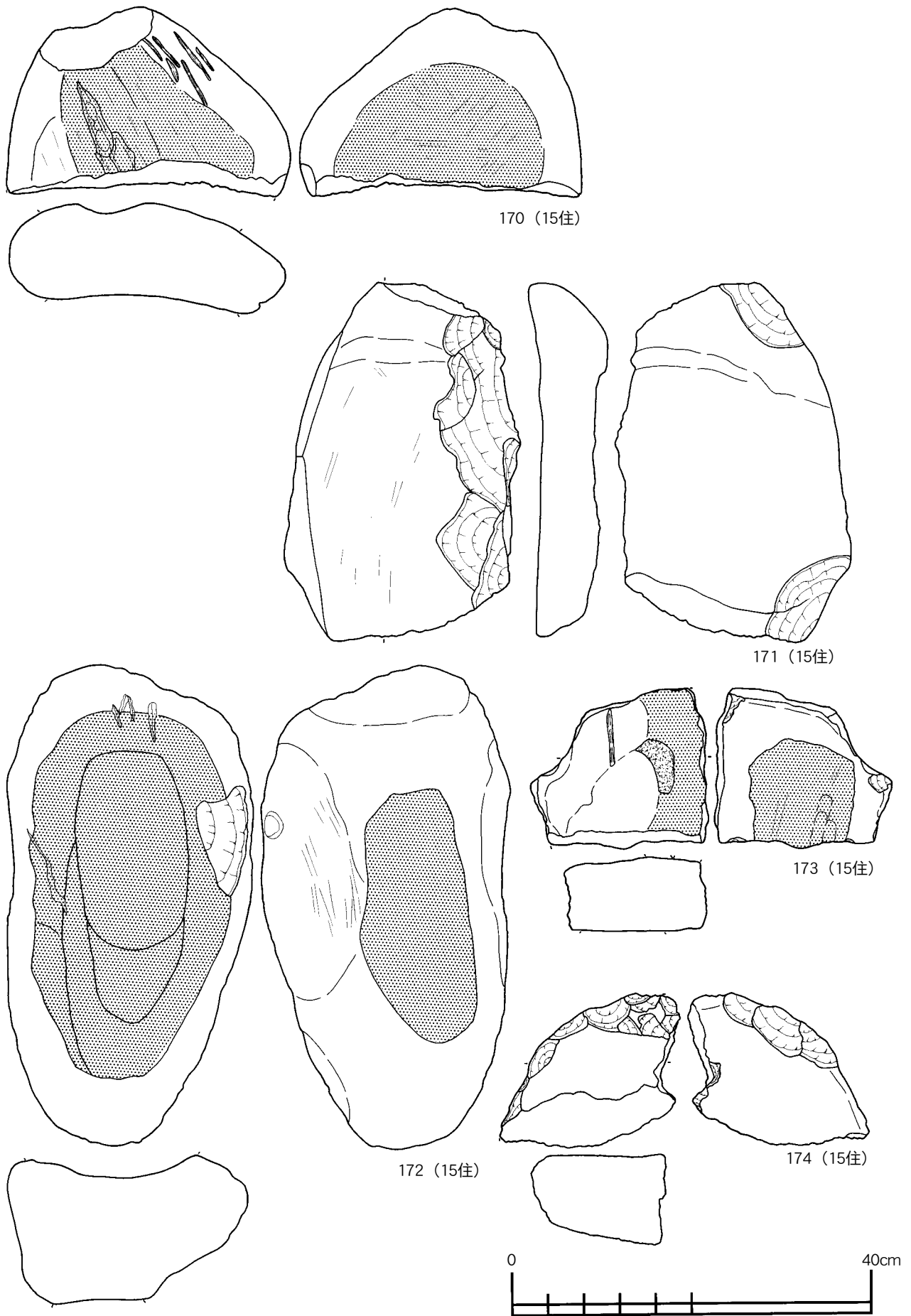
第77図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(22)



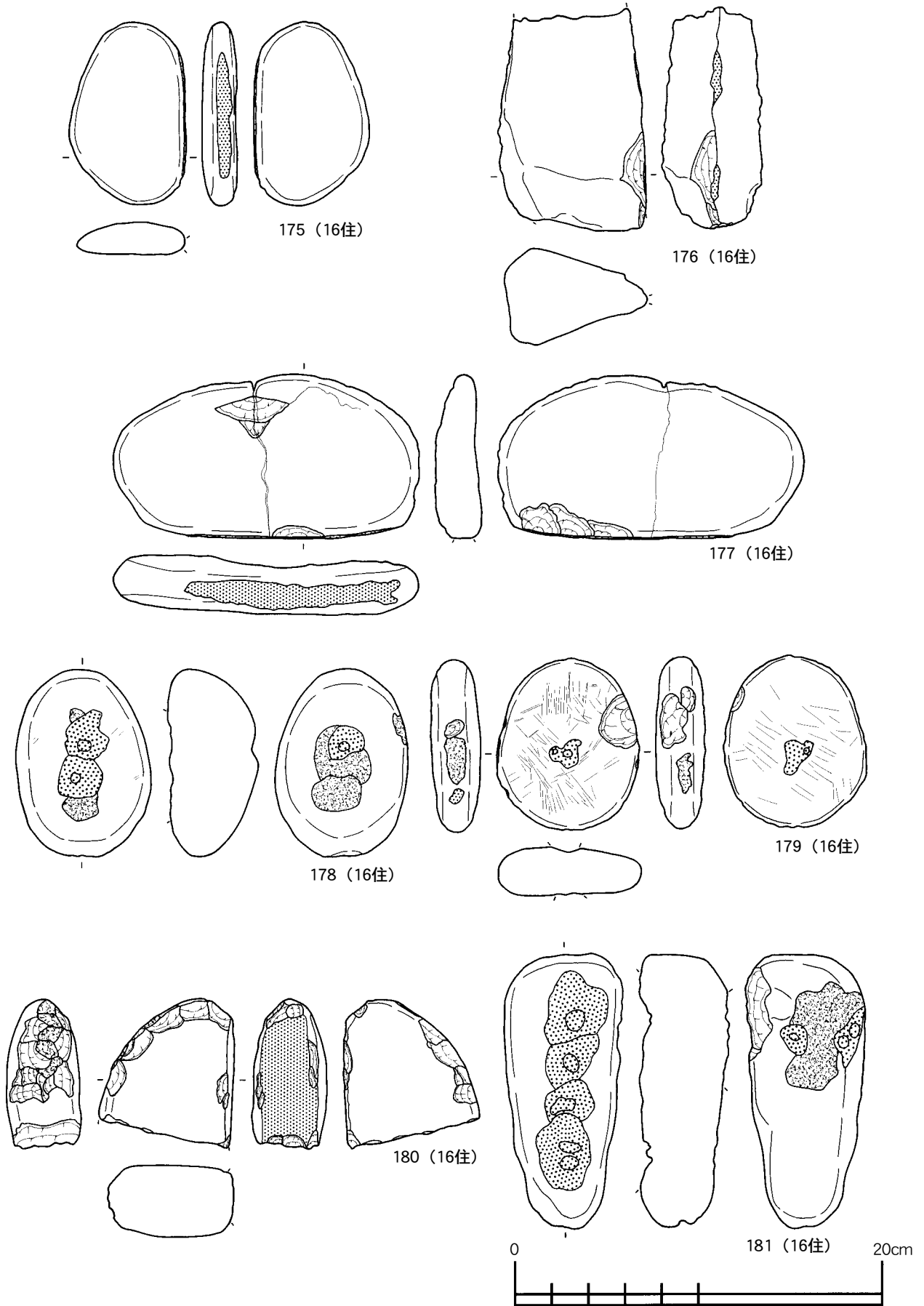
第78図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(23)



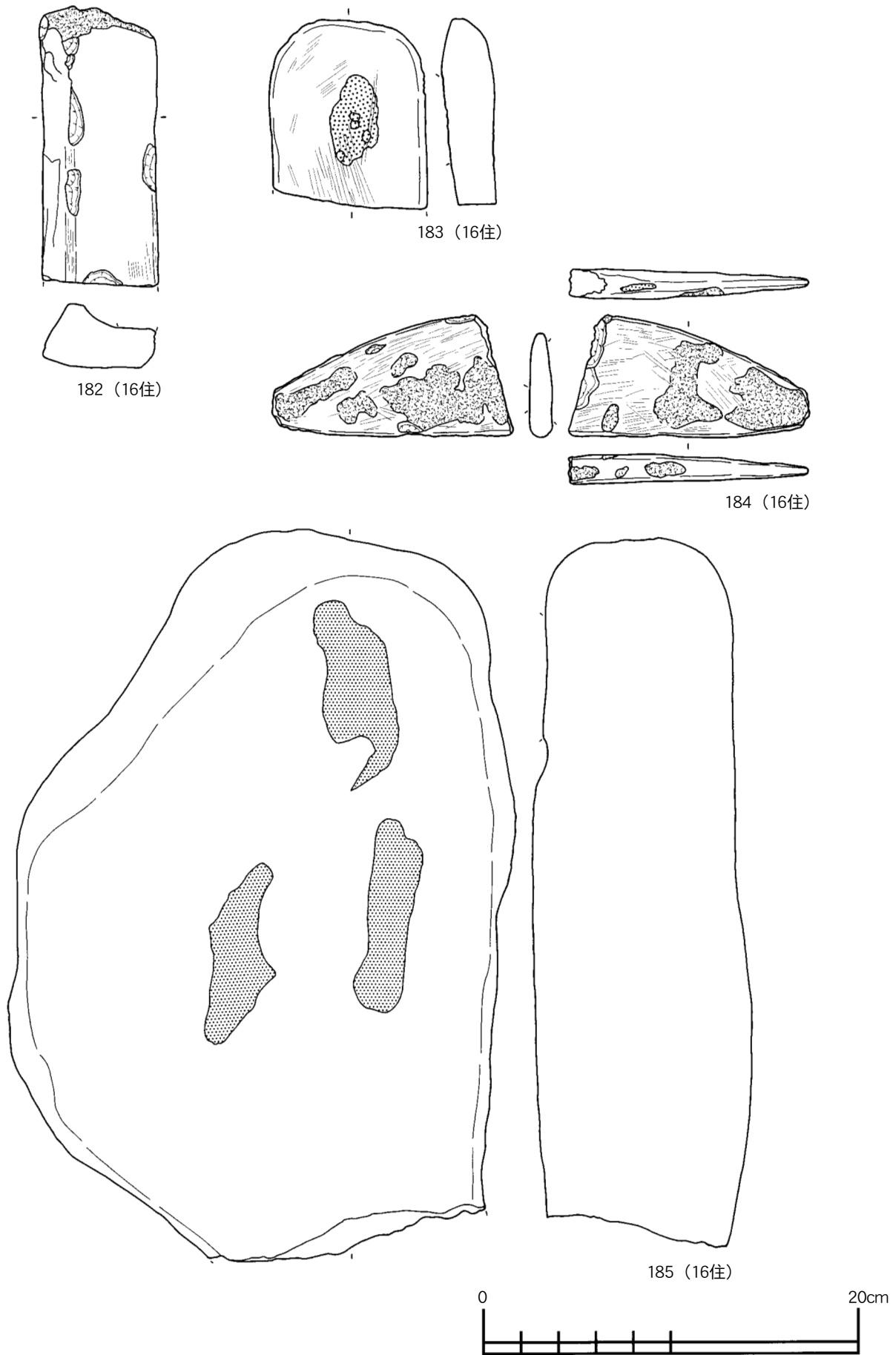
第79図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(24)



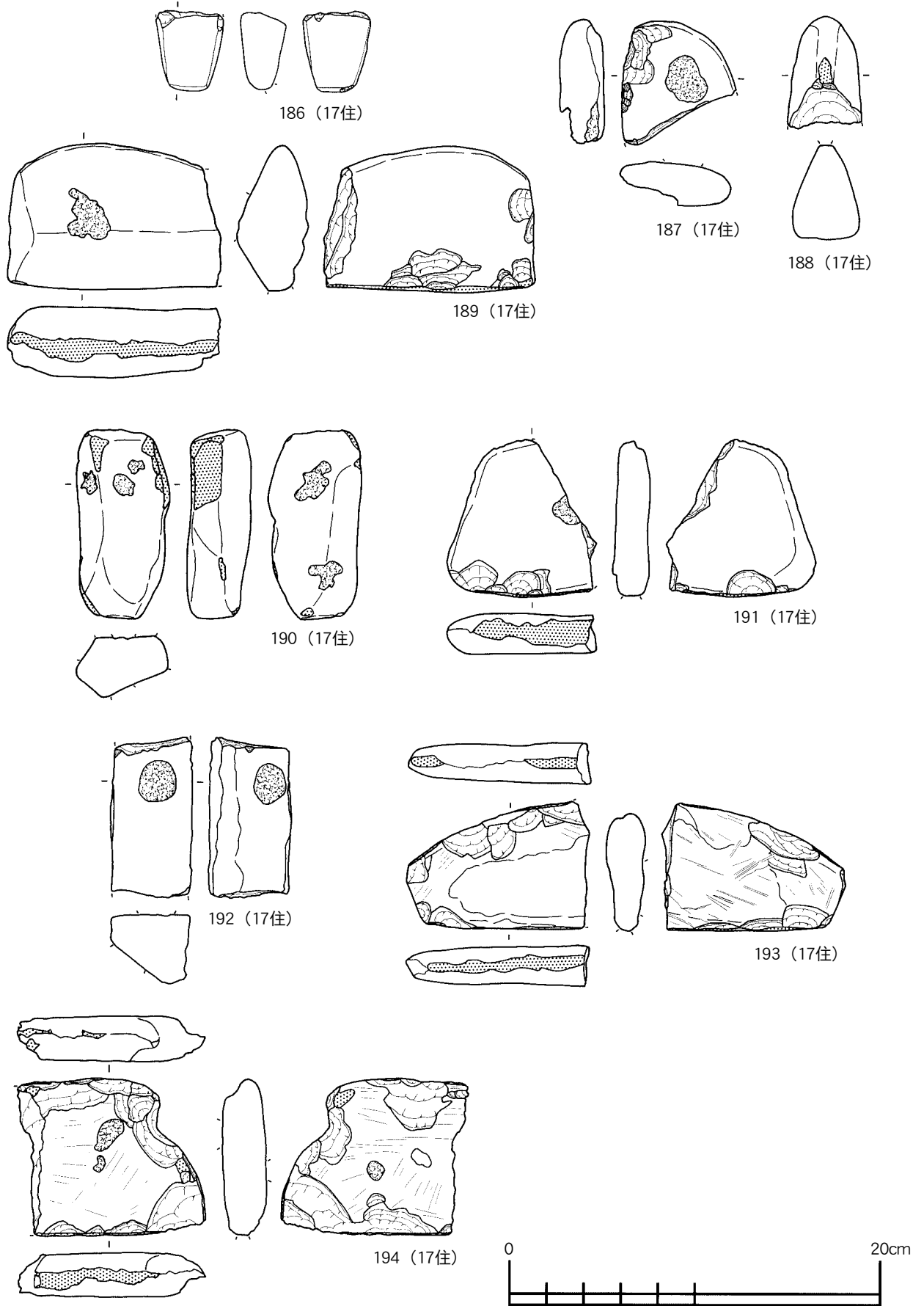
第80図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）（25）



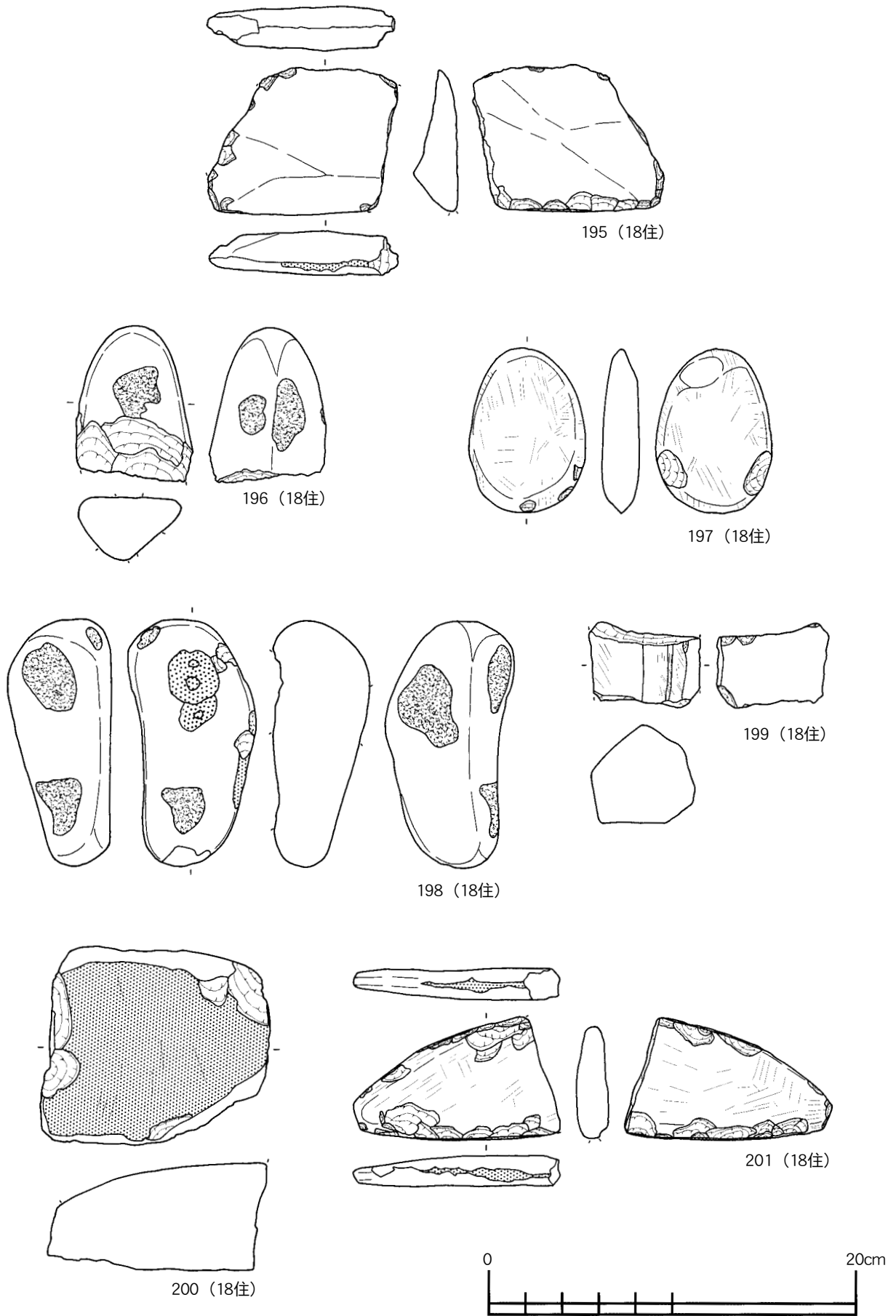
第81図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(26)



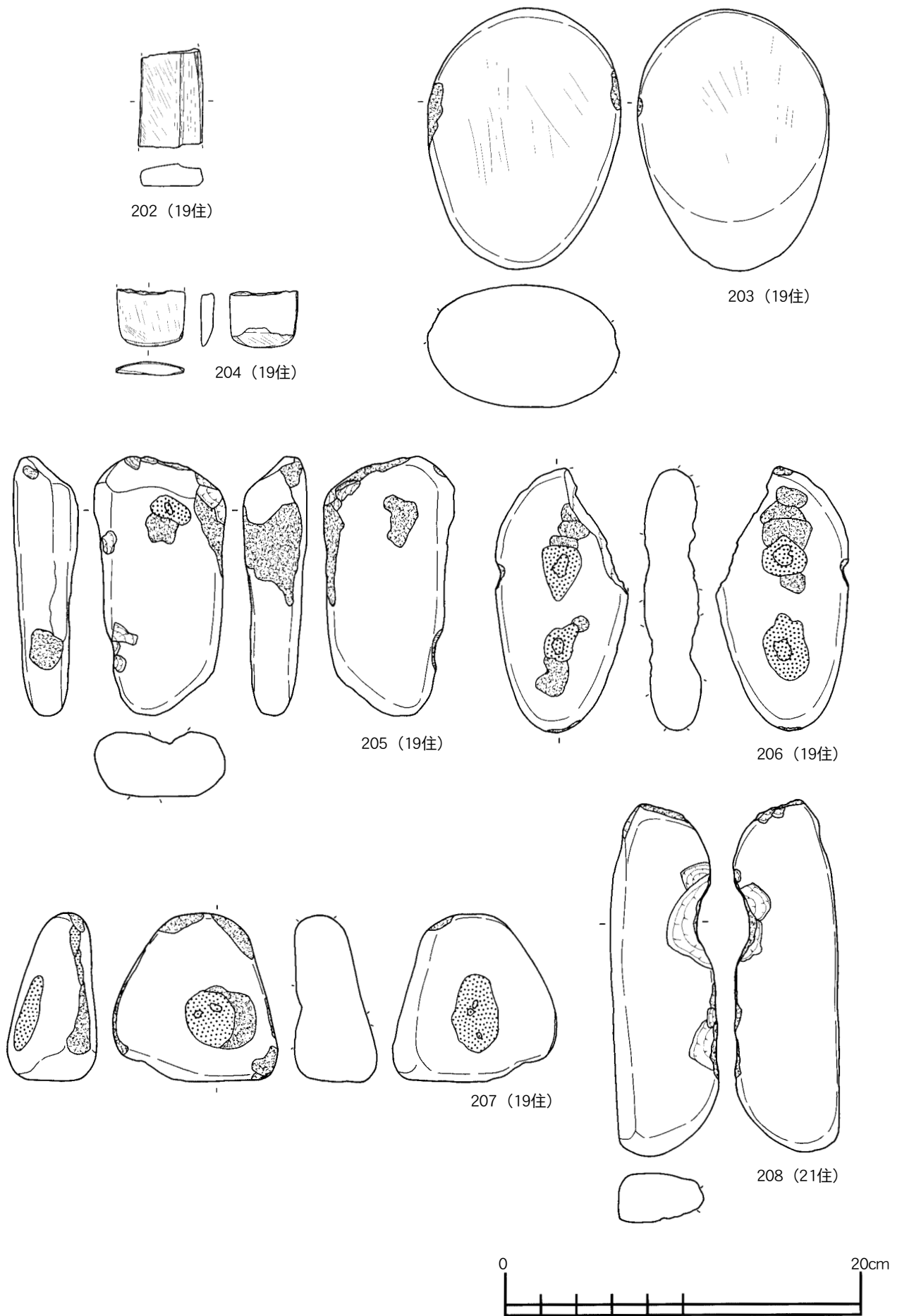
第82図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(27)



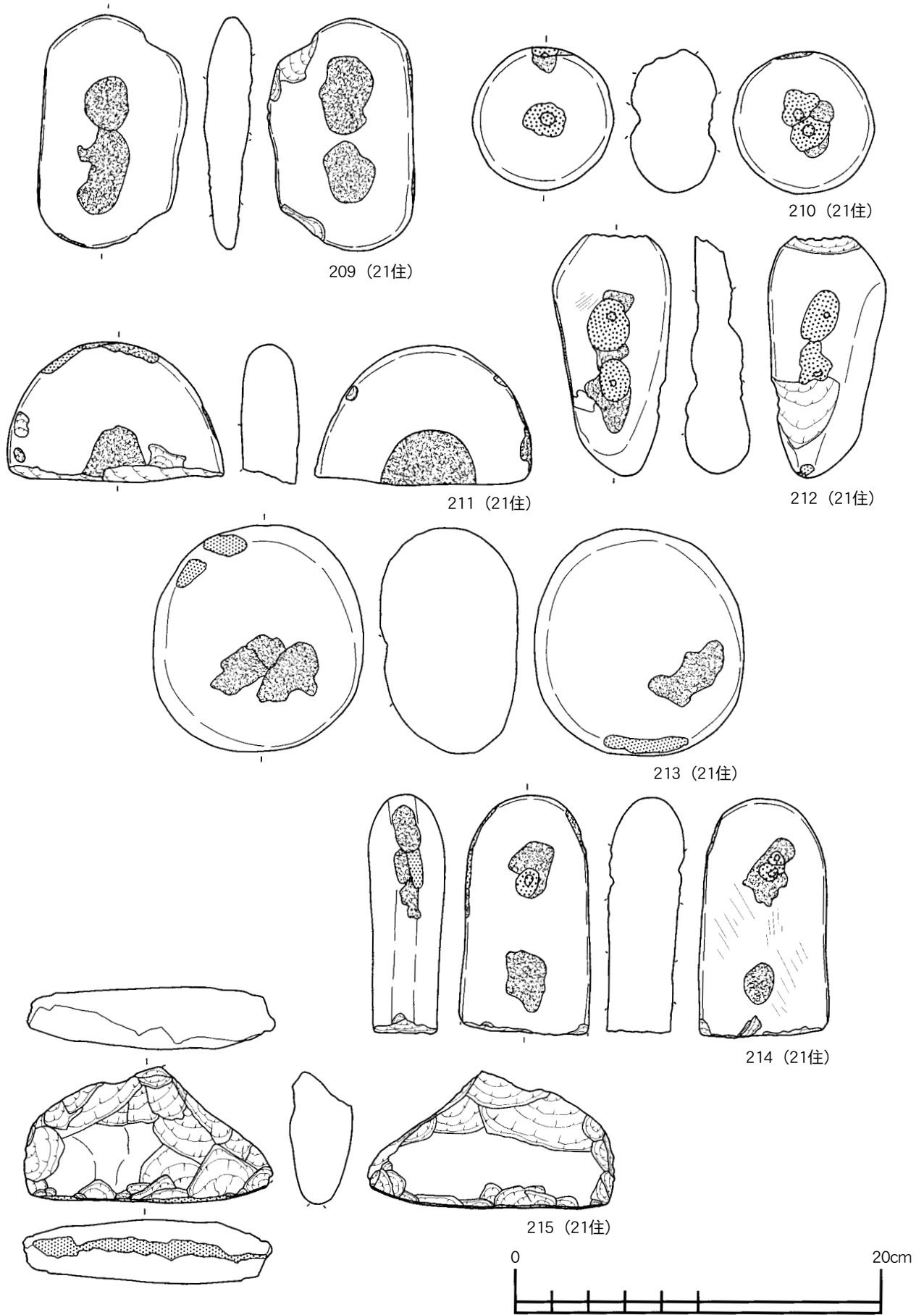
第83図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(28)



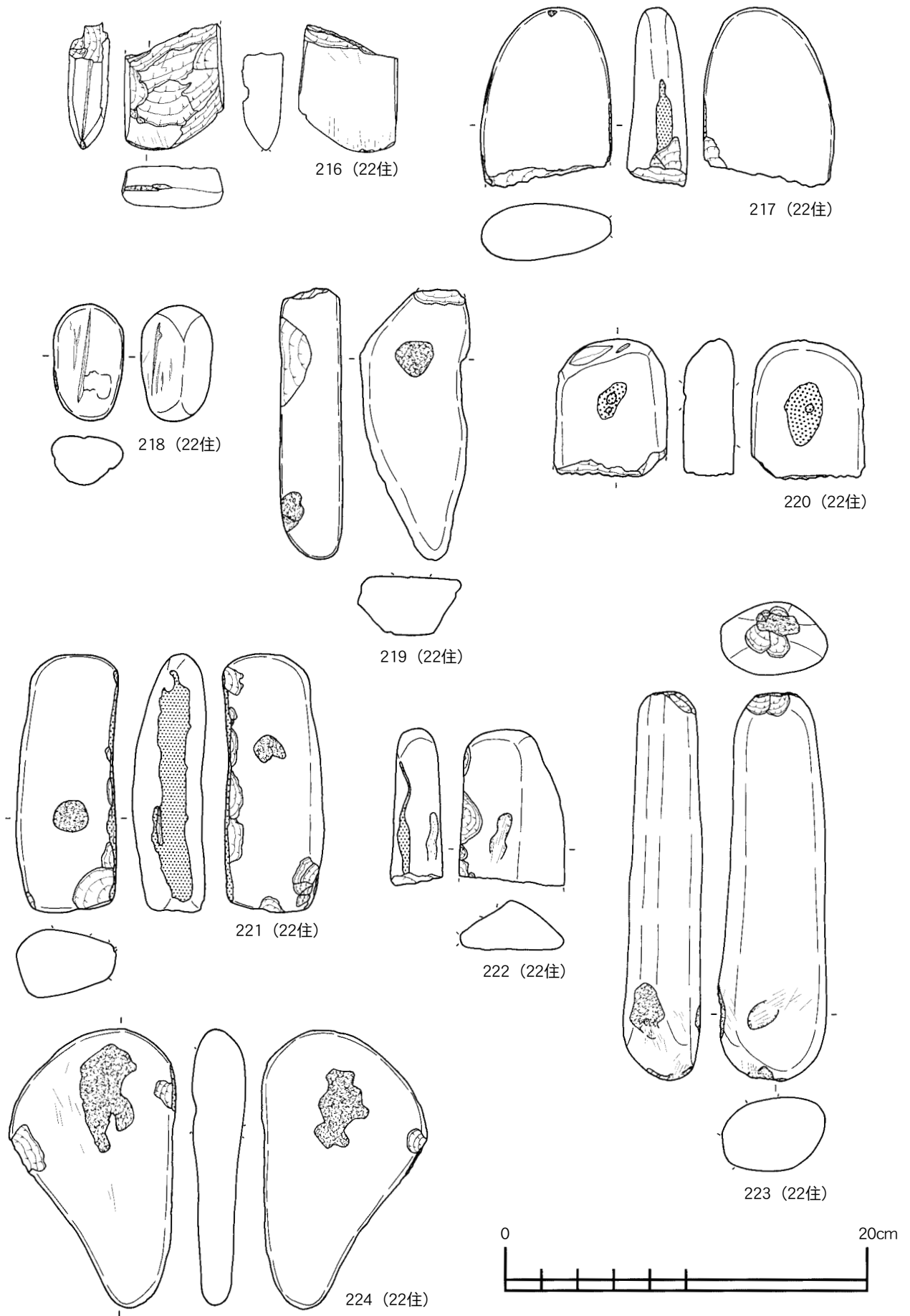
第84図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(29)



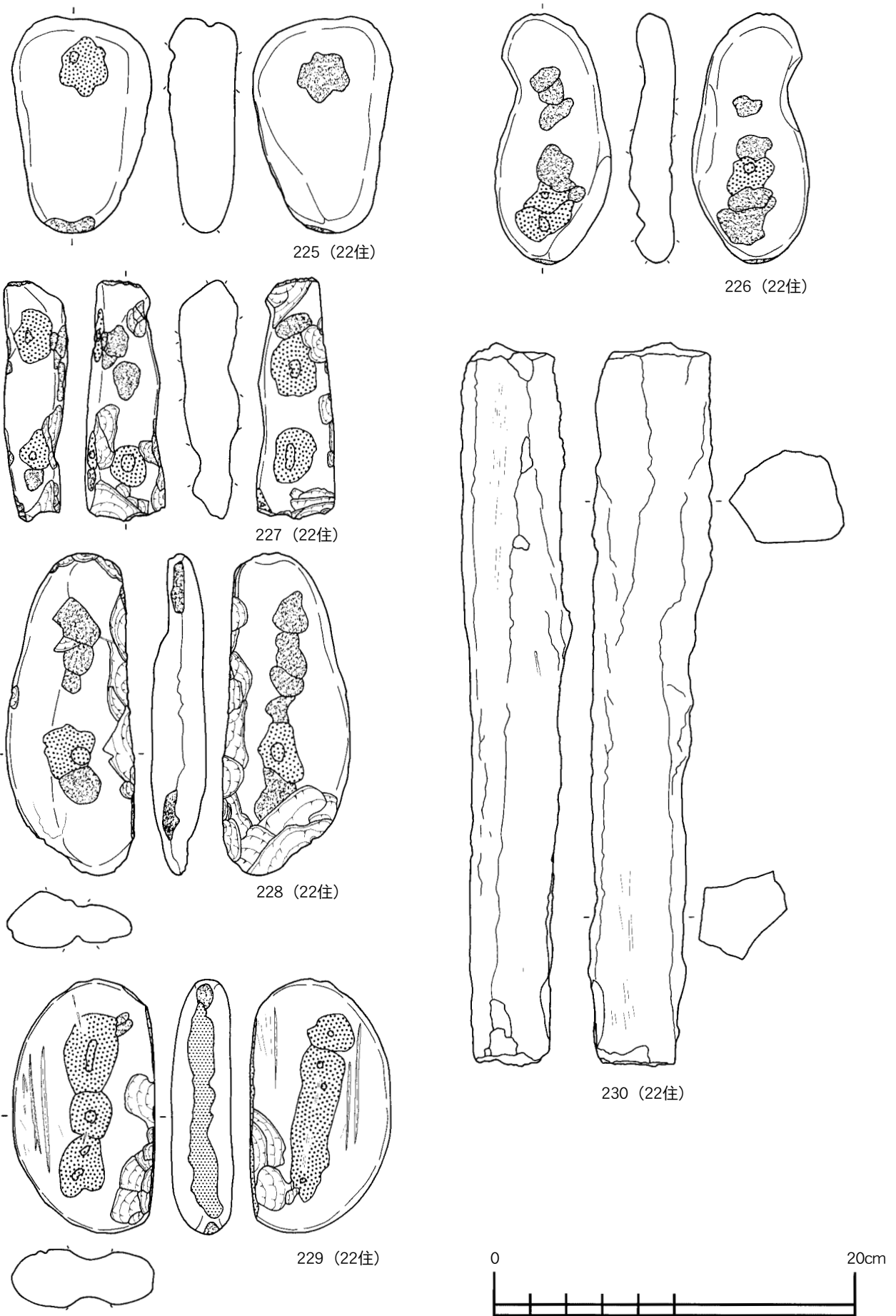
第85図 遺構内出土石器 (竪穴式住居跡) (30)



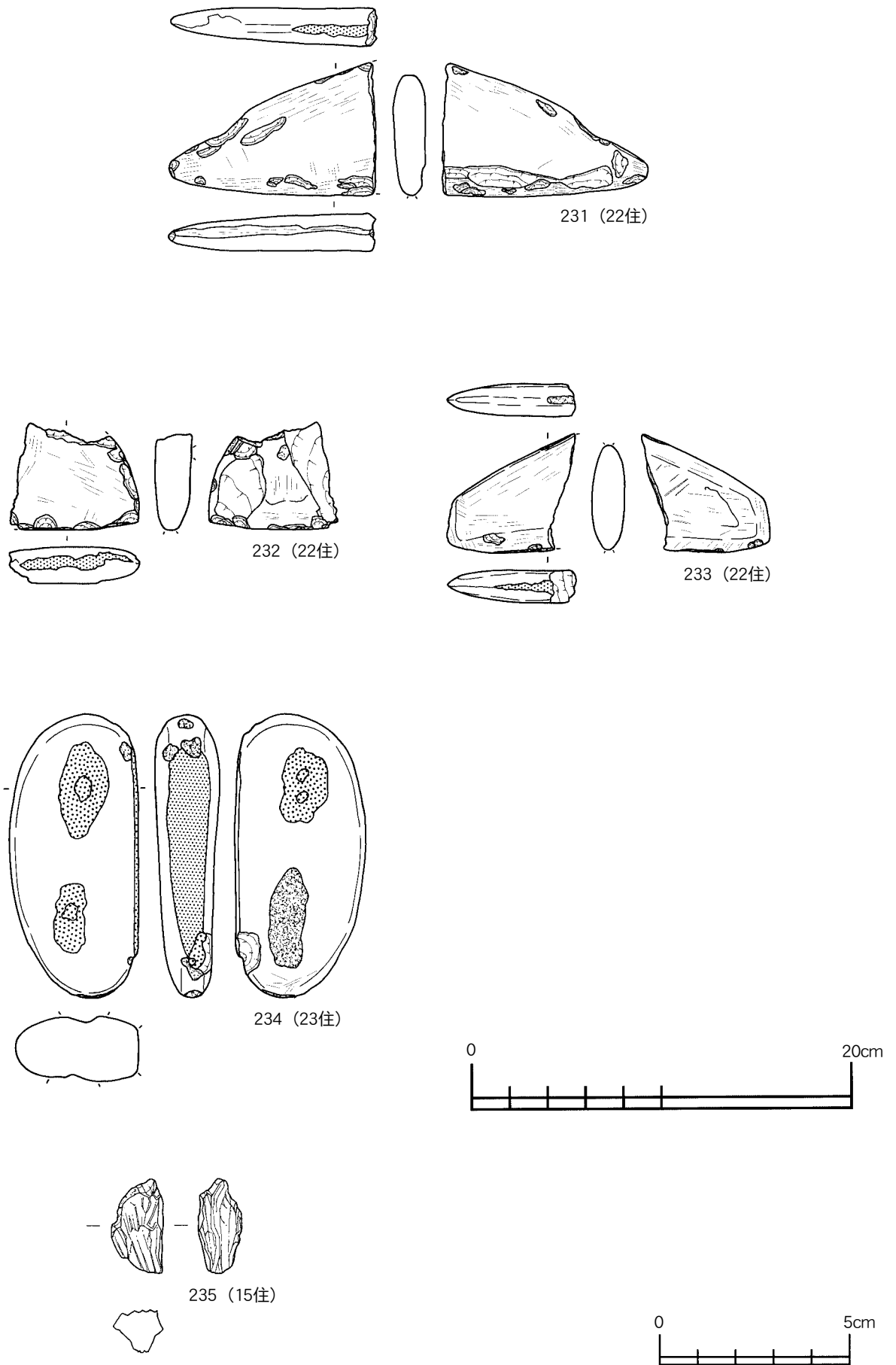
第86図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(31)



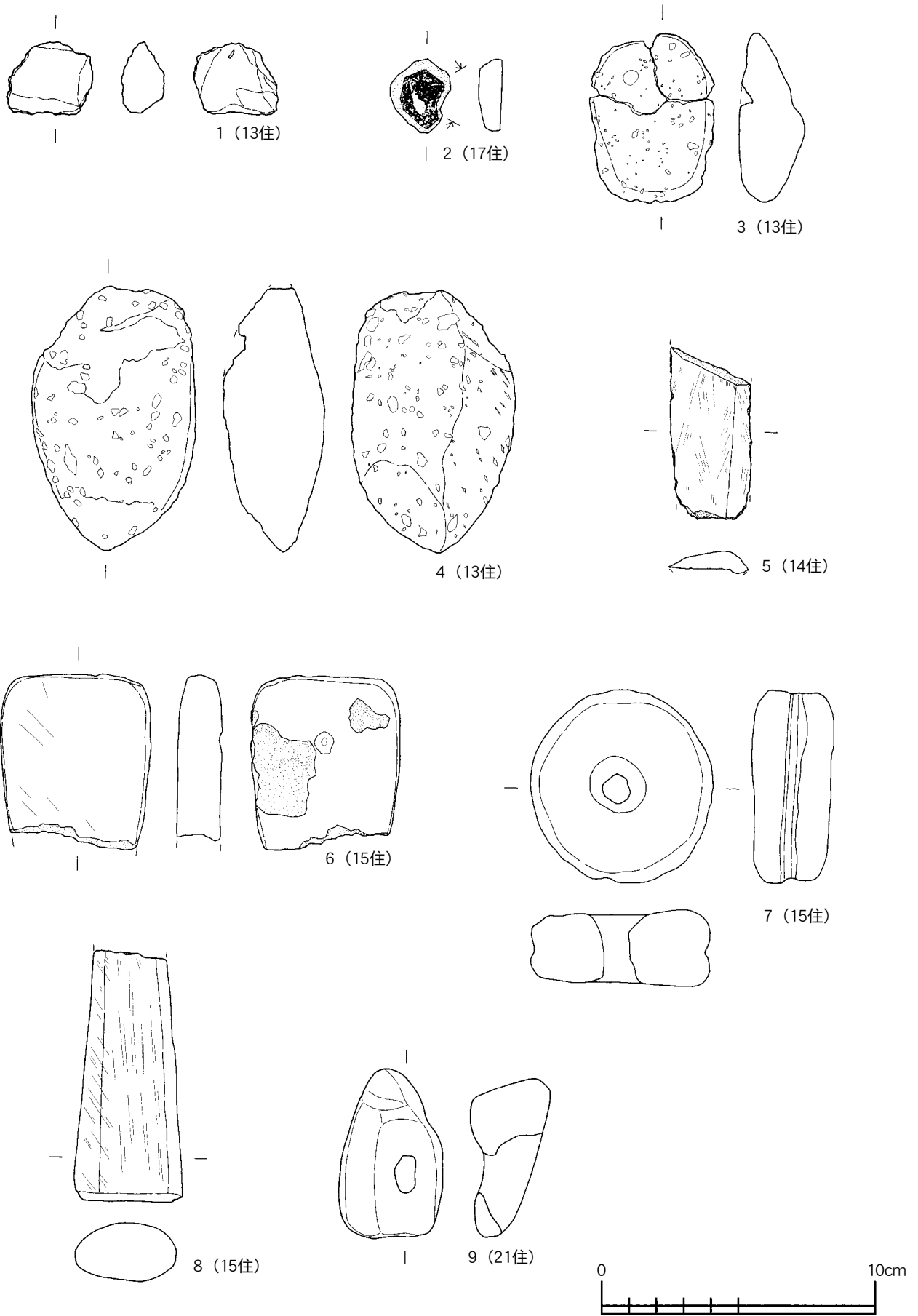
第87図 遺構内出土石器 (竪穴式住居跡) (32)



第88図 遺構内出土石器 (竪穴式住居跡) (33)



第89図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(34)



第90図 遺構内出土土製品・石製品（竪穴式住居跡）

2. 土坑

第277号土坑（第91図）

- [位置・確認層] AC・AD - 146グリッドに位置する。第 a 層において確認した。
- [重複] 第2号竪穴式住居跡、第13号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径187cm、底面は長径216cm、深さは132cmである。
- [壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。
- [底面] 若干の起伏を有する。西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 13層に分層した。第1～10層は、黒褐色～褐色土、赤褐色土が堆積し、黒褐色土、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。第11～13層は暗褐色土、黒褐色土が堆積しロームを少量ないし微量含む。第12、13層は、自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第12、10、5、4～1層より第 群5 a類、6類土器（第168図1、3、4、8、11、13～15）、第11、9、8、6～4、1層より第 群4類土器（第168図7）第 群土器（第168図2、5、6、9、10、12、16）が出土している。
- 石器は、第9層より石皿・台石1類が1点（第207図117）、第8層より不定形石器1類Bが1点（図示していない）、第7層よりその他の剥片石器が1点（図示していない）、第6層より不定形石器1類Aが1点（図示していない）、敲磨器類4類Dが1点（第207図112）、第3層より不定形石器3類が1点（図示していない）、第2層より不定形石器1類Cが1点（図示していない）、覆土より石鏃3類2が1点（第193図1）、石匙1類が1点（第193図2）、不定形石器1類Fが1点（図示していない）、3類が1点（図示していない）、敲磨器類1類Eが1点（第207図114）、4類Aが2点（第207図111、113）、石皿・台石1類が2点（第207図115、116）出土している。
- 土製品は、第6層より土器片利用土製品が3点（第223図1～3）、第4層より土器片利用土製品が1点（第223図4）、覆土より土器片利用土製品が2点（第223図5、6）出土している。
- 石製品は、第6層より三角形岩版が2点（第227図1、2）、覆土より円形岩版が1点（第227図3）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第282号土坑（第91図）

- [位置・確認層] AD - 145、146グリッドに位置する。第 a 層において確認した。
- [重複] 第13号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は114cm×97cm、底面は110cm×103cm、深さは53cmである。
- [壁] 北側は中位に屈曲部を有し外側へ立ち上がる。他はオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 起伏を有する。東側から西側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 7層に分層した。第4層は暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。他は、黒褐色～明赤褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、礫を多量含む。第4層は判然としないが他は人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第6、3層より第 群6類土器（第168図17、18）、第3、1層、覆土より第 群4類、5類、11類土器（第155図1、第168図19～22）が出土している。
- 石器は、覆土より不定形石器1類Aが1点（第193図3）、不定形石器1類Cが1点（第193図4）、類が1点（図示していない）出土している。

土製品は、第6層より土器片利用土製品が1点(第223図7)、第3層より土器片利用土製品が1点(第223図8)、覆土より土器片利用土製品が2点(第223図9、10)出土している。

石製品は、第3層より球状石製品が1点(第227図5)、覆土より碗状石製品が1点(第227図4)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第295号土坑(第91図)

[位置・確認層] AD-145グリッドに位置する。第296号土坑、第2号竪穴式住居跡覆土において確認した。

[重複] 第296号土坑、第2号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径187cm、底面は長径180cm、深さは116cmである。

[壁] おおむね西側は外側へ直線的に立ち上がり、東側は若干オーバーハングして立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。外側から中央へ若干の傾斜が見られる。底面中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 16層に分層した。第3、6、7層は重複する第296号土坑覆土の崩落土と思われる。他は黒褐色～黄褐色土、赤褐色土が堆積し、各層ロームを含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第16、13、10、8、6、4層、覆土より第3群3類、5a類、6類土器(第168、169図23、30、31、34、36、41、43、45、48)、第16、13、12、10、8、6、4、1層、覆土より第3群3、4、7、10類土器(第168、169図26、27、33、39、40、49)、第3群土器(第168、169図24、25、28、29、32、35、37、38、42、44、46、47)が出土している。

石器は、第23層より不定形石器1類Dが1点(図示していない)、第16層より石鏃1類1が1点(第193図5)、第10層より不定形石器1類Dが1点(第193図6)、その他の剥片石器が1点(図示していない)、第7層より不定形石器2類が1点(図示していない)、第4層より不定形石器1類Dが1点(図示していない)、第3層より敲磨器類2類Bが1点(図示していない)、覆土より敲磨器類4類Aが1点(図示していない)出土している。

土製品は、第19層より土器片利用土製品が1点(第223図11)、第4層より土器片利用土製品が1点(第223図12)、第2層より土器片利用土製品が1点(第223図13)出土している。

[時期] 遺構確認層及び出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第296号土坑(第91図)

[位置・確認層] AD-145グリッドに位置する。第c層において確認した。

[重複] 第295号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は最長86cm、底面は最長144cm、深さは131cmである。

[壁] 残存部は、オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 11層に分層した。第1、5、9層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、混合土ないしロームを含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第11、8、3、2層、覆土より第3群5a類、6類土器(第169図50～52、54、

55) 第3層、覆土より第 群2類土器(第169図56)、第 群土器(第169図53)が出土している。

石器は、覆土より不定形石器1類Eが1点(第193図7)、不定形石器3類が1点(図示していない)出土している。

[時期] 遺構確認層及び出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第304号土坑(第91図)

[位置・確認層] AC - 144グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第306号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径82cm、底面は長径134cm、深さは110cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央部と東壁の間に底面ピットを有する。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積し、ローム、角礫を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第169図59)、第1層、覆土より第 群5類土器(第169図58)、第 群土器(第169図57)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第306号土坑(第91図)

[位置・確認層] AC・AD - 143、144グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第304号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は最長78cm、底面は長径133cm、深さは155cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 13層に分層した。第1～6、8、10層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～橙色土、明赤褐色土が堆積し、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第8、1層より第 群土器(第169図60、61)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第318号土坑(第92図)

[位置・確認層] AD・AE - 145グリッドに位置する。第 c層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径128cm、底面は長径139cm、深さは97cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。南側は外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 12層に分層した。第6、7、9、11、12層は黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第11、6～3層より第群5a類、6類土器(第169図62、67、69、71、72) 第11～9、6、5、3、2層より第群4類、8類土器(第169図63、73) 第群土器(第169図64～66、68、70、74)が出土している。

石器は、第11層より不定形石器1類Aが1点(第194図9)、1類Cが1点(第194図8) 覆土より敲磨器類2類Cが1点(図示していない)出土している。

[時期] 遺構確認層及び出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第327号土坑A(第92図)

[位置・確認層] AE・AF-144グリッドに位置する。第a層において確認した。

[重複] 第327号土坑Bと重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長55cm、底面は最長52cm、深さは63cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第1、4、5層は暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層より第群6類土器(第169図76) 第3層より第群土器(第169図75)が出土している。

石器は、第3層より石匙1類が1点(第194図10)出土している。

[時期] 遺構確認層及び出土遺物、遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第327号土坑B(第92図)

[位置・確認層] AE・AF-144グリッドに位置する。第c層において確認した。

[重複] 第310号土坑、第327号土坑Aと重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長152cm、底面は最長137cm、深さは33cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構上部に第c層が堆積しており、縄文時代前期の土坑と思われる。

第328号土坑(第92図)

[位置・確認層] AE-145グリッドに位置する。第c層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径90cm、底面は長径83cm、深さは33cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部北西側に底面ピットを有する。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は、第2層中にブロック状に混入する。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群3類土器(第169図78) 第2、1層より第 群土器(第169図77、79)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第330号土坑(第92図)

[位置・確認層] A E - 148グリッドに位置する。第 a層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径164cm、底面は長径156cm、深さは23cmである。

[壁] 北側はおおむね直線的に立ち上がる。南側は外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、炭化物を多量含む。第2層は極暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。第1層は判然としないが、第2層は、自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群5 a類土器(第170図91、94) 第2、1層より第 群4～6類土器(第170図92、93、96、97) 第 群土器(第170図95、98)が出土している。

石器は、第1層より石錐1類が1点(第194図11)、敲磨器類2類Eが2点(第208図118、119)、3類が1点(第208図120)出土している。

[時期] 遺構確認層及び出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第335号土坑(第146図)

[位置・確認層] A F - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は32cm×24cm、底面は25cm×20cm、深さは19cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第336号土坑(第146図)

[位置・確認層] A F - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径20cm、底面は長径16cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第337号土坑（第146図）

- [位置・確認層] A F - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は24cm、底面は18cm、深さは13cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第338号土坑（第146図）

- [位置・確認層] A F - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は44cm×32cm、底面は40cm×28cm、深さは13cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 西側から東側への傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第349号土坑（第92図）

- [位置・確認層] A D - 145グリッドに位置する。第 層及び第13号竪穴式住居跡覆土において確認した。
- [重複] 第2号竪穴式住居跡、第13号竪穴式住居跡、第6号溝状遺構と重複し、本遺構は第2号竪穴式住居跡、第13号竪穴式住居跡より新しく、第6号溝状遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径144cm、底面は長径145cm、深さは66cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。
- [堆積土] 13層に分層した。第3、6、8、9、12層は暗褐色土が堆積しロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第13、5～3層より第 群5 a類、6類土器（第170図99、105、107、108）第12、9、6、5、3～1層より第 群6類、10類土器（第170図101、102、109）第 群土器（第170図100、103、104、106、110、111）が出土している。
石器は、第9層より石筥1類が1点（第194図13）、敲磨器類2類Eが1点（第208図121）、覆土より不定形石器3類が1点（図示していない）出土している。
土製品は、第12層より土器片利用土製品が1点（第223図14）、第9層より土器片利用土製品が1点（第223図15）、第1層より土器片利用土製品が1点（第223図16）、覆土より土器片利用土製品が1点

(第223図17) 出土している。

石製品は、覆土より円形岩版が1点(第227図6) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第451号土坑(第92図)

[位置・確認層] AC - 145、146グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第2号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は56cm×40cm、底面は長径18cm、深さは29cmである。

[壁] 南側の一部は外側へ直線的に立ち上がるが、その他はオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏と南西側から北東側への傾斜が見られる。南東壁側に底面ピットを有する。

[堆積土] 4層に分層した。黒色～褐色土が堆積し、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4～1層より第 群6類土器(第170図114～117) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第501号土坑(第93図)

[位置・確認層] AF - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第502号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径200cm、底面は長径140cm、深さは113cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏を有するがほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、6層より第 群5a類、6類土器(第170図141、142、144) 第7、5、1層より第 群4、5類土器(第170図146、147) 第 群土器(第170図143、145) が出土している。

石器は、覆土より石匙3類が1点(図示していない) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第502号土坑(第93図)

[位置・確認層] AE・AF - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第501号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長125cm、底面は長径168cm、深さは129cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 11層に分層した。第9～11層は暗褐色土が堆積しロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積しローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第10～7、5、2層より第 群5a、6類土器(第170、171図148、151、155、

158、162、169) 第10～1層より第 群4類、5類、8類土器(第155図2、3、6、第170、171図149、150、153、154、157、160、161、163、164、167、168、170～173) 第 群土器(第171図152、156、159、165、166)が出土している。

石器は、第4層より敲磨器類4類Dが1点(図示していない) 石皿・台石1類が1点(第208図122)出土している。

土製品は、第9層より土器片利用土製品が1点(第223図19) 第7層より土器片利用土製品が1点(第223図20) 第6層より土器片利用土製品が1点(第223図21) 第4層より土器片利用土製品が1点(第223図22) 第3層より土器片利用土製品が1点(第223図23) 第2層よりミニチュア土器が1点(第223図18)出土している。

石製品は、覆土より有孔石製品が1点(第227図7)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第503号土坑(第93図)

[位置・確認層] A F・A G - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第506号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径170cm、底面は長径190cm、深さは66cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 7層に分層した。第1層は、ロームを微量含み、判然としないが、他は、黒褐色～褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、4、2、1層より第 群3、5 a、6類土器(第171図174、175、177、179) 第4、1層より第 群6類土器(第171図178) 第 群土器(第171図176)が出土している。

石器は、第2層より敲磨器類1類Eが1点(図示していない) 覆土より剥離のある礫が1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第504号土坑(第93図)

[位置・確認層] A F・A G - 134グリッドに位置する。第 、 a層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径165cm、底面は長径151cm、深さは126cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。西側は一部オーバーハングしている。

[底面] 若干の起伏を有するがほぼ平坦である。東壁側に底面ピットを有する。

[堆積土] 6層に分層した。第2、3、6層は暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、4、2、1層、覆土より第 群3、5 a、6類土器(第171、172図180～183、187) 第1層より第 群8類土器(第171図185) 第 群土器(第171図184)が出土している。

石器は、覆土より石匙2類が1点(第194図12)出土している。

[時期] 遺構確認層及び出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第505号土坑（第93図）

[位置・確認層] A F・A G - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は204cm×170cm、底面は191cm×142cm、深さは34cmである。

[壁] 外側に緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏を呈する。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群5 a類土器（第172図188、189）が出土している。

石器は、覆土より石匙3類が1点（図示していない）、敲磨器類4類Dが1点（第209図123）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第506号坑（第93図）

[位置・確認層] A G - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第503号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径87cm、底面は長径118cm、深さは123cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 8層に分層した。第1、4～6層は、黒褐色～暗褐色土が堆積しロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色土～褐色土が堆積し暗褐色土はロームを中量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器（第172図200）第6～1層、覆土より第 群4～8類土器（第155図4、5、第172図191、192、194～197、199）第 群土器（第172図190、193、198、201）が出土している。

石器は、第5層より敲磨器類2類Aが1点（図示していない）、2類Bが1点（図示していない）、第4層より敲磨器類1類Aが1点（図示していない）、1類Eが1点（第209図126）、2類Aが1点（第209図127）、第2層より石錘1類が1点（第209図124）、第1層より敲磨器類3類が1点（第209図125）出土している。

土製品は、覆土よりミニチュア土器が2点（第223図24、25）出土している。

石製品は、第5層より三角形岩版が2点（第227図8、9）、覆土より円形岩版が1点（第227図10）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第507号土坑（第94図）

[位置・確認層] A G - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径62cm、底面は長径52cm、深さは11cmである。

[壁] 外側に緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より、第 群土器(第172図202)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第509号土坑(第94図)

[位置・確認層] A F - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は182cm×154cm、底面は156cm×131cm、深さは37cmである。

[壁] 外側に緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる

[堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積し、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より、第 群土器(第172図203)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第510号土坑(第94図)

[位置・確認層] A D - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径185cm、底面は長径167cm、深さは129cmである。

[壁] 全体として屈曲して外側に立ち上がるが、南側は一部オーバーハングする。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は炭化物を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類土器(第172図204)、覆土より第 群5類土器(第172図205)、第 群土器(第172図206)が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点(第194図14)、不定形石器1類Aが1点(第194図15)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第512号土坑(第146図)

[位置・確認層] A F - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径38cm、底面は長径30cm、深さは23cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積し、ロームを少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第513号土坑 (第146図)

[位置・確認層] A F - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径38cm、底面は長径22cm、深さは28cmである。

[壁] 外側に緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積し、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、1層より第 群7類土器 (第180図106、108)、第10、7、1層、覆土より第 群4、6類土器 (第180図105、107)、第 群土器 (第180図109) が出土している。

石器は、第1層より敲磨器類3類が1点 (図示していない) 出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第515号土坑 (第146図)

[位置・確認層] A F - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径31cm、底面は長径20cm、深さは28cmである。

[壁] 外側に緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第516号土坑 (第94図)

[位置・確認層] A F - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は63cm×40cm、底面は60cm×28cm、深さは29cmである。

[壁] 外側に緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏を有する。中央部にピットを有する。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第517号土坑 (第146図)

[位置・確認層] A F - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径30cm、底面は長径24cm、深さは29cmである。
- [壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。北側は一部オーバーハングする。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第519号土坑（第146図）

- [位置・確認層] A F - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形である。開口部は38cm × 30cm、底面は36cm × 28cm、深さは34cmである。
- [壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。西側は一部オーバーハングする。
- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積し、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第520号土坑（第146図）

- [位置・確認層] A F - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は52cm × 37cm、底面は長径33cm、深さは32cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。一部若干の起伏が見られる。
- [底面] 東側から西側への傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第521号土坑（第146図）

- [位置・確認層] A F - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径20cm、底面は長径22cm、深さは23cmである。
- [壁] やや内側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第522号土坑（第94図）

[位置・確認層] A G - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径63cm、底面は長径44cm、深さは43cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色、黄褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第523号土坑（第94図）

[位置・確認層] A D・A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第524号土坑、第535号土坑、第599号土坑と重複し、本遺構は第524号土坑、第535号土坑より古く、第599号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は172cm×139cm、底面は161cm×130cm、深さは54cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。西側は一部オーバーハングする。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 11層に分層した。第4、5、10、11層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第10、7、5、4、1層より第 群5 a類、6類土器（第172図207、208、211、213、216）、第7、5～3、1層より第 群7類、8類土器（第172図215、217）、第 群土器（第172図209、210、212、214）が出土している。

石器は、第6層より石皿・台石1類が1点（第210図128）、第1層より敲磨器類1類Bが1点（第210図129）、覆土より不定形石器1類Bが1点（第195図16）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第524号土坑（第94図）

[位置・確認層] A D・A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第523号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径45cm、底面は最長32cm、深さは17cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側への傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～にぶい黄褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第172図218）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第526号土坑（第147図）

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径25cm、底面は長径20cm、深さは27cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第527号土坑（第147図）

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は41cm×31cm、底面は20cm×13cm、深さは25cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がり、開口部北西側に段差が見られる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より、第 群土器（第172図219）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第528号土坑（第147図）

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第535号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径19cm、底面は長径12cm、深さは13cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第172図220）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第530号土坑（第94図）

[位置・確認層] A E - 137グリッドに位置する。 層において確認した。

[重複] 第693号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径212cm、底面は長径172cm、深さは111cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。西側は中位よりさらに外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。褐色土が堆積し、角礫を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3～1層より第 群3類、6類土器(第172図221、223、224)、第3、1層より第 群土器(第172図222、225)が出土している。

石器は、第2層より石匙2類が1点(第195図17)、覆土より石錐1類が1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第531号土坑(第147図)

[位置・確認層] AD-135グリッドに位置する。第535号土坑覆土において確認した。

[重複] 第535号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径18cm、底面は長径12cm、深さは6cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は暗褐色土が堆積しロームを中量含む。人為堆積と思われる。第2層は黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第532号土坑(第147図)

[位置・確認層] AD-135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径18cm、底面は長径6cm、深さは12cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器(第172図226)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第534号土坑(第95図)

[位置・確認層] AD-134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第535号土坑、第546号土坑、第754号土坑と重複し、本遺構は第754号土坑より古く、第535号土坑、第546号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長211cm、底面は長径163cm、深さは167cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。開口部付近には段差が見られる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 13層に分層した。第3、7、10層は暗褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第11～5、2、1層より第群5 a、6類土器（第156図7、8、第173図227～230、232～237）第8層、覆土より第群土器（第173図231、238、239）が出土している。

石器は、覆土より不定形石器1類Aが1点（第195図19）出土している。

土製品は、覆土よりミニチュア土器が1点（第223図26）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第535号土坑（第95図）

[位置・確認層] AD - 134、135グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第523号土坑、第528号土坑、第531号土坑、第534号土坑、第546号土坑と重複し、本遺構は第523号土坑より新しく、第528号土坑、第531号土坑、第534号土坑、第546号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長238cm、底面は最長240cm、深さは35cmである。

[壁] 東側、西側は、外側へ直線的に立ち上がり、南側は一部オーバーハングする。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第4、6層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、4層、覆土より第群5 a類、6類土器（第173図240、242、245）第5、4、1層、覆土より第群7類土器（第173図244）第群土器（第173図241、243、246）が出土している。

石器は、第5層より不定形石器3類が1点（図示していない）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第536号土坑（第95図）

[位置・確認層] AD - 136、137グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第537号土坑、第569号土坑と重複し、本遺構は第537号土坑より新しく、第569号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径172cm、底面は長径159cm、深さは25cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第2層は、褐色土が堆積し角礫を中量含む。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第群6類土器（第173図247）覆土より第群5類土器（第173図248）が出土している。

石器は、底面より石槍が1点（第195図18）覆土より不定形石器4類が1点（図示していない）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第537号土坑（第95図）

[位置・確認層] AD - 136、137グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第536号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長140cm、底面は長径114cm、深さは25cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群土器（第173図249）が出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点（第223図27）出土している。

[時期] 出土遺物及び以降間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第538号土坑（第95図）

[位置・確認層] A D - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第569号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は160cm×73cm、底面は143cm×65cm、深さは24cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。また、起伏が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第173図250）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第539号土坑（第95図）

[位置・確認層] A D・A E - 136、137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第540号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長193cm、底面は最長176cm、深さは42cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。また、起伏が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器（第173図251）、覆土より第 群7類土器（第173図252）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第540号土坑（第96図）

[位置・確認層] A D・A E - 136、137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第539号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は144cm×109cm、底面は138cm×92cm、深さは91cmである。

[壁] 北側はオーバーハングする。南側は緩やかに立ち上がり、開口部付近に段差が見られる。他は、やや外側に直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第2、5層は黒褐色～暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、1層より第群6類土器(第173図253、262)、第5～1層、覆土より第群6～8類土器(第173図254、255、259、261、264、265)、第群土器(第173図256～258、260、263)が出土している。

石器は、第2層より不定形石器3類が1点(図示していない)、第1層より不定形石器4類が1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第541号土坑(第96図)

[位置・確認層] A F - 133、134グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径154cm、底面は長径154cm、深さ33cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。東側は一部外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北側から南側への傾斜が見られる。また、若干の起伏を有する。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4～2層より第群3類、5a類、6類土器(第173、174図266、270、274)、第4～2層より第群4、5、7、8、10類土器(第173、174図268、269、271、272、275、276)、第群土器(第173、174図267、273)が出土している。

石器は、第3層より不定形石器1類Cが1点(図示していない)、1類Eが1点(第195図20)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第542号土坑(第96図)

[位置・確認層] A E - 136グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第543号土坑、第565号土坑、第566号土坑、第572号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は189cm×171cm、底面は183cm×139cm、深さは52cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。一部は屈曲して立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第4層は暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土はローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第群6類土器(第174図285)、第6～1層、覆土より第群2b類、4類、6類、8類土器(第174図281、283、286、287、289)、第群土器(第174図277～280、282、284、288)が出土している。

石器は、第3層より石錐2類1が1点(第196図22)、第2層よりその他の剥片石器が1点(第196図23)、覆土より石鏃3類3が1点(第195図21)出土している。

土製品は、第6層より土器片利用土製品が1点（第224図32）、第2層より土器片利用土製品が1点（第224図31）、第3層よりミニチュア土器が1点（第224図30）、覆土より土偶が2点（第223図28、29）、ミニチュア土器が1点（第226図108）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第543号土坑（第96図）

[位置・確認層] A E - 136、137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第542号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径63cm、底面は長径49cm、深さは61cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。北側は一部オーバーハングする。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第4層は暗褐色土が堆積しローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4層、覆土より第 群4類土器（第174図291）、第 群土器（第174図290、292）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第544号土坑（第96図）

[位置・確認層] A D - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第545号土坑、第550号土坑と重複し、本遺構は第545号土坑より古く、第550号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は132cm×99cm、底面は128cm×98cm、深さは31cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。南西側は一部オーバーハングする。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 9層に分層した。第2、6～9層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、3、2層、覆土より第 群5 a類、6類土器（第174図293～296）が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類2類Bが1点（第210図130）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第545号土坑（第96図）

[位置・確認層] A C・A D - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第544号土坑、第691号土坑と重複し、本遺構は第544号土坑、第691号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径106cm、底面は長径102cm、深さは57cmである。

[壁] 南側は外側へ緩やかに立ち上がる。北側は若干オーバーハングして立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第174図297)が出土している。
[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第546号土坑(第96図)

- [位置・確認層] A D - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第534号土坑、第535号土坑と重複し、本遺構は第534号土坑より古く、第535号土坑より新しい。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径197cm、底面は長径171cm、深さは70cmである。
[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。東側は一部オーバーハングして立ち上がる。
[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。中央部及び南壁側に底面ピットを有する。
[堆積土] 10層に分層した。第4、7層は、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒色～明褐色土が堆積する。黒色～暗褐色土は、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第10、6、5、4、2、1層より第 群5a類、6類土器(第174、175図298～303)、覆土より第 群土器(第175図304)が出土している。
石器は、覆土より不定形石器4類が1点(図示していない)出土している。
[時期] 出土遺物より及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第548号土坑(第147図)

- [位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は最長28cm、底面は長径18cm、深さは16cmである。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
[堆積土] にぶい黄褐色土が堆積し、ロームを少量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器(第175図305)が出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第549号土坑(第147図)

- [位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径32cm、底面は長径20cm、深さは11cmである。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] 南東側から北西側へ傾斜が見られる。
[堆積土] 2層に分層した。褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第550号土坑(第97図)

- [位置・確認層] A D - 133、134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第544号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径88cm、底面は長径79cm、深さは18cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

「時期」遺構間の重複関係より縄文時代前期以前の土坑と思われる。

第551号土坑 (第147図)

[位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径24cm、底面は長径12cm、深さは18cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。第1層は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群土器 (第175図307) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第552号土坑 (第97図)

[位置・確認層] A C・A D - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第568号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径174cm、底面は長径160cm、深さは36cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。また起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第2、3層は、黒褐色～暗褐色土が堆積しローム、角礫を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3～1層より第 群3、5 a、6類土器 (第156図9、第175図308、310、313) が、第3～1層より第 群土器 (第175図309、311、312、314～316) が出土している。

石器は、覆土より不定形石器1類Aが1点 (第196図24) 出土している。

土製品は、第3層より土器片利用土製品が1点 (第224図33) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第553号土坑 (第97図)

[位置・確認層] A D・A E - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は155cm×102cm、底面は137cm×110cm、深さは144cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第3、5層は暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6～4層、覆土より第群6類土器(第175図317～320)、第1層、覆土より第群土器(第175図321、324)が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類2類Aが1点(図示していない)、2類Eが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第554号土坑(第97図)

[位置・確認層] AD-134グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第555号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は135cm×113cm、底面は122cm×101cm、深さは46cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。西側は一部オーバーハングする。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。また、北側に段差が見られる。

[堆積土] 10層に分層した。第2、7層は暗褐色土が堆積しローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒色～暗褐色土が堆積しローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、2、1層より第群6類土器(第175図326、328、329)、第2、1層より第群5類、7類土器(第156図10、第175図331、332)、第群土器(第175図325、327、330)が出土している。

石器は、第1層より不定形石器3類が1点(図示していない)、石皿・台石1類が1点(第210図131)、覆土より石匙1類が1点(第196図25)出土している。

石製品は、第1層より有孔石製品が1点(第227図11)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第555号土坑(第97図)

[位置・確認層] AD-134グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第554号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長120cm、底面は長径126cm、深さは180cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 15層に分層した。第1～3、5、8、9、14層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第14～11、8、5、4、1層より第群5a、6類土器(第175図333～339)が出土している。

石器は、第14層より敲磨器類1類Aが1点（第211図132）、第12層より不定形石器3類が1点（図示していない）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第556号土坑（第97図）

[位置・確認層] AD - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径144cm、底面は長径152cm、深さは141cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 8層に分層した。第3、4、6、8層は黒褐色～暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、5～3、1層より第 群5 a類、5 b類、6類土器（第175図340、342、347～350）、第8～6、1層より第 群2 a類、3類、7類、8類、10類土器（第175、176図344～346、351、353）第 群土器（第175図341、343、352）が出土している。

石器は、第1層より石鏃3類3が1点（第196図26）、不定形石器3類が1点（図示していない）、4類が1点（図示していない）、覆土より石筈1類が1点（第196図28）、不定形石器3類が1点（図示していない）出土している。

石製品は、第1層より円形岩版が1点（第227図12）、岩版関係資料が1点（第227図13）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第557号土坑（第98図）

[位置・確認層] AD - 133、134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径150cm、底面は長径145cm、深さは75cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 3層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土はローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層、覆土より第 群6類土器（第176図354～356）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第558号土坑（第98図）

[位置・確認層] AE - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第559号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径193cm、底面は長径150cm、深さは129cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 8層に分層した。第4、5層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～明褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第8～5、2層より第 群6類土器(第176図357、359、360、362、363)、第8、6、1層、覆土より第 群土器(第176図358、361、364～366)が出土している。

石器は、第7層より剥離のある礫が1点(図示していない)、第5層より敲磨器類1類Dが1点(図示していない)、第2層より敲磨器類4類Aが1点(図示していない)出土している。

第1層より不定形石器1類Fが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第559号土坑(第98図)

[位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第558号土坑、第560号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径166cm、底面は長径124cm、深さは138cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 11層に分層した。第1、11層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第10～7、5、3層、覆土より第 群5 a類、6類土器(第176図368、371、374、375、384、388、393)、第11～1層、覆土より第 群4～6、8類土器(第156図11～14、第176図369、370、376～383、385、387、390、392、394、395)、第 群土器(第176図367、372、373、386、389、391)が出土している。

石器は、第10層より敲磨器類1類Aが1点(図示していない)、第7層より不定形石器4類が1点(図示していない)、敲磨器類2類Aが1点(図示していない)、第6層より不定形石器1類Aが1点(図示していない)、1類Dが1点(図示していない)、敲磨器類4類Bが1点(第211図133)、第4層よりその他の剥片石器が1点(図示していない)、覆土より石匙1類が1点(第196図27)、敲磨器類4類Dが1点(第211図134)、石皿・台石2類が1点(第211図135)出土している。

土製品は、第10層より土器片利用土製品が1点(第224図35)、第4層より土器片利用土製品が1点(第224図36)、第6層よりミニチュア土器が1点(第224図34)、覆土より土器片利用土製品が2点(第224図37、38)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第560号土坑(第98図)

[位置・確認層] A E - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第559号土坑、第605号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径134cm、底面は長径138cm、深さは94cmである。

[壁] やや内側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北側から南側への傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第3層は、暗褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、4、2、1層、覆土より第 群6類土器(第157図16、第176図396、397、399、400)、第2、1層より第 群9類土器(第176図398)、第 群土器(第176図401)が出土している。

石器は、第5層より石鏃2類2が1点(第196図30)、覆土より石匙1類が1点(第196図29)出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点(第224図39)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第561号土坑(第147図)

[位置・確認層] AD-135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径28cm、底面は長径21cm、深さは23cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第562号土坑(第147図)

[位置・確認層] AD-135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径24cm、底面は長径9cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第563号土坑(第147図)

[位置・確認層] AD-135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径27cm、底面は長径18cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第564号土坑 (第147図)

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径20cm、底面は長径12cm、深さは18cmである。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第565号土坑 (第98図)

[位置・確認層] A E - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第542号土坑、第572号土坑と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径151cm、底面は長径143cm、深さは62cmである。
[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。北東、北西側は一部緩やかに立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 4層に分層した。分層第2、3層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器 (第177図402、403)、覆土より第 群土器 (第177図404、405) が出土している。
石器は、覆土より不定形石器1類Aが1点 (図示していない) 出土している。
土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点 (第224図40) 出土している。
[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第566号土坑 (第98図)

[位置・確認層] A E - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第542号土坑と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径53cm、底面は長径38cm、深さは49cmである。
[壁] 外側に直線的に立ち上がる。
[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第567号土坑（第146図）

[位置・確認層] A E・A F - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は45cm×29cm、底面は18cm×26cm、深さは55cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。東側の一部はやや内側へ立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第177図406）が出土している。

石器は、第1層より敲磨器類4類Bが1点（図示していない）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第568号土坑（第98図）

[位置・確認層] A D - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第552号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長79cm、底面は最長92cm、深さは25cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器（第177図407）、覆土より第 群土器（第177図408）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第569号土坑（第99図）

[位置・確認層] A D - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第536号土坑、第538号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長111cm、底面は長径150cm、深さは85cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第1、3層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

他は、褐色～明褐色土が堆積し、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、4、2、1層より第 群5 a類、6類土器（第157図17、第177図409～412）が出土している。

石器は、第2層より磨製石斧1類Aが1点（第212図136）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第570号土坑（第99図）

[位置・確認層] A D - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は126cm×101cm、底面は123cm×85cm、深さは33cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。東側の一部は若干オーバーハングする。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。また、起伏が見られる。

[堆積土] 10層に分層した。第2、3、10層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、底面、第2層、覆土より第 群5 a類土器、6類土器(第157図18、177図413、415、416)、第2層、覆土より第 群土器(第177図414、417)が出土している。

石器は、底面より磨製石斧1類Bが1点(第212図137)、第10層より石匙1類が1点(第197図32)、第7層より石鏃2類2が1点(第196図31)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第572号土坑(第99図)

[位置・確認層] A E - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第542号土坑、第565号土坑と重複し、本遺構は第542号土坑より新しく、第565号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は51cm×33cm、底面は35cm×19cm、深さは21cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器(第177図418)が出土している。

土製品は、第1層より土器片利用土製品が1点(第224図41)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第574号土坑(第99図)

[位置・確認層] A E - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第575号土坑、第581号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は72cm×42cm、底面は76cm×46cm、深さは45cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。外側から中央部へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第 群4類土器(第177図420)、第 群土器(第177図419)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第575号土坑（第99図）

[位置・確認層] A E - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第574号土坑、第581号土坑、第595号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径133cm、底面は長径183cm、深さは147cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。また、若干の起伏が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、角礫を微量含む。他は、褐色～褐色土が堆積しする。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5～3層、覆土より第 群5 a類、6類土器（第157、158図19、20、第177図421、423）、第3層、覆土より第 群8類土器（第177図425）、第 群土器（第177図422、424）が出土している。

石器は、第5層より不定形石器1類Aが1点（図示していない）、敲磨器類4類Bが1点（図示していない）、覆土よりその他の剥片石器が1点（図示していない）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第578号土坑（第99図）

[位置・確認層] A D・A E - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径22cm、底面は長径14cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第579号土坑（第99図）

[位置・確認層] A D - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は135cm×109cm、底面は111cm×88cm、深さは53cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。一部屈曲して立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4層より第 群5 a類土器（第158図21、22、第177図426）が出土している。

石器は、異形石器が1点（第197図33）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第580号土坑（第100図）

[位置・確認層] A D - 131、132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径170cm、底面は長径177cm、深さは118cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 6層に分層した。第6層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4～1層より第 群5 a類、6類土器（第177図427～431）、第1層より第 群土器（第177図432）が出土している。

石器は、第2層より不定形石器1類Fが1点（図示していない）出土している。

石製品は、第2層より球状石製品が1点（第227図14）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第581号土坑（第100図）

[位置・確認層] A E - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第574号土坑、第575号土坑と重複し、本遺構は第574号土坑より古く、第575号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長90cm、底面は最長80cm、深さは31cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部やや内側へ立ち上がる。

[底面] 中央部から外側へ傾斜が見られる。北西壁側に底面ピットを有する。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群5 a類、6類土器（第177図433、434）、第1層より第 群土器（第177図435）が出土している。

石器は、第1層より異形石器が1点（第197図34）、不定形石器1類Aが1点（第197図35）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第582号土坑（第100図）

[位置・確認層] A C・A D - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第583号土坑、第604号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長248cm、底面は最長240cm、深さは22cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層より第 群5 b類土器（第177図436）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第583号土坑（第100図）

- [位置・確認層] A D - 133グリッドに位置する。第582号土坑覆土において確認した。
- [重複] 第582号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は122cm×107cm、底面は141cm×121cm、深さは170cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 17層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～明褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第584号土坑（第100図）

- [位置・確認層] A D - 132、133グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径148cm、底面は長径135cm、深さは81cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 北東側から南東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第 群5 a類土器（第177図437、438）が出土している。
石器は、第1層より磨製石斧1類Bが1点（第212図138）出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第586号土坑（第101図）

- [位置・確認層] A D・A E - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長160cm、底面は長径149cm、深さは42cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。第2層は黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第587号土坑（第101図）

- [位置・確認層] A C・A D - 136、137グリッドに位置する。第 a層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径163cm、底面は長径154cm、深さは121cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 起伏が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 7層に分層した。第1、4、7層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第群5a類、6類土器(第158図23、第177図439) 第1層より第群土器(第177図440)が出土している。石器は、第1層より石匙1類が2点(第197図36、37) 敲磨器類4類Aが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第588号土坑(第101図)

[位置・確認層] A E - 134、135グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径173cm、底面は長径165cm、深さは39cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。他は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第群6類土器(第177図441、442) 覆土より第群土器(第177図443)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第590号土坑(第101図)

[位置・確認層] A E・A F - 137グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径117cm、底面は長径112cm、深さは93cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 4層に分層した。暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第群6類土器(第177図445、447) 第3、1層、覆土より第群土器(第177図444、446、448)が出土している。

石器は、第4層より石匙1類が1点(図示していない) 第3層より敲磨器類3類が1点(図示していない) 4類Bが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第591号土坑(第102図)

[位置・確認層] A D・A E - 133グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は312cm×208cm、底面は287cm×188cm、深さは56cmである。

[壁] おおむね外側へ緩やかに立ち上がる。北西側は一部オーバーハングする。

[底面] 若干の起伏を有する。北壁側、中央部、南壁側に底面ピットを有する。

[堆積土] 8層に分層した。第1、3、4層は黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6層より第 群6類土器(第177図449、450)が出土している。

石器は、覆土より石鏃3類3が1点(第197図38)、敲磨器類1類Dが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第592号土坑(第101図)

[位置・確認層] AC-136、137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径101cm、底面は長径100cm、深さは54cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がるが、西側はオーバーハングする。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。黒褐色～にぶい褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6～4、2、1層、覆土より第 群4、6類土器(第157図15、第177図452、454、455)第 群土器(第177図451、453、456)が出土している。

石器は、第6層よりその他の剥片石器が1点(図示していない)出土している。

土製品は、覆土より土偶が1点(第224図42)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる

第594号土坑(第101図)

[位置・確認層] AC-137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第606号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径172cm、底面は長径149cm、深さは80cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積し、角礫を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第177図458)第2層より第 群土器(第177図457)が出土している。

石器は、覆土より石筥3類が1点(第197図39)、剥離のある礫が1点(第212図139)出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点(第224図43)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第595号土坑（第102図）

- [位置・確認層] A D・A E - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第575号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径62cm、底面は長径40cm、深さは10cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 南東側から北西側へ起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積し、角礫を少量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群5 a類土器（第177図459）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第596号土坑（第102図）

- [位置・確認層] A E - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は112cm×97cm、底面は102cm×86cm、深さは17cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 石器は、第1層より石鏃1類1が2点（第図40、41）、磨製石斧1類Bが1点（第212図140）出土している。
- [時期] 不明である。

第598号土坑（第147図）

- [位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径18cm、底面は長径11cm、深さは9cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第599号土坑（第102図）

- [位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第523号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長26cm、底面は最長21cm、深さは20cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第600号土坑（第147図）

[位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は27cm×20cm、底面は10cm×9cm、深さは19cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。南東側はやや内側へ立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第601号土坑（第145図）

[位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径22cm、底面は長径10cm、深さは26cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第602号土坑（第102図）

[位置・確認層] A D・A E - 131、132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は210cm×184cm、底面は204cm×179cm、深さは79cmである。

[壁] 全体として、やや内側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類、6類土器（第177図460、461）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第604号土坑（第102図）

[位置・確認層] AC・AD - 133グリッドに位置する。第 a 層において確認した。

[重複] 第582号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は82cm×66cm、底面は84cm×61cm、深さは56cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、2層より第 群6類土器（第177、178図462、465）、第3、2層より第 群4類、7類土器（第178図463、464、466）が出土している。

石器は、第3層より不定形石器3類が1点（図示していない）出土している。

[時期] 遺構確認層及び出土遺物、遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第605号土坑（第145図）

[位置・確認層] AE - 134、135グリッドに位置する。第560号土坑覆土において確認した。

[重複] 第560号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径24cm、底面は長径13cm、深さは31cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第606号土坑（第103図）

[位置・確認層] AC - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第594号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長135cm、底面は長径120cm、深さは34cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] にぶい黄褐色土が堆積し、角礫を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第607号土坑（第103図）

[位置・確認層] AF・AG - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第608号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は143cm×116cm、底面は112cm×128cm、深さは145cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。東側は外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色土～明褐色土が堆積し、黒褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4～1層、覆土より第 群5 a類、6類土器（第158図24、第178図467、471）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第608号土坑（第103図）

[位置・確認層] A F・A G - 131、132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第607号土坑、第647号土坑と重複し、本遺構は第647号土坑より新しく、第607号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は142cm×112cm、底面は178cm×160cm、深さは74cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 6層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第 群6類土器（第178図472、473）、覆土より第 群土器（第178図474）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第609号土坑（第103図）

[位置・確認層] A D - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径17cm、底面は長径17cm、深さは12cmである。

[壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積し、ロームを少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第610号土坑（第145図）

[位置・確認層] A D - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径27cm、底面は長径27cm、深さは18cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部やや内側へ立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積しローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第611号土坑 (第145図)

[位置・確認層] A D - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第612号土坑と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は21cm×19cm、底面は18cm×14cm、深さは19cmである。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] 南側から北側への傾斜が見られる。
[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第612号土坑 (第145図)

[位置・確認層] A D - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第611号土坑と重複し、本遺構が古い。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は29cm×25cm、底面は24cm×14cm、深さは16cmである。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第613号土坑 (第103図)

[位置・確認層] A E・A F - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第614号土坑と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は162cm×100cm、底面は140cm×124cm、深さは175cmである。
[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
[堆積土] 10層に分層した。第1、4、5層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土はローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第10、1層より第 群6類土器 (第178図476、488)、第10～6、4～1層より第 群2 b類、4類、7類、9類土器 (第158図25、第178図479～481、484～487、489、49)、第 群土器 (第178図475、477、478、482、483) が出土している。
石器は、第7層より敲磨器類2類Cが1点 (図示していない)、4類Bが1点 (第212図142)、第3

層より不定形石器1類Bが1点(図示していない)、4類が1点(図示していない)、その他の剥片石器が1点(図示していない)、磨製石斧1類Bが1点(第212図141)出土している。第1層より不定形石器1類Cが1点(図示していない)、覆土より石筥1類が1点(第198図42)、不定形石器2類が1点(図示していない)、4類が1点(図示していない)出土している。

土製品は、第7層より土器片利用土製品が1点(第224図44)出土している。

石製品は、第7層より円形岩版が1点(第227図15)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第614号土坑(第103図)

[位置・確認層] A E・A F - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第613号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径179cm、底面は長径179cm、深さは146cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第1、5層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、5、3、2層より第 群5 a類、6類土器(第178図491～494)、第2層、覆土より第 群4類、5類土器(第178図495、496)が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点(第198図43)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第615号土坑(第103図)

[位置・確認層] A B - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第649号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形で、開口部は68cm×56cm、底面は56cm×49cm、深さは60cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器(第178図497)、覆土より第 群2 b類土器(第178図499)、第 群土器(第178図498)が出土している。

石器は、第1層より敲磨器類2類Bが1点(図示していない)、覆土より不定形石器3類が1点(図示していない)出土している。

石製品は、覆土より円形岩版が1点(第227図16)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第616号土坑(第104図)

[位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長25cm、底面は長径15cm、深さは10cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第1層よりその他の剥片石器が1点(図示していない)出土している。

[時期] 不明である。

第617号土坑(第104図)

[位置・確認層] A D - 139、140グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径144cm、底面は長径127cm、深さは115cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。南側は一部オーバーハングする。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第5層は、暗褐色土が堆積し角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、4、1層、覆土より第 群5 a類、5 b類、6類土器(第178図500～504)が出土している。

石器は、覆土より石鏃2類2が1点(第198図45)、不定形石器1類Aが1点(第198図44)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第618号土坑(第104図)

[位置・確認層] A F - 131、132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第647号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径237cm、底面は長径140cm、深さは48cmである。

[壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。西壁は中位で屈曲し内側へ立ち上がる。

[底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第1、4層は暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、2層、覆土より第 群3類、6類土器(第178図505～507)、覆土より第 群4類土器(第178図508)が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類2類Aが1点(第212図143)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第619号土坑(第104図)

[位置・確認層] A B - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第657号土坑、第761号土坑、第762号土坑と重複し、本遺構が新しい。

- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径226cm、底面は長径153cm、深さは166cmである。
- [壁] 外側へ屈曲して立ち上がる。南側一部はオーバーハングする。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 9層に分層した。第1～3、8層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第7、5～3層より第 群3類、5a類、6類類土器（第178図509、510、512、513）、第5、1層より第 群4類、5類、7類土器（第159図26、第178図514、515）、第 群土器（第178図511）が出土している。
- 石器は、第7層より敲磨器類2類Aが1点（図示していない）、覆土より不定形石器2類が1点（図示していない）、敲磨器類3類が1点（第212図144）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第620号土坑（第147図）

- [位置・確認層] AD - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第621号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径35cm、底面は長径14cm、深さは36cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 段差が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第178図516）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第621号土坑（第147図）

- [位置・確認層] AD - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第620号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径29cm、底面は長径20cm、深さは13cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 3層に分層した。第3層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第622号土坑（第147図）

- [位置・確認層] AE - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は20cm×17cm、底面は12cm×8cm、深さは7cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第623号土坑 (第147図)

[位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で開口部は長径21cm、底面は長径11cm、深さは15cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第178図517)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第624号土坑 (第104図)

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径140cm、底面は長径152cm、深さは72cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 11層に分層した。第1、2、5～7、9～11層は黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類土器(第178図518)、覆土より第 群土器(第179図519)が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類3類が1点(第213図145)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第625号土坑 (第105図)

[位置・確認層] A E - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第626号土坑、第680号土坑と重複し、本遺構は第626号土坑より古く、第680号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は180cm×132cm、底面は140cm×121cm、深さは186cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。西側はオーバーハングする。北側開口部は段差が見られる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 9層に分層した。第2、9層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われ

る。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ローム、炭化物を多量ないし、中量含む。人為堆積と思われる。なお、第1～3層については、重複する第626号土坑覆土の可能性も考えられる。

[出土遺物] 土器は、第9、8、6、4、2、1層より第群5a類、6類土器(第179図520～524、526、528、529)、第6、4、1層より第群4類、8類、10類土器(第179図525、530、531)、第群土器(第179図527)が出土している。

石器は、第1層より不定形石器1類Aが1点(図示していない)出土している。

土製品は、第1層より土器片利用土製品が1点(第224図45)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第626号土坑(第105図)

[位置・確認層] AE-134グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第625号土坑、第627号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径166cm、底面は長径128cm、深さは154cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 13層に分層した。第7、9層は、黒褐色～暗褐色土が堆積しロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～明褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第11、8、6、4層より第群6類土器(第179図532、538～540)、第11、8、4～1層、覆土より第群2b類、3類、4類、7類、10類土器(第159図27、28、第179図534～537、541～543、545～557)、第群土器(第179図533、544)が出土している。

石器は、覆土より大石平型石筥が1点(第198図46)、不定形石器1類Cが1点(図示していない)、3類が1点(図示していない)、敲磨器類4類Bが1点(第213図146)出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が2点(第224図46、47)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第627号土坑(第105図)

[位置・確認層] AE-133、134グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第626号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径193cm、底面は180cm、深さは60cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1、2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。また、重複する第626号土坑覆土の可能性も考えられる。第3層は、黒褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、1層、覆土より第群3類、5a類、6類土器(第179図558～560)、覆土より第群4類土器(第180図562)、第群土器(第179図561)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第628号土坑 (第105図)

[位置・確認層] Z - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径22cm、底面は長径14cm、深さは6cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第2層は、黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色土が堆積しロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第629号土坑 (第145図)

[位置・確認層] Z - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径23cm、底面は長径13cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は暗褐色土が堆積しロームを中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒色土が堆積し、ローム微量を含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第630号土坑 (第145図)

[位置・確認層] Y・Z - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径29cm、底面は長径19cm、深さは15cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積しロームを中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第631号土坑 (第105図)

[位置・確認層] A A - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は90cm×75cm、底面は72cm×62cm、深さは58cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ若干の起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は、黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第群6類土器(第180図563、564)、第1層、覆土より第群4類土器(第180図567)、第群土器(第180図565、566)が出土している。

石製品は、第2層より三角形岩版が1点(第227図17)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第632号土坑(第148図)

[位置・確認層] A E - 132グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径19cm、底面は長径16cm、深さは11cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを中量を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第633号土坑(第148図)

[位置・確認層] A E - 132グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は28cm×20cm、底面は23cm×12cm、深さは9cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第群土器(第180図568)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第634号土坑(第148図)

[位置・確認層] A E - 132グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径24cm、底面は長径15cm、深さは10cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

- [堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第635号土坑 (第148図)

- [位置・確認層] A D - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径24cm、底面は長径15cm、深さは28cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 南東から北西へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第637号土坑 (第148図)

- [位置・確認層] A D - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径23cm、底面は長径16cm、深さは16cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第638号土坑 (第148図)

- [位置・確認層] A D - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は25cm×20cm、底面は21cm×16cm、深さは16cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
第2層は、黒褐色土が堆積しロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第640号土坑 (第148図)

- [位置・確認層] A D - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は21cm×19cm、底面は12cm×13cm、深さは29cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。西側は一部内側へ立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第641号土坑 (第148図)

[位置・確認層] A E - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は22cm×19cm、底面は22cm×10cm、深さは11cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第2層暗褐色土はロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器 (第180図569、570) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第642号土坑 (第148図)

[位置・確認層] A E - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径32cm、底面は長径28cm、深さは7cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群10類土器 (第180図571) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第646号土坑 (第145図)

[位置・確認層] A D - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径27cm、底面は長径19cm、深さは16cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。第1、2層は黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第3層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第647号土坑 (第105図)

[位置・確認層] A F - 131、132グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第608号土坑、第618号土坑と重複し、本遺構は古い。
[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長183cm、底面は最長175cm、深さは25cmである。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] 起伏が見られる。
[堆積土] 3層に分層した。
[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器 (第180図572) が出土している。
[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第648号土坑 (第105図)

[位置・確認層] A C - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第649号土坑と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径116cm、底面は長径120cm、深さは102cmである。
[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
[底面] 南東側から北西側へ傾斜が見られる。
[堆積土] 7層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積しローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第5～3、1層、覆土より第 群3類、5 a、6類土器 (第180図573～578) が出土している。
石器は、第2層より不定形石器1類Aが1点 (図示していない)、覆土より不定形石器1類Dが1点 (図示していない)、3類が1点 (図示していない) 出土している。
[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第649号土坑 (第106図)

[位置・確認層] A A・A B - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第615号土坑、第648号土坑、第650号土坑と重複し、本遺構が古い。
[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は250cm×203cm、底面は222cm×180cm、深さは127cmである。
[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。北側から西側は一部屈曲する。
[底面] 起伏が見られる。
[堆積土] 6層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積しローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第5、3～1層、覆土より第 群5 a類、6類土器 (第180図579、580、582～585)、第2層、覆土より第 群4類、5類、7類土器 (第180図581、586～588) が出土している。

石器は、第1層より敲磨器類2類Eが1点（第213図148）、覆土より石匙1類が1点（第198図47）、不定形石器1類Aが1点（第198図48）、3類が2点（図示していない）、敲磨器類1類Aが1点（図示していない）、4類Aが1点（図示していない）、4類Bが1点（第213図147）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第650号土坑（第106図）

[位置・確認層] AB - 137グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] 第649号土坑、第651号土坑と重複し、本遺構は第649号土坑より新しく、第651号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長142cm、底面は最長111cm、深さは89cmである。

[壁] 全体として外側に緩やかに立ち上がる。一部オーバーハングや屈曲が見られる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第1、4、5層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第1群6類土器（第180図594）、第5、3～1層より第1群4～6類土器（第180図589～593、596）、第1群土器（第180図595）が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類4類Bが1点（第213図149）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第651号土坑（第106図）

[位置・確認層] AB - 137グリッドに位置する。第652号土坑覆土において確認した。

[重複] 第650号土坑、第652号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長88cm、底面は最長98cm、深さは62cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第4層は、黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土は角礫を中量を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4～2層より第1群6類土器（第180図597、598、600）、第3、1層より第1群土器（第180図599、601）が出土している。

石器は、第1層より石鏃2類1が1点（第199図49）出土している。

石製品は、覆土より円形岩版が1点（第227図18）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第652号土坑（第106図）

[位置・確認層] AB - 137グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] 第651号土坑、第653号土坑と重複し、本遺構は第651号土坑より古く、第653号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長144cm、底面は最長138cm、深さは12cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。北側一部はオーバーハングする。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。暗褐色土～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、1層、覆土より第群5a類、6類土器(第180図602、603、605)、第1層、覆土より第群4類、7類土器(第180図606、607)、第群土器(第180図604)が出土している。

石器は、覆土より不定形石器1類Aが1点(図示していない)、2類が1点(図示していない)、敲磨器類4類Aが1点(図示していない)出土している。

石製品は、第1層より有孔石製品が1点(第228図19)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第653号土坑(第106図)

[位置・確認層] AB-137グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第652号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長132cm、底面は最長124cm、深さは37cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北側から南側中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第群6類土器(第180図608)、第群土器(第180図609)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第654号土坑(第106図)

[位置・確認層] AE・AF-133グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第655号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長139cm、底面は長径164cm、深さは95cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。北東一部は外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第5層は、黒褐色土が堆積し、ローム角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第群6類土器(第180図610)が出土している。

石器は、第3層より石皿・台石1類が1点(第214図152)、覆土より敲磨器類1類Bが1点(第214図151)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第655号土坑(第107図)

[位置・確認層] AF-132、133グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第654号土坑、第725号土坑と重複し、本遺構は第654号土坑より古く、第725号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は202cm×157cm、底面は長径153cm、深さは102cmで

ある。

[壁] 全体として若干オーバーハングし、袋状を呈する。一部外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 9層に分層した。第5、6、8層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第 群6類土器(第180図611)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第656号土坑(第107図)

[位置・確認層] A E・A F - 139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径165cm、底面は長径153cm、深さは19cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群5 a類、6類土器(第180図612、613)が出土している。

石器は、覆土より石匙2類が1点(第199図51)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第657号土坑(第107図)

[位置・確認層] A B - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第619号土坑、第675号土坑と重複し、本遺構は第619号土坑より古く、第675号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は94cm×120cm、底面は長径140cm、深さは89cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第 群5 a類、6類土器(第180図614、616)、第1層、覆土より第 群3類、4類、7類土器(第180、181図617～620)、第 群土器(第180図615)が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点(第199図52)出土している。

土製品は、第1層より土器片利用土製品が1点(第224図48)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第658号土坑(第107図)

[位置・確認層] A E - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は61cm×50cm、底面は64cm×60cm、深さは35cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。南側は一部やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。褐色～赤褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、1層より第 群2 b類、8類土器(第181図622、623)、第 群土器(第181図621)が出土している。

石器は、第1層より不定形石器2類が1点(図示していない)、4類が1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第659号土坑(第107図)

[位置・確認層] A E - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は36cm×30cm、底面は30cm×25cm、深さは32cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第660号土坑(第147図)

[位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は20cm×13cm、底面は13cm×8cm、深さは11cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第661号土坑(第145図)

[位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径24cm、底面は長径14cm、深さは17cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第181図624）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第662号土坑（第107図）

[位置・確認層] A E - 130、131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形ないし楕円形で、開口部は171cm×128cm、底面は169cm×122cm、深さは30cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部はやや内側へ立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器（第181図625）が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点（第199図50）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第664号土坑（第107図）

[位置・確認層] A D - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は33cm×25cm、底面は26cm×23cm、深さは15cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部はやや内側へ立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

他は、褐色～明褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第665号土坑（第107図）

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は88cm×71cm、底面は82cm×68cm、深さは33cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部はやや内側へ立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。北東壁側に底面ピットを有する。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群7類土器（第181図628）、第 群土器（第181図626、627）が出土している。

石器は、第1層より石皿・台石1類が1点（第214図150）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第669号土坑 (第107図)

[位置・確認層] A E - 138に位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は46cm×40cm、底面は長径49cm、深さは47cmである。

[壁] 全体として南側へ直線的に立ち上がる。南壁側は中位で屈曲が見られる。

[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第670号土坑 (第108図)

[位置・確認層] A E - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は110cm×79cm、底面は99cm×79cm、深さは75cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。東西壁側はやや外側へ立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1、4層は、暗褐色土が堆積しローム、角礫を微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3～1層、覆土より第 群5類、6類土器(第181図629、630)、第 群土器(第181図631～633)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第671号土坑 (第108図)

[位置・確認層] A C - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第672号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は125cm×91cm、底面は108cm×75cm、深さは38cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第181図634)が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点(第199図53)出土している。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第672号土坑 (第108図)

[位置・確認層] A C - 131、132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第671号土坑、第682号土坑、第11号溝状遺構と重複し、本遺構は第671号土坑、第682号土坑よ

り古く、第11号溝状遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は248cm×177cm、底面は239cm×171cm、深さは60cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がるが、一部はやや内側へ立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は黒色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類、5 a類土器(第181図635、636)が出土している。

土製品は、第3層より土偶が1点(第224図49)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第673号土坑(第108図)

[位置・確認層] A C - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第674号土坑と重複し、本遺構は第674号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径70cm、底面は長径60cm、深さは39cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部段差が見られる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。段差が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群土器(第181図637、638)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第674号土坑(第108図)

[位置・確認層] A C - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第673号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は66cm×60cm、底面は64cm×50cm、深さは18cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。また、起伏が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器(第181図639)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第675号土坑(第108図)

[位置・確認層] A B - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第657号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長94cm、底面は長径96cm、深さは138cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 4層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土は、炭化物を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群5 a類土器(第181図643)、第4、3、1層、覆土より第 群2 b類、4～7類土器(第181図640～642、644、645)が出土している。

石器は、第1層より敲磨器類4類Bが1点(第215図153)、覆土より敲磨器類1類Aが1点(図示していない)、2類Eが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第676号土坑(第147図)

[位置・確認層] A E - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径33cm、底面は長径26cm、深さは27cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器(第181図646)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第677号土坑(第147図)

[位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径34cm、底面は長径21cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器(第181図647)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第678号土坑(第147図)

[位置・確認層] A E - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は21cm×16cm、底面は長径13cm、深さは21cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第679号土坑（第108図）

[位置・確認層] A C - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径102cm、底面は長径92cm、深さは91cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 13層に分層した。暗褐色～明褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第680号土坑（第108図）

[位置・確認層] A E - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第625号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長80cm、底面は最長38cm、深さは46cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第 群6類土器（第181図648、649）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第681号土坑（第109図）

[位置・確認層] A B・A C - 132、133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第20号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径182cm、底面は長径174cm、深さは109cmである。

[壁] 全体として若干オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 11層に分層した。第1、4、5、8層は黒色～褐色土が堆積し、黒色～黒褐色土は、パミス、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積しパミス、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第8、6、5、3、2層より第 群5 a類、6類土器（第160、161図29～32、第181図650～655）が出土している。

石器は、第11層より剥離のある礫が1点（第215図156）、覆土より不定形石器4類が1点（図示していない）、敲磨器類4類Dが1点（第215図155）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第682号土坑（第108図）

- [位置・確認層] AC - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第672号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長43cm、底面は最長20cm、深さは24cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第683号土坑（第109図）

- [位置・確認層] AC - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第684号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径170cm、底面は長径185cm、深さは74cmである。
- [壁] 全としてやや外側へ緩やかに立ち上がる。一部やや内側へ立ち上がる。
- [底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以降の土坑と思われる。

第684号土坑（第109図）

- [位置・確認層] AC・AD - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第683号土坑、第685号土坑と重複し、本遺構は第683号土坑より古く、第685号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は256cm×145cm、底面は251cm×131cm、深さは63cmである。
- [壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 9層に分層した。第4層は、暗褐色土がブロック状に堆積し、ロームを少量含む。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以降の土坑と思われる。

第685号土坑（第109図）

- [位置・確認層] AD - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第684号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径95cm、底面は長径127cm、深さは49cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第182図656)が出土している。

石器は、覆土よりその他の剥片石器が1点(図示していない)出土している。

石製品は、覆土より石刀が1点(第228図20)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第686号土坑(第109図)

[位置・確認層] A E - 139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第722号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長135cm、底面は最長120cm、深さは77cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。第3層は、暗褐色土が堆積し、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、2層より第 群5 a類、6類土器(第182図657、659)、第3、2層より第 群5類土器(第182図658)、第 群土器(第182図660)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第687号土坑(第110図)

[位置・確認層] A E - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径121cm、底面は長径102cm、深さは73cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層した。第2、3層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、4層より第 群6類土器(第182図661、664)、第6～4、1層より第 群6類土器(第182図666)、第 群土器(第182図662、663、665)が出土している。

石器は、覆土より不定形石器3類が1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第688号土坑(第110図)

[位置・確認層] A C・A D - 133、134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は145cm×122cm、底面は152cm×131cm、深さは50cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群6類土器(第182図667、668)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第689号土坑(第110図)

[位置・確認層] AC・AD - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第692号土坑、第738号土坑と重複し、本遺構は第692号土坑より新しく、第738号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径186cm、底面は長径184cm、深さは38cmである。

[壁] 東側は、外側へ緩やかに立ち上がる。西側は、オーバーハングする。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第3、4層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第 群3類、5b類土器(第182図669、670)、第1層より第 群6類、8類土器(第182図671、672)が出土している。

石器は、第1層より敲磨器類1類Aが1点(第215図154)、4類Aが1点(図示していない)、覆土より不定形石器3類が1点(図示していない)、剥離のある礫が1点(図示していない)出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点(第224図50)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第690号土坑(第110図)

[位置・確認層] AC・AD - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径84cm、底面は長径33cm、深さは35cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。中位より屈曲する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第182図673)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第691号土坑(第110図)

[位置・確認層] AC - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第545号土坑、第704号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長196cm、底面は最長190cm、深さは39cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

- [底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。また、一部起伏が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類土器(第182図674)が出土している。石器は、覆土より敲磨器類4類Bが1点(第215図157)出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第692号土坑(第110図)

- [位置・確認層] AC - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第689号土坑、第737号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長208cm、底面は最長210cm、深さは56cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。東側は外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。また、南側には段差が見られる。
- [堆積土] 9層に分層した。第3、7層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第182図676)、第1層より第 群3類土器(第182図675)、第 群土器(第182図677)が出土している。石器は、第8層より石鏃2類2が1点(第199図56)、第3層より石鏃2類2が2点(第199図54、55)出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第693号土坑(第110図)

- [位置・確認層] AE - 136、137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第530号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径82cm、底面は長径69cm、深さは22cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し角礫を多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群2a類土器(第182図678)が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第695号土坑(第110図)

- [位置・確認層] AF - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長126cm、底面は最長80cm、深さは29cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第182図679)、覆土より第 群2 a類土器(第182図682)、第 群土器(第182図680、681)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第696号土坑(第111図)

[位置・確認層] A F - 133、134グリッドに位置する。第 a層、第 層において確認した。

[重複] 第7号溝状遺構と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は122cm×68cm、底面は102cm×72cm、深さは53cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。北側、西側はオーバーハングする。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第2層は、黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第182図683)、第1層より第 群4類、7類土器(第182図684、685、687)、第 群土器(第182図686)が出土している。

石器は、第3層より不定形石器1類Eが1点(第200図57)、覆土より磨製石斧1類Cが1点(第215図158)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第697号土坑(第111図)

[位置・確認層] A B・A C - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第751号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径181cm、底面は長径127cm、深さは100cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。開口部付近に段差が見られる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 8層に分層した。第6、8層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器(第182図688)、覆土より第 群4類土器(第182図689)が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点(第200図58)、敲磨器類4類Bが1点(第216図160)、抉入扁平磨製石器が1点(第216図159)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第698号土坑(第148図)

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径18cm、底面は長径12cm、深さは10cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第699号土坑 (第148図)

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径17cm、底面は長径11cm、深さは9cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第700号土坑 (第148図)

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径22cm、底面は長径14cm、深さは17cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第701号土坑 (第148図)

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径17cm、底面は長径14cm、深さは29cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第702号土坑（第148図）

[位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は18cm×15cm、底面は10cm×4cm、深さは8cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第703号土坑（第111図）

[位置・確認層] A B - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第704号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長118cm、底面は長径108cm、深さは89cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器（第182図690）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第704号土坑（第111図）

[位置・確認層] A B - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第691号土坑、第703号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径214cm、底面は長径206cm、深さは45cmである。

[壁] 北側は外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群5 a類、6類土器（第182図691、692）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第705号土坑（第112図）

[位置・確認層] A B・A C - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は長方形で、開口部は224cm×129cm、底面は213cm×117cm、深さは127cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 16層に分層した。第2、5、9、12層は、暗褐色～褐色土が堆積し、ロームを含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ローム、炭化物を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第15、13、11、8、6、4、1層より第 群5 a類、6類土器(第182図693～699)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第706号土坑(第111図)

[位置・確認層] AC - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第707号土坑、第738号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径116cm、底面は長径92cm、深さは104cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。開口部付近で外側へ屈曲する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 9層に分層した。第3～5層は暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7層より第 群6類土器(第182図700)、第7～5、2層より第 群4類、6類土器(第182図701、702、704、705、707)、第 群土器(第182、183図703、706、708)が出土している。

石器は、第6層より敲磨器類4類Aが1点(図示していない)、1類Aが1点(図示していない)出土している。

土製品は、第6層より土器片利用土製品が1点(第224図51)、覆土より土器片利用土製品が1点(第224図52)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第707号土坑(第112図)

[位置・確認層] AC - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第706号土坑、第738号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長175cm、底面は最長135cm、深さは107cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がり、中位で屈曲し緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。西側に規模の大きい底面ピットを有する。

[堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積し、ローム、炭化物を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第708号土坑(第149図)

[位置・確認層] AF - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は9cm×6cm、底面は8cm×6cm、深さは34cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部への傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第709号土坑 (第149図)

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径11cm、底面は長径8cm、深さは26cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第710号土坑 (第149図)

[位置・確認層] A F・A G - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は25cm×21cm、底面は長径9cm、深さは27cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、炭化物を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第711号土坑 (第112図)

[位置・確認層] A F・A G - 133、134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第7号溝状遺構と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長145cm、底面は最長152cm、深さは111cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 11層に分層した。第3、6、9層は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、ローム、角礫、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第183図709)、覆土より第 群土器(第183図710)が

出土している。

石器は、覆土よりその他の剥片石器が1点（第200図59）、敲磨器類3類が1点（第216図162）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第712号土坑（第149図）

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第7号溝状遺構と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は18cm×14cm、底面は長径8cm、深さは48cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。北側は、中位で屈曲する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第713号土坑（第149図）

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第7号溝状遺構と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は12cm×9cm、底面は3cm×2cm、深さは50cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第714号土坑（第149図）

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は13cm×11cm、底面は長径8cm、深さは32cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第715号土坑（第149図）

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は48cm×27cm、底面は40cm×17cm、深さは20cmである。

[壁] 外側から緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物、角礫を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第716号土坑 (第149図)

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径10cm、底面は長径6cm、深さは30cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第717号土坑 (第149図)

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径16cm、底面は長径9cm、深さは42cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積しローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第718号土坑 (第149図)

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径14cm、底面は長径11cm、深さは13cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第719号土坑（第149図）

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は22cm×13cm、底面は12cm×8cm、深さは30cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側への傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第720号土坑（第149図）

[位置・確認面] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第721号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径32cm、底面は長径21cm、深さは29cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第721号土坑（第149図）

[位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第720号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径27cm、底面は長径28cm、深さは18cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。北側は、一部オーバーハングする。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第722号土坑（第112図）

[位置・確認層] A E - 139に位置する。第 層において確認した。

[重複] 第686号土坑、第753号土坑と重複し、本遺構は第686号土坑より古く、第753号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長154cm、底面は長径142cm、深さは54cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。一部若干の屈曲が見られる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ローム、角礫、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群5 a類土器(第183図711、712、714)、第2、1層より第 群土器(第183図713、715)が出土している。

石製品は、覆土より有孔石製品が1点(第228図21)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第723号土坑(第112図)

[位置・確認層] A E - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径62cm、底面は長径43cm、深さは40cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第724号土坑(第112図)

[位置・確認層] A F - 138、139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第735号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は110cm×111cm、底面は81cm×83cm、深さは75cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第183図716)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第725号土坑(第112図)

[位置・確認層] A E・A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第655号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長167cm、底面は最長159cm、深さは33cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第726号土坑（第113図）

[位置・確認層] AC - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第727号土坑、第740号土坑、第743号土坑と重複し、本遺構は第727号土坑、第740号土坑より古く、第743号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径148cm、底面は長径124cm、深さは72cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第4、5層は、黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黄褐色土、明褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層、覆土より第 群5 a類、6類土器（第183図717、718）覆土より第 群4～6類土器（第183図719、720、722）第 群土器（第183図721）が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点（第200図60）敲磨器類2類Bが1点（図示していない）出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点（第225図53）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第727号土坑（第113図）

[位置・確認層] AC - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第726号土坑、第741号土坑と重複し、本遺構は第726号土坑より新しく、第741号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径154cm、底面は長径130cm、深さは99cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 8層に分層した。第2層及び底面ピット第1層は黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第12、10、8、6、4層より、第 群3類、6類土器（第183図723、730、732、727、741）第12、10～4、2、1層より第 群4～9類土器（第183図724～726、728、729、731、733～737、742～745、748）第 群土器（第183図727、739、740、746、747）が出土している。

石器は、第12層より不定形石器3類が2点（図示していない）第10層より石筥3類が1点（第200図62）不定形石器1類Aが1点（図示していない）敲磨器類1類Aが1点（図示していない）第8層より敲磨器類2類Bが1点（図示していない）第6層より石鏃3類3が1点（第200図61）第1層より不定形石器1類Aが1点（図示していない）3類が1点（図示していない）覆土より敲磨器類1類Aが1点（図示していない）出土している。

土製品は、第12層より土器片利用土製品が3点（第225図55～57）第10層より鐿形土製品が1点（第225図54）土器片利用土製品が1点（第225図58）第1層より土器片利用土製品が1点（第225図59）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第728号土坑（第147図）

[位置・確認層] A E - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は28cm×23cm、底面は長径18cm、深さは45cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群5類土器（第183図750）、第 群土器（第183図749）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第729号土坑（第147図）

[位置・確認層] A E - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は32cm×27cm、底面は34cm×30cm、深さは24cmである。

[壁] 北側は、やや外側へ直線的に立ち上がる。南側は、内側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第183図751）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第730号土坑（第113図）

[位置・確認層] A C - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第739号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径147cm、底面は長径133cm、深さは68cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第 群3類、6類土器（第183図752、753）が出土している。

石器は、第6層より敲磨器類1類Eが1点（図示していない）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第731号土坑（第113図）

[位置・確認層] A F - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は153cm×132cm、底面は132cm×123cm、深さは55cm

である。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南東側から北西側への傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第733号土坑 (第113図)

[位置・確認層] A D・A E - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第734号土坑、第750号土坑と重複し、本遺構は第734号土坑より古く、第750号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は267cm×215cm、底面は217cm×167cm、深さは70cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器 (第183図754) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第734号土坑 (第113図)

[位置・確認層] A D - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第733号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径124cm、底面は長径88cm、深さは32cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第735号土坑 (第114図)

[位置・確認層] A E・A F - 138、139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第724号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径124cm、底面は長径107cm、深さは41cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以前の土坑と思われる。

第736号土坑（第114図）

- [位置・確認層] AC - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第749号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径34cm、底面は長径24cm、深さは12cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以後の土坑と思われる。

第737号土坑（第114図）

- [位置・確認層] AC - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第692号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径91cm、底面は長径107cm、深さは126cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] ほぼ平坦である。中央部に底面ピットを有する。
- [堆積土] 15層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～橙色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第10、1層より第 群5 a類、6類土器（第184図760、766）第14、13、11、6、5、2、1層より第 群4～6、8、10類土器（第161図33、第183、184図756～759、762、764、767）、第 群土器（第183、184図755、761、763、765）が出土している。
石器は、第13層より不定形石器3類が1点（図示していない）、第11層より敲磨器類4類Aが1点（図示していない）、石皿・台石2類が1点（第216図161）、第1層より敲磨器類2類Bが1点（図示していない）、2類Eが1点（図示していない）、覆土より石鏃2類2が1点（第200図63）、敲磨器類4類Dが1点（第217図163）、剥離のある礫が1点（図示していない）出土している。
土製品は、第13層より土器片利用土製品が1点（第225図61）、焼成粘土塊が1点（第225図60）、第11層より土器片利用土製品が1点（第225図62）、第5層より土器片利用土製品が1点（第225図63）出土している。
石製品は、第13層より有孔石製品が1点（第図）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第738号土坑（第114図）

- [位置・確認層] AC - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第689号土坑、第706号土坑、第707号土坑と重複し、本遺構は第689号土坑、第707号土坑より新しく、第706号土坑より古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径179cm、底面は長径150cm、深さは65cmである。
- [壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。下位で屈曲する。

- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。段差を有する。
- [堆積土] 8層に分層した。第4、8層は、黒色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第6、3層より第 群6類土器(第184図768、770)、第6、3層より第 群土器(第184図769、771)が出土している。
- 石器は、覆土より磨製石斧1類Cが1点(第217図164)出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第739号土坑(第114図)

- [位置・確認層] AC-132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第730号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は25cm×20cm、底面は長径13cm、深さは49cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以降の土坑と思われる。

第740号土坑(第114図)

- [位置・確認層] AB・AC-136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第726号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は84cm×66cm、底面は74cm×58cm、深さは17cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第741号土坑(第114図)

- [位置・確認層] AC-136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第727号土坑、第8号溝状遺構と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長138cm、底面は最長134cm、深さは58cmである。
- [壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。第2層は、黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群8類土器(第184図774)、第 群土器(第184図772、773)が出土

している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第742号土坑 (第114図)

[位置・確認層] A C - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長76cm、底面は最長60cm、深さは57cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部オーバーハングする。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層、覆土より第 群4類土器 (第184図777) 第 群土器 (第184図775、776) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第743号土坑 (第115図)

[位置・確認層] A C - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第726号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は146cm×92cm、底面は136cm×79cm、深さは19cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 明褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第1層より敲磨器類1類Aが1点 (図示していない) 出土している。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第744号土坑 (第115図)

[位置・確認層] A F・A G - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第710号土坑、第745号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長141cm、底面は最長130cm、深さは17cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側への傾斜が見られる。北側が落ち込む段差を有する。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群2b類土器 (第184図778) 第 群土器 (第184図779) が出土している。

土製品は、第1層より土器片利用土製品が1点 (第225図64) 出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第745号土坑（第149図）

- [位置・確認層] A F - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第744号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径18cm、底面は長径12cm、深さは32cmである。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、焼土、炭化物、角礫を含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第746号土坑（第115図）

- [位置・確認層] A G - 145グリッドに位置する。第 a層において確認した。
- [重複] 第18号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長118cm、底面は最長136cm、深さは71cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 東側から西側への傾斜が見られる。
- [堆積土] 8層に分層した。第8層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土はロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第6層より第 群6類土器（第184図780）が出土している。
- [時期] 遺構確認層より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第747号土坑（第115図）

- [位置・確認層] A G - 146グリッドに位置する。第 a層において確認した。
- [重複] 第18号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長68cm、底面は最長88cm、深さは51cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈するものと思われる。
- [底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第1層は暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。他は、暗褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第3層より第 群6類土器（第184図781）、第2層より第 群6類土器（第184図782）が出土している。
- [時期] 遺構確認層及び出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第748号土坑（第115図）

- [位置・確認層] A B・A C - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第749号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は38cm×34cm、底面は24cm×14cm、深さは44cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏を有する。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群4類土器(第184図783)が出土している。

石器は、第1層より敲磨器類4類Aが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第749号土坑(第115図)

[位置・確認層] AB・AC - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第736号土坑、第748号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径155cm、底面は長径135cm、深さは103cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部はやや内側へ立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。東西壁際に底面ピットを有する。

[堆積土] 13層に分層した。第1～3、7、10層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第8、5～2層、覆土より第 群3類、5a類、6類土器(第161図34、第184図784、786～788)第8、1層、覆土より第 群4類、8類土器(第184図790、791)第 群土器(第184図785、789)が出土している。

石器は、第2層より石鏃2類2が1点(第200図64)、石匙1類が1点(第201図66)、敲磨器類1類Aが1点(第217図167)、第1層より石鏃2類2(第200図65)、砥石が1点(第217図166)、覆土より不定形石器4類が1点(図示していない)、敲磨器類4類Bが1点(第217図165)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第750号土坑(第115図)

[位置・確認層] AE - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第733号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径134cm、底面は長径83cm、深さは78cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東西側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第751号土坑(第116図)

[位置・確認層] AB・AC - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径95cm、底面は長径134cm、深さは167cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4層より第 群6類土器(第184図794)、第5、4、2層、覆土より第 群2 a類、4～8類、10類、11類土器(第161、162図35～38、第184図793、795～805)、第 群土器(第184図792)が出土している。

石器は、第3層より敲磨器類3類が1点(第218図171)、覆土より石鏃2類1が1点(第201図67)、石筥3類が1点(第201図68)、不定形石器1類Fが1点(図示していない)、磨製石斧1類C類が2点(第217図168、169)、敲磨器類4類Dが1点(第218図170)出土している。

土製品は、覆土より鐔形土製品が1点(第225図65)、土器片利用土製品が2点(第225図66、67)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第753号土坑(第116図)

[位置・確認層] A E - 139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第722号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径138cm、底面は長径99cm、深さは73cmである。

[壁] 外側へ起伏を伴い緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏を伴うが、ほぼ平坦である。

[堆積土] 不明である。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器(第185図806)、第 群土器(第185図807)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第754号土坑(第116図)

[位置・確認層] A C - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第534号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径26cm、底面は長径15cm、深さ22cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第755号土坑(第116図)

[位置・確認層] A A・A B - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径118cm、底面は長径155cm、深さは77cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。中央部北東側に底面ピットを有する。

[堆積土] 7層に分層した。第1、3、5層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒色～黒褐色土が堆積し、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、5～1層、覆土より第 群5 a類、6類土器(第185図808、809、812～816)、第4層より第 群4類、6類土器(第185図810、811)が出土している。

石器は、覆土より異形石器が1点(第201図69)、敲磨器類2類Bが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第756号土坑(第116図)

[位置・確認層] A B - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径33cm、底面は長径17cm、深さは22cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器(第185図817)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第757号土坑(第149図)

[位置・確認層] A C - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は18cm×15cm、底面は長径9cm、深さは10cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第758号土坑(第149図)

[位置・確認層] A C・A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径21cm、底面は長径12cm、深さは9cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

- [底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第759号土坑 (第149図)

- [位置・確認層] A D - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は16cm×8cm、底面は長径9cm、深さは8cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第760号土坑 (第116図)

- [位置・確認層] A A - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第762号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は170cm×147cm、底面は126cm×102cm、深さは123cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。一部屈曲が見られる。
- [底面] 起伏が見られる。
- [堆積土] 5層に分層した。暗褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第4、2、1層より第 群3類、6類土器(第185図818～820)が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第761号土坑 (第116図)

- [位置・確認層] A B - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第619号土坑、第762号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長43cm、底面は最長30cm、深さは27cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以前の土坑と思われる。

第762号土坑 (第117図)

- [位置・確認層] A A・A B - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第619号土坑、第760号土坑、第761号土坑と重複し、本遺構は第619号土坑、第760号土坑より古く、第761号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径199cm、底面は長径188cm、深さは135cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第4層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

他は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土は、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4、1層より第 群3類、6類土器(第185図821、822)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第763号土坑(第116図)

[位置・確認層] A B - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第764号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は18cm×22cm、底面は14cm×18cm、深さは22cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第764号土坑(第116図)

[位置・確認層] A B - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第763号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は24cm×22cm、底面は22cm×18cm、深さは24cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第765号土坑(第149図)

[位置・確認層] A C - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は25cm×20cm、底面は18cm×13cm、深さは12cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量を含む。自然堆積とおもわれる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第768号土坑 (第149図)

[位置・確認層] A C - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径23cm、底面は長径18cm、深さは9cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第769号土坑 (第149図)

[位置・確認層] A C - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は31cm×23cm、底面は22cm×18cm、深さは13cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第770号土坑 (第117図)

[位置・確認層] A E - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径17cm、底面は長径11cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第771号土坑 (第148図)

[位置・確認層] A D - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径25cm、底面は長径20cm、深さは23cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 段差が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第772号土坑（第148図）

[位置・確認層] A E - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は35cm×28cm、底面は31cm×18cm、深さは14cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第774号土坑（第117図）

[位置・確認層] A D - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は53cm×44cm、底面は47cm×34cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第185図823）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第776号土坑（第117図）

[位置・確認層] X - 138グリッドに位置する。第 a層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径87cm、底面は長径84cm、深さは48cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第777号土坑（第117図）

- [位置・確認層] X - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径100cm、底面は長径90cm、深さは66cmである。
- [壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第778号土坑（第117図）

- [位置・確認層] A C - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径20cm、底面は長径11cm、深さは14cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第792号土坑（第117図）

- [位置・確認層] A E - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径33cm、底面は長径24cm、深さは25cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第799号土坑（第145図）

- [位置・確認層] A C・A D - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径30cm、底面は長径27cm、深さは33cmである。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。西側はオーバーハングする。
- [底面] 若干の起伏を伴うが、ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第800号土坑 (第145図)

[位置・確認層] A C - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径29cm、底面は長径27cm、深さは9cmである。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第801号土坑 (第145図)

[位置・確認層] A C - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径22cm、底面は長径20cm、深さは13cmである。
[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。一部はやや内側へ立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第802号土坑 (第117図)

[位置・確認層] A C - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は22cm×16cm、底面は18cm×13cm、深さは8cmである。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。
[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第803号土坑 (第117図)

[位置・確認層] A B・A C - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。

- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は31cm×24cm、底面は24cm×20cm、深さは17cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第804号土坑（第117図）

- [位置・確認層] A C - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長58cm、底面は最長64cm、深さは15cmである。
- [壁] 北側は外側へ緩やかに立ち上がる。西側はオーバーハングする。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器（第185図824、825）が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第805号土坑（第117図）

- [位置・確認層] A A - 137グリッドに位置する。第806号土坑覆土において確認した。
- [重複] 第806号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は88cm×71cm、底面は長径93cm、深さは81cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 部分的に起伏が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2層より第 群3類土器（第185図826）、第2、1層より第 群8類（第185図829）、第 群土器（第185図827、828、830）が出土している。
- 土製品は、第1層より土器片利用土製品が1点（第225図68）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第806号土坑（第117図）

- [位置・確認層] A A - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第805号土坑、第808号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は164cm×126cm、底面は162cm×136cm、深さは167cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 5層に分層した。第1、3、5層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5層より第群5 a類土器(第162図39) 第2、1層、覆土より第群4類、6類土器(第185図831、833) 第群土器(第185図832) が出土している。

石器は、第5層より石鏃2類2が3点(第201図71~73)、石匙1類が2点(第202図75、76)、磨製石斧1類Bが1点(第218図173)、1類Cが1点(第218図172)、覆土より石鏃2類2が1点(第201図70)、石筥2類が1点(第201図74) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第807号土坑(第118図)

[位置・確認層] AA-136、137グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第808号土坑、第892号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長112cm、底面は最長110cm、深さは167cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第4層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

他は、暗褐色~黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。ローム、人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第9、6層より第群5 a類土器(第185図834、835) 第4、2層より第群土器(第185図836、837) が出土している。

石器は、第2層より不定形石器1類Eが1点(第202図77)、2類が1点(図示していない)、その他の剥片石器が1点(図示していない) 出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が2点(第225図69、70) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第808号土坑(第118図)

[位置・確認層] AA-137グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第806号土坑、第807号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長70cm、底面は最長52cm、深さは44cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。東側は中位で屈曲する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第群6類土器(第185図838) 第1層より第群土器(第185図839) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第809号土坑(第118図)

[位置・確認層] X-138グリッドに位置する。第810号土坑、第811号土坑覆土において確認した。

[重複] 第810号土坑、第811号土坑、第812号土坑、第848号土坑と重複し、本遺構は、第810号土坑、第811号土坑より新しく、第812号土坑、第848号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径130cm、底面は長径105cm、深さは62cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第185図840)、第1層より第 群土器(第185図841)が出土している。

石器は、第1層より礫石錘3類が1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第810号土坑(第118図)

[位置・確認層] X-138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第809号土坑、第847号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長133cm、底面は最長150cm、深さは116cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4層より第 群6類土器(第185図843)、第5、4、2、1層、覆土より第 群2b類、3類、4類、7類土器(第185図844、847、848、850、852)、第 群土器(第185図842、845、846、849、851)が出土している。

石器は、第5層より不定形石器1類Aが1点(図示していない)、1類Bが3点(図示していない)、1類Cが1点(図示していない)、1類Dが1点(図示していない)、第4層より敲磨器類2類Aが1点(図示していない)、第1層より石匙2類が1点(第202図78)、不定形石器1類Aが1点(図示していない)、1類Bが1点(第202図79)、1類Dが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第811号土坑(第118図)

[位置・確認層] X-138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第809号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は長径91cm、底面は長径83cm、深さは38cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。東側一部はオーバーハングする。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5類、6類土器(第185図853、854)が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類1類Aが1点(図示していない)出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が2点(第225図71、72)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第812号土坑（第118図）

- [位置・確認層] X - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第809号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は75cm×52cm、底面は70cm×47cm、深さは30cmである。
- [壁] 北側はオーバーハングし、袋状を呈する。南側は外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第185図855）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第813号土坑（第150図）

- [位置・確認層] A C - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は20cm×16cm、底面は14cm×12cm、深さは14cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第814号土坑（第150図）

- [位置・確認層] A C - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径14cm、底面は長径11cm、深さは19cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第815号土坑（第150図）

- [位置・確認層] A B - 131、132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径24cm、底面は長径18cm、深さは16cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第816号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は17cm×14cm、底面は10cm×8cm、深さは17cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第817号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径12cm、底面は長径4cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第818号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径23cm、底面は長径13cm、深さは30cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

他は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第819号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は15cm×13cm、底面は9cm×8cm、深さは6cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第820号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径19cm、底面は長径14cm、深さは11cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第822号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 130、131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は20cm×16cm、底面は長径12cm、深さは31cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第823号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径14cm、底面は長径9cm、深さは11cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第824号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径21cm、底面は長径15cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第825号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は33cm×23cm、底面は28cm×15cm、深さは15cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第826号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径20cm、底面は長径17cm、深さは47cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第827号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径20cm、底面は長径14cm、深さは32cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第828号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は24cm×20cm、底面は18cm×15cm、深さは44cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第829号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は25cm×20cm、底面は22cm×17cm、深さは33cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群5 a類土器(第185図856)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第831号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は21cm×16cm、底面は11cm×9cm、深さは28cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第185図857)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第832号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は20cm×14cm、底面は12cm×8cm、深さは11cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第833号土坑 (第150図)

- [位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は18cm×14cm、底面は11cm×9cm、深さは15cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第834号土坑 (第150図)

- [位置・確認層] A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径18cm、底面は長径13cm、深さは34cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第835号土坑 (第150図)

- [位置・確認層] A C・A B - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径17cm、底面は長径13cm、深さは17cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第836号土坑 (第150図)

- [位置・確認層] A C - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径15cm、底面は長径11cm、深さは19cmである。

- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第837号土坑 (第150図)

- [位置・確認層] A C - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径23cm、底面は長径11cm、深さは30cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第2層は、黒褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第838号土坑 (第150図)

- [位置・確認層] A C - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径16cm、底面は長径12cm、深さは27cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土はロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第839号土坑 (第150図)

- [位置・確認層] A C - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は27cm×18cm、底面は長径11cm、深さは25cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 東側から西側への傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第840号土坑（第150図）

- [位置・確認層] A C - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径19cm、底面は長径14cm、深さは13cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第841号土坑（第118図）

- [位置・確認層] A B・A C - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径82cm、底面は長径76cm、深さは12cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側への傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第843号土坑（第118図）

- [位置・確認層] A A - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第844号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径56cm、底面は長径45cm、深さは16cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第844号土坑（第119図）

- [位置・確認層] A A - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第843号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径82cm、底面は長径66cm、深さは43cmである。
- [壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部はオーバーハングする。
- [底面] 外側から中央部へ若干の起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。黄褐色土、明褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2、1層、覆土より第 群土器（第185図858～860）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第845号土坑 (第119図)

[位置・確認層] Y・Z - 137グリッドに位置する。第 a層、第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径130cm、底面は長径176cm、深さは113cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 9層に分層した。第2、4、6層は暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土、暗赤褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、3層、覆土より第 群3類、5 a類、5 b類、6類土器 (第162、163図40～43、第185、186図861、862、865)、第2層、覆土より第 群4類土器 (第186図863)、第 群土器 (第186図864) が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点 (第202図80)、不定形石器3類が1点 (図示していない)、その他の剥片石器が1点 (図示していない) 出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第846号土坑 (第119図)

[位置・確認層] X - 138グリッドに位置する。第847号土坑覆土において確認した。

[重複] 第847号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は60cm×53cm、底面は36cm×25cm、深さは54cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群10類土器 (第186図866)、第 群土器 (第186図867) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第847号土坑 (第119図)

[位置・確認層] X - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第810号土坑、第846号土坑、第848号土坑、第949号土坑 A、第949号土坑 B と重複し、本遺構は第810号土坑、第848号土坑、第949号土坑 A、第949号土坑 B より新しく、第846号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径127cm、底面は長径123cm、深さは144cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。北東側は一部外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。中央部南側に底面ピットを有する。

[堆積土] 4層に分層した。第3層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4層より第 群6類土器(第186図869)、第 群土器(第186図868)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第848号土坑(第119図)

[位置・確認層] X - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第809号土坑、第847号土坑、第896号土坑と重複し、本遺構は第809号土坑より新しく、第847号土坑、第896号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長146cm、底面は最長141cm、深さは76cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏を見られる。

[堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第849号土坑(第119図)

[位置・確認層] Y - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長102cm、底面は最長97cm、深さは19cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第 群6類土器(第186図871)、第2、1層より、第 群2b類(第186図870)、第 群土器(第186図872)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第851号土坑(第120図)

[位置・確認層] A B - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は257cm×142cm、底面は247cm×134cm、深さは75cmである。

[壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。北側はやや屈曲して立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。南西、北東壁際に内側に傾く底面ピットを有する。

[堆積土] 7層に分層した。黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4、1層より第 群3類、6類土器(第186図873、874)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第852号土坑（第119図）

- [位置・確認層] Z - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第853号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は68cm×82cm、底面は59cm×75cm、深さは15cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第186図875）が出土している。
土製品は、第1層より鐔形土製品が1点（第225図73）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第853号土坑（第120図）

- [位置・確認層] Z - 136、137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第852号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径244cm、底面は長径236cm、深さは77cmである。
- [壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。北側は一部オーバーハングする。
- [底面] 西側から東側へ起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 6層に分層した。第3、4、6層は、黒褐色～暗褐色土が堆積しロームを少量ないし微量含む。他は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第4、2層より第 群6類土器（第186図876、877）、第2、1層より第 群土器（第186図878、879）が出土している。
石器は、覆土より不定形石器1類Fが1点（図示していない）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第854号土坑（第120図）

- [位置・確認層] Z - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第922号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径172cm、底面は長径153cm、深さは81cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 若干の起伏が見られる。
- [堆積土] 5層に分層した。第1、2層は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第4、2層より第 群5 a類、6類土器（第163図44、第186図880、881）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第863号土坑（第150図）

- [位置・確認層] A F - 150グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径26cm、底面は長径14cm、深さは22cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第864号土坑 (第150図)

[位置・確認層] A F - 150グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径12cm、底面は長径7cm、深さは30cmである。

[壁] 東側に傾き直線的に立ち上がる。

[底面] 丸くなっている。外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第865号土坑 (第151図)

[位置・確認層] A D - 149グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第866号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は40cm×32cm、底面は長径18cm、深さは25cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第866号土坑 (第151図)

[位置・確認層] A D - 148、149グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第865号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は18cm×18cm、底面は9cm×6cm、深さは22cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第867号土坑（第151図）

〔位置・確認層〕A D - 148グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は不整な円形で、開口部は長径33cm、底面は長径27cm、深さは35cmである。

〔壁〕全体としてやや東に傾き直線的に立ち上がる。

〔底面〕ほぼ平坦である。

〔堆積土〕第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

第868号土坑（第145図）

〔位置・確認層〕A D - 147グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は不整な円形で、開口部は長径46cm、底面は長径41cm、深さは33cmである。

〔壁〕外側へ緩やかに立ち上がる。

〔底面〕外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

〔堆積土〕3層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2、3層は、黒色～黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕土器は、覆土より第 群6類土器（第186図882）が出土している。

〔時期〕出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第871号土坑（第145図）

〔位置・確認層〕A D - 147グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形で、開口部は23cm×17cm、底面は14cm×11cm、深さは10cmである。

〔壁〕外側へ緩やかに立ち上がる。

〔底面〕ほぼ平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

第872号土坑（第155図）

〔位置・確認層〕A D - 147グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は不整な円形で、開口部は長径24cm、底面は長径13cm、深さは14cmである。

〔壁〕外側へ緩やかに立ち上がる。

〔底面〕ほぼ平坦である。

- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第877号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A F - 147グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径23cm、底面は長径12cm、深さは19cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第878号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A F - 146グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径24cm、底面は長径14cm、深さは20cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第879号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A F - 146グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第18号竪穴式住居跡と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径25cm、底面は長径17cm、深さは13cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第880号土坑 (第146図)

- [位置・確認層] A F - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径20cm、底面は長径12cm、深さは15cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第881号土坑 (第120図)

[位置・確認層] A F - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径20cm、底面は長径12cm、深さは18cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第882号土坑 (第151図)

[位置・確認層] A F - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径18cm、底面は長径12cm、深さは25cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第883号土坑 (第151図)

[位置・確認層] A F - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径26cm、底面は長径20cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第884号土坑（第146図）

- [位置・確認層] A G - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径28cm、底面は長径11cm、深さは11cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第885号土坑（第146図）

- [位置・確認層] A F - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円で、開口部は33cm×24cm、底面は長径17cm、深さは34cmである。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。中位、上位で外側に屈曲する。
- [底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第889号土坑（第151図）

- [位置・確認層] A F - 146グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円で、開口部は20cm×16cm、底面は14cm×10cm、深さは32cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積する。ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第890号土坑（第120図）

- [位置・確認層] Y - 136グリッドに位置する。第891号土坑覆土において確認した。
- [重複] 第891号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は176cm×154cm、底面は156cm×120cm、深さは119cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。中位で屈曲し外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 4層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を多量ないし中量含む。自然堆

積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類土器(第186図883)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第891号土坑(第121図)

[位置・確認層] Y - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第890号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は258cm×185cm、底面は249cm×169cm、深さは23cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 残存部はほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以前の土坑と思われる。

第892号土坑(第121図)

[位置・確認層] A A - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第807号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径87cm、底面は長径72cm、深さは28cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。西側一部は若干外側へ屈曲し立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群土器(第186図884、885)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第893号土坑(第121図)

[位置・確認層] X - 138グリッドに位置する。第894号土坑覆土において確認した。

[重複] 第894号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径41cm、底面は長径18cm、深さは32cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積する。ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第894号土坑(第121図)

[位置・確認層] X - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第893号土坑、第895号土坑と重複し、本遺構は第893号土坑より古く、第895号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は88cm×70cm、底面は74cm×61cm、深さは43cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第895号土坑（第121図）

[位置・確認層] X - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第894号土坑、第896号土坑と重複し、本遺構は第894号土坑より古く、第896号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長136cm、底面は最長122cm、深さは38cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第896号土坑（第121図）

[位置・確認層] X - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第848号土坑、第895号土坑と重複し、本遺構は第848号土坑より新しく、第895号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径80cm、底面は長径80cm、深さは81cmである。

[壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。北側は一部オーバーハングする。西側は外側へ屈曲して立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層、覆土より第 群4類土器（第186図886）、第 群土器（第186図887）が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類4類Aが1点（図示していない）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第897号土坑（第121図）

[位置・確認層] Y - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第914号土坑、第920号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は187cm×156cm、底面は174cm×139cm、深さは65cmである。

- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部やや内側へ屈曲して立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。中央部に底面ピットを有する。
- [堆積土] 3層に分層した。第3層は、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群3類土器（第186図888、889）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第908号土坑（第121図）

- [位置・確認層] A A・A B - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第909号土坑、第986号土坑と重複し、本遺構は第909号土坑より新しく、第986号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径190cm、底面は長径176cm、深さは95cmである。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部内側へオーバーハングして立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。第2、3層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第3、2層、覆土より第 群5 a類、6類土器（第164図45、第186図891、894）、第4、2層より第 群2 b類土器（第186図893）第 群土器（第186図890、892）が出土している。
石器は、第3層より石匙1類が1点（第202図81）、不定形石器1類Aが1点（図示していない）、1類Bが1点（図示していない）、第2層より石鏃3類3が1点（第202図82）、覆土より不定形石器1類Cが1点（第202図83）、3類が1点（図示していない）出土している。
石製品は、覆土より円形岩版が（第228図22）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第909号土坑（第122図）

- [位置・確認層] A A・A B - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第908号土坑、第1134号土坑と重複し、本遺構は第908号土坑より古く、第1134号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は169cm×155cm、底面は150cm×130cm、深さは70cmである。
- [壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。また、一部起伏が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。第3層は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群3類、6類土器（第186図895、896）、覆土より第 群土器（第186図897）が出土している。
石器は、覆土より敲磨器類4類Aが1点（図示していない）出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第910号土坑（第122図）

- [位置・確認層] Z - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第921号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径100cm、底面は長径112cm、深さは83cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。
- [堆積土] 3層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第3、1層、覆土より第 群3類、6類、11類土器（第164図46、47、第186図900～902）、第 群土器（第186図898、899）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第913号土坑（第122図）

- [位置・確認層] Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は35cm×25cm、底面は22cm×16cm、深さは51cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第914号土坑（第122図）

- [位置・確認層] Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第897号土坑、第920号土坑と重複し、本遺構は第897号土坑より新しく、第920号土坑より古い。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径183cm、底面は長径164cm、深さは22cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 若干の起伏が見られる。北東壁側に底面ピットを有する。
- [堆積土] 6層に分層した。第3層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第6、4～2層、覆土より第 群3類、4類、6類、8類土器（第186図903、905～909）、第 群土器（第186図904）が出土している。
 石器は、第3層より不定形石器1類Dが1点（第203図84）、第1層より敲磨器類2類Aが1点（図示していない）、覆土より不定形石器1類Cが1点（第203図85）、不定形石器1類Eが1点（第203図86）、不定形石器2類が1点（図示していない）出土している。
 土製品は、覆土よりミニチュア土器が1点（第225図74）、土器片利用土製品が2点（第225、226図75、109）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第920号土坑（第122図）

- [位置・確認層] Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第897号土坑、第914号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は最長165cm、底面は最長154cm、深さは9cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第186図910）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第921号土坑（第122図）

- [位置・確認層] Z - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第910号土坑、第1194号土坑と重複し、本遺構は第910号土坑より古く、第1194号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長126cm、底面は最長96cm、深さは14cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器（第186図912、913）、第1層より第 群土器（第186図910、911）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第922号土坑（第122図）

- [位置・確認層] Z - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第854号土坑、第923号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は最長136cm、底面は最長115cm、深さは32cmである。
- [壁] 残存部は、外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器（第図）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第923号土坑（第123図）

- [位置・確認層] Z - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第922号土坑、第924号土坑と重複し、本遺構は第922号土坑より古く、第924号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は最長188cm、底面は長径132cm、深さは122cmである。
- [壁] 外側へ起伏を伴い緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～明褐色土が堆積し、黒褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、4、3層より第群3類、5a類、6類土器(第186図914～917)、覆土より第群10類土器(第186図918)が出土している。

石器は、第3層より敲磨器類4類Bが1点(第218図175)、覆土より磨製石斧1類Bが1点(第218図174)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第924号土坑(第123図)

[位置・確認層] Z - 135、136グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第923号土坑、第999号土坑と重複し、本遺構は第923号土坑より古く、第999号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は170cm×150cm、底面は152cm×135cm、深さは68cmである。

[壁] 外側へ一部起伏を伴い緩やかに立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第1、5層は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒色～黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、1層より第群5a類土器(第186図919、920)が出土している。

石器は、第1層よりその他の剥片石器が1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第926号土坑(第151図)

[位置・確認層] AB - 132グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は21cm×16cm、底面は12cm×11cm、深さは19cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第927号土坑(第151図)

[位置・確認層] AB - 132グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は19cm×14cm、底面は長径5cm、深さは18cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第928号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A B - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第21号竪穴式住居と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は21cm×17cm、底面は長径12cm、深さは41cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第929号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A B - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は17cm×14cm、底面は長径7cm、深さは11cmである。
- [壁] 北側に傾き直線的に立ち上がる。
- [底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第930号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A B - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は21cm×16cm、底面は長径11cm、深さは44cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積する。ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第931号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A B - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は23cm×21cm、底面は15cm×15cm、深さは33cmである。

- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第932号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A B - 132、133グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径23cm、底面は長径23cm、深さは40cmである。
- [壁] 東側に傾き直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第933号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A B - 132、133グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径23cm、底面は長径14cm、深さは29cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第934号土坑 (第151図)

- [位置・確認層] A A・A B - 132グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は37cm×23cm、底面は14cm×8cm、深さは54cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第935号土坑（第151図）

[位置・確認層] A B - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は45cm×21cm、底面は39cm×15cm、深さは37cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がり、開口部付近で段差が見られる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第936号土坑（第123図）

[位置・確認層] Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第937号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径175cm、底面は長径173cm、深さは48cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。中央部東側に底面ピットを有する。

[堆積土] 9層に分層した。第1、3層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7層より第 群5 a類土器（第186図927）、第9～5、3、2層、覆土より第 群2 b類、4類、6～8類、10類土器（第186、187図921～923、925、928、930、932～934、936）第 群土器（第186、187図924、926、929、931、935）が出土している。

石器は、第8層より敲磨器類4類Aが1点（第218図176）第2層より不定形石器1類Aが1点（図示していない）覆土より磨製石斧1類Cが1点（図示していない）出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が3点（第225図76～78）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第937号土坑（第123図）

[位置・確認層] X・Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第936号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は174cm×142cm、底面は156cm×129cm、深さは102cmである。

[壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。西側一部はやや内側へ立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3～1層より第 群第3類、6類土器（第187図937～939）が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第945号土坑（第123図）

[位置・確認層] Z - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は70cm×47cm、底面は41cm×34cm、深さは38cmである。
[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器（第187図940）、第1層より第 群7類土器（第187図941）、第 群土器（第187図942）が出土している。
土製品は、第1層より鐸形土製品が1点（第226図79）出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第946号土坑（第124図）

[位置・確認層] Z - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径114cm、底面は長径86cm、深さは68cmである。
[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。東側は一部オーバーハングする。南西側の一部は開口部付近で外側へ屈曲する。
[底面] 若干の起伏が見られる。
[堆積土] 7層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第6～3、1層、覆土より第 群4～6類土器（第164図48、49、第187図943、944、948）、第 群土器（第187図945～947）が出土している。
石器は、第4層より不定形石器4類が1点（図示していない）、覆土より不定形石器3類が1点（図示していない）、4類が2点（図示していない）出土している。
土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点（第226図80）出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第947号土坑（第124図）

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層、第 層において確認した。
[重複] 第948号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は189cm×103cm、底面は142cm×89cm、深さは28cmである。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。西壁際に2個、南壁際に1個の底面ピットを有する。

- [堆積土] 2層に分層した。黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。ピットは黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群3類、6類土器(第187図949、950)が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第948号土坑(第124図)

- [位置・確認層] Z-134グリッドに位置する。第 層、第 層において確認した。
- [重複] 第947号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径123cm、底面は長径97cm、深さは37cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群3類土器(第187図951)が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第949号土坑A(第124図)

- [位置・確認層] X-138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第847号土坑、第949号土坑Bと重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は最長70cm、底面は最長48cm、深さは60cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 4層に分層した。第1、2層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第949号土坑B(第124図)

- [位置・確認層] X-138グリッドに位置する。第949号土坑A覆土において確認した。
- [重複] 第847号土坑、第949号土坑Aと重複し、本遺構は第847号土坑より古く、第949号土坑Aより新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は最長17cm、底面は最長11cm、深さは49cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第955号土坑（第124図）

- [位置・確認層] Y - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第956号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は109cm×98cm、底面は100cm×79cm、深さは51cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。西壁際に底面ピットを有する。
- [堆積土] 3層に分層した。黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第3～1層より第 群6類、8類土器（第187図953、954）第 群土器（第187図952）が出土している。
石器は、覆土より磨製石斧1類Bが1点（第219図177）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第956号土坑（第124図）

- [位置・確認層] Y - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第955号土坑、第958号土坑、第976号土坑Bと重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長159cm、底面は最長138cm、深さは38cmである。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。第3層は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 石器は、覆土より石匙2類が1点（第203図88）出土している。
土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点（第226図81）出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第958号土坑（第124図）

- [位置・確認層] Y - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第956号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は72cm×57cm、底面は48cm×33cm、深さは33cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第3層は、暗褐色土が堆積し、黄褐色土を中量含む。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第959号土坑（第124図）

- [位置・確認層] Y - 137グリッドに位置する。第 層、第 層において確認した。

[重複] 第960号土坑、第976号土坑Bと重複し、本遺構は第960号土坑より古く、第976号土坑Bとの新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径88cm、底面は長径80cm、深さは55cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1、4層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群土器（第187図955、956）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第960号土坑（第125図）

[位置・確認層] X・Y - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第959号土坑、第1041号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径160cm、底面は長径148cm、深さは23cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。南西側はやや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群土器（第187図957）が出土している。

土製品は、覆土よりミニチュア土器が1点（第226図82）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第963号土坑（第125図）

[位置・確認層] Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は171cm×101cm、底面は169cm×89cm、深さは69cmである。

[壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。東西壁はやや内側へ屈曲して立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第4層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6～4、2層より第 群5a類、6類土器（第187図958～961）、覆土より第 群土器（第187図962）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる

第964号土坑（第125図）

[位置・確認層] AA - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径97cm、底面は長径79cm、深さは34cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。北側一部は中位で屈曲する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、3層より第 群3類、6類土器(第187図963、964)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第965号土坑(第125図)

[位置・確認層] Z - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径109cm、底面は長径77cm、深さは41cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群3類土器(第187図965)、第1層、覆土より第 群4類、8類土器(第187図966、967)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第966号土坑(第125図)

[位置・確認層] A A - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は50cm×40cm、底面は長径22cm、深さは29cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む、自然堆積と思われる。他は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第967号土坑(第125図)

[位置・確認層] A A - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は41cm×33cm、底面は33cm×18cm、深さは12cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第968号土坑 (第125図)

- [位置・確認層] Z・A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第263号土坑と重複し、本遺構とは新旧不明である。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径90cm、底面は長径80cm、深さは13cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 若干の起伏が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第969号土坑 (第152図)

- [位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は54cm×24cm、底面は45cm×16cm、深さは23cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 起伏を呈し、東側に段差が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第970号土坑 (第152図)

- [位置・確認層] Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は28cm×20cm、底面は長径17cm、深さは30cmである。
- [壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。一部屈曲が見られる。
- [底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム少量を含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第972号土坑 (第152図)

- [位置・確認層] Y - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は37cm×22cm、底面は28cm×22cm、深さは22cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ローム、褐色土を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第973号土坑 (第125図)

[位置・確認層] Y - 130、131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径146cm、底面は長径130cm、深さは31cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。また、起伏も見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類、5 a類、6類土器(第187図968~970)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第974号土坑 (第125図)

[位置・確認層] A A - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1065号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は237cm×193cm、底面は226cm×201cm、深さは98cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏を有する。

[堆積土] 7層に分層した。第3、4、6層は、暗褐色土が堆積し、混入物を含むものは、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色~褐色土が堆積し、黒褐色土は、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6~4、2層、覆土より第 群3類、5 a類、6類土器(第165図50、第187図971~974、977)、第1層より第 群8類土器(第187図975)、第 群土器(第187図976)が出土している。

石器は、第5層より不定形石器3類が1点(図示していない)、第4層より敲磨器類2類Bが1点(第219図180)、第1層より石錐2類2が1点(第203図89)、不定形石器3類が1点(図示していない)、覆土よりその他の剥片石器が1点(第203図87)、敲磨器類2類Bが1点(図示していない)、4類Aが1点(図示していない)、4類Bが1点(第219図178)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第975号土坑 (第126図)

[位置・確認層] A A - 136、137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1064号土坑、第1065号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は76cm×54cm、底面は72cm×45cm、深さは33cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。一部屈曲が見られる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 7層に分層した。第5層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、5、4、1層より第 群5 a類、6類土器(第187図978～981)が出土している。

石器は、第4層より敲磨器類2類Bが1点(図示していない)、第1層より不定形石器4類が1点(図示していない)出土している。

石製品は、第1層よりその他の石製品が1点(第228図23)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第976号土坑A(第126図)

[位置・確認層] Y-137グリッドに位置する。第976号土坑B、第977号土坑覆土において確認した。

[重複] 第976号土坑B、第977号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は76cm×54cm、底面は72cm×45cm、深さは33cmである。

[壁] 全体としてやや外側へオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北東側から南西側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] にぶい黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第976号土坑B(第126図)

[位置・確認層] Y-137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第956号土坑、第959号土坑、第976号土坑A、第977号土坑と重複し、本遺構は第956号土坑、第977号土坑より新しく、第976号土坑Aより古く、第959号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径106cm、底面は最長124cm、深さは79cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦であるが、若干の起伏を伴う。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4層より第 群6類土器(第187図982)、第4、1層、覆土より第 群3類土器(第187図985)、第 群土器(第187図983、984)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第977号土坑(第126図)

[位置・確認層] Y-137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第976号土坑A、第976号土坑B、第978号土坑、第1050号土坑、第1054号土坑と重複し、本遺構は第976号土坑A、第976号土坑B、第978号土坑より古く、第1050号土坑、第1054号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径148cm、底面は長径140cm、深さは52cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 5層に分層した。第1、3、5層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒色～褐色土が堆積し、黒色土は、炭化物層である。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、4層より第群5a類、6類土器(第165図51、第187図986、988)、第5層より第群4類土器(第187図987)が出土している。

石器は、第4層より剥離のある礫が1点(第219図179)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第978号土坑(第126図)

[位置・確認層] Y-137、138グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第977号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径94cm、底面は長径135cm、深さは95cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 3層に分層した。第2層は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3～1層より第群4～6類土器(第188図989～992)が出土している。

石器は、覆土より不定形石器3類が2点(図示していない)出土している。

土製品は、第1層よりミニチュア土器が1点(第226図83)、覆土よりミニチュア土器が1点(第226図84)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第983号土坑(第126図)

[位置・確認層] AA-135、136グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は120cm×107cm、底面は134cm×130cm、深さは155cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 20層に分層した。第1、3、6、9～11、17層は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ローム、黄褐色土を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第19～17、11～9、7、4、1層より第群3類、5a類、6類土器(第188図

993～1001)が出土している。

石器は、第11層より石匙1類が1点(第203図90)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第984号土坑(第127図)

[位置・確認層] AA・AB - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径264cm、底面は長径232cm、深さは114cmである。

[壁] 全体としてやや外側へ屈曲を伴い立ち上がる。一部は若干オーバーハングする。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第7層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

他は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、炭化物を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、6、4、2、1層より第 群5a類、6類土器(第188図1002～1006)が出土している。

石器は、第3層より石匙1類が1点(第203図91)、覆土より石筥1類が1点(第204図92)出土している。

土製品は、第4層より土器片利用土製品が1点(第226図85)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第985号土坑(第127図)

[位置・確認層] AA・AB - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長149cm、底面は長径164cm、深さは157cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 12層に分層した。第8、11層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む、自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第12、11、9、7、4層より第 群3類、5a類、6類土器(第188図1007～1011)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第986号土坑(第127図)

[位置・確認層] AA - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第908号土坑、第1143号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径74cm、底面は長径34cm、深さは34cmである。

[壁] 若干の屈曲を伴い外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器(第188図1012)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第987号土坑(第127図)

[位置・確認層] AA - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第988号土坑、第1044号土坑、第1069号土坑、第1070号土坑と重複し、本遺構は第988号土坑、第1044号土坑、第1070号土坑より古く、第1069号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は198cm×105cm、底面は179cm×97cm、深さは66cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第1、5層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、第2層中にブロック状に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、4層より第 群3類、5a類土器(第188図1013、1016) 第6～4、2、1層より第 群4類土器(第188図1014、1015) 第 群土器(第188図1017～1019)が出土している。石器は、第6層より不定形石器1類Dが1点(図示していない) 第4層より不定形石器1類Dが1点(図示していない) 覆土より石匙3類が1点(図示していない) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第988号土坑(第127図)

[位置・確認層] AA - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第987号土坑、第989号土坑、第1070号土坑と重複し、本遺構は第987号土坑より新しく、第989号土坑、第1070号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は138cm×95cm、底面は長径110cm、深さは74cmである。

[壁] 東西壁はやや外側へ直線的に立ち上がり、中位で屈曲し外側へ緩やかに立ち上がる。南壁は外側へ緩やかに立ち上がる。北壁はオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第4層は、黒褐色土が堆積し、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群2a類土器(第188図1020、1021)が出土している。

石器は、第1層よりその他の剥片石器が1点(図示していない) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第989号土坑(第127図)

[位置・確認層] AA - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第988号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径50cm、底面は長径26cm、深さは10cmである。

- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第990号土坑（第128図）

- [位置・確認層] X - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第991号土坑、第1030号土坑、第1041号土坑、第1054号土坑、第1055号土坑と重複し、本遺構は第991号土坑より古く、第1030号土坑、第1041号土坑より新しく、第1054号土坑、第1055号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径194cm、底面は長径192cm、深さは75cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 12層に分層した。第1、3～6、10、11層は、黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫、明褐色土を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土、明褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2層より第 群6類土器（第188図1028）第11、10、5、4、2、1層、覆土より第 群4類、6類、8類、9類土器（第188図1023～1027、1029～1031）第 群土器（第188図1022）が出土している。
石器は、覆土より敲磨器類2類Eが1点（図示していない）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第991号土坑（第128図）

- [位置・確認層] X - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第990号土坑、第992号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径93cm、底面は長径143cm、深さは57cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 6層に分層した。第4層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第5～1層より第 群4類、6類土器（第188図1032～1034）第 群土器（第188図1035、1036）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第992号土坑（第128図）

- [位置・確認層] X - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第991号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長98cm、底面は最長87cm、深さは55cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1、2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群4類、5類、8類土器(第188図1037～1040)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第993号土坑(第152図)

[位置・確認層] Y-135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は16cm×14cm、底面は12cm×8cm、深さは17cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ロームを含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第994号土坑A(第152図)

[位置・確認層] Y-135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第994号土坑B、第1043号土坑と重複し、本遺構は第994号土坑Bより新しく、第1043号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長25cm、底面は最長17cm、深さは12cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。一部外側へ屈曲する。

[底面] 北西側から南東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第2、3、5、7層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以降の土坑と思われる。

第994号土坑B(第152図)

[位置・確認層] Y-135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第994号土坑A、第1043号土坑と重複し、本遺構は第994号土坑Aより古く、第1043号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長36cm、底面は最長8cm、深さは26cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 不明である。

- [堆積土] 3層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第188図1041)が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第995号土坑(第152図)

- [位置・確認層] Y・Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は28cm×18cm、底面は10cm×7cm、深さは22cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 段差が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第996号土坑(第152図)

- [位置・確認層] Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径23cm、底面は長径9cm、深さは43cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。開口部付近で若干外側へ屈曲する。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第997号土坑(第152図)

- [位置・確認層] Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は23cm×18cm、底面は長径14cm、深さは11cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第998号土坑(第152図)

- [位置・確認層] Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。

- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は34cm×27cm、底面は22cm×19cm、深さは10cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 南西側から北東側へ急な傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第999号土坑 (第128図)

- [位置・確認層] Z・A A - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第924号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長246cm、底面は長径184cm、深さは176cmである。
- [壁] やや外側へ屈曲して立ち上がる。開口部付近に段差を有し、東西にピットを有する。
- [底面] 外側からほぼ中央部へ若干の傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。
- [堆積土] 4層に分層した。第2～4層は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第4～1層より第 群5 a類、6類土器(第188図1042～1045)が出土している。
石器は、第1層より敲磨器類2類Eが1点(図示していない)、3類が2点(第219図181、1点は図示していない)出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1030号土坑 (第128図)

- [位置・確認層] X - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第990号土坑、第1040号土坑、第1055号土坑と重複し、本遺構は1040号土坑より新しく、第990号土坑、第1055号土坑より古い。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長140cm、底面は最長120cm、深さは89cmである。
- [壁] 残存部は、外側へ起伏を伴い緩やかに立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第3層、覆土より第 群8類土器(第189図1048)、第 群土器(第188、189図1046、1047)が出土している。
石器は、第2層より敲磨器類2類Aが1点(図示していない)出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1032号土坑 (第152図)

- [位置・確認層] Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。

- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は31cm×24cm、底面は18cm×11cm、深さは21cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。西側は開口部付近で外側へ若干屈曲する。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1036号土坑 (第129図)

- [位置・確認層] Z - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1037号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径155cm、底面は長径145cm、深さは27cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 北側から南側へ若干の起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群3類、6類土器 (第165図52、53、第189図1049、1050) が出土している。
- 石器は、第1層より石匙1類が1点 (第204図94)、抉入扁平磨製石器が1点 (第219図182) 出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1037号土坑 (第129図)

- [位置・確認層] Y・Z - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1036号土坑、第1038号土坑、第1195号土坑と重複し、本遺構は第1036号土坑、第1038号土坑より古く、第1195号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径130cm、底面は長径106cm、深さは89cmである。
- [壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部オーバーハングする。
- [底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 9層に分層した。第6、7層は、黒褐色土が堆積し、角礫、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。なお、重複する第1036号土坑の覆土が第1層上部に流れ込んでいる可能性が高いと思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群5a類土器 (第189図1056) 第8～4層、覆土より第 群5類土器 (第189図1054) 第 群土器 (第189図1051～1053、1055、1057) が出土している。
- 石器は、覆土より石匙1類が1点 (第204図95)、不定形石器3類が1点 (図示していない)、4類が1点 (図示していない) 出土している。
- 土製品は、第5層より土器片利用土製品が2点 (第226図86、87)、覆土より土器片利用土製品が1点 (第226図88) 出土している。
- 石製品は、覆土より円形岩版が1点 (第228図24) 出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1038号土坑（第129図）

- [位置・確認層] Y - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1037号土坑、第1079号土坑、第1195号土坑と重複し、本遺構は第1037号土坑、第1079号土坑、第1195号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長105cm、底面は最長112cm、深さは91cmである。
- [壁] 全体としてやや外側へ屈曲し立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ若干傾斜が見られる。
- [堆積土] 5層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、川原石を多量、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第5層より第 群6類土器（第189図1058）第2、1層より第 群4～6類土器（第189図1060～1062）第 群土器（第189図1059、1063）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1040号土坑（第129図）

- [位置・確認層] X - 137グリッドに位置する。第 a層において確認した。
- [重複] 第1030号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は最長87cm、底面は最長88cm、深さは95cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 南東側から北西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構確認層及び遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第1041号土坑（第129図）

- [位置・確認層] X・Y - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第960号土坑、第990号土坑、第1054号土坑と重複し、本遺構は第960号土坑、第990号土坑より古く、第1054号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長115cm、底面は最長106cm、深さは30cmである。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第189図1064）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1043号土坑（第152図）

- [位置・確認層] Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第994号土坑A、第994号土坑Bと重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長35cm、底面は最長17cm、深さは54cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。第3層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1044号土坑 (第129図)

- [位置・確認層] AA - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第987号土坑、第1134号土坑と重複し、本遺構は第987号土坑より新しく、第1134号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は114cm×97cm、底面は102cm×91cm、深さは89cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 5層に分層した。第5層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器 (第189図1065)、覆土より第 群4類、8類、10類土器 (第189図1066～1068) が出土している。
 石器は、覆土より石鏃2類2が1点 (第204図93) 出土している。
 土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点 (第226図89) 出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1045号土坑 (第130図)

- [位置・確認層] Z - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1046号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は270cm×195cm、底面は156cm×135cm、深さは99cmである。
- [壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。南側は一部オーバーハングする。開口部付近で屈曲し段差が見られる。また、開口部南西側にピットを有する。
- [底面] 南東側から北西側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 22層に分層した。第4、8、9、14層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第19、13、7層より第 群3類、5a類土器 (第189図1069～1071) が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1046号土坑（第130図）

- [位置・確認層] Z - 135、136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1045号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は56cm×44cm、底面は長径82cm、深さは84cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。第1、2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類土器（第189図1072）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1048号土坑A（第130図）

- [位置・確認層] Y - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1048号土坑B、第1078号土坑、第1079号土坑、第1193号土坑、第1195号土坑と重複し、本遺構は第1048号土坑B、第1193号土坑、第1195号土坑より新しく、第1078号土坑、第1079号土坑より古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長116cm、底面は長径92cm、深さは74cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第3層は、暗褐色土が堆積し、角礫を微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2層、覆土より第 群4類、6類、8類土器（第189図1073～1075）第 群土器（第189図1076）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1048号土坑B（第130図）

- [位置・確認層] Y - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1048号土坑A、第1079号土坑、第1081号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長77cm、底面は最長107cm、深さは45cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 若干の起伏を伴うが、ほぼ平坦である。
- [堆積土] 3層に分層した。褐色～明褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1049号土坑（第130図）

- [位置・確認層] Y - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。

- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径94cm、底面は長径74cm、深さは50cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。南側一部は外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群5類土器(第189図1078)、第 群土器(第189図1077)が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1050号土坑(第130図)

- [位置・確認層] X・Y - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第977号土坑、第1054号土坑と重複し、本遺構は第977号土坑より古く、第1054号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は111cm×98cm、底面は90cm×70cm、深さは32cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。また、覆土上部に第 a層が堆積する。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群4類土器(第189図1079)が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1051号土坑(第130図)

- [位置・確認層] Z - 138、139グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径192cm、底面は長径177cm、深さは31cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1052号土坑(第131図)

- [位置・確認層] Y - 138、139グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径173cm、底面は長径151cm、深さは41cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。一部起伏が見られる。
- [底面] 起伏が見られる。中央部南西側に底面ピットを有する。
- [堆積土] 4層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第 群6類土器(第189図1081、1082) 第1層より第 群土器(第189図1080) が出土している。

石器は、第1層より不定形石器3類が1点(図示していない) 出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1054号土坑(第131図)

[位置・確認層] X・Y - 137グリッドに位置する。第 a層において確認した。

[重複] 第977号土坑、第990号土坑、第1041号土坑、第1050号土坑、第1055号土坑と重複し、本遺構は第977号土坑、第1041号土坑、第1050号土坑より古く、第1055号土坑より新しく、第990号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長128cm、底面は最長122cm、深さは27cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部やや内側へ立ち上がる。

[底面] 北西側から南西側へ若干の傾斜が見られる。中央部から南壁にかけて、楕円形の底面ピットを有する。

[堆積土] 第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群5 a類土器(第189図1083) が出土している。

石製品は、第1層より有孔石製品が1点(第228図25) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1055号土坑(第131図)

[位置・確認層] X - 137グリッドに位置する。第 層及び第990号土坑、第1030号土坑、第1054号土坑 覆土において確認した。

[重複] 第990号土坑、第1030号土坑、第1054号土坑と重複し、本遺構は第1030号土坑より新しく、第1054号土坑より古く、第990号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長134cm、底面は最長101cm、深さは42cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第4層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群4類土器(第189図1085) 第 群土器(第189図1084、1086) が出土している。

[時期] 遺構確認層及び出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1057号土坑(第131図)

[位置・確認層] A C - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径46cm、底面は長径52cm、深さは64cmである。

[壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第189図1087）が出土している。

石器は、第1層より石皿・台石1類が1点（第220図183）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1058号土坑（第131図）

[位置・確認層] A B - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径88cm、底面は長径95cm、深さは90cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層より第 群6類土器（第189図1088）第3～1層より第 群4類、5類、8類土器（第189図1089～1091、1093）第 群土器（第189図1092）が出土している。

石器は、第3層より不定形石器1類Gが1点（第204図96）半円状扁平打製石器が1点（第220図185）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1059号土坑（第131図）

[位置・確認層] A B - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長41cm、底面は長径14cm、深さは10cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1060号土坑（第131図）

[位置・確認層] A C・A D - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1061号土坑、第1073号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は202cm×178cm、底面は162cm×123cm、深さは57cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏を有する。

[堆積土] 4層に分層した。第4層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層より第 群6類土器(第189図1095) 第4～1層、覆土より第 群6類土器(第189図1099) 第 群土器(第189図1094、1096～1098)が出土している。

石器は、覆土より不定形石器1類Cが1点(第204図97)出土している。

土製品は、第4層より土器片利用土製品が1点(第226図90)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1061号土坑(第131図)

[位置・確認層] AC-138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1060号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は96cm×57cm、底面は78cm×28cm、深さは38cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ若干の起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1062号土坑(第132図)

[位置・確認層] X・Y-138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1085号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形である。開口部は85cm×96cm、底面は79cm×80cm、深さは51cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群土器(第189図1100)が出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が3点(第226図91～93)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1063号土坑(第132図)

[位置・確認層] Y-138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1085号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長152cm、底面は長径140cm、深さは99cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。南側は一部やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1、2層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ローム、褐色土を中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、5～3、1層より第 群4類、6類土器（第166図54、第189図1102、1106）、第 群土器（第189図1101、1103～1105）が出土している。

石器は、第7層より不定形石器3類が1点（図示していない）、覆土より石皿・台石1類が1点（第220図187）出土している。

土製品は、第4層より土器片利用土製品が1点（第226図94）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1064号土坑（第132図）

[位置・確認層] Z・AA - 136、137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第975号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は94cm×49cm、底面は84cm×44cm、深さは15cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群10類土器（第189図1107）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1065号土坑（第132図）

[位置・確認層] Z・AA - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第974号土坑、第975号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長123cm、底面は最長113cm、深さは30cmである。

[壁] 残存部は、外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。また起伏が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1069号土坑（第132図）

[位置・確認層] AA - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第987号土坑、第1070号土坑と重複し、本遺構は第1070号土坑より古く、第987号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長73cm、底面は最長61cm、深さは67cmである。

[壁] やや外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、角礫を微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器（第189図1108）、第 群土器（第189図1109）が出土し

ている。

石器は、覆土より敲磨器類2類Aが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1070号土坑(第132図)

[位置・確認層] Z・AA-137、138グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] 第987号土坑、第988号土坑、第1069号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径119cm、底面は長径89cm、深さは114cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部屈曲が見られる。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第3層は、黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4、3層より第1群6類土器(第190図1111、1112)、第4～1層より第1群5類、6類、8類土器(第166図55、第190図1114～1116)、第1群土器(第190図1110、1113)が出土している。

石器は、第2層より石鏃3類2が1点(第205図100)、第1層より不定形石器1類Eが1点(図示していない)、覆土より石鏃2類2が1点(第205図98)、大石平形石筥が1点(第205図99)、不定形石器2類が1点(図示していない)、4類が1点(図示していない)、敲磨器類4類Aが1点(図示していない)出土している。

土製品は、底面より土器片利用土製品が1点(第226図96)、第1層より土器片利用土製品が1点(第226図95)出土している。

石製品は、第1層より円形岩版が1点(第228図26)、石冠が1点(第228図29)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1071号土坑(第132図)

[位置・確認層] Y-139グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] 第1072号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長118cm、底面は長径124cm、深さは78cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。中央部および東壁側に底面ピットを有する。

[堆積土] 7層に分層した。第5、6層は、暗褐色土が堆積しローム、角礫を少量ないし微量含む。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、ローム、炭化物を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、4、2、1層、覆土より第1群3類、6類、7類土器(第166図56、第190図1119、1121、1122)、第1群土器(第189図1117、1118、1120、1123)が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類1類Aが1点(図示していない)出土している。

土製品は、第1層より土器片利用土製品が1点(第226図97)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1072号土坑（第133図）

- [位置・確認層] X・Y - 139グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1071号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は214cm×174cm、底面は205cm×158cm、深さは51cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。南西側に底面ピットを有する。
- [堆積土] 4層に分層した。暗褐色～黄橙色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第4層より第 群土器（第190図1124）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1073号土坑（第132図）

- [位置・確認層] A C・A D - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1060号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は100cm×54cm、底面は64cm×38cm、深さは55cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1074号土坑（第133図）

- [位置・確認層] A C - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1075号土坑、第1136号土坑と重複し、本遺構は第1075号土坑より新しく、第1136号土坑より古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長125cm、底面は長径86cm、深さは75cmである。
- [壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2層より第 群土器（第190図1125）が出土している。
土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点（図示していない）出土している。
石製品は、覆土より円形岩版が1点（第228図27）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1075号土坑（第133図）

[位置・確認層] A C - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1074号土坑、第1136号土坑と重複し、本遺構は第1074号土坑より古く、第1136号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径118cm、底面は長径105cm、深さは121cmである。

[壁] 全体としてややオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 7層に分層した。第1、4、6層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7層より第 群6類土器（第190図1126）第5～3、1層、覆土より第 群4～6類、11類土器（第166図57、第190図1127～1129、1132～1135）第 群土器（第190図1130、1131、1136）が出土している。

石器は、第4層より敲磨器類1類Dが1点（図示していない）出土している。

土製品は、第4層よりミニチュア土器が1点（第226図98）土器片利用土製品が1点（第226図99）覆土より土器片利用土製品が2点（第226図100、101）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1076号土坑（第133図）

[位置・確認層] A B - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1136号土坑、第1196号土坑と重複し、本遺構は、第1196号土坑より新しく第1136号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は56cm×33cm、底面は26cm×21cm、深さは41cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2層は、黒色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1077号土坑（第133図）

[位置・確認層] X - 139、140グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1133号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は204cm×172cm、底面は158cm×145cm、深さは61cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏を有するがほぼ平坦である。北西側に底面ピットを有する。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第 群土器 (第190図1137) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1078号土坑 (第133図)

[位置・確認層] Y - 138グリッドに位置する。第1048号土坑 A 覆土において確認した。

[重複] 第1048号土、第1193号土坑 A と重複し、本遺構は第1048号土より新しく、第1193号土坑 A との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は45cm×50cm、底面は37cm×31cm、深さは51cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器 (第190図1138) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1079号坑 (第133図)

[位置・確認層] Y - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1038号土坑、第1048号土坑 A、第1048号土坑 B、第1080号土坑、第1081号土坑、第1193号土坑と重複し、本遺構は第1038号土坑、第1048号土坑 A、第1048号土坑 B、第1080号土坑、第1193号土坑より新しく、第1081号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長211cm、底面は最長165cm、深さは103cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第 群 5 a 類土器 (第190図1139、1140)、覆土より第 群土器 (第190図1141、1142) が出土している。

石器は、第1層より石匙2類が1点 (図示していない) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1080号土坑 (第134図)

[位置・確認層] Y - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1079号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長92cm、底面は最長76cm、深さは56cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第1、2層は、暗褐色土が堆積し、角礫、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より、第 群土器 (第190図1143) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1081号土坑 (第134図)

[位置・確認層] Y - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1048号土坑B、第1079号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は57cm×48cm、底面は51cm×34cm、深さは34cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群4類土器(第190図1144)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1083号土坑 (第134図)

[位置・確認層] X - 143グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1号石棺墓と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径149cm、底面は長径143cm、深さは151cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 8層に分層した。暗褐色～暗赤褐色土が堆積し、暗褐色土は、炭化物を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5a類土器(第190図1145)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1085号土坑 (第134図)

[位置・確認層] Y - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1062号土坑、第1063号土坑と重複し、本遺構は第1062号土坑より新しく、第1063号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長161cm、底面は最長130cm、深さは55cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 不明である。

[堆積土] 3層に分層した。黒色～褐色土が堆積し、黒色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1089号土坑 (第134図)

[位置・確認層] X - 140グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は81cm×61cm、底面は77cm×50cm、深さは27cmであ

る。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1090号土坑 (第134図)

[位置・確認層] A A - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は44cm×50cm、底面は43cm×34cm、深さは40cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。西側開口部は外側へ湾曲する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第190図1146)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1091号土坑 (第134図)

[位置・確認層] A B - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径37cm、底面は長径27cm、深さは37cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第 群6類土器(第190図1147)、第1層より第 群土器(第190図1148)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1092号土坑 (第134図)

[位置・確認層] A C - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1094号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径47cm、底面は長径34cm、深さは26cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1093号土坑（第134図）

〔位置・確認層〕A B - 138、139グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は不整な円形である。開口部は長径145cm、底面は長径108cm、深さは38cmである。

〔壁〕外側へ緩やかに立ち上がる。

〔底面〕中央部から東西側へ傾斜が見られる。

〔堆積土〕2層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

第1094号土坑（第134図）

〔位置・確認層〕A C - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕第1092号土坑と重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形で、開口部は41cm×34cm、底面は32cm×26cm、深さは13cmである。

〔壁〕外側へ緩やかに立ち上がる。

〔底面〕西側から東側へ傾斜が見られる。

〔堆積土〕黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

第1095号土坑（第135図）

〔位置・確認層〕A C・A D - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形で、開口部は60cm×46cm、底面は48cm×38cm、深さは10cmである。

〔壁〕外側へ緩やかに立ち上がる。

〔底面〕西側から東側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

〔堆積土〕黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

第1096号土坑（第135図）

〔位置・確認層〕A C - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は不整な楕円形で、開口部は66cm×54cm、底面は51cm×45cm、深さは20cmである。

〔壁〕外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群土器(第190図1149)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1097号土坑(第135図)

[位置・確認層] X - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径26cm、底面は長形19cm、深さは35cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1099号土坑(第135図)

[位置・確認層] Y - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1100号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径22cm、底面は長径17cm、深さは42cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1100号土坑(第135図)

[位置・確認層] Y - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1099号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径23cm、底面は長径12cm、深さは42cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1122号土坑(第154図)

[位置・確認層] X - 129グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は21cm×16cm、底面は10cm×7cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1123号土坑 (第154図)

[位置・確認層] X - 130グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径18cm、底面は長径8cm、深さは17cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1125号土坑 (第154図)

[位置・確認層] X - 130グリッドに位置する。 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径27cm、底面は長径19cm、深さは17cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第4層は、暗褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。他は、黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1126号土坑 (第154図)

[位置・確認層] X - 130グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は23cm×19cm、底面は13cm×11cm、深さは21cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1127号土坑（第135図）

- [位置・確認層] A A - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1128号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は84cm×64cm、底面は最長68cm、深さは35cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 若干の起伏が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、角礫を微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器（第190図1150）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1128号土坑（第135図）

- [位置・確認層] A A - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1127号土坑、第1129号土坑と重複し、本遺構は第1127号土坑より古く、第1129号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長80cm、底面は長径81cm、深さは72cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器（第190図1151）、覆土より第 群土器（第190図1152）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1129号土坑（第135図）

- [位置・確認層] Z・A A - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1128号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長82cm、底面は長径68cm、深さは68cmである。
- [壁] 残存部はオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 段差が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器（第190図1153）、第1層より第 群土器（第190図1154）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1130号土坑（第135図）

- [位置・確認層] X - 139グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1131号土坑、第1190号土坑と重複し、本遺構は第1131号土坑より古く、第1190号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は119cm×87cm、底面は長径115cm、深さは116cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第4、6層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、炭化物、円礫を多量ないし中量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、5、3層、覆土より第 群3類、8類土器(第190図1157、1160)、第 群土器(第190図1155、1156、1158、1159)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1131号土坑(第135図)

[位置・確認層] X-139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1130号土坑、第1132号土坑と重複し、本遺構は第1130号土坑より新しく、第1132号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長93cm、底面は最長84cm、深さは29cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部オーバーハングする。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1132号土坑(第135図)

[位置・確認層] X-139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1131号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径97cm、底面は長径79cm、深さは71cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北東側から南西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第 群土器(第190図1161)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1133号土坑(第135図)

[位置・確認層] X-139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1077号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長68cm、底面は最長53cm、深さは22cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

- [底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1134号土坑 (第136図)

- [位置・確認層] A A - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第909号土坑、第1044号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長119cm、底面は最長111cm、深さは84cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がり、中位で屈曲して外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第3、2層、覆土より第 群4類、5類土器 (第190図1164、1165)、第 群土器 (第190図1162、1163) が出土している。
土製品は、第2層より土器片利用土製品が1点 (第226図102) 出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1136号土坑 (第136図)

- [位置・確認層] A B・A C - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1074号土坑、第1075号土坑、第1076号土坑と重複し、本遺構は第1074号土坑より新しく、第1075号土坑、第1076号土坑より古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径192cm、底面は長径167cm、深さ37cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群7、8類土器 (第190図1166、1167) が出土している。
石器は、第1層より敲磨器類1類Aが2点 (図示していない) 出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1137号土坑 (第136図)

- [位置・確認層] A B - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は34cm×26cm、底面は長径25cm、深さは9cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器 (第190図1168) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1138号土坑 (第136図)

[位置・確認層] A B - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1139号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は158cm×130cm、底面は127cm×105cm、深さは36cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第 群6類土器 (第190図1170)、第 群土器 (第190図1169) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1139号土坑 (第136図)

[位置・確認層] A B - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1138号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長59cm、底面は長径32cm、深さは30cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群土器 (第190図1171) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1143号土坑 (第136図)

[位置・確認層] A A - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第986号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は40cm×50cm、底面は35cm×34cm、深さは15cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1144号土坑 (第136図)

[位置・確認層] Z - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1145号土坑、第1192号土坑と重複し、本遺構は第1145号土坑より新しく、第1192号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は110cm×82cm、底面は64cm×62cm、深さは97cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第2層は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4～1層より第 群4類、7類土器(第191図1174、1177) 第 群土器(第190、191図1172、1173、1175、1176) が出土している。

石器は、第1層より不定形石器2類が1点(図示していない)、覆土より不定形石器1類Fが1点(図示していない) 出土している。

土製品は、第1層より土器片利用土製品が1点(第226図103)、覆土より土器片利用土製品が2点(第226図104、105) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1145号土坑(第136図)

[位置・確認層] Z-137、138に位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1144号土坑、第1192号土坑と重複し、本遺構は第1144号土坑より古く、第1192号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径80cm、底面は長径78cm、深さは33cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群土器(第191図1178) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1153号土坑(第136図)

[位置・確認層] X-139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1154号土坑、第1199号土坑と重複し、本遺構は第1154号土坑より古く、第1199号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長142cm、底面は最長125cm、深さは64cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。南側の一部は直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1154号土坑（第137図）

- [位置・確認層] X - 139グリッドに位置する。第1153号土坑、第1199号土坑覆土において確認した。
- [重複] 第1153号土坑、第1155号土坑、第1199号土坑と重複し、本遺構は第1155号土坑、第1199号土坑より新しく、第1153号土坑より古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長90cm、底面は最長92cm、深さは56cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。第1、2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒色～暗赤褐色土が堆積し、黒色土は、角礫、炭化物を中量含む。ローム、人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類、7類土器（第191図1180、1182、1183）、第 群土器（第191図1179、1181）が出土している。
- 石器は、覆土より不定形石器1類Dが2点（第205図101、1点は図示していない）、4類が1点（図示していない）出土している。
- 土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点（第226図106）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1155号土坑（第137図）

- [位置・確認層] X - 139グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1153号土坑、第1154号土坑、第1199号土坑と重複し、本遺構は第1153号土坑、第1154号土坑より古く、第1199号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長72cm、底面は最長110cm、深さは180cmである。
- [壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。一部屈曲が見られる。
- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 7層に分層した。第1、2層は、黒褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群10類土器（第191図1185）、第 群土器（第191図1184）が出土している。
- 石器は、覆土より敲磨器類4類Cが1点（第220図184）出土している。
- 石製品は、覆土より線刻礫が1点（第228図30）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1156号土坑（第137図）

- [位置・確認層] A A - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1157号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径19cm、底面は長径14cm、深さは25cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。

- [堆積土] 黒色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1157号土坑（第137図）

- [位置・確認層] A A - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1156号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径42cm、底面は長径20cm、深さは60cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がり、中位で屈曲し外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。黒色～暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1158号土坑（第137図）

- [位置・確認層] A B - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1196号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長100cm、底面は最長86cm、深さは43cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。南側に底面ピットを有する。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1159号土坑（第137図）

- [位置・確認層] Z - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1191号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は84cm×52cm、底面は50cm×47cm、深さは43cmである。
- [壁] 東西側は外側へ緩やかに立ち上がる。南北側はやや内側へ若干オーバーハングして立ち上がる。
- [底面] 若干の起伏が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群6類土器（第191図1187）、第 群土器（第191図1186、1188）が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1160号土坑（第152図）

- [位置・確認層] Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は25cm×21cm、底面は16cm×13cm、深さは39cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1161号土坑 (第152図)

[位置・確認層] Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径20cm、底面は長径6cm、深さは37cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1162号土坑 (第152図)

[位置・確認層] Y - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径18cm、底面は長径10cm、深さは18cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1163号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Y - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径21cm、底面は長径9cm、深さは24cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1164号土坑（第153図）

- [位置・確認層] Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1165号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径24cm、底面は長径14cm、深さは34cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1165号土坑（第153図）

- [位置・確認層] Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1164号土坑、第1166号土坑と重複し、本遺構は第1164号土坑より古く、第1166号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は40cm×30cm、底面は長径20cm、深さは17cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。北東側開口部付近は段差が見られる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、ローム、炭化物を微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1166号土坑（第153図）

- [位置・確認層] Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1165号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は22cm×22cm、底面は17cm×14cm、深さは10cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1167号土坑（第153図）

- [位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径26cm、底面は長径17cm、深さは21cmである。

- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1168号土坑 (第153図)

- [位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径15cm、底面は長径12cm、深さは11cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1169号土坑 (第153図)

- [位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1170号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は25cm×22cm、底面は18cm×16cm、深さは10cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる
- [底面] 南西側から北東側へ傾斜を有する。
- [堆積土] 2層に分層した。黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第191図1189)が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1170号土坑 (第153図)

- [位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1169号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は43cm×35cm、底面は27cm×15cm、深さは29cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第191図1190)が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1171号土坑（第153図）

[位置・確認層] Z - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径27cm、底面は長径18cm、深さは35cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1172号土坑（第153図）

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1173号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は43cm×30cm、底面は24cm×21cm、深さは56cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。東側は開口部付近で屈曲し、外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

第2層は、黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1173号土坑（第153図）

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1172号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は44cm×32cm、底面は30cm×23cm、深さは10cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1174号土坑（第153図）

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は32cm×24cm、底面は24cm×16cm、深さは9cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1175号土坑 (第153) 図)

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は46cm×35cm、底面は長径26cm、深さは30cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。西側は開口部付近で屈曲し、段差が見られる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器 (第191図1191) が出土している。

石器は、覆土より石筥2類が1点 (第205図103)、不定形石器1類Eが1点 (第205図102) 出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1176号土坑 (第154) 図)

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径39cm、底面は長径28cm、深さは48cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。北側は開口部付近で屈曲し、外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

第2層は、黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1177号土坑 (第154) 図)

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径23cm、底面は長径18cm、深さは19cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1178号土坑（第153図）

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径18cm、底面は長径12cm、深さは13cmである。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。
[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1179号土坑（第153図）

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径16cm、底面は長径11cm、深さは11cmである。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1180号土坑（第153図）

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径20cm、底面は長径14cm、深さは8cmである。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1181号土坑（第153図）

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は59cm×27cm、底面は22cm×17cm、深さは61cmであ

る。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。南北側は開口部付近で屈曲し、段差を有する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1182号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は21cm×17cm、底面は13cm×12cm、深さは12cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1183号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は27cm×18cm、底面は13cm×12cm、深さは36cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1184号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1185号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長48cm、底面は最長24cm、深さは20cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北東側から南西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1185号土坑（第153図）

- [位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1184号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は50cm×33cm、底面は43×28cm、深さは21cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1186号土坑（第153図）

- [位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は34cm×26cm、底面は10cm×10cm、深さは42cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。北側は開口部付近で屈曲し、段差を有する。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1187号土坑（第153図）

- [位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は46cm×21cm、底面は38cm×14cm、深さは32cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。南西側は開口部付近で屈曲し、外側へ緩やかに立ち上がり、段差が見られる。
- [底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。黒色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1188号土坑（第153図）

- [位置・確認層] Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径21cm、底面は長径13cm、深さは24cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群 6 類土器 (第191図1192) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1189号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径22cm、底面は長径12cm、深さは25cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。南側は開口部付近で屈曲し、段差が見られる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1190号土坑 (第137図)

[位置・確認層] X - 139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1130号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長47cm、底面は長径48cm、深さは40cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北西側から南東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1191号土坑 (第137図)

[位置・確認層] Z・A A - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1159号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長43cm、底面は長径20cm、深さは23cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1192号土坑（第137図）

- [位置・確認層] Z - 137、138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1144号土坑、第1145号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長44cm、底面は最長47cm、深さは33cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 不明である。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1193号土坑（第137図）

- [位置・確認層] Y - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1038号土坑、第1048号土坑A、第1078号土坑、第1079号土坑と重複し、本遺構は第1048号土坑A、第1079号土坑より古く、第1038号土坑、第1078号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長89cm、底面は長径94cm、深さは23cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1194号土坑（第137図）

- [位置・確認層] Z - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第921号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は76cm×58cm、底面は58cm×47cm、深さは52cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群4類土器（第191図1193）が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1195号土坑（第138図）

- [位置・確認層] Y・Z - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1037号土坑、第1038号土坑、第1048号土坑Aと重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長70cm、底面は最長147cm、深さは88cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。中央部東側に底面ピットを有する。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1196号土坑 (第138図)

[位置・確認層] A B - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1076号土坑、第1158号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径65cm、底面は長径145cm、深さは73cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 不明である。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器 (第191図1194) 覆土より第 群土器 (第191図1195) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1197号土坑 (第138図)

[位置・確認層] A B - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は58cm×42cm、底面は48cm×31cm、深さは40cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南東側から北西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。また、覆土上部には、第 a層が堆積する。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1199号土坑 (第138図)

[位置・確認層] X - 139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1153号土坑、第1154号土坑、第1155号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長66cm、底面は最長58cm、深さは71cmである。

[壁] 残存部は外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1200号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Y - 134グリッドにおいて確認した。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長形22cm、底面は長径14cm、深さは12cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1201号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径22cm、底面は長径13cm、深さは27cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。南側はやや外側へ屈曲し、立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1202号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Y - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は32cm×20cm、底面は長径10cm、深さは35cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。北側は中位で屈曲し、外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1203号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径19cm、底面は長径13cm、深さは14cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1204号土坑（第153図）

〔位置・確認層〕 Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、開口部は22cm×18cm、底面は19cm×13cm、深さは17cmである。

〔壁〕 やや外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕 南側から北側へ傾斜が見られる。

〔堆積土〕 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明である。

第1205号土坑（第153図）

〔位置・確認層〕 Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、開口部は21cm×17cm、底面は13cm×12cm、深さは32cmである。

〔壁〕 やや外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

〔堆積土〕 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明である。

第1206号土坑（第153図）

〔位置・確認層〕 Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形で、開口部は長径25cm、底面は長径18cm、深さは22cmである。

〔壁〕 やや外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕 ほぼ平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明である。

第1207号土坑（第153図）

〔位置・確認層〕 Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形で、開口部は長径16cm、底面は長径10cm、深さは17cmである。

〔壁〕 やや外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕 ほぼ平坦である。

〔堆積土〕 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1208号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は26cm×16cm、底面は9cm×7cm、深さは14cmである。
[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2層は、黒色土が堆積する。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1209号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径26cm、底面は長径17cm、深さは23cmである。
[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] 石器は、覆土より半円状扁平打製石器が1点(第220図186)出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1210号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径22cm、底面は長径14cm、深さは22cmである。
[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1211号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は30cm×25cm、底面は長径18cm、深さは38cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1212号土坑 (第153図)

[位置・確認層] AA - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1213号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は28cm×24cm、底面は17cm×14cm、深さは14cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1213号土坑 (第153図)

[位置・確認層] AA - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1212号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径30cm、底面は長径24cm、深さは35cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1214号土坑 (第154図)

[位置・確認層] AB - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は16cm×13cm、底面は11cm×8cm、深さは15cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1215号土坑（第154図）

[位置・確認層] A B - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径17cm、底面は長径10cm、深さは25cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1216号土坑（第153図）

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径25cm、底面は長径18cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1217号土坑（第153図）

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径24cm、底面は長径20cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1218号土坑（第153図）

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1219号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径26cm、底面は長径16cm、深さは24cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がり、中位で屈曲し外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1219号土坑 (第153図)

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1218号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長24cm、底面は長径12cm、深さは20cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1220号土坑 (第138図)

[位置・確認層] Z - 137グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長70cm、底面は最長59cm、深さは15cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群土器 (第191図1196) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1221号土坑 (第138図)

[位置・確認層] X - 139グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径34cm、底面は長径19cm、深さは25cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。北側は開口部付近で屈曲し、外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1222号土坑 (第138図)

[位置・確認層] X - 139グリッドに位置する。第 層、第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径124cm、底面は長径40cm、深さは57cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

- [底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。
- [堆積土] 9層に分層した。第3、5、6、9層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第6層より第 群6類土器(第191図1197)が出土している。
石器は、覆土より敲磨類器4類Bが1点(第221図188)出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1223号土坑(第138図)

- [位置・確認層] U・V - 124グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径96cm、底面は長径59cm、深さは33cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 南側から北側へ起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1224号土坑(第138図)

- [位置・確認層] V・W - 124グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径101cm、底面は長径90cm、深さは92cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第191図1198)が出土している。
石器は、第1層より不定形石器1類Aが1点(図示していない)、4類が1点(図示していない)出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1225号土坑(第138図)

- [位置・確認層] T - 128グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は84cm×79cm、底面は79cm×74cm、深さは7cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1226号土坑 (第139図)

[位置・確認層] X - 138、139グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長94cm、底面は最長105cm、深さは121cmである。
[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。
[底面] 南側から中央部へ傾斜が見られる。中央部北側に底面ピットを有する。
[堆積土] 6層に分層した。第1、2、4層は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器 (第191図1199)、覆土より第 群6類土器 (第191図1202、1203)、第 群土器 (第191図1200、1201) が出土している。
石器は、覆土より不定形石器1類Aが1点 (図示していない)、剥離のある礫が1点 (図示していない) 出土している。
土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点 (第226図107) 出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1227号土坑 (第138図)

[位置・確認層] A B - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は26cm×17cm、底面は21cm×15cm、深さは32cmである。
[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。
[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1228号土坑 (第153図)

[位置・確認層] A A - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は21cm×17cm、底面は16cm×9cm、深さは15cmである。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。
[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1229号土坑 (第153図)

[位置・確認層] A A - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は25cm×20cm、底面は長径10cm、深さは33cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上る。西側は中位で屈曲し、段差が見られる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1230号土坑 (第153図)

[位置・確認層] A A - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径19cm、底面は長径12cm、深さは17cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1231号土坑 (第153図)

[位置・確認層] A A - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径26cm、底面は長径20cm、深さは18cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1232号土坑 (第154図)

[位置・確認層] A A - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径22cm、底面は長径14cm、深さは23cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1233号土坑 (第153図)

- [位置・確認層] A A - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径28cm、底面は長径22cm、深さは25cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1234号土坑 (第154図)

- [位置・確認層] A A - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径25cm、底面は長径13cm、深さは39cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 西側から南側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1235号土坑 (第154図)

- [位置・確認層] A A - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径15cm、底面は長径6cm、深さは32cmである。
- [壁] 全体としてやや北側へ起伏を伴い立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積する。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積しロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1236号土坑 (第154図)

- [位置・確認層] A A - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径20cm、底面は長径9cm、深さは11cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1237号土坑 (第154図)

[位置・確認層] Z・A A - 134、135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は30cm×20cm、底面は長径16cm、深さは19cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1238号土坑 (第154図)

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1245号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は32cm×29cm、底面は24cm×20cm、深さは26cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1239号土坑 (第154図)

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径33cm、底面は長径7cm、深さは18cmである。

[壁] 全体として西側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側が落ち込む段差が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1240号土坑（第154図）

〔位置・確認層〕 Y - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、開口部は19cm×15cm、底面は12cm×7cm、深さは20cmである。

〔壁〕 やや外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕 ほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明である。

第1241号土坑（第138図）

〔位置・確認層〕 Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形で、開口部は40cm×27cm、底面は21cm×13cm、深さは36cmである。

〔壁〕 やや外側へ直線的に立ち上がる。南西側は中位で屈曲し、外側へ緩やかに立ち上がる。

〔底面〕 ほぼ平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層した。黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明である。

第1242号土坑（第139図）

〔位置・確認層〕 Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形で、開口部は長径20cm、底面は長径13cm、深さは17cmである。

〔壁〕 外側へ直線的に立ち上がる。

〔底面〕 ほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明である。

第1243号土坑（第139図）

〔位置・確認層〕 Y・Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形で、開口部は長径148cm、底面は長径148cm、深さは95cmである。

〔壁〕 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

〔底面〕 ほぼ平坦である。

〔堆積土〕 13層に分層した。第1、3、5、6、8層は、黒色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。

自然堆積と思われる。他は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第 群5 a類土器(第191図1204)、第2層より第 群土器(第191図1205)が出土している。

石器は、第2層より不定形石器1類Aが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1244号土坑(第139図)

[位置・確認層] Q - 150グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は109cm×87cm、底面は長径108cm、深さは75cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北側から南側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第2、5層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、3、1層より第 群3類土器(第191図1206、1210、1211)、第6、4、1層、覆土より第 群4類、5類、7類、10類土器(第191図1207～1209、1212、1213)、第 群土器(第191図1214)が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類2類Cが1点(第221図189)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1245号土坑(第154図)

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1238号土坑、第1246号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は15cm×16cm、底面は14cm×9cm、深さは24cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ丸みを帯びた若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1246号土坑(第154図)

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1245号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径18cm、底面は長径10cm、深さは24cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1247号土坑 (第154図)

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径15cm、底面は長径12cm、深さは10cmである。
[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
[堆積土] 黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第1248号土坑 (第139図)

[位置・確認層] R - 147グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径128cm、底面は長径128cm、深さは60cmである。
[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
[底面] 北側から南側へ傾斜が見られる。また、起伏が見られる。
[堆積土] 4層に分層した。第1、3層は、黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
第2、4層は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第3～1層より第 群3類、6類土器(第191図1215～1217)が出土している。
石器は、第4層より不定形石器3類が1点(図示していない)、第2層より不定形石器3類が1点(図示していない)出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1249号土坑 (第139図)

[位置・確認層] P・Q - 150、151グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] 第1262号土坑と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長114cm、底面は最長116cm、深さは60cmである。
[壁] 残存部は、やや外側へ直線的に立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群5 a類、5 b類、6類土器(第191図1218～1220)が出土している。
石器は、第2層より不定形石器1類Aが1点(図示していない)、不定形石器1類Dが1点(第205図104)、敲磨器類4類Bが1点(第221図190)、覆土より不定形石器3類が2点(図示していない)出

土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1250号土坑 (第139図)

[位置・確認層] R - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長201cm、底面は最長160cm、深さは90cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 7層に分層した。第6層は、黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6～2層より第 群5 a類、6類土器 (第191図1221～1225) が出土している。

石器は、第5層より不定形石器3類が1点 (図示していない)、覆土より不定形石器4類が1点 (図示していない)、敲磨器類2類Bが1点 (図示していない) 出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1251号土坑 (第140図)

[位置・確認層] P - 147グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径134cm、底面は長径114cm、深さは72cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第6層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、黒色～暗褐色土が堆積し、角礫、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、6、4～2層より第 群6類土器 (第191、192図1226～1230) が出土している。

石器は、第6層より敲磨器類2類Aが1点 (図示していない) 出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1252号土坑 (第140図)

[位置・確認層] S - 147グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径140cm、底面は長径124cm、深さは51cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。若干の屈曲が見られる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群5 a類、6類土器 (第192図1231、1232) が出土している。

石器は、第1層より石匙1類が1点（第205図105）、覆土より石匙1類が1点（第206図106）、敲磨器類1類Cが2点（第221図191、193）、砥石が1点（第221図192）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1254号土坑（第154図）

[位置・確認層] Z - 134グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は最長30cm、底面は最長24cm、深さは29cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1257号土坑（第140図）

[位置・確認層] Q・R - 147、148グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径159cm、底面は長径145cm、深さは20cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第5群5a類土器（第192図1233）が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1258号土坑（第140図）

[位置・確認層] P - 146グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径113cm、底面は長径63cm、深さは55cmである。

[壁] 外側へ屈曲して立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第2、3層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。他は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4層より第5群土器（第192図1234）が出土している。

石器は、第1層より石錘1類が1点（第221図194）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1259号土坑（第140図）

[位置・確認層] Q - 149に位置する。第1層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径140cm、底面は長径163cm、深さは114cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られるが、ほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。第2、4層は、黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群6類土器(第167図58、第192図1235)、第2、1層、覆土より第 群2類土器(第192図1238)、第 群土器(第192図1236、1237、1239)が出土している。

石器は、第2層より石匙1類が1点(第206図108)、不定形石器1類Aが2点(図示していない)、第1層より石鏃3類3が1点(第206図107)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1260号土坑(第140図)

[位置・確認層] Q-145グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1265号土坑、第1280号土坑と重複し、本遺構とは新旧不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径133cm、底面は長径122cm、深さは32cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群3類、6類土器(第167図59、第192図1240)、第 群8類土器(第192図1241)が出土している。

石器は、第1層より敲磨器類1類Gが1点(第222図195)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1261号土坑(第140図)

[位置・確認層] P・Q-145、146グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径128cm、底面は長径109cm、深さは35cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。北東側に底面ピットを有する。

[堆積土] 4層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層より第 群5a類土器(第192図1242、1243)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1262号土坑(第141図)

[位置・確認層] P・Q-150、151グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1249号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長188cm、底面は最長164cm、深さは126cmである。

[壁] 全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。第1、3層は、褐色～明褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層より第 群6類土器(第192図1244、1245)が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類1類Aが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1263号土坑(第154図)

[位置・確認層] A A - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第968号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は58cm×32cm、底面は47cm×20cm、深さは33cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒色土が堆積し、ロームを少量含む。人為堆積と思われる。第2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1264号土坑(第141図)

[位置・確認層] Z - 135グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径20cm、底面は長径13cm、深さは20cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1265号土坑(第141図)

[位置・確認層] Q - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1260号土坑、第1280号土坑、第1297号土坑と重複し、本遺構は第1280号土坑、第1297号土坑より新しく、第1260号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は141cm×116cm、底面は100cm×87cm、深さは125cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第4、5層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第5層は崩落土の可能性も考えられる。他は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より覆土より第 群6類土器(第192図1251)、第5、3、2層、覆土より第 群2b類、4類、5類、7類、8類土器(第192図1246～1248、1252～1254)、第 群土器(第192図1249、1250)が出土している。

石器は、覆土より不定形石器1類Aが1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1266号土坑(第141図)

[位置・確認層] Q-147グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は64cm×54cm、底面は長径45cm、深さは36cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北東側から南西側へ傾斜が見られる。西側に底面ピットを有する。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第1267号土坑(第141図)

[位置・確認層] Q-147グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1269号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長37cm、底面は長径24cm、深さは16cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3層より第 群土器(第192図1255)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1269号土坑(第141図)

[位置・確認層] Q-147グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1267号土坑と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は27cm×19cm、底面は21cm×15cm、深さは12cmである。

[壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1271号土坑（第141図）

- [位置・確認層] Y・Z - 136、137グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1272号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径144cm、底面は長径158cm、深さは223cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。屈曲して立ち上がる。
- [底面] 不整形の段差を有する。中央部南西側に底面ピットを有する。
- [堆積土] 12層に分層した。第1、2、6、9～11層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第10、6、2、1層より第 群5 a類、6類土器（第192図1256～1259）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1272号土坑（第142図）

- [位置・確認層] Y・Z - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1271号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長137cm、底面は最長114cm、深さは34cmである。
- [壁] 外側へ屈曲して立ち上がる。
- [底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第1、3層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器（第192図1260）が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1273号土坑（第142図）

- [位置・確認層] P・Q - 149、150グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1274号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径252cm、底面は長径240cm、深さは92cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 4層に分層した。第2、3層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第3層より第 群6類土器（第192図1261）が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1274号土坑（第142図）

- [位置・確認層] P・Q - 149グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1273号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径104cm、底面は長径218cm、深さは110cmである。
- [壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。
- [底面] 東側から西側へ若干の起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 9層に分層した。第1、2、6層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以降の土坑と思われる。

第1278号土坑（第142図）

- [位置・確認層] R - 148、149グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径100cm、底面は長径160cm、深さは147cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。
- [堆積土] 8層に分層した。第1、3、5、7層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～明褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第8、7、5～1層より第 群5 a類、6類土器（第192図1262～1268）が出土している。
石製品は、覆土より軽石石製品が1点（第228図28）出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1279号土坑（第143図）

- [位置・確認層] Q・R - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1265号土坑、第1280号土坑と重複し、本遺構は第1265号土坑より古く、第1280号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径152cm、底面は長径136cm、深さは52cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。他は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器（第192図1269）が出土している。
石器は、覆土より不定形石器3類が2点（図示していない）、敲磨器類2類Bが1点（図示していない）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1280号土坑（第142図）

- [位置・確認層] Q - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1260号土坑、第1265号土坑と重複し、本遺構は第1265号土坑より古く、第1260号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は長径193cm、底面は長径156cm、深さは130cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 4層に分層した。黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土は、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第1281号土坑（第143図）

- [位置・確認層] P・Q - 144、145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第1291号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長120cm、底面は最長102cm、深さは149cmである。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。東側は若干オーバーハングする。
- [底面] 若干の起伏が見られるが、ほぼ平坦である。
- [堆積土] 5層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器（第192図1270）が出土している。
石器は、覆土より不定形石器3類が1点（図示していない）、敲磨器類4類Aが1点（図示していない）、5類が1点（第222図196）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第1282号土坑（第143図）

- [位置・確認層] Y - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は98cm×73cm、底面は66cm×50cm、深さは27cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。また、段差が見られる。
- [堆積土] 黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第1285号土坑（第143図）

- [位置・確認層] R・S - 147グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は194cm×160cm、底面は145cm×109cm、深さは87cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第2層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、2層より第 群6類土器（第192図1271、1272）、覆土より第 群土器（第192図1273）が出土している。

石器は、覆土より不定形石器4類が1点（図示していない）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1288号土坑（第143図）

[位置・確認層] R・S - 148グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は124cm×86cm、底面は156cm×140cm、深さは101cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 南側から北側へ若干の傾斜が見られる。中央部に底面ピットを有する。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は、暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。他は、暗褐色～褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、底面、第2層、覆土より第 群5 a類、6類土器（第167図60、第192図1274、1275）が出土している。

石器は、覆土より剥離のある礫が1点（図示していない）出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1289号土坑（第144図）

[位置・確認層] Q - 147・148グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1290号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は82cm×70cm、底面は74cm×54cm、深さは47cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、敲磨器類4類Bが1点（第222図198）出土している。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以降の土坑と思われる。

第1290号土坑（第144図）

[位置・確認層] Q - 147・148グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第1289号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径131cm、底面は長径117cm、深さは41cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 石器は、第1層より抉入扁平磨製石器が1点(第222図197)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1291号土坑(第144図)

[位置・確認層] P・Q-145グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] 第1281号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は116cm×117cm、底面は118cm×121cm、深さは86cmである。

[壁] 全体として外側へ若干屈曲して立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1、4層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4、3層、覆土より第3群3類、6類土器(第167図61、第192図1277、1278)、第3層より第3群土器(第192図1276)が出土している。

石器は、第3層より敲磨器類2類Bが1点(図示していない)、第1層より石匙1類が1点(第206図109)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第1292号土坑(第144図)

[位置・確認層] P-146・147グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は114cm×102cm、底面は104cm×89cm、深さは85cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1、2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第3層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第3群6類土器(第192図1279)が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類1類Aが1点(第222図199)、2類Bが1点(図示していない)、4類B(特殊磨石)が1点(図示していない)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1400号土坑(第144図)

[位置・確認層] S・T-144グリッドに位置する。第1層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は138cm×116cm、底面は114cm×92cm、深さは37cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第192図1280)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第1401号土坑(第144図)

[位置・確認層] S・T-146グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は長径119cm、底面は長径104cm、深さは43cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

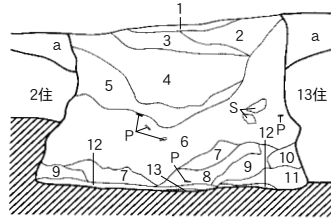
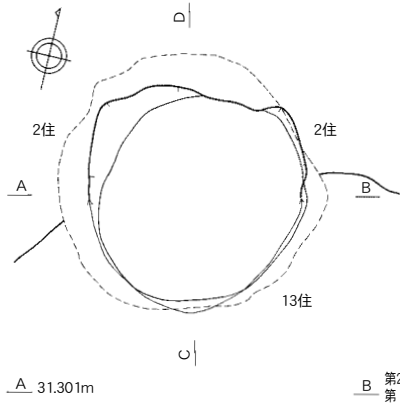
[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第192図1281)が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点(第206図110)出土している。

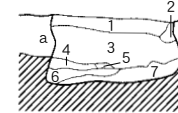
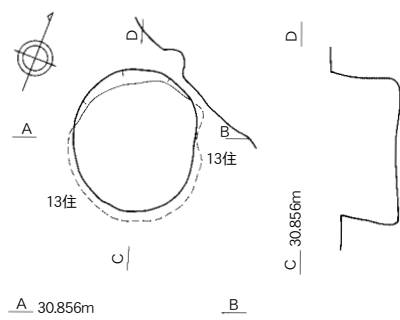
[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第277号土坑



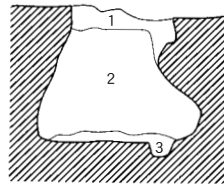
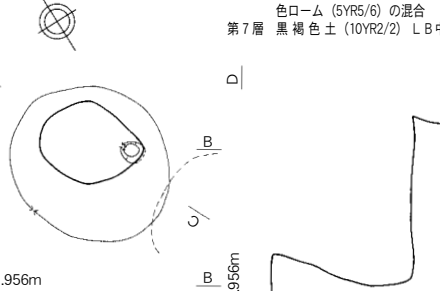
- 第277号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、炭化物微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒多量、炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、炭化物微量
 - 第4層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒中量、炭化物・角礫少量
 - 第5層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒中量、L B・角礫少量
 - 第6層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒・炭化物、角礫中量、L B少量
 - 第7層 赤褐色土 (5YR4/8) □-△、黒色土 (10YR2/1) 少量
 - 第8層 暗褐色土 (7.5YR3/3) □-△粒中量、L B・炭化物・角礫少量
 - 第9層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒中量、L B少量
 - 第10層 黒褐色土 (7.5YR3/2) □-△粒中量
 - 第11層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒微量
 - 第12層 黒褐色土 (7.5YR3/2) □-△粒少量
 - 第13層 黒褐色土 (7.5YR3/2) □-△粒少量

第282号土坑



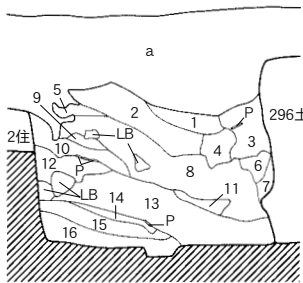
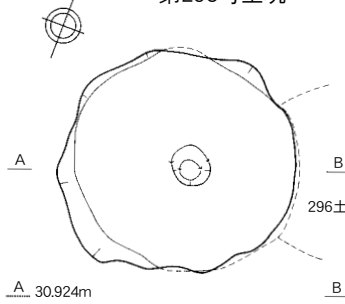
- 第282号土坑
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫多量、炭化物少量
 - 第2層 明赤褐色土 (5YR5/6) □-△
 - 第3層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 角礫多量、□-△粒少量
 - 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒少量
 - 第5層 明赤褐色土 (5YR5/6) □-△
 - 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) と明褐色土 □-△ (5YR5/6) の混合
 - 第7層 黒褐色土 (10YR2/2) L B中量

第304号土坑



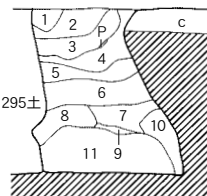
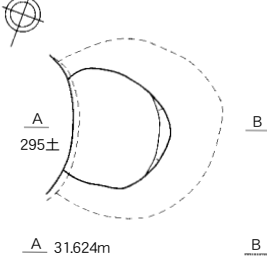
- 第304号土坑
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/3) L B・□-△粒少量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) 角礫多量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒・炭化物微量

第295号土坑



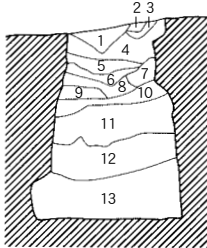
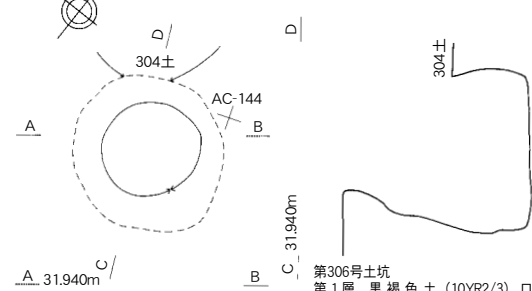
- 第295号土坑
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒・炭化物多量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒・炭化物・角礫少量
 - 第3層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物少量、□-△粒少量
 - 第4層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒・炭化物・角礫少量
 - 第5層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、パミス微量
 - 第6層 黄褐色土 (10YR5/8) □-△粒多量、暗褐色土 (7.5YR3/4) 少量
 - 第7層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒少量
 - 第8層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒・角礫多量、炭化物中量、L B少量
 - 第9層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒中量、褐色土 (10YR4/4) 少量、炭化物微量
 - 第10層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒・炭化物中量、L B少量
 - 第11層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒・炭化物中量、L B少量
 - 第12層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒多量、炭化物中量
 - 第13層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒・炭化物多量、L B少量
 - 第14層 赤褐色土 (5YR4/8) 暗褐色土 (7.5YR3/4)・L B多量、炭化物少量
 - 第15層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒中量、炭化物少量
 - 第16層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒中量、炭化物少量

第296号土坑



- 第296号土坑
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) L B・□-△粒・円礫少量、炭化物微量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒・炭化物中量
 - 第3層 黒褐色土 (7.5YR2/2) □-△粒・炭化物多量
 - 第4層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒多量、炭化物少量、角礫微量
 - 第5層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒・角礫少量
 - 第6層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒多量、炭化物・円礫微量
 - 第7層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒多量、L B少量
 - 第8層 黒褐色土 (7.5YR2/2) 褐色土 (7.5YR4/3)・L B・□-△粒少量
 - 第9層 黒褐色土 (7.5YR2/2) 暗褐色土 (7.5YR3/4)・□-△粒少量
 - 第10層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土 (7.5YR2/2) 多量、□-△粒少量
 - 第11層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒多量、L B中量、炭化物少量

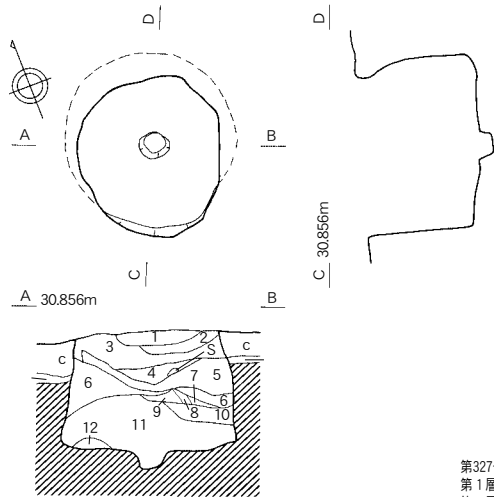
第306号土坑



- 第306号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒・角礫少量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒・角礫少量、炭化物微量
 - 第3層 黒褐色土 (10YR3/4) □-△粒微量
 - 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色土 (7.5YR4/3) 中量、□-△粒・角礫少量
 - 第5層 黒褐色土 (7.5YR3/2) □-△粒微量
 - 第6層 黒褐色土 (7.5YR3/2) パミス少量
 - 第7層 明褐色土 (7.5YR5/6) と暗褐色土 (7.5YR3/3) の混合、L B中量
 - 第8層 暗褐色土 (7.5YR3/3) □-△粒微量
 - 第9層 明赤褐色土 (5YR5/6) □-△
 - 第10層 暗褐色土 (7.5YR3/4) L B少量
 - 第11層 橙色土 (7.5YR6/6) と明赤褐色土 (5YR5/8) の混合、□-△・角礫多量
 - 第12層 褐色土 (7.5YR4/3) L B・□-△粒少量
 - 第13層 黒褐色土 (7.5YR3/2) 角礫多量、L B中量、□-△粒・炭化物微量

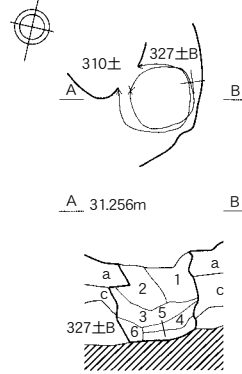
第91図 土坑 (1) (277土・282土・295土・296土・304土・306土)

第318号土坑



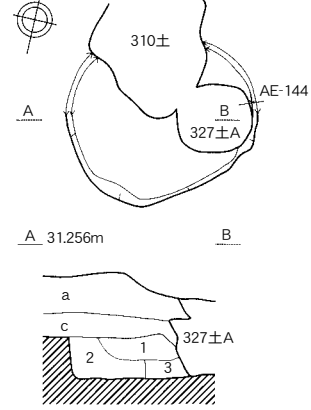
- 第318号土坑
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) L B多量、炭化物微量
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒・角礫少量、炭化物微量
 - 第4層 暗褐色土 (7.5YR3/4) L B多量、ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第5層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第6層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・炭化物少量、角礫微量
 - 第7層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・炭化物少量
 - 第8層 褐色土 (7.5YR4/4) L B多量、角礫少量、ローム粒微量
 - 第9層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・炭化物・角礫微量
 - 第10層 褐色土 (7.5YR4/3) L B多量、ローム粒・炭化物少量、角礫微量
 - 第11層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・炭化物少量、角礫微量
 - 第12層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒少量

第327号土坑A



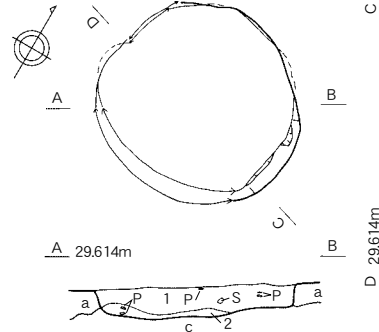
- 第327号土坑A
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・角礫少量、パミス・炭化物微量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒・角礫少量、パミス・炭化物微量
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/4) L B少量、ローム粒・炭化物微量
 - 第4層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・角礫少量、L B・炭化物微量
 - 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・角礫少量、炭化物微量
 - 第6層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物微量

第327号土坑B



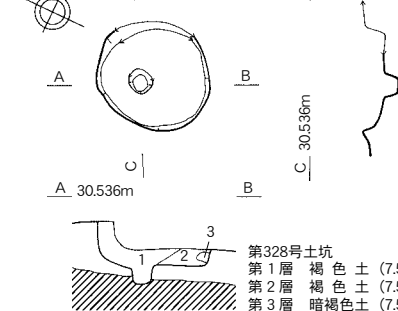
- 第327号土坑B
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、パミス・炭化物微量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、パミス・炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 黒色土 (10YR2/1) 少量・ローム粒微量

第330号土坑



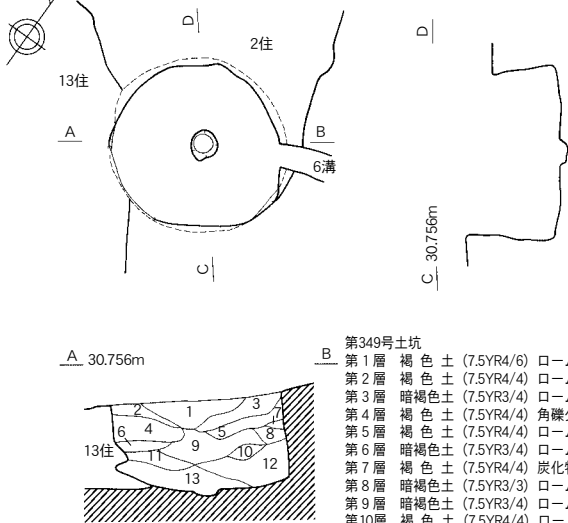
- 第330号土坑
- 第1層 黒褐色土 (7.5YR3/2) 炭化物多量、ローム粒・角礫少量
 - 第2層 極暗褐色土 (7.5YR2/3) ローム粒少量、角礫微量

第328号土坑



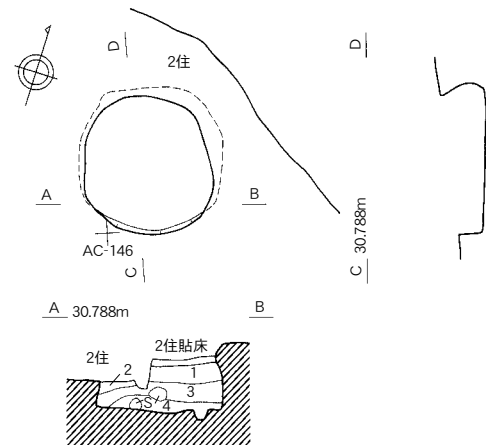
- 第328号土坑
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物少量、角礫微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第3層 暗褐色土 (7.5YR3/3) 黒色土 (10YR2/1) 少量、ローム粒微量

第349号土坑



- 第349号土坑
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第4層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫少量、ローム粒・炭化物微量
 - 第5層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物・角礫・円礫微量
 - 第6層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・炭化物微量
 - 第7層 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物・円礫微量
 - 第8層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒・炭化物微量
 - 第9層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量、L B・炭化物・角礫微量
 - 第10層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物・角礫微量
 - 第11層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第12層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第13層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒少量、炭化物微量

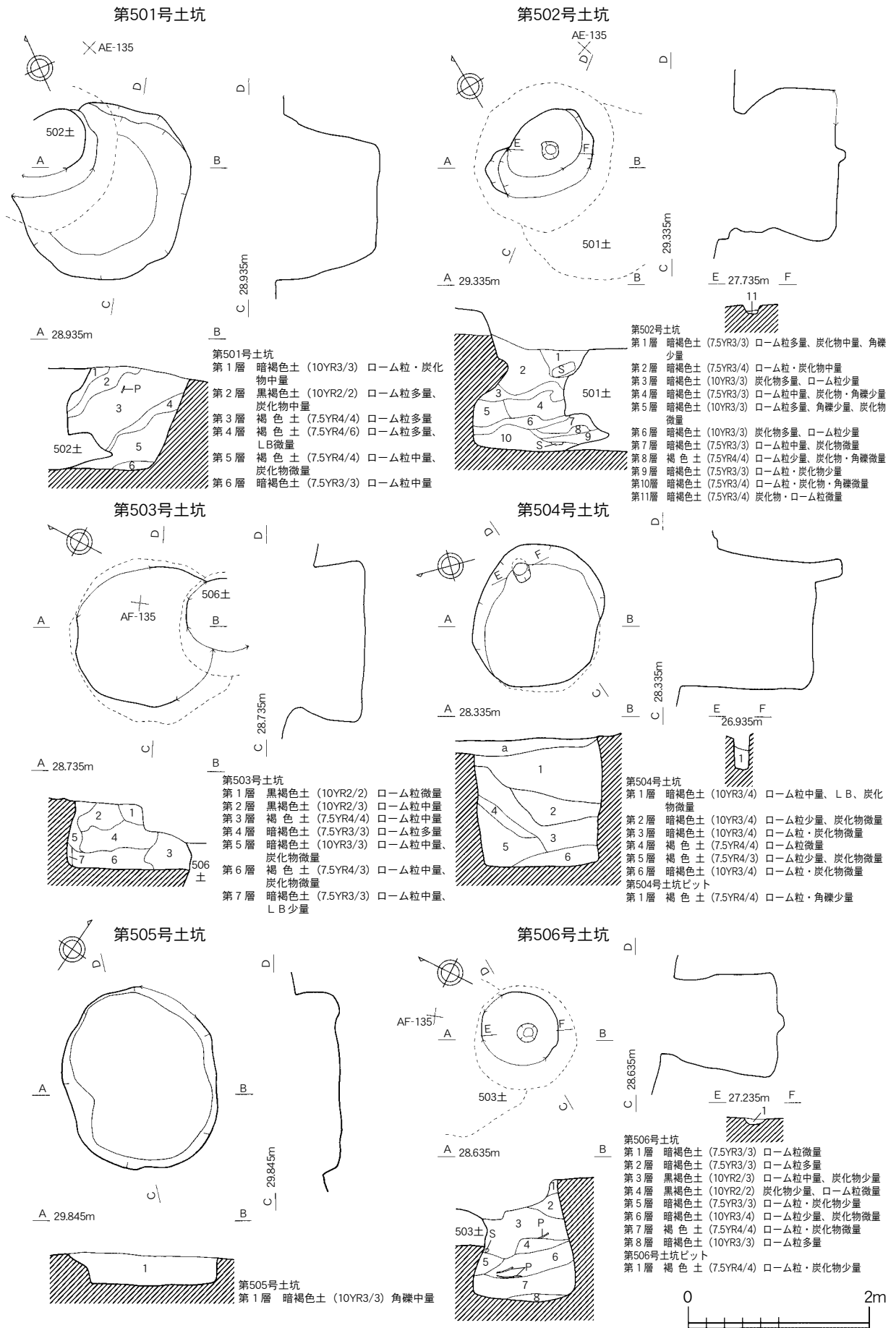
第451号土坑



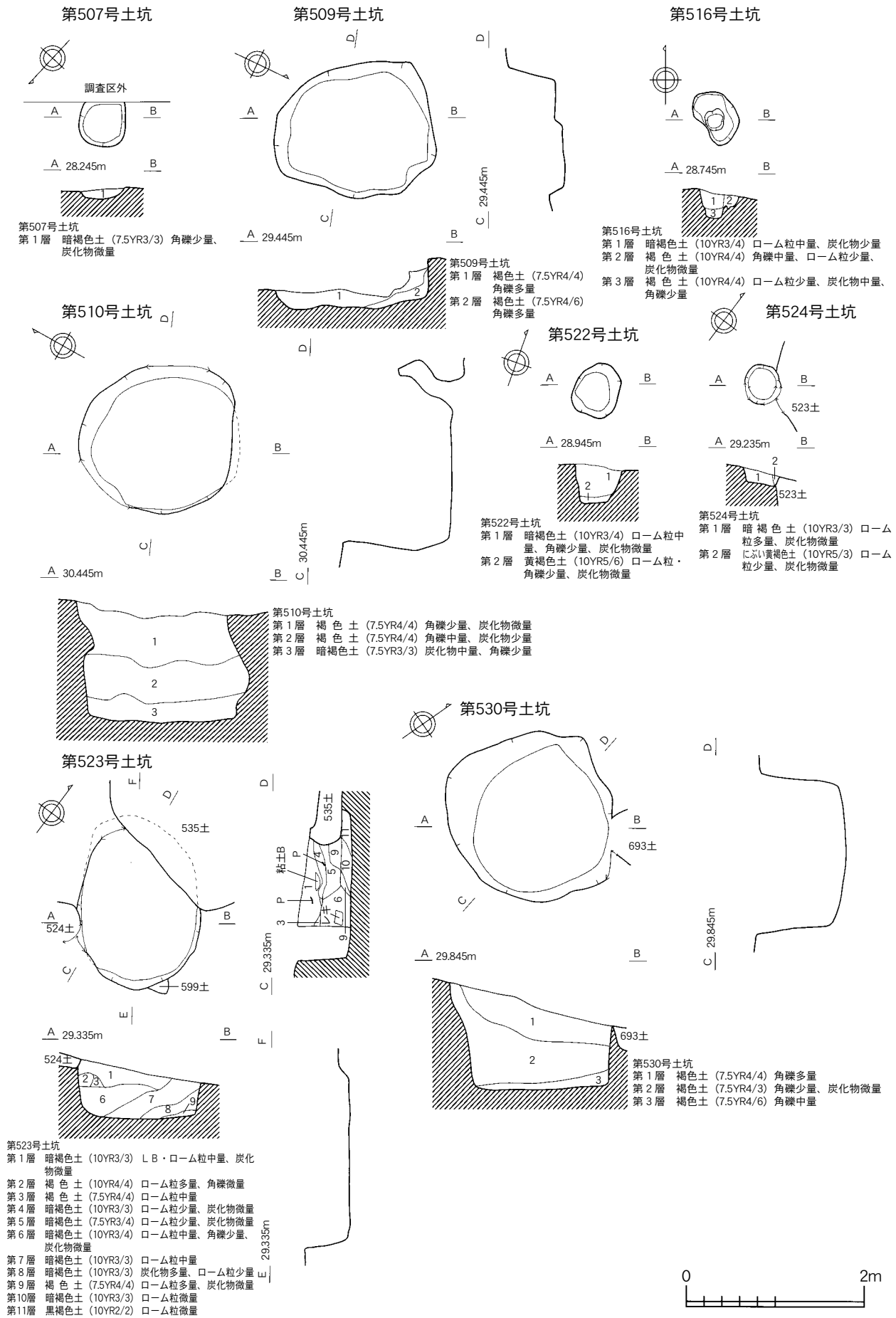
- 第451号土坑
- 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒多量、炭化物少量、角礫微量
 - 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・角礫中量
 - 第3層 黒色土 (7.5YR2/1) ローム粒中量、暗褐色土 (7.5YR3/4)・炭化物少量、角礫微量
 - 第4層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・角礫多量、炭化物少量



第92図 土坑 (2) (318土・327土A・327土B・328土・330土・349土・451土)

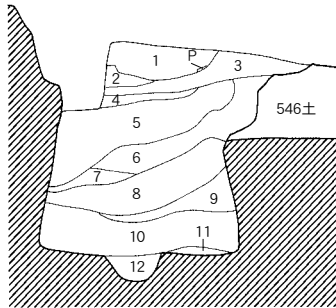
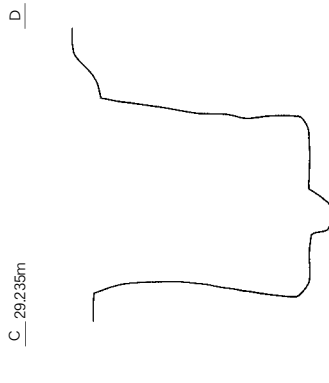
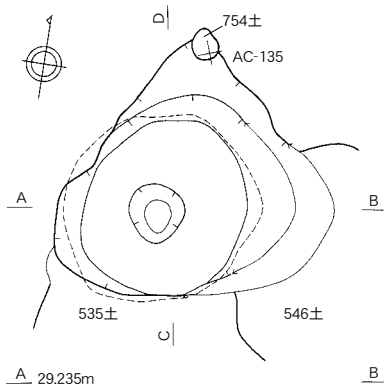


第93図 土坑 (3) (501~506土)



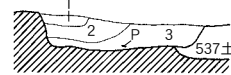
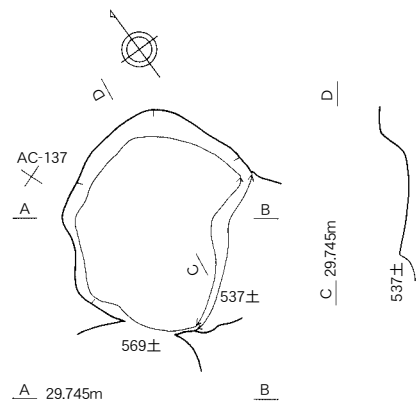
第94図 土坑 (4) (507土・509土・510土・516土・522~524土・530土)

第534号土坑



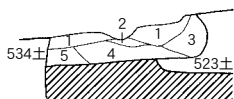
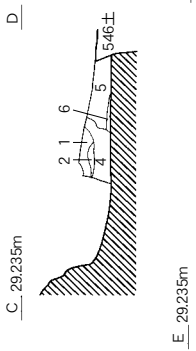
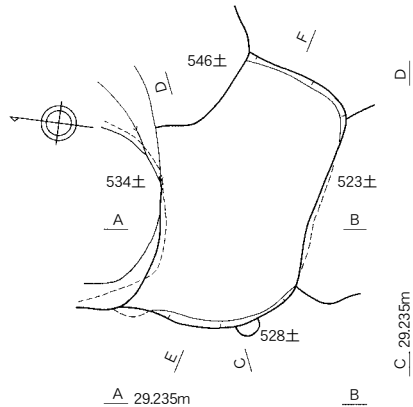
- 第534号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、炭化物少量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒多量、炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量
 - 第4層 にぶい褐色土 (7.5YR5/4) 角礫中量、□-△粒少量
 - 第5層 褐色土 (7.5YR4/6) □-△粒多量、角礫中量
 - 第6層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第7層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒少量
 - 第8層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫少量、□-△粒微量
 - 第9層 黒色土 (10YR2/1) □-△粒中量、炭化物微量
 - 第10層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒微量
 - 第11層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒中量、炭化物微量
 - 第12層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒中量

第536号土坑

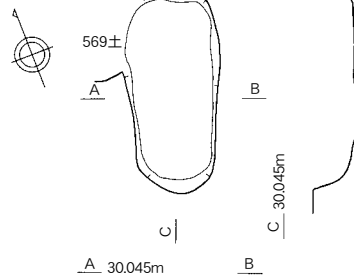


- 第536号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫微量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/6) 角礫中量
 - 第3層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量、炭化物微量

第535号土坑

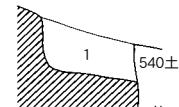
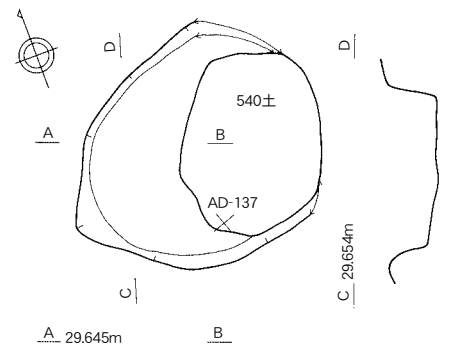


- 第535号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、炭化物・角礫微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒多量、炭化物微量
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒中量、炭化物微量
 - 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量
 - 第5層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒多量
 - 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒、炭化物微量



- 第538号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫多量、炭化物微量

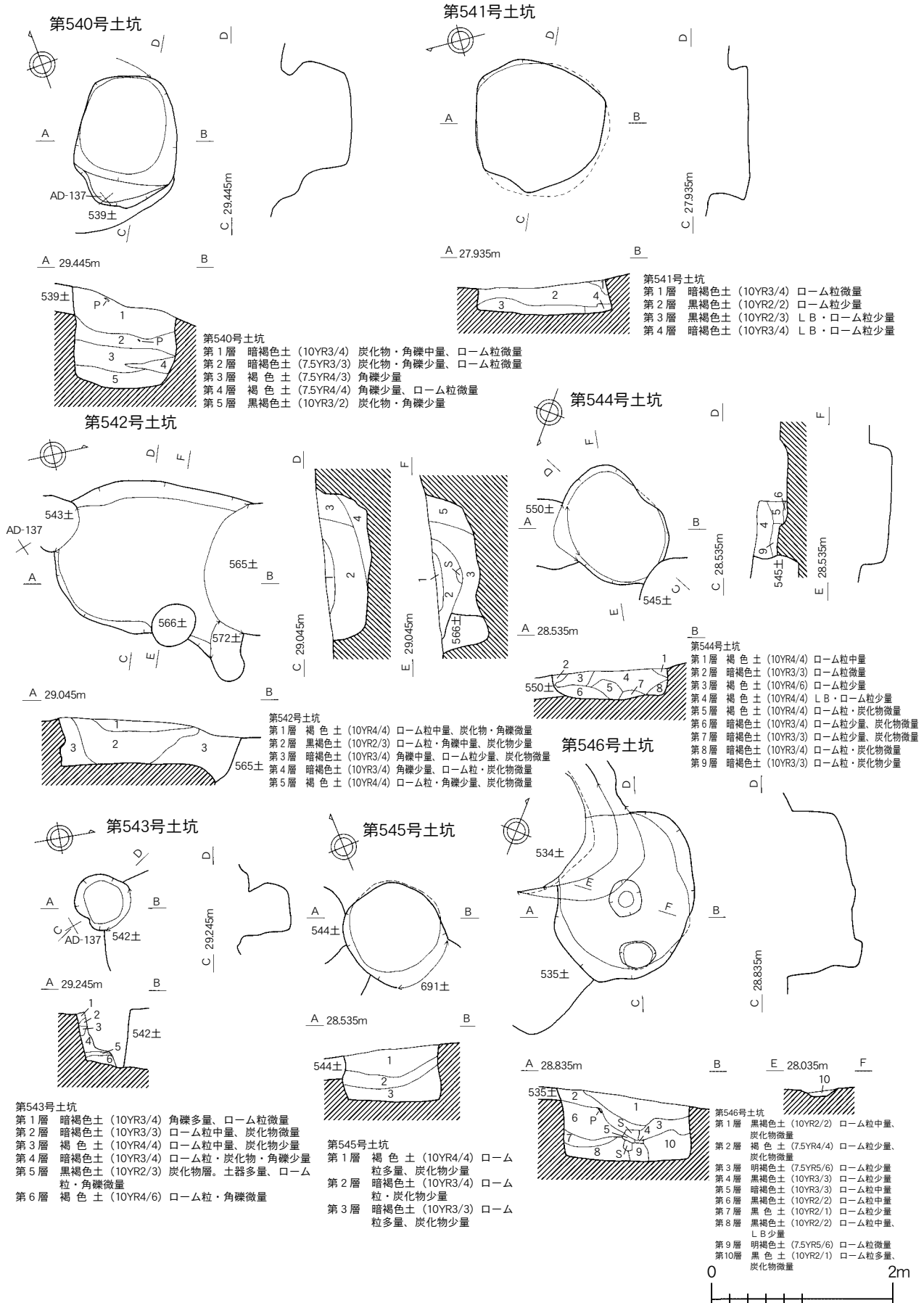
第539号土坑



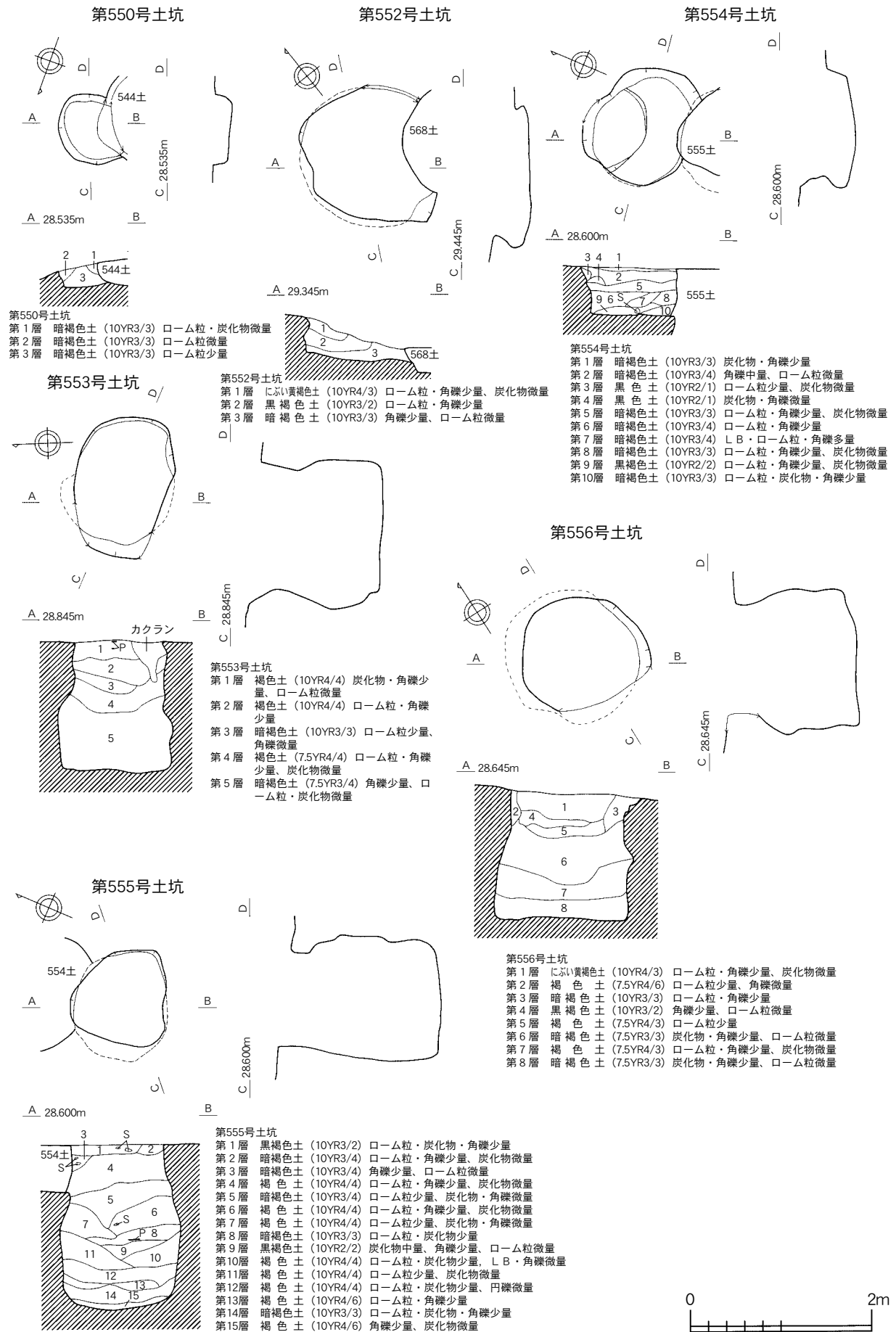
- 第539号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量



第95図 土坑 (5) (534~539土)

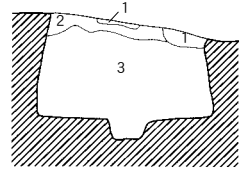
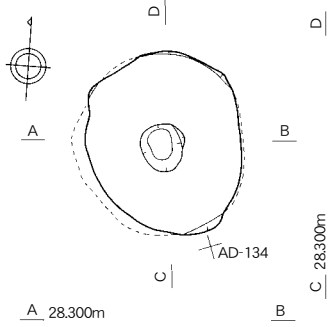


第96図 土坑 (6) (540~546土)



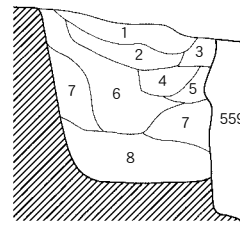
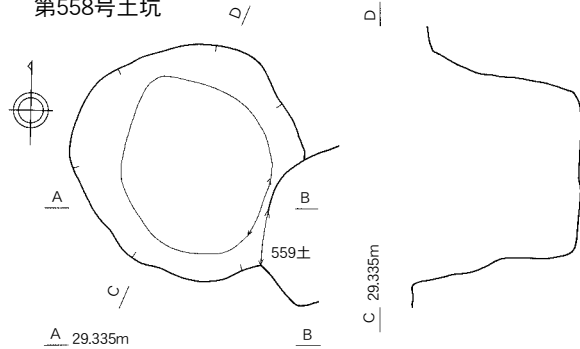
第97図 土坑 (7) (550土・552~556土)

第557号土坑



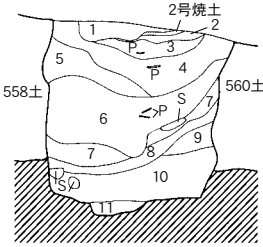
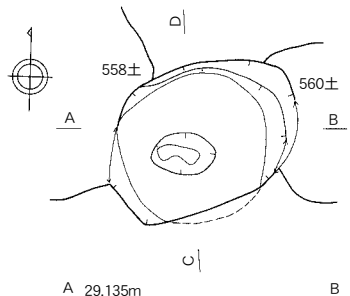
第557号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/6) 角礫中量、
 □-△粒少量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒・
 角礫少量、炭化物微量
 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒・
 角礫中量、炭化物微量

第558号土坑



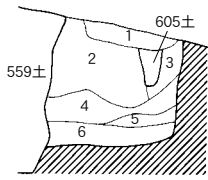
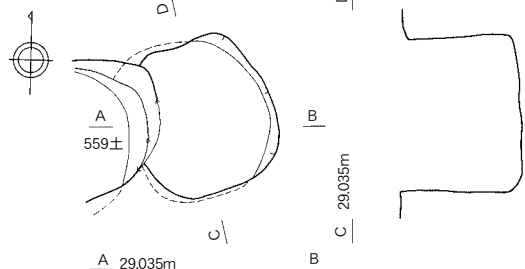
第558号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、
 炭化物微量
 第2層 褐色土 (7.5YR4/6) □-△粒微量
 第3層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒少量
 第4層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒少量
 第5層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒少量
 第6層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒・炭化
 物微量
 第7層 明褐色土 (7.5YR5/8) □-△粒少量
 第8層 明褐色土 (7.5YR5/6) □-△粒少量

第559号土坑



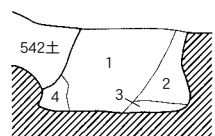
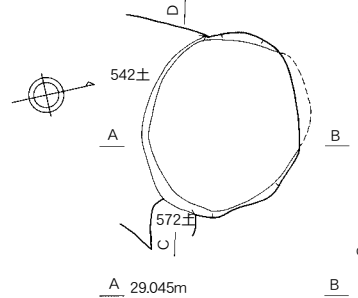
第559号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒・炭化物少量
 第2層 暗褐色土 (7.5YR3/4) □-△粒多量、炭化物少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、炭化物少量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒・炭化物中量
 第5層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒中量、炭化物少量
 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒・炭化物中量
 第7層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒少量、炭化物微量
 第8層 暗褐色土 (7.5YR3/3) □-△粒中量、炭化物微量
 第9層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒中量、炭化物微量
 第10層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、炭化物微量
 第11層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒少量、炭化物微量

第560号土坑



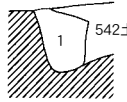
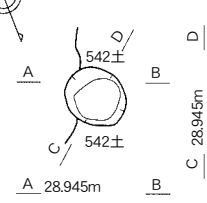
第560号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒多量、炭化物微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒少量
 第4層 褐色土 (7.5YR4/6) □-△粒少量
 第5層 暗褐色土 (7.5YR3/3) □-△粒中量
 第6層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒中量

第565号土坑



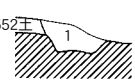
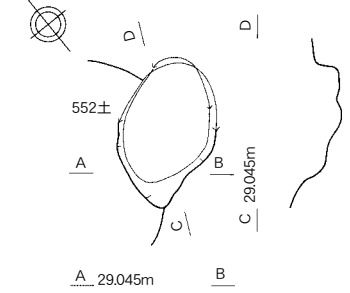
第565号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒多量、炭化物・角礫少量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒・角礫少量、炭化物微量
 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒・角礫少量、炭化物微量
 第4層 黒色土 (10YR2/1) □-△粒中量、角礫少量、炭化物微量

第566号土坑

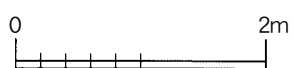


第566号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫中量、
 □-△粒少量、炭化物微量

第568号土坑

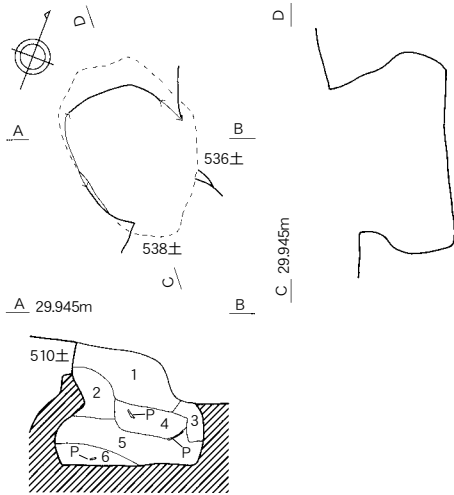


第568号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫中量



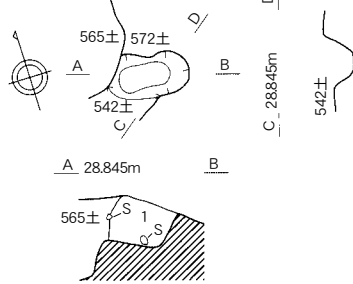
第98図 土坑 (8) (557~560±・565±・566±・568±)

第569号土坑



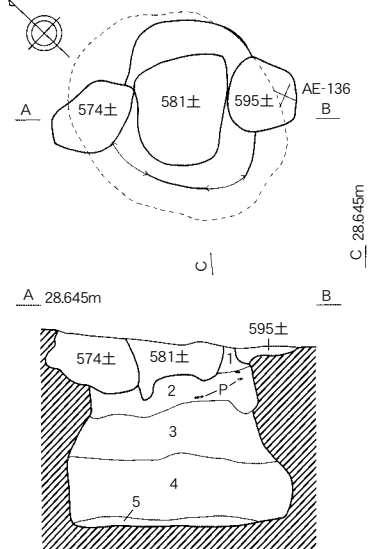
- 第569号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物・角礫少量、口一△粒微量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) 角礫多量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量
 第4層 明褐色土 (7.5YR5/6) 口一△、角礫多量
 第5層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫多量、炭化物微量
 第6層 褐色土 (7.5YR4/6) 角礫少量

第572号土坑



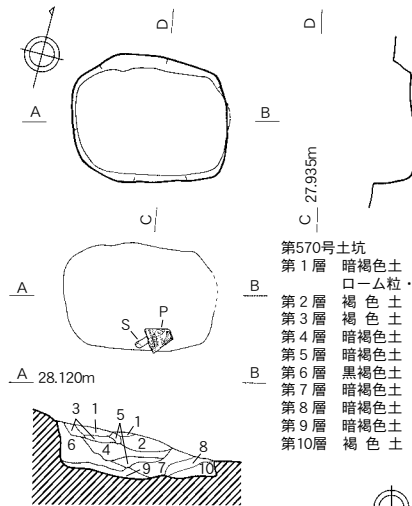
- 第572号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫少量、口一△粒微量

第575号土坑



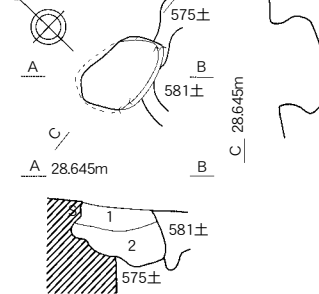
- 第575号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫微量
 第2層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 口一△粒・角礫微量
 第3層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫層
 第4層 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物・角礫少量
 第5層 褐色土 (7.5YR4/6) 角礫少量

第570号土坑



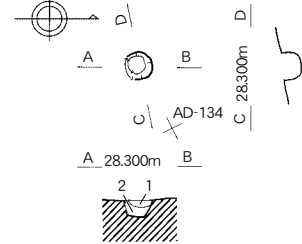
- 第570号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2) 中量、口一△粒・角礫少量、炭化物微量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) 口一△粒・角礫中量
 第3層 褐色土 (10YR4/4) 口一△粒少量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) 口一△粒少量、円礫微量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) L B・口一△粒少量
 第6層 黒褐色土 (10YR3/2) 口一△粒少量
 第7層 暗褐色土 (10YR3/3) 口一△粒・角礫少量
 第8層 暗褐色土 (10YR3/3) 口一△粒少量
 第9層 暗褐色土 (10YR3/3) 口一△粒少量
 第10層 褐色土 (10YR4/4) 口一△粒少量

第574号土坑



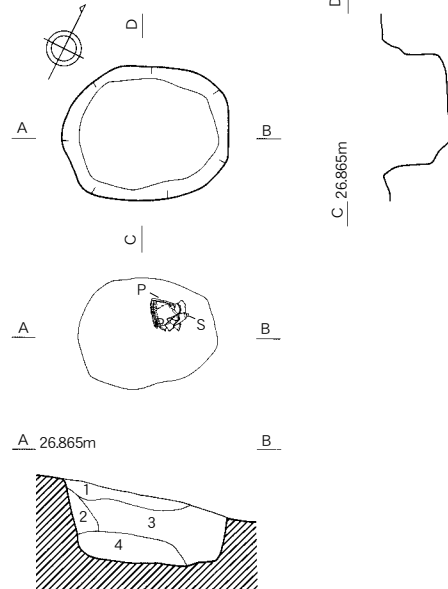
- 第574号土坑
 第1層 褐色土 (7.5YR4/3) 口一△粒・炭化物・角礫少量
 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) 口一△粒・角礫少量

第578号土坑



- 第578号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 口一△粒・炭化物・角礫少量
 第2層 黒褐色土 (10YR3/2) 口一△粒・炭化物・角礫少量

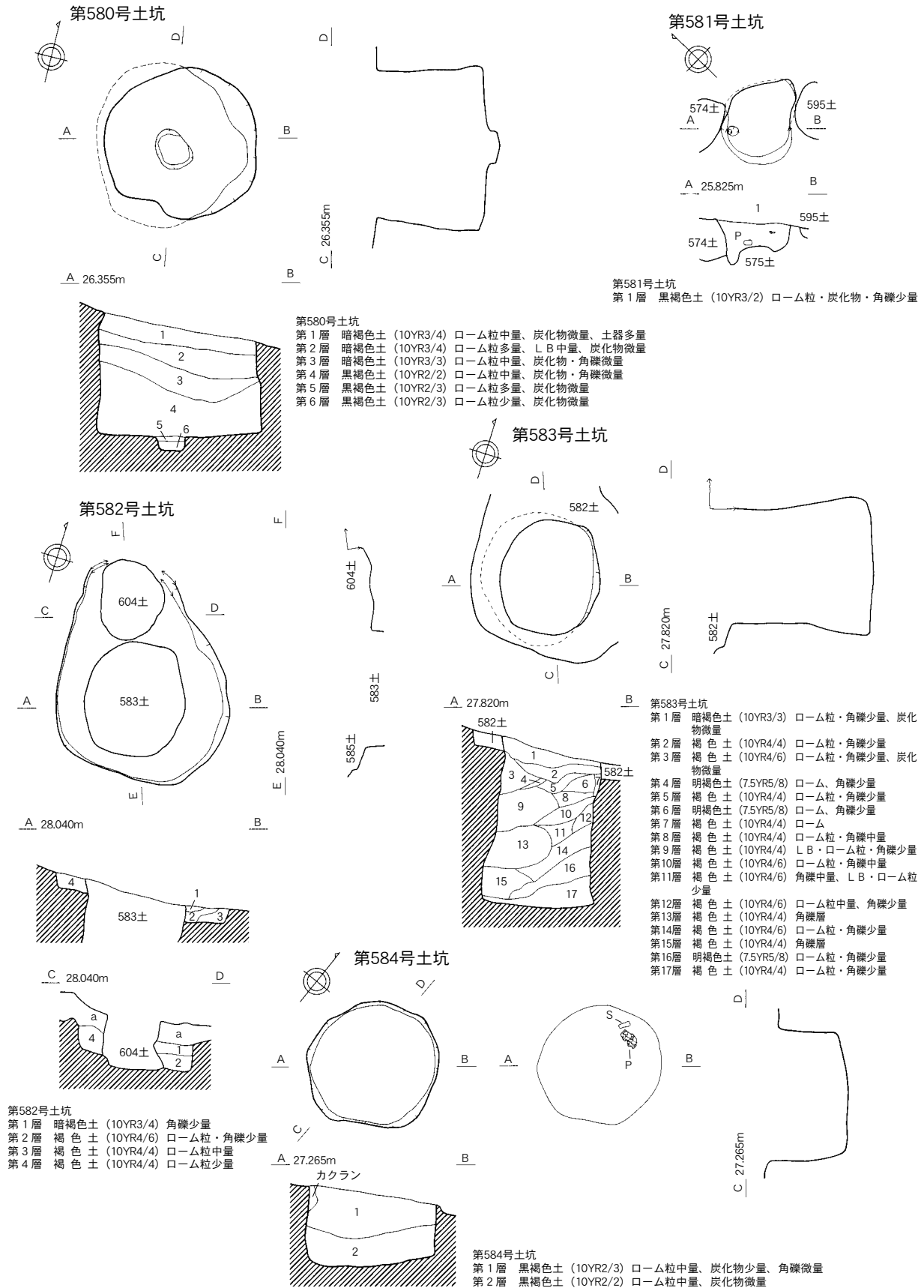
第579号土坑



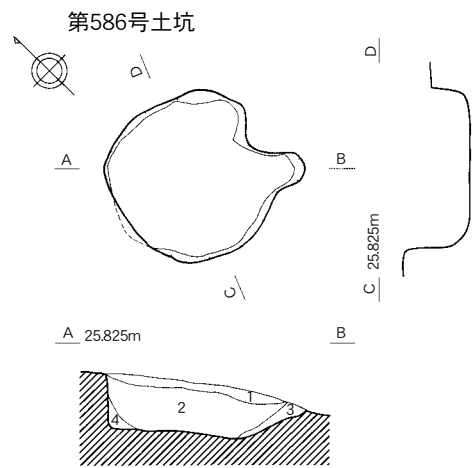
- 第579号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) 口一△粒少量、炭化物微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) 口一△粒中量、炭化物微量
 第3層 黒褐色土 (10YR2/3) L B・口一△粒中量、炭化物微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) L B・口一△粒中量、土器多量



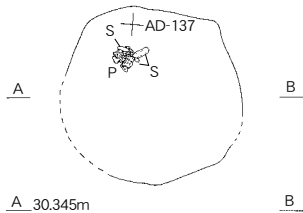
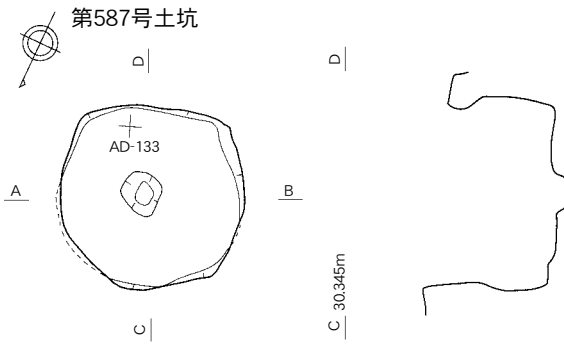
第99図 土坑 (9) (569±・570±・572±・574±・575±・578±・579±)



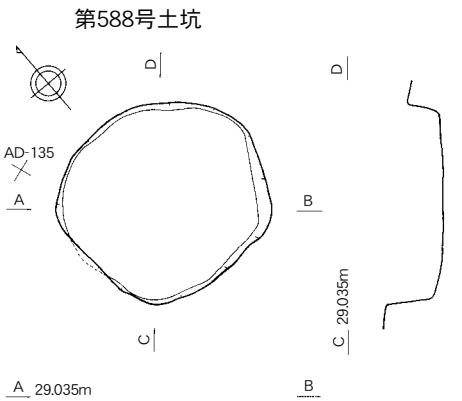
第100図 土坑 (10) (580~584土)



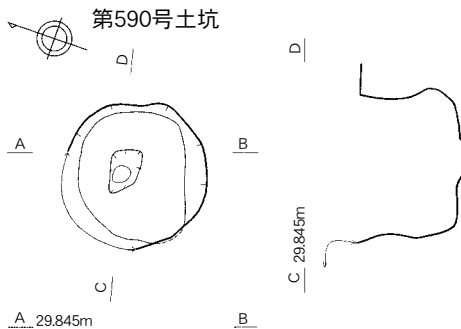
第586号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、角礫微量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒中量、角礫少量、炭化物微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、角礫微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・炭化物微量



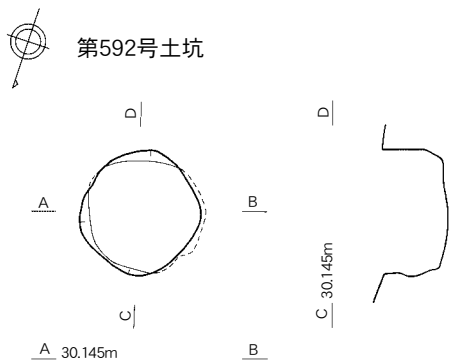
第587号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・角礫少量、パミス・炭化物微量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) L.B・角礫少量
 第3層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫中量、パミス・ローム粒少量
 第4層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量、ローム粒微量
 第5層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 角礫少量
 第6層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫少量
 第7層 暗褐色土 (7.5YR3/3) 炭化物少量、パミス・ローム粒・角礫微量



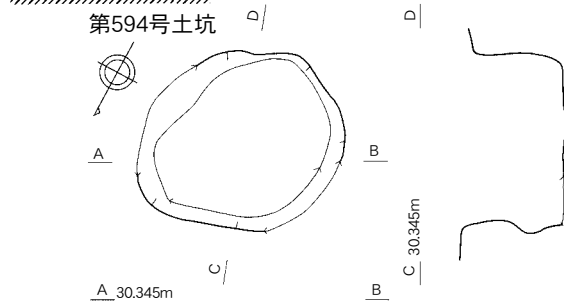
第588号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化物微量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量



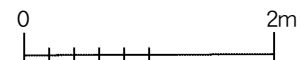
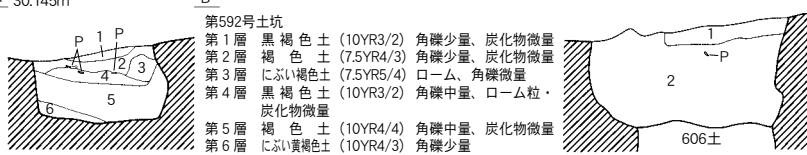
第590号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量、ローム粒少量
 第2層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 角礫少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫中量、ローム粒・炭化物微量
 第4層 褐色土 (7.5YR4/3) 角礫多量



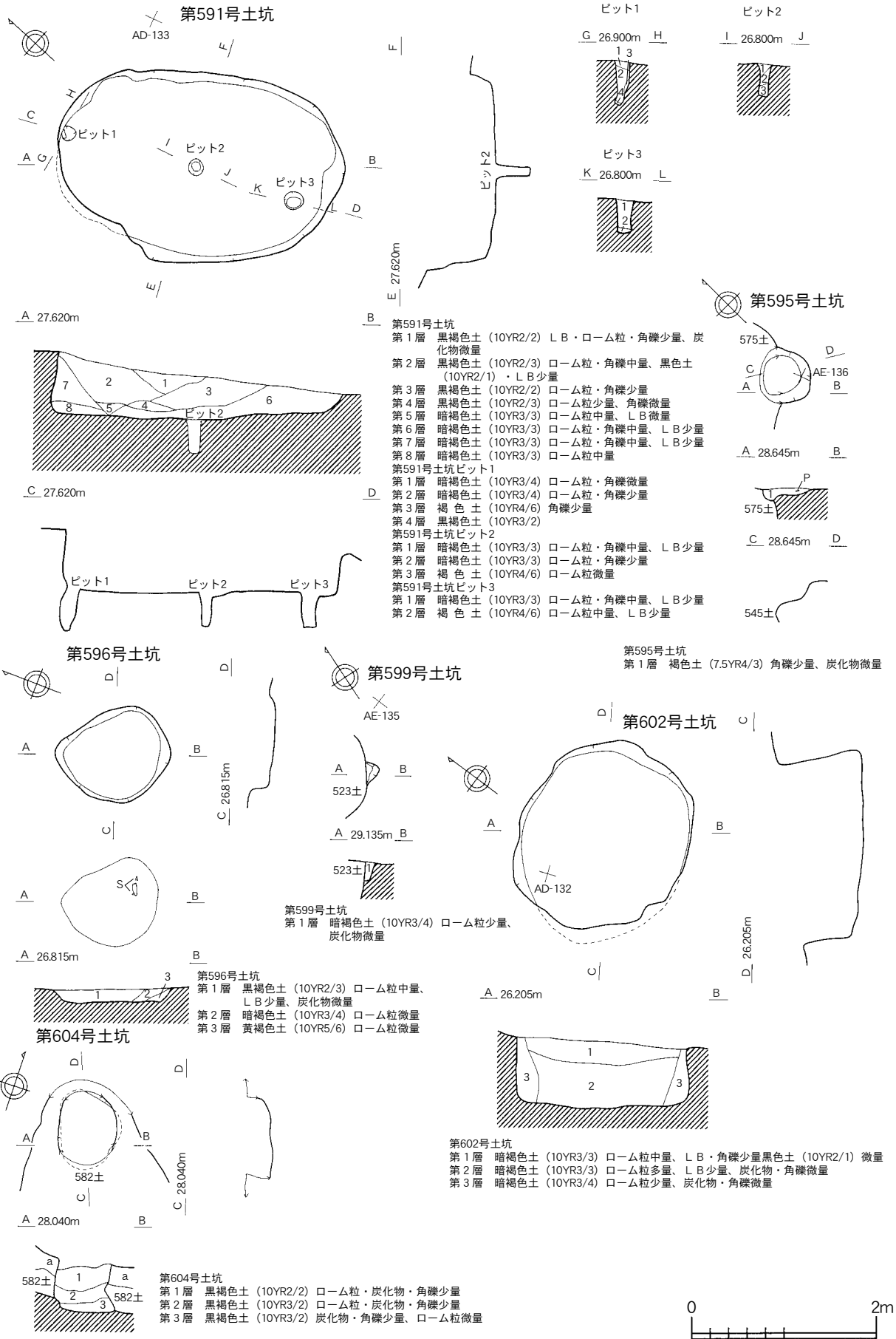
第592号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量、炭化物微量
 第2層 褐色土 (7.5YR4/3) 角礫少量、炭化物微量
 第3層 にぶい褐色土 (7.5YR5/4) ローム、角礫微量
 第4層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫中量、ローム粒・炭化物微量
 第5層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量、炭化物微量
 第6層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫少量



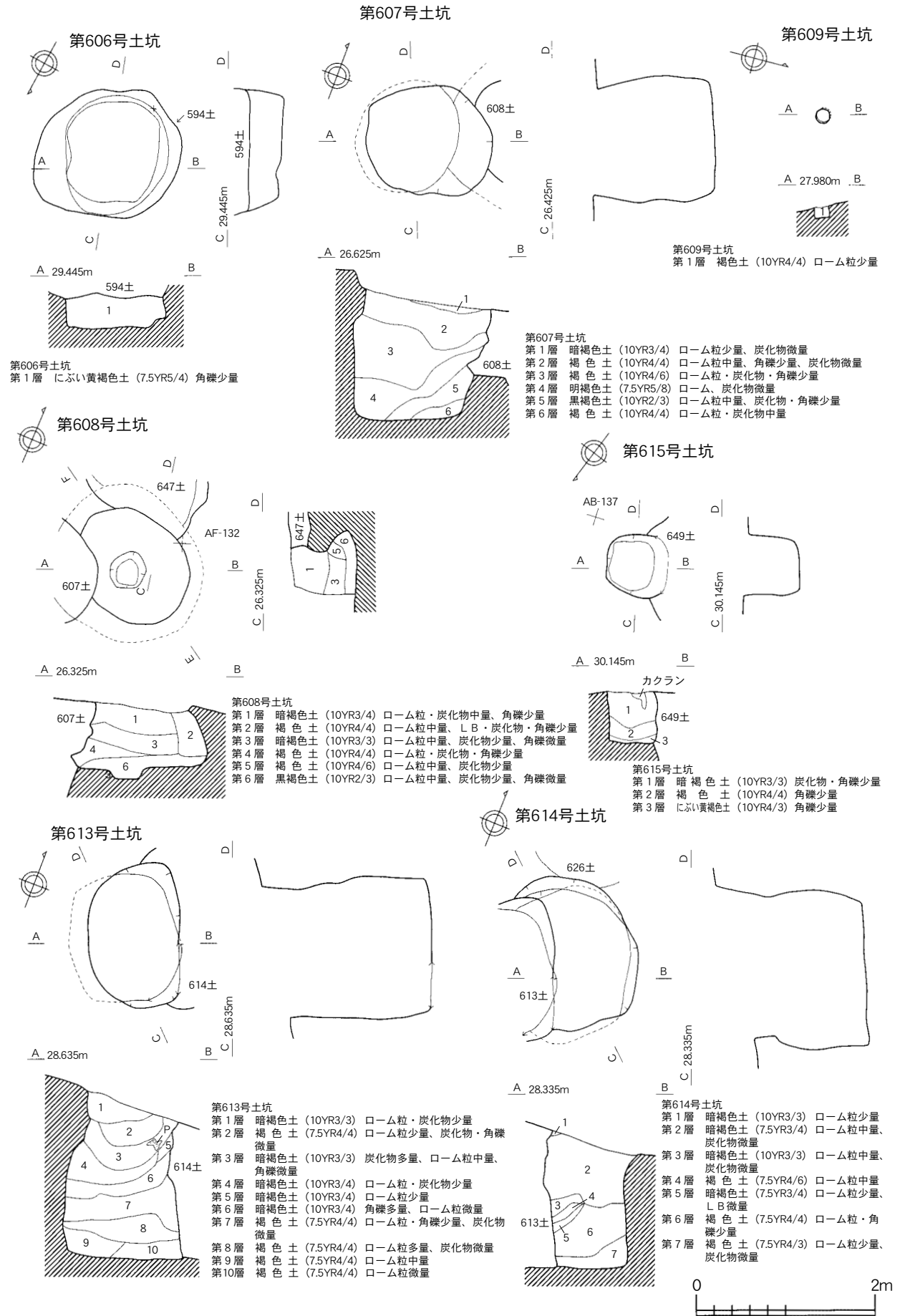
第594号土坑
 第1層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫少量、ローム粒微量
 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫少量、炭化物微量



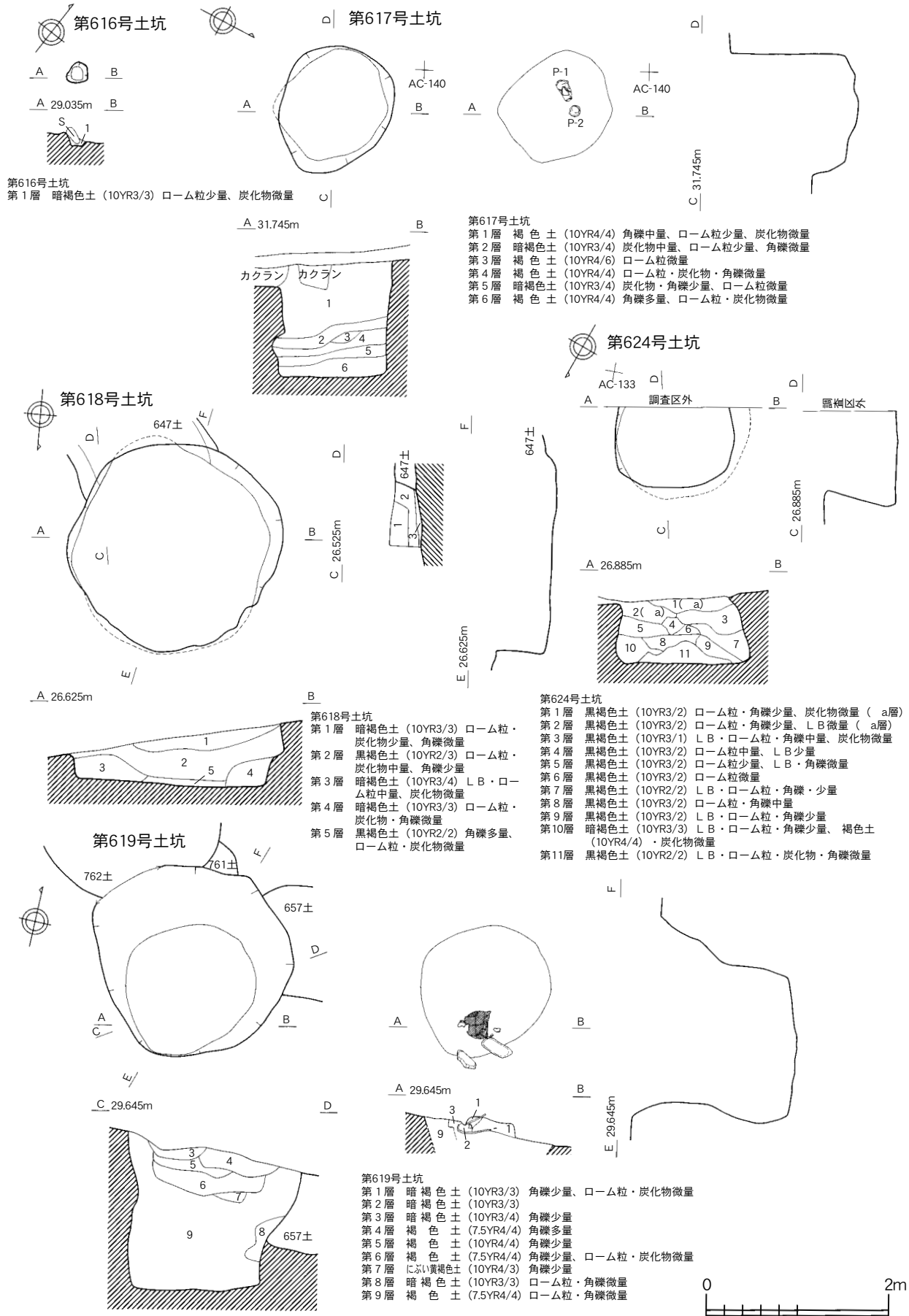
第101図 土坑 (11) (586~588土・590土・592土・594土)



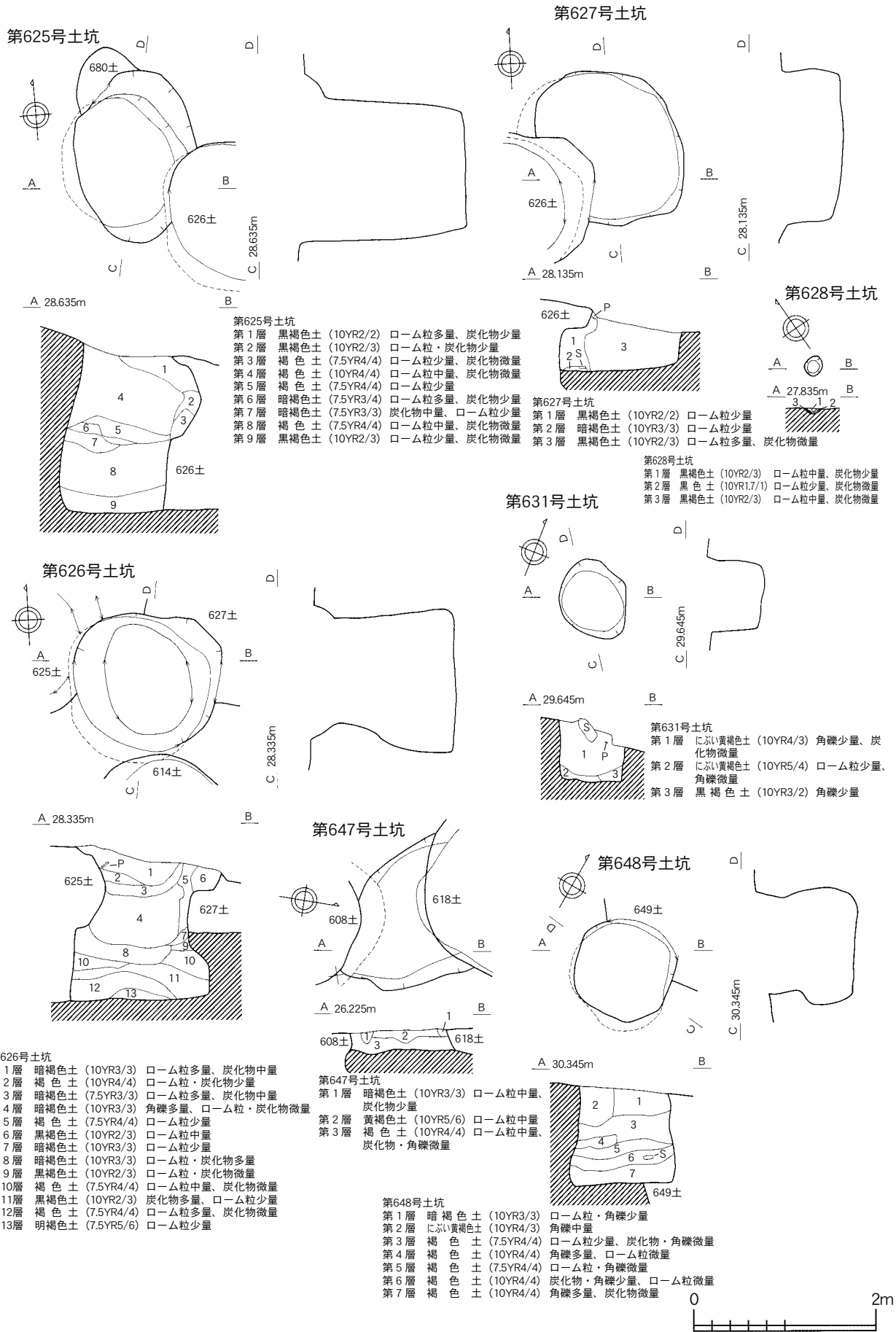
第102図 土坑 (12) (591±・595±・596±・599±・602±・604±)



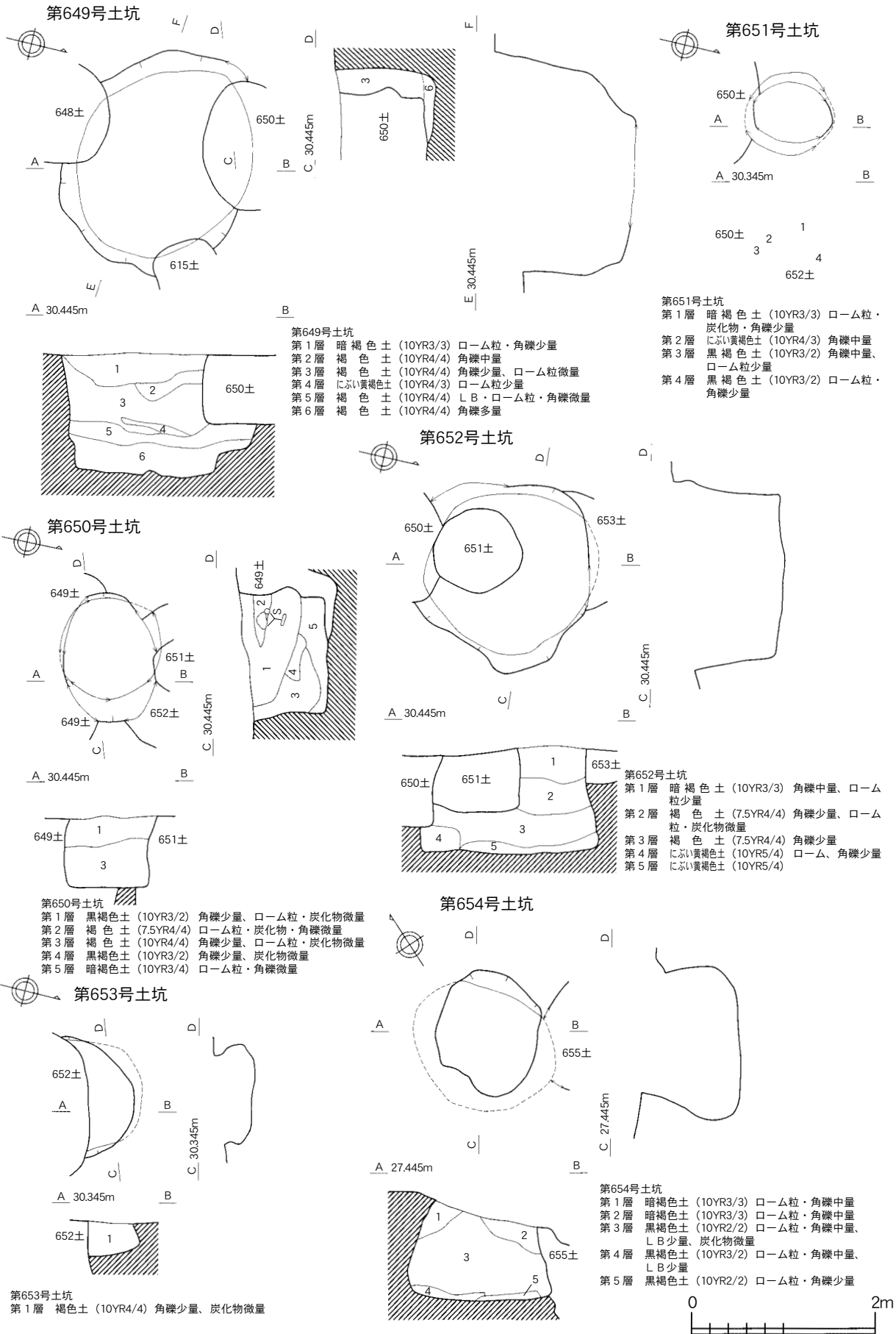
第103図 土坑 (13) (606~609土・613~615土)



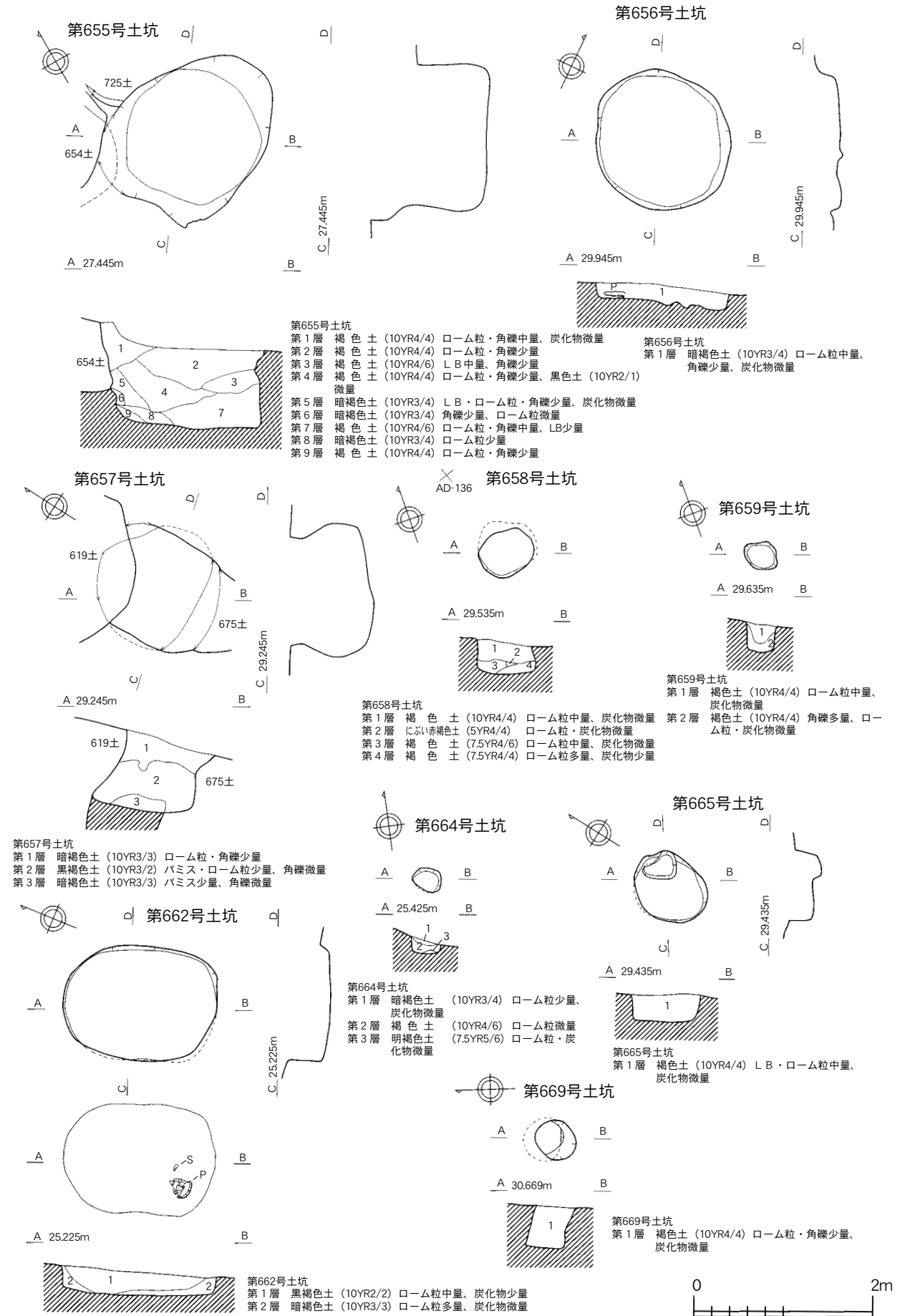
第104図 土坑 (14) (616~619土・624土)



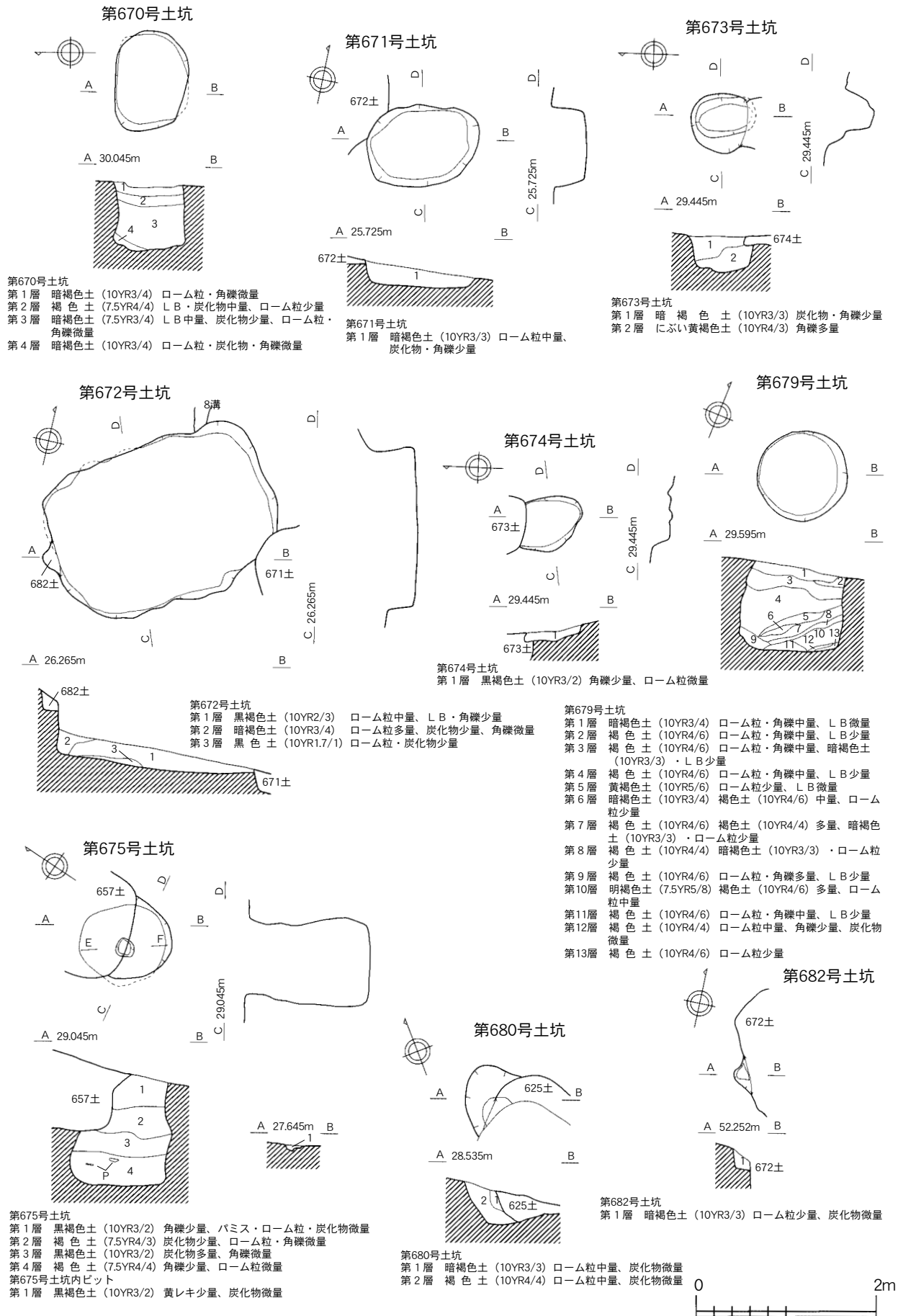
第105図 土坑 (15) (625~628土・631土・647土・648土)



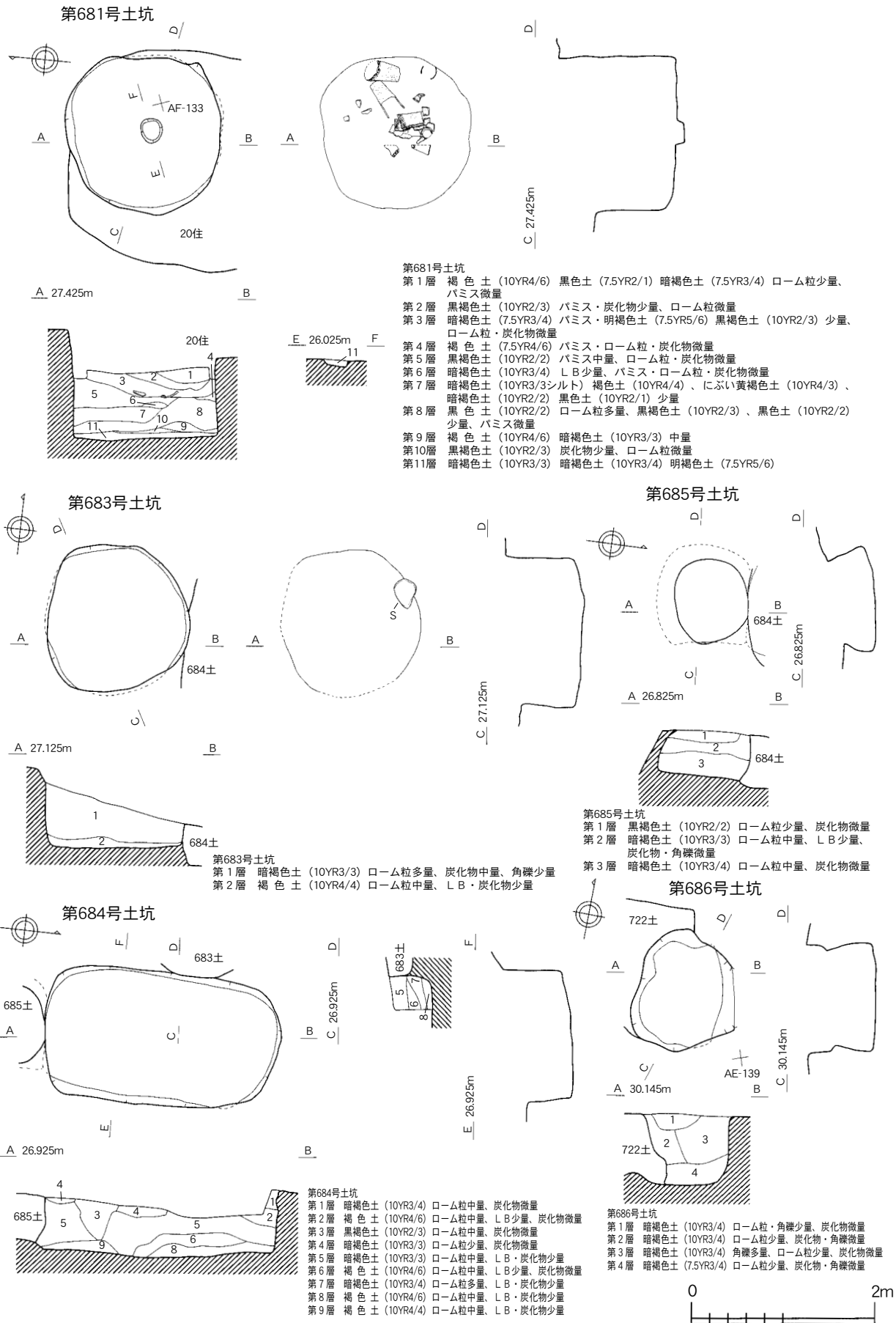
第106図 土坑 (16) (649~654土)



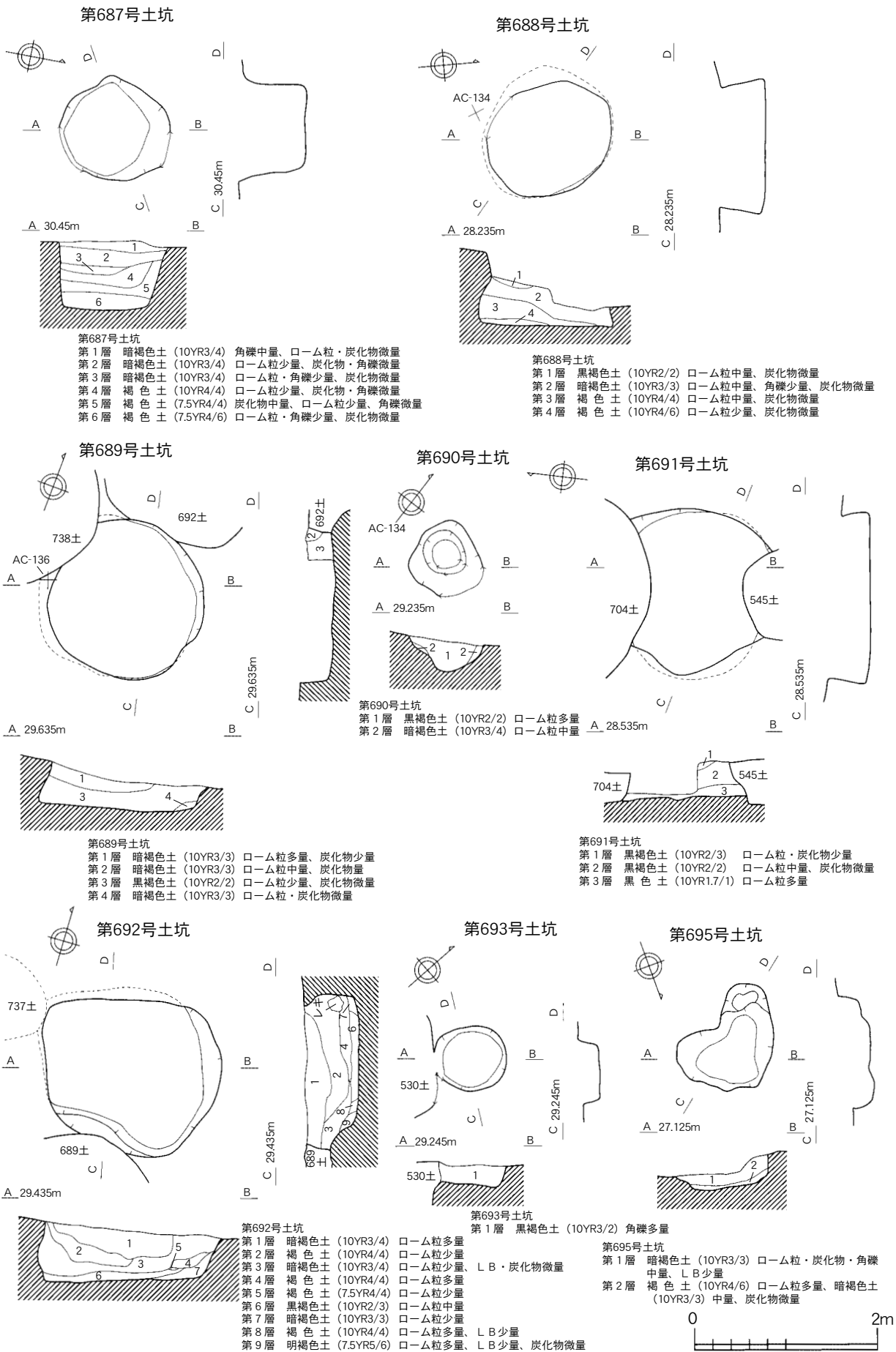
第107図 土坑 (17) (655~659±・662±・664±・665±・669±)



第108図 土坑 (18) (670~675土・679土・680土・682土)

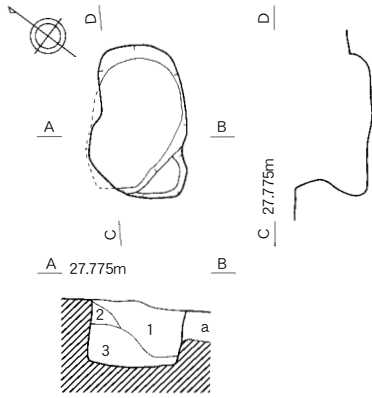


第109図 土坑 (19) (681土・683~686土)



第110図 土坑 (20) (687~693土・695土)

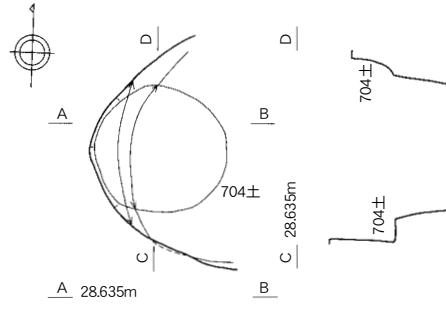
第696号土坑



第696号土坑

- 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) □-△粒・角礫中量、L B少量
- 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒・角礫少量、炭化物微量
- 第3層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫中量、□-△粒少量、炭化物微量

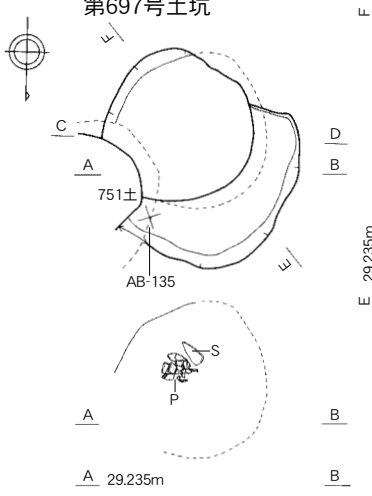
第703号土坑



第703号土坑

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、炭化物微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量、炭化物微量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、炭化物微量
- 第4層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、炭化物少量
- 第5層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・炭化物少量
- 第6層 褐色土 (10YR4/6) □-△粒中量、炭化物微量

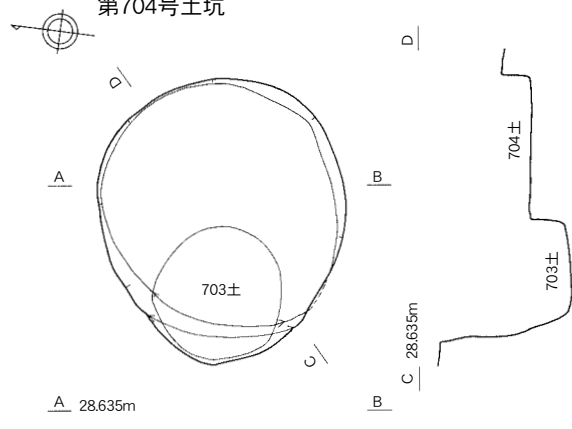
第697号土坑



第697号土坑

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、炭化物微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) L B中量、炭化物微量
- 第3層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・角礫中量、炭化物少量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、炭化物微量
- 第5層 褐色土 (10YR4/6) □-△粒・角礫中量、炭化物少量、円礫微量
- 第6層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒・炭化物少量
- 第7層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、炭化物少量
- 第8層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒少量、炭化物微量

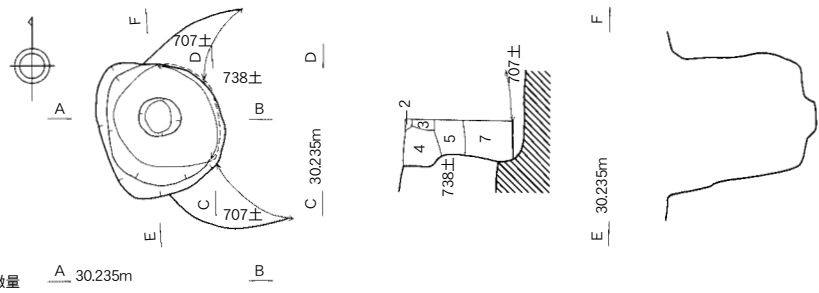
第704号土坑



第704号土坑

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、炭化物少量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、L B少量、炭化物微量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、L B・炭化物少量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、L B少量、炭化物微量

第706号土坑



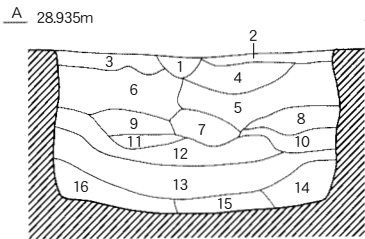
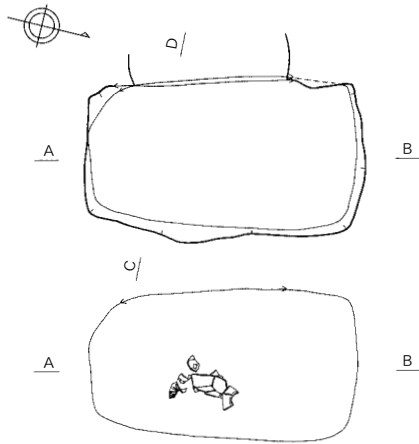
第706号土坑

- 第1層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) □-△、炭化物微量
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) L B・□-△粒・炭化物微量
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量
- 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒少量、炭化物微量
- 第6層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒多量
- 第7層 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物少量、□-△粒微量
- 第8層 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物少量、□-△粒微量
- 第9層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) □-△粒中量、炭化物微量



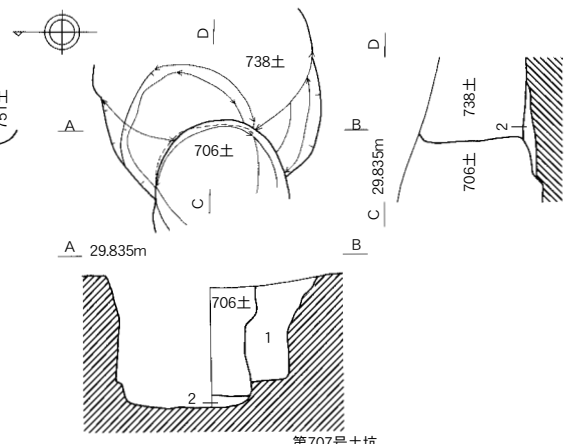
第111図 土坑 (21) (696土・697土・703土・704土・706土)

第705号土坑



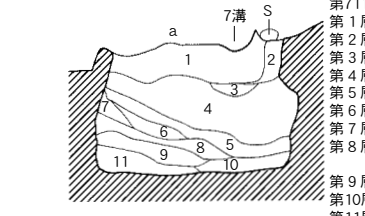
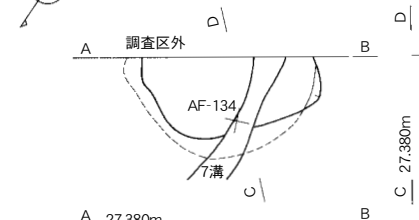
- 第705号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒中量、炭化物少量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒少量、炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、L B・炭化物少量
 - 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、炭化物少量
 - 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒・炭化物少量
 - 第6層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒多量、L B・角礫少量、炭化物微量
 - 第7層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・炭化物・角礫少量
 - 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、炭化物微量
 - 第9層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒・炭化物少量
 - 第10層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・炭化物少量
 - 第11層 褐色土 (10YR4/6) □-△粒中量、炭化物微量
 - 第12層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒・炭化物少量
 - 第13層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・炭化物中量
 - 第14層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒・炭化物中量
 - 第15層 褐色土 (10YR4/4) 炭化物少量、□-△粒微量
 - 第16層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・炭化物少量

第707号土坑



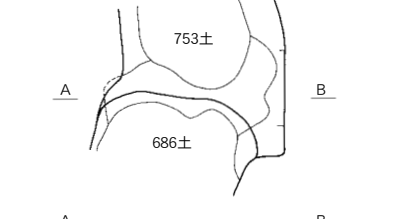
- 第707号土坑
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒少量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒・角礫少量、炭化物微量
- 第715号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒少量、L B微量

第711号土坑



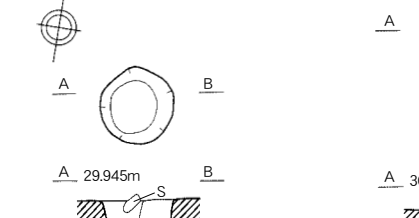
- 第711号土坑
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) L B・□-△粒・角礫少量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△、角礫中量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫少量、炭化物微量
 - 第4層 褐色土 (10YR4/6) 角礫多量、L B少量
 - 第5層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、L B・□-△粒微量
 - 第6層 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物少量、角礫微量
 - 第7層 褐色土 (10YR4/4) 角礫微量
 - 第8層 にぶい褐色土 (7.5YR5/4) □-△粒中量、L B少量、炭化物・角礫微量
 - 第9層 黒褐色土 (10YR3/2) □-△粒・炭化物・角礫微量
 - 第10層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・角礫少量
 - 第11層 にぶい褐色土 (10YR5/4) □-△粒・角礫少量

第722号土坑

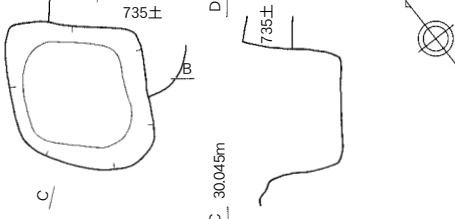


- 第722号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫多量、□-△粒少量、炭化物微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒・炭化物中量

第723号土坑

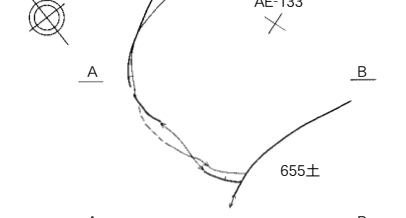


- 第723号土坑
- 第1層 黒褐色土 (7.5YR3/2) 角礫中量、□-△粒少量、炭化物微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫中量

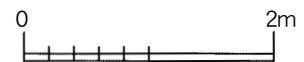


- 第724号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫多量、□-△粒少量、炭化物微量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒・角礫少量、炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫中量、□-△粒少量、炭化物微量

第725号土坑

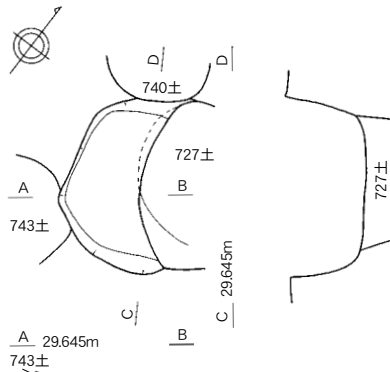


- 第725号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) L B・□-△粒少量、角礫微量



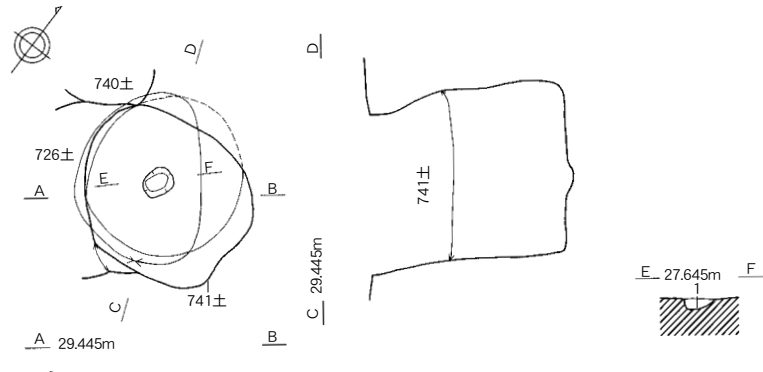
第112図 土坑 (22) (705土・707土・711土・715土・722~725土)

第726号土坑



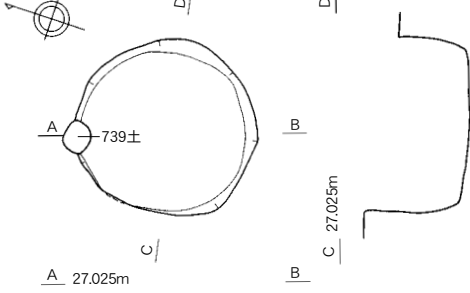
- 第726号土坑
- 第1層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 角礫少量
 - 第2層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫少量、ローム粒微量
 - 第3層 明褐色土 (7.5YR5/6) L, B多量、角礫少量
 - 第4層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量、ローム粒微量
 - 第5層 黒褐色土 (10YR3/1) 角礫少量

第727号土坑



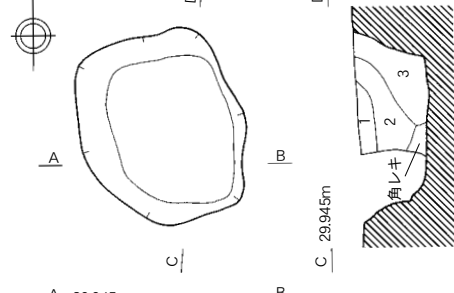
- 第727号土坑
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量、炭化物少量、ローム粒微量
 - 第2層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量
 - 第3層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 炭化物少量、角礫微量
 - 第4層 にぶい黄褐色土 (7.5YR5/4) 角礫微量
 - 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物多量
 - 第6層 褐色土 (7.5YR4/3) 角礫少量
 - 第7層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量
 - 第8層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫多量
 - 第9層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物中量、角礫少量
- 第727号土坑ビット
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量

第730号土坑



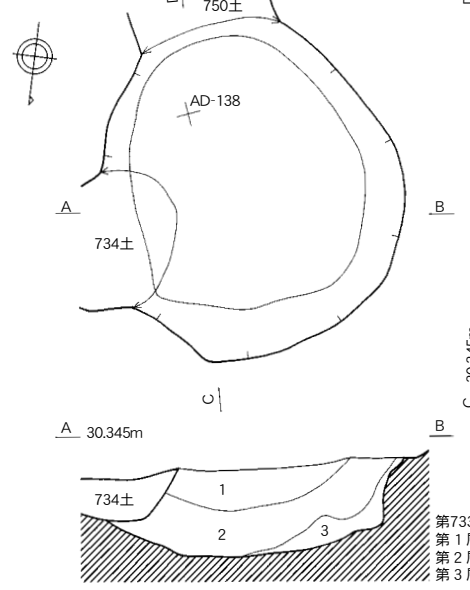
- 第730号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒多量、炭化物中量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量、炭化物中量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量、炭化物微量
 - 第4層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒中量、炭化物少量
 - 第5層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量、炭化物少量
 - 第6層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒多量、炭化物少量

第731号土坑



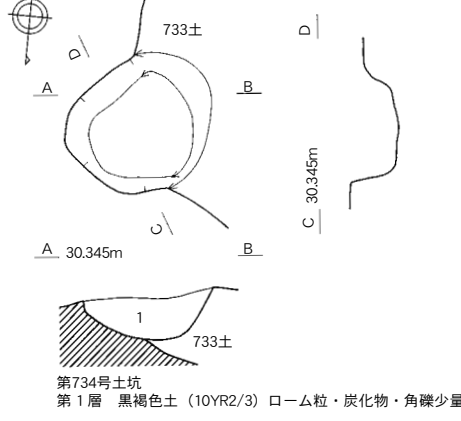
- 第731号土坑
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量、ローム粒・炭化物微量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/6) 角礫多量、ローム粒・炭化物微量
 - 第3層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量、ローム粒少量、炭化物微量

第733号土坑

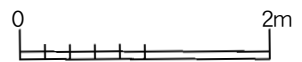


- 第733号土坑
- 第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・炭化物・角礫少量
 - 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物中量、ローム粒・角礫少量
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫多量、ローム粒・炭化物少量

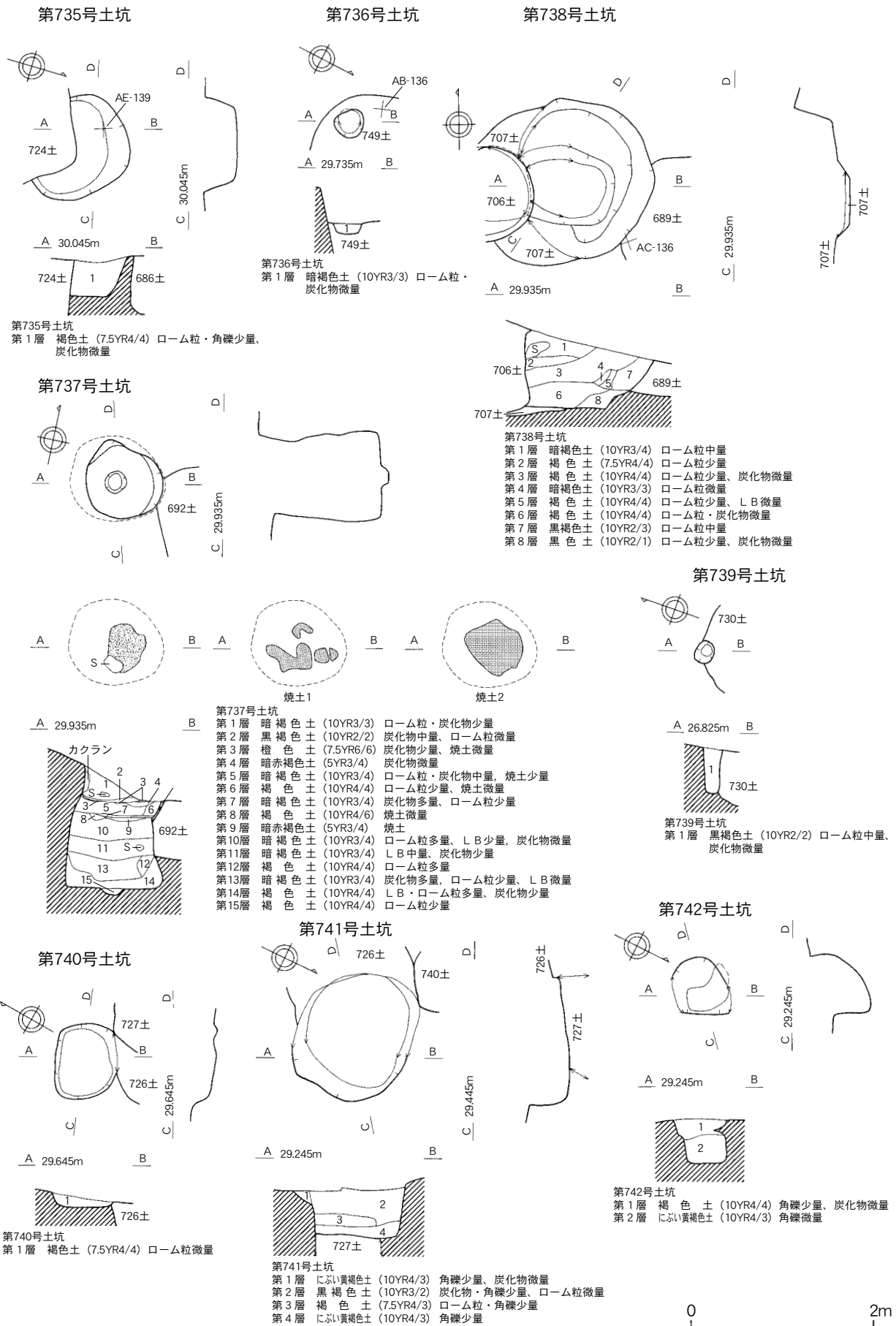
第734号土坑



- 第734号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物・角礫少量

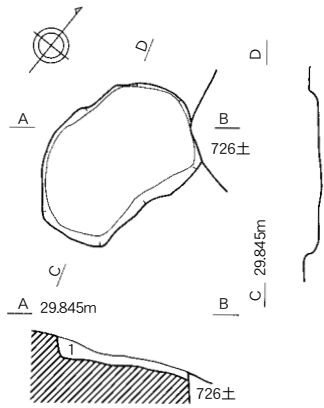


第113図 土坑 (23) (726土・727土・730土・731土・733土・734土)



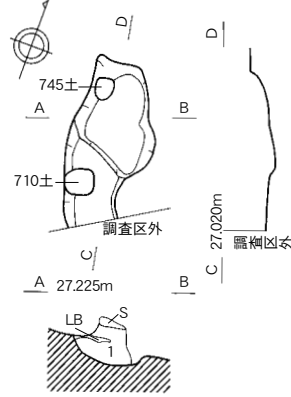
第114図 土坑 (24) (735~742土)

第743号土坑



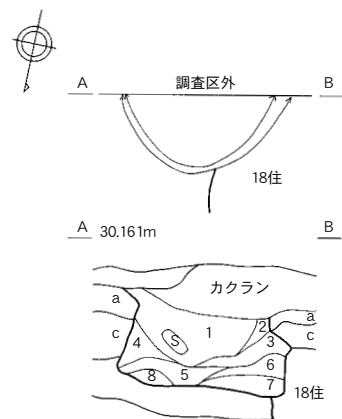
第743号土坑
第1層 明褐色土 (7.5YR5/6) 角礫少量

第744号土坑



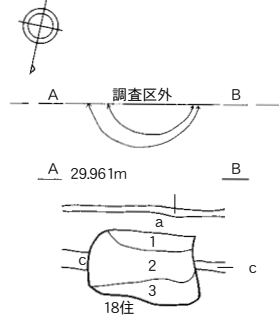
第744号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫中量、
L B・ローム粒・炭化物少量

第746号土坑



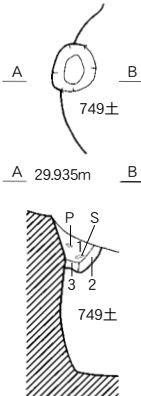
第746号土坑
第1層 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒多量、角礫・土器中量、
暗褐色 (7.5YR3/4) 炭化物少量
第2層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、黒褐色土 (7.5YR
2/2) 少量、炭化物微量
第3層 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒多量、炭化物微量
第4層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、黒褐色土 (7.5YR
2/2) 少量
第5層 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量、炭化物微量
第6層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒中量、褐色土 (7.5YR4/6)
少量、炭化物微量
第7層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒中量、褐色土 (7.5YR4/6)
少量
第8層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒微量

第747号土坑



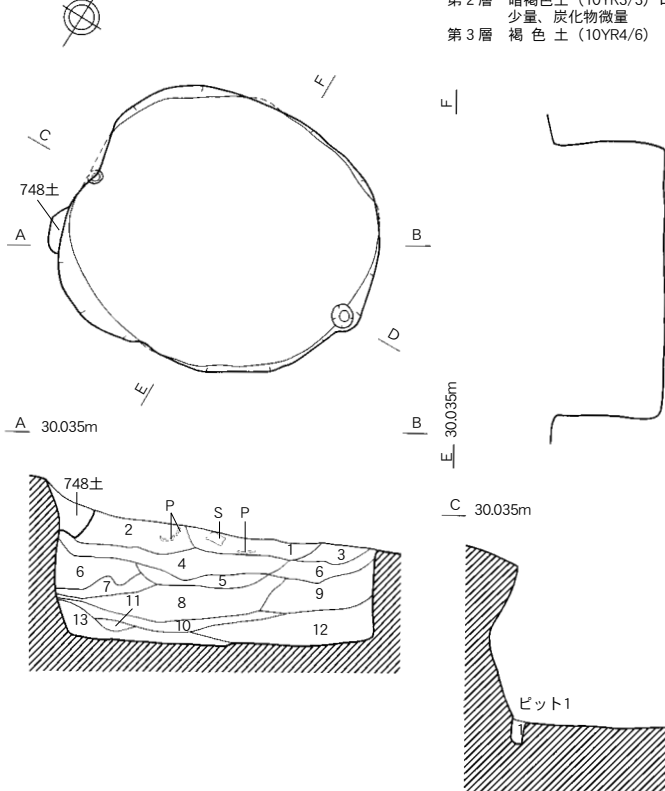
第747号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物少量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒多量、炭化物・角礫中量
第3層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒多量、炭化物・角礫少量

第748号土坑

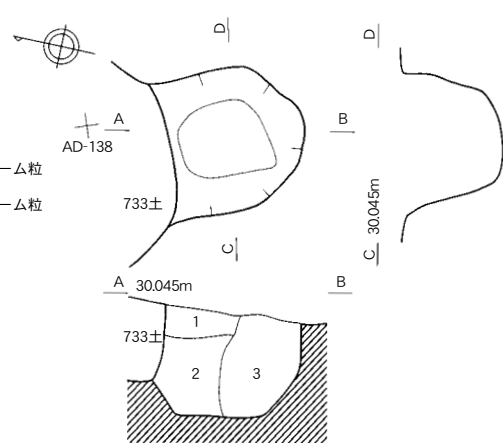


第748号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒
少量、炭化物微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒
少量、炭化物微量
第3層 褐色土 (10YR4/6)

第749号土坑



第750号土坑



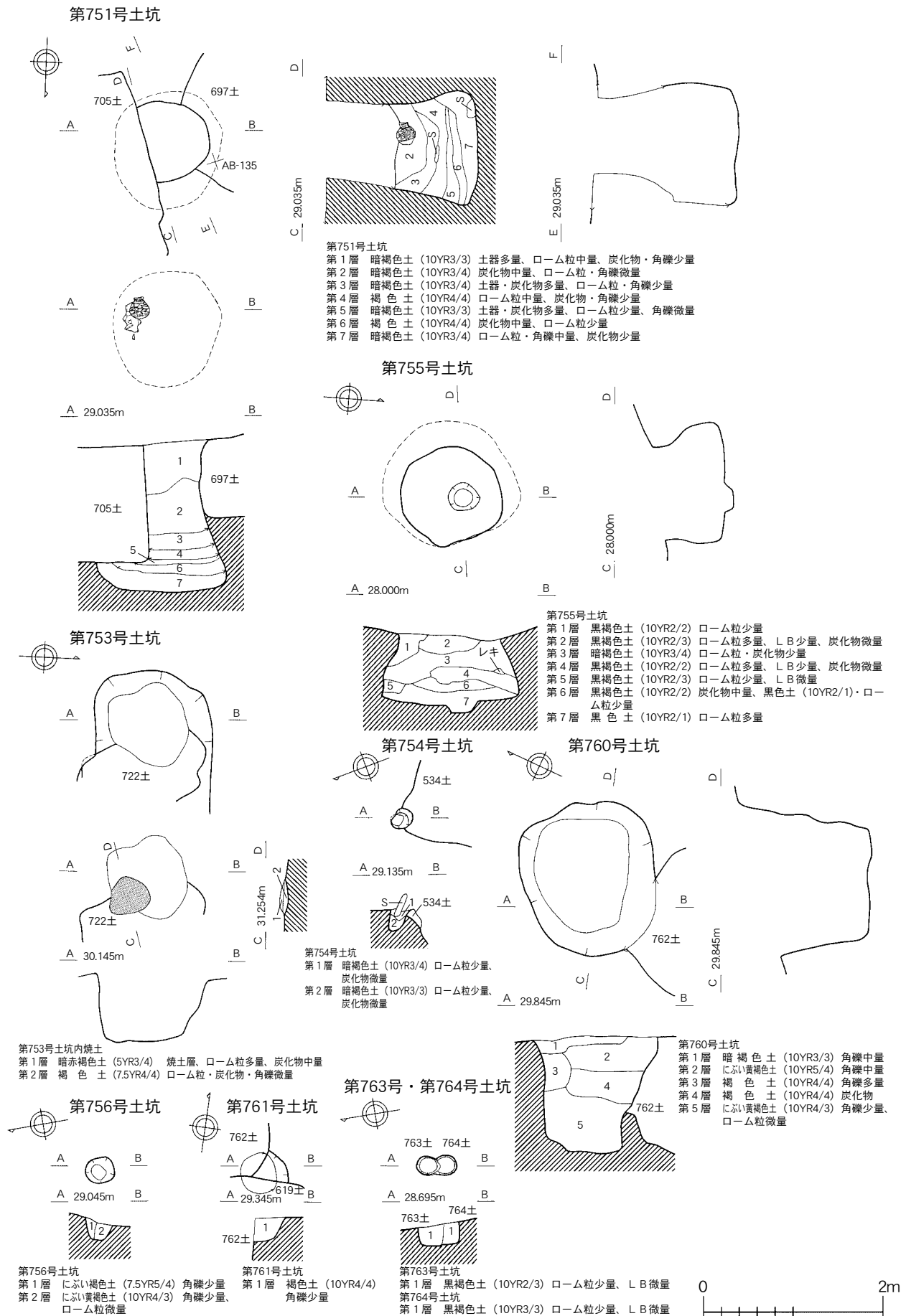
第750号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒・角礫少量、炭化物微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
第3層 褐色土 (10YR4/4) 角礫多量、ローム粒・炭化物微量

第749号土坑

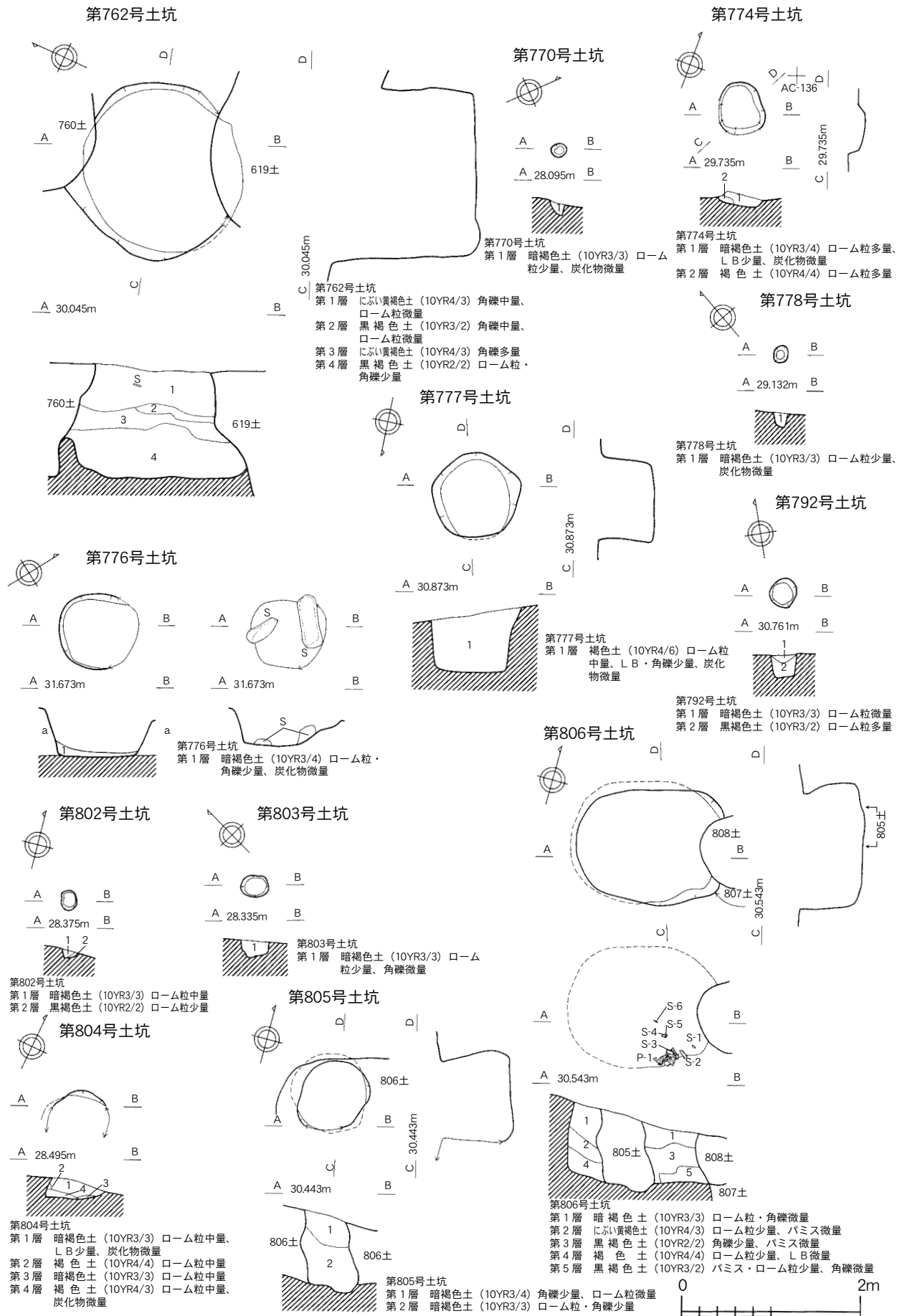
第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化物微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化物微量
第3層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化物微量
第4層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量、L B少量
第6層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量
第7層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
第8層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量、角礫少量、
炭化物微量
第9層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒多量、角礫中量
第10層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・炭化物少量
第11層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒多量
第12層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量、炭化物微量
第13層 濃い黄褐色土 (10YR5/4) ローム粒少量、L B微量
第749号土坑内ビット1
第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量
第749号土坑内ビット2
第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒多量、角礫少量



第115図 土坑 (25) (743土・744土・746~750土)

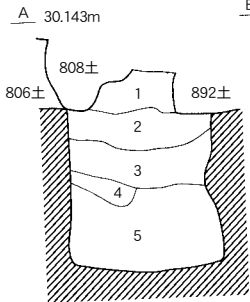
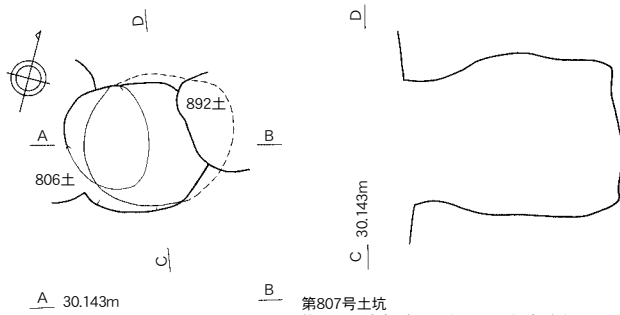


第116図 土坑 (26) (751土・753~756土・760土・761土・763土・764土)



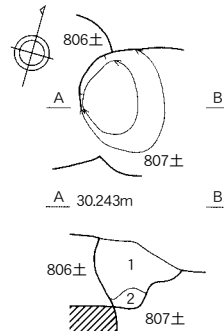
第117図 土坑 (27) (762土・770土・774土・776~778土・792土・802~806土)

第807号土坑



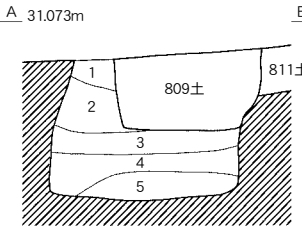
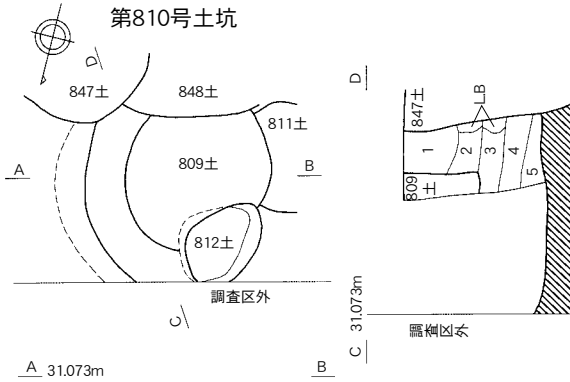
第807号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫中量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、炭化物微量
 第3層 褐色土 (10YR4/6) パミス、角礫少量
 第4層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量、パミス微量
 第5層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫中量、パミス微量

第808号土坑



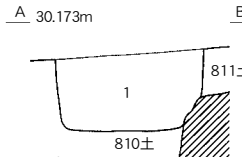
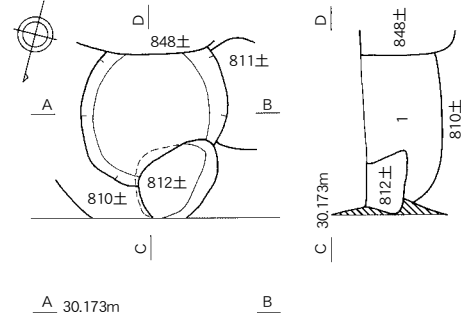
第808号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量、ローム粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・角礫少量

第810号土坑



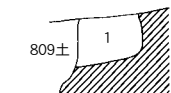
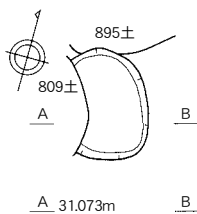
第810号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・角礫少量、炭化物微量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物少量、角礫微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色土 (10YR4/6) 多量、ローム粒・炭化物少量、角礫微量
 第4層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒・炭化物少量、角礫微量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化物・角礫微量

第809号土坑



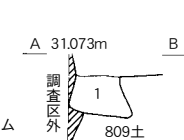
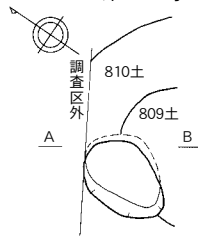
第809号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫中量、ローム粒少量、炭化物微量

第811号土坑



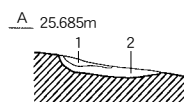
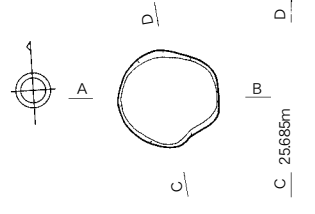
第811号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物・角礫少量

第812号土坑



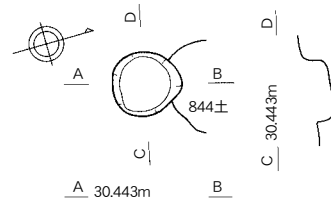
第812号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒・角礫少量、炭化物微量

第841号土坑

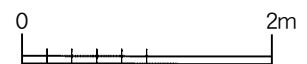


第841号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒中量、L B 少量

第843号土坑

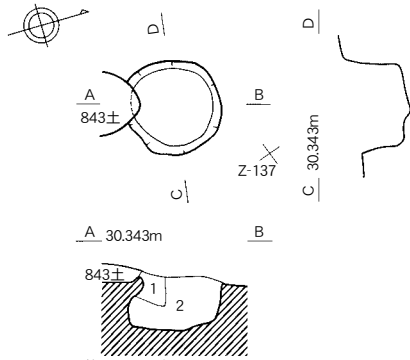


第843号土坑
 第1層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒・角礫微量



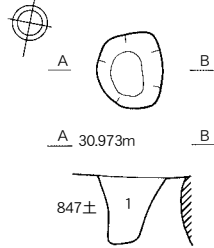
第118図 土坑 (28) (807~812土・841土・843土)

第844号土坑



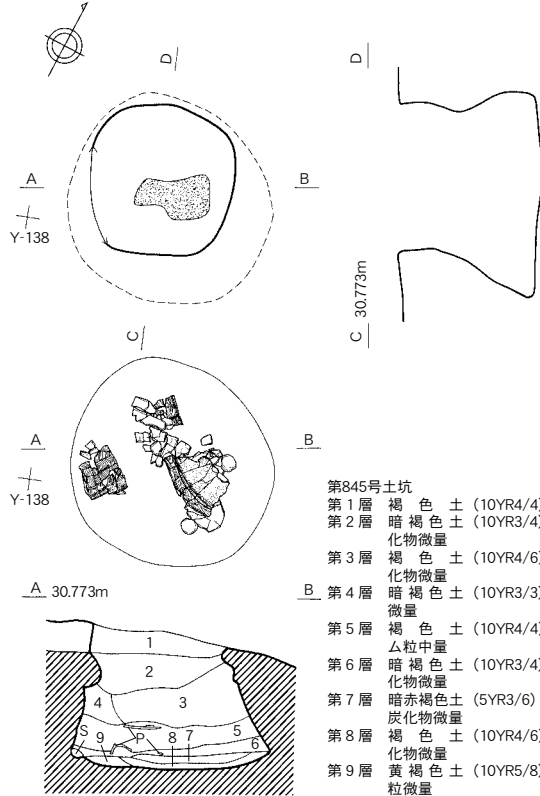
第844号土坑
 第1層 明褐色土 (7.5YR5/6) □-△粒・角礫少量
 第2層 にびい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫少量、□-△粒微量

第846号土坑



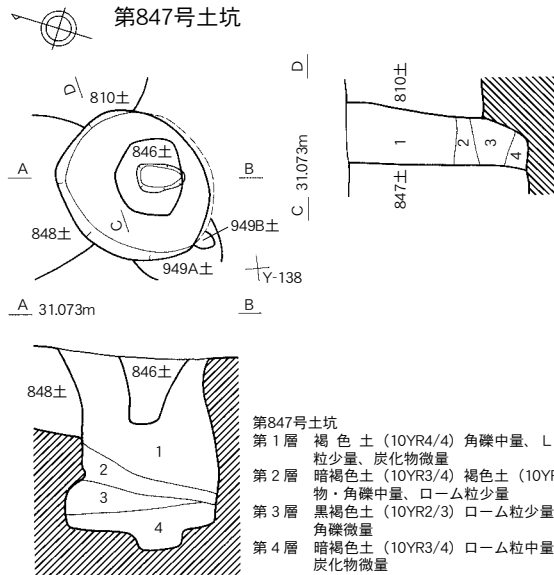
第846号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒・角礫少量、炭化物微量

第845号土坑



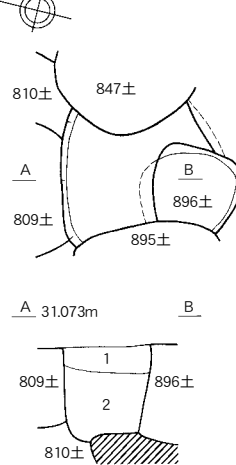
第845号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量、炭化物微量
 第3層 褐色土 (10YR4/6) □-△粒少量、炭化物微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒・炭化物微量
 第5層 褐色土 (10YR4/4) 炭化物多量、□-△粒中量
 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量、炭化物微量
 第7層 暗赤褐色土 (5YR3/6) L B・□-△粒・炭化物微量
 第8層 褐色土 (10YR4/6) □-△粒少量、炭化物微量
 第9層 黄褐色土 (10YR5/8) L B少量、□-△粒微量

第847号土坑



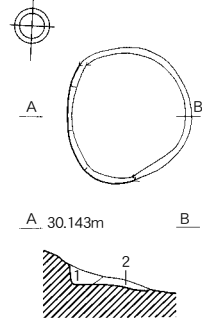
第847号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量、L B・□-△粒少量、炭化物微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土 (10YR4/6)・炭化物・角礫中量、□-△粒少量
 第3層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒少量、炭化物・角礫微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、角礫少量、炭化物微量

第848号土坑



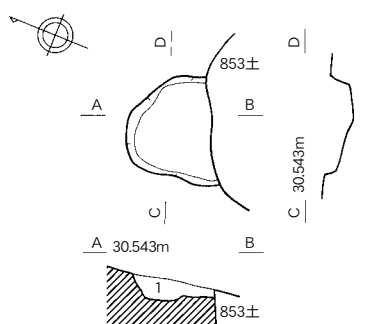
第848号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/6) □-△粒少量、炭化物・角礫微量
 第2層 褐色土 (10YR4/6) □-△粒・角礫少量、炭化物微量

第849号土坑



第849号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫微量
 第2層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量

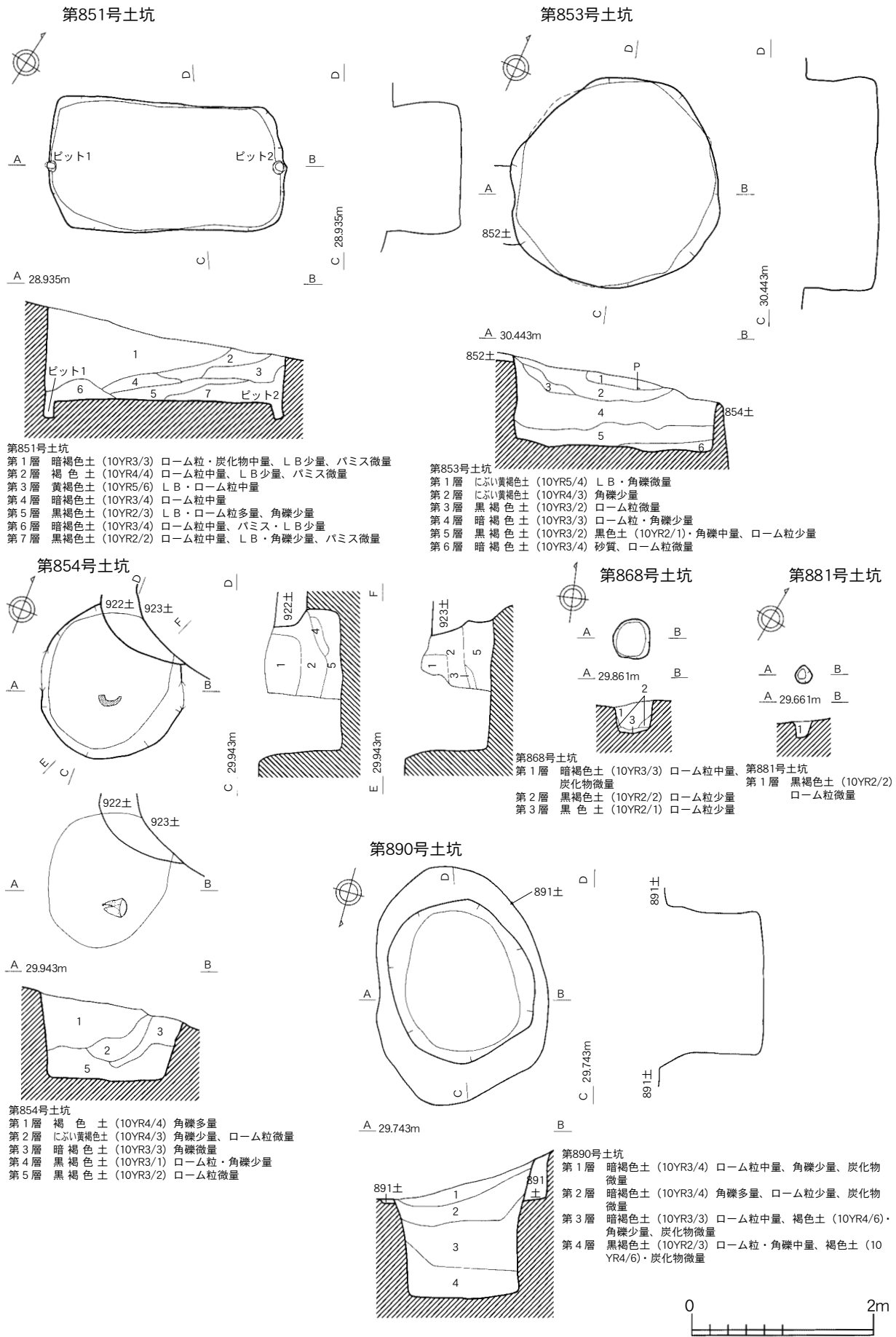
第852号土坑



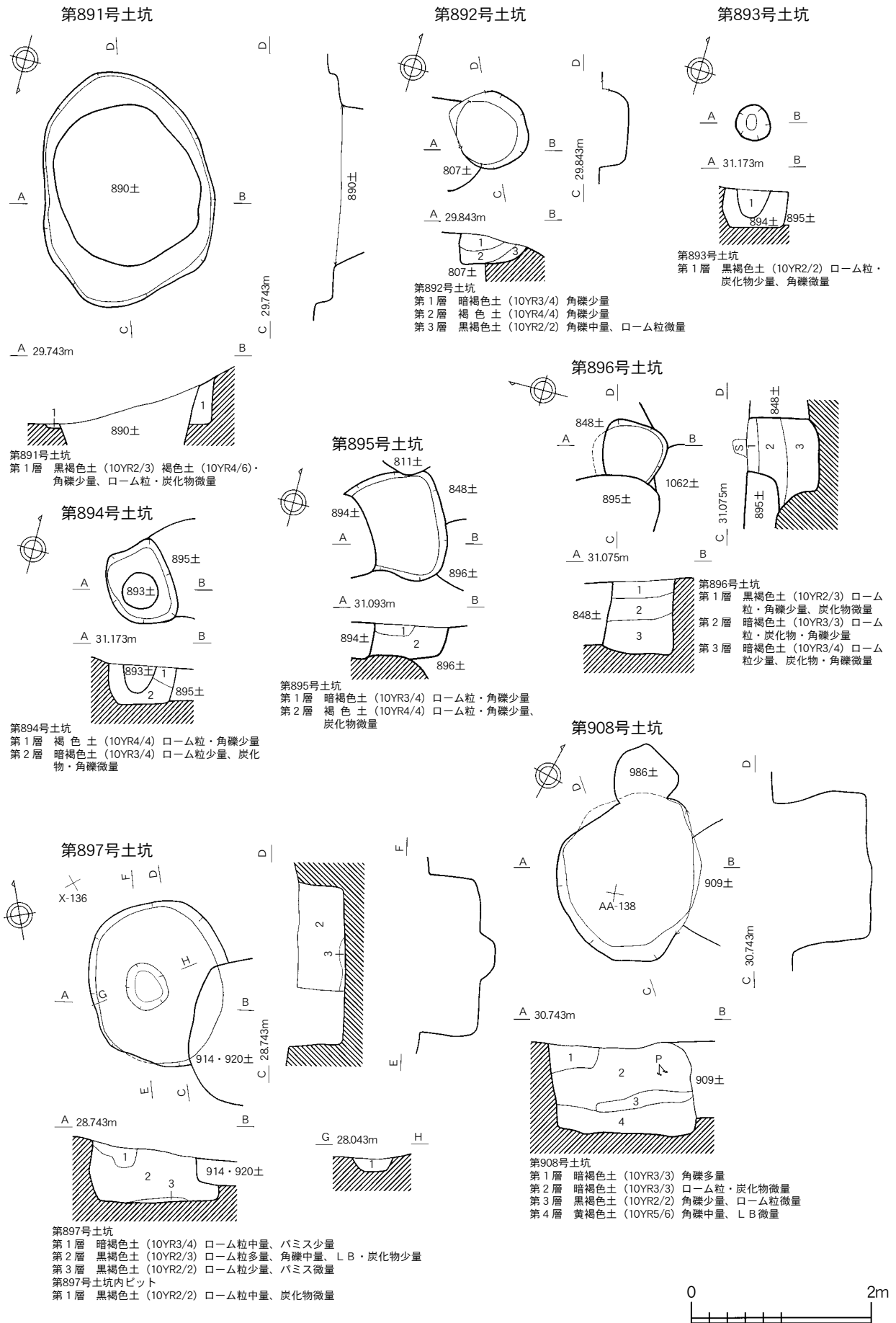
第852号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒少量



第119図 土坑 (29) (844~849土・852土)

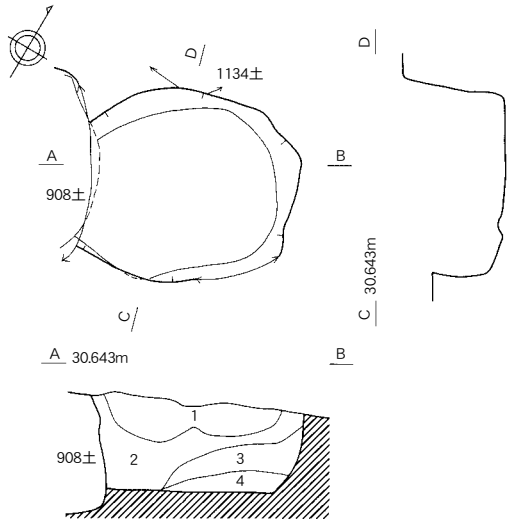


第120図 土坑 (30) (851土・853土・854土・868土・881土・890土)



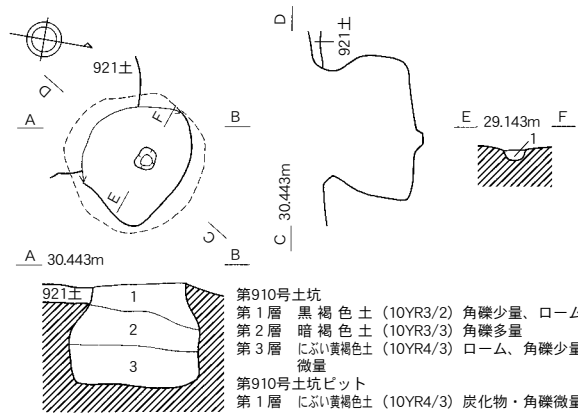
第121図 土坑 (31) (891~897土・908土)

第909号土坑



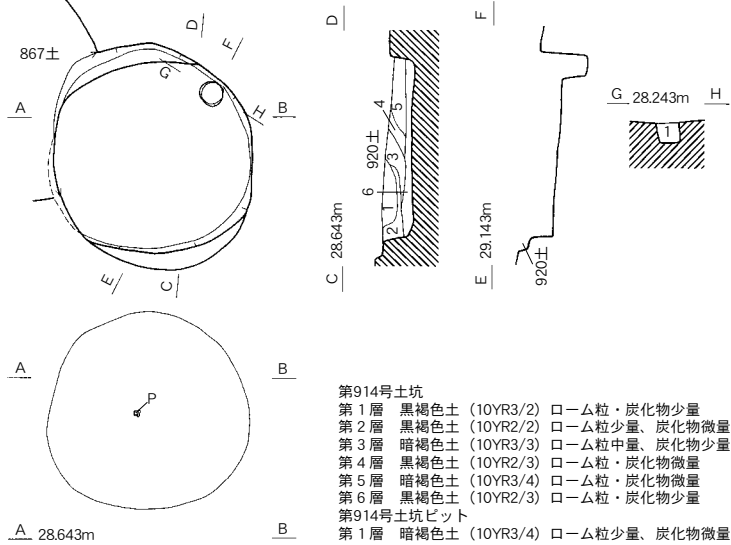
第909号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量、ローム粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・角礫微量
 第3層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) L B 多量、角礫少量
 第4層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・角礫微量

第910号土坑



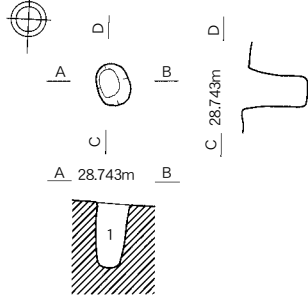
第910号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量、ローム粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫多量
 第3層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム、角礫少量パミス微量
 第910号土坑ピット
 第1層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 炭化物・角礫微量

第914号土坑



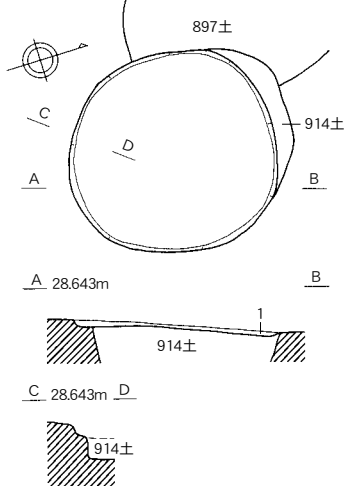
第914号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・炭化物少量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化物微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量、炭化物少量
 第4層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物微量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物微量
 第6層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物少量
 第914号土坑ピット
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化物微量

第913号土坑



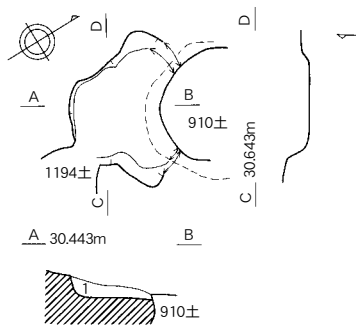
第913号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) L B 少量、ローム粒微量

第920号土坑



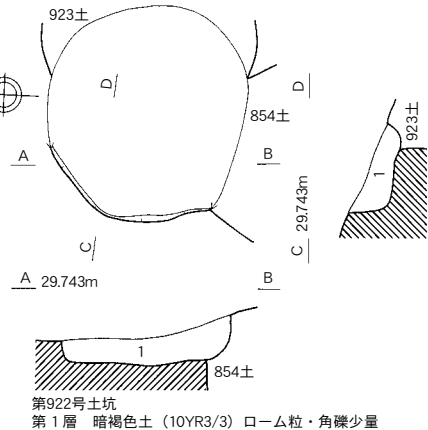
第920号土坑
 第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒中量、炭化物微量

第921号土坑

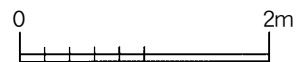


第921号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、ローム粒微量

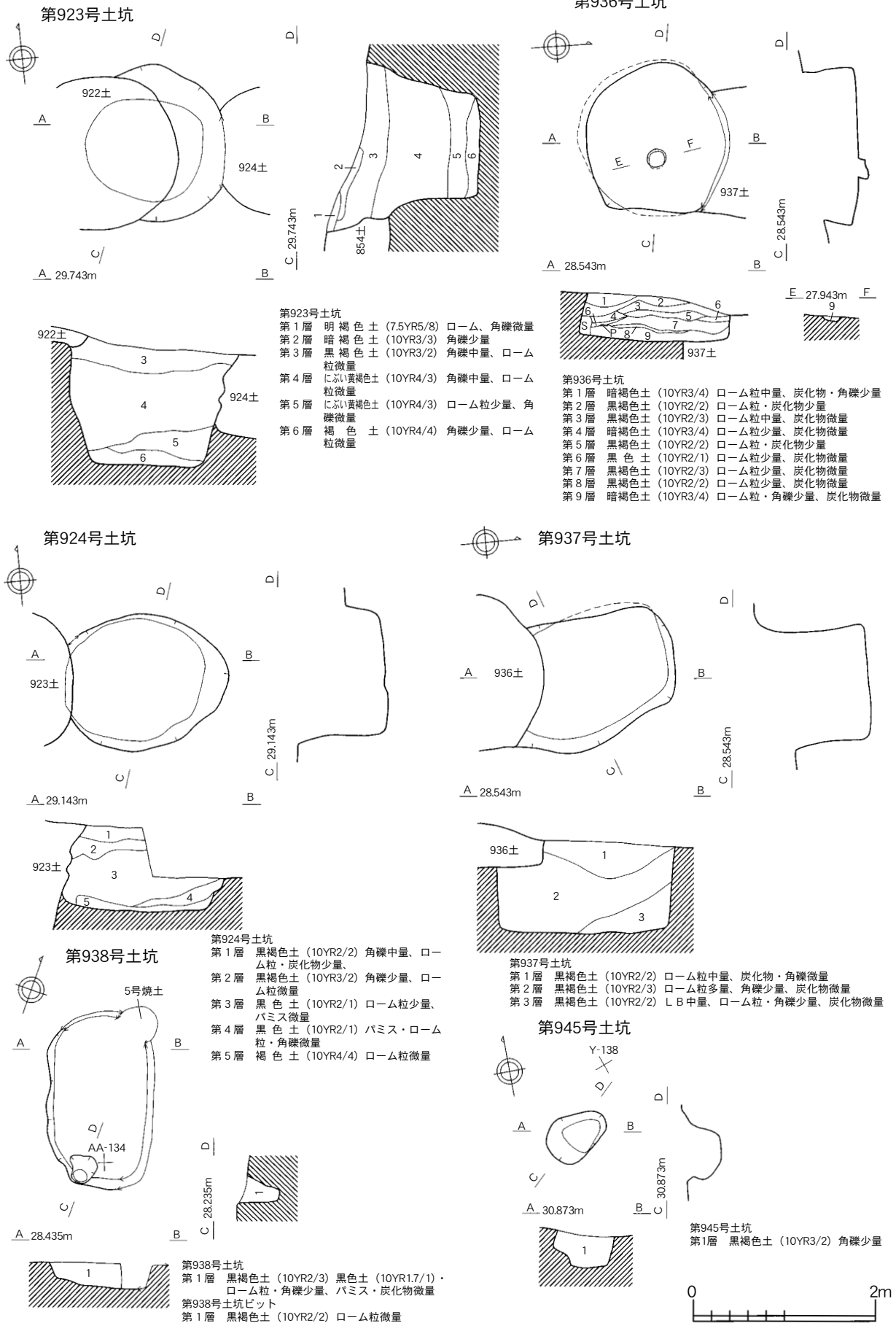
第922号土坑



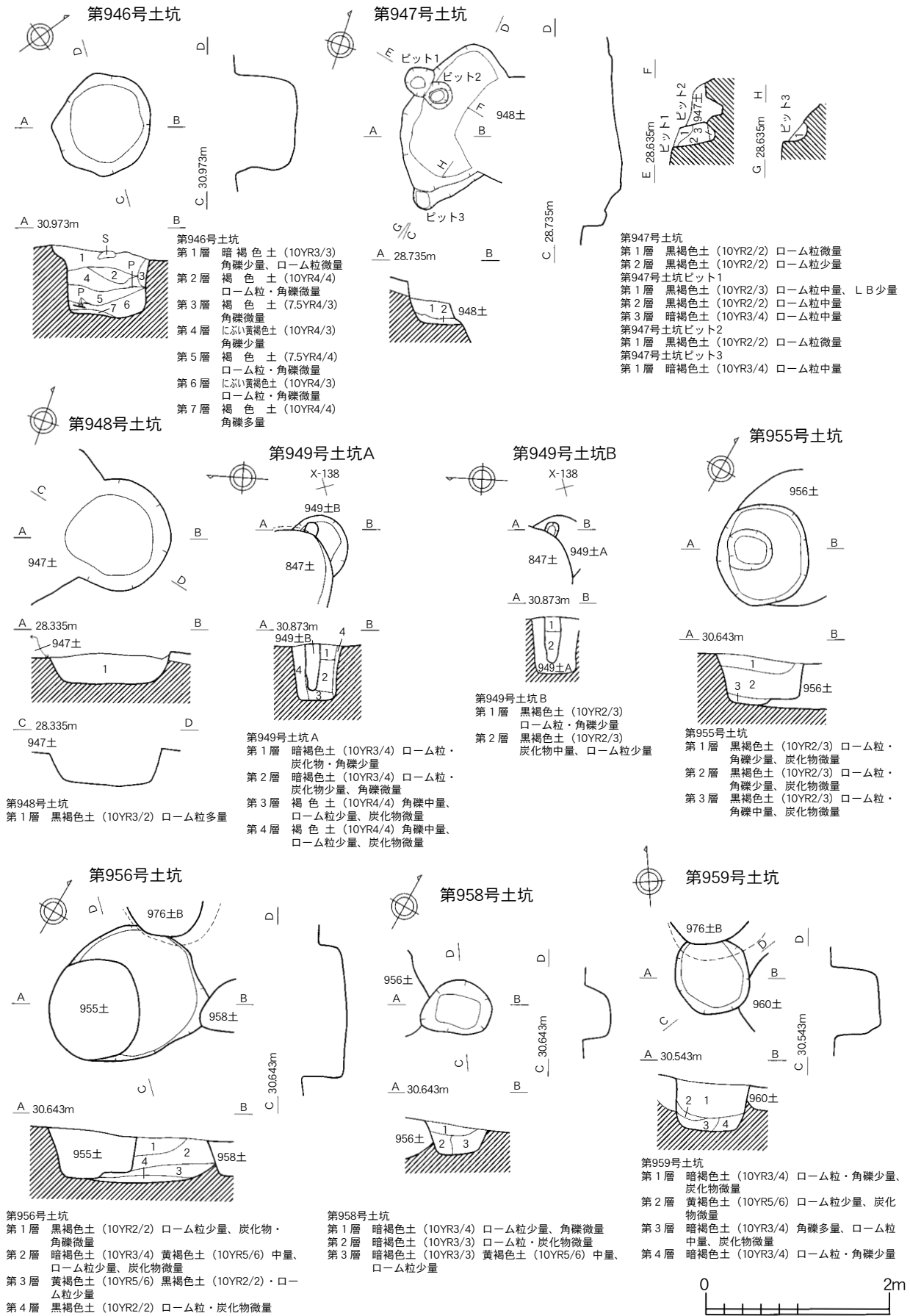
第922号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・角礫少量



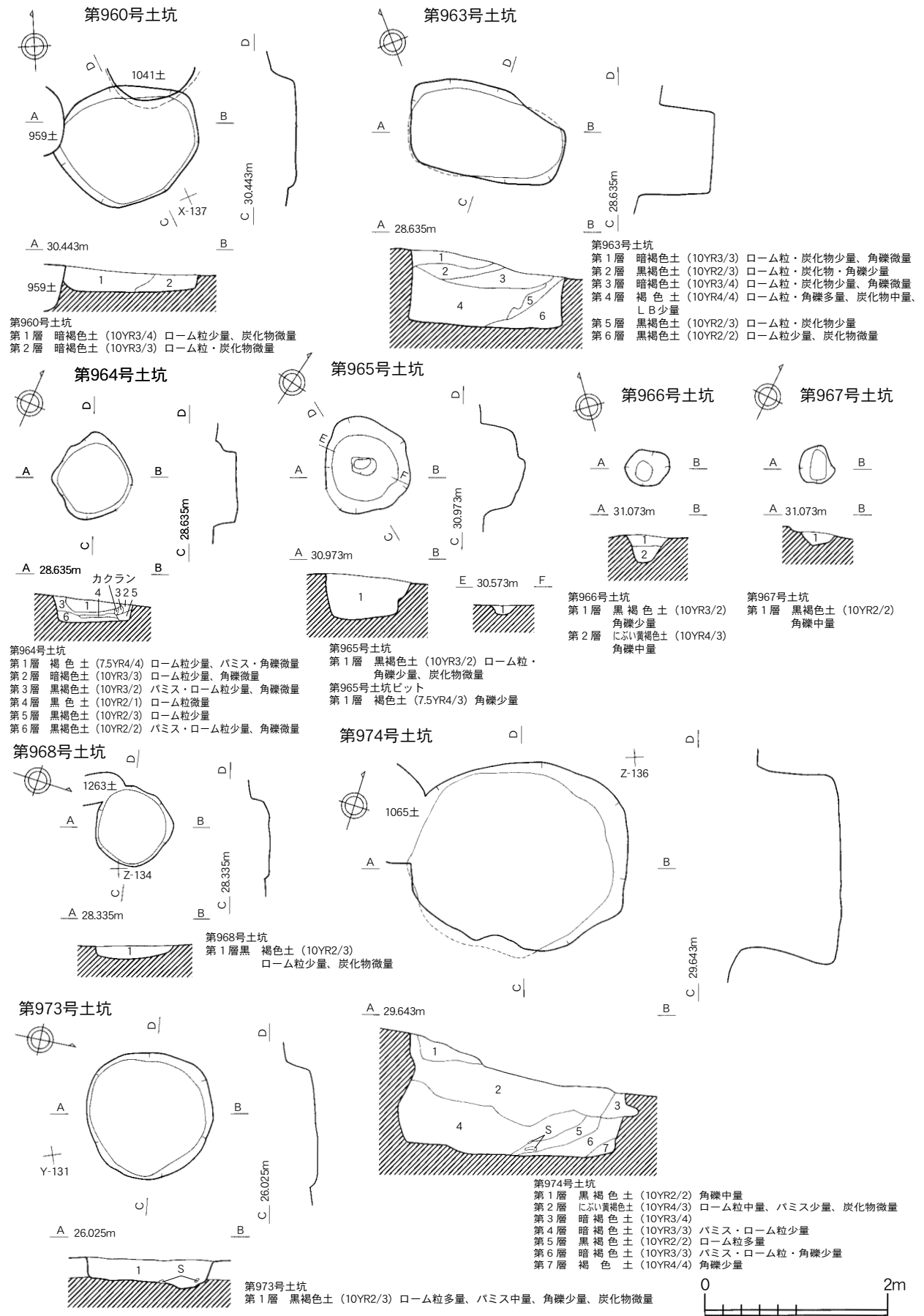
第122図 土坑 (32) (909±・910±・913±・914±・920~922±)



第123図 土坑 (33) (923土・924土・936~938土・945土)

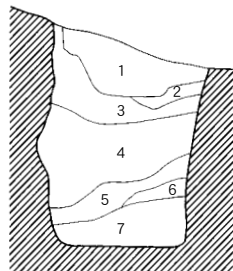
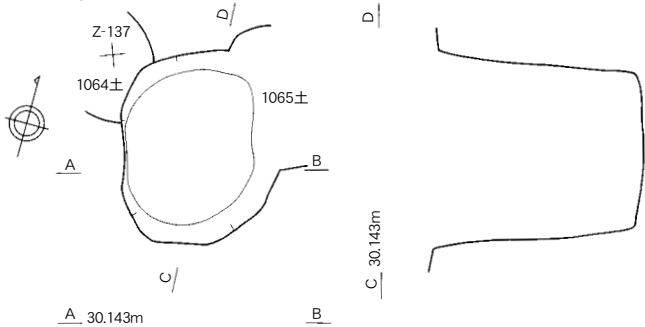


第124図 土坑 (34) (946~948土・949土A・949土B・955土・956土・958土・959土)



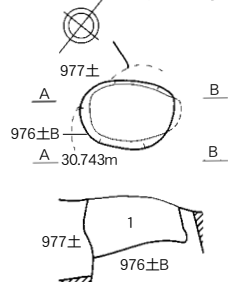
第125図 土坑 (35) (960土・963～968土・973土・974土)

第975号土坑



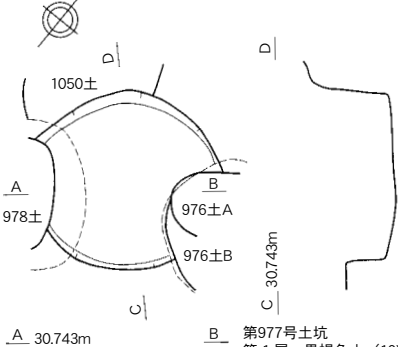
- 第975号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫中量、ローム粒微量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) 角礫微量
 第3層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫少量、ローム粒・炭化物微量
 第4層 褐色土 (7.5YR4/3) 炭化物・角礫少量、パミス・ローム粒微量
 第5層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量、パミス・角礫微量
 第6層 にぶい黄褐色土 (10YR3/4) 角礫少量、ローム粒・炭化物微量
 第7層 褐色土 (10YR4/4) パミス・ローム粒・角礫微量

第976号土坑A



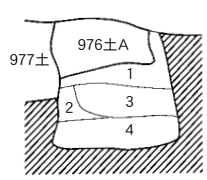
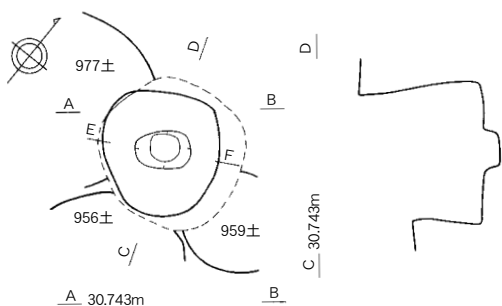
- 第976号土坑A
 第1層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム、炭化物微量

第977号土坑



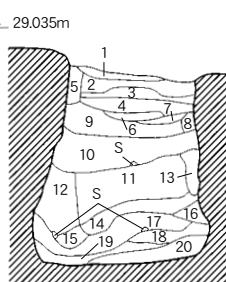
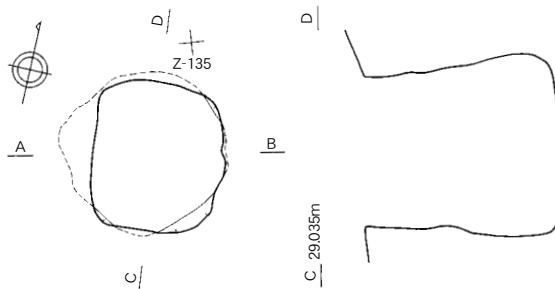
- 第977号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量、炭化物微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物少量
 第4層 黒色土 (10YR1.7/1) 炭化物層、土器多量、ローム粒微量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化物微量

第976号土坑B



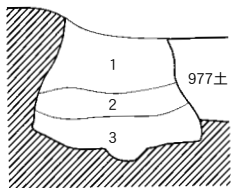
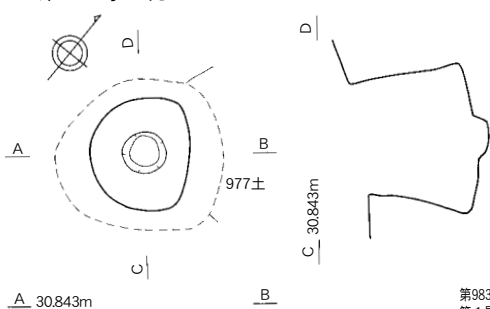
- 第976号土坑B
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量、炭化物・角礫微量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒中量、炭化物少量、角礫微量
 第3層 褐色土 (7.5YR4/4)
 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色土 (10YR5/6)・ローム粒中量、炭化物・角礫少量
 第976号土坑Bピット
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色土 (10YR5/6)・ローム粒中量、炭化物・角礫少量

第983号土坑



- 第983号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/6) 褐色土 (10YR3/4)・角礫少量、ローム粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量、パミス・ローム粒・炭化物微量
 第3層 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土 (10YR3/4)・砂中量、パミス・ローム粒・炭化物微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土 (10YR3/2)・パミス・ローム粒少量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス・ローム粒・炭化物微量
 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量、炭化物少量、パミス微量
 第7層 黒色土 (10YR2/1) 黒褐色土 (10YR2/3) 少量、パミス・ローム粒・炭化物微量
 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) 砂質、角礫少量、ローム粒微量
 第9層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒多量、パミス中量、L B・炭化物微量
 第10層 黒褐色土 (10YR2/3) 黒色土 (10YR2/1)・褐色土 (10YR4/4) 中量、パミス・L B少量、ローム粒・炭化物微量
 第11層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス・ローム粒中量、炭化物少量、L B微量
 第12層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫少量、パミス・ローム粒・炭化物微量
 第13層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス少量、ローム粒・炭化物微量
 第14層 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/2)・ローム粒少量、パミス・炭化物微量
 第15層 黒褐色土 (10YR2/3) パミス・ローム粒・炭化物・角礫微量
 第16層 暗褐色土 (10YR3/4) パミス・ローム粒・炭化物微量
 第17層 褐色土 (10YR4/4) パミス・角礫少量、ローム粒微量
 第18層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス・L B・ローム粒・炭化物微量
 第19層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、パミス・炭化物微量
 第20層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物・角礫微量

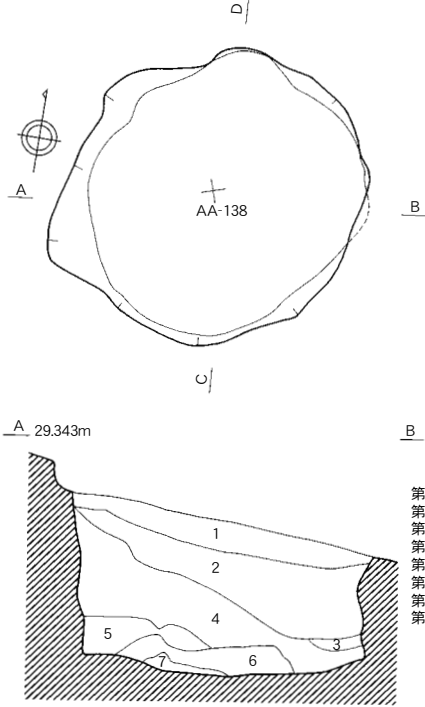
第978号土坑



- 第978号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物・角礫少量
 第2層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒中量、暗褐色土 (10YR3/4)・炭化物少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色土 (10YR5/6)・ローム粒少量、炭化物微量

第126図 土坑 (36) (975土・976土A・976土B・977土・978土・983土)

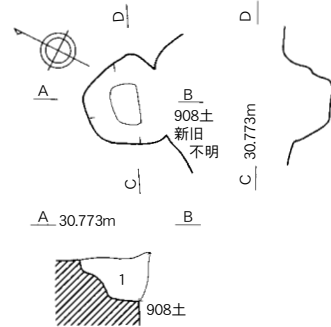
第984号土坑



第984号土坑

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、角礫少量、炭化物微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/6) □-△粒中量、炭化物・角礫少量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物多量、□-△粒微量
- 第4層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、角礫少量、炭化物微量
- 第5層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) L B多量、炭化物微量
- 第6層 褐色土 (10YR4/6) 角礫少量、□-△粒・炭化物微量
- 第7層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒・炭化物微量

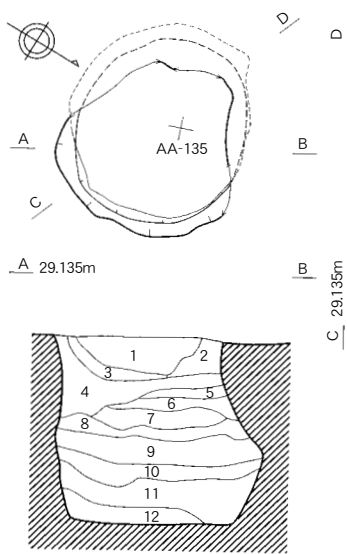
第986号土坑



第986号土坑

第1層 褐色土 (7.5YR4/3) 角礫中量

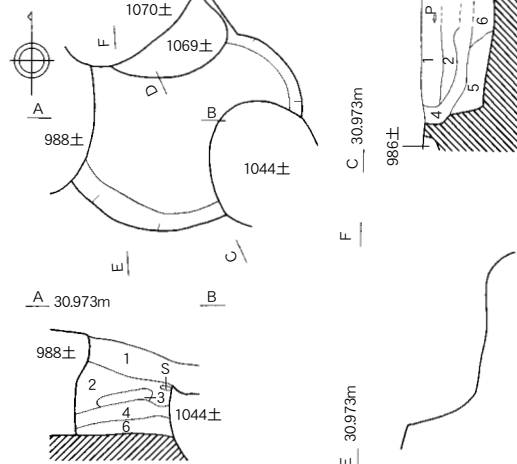
第985号土坑



第985号土坑

- 第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、炭化物微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) L B多量、□-△粒・炭化物微量
- 第3層 黒褐色土 (10YR3/2) □-△粒中量、褐色土 (10YR4/4)・炭化物少量
- 第4層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・炭化物微量
- 第5層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒微量
- 第6層 褐色土 (10YR4/6) □-△粒微量
- 第7層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、炭化物微量
- 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒・炭化物少量
- 第9層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒少量、バミス・炭化物微量
- 第10層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、□-△粒・炭化物微量
- 第11層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量、炭化物微量
- 第12層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、バミス・炭化物微量

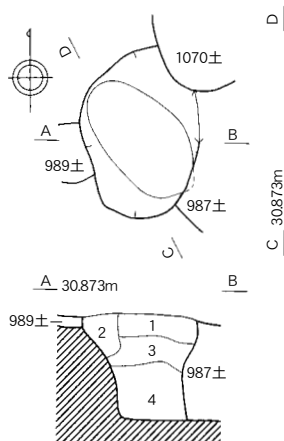
第987号土坑



第987号土坑

- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫微量
- 第2層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・角礫少量、炭化物微量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) L B・角礫少量
- 第4層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) □-△粒・炭化物微量
- 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量、□-△粒・炭化物微量
- 第6層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、炭化物微量

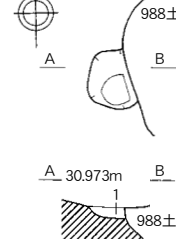
第988号土坑



第988号土坑

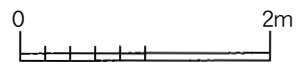
- 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量、□-△粒微量
- 第2層 黒褐色土 (10YR3/1) 角礫少量
- 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量
- 第4層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫多量

第989号土坑



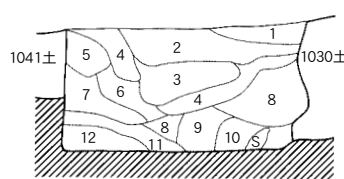
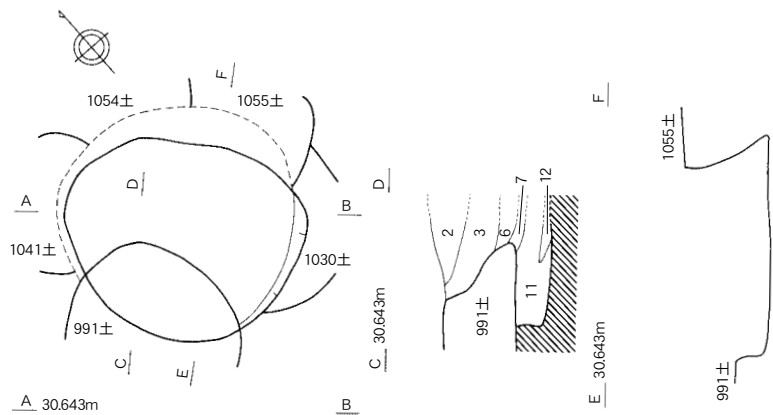
第989号土坑

第1層 暗褐色土 (10YR3/3)



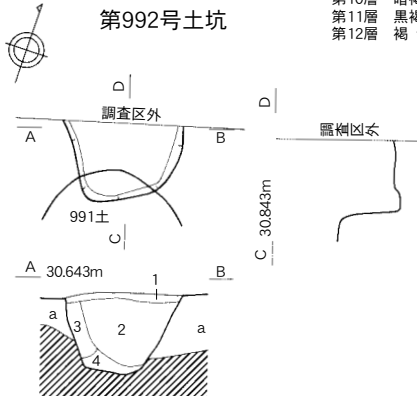
第127図 土坑 (37) (984~989土)

第990号土坑



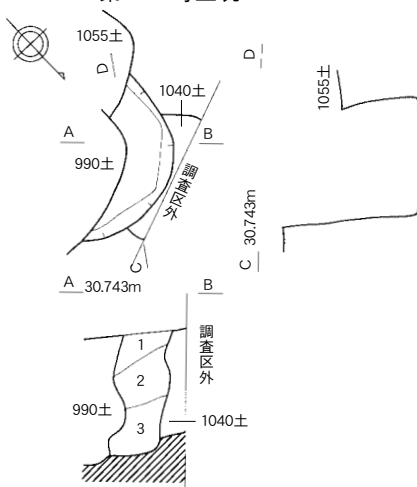
- 第990号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・角礫少量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/6) L B・角礫中量、炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 黒色土 (10YR2/1) 中量、ローム粒・角礫少量、炭化物微量
 - 第4層 黒色土 (10YR2/1) 明褐色土 (7.5YR5/8)・ローム粒・角礫少量
 - 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第6層 黒褐色土 (10YR2/3) L B少量、ローム粒・炭化物・角礫微量
 - 第7層 褐色土 (10YR4/6) L B・ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第8層 明褐色土 (7.5YR5/8) ローム粒・角礫中量、L B少量
 - 第9層 黄褐色土 (10YR5/8) ローム、炭化物・角礫微量
 - 第10層 暗褐色土 (10YR3/3) L B・ローム粒・炭化物少量
 - 第11層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第12層 褐色土 (10YR4/6) L B中量、ローム粒・炭化物微量

第992号土坑



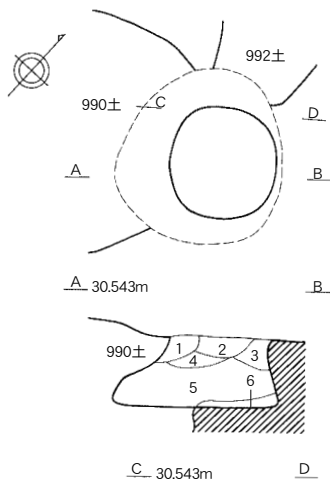
- 第992号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒中量、炭化物微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量、炭化物・角礫少量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第4層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・炭化物・角礫微量

第1030号土坑



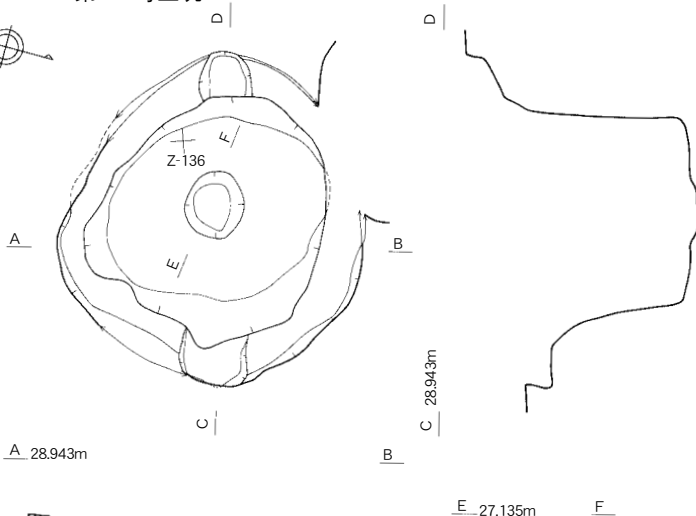
- 第1030号土坑
- 第1層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) L B中量、ローム粒・炭化物少量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) L B中量、ローム粒・炭化物微量

第991号土坑



- 第991号土坑
- 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物少量、L B微量
 - 第3層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物微量
 - 第4層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒・炭化物少量
 - 第5層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物・角礫少量
 - 第6層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・炭化物少量、角礫微量

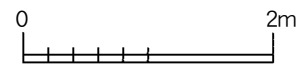
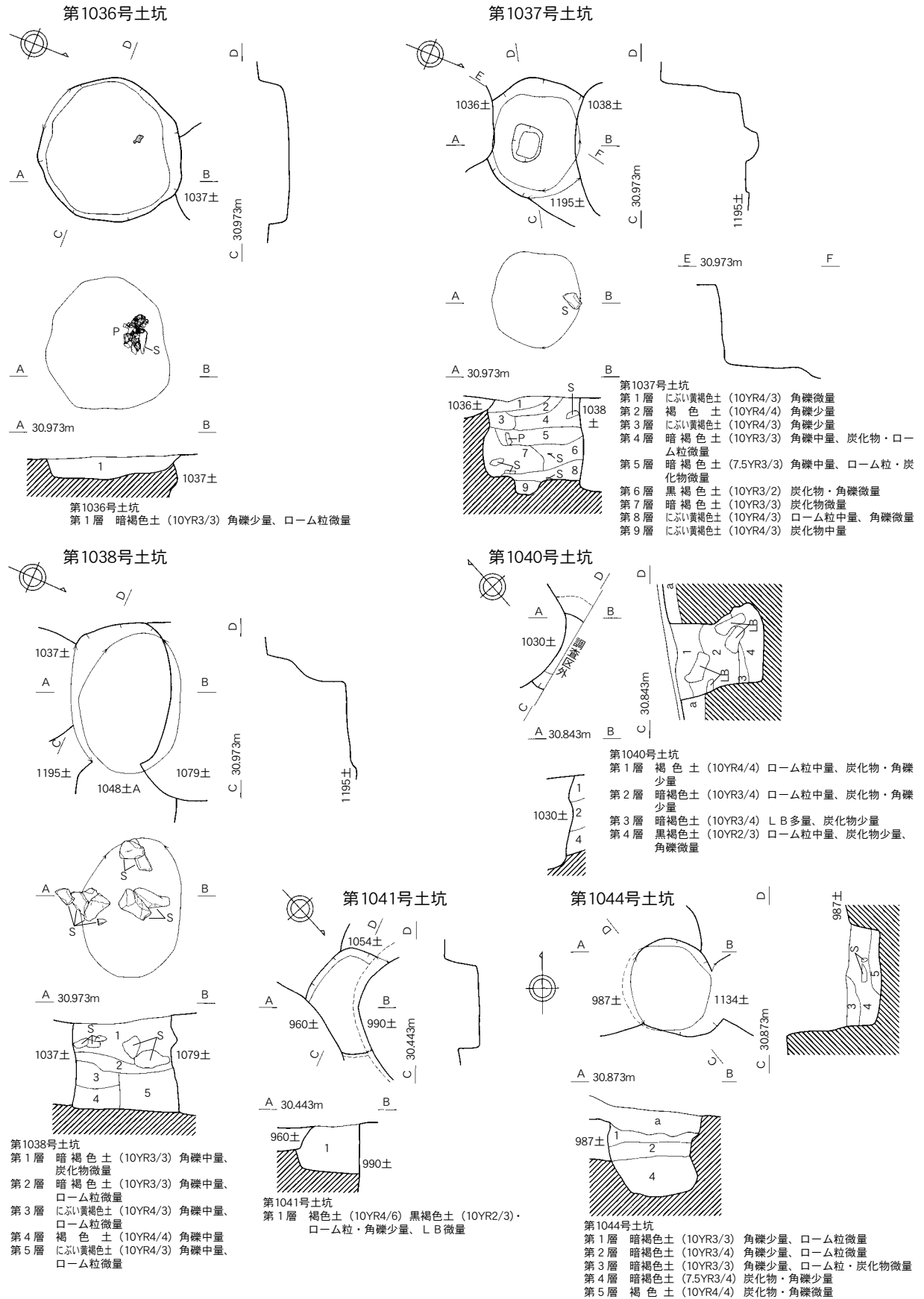
第999号土坑



- 第999号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量、パミス微量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/3) パミス・角礫少量
 - 第4層 灰褐色土 (10YR4/3) 角礫中量、パミス微量
- 第999号土坑ピット
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・炭化物・角礫微量

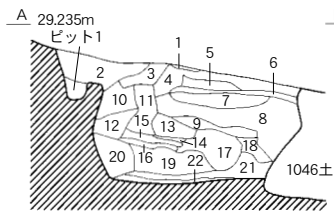
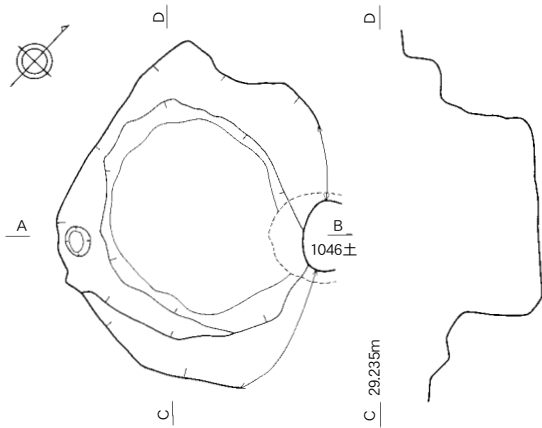


第128図 土坑 (38) (990~992土・999土・1030土)



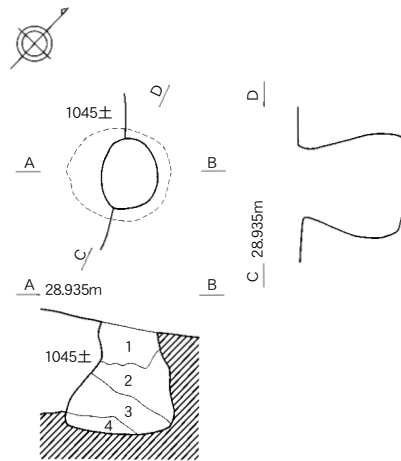
第129図 土坑 (39) (1036~1038土・1040土・1041土・1044土)

第1045号土坑



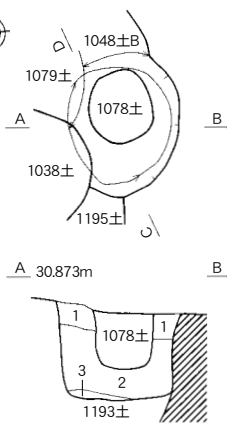
- 第1045号土坑
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
 - 第2層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、ローム粒・炭化物微量
 - 第3層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒・角礫少量
 - 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物微量
 - 第5層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒多量
 - 第6層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒中量
 - 第7層 褐色土 (10YR4/6) ・暗褐色土 (10YR3/4) 混合土
 - 第8層 暗褐色土 (10YR3/4) L B ・ローム粒少量、角礫微量
 - 第9層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
 - 第10層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
 - 第11層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 暗褐色土 (10YR3/4) ・黒褐色土 (10YR2/3) 少量、ローム粒微量
 - 第12層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) L B ・ローム粒少量
 - 第13層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量
 - 第14層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
 - 第15層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム
 - 第16層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黒褐色土 (10YR2/3) 中量
 - 第17層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量、L B 少量
 - 第18層 暗褐色土 (10YR3/4) L B ・ローム粒中量
 - 第19層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム、黒褐色土 (10YR2/3) 少量
 - 第20層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒少量
 - 第21層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量、黒褐色土 (10YR2/3) 少量
 - 第22層 褐色土 (10YR4/4) L B ・ローム粒中量、暗褐色土 (10YR3/4) ・黒褐色土 (10YR2/3) 少量

第1046号土坑



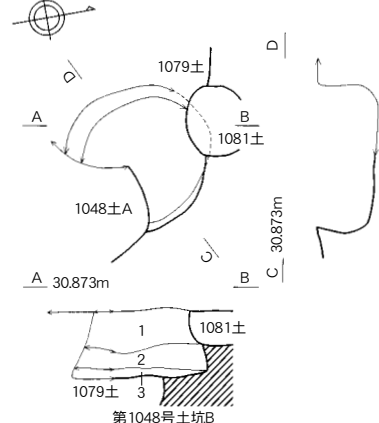
- 第1046号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、炭化物微量
 - 第4層 褐色土 (10YR4/4) 黒褐色土 (10YR2/3) ・ローム粒少量

第1048号土坑A



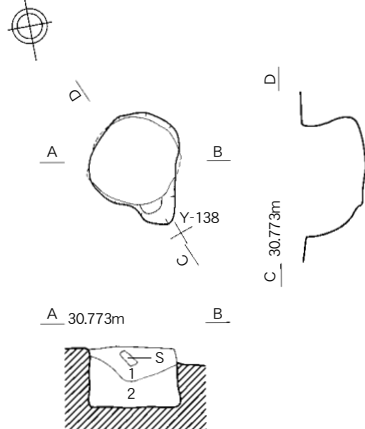
- 第1048号土坑A
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、ローム粒微量
 - 第2層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫中量、ローム粒・炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫微量

第1048号土坑B



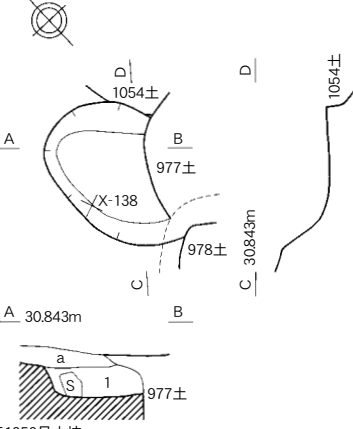
- 第1048号土坑B
- 第1層 明褐色土 (7.5YR5/6) 角礫中量
 - 第2層 明褐色土 (7.5YR5/6) 角礫少量
 - 第3層 褐色土 (7.5YR4/3) 角礫微量

第1049号土坑



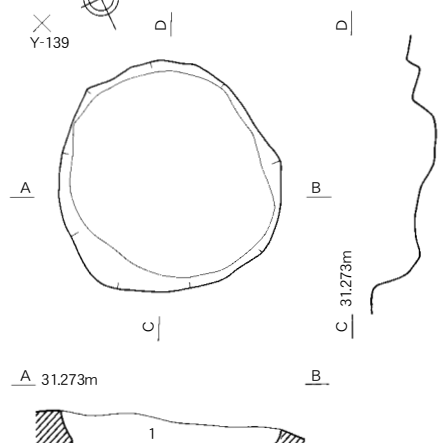
- 第1049号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒微量
 - 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・角礫微量

第1050号土坑



- 第1050号土坑
- 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物少量

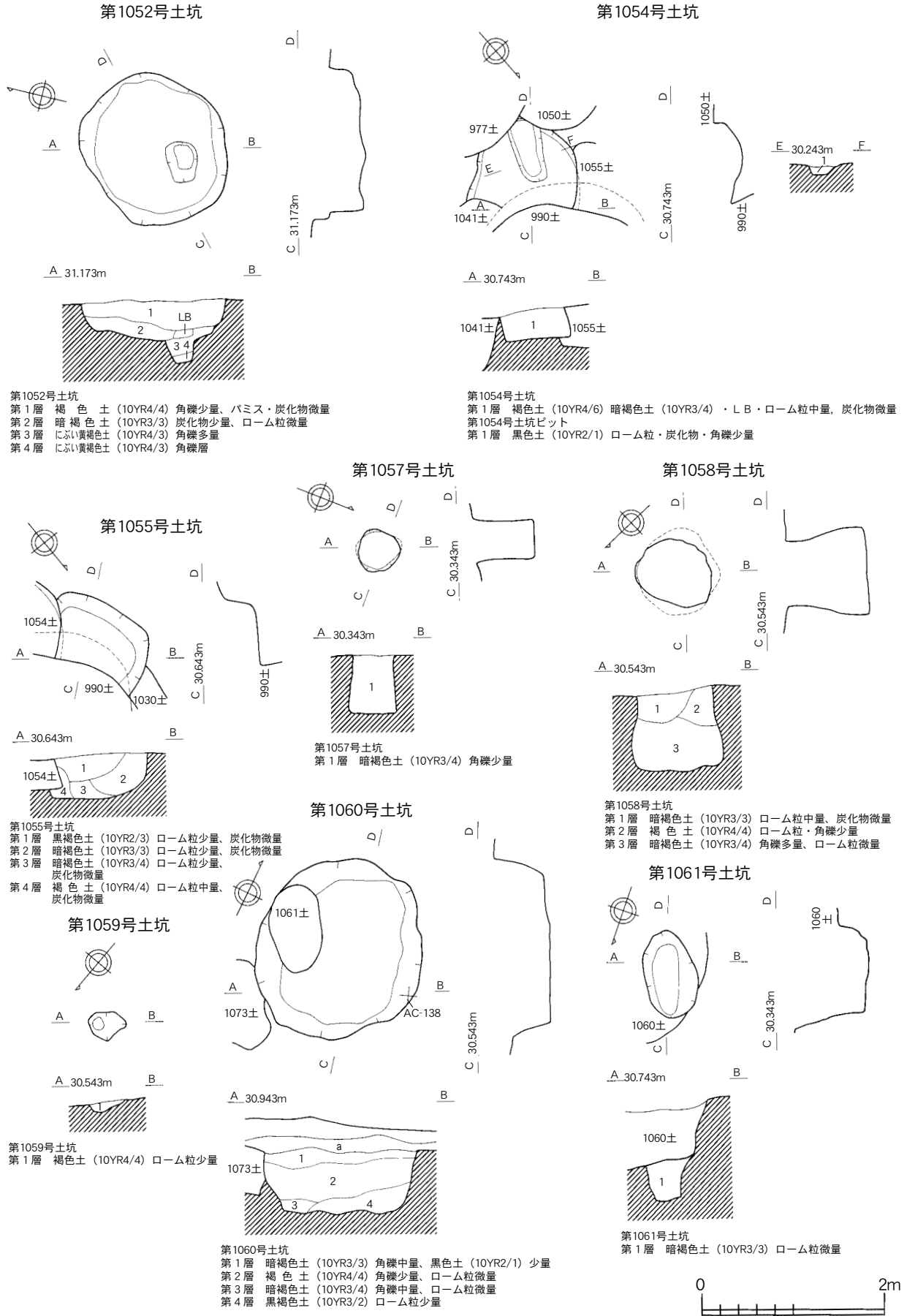
第1051号土坑



- 第1051号土坑
- 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量

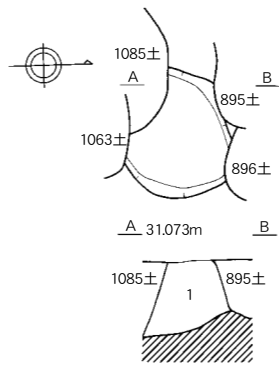


第130図 土坑 (40) (1045土・1046土・1048土A・1048土B・1049～1051土)



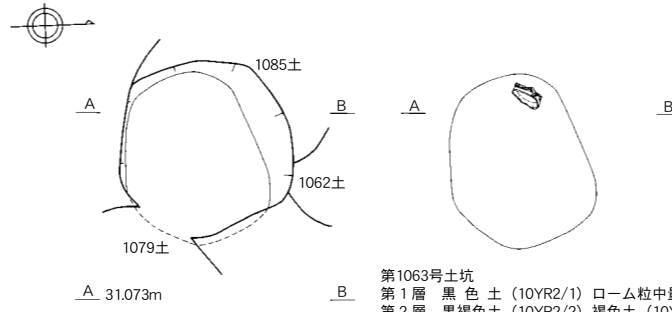
第131図 土坑 (41) (1052土・1054土・1055土・1057~1061土)

第1062号土坑



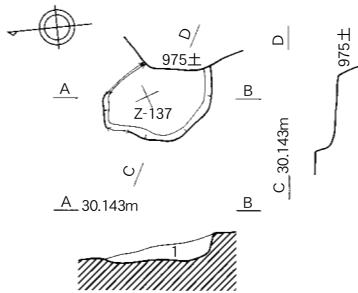
第1062号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫中量、LB・
口一ム粒・炭化物微量

第1063号土坑



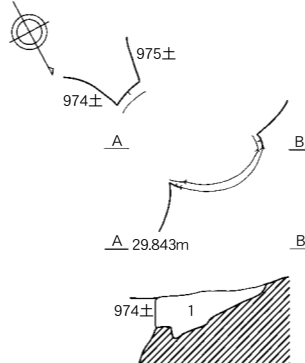
第1063号土坑
第1層 黒色土 (10YR2/1) 口一ム粒中量、LB・角礫少量、炭化物微量
第2層 黒褐色土 (10YR2/2) 褐色土 (10YR4/4) 中量、口一ム粒少量、
炭化物・角礫微量
第3層 黒色土 (10YR2/1) 口一ム粒・炭化物・角礫微量
第4層 暗褐色土 (10YR3/4) L B・口一ム粒・炭化物・角礫少量

第1064号土坑



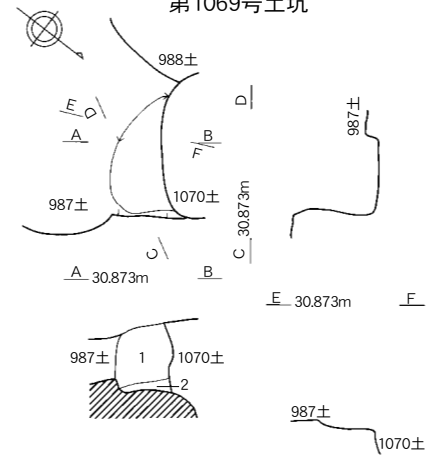
第1064号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 口一ム粒・角礫微量

第1065号土坑



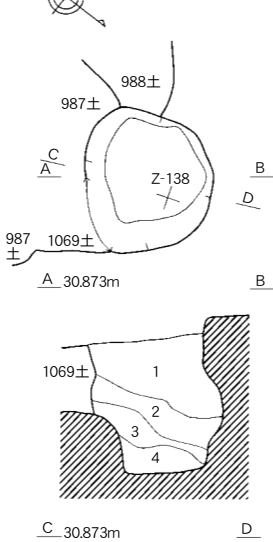
第1065号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、パミス微量

第1069号土坑



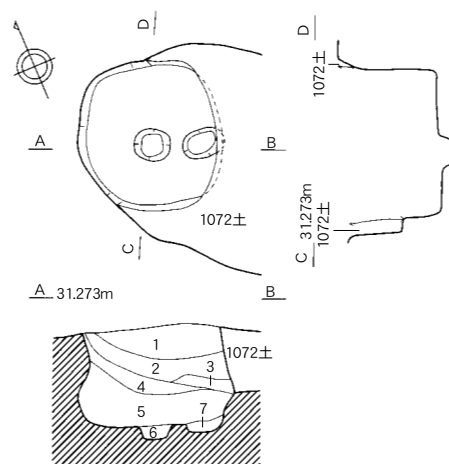
第1069号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量、炭化物微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫微量

第1070号土坑



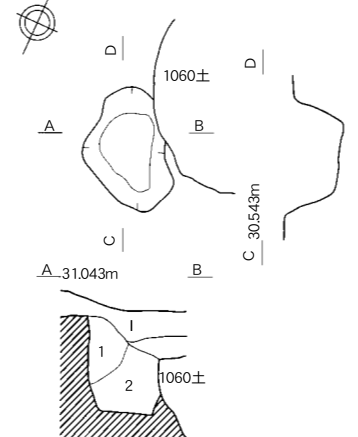
第1070号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫中量、口一ム粒・炭化物微量
第2層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫微量
第3層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量
第4層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫中量

第1071号土坑

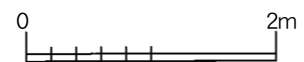


第1071号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 口一ム粒中量、炭化物・角礫少量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物中量、口一ム粒・角礫少量
第3層 褐色土 (10YR4/4) 口一ム粒少量、炭化物・角礫微量
第4層 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫少量、
口一ム粒・炭化物微量
第5層 暗褐色土 (10YR3/4) L B・口一ム粒・角礫少量、炭化
物微量
第6層 暗褐色土 (10YR3/4) 口一ム粒・炭化物微量
第7層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 口一ム粒・炭化物微量

第1073号土坑

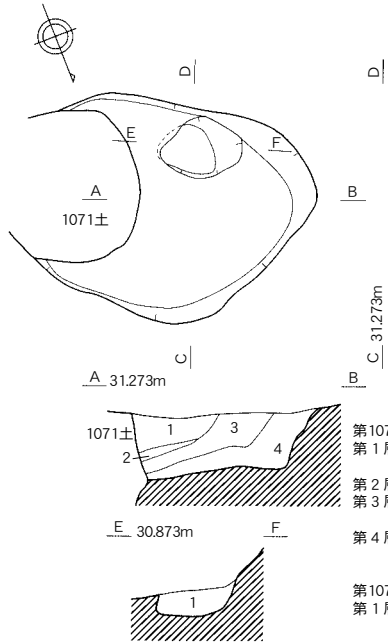


第1073号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫多量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 角礫多量、口一ム粒少量



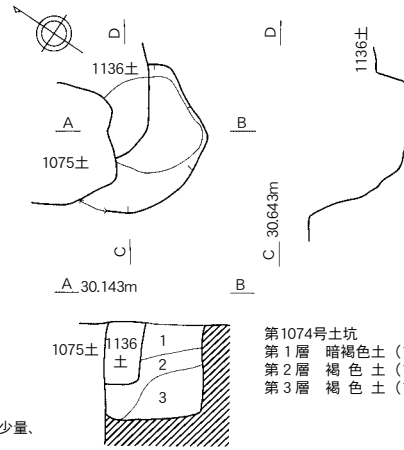
第132図 土坑 (42) (1062~1065土・1069~1071土・1073土)

第1072号土坑



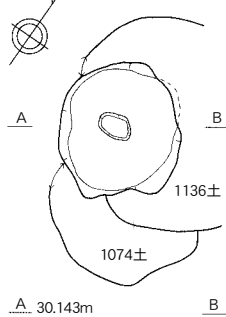
第1072号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
 第2層 黄橙色土 (10YR7/8) ローム
 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒・角礫中量、炭化物微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫中量、黒色土 (10YR2/1) ・L B・少量、炭化物微量
 第1072号土坑ピット
 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量、ローム粒微量

第1074号土坑



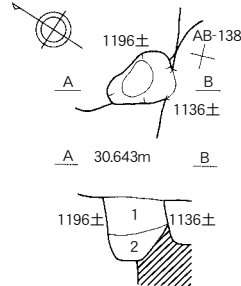
第1074号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物・角礫少量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) 角礫中量
 第3層 褐色土 (10YR4/6) 砂質、角礫少量

第1075号土坑



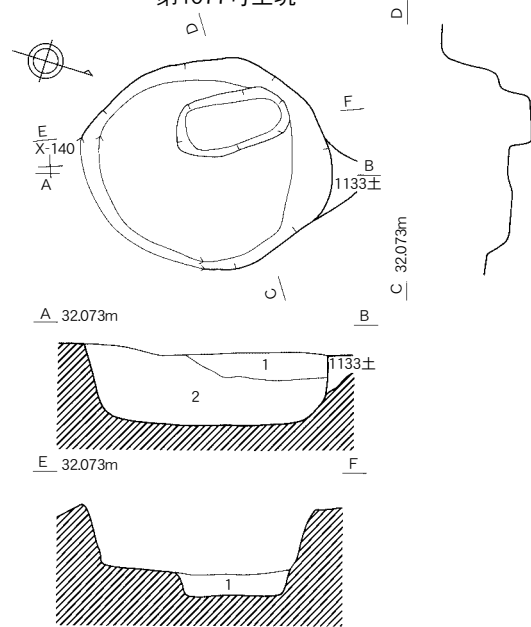
第1075号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、ローム粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物・角礫少量
 第3層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・炭化物少量
 第4層 褐色土 (10YR4/6) 砂質、角礫少量
 第5層 黒褐色土 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/4) 少量
 第6層 褐色土 (10YR4/6) 角礫少量
 第7層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒微量

第1076号土坑



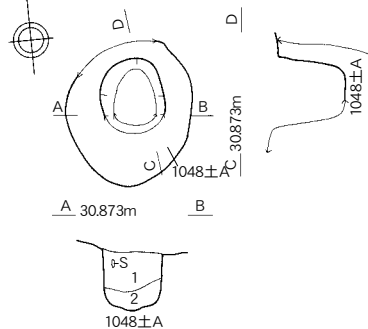
第1076号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量
 第2層 黒色土 (10YR2/1) 角礫少量

第1077号土坑



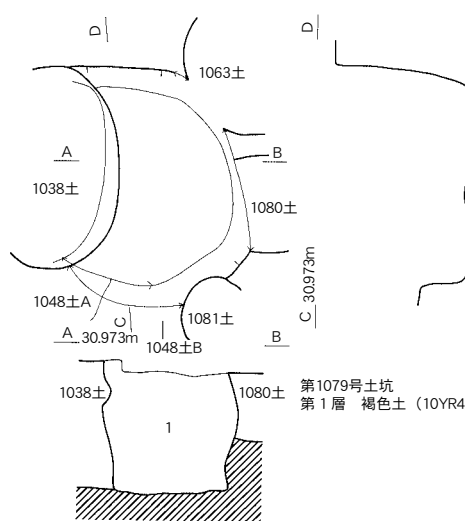
第1077号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・角礫少量、炭化物微量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒中量、角礫少量、炭化物微量
 第1077号土坑ピット
 第1層 褐色土 (10YR4/6) 角礫中量、ローム粒少量、炭化物微量

第1078号土坑

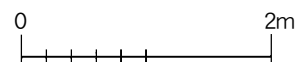


第1078号土坑
 第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒・角礫少量、炭化物微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・炭化物・角礫微量

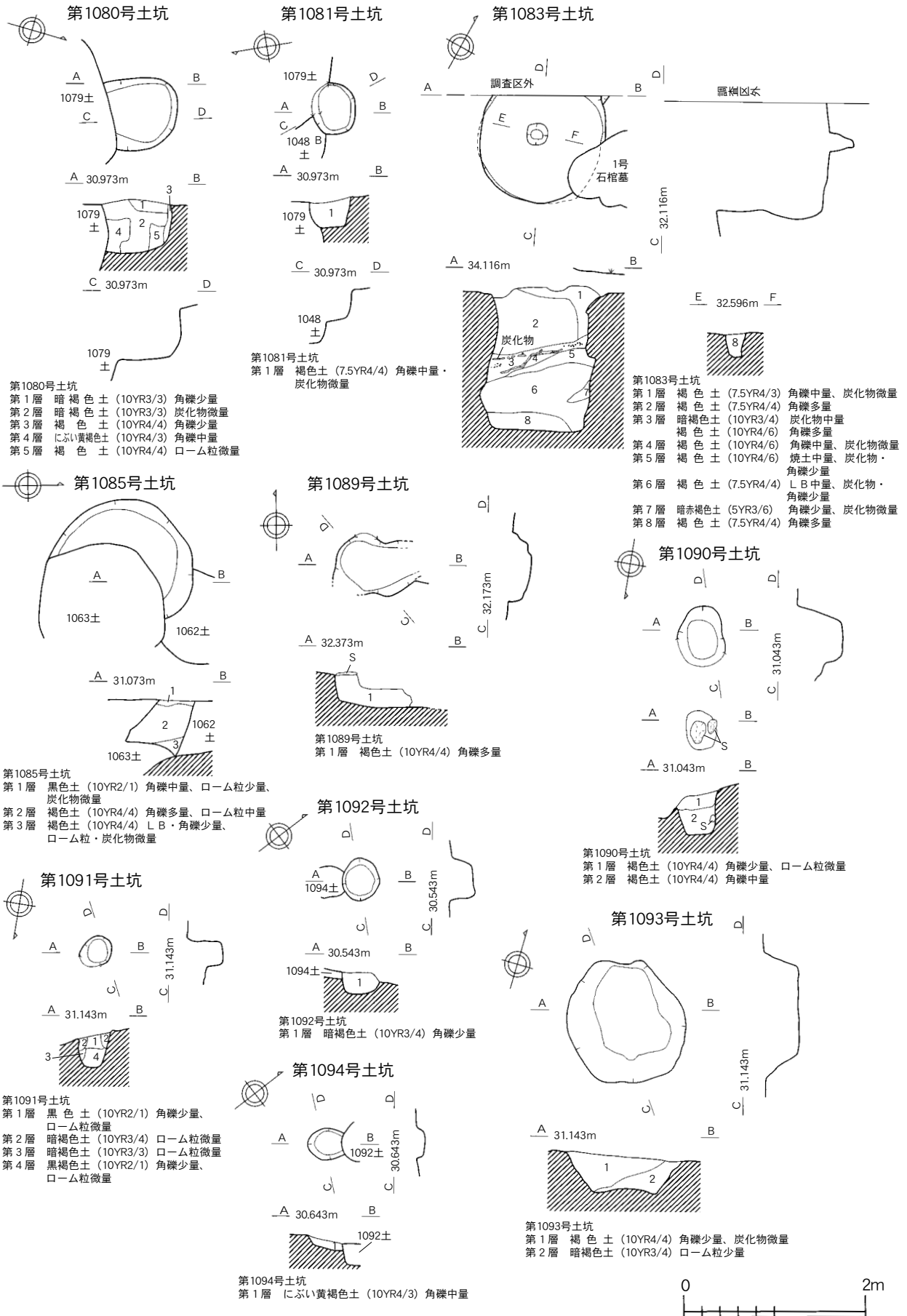
第1079号土坑



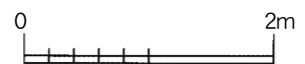
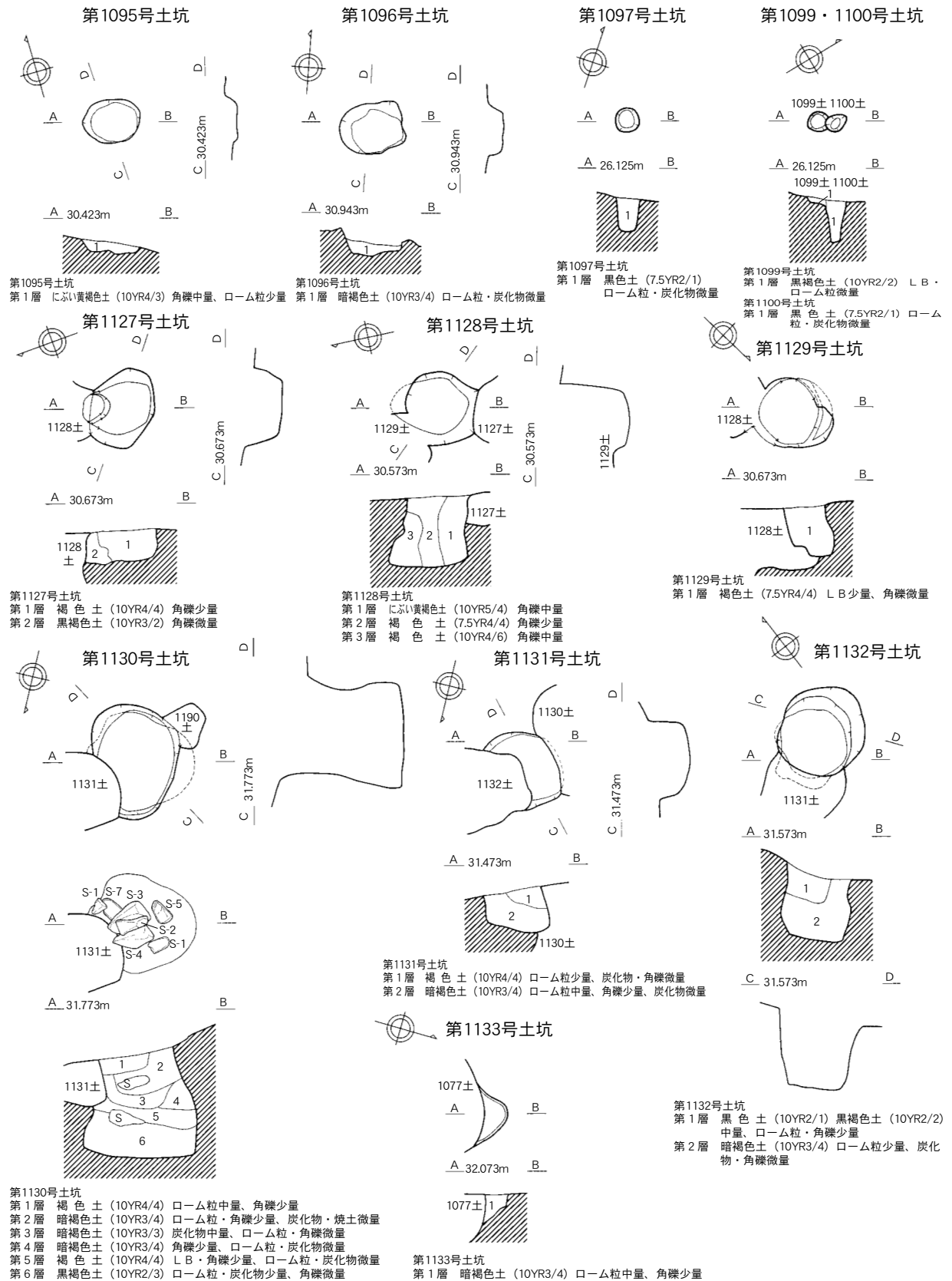
第1079号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) 角礫少量、ローム粒・炭化物微量



第133図 土坑 (43) (1072土・1074~1079土)

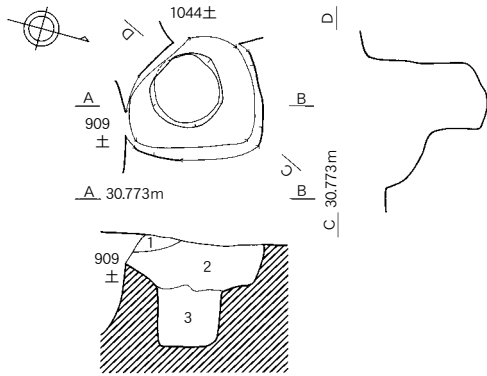


第134図 土坑 (44) (1080土・1081土・1083土・1085土・1089～1094土)



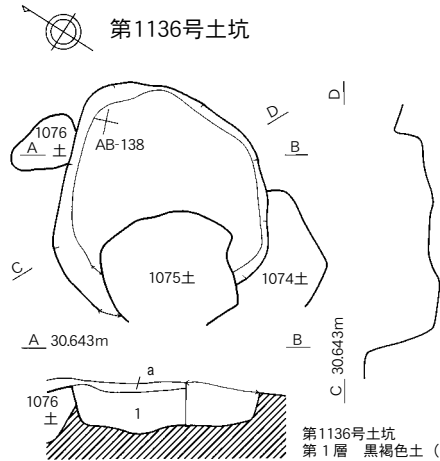
第135図 土坑 (45) (1095~1097土・1099土・1100土・1127~1133土)

第1134号土坑



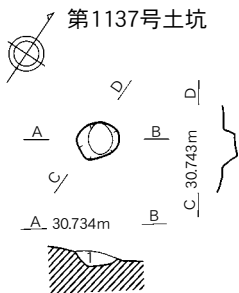
第1134号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) □-△粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、L B少量、炭化物微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫微量

第1136号土坑



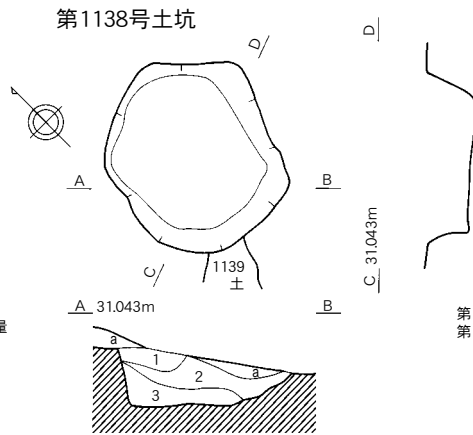
第1136号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量

第1137号土坑



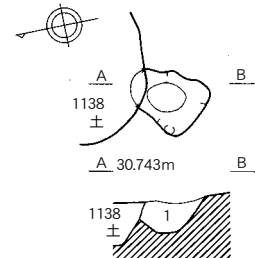
第1137号土坑
 第1層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) □-△粒・炭化物微量

第1138号土坑



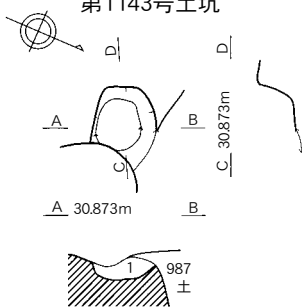
第1138号土坑
 第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・角礫微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫少量、□-△粒微量
 第3層 黒褐色土 (10YR2/1) 角礫少量、□-△粒微量

第1139号土坑



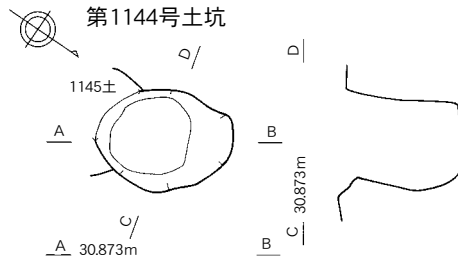
第1139号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫少量、□-△粒微量

第1143号土坑



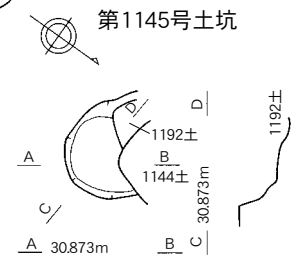
第1143号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫中量

第1144号土坑



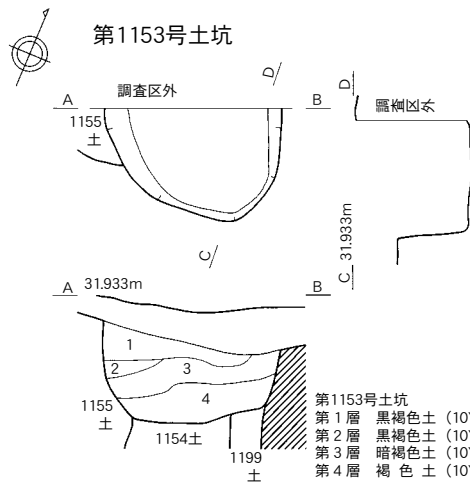
第1144号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR3/2) 角礫少量
 第2層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量、炭化物微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫少量、炭化物微量

第1145号土坑



第1145号土坑
 第1層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫少量

第1153号土坑

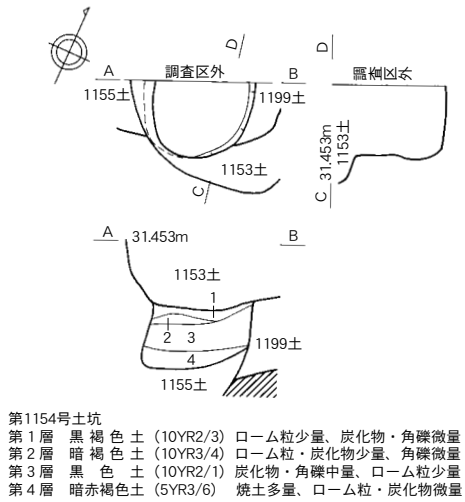


第1153号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒・角礫中量、炭化物微量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) □-△粒少量、炭化物・角礫微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/4) 角礫多量、□-△粒微量
 第4層 褐色土 (10YR4/4) 角礫多量、□-△粒少量、炭化物微量

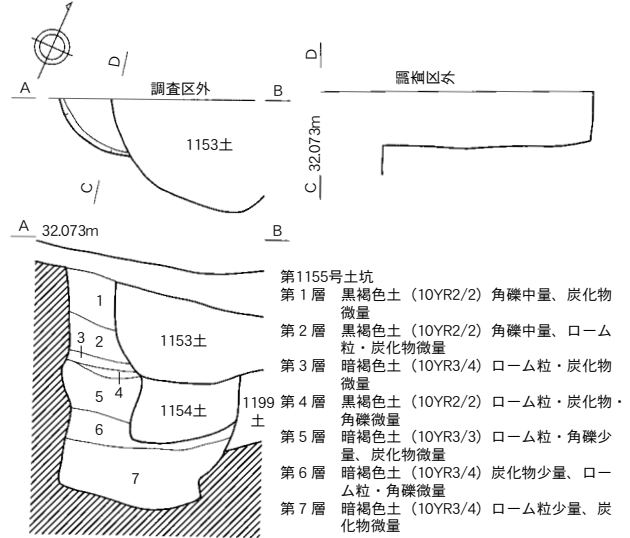
第136図 土坑 (46) (1134土・1136~1139土・1143~1145土・1153土)



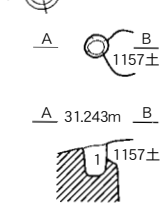
第1154号土坑



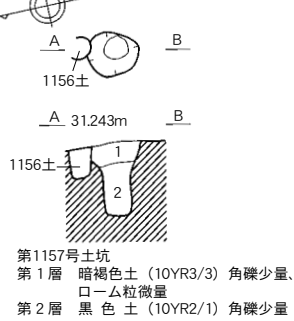
第1155号土坑



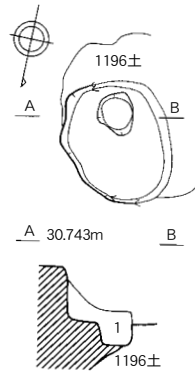
第1156号土坑



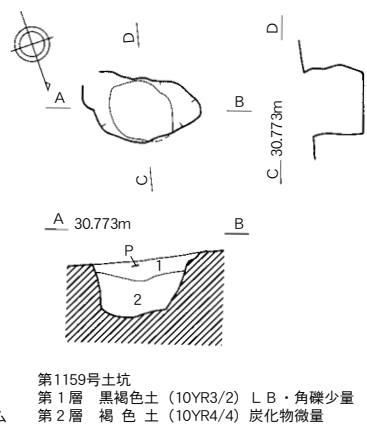
第1157号土坑



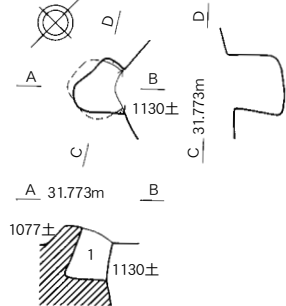
第1158号土坑



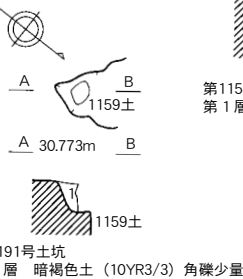
第1159号土坑



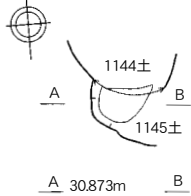
第1190号土坑



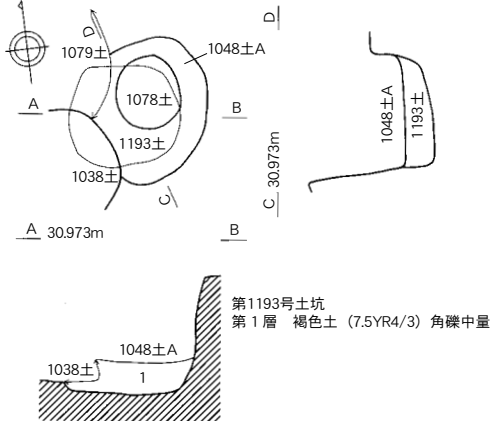
第1191号土坑



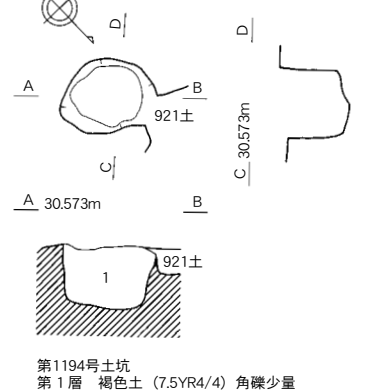
第1192号土坑



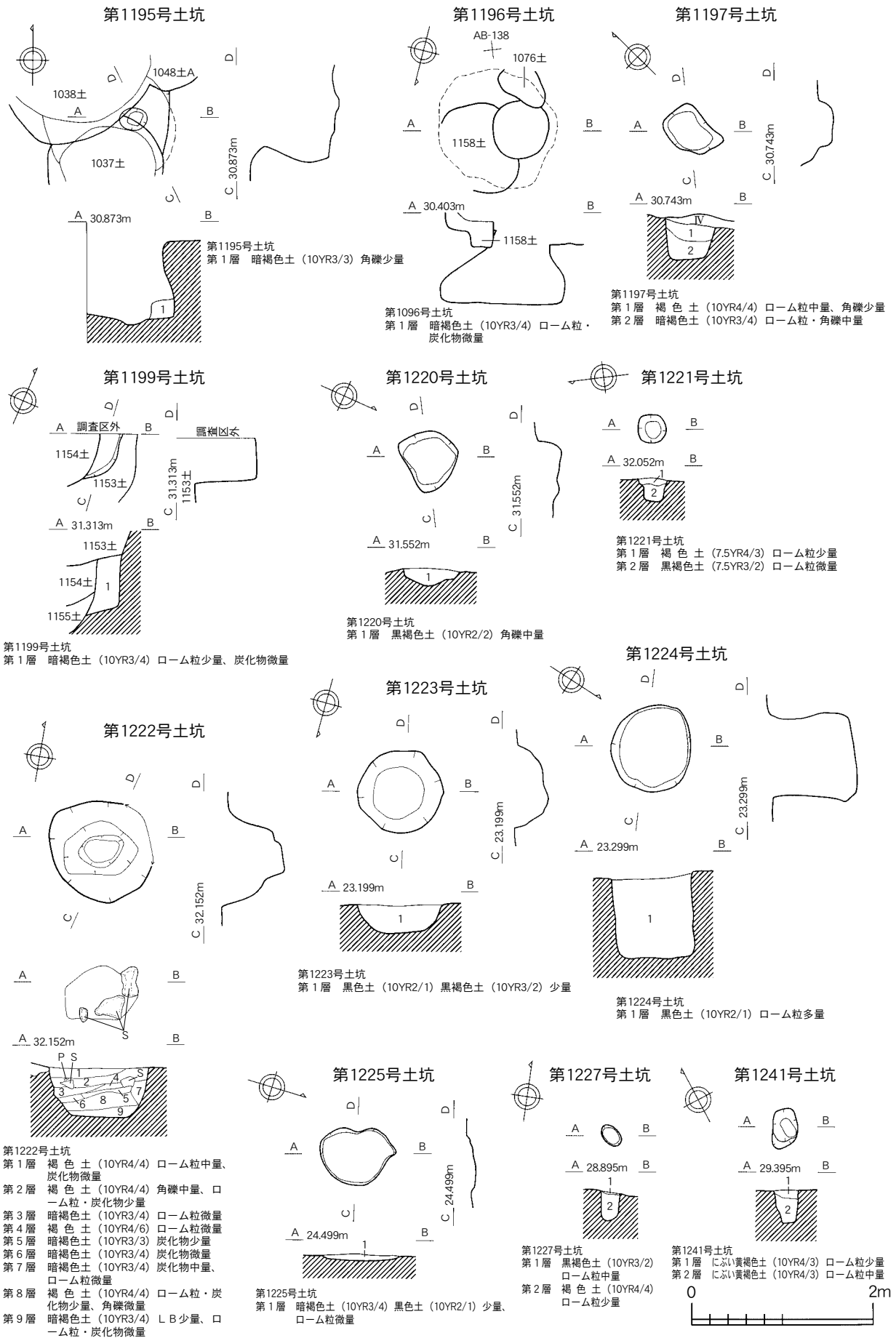
第1193号土坑



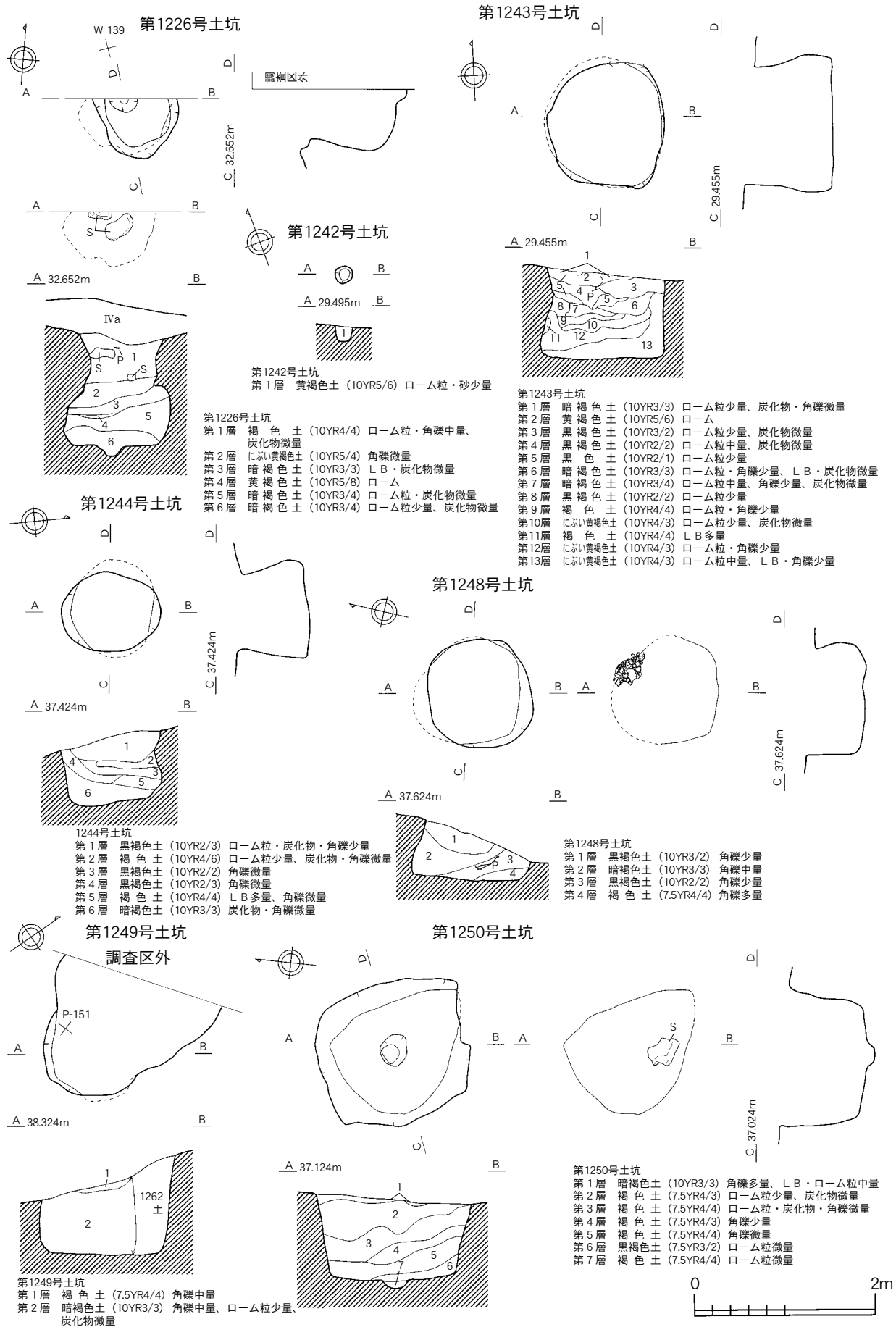
第1194号土坑



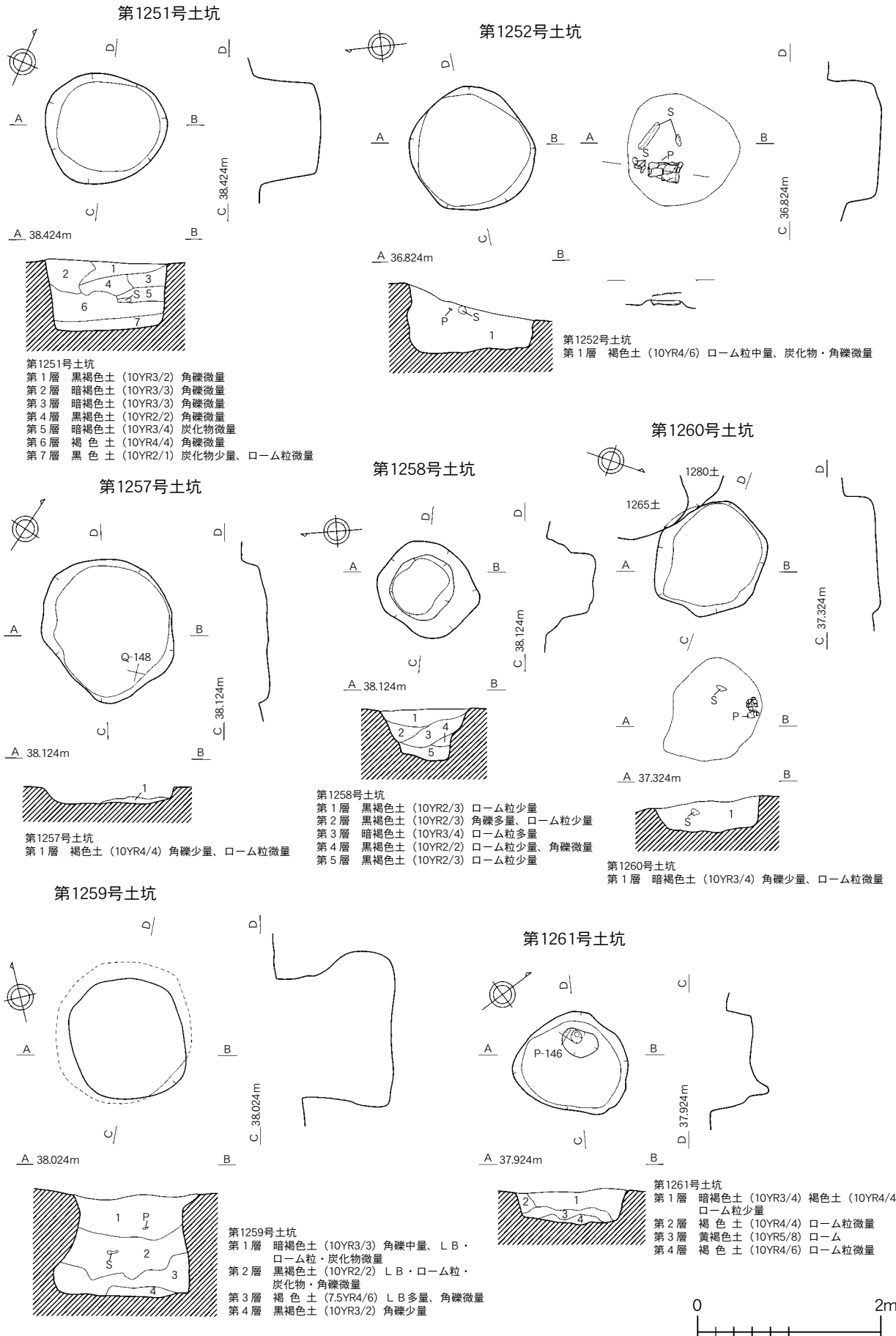
第137図 土坑 (47) (1154~1159土・1190~1194土)



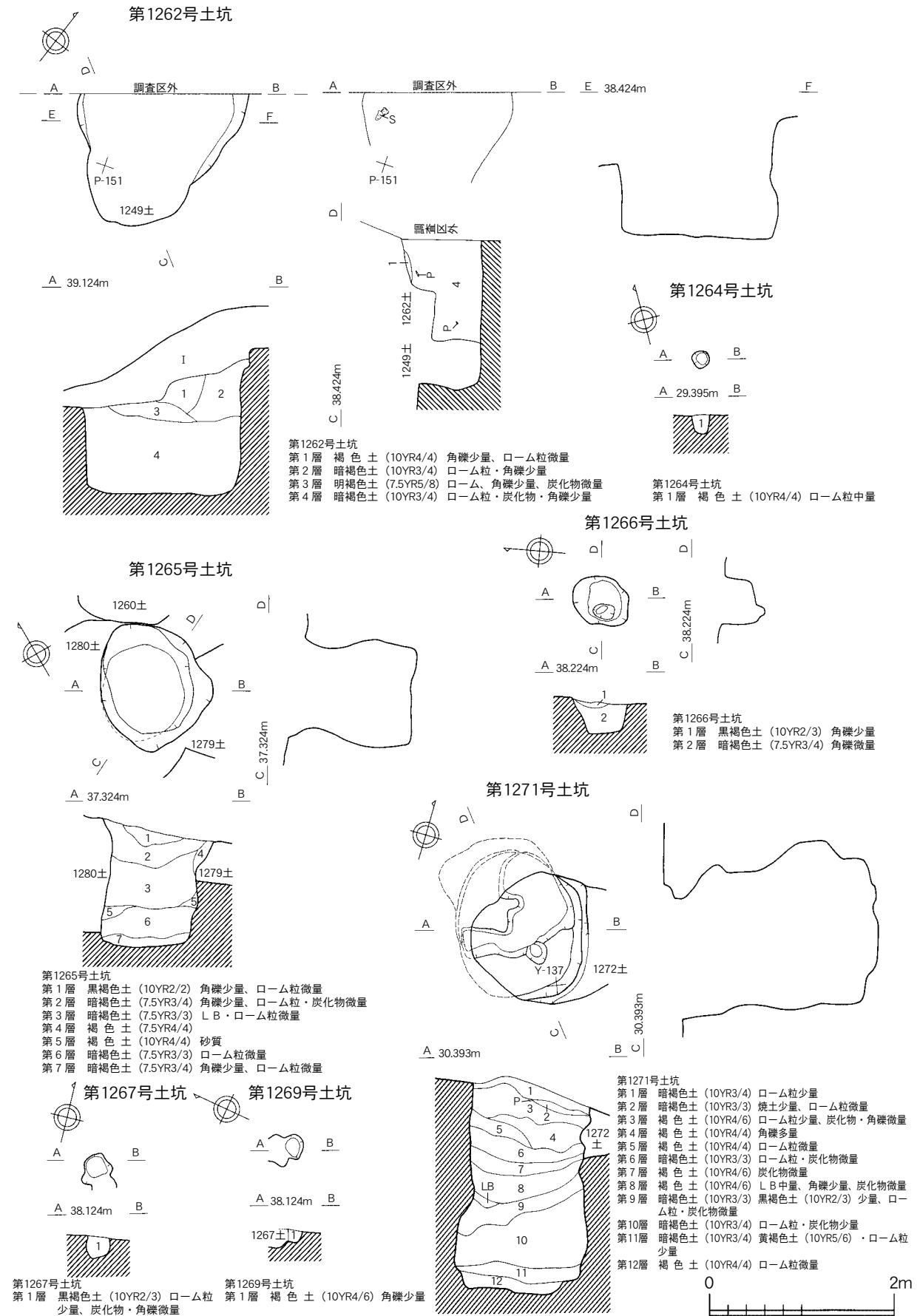
第138図 土坑 (48) (1195~1197土・1199土・1220~1225土・1227土・1241土)



第139図 土坑 (49) (1226土・1242土~1244土・1248~1250土)

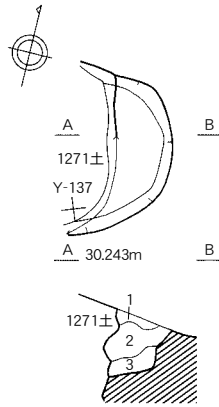


第140図 土坑 (50) (1251土・1252土・1257~1261土)



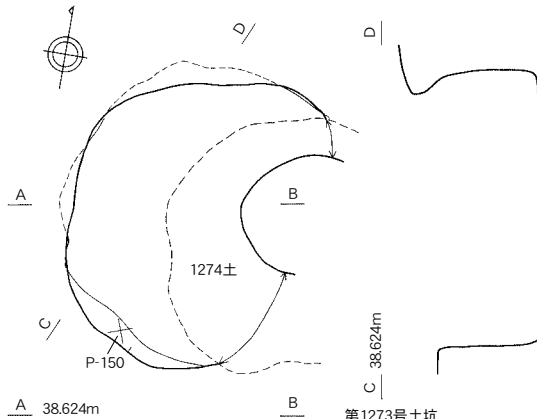
第141図 土坑 (51) (1262土・1264~1267土・1269土・1271土)

第1272号土坑



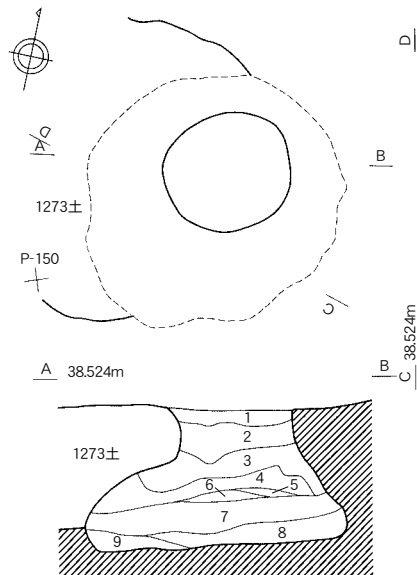
第1272号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒・角礫少量、炭化物微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) パミス・ローム粒・炭化物微量

第1273号土坑



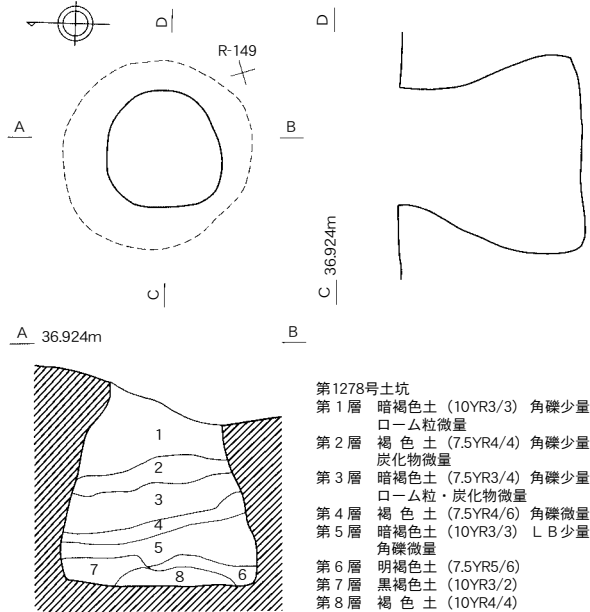
第1273号土坑
 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫少量、ローム粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・角礫少量
 第3層 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・角礫微量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫中量

第1274号土坑



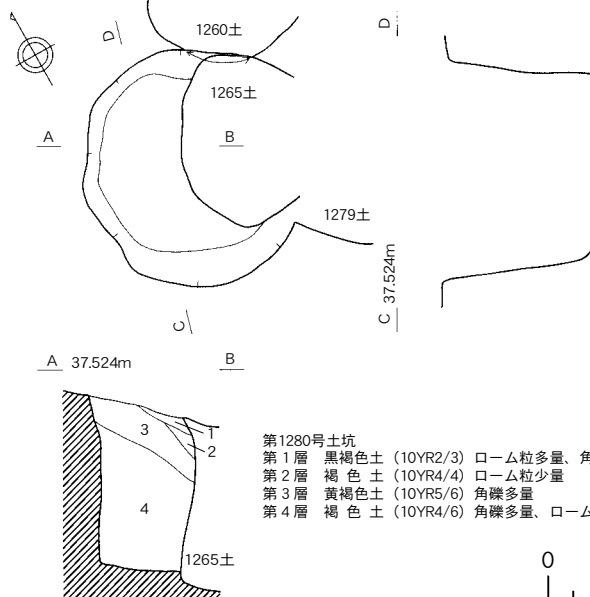
第1274号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量
 第3層 にい黄褐色土 (10YR4/3) L B・ローム粒少量、炭化物微量
 第4層 にい黄褐色土 (10YR5/4) 炭化物微量
 第5層 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒微量
 第6層 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒・炭化物微量
 第7層 褐色土 (7.5YR4/3) 黒褐色土 (10YR2/2)・角礫少量、ローム粒・炭化物微量
 第8層 褐色土 (10YR4/6) 角礫中量
 第9層 にい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒・角礫少量

第1278号土坑



第1278号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫少量、ローム粒微量
 第2層 褐色土 (7.5YR4/4) 角礫少量、炭化物微量
 第3層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 角礫少量、ローム粒・炭化物微量
 第4層 褐色土 (7.5YR4/6) 角礫微量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) L B少量、角礫微量
 第6層 明褐色土 (7.5YR5/6)
 第7層 黒褐色土 (10YR3/2)
 第8層 褐色土 (10YR4/4)

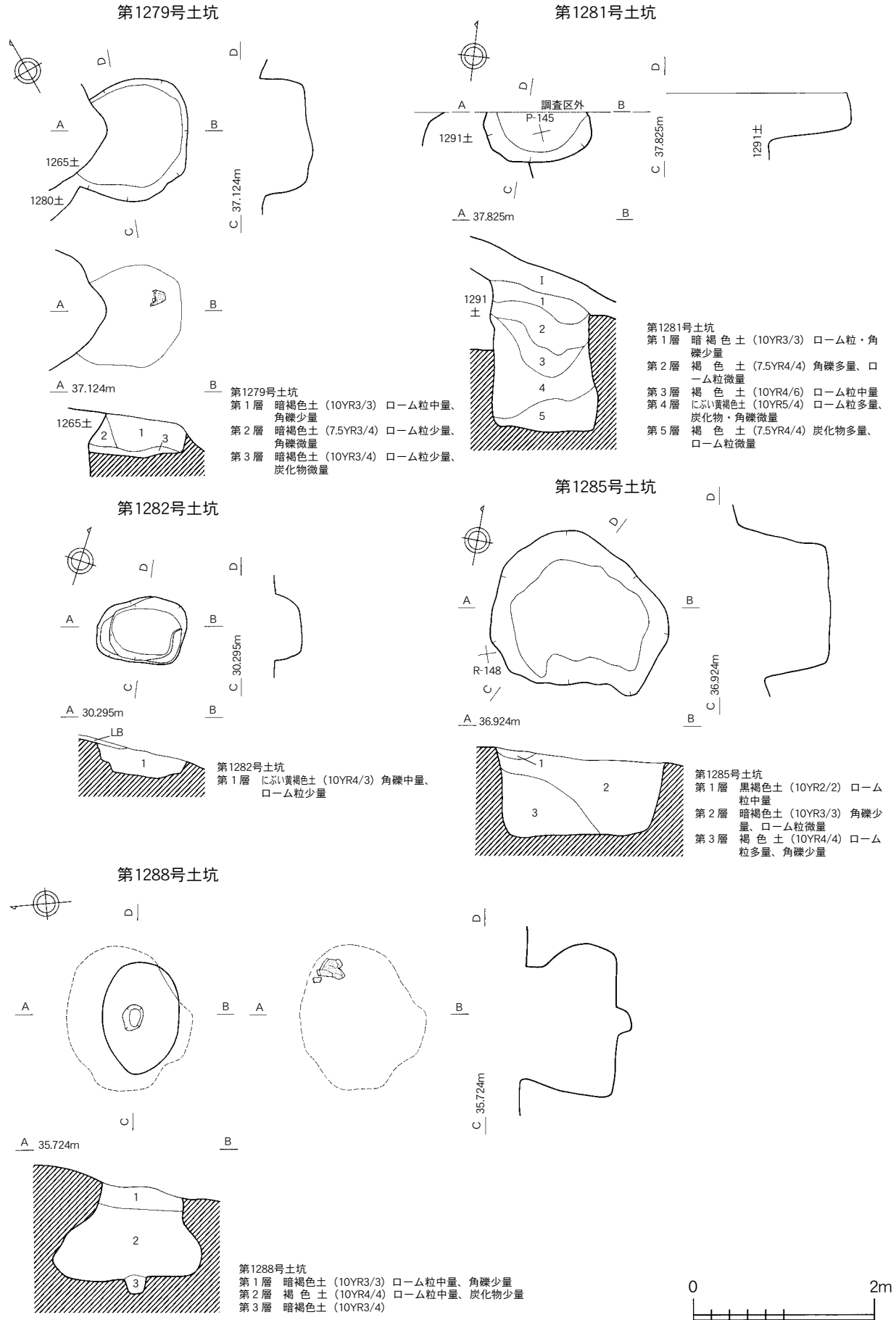
第1280号土坑



第1280号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒多量、角礫少量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量
 第3層 黄褐色土 (10YR5/6) 角礫多量
 第4層 褐色土 (10YR4/6) 角礫多量、ローム粒少量

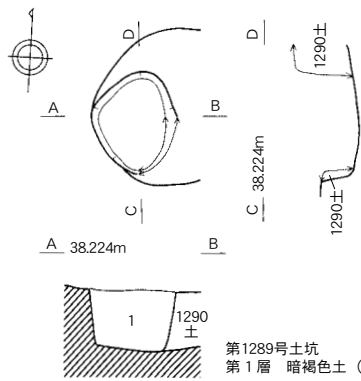


第142図 土坑 (52) (1272~1274土・1278土・1280土)

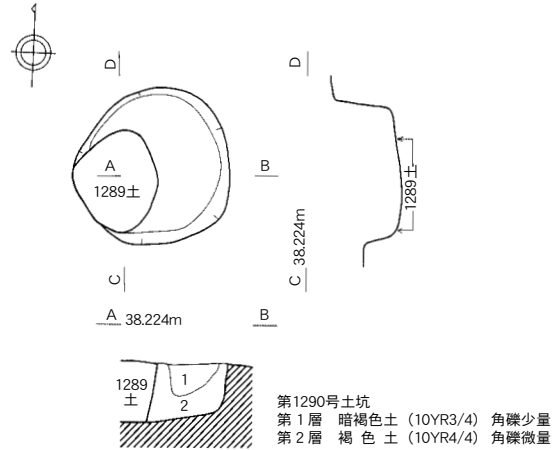


第143図 土坑 (53) (1279土・1281土・1282土・1285土・1288土)

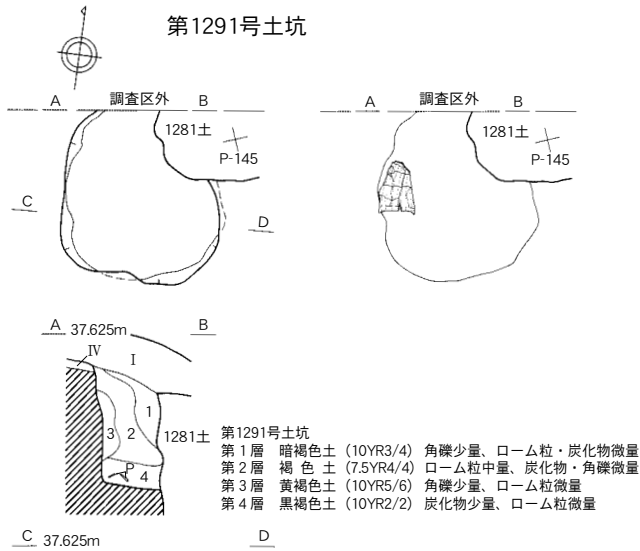
第1289号土坑



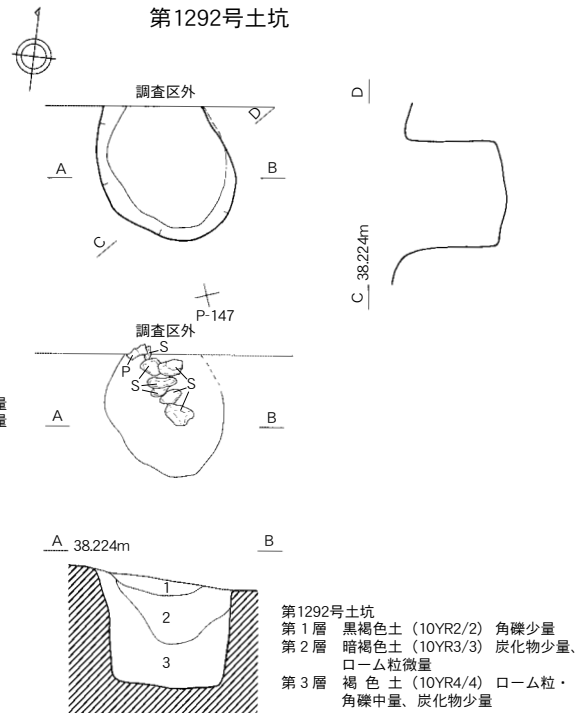
第1290号土坑



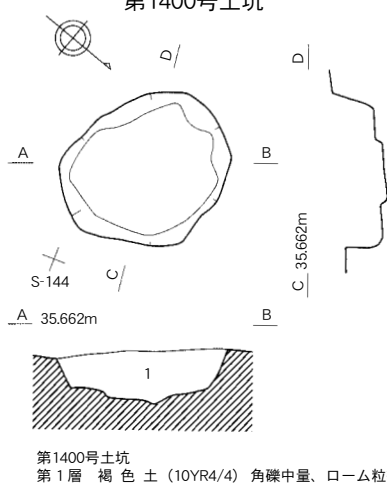
第1291号土坑



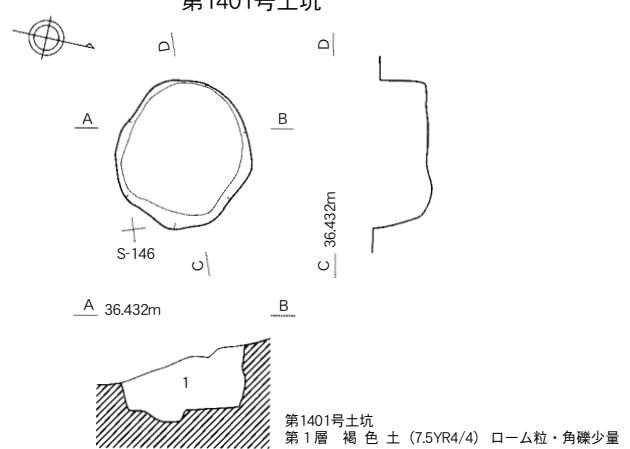
第1292号土坑



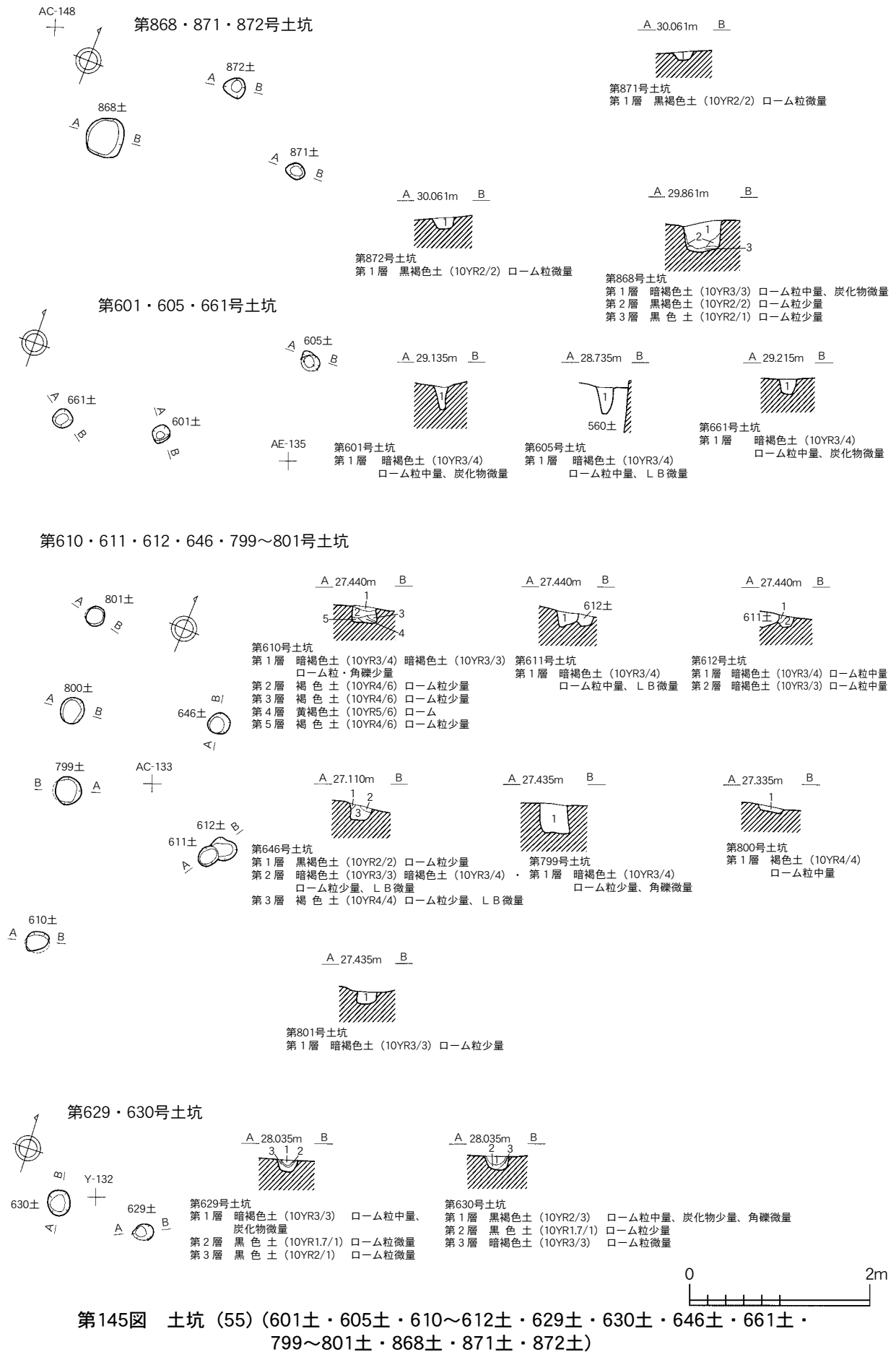
第1400号土坑



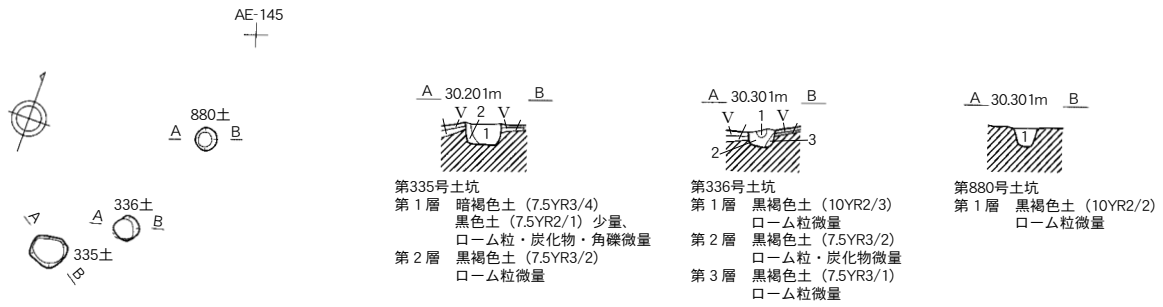
第1401号土坑



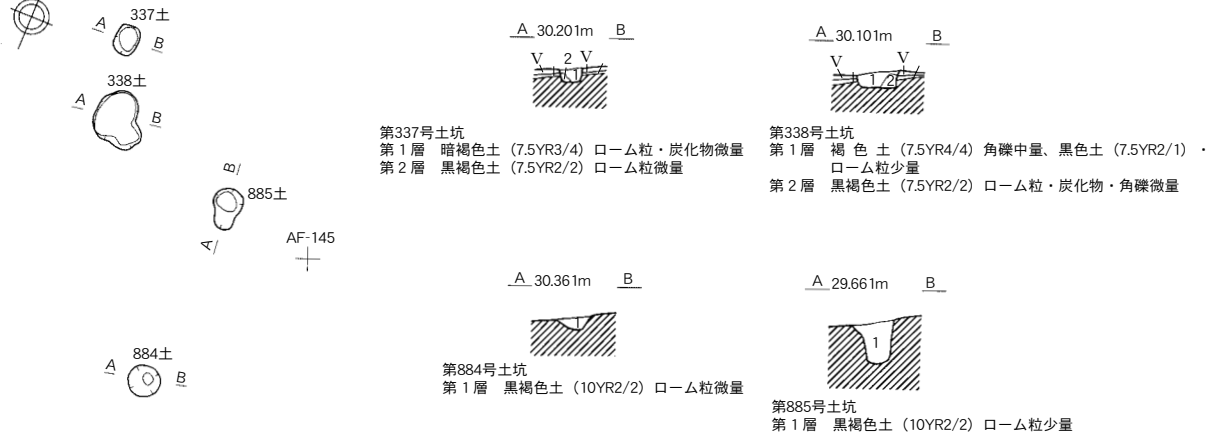
第144図 土坑 (54) (1289~1292土・1400土・1401土)



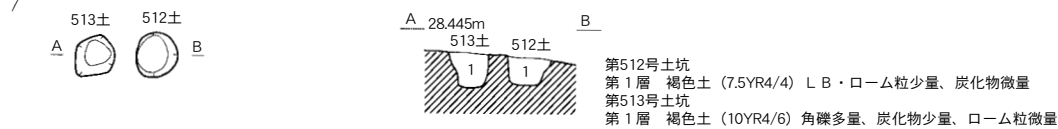
第335・336・880号土坑



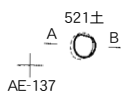
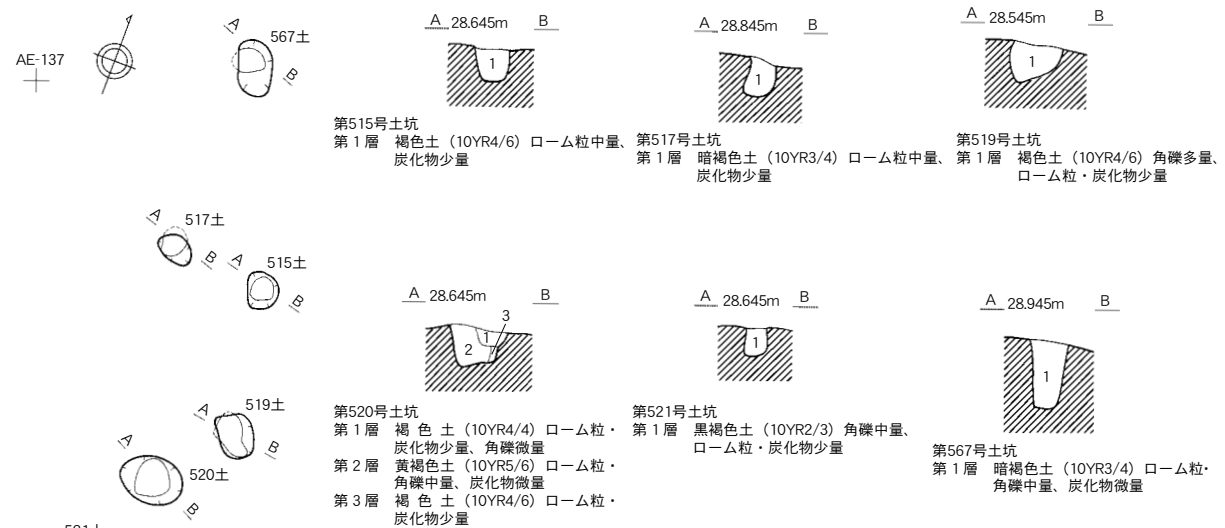
第337・338・884・885号土坑



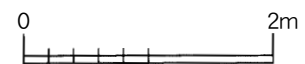
第512・513号土坑



第515・517・519~521・567号土坑

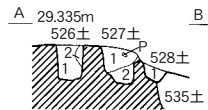
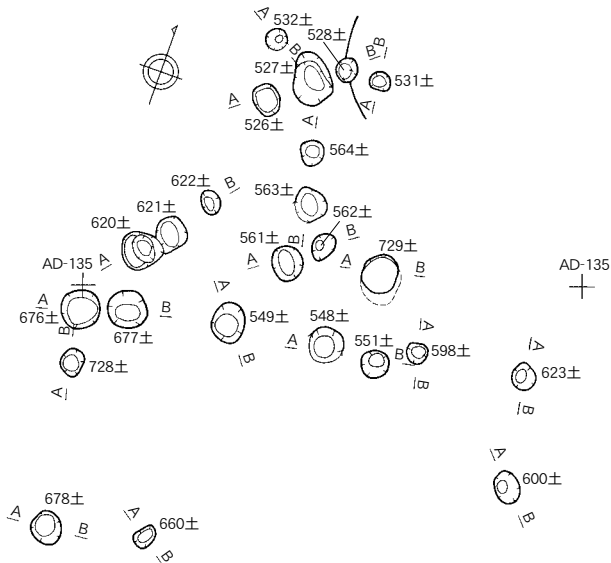


第146図 土坑 (56) (335~338±・512±・513±・515±・517±・519~521±・567±・880±・884±・885±)

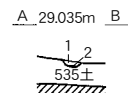


第6編 平成12年度発掘調査成果

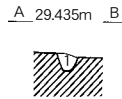
第526~528・531・532・548・549・551・561~564・598・
600・620~623・660・676~678・728・729号土坑



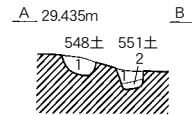
第526号土坑
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) □-△粒中量、炭化物微量
第2層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒少量
第527号土坑
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒少量、炭化物微量
第2層 暗褐色土 (7.5YR3/3) □-△粒微量
第528号土坑
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/3) □-△粒少量、炭化物微量



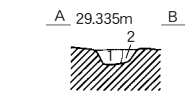
第531号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、炭化物微量
第2層 黒色土 (10YR1.7/1)



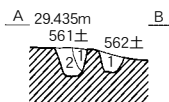
第532号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、炭化物微量



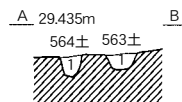
第548号土坑
第1層 紅褐色土 (10YR4/3) □-△粒少量
第551号土坑
第1層 紅褐色土 (10YR4/2) □-△粒少量、炭化物微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒少量、炭化物微量



第549号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒多量、炭化物微量
第2層 紅褐色土 (10YR5/4) □-△粒少量



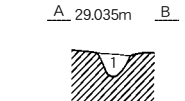
第561号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量
第2層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒中量、炭化物微量
第562号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量、炭化物微量



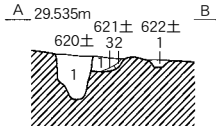
第563号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、炭化物微量
第564号土坑
第1層 褐色土 (7.5YR4/3) □-△粒多量、炭化物微量



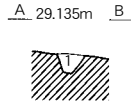
第598号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、炭化物微量



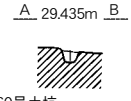
第600号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒多量、炭化物微量



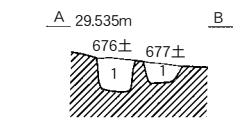
第620号土坑
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒中量、角礫少量、炭化物微量
第621号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) □-△粒中量、炭化物微量
第2層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量
第3層 黒褐色土 (10YR2/3) □-△粒少量、炭化物微量
第622号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒中量、炭化物少量



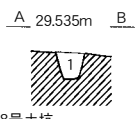
第623号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒、炭化物、微量



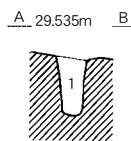
第660号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、炭化物少量



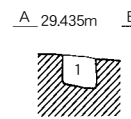
第676号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒多量、炭化物中量、L B少量



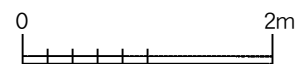
第678号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒中量、炭化物微量



第728号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒、炭化物少量

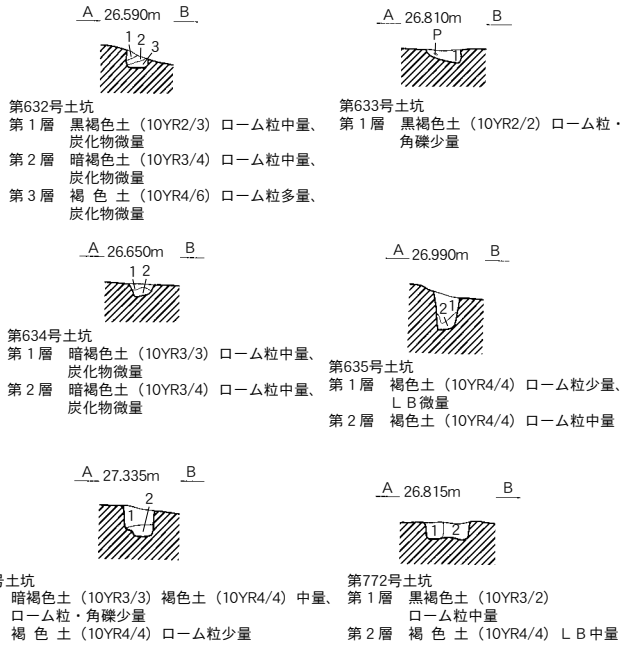
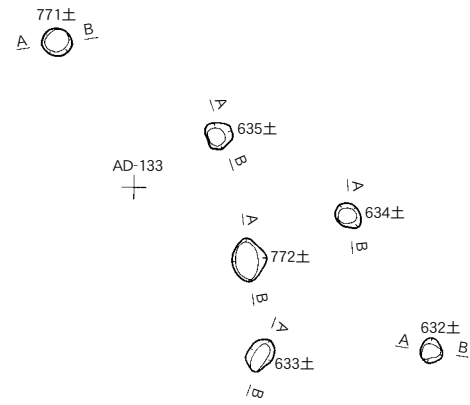


第729号土坑
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) □-△粒、炭化物微量

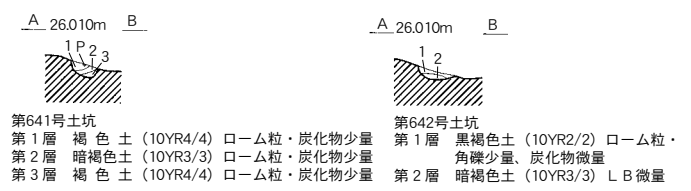
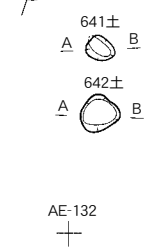


第147図 土坑 (57) (526~528土・531土・532土・548土・549土・551土・561~564土・598土・
600土・620~623土・660土・676~678土・728土・729土)

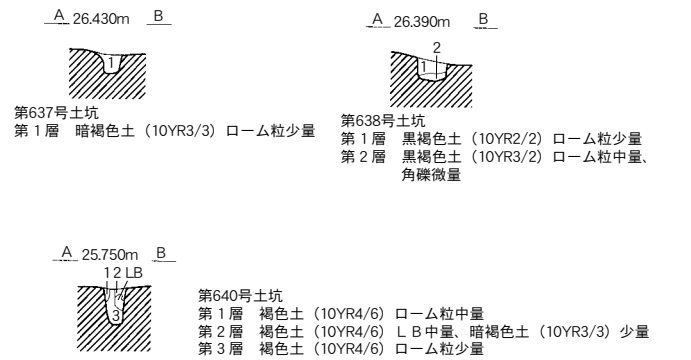
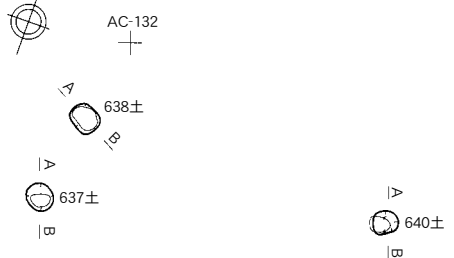
第632~635・771・772号土坑



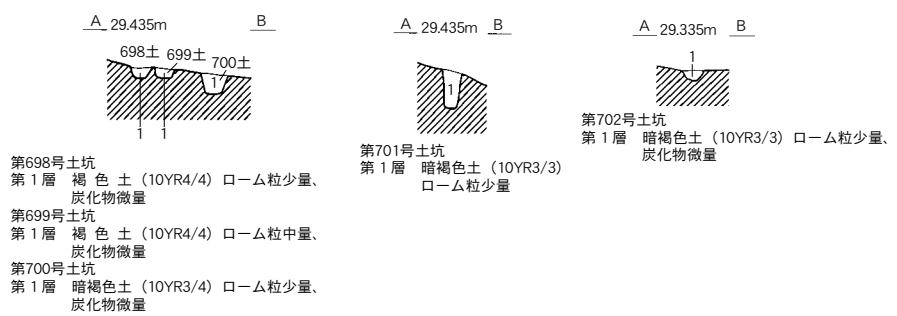
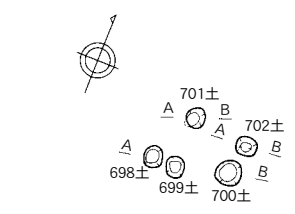
第641・642号土坑



第637・638・640号土坑

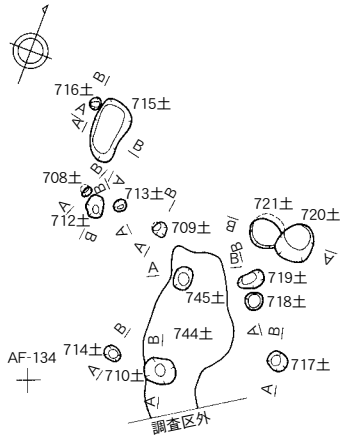


第698~702号土坑



第148図 土坑 (58) (632~635土・637土・638土・640~642土・698~702土・771土・772土)

第708~710・712~721・745号土坑



A 27.405m B



第708号土坑
第1層 黒褐色土 (10YR2/3)
口一ム粒少量、角礫微量

A 27.165m B



第709号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4)
口一ム粒少量

A 26.945m B
744土 2 744土



第710号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物中量、
口一ム粒・角礫少量
第2層 褐色土 (10YR4/4) 口一ム粒中量

A 27.225m B



第712号土坑
第1層 黒褐色土 (10YR2/2)
口一ム粒少量

A 27.285m B



第713号土坑
第1層 黒褐色土 (10YR2/3)
口一ム粒少量、角礫微量

A 27.145m B



第714号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 口一ム粒少量、
炭化物微量

A 27.565m B



第715号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3)
口一ム粒少量、L B微量

A 27.365m B



第716号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4)
口一ム粒中量

A 26.905m B



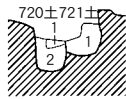
第717号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3)
口一ム粒少量、炭化物微量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4)
口一ム粒・角礫中量

A 27.045m B



第718号土坑
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) 口一ム粒少量、
炭化物微量
第2層 褐色土 (7.5YR4/4) 口一ム粒中量、
L B少量
第719号土坑
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) 口一ム粒少量、
L B・炭化物微量

A 26.925m B



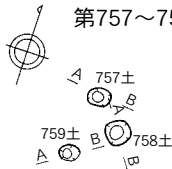
第720号土坑
第1層 褐色土 (7.5YR4/4) 口一ム粒中量、
L B少量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) 口一ム粒少量、
炭化物微量
第721号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/4) 口一ム粒少量、
炭化物微量

A 27.105m B



第745号土坑
第1層 暗褐色土 (7.5YR3/4)

第757~759号土坑



AC-135

A 29.235m B



第757号土坑
第1層 暗褐色土 (10YR3/3)
口一ム粒中量、炭化物微量

A 29.235m B



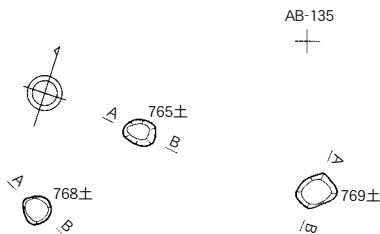
第758号土坑
第1層 黒褐色土 (10YR2/3)
口一ム粒多量、炭化物微量

A 29.235m B



第759号土坑
第1層 黒褐色土 (10YR2/2)
口一ム粒少量、炭化物微量

第765・768・769号土坑



AB-135

A 29.355m B



第765号土坑
第1層 黒褐色土 (10YR2/3)
口一ム粒・炭化物・角礫少量

A 29.355m B



第768号土坑
第1層 黒褐色土 (10YR3/2)
口一ム粒少量

A 28.935m B

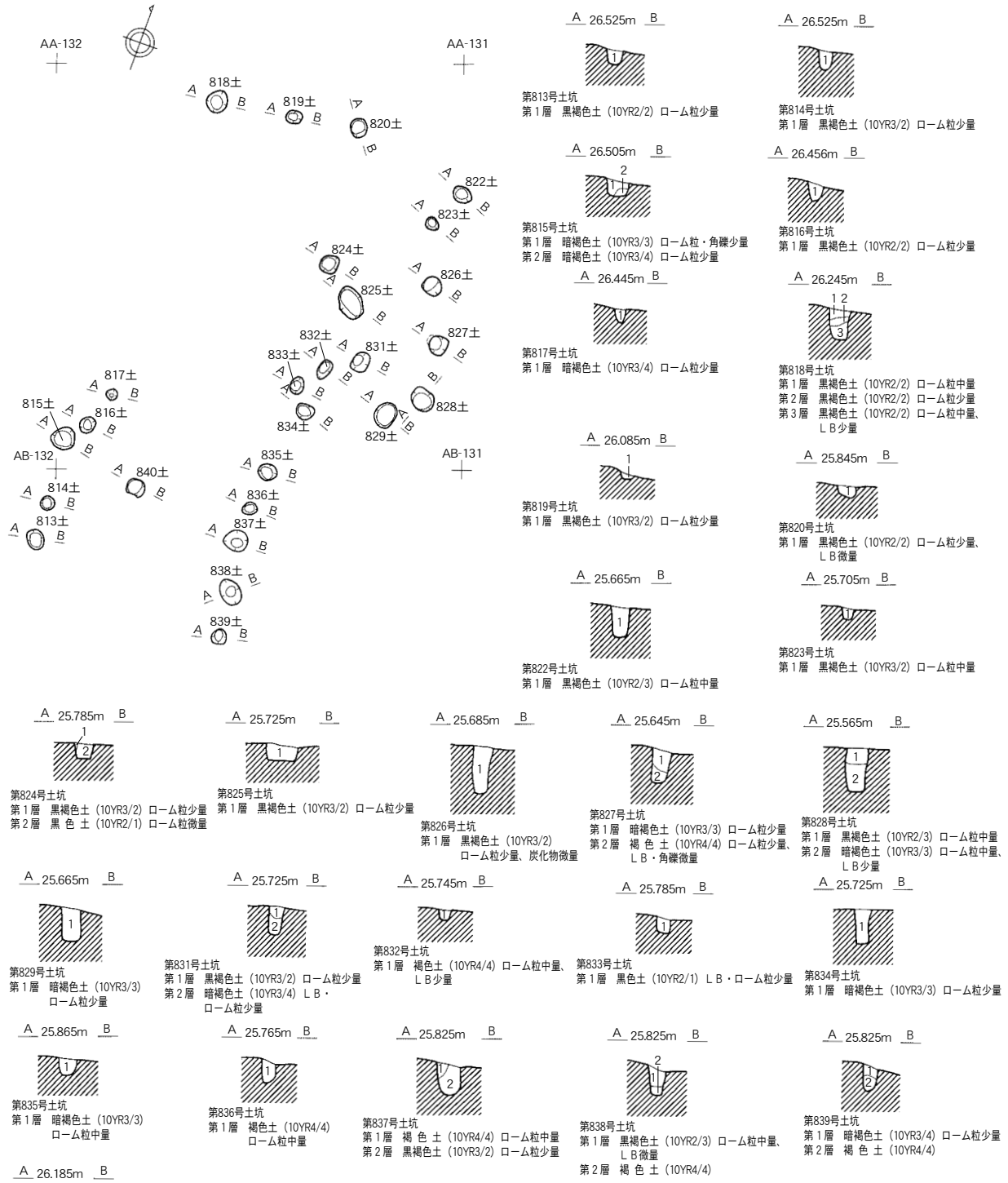


第769号土坑
第1層 褐色土 (10YR4/6)
口一ム粒中量、L B微量
第2層 黒褐色土 (10YR3/2)
口一ム粒中量

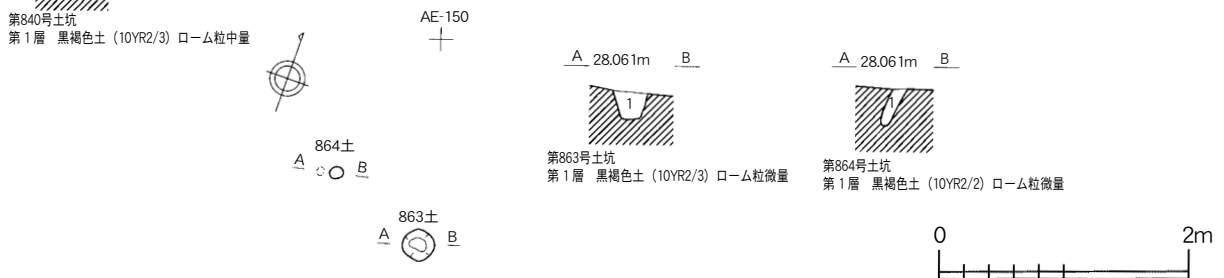


第149図 土坑 (59) (708~710土・712~721土・745土・757~759土・765土・768土・769土)

第813~820・822~829・831~840号土坑

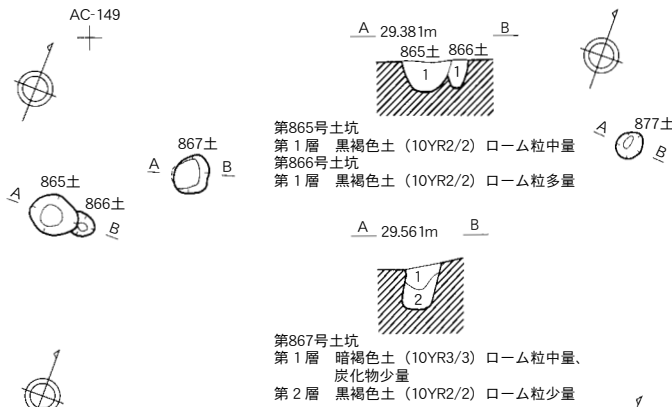


第863・864号土坑

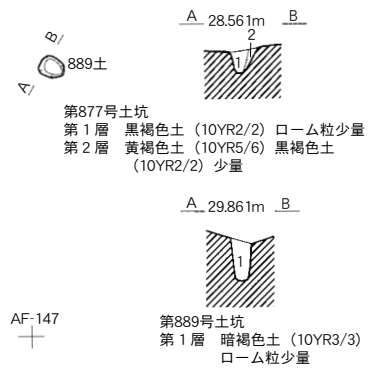


第150図 土坑 (60) (813~820土・822~829土・831土~840土・863土・864土)

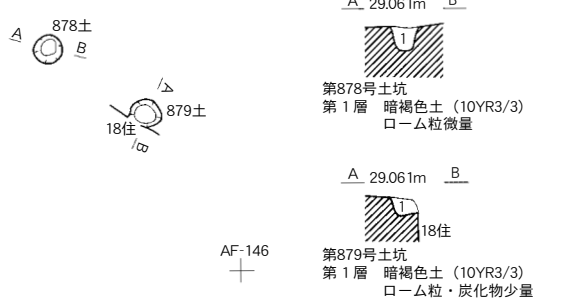
第865～867号土坑



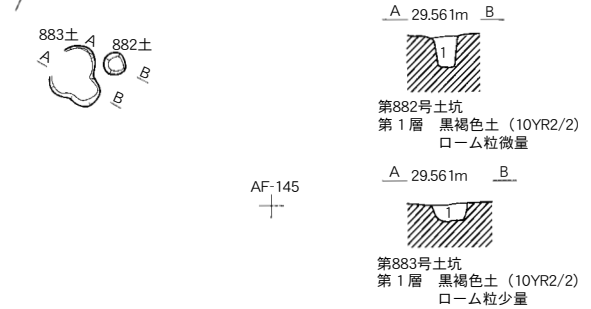
第877・889号土坑



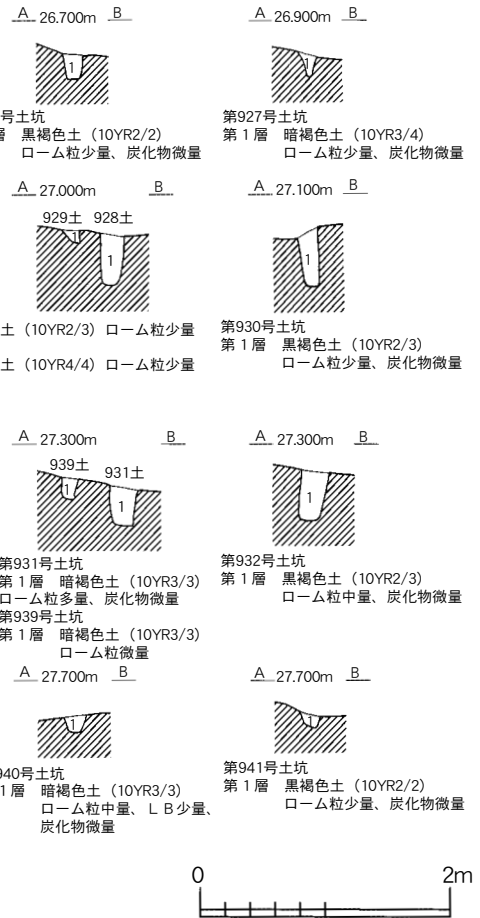
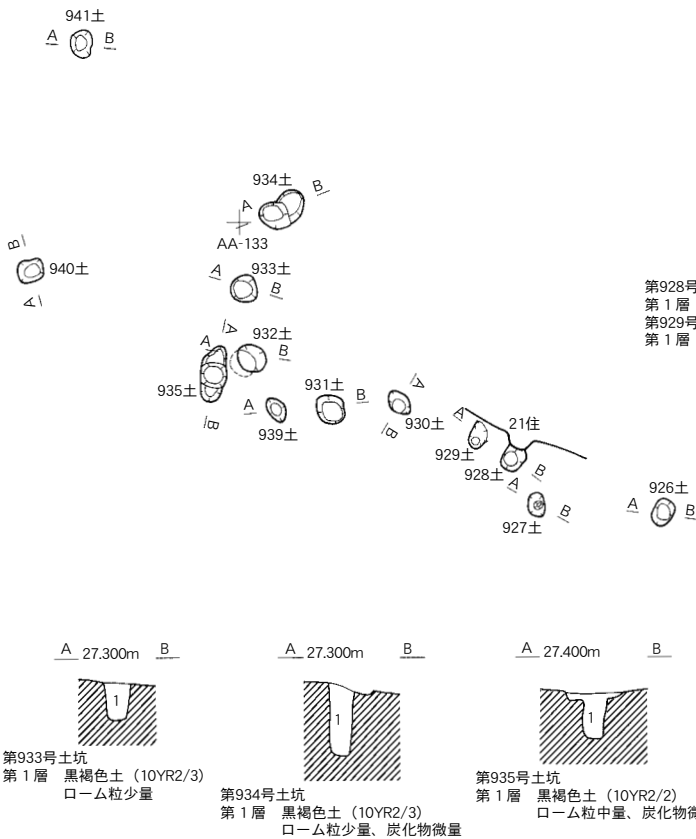
第878・879号土坑



第882・883号土坑

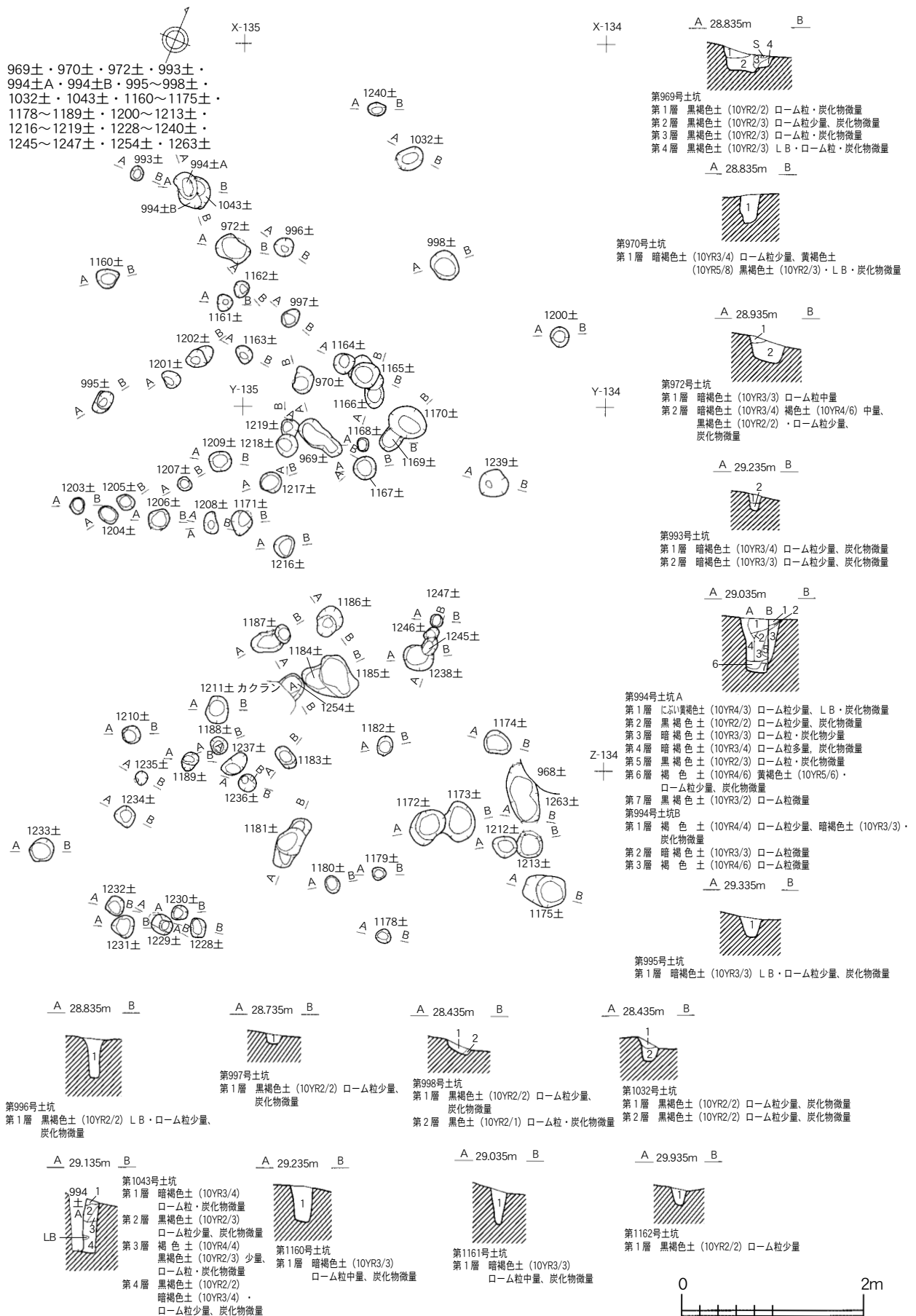


第926～935・939～941号土坑



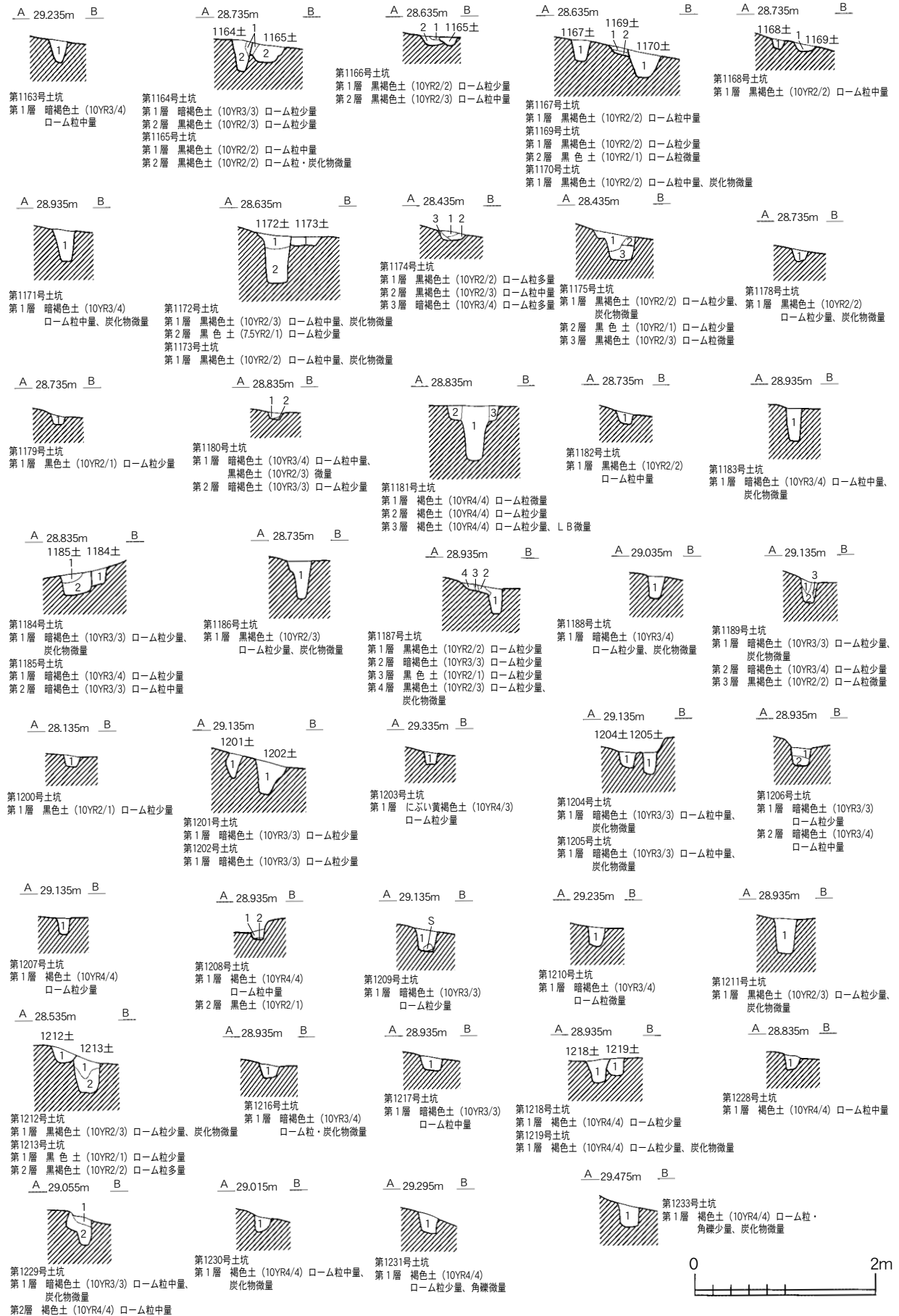
第151図 土坑 (61) (865～867土・877～879土・882土・883土・889土・926～935土・939～941土)

第3章 検出遺構と出土遺物

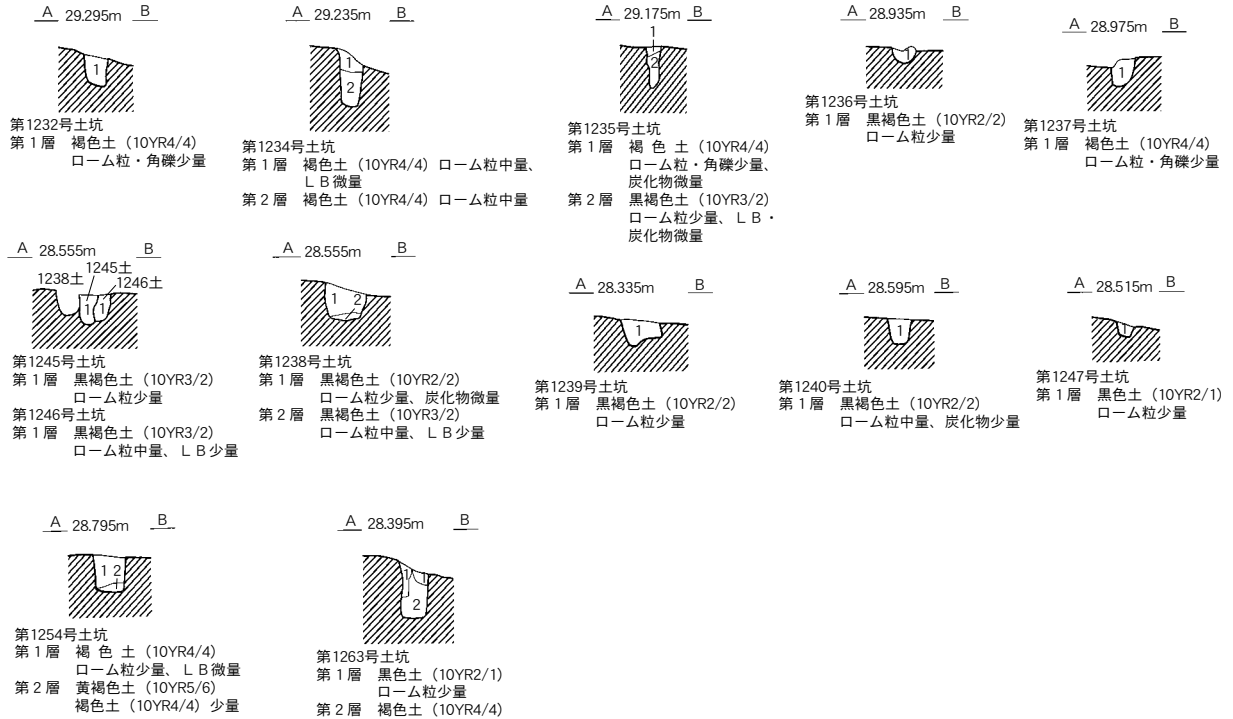


第152図 土坑 (62) (969土・970土・972土・993土・994土A・994土B・995~998土・1032土・1043土・1160~1175土・1178~1189土・1200~1213土・1216~1219土・1228~1240土・1245~1247土・1254土・1263土)

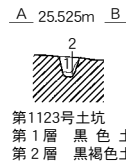
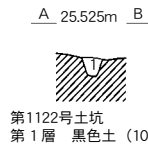
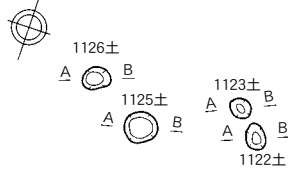
第6編 平成12年度発掘調査成果



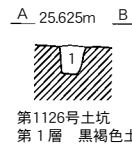
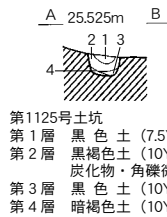
第153図 土坑 (63) (1163~1175土・1178~1189土・1200~1213土・1216~1219土・1228~1231土・1233土)



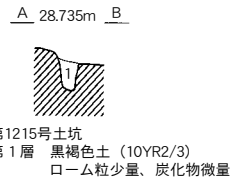
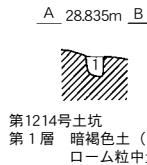
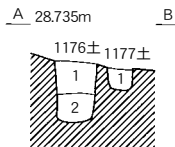
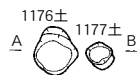
第1122・1123・1125・1126号土坑



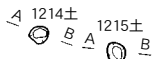
X-130



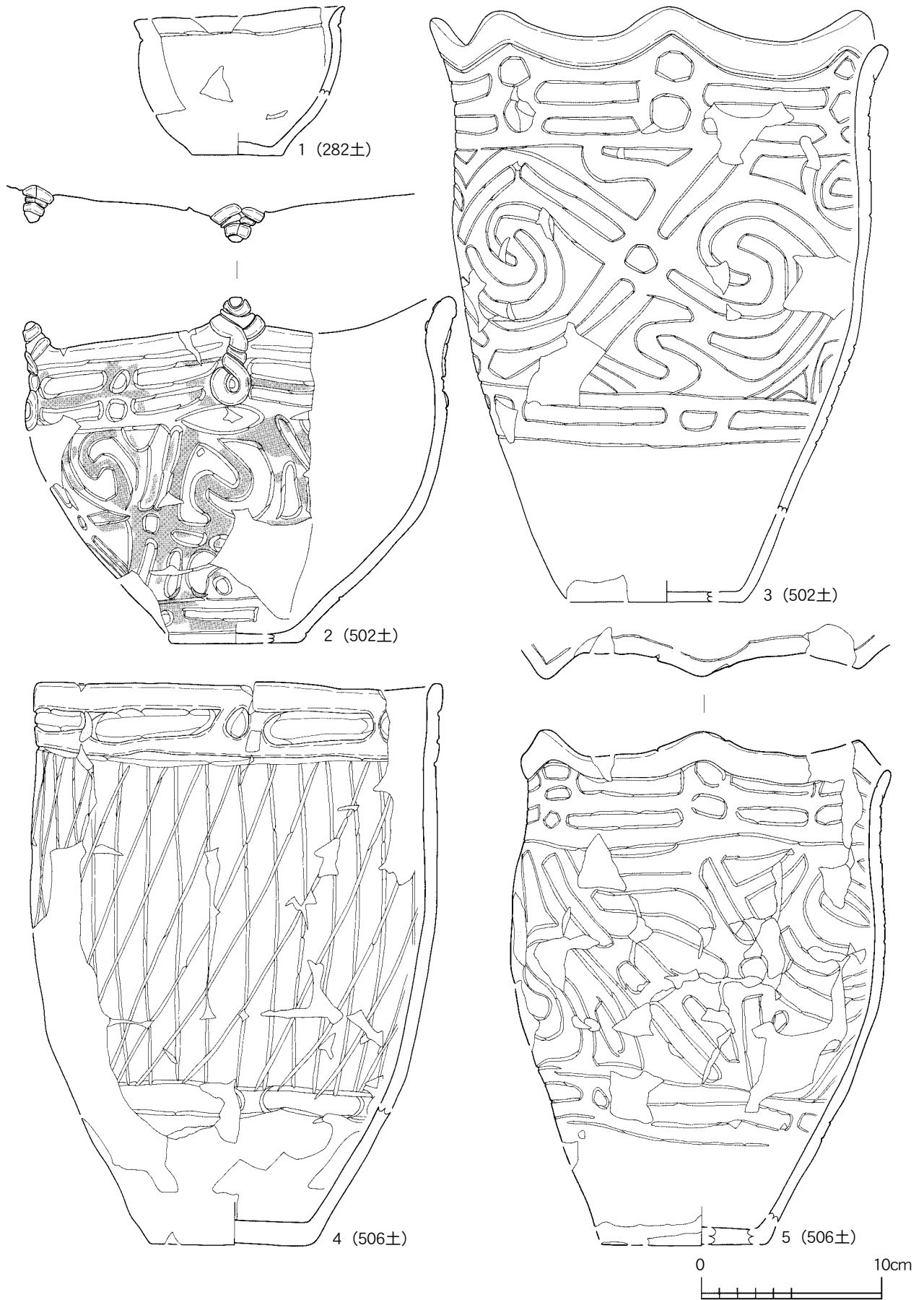
第1176・1177・1214・1215号土坑



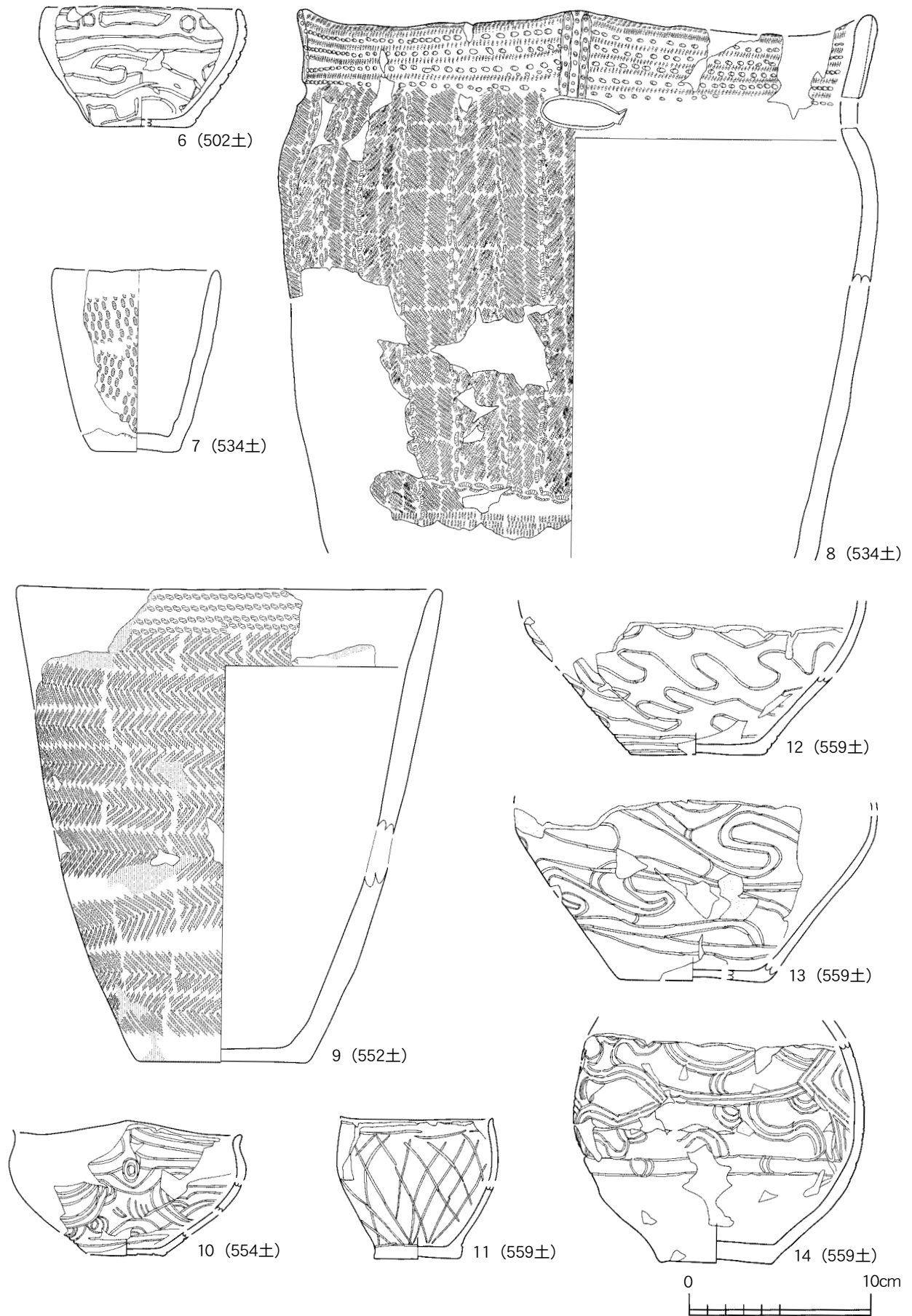
AA-135



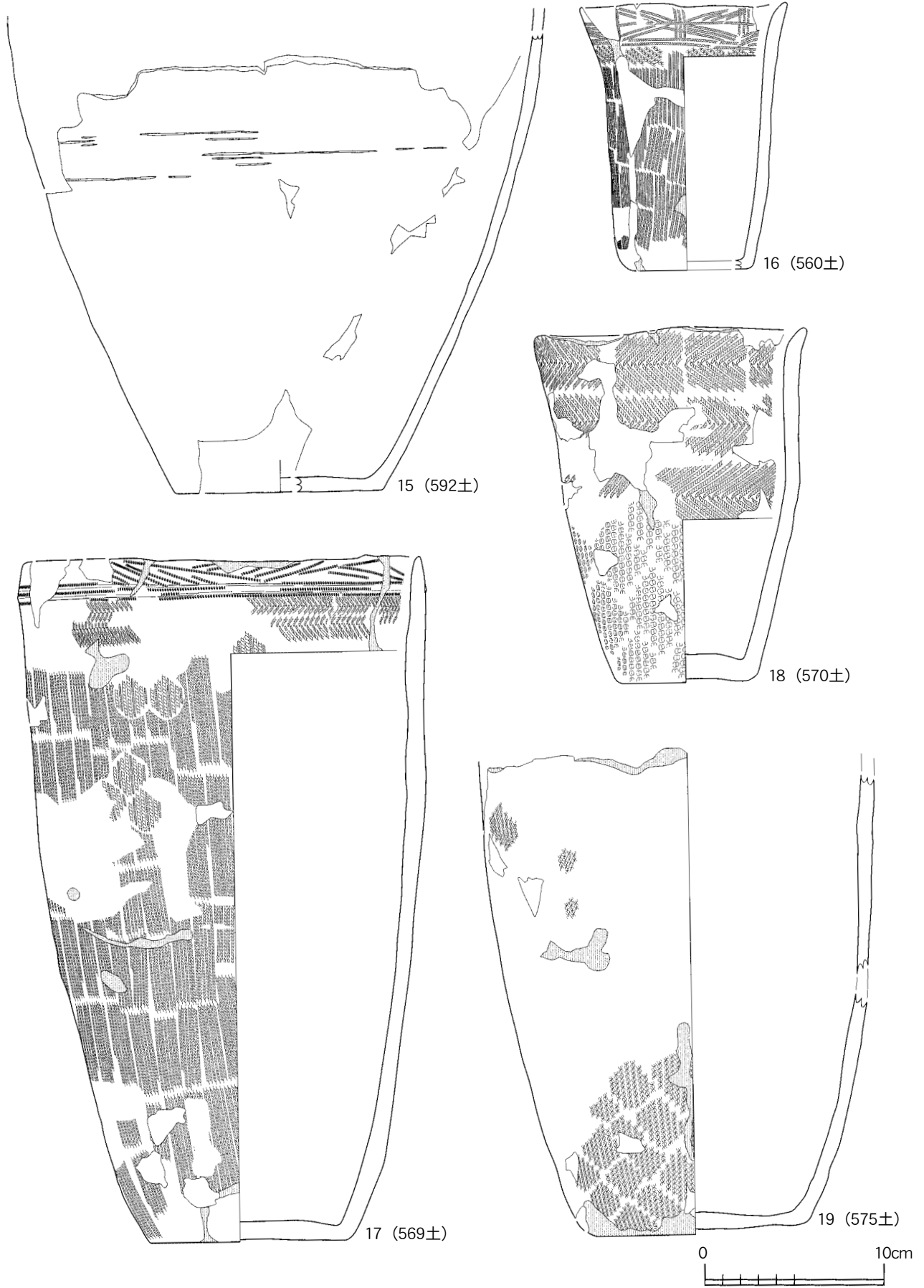
第154図 土坑 (64) (1122土・1123土・1125土・1126土・1176土・1177土・1214土・1215土・1232土・1234~1240土・1245~1247土・1254土・1263土)



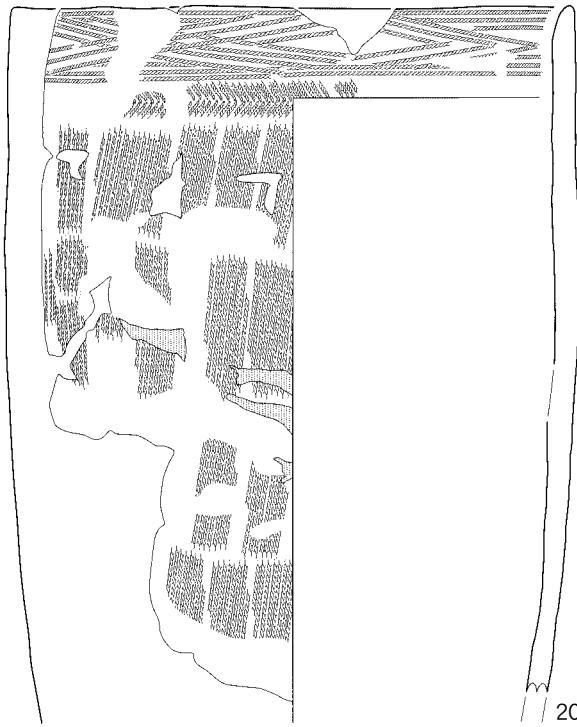
第155図 遺構内出土土器（土坑）(1)



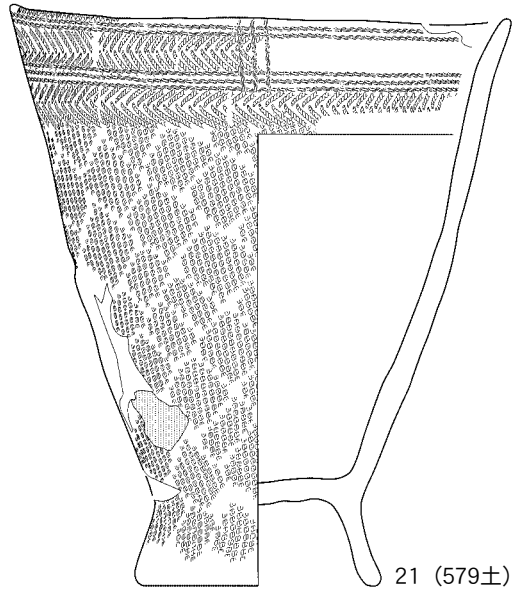
第156図 遺構内出土土器（土坑）(2)



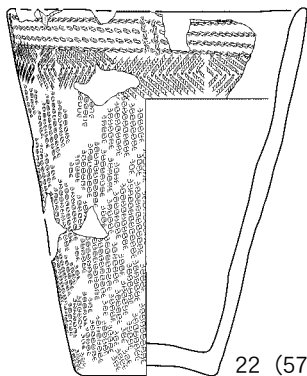
第157図 遺構内出土土器（土坑）(3)



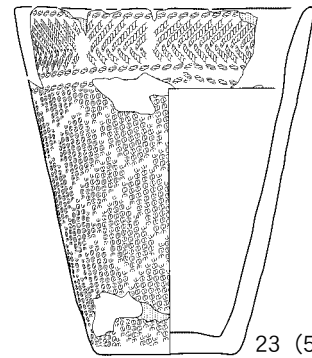
20 (575±)



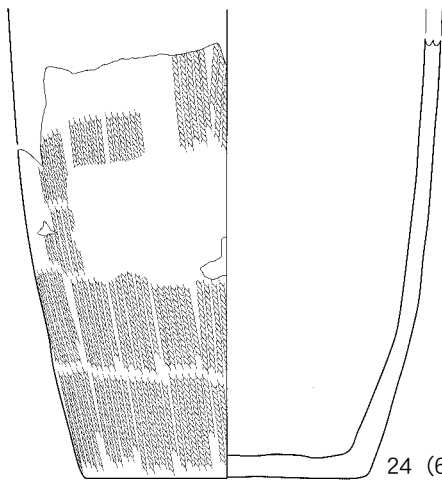
21 (579±)



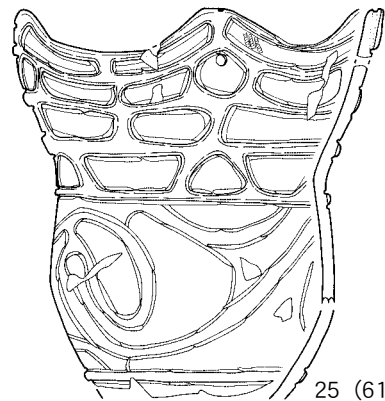
22 (579±)



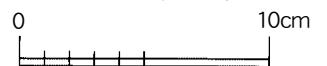
23 (587±)



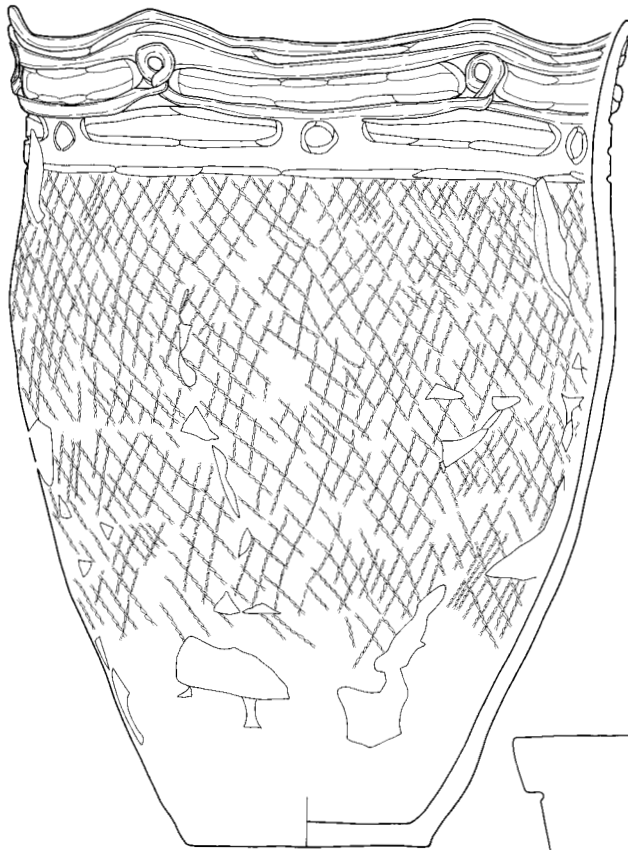
24 (607±)



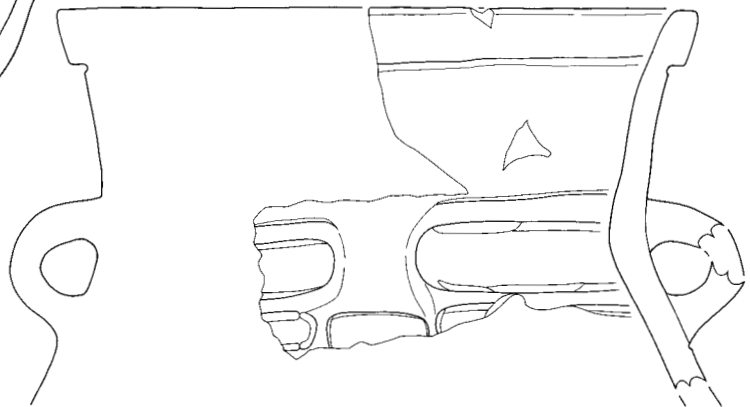
25 (613±)



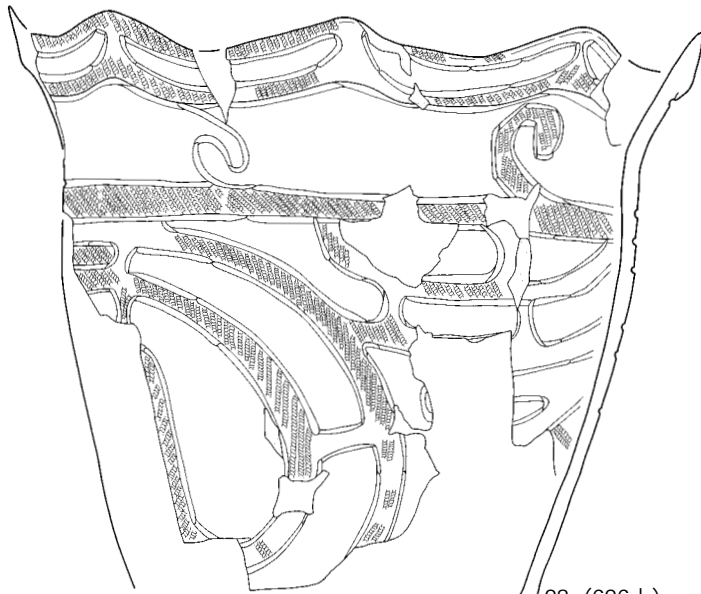
第158図 遺構内出土土器（土坑）（4）



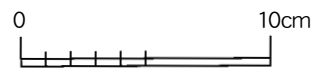
26 (619土)



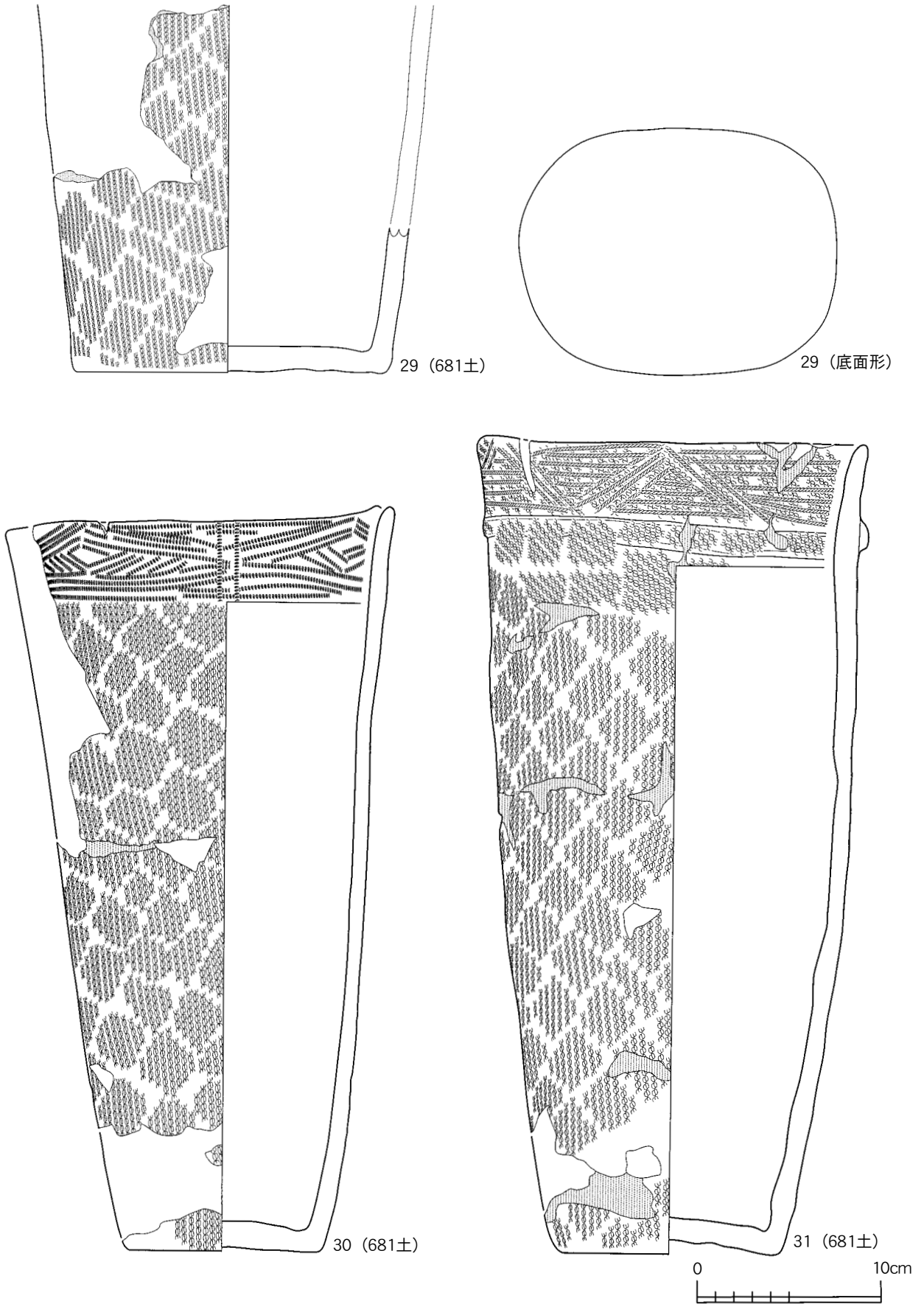
27 (626土)



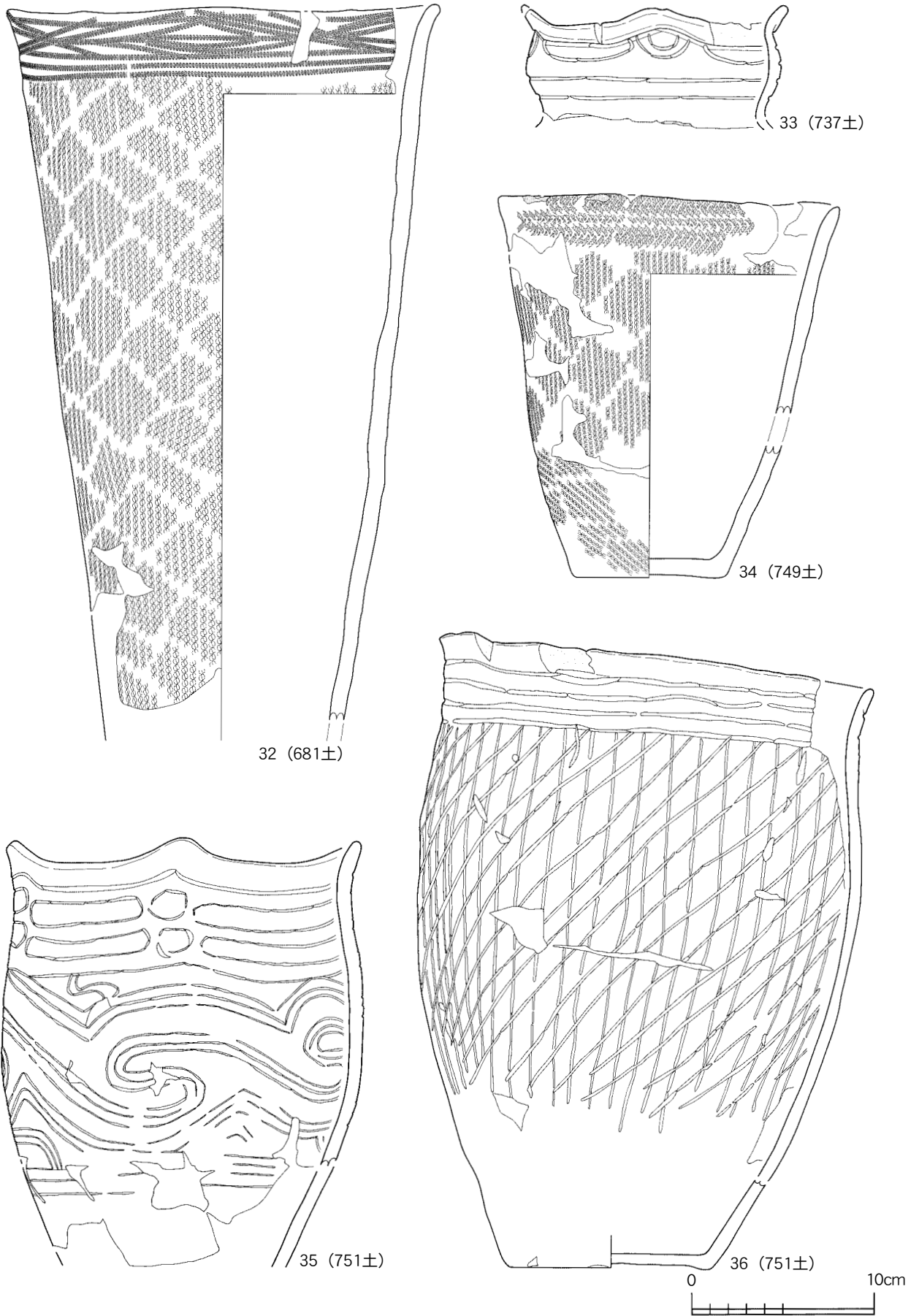
28 (626土)



第159図 遺構内出土土器 (土坑) (5)



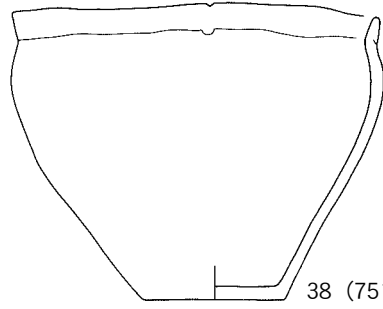
第160図 遺構内出土土器（土坑）(6)



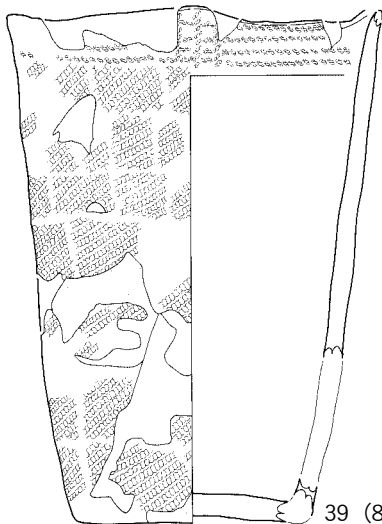
第161図 遺構内出土土器（土坑）(7)



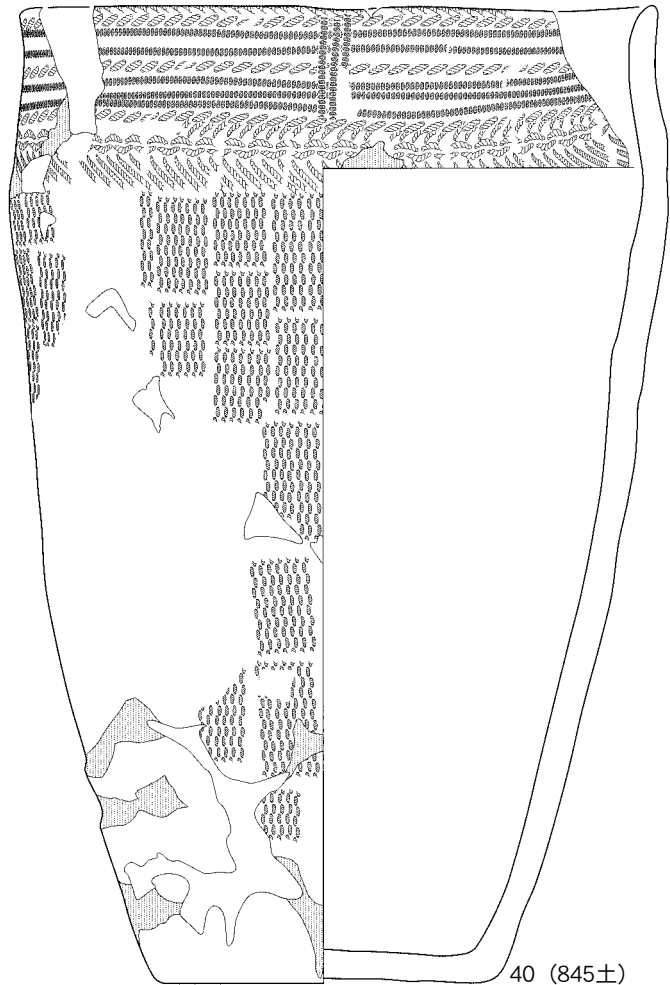
37 (751±)



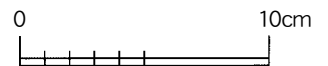
38 (751±)



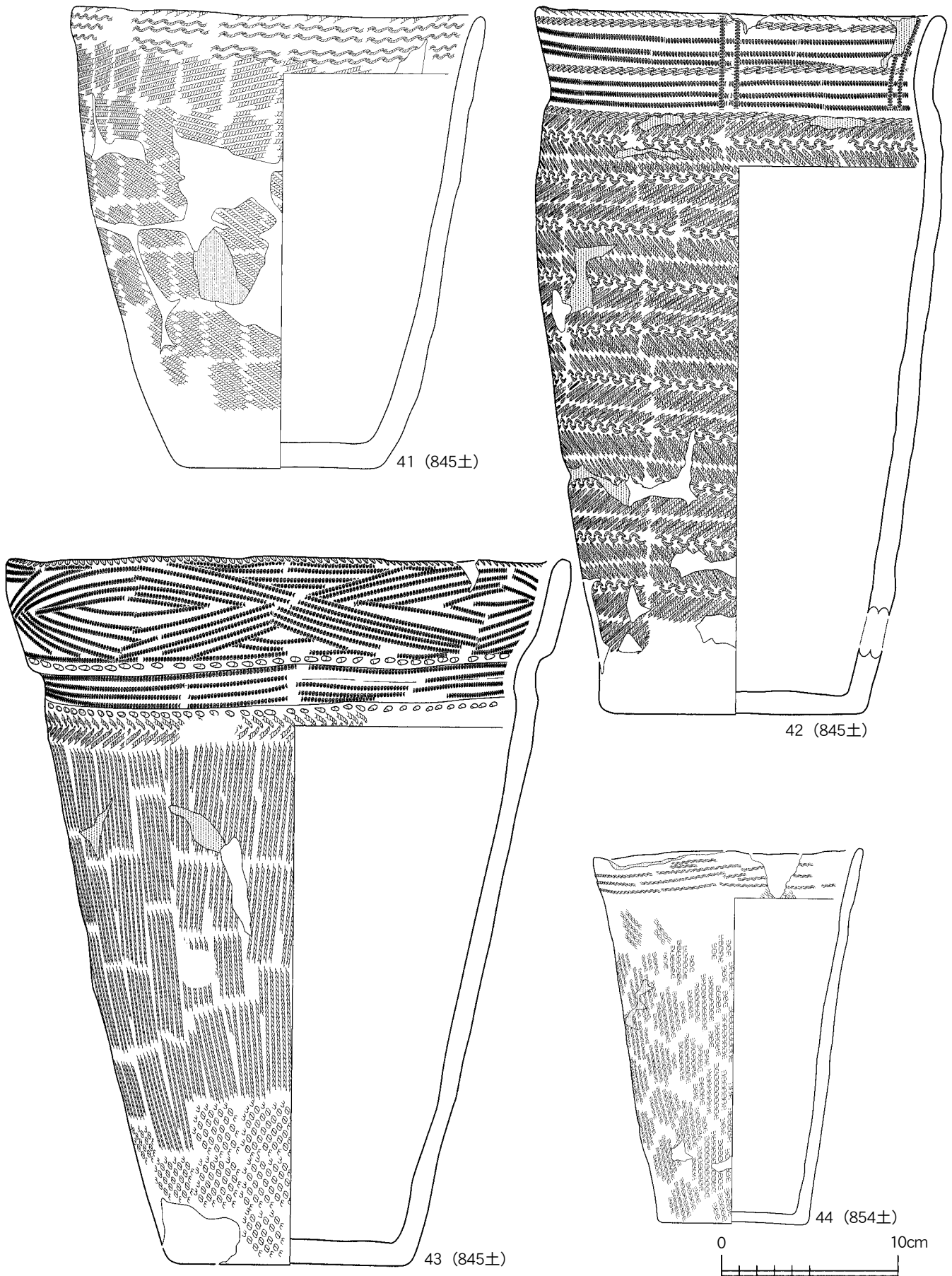
39 (806±)



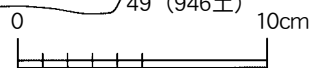
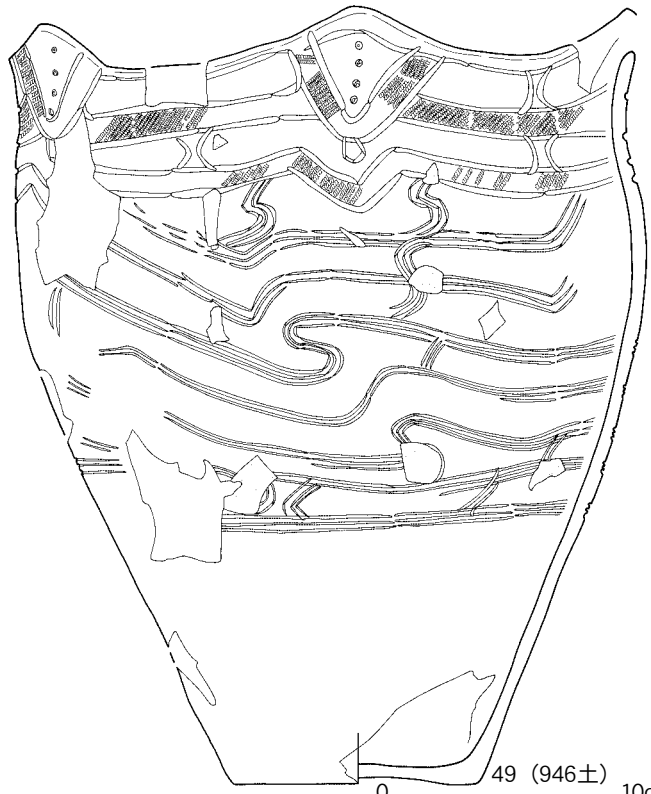
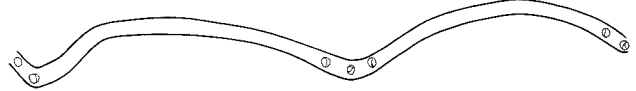
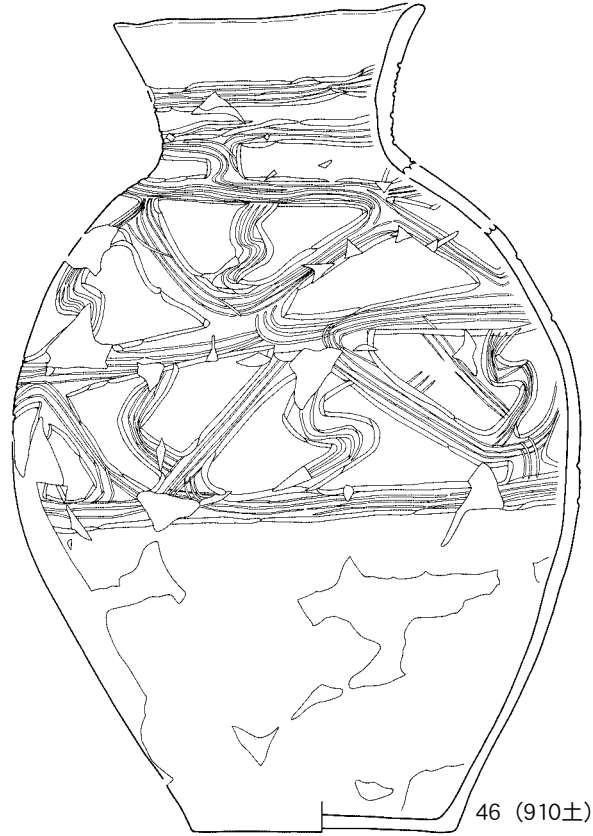
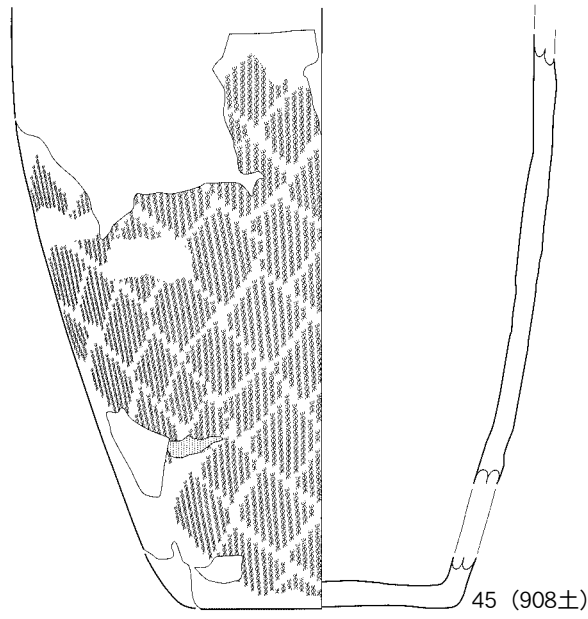
40 (845±)



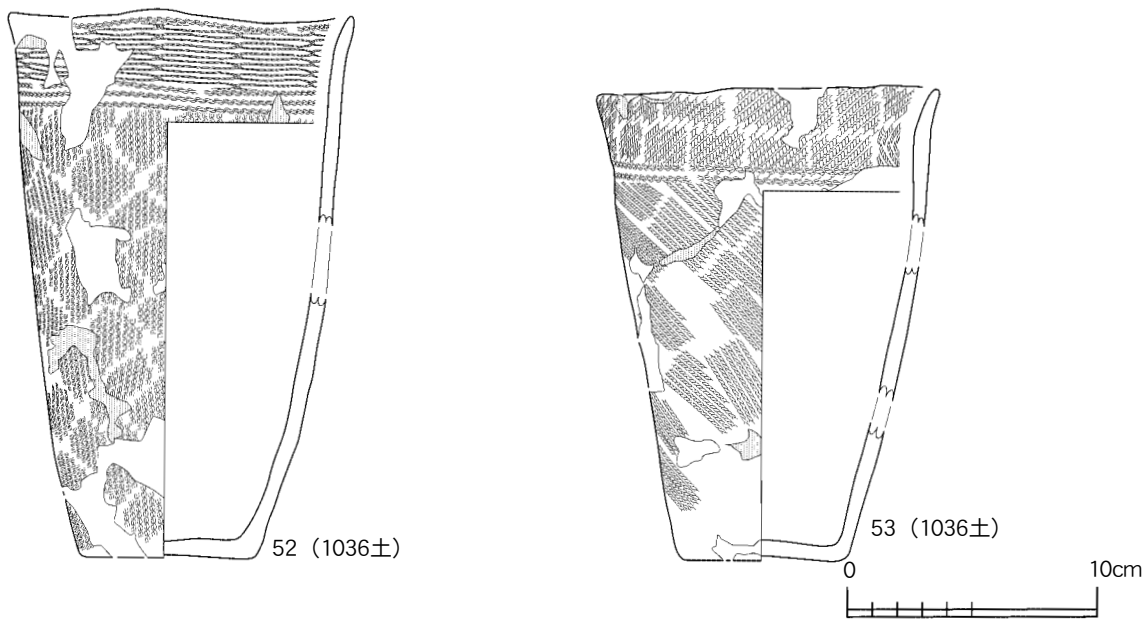
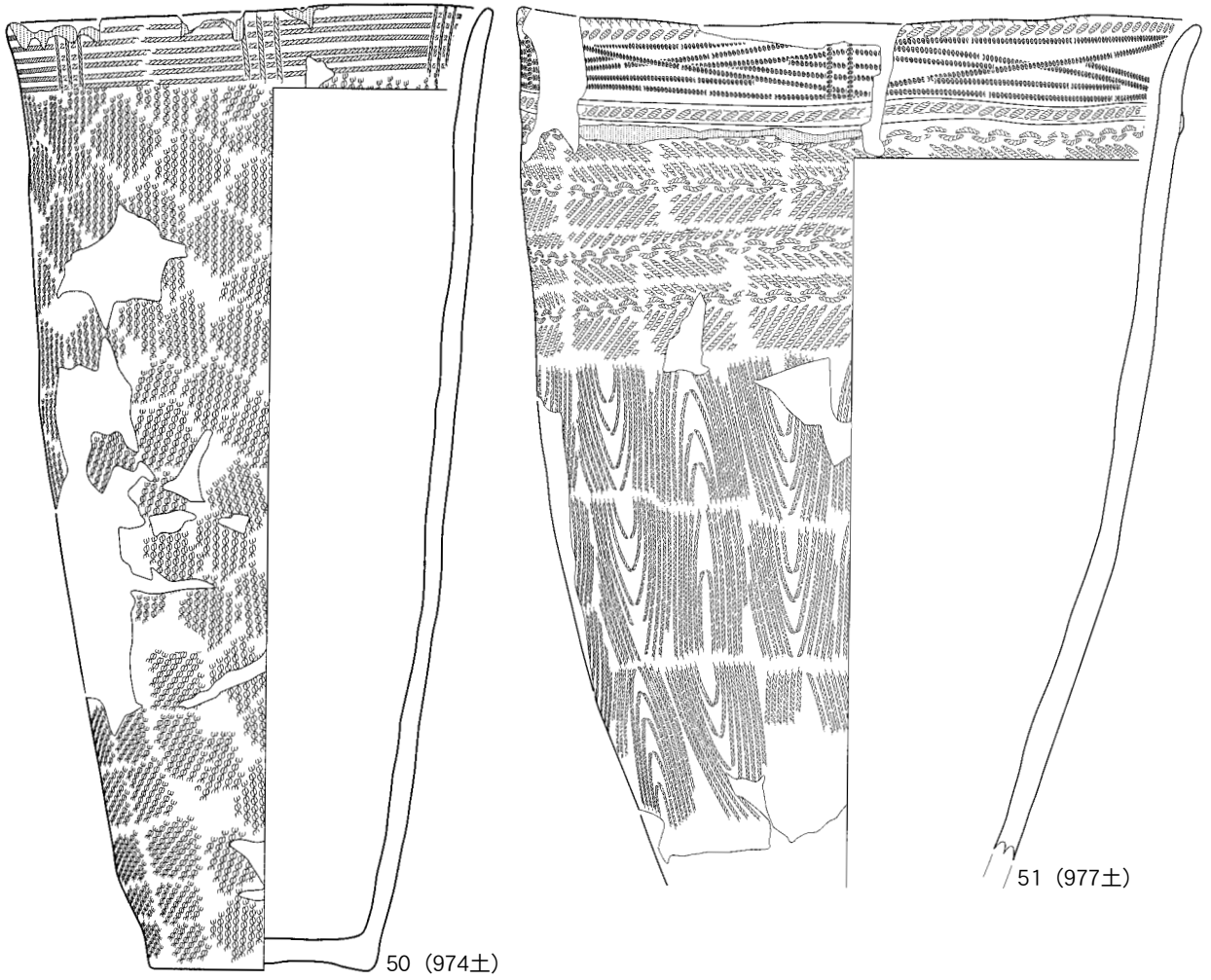
第162図 遺構内出土土器（土坑）(8)



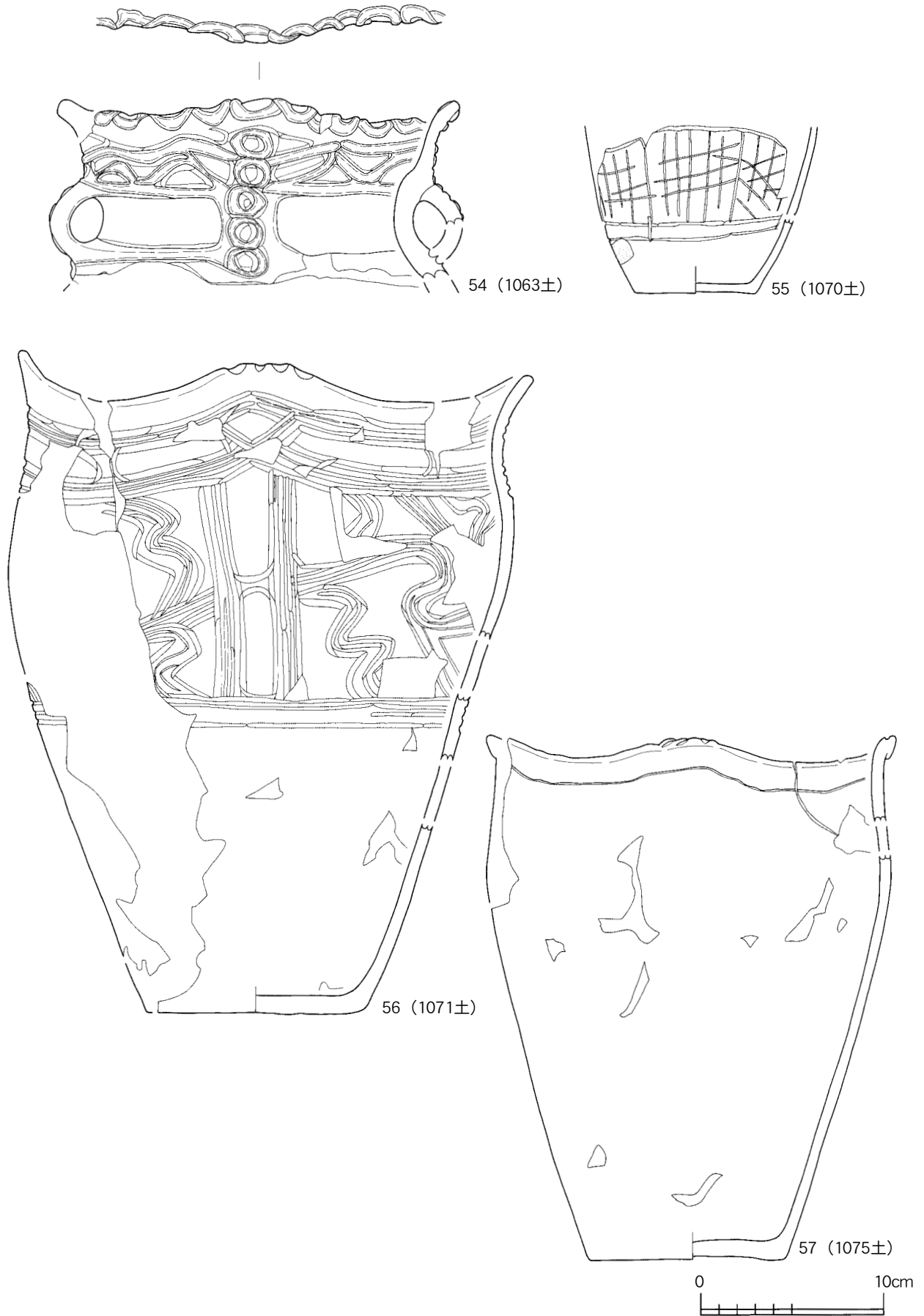
第163図 遺構内出土土器（土坑）(9)



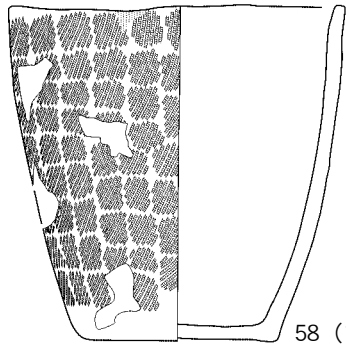
第164図 遺構内出土土器 (土坑) (10)



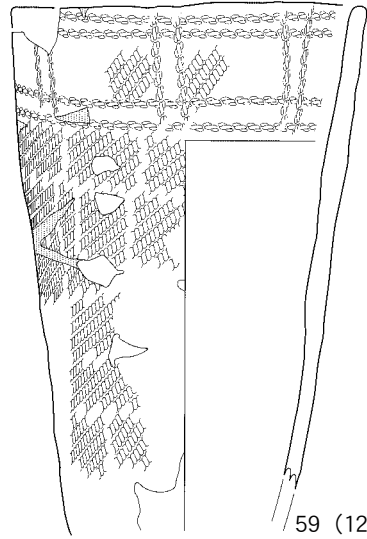
第165図 遺構内出土土器（土坑）（11）



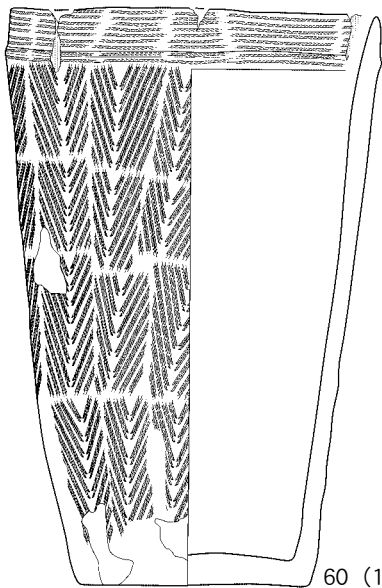
第166図 遺構内出土土器（土坑）（12）



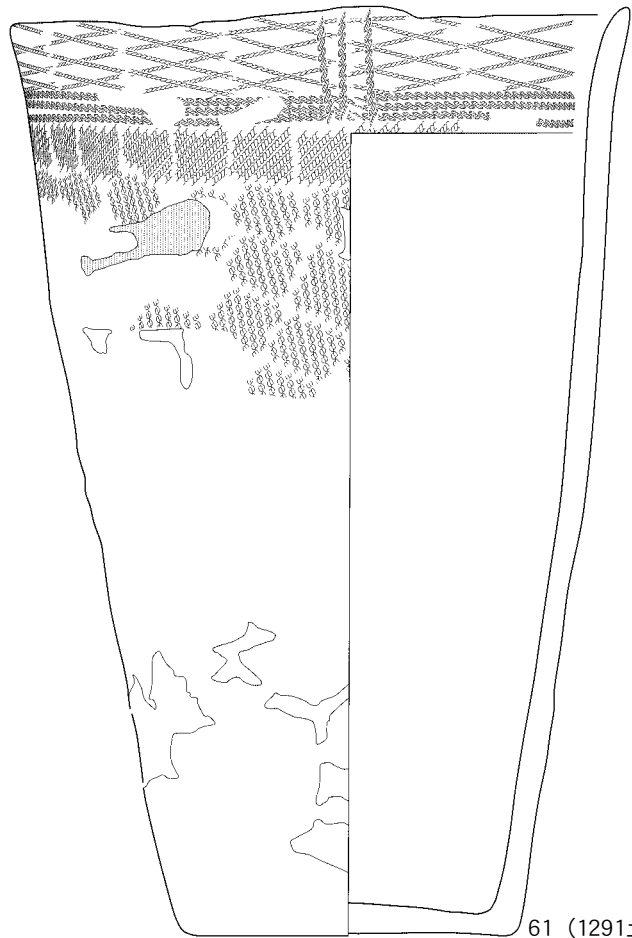
58 (1259±)



59 (1260±)



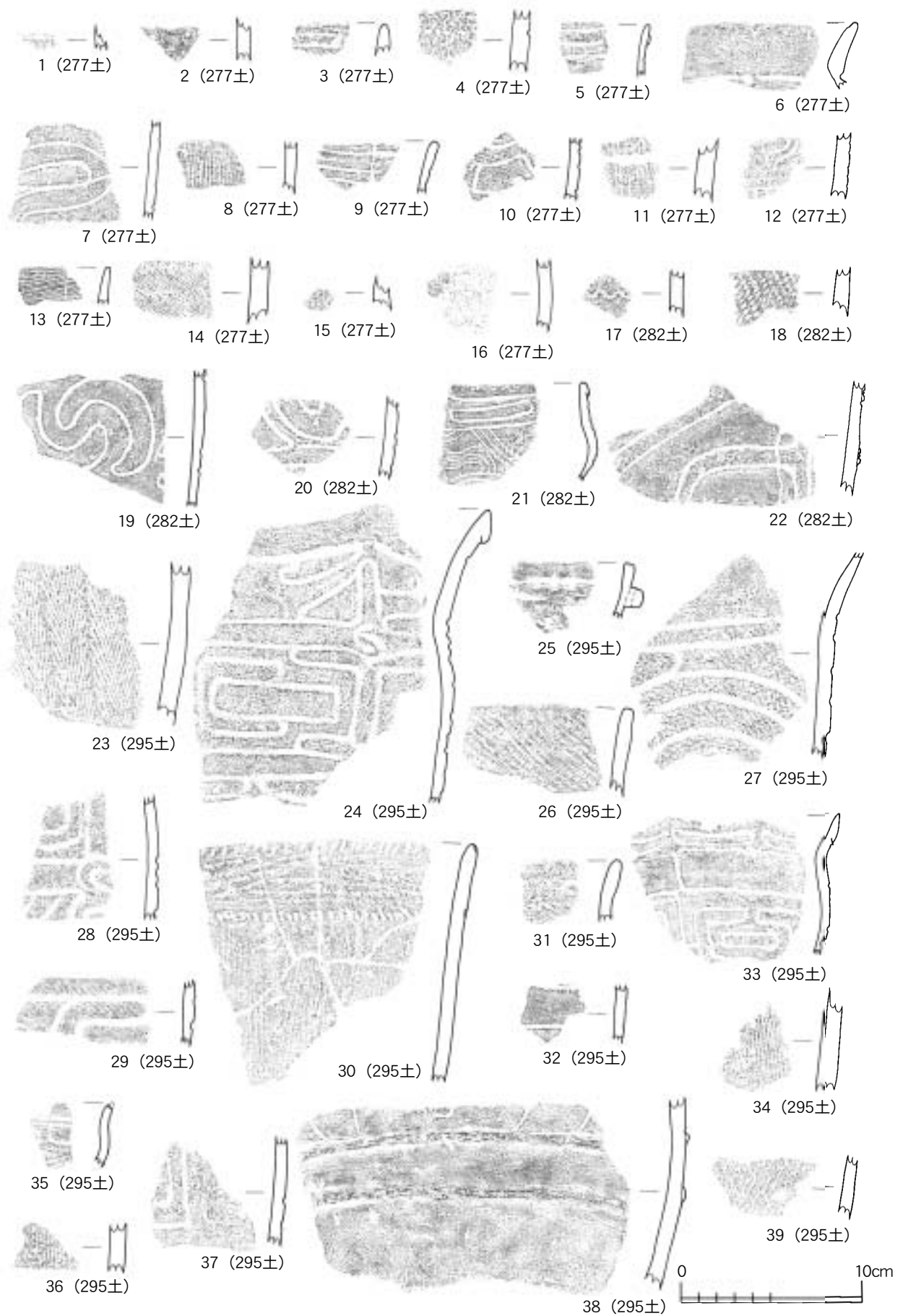
60 (1288±)



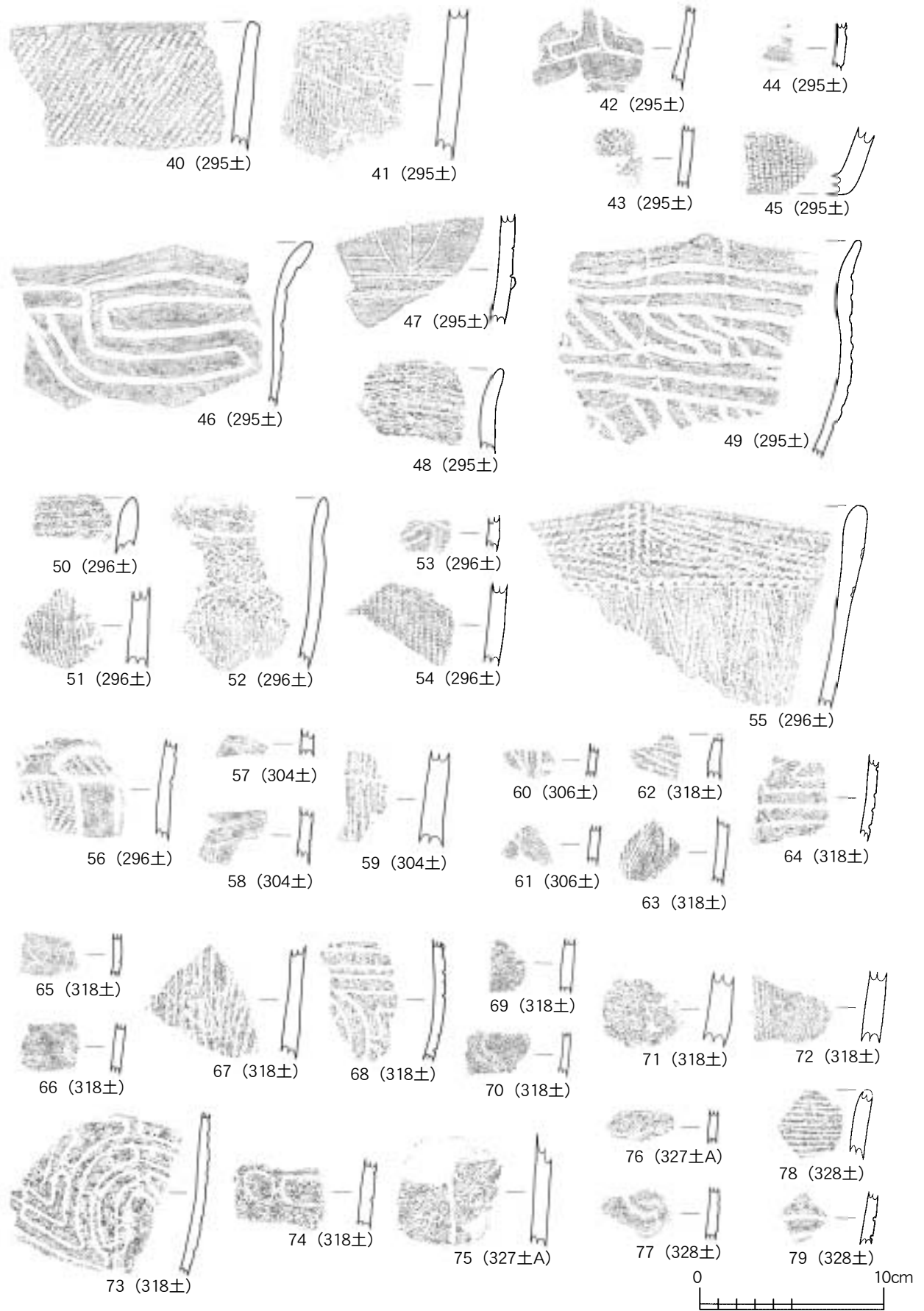
61 (1291±)



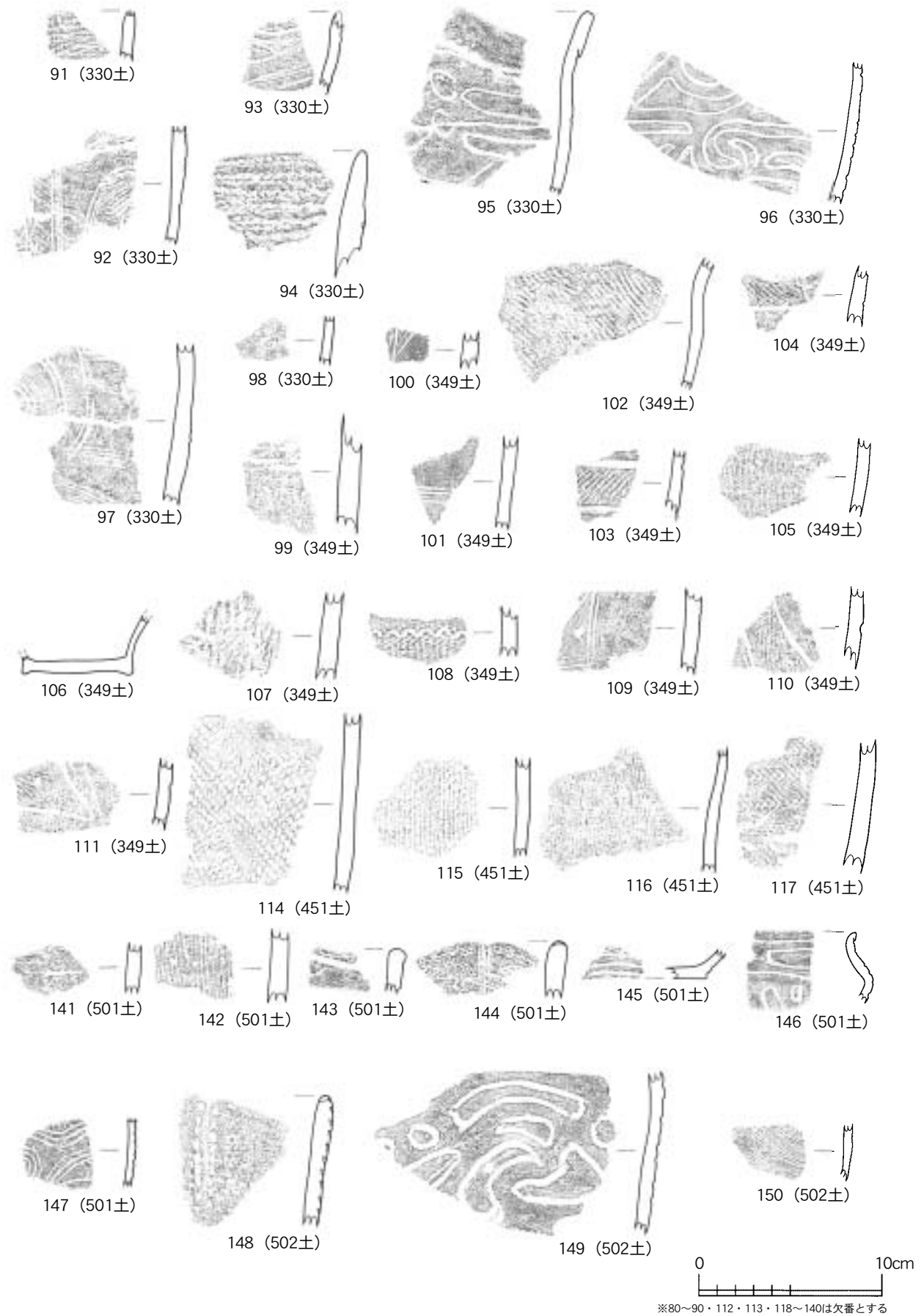
第167図 遺構内出土土器 (土坑) (13)



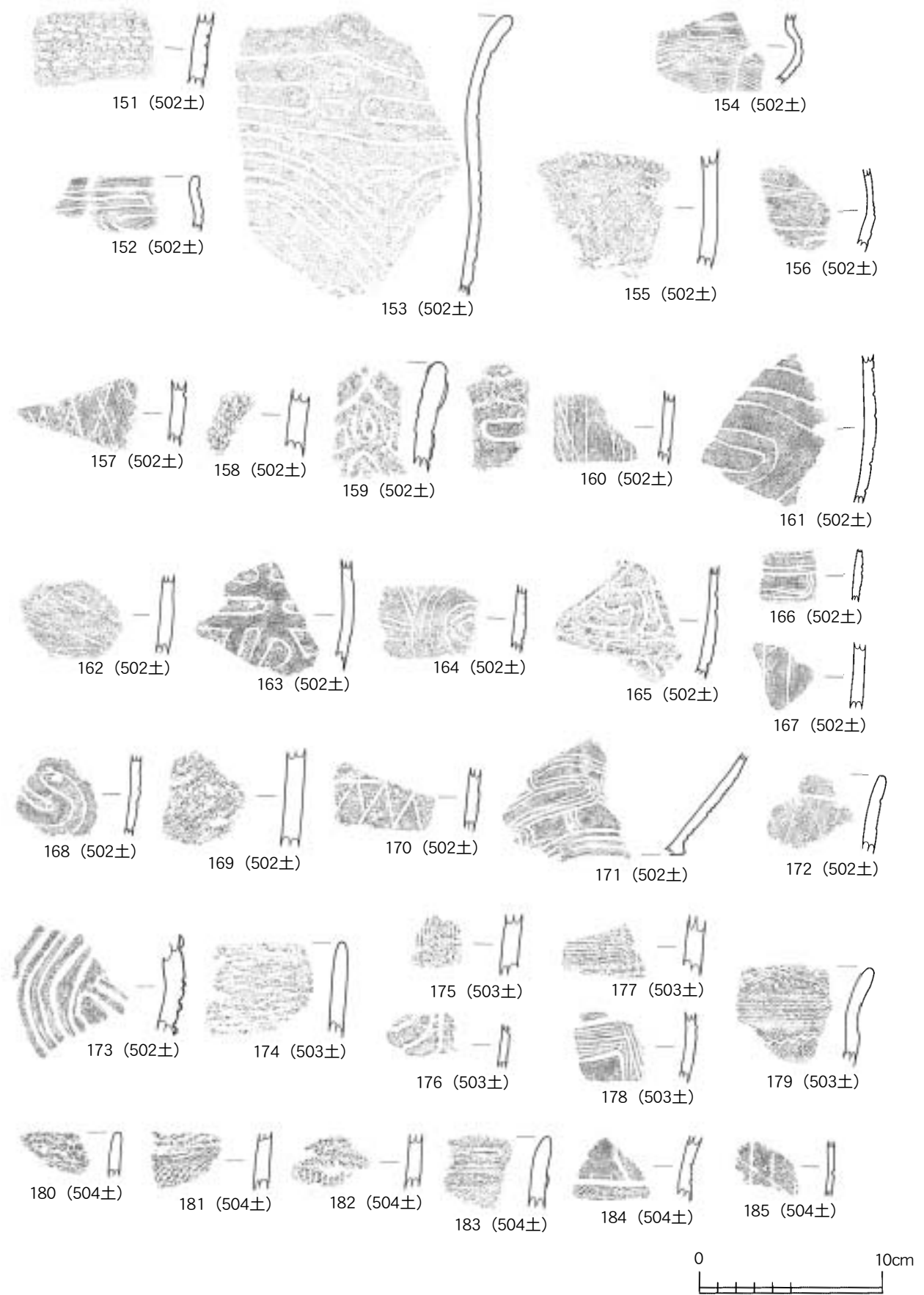
第168図 遺構内出土土器 (土坑) (14)



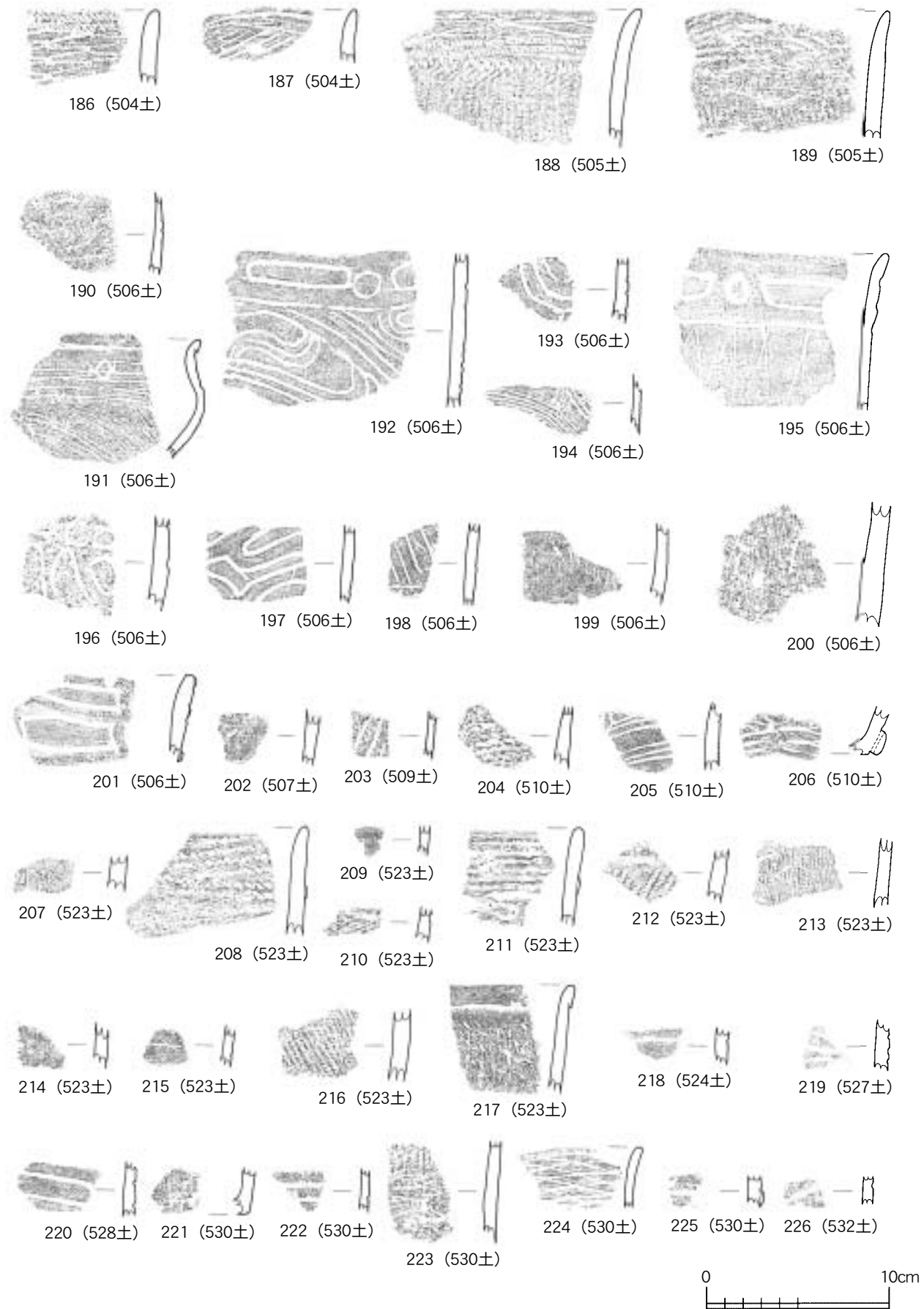
第169図 遺構内出土土器（土坑）（15）



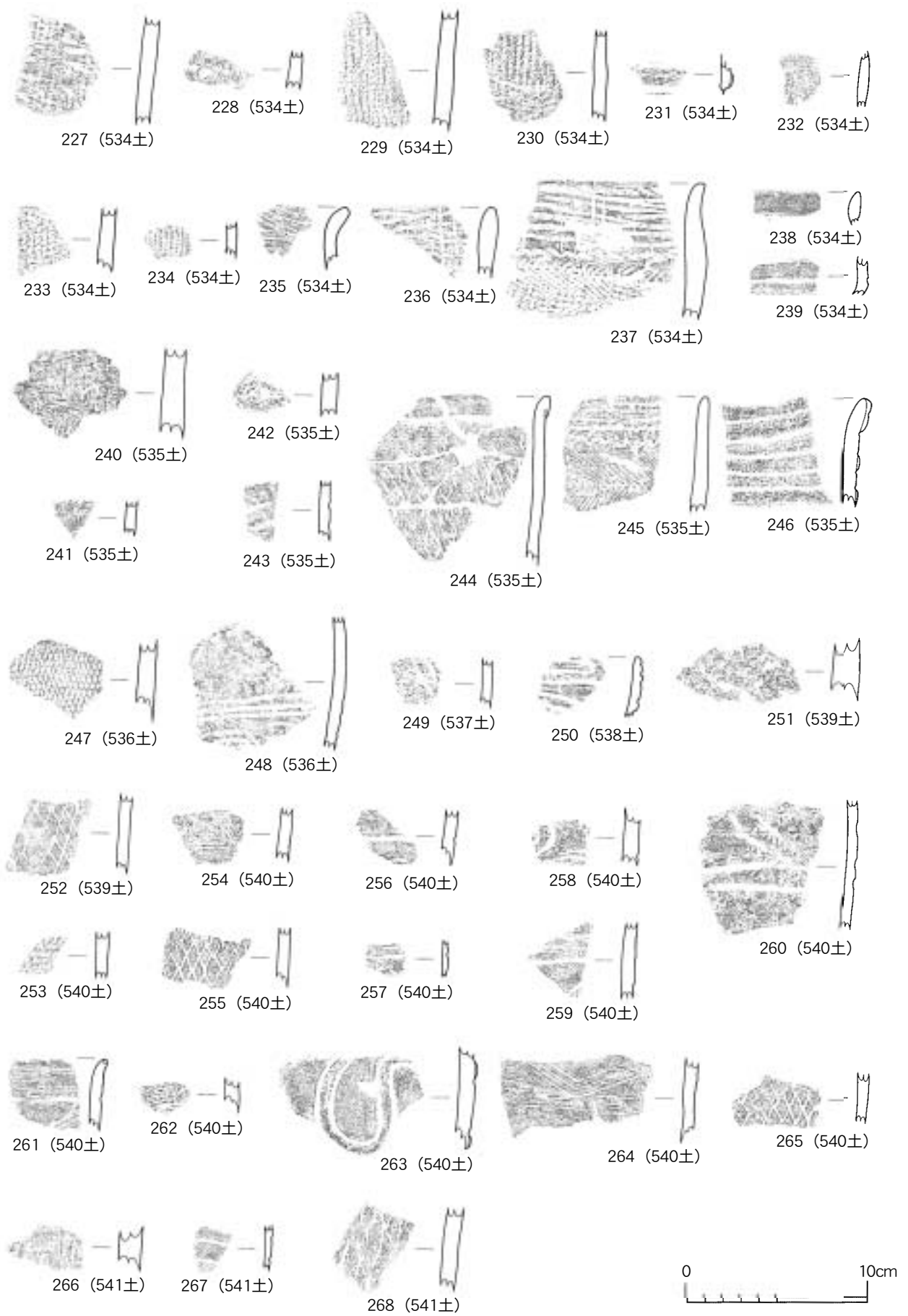
第170図 遺構内出土土器（土坑）（16）



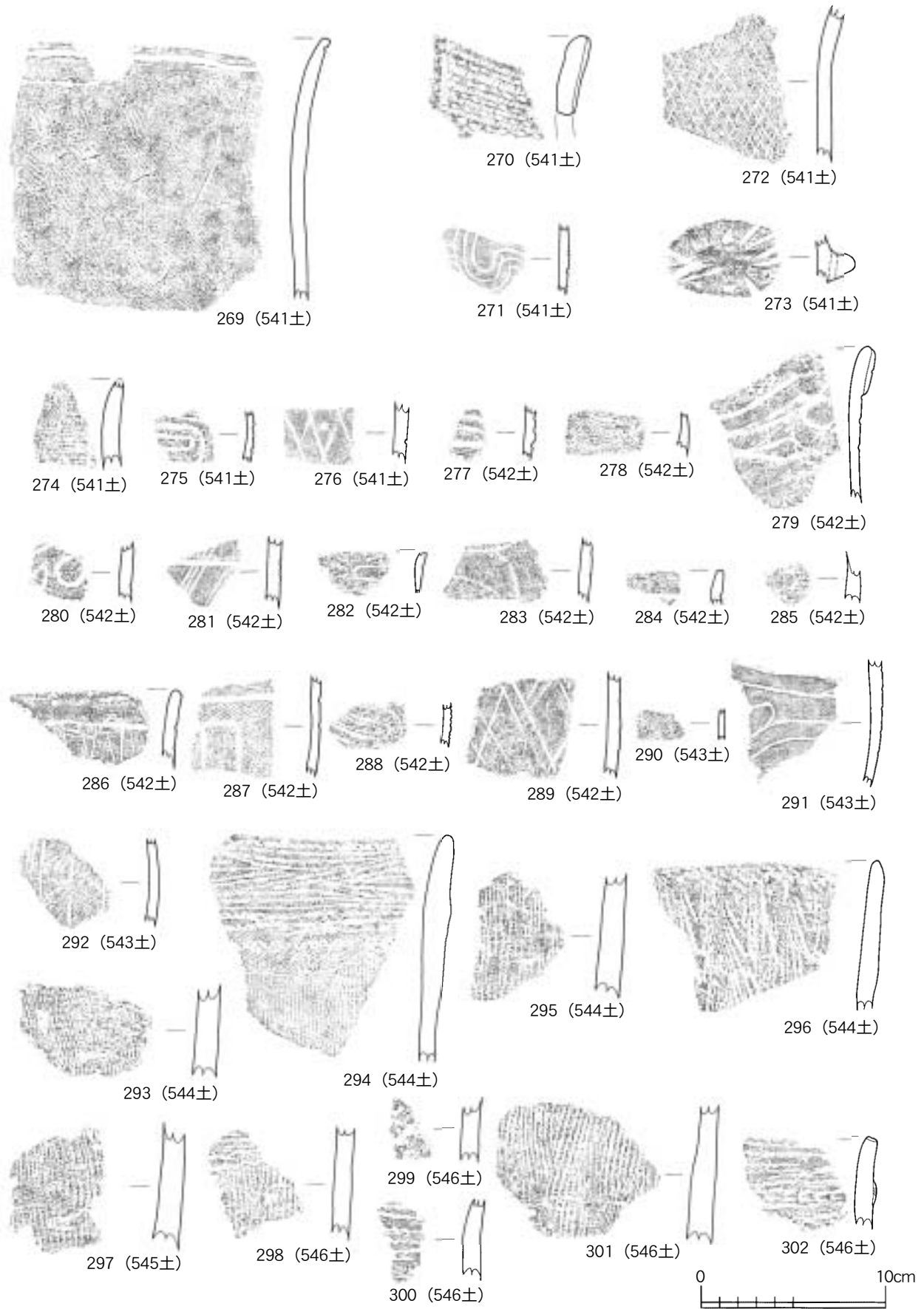
第171図 遺構内出土土器（土坑）（17）



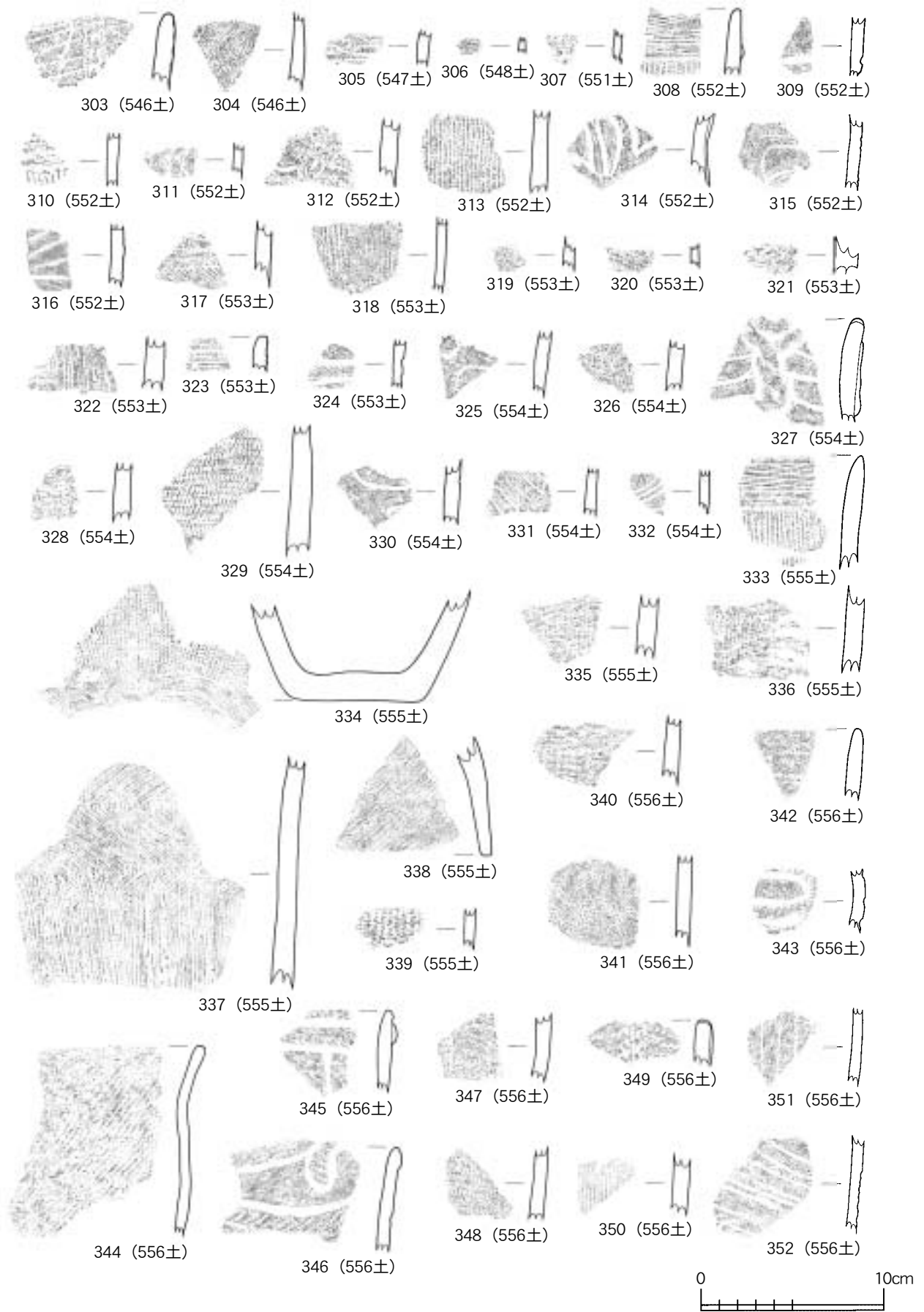
第172図 遺構内出土土器（土坑）（18）



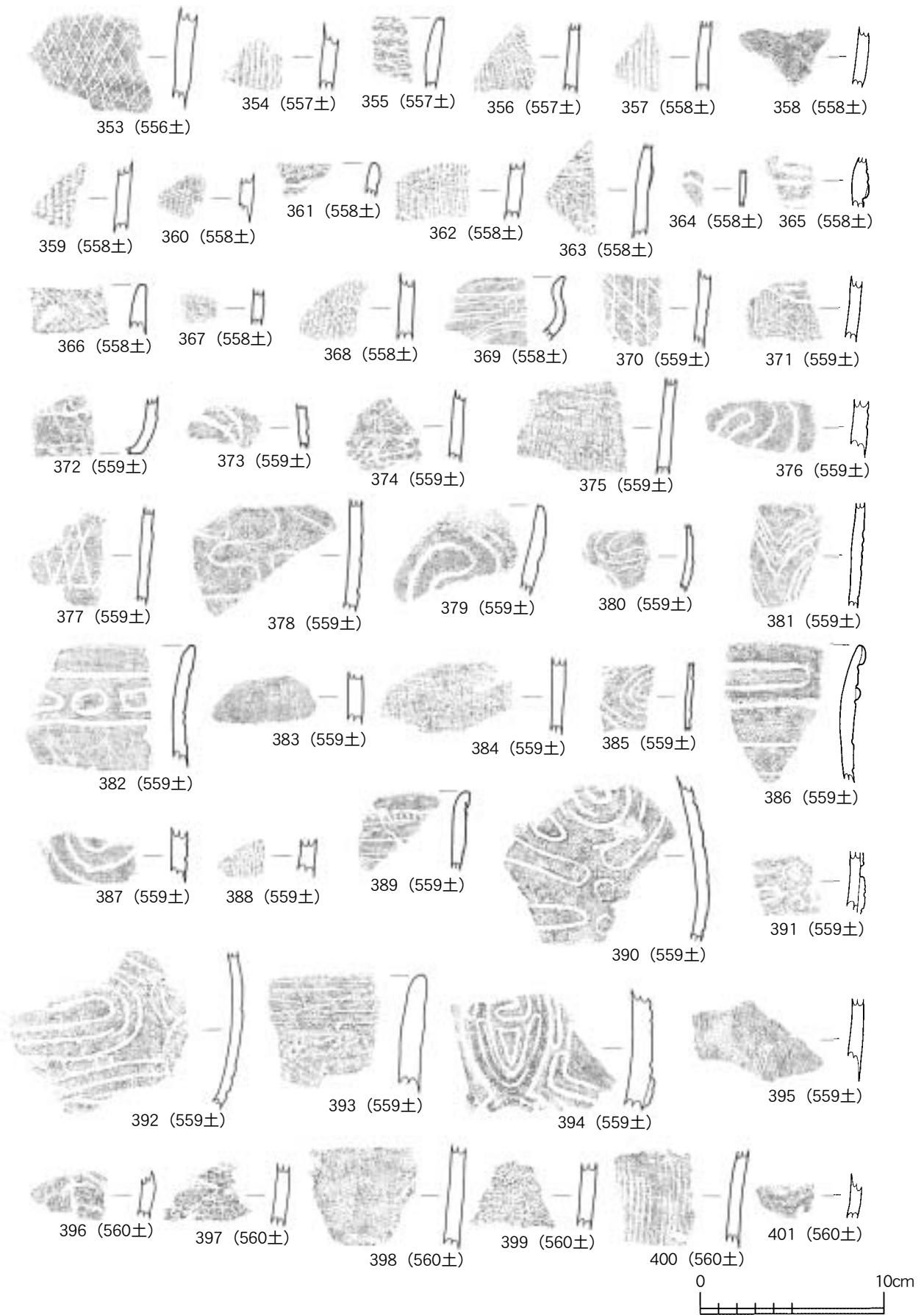
第173図 遺構内出土土器 (土坑) (19)



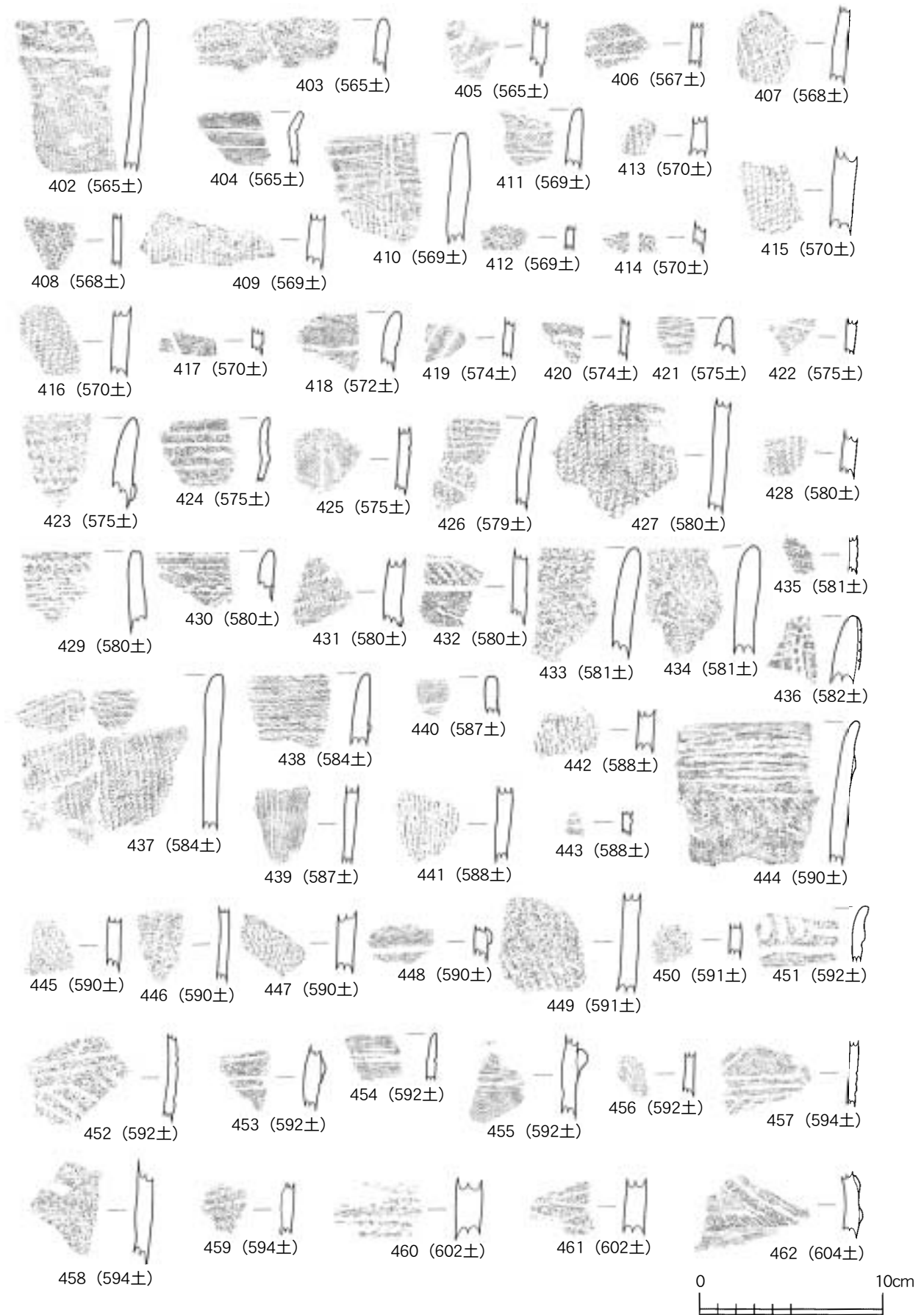
第174図 遺構内出土土器（土坑）(20)



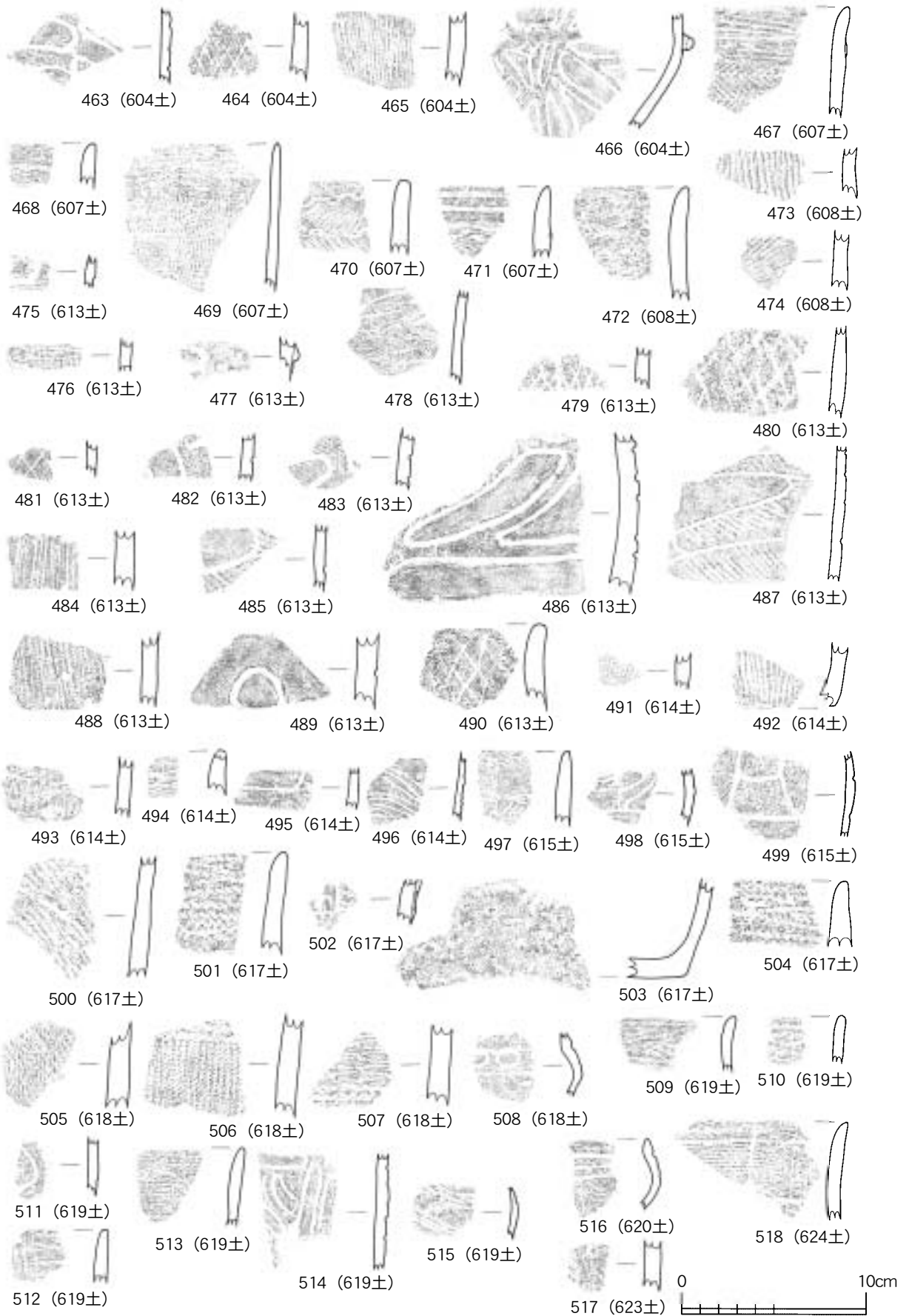
第175図 遺構内出土土器（土坑）(21)



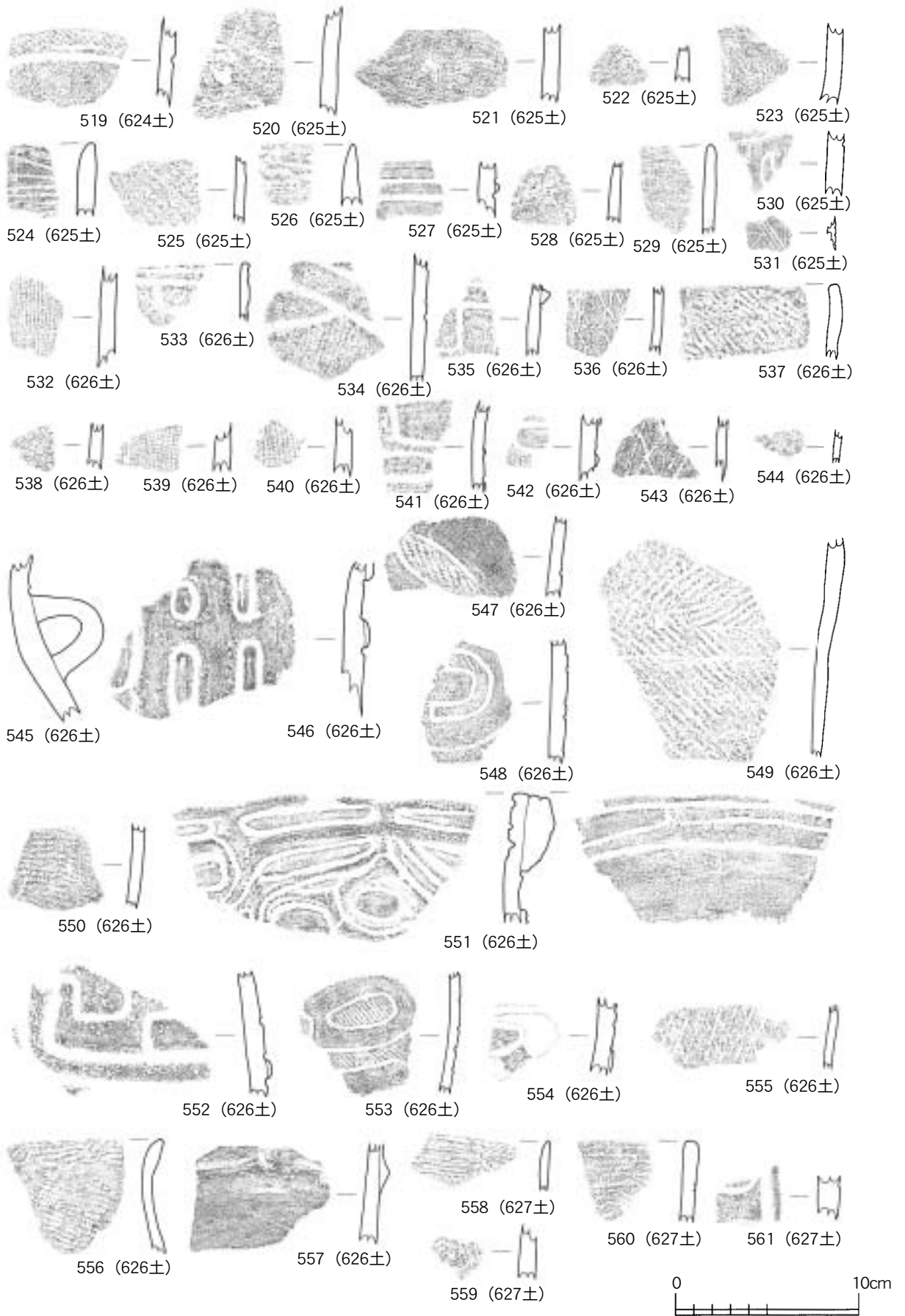
第176図 遺構内出土土器 (土坑) (22)



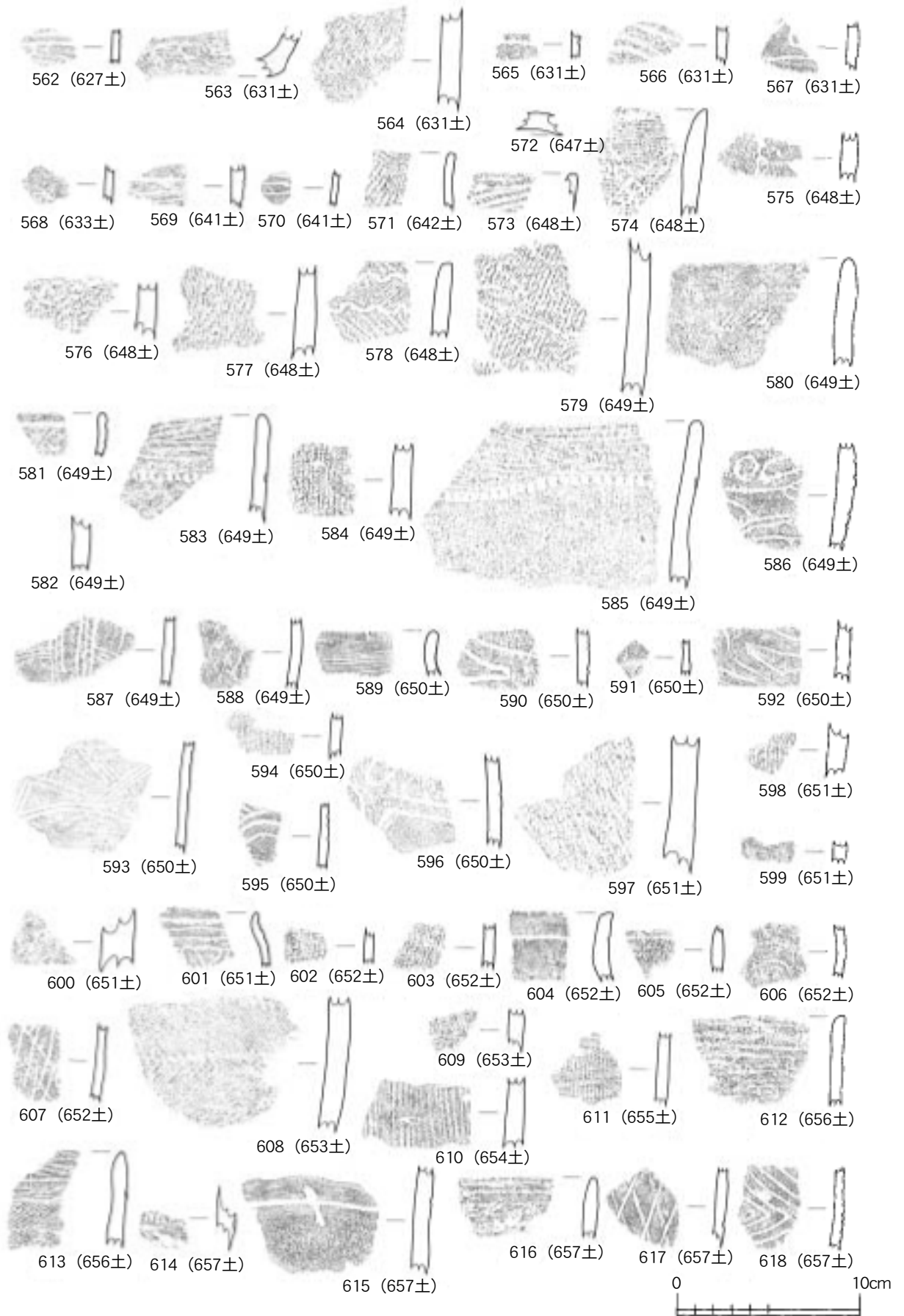
第177図 遺構内出土土器 (土坑) (23)



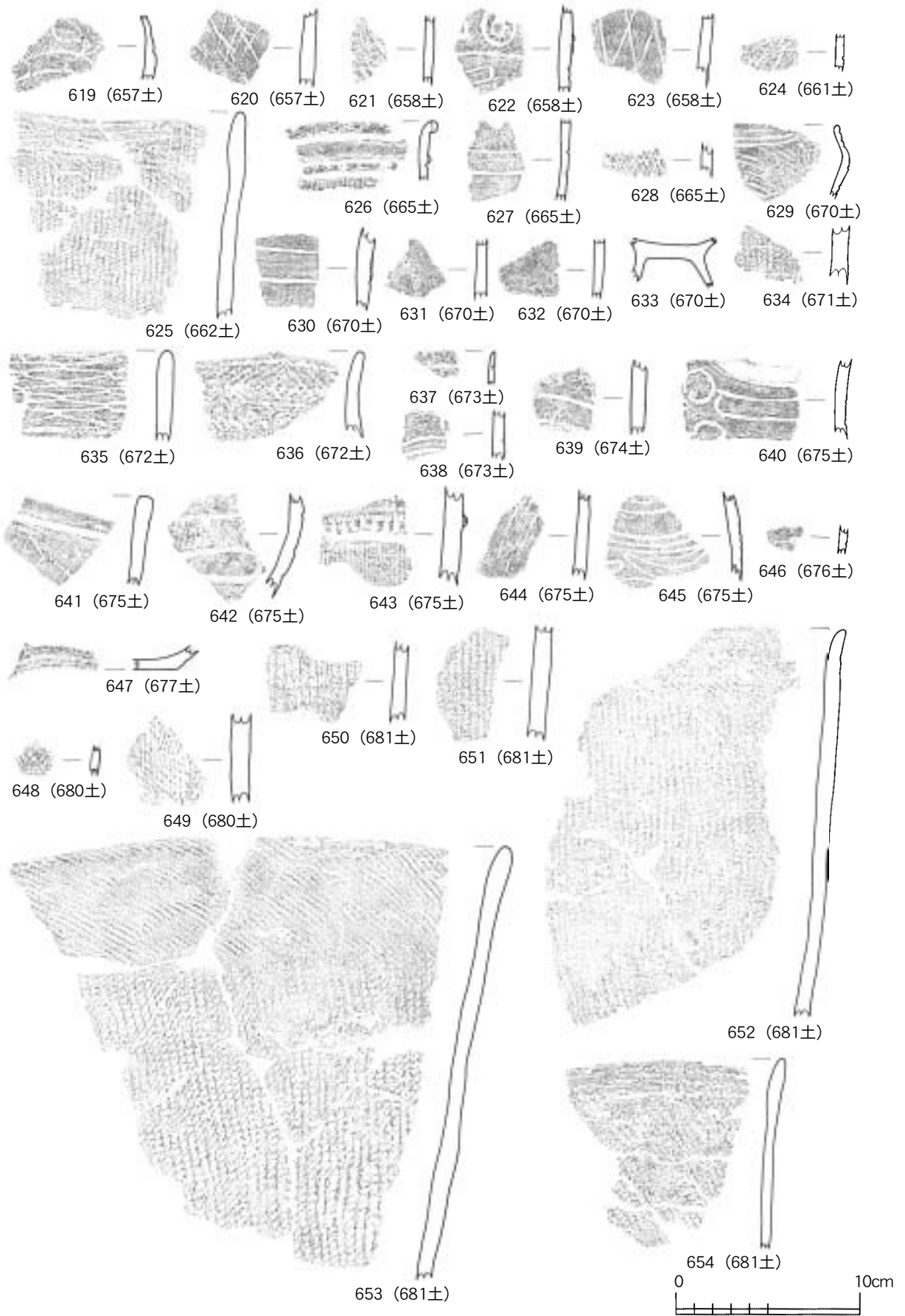
第178図 遺構内出土土器 (土坑) (24)



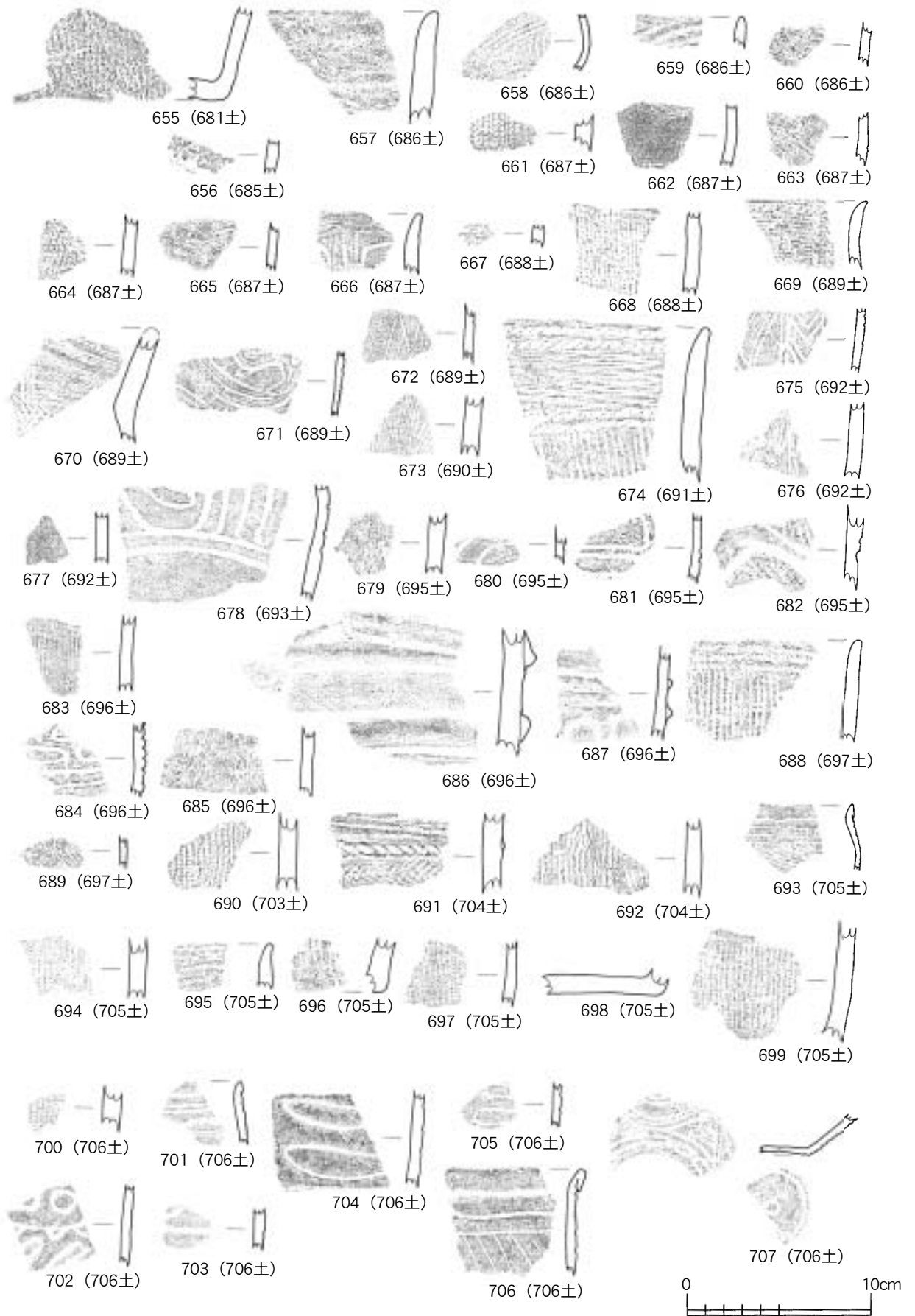
第179図 遺構内出土土器（土坑）(25)



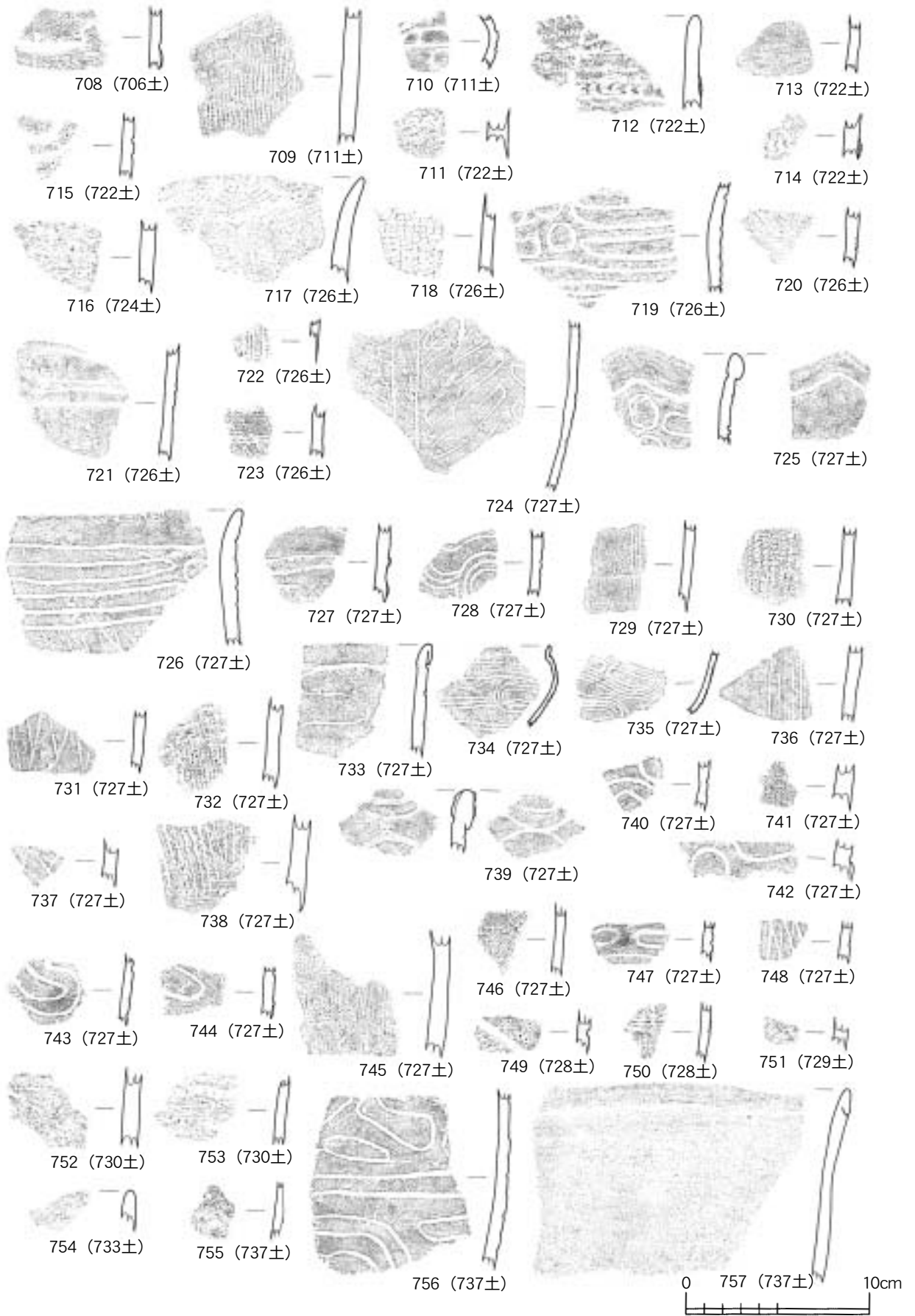
第180図 遺構内出土土器 (土坑) (26)



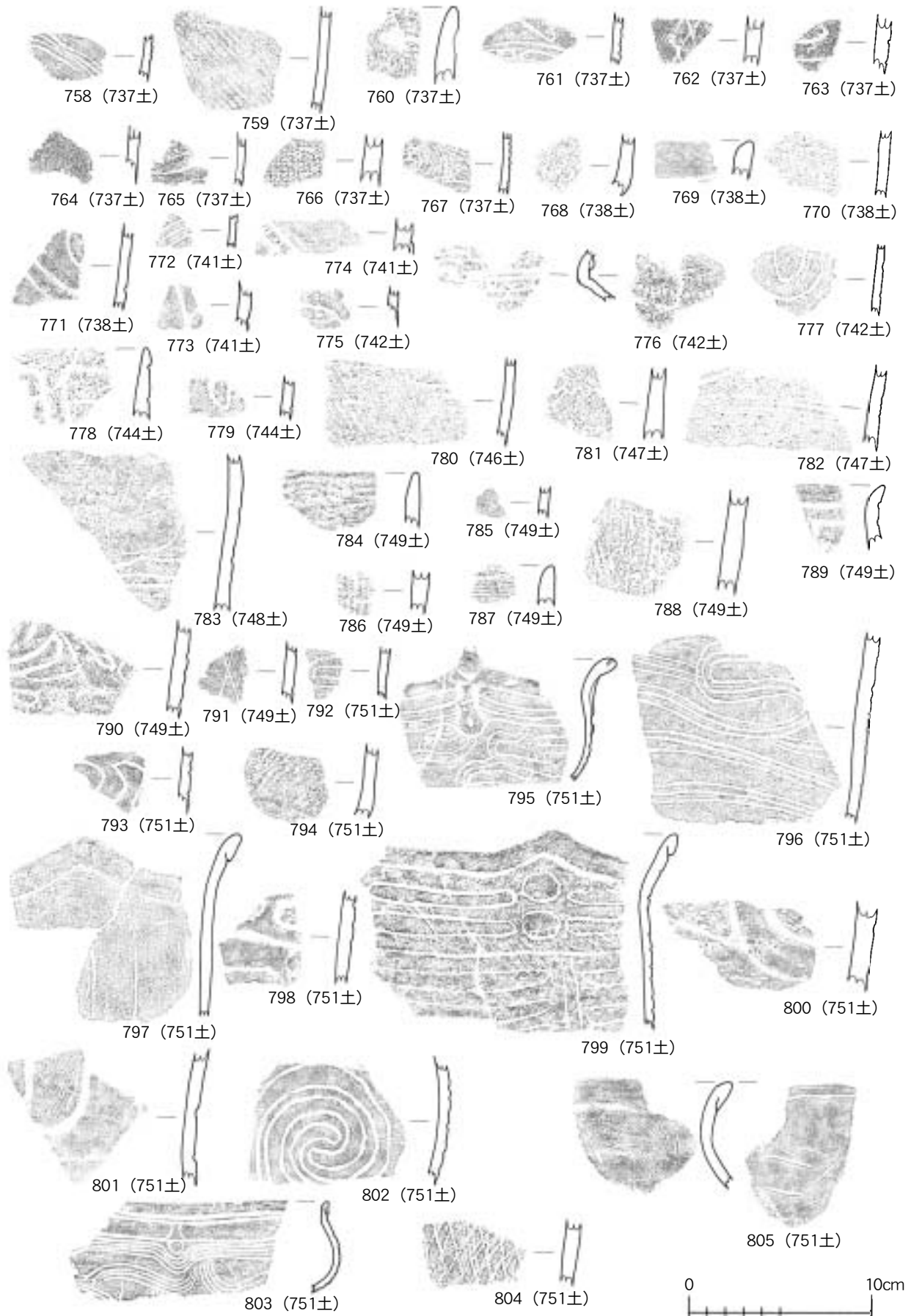
第181図 遺構内出土土器（土坑）(27)



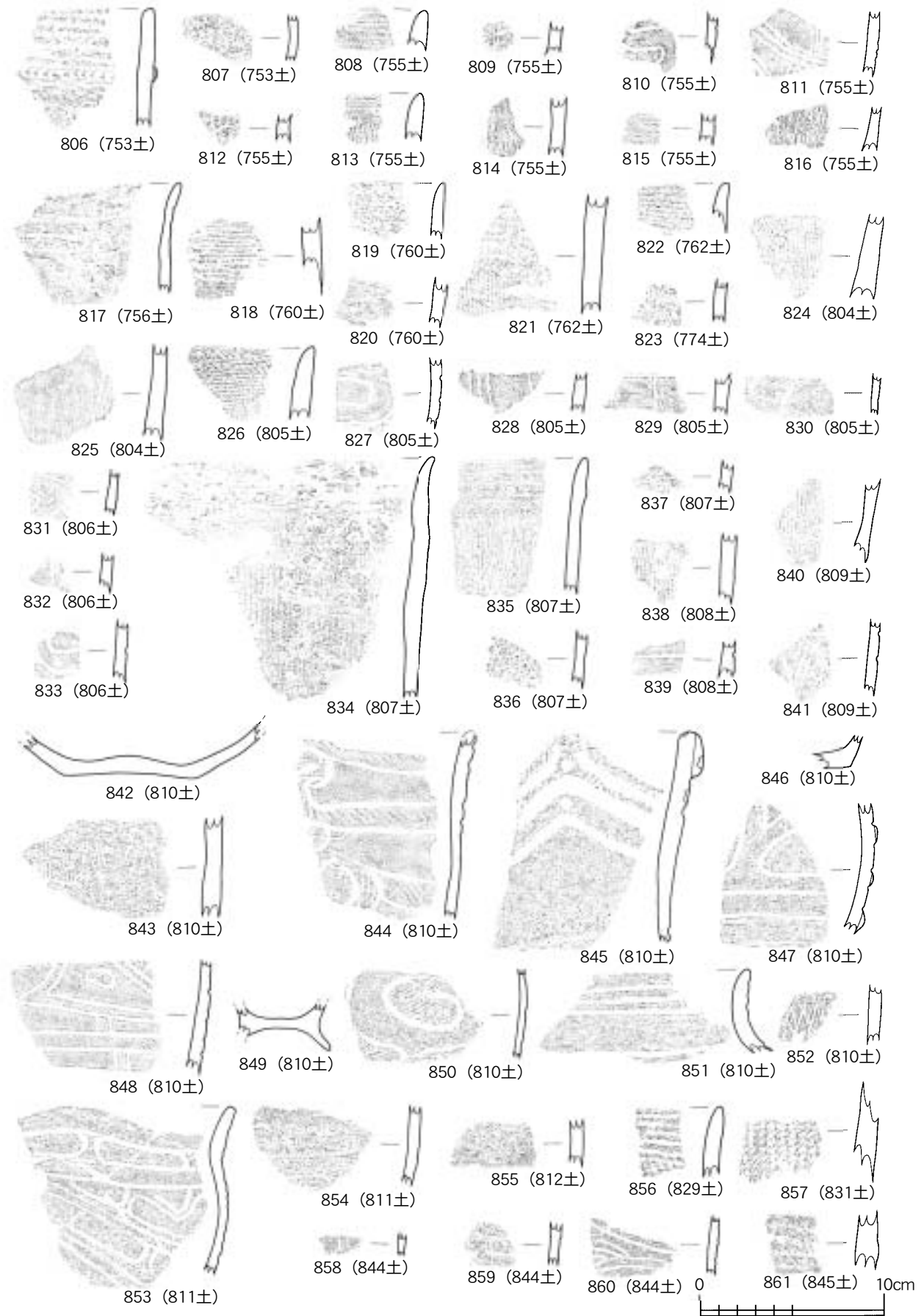
第182図 遺構内出土土器 (土坑) (28)



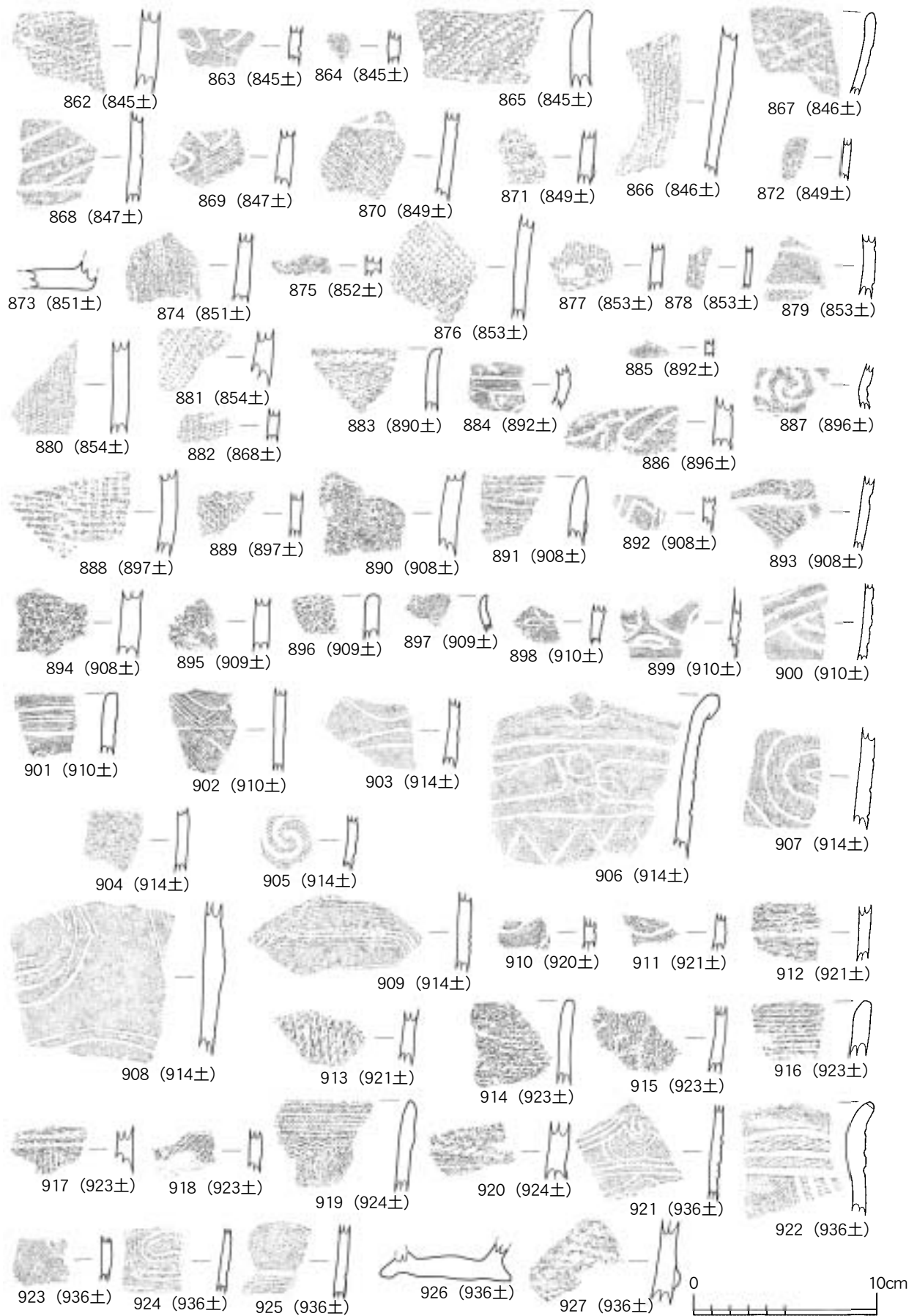
第183図 遺構内出土土器（土坑）(29)



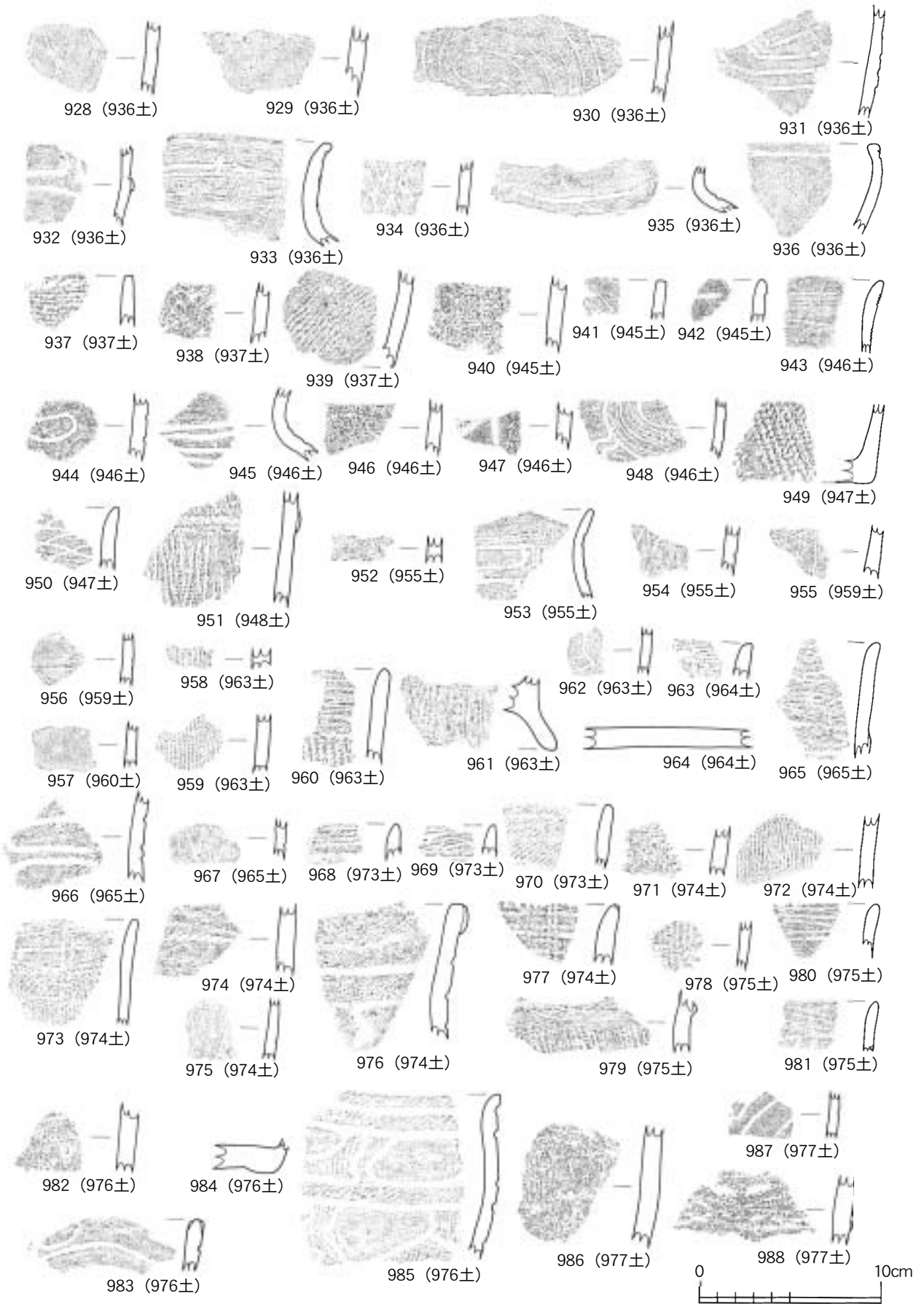
第184図 遺構内出土土器 (土坑) (30)



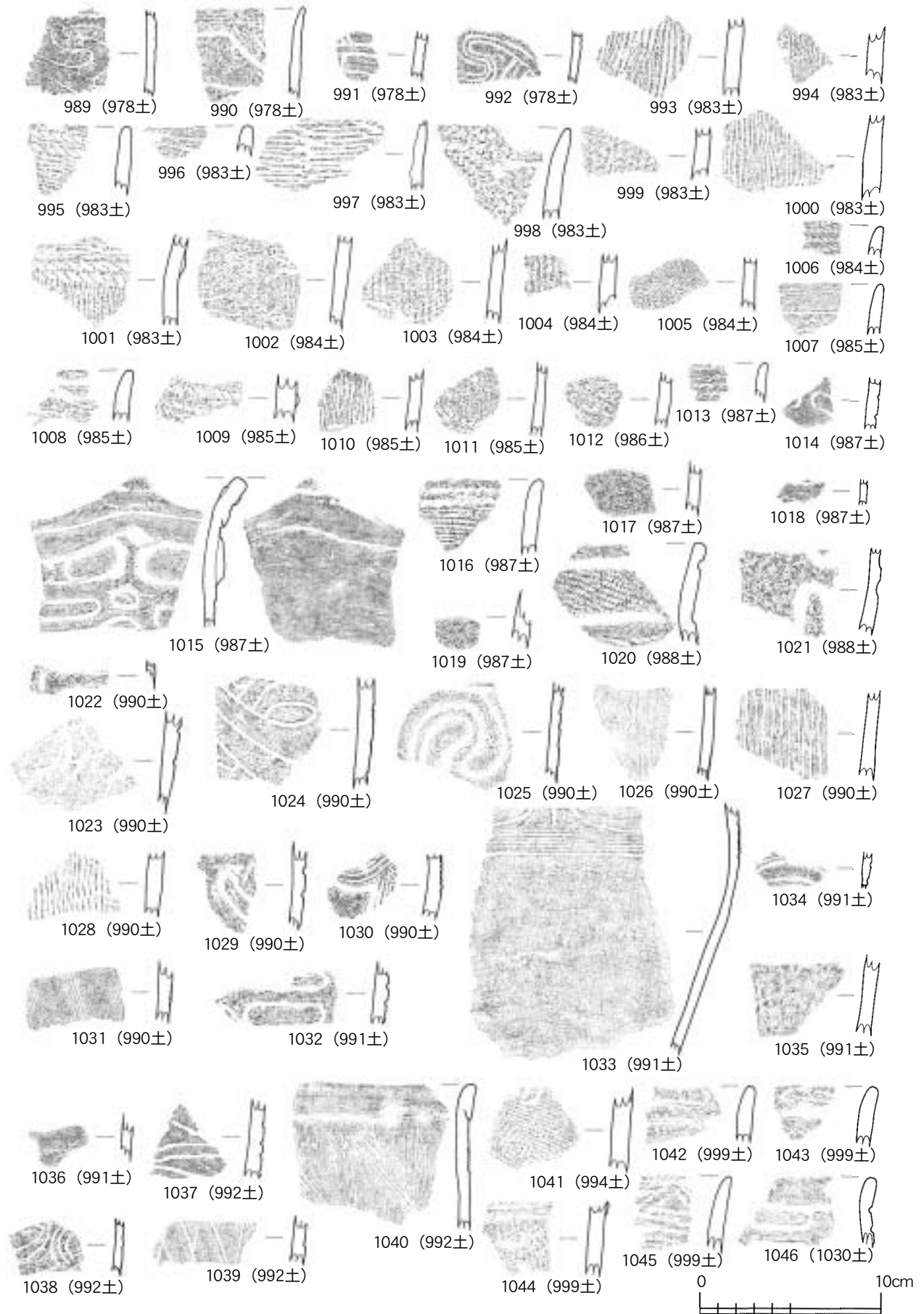
第185図 遺構内出土土器（土坑）(31)



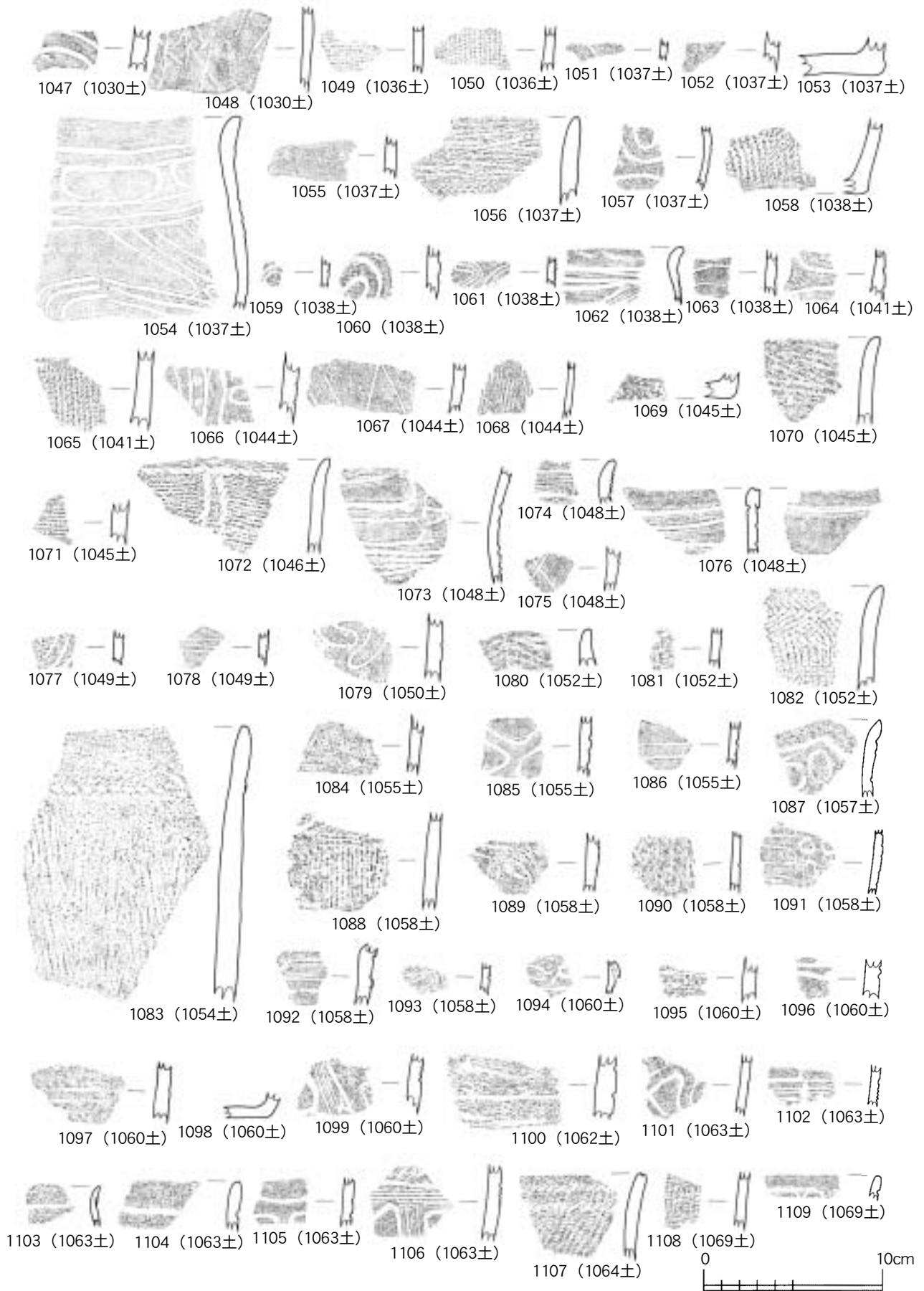
第186図 遺構内出土土器 (土坑) (32)



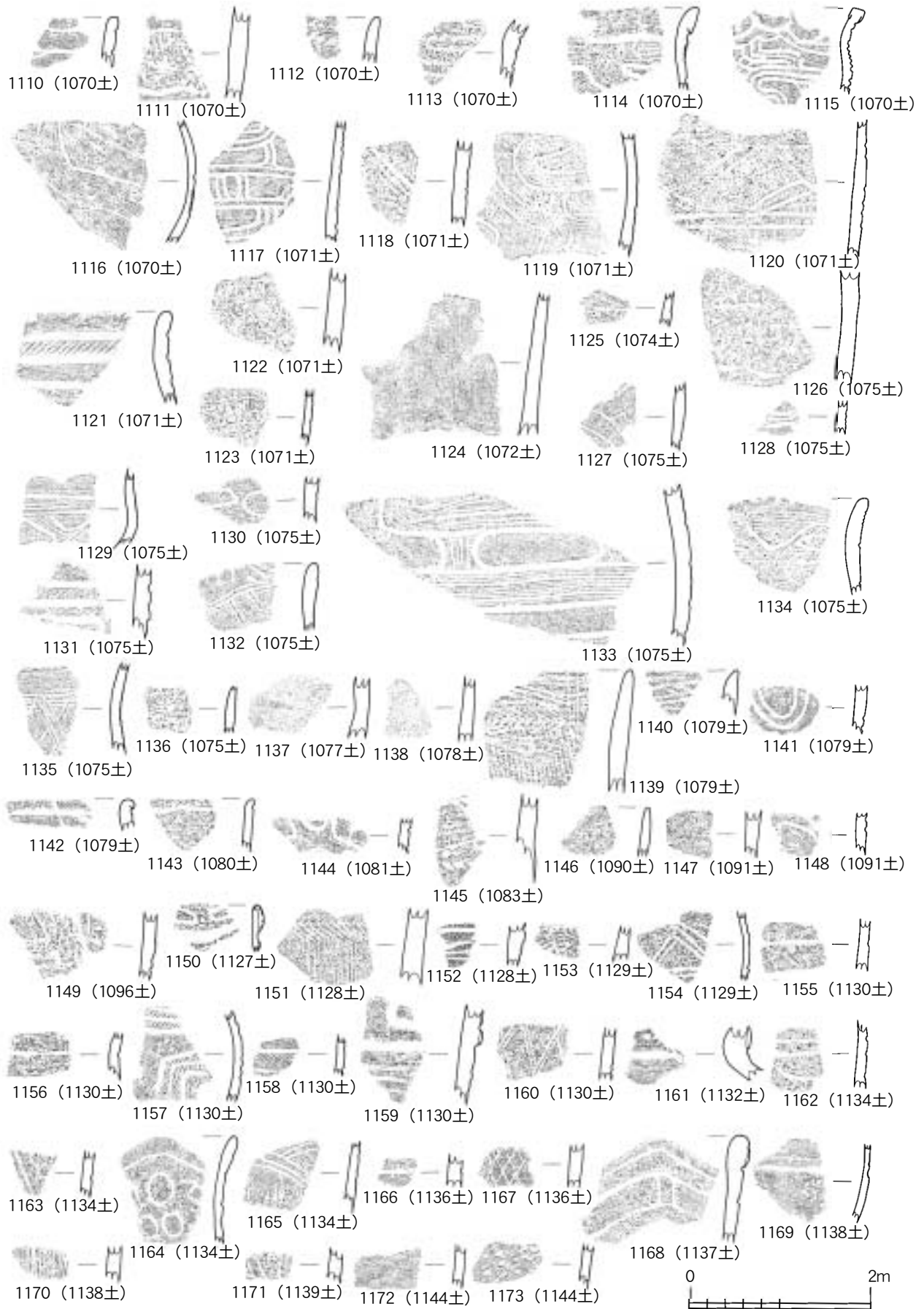
第187図 遺構内出土土器（土坑）(33)



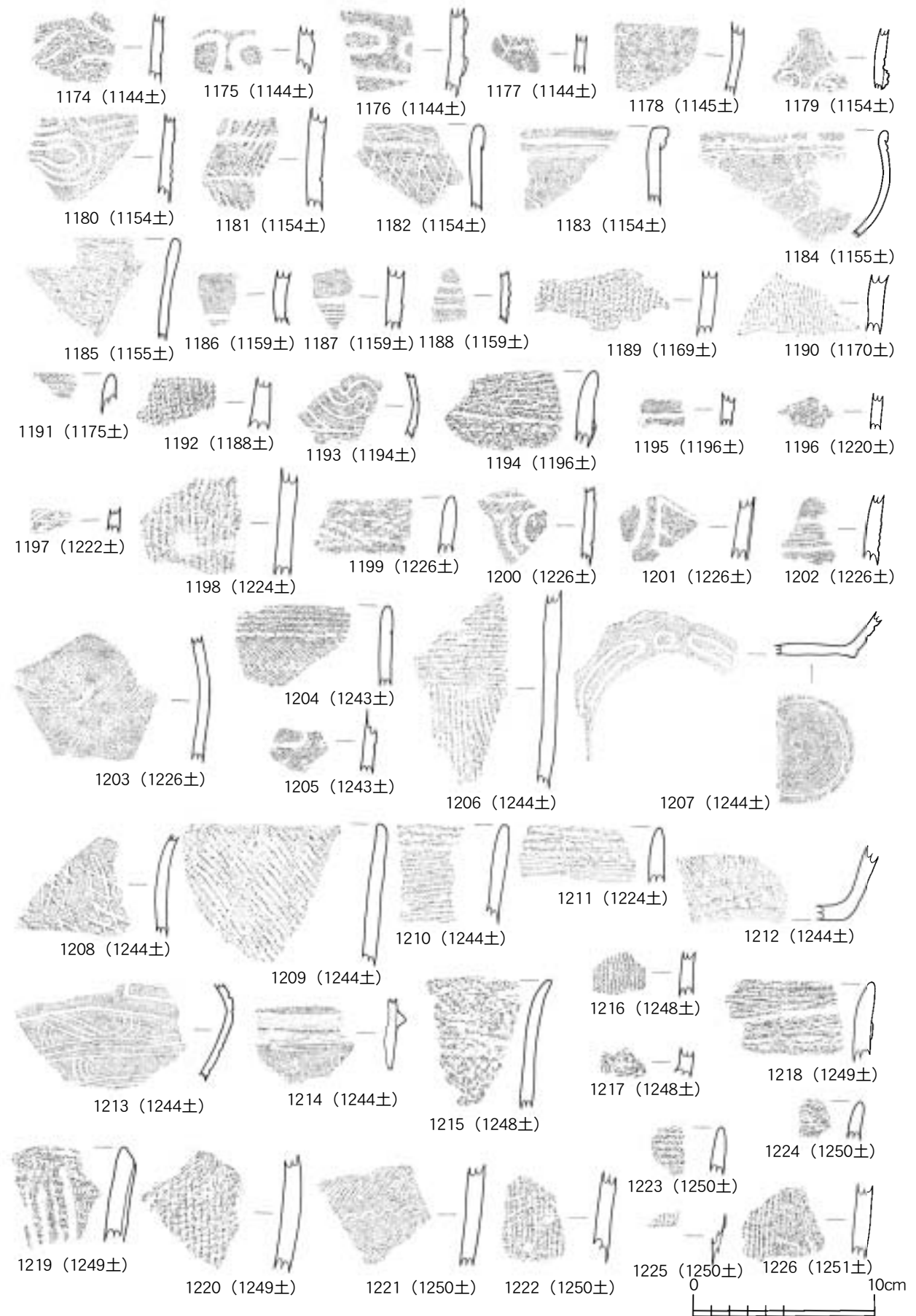
第188図 遺構内出土土器 (土坑) (34)



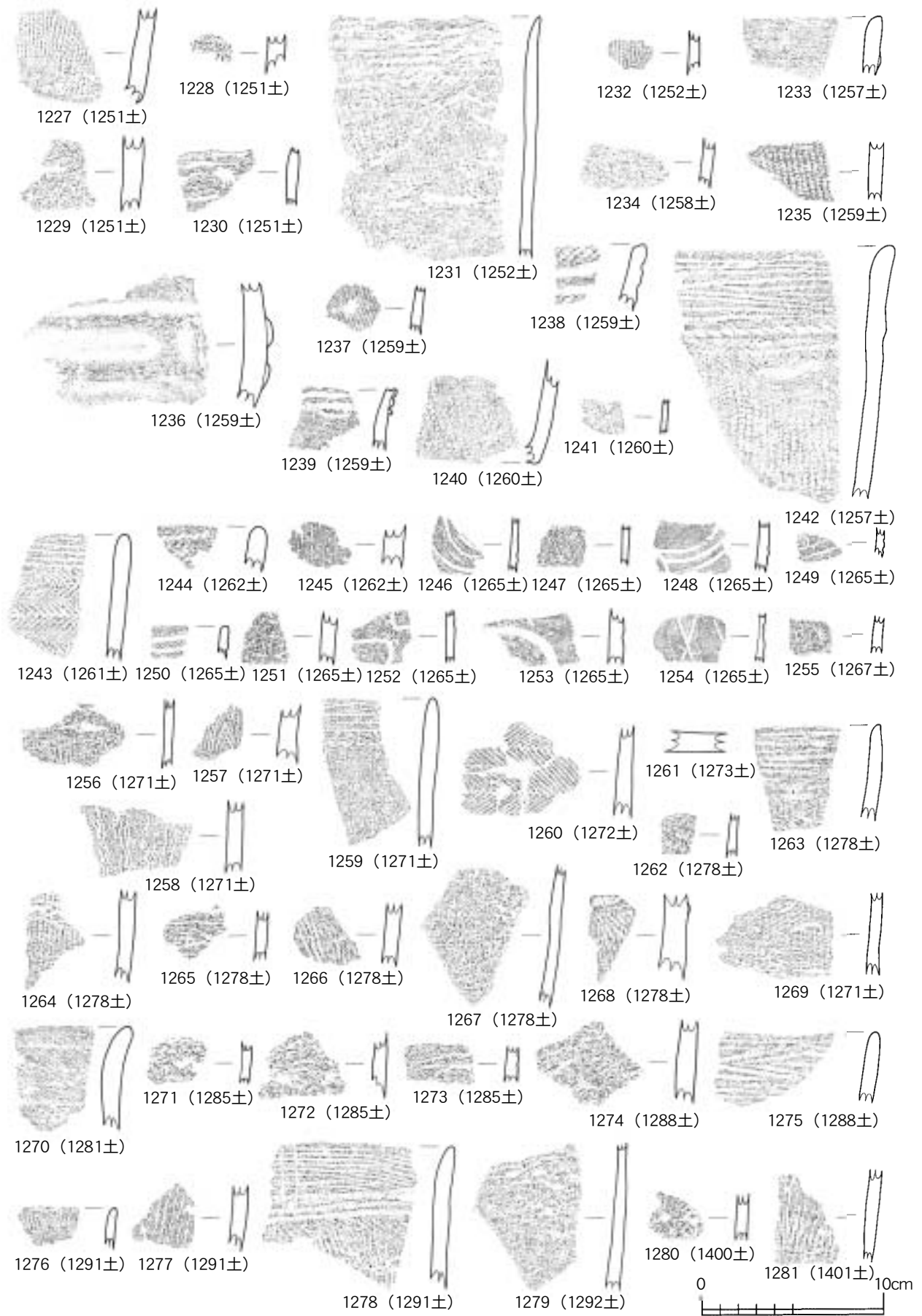
第189図 遺構内出土土器 (土坑) (35)



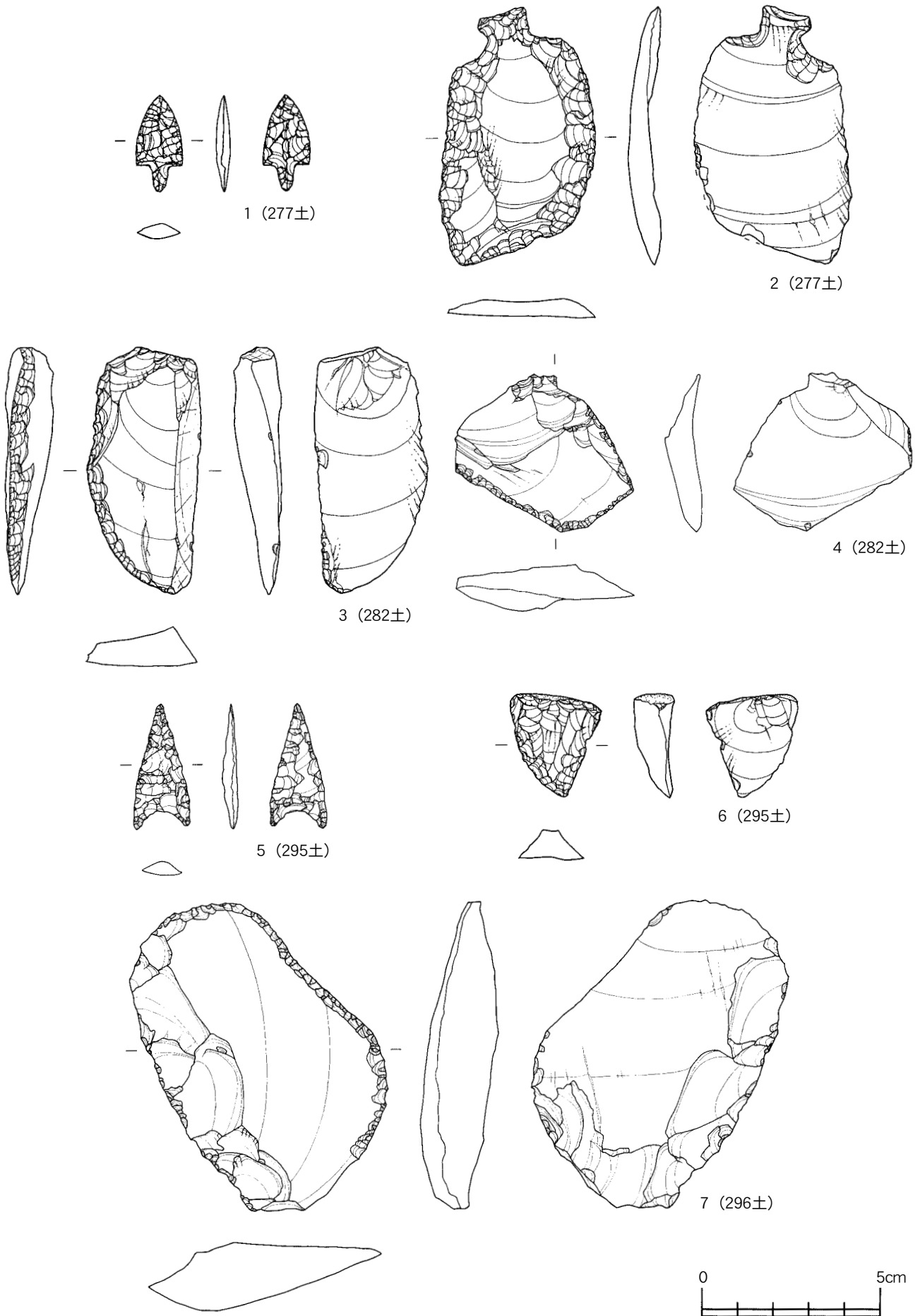
第190図 遺構内出土土器 (土坑) (36)



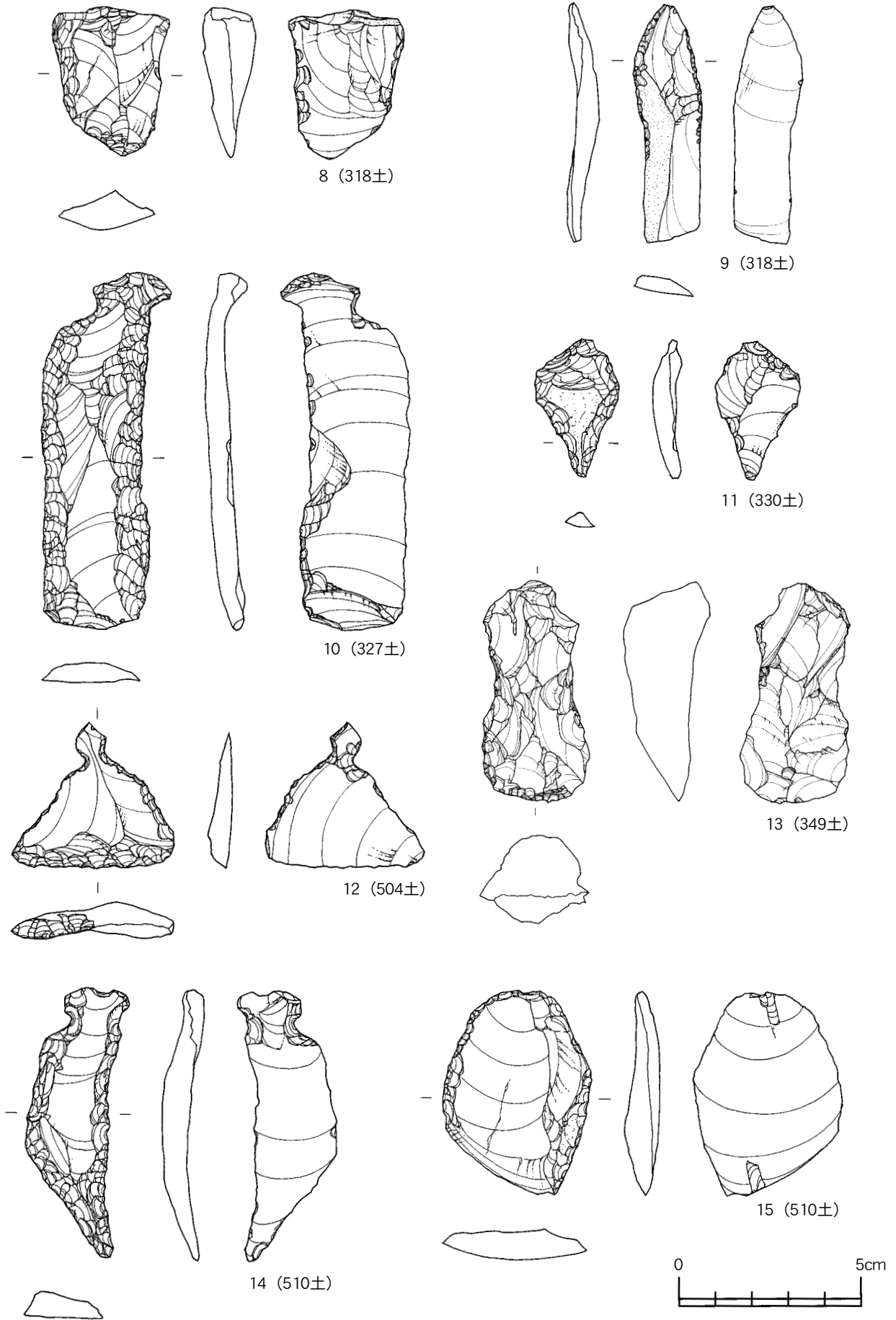
第191図 遺構内出土土器 (37)



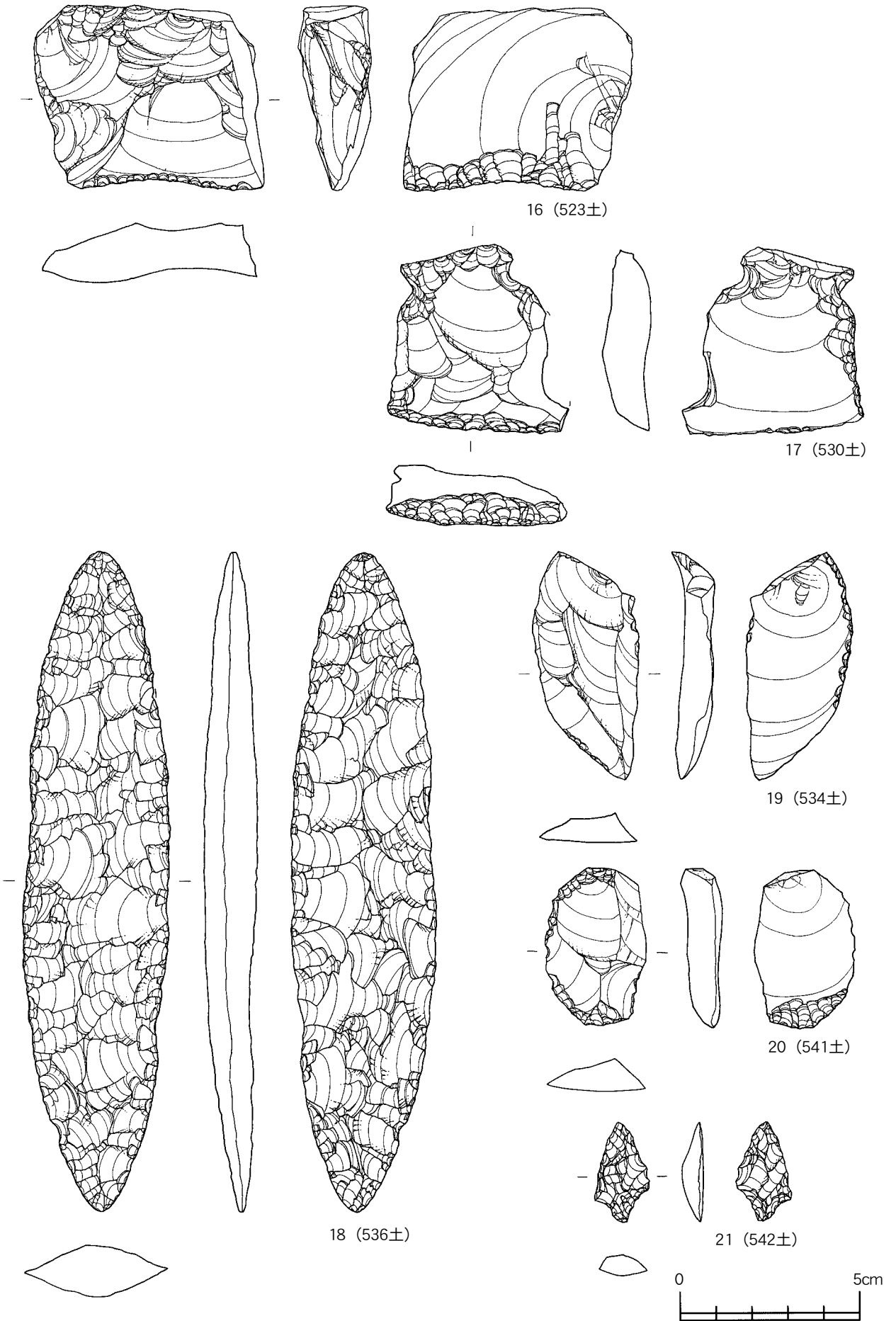
第192図 遺構内出土土器 (38)



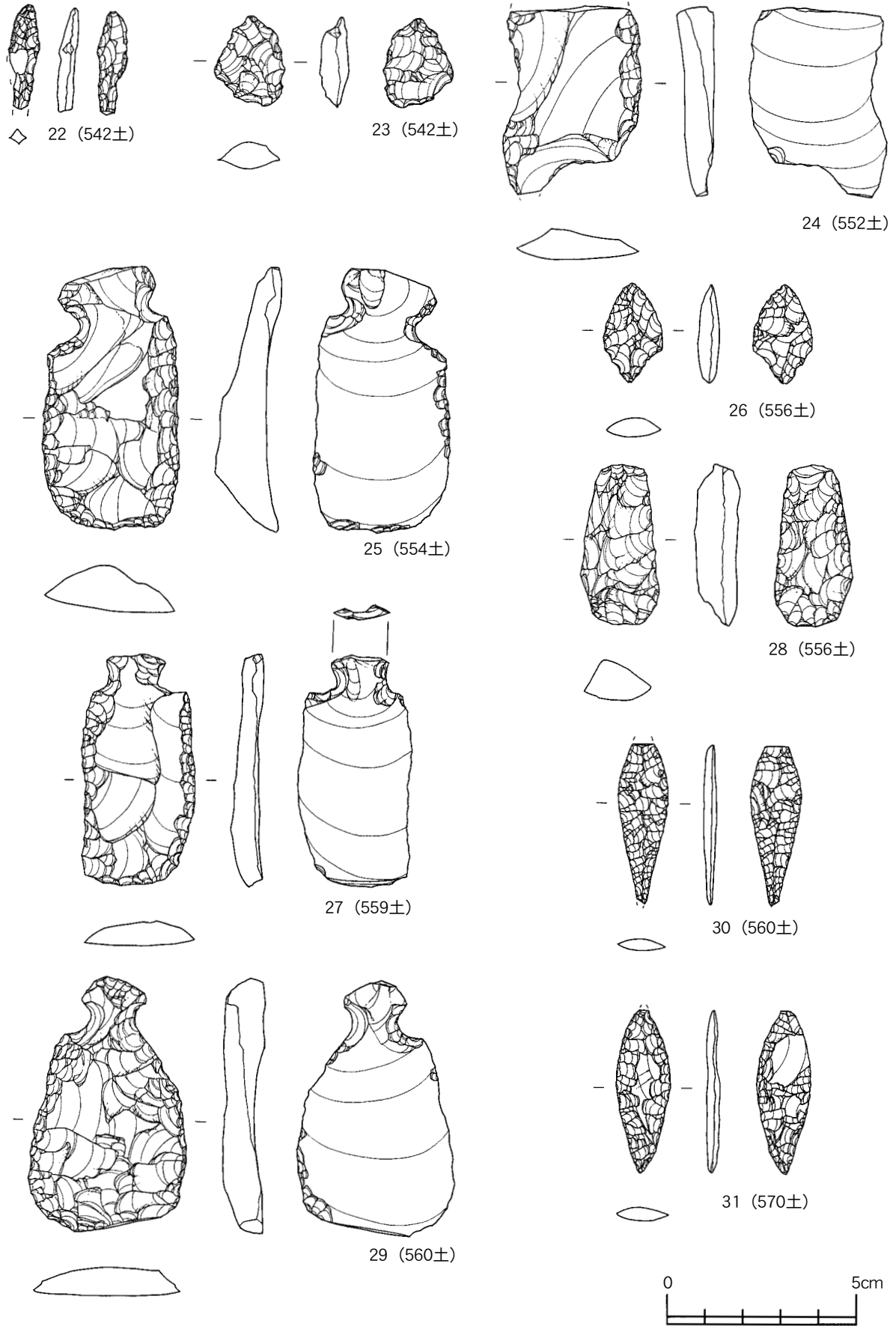
第193図 遺構内出土石器（土坑）(1)



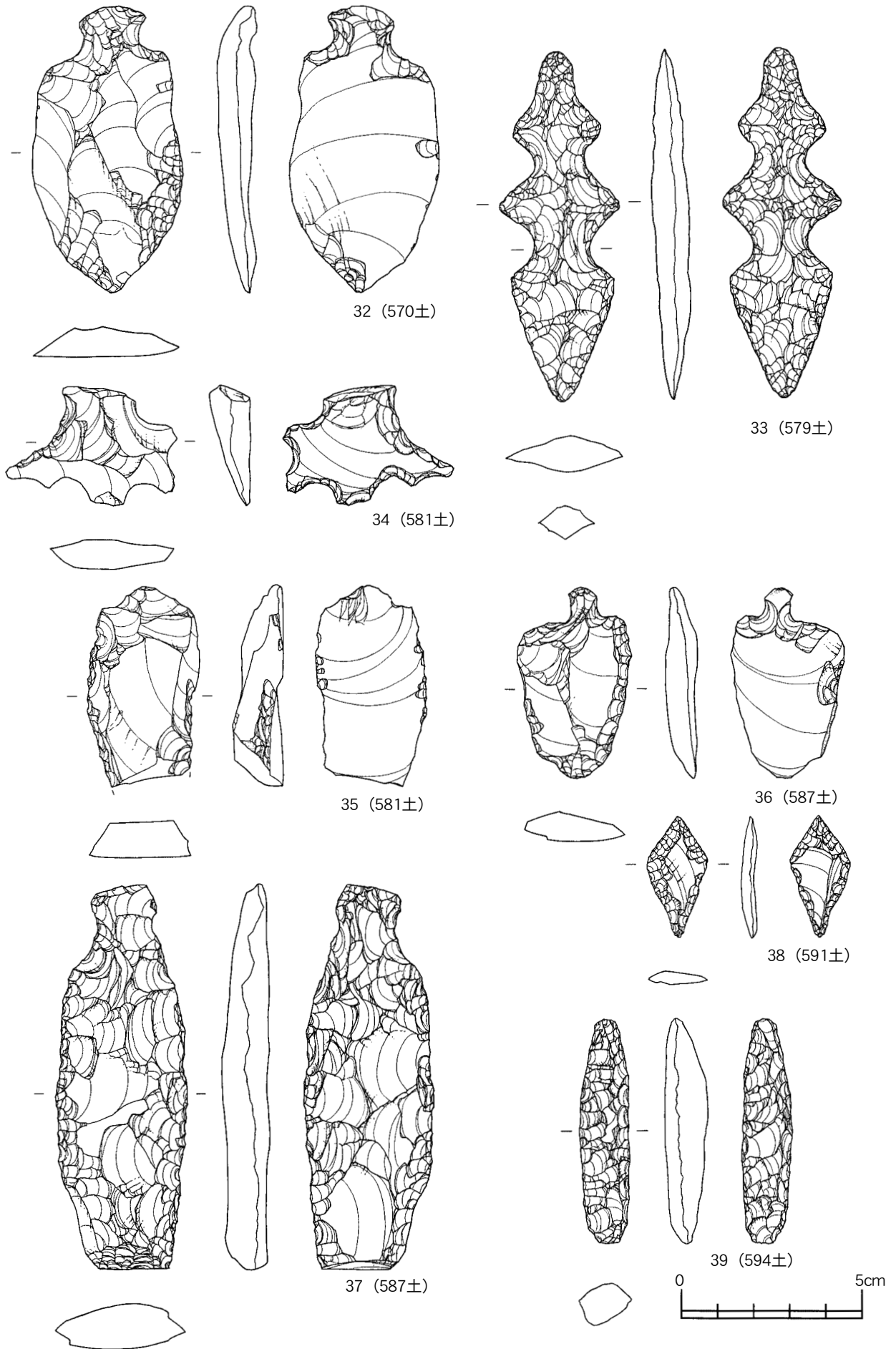
第194図 遺構内出土石器（土坑）(2)



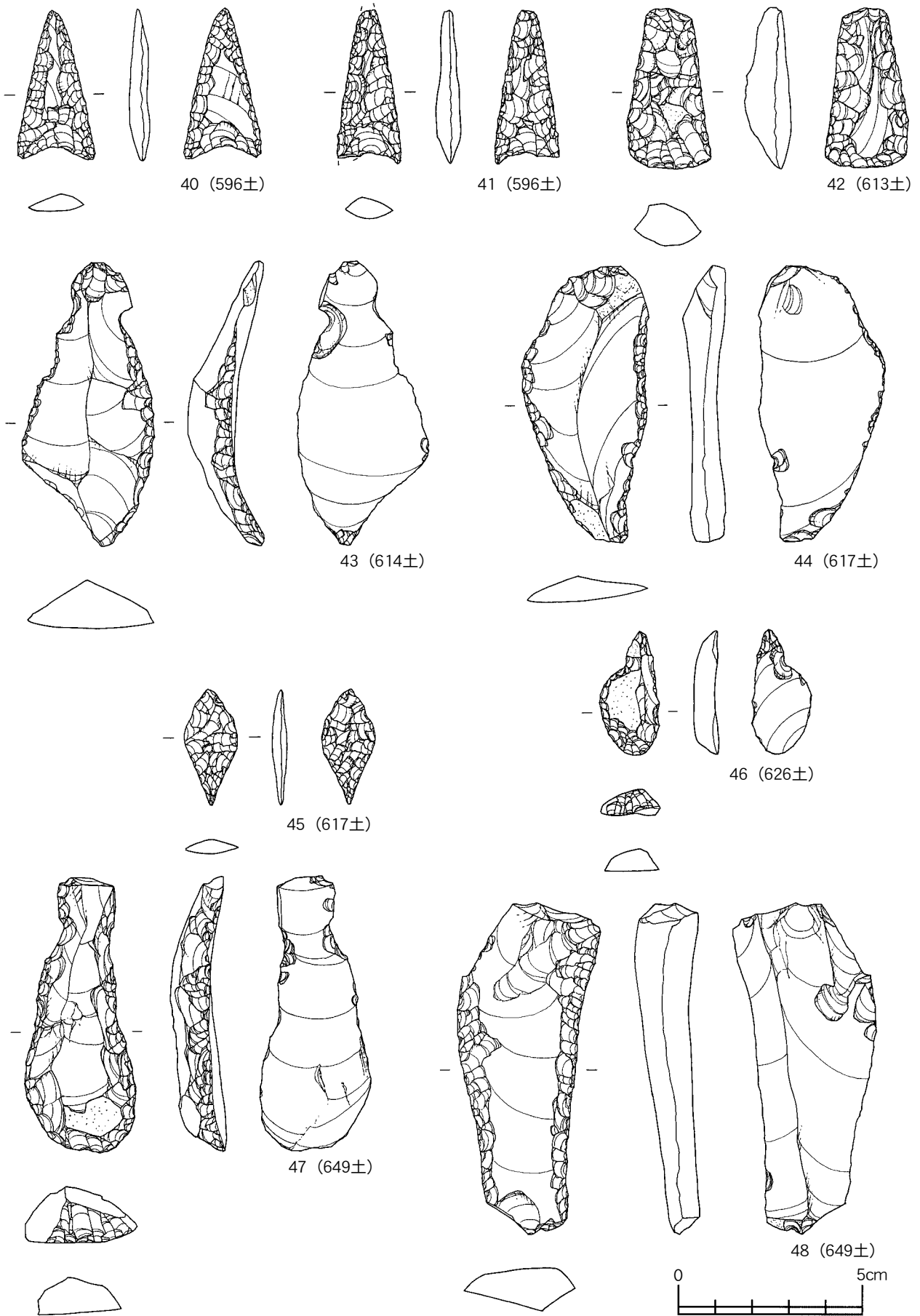
第195図 遺構内出土石器（土坑）(3)



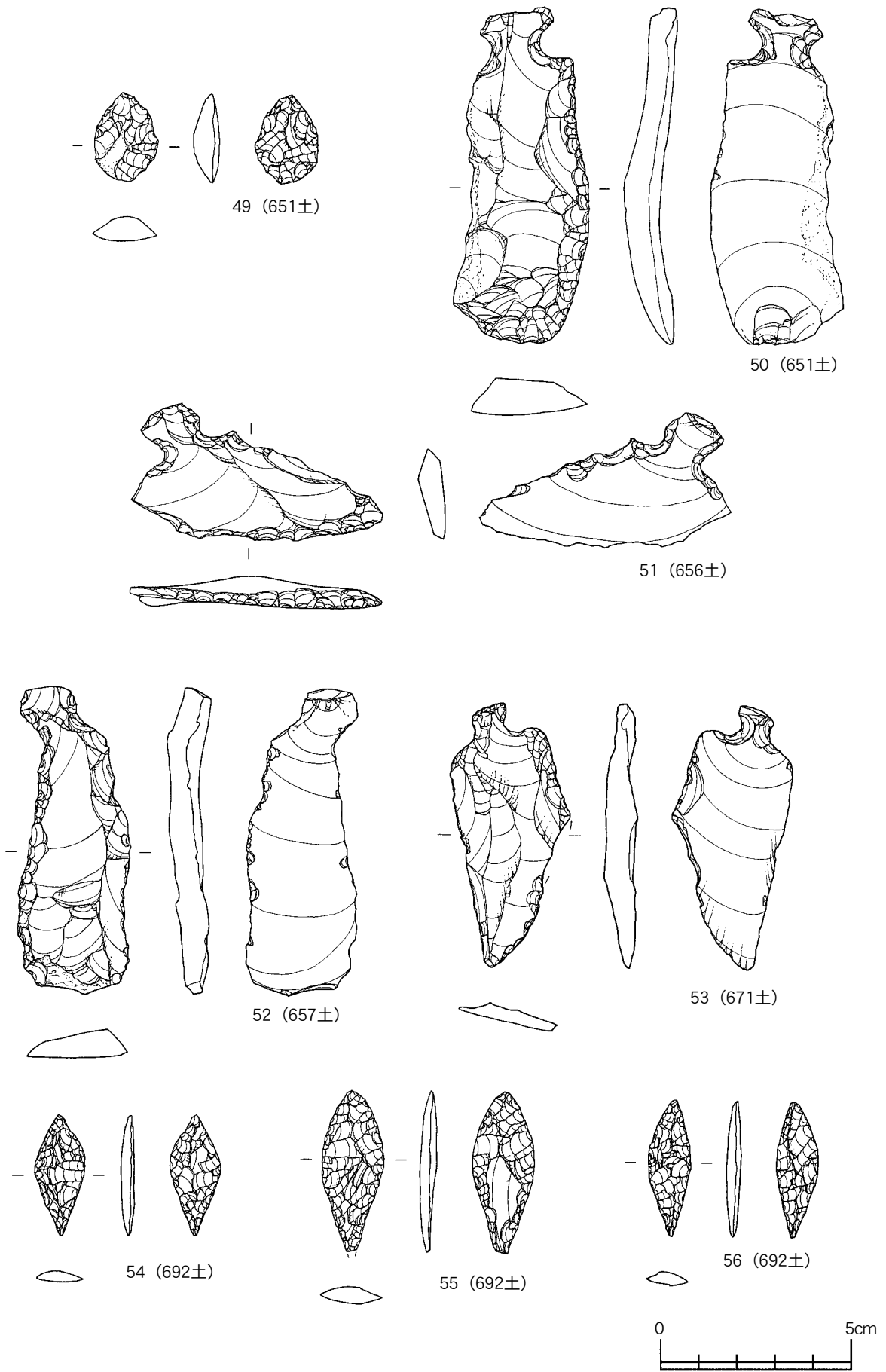
第196図 遺構内出土石器（土坑）（4）



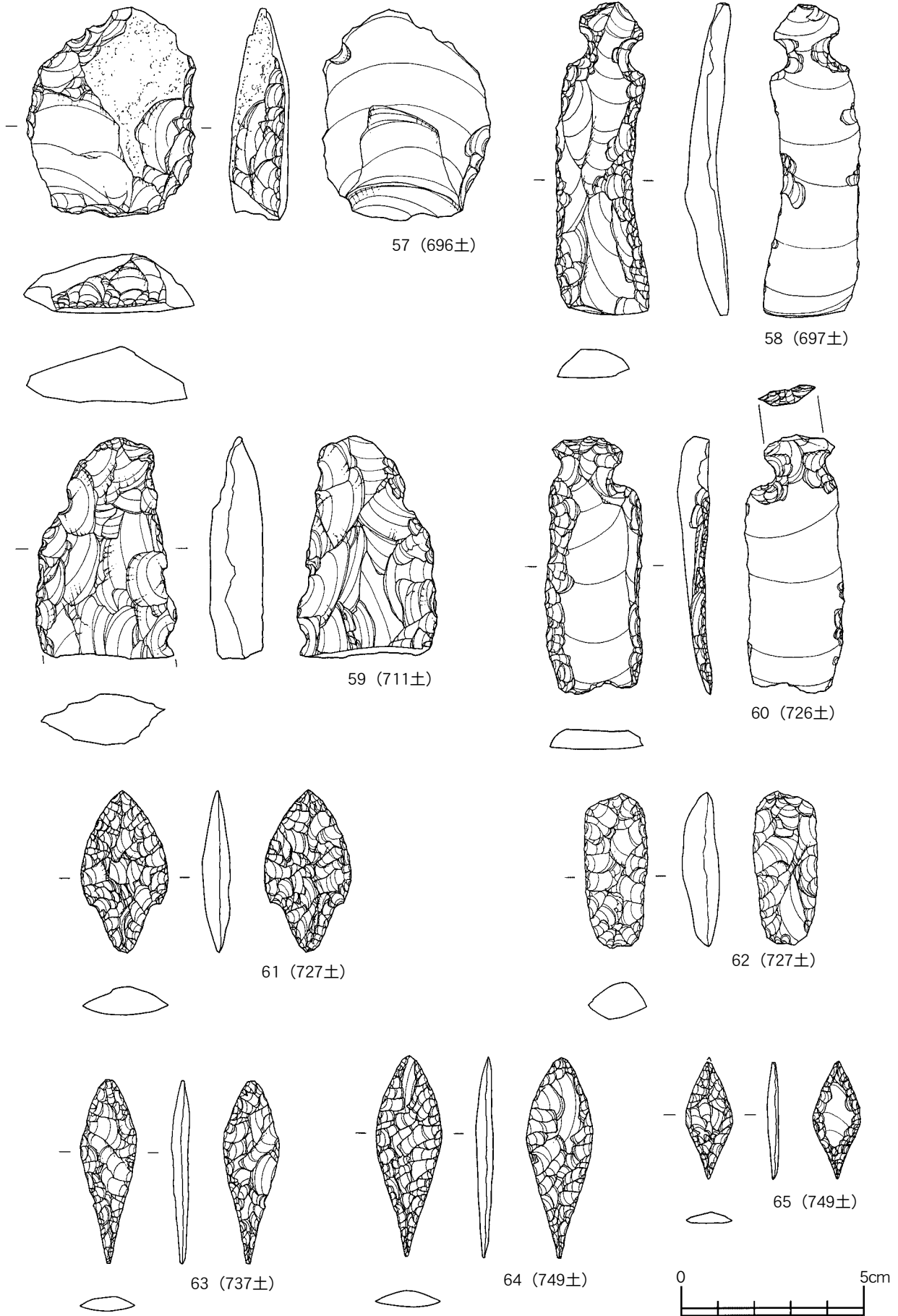
第197図 遺構内出土石器（土坑）(5)



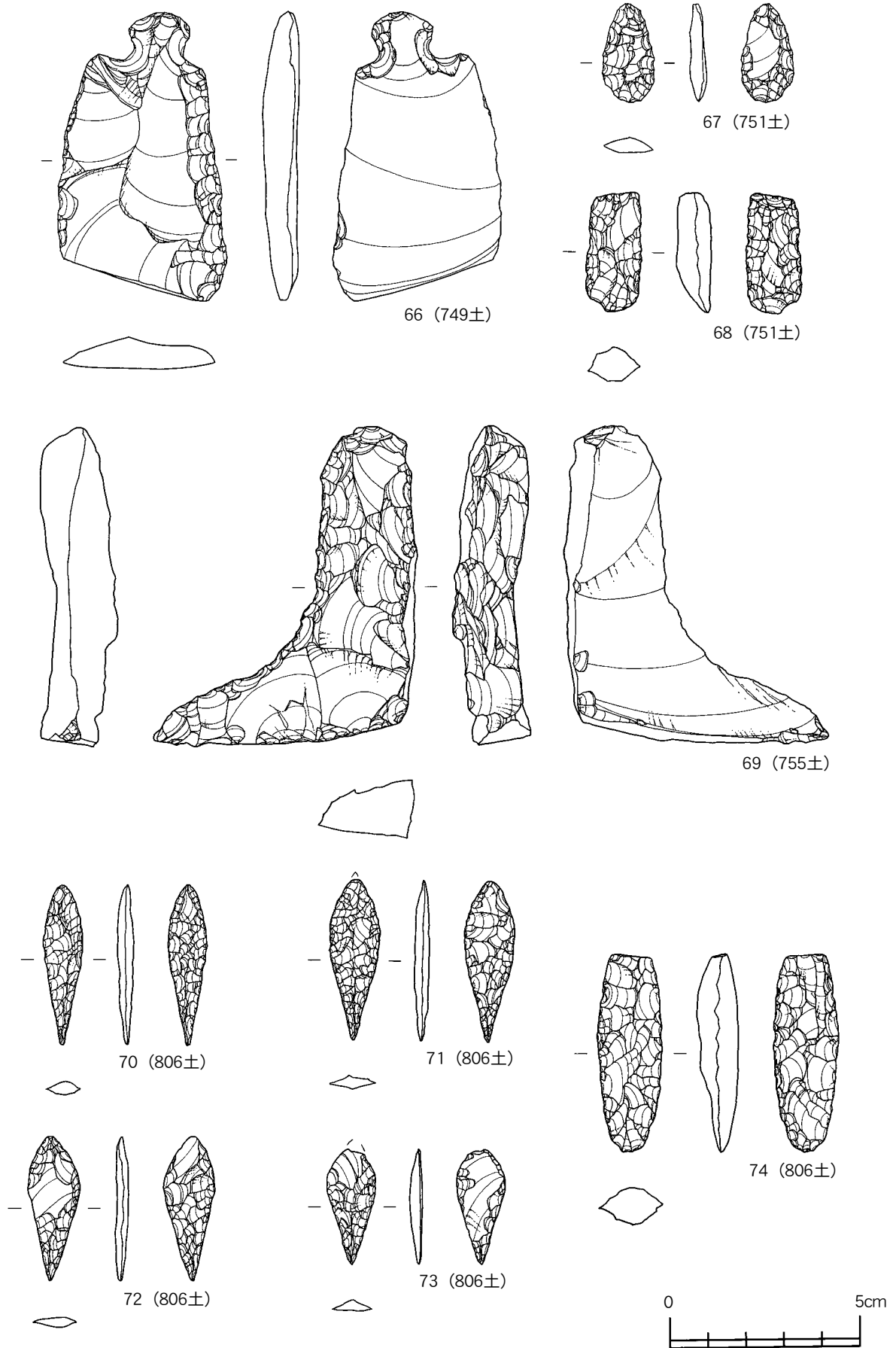
第198図 遺構内出土石器（土坑）(6)



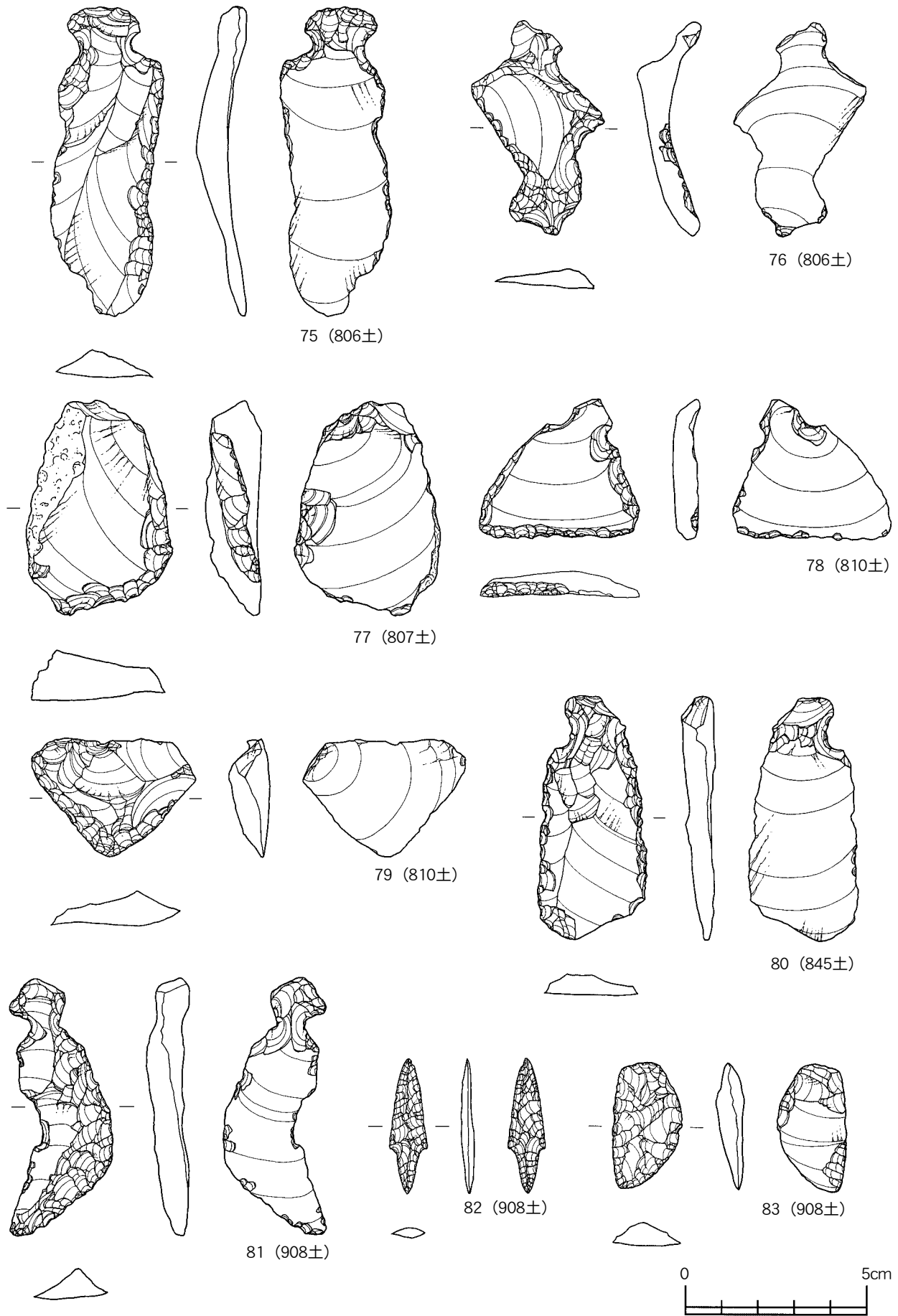
第199図 遺構内出土石器（土坑）(7)



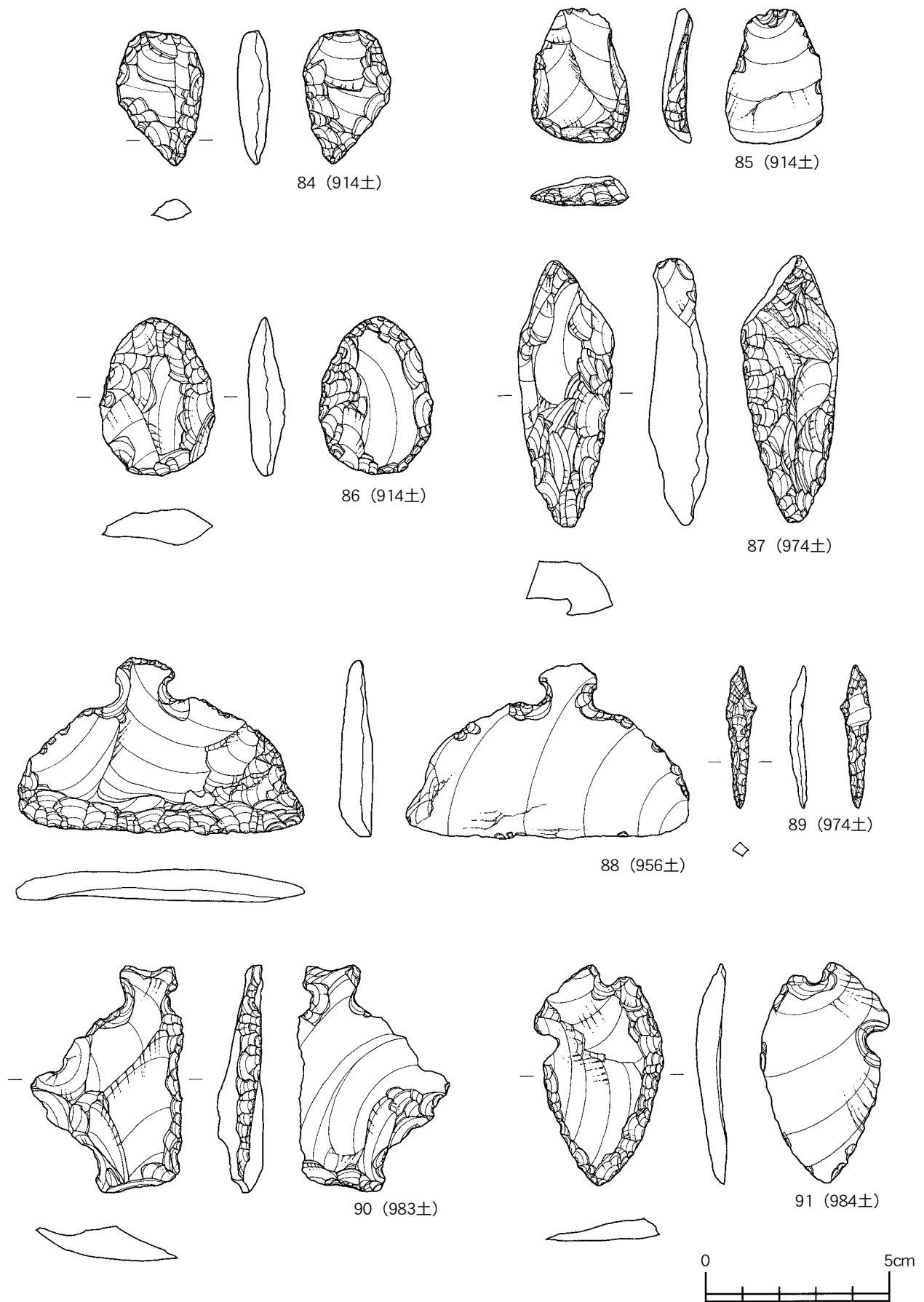
第200図 遺構内出土石器（土坑）(8)



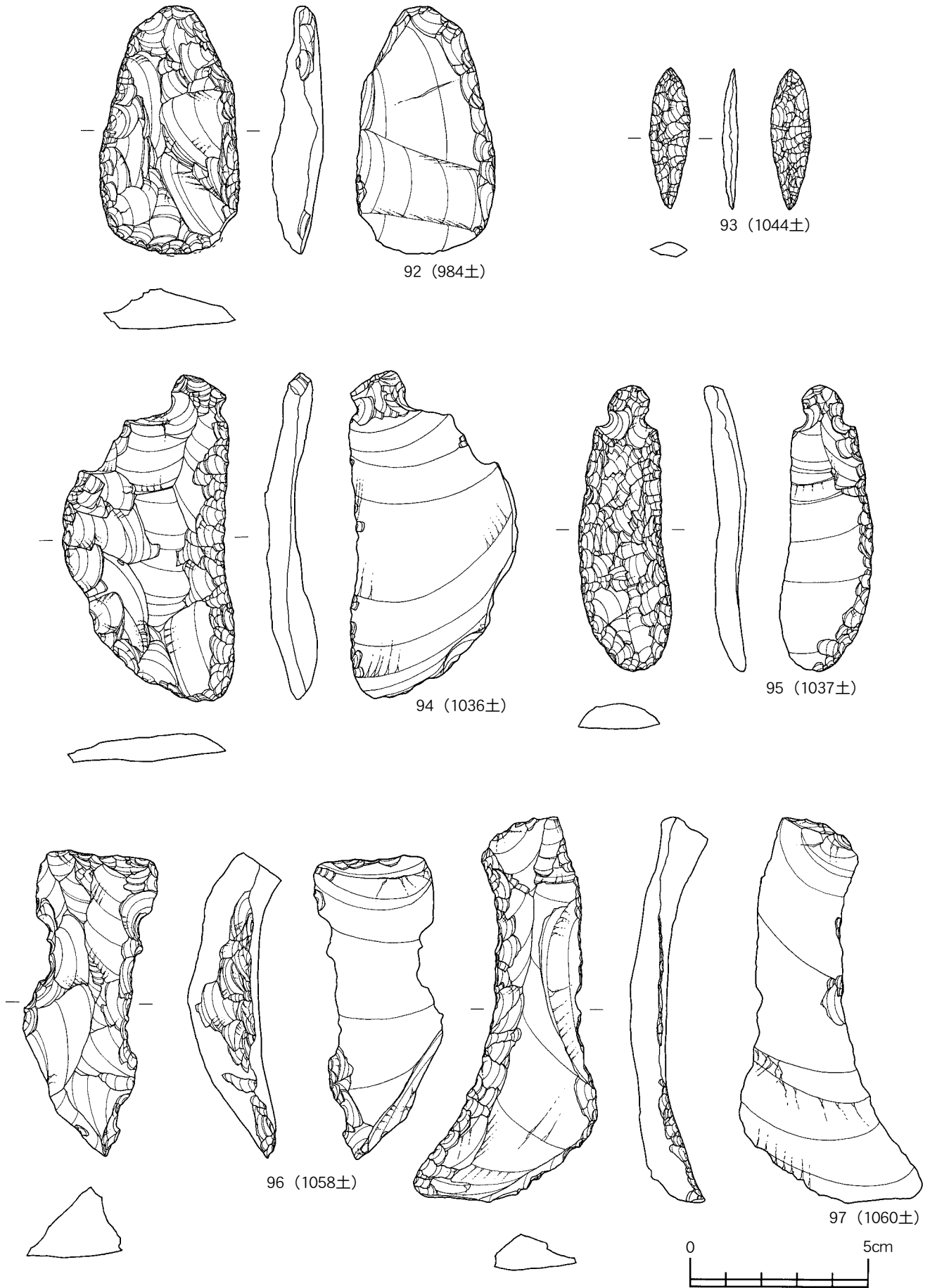
第201図 遺構内出土石器（土坑）(9)



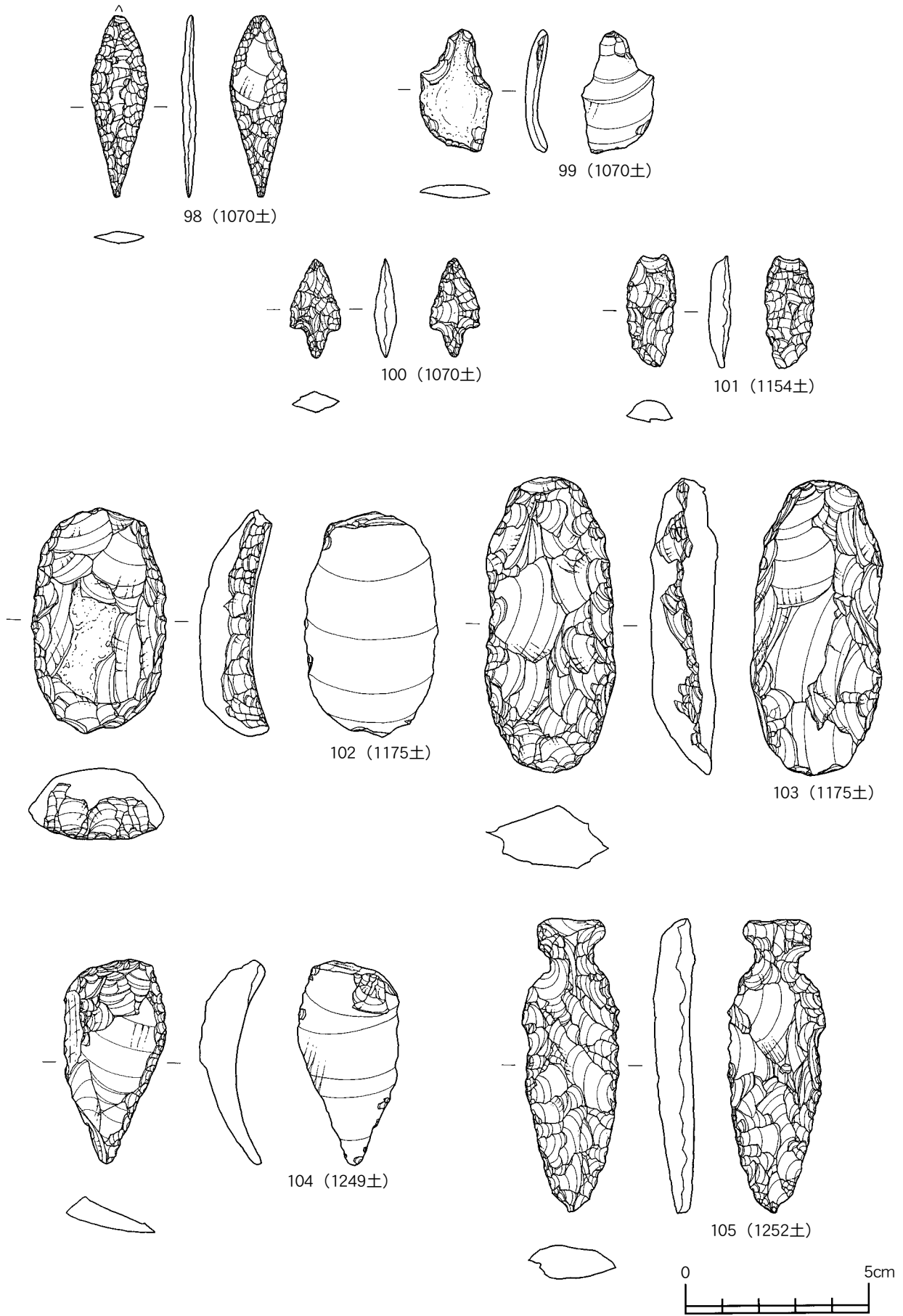
第202図 遺構内出土石器 (土坑) (10)



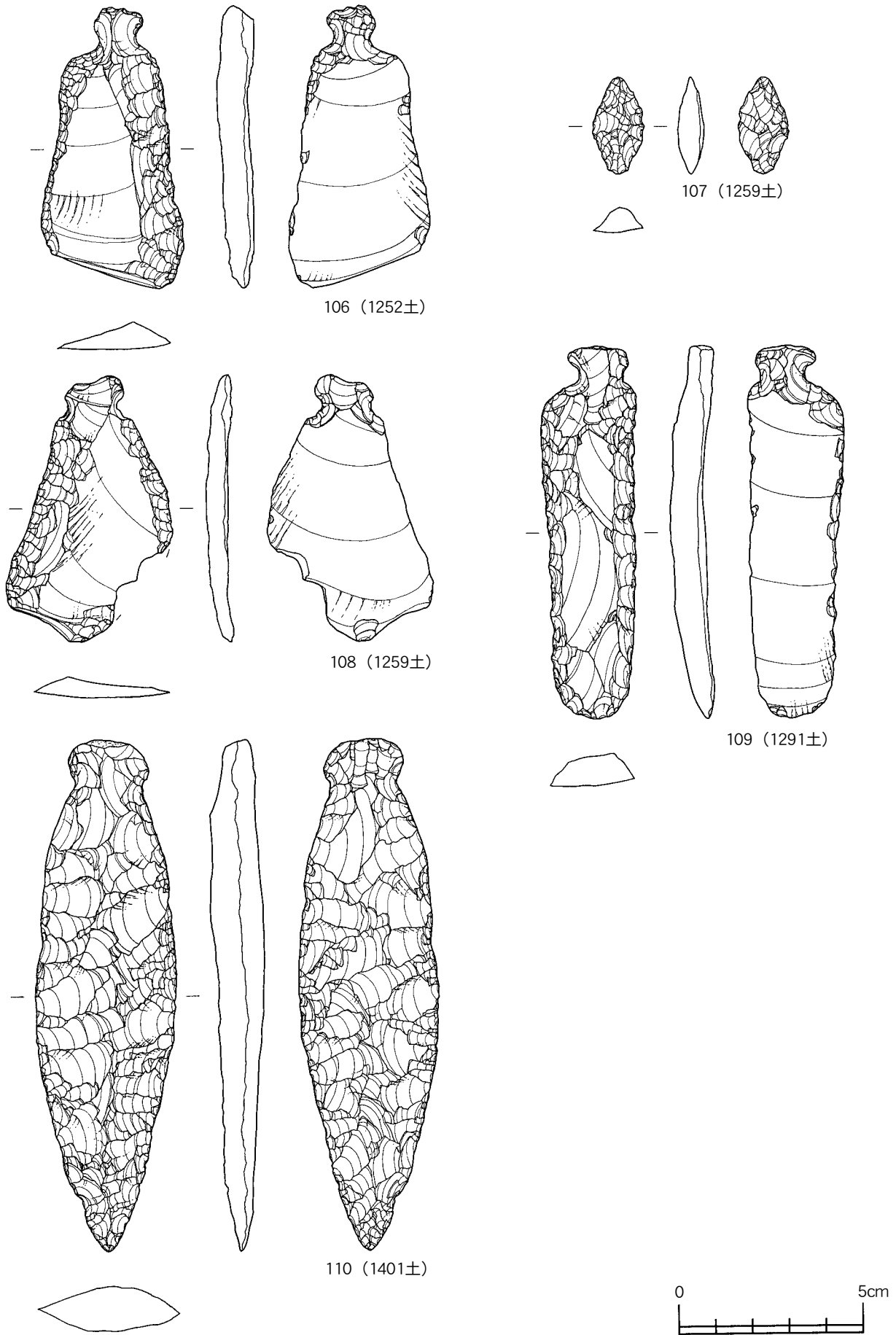
第203図 遺構内出土石器（土坑）（11）



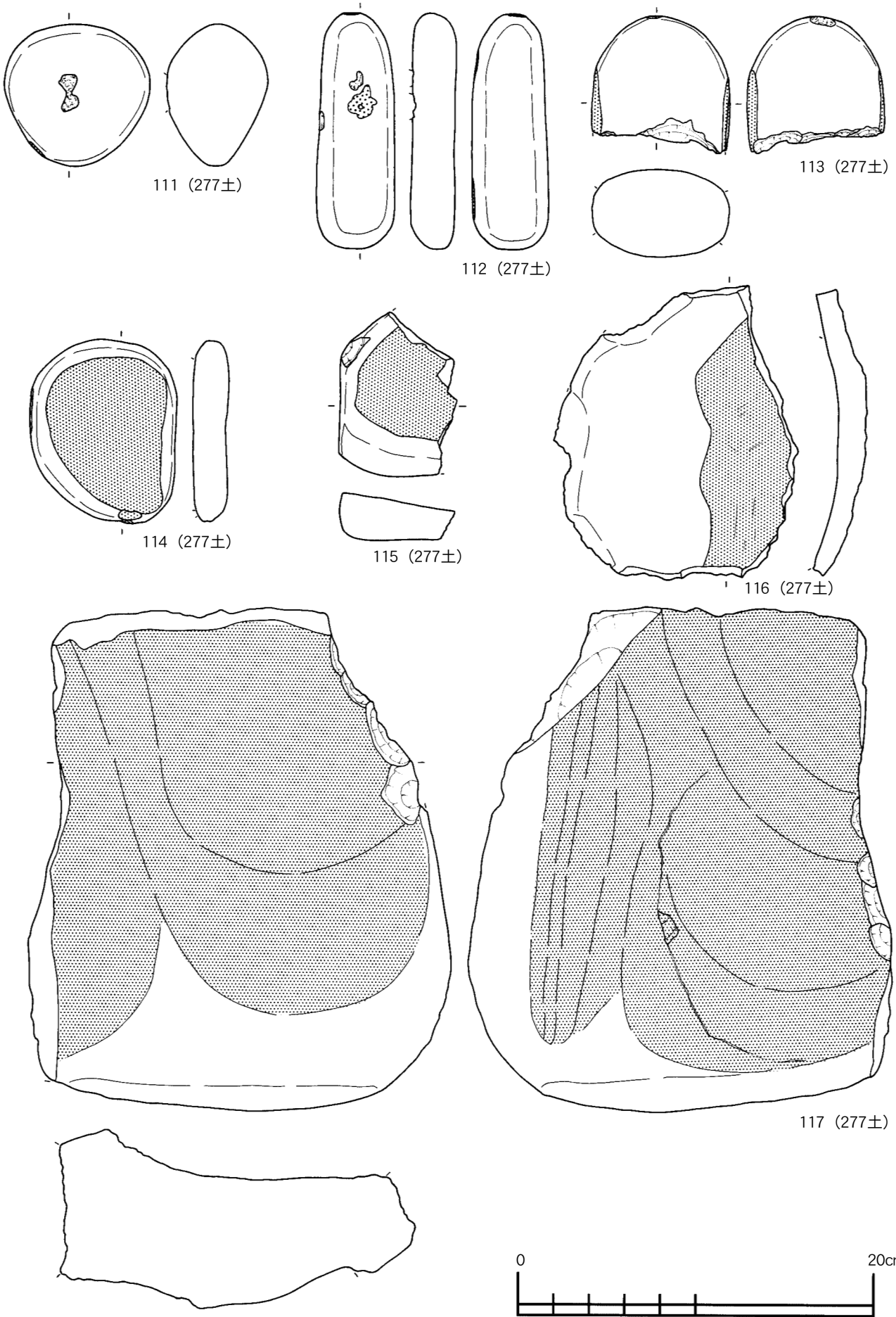
第204図 遺構内出土石器（土坑）（12）



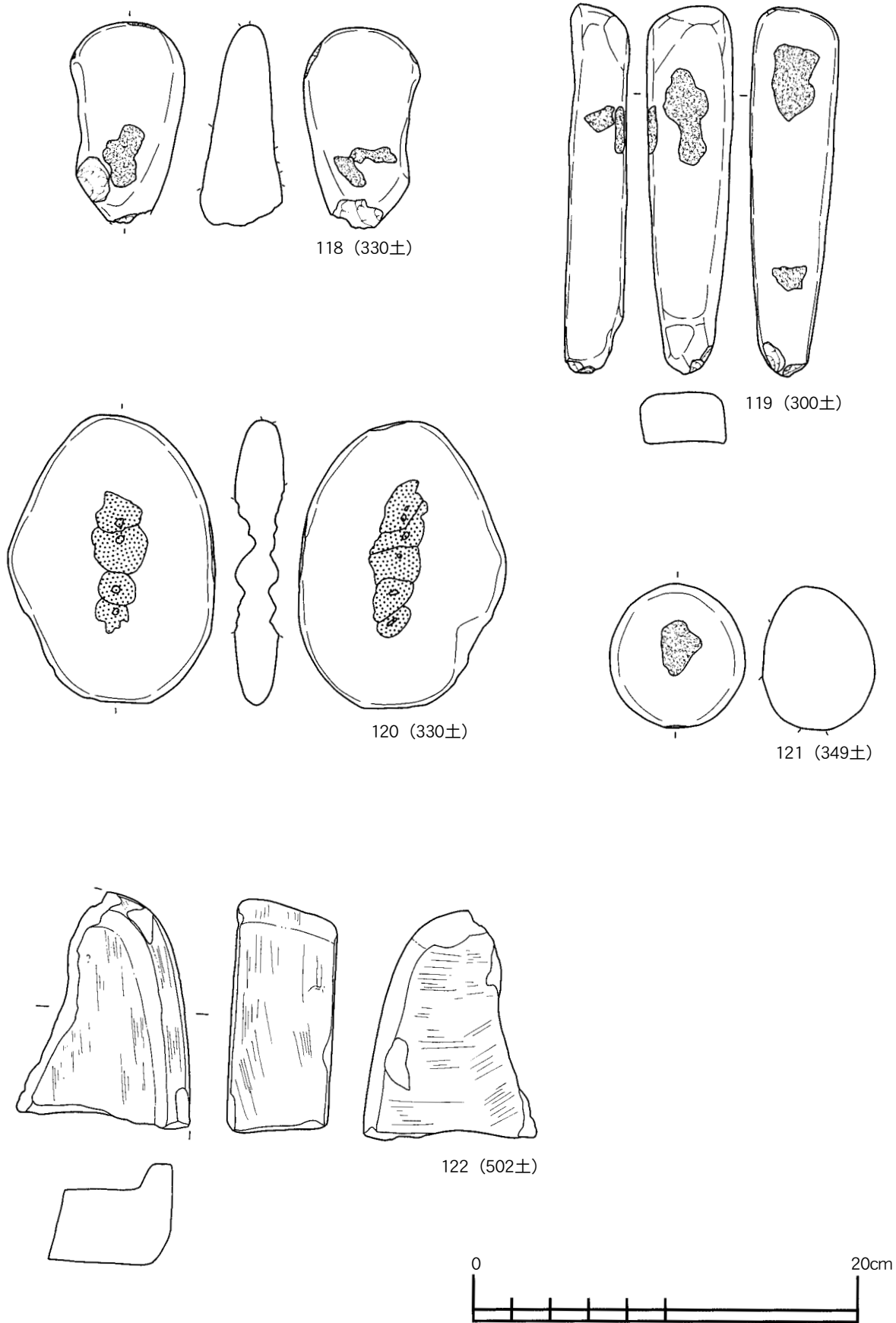
第205図 遺構内出土石器（土坑）（13）



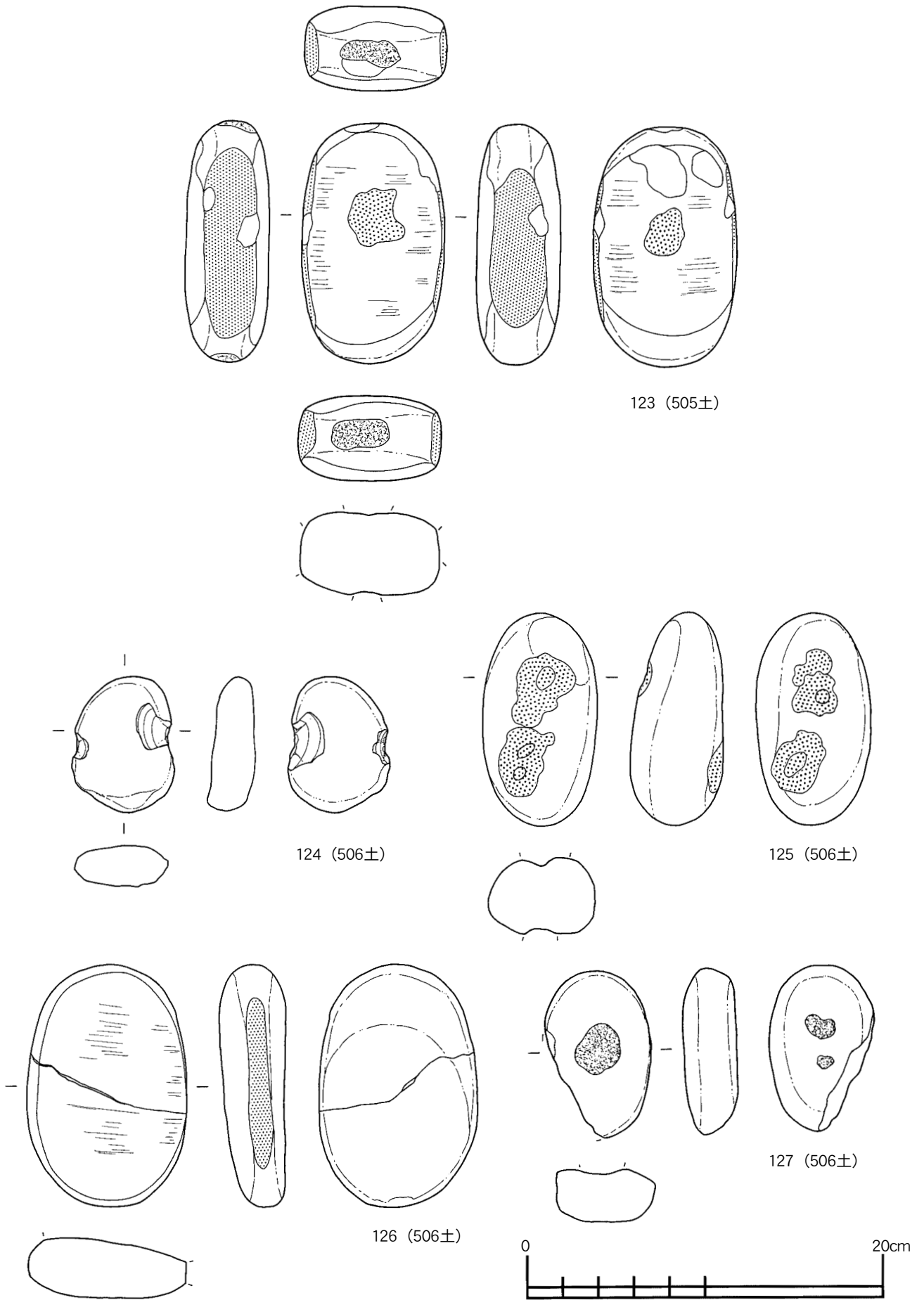
第206図 遺構内出土石器 (土坑) (14)



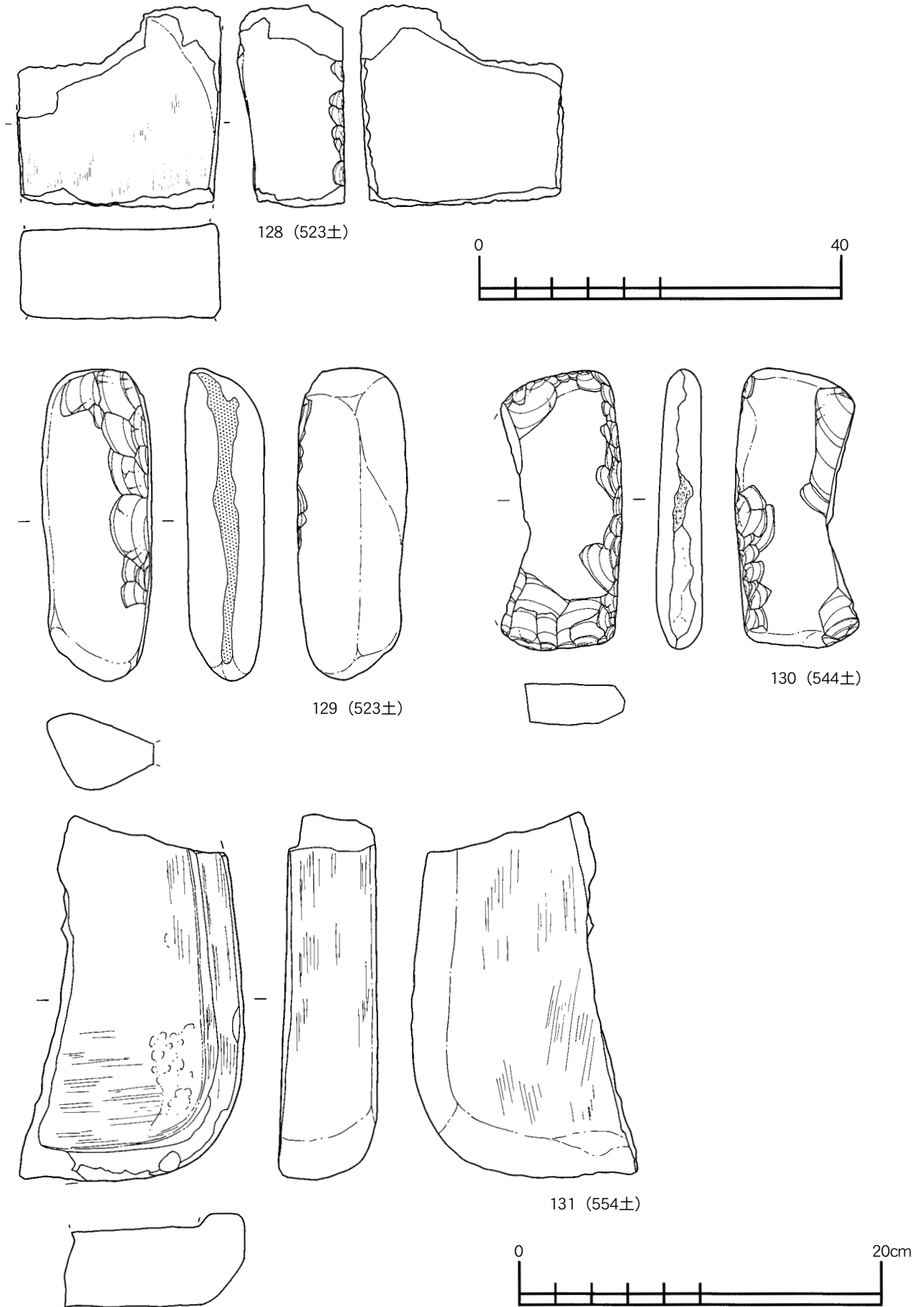
第207図 遺構内出土石器 (土坑) (15)



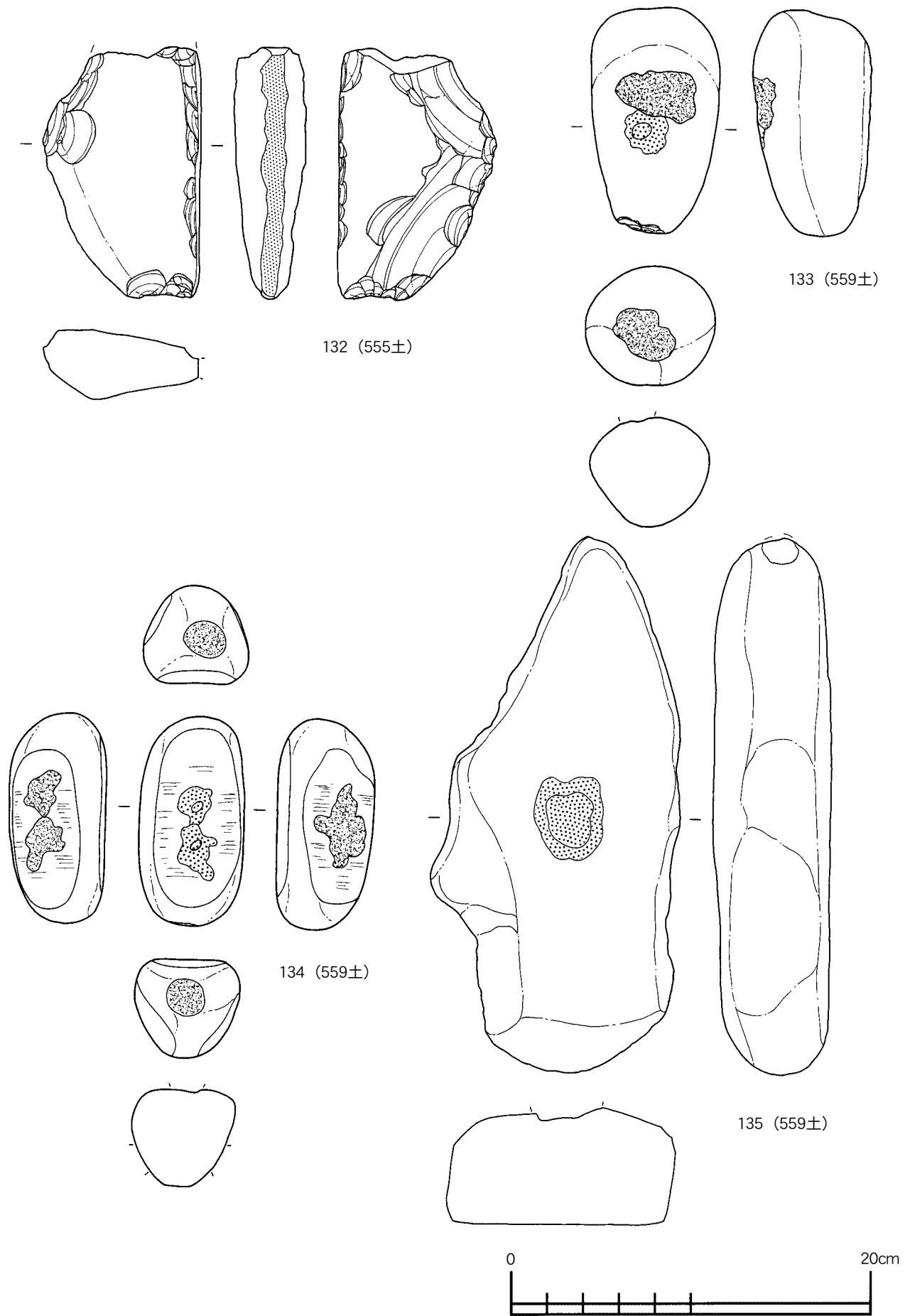
第208図 遺構内出土石器 (土坑) (16)



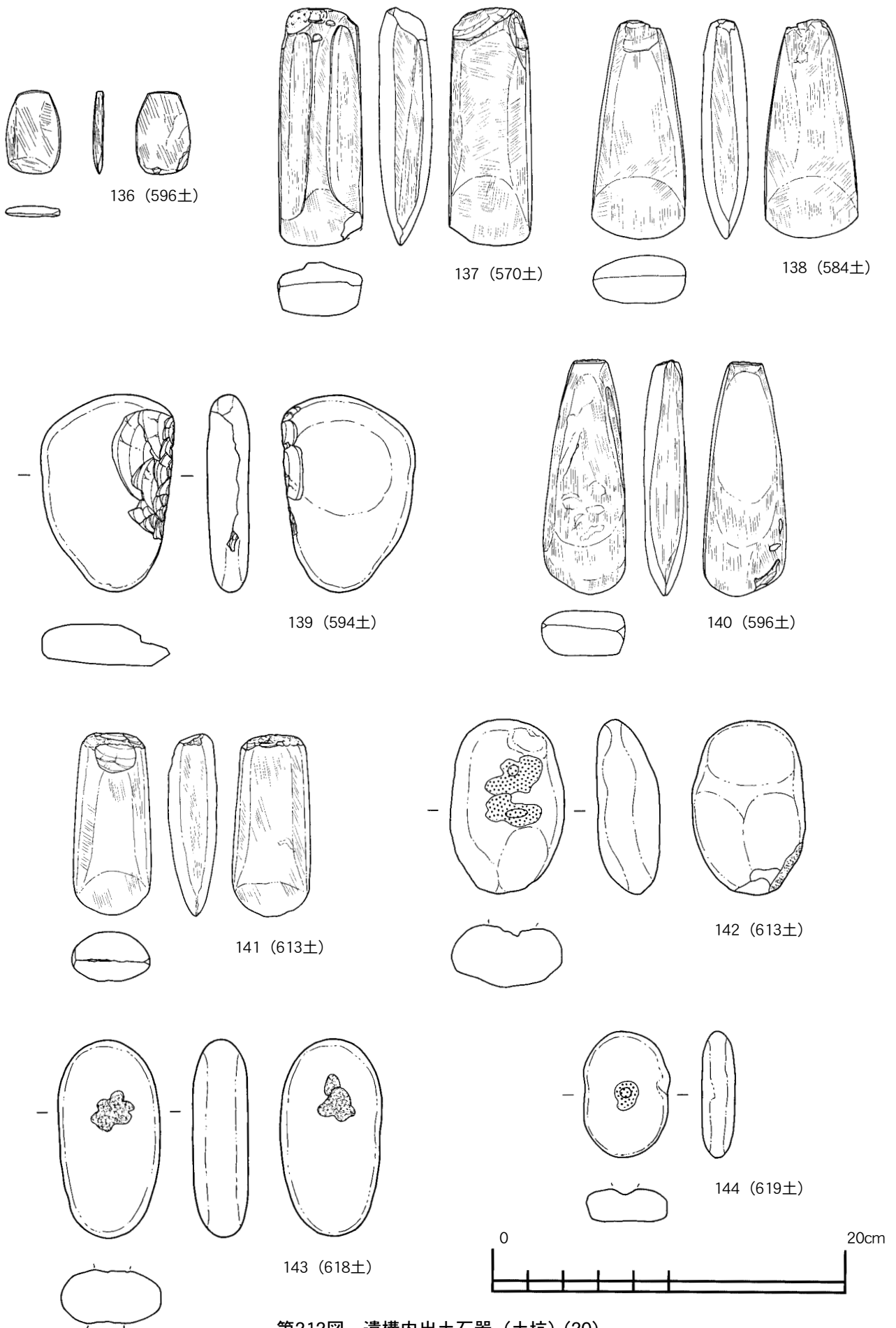
第209図 遺構内出土石器（土坑）（17）



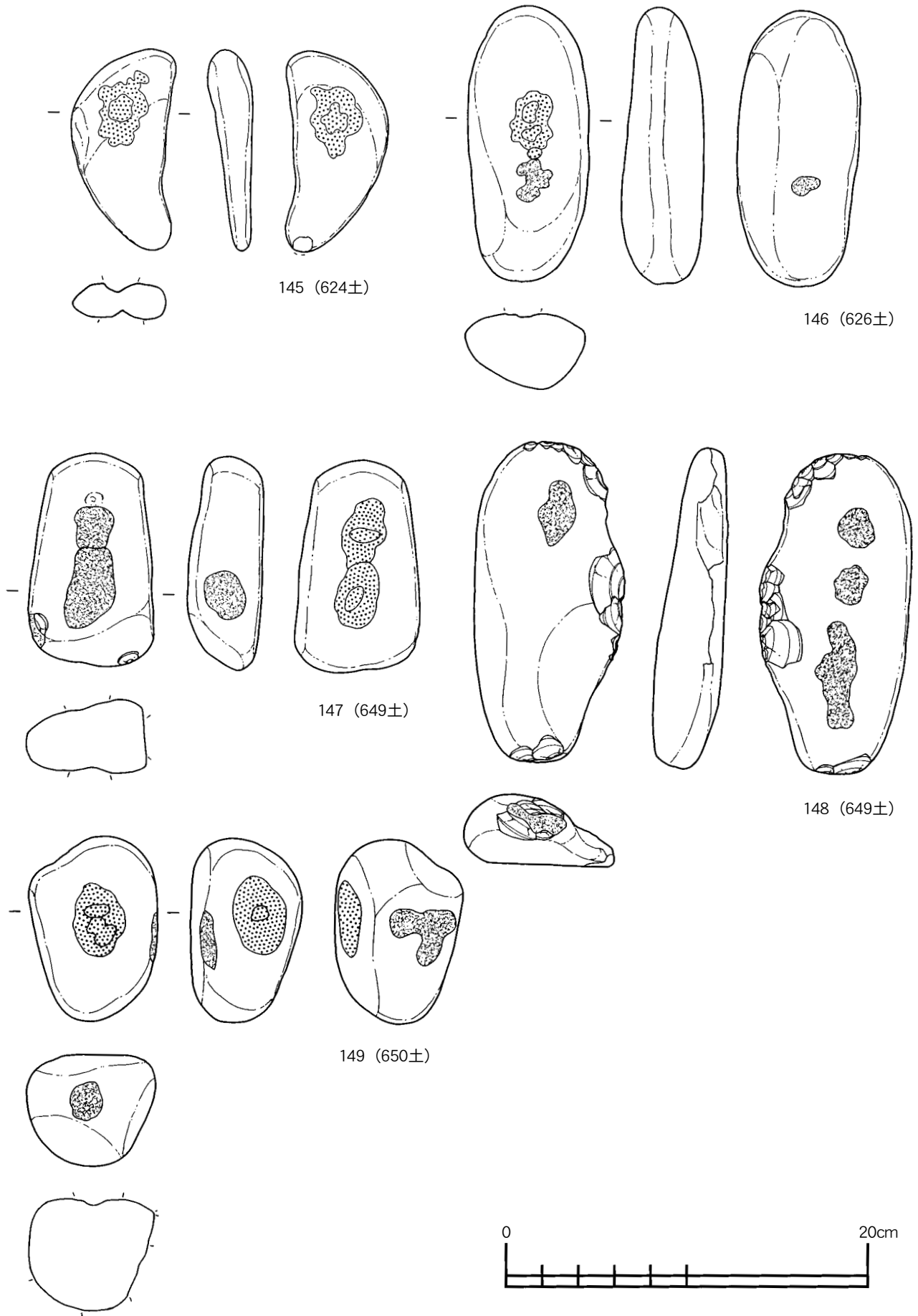
第210図 遺構内出土石器 (土坑) (18)



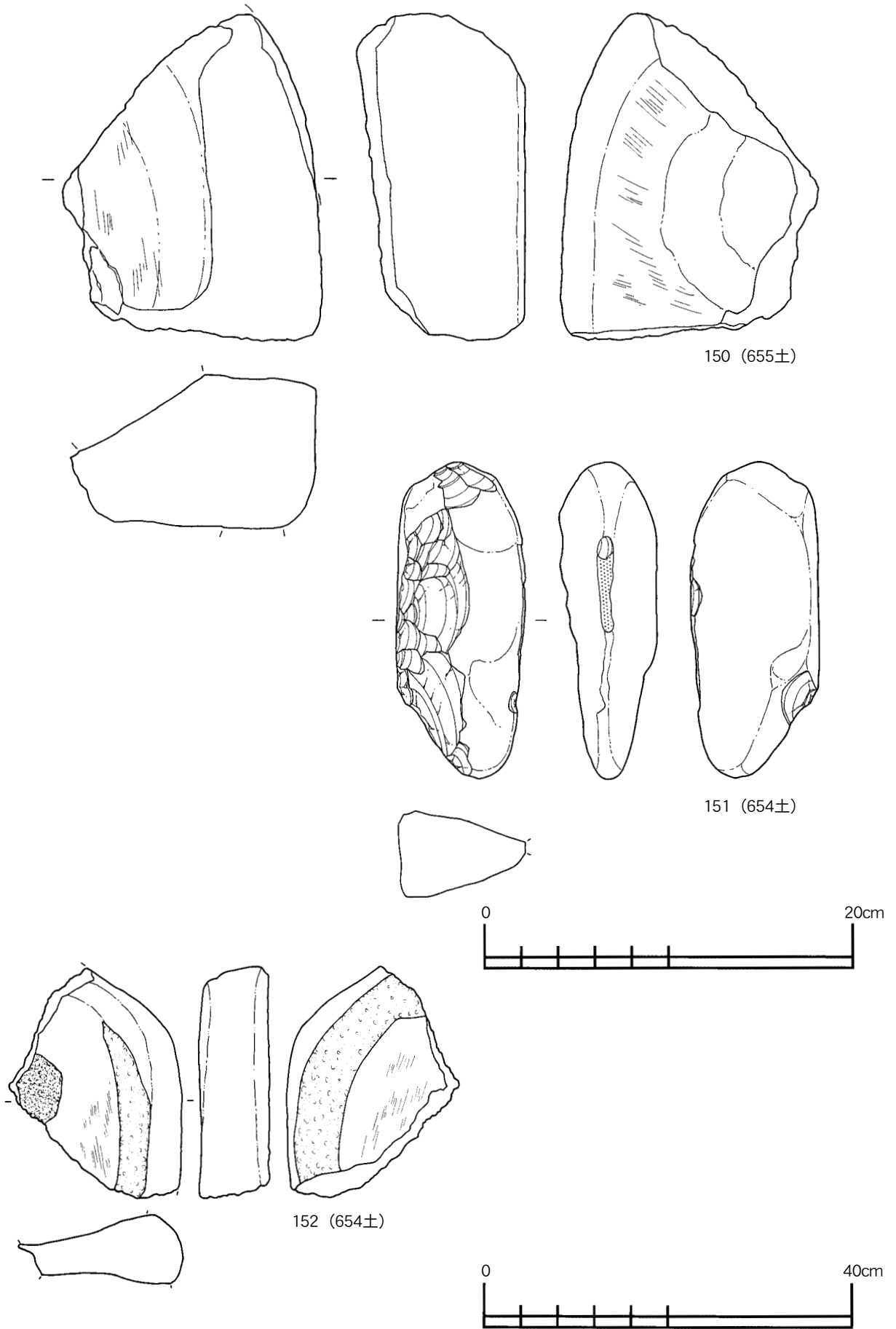
第211図 遺構内出土石器 (土坑) (19)



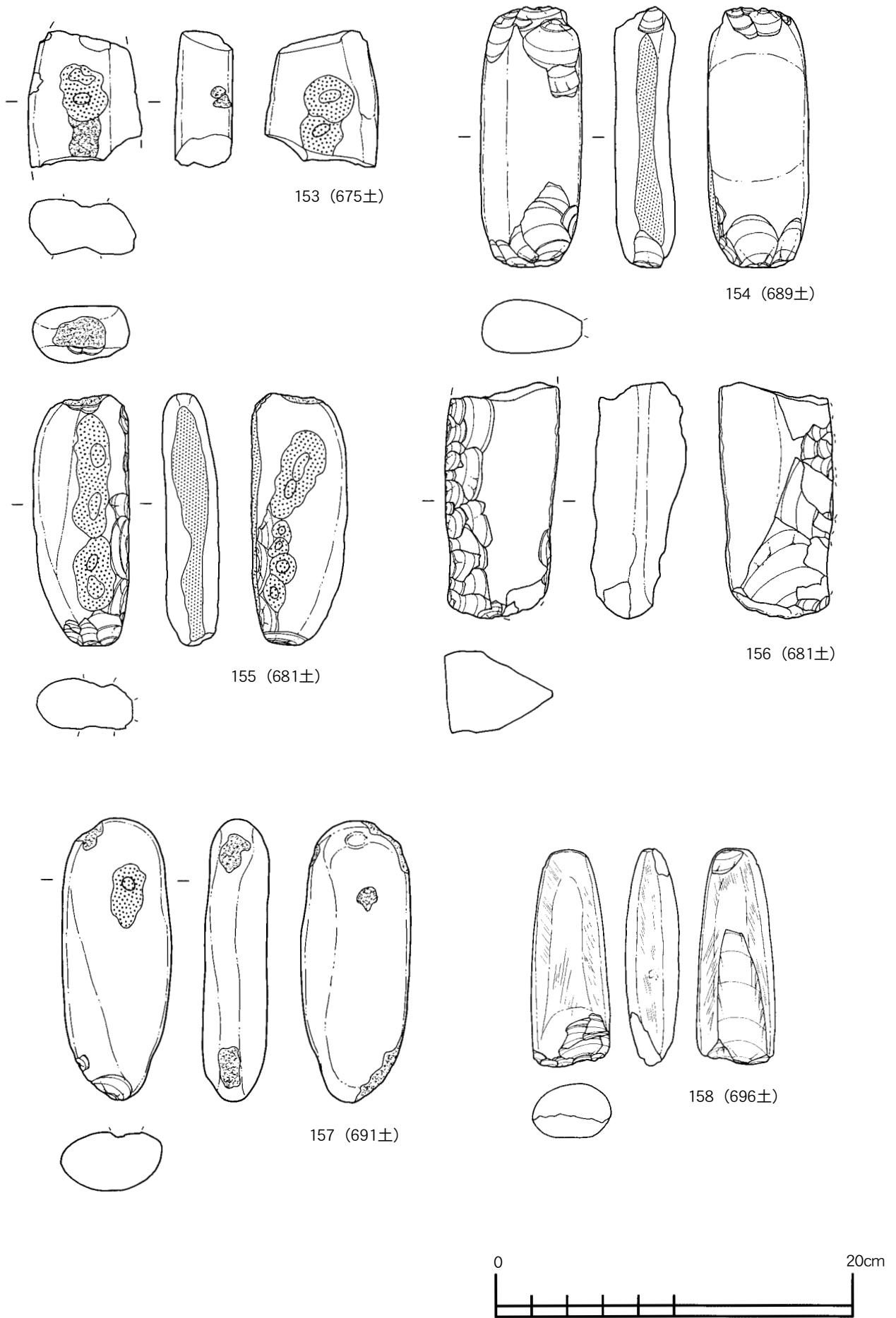
第212図 遺構内出土石器 (土坑) (20)



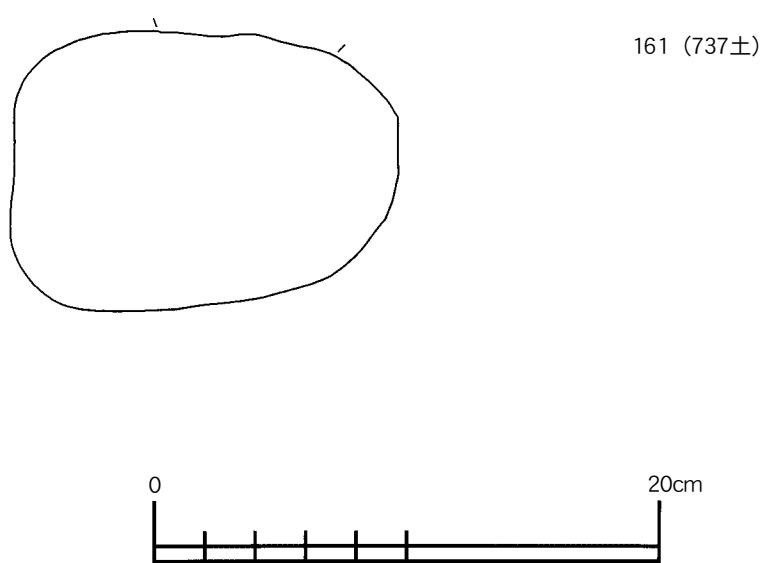
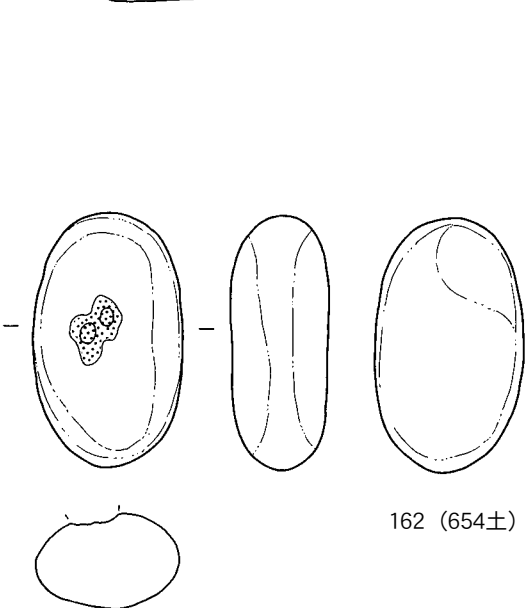
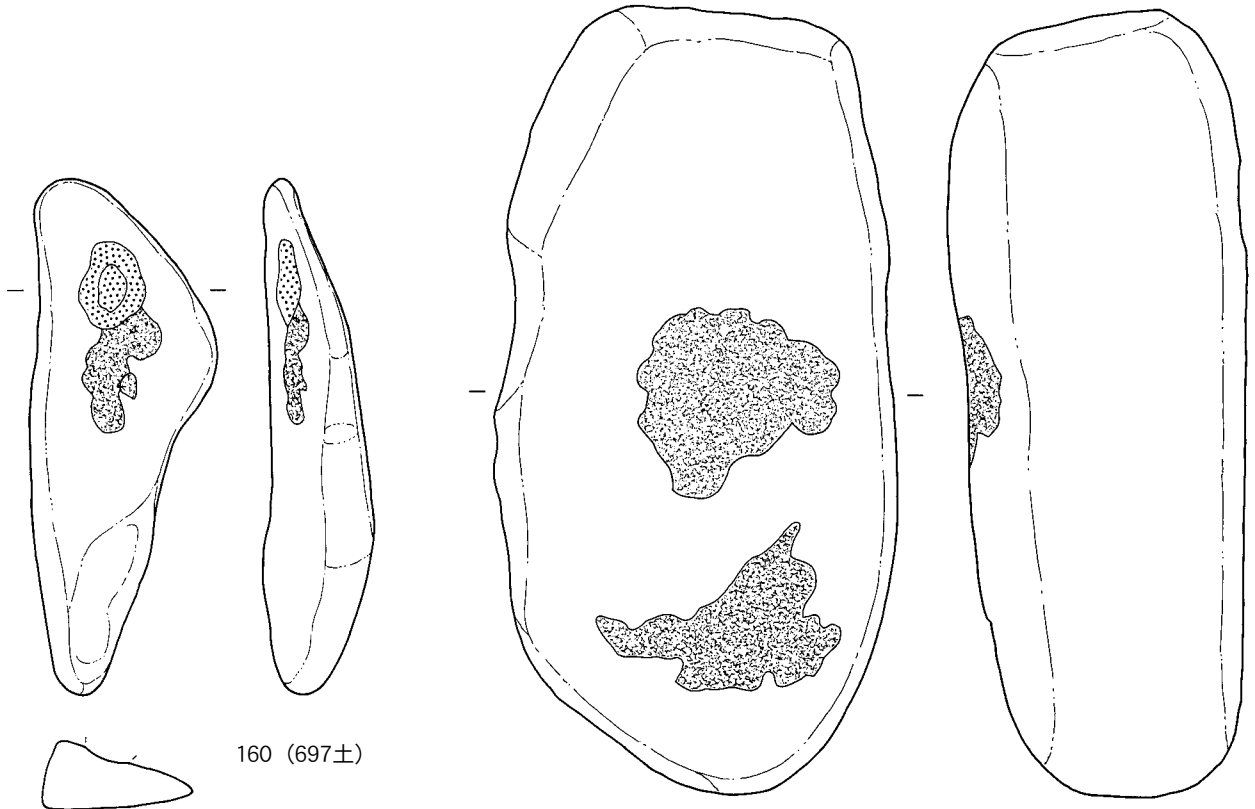
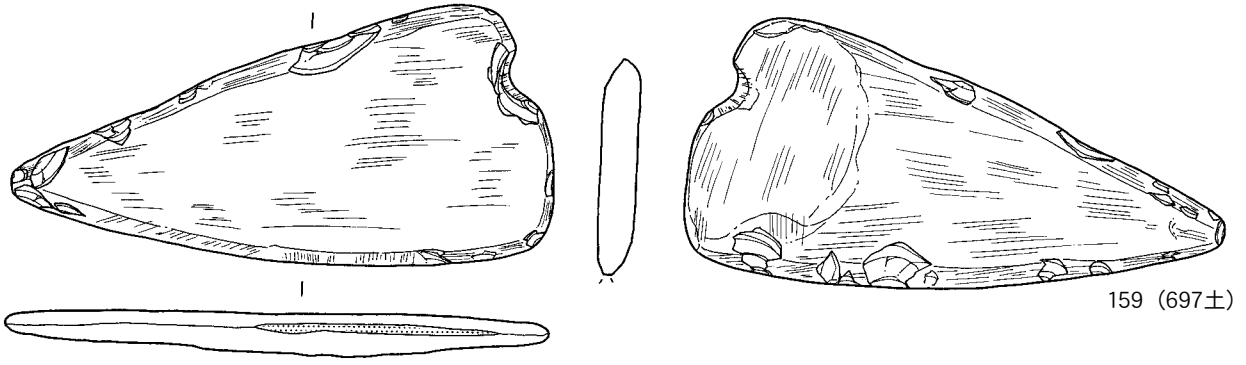
第213図 遺構内出土石器（土坑）(21)



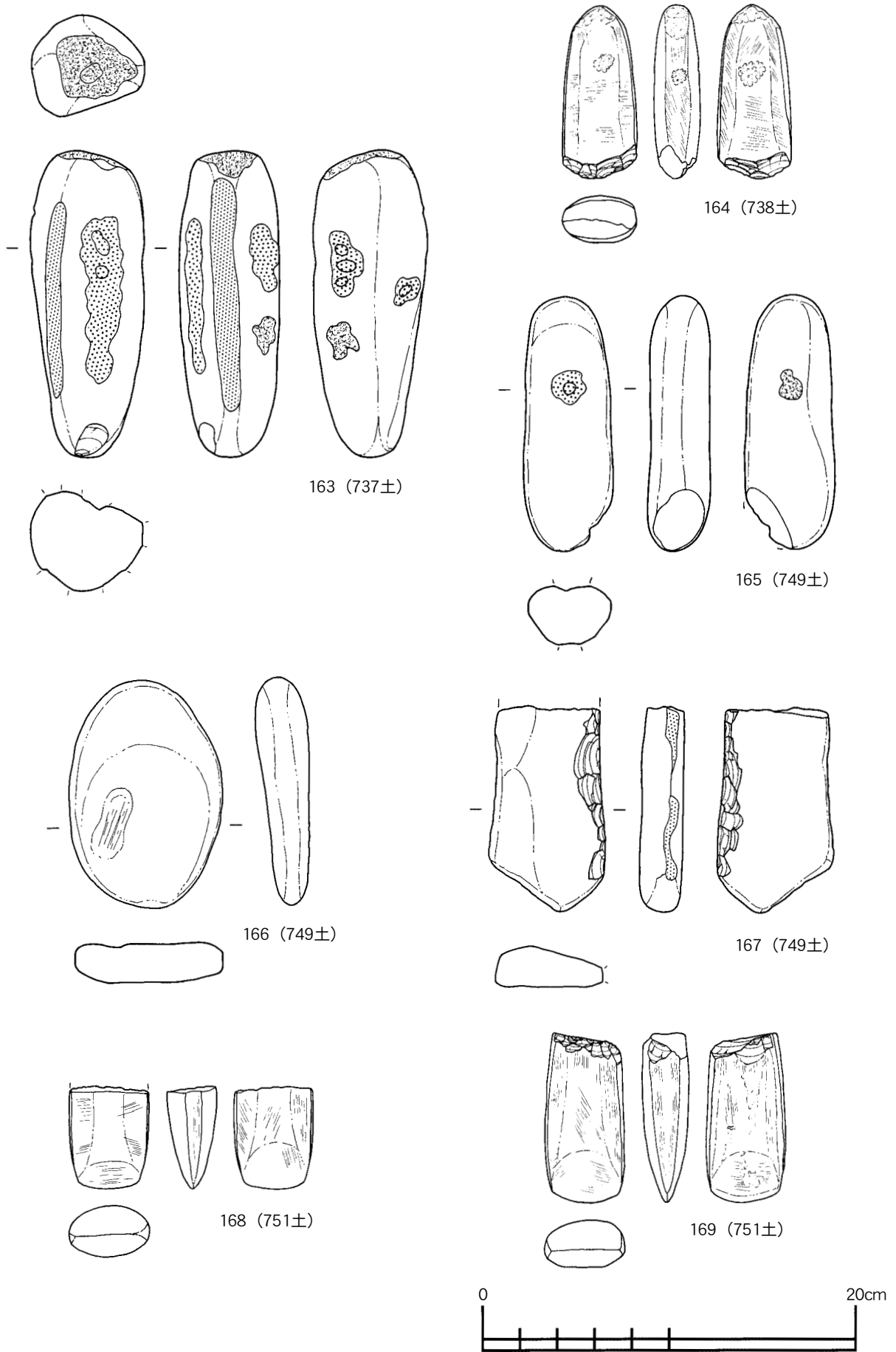
第214図 遺構内出土石器 (土坑) (22)



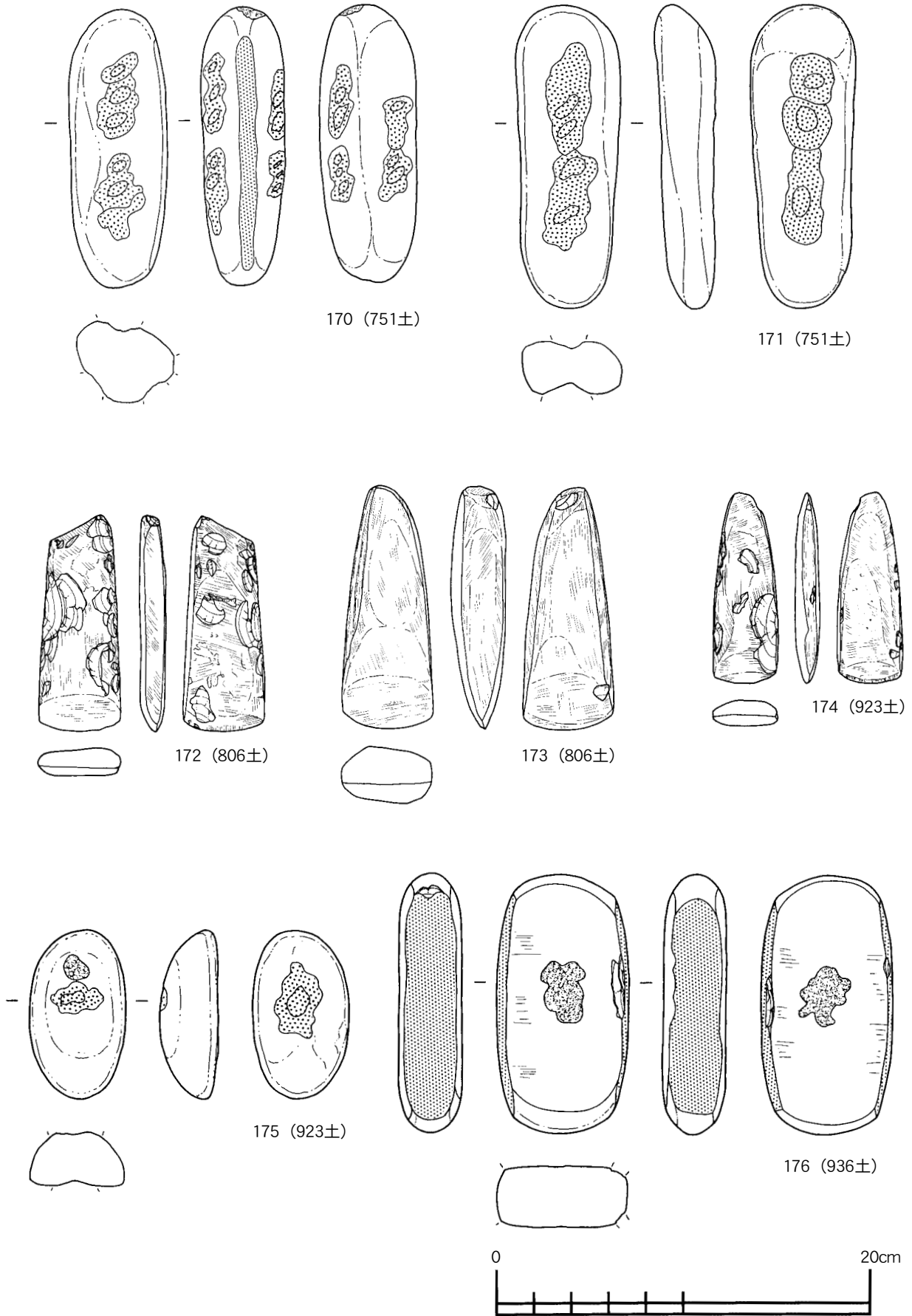
第215図 遺構内出土石器 (土坑) (23)



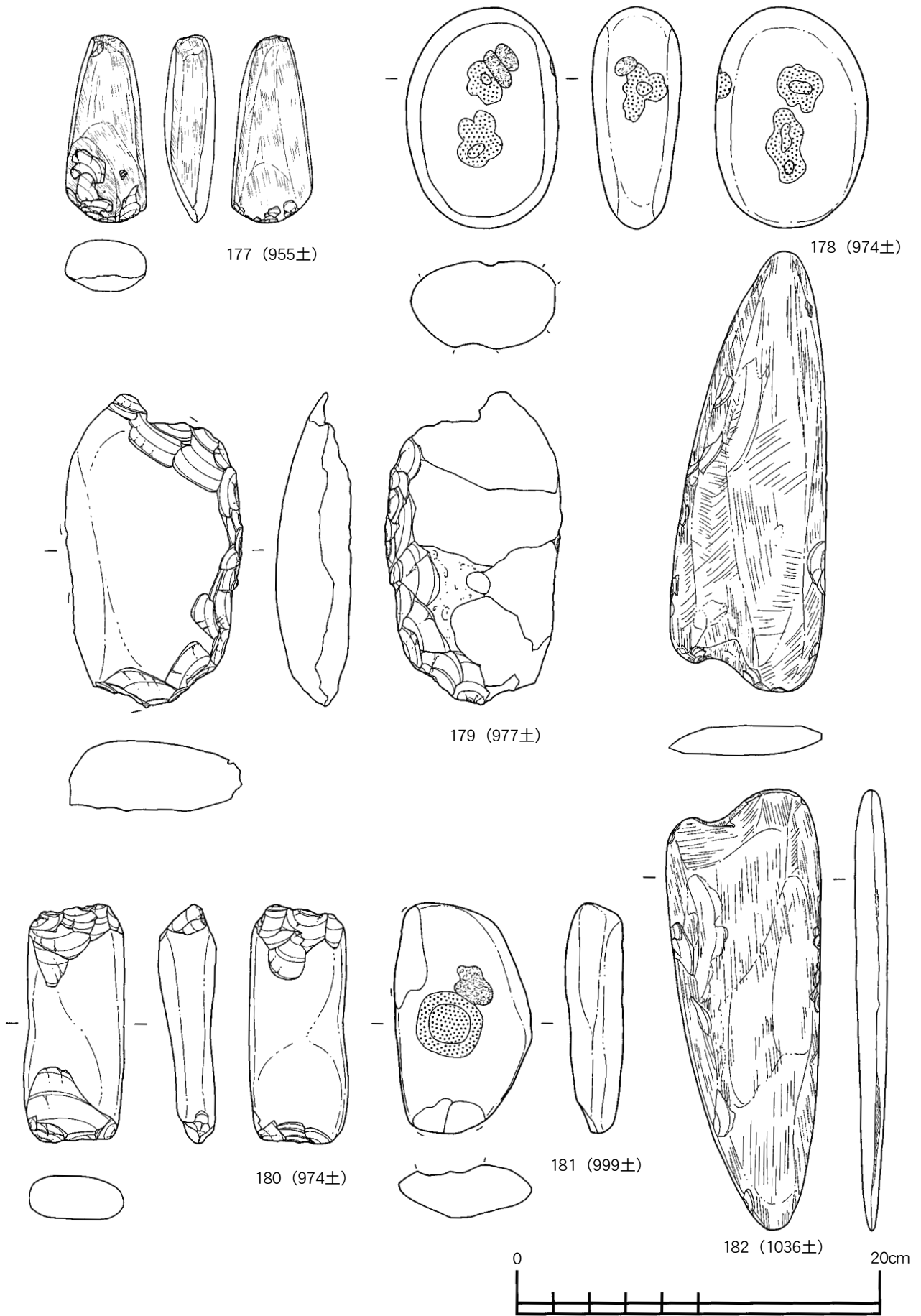
第216図 遺構内出土石器 (土坑) (24)



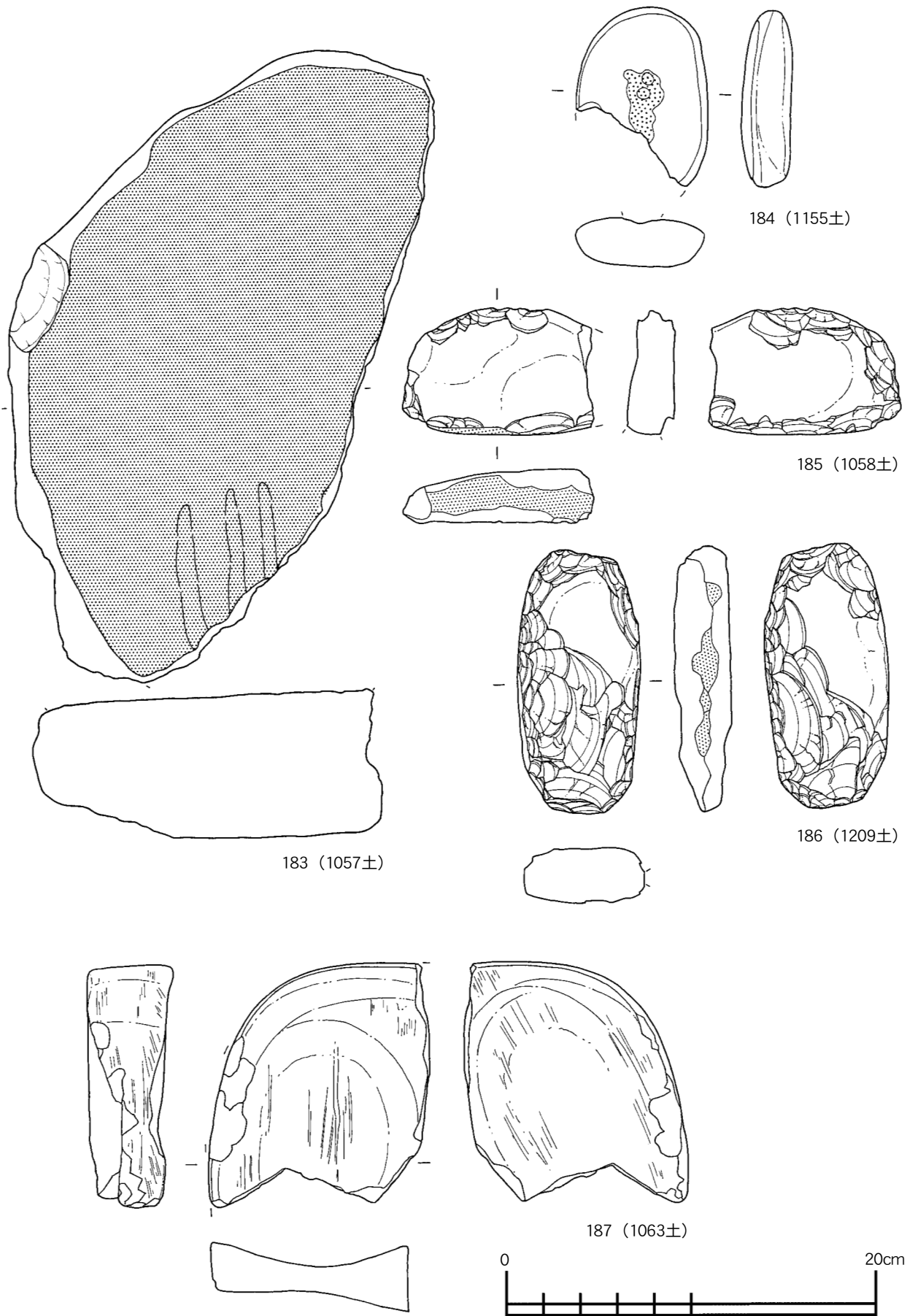
第217図 遺構内出土石器 (土坑) (25)



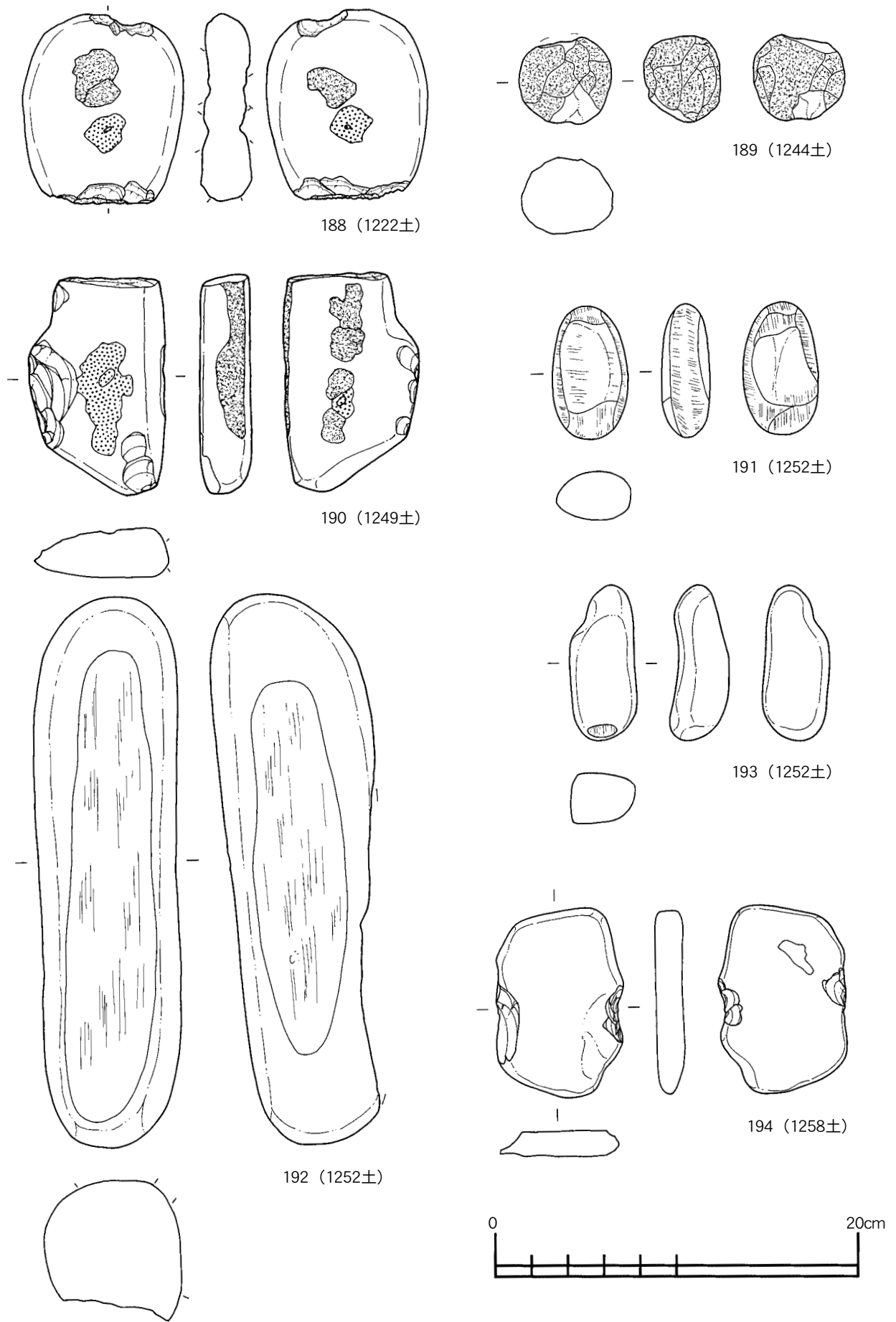
第218図 遺構内出土石器 (土坑) (26)



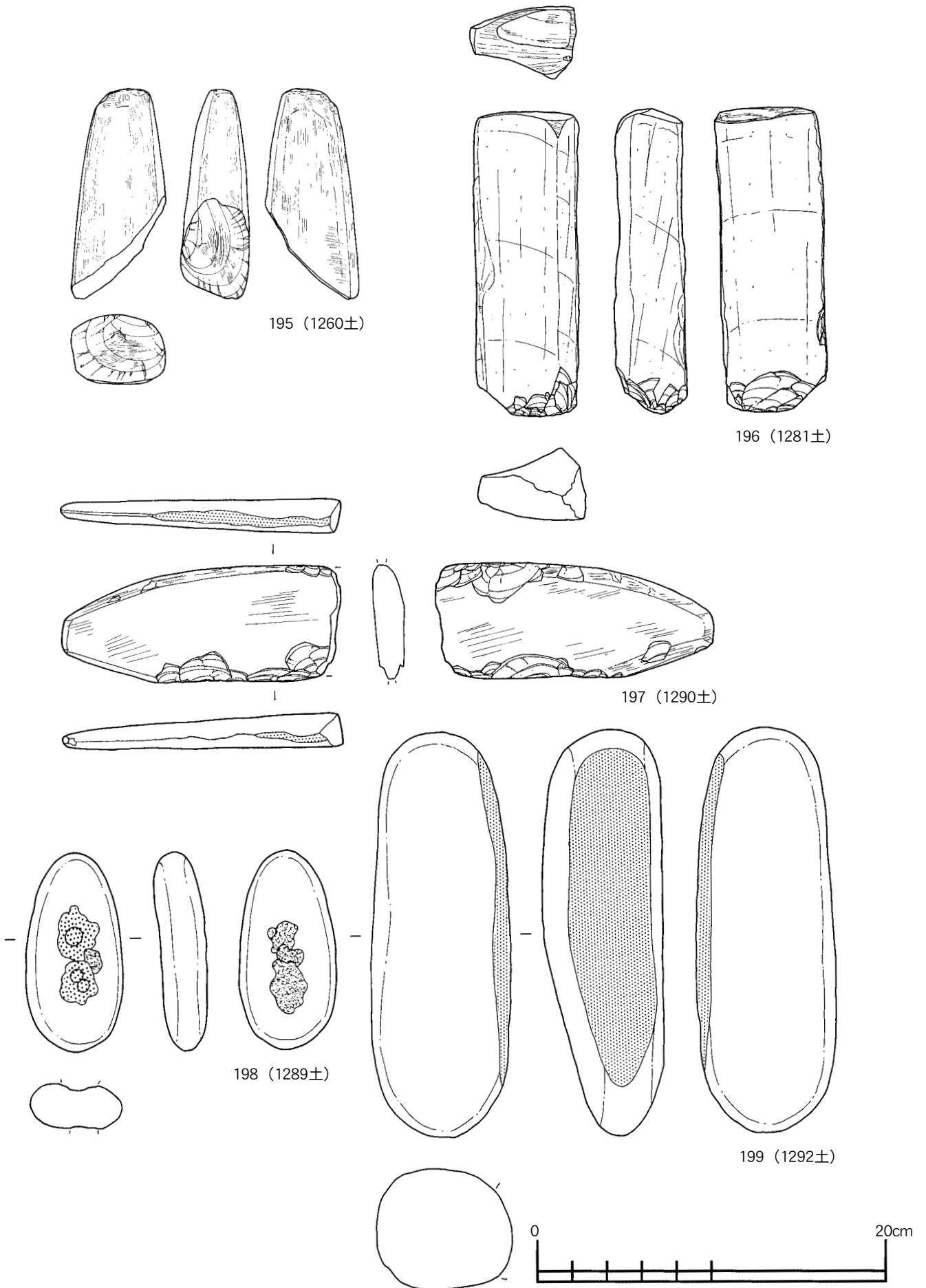
第219図 遺構内出土石器 (土坑) (27)



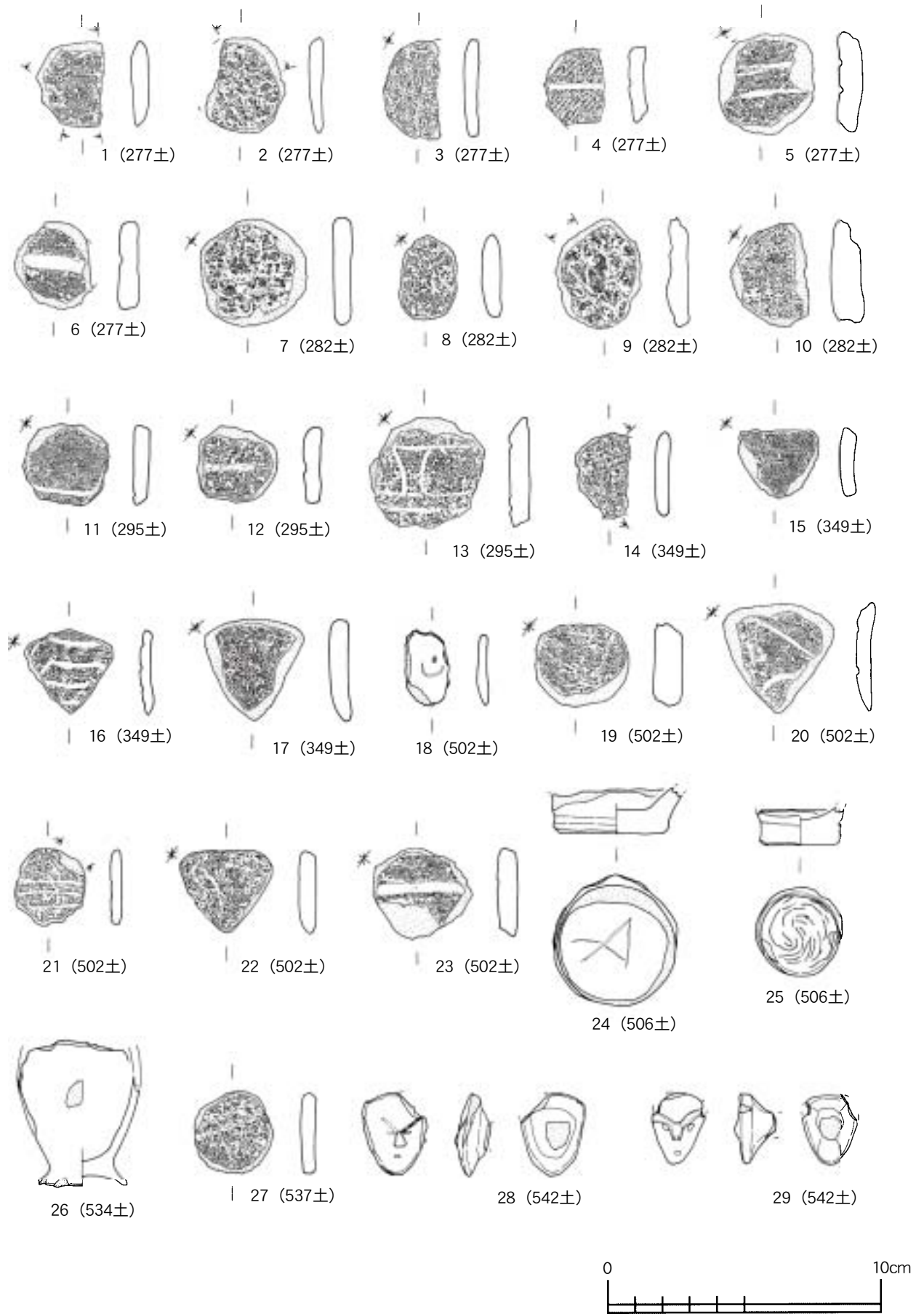
第220図 遺構内出土石器 (土坑) (28)



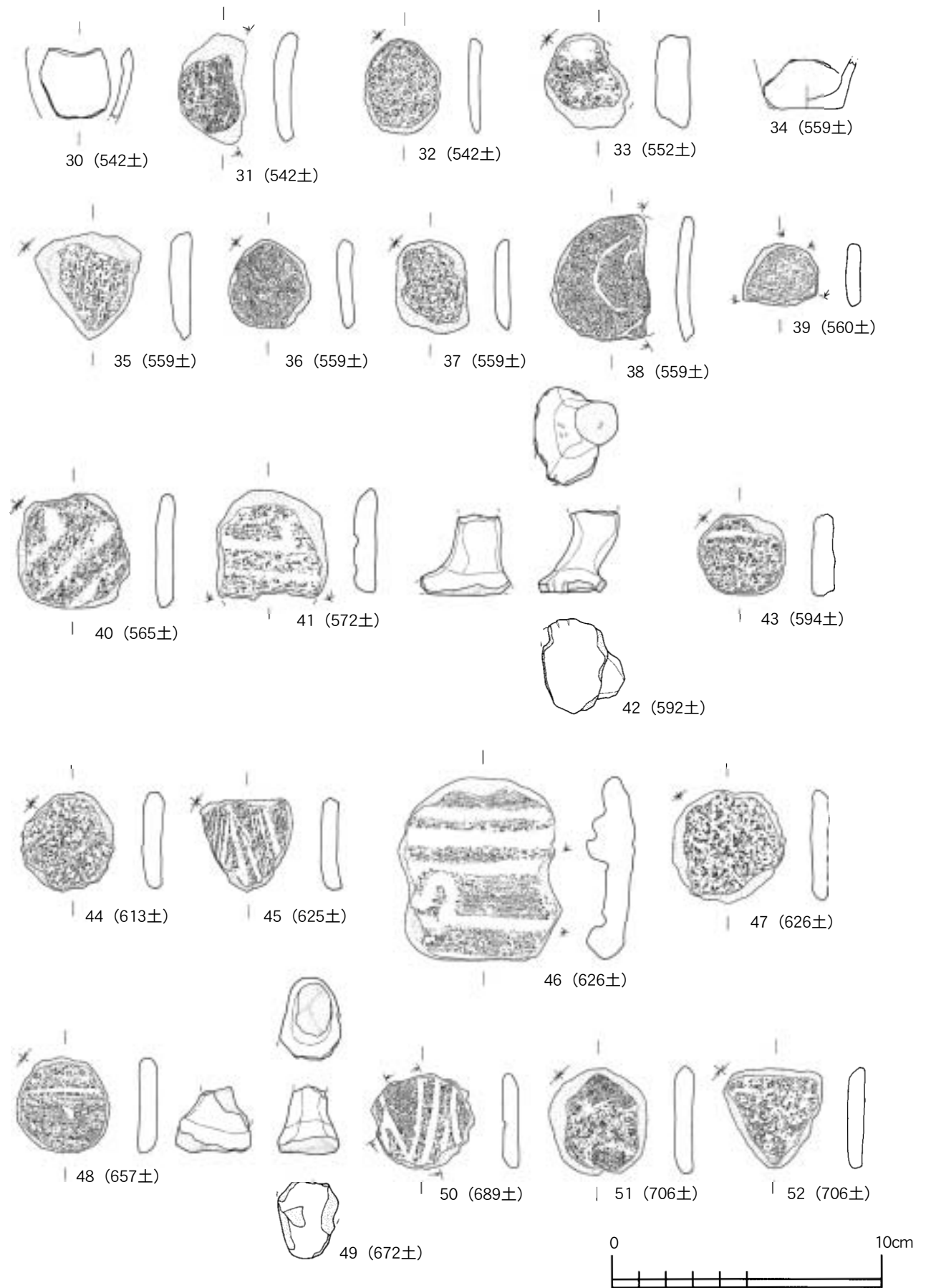
第21図 遺構内出土石器 (土坑) (29)



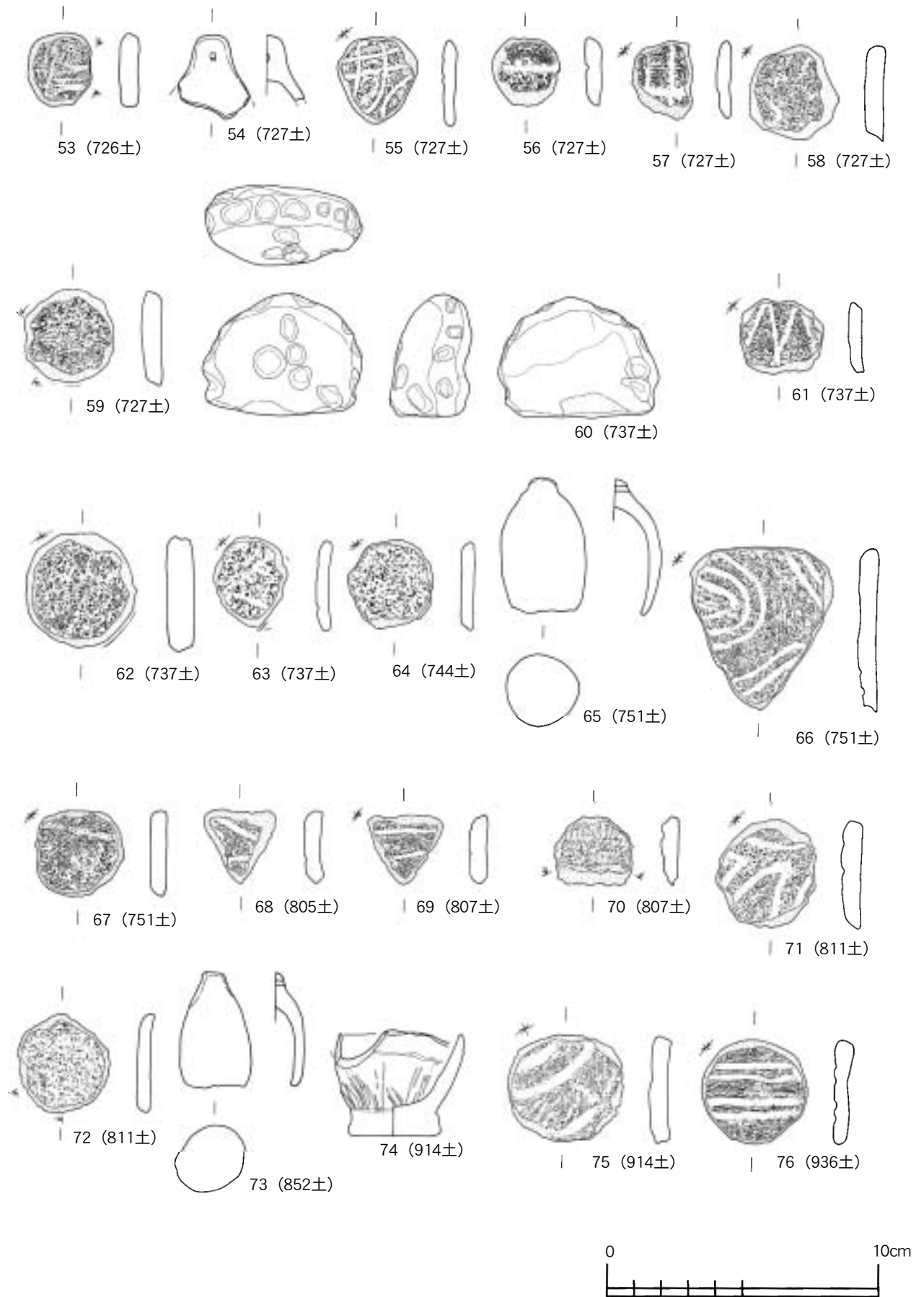
第222図 遺構内出土石器 (土坑) (30)



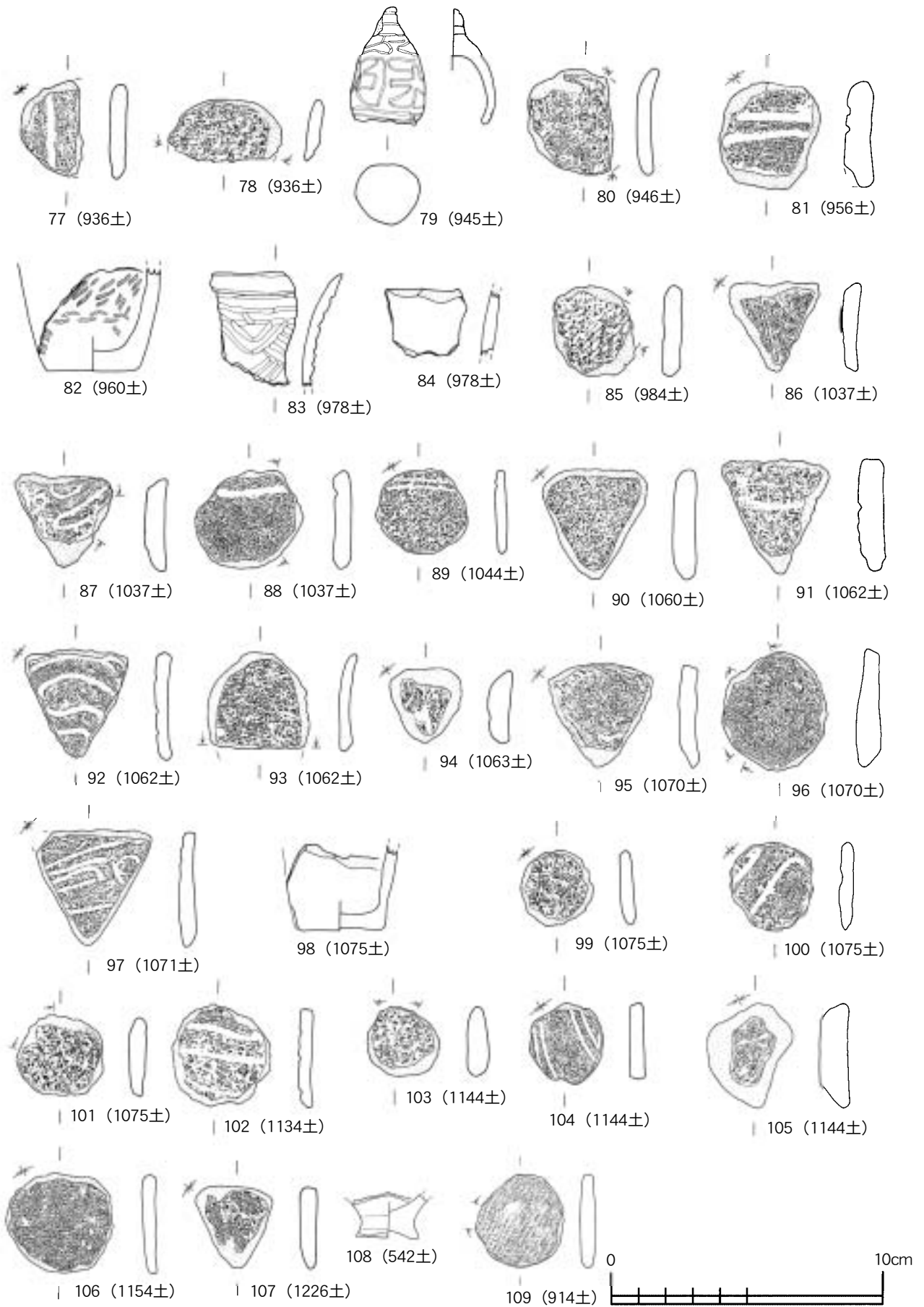
第223図 遺構内出土土製品（土坑）(1)



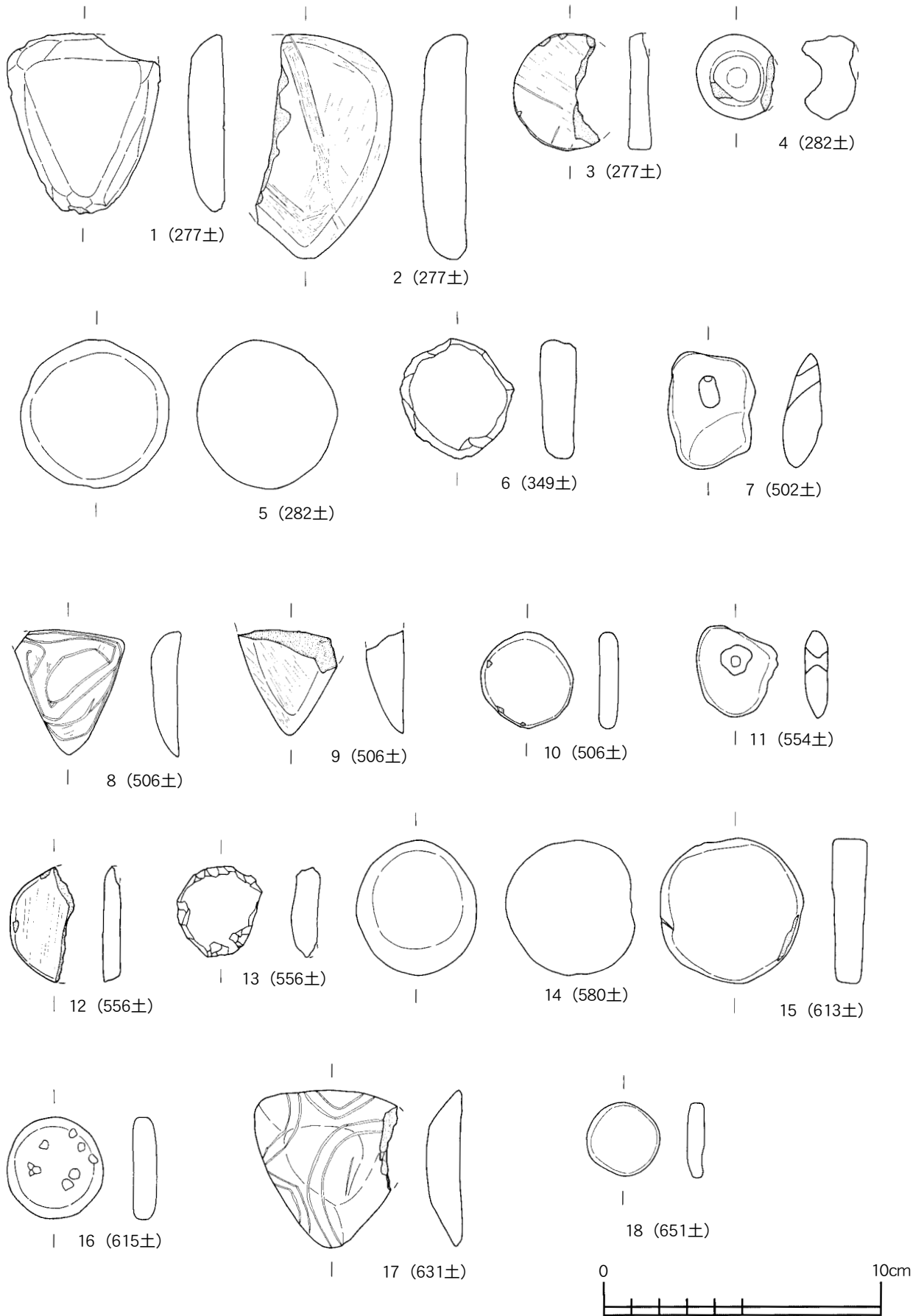
第224図 遺構内出土土製品（土坑）(2)



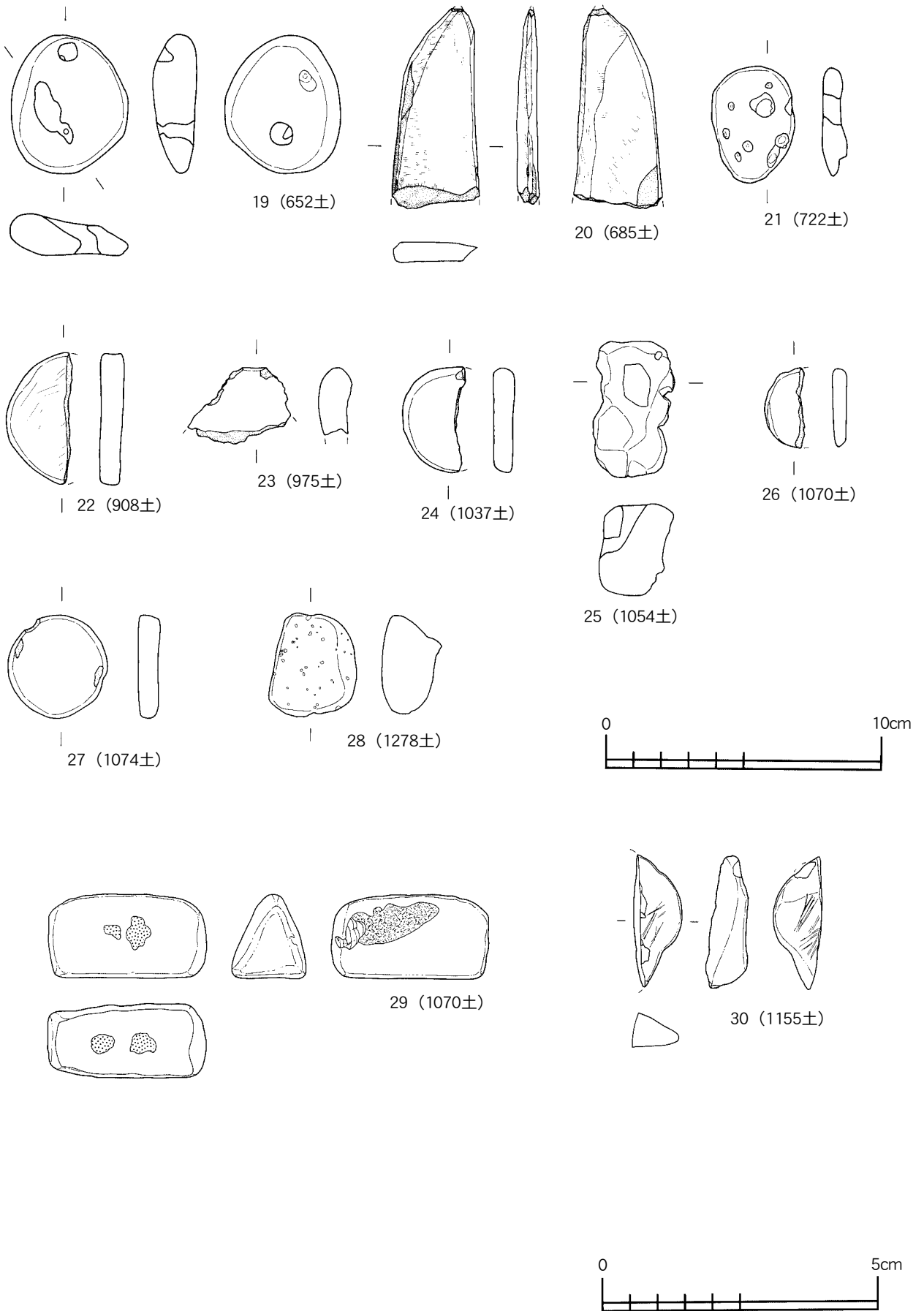
第225図 遺構内出土土製品（土坑）(3)



第226図 遺構内出土土製品（土坑）(4)



第227図 遺構内出土石製品（土坑）(1)



第228図 遺構内出土石製品（土坑）(2)

3. 埋設土器遺構

第26号埋設土器遺構（第229図）

- [位置・確認層] A F - 147グリッドに位置する。第 c 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで38cmを測る。
- [堆積土] 土器内部を2層に分層した。
- [出土遺物・状況] 第 群5 a類に属する深鉢形土器（第230図1）が正立した状態で埋設されていた。
- [時期] 出土土器から縄文時代末葉と考えられる。

第27号埋設土器遺構（第229図）

- [位置・確認層] A E - 146グリッドに位置する。第 c 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで24cmを測る。
- [堆積土] 土器内部を3層に分層した。
- [出土遺物・状況] 第 群5 a類、6類に属する深鉢形土器（第230図2、4）が正立した状況で埋設されていた。また、覆土より第 群6類に属する深鉢形土器（第230図3）が出土した。
- [時期] 出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第28号埋設土器遺構（第229図）

- [位置・確認層] A E - 146グリッドに位置する。第 c 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで37cmを測る。
- [堆積土] 土器内部を2層に分層した。
- [出土遺物・状況] 第 群5 a類に属する深鉢形土器（第230図5）が倒立した状態で埋設されていた。
- [時期] 出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第30号埋設土器遺構（第229図）

- [位置・確認層] A F - 147グリッドに位置する。第17号竪穴式住居跡覆土において確認した。
- [重複] 第17号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで36cmを測る。
- [堆積土] 土器内部を2層に分層した。
- [出土遺物・状況] 第 群5 a類に属する深鉢形土器（第231図6）が倒立した状態で埋設されていた。また、覆土中から敲磨器類4類Bが1点（第231図8）出土した。
- [時期] 出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第32号埋設土器遺構（第229図）

- [位置・確認層] A E - 145グリッドに位置する。第 c 層において確認した。
- [重複] なし。

[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで16cmを測る。

[堆積土] 土器内部を2層に分層した。

[出土遺物・状況] 第群6類に属する深鉢形土器(第231図10)が倒立した状態で埋設されていた。

また、覆土中から石匙1類が1点(第231図7)、敲磨器類1類Aが1点(第231図9)出土した。

[時期] 出土土器から縄文時代前期後半と考えられる。

第36号埋設土器遺構(第229図)

[位置・確認層] AD-149グリッドに位置する。第c層において確認した。

[重複] 第15号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで26cmを測る。

[堆積土] 土器内部を1層に分層した。

[出土遺物・状況] 第群5a類に属する深鉢形土器(第231図11)が正立した状態で埋設されていた。

[時期] 出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第42号埋設土器遺構(第229図)

[位置・確認層] AF-146グリッドに位置する。第c層及び第18号竪穴式住居跡覆土において確認した。

[重複] 第18号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで38cmを測る。

[堆積土] 土器内部を4層に分層した。

[出土遺物・状況] 第群5a類に属する深鉢形土器(第231、232図12、13)が正立した状態で2個体重ね合わせて埋設されていた。

[時期] 出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第43号埋設土器遺構(第229図)

[位置・確認層] AE-135グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 掘り方は不整な円形を呈する。規模は、開口部で34cmを測る。深さは土器最高面から最低面まで30cmを測る。

[堆積土] 土器内部を含め、3層に分層した。

[出土遺物・状況] 第群類に属する深鉢形土器(第232図14)が正立した状態で埋設されていた。

[時期] 出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第44号埋設土器遺構(第229図)

[位置・確認層] AD-137グリッドに位置する。第c層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで23cmを測る。

[堆積土] 土器内部を1層に分層した。

[出土遺物・状況] 第 群6類に属する深鉢形土器(第232図15)が斜位の状態で埋設されていた。
[時期] 出土土器から縄文時代前期後半と考えられる。

第45号埋設土器遺構(第229図)

[位置・確認層] A D - 147グリッドに位置する。第 c層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで9cmを測る。
[堆積土] 土器内部を1層に分層した。
[出土遺物・状況] 第 群5 a類に属する深鉢形土器(第232図16)が倒立した状態で埋設されていた。
[時期] 出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第47号埋設土器遺構(第229図)

[位置・確認層] A E - 148グリッドに位置する。第15号竪穴式住居跡覆土において確認した。
[重複] 第15号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで19cmを測る。
[堆積土] 土器内部を1層に分層した。
[出土遺物・状況] 第 群5 a類に属する深鉢形土器(第232図17)が正立した状態で埋設されていた。
[時期] 出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第50号埋設土器遺構(第229図)

[位置・確認層] A F - 147グリッドに位置する。第17号竪穴式住居跡覆土において確認した。
[重複] 第17号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。
[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで13cmを測る。
[堆積土] 土器内部を1層に分層した。
[出土遺物・状況] 第 群5 a類に属する深鉢形土器(第233図18)が倒立した状態で埋設されていた。
[時期] 出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第58号埋設土器遺構(第229図)

[位置・確認層] A F - 146グリッドに位置する。第 c層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで15cmを測る。
[堆積土] 土器内部を含め2層に分層した。
[出土遺物・状況] 第 群6類に属する深鉢形土器(第233図19)が倒立した状態で埋設されていた。
[時期] 出土土器から縄文時代前期後半と考えられる。

第61号埋設土器遺構(第229図)

[位置・確認層] Y - 134に位置する。第 a層において確認した。
[重複] なし。

[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは、土器最高面から最低面まで12cmを測る。

[堆積土] 第 a層が堆積する。

[出土遺物・状況] 第 群3、4、11類に属する壺形土器（第233図22）、鉢形土器（第233図20、21、23、24）が正立し重ね合わせた状態で埋設されていた。

[時期] 出土土器より縄文時代後期前葉と考えられる。

第64号埋設土器遺構（第229図）

[位置・確認層] X - 135グリッドに位置する。第 a層において確認した。

[重複] なし。

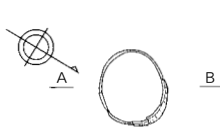
[平面形・規模] 明確な掘り方は確認できなかった。深さは土器最高面から最低面まで42cmを測る。

[堆積土] 土器内部を1層に分層した。

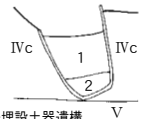
[出土遺物・状況] 第 群4類に属する壺形土器（第233図25）が正立した状態で埋設されていた。

[時期] 出土土器より縄文時代後期前葉と考えられる。

第26号埋設土器遺構



A 29.576m B



第26号埋設土器遺構
1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒少量、炭化物・角礫微量
2. 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒・炭化物微量

第36号埋設土器遺構

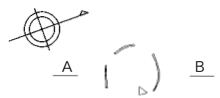


A 29.908m B

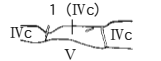


第36号埋設土器遺構
1. 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒少量

第45号埋設土器遺構

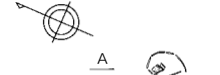


A 30.121m B

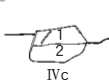


第45号埋設土器遺構
1. 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒少量 (IVc層)

第58号埋設土器遺構

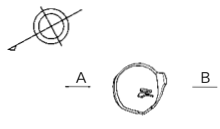


A 30.241m B

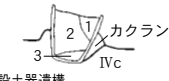


第58号埋設土器遺構
1. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム粒中量
2. 黄褐色土 (10YR5/8) ローム粒中量

第27号埋設土器遺構

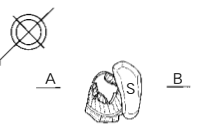


A 29.806m B

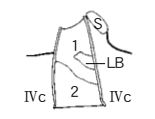


第27号埋設土器遺構
1. 褐色土 (7.5YR4/3) 炭化物少量、ローム粒少量
2. 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物少量
3. 褐色土 (7.5YR4/3) 褐色土 (7.5YR4/4) 少量、炭化物微量

第28号埋設土器遺構

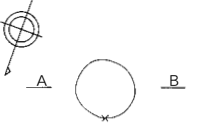


A 29.712m B



第28号埋設土器遺構
1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) と褐色土 (7.5YR4/4) の混合土 ローム粒少量、炭化物微量
2. 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量、炭化物微量

第30号埋設土器遺構

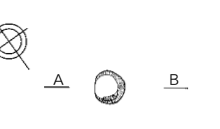


A 29.194m B

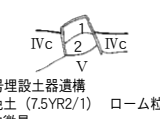


第30号埋設土器遺構
1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒・炭化物微量
2. 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・炭化物微量

第32号埋設土器遺構

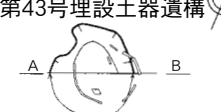


A 30.106m B

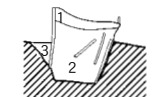


第32号埋設土器遺構
1. 黒色土 (7.5YR2/1) ローム粒・炭化物微量
2. 黒色土 (7.5YR1.7/1) と褐色土 (7.5YR4/4) の混合土 ローム粒・炭化物微量

第43号埋設土器遺構

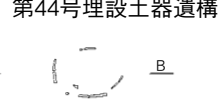


A 29.245m B



第43号埋設土器遺構
1. 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒・角礫少量
2. 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量
3. 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒少量

第44号埋設土器遺構

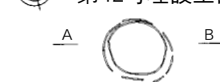


A 30.105m B

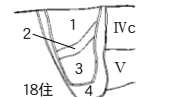


第44号埋設土器遺構
1. 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量

第42号埋設土器遺構

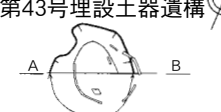


A 29.691m B

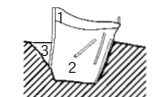


第42号埋設土器遺構
1. 暗褐色土 (10YR3/4) と黒褐色土 (10YR2/3) の混合土 ローム粒少量
2. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量
3. 黒色土 (10YR2/1) ローム粒少量
4. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量

第50号埋設土器遺構

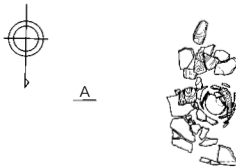


A 29.361m B



第50号埋設土器遺構
1. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量、円礫微量

第61号埋設土器遺構



A 28.345m B



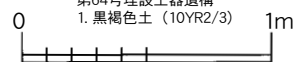
第64号埋設土器遺構



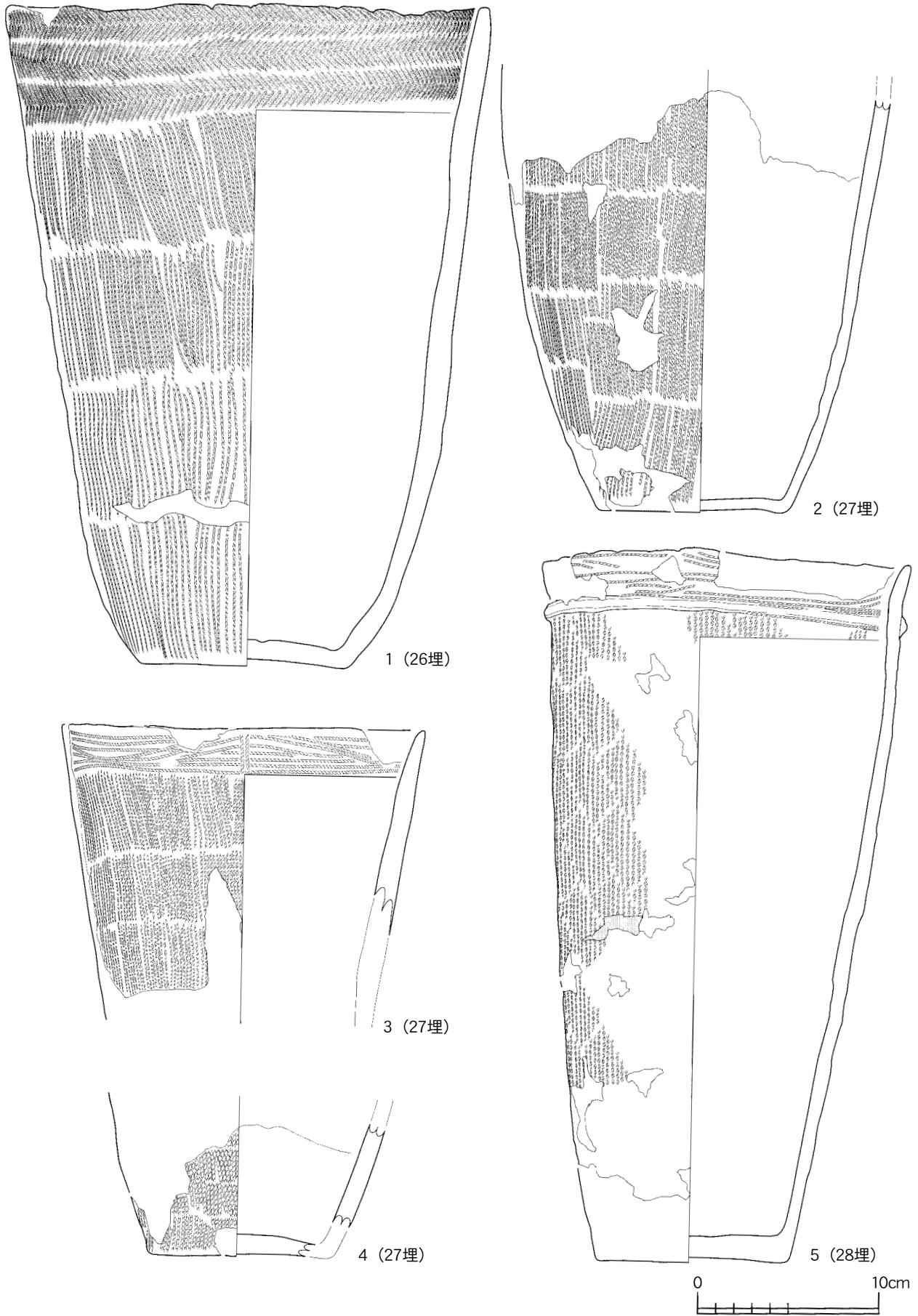
A 28.943m B



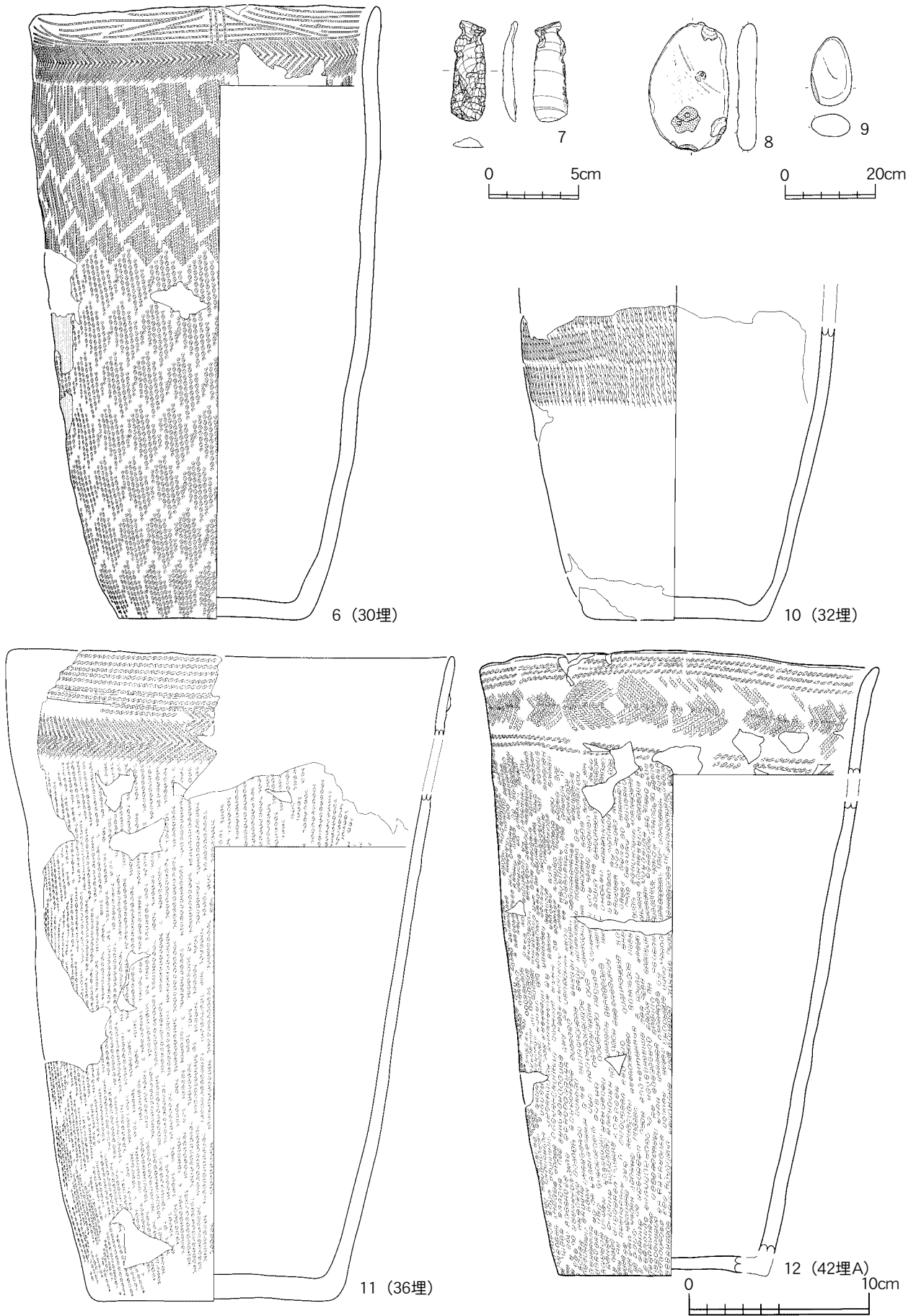
第64号埋設土器遺構
1. 黒褐色土 (10YR2/3)



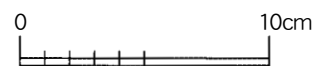
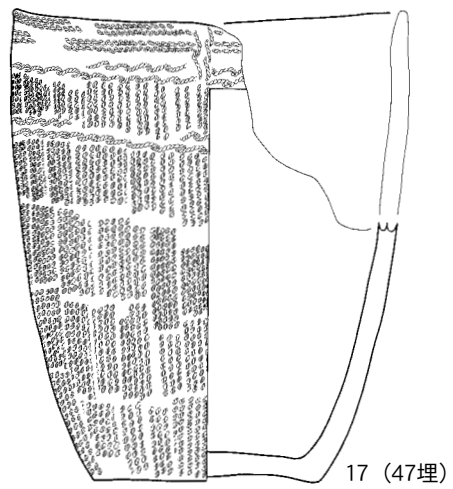
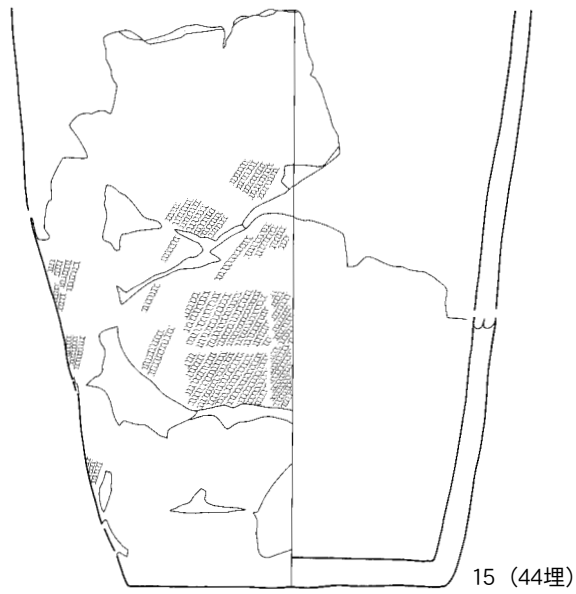
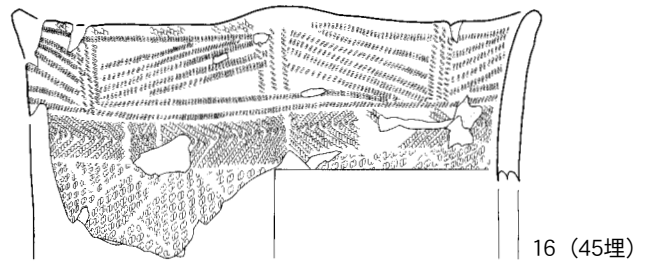
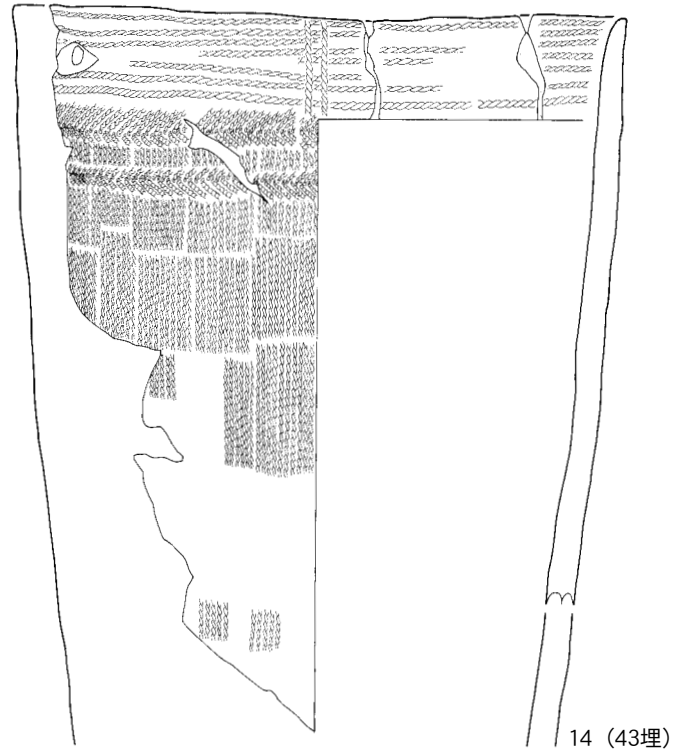
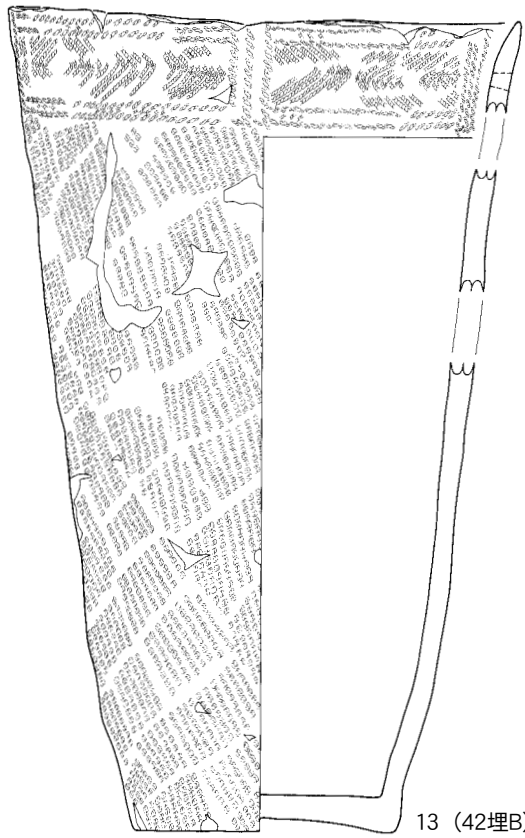
第229図 埋設土器遺構



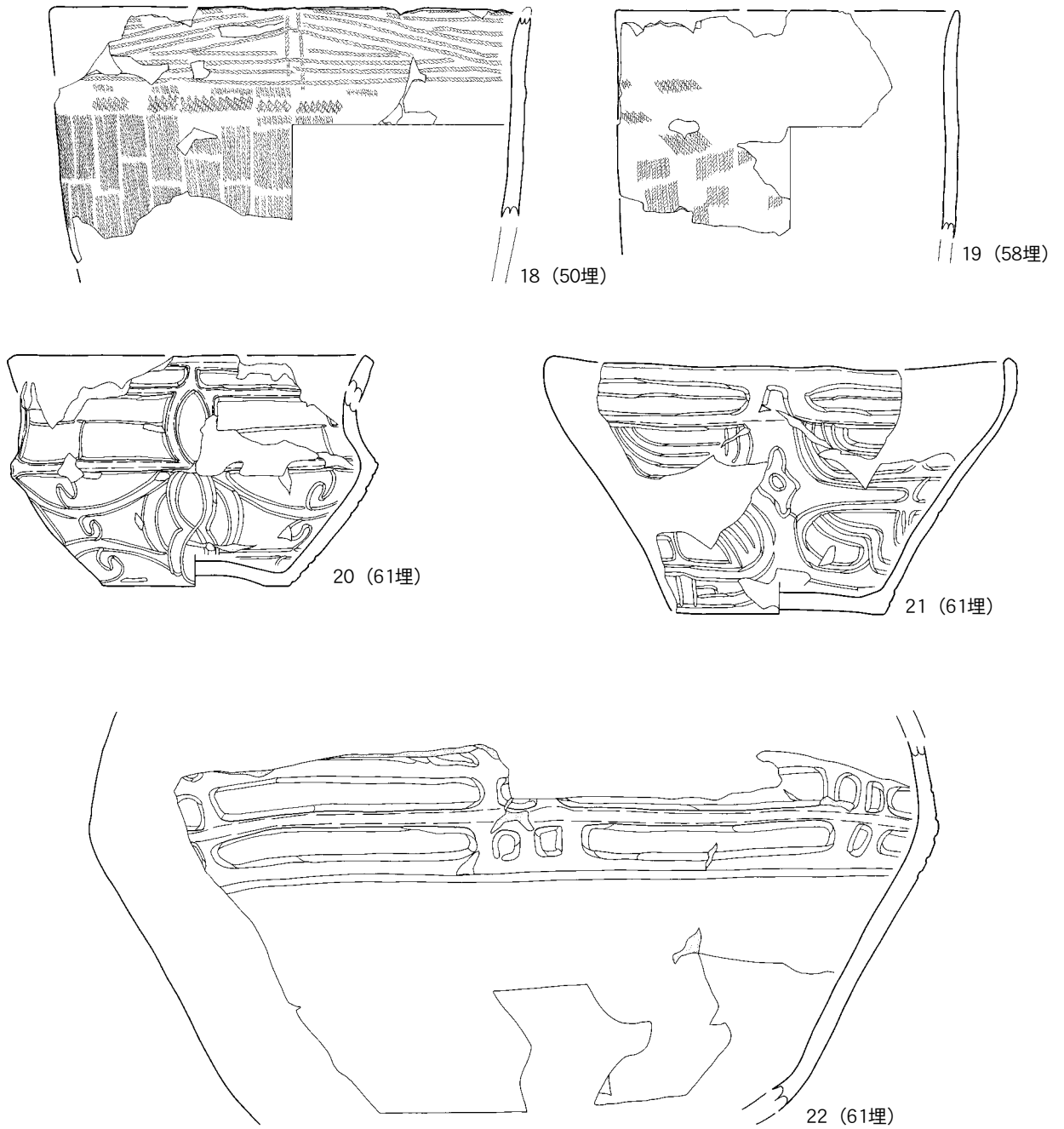
第230図 遺構内出土土器（埋設土器遺構）(1)



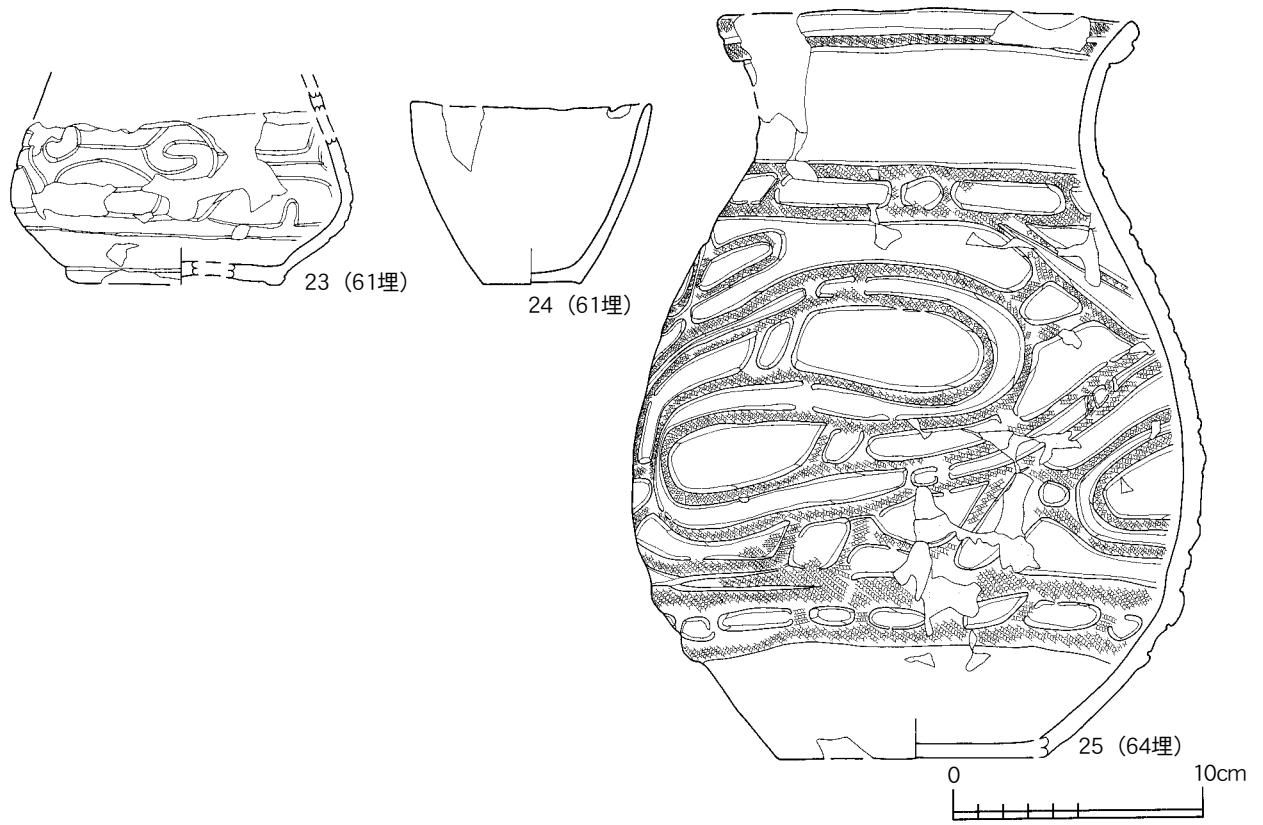
第231図 遺構内出土土器・石器（埋設土器遺構）



第232図 遺構内出土土器（埋設土器遺構）(2)



第233図 遺構内出土土器（埋設土器遺構）(3)



第234図 遺構内出土土器（埋設土器遺構）(4)

4. 配石遺構

第2号配石遺構（第235図）

[位置・確認層] A F - 136グリッドに位置する。表土下の第 a 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 20点の自然礫（S - 1 ~ 20）を集めて配置している。付近には他に、3点の自然礫（S - 22 ~ 24）が認められた。下部において付随すると思われる土坑等は確認していない。規模は、最長73cmである。

[壁] なし。

[底面] なし。

[堆積土] 上面には第 層が堆積する。

[出土遺物] 敲磨器類 1 類 A が 1 点（第238図1）、1 類が 1 点（第238図4）、2 類 A が 1 点（第238図2）、2 類 B が 1 点（第238図3）、3 類が 1 点（第238図5）、剥離のある礫が 1 点（第238図6）、石皿・台石 1 類が 1 点（第238、239図7、8）出土している。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期初頭から前葉と思われる。

第3号配石遺構（第235図）

[位置・確認層] A E - 134グリッドに位置する。表土下の第 a 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 20点の自然礫（S - 1 ~ 5、9 ~ 23）を集めて配置している。下部において付随すると思われる土坑等は確認していない。規模は、最長88cmである。

[壁] なし。

[底面] なし。

[堆積土] 上面には第 層が堆積する。

[出土遺物] 敲磨器類 2 類 A が 3 点（第239図9、10、13）、4 類 A が 1 点（第239図12）、4 類 B が 1 点（第239図11）出土している。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期初頭から前葉と思われる。

第4号配石遺構（第235図）

[位置・確認層] A G - 138グリッドに位置する。表土下の第 a 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 16点の自然礫（S - 1 ~ 4ほか）を集めて配置している。付近には他に4点の自然礫が認められた。下部において付随すると思われる土坑等は、確認していない。規模は、最長88cmである。

[壁] なし。

[底面] なし。

[堆積土] 上面には第 層が堆積する。

[出土遺物] 不定形石器 3 類が 1 点（図示していない）、敲磨器類 2 類 B が 1 点（第240図17）、石皿・台石 1 類が 4 点（第240、241図14 ~ 16、18）出土している。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期初頭～前葉と思われる。

第5号配石遺構 (第235図)

[位置・確認層] A B - 135グリッドに位置する。表土下の第 a 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 25点の自然礫 (S - 7 ~ 31) を集めて配置している。付近には他に6点の自然礫 (S - 1 ~ 6) が認められた。下部において付随すると思われる土坑等は、確認していない。規模は、最長138cmである。

[壁] なし。

[底面] なし。

[堆積土] 上面には第 層が堆積する。

[出土遺物] 敲磨器類 1 類 A が 1 点 (第240図19)、2 類 E が 2 点 (第240、241図20、21) 出土している。

[時期] 以降確認層より縄文時代後期初頭～前葉と思われる。

第14号配石遺構 (第236図)

[位置・確認層] X・Y - 142、143グリッドに位置する。第 a 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 27点の自然礫 (S - 11 ~ 28、30 ~ 37) を 2 列に配置している。付近には他に、12点の自然礫 (S - 1 ~ 10、38、39) が認められた。下部において付随すると思われる土坑等は、確認していない。規模は最長267cmである。

[壁] なし。

[底面] なし。

[堆積土] 上面には第 層が堆積する。

[出土遺物] 石皿・台石 1 類が 1 点 (第242図22) 出土している。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期初頭から前葉と思われる。

第19号配石遺構 (第236図)

[位置・確認層] A B - 138グリッドに位置する。第 a 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 9点の自然礫 (S - 1 ~ 9) を集めて配置している。付近には他に5点の自然礫 (S - 10 ~ 14) が認められた。下部において付随すると思われる土坑等は、確認していない。規模は、最長109cmである。

[壁] なし。

[底面] なし。

[堆積土] 上面には第 層が堆積する。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期初頭から前葉と思われる。

第20号配石遺構（第237図）

[位置・確認層] A A - 135グリッドに位置する。第 a 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 15点の自然礫を弧状に配置している。付近には他にも自然礫が認められた。下部において付随すると思われる土坑等は、確認していない。規模は、最長256cmである。また、弧の内側には部分的に赤褐色土が認められたが、第 層に相当する。口 - ムが廃棄されたものと判断した。

[壁] なし。

[底面] なし。

[堆積土] 上面には第 a 層が堆積する。

[出土遺物] 石皿・台石 1 類が 1 点（第242図24）、2 類が 1 点（第242図）出土している。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期初頭から前葉と思われる。

第21号配石遺構（第237図）

[位置・確認層] A C - 138グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 8点の自然礫を列状に配置している。下部において付随すると思われる土坑等は、確認していない。規模は、最長222cmである。

[壁] なし。

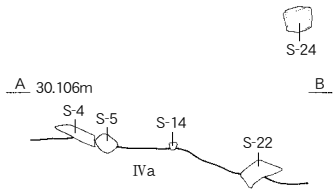
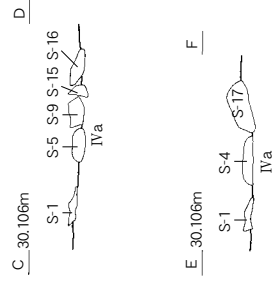
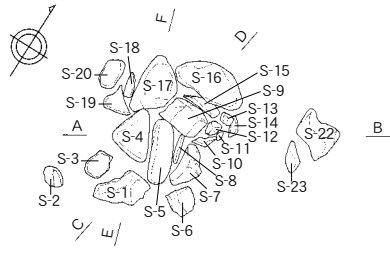
[底面] なし。

[堆積土] 上面には第 層が堆積する。

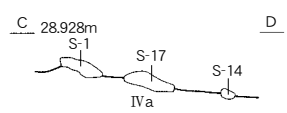
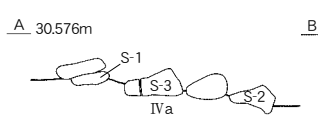
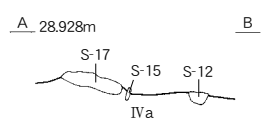
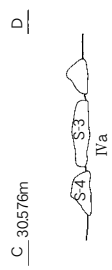
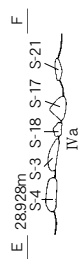
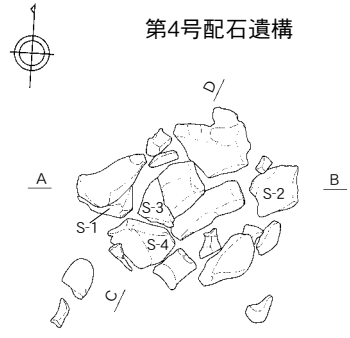
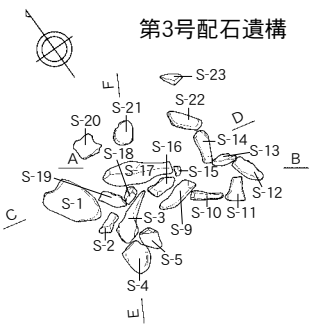
[出土遺物] なし。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期初頭から前葉と思われる。

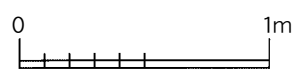
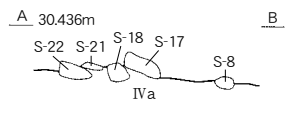
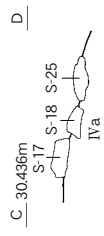
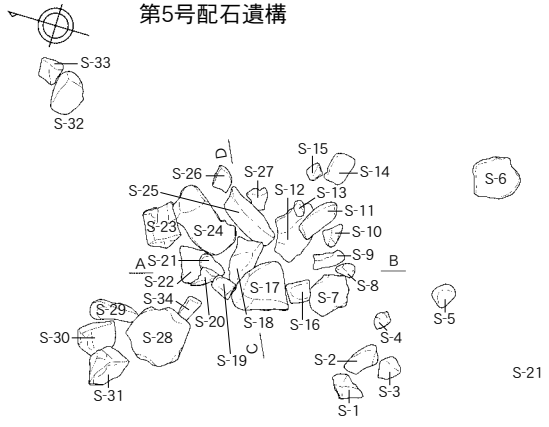
第2号配石遺構



第4号配石遺構

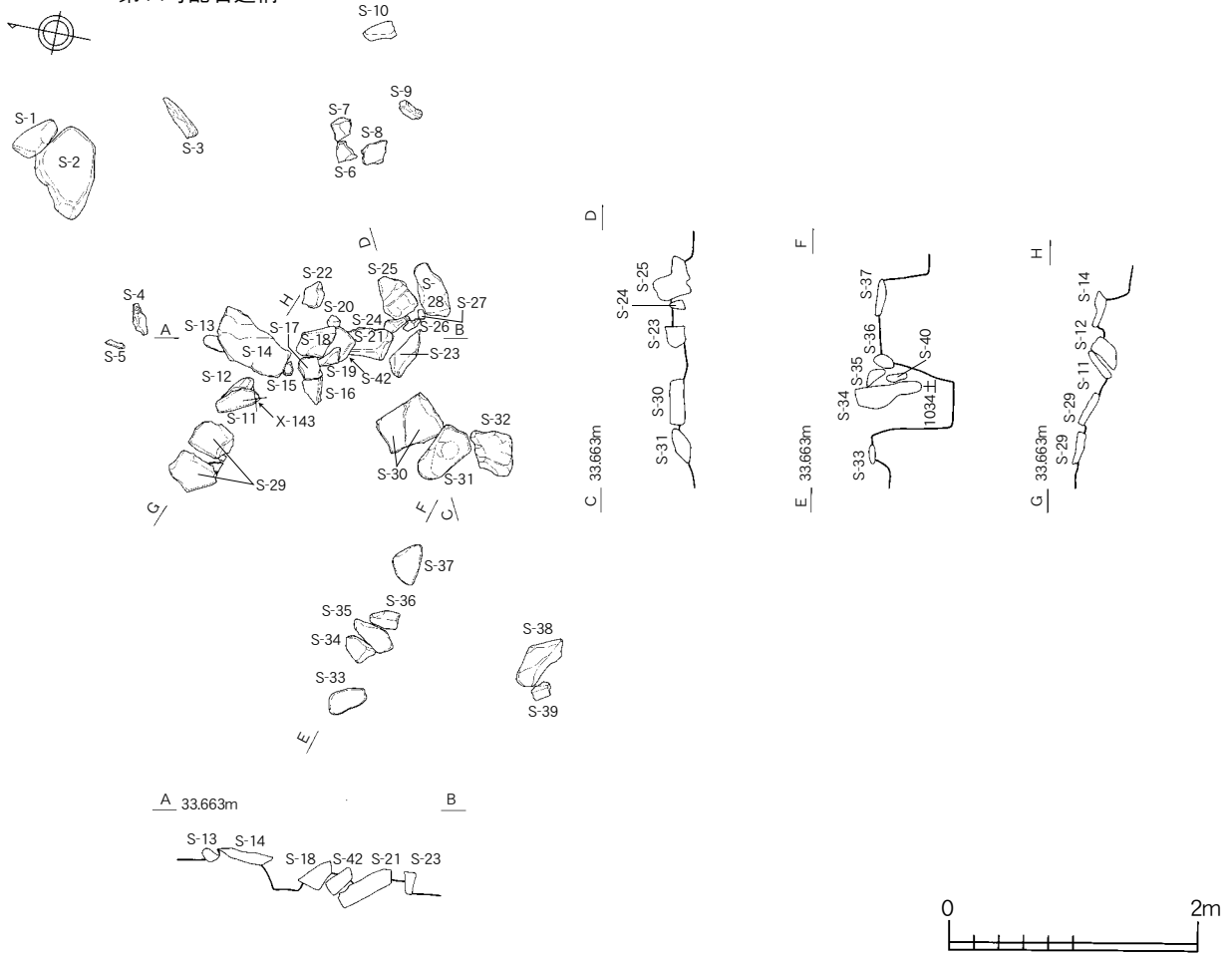


第5号配石遺構

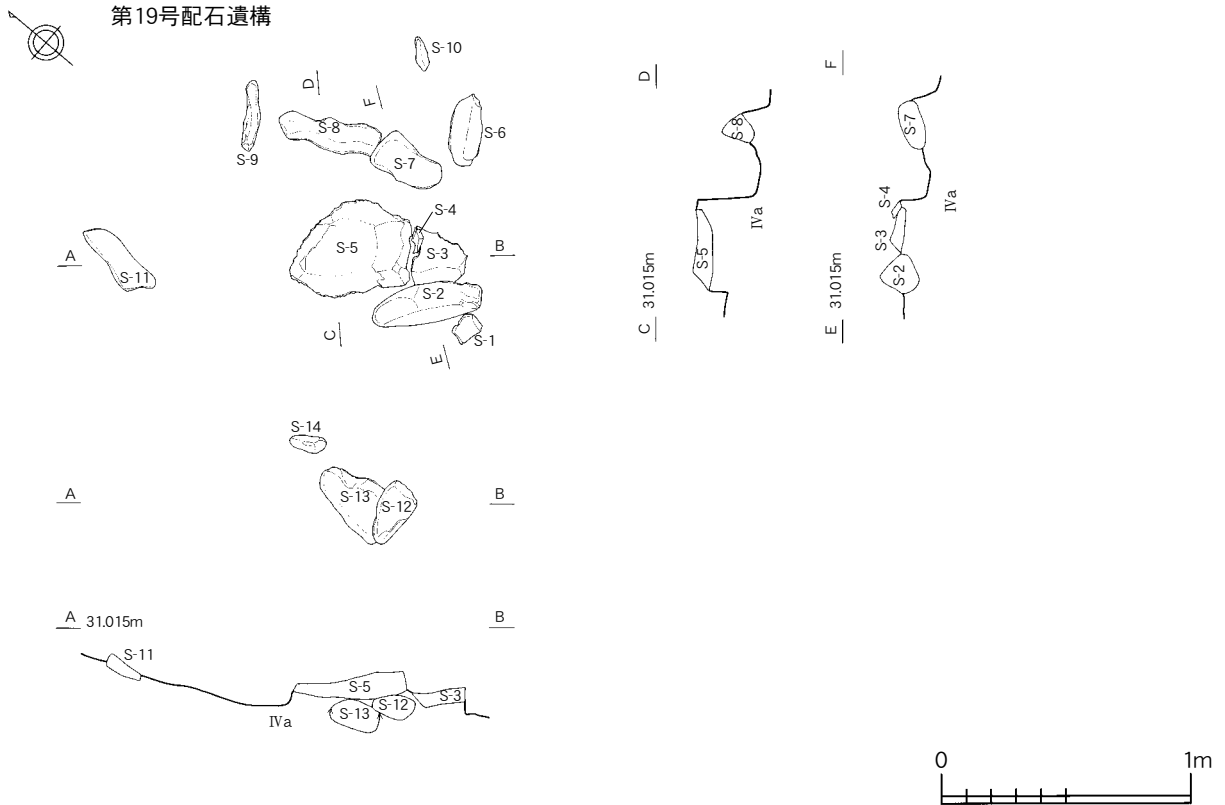


第235図 配石遺構 (1)

第14号配石遺構

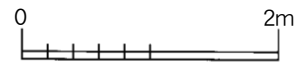
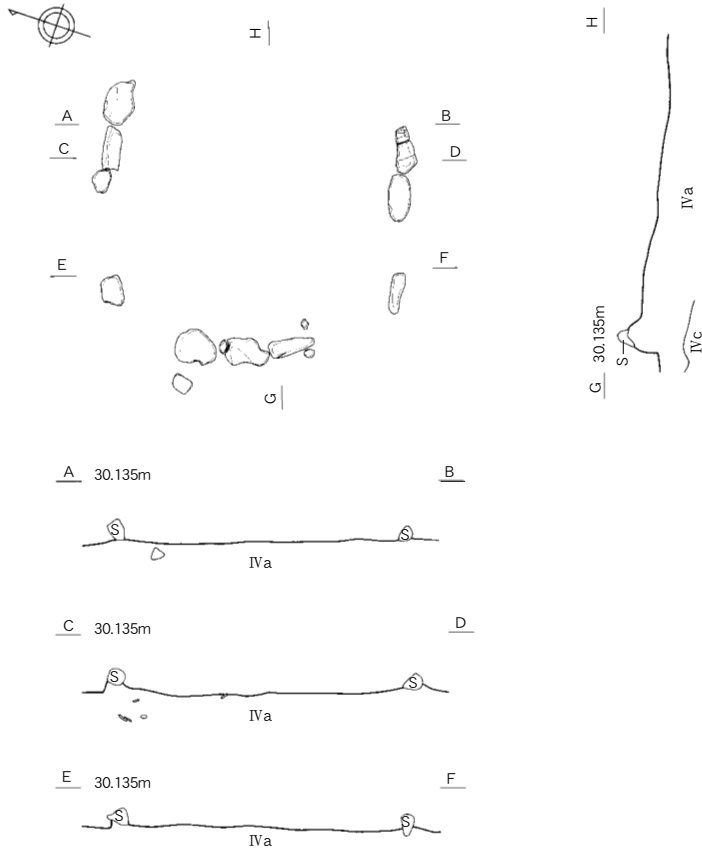


第19号配石遺構

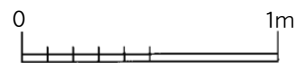
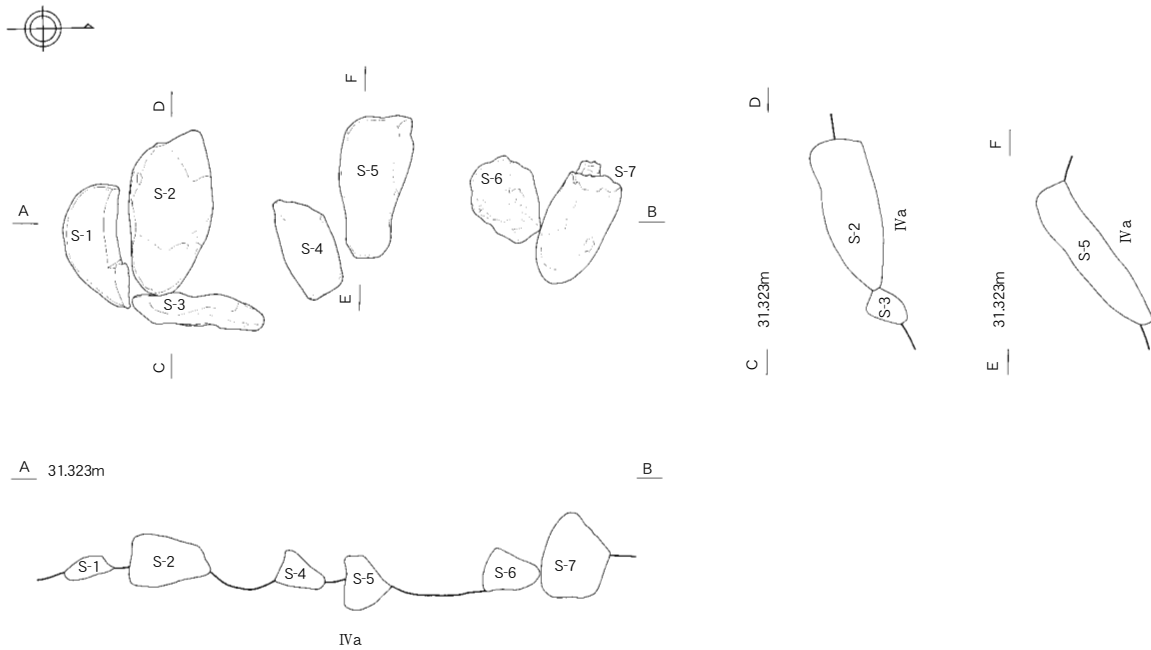


第236図 配石遺構 (2)

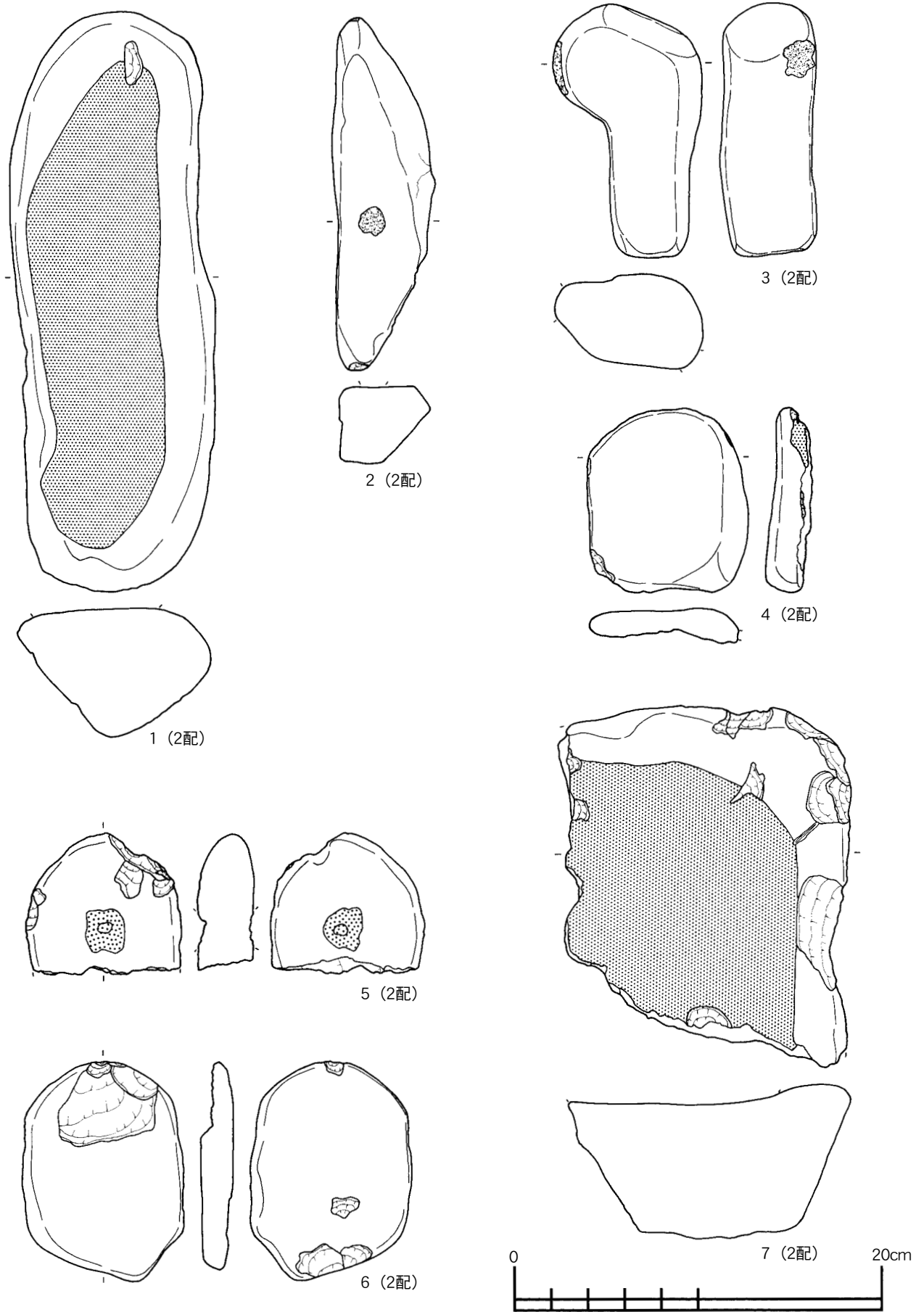
第20号 配石遺構



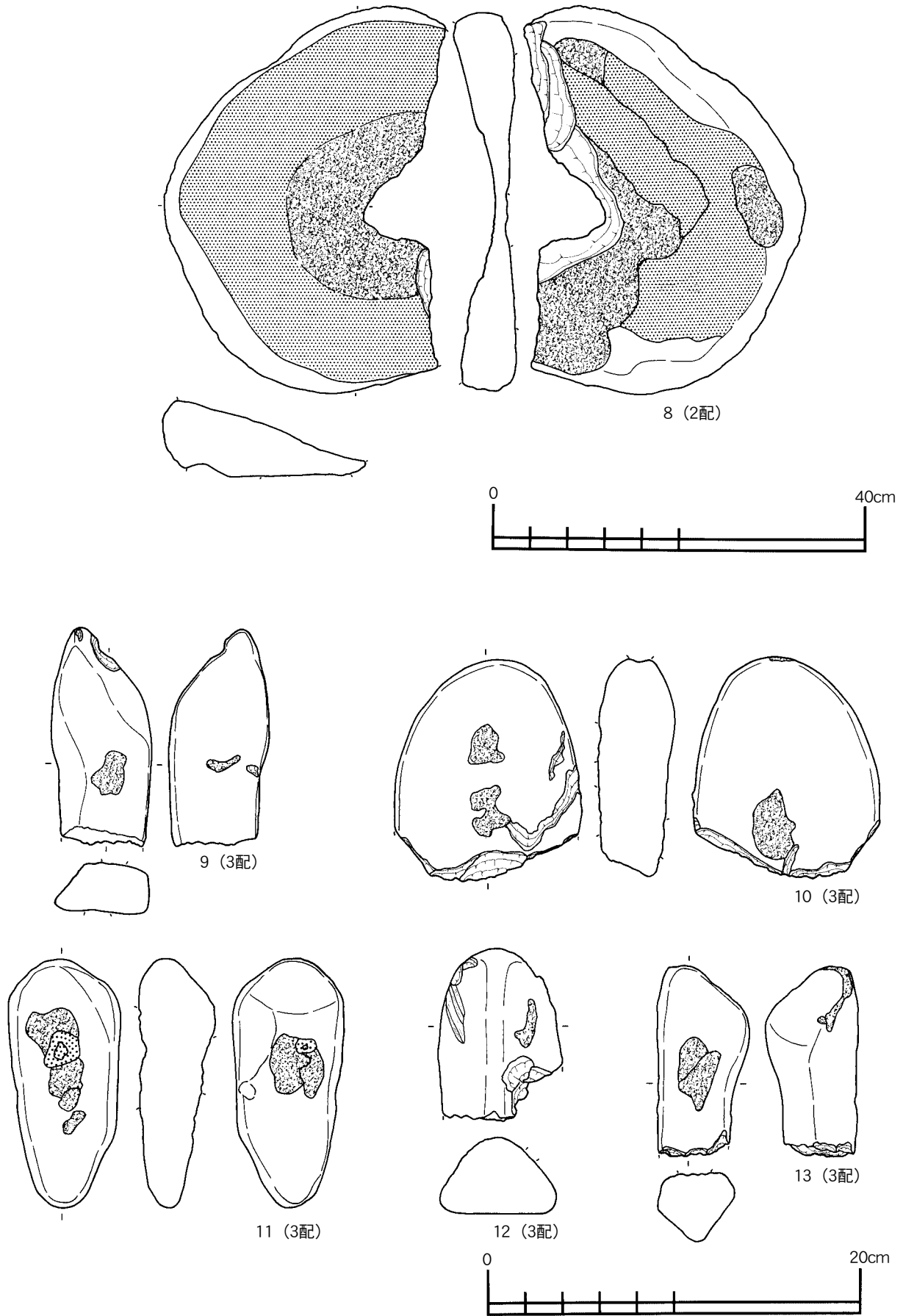
第21号 配石遺構



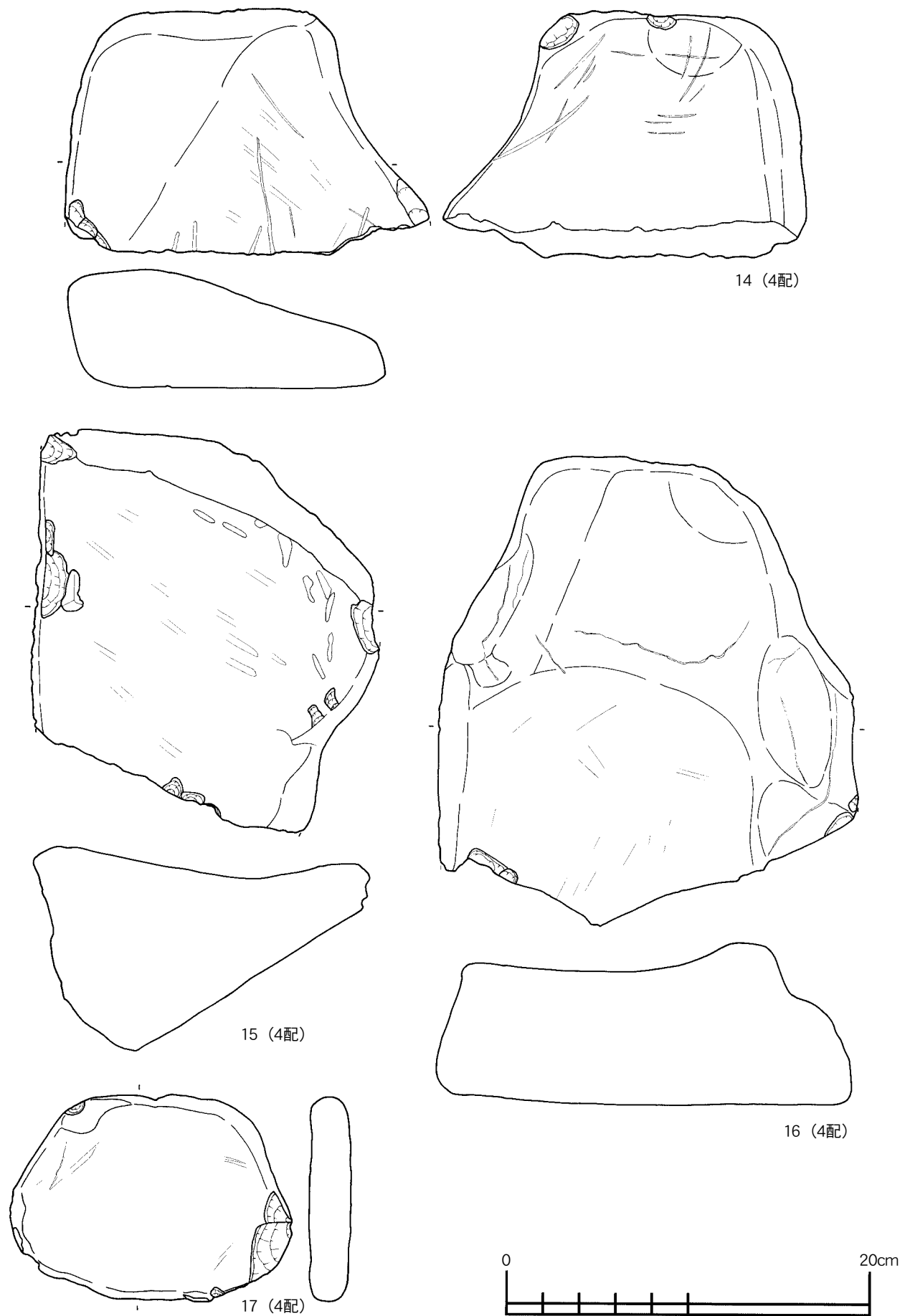
第237図 配石遺構 (3)



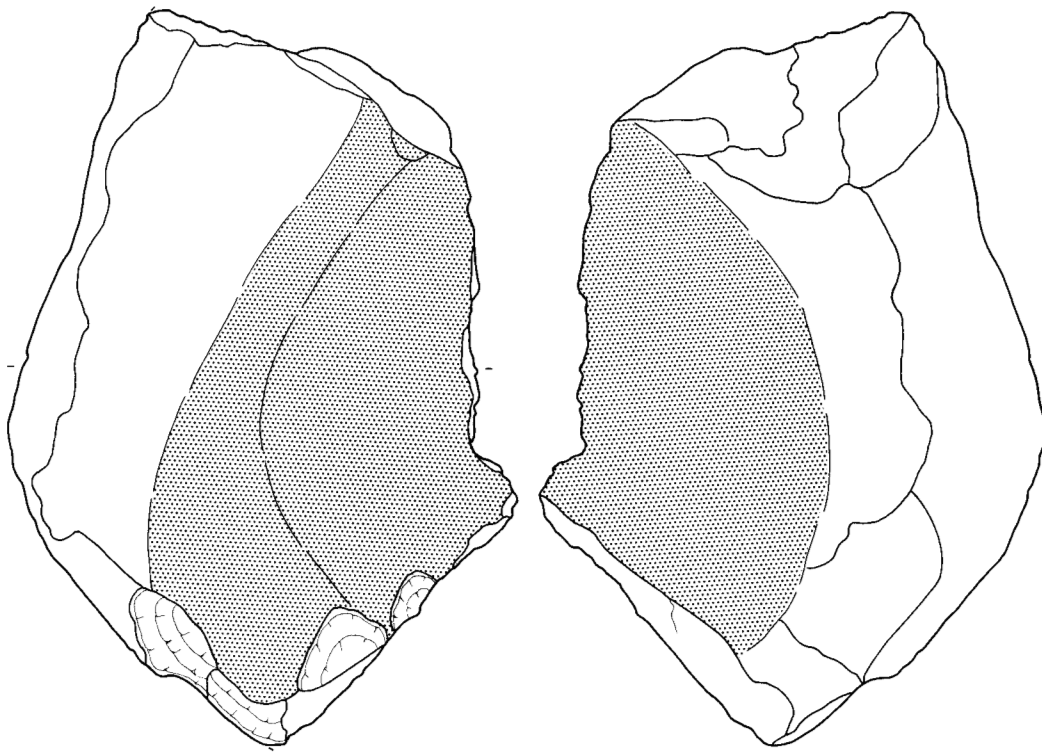
第238図 遺構内出土石器（配石遺構）（1）



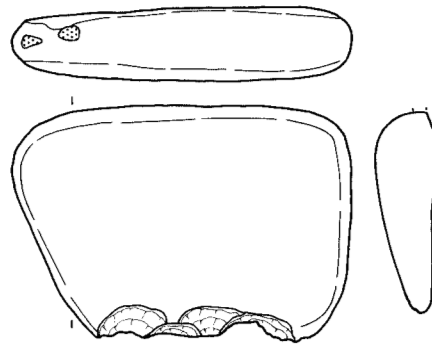
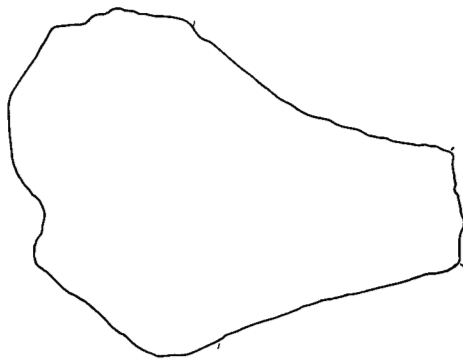
第239図 遺構内出土石器（配石遺構）(2)



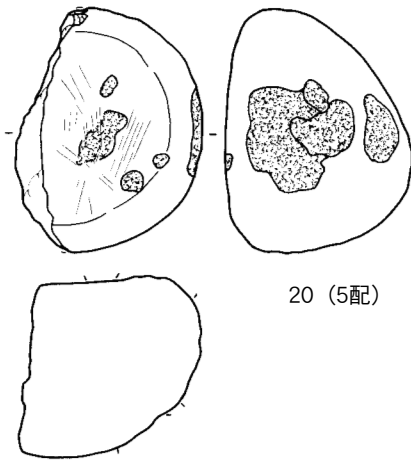
第240図 遺構内出土石器（配石遺構）（3）



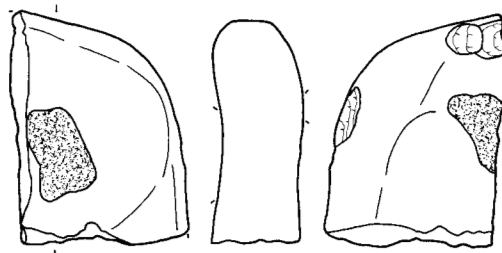
18 (4配)



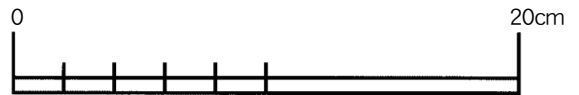
19 (5配)



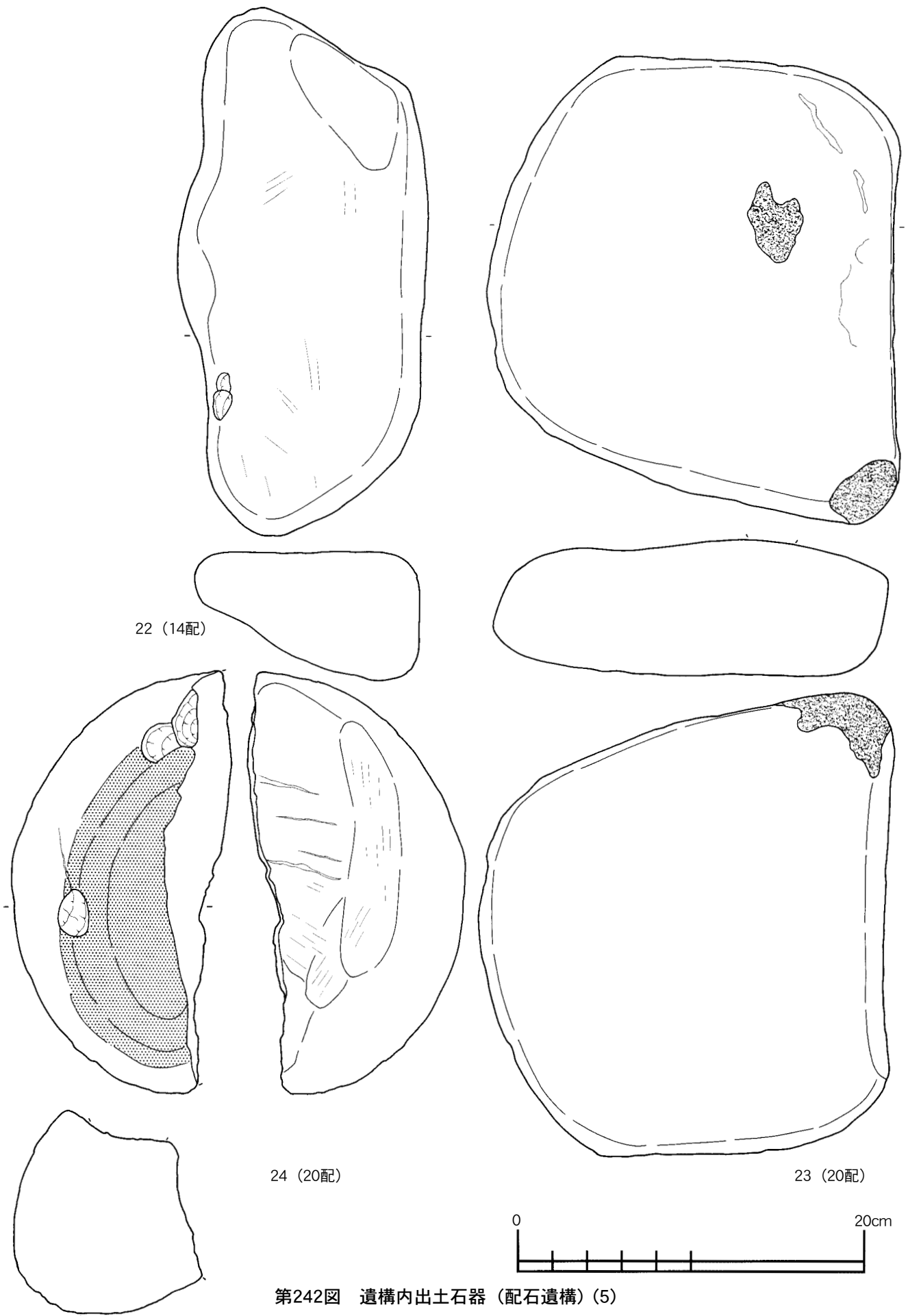
20 (5配)



21 (5配)



第241図 遺構内出土石器 (配石遺構) (4)



第242図 遺構内出土石器（配石遺構）(5)

5. 溝状遺構

第6号溝状遺構（第243図）

- [位置・確認層] A D - 145グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第2号竪穴式住居跡、第323号土坑、第349号土坑と重複し、本遺構は第2号竪穴式住居跡より新しく、第323号土坑、第349号土坑との新旧関係は、不明である。
- [平面形・規模] 長さが110cm、最大幅が24cm、深さが48cmである。
- [壁] やや外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積する。ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以降の溝状遺構と思われる。

第7号溝状遺構（第243図）

- [位置・確認層] A F - 133、134、A G - 134グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第711号土坑、第712号土坑と重複し、本遺構は第711号土坑より新しく、第712号土坑より古い。
- [平面形・規模] 長さが400cm、最大幅が26cm、深さが14cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 丸みを帯びる。
- [堆積土] 4層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。その他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の溝状遺構と思われる。

第8号溝状遺構（第243図）

- [位置・確認層] A B・A C - 136グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第741号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 長さが、88cm、最大幅が48cm、深さが28cmである。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の溝状遺構と思われる。

第11号溝状遺構（第243図）

- [位置・確認層] A B・A C - 131グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第672号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 長さが、346cm、最大幅が22cm、深さが8cmである。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。部分的に丸みを帯びる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の溝状遺構と思われる。

6. 焼土遺構

第1号焼土遺構（第243図）

- [位置・確認層] A D - 146グリッドに位置する。第 c 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 焼土の平面形は、不整形を呈する。炭化物範囲は、不整な楕円形を呈する。規模は、焼土が最長114cm、炭化物が最長31cmである。
- [壁] なし。
- [底面] なし。
- [堆積土] 6層に分層した。第1層は、炭化物層である。その他は、暗赤褐色～赤褐色土が堆積し、焼床面と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

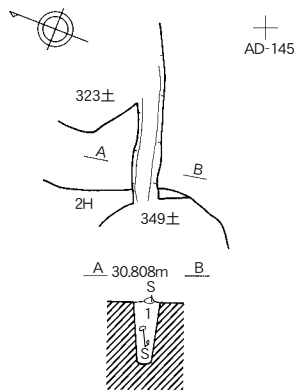
第2号焼土遺構（第243図）

- [位置・確認層] A E - 135グリッドに位置する。第559号土坑覆土において確認した。
- [重複] 第559号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 焼土の平面形は、不整形を呈する。規模は最長28cmである。
- [壁] なし。
- [底面] なし。
- [堆積土] 2層に分層した。黄橙色～明褐色土が堆積し、火床面と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の焼土遺構と思われる。

第5号焼土遺構（第243図）

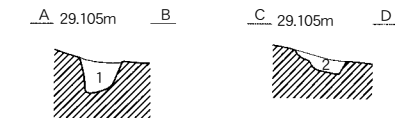
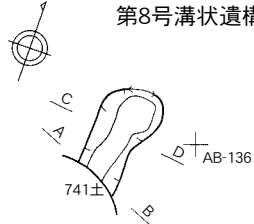
- [位置・確認層] A A - 133グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 焼土の平面形は、不整形を呈する。円形の掘り方の上部に位置する。規模は、焼土が最長47cm、掘り方が長径45cm、深さが28cmである。
- [壁] 掘り方は外側へ緩やかに立ち上がる。一部屈曲が見られる。
- [底面] 掘り方は、東側から西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 掘り方も含め3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積する。焼土が廃棄されたものと思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。第3層は、黒褐色土が堆積する。第2層と一緒にブロック状に堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第6号溝状遺構



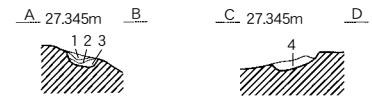
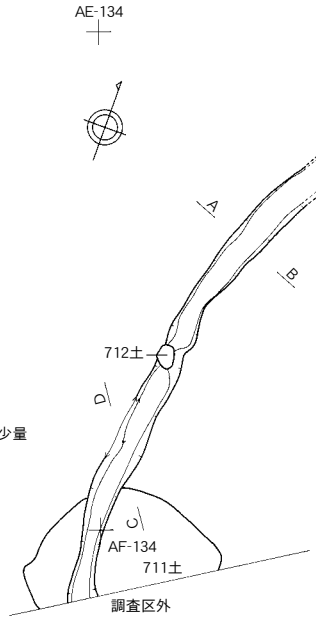
第6号溝状遺構
1. 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒・炭化物・角礫少量

第8号溝状遺構



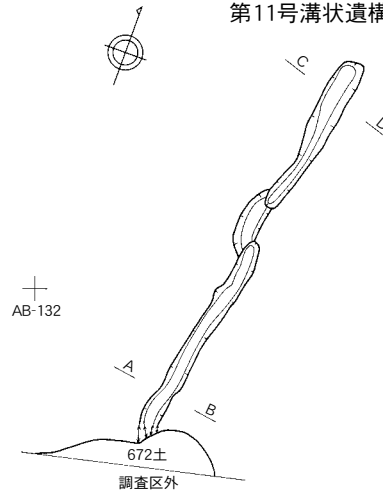
第8号溝状遺構
1. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 角礫中量、ローム粒・炭化物微量
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒微量

第7号溝状遺構

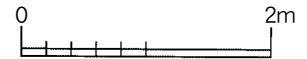


第7号溝状遺構
1. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・角礫少量
2. 褐色土 (10YR4/6) ローム
3. 褐色土 (10YR4/4) ローム粒少量
4. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量

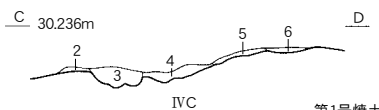
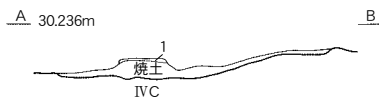
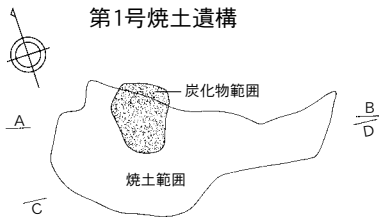
第11号溝状遺構



第11号溝状遺構
1. 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量
2. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒中量

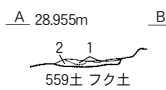
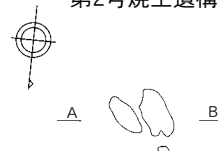


第1号焼土遺構



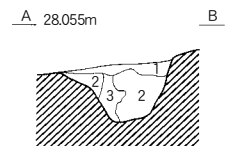
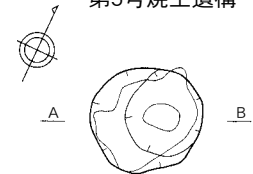
第1号焼土遺構
1. 黒色土 (10YR1.7/1) 炭化物層
2. 赤褐色土 (2.5YR4/6) 炭化物粒微量
3. 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 赤礫混入
4. 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) 炭化物粒微量、暗褐色土混入
5. 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 炭化物少量、赤礫・暗褐色土混入
6. 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 炭化物少量

第2号焼土遺構

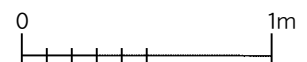


第2号焼土遺構
1. 明赤褐色土 (5YR5/8)
2. にぶい黄橙色 (10YR6/4)

第5号焼土遺構



第5号焼土遺構
1. 暗赤褐色土 (5YR3/3)
2. 黒褐色土 (10YR3/2) LB多量、ローム粒中量
3. 黒褐色土 (10YR3/2)



第243図 溝状遺構・焼土遺構

第2節 出土遺物

平成12年度の調査で出土した遺物には、土器、石器、土製品、石製品がある。出土遺物の全体量は、遺構内外を合わせダンボール換算で550箱である。

1. 土器

本遺跡で出土した土器は、以下のように分類している。

- 第 群土器 縄文時代早期の土器
- 第 群土器 縄文時代前期の土器
- 第 群土器 縄文時代中期の土器
- 第 群土器 縄文時代後期の土器
- 第 群土器 縄文時代晩期の土器
- 第 群土器 続縄文・弥生時代の土器
- 第 群土器 平安時代の土器

平成12年度調査における出土土器の主体は、第 群土器、第 群土器であり、他群の土器は出土していない。

第 群土器：縄文時代前期の土器

以下のように細分した。

- 1 類 縄文時代前期前葉の土器
- 2 類 円筒下層 a 式土器に比定される土器
- 3 類 円筒下層 b 式土器に比定される土器
- 4 類 円筒下層 c 式土器に比定される土器
- 5 類 円筒下層 d 式土器に比定される土器
 - a 円筒下層 d₁ 式土器に比定される土器
 - b 円筒下層 d₂ 式土器に比定される土器
- 6 類 円筒下層式土器と思われるが時期の特定できない土器
- 7 類 大木式土器等他地域の影響を受けた土器

3 類 円筒下層 b 式土器に比定される土器

(第26～28図47～54、56、第29、30図57～61、63、64、第34、35図82～87、第36～45図90～136、第46～47図139～148、第48図151、第49図157～160、第50図164、168、170、174、177、180、183、188、189、第51図191、192、194、196、201、209、217、第52図218、219、224、226、227、229、232～235、238、244、246、249、第53図264、265、268、269、271、272、275、277～282、284、第54図285～287、290～292、294～299、302、304、306、308～314、第55図316、330、335、338、340、第165図52、53、第167図59、61、第169図48、78、第171図174、177、第172図186、204、224、第174図274、第175図310、第177図

461、第178図507、513、518、第179図558、第180図574、第181図635、第182図669、674、第183図723、753、第184図784、787、第185図818、822、826、第186図865、873、883、888、889、896、914、第187図937、950、951、963、965、969、972、第188図995、997、998、1001、1008、1016、第189図1049、1069、1071、1072、第191図1206、1210、1211、1215、第192図1278、第244～251図1～36、第252、253図38～44、48、第254図49～51、第257図65)

・口縁部に結節回転文や縄文を施文するもの。

口縁部に結節回転文を施文するもの(第53図275)、複節縄文を施文するもの(第28図53、54、第29図58、第34図82、83、第35図87、第46図142、143、第47図144～147、第49図158、第252図38～40)、単節縄文を施文するもの(第28図56、第45図135、第47図148、第49図157、第165図53、第251図36、第252図41、第253図42、43)、結束第一種羽状縄文を施文するもの(第45図134、第46図139～141)が見られる。また、器面全体に同一の施文を施すもの(第27図50、第49図160、第254図49～51)も見られる。

口縁部に結節回転文を施すもの(第53図275)は、口縁部と胴部間に横位の縄押圧による区画文が見られる。また、胴部には複節縄文を斜位に施文している。

口縁部に複節縄文を施すものは、口縁部と胴部間に横位の縄押圧による区画文の見られるもの(第34図83、第46図142、第47図146)や、区画文に加えて口縁部上端に横位の縄押圧が見られるもの(第28図53、第34図82、第46図143、第49図158、第252図38～40)、区画文に加えて縦位に縄押圧が見られるもの(第29図58、第35図87)、区画文に加えて縦位及び口縁部上端に縄押圧が見られるもの(第28図54、第47図144、145)が見られる。また、口縁部上端に横位の縄押圧が見られるが口縁部と胴部間に区画文がないもの(第47図146、147)もある。胴部には、単軸絡条体第1類の縦位回転文を施文するもの(第28図54、第34図83、第47図147、第252図39)、複節縄文を斜位(第29図58、第35図87、第46図143、第47図144、145、第49図158)、横位(第28図53)に施文するもの、単節縄文を施文するもの(第46図142)や、胴部上半に横位の複節縄文を下半に単軸絡条体第5類の縦位回転文を施文するもの(第34図82)、胴最上部に複節縄文を横位に、下部に斜位に施文するもの(第252図38、40)が見られる。

口縁部に単節縄文を施すものは、口縁部と胴部間に横位の縄押圧による区画文を施すもの(第47図148、第165図53)、隆帯を施すもの(第253図42)、区画文に加えて口縁部上端に横位の縄押圧が見られるもの(第28図56、第49図157、第252図41)、区画文に加えて縦位及び口縁部上端に横位の縄押圧が見られるもの(第45図135、第251図36、第253図43)がある。

胴部には、単軸絡条体第1類の縦位回転文を施文するもの(第28図56、第251図36、第252図41、第253図42)、斜位回転文を施文するもの(第165図53)、単節縄文を横位に施文するもの(第45図135、第49図157)、斜位に施文するもの(第47図148)、胴部上半に単節縄文を横位に、下半に単軸絡条体の縦位回転文を施すもの(第253図43)がある。

口縁部に結束第一種による羽状縄文を施すものは、口縁部と胴部間に横位の縄押圧による区画文の見られるもの(第46図139、141)、区画文に加えて口縁部上端に横位の縄押圧が見られるもの(第46図140)、区画文に加えて縦位及び口縁部上端に横位の縄押圧の見られるもの(第45図134)がある。

胴部には、単軸絡条体第1類の縦位回転文を施すもの(第45図134、第46図139)、斜位回転文を施すもの(第46図140)、複節縄文を胴最上部に横位に下部に斜位に施すもの(第46図141)がある。

また、器面全体に同一の施文を施すものには、地文のみのもの(第49図160)、横位に2条の縄押圧が

施されるものと(第27図50、第254図49～51)がある。また、地文には複節縄文を横位に施すもの(第27図50、第49図160、第254図49、50)、斜位に施すもの(第254図51)とがある。

・口縁部に単軸絡条体第1類の絡条体回転文を施文するもの。(第26図48、第27図51、第29図60、第30図61、第35図84、86、第36図91～93、第37図94～99、第38図100～105、第39図106～110、第40図111～114、第41図115～118、第42図119、120、121、第49図159、第50図168、170、174、177、180、183、第51図191、196、第51図201、209、217、第52図227、233、235、238、244、第53図264、281、284、第54図287、292、296、298、299、302、308、310、311、313、314、第55図316、330、338、340、第169図48、第171図177、第174図274、第175図310、第178図518、第180図574、第182図669、第183図723、第184図787、第185図822、826、第186図883、914、第187図937、951、963、969、第188図1001、1016、第189図1049、1071、1072、第191図1210、1211、第192図1278、第244、245図1～8、第246～248図10～18)

口縁部には、横位回転文を施文するものが主体であるが、胴部と同様に縦位回転文が施文されているもの(第42図119、120、第248図18)も少数見られる。口縁部と胴部間には、区画文の無いもの(第38図100、102、第49図159)もあるが少数であり、大半のものに縄原体押圧や隆帯による区画が見られる。また、縄原体押圧による区画文の見られるもの(第38図101、103、105、第41図118)や、隆帯による区画文の見られるもの(第244図2～4)など区画文のみ認められるものの他、区画文に加えて口縁部上端に横位の縄押圧の見られるもの(第30図61、第36図91、第37図95、第38図104、第39図106、107、109、第40図114、第244図2、第245図5～7、第246、247図10～15)や、区画文に加えて縦位の縄押圧の見られるもの(第26図48、第29図60、第37図94、96、97、第40図111～113、第41図115、第42図120、第244図1、第245図8)、区画文に加えて斜位の縄押圧の見られるもの(第35図84)、区画文に加えて斜位及び口縁部上端に横位の縄押圧の見られるもの(第37図99)、区画文に加えて縦位及び口縁部上端に横位の縄押圧の見られるもの(第35図86、第36図92、93、第37図98、第39図108、110、第41図116、117、第42図119、121、第244図4、第247図16、17)、区画文に加えて斜位、縦位及び口縁部上端に横位の縄押圧の見られるもの(第245図9)などがある。

胴部には、単軸絡条体第1類の縦位回転文を施すものが多数であるが、その他単軸絡条体第1類の斜位回転文を施すもの(第39図107、109、第49図159)、横位や斜位の複節縄文を施すもの(第40図114、第42図121、第246図10、12、13)、横位や斜位の単節縄文を施すもの(第37図97)がある。これらは、胴部全面に同じ施文の見られるものであるが、胴部上半と下半で回転方向の異なるもの(第27図51)、胴部上半と下半で施文が異なるもの(第37図96、第41図116～118、第246図11、第247図17)、胴部中位に上下と異なる施文を施すもの(第37図98、99)も見られる。

・口縁部に単軸絡条体第5類の絡条体回転文を施文するもの。(第29図57、59、第42図122、123、第52図234、249、第53図268、272、278、第54図290、294、304、309、第167図61、第171図174、第172図224、第182図674、第183図753、第187図950、第248図19～23、第249図24)

口縁部の回転文には横位のみ認められる。口縁部と胴部間に縄押圧による区画文の見られるもの(第29図59、第248図21)、隆帯による区画文の見られるもの(第249図24)、のほか区画文に加えて口縁部上端に横位の縄押圧の見られるもの(第29図57、第52図234、第54図294、304、309、第248図20、22、23)、区画文に加えて縦位の縄押圧の見られるもの(第42図123、第167図61)、区画文に加えて縦位及び口縁

部上端に横位の縄押圧の見られるもの（第42図122、第54図290、第248図19）などがある。

胴部には、単軸絡条体第1類の縦位回転文を施文するもの（第29図59、第42図123、第54図290、309、第182図674、第248図19、20、第249図24）が多数であるが、斜位回転のもの（第248図22）、単軸絡条体第5類の縦位回転文を施文するもの（第42図122）複節縄文を斜位（第53図268、第248図23）横位（第29図57、第54図304）に施文するものが見られる。また、胴最上部に単節縄文を横位に、その下部に複節縄文を斜位回転して施文するもの（第167図61）単軸絡条体第1類の縦位回転文がほぼ前面に見られ、一部複節縄文が斜位に施文されるものなども見られる。

・口縁部に単軸絡条体第6類の絡条体回転文を施文するもの。（第27図52、第36図90、第44図128～133、第50図164、188、189、第52図219、246、第53図258、280、第54図306、第172図186、第177図429、461、第181図635）

口縁部の回転文には、横位回転のみ認められる。口縁部と胴部間に横位の縄押圧による区画文の見られるもの（第44図129、131）区画文に加えて口縁部上端に横位の縄押圧の見られるもの（第36図90、第44図128、130、131、133）区画文に加えて縦位及び口縁部上端に横位の縄押圧の見られるもの（第27図52）などがある。

胴部には、単軸絡条体第1類の縦位回転文を施文するもの（第27図52、第44図128、131）複節縄文を斜位回転するもの（第36図90、第44図132）胴最上部に単節縄文を横位回転し、下部に単軸絡条体第1類の縦位回転文を施すもの（第44図129、130）胴最上部に複節縄文を横位回転し、下部は斜位回転するもの（第44図133）が見られる。

・口縁部に単軸絡条体第6A類の絡条体回転文を施文するもの。（第26図47、第27図49、第30図63、64、第35図85、第43図124～127、第52図218、224、232、第53図271、277、282、第54図285、第178図507、513、第179図558、第184図784、第185図818、第186図888、第188図997、第249、250図26～33）

口縁部の回転文には、横位回転のみ認められる。口縁部と胴部間に区画文のないもの（第249図26）もあるが大半には認められ、横位の縄押圧による区画文の見られるもの（第30図64、第35図85、第43図124～127、第250図30）区画文に加えて口縁部上端に横位の縄押圧の見られるもの（第27図49、第30図63、第249図27、第249図28、第249図29、第250図31、第250図32）区画文に加えて縦位の縄押圧の見られるもの（第26図47）がある。

胴部には、単軸絡条体第1類の縦位回転文を施文するもの（第30図63、第43図124～127、第249図29、第250図30、31）複節縄文を横位（第27図49）斜位（第35図85、第249図27、第249図28）に回転施文するものが見られるほか、胴最上部に複節縄文を横位に、下部に斜位に回転施文するもの（第250図32）胴最上部に単節縄文、下部に単軸絡条体第1類を縦位回転するもの（第30図64）胴上半に単軸絡条体第1類を縦位回転し、下部に斜位回転するもの（第249図26）中位に単軸絡条体第1類を縦位回転し、上下に複節縄文を斜位回転するもの（第26図47）が見られる。

5類 円筒下層d式土器に比定される土器

a 円筒下層d₁式土器に比定される土器

（第17～21図1～20、22～23、第22～26図24～44、46、第30図62、65、第31～33図66～76、79、第34図

80、81、第36図89、第37図97、第45図138、第48図149～150、152、153、第50図163、171、172、175、176、178、179、182、184、186、187、190、第51図193、195、197～200、202、203、205～208、210～213、215、216、第52図225、228、230、231、236、239、240、245、250、251、第53図254～258、266、270、273、274、276、283、第54図288、293、300、301、303、305、第55図315、317～319、321、323～327、329、331、332、334、336、第156図8、9、第157図16～18、第158図20～23、第160図30、31、第161図32、34、第162図39、40、第163図41、42、44、第165図50、51、第167図60、第168図13、30、31、第169図50、52、55、62、第170図94、99、第171図179、183、第172図187～189、208、211、第173図235～237、245、第174図294、300、302、303、第175図308、333、338、342、第176図393、第177図410、421、423、426、430、431、433、437、438、459、第178図467～471、第178図494、497、501、504、510、512、第179図524、526、529、560、第180図573、605、613、616、第181図625、636、643、652、654、第182図659、688、691、695、第183図711、712、714、717、第184図760、第185図806、808、813、815、834、835、856、861、第186図891、916、919、920、927、第187図960、968、973、974、977、980、981、988、第188図996、1006、1007、1013、1042、1043、1045、第189図1056、1070、1083、第190図1139、1140、1145、第191図1191、1194、1199、1204、1218、1223、第192図1231、1233、1242、1243、1259、1263、1270、1275、第230図1、3、5、第231図6、11、12、第232図13、14、16、17、第233図18、第251図37、第253図45～47、第254～257図52～64)

・口縁部に結束第一種、結束第二種による回転文を施文するもの。(第17図5、第19図10、第20図17、18、第23図29、32、33、第24図36～38、第31図68、第34図80、81、第51図195、197、208、第55図319、第157図18、第158図21、23、第161図34、第178図470、497、第181図636、第183図711、717、第230図1、第231図12、第232図13、第253図45～47)

器面全体に結束第一種を施し、胴下部に横位の結節回転文が施されるもの(第23図32)、器面全体に、結束第二種を施し、器面上端に横位に二条の結節回転文を施すもの(第24図37)、器面上半に結束第一種、結束第二種を施し、器面下半に絡条体回転文や複節縄文を施すもの(第24図36、第157図18)、胴部に結束縄文以外の施文を施し、口縁部と胴部間に区画文のないもの(第17図5、第20図17、18、第23図29、33、第24図38、第31図68、第34図80、81、第161図34、第230図1、第253図45～47)、横位の縄押圧による区画文に加え、口縁部上端に横位の縄押圧が見られるもの(第19図10、第158図23、第231図12)、区画文に加え、縦位及び口縁部上端に横位の縄押圧が見られるもの。(第158図21、第232図13)が見られる。

胴部には、縦位の単軸絡条体回転文を施すもの(第19図10、第24図38、第230図1)、複節縄文を斜位回転するもの(第20図17、18、第23図29、33、第31図68、第34図80、第158図21 台付、23、第231図12、第232図13、第253図46、47)、単節縄文を斜位回転するもの(第17図5、第34図81、第253図45)、複節縄文を胴上半は斜位に、下半は横位に回転施文するもの(第161図34)が見られる。

・狭い口縁部に横位に縄押圧による圧痕文を施文するもの。(第17図1、第18図9、第24図39、第33図75、第36図89、第48図149、150、152、153、第50図175、184、第51図205、第52図251、第53図256、257、266、第54図301、305、第55図315、317、336、第156図9、第163図44、第167図60、第168図31、第169図52、第170図94、第173図245、第174図294、300、302、第177図438、第178図468、469、501、510、第179

図560、第180図616、第182図688、695、第185図808、813、815、834、856、861、第186図916、第187図960、968、第188図996、1006、1007、1013、1042、1043、第191図1191、1204、第192図1233、1243、1270、第254図52、第255図58、第256図59)

口縁部の押圧原体には、R(第17図1、第24図39、第167図60)、L及びRが2条一組のもの(第33図75)、LR(第18図9、第48図152、153、第156図9、第163図44、第254図52、第255図58)、RL(第36図89)、LRとRLが見られるもの(第48図149)、LR及びRLが2条一組のもの(第256図59)、RLR(第150図150)等がある。口縁部と胴部間には縄押圧や隆帯による区画文がみられないもの(第18図9、第36図89、第48図150、152、153、第156図9、第163図44、第254図52、第255図58、第255図59)、区画文を有するものでは、区画文が縄押圧によるもの(第24図39LR)、区画文が隆帯によるもの(第17図1、第33図75、第48図149、第167図60)が見られる。

胴部施文には、単軸絡条体第1類の縦位回転文(第18図9、第48図153、第255図58)、単軸絡条体第1A類の縦位回転文のもの(第17図1、第48図149、第167図60)、斜位の複節縄文(第24図39、第36図89)、横位の結束第一種羽状縄文(第156図9)、胴部上半と下半で施文や回転方向が異なるものでは、上半に結束第一種羽状縄文、下半に横位の単節縄文(第33図75)、上半に横位の複節縄文、下半に単軸絡条体第1類の縦位回転文(第48図150)、単軸絡条体を上半は縦位に、下半は、斜位に回転施文するもの(第254図52)、胴最上部とその下部で施文や回転方向が異なるものでは、複節縄文を胴最上部は横位に、下部は斜位に施すもの(第163図44)、胴最上部に結束第一種羽状縄文を横位に、下部に単節縄文を斜位に施文するもの(第256図59)、胴最上部に単軸絡条体第1類の斜位回転文を下部に縦位回転文を施し、一部斜位の複節縄文が認められるもの(第48図152)などが見られる。

・狭い口縁部に横位に絡条体押圧による圧痕文を施文するもの。(第55図326、第172図189、第177図423、第183図711、712、714、第187図980、第190図1145、第231図11、第256図60)

口縁部には、単軸絡条体第5類を押圧しているもの(第177図423)も見られるが大半は単軸絡条体第1類を用いている。(第55図326、第183図711、712、第187図980、第190図1145、第231図11、第256図60)、口縁部と胴部間に隆帯による区画文を有するもの(第55図326、第172図189、第183図712、第231図11)と区画文がないもの(第256図60)がある。

胴部には斜位の複節縄文(第172図189)や、胴最上部に結束第一種羽状縄文を、下部に斜位の複節縄文や縦位の単軸絡条体回転文を施すもの(第231図11、第256図60)、結束第一種羽状縄文と単軸絡条体第1類の縦位回転文を交互に施文するもの(第55図326)が見られる。

・狭い口縁部に横位に刻線を施文するもの。(第55図331)

1点出土している。区画文はなく。胴部には同じ工具により縦位に施文している。

・狭い口縁部に横位に縄押圧、絡条体押圧による圧痕文や刺突文等異なる施文具や手法を用いて施文するもの。(第25図41、第31図70、第171図151、第177図430、第178図471、第185図835、第186図919、927、第187図974)

口縁部には、絡条体及び縄の押圧が見られるもの(第178図471、第185図835、第186図919、927、第187図974)、絡条体押圧と刺突文(第171図151)、結節回転文と縄押圧の見られるもの(第25図41)、結

節回転文と縄押圧、刺突の見られるもの（第31図70、第177図430）などがある。

口縁部と胴部間の区画文として隆帯の見られるもの（第25図41、第31図70、第177図430、第185図835、第186図919、927）刺突の見られるもの（第178図471）がある。

胴部には、結束第一種羽状縄文が横位に施されるもの（第25図41、第31図70）、単節縄文が横位に施されるもの（第177図430）胴最上部に横位の結節回転文、下部に単軸絡条体第1 A類の縦位回転文が施されるもの（第186図919）、胴最上部に横位の結節回転文、下部に単軸絡条体第1 A類及び縦位の結束第二種羽状縄文が施されるもの（第185図835）がある。

・狭い口縁部に斜位に縄押圧による圧痕文を施文するもの。（第51図206、第53図276）

2点出土している。原体は、R（第51図206）、LR（第53図276）を用いている。区画文や胴部施文については不明である。

・狭い口縁部に斜位に絡条体押圧による圧痕文を施文するもの。（第189図1083）

口縁部の押圧原体には、単軸絡条体第1類を用いている。口縁部と胴部間には隆帯による区画文が見られる。胴部には、単軸絡条体第1 A類の縦位回転文を施している。

・狭い口縁部に斜位に縄押圧、絡条体押圧による圧痕文や刺突文等異なる施文具や手法を用いて施文するもの。（第186図920）

1点出土している。単軸絡条体第1類、RL原体を用いている。区画文及び胴部施文については不明である。

・狭い口縁部に横位、斜位に縄押圧による圧痕文を施文するもの。（第19図11、13、第20図15、第21図19、20、第22図25、第24図35、第26図46、第50図163、172、176、178、187、第51図199、202、207、210、213、第52図225、228、230、第53図255、第54図288、303、第55図325、327、332、第158図20、第160図31、第168図13、第169図62、第171図179、第172図187、208、第173図235、第175図308、333、第176図393、第177図421、433、第178図494、504、第180図613、第182図691、第186図891、第188図1045、第189図1056、1070、第190図1140、第191図1194、1199、1218、第192図1242、1259、第230図5、第255図54、55、56）

口縁部施文には、R原体を用いているもの（第19図11、13、第21図19、20、第24図35、第26図46、第158図20、第160図31、第230図5、第255図54～56）が多く、その他LR原体のもの（第20図15、第22図25）が見られる。口縁部と胴部間には、区画の見られないもの（第19図11、第20図15、第21図20、第22図25、第26図46、第158図20、第255図56）と隆帯による区画文の見られるもの（第19図13、第21図19、第24図35、第160図31、第230図5、第255図54、55）がある。胴部施文には単軸絡条体第1類による縦位回転文の見られるもの（第255図56）斜位の複節縄文の見られるもの（第19図11、13、第26図46、第230図5）があるが、胴最上部と下部で施文が異なるものも多く、胴最上部に横位に下部に斜位に複節縄文を施すもの（第20図15、第160図31）胴最上部に横位に結節回転文、下部に単軸絡条体第1類の縦位回転文（第21図19、第255図55）や斜位の単節縄文（第255図54）、胴最上部に結束第一種羽状縄文、下部に斜位の複節縄文（第21図20）単節縄文（第22図25）、単軸絡条体第1類の縦位回転文（第158図

20)を施すもの、胴最上部に結束第二種羽状縄文下部に単軸絡条体第1類の縦位回転文を施すもの(第24図35)などが見られる。

・狭い口縁部に横位、斜位に絡条体押圧による圧痕文を施文するもの。(第17図2、第18図7、第22図24、第51図198、200、第52図231、240、第53図274、第55図321、323、第157図17、第161図32、第170図99、第177図431、459、第178図467、第179図529、第187図988)

口縁部押圧には単軸絡条体第1類を用いていると思われる。口縁部と胴部間に区画文がみられないもの(第18図7、第22図24、第161図32)と隆帯が見られるもの(第17図2、第157図17)とがある。胴部には斜位の複節縄文が見られるもの(第161図32)と胴最上部に結束第一種を施し下部に単軸絡条体第1類の縦位回転文(第157図17)、斜位の複節縄文(第18図7、第22図24)、単節縄文(第17図2)の見られるものがある。

・狭い口縁部に横位、斜位に縄押圧、絡条体押圧による圧痕文や刺突文等異なる施文具や手法を用いて施文するもの。(第55図324、第168図30)

口縁部をR原体押圧と刺突により施文するものが見られる。

・狭い口縁部に横位、縦位に縄押圧による圧痕文を施文するもの。(第22図27、第25図42、第30図62、第32図73、第45図138、第50図171、第51図212、215、第52図245、第53図270、273、283、第55図334、第158図22、第162図39、第165図50、第173図237、第177図426、第181図654、第232図14、第254図53、第256図61)

口縁部の原体には、R(第32図73、第165図50、第232図14)、LR(第22図27、第25図42、第30図62、第158図22、第162図39)、RL(第254図53、61)、LRとRL(第45図138)が見られる。

口縁部と胴部間に隆帯による区画文の見られるもの(第25図42)もあるが大半は見られない。胴部には、単軸絡条体第1類の縦位回転文(第254図53)、斜位の複節縄文(第22図27、第32図73、第165図50)、横位の単節縄文(第162図39)や、胴最上に結束第一種羽状縄文下部に単軸絡条体第1類の縦位回転文(第25図42、第232図14)、下部に斜位の複節縄文(第158図22、第254図61)、胴最上部に横位の単節縄文下部に斜位の複節縄文(第30図62)、上半部と下部で複節縄文の種類が異なるもの(第45図138)などが見られる。

・狭い口縁部に横位、縦位に絡条体押圧による圧痕文を施文するもの。(第54図293、第181図643、第187図977)

口縁部の施文には単軸絡条体第1類を用いている。口縁部と胴部間に区画文の見られないもの(第54図293)と隆帯が見られるもの(第181図643)がある。胴部には単軸絡条体第1類の縦位回転文(第181図643)と斜位の複節縄文(第54図293)とが見られる。

・狭い口縁部に横位、縦位に刺突文を施文するもの。(第257図64)

口縁部に刺突文のみ見られるものである。胴部には多軸絡条体の縦位回転文が見られる。また口唇部にはヘラ状工具による刻目が見られる。

・狭い口縁部に横位、縦位に縄押圧、絡条体押圧による圧痕文や刺突文等異なる施文具や手法を用いて施文するもの。(第162図40、第163図42、第232図17)

口縁部の施文には、R L 原体と単軸絡条体第1類(第162図40、第163図42)、L R 原体と縦位の結節回転文(第232図17)が見られる。口縁部と胴部間に区画文は見られない。胴部には単軸絡条体の縦位回転文に一部横位の結節回転文が見られるもの(第232図17)、横位の結束第二種羽状縄文が見られるもの(第163図42)、胴最上部に横位結束第二種羽状縄文、下部に多軸絡条体の縦位回転文が見られるもの(第62図40)がある。

・狭い口縁部に横位及び曲線的に縄押圧による圧痕文を施文するもの。(第17図4、第33図79)

口縁部の施文にはR 原体(第33図79)、L R 原体(第17図4)を用いている。口縁部と胴部間に隆帯による区画文が見られる。胴部には、横位の胴結束第一種羽状縄文(第17図4)、胴最上部に横位の結節回転文、下部に単軸絡条体第1類の縦位回転文(第33図79)を施すものが見られる。

・狭い口縁部に斜位、縦位に縄押圧による圧痕文を施文するもの。(第51図193)

1点出土している。口縁部の施文には、R L 原体を用いている。口縁部と胴部間に隆帯による区画文が見られる。胴最上部に横位の単節縄文、下部に斜位の複節縄文を施文している。

・狭い口縁部に斜位、縦位に、縄押圧、絡条体押圧による圧痕文や刺突文等異なる施文具や手法を用いて施文するもの。(第175図303)

1点出土している。口縁部の施文にR 原体、L 原体と刺突文が見られる。

・狭い口縁部に横位、斜位、縦位に縄押圧による圧痕文を施文するもの。(第17図3、第18図6、8、第19図12、第20図14、16、第21図22、第22図26、第23図28、31、第24図34、第25図40、43、第26図44、第30図65、第31図66、69、第32図71、72、第33図76、第50図186、190、第52図236、239、第53図254、第54図300、第55図318、第157図16、第170図91、第173図236、第177図410、437、第178図512、第179図524、第181図625、第187図973、第190図1139、第231図6、第233図18、第255図57)

口縁部の施文には、R(第19図12、第20図14、16、第22図26、第24図34、第25図40、43、第26図44、第30図65、第31図66、第32図71、72、第33図76、第157図16、第231図6)、L(第233図18)、L R(第17図3、第18図6、8、第21図22、第23図28、31、第31図69)が見られる。口縁部と胴部間に区画文がないもの(第18図8、第21図22、第22図26、第23図28、31、第25図43、第26図44、第30図65、第32図72、第33図76、第157図16、第231図6、第233図18、第255図57)が多いが区画文として縄押圧が見られるもの(第17図3、第31図69、第32図71)、横位結節回転文の見られるもの(第18図6、第25図40、第255図57)、隆帯の見られるもの(第19図12、第20図14、16、第24図34、第31図66)などがある。胴部施文には、単軸絡条体第1類の縦位回転文(第32図71、第255図57)、斜位の複節縄文(第21図22、第23図28、31、第24図34、第25図40、第30図65、第31図69)、斜位の単節縄文(第17図3、第18図6)や胴最上部に横位の複節縄文を施し下部に斜位の複節縄文(第22図26)、下部に単軸絡条体第1類の縦位回転文(第157図16、第233図18)、胴最上部に横位の結束第一種羽状縄文を施し、下部に単軸絡条体第1類の縦位回転文(第20図16)、下部に斜位の複節縄文(第18図6、第19図12、第20図14、第25図43、第26図44、第

32図72、第33図76) 胴最上部に横位結節回転文と単軸絡条体の縦位回転文、下部斜位の複節縄文を施すもの(第31図66) 斜位に胴上半は単節縄文、下半に複節縄文(第231図6)を施すものが見られる。

・狭い口縁部に横位、斜位、縦位に絡条体押圧による圧痕文を施文するもの。(第32図74、第160図30、第165図51、第181図652、第232図16、第256図62、63)

口縁部の施文原体には単軸絡条体第1類が用いられている。口縁部と胴部間に区画文のないもの(第160図30、第181図652、第232図16、第256図62)と隆帯の見られるもの(第32図74、第165図51、第256図63)とがある。胴部には斜位の複節縄文(第181図652、第256図62)、胴最上部に横位の結束第一種羽状縄文が施され下部に斜位の複節縄文が施されるもの(第232図16)、下部に斜位の単節縄文が施されるもの(第256図63)、胴上半に横位の結束第二種羽状縄文、下半に単軸絡条体第1A類の縦位回転文が施されるもの(第165図51)などが見られる。

・狭い口縁部に横位、斜位、縦位に縄押圧、絡条体押圧による圧痕文や刺突文等異なる施文具や手法を用いて施文するもの。(第169図55)

口縁部の施文にはLR原体と刺突文が用いられている。口縁部と胴部間には区画文はなく、胴部には単軸絡条体第1A類の縦位回転文が施されている。

・狭い口縁部に横位、縦位及び曲線的に縄押圧による圧痕文を施文するもの。(第23図30)

口縁部の施文にはLR原体が用いられている。口縁部と胴部間に区画文として隆帯が見られる。胴部には、単軸絡条体第1類の縦位回転文が施されている。

・狭い口縁部に横位、縦位及び曲線的に縄押圧、絡条体押圧による圧痕文や刺突文等異なる施文具や手法を用いて施文するもの。(第31図67、第50図182)

口縁部の施文にはR原体と刺突文が施されている。口縁部と胴部間に区画文はない。胴部には斜位の単節縄文が施されている。

・狭い口縁部に横位、斜位等に縄押圧、絡条体押圧による圧痕文や刺突文等を施文し、縦位の隆帯を施文するもの(第156図8)

口縁部の施文には単軸絡条体、刺突文、縦位の隆帯が見られる。口縁部と胴部間には楕円形の貫通孔が見られる。胴部には、縦位の結束第二種羽状縄文が見られる。

b 円筒下層d₂式土器に比定される土器

(第53図259、第55図328、第163図43、第170図144、148、第174図270、第175図349、第177図436、第178図502、第182図670、第191図1219)

先述した円筒下層d₁式土器と比較し口縁部幅が広く外半する器形を有すると思われるものである。多くは口縁部のみの破片であるが、全体形のわかるもの(第163図43)は、頸部が屈曲し広い口縁部が外半している。口縁部の施文には、縄押圧による斜位、縦位の押圧の見られるもの(第182図670)、絡条体押圧による横位、斜位の施文が見られるもの(第163図43)、絡条体押圧による横位、斜位の施文と

縦位の刺突文の見られるもの（第170図148、第175図349）、R、L R原体を数条単位で蕨状や縦位の押圧が見られるもの（第170図144）、斜位の縄押圧と縦位の隆帯の見られるもの（第177図436、第178図502）、斜位の絡条体押圧と縦位の隆帯が見られるもの（第174図1219）、斜位の絡条体押圧、刺突文と縦位の隆帯の見られるもの（第174図270）がある。口縁部と胴部間の区画が見られるものは、横位の絡条体押圧と刺突文の見られるもの（第163図43）、楕円形の貫通孔が見られるもの（第174図270）がある。胴部施文については大半が不明であるが、胴最上部に横位の結束第一種羽状縄文、その下部胴上半に単軸絡条体第1類の縦位回転文、下半に横位の複節縄文が見られるもの（第163図43）がある。

6類 円筒下層式土器と思われるが時期の特定できない土器

（第21図21、第26図45、第33図77、78、第42図120、第45図137、第49図154～156、第50図161、162、165～167、169、173、185、第51図204、214、第52図237、241～243、248、252、253、第53図260～263、267、第54図289、307、第55図320、322、333、337、339、第156図7、第157図19、第158図24、第160図29、第164図45、第167図58、第168図1、3、4、8、11、14、15、17、18、23、34、36、第169図41、43、45、51、54、59、67、69、71、72、75、第170図105、107、108、114～117、141、142、第171図155、158、162、169、175、180～182、第172図200、207、213、216、221、223、第173図227～230、232～234、240、242、247、251、253、262、266、第174図285、293、295～299、301、第175図313、317～320、322、323、326、328、329、334～337、339、340、347、348、350、第176図354～357、359、360、362、363、368、371、374、375、384、388、396、397、399、400、第177図402、403、407、409、411～413、415、416、427、428、434、439、441、442、445、447、449、450、458、460、462、第178図465、472、473、476、491～493、500、503、505、506、509、517、第179図520～523、528、532、538～540、559、第180図563、564、572、575～580、582～585、594、597、598、600、602、603、608、610～612、614、第181図634、648～651、653、第182図655～657、661、664、667、668、673、676、679、683、690、692、694、696～700、第183図709、716、718、730、732、738、741、752、第184図766、768、770、780、781、786、788、794、第185図809、812、814、816、819～821、824、825、838、840、843、857、第186図862、871、874、876、877、880～882、895、912、913、915、917、第187図938～940、949、958、959、961、964、970、971、978、979、982、986、第188図993、994、999、1000、1002～1005、1009～1011、1028、1041、1044、1050、第189図1058、1065、1081、1082、1088、1095、1108、第190図1111、1112、1126、1146、1147、1151、1153、第191図1189、1190、1192、1197、1198、1216、1217、1220～1222、1224～1226、第192図1227～1230、1232、1235、1240、1244、1245、1251、1256～1258、1260～1262、1264～1269、1271、1272、1274、1277、1279～1281、第230図2、4、第231図10、第232図15、第233図19、第257図66～68）

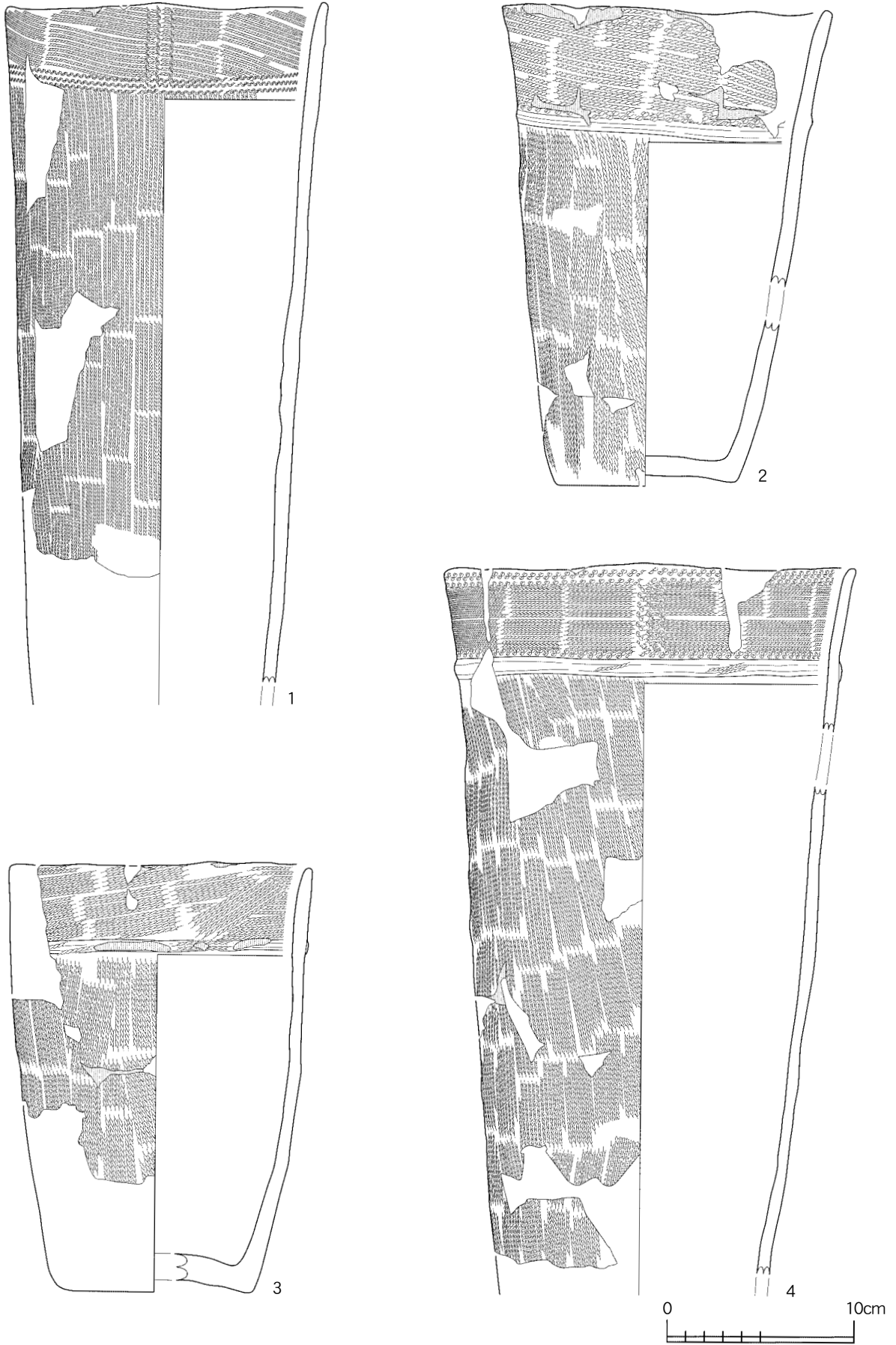
円筒下層式土器と思われるが、主として遺構内から出土した胴部破片等細分が困難なものやその他特徴的なものを一括した。

口縁部に横位の多軸絡条体回転文の見られるもの（第257図65）、胴部に横位及び縦位の単節縄文の見られるもの（第257図66）、胴部に縦位の多軸絡条体回転文の見られるもの（第257図67）、器面全体に縦位の多軸絡条体回転文が見られるもの（第156図7）、胴部に斜位の刻線の見られるもの（第257図68）などがある。

7類 大木式土器等他地域の影響を受けた土器

(第52図220～223)

おおむね、縄文時代前期末葉の土器と思われるが、施文手法等が在地の土器である円筒下層式土器とは異なるものである。口縁部に円形の隆帯や連続した斜位の沈線の見られるもの(第52図220、221)、鋸歯状、斜位に刻線状の沈線の見られるもの(第52図222、223)がある。



第244図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (1)



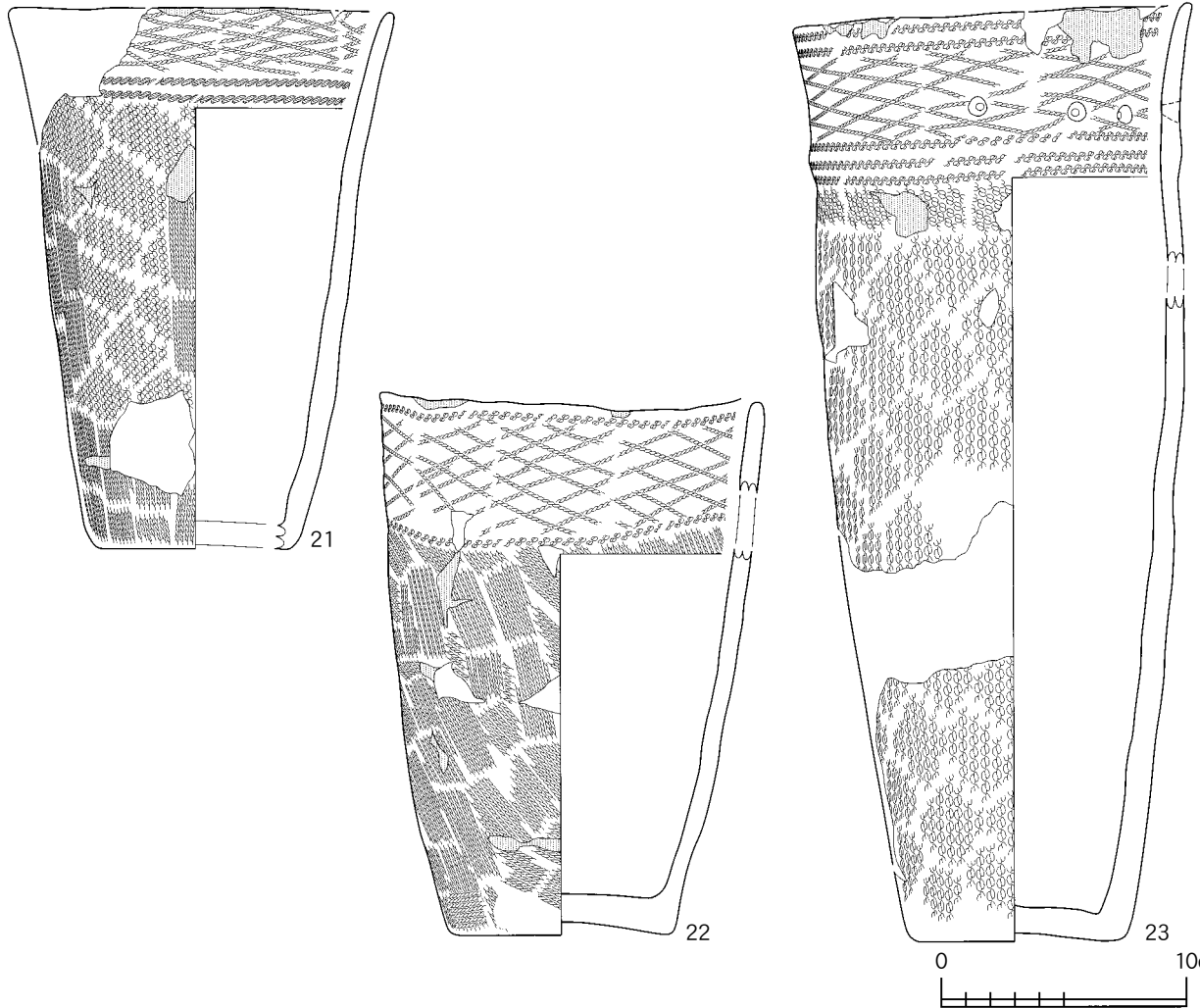
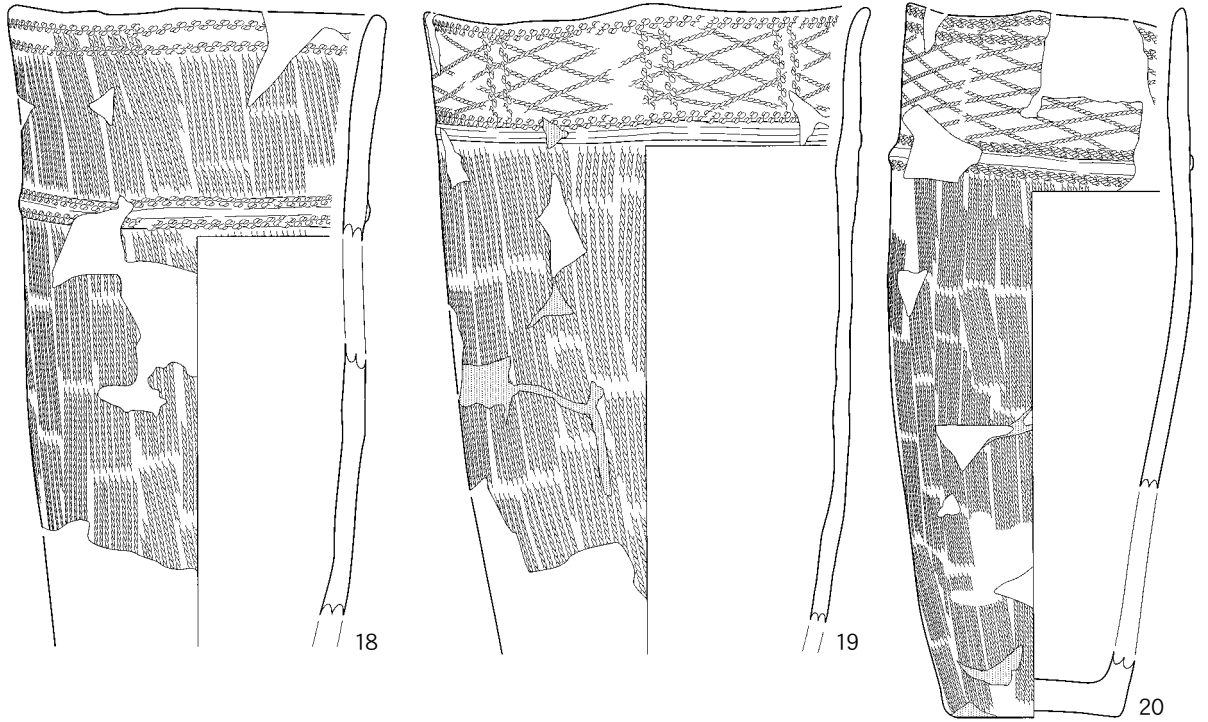
第245図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (2)



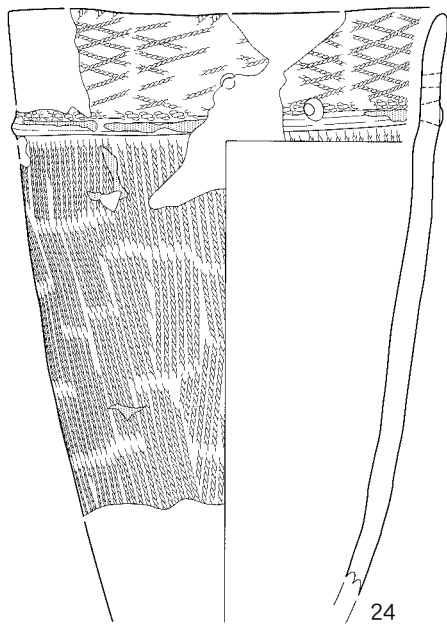
第246図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (3)



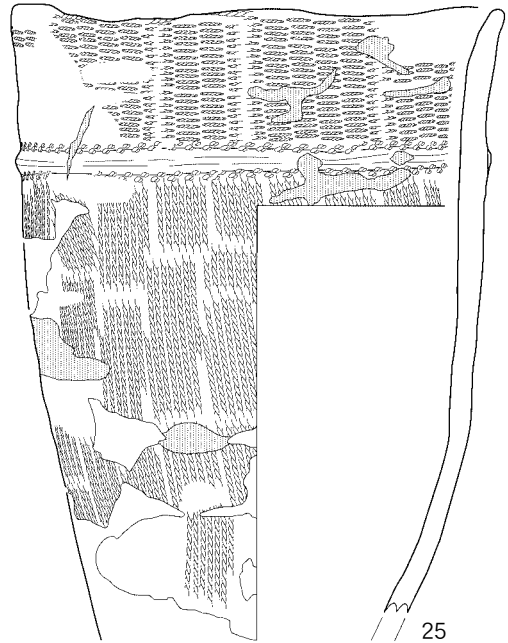
第247図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (4)



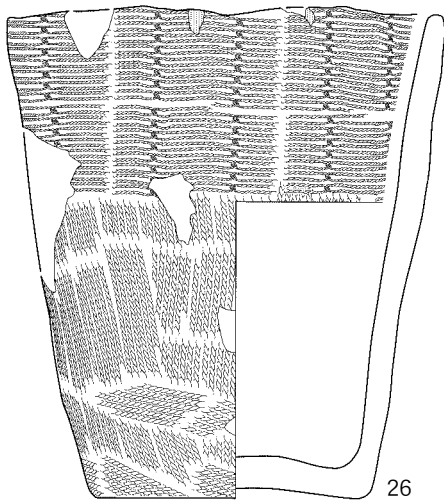
第248図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (5)



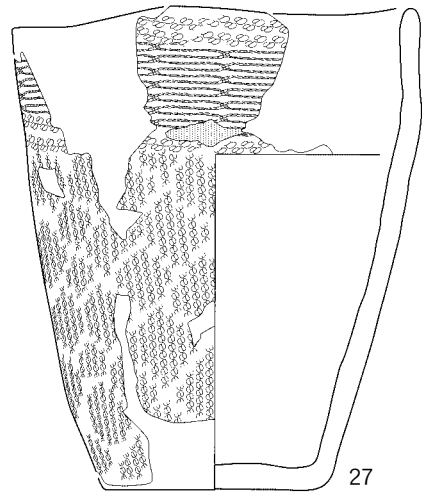
24



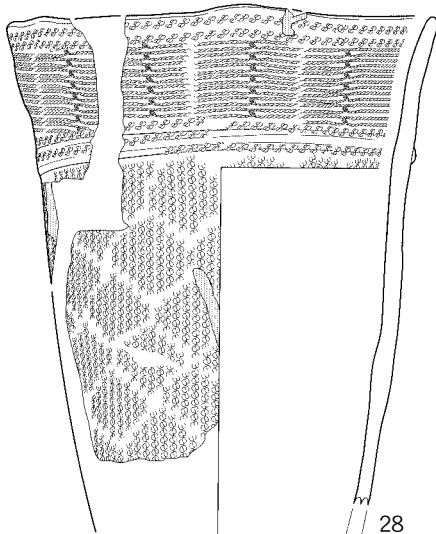
25



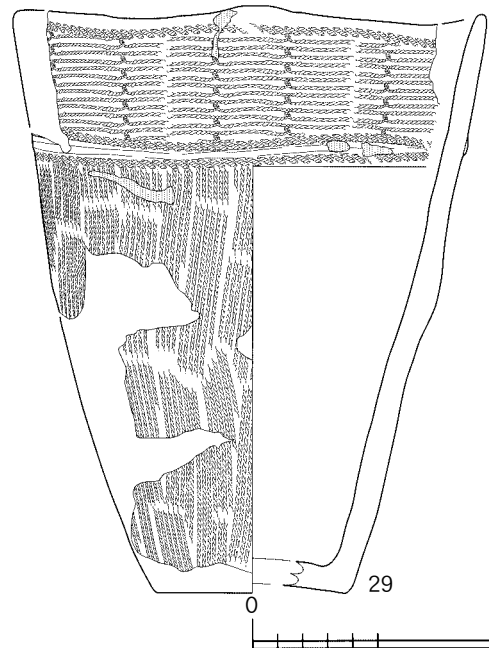
26



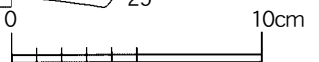
27



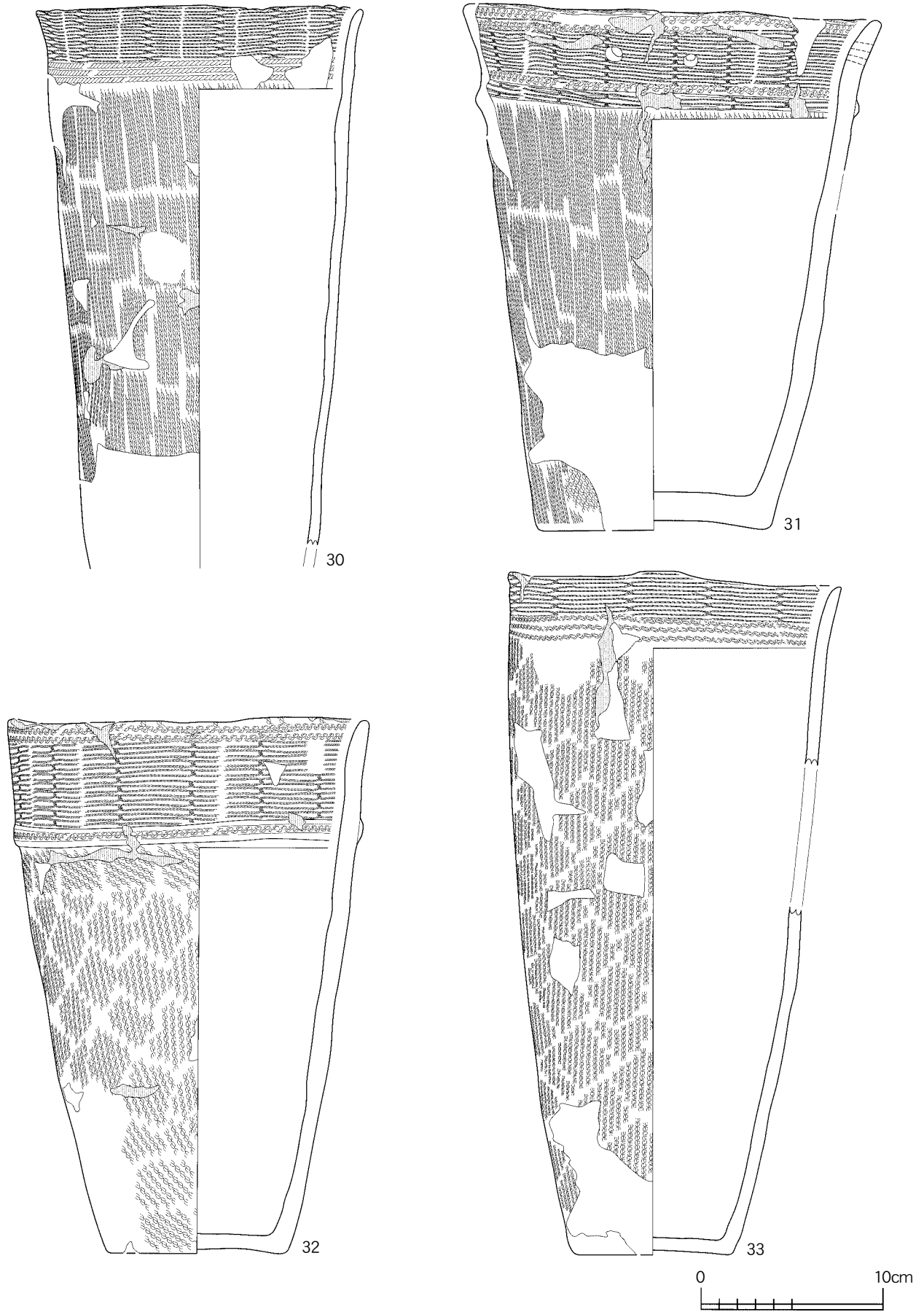
28



29



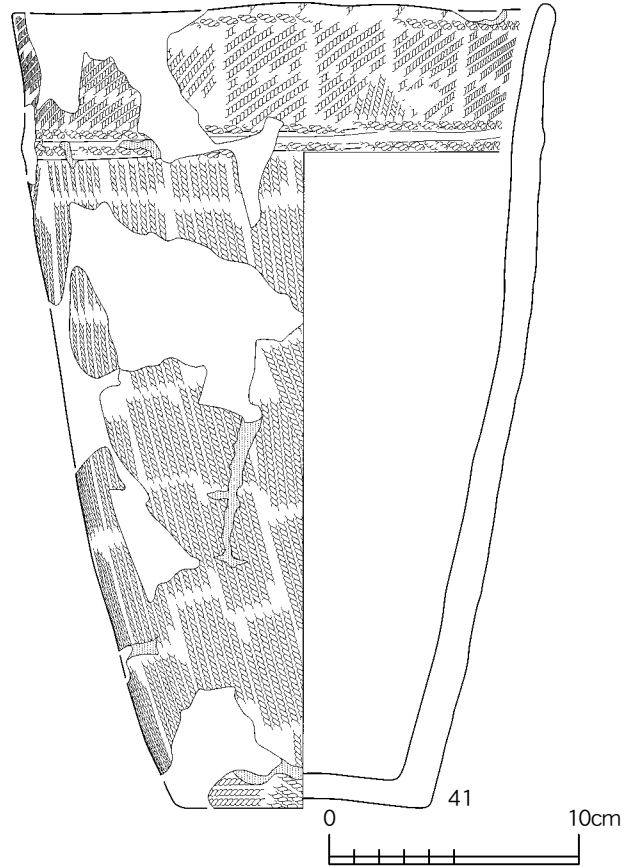
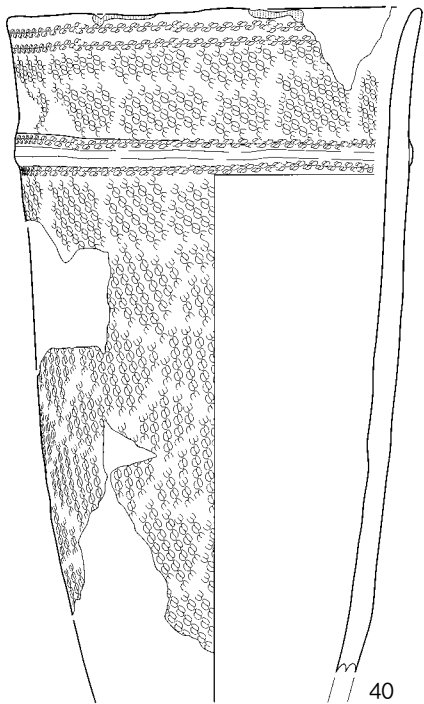
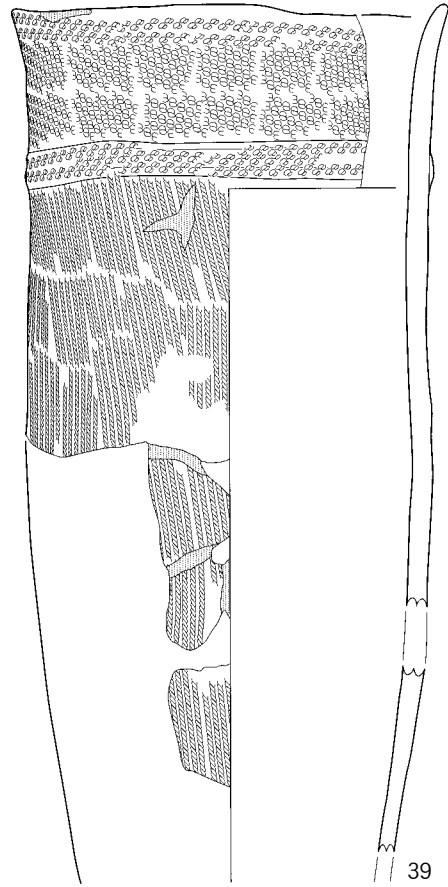
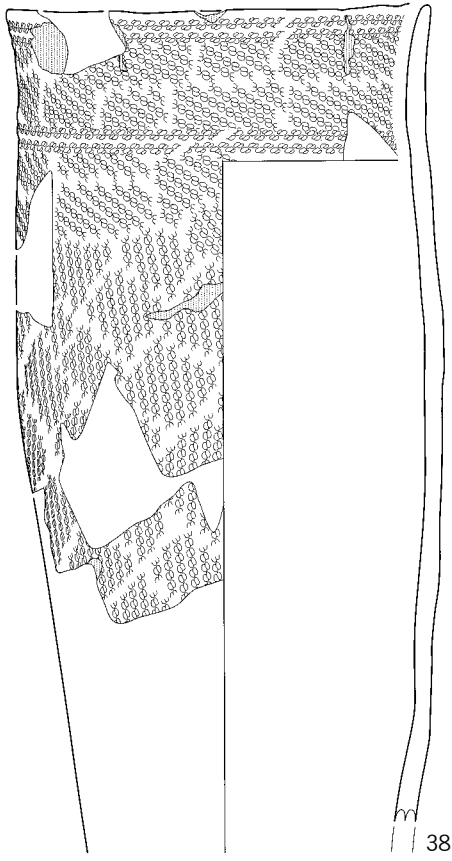
第249図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (6)



第250図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (7)



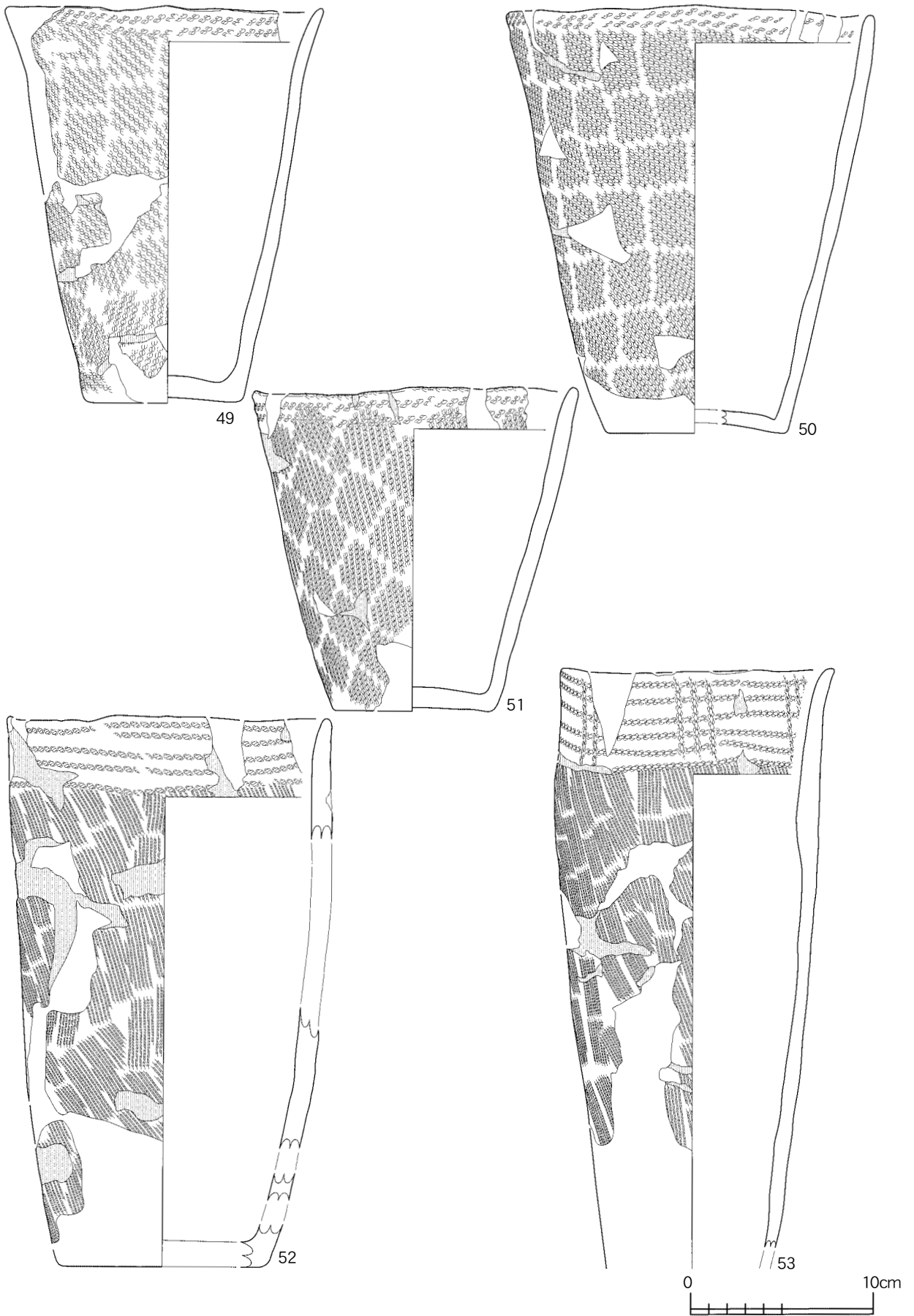
第251図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (8)



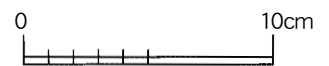
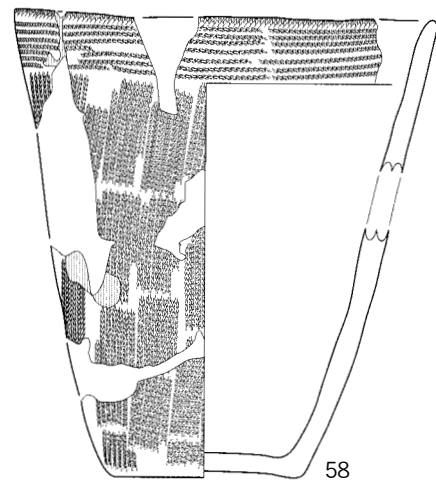
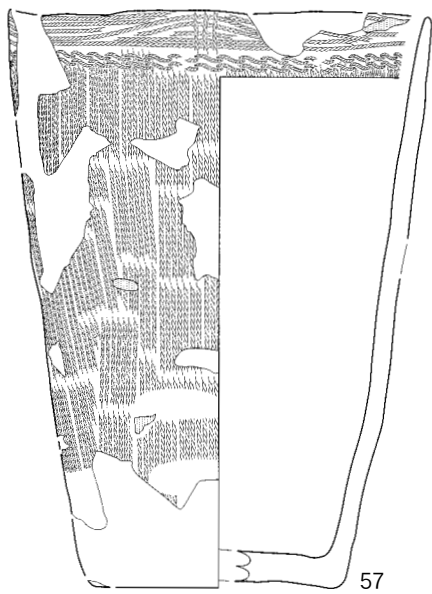
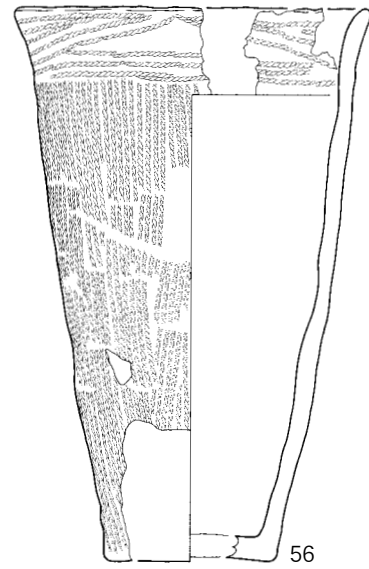
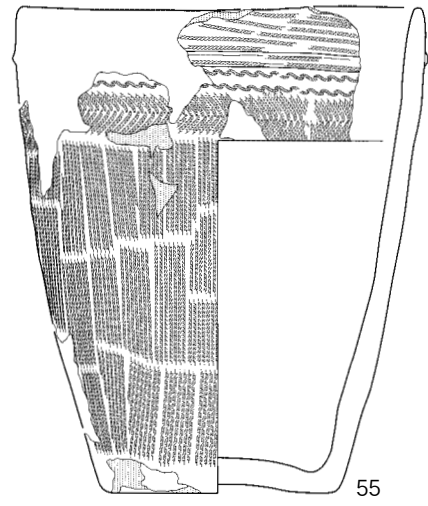
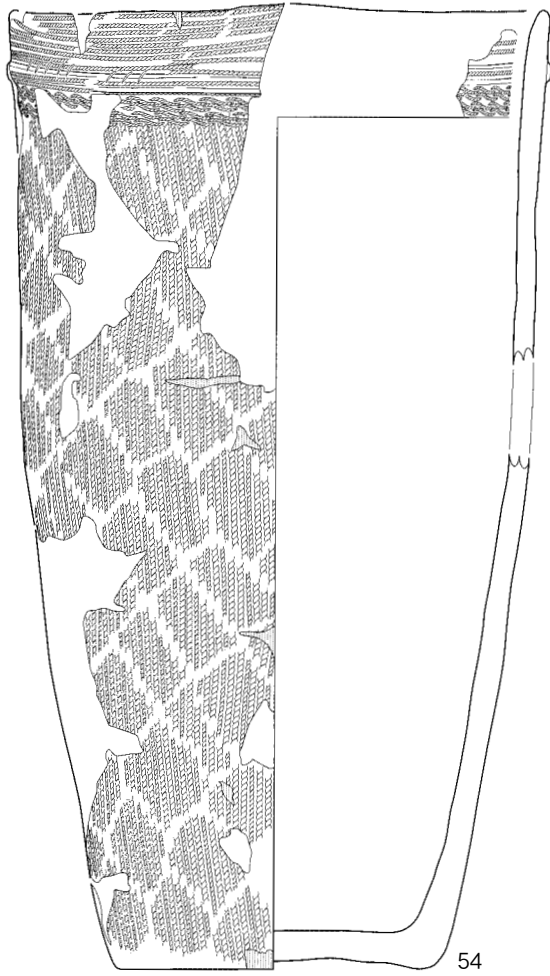
第252図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (9)



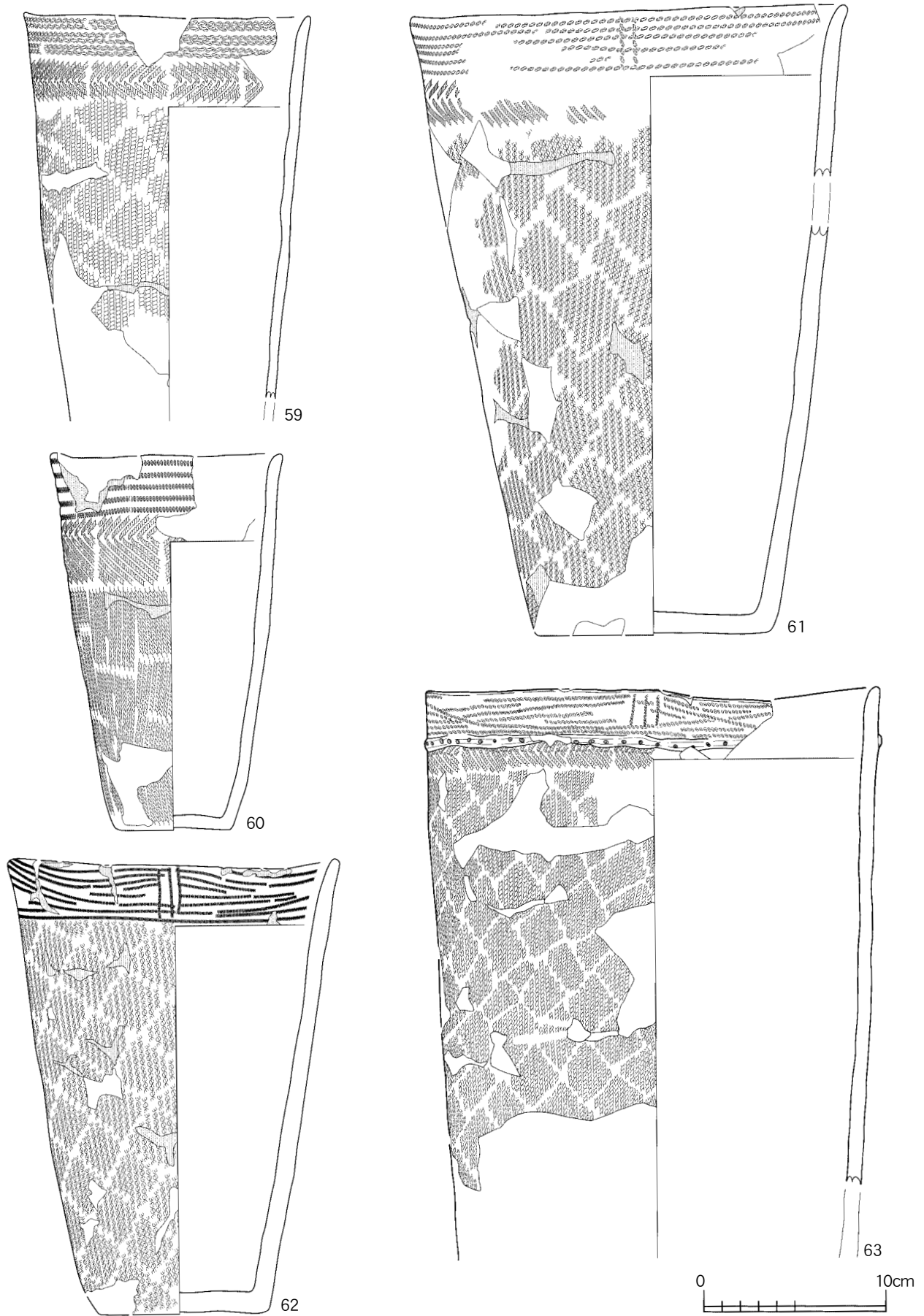
第253図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (10)



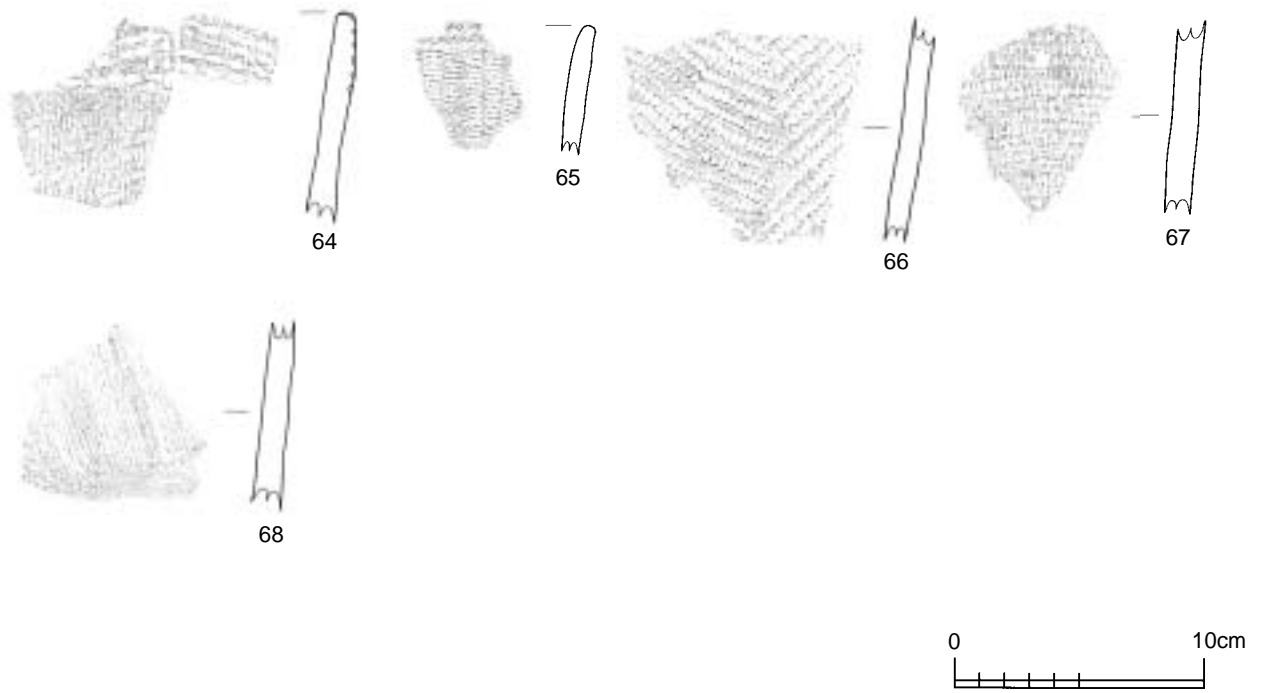
第254図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (11)



第255図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (12)



第256図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (13)



第257図 遺構外出土第Ⅱ群土器(14)

第 群土器

本群土器については、文様の特徴により1～11類に細分している。個々の分類の基礎をなす各種単位文様や時期区分等の詳細については、稲山遺跡発掘調査報告書（青森市教育委員会 2001）に詳述されているので参照いただきたい。

1類 出土していない。

2 a類

（第175図346、第182図682、第184図800、801、第188図1020、1021、第258図1～4、第280図1、3）

単位文様3群a類を主体とする土器で構成され、沈線幅が2 b類と比較して幅広く、第2 a期に相当するものである。

深鉢形土器が見られ、波状口縁をもつものと平坦口縁のものがある。胴部施文には、楕円形文と単線の渦巻文（第258図1）斜線文（第258図2、第280図1）連携楕円形文、連携渦巻文（第258図3）連携楕円形文、連携渦巻文（第258図4）などが見られる。

2 b類

（第159図28、第174図287、第178図485、487、499、第179図534、535、541、552、第181図622、642、第184図778、第185図844、第186図870、893、922、第192図1253、第258図5、6、第259図8～13、第280図2、4、11）

単位文様3群a類を主体とする土器で構成され、沈線幅が2 a類と比較して狭く、第2 b期に相当するものである。

第174図187方形文に縄文

深鉢形土器は、平坦口縁のもの（第259図8）も見られるが波状口縁が多数である。胴部施文には、連携渦巻文に縄文を充填するもの（第159図28、第259図8、10、11、12）が多く見られ、そのほか連携曲線文に縄文を充填するもの（第259図9）、方形文に縄文を充填するもの（第174図187）、曲線文（第185図844）や、胴部に動物形の隆帯が貼付されるもの（第280図11）なども見られる。

鉢形土器は、波状口縁のものが見られる。胴部にはC字状文に縄文を充填（第259図13）している。

壺形土器は、小型で胴上半を切断しているものが見られる。胴部施文には、連携渦巻文（第258図5）単線による渦巻文（第258図6）が見られる。

3類

（第168図33、第175図345、第179図548、第182図675、第186図900、905、第187図985、第190図1121、1157、第233図20、第259図14、第260図15～19、第261図20～25、第262図26～29、第263図30、31、第267図64、第280図5～10、12～14、第281図15、16、19、20、第283図40、第284図57）

単位文様3群b類を主体とする土器で構成され、第3期に相当するものである。

深鉢形土器は、波状口縁のもの（第259図14、第260図15、16、17、19、第261図20、23、第267図64）が多く見られ、平坦口縁（第259図18）は、少数である。胴部施文には、連携うろこ状文（第281図15）

連携渦巻文（第260図17） 連携渦巻文に縄文充填（第259図14、第260図15、16、19、第261図20、23、24） 連携曲線文（第267図64） 連携曲線文に縄文充填（第259図18） 方形文に縄文充填（第280図7）などが見られる。また、動物形の隆帯が貼付されるもの（第280図10）も見られる。

鉢形土器は、平坦口縁のもの（第233図20、第261図21、22）と波状口縁のもの（第280図9）とが見られる。胴部施文には、連携うろこ状文（第233図20） 三角形文、斜線文に縄文充填（第261図21） 曲線文に縄文充填（第261図22）などが見られる。また、方形を呈する底面に渦巻文を施すもの（第261図25）も見られる。

浅鉢形土器は、平坦口縁のものが見られる。また、ボウル形の器形をもつもの（第280図12、第281図16）も見られる。

胴部施文には、方形文に縄文を充填するもの（第280図12） 連携うろこ状文（第280図14） 隆帯上に縄文の施されるもの（第281図16）などが見られる。

壺形土器は、口縁部に橋状把手を施すもの（第262図26）が見られる。胴部施文には、方形文、連携渦巻文（第262図26） 方形文（第262図29） 楕円形文の外側に縄文充填（第262図28） 方形文の外側に縄文充填及び刺突文（第263図30） 縄文充填（第263図31）などが見られる。また、小型のものには胴部上半を切断しているもの（第262図27）も見られる。

4類

（第155図2、3、5、第156図6、12、13、第158図25、第159図27、第161図33、第164図48、第166図54、第168図7、19、20、第169図49、73、第170図96、146、149、第171図161、163、168、第172図196、197、第174図275、283、291、第176図376、378、379、385、387、390、392、394、第177図420、452、第178図463、466、486、489、495、508、514、第179図530、542、545～547、551、554、557、第180図562、567、581、586、590～592、596、606、第181図619、640、第182図684、687、689、702、704、705、第183図719、724、725、733、742、743、756、第184図777、783、790、793、798、799、802、第185図810、833、847、850、853、第186図863、886、903、907、908、923、第187図930、932、944、966、987、第188図989、991、1014、1015、1023～1025、1029、1032、1034、1037、第189図1060、1066、1073、1079、1085、1089、1091、第190図1127、1128、1144、1164、第191図1174、1193、1207、第192図1246、1252、第233図21、22、第234図23、25、第263図32、第264図33～40、第265図41～48、第266図49～60、第281図17、18、21～23、第282図24～32、第283図33～36）

単位文様2群a類を主体とする土器で構成され、第4期に相当するものである。

深鉢形土器は、波状口縁をもつものと平坦口縁をもつものがあり、少数の平坦口縁のもの（第264図34）を除き、大半が波状口縁である。口縁部には、沈線手法や隆沈線手法による円形文、楕円形文（第155図3、5、第158図25、第264図33、34、36、第282図26）が多く見られ、そのほか8字状隆帯（第175図327）や隆帯、刺突文（第281図17）による装飾などが見られる。胴部には、連結C字状文が渦巻文を構成するもの（第155図3、第168図19、第169図73、第170図149、第282図28） 連結渦巻文（第158図25、第281図17） 連結渦巻文に縄文を充填するもの（第263図32） 連結S字状文（第170図96、第176図378、第191図1193） 連結斜線文（第185図853） 隆沈線による渦巻文（第181図18） 楕円形文に縄文を充填するもの（第179図547、第185図850） 斜線文、曲線文（第264図33、34） 単線による蛇行文（第176図378、第183図733）などが見られる。

鉢形土器は、波状口縁をもつものと平坦口縁をもつものがあり、平坦口縁のものが多く見られる。

口縁部には、沈線手法による円形文、楕円形文（第156図6、第170図146、第233図21、第282図25、第283図38）や8字状の隆帯（第155図2）が見られるものがある。胴部施文には、連結C字状文が渦巻文を構成するもの（第155図2）、渦巻文（第234図23、第264図37、第264図40）、S字状文（第156図6）、楕円形文や曲線文（第264図39）、楕円形文が数段横並びするもの（第282図29）などが見られる。また、単線による横線文、蛇行文及び横位に連続した刺突文を施すもの（第283図36）も見られる。

台付鉢形土器は、波状口縁をもち、胴部には、明瞭でないが曲線的な施文が施されるもの（第164図48）が見られる。

浅鉢形土器は、平坦口縁のものが見られ、胴部にS字状文（第265図41）、渦巻文（第283図42）を施すものが見られる。

台付浅鉢形土器は、波状口縁で胴部に連結S字状文（第264図38）が見られる。

壺形土器は、口縁部の橋状把手（第159図27、第179図545、第282図31）、隆帯による円形、波状の装飾（第166図54）また、口縁が屈折するもの（第266図50）などが見られる。胴部には連結S字状文（第265図46、47、48）、連結S字状文に縄文の充填（第234図25）、連結渦巻文（第281図21）、方形区画で隆沈線手法により文様が構成されるもの（第265図43、44）やS字状文（第156図13）、波状文（第156図12、第266図51、52）などが見られる。また、小型のものには、胴部上半や下半が切断されているもの（第266図54、56～59）も見られる。

5 類

（第156図10、14、第161図35、第162図37、第164図49、第168図21、第169図58、第170図92、97、147、150、第171図153、154、164、168、171、第172図192、205、第173図248、第174図271、第175図332、第176図369、380、第178図496、515、第180図587、593、第181図629、645、第182図658、701、第183図720、728、734、750、第184図767、795、796、第185図811、第186図921、第188図992、1038、第189図1054、1061、1078、1093、第190図1115、1132、1165、第191図1180、1213、第192図1248、第266図61、62、第267図63、65～67、第268図68～73、第269図74～76、第283図37～39、41～45、第284図47）

3本組沈線手法による単位文様2群b類を主体とする土器で構成され、第5期に相当するものである。

深鉢形土器は、波状口縁をもつものと平坦口縁をもつものがあり、波状口縁が多く見られる。口縁部の施文には、沈線手法による円形文、楕円形文（第161図35、第267図63、66、第268図68～71）が多く見られ、これらの内には隆沈線によるもの（第267図63、第268図68）も見られる。このほか、縦位の刺突文に加え縄文が充填されるもの（第164図49）も見られる。胴部には、3本組沈線手法により横位に連続するS字状文（第161図35、第164図49、第268図70）、縦位に連続するS字条文（第267図63、65、66）、縦位に連続する渦巻文（第268図68）、斜線文（第268図69）、曲線文（第268図71）や、縄文を充填するもの（第268図62）などが見られる。

鉢形土器は、波状口縁をもつものと平坦口縁をもつものが見られる。口縁部の施文には、隆帯による加飾（第184図795）、楕円形文（第156図10、第269図74）が見られる。胴部には、渦巻文（第268図73）、縦位に連続する渦巻文（第268図72）、曲線文、S字状文（第184図795、第269図74）、曲線文（第156図10）などが見られる。

台付鉢形土器は、胴部に曲線文やS字状文（第283図44）が見られる。

浅鉢形土器は、平坦口縁と思われ胴部に渦巻文（第283図42）が見られる。

壺形土器は、口縁部の施文が確認できるものは、隆帯による加飾や沈線手法による円形文、楕円形文（第162図37）が見られる。胴部の施文には曲線文、S字状文（第156図14、第267図67、第269図75）渦巻文（第162図37）横線文、斜線文（第269図76）が見られる。

6類

（第157図15、第164図46、第166図56、第170図93、101、109、第171図178、第172図191、194、第173図259、第174図261、264、第176図381、383、第177図454、455、第180図589、第181図630、644、第182図671、735、744、第184図758、764、782、803、第185図831、854、第186図869、901、902、909、925、第187図933、943、948、953、第188図990、1030、1033、第189図1062、1074、1099、1102、1106、第190図1114、1116、1119、1129、1133、1134、1170、第191図1187、1202、1203、第269図77～81、第270図82～85、第283図46、第284図48、49）

単位文様3群c類を主体とする土器で構成され、第6期に相当するものである。

深鉢形土器は、波状口縁をもつものと平坦口縁をもつものが見られる。4本組沈線手法による縦位のS字状文（第166図56、第269図81）曲線文（第283図45）が施されるもの、櫛歯状沈線手法による縦位のS字状文（第269図79、第284図49）波状文の見られるもの（第283図46）円形文、楕円形文（第284図48）縦線文、斜線文（第269図80）が施されるもの、縄文を充填するもの（第270図82）などが見られる。

鉢形土器は、平坦口縁で胴部に4本組沈線手法による曲線文の見られるもの（第172図191、第184図803）波状口縁で縄文が充填されるもの（第269図78）が見られる。

壺形土器は、胴部に櫛歯状沈線手法によるS字状文（第270図85）縦位のS字状文（第164図46）曲線文（第190図1116）を施すものや胴部に縄文を施すもの（第270図84）が見られる。

7類

（第159図26、第168図39、第172図199、217、第173図244、252、255、265、268、第174図272、第175図331、第176図353、第178図464、479～481、490、第179図536、543、555、第180図588、607、第181図620、628、641、第182図685、第183図737、第184図804、第185図852、第187図934、941、第190図1122、第191図1177、1182、1183、1208、1212、第192図1247、第271図86～90、第272図91～93、第273図94～96、第274図97～99）

撚糸圧痕や絡糸体圧痕による格子目文の見られるものである。深鉢形土器が見られる。口縁部に隆帯による加飾や、沈線手法による円形文、楕円形文を施すもの（第159図26）円形文、楕円形文、長方形文を施すもの（第271図86、88、第272図93）が見られる。格子目文には、Rの撚糸によるもの（第159図26、第172図199、217、第173図244、268、第174図272、第175図331、第176図353、第178図464、479～481、490、第179図555、第180図588、607、第181図641、第185図852、第187図941、第190図1122、第191図1177、1182、1183、1208、1212、第192図1247、第271図86～90、第272図91、第273図94～96、第274図97）が最も多く、また、2本のR撚糸を荒く撚り合わせたもの（第184図804、第274図99）も見られる。他にLの撚糸によるもの（第179図543、第181図620、第183図737、第272図92、93）絡糸体圧痕によるもの（第168図39、第173図252、255、265、第179図536、第181図628、第182図685、第187図934、第274

図98)が見られる。

8類

(第155図4、第156図11、第161図36、第166図55、第169図63、第171図157、160、167、170、172、185、第172図195、215、第173図254、第174図276、281、286、289、第175図351、第176図370、377、382、395、第177図425、第179図531、第180図617、第181図623、第182図672、第183図726、731、748、第184図762、773、791、797、第185図829、第186図906、第187図928、954、967、975、第188図1026、1031、1039、1040、第189図1048、1067、1075、1090、第190図1135、1160、1167、第192図1241、1254、第275図100～103、第276図104、第284図50)

沈線手法や櫛歯状沈線手法による格子目文を主体とする土器である。鉢形土器も若干見られるが多数は深鉢形土器である。

深鉢形土器は、口縁部文に円形文、楕円形文を施すもの(第155図4、第172図195、第176図382、第183図726、第186図906、第275図103)や数条の横線文を施すもの(第161図36)が見られる。格子目文には、2本組沈線手法によるもの(第190図1160)、3本組沈線手法によるもの(第169図63、第173図254、第174図281、第179図531)、4本組沈線手法によるもの(第275図103)、櫛歯状沈線手法によるもの(第176図395、第188図1026、1031、1040、第190図1135)なども見られるが、沈線手法によるものが大半を占める。格子目文の施文にあたっては、縦位ないし右傾の沈線を施したのち左傾の沈線を施すものと(第171図157、160、172、185、第174図276、289、第176図370、382、第181図623、第183図726、748、第184図762、773、第186図906、第187図928、967、975、第188図1026、1039、1040、第189図1067、第190図1167、第192図1254、第275図103、第276図104)、その逆のもの(第155図4、第161図36、第166図55、第169図63、第171図170、第172図195、第176図377、395、第180図617、第183図731、第184図791、第187図954、第189図1048、1075、1090、第190図1160、第192図1241、第275図101、102)とが見られる。

鉢形土器は、口縁部に楕円形文を施すもの(第275図100)が見られ、また格子目文の施文にあたっては、右傾の沈線を施した後左傾の沈線を施すもの(第156図11、第275図100)と逆のもの(第284図50)とが見られる。

9類

(第176図398、第178図484、第183図729、736、745、第188図1027、第278図105～108)

沈線手法や櫛歯状沈線手法による並列縦線文を主体とする土器である。深鉢形土器が見られる。沈線手法によるもの(第183図736、第188図1027、第276図105)、4本組沈線手法によるもの(第276図106)、櫛歯状沈線手法によるもの(第176図398、第178図484、第183図729、745、第276図107、108)が見られる。

10類

(第168図26、第169図40、第170図102、第174図269、第175図344、第179図525、537、549、550、556、第180図571、第184図759、第186図866、918、第189図1068、1107、第191図1185、1209、第277図109～112、第278図113～117、第284図51、52)

格子目文を除く撚糸の圧痕文や回転文、縄文の回転文を主体とする土器である。

深鉢形土器は、撚糸の圧痕文は縦位のL撚糸圧痕（第191図1185）、R撚糸圧痕（第277図）によるものが見られる。撚糸の回転文は、Lの横位回転によるもの（第278図116）が見られる。縄文の回転文は、LRで縦位回転（第168図26、第170図102、第278図113～115）、RLで縦位回転（第169図40、第175図344、第277図112）、LRで横位回転（第277図111）したものや、縄文のほか口縁部上端に沈線文が巡るもの（第174図269）が見られる。

壺形土器は、撚糸の圧痕文と回転文により施文されたもの（第278図117）が見られる。

11類

（第155図1、第162図38、第164図47、第166図57、第183図757、第184図805、第187図936、第234図24、第278図118、第279図119～130、第284図53）

無文を主体とする土器である。

深鉢形土器は、波状口縁をもつもので口縁部に隆帯による装飾を有するもの（第164図47、第279図119、120）、波状口縁で口縁部に沈線を有するもの（第166図57）、小波状口縁をもち口縁部に沈線の見られるもの（第278図118）、平坦口縁をもつもの（第284図53、第183図757）などがみられる。

鉢形土器は、平坦口縁をもち、口縁部を巡る沈線を有するもの（第155図1、第279図122、123）、口縁部に沈線による方形文の見られるもの（第279図121）、平坦口縁をもち、施文がみられないもの（第162図38、第234図24、第279図124）、波状口縁をもつもの（第279図126）などがみられる。

壺形土器は、紐通突起を有する切断土器（第279図127、129）が見られる。

浅鉢形土器は、平坦口縁で口縁部を巡る沈線を有するもの（第279図125）が見られる。

その他の土器

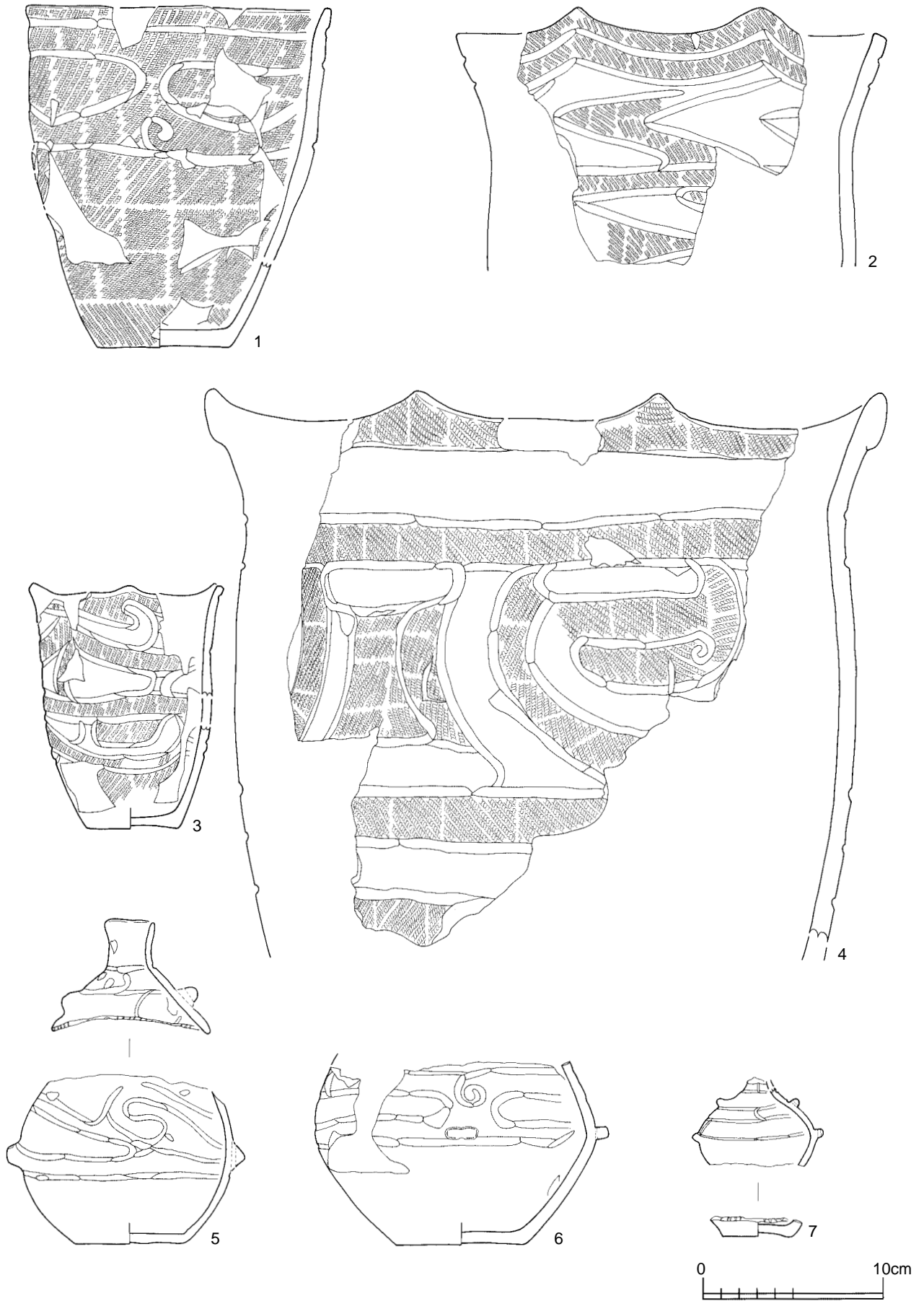
分類方法と異なる特徴的なものである。

狩猟文土器（第280図10、11）

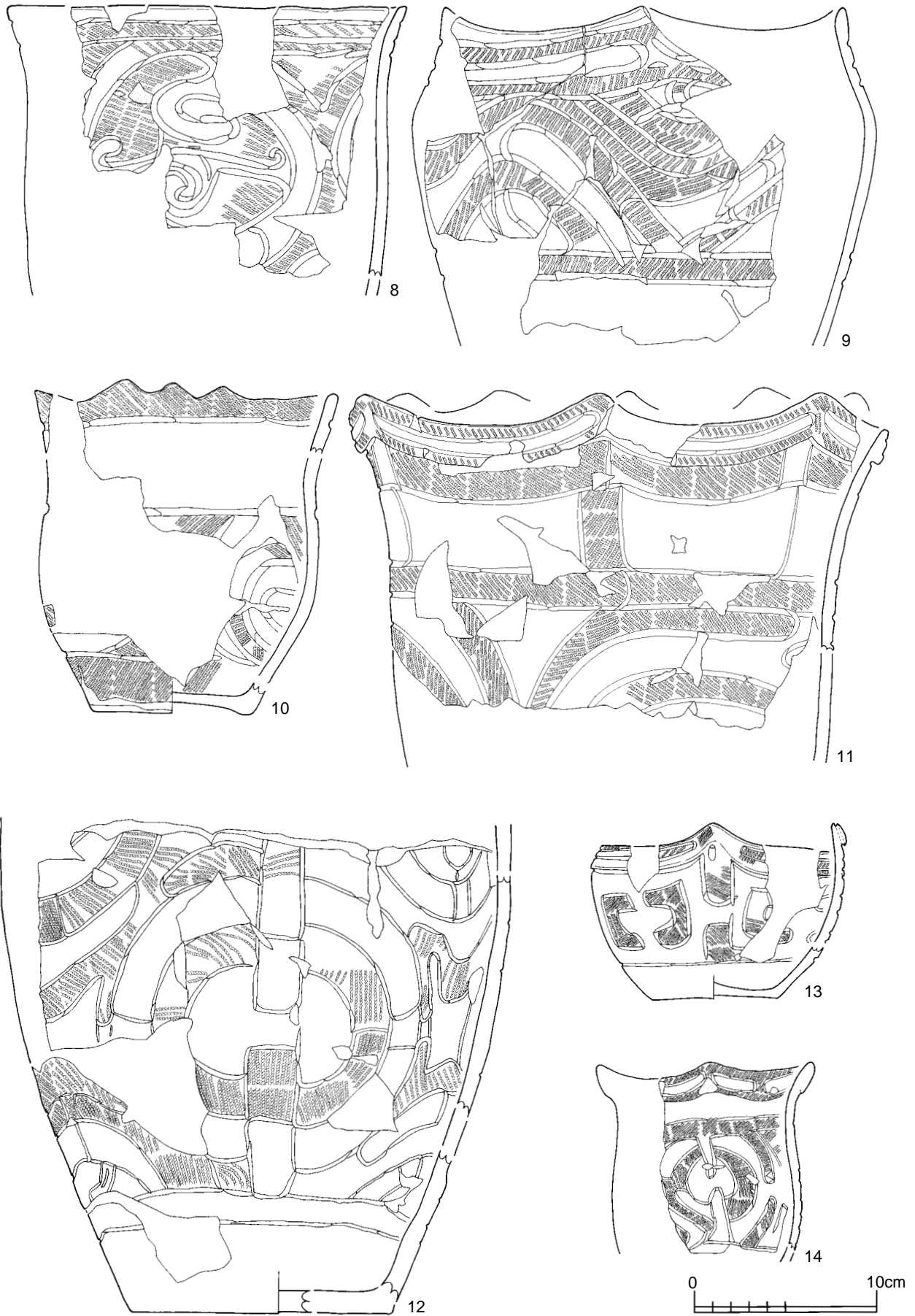
2点が出土している。2b類、3類に属する深鉢形土器と思われる。胴部に隆帯の貼付により四肢を伸ばした動物が表現されている。

切断土器（第258図5～7、第262図27、第266図54、56～59、第279図127、129、130）

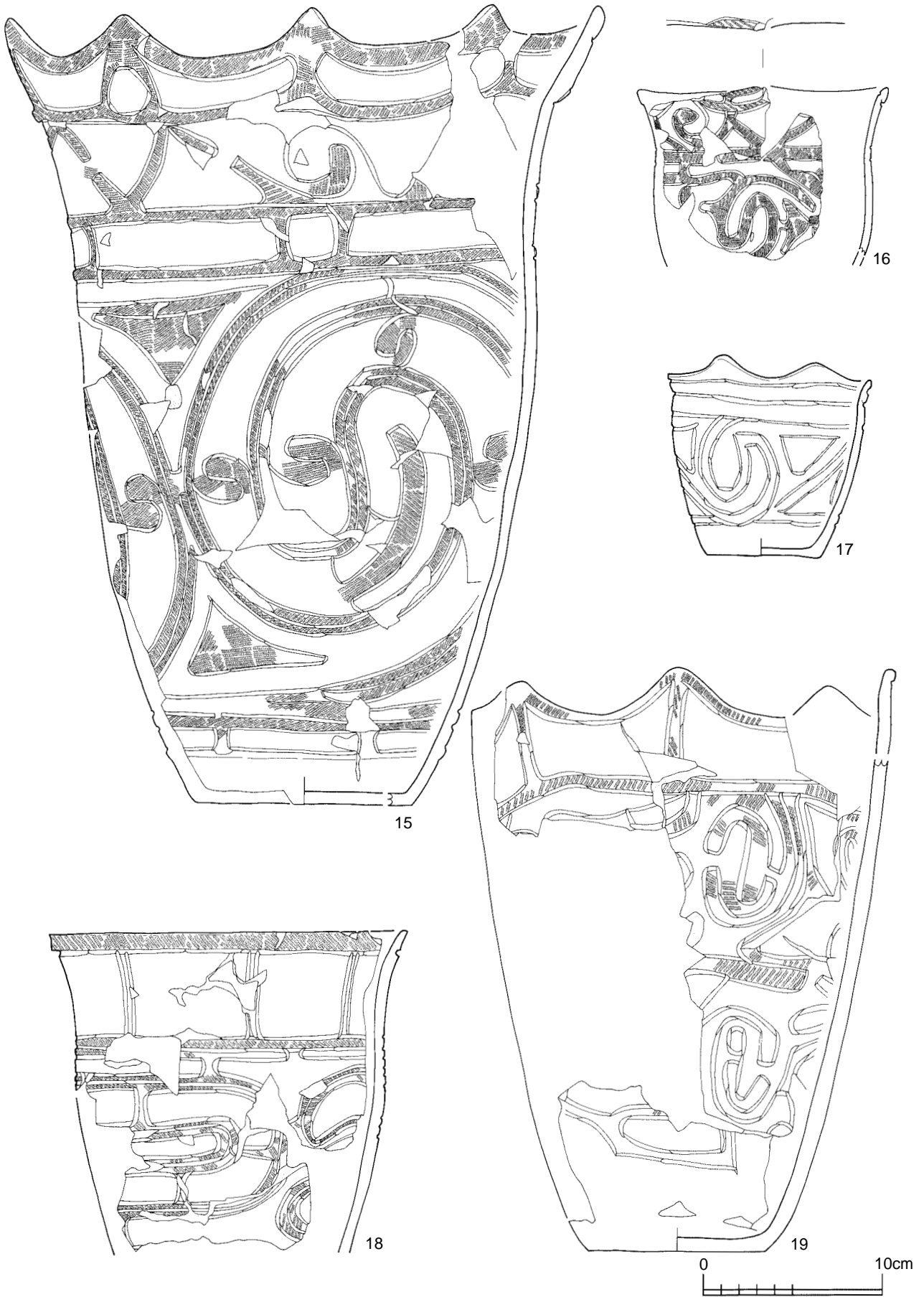
12点出土している。2a～4類、11類に属する壺形土器と思われる。土器の切断される位置には、胴部上半のもの（第258図5、6、第262図27、第266図54、57～59、第279図127）と胴部下半のもの（第258図7、第266図56、第279図129、130）とが見られる。なお、接合部に黒色物質で目張りがされていたと思われるもの（第258図7、第266図56）も見られる（調査員 西 勵 氏のご教示による）。



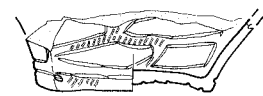
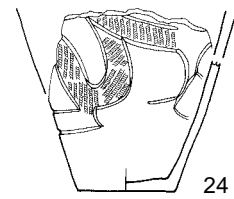
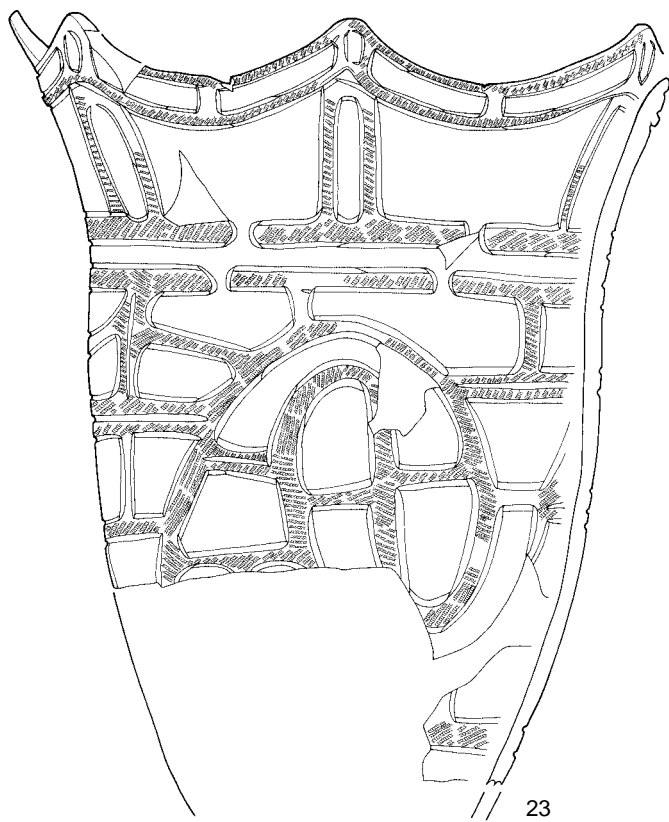
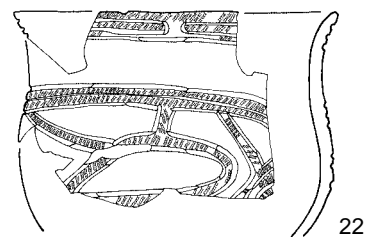
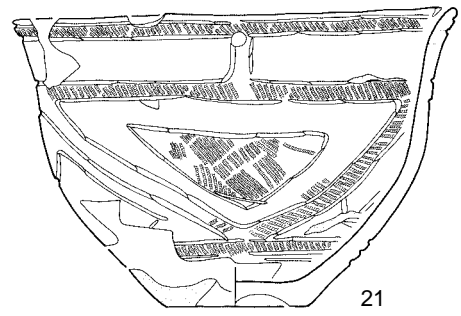
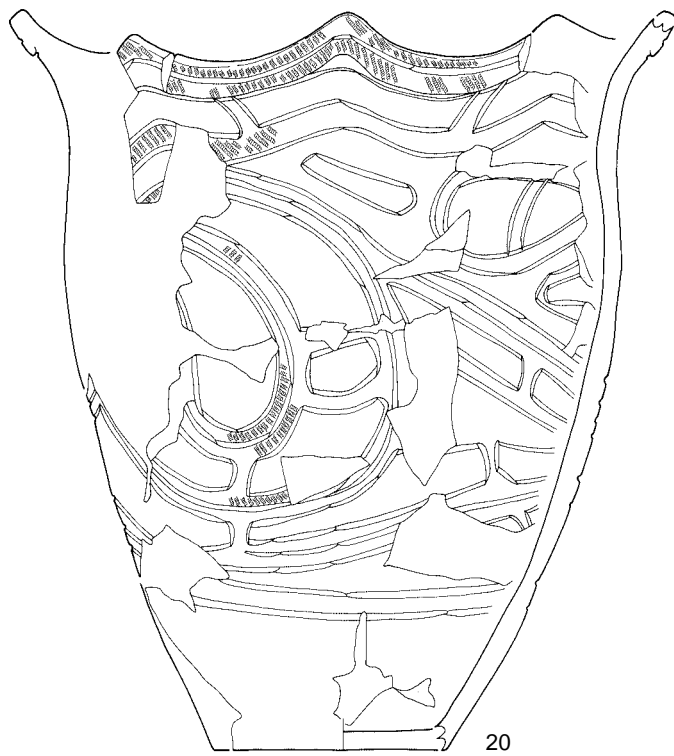
第258図 遺構外出土第IV群土器(1)



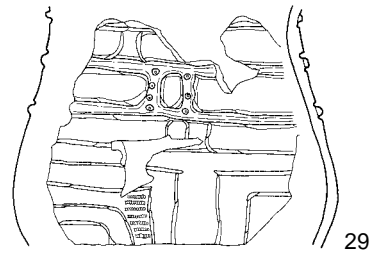
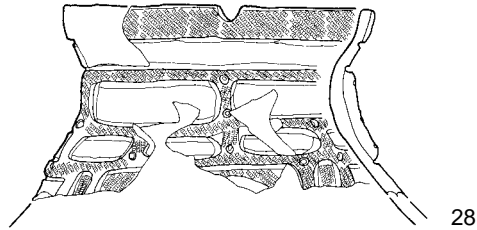
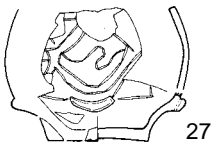
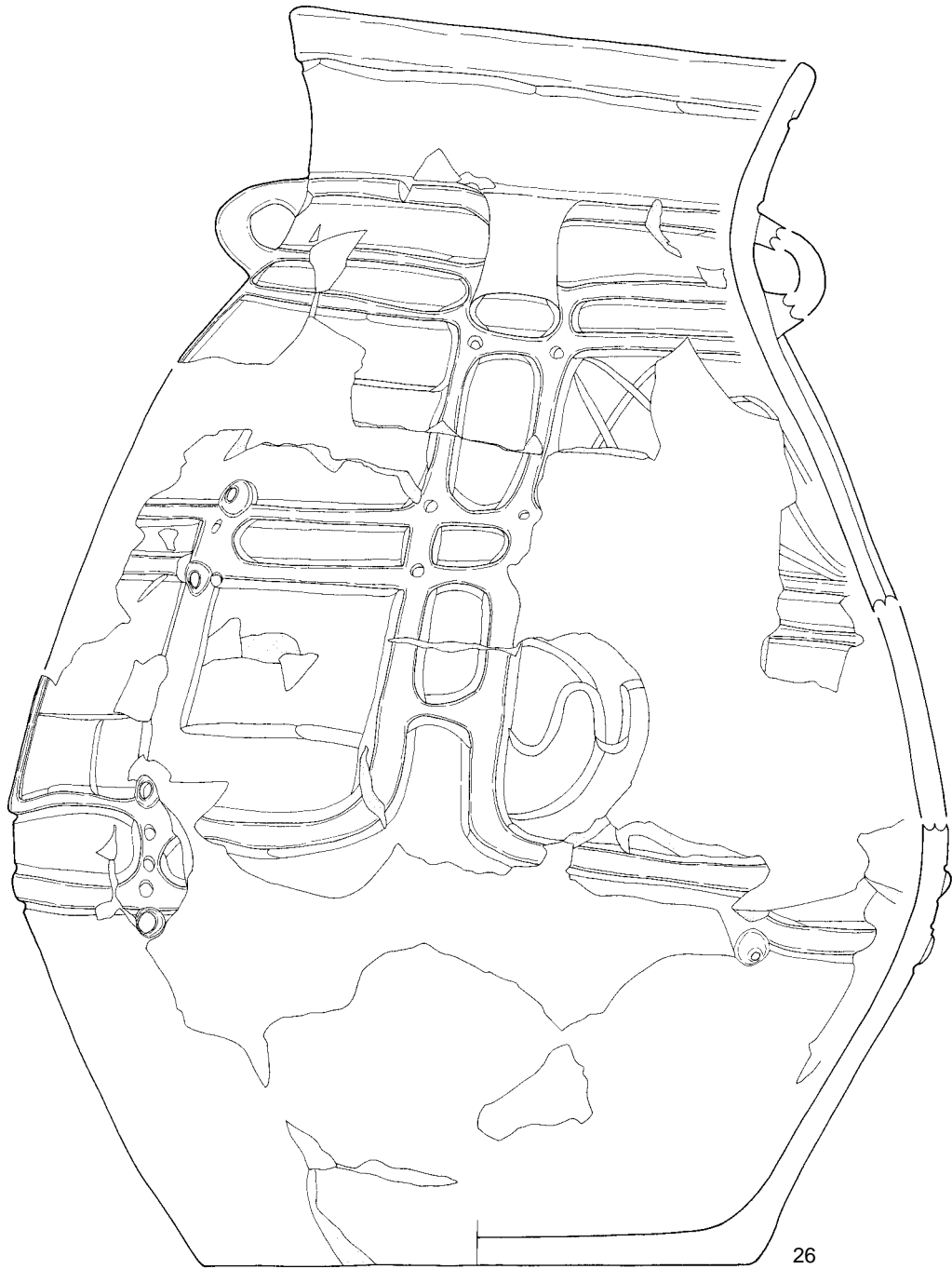
第259図 遺構外出土第IV群土器(2)



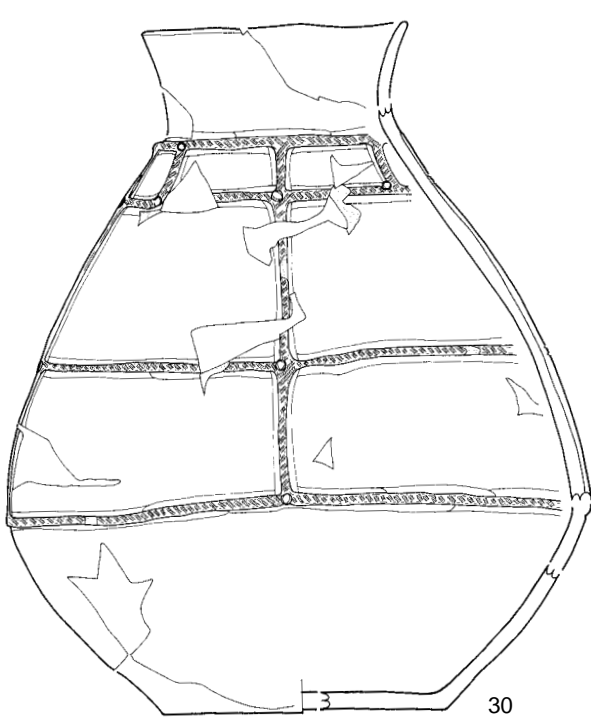
第260図 遺構外出土第IV群土器(3)



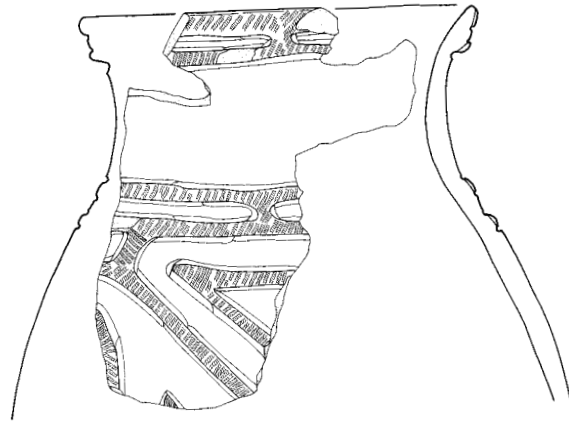
第261図 遺構外出土第IV群土器(4)



第262図 遺構外出土第IV群土器(5)



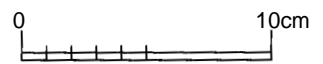
30



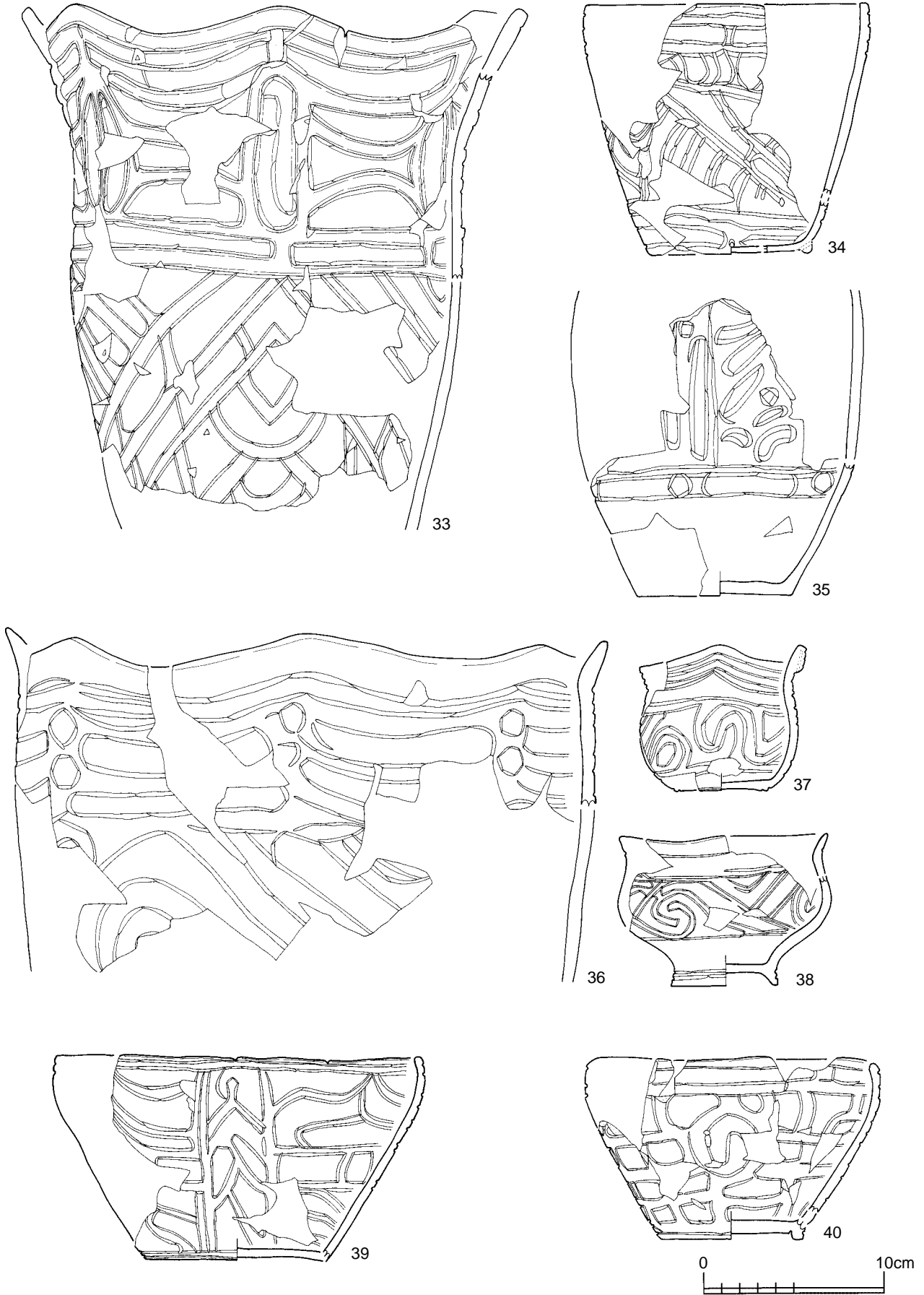
31



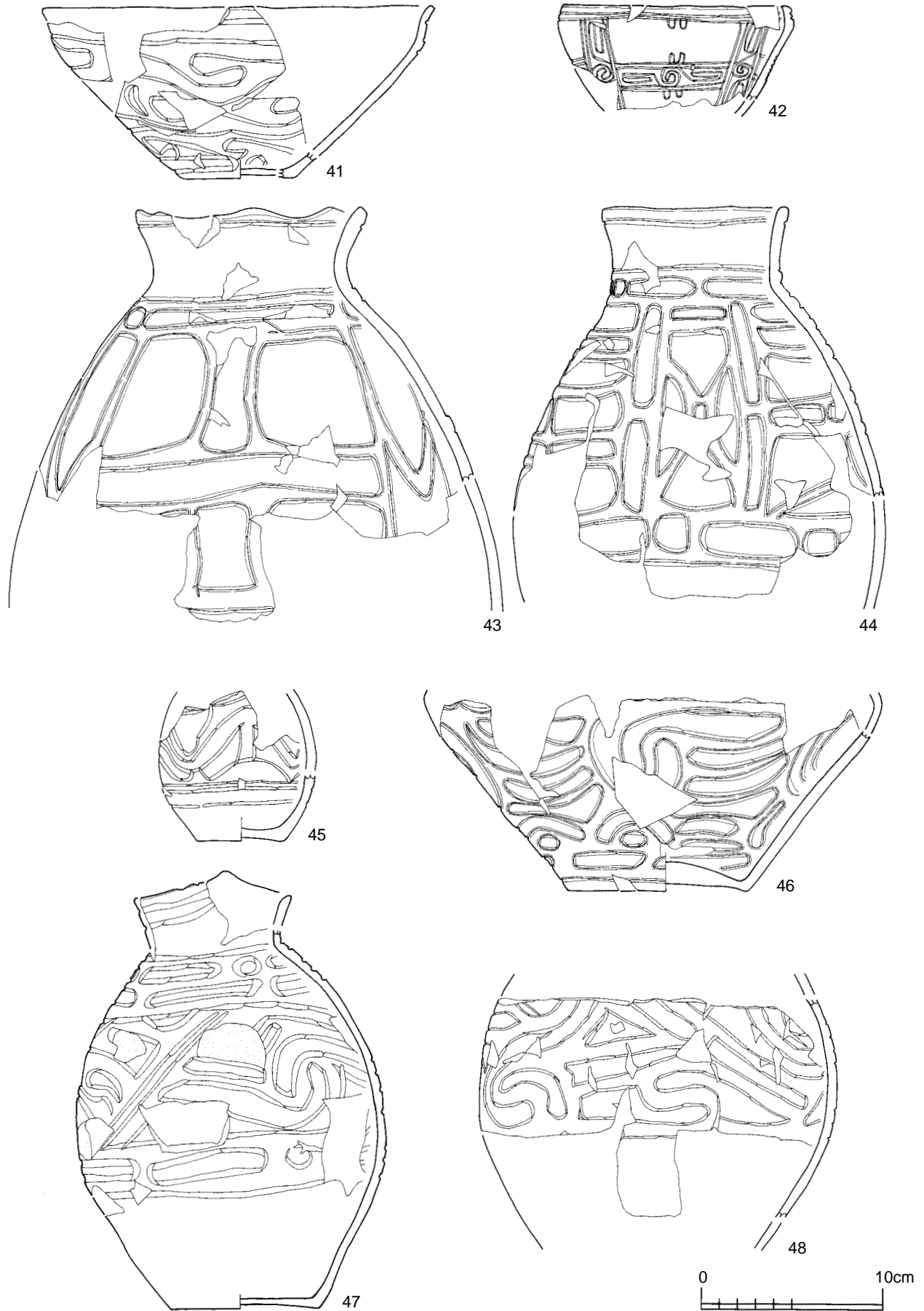
32



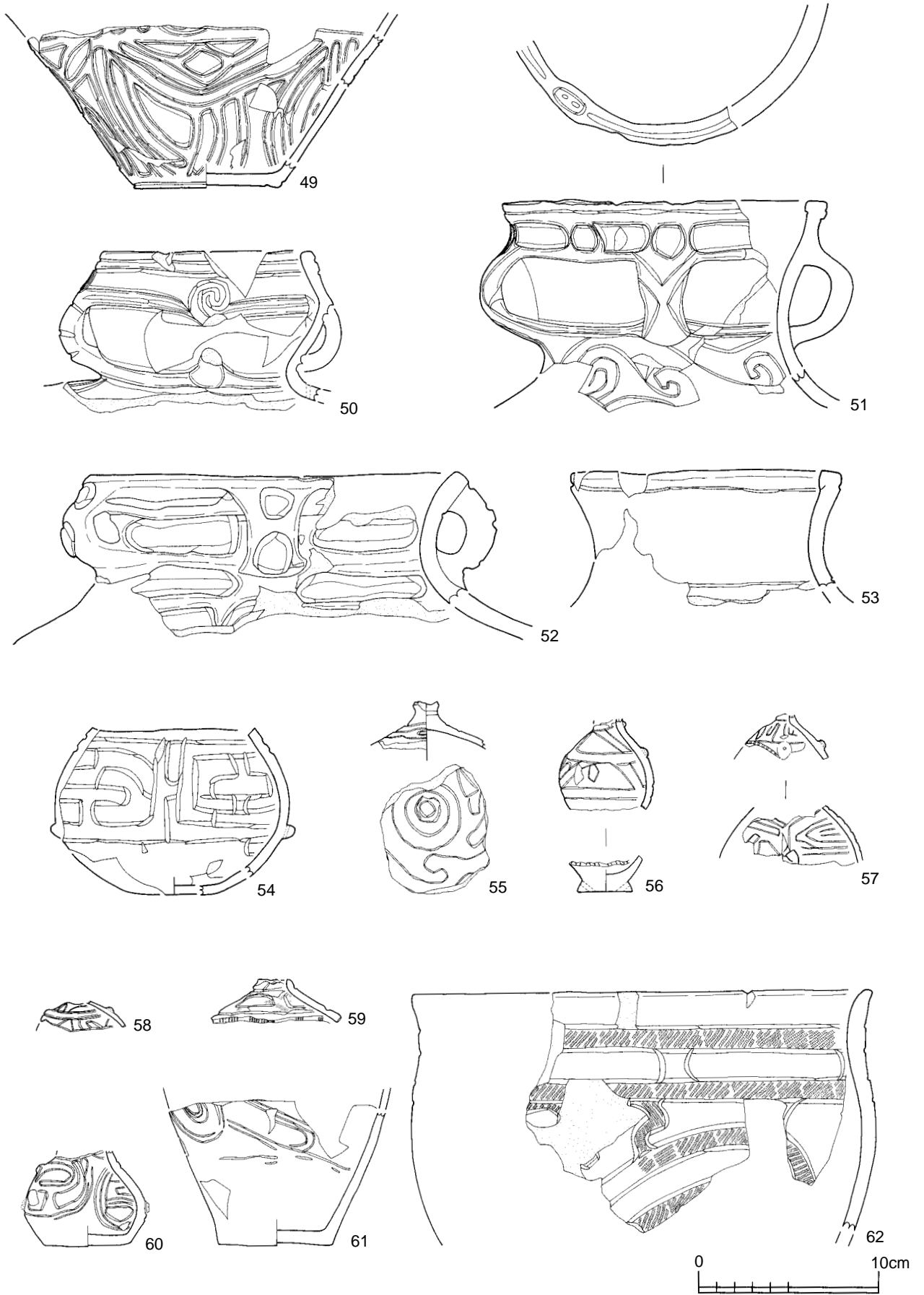
第263図 遺構外出土第IV群土器(6)



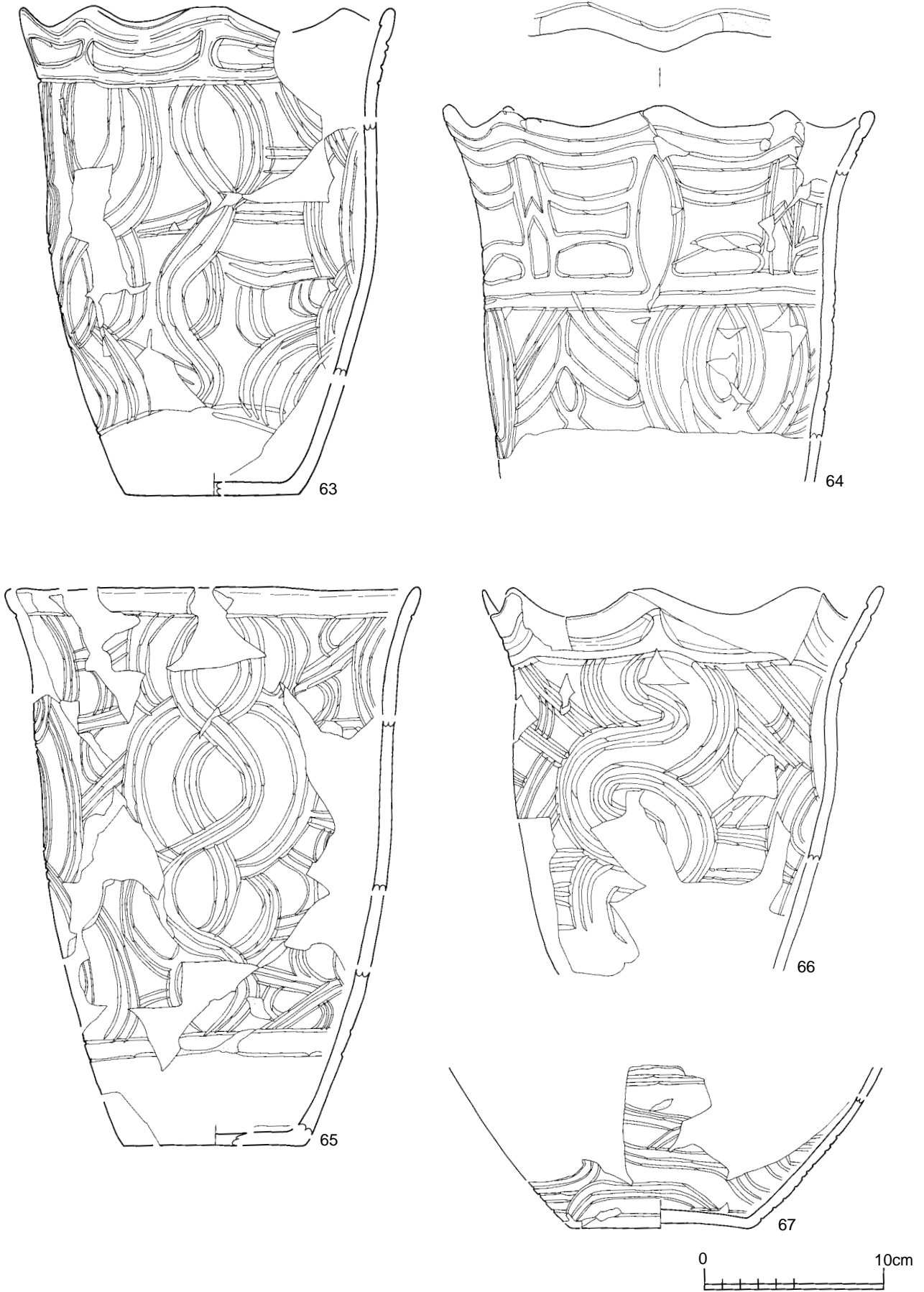
第264図 遺構外出土第IV群土器(7)



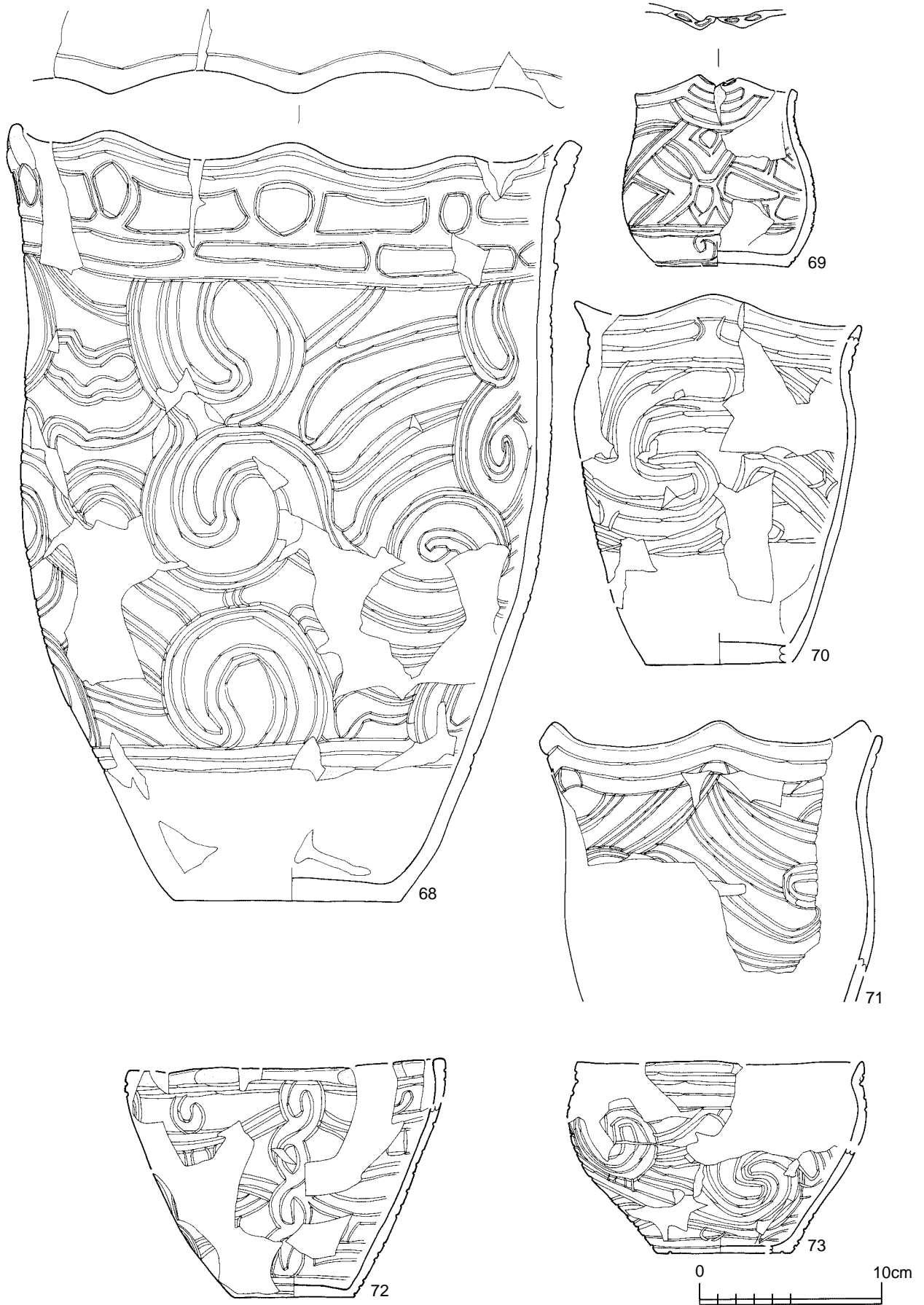
第265図 遺構外出土第IV群土器(8)



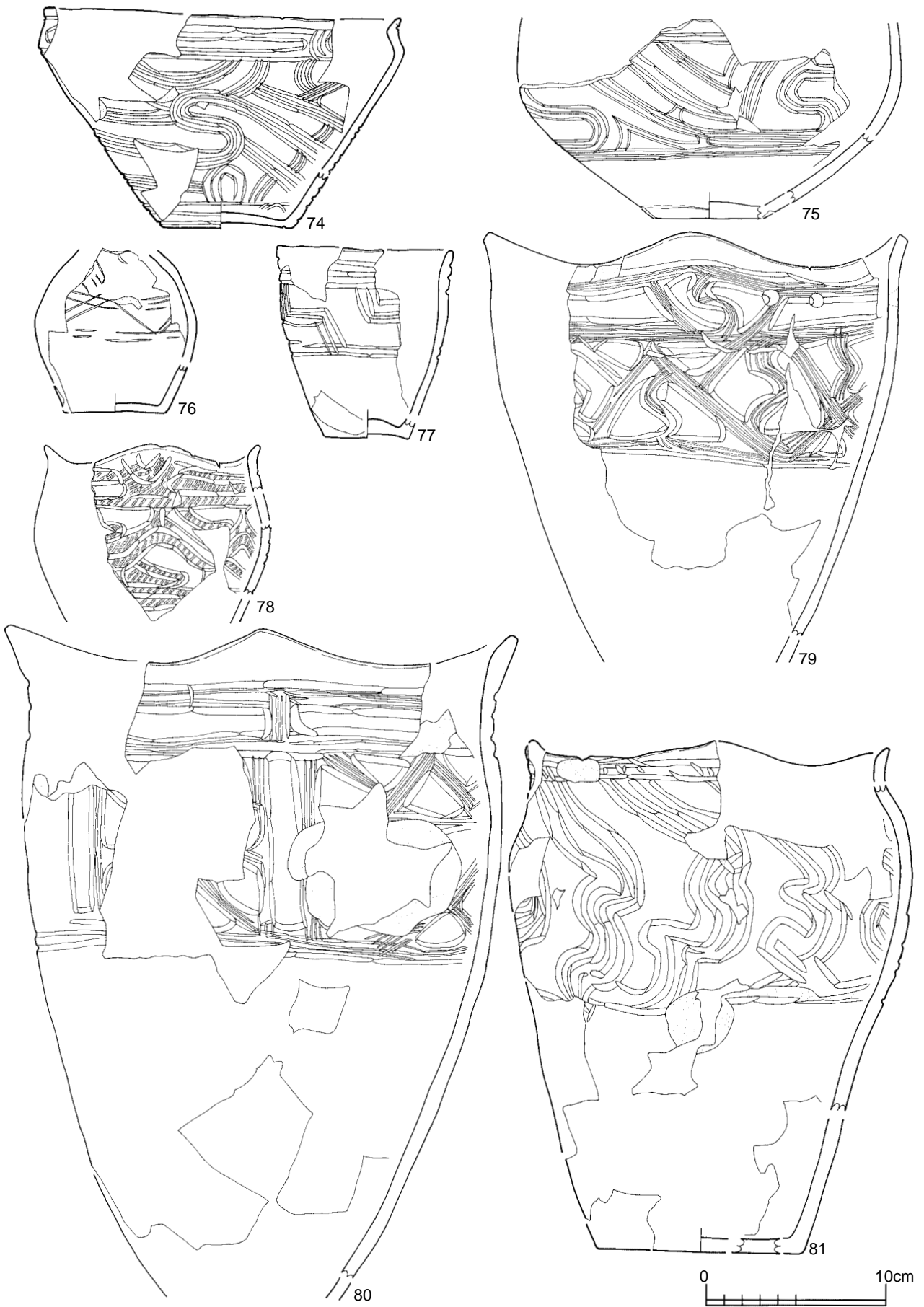
第266図 遺構外出土第IV群土器(9)



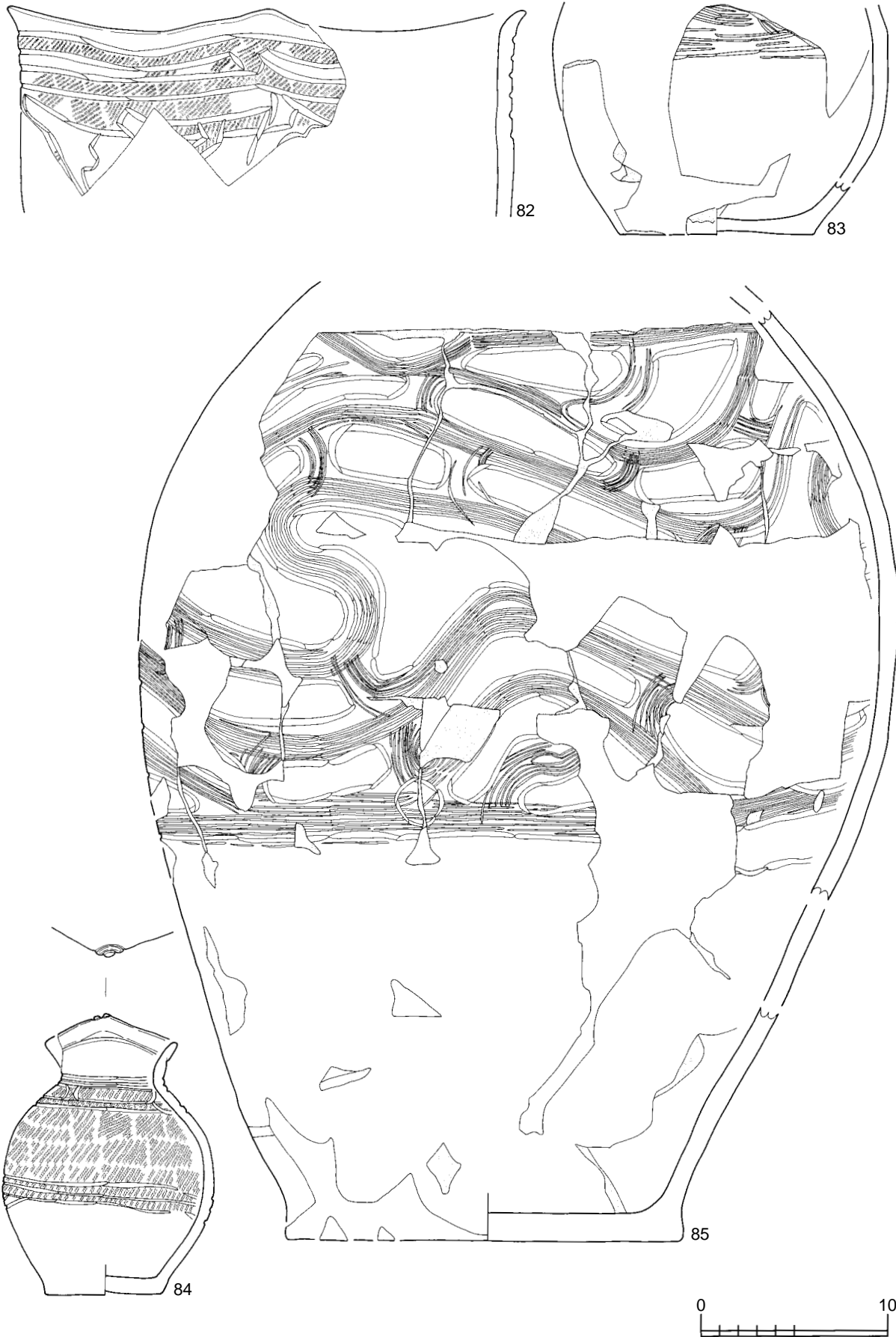
第267図 遺構外出土第IV群土器(10)



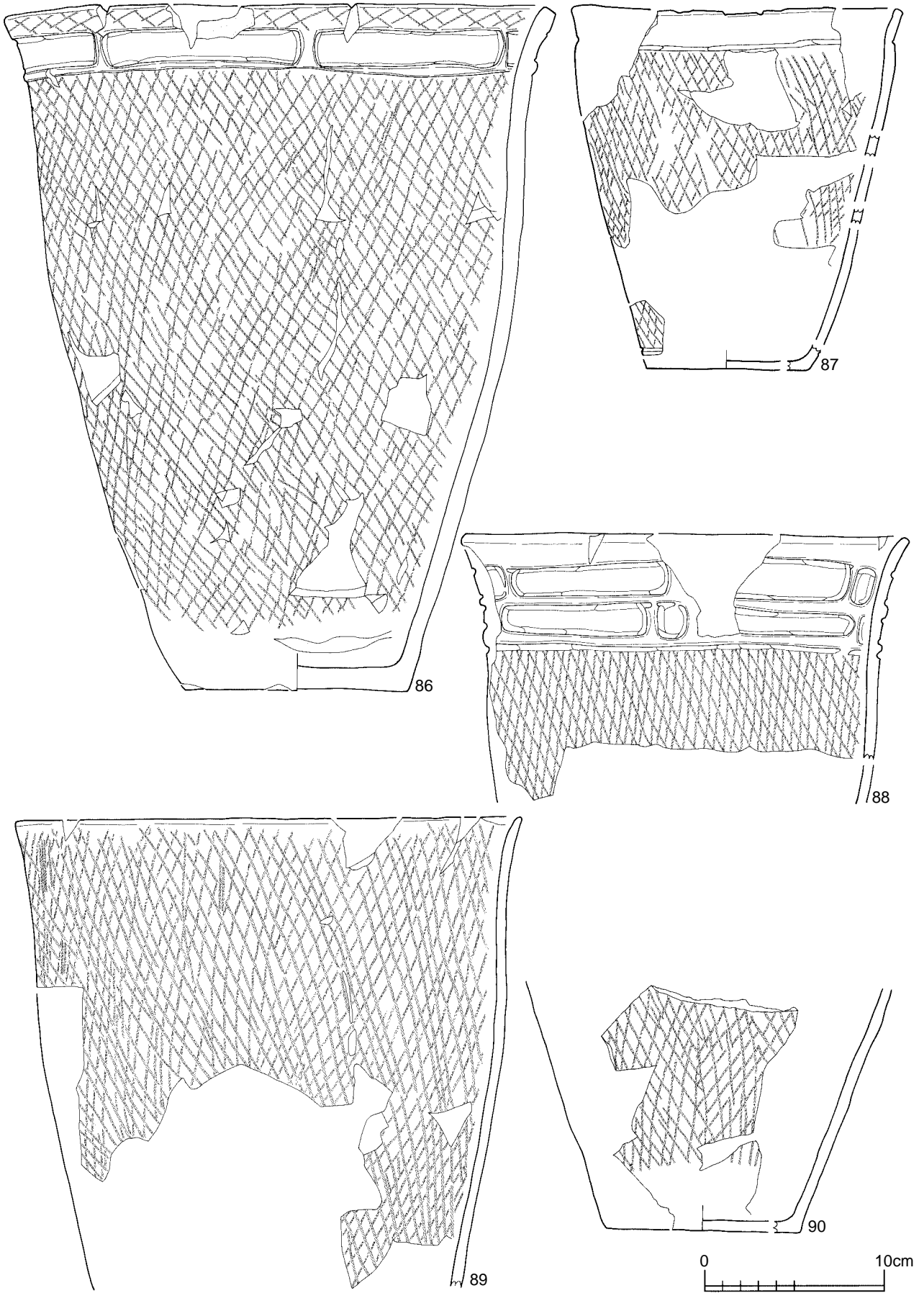
第268図 遺構外出土第IV群土器(11)



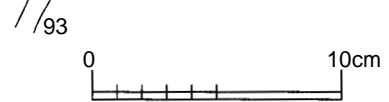
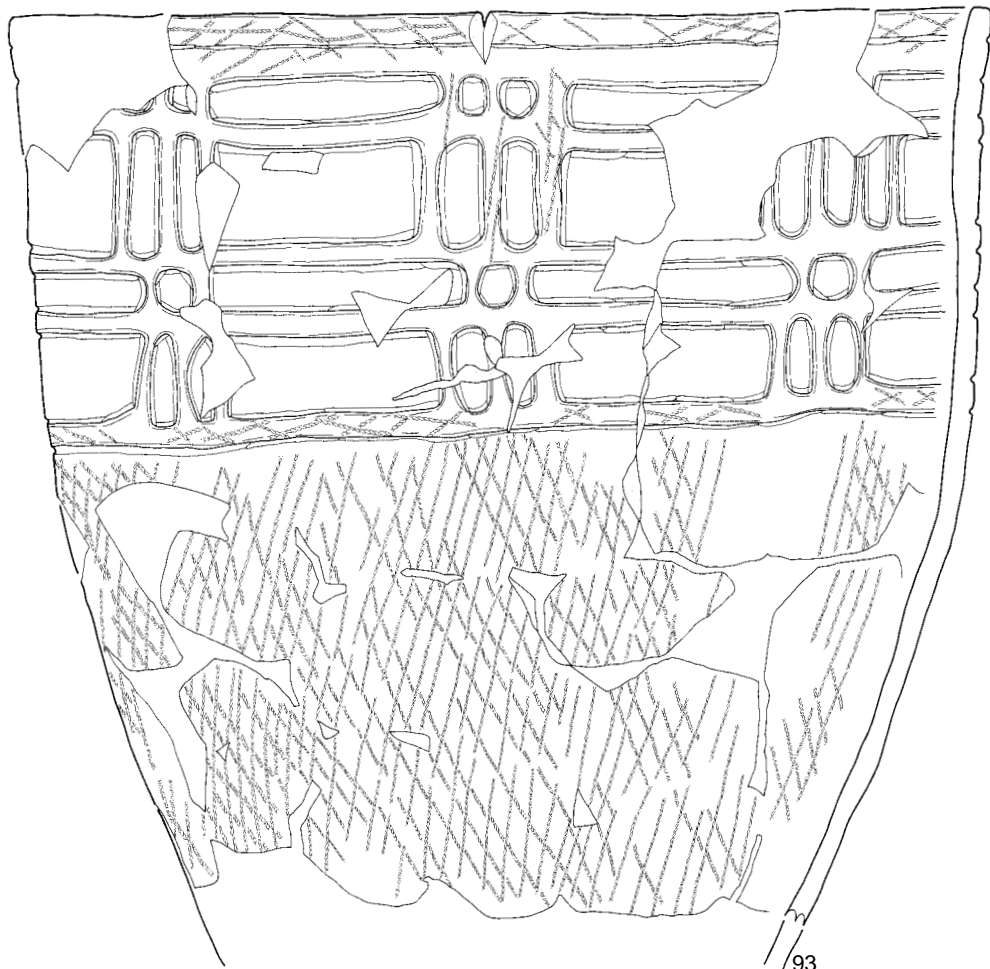
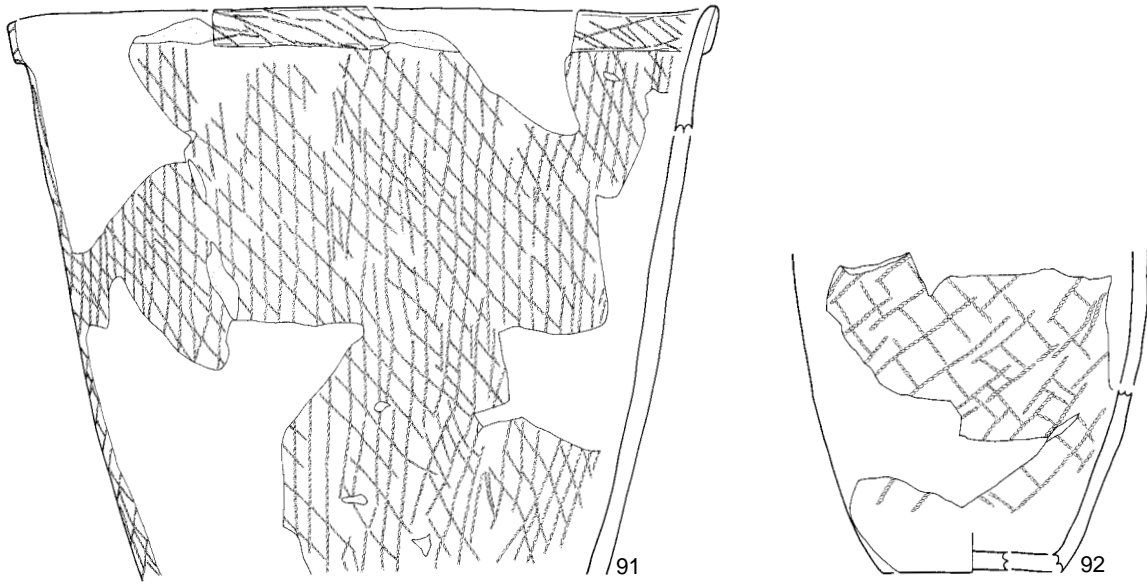
第269図 遺構外出土第IV群土器(12)



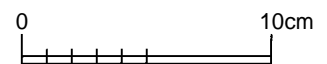
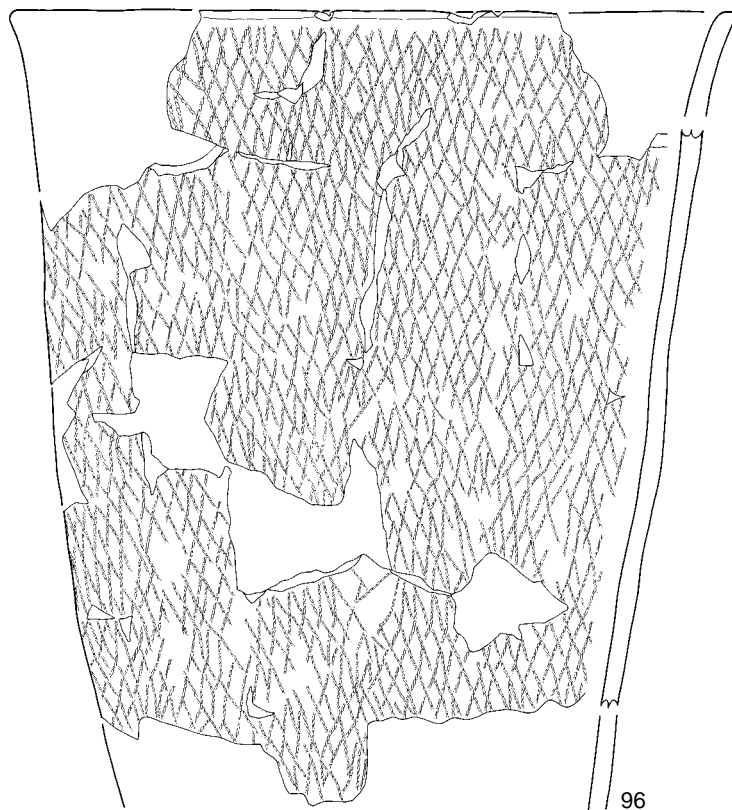
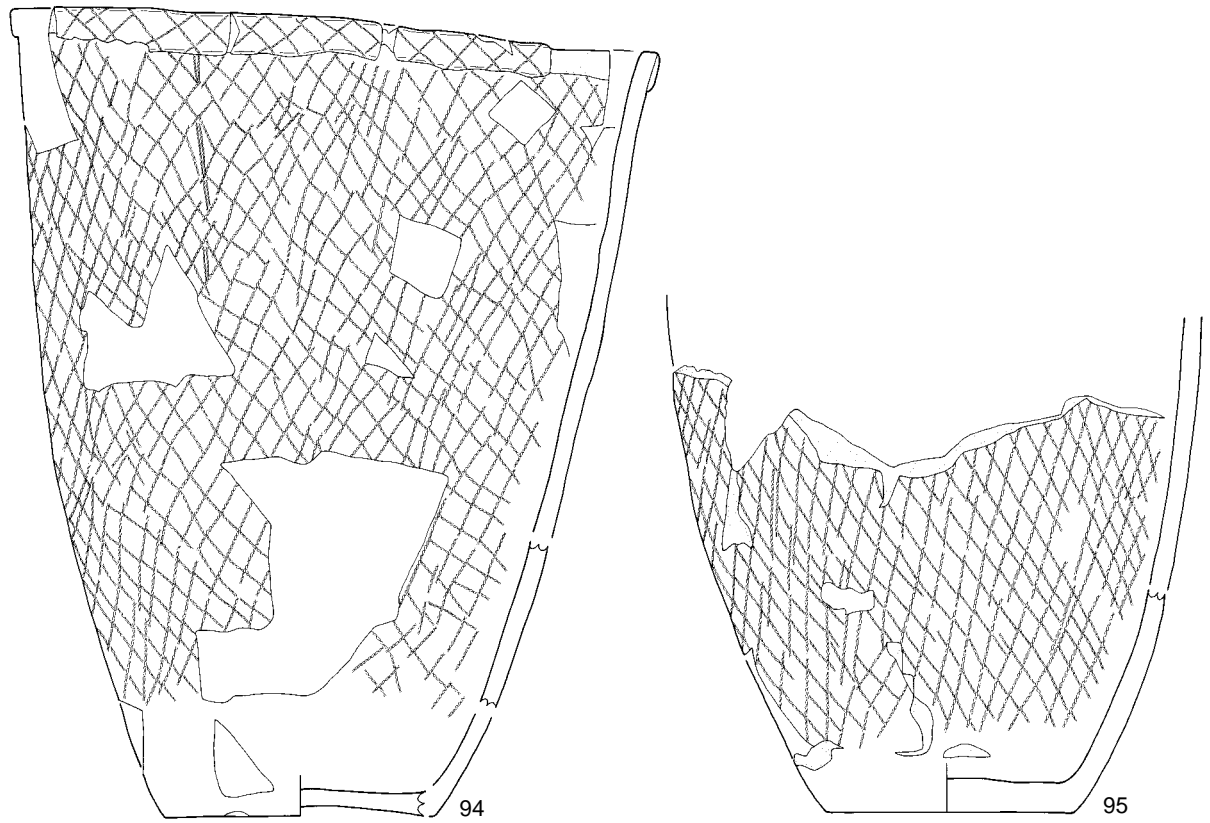
第270図 遺構外出土第IV群土器(13)



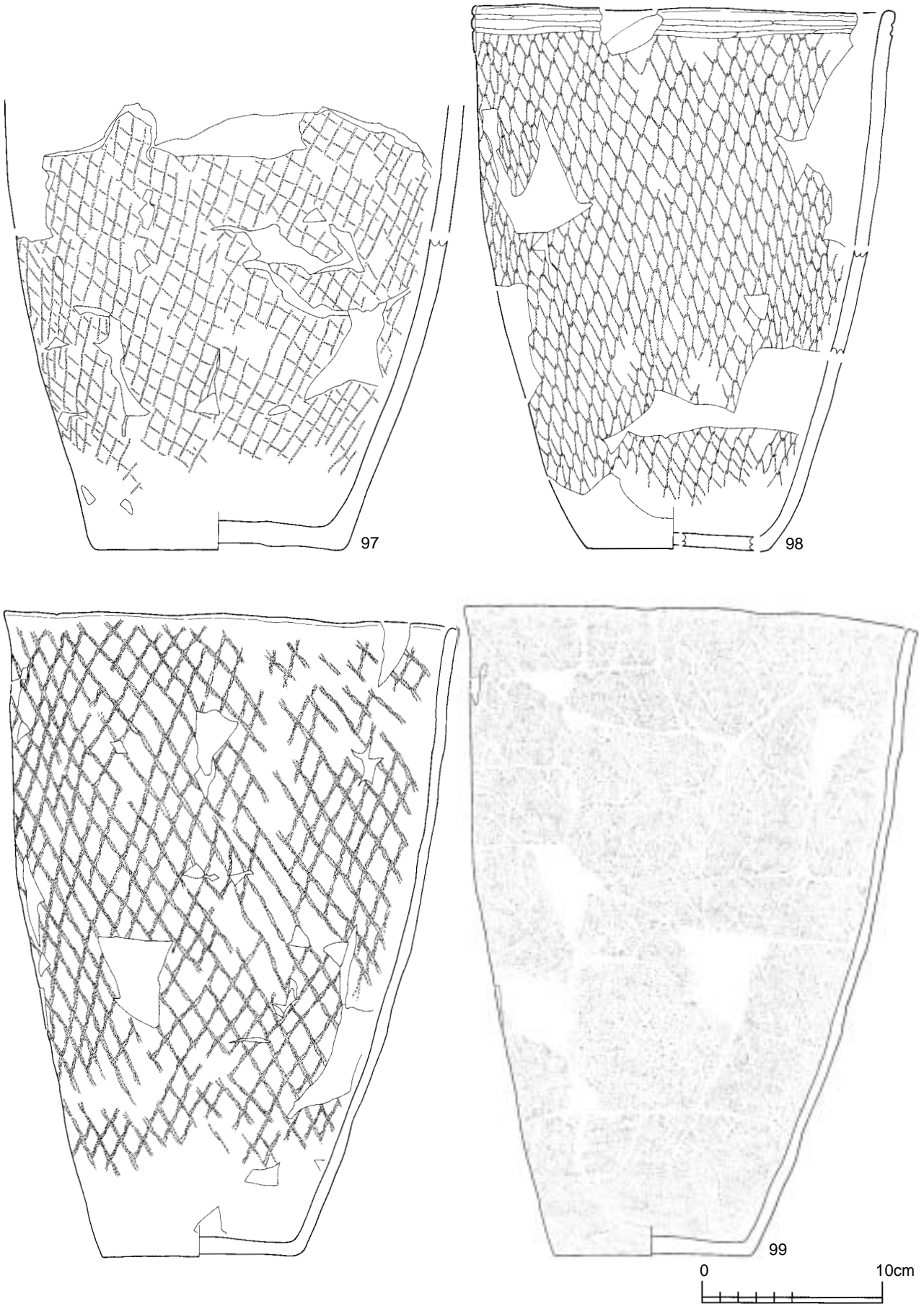
第271図 遺構外出土第IV群土器(14)



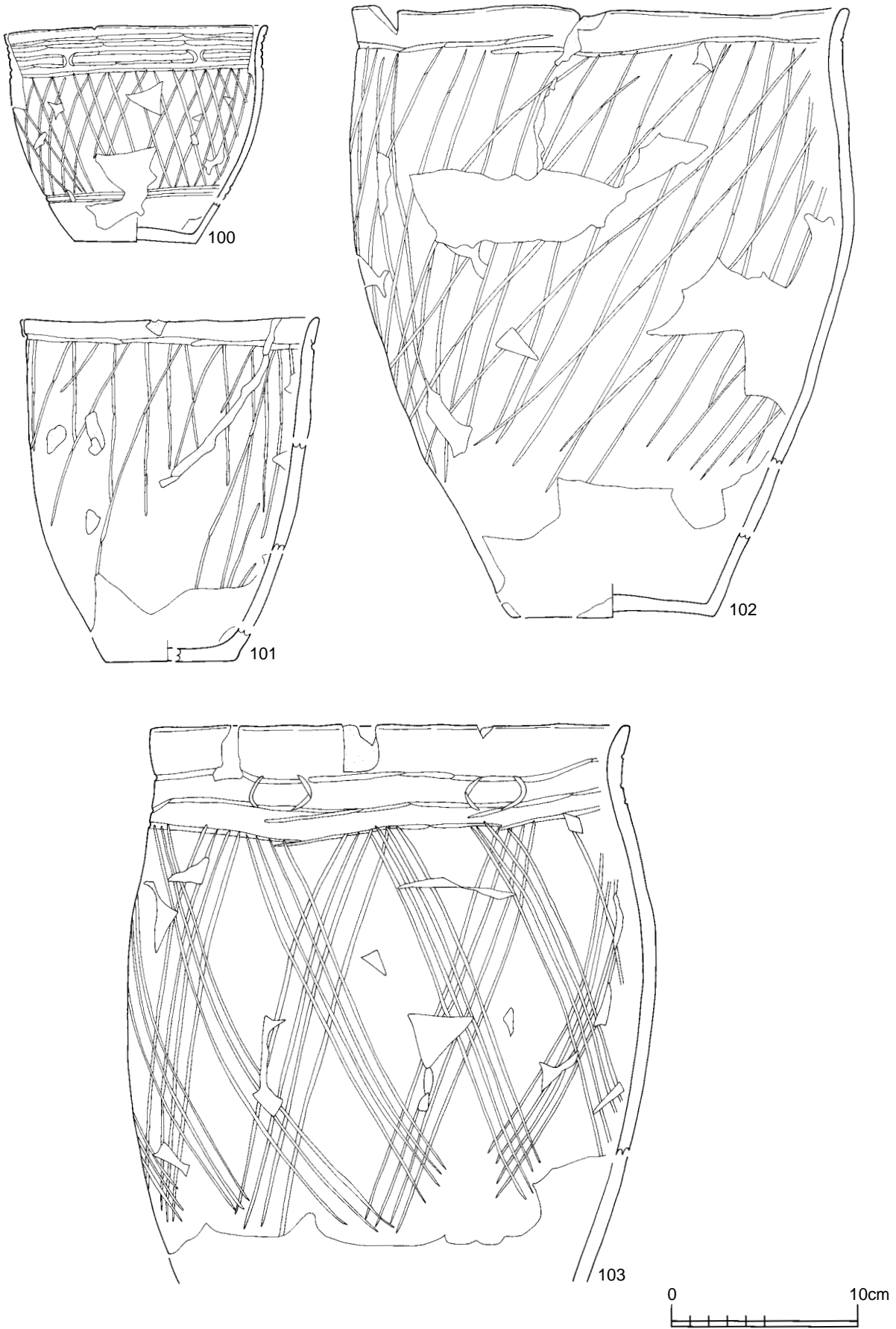
第272図 遺構外出土第IV群土器(15)



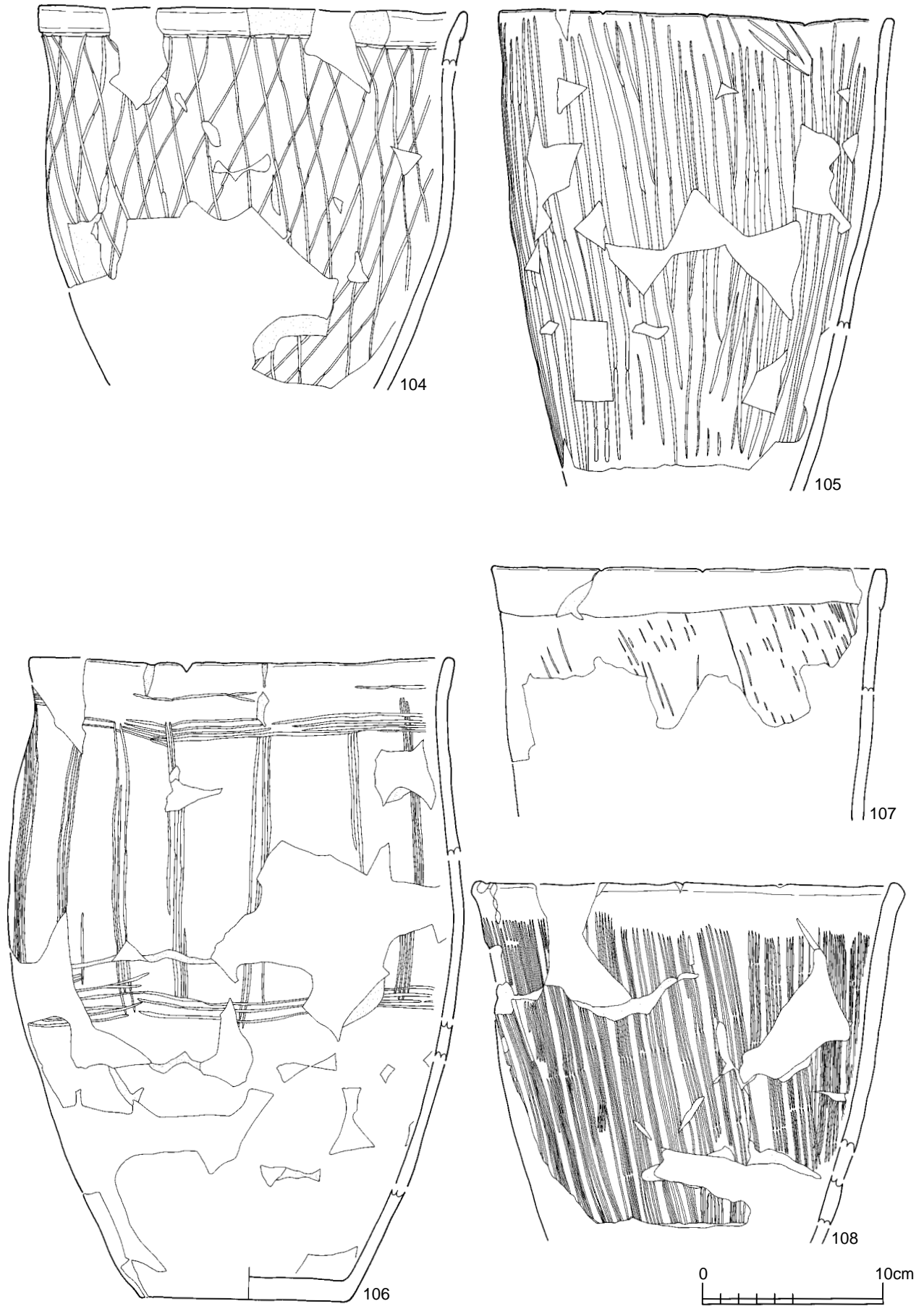
第273図 遺構外出土第IV群土器(16)



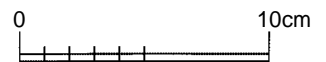
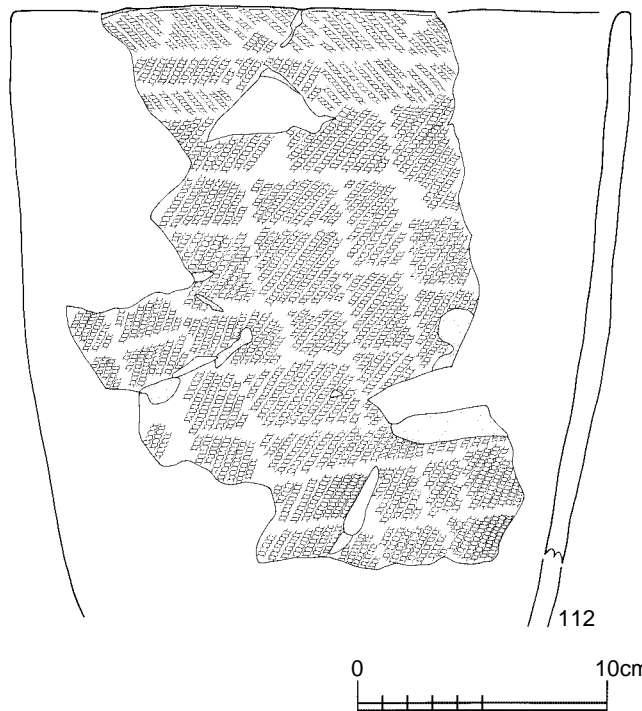
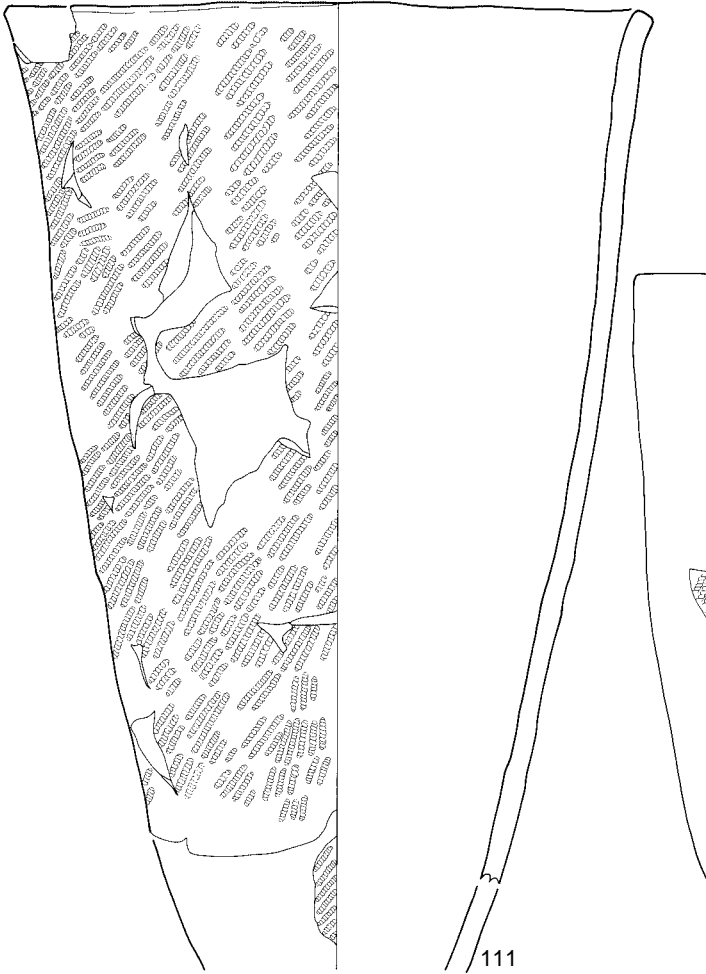
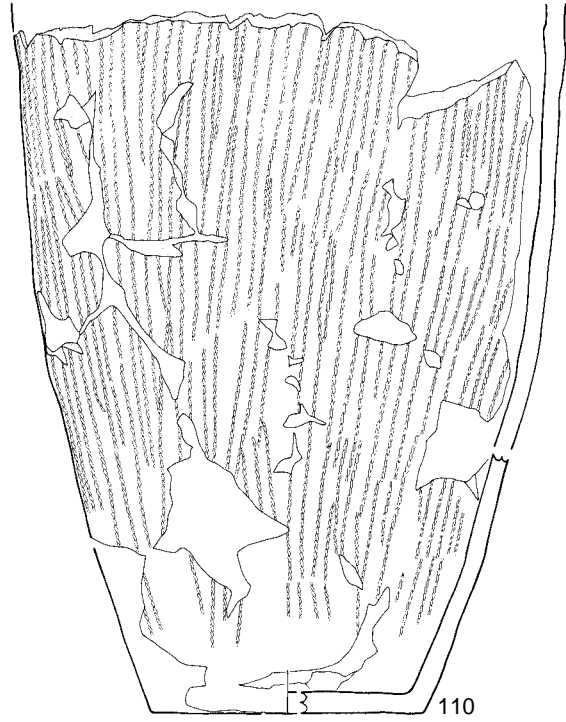
第274図 遺構外出土第IV群土器(17)



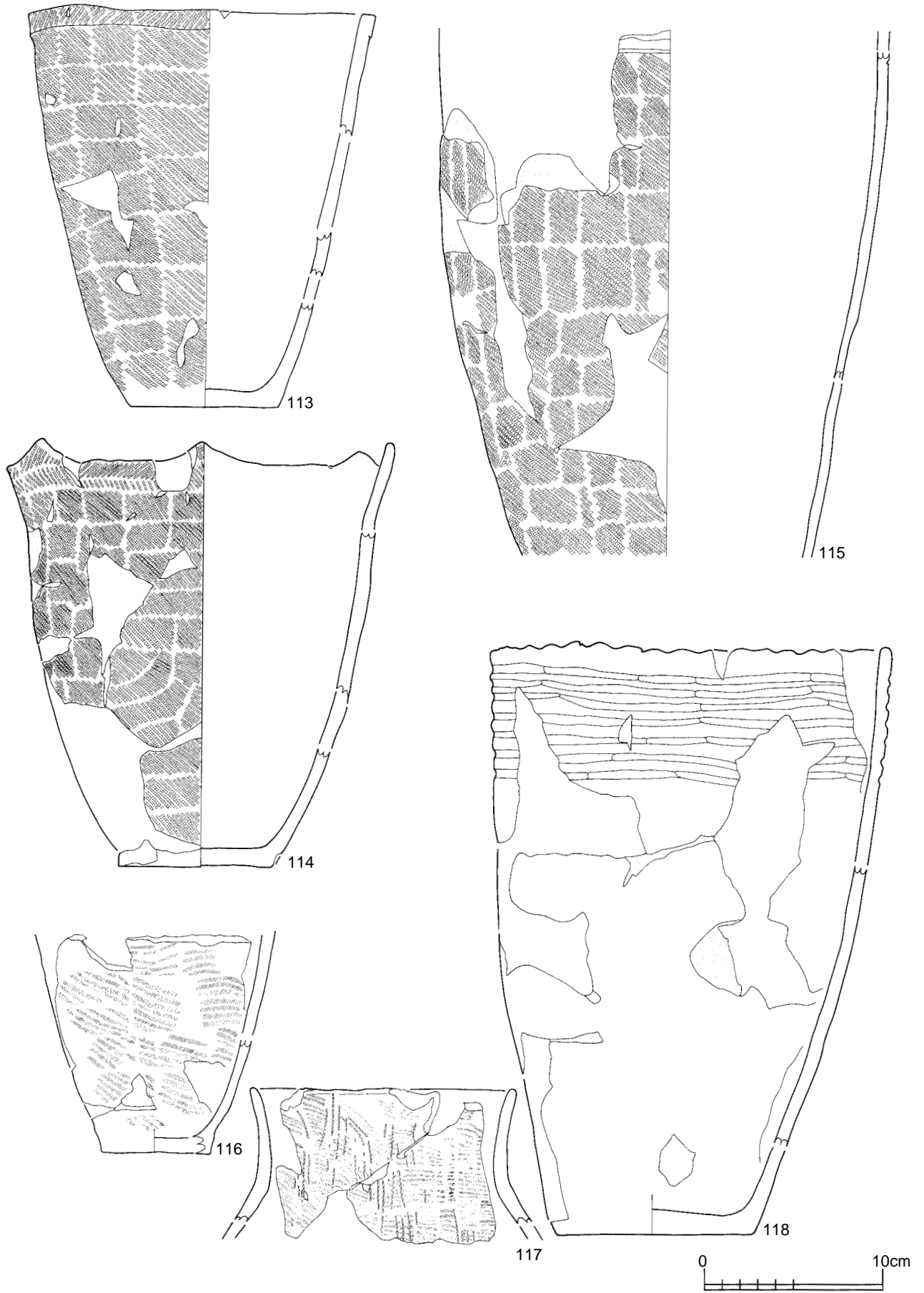
第275図 遺構外出土第IV群土器(18)



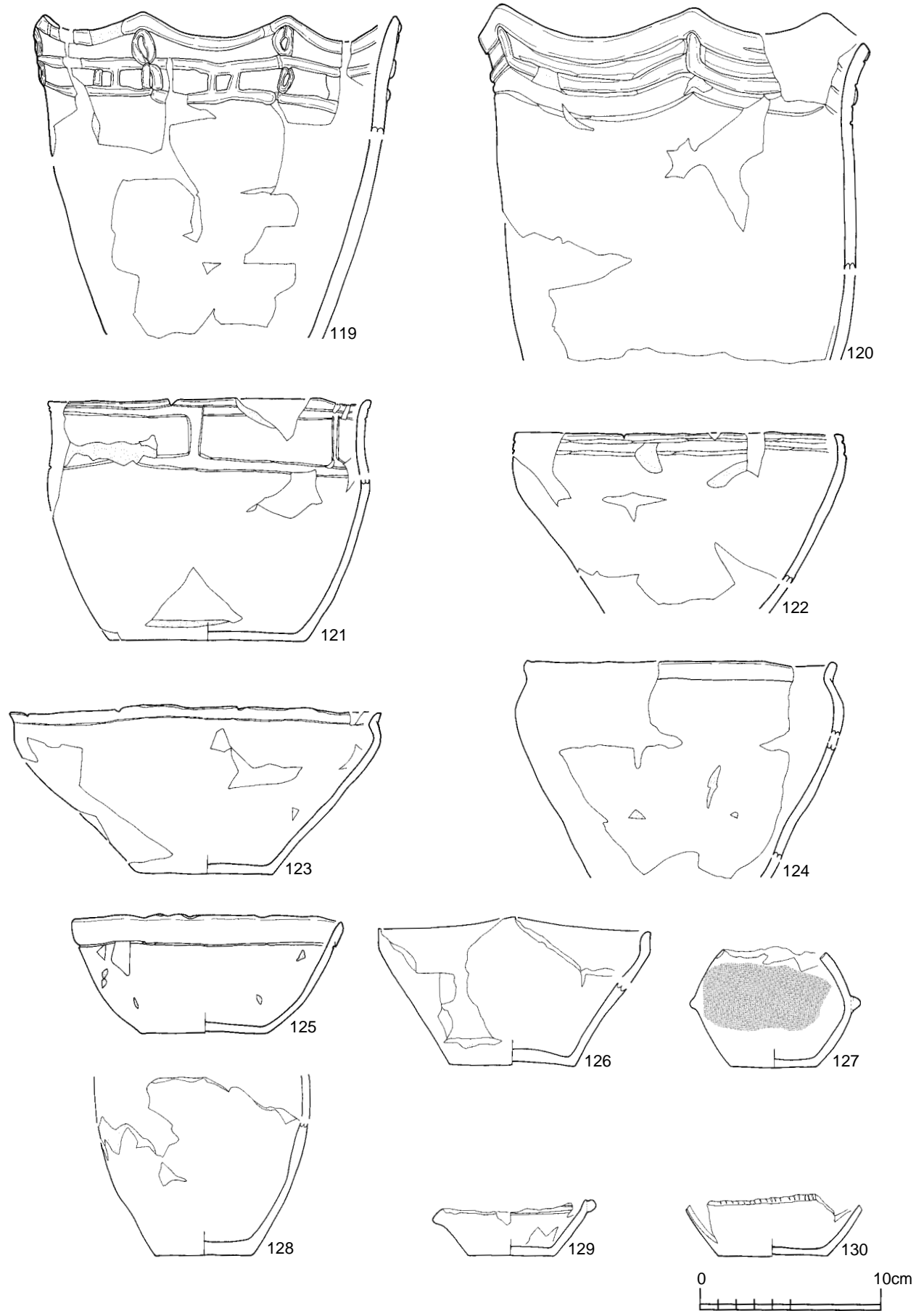
第276図 遺構外出土第IV群土器(19)



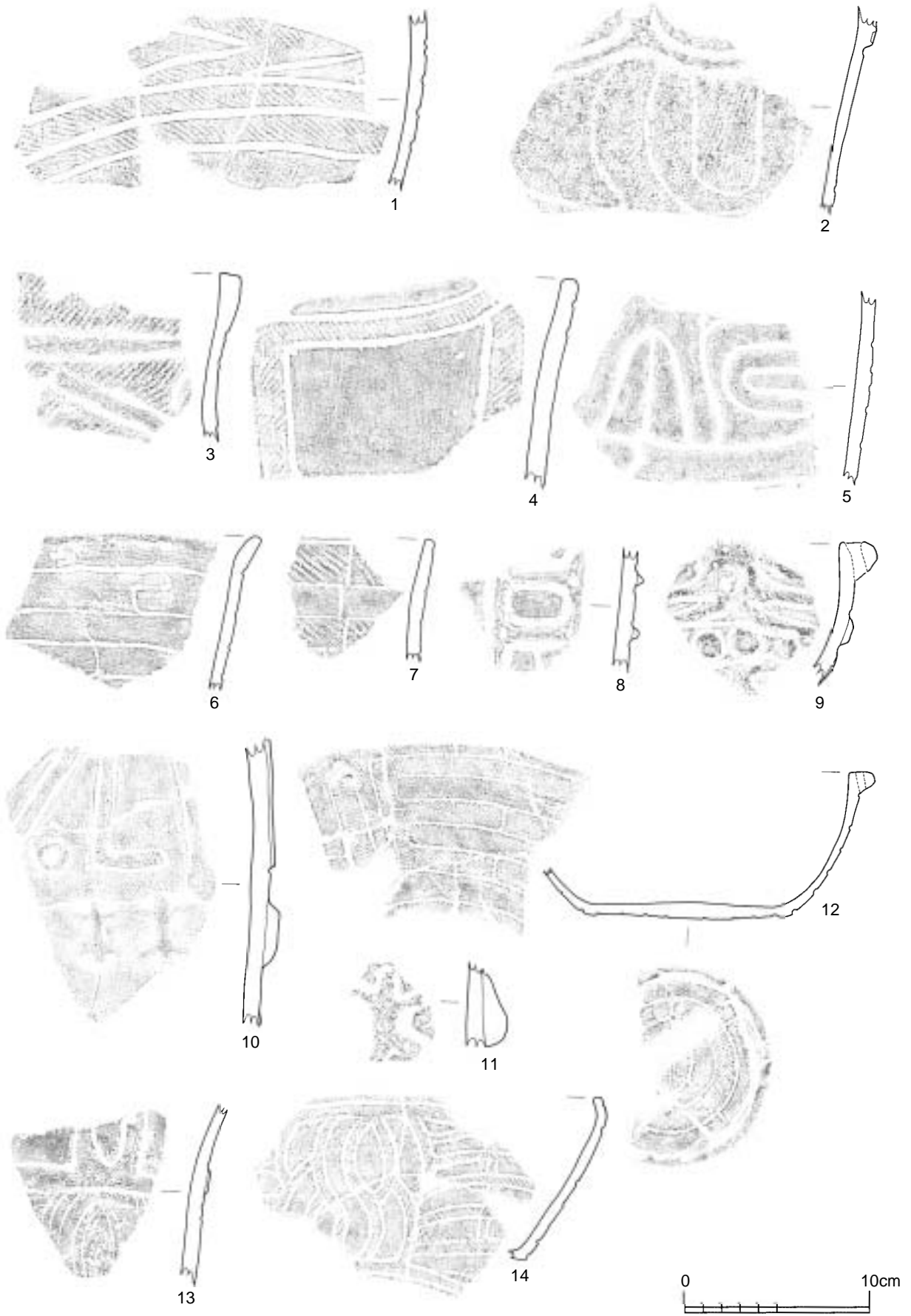
第277図 遺構外出土第IV群土器(20)



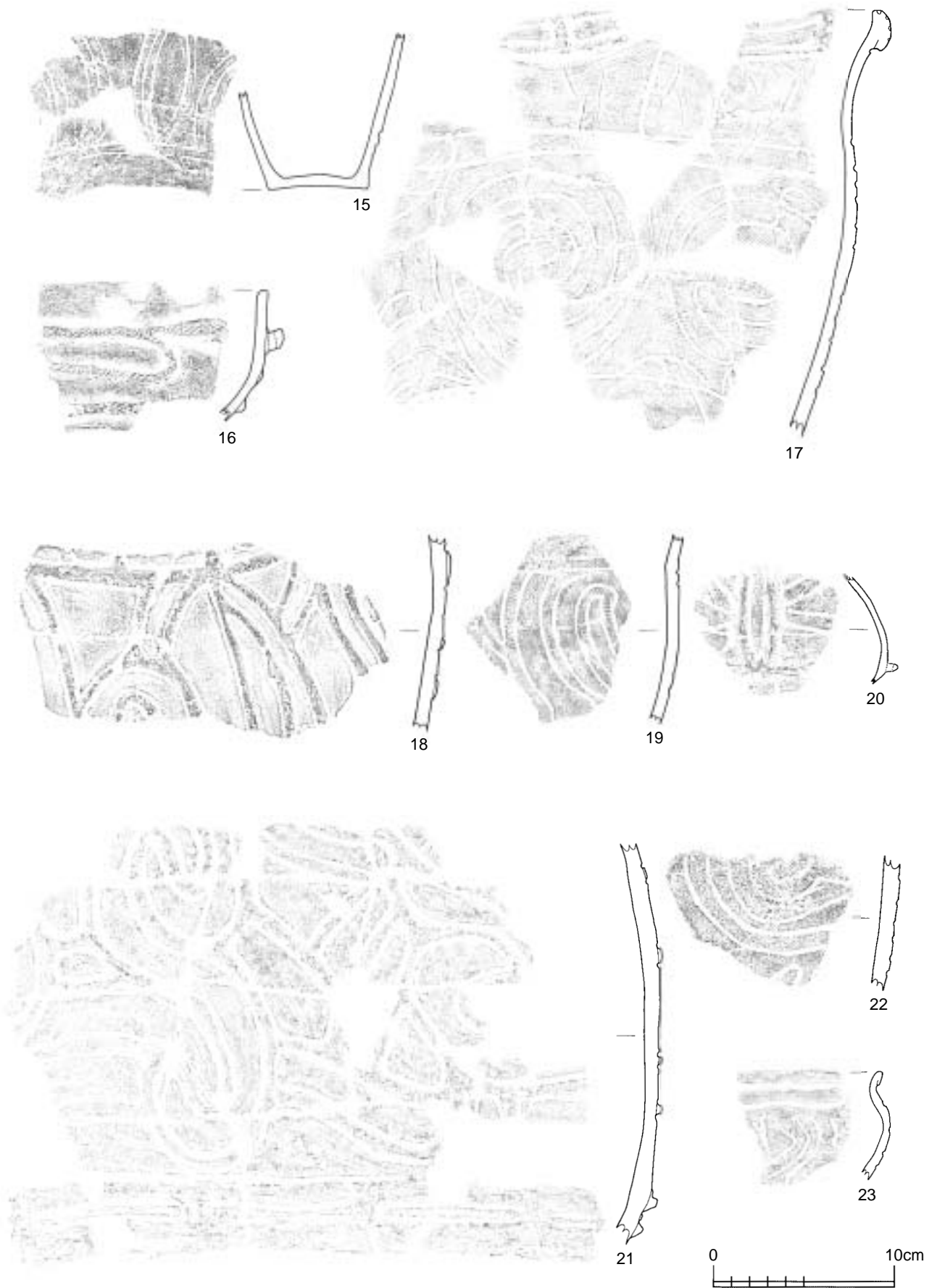
第278図 遺構外出土第IV群土器(21)



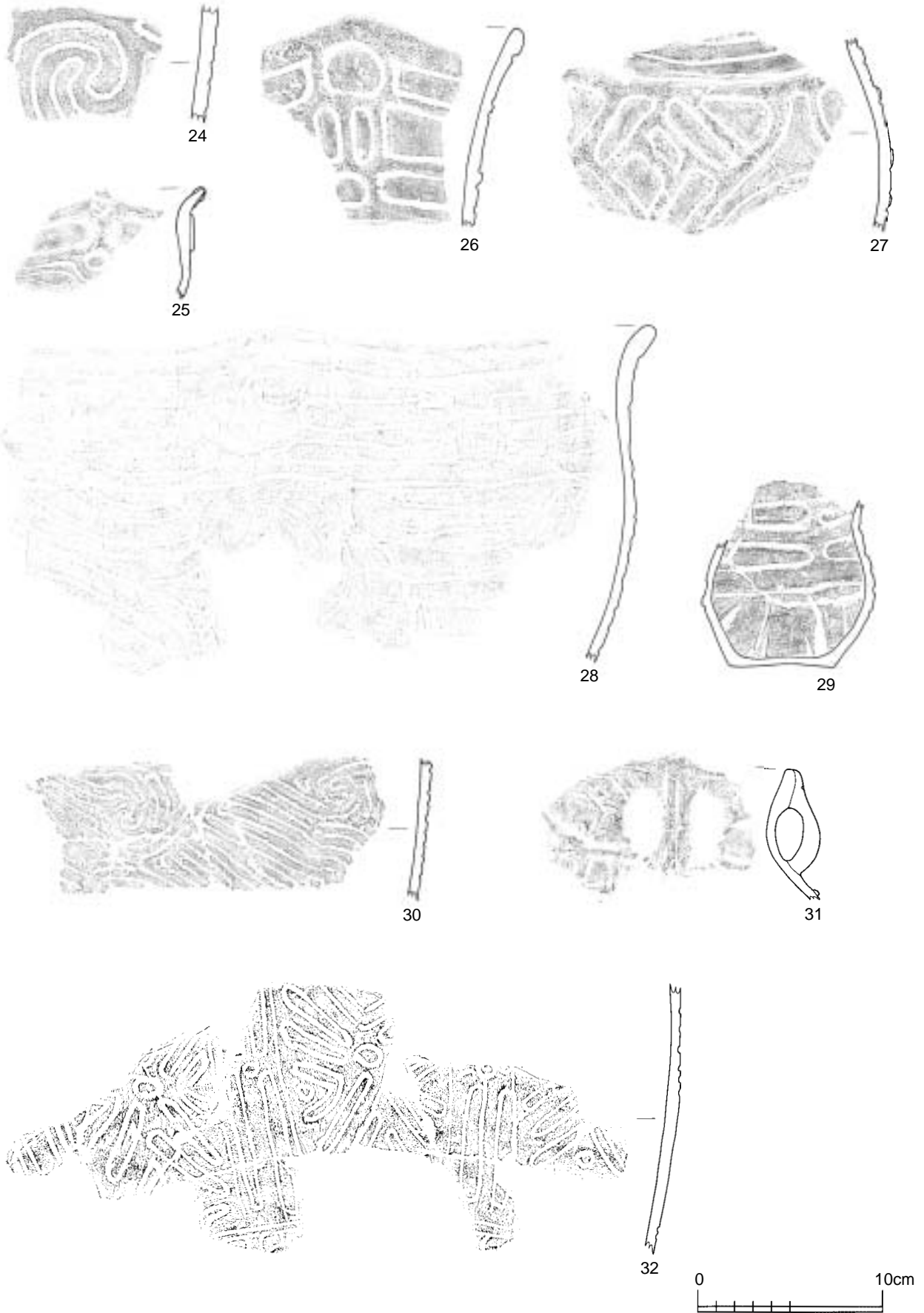
第279図 遺構外出土第IV群土器(22)



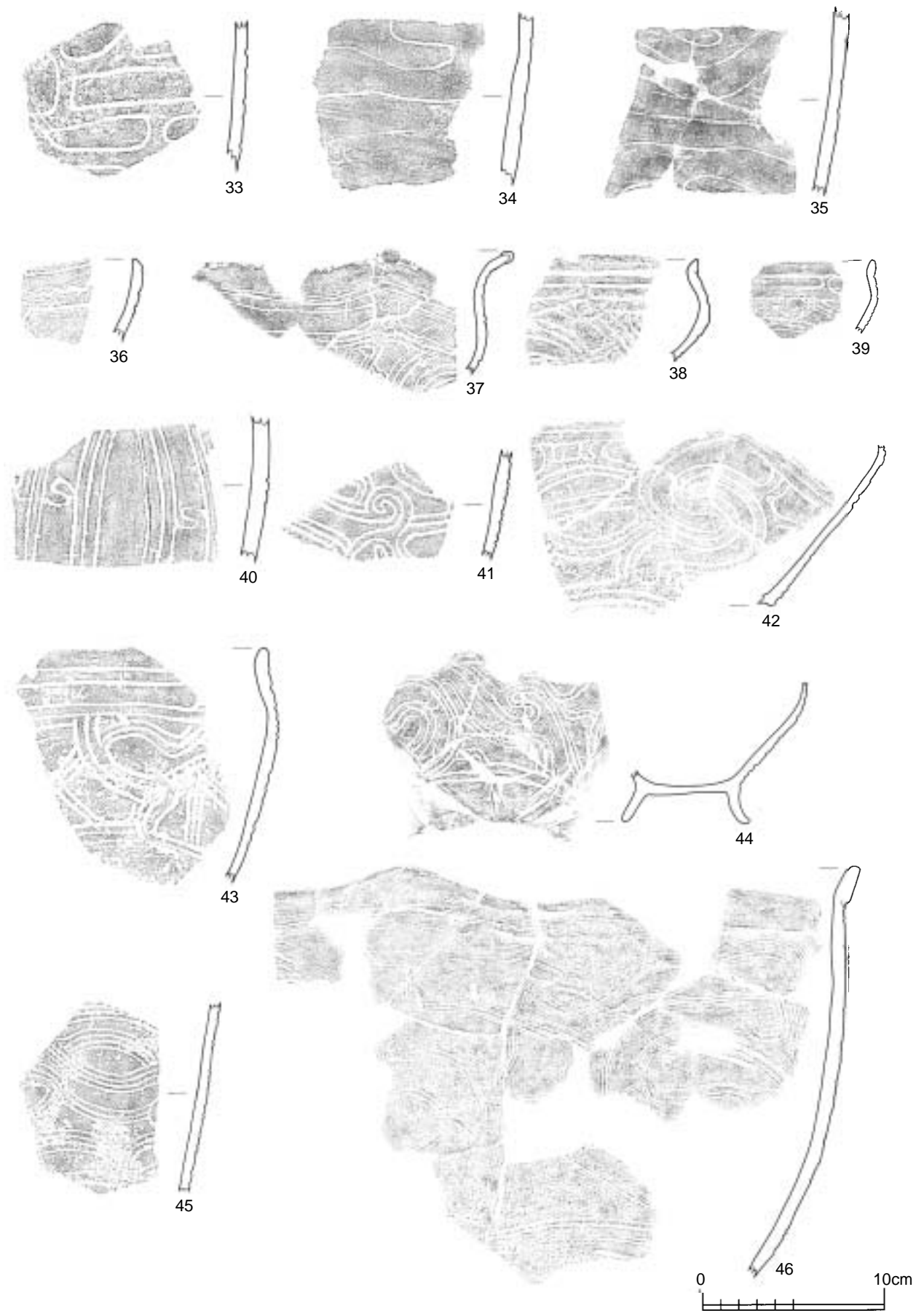
第280図 遺構外出土第IV群土器(23)



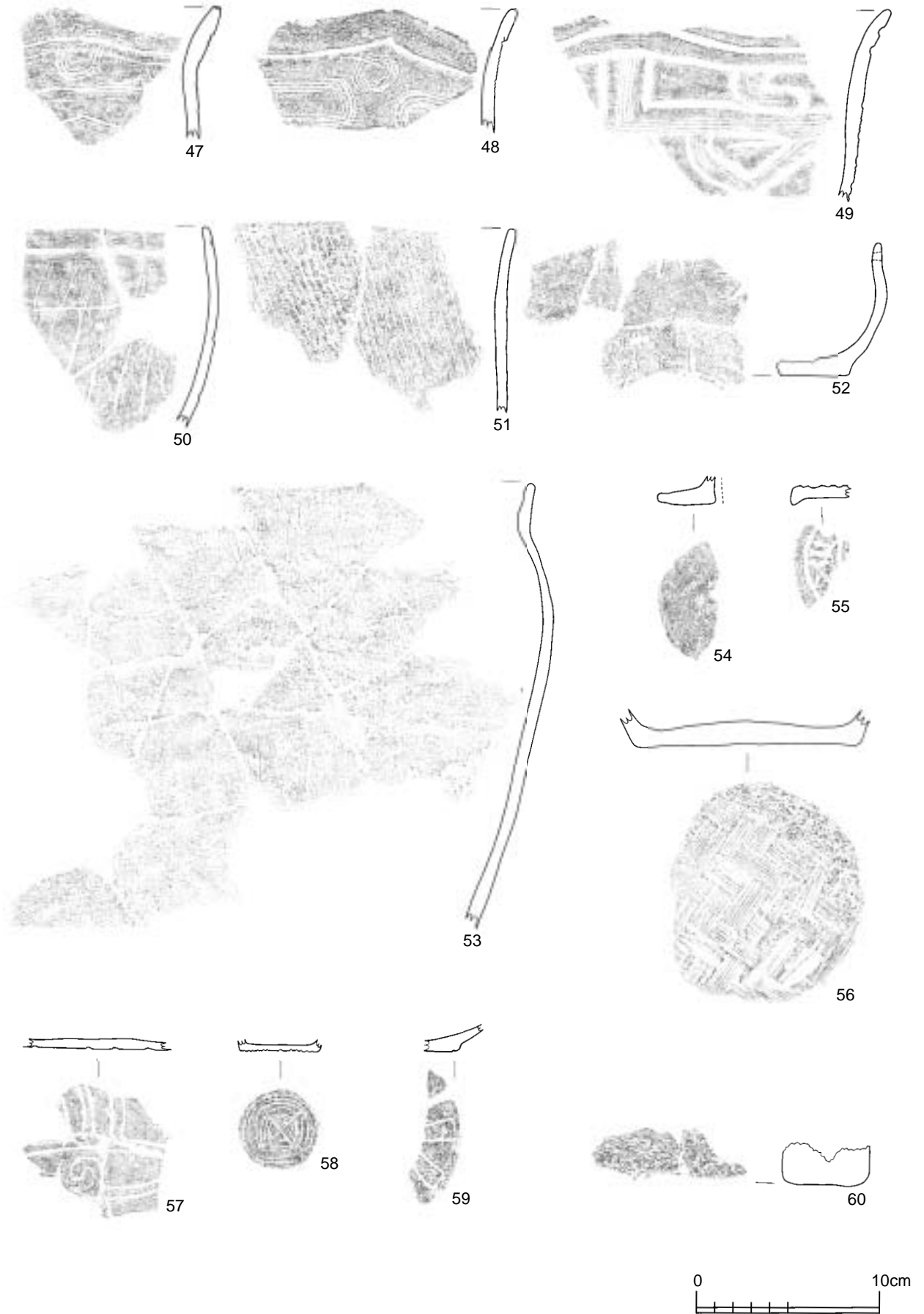
第281図 遺構外出土第IV群土器(24)



第282図 遺構外出土第IV群土器(25)



第283図 遺構外出土第IV群土器(26)



第284図 遺構外出土第IV群土器(27)

2. 石器

平成12年度の調査では、剥片石器1,712点、石斧118点、礫石器1,787点、水晶28点、総数3,645点が出土した（剥片、石核を除く）。うち遺構内出土806点、遺構外出土2,839点である。

石器の石質については、剥片石器は、珪質頁岩が大半であり、その他僅かに、玉髓、赤鉄鉱、安山岩、石英安山岩、緑色凝灰岩が見られる。石斧は、輝緑凝灰岩、閃緑岩、安山岩、変朽安山岩、頁岩、石英安山岩、粘板岩、凝灰岩が見られ、輝緑凝灰岩が半数を占め、閃緑岩、安山岩がそれに次ぐ。礫石器は、安山岩、凝灰岩、変朽安山岩、石英安山岩、凝灰角礫岩、頁岩、緑色凝灰岩、珪質頁岩、溶結凝灰岩、閃緑岩、玉髓、輝緑凝灰岩、玢岩、流紋岩、砂岩、礫岩が見られ、安山岩が半数を占め、凝灰岩、変朽安山岩、石英安山岩、凝灰角礫岩がそれに次ぐ。

石器の出土地点については、平面的には、グリッドラインの130ライン以西に濃密に分布しており130ライン以东は、急激に密度が薄くなる。出土層位は、第 a 層が多数を占める。遺構内出土石器についても石器が出土した遺構は、グリッドライン130以西に存在する。

出土した石器は、下記のとおり分類した。

(1) 剥片石器

・石鏃

遺構内から35点、遺構外から94点、総数129点が出土している。石質は、珪質頁岩が99.2%を占め、その他玉髓が1点である。

茎部及び形状から以下のように細分した。

1. 無茎

(1) 凹基（第57図11、第193図5、第198図40、41、第285図1）

遺構内から4点、遺構外から3点、総数7点が出土している。

基部の挟りの深いもの（第57図11、第193図5、第285図1）と浅いもの（第198図40、41）とがあり、挟りの深いものの側縁は若干湾曲している。

(2) 平基（第56図1）

遺構内から1点、総数1点が出土している。最大幅を基部付近に有する。

2. 円基、尖基

(1) 円基（第199図49、第201図67、第285図2～6）

遺構内から2点、遺構外から6点、総数8点が出土している。

器体下部に最大幅を有するもの（第201図67、第285図2、6）と器体中位に最大幅を有するものが見られる。

(2) 尖基（第57図12～14、第63図58、59、第196図30、31、第198図45、第199図54～56、第200図63～65、第201図70～73、第204図93、第205図98、第285図8～20）

遺構内から20点、遺構外から13点、総数33点が出土している。

全体として器体中位に最大幅を有するものは、側縁が若干丸みを帯びて湾曲するものが多数を占める。

器体上部に最大幅を有するものは、側縁上部がやや湾曲し、側縁下部が直線的な形状を呈するものが

見られる。

3. 有茎

(1) 凹基 (第286図21~28)

遺構外から8点、総数8点が出土している。

基部付近で側縁が広がりやや内湾する形状のもの(第286図21~23)が見られる。

(2) 平基 (第193図1、第205図100、第286図29~48、第287図49~60)

遺構内から2点、遺構外から34点、総数36点が出土している。

小型のものと、やや大型で細長い形状のものが見られる。

基部を除き腹面にほとんど調整の認められないもの(第286図39)なども見られる。

(3) 凸基 (第195図21、第196図26、第197図38、第200図61、第202図82、第206図107、第287図61~71、第288図73)

遺構内から6点、遺構外から17点、総数23点が出土している。

小型のものが多く側縁がやや湾曲しているものが見られる。

また、全体に荒い調整の認められるもの(第195図21、第196図26)、幅広の形状のもの(第200図61)なども見られる。

4. その他の石鏃。

出土していない。

5. 欠損品等で基部が無く、細分できないもの。

遺構外から8点、総数8点が出土している。

6. 石鏃未製品。(第285図7、第288図74~76)

遺構外から5点、総数5点が出土している。

基部および側縁にのみ調整が認められるもの(第288図75)などが見られる。

・銛先鏃 出土していない。

・石槍 (第195図18、第288図77、78)

遺構内から1点、遺構外から2点、総数3点が出土している。石質は、形質頁岩が100%を占める。

1. 幅広のもの。(第288図78)

遺構外から1点、総数1点が出土している。

2. 細長のもの。(第195図18、第288図77)

遺構内から1点、遺構外から1点、総数2点が出土している。

3. 欠損品等で細分できないもの。

出土していない。

・石錐

遺構内から4点、遺構外から39点、総数43点が出土している。石質は、形質頁岩が95.3%を占め、他は玉髓が2点である。

1. 錐部のみ二次調整を行うもの。(第194図11、第288図79~85、第289図86~88)

遺構内から2点、遺構外から15点、総数17点が出土している。

剥片の端部に調整を施し錐部を作出するものである。

2. 全体に二次調整を行うもの。

(1) つまみ部を有するもの。(第196図22、第289図91、92、94)

遺構内から1点、遺構外から3点、総数4点が出土している。やや幅広のつまみ部を有する。

(2) 直線的な棒状のもの。(第203図89、第289図89、90、93、95～97、第290図98～112)

遺構内から1点、遺構外から21点、総数22点が出土している。おおむね直線的な形状を呈するが器体中位がやや膨らむ形状のもの(第290図109も見られる。)

3. 錐部の欠損品等で細分できないもの。

出土していない。

・石匙

遺構内から102点、遺構外から150点、総数252点が出土している。石質は、形質頁岩が99.2%を占め、他は玉髓が2点である。

1. 縦形。(第56図2、3、7、8、第57図15～20、第58図21～24、第60図37、38、第61図40、41、44、45、第62図49～51、53、54、第63図61、62、第64図63～70、第65図71～76、第66図77、78、第193図2、第194図10、14、第196図25、27、29、第197図32、36、37、第198図43、47、第199図50、52、53、第200図58、60、第201図66、第202図75、76、80、81、第203図90、91、第204図94、95、第205図105、106、第206図108～110、第231図7、第291図113～121、第292図122～129、第293図130～139、第294図140～147、第295図148～155、第296図156～163、第297図164～170、第298図171～179、第299図180、第302図200、202、205、第303図206、207、209～211)

遺構内から81点、遺構外から118点、総数199点が出土している。

細身で両側縁が平行なもの(第291図113～115、第293図132～135、第298図175、176)、細身で下端が鋭くとがる形状のもの(第62図49、第63図61、62)、やや幅広で両側縁が平行なもの(第294図140～146)、やや幅広で三角形のもの(第291図117、121、122)、幅広(第292図124～129)、一側縁が直線的、他側縁が弧状で半月状のもの(第295図148～155、第296図158～163、第297図164～170)などが見られる。また、幅広いつまみ部を有するもの(第294図146)やつまみ部の調整のほか一側縁にのみ調整の認められるもの(第293図130、137、第294図142)などが見られる。

2. 横形。(第56図9、第57図10、第58図25、26、第59図27、第62図55、第66図79～81、第194図12、第195図17、第199図51、第202図78、第203図88、第299図181～185、第300図186～191、第301図192～197、第302図198、199、201、203、204、第303図208)

遺構内から15点、遺構外から32点、総数47点が出土している。

つまみ部が短軸の軸線上にあるもの。(第194図12、第203図88、第299図181、183、185、第300図186、188～190、第303図208)とつまみ部が短軸の軸線上と斜交するもの。(第199図51、第202図78、第299図182、184、第300図187、191、第301図192～197)とがある。また、幅広のつまみ部を有するもの(第195図17、第302図199～201、204)も見られる。

3. 欠損品等で細分できないもの。

遺構内から6点、総数6点が出土している。

・大石平石筥（第198図46、第205図99、第304図212～230、第305図231～233）

遺構内から2点、遺構外から31点、総数33点が出土している。石質は、形質頁岩が100%を占める。

つまみ状の頭部を呈するものと、細長い柄状のものがある。全体として背面を主体とする調整が見られるが、一部には、腹面全面に調整の認められるもの（第304図213）や古い剥離面を残すもの（第304図218、第305図233）も見られる。

・石筥

遺構内から10点、遺構外から98点、総数108点が出土している。石質は、形質頁岩が97.2%を占め、他は玉髓2点、緑色凝灰岩1点である。

1. 撥形を呈するもの。（第194図13、第196図28、第198図42、第204図92、第305図234～245、第306図246～256、第307図257～263、第308図265、266）

遺構内から4点、遺構外から58点、総数62点が出土している。

おおむね両面からの調整が認められるが、腹面の調整が側縁に留まるもの（第305図235、240）、両面ともに調整が側縁に留まるもの（第307図259、第308）、荒めの調整でやや大型のもの（第308図265、266）などが見られる。

2. 側縁が弧状のもの。（第59図28、第201図74、第205図103、第308図267～270、第309図271～273）

遺構内から3点、遺構外から10点、総数13点が出土している。

比較的大型で荒めの調整のものと小型のものが見られる。また、調整が側縁に留まるもの（第308図270）も見られる。

3. 側縁が直線的なもの。（第197図39、第200図62、第201図68、第307図264、第309図274～280、第310図281～287）

遺構内から3点、遺構外から27点、総数30点が出土している。

4. 欠損品等で細分できないもの。

遺構外から3点、総数3点が出土している。

比較的大型で荒めの調整のものと小型のものが見られる。大型のものは腹面の調整が側縁に留まる。

・異形石器（第63図60、第66図82、第197図33、34、第201図69）

遺構内から5点、総数5点が出土している。石質は、形質頁岩が80.0%を占め、他は赤鉄鉱が1点である。

・不定形石器

遺構内から250点、遺構外から819点、総数1,069点が出土している。石質は、形質頁岩が99.2%を占め、他は玉髓3点、安山岩3点、石英安山岩2点である。

1. 刃部の調整が一側縁の1/2以上にわたるもの。A～Hに細分した。

A 側縁部のみに調整が施されるもの。(第56図4、6、第59図29、32、33、第61図47、第63図56、第66図83、第67図85、第193図3、第194図9、15、第195図19、第196図24、第197図35、第198図44、48、第311図288、290～292、第315図324)

遺構内から48点、遺構外から153点、総数201点が出土している。

B 端部のみに調整が施されるもの。(第60図34、第67図84、第195図16、第202図79、第312図293)

遺構内から14点、遺構外から59点、総数73点が出土している。

C 側縁部及び端部に調整が施されるもの。(第56図5、第59図30、第60図36、第67図86、第193図4、第194図8、第202図83、第203図85、第204図97、第311図289、第312図294～300、第313図301)

遺構内から14点、遺構外から100点、総数114点が出土している。

D 尖頭状の刃部を有するもの。(第61図42、43、第193図6、第203図84、第205図101、104、第313図302～309、第314図310～313)

遺構内から18点、遺構外から91点、総数109点が出土している。

E 円形、楕円形の器体周囲に調整が施されるもの。(第63図57、第193図7、第195図20、第200図57、第202図77、第203図86、第205図102、第314図314～319、第315図320～323)

遺構内から9点、遺構外から37点、総数46点が出土している。

F 定形石器の欠損品と思われるもの。

遺構内から11点、遺構外から18点、総数29点が出土している。

G 抉入部をもつもの。(第60図35、39、第62図48、52、第204図96)

遺構内から6点、遺構外から6点、総数12点が出土している。

H 側縁が鋸歯状のもの。

遺構内から1点、遺構外から3点、総数4点が出土している。

2. 刃部の調整が一側縁の1/2未満のもの。(第59図31)

遺構内から15点、遺構外から110点、総数125点が出土している。

3. 刃部は作出されていないが、微細剥離が認められるもの。(第315図325、327)

遺構内から68点、遺構外から175点、総数243点が出土している。

4. 欠損品等で細分できないもの。

遺構内から46点、遺構外から67点、総数113点が出土している。

・その他の剥片石器(第196図23、第200図59、第203図87、第315図327)

遺構内から21点、遺構外から49点、総数70点が出土している。石質は、形質頁岩が97.1%を占め、他は玉髓1点、石英安山岩1点である。

(2) 石斧(第図)

遺構内から22点、遺構外から96点、総数118点が出土している。石質は、輝緑凝灰岩が50.0%、閃緑岩が20.3%、安山岩が12.7%、変朽安山岩が7.6%を占め、他は頁岩4点、石英安山岩3点、粘板岩2点、凝灰岩1点である。

1. 磨製石斧

A 小型磨製石斧(第68図87、第212図136、第316図328～331)

遺構内から2点、遺構外から9点、総数11点が出土している。

おおむね5cm未満のものである。擦切痕の認められるものも含まれる。

B 擦切磨製石斧（第73図118、第85図202、第87図216、第212図137、138、140、141、第218図173、174、第219図177、第316図333、334、第318図344）

遺構内から10点、遺構外から8点、総数18点が出土している。

C A、B以外のもの（第83図186、第85図204、第215図158、第217図164、168、169、第218図172）

遺構内から10点、遺構外から79点、総数89点が出土している。

2. 打製石斧 出土していない。

（3）礫石器

・礫石錘

遺構内から3点、遺構外から69点、総数72点が出土している。石質は、安山岩が47.2%、凝灰岩が23.6%、石英安山岩が12.5%、凝灰角礫岩が9.7%を占め、他は珪質頁岩2点、頁岩2点、緑色凝灰岩1点である。

1. 器体の長軸に平行な側縁に抉りを作成するもの。（第209図124、第221図194、第319図348～352、第320図353～356）

遺構内から2点、遺構外から44点、総数46点が出土している。

長軸端部に敲打痕の認められるもの（第319図351）や断面が三角形を呈する柱状の礫に抉りを作成するもの（第320図354）も見られる。

2. 器体の短軸に平行な側縁に抉りを作成するもの。（第319図345～347）

遺構外から12点、総数12点が出土している。

3. 器体の長軸及び短軸に平行な側縁に抉りを作成するもの。（第320図357、358）

遺構内から1点、遺構外から13点、総数14点が出土している。器体周囲の3個所以上に抉りが作出されているものも含めた。3個所に抉りが作出されるもの（第320図356）、4個所に抉りが作出されるもの（第320図357、358）が見られる。

4. 欠損品等で細分できないもの。

出土していない。

・有溝石錘

遺構外から6点、総数6点が出土している。石質は、凝灰岩が83.3%を占め、他は安山岩1点である。

1. 円形・扁平な礫の器体長軸に全周する1条の溝を有するもの。（第321図359～361、362）

遺構外から4点、総数4点が出土している。

2. 円形・扁平な礫の器体短軸に全周する1条の溝を有するもの。（第321図362）

遺構外から1点、総数1点が出土している。器体短軸に数条が合わさり、結果として1条と判断した。

3. 2条以上の溝を有するもの。（第321図364）

遺構外から1点、総数1点が出土している。交差する各1条の溝が認められる。

・ 敲磨器類

遺構内から271点、遺構外から1,080点、総数1,351点が出土している。石質は、安山岩が46.7%、凝灰岩が16.6%、変朽安山岩が14.0%、石英安山岩が8.9%、凝灰角礫岩が5.7%、頁岩が3.4%、緑色凝灰岩が1.4%、珪質頁岩が1.1%、閃緑岩が0.7%を占め、他は玉髓4点、輝緑凝灰岩2点、流紋岩2点、溶結凝灰岩2点、玢岩2点、砂岩1点、礫岩1点である。

1. 磨痕のみを有するもの。

遺構内から69点、遺構外から128点、総数197点が出土している。

A 円形、楕円形を呈する礫の側縁に磨痕を有するもの。(第68図88、第72図112、113、第73図119、120、123、第81図175、177、第84図195、第87図217、第211図132、第221図193、第215図154、第217図167、第222図199、第231図9、第238図4、第241図19、第322図365～370、第323図371、372)

遺構内から39点、遺構外から76点、総数115点が出土している。おおむね、器体長軸に平行な側縁に磨痕が認められるが、一部器体長軸端部など側縁端部に磨痕が認められるもの(第68図88、第72図112、第221図193、第238図4、第241図19)も見られる。

B 断面が三角形を呈する礫の側縁に磨痕を有するもの。(第73図121、122、第81図176、第83図188、第210図129、第214図151、第323図373、374、第324図375)

遺構内から7点、遺構外から12点、総数19点が出土している。

C 円形、楕円形を呈する礫の全面に磨痕を有するもの。(第84図197、第221図191、第324図376)

遺構内から4点、遺構外から3点、総数7点が出土している。

D 円形、楕円形を呈する礫の平坦面中央に磨痕を有するもの。(第68図89、第86図209、第87図218、第238図1、第324図377～379)

遺構内から10点、遺構外から22点、総数32点が出土している。

礫側面の中央部を含む広範囲に磨痕の認められるものと、中央部を中心に数個所に分散する磨痕の認められるものがある。

E 磨痕の部位が複合するもの。(第73図124、第207図114、第209図126、第324図380)

遺構内から8点、遺構外から15点、総数23点が出土している。

側縁および側面に磨痕が認められる。

F 上記以外の形態の自然礫を用いているもの。

出土していない。

G 他の石器を転用しているもの。(第222図195)

遺構内から1点、総数1点が出土している。

磨製石斧の欠損部に磨痕が認められる。

2. 敲打痕のみを有するもの。

遺構内から75点、遺構外から294点、総数369点が出土している。

A 円形、楕円形を呈する扁平な礫の平坦面に敲打痕を有するもの。(第69図93、第73図125、第75図144、第209図127、第212図143、第238図2、第239図9、10、13、第324図381、382)

遺構内から19点、遺構外から122点、総数141点が出土している。面中央部に敲打痕の認められるものと、中央部からややはずれた位置に敲打痕の認められるものがある。

B 円形、楕円形を呈する扁平な礫の端部に敲打痕を有するもの。(第68図90、91、第73図126、第74図129、130、第85図208、第210図130、第219図180、第238図3、第240図17、第324図383、第325図384)

遺構内から29点、遺構外から82点、総数111点が出土している。

C 球状を呈する礫の広範囲に敲打痕を有するもの。(第221図189、第325図385～392)

遺構内から3点、遺構外から11点、総数14点が出土している。

D 断面が三角形を呈する礫の側縁に敲打痕を有するもの。(第74図128、第84図196)

遺構内から2点、遺構外から2点、総数4点が出土している。

E 敲打痕の部位が複合するもの。(第68図92、第74図131～134、第75図135、第83図187、第87図219、第208図118、119、121、第213図148、第241図20、21、第326図393～396)

遺構内から22点、遺構外から67点、総数89点が出土している。

側縁と側面、側面と端部、側縁と端部への敲打痕が認められる。

F 上記以外の形態の自然礫を用いているもの。(第326図397～399)

遺構外から6点、総数6点が出土している。

不整形な形状の礫に敲打痕が認められるものである。

G 他の石器を転用しているもの。(第327図400～403)

遺構外から4点、総数4点が出土している。

磨製石斧や石皿の欠損品を用いている。

3. 凹痕のみを有するもの(第69図95、98、第75図136、第87図220、第209図125、第212図144、第213図145、第216図162、第218図171、第219図181、第238図5、第327図404、405、第328図406～408)

遺構内から15点、遺構外から119点、総数134点が出土している。

側面に1箇所のみ凹痕の認められるものが多数であるが、3箇所以上(第69図95、第218図171、第328図408)、複数面に敲打痕の認められるもの(第327図404、405、第328図406、407)が見られる。

4. 磨痕、敲打痕、凹痕を複合し有するもの。

遺構内から106点、遺構外から530点、総数636点が出土している。

器体に認められる使用痕は、おのおのが単独で見られるものと同様の部位に認められる。

A 磨痕と敲打痕の見られるもの(第69図94、96、97、99、100、第70図101、第72図114、第74図127、第75図137～143、第76図145～147、第81図180、第83図189～191、第85図203、第86図211、213、第87図221～224、第207図111、113、第218図176、第239図12)

遺構内から51点、遺構外から139点、総数190点が出土している。

B 敲打痕と凹痕の見られるもの(第70図102、103、第76図148～151、第77図155、第81図178、181、第85図205、206、第86図210、212、第88図225～228、第211図133、第212図142、第213図146、147、149、第215図153、157、第216図160、第217図165、第218図175、第219図178、第221図188、190、第222図198、第231図8、第239図11、第333図427～429)

遺構内から37点、遺構外から280点、総数317点が出土している。

C 磨痕と凹痕の見られるもの(第77図152、第82図183、第220図184、334図431)

遺構内から3点、遺構外から24点、総数27点が出土している。

D 磨痕、敲打痕、凹痕がそれぞれ見られるもの(第70図104、第77図153、第81図179、第84図198、第85図207、第86図214、第88図229、第89図234、第207図112、第209図123、第211図134、第215図155、第217図163、第218図170、330図430)

遺構内から15点、遺構外から87点、総数102点が出土している。

5. 1～4に含まれないもの(第77図154、第82図182、第83図192、第84図199、第88図230、第222図196、第334図432、433)

遺構内から6点、遺構外から9点、総数15点が出土している。

搬入されたと思われる柱状を呈する石英安山岩に敲打痕や磨痕の認められるものを一括した。

・半円状扁平打製石器及び類似する石器(第70図106、第71図107、第72図115、117、第77図156、158、第78図159、160、第86図215、第220図185、186、第335図434～437、第336図438～441、第337図442～445、第338図446～448)

遺構内から11点、遺構外から55点、総数66点が出土している。石質は、安山岩が68.1%、変朽安山岩が13.6%、凝灰岩が7.5%、石英安山岩が4.5%を占め、他は凝灰角礫岩1点、閃緑岩1点、珪質頁岩1点、玢岩1点である。弧状の縁辺部を剥離により作出し、対辺に磨痕を有するものが大半であるが、弧状の縁辺に敲打痕が見られるもの(第72図117)、弧状の縁辺および対辺に敲打痕の認められるもの(第78図160)、磨痕の幅が広いもの(第70図106、第336図438、第337図442)、素材の形態が弧状を呈しており、弧状の縁辺部に調整が認められないもの(第338図446、467)なども見られる。

・ 挟入扁平磨製石器（第70図105、第78図162、第82図184、第83図193、194、第84図201、第89図231～233、第216図159、第219図182、第222図197、第338図449、450、第339図451～455、第340図456～459）
遺構内から12点、遺構外から24点、総数36点が出土している。石質は、安山岩が88.8%を占め、他は石英安山岩3点、輝緑凝灰岩1点である。

長軸辺に使用痕と思われる磨痕が見られる。長軸辺の一方に磨痕の認められるものと両方の長軸辺に磨痕の認められるものがあるほか、形状が同様に磨痕が認められないもの（第339図454、第340図459）も見られる。

・ 剥離のある礫（第72図116、第77図157、第78図161、第212図139、第215図156、第219図179、第238図6、第340図460～462、第341図463～467、第342図468～471、第343図472、473）

遺構内から15点、遺構外から122点、総数137点が出土している。石質は、安山岩が51.0%、凝灰岩が19.7%、頁岩が10.9%、変朽安山岩が9.4%、石英安山岩が5.1%を占め、他は凝灰角礫岩2点、閃緑岩1点、緑色凝灰岩1点、珪質頁岩1点である。

扁平な自然礫の側縁などに剥離の痕跡が認められるものである。大半は一側縁に連続する剥離が認められるが、一部を挟んでいるもの（第340図460～462）、両側縁に剥離が認められるもの第342図468、469、第343図473）なども見られる。

・ 擦切具（第343図474）

遺構外から1点、総数1点が出土している。石質は、安山岩である。

・ 砥石（第71図108～109、第78図163、164、第79図165、166、第217図166、第221図192、第343図475、476、第344図477～480、第344図）

遺構内から9点、遺構外から16点、総数25点が出土している。石質は、凝灰岩が48.0%、溶結凝灰岩が24.0%、石英安山岩が24.0%を占め、他は安山岩1点である。

おおむね扁平な礫面に断面がU字状や一部はV字状の溝が見られる。扁平な器体の表裏面に研磨が認められるもの（第79図165）もある。

・ 石皿・台石

遺構内から32点、遺構外から61点、総数93点が出土している。石質は、安山岩が60.2%、凝灰岩が26.8%、溶結凝灰岩が8.6%を占め、他は閃緑岩1点、緑色凝灰岩1点、凝灰角礫岩1点、石英安山岩1点である。

1. 石皿（第79図167～169、第80図170～174、第82図185、第84図200、第207図115～117、第208図122、第210図128、131、第214図150、152、第220図183、187、第238図7、第239図8、第240図14～16、第241図18、第242図22、24、第345図483、484、第346図485～488、第347図489～493、第348図494～498、第349図499、500、502、第350図503～506、第351図507～512、第352図513～516、第353図517～521、第354図522、523、第355図524、525、527、529、第356図530、532、535）

遺構内から28点、遺構外から55点、総数83点が出土している。

縁が形作られ、使用面が平坦なもの（第208図122、第210図131、第220図187、第347図489、491、第

350図504、第351図507、第356図530) 縁がなく使用面が窪んでいるもの(第79図166、167、168、第80図170~177、第207図116、117、第214図150、152、第238図7、第240図15、16、第241図18、第242図24、第345図483、484、第347図490、493、第348図494、496、第349図499、502、第350図505、506、第351図510、第352図513、516、第353図517、520、第345図523、第355図524、529、535) 縁がなく使用面が平坦なもの(第79図169、第80図172、174、第82図185、第84図200、第207図115、第220図183、第238図1、第240図14、第347図492、第348図495、497、498、第349図500、501、第350図503、第351図508、509、511、512、第352図514、515、第353図518、519、521、第355図525、527、第356図532)が見られる。また、磨痕に加えて敲打痕の認められるもの(第239図8、第354図522、第356図)も見られる。

2. 台石(第71図111、第211図135、第216図161、第242図23、第349図501、第355図526、528、第356図531、533、534)

遺構内から4点、遺構外から6点、総数10点が出土している。

扁平な礫の側面に敲打痕や連続する敲打痕の結果と思われる凹痕の見られるもの(第71図111、第211図135、第216図161、第355図526、第356図531、533、534) 扁平な礫の側面および端部に敲打痕の見られるもの(第242図23、第355図528)が見られる。

(4) 水晶

遺構内から1点、遺構外から27点、総数28点が出土している。

1. 加工しているもの。 出土していない。

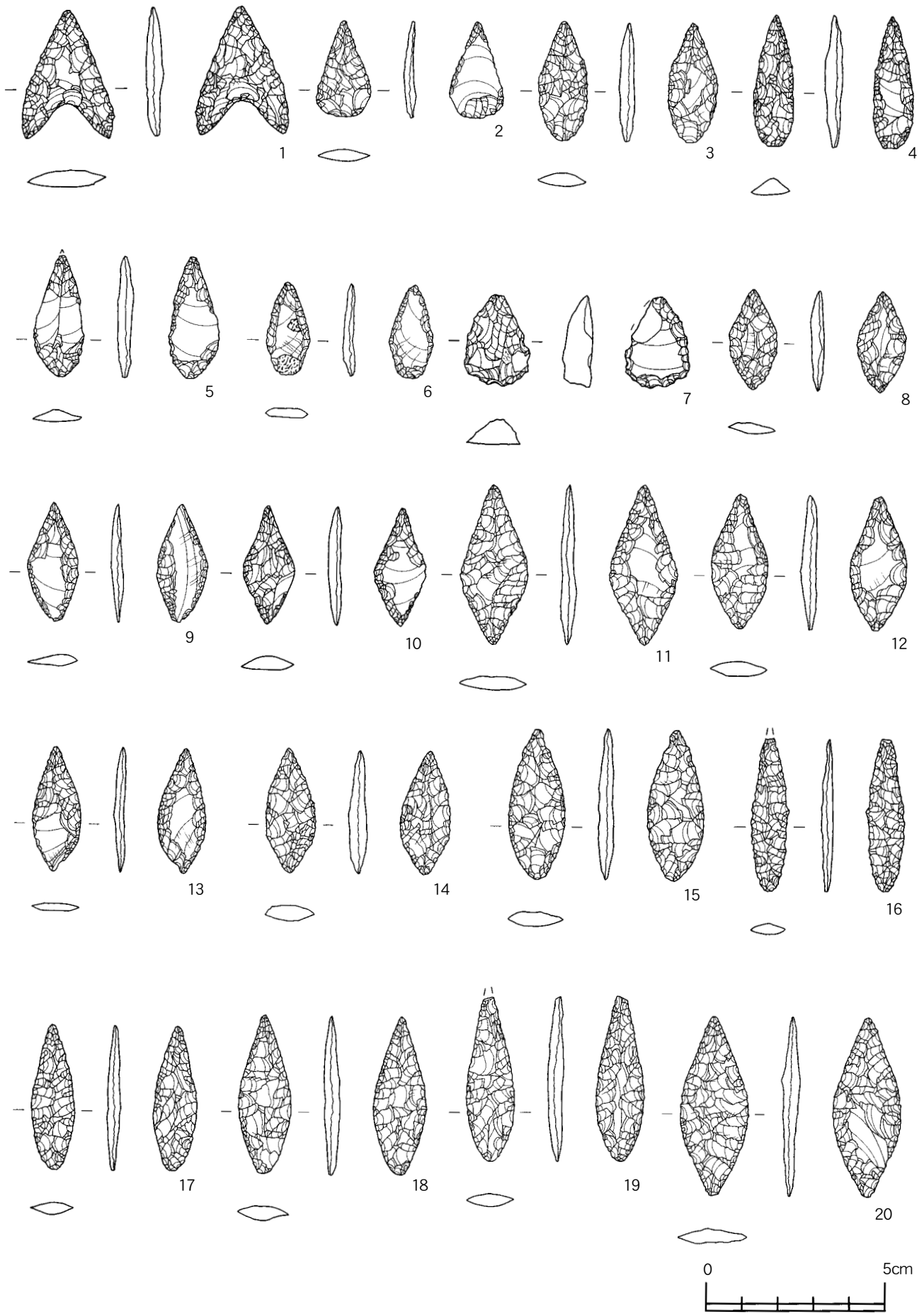
2. 加工していないもの。

A 群晶(第357図541~546)

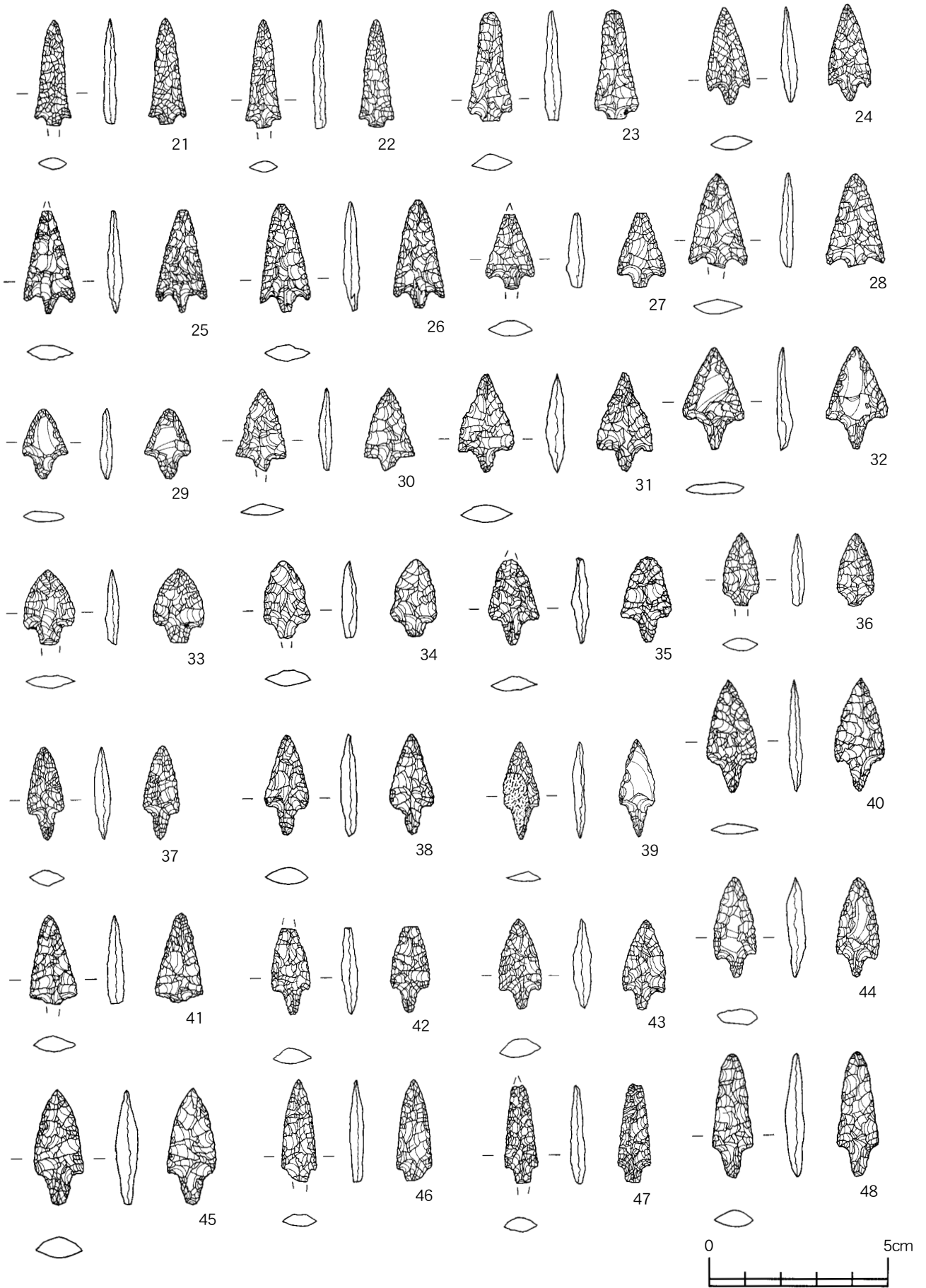
遺構外から21点、総数21点が出土している。

B 単体(第89図235、第357図536~540)

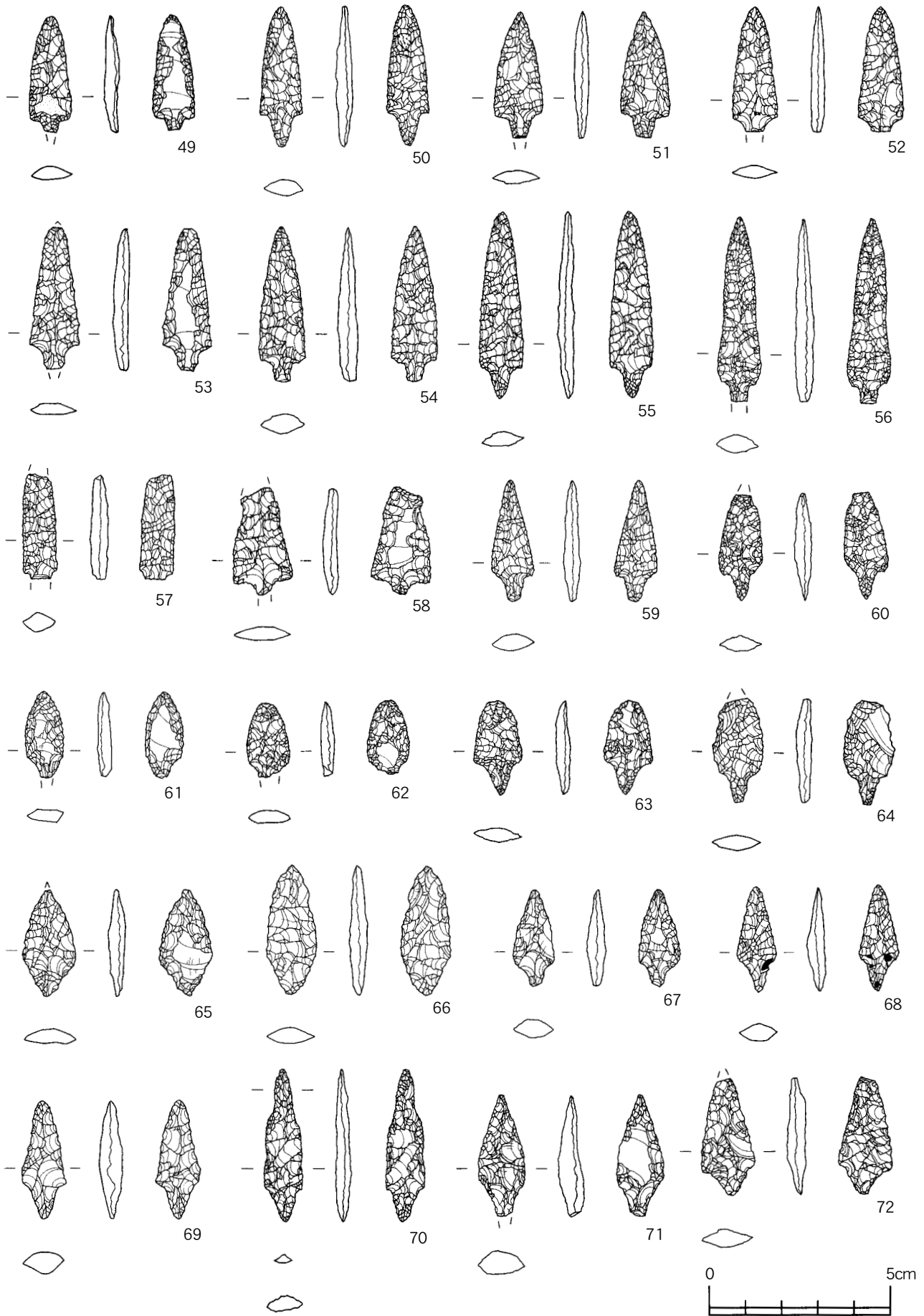
遺構内から1点、遺構外から6点、総数7点が出土している。



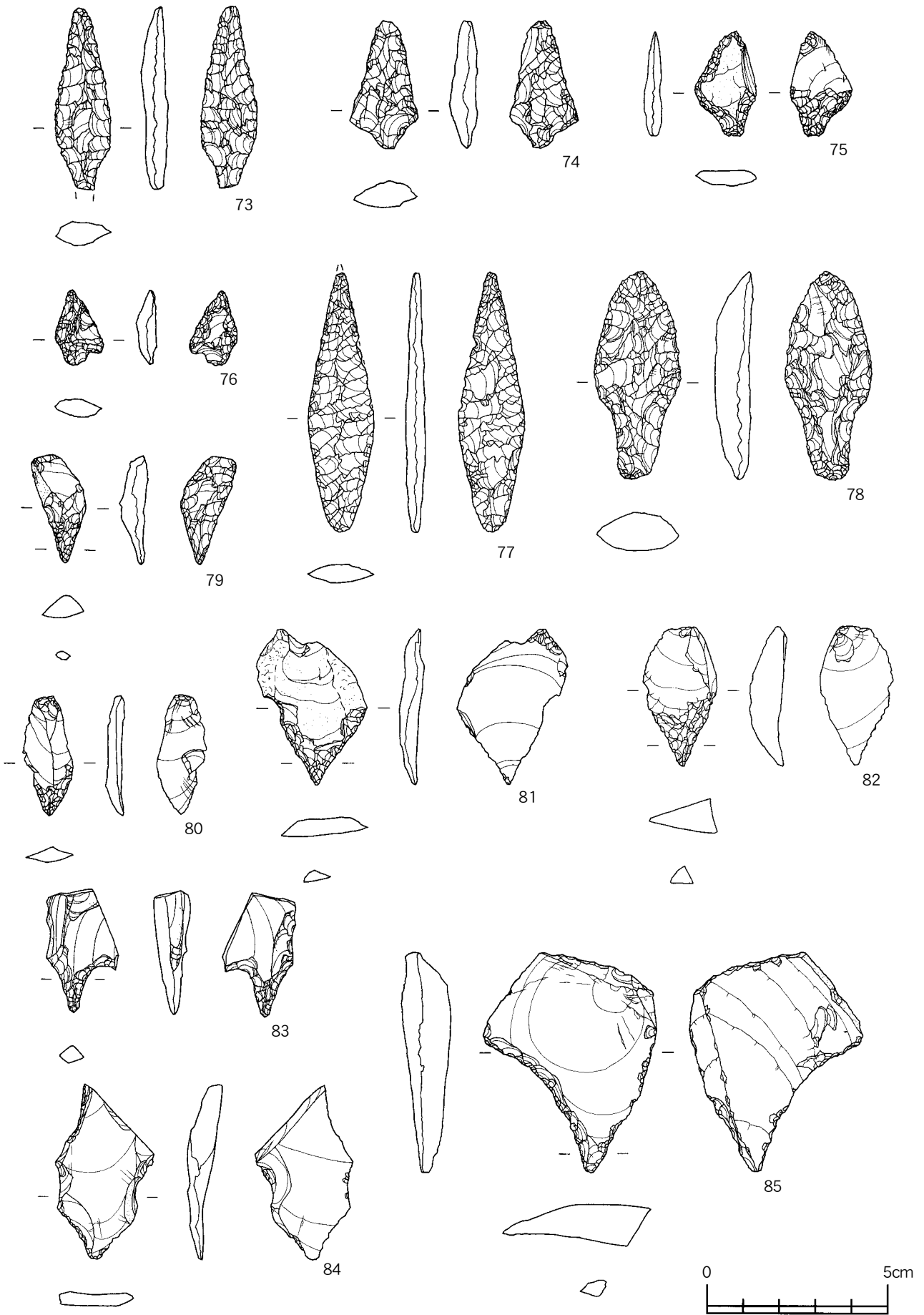
第285図 遺構外出土石器 (1)



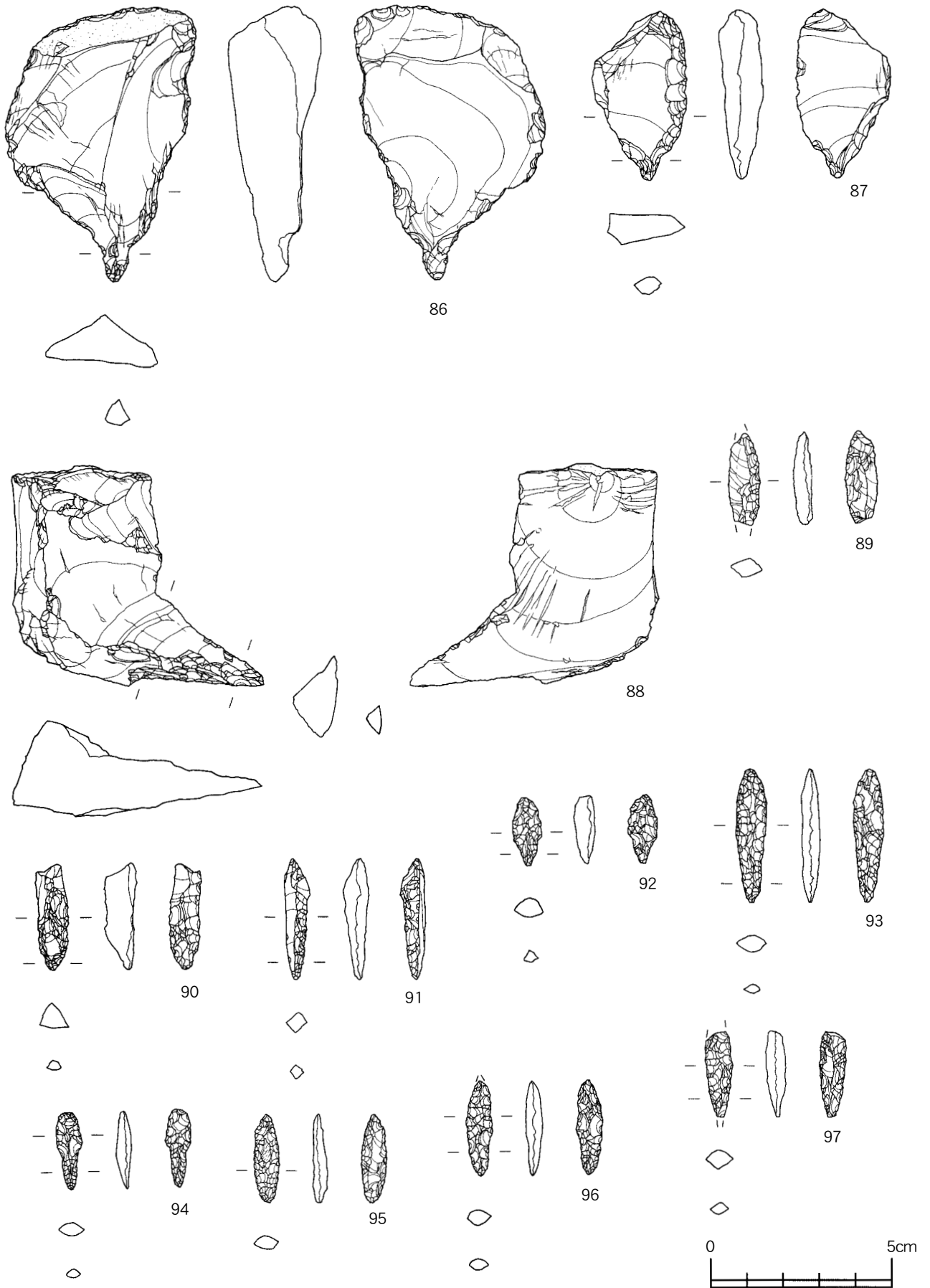
第286図 遺構外出土石器 (2)



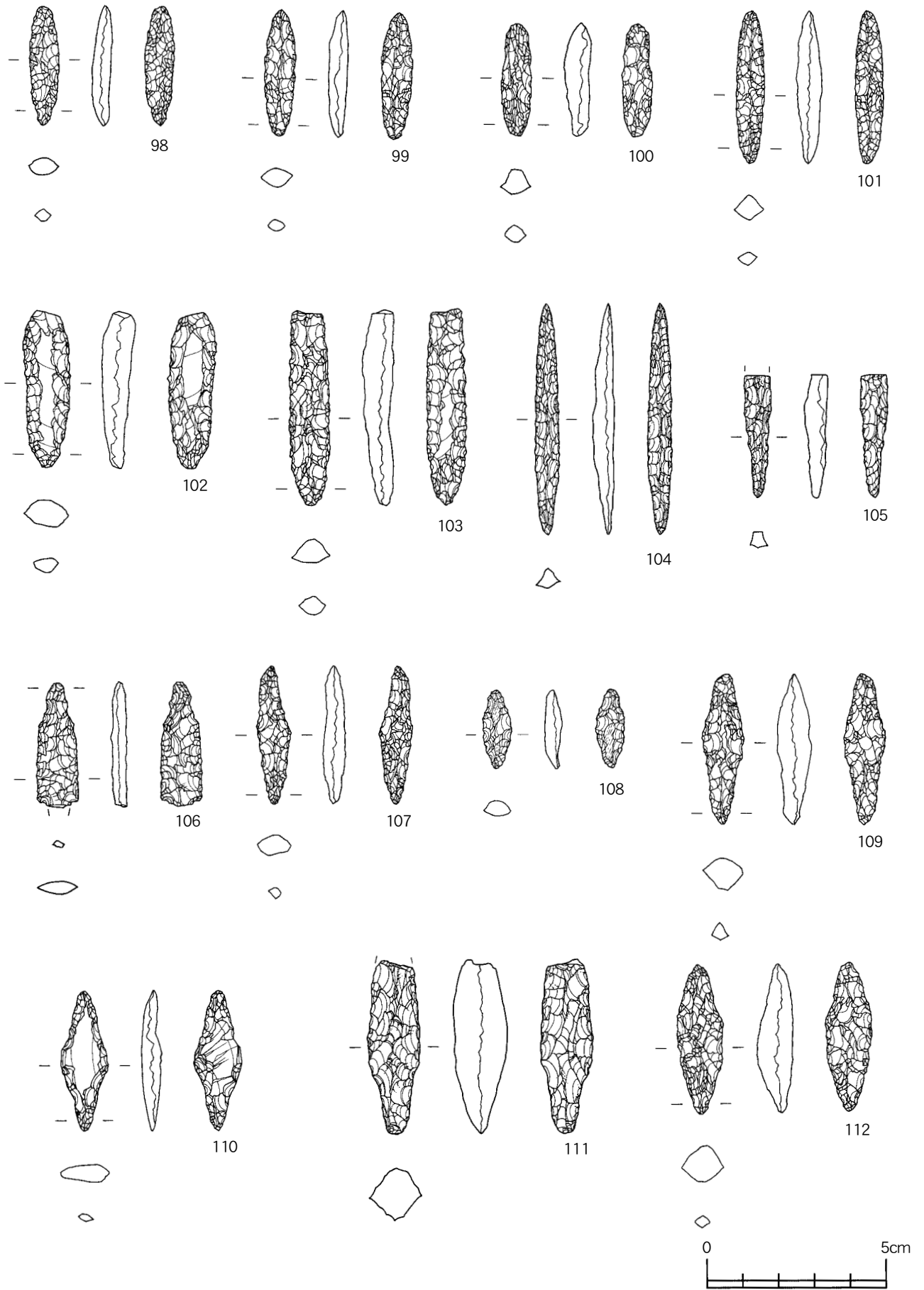
第287図 遺構外出土石器 (3)



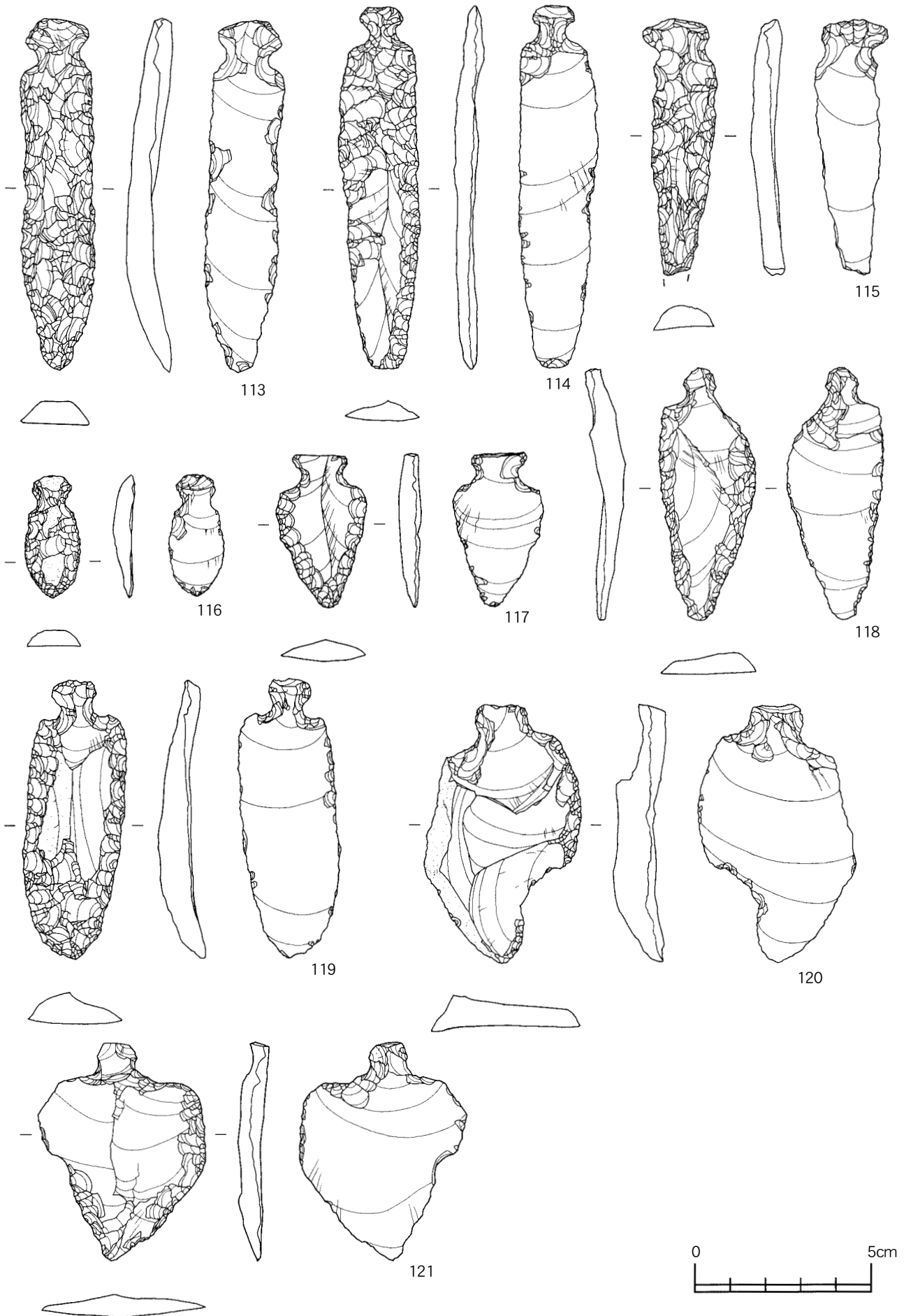
第288図 遺構外出土石器 (4)



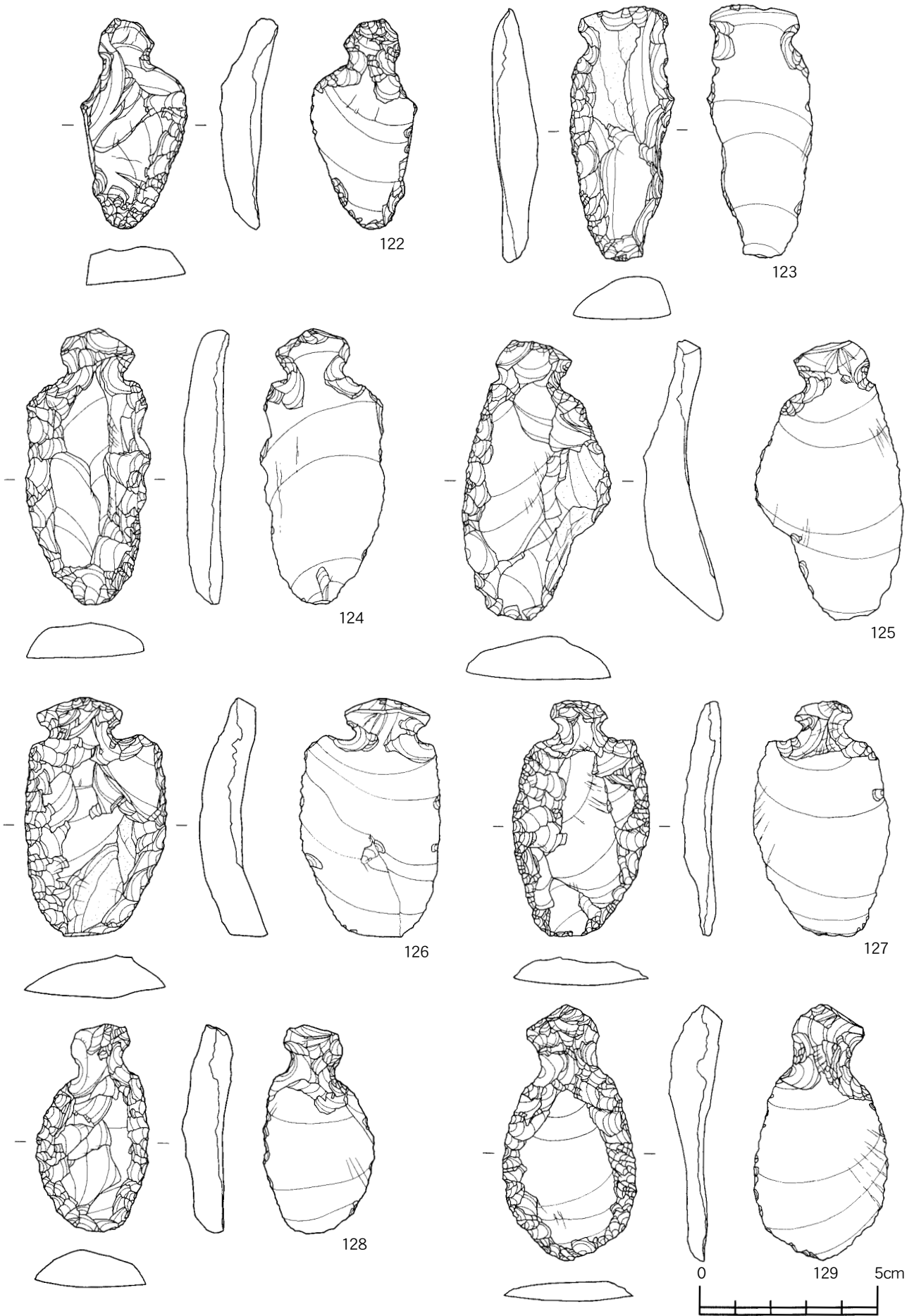
第289図 遺構外出土石器 (5)



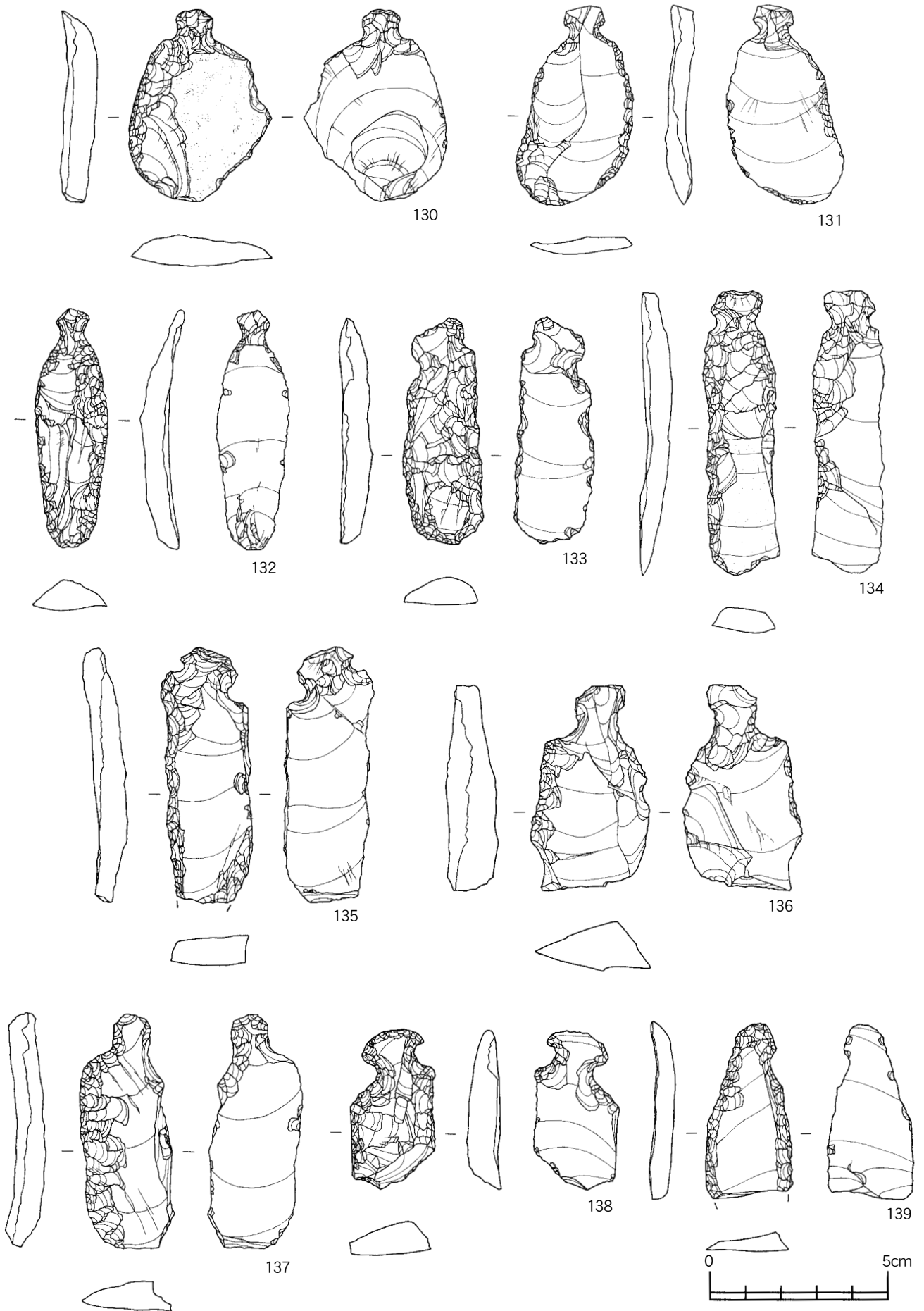
第290図 遺構外出土石器 (6)



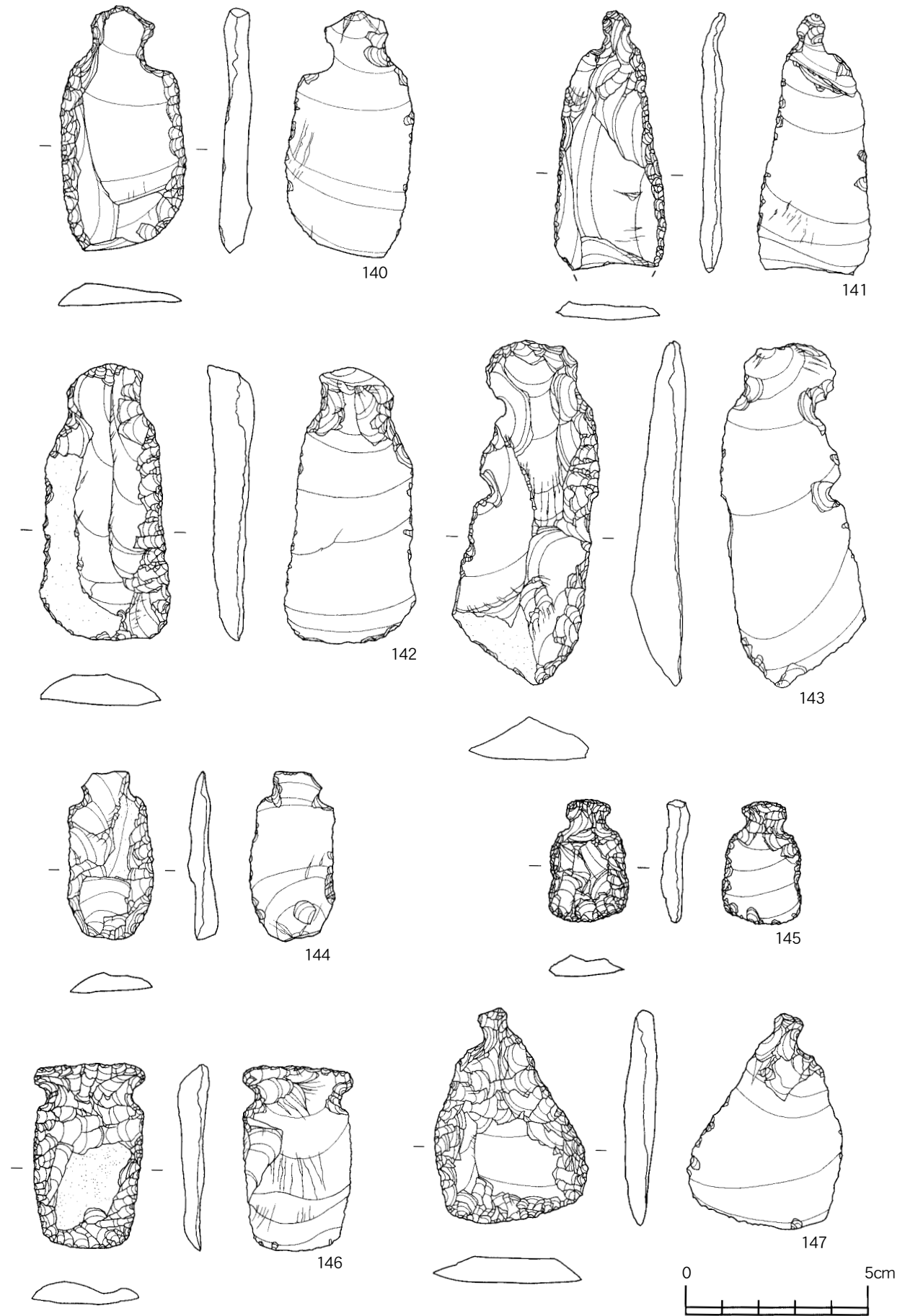
第291図 遺構外出土石器 (7)



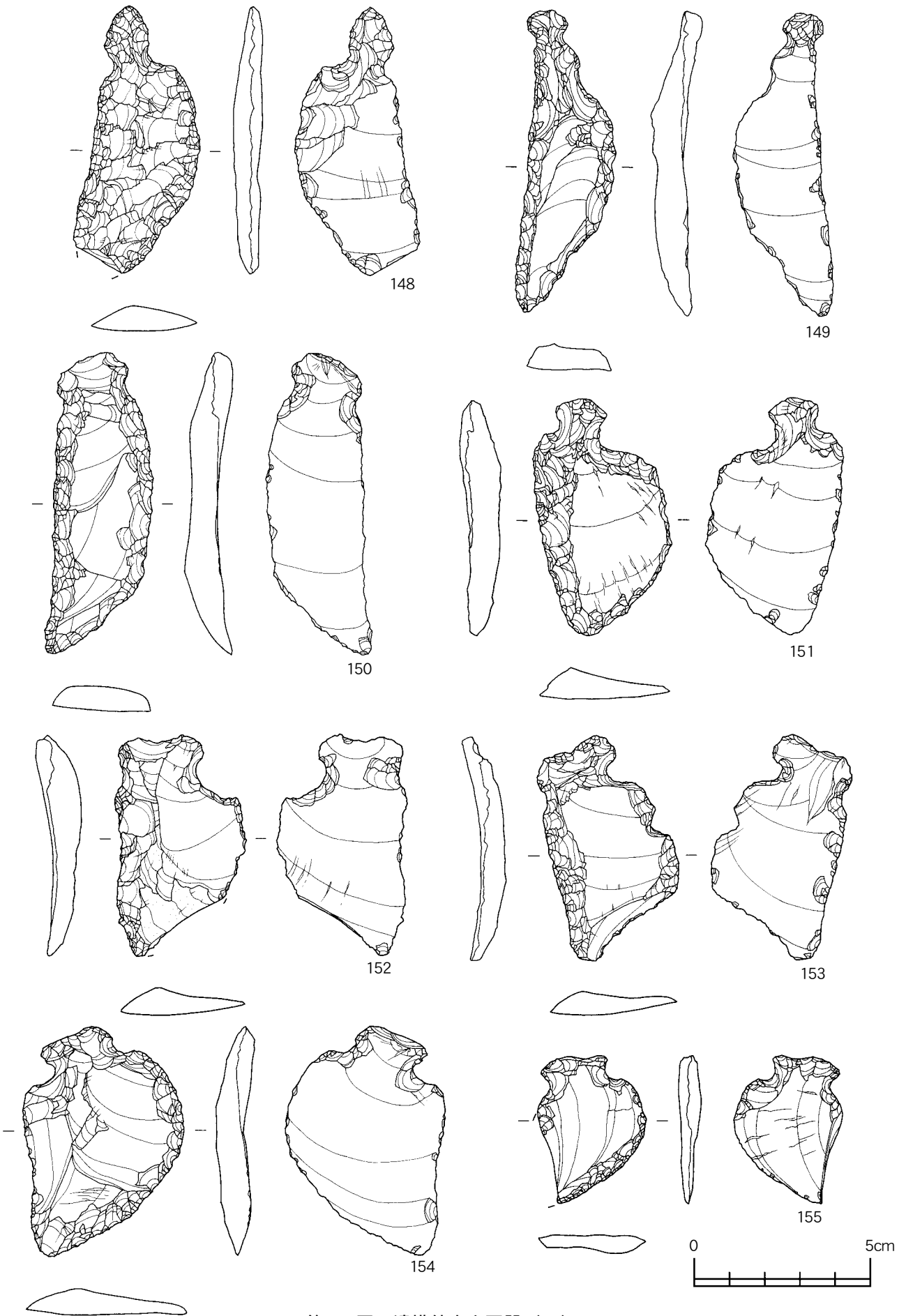
第292図 遺構外出土石器 (8)



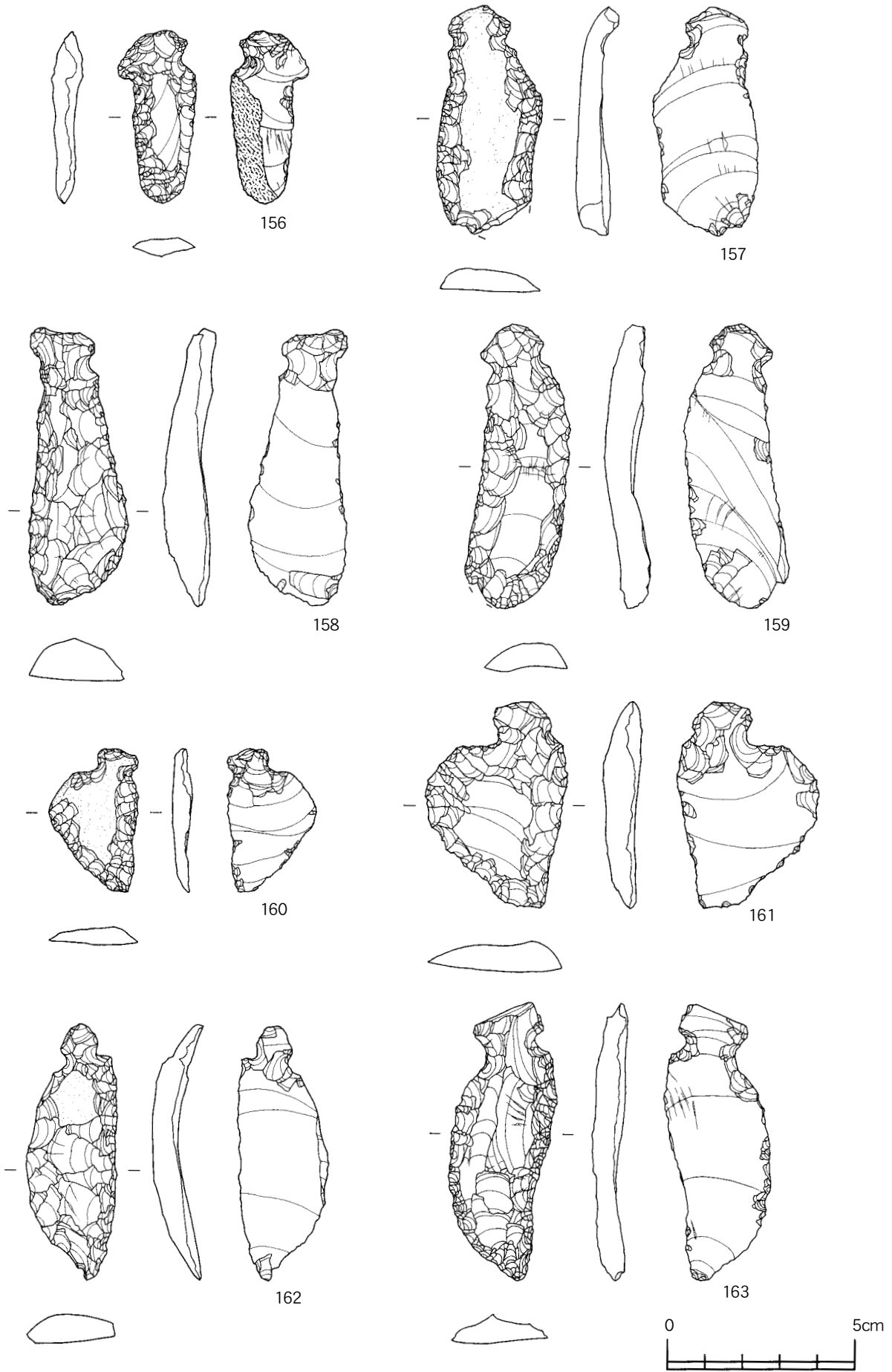
第293図 遺構外出土石器 (9)



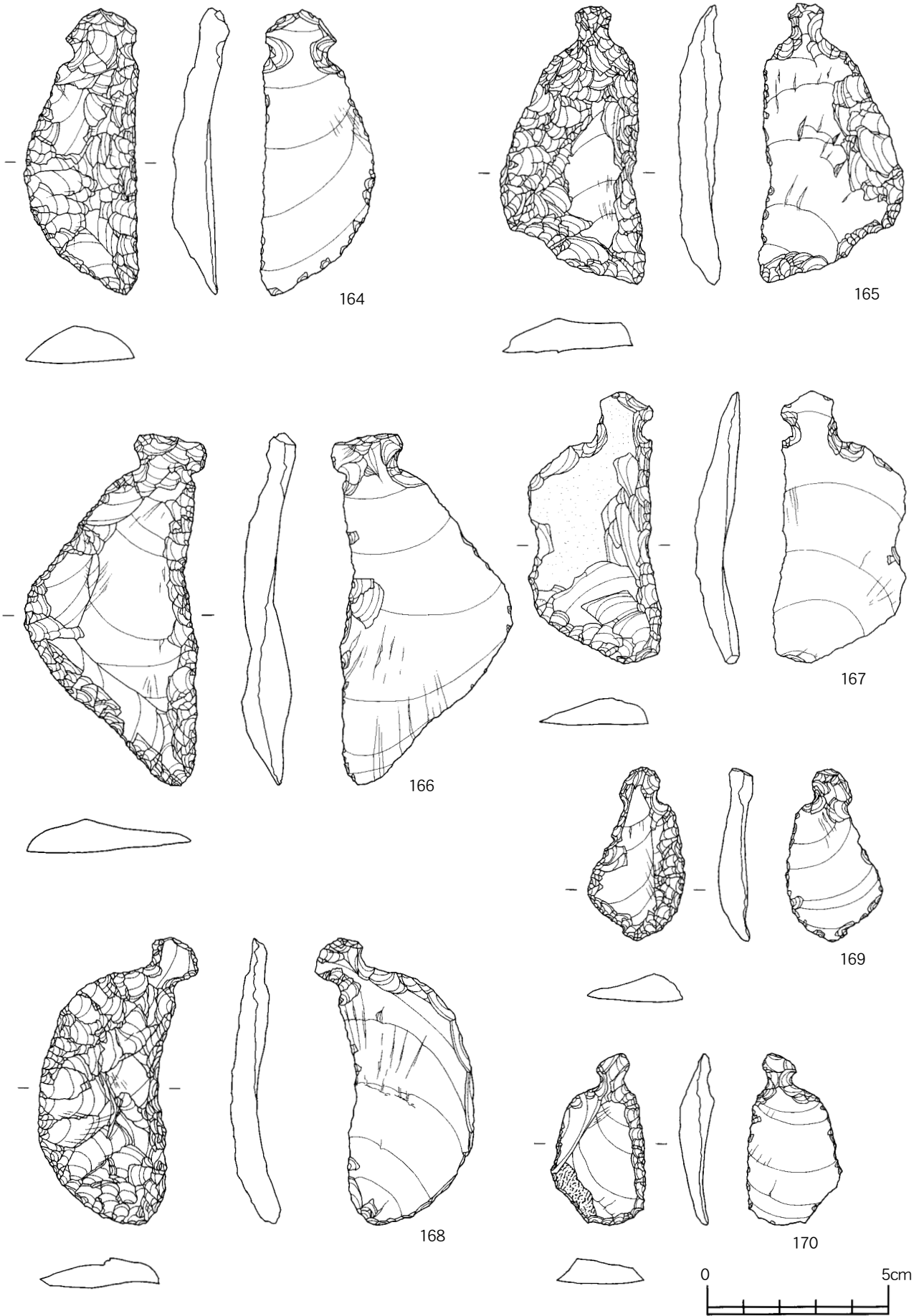
第294図 遺構外出土石器 (10)



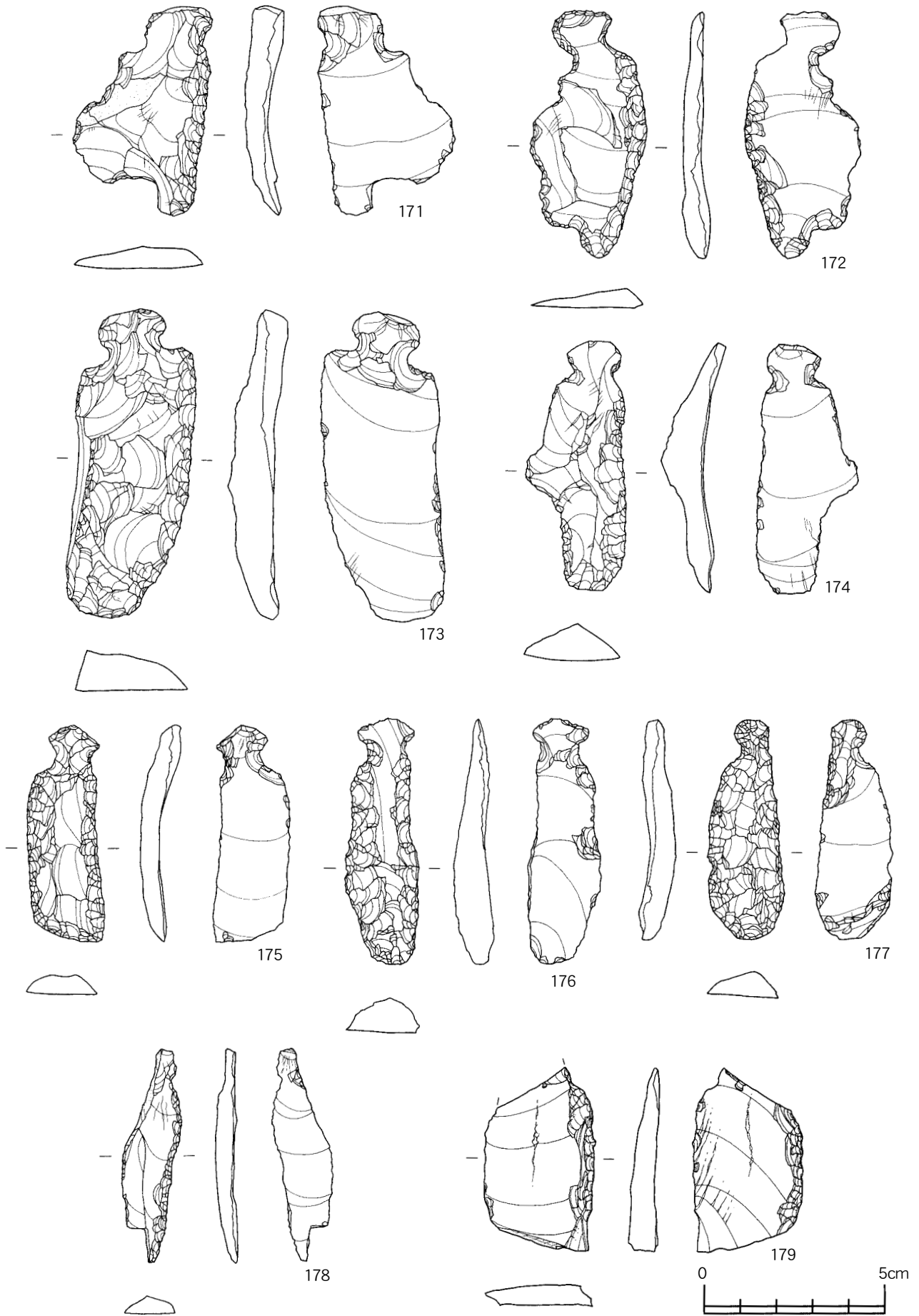
第295図 遺構外出土石器 (11)



第296図 遺構外出土石器 (12)



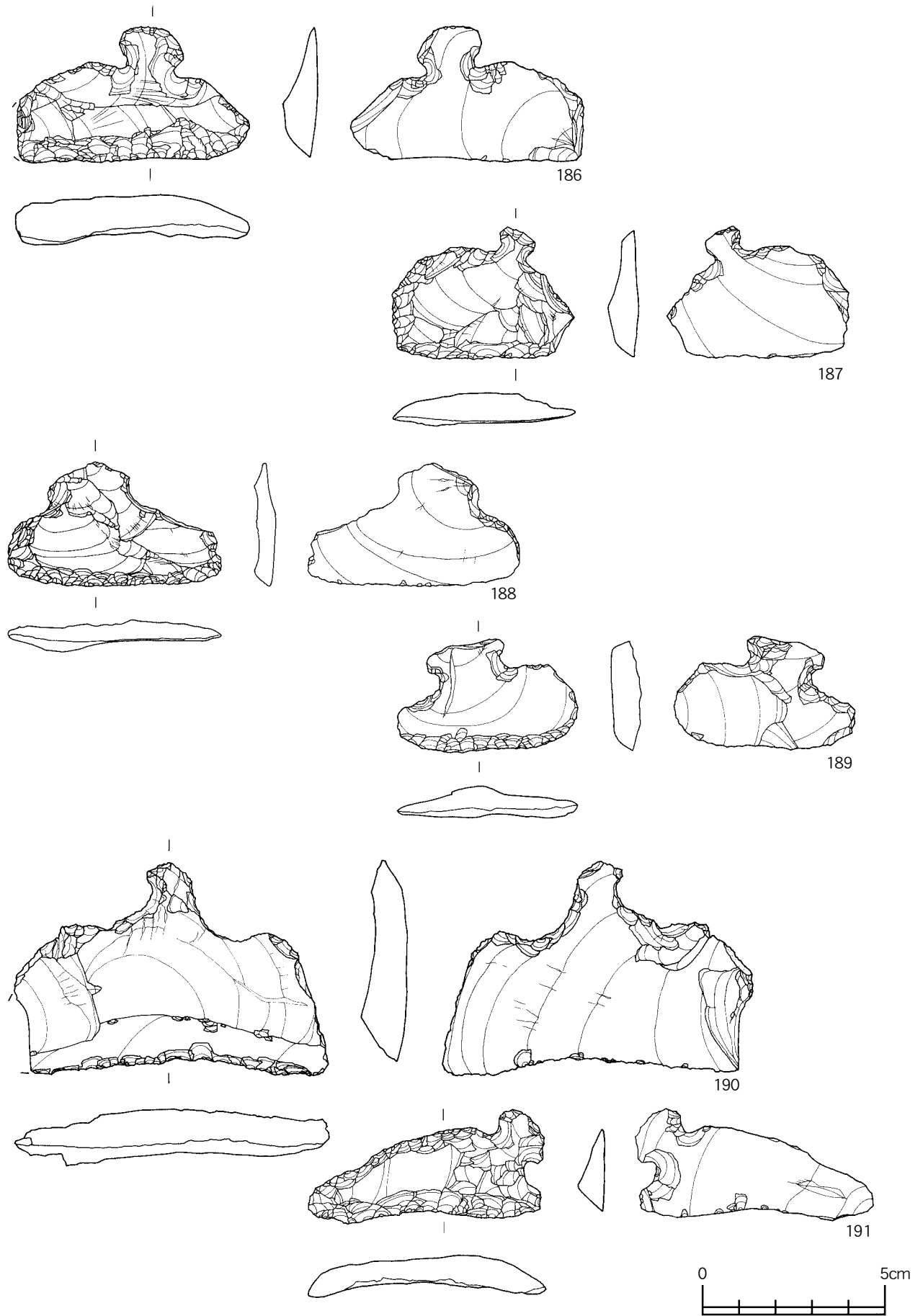
第297図 遺構外出土石器 (13)



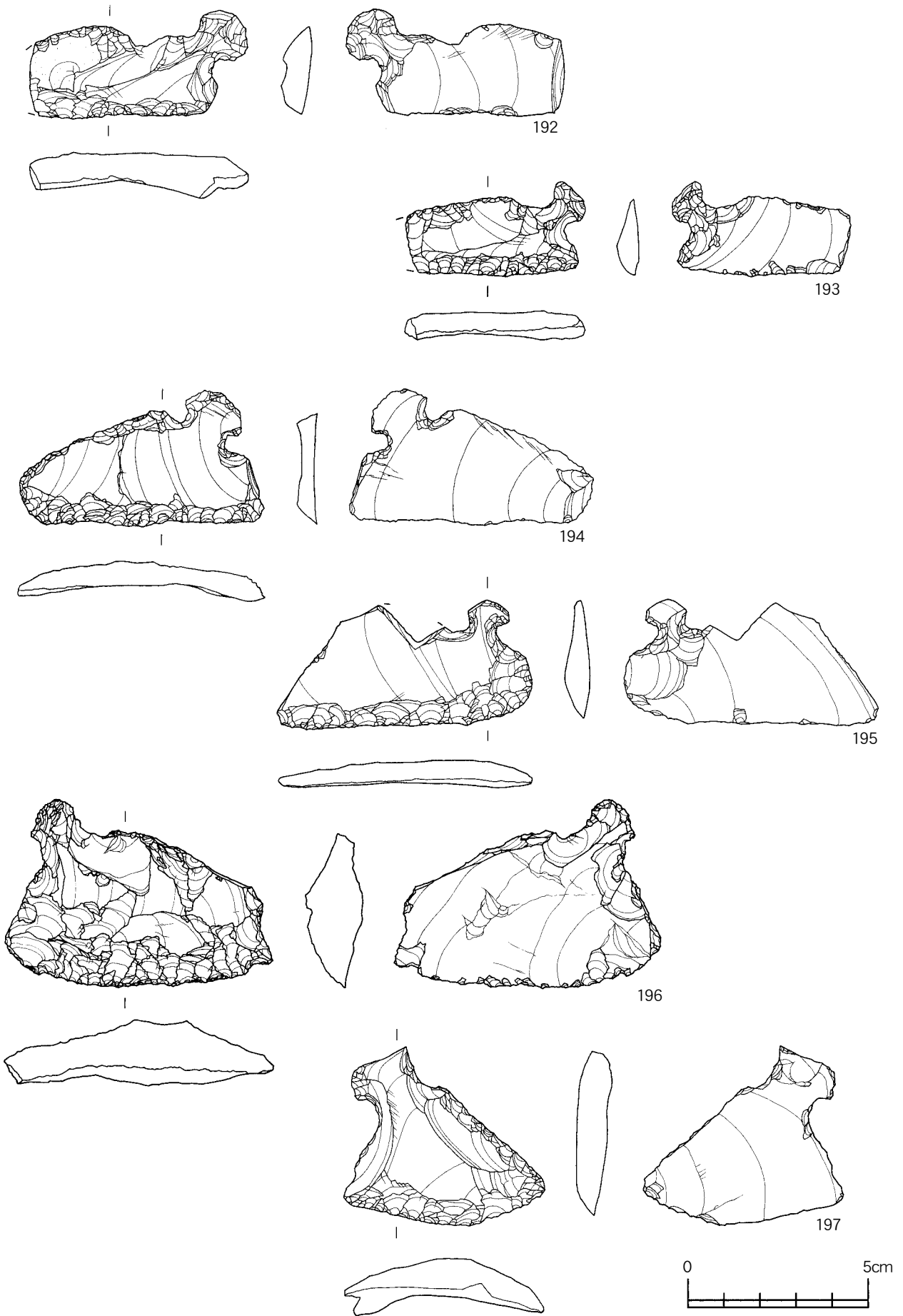
第298図 遺構外出土石器 (14)



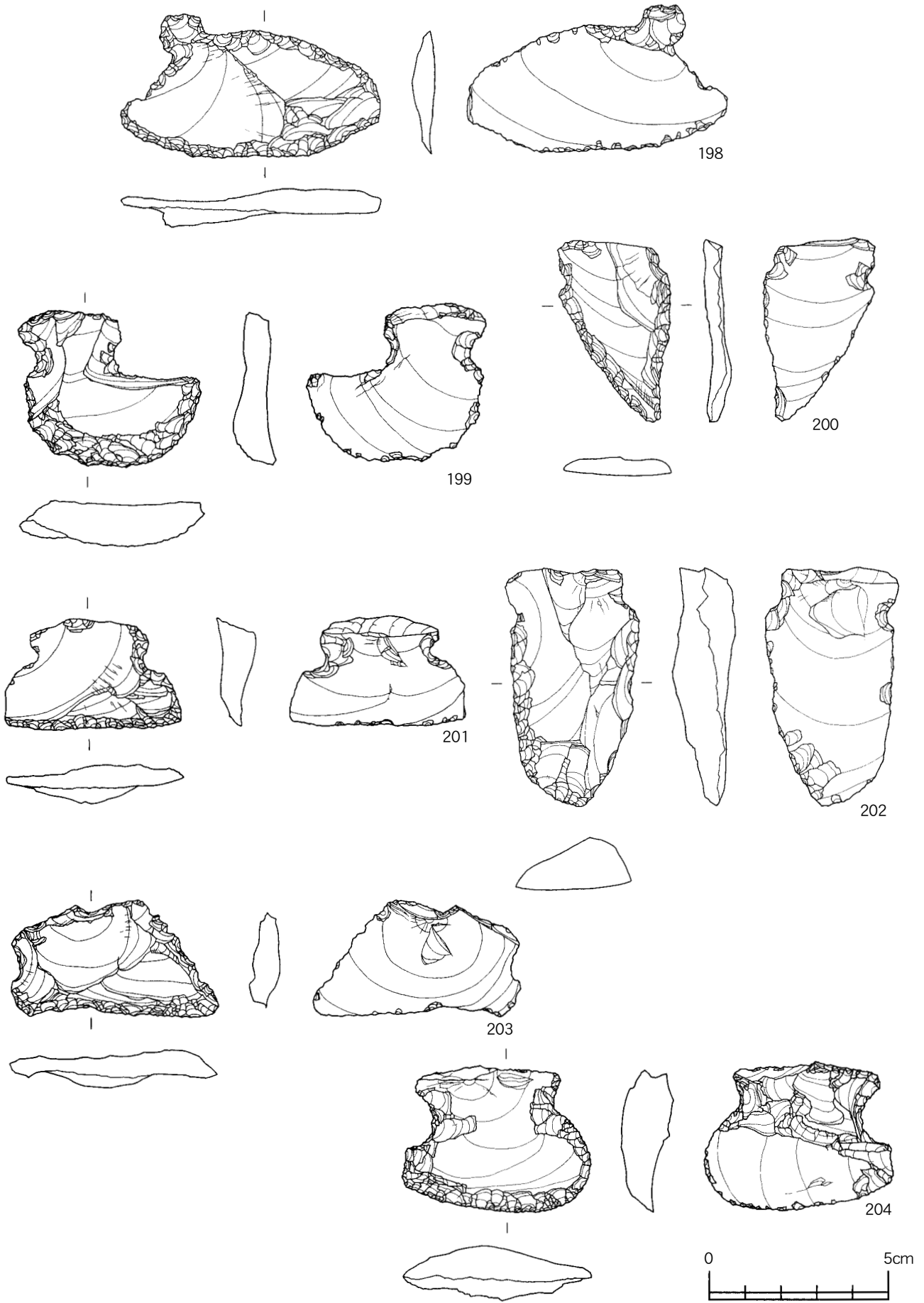
第299図 遺構外出土石器 (15)



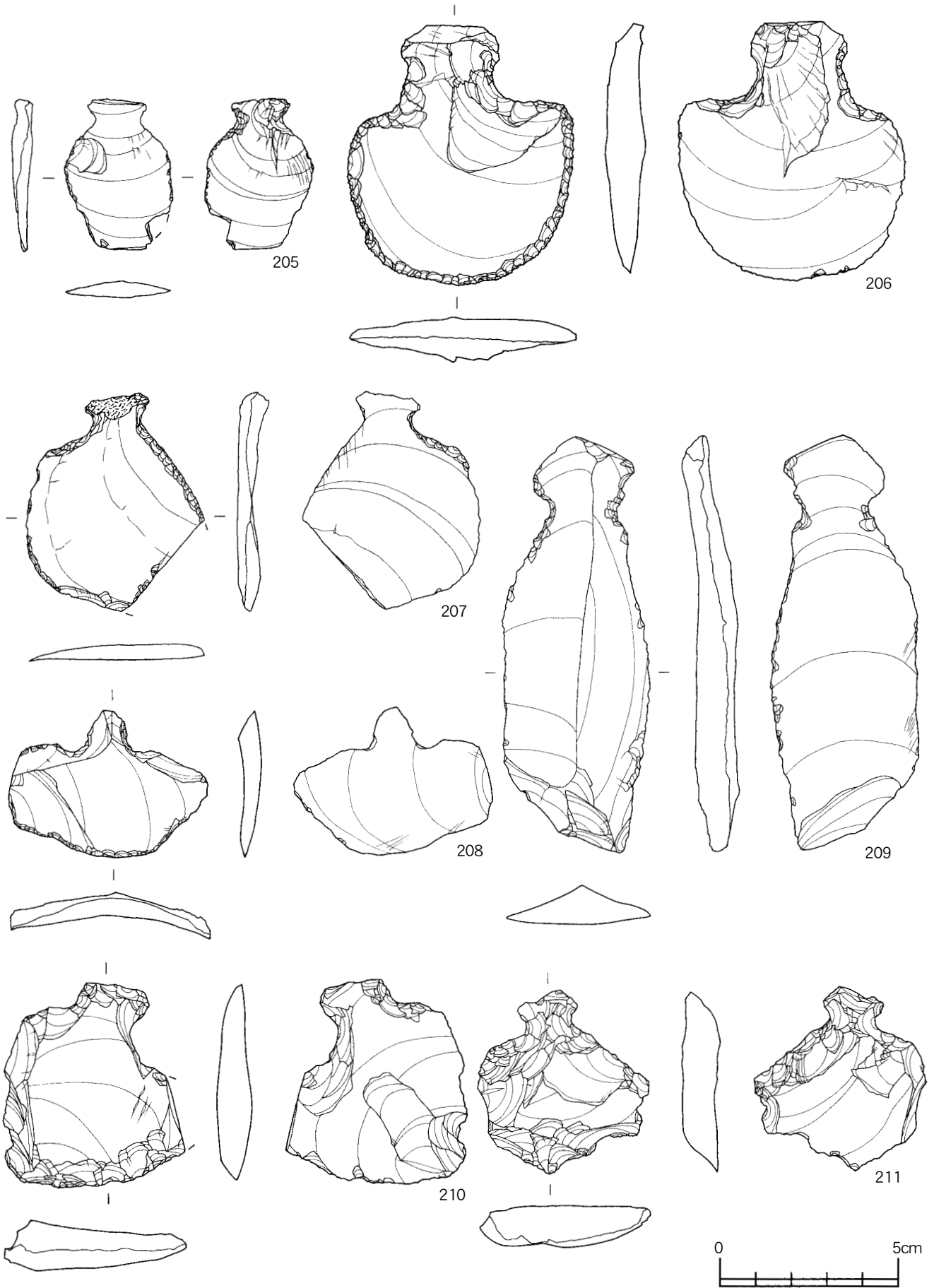
第300図 遺構外出土石器 (16)



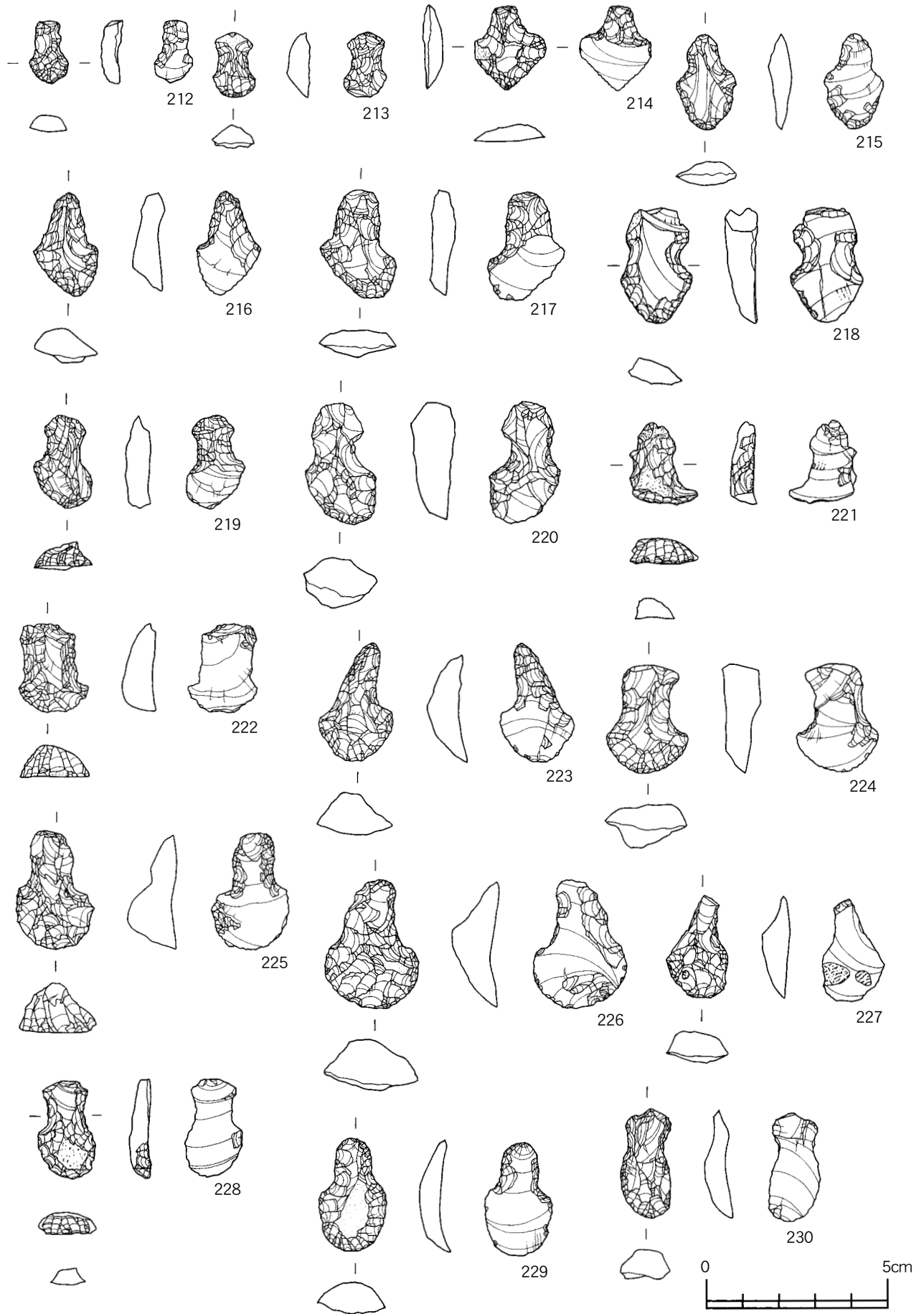
第301図 遺構外出土石器 (17)



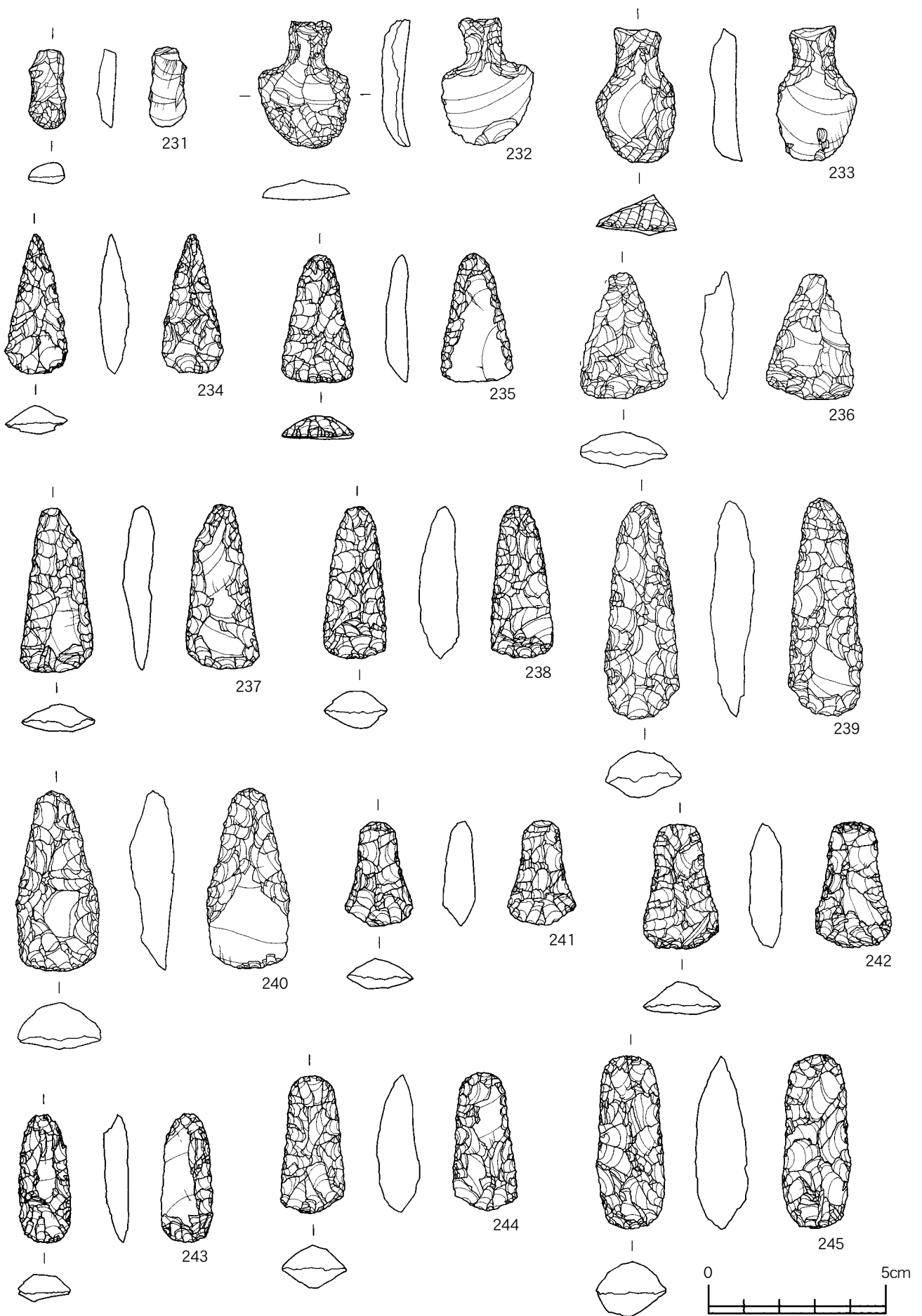
第302図 遺構外出土石器 (18)



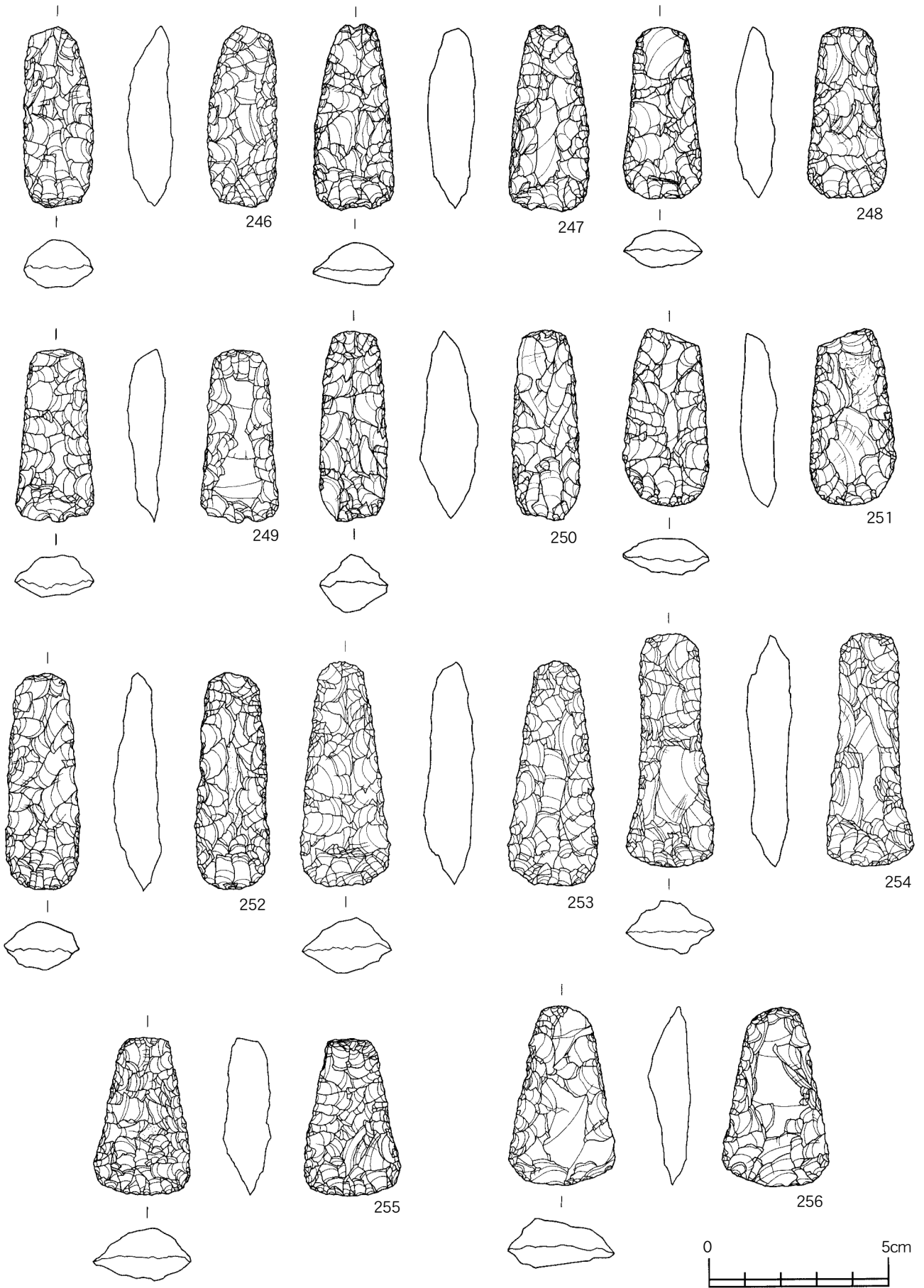
第303図 遺構外出土石器 (19)



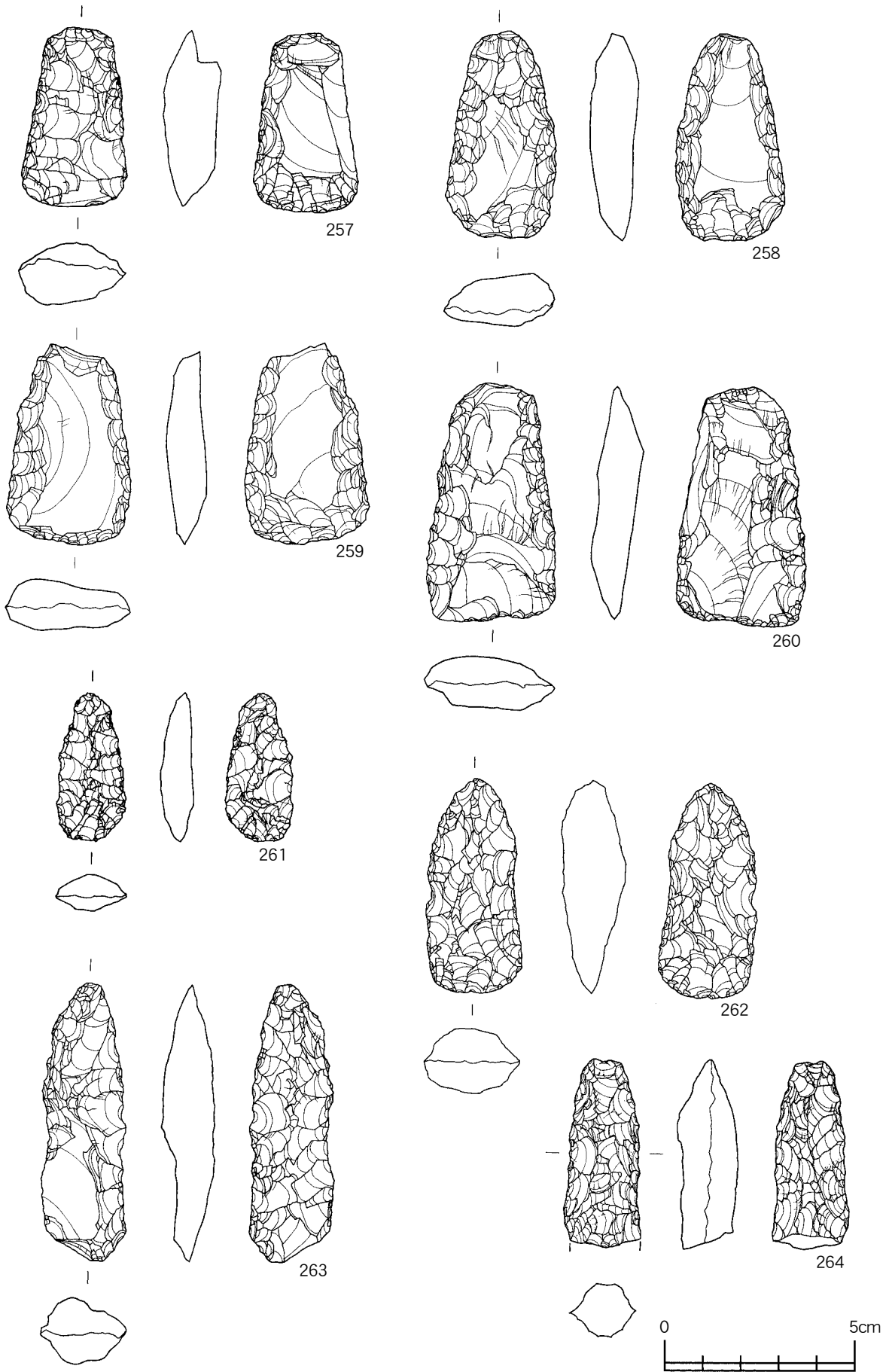
第304図 遺構外出土石器 (20)



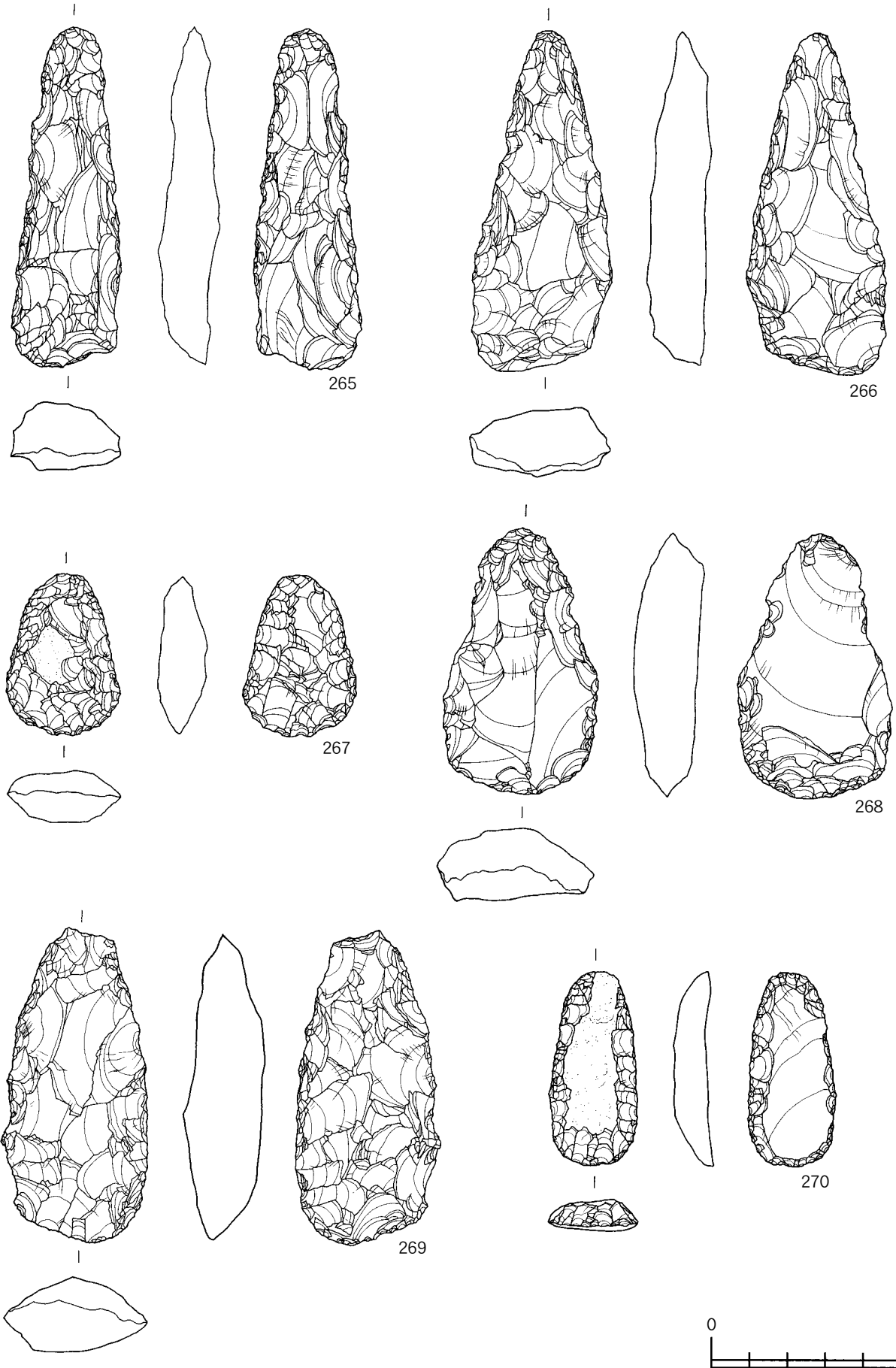
第305図 遺構外出土石器 (21)



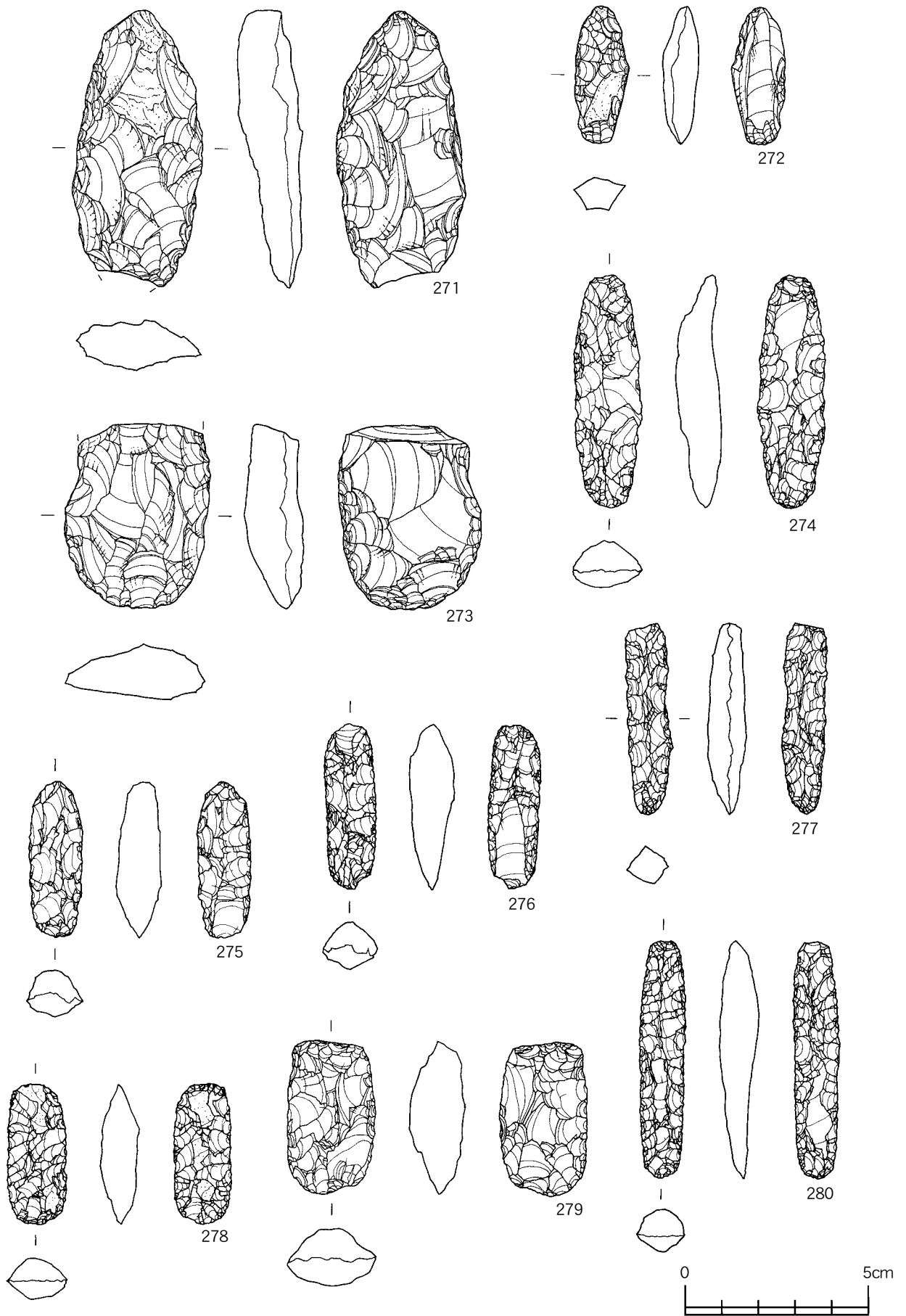
第306図 遺構外出土石器 (22)



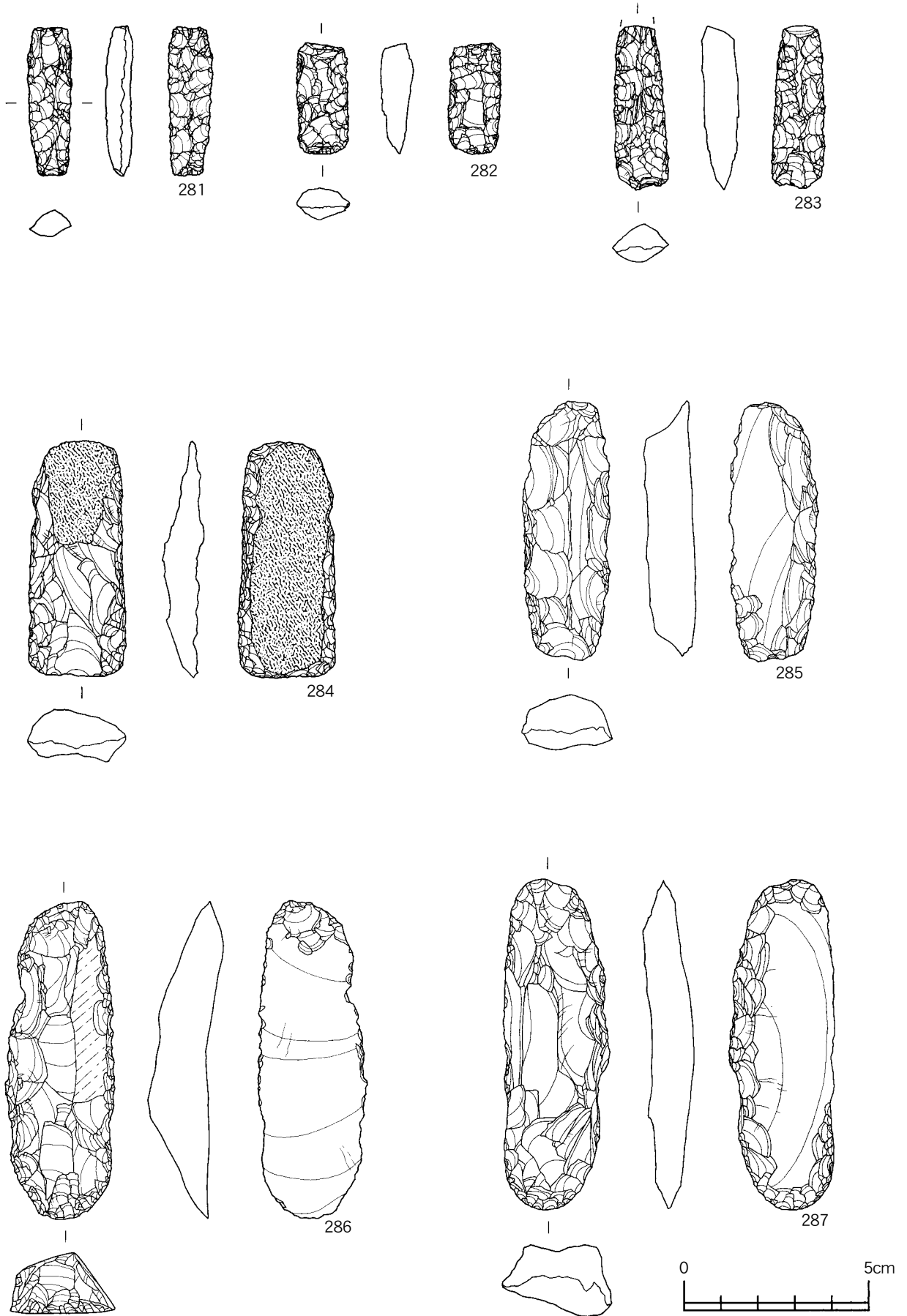
第307図 遺構外出土石器 (23)



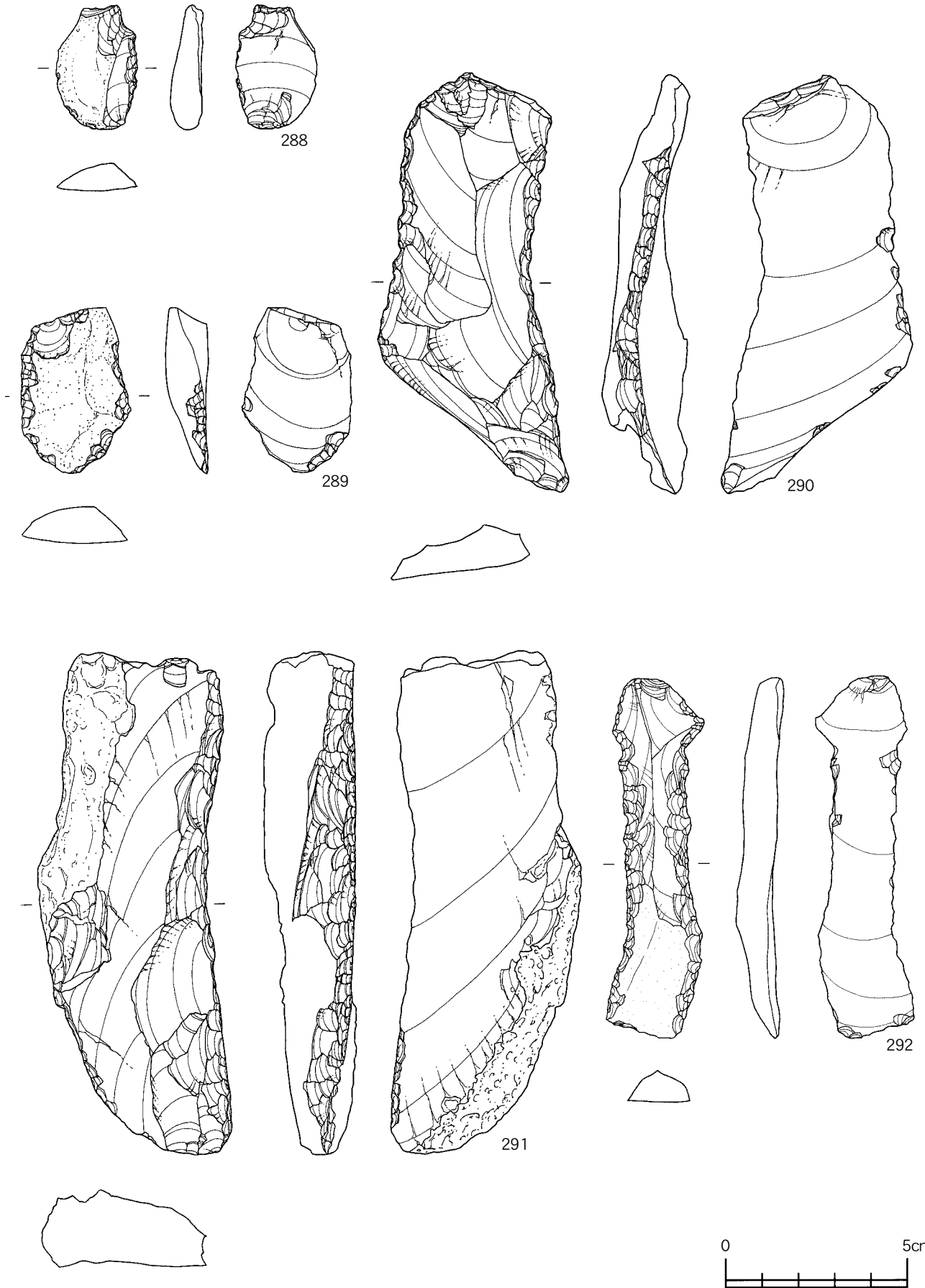
第308図 遺構外出土石器 (24)



第309図 遺構外出土石器 (25)



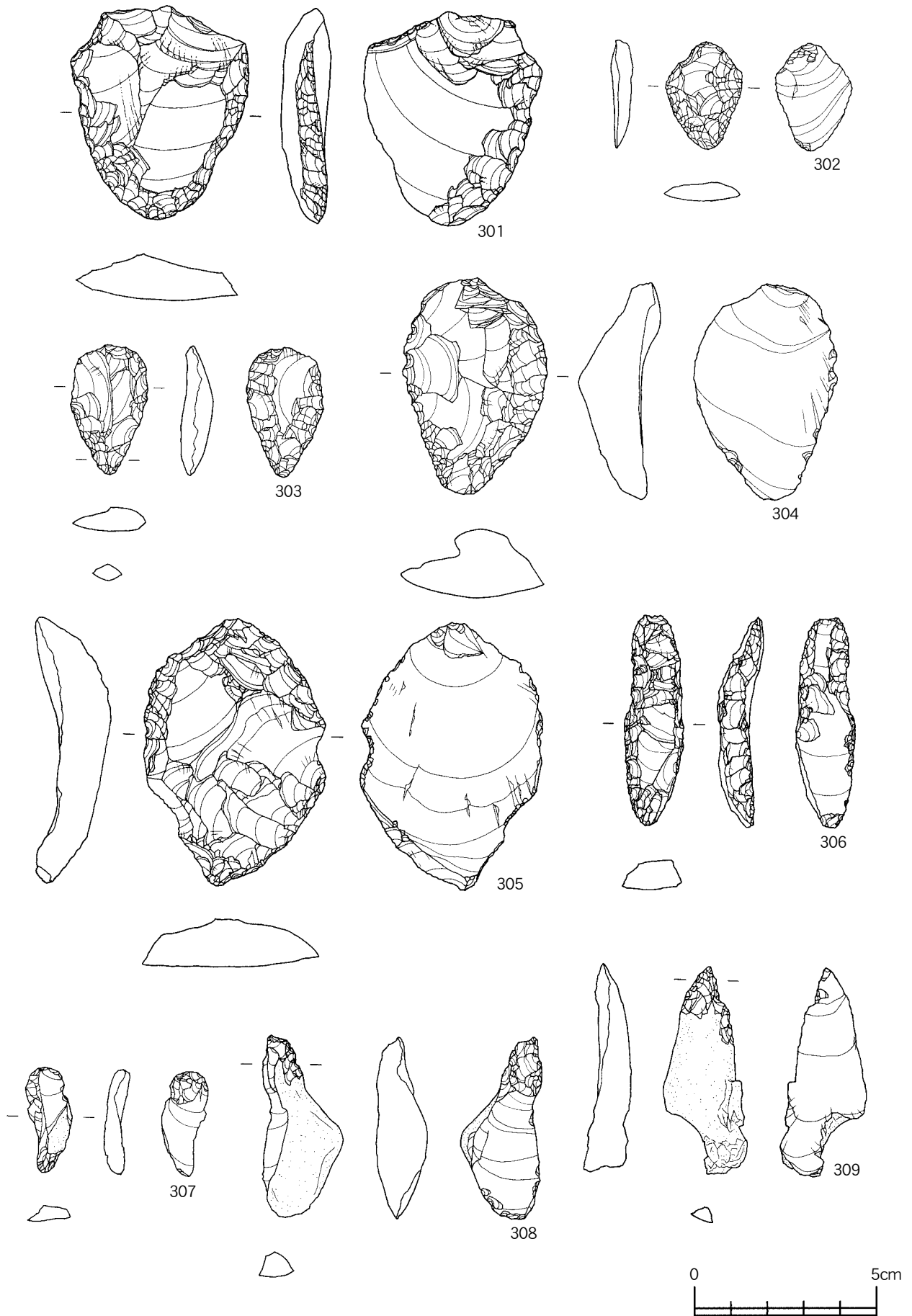
第310図 遺構外出土石器 (26)



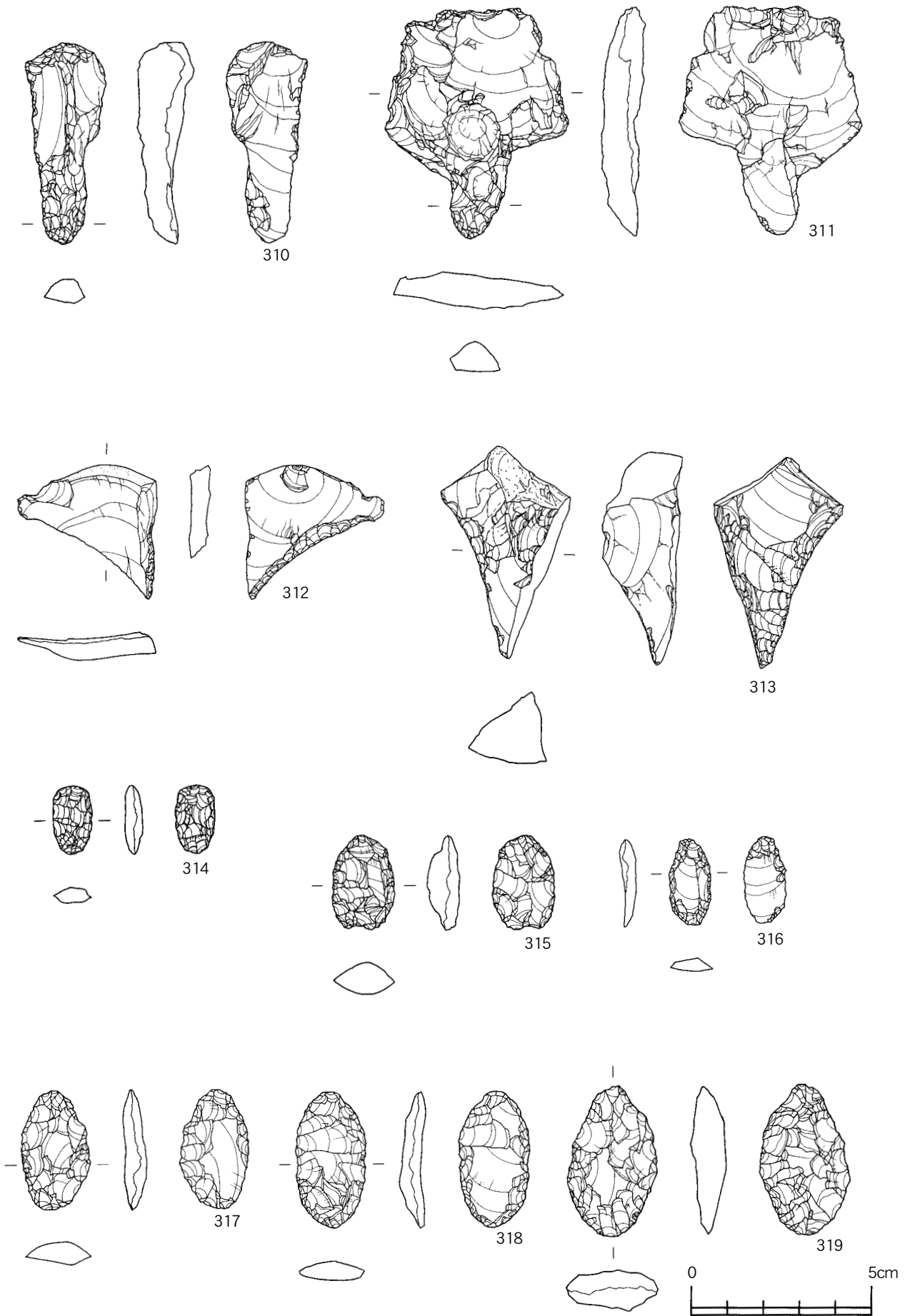
第311図 遺構外出土石器 (27)



第312図 遺構外出土石器 (28)



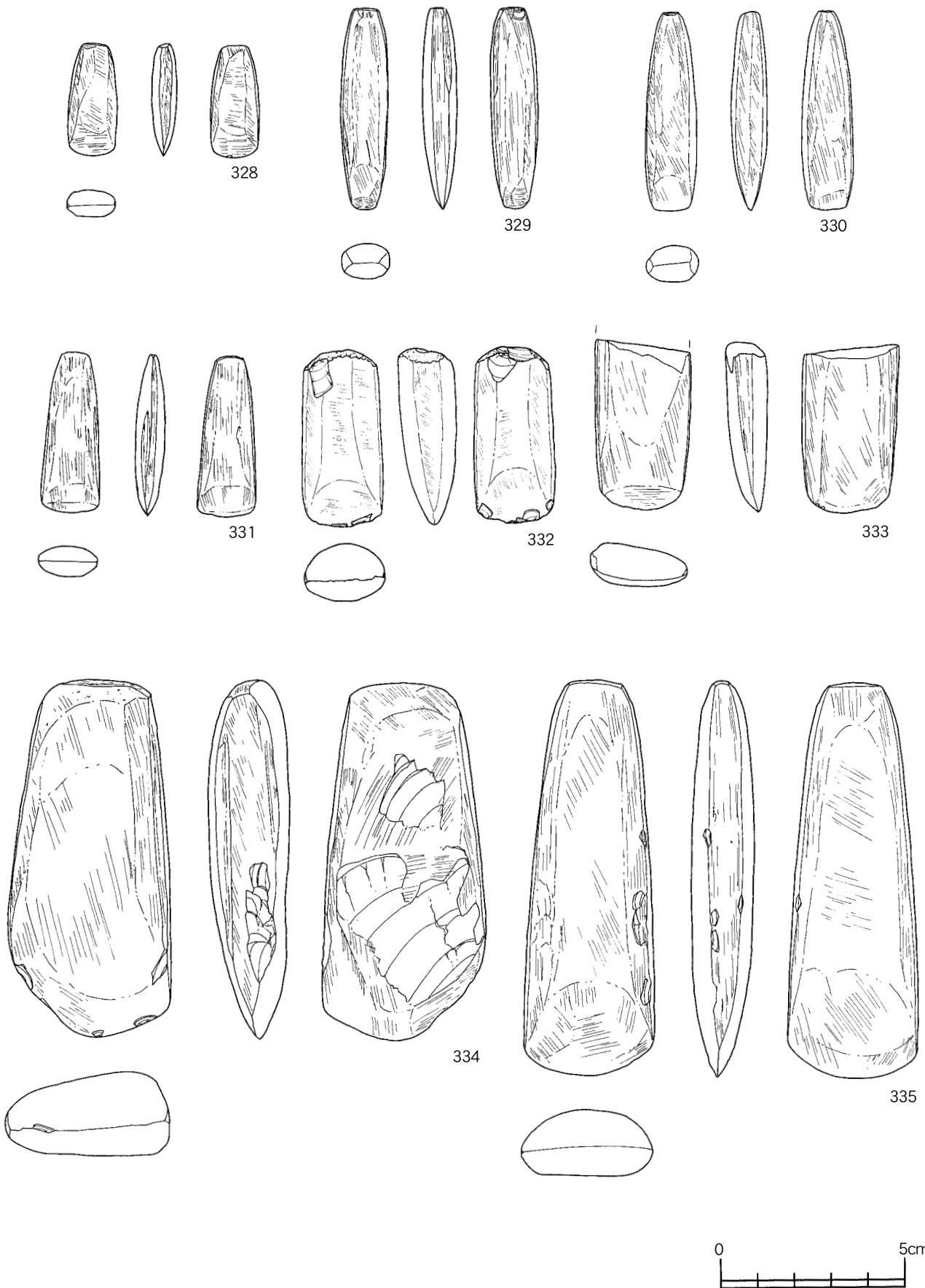
第313図 遺構外出土石器 (29)



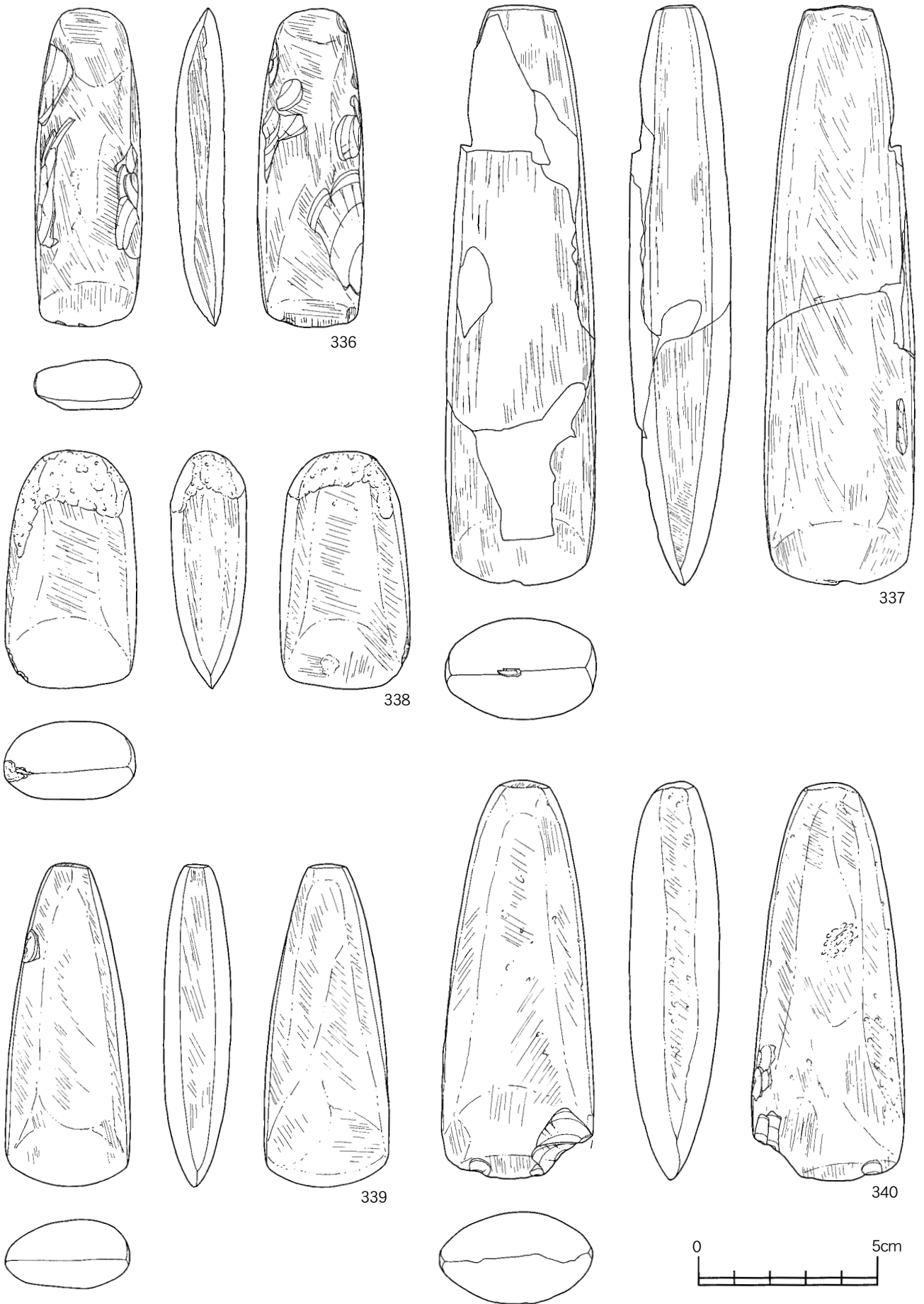
第314図 遺構外出土石器 (30)



第315図 遺構外出土石器 (31)



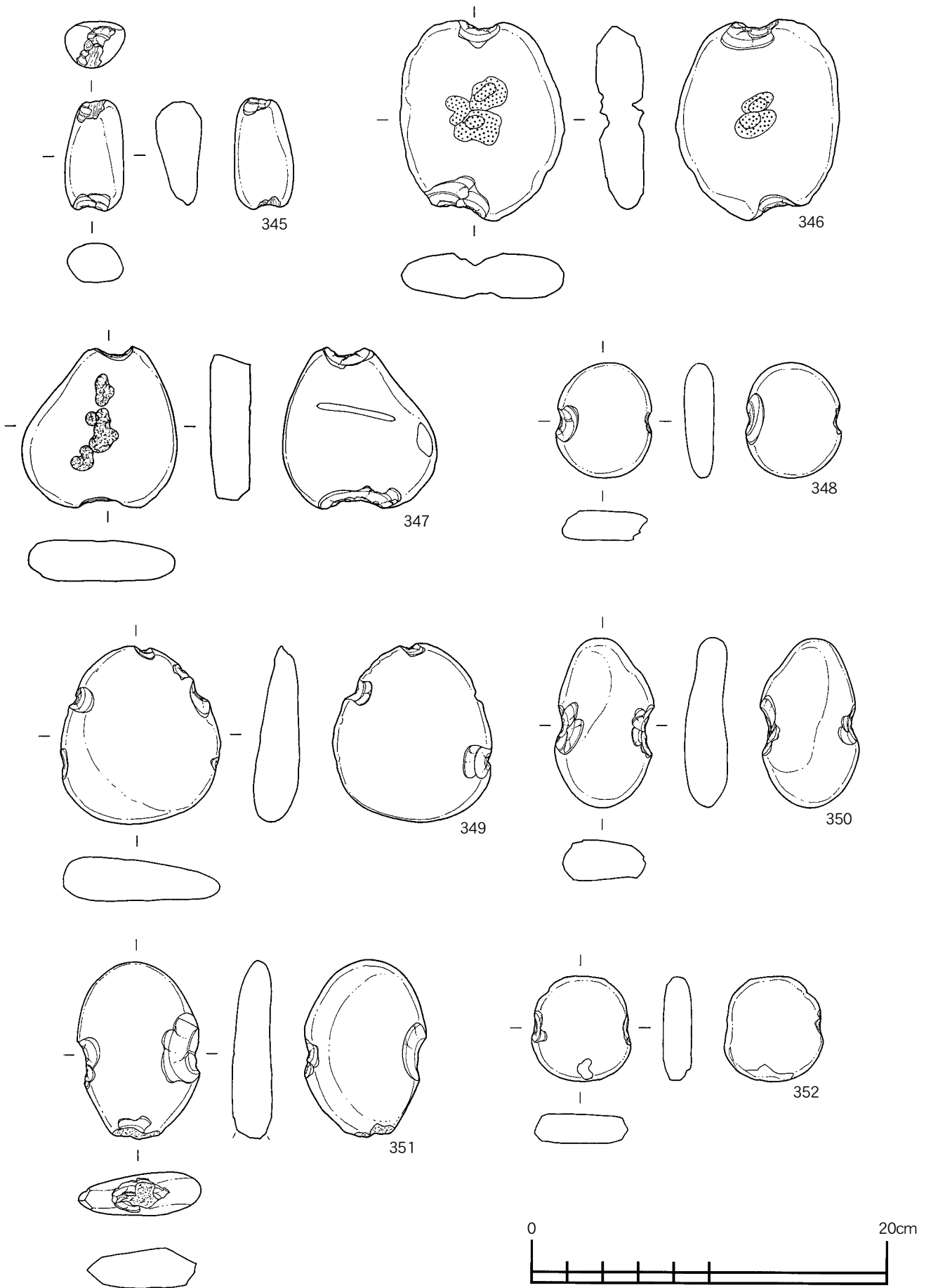
第316図 遺構外出土石器 (32)



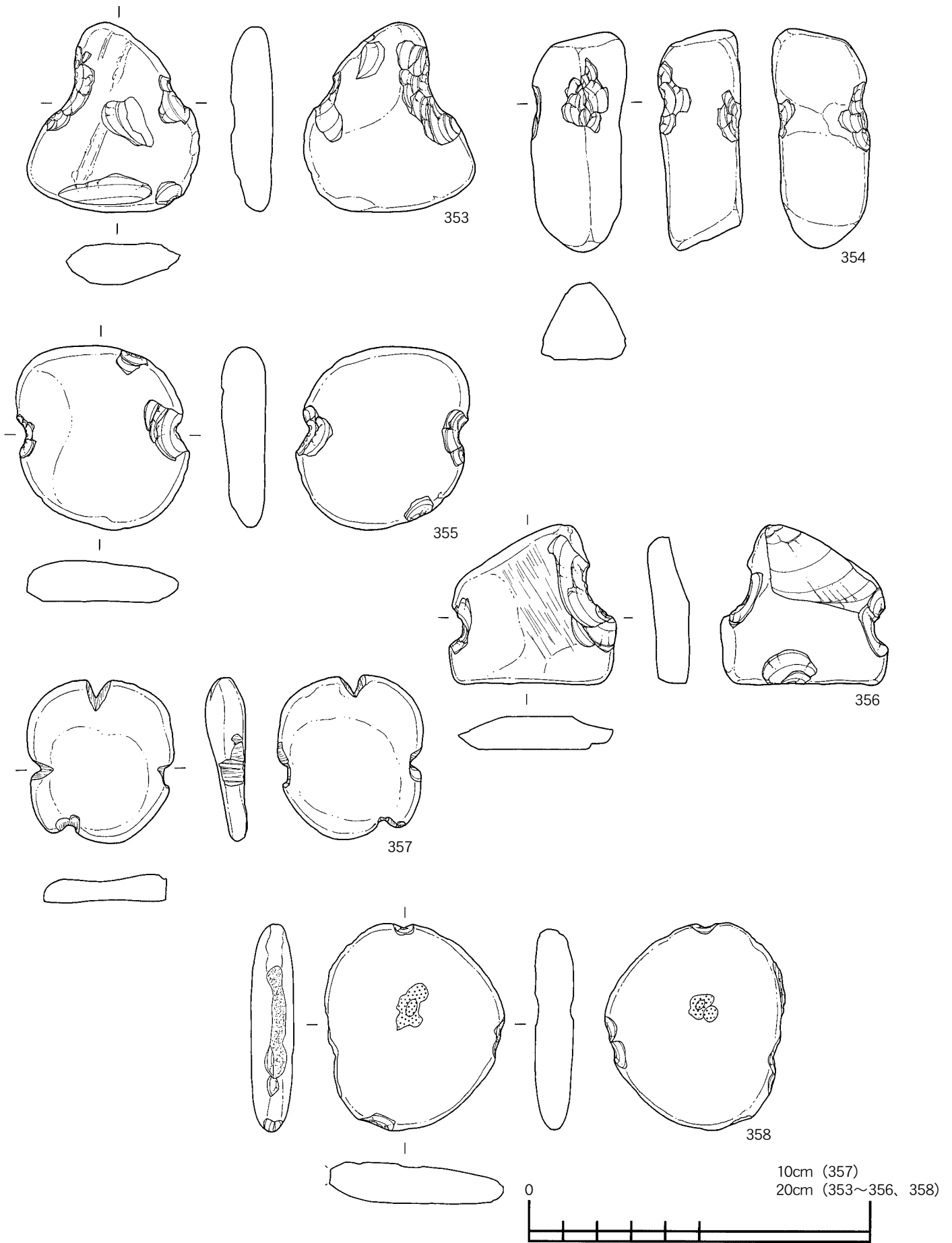
第317図 遺構外出土石器 (33)



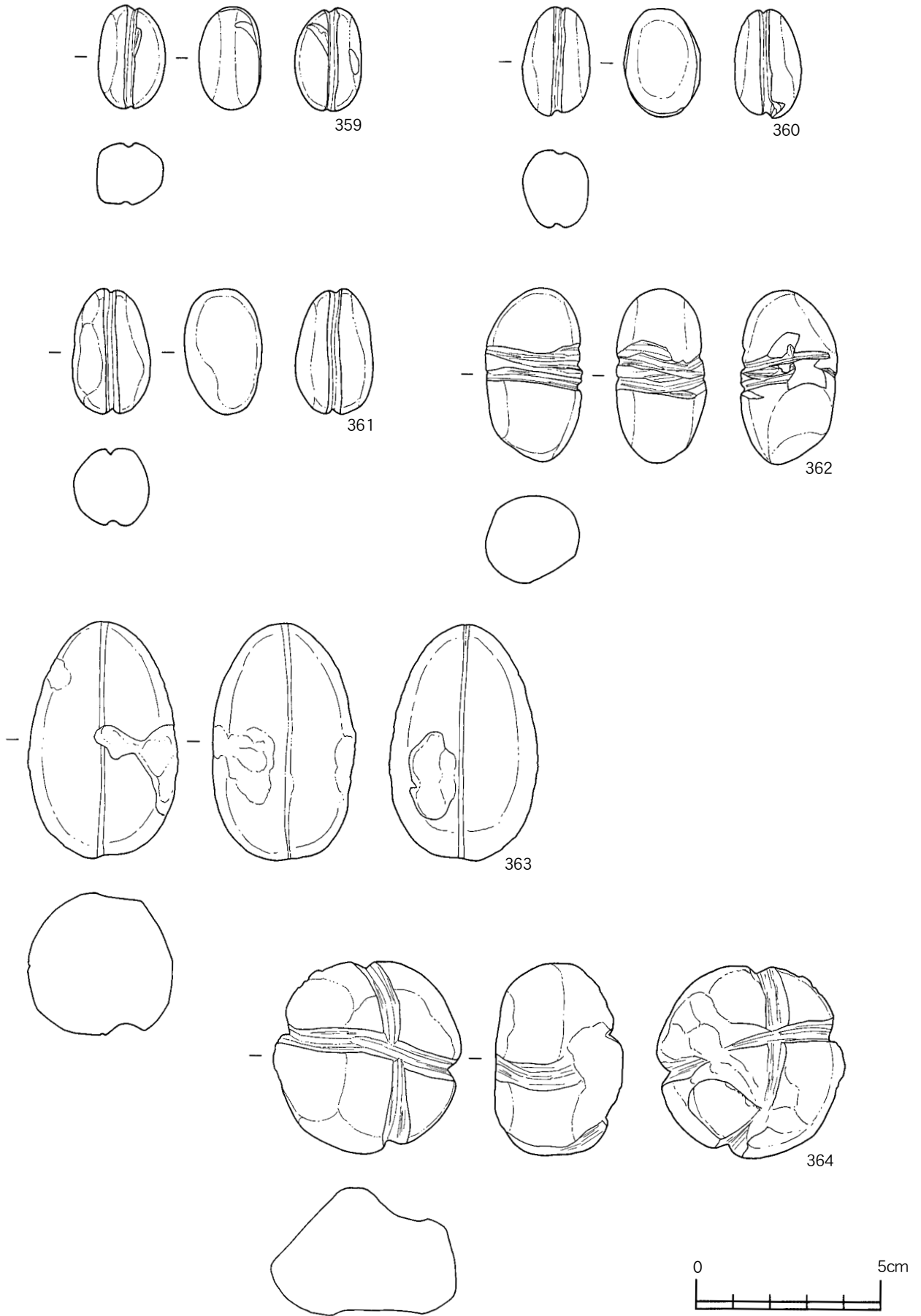
第318図 遺構外出土石器 (34)



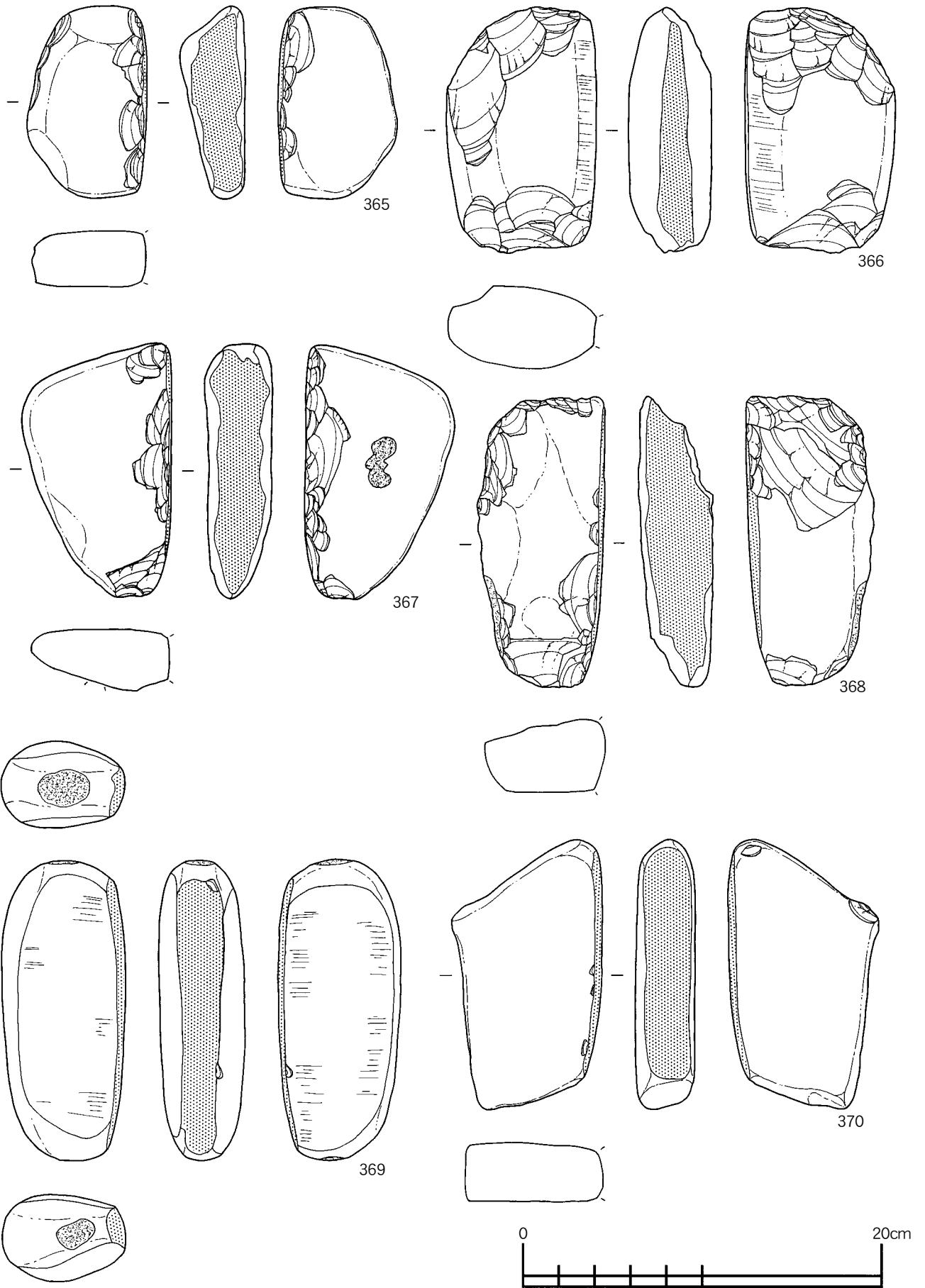
第319図 遺構外出土石器 (35)



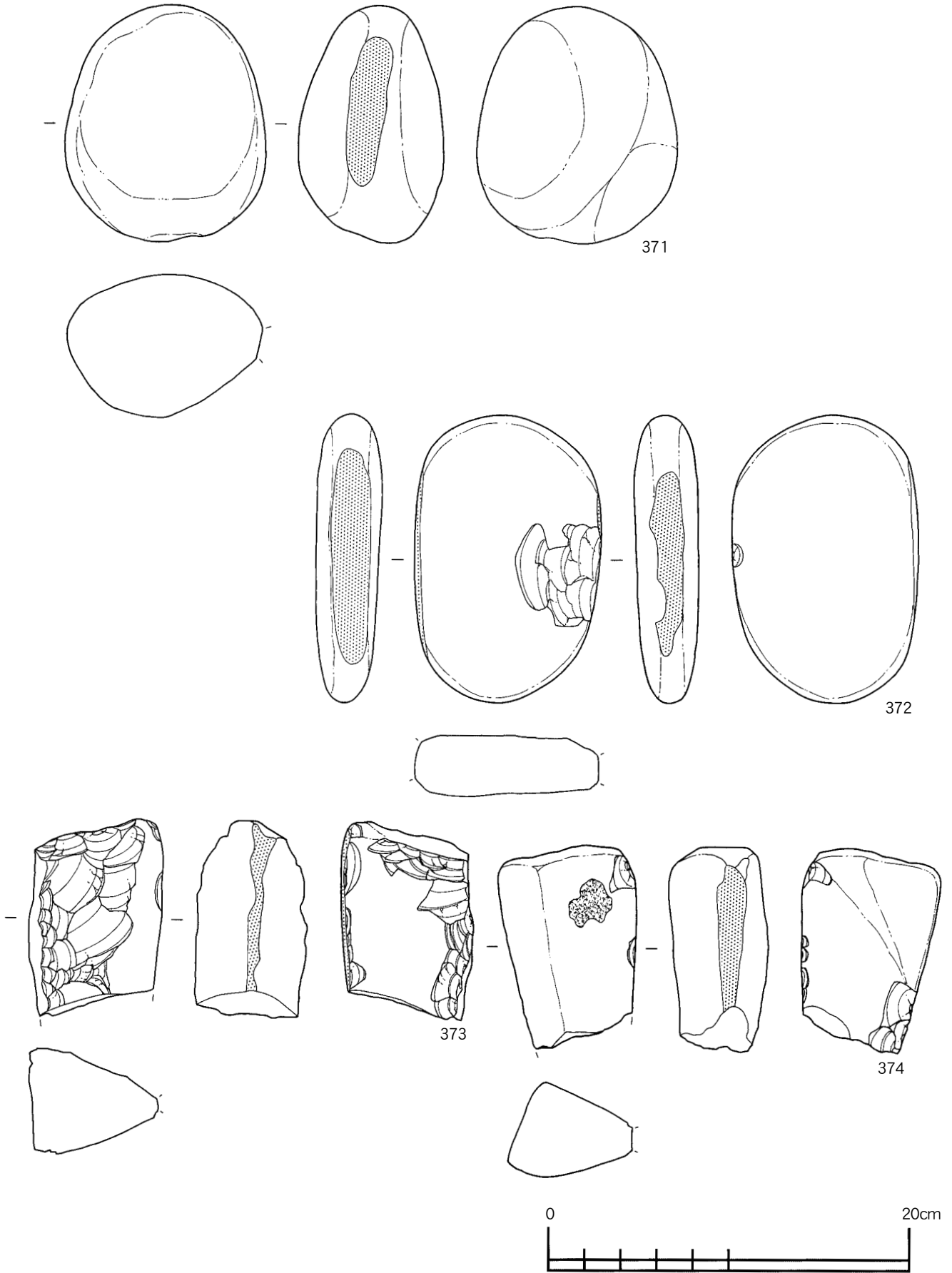
第320図 遺構外出土石器 (36)



第321図 遺構外出土石器 (37)



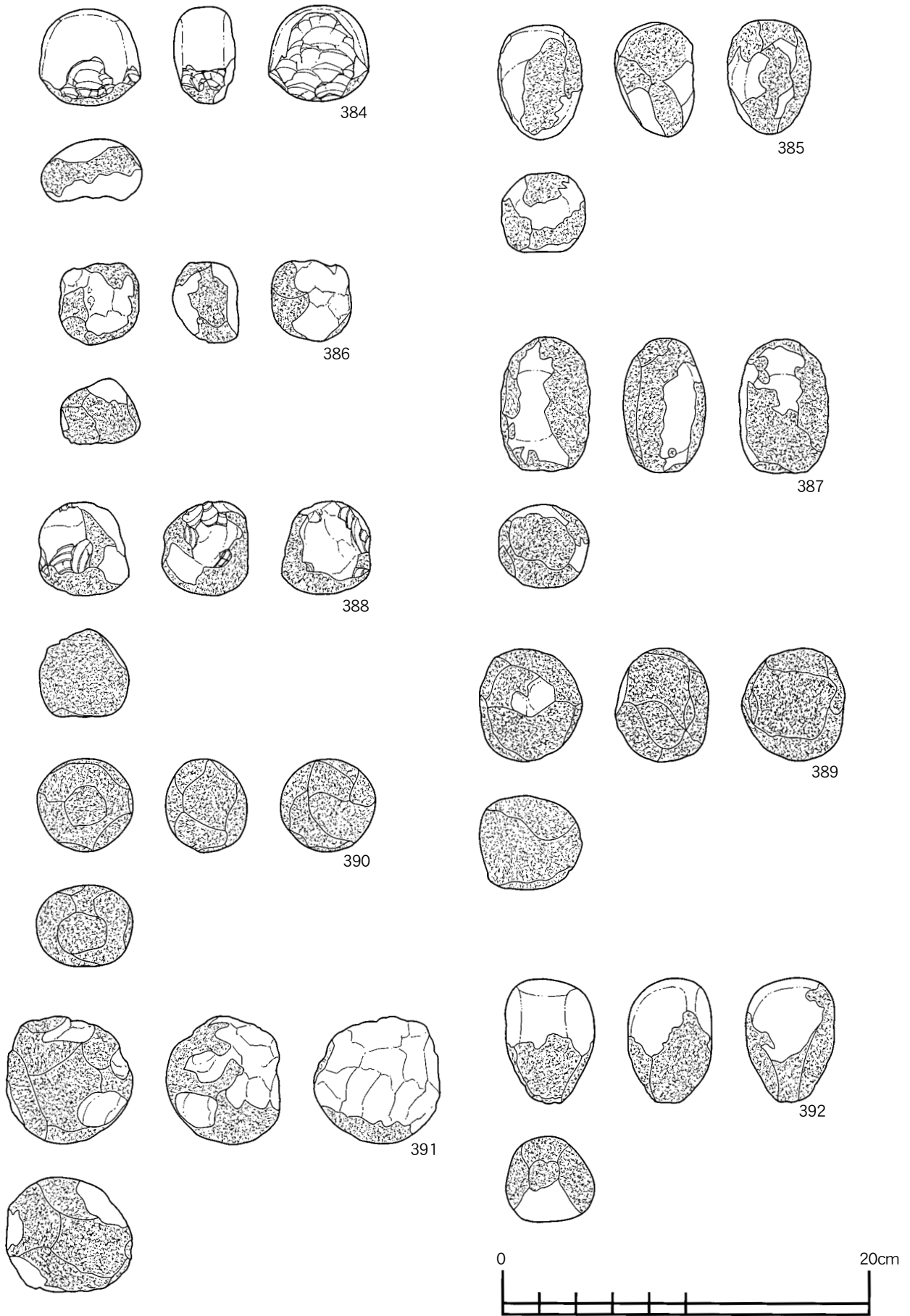
第322図 遺構外出土石器 (38)



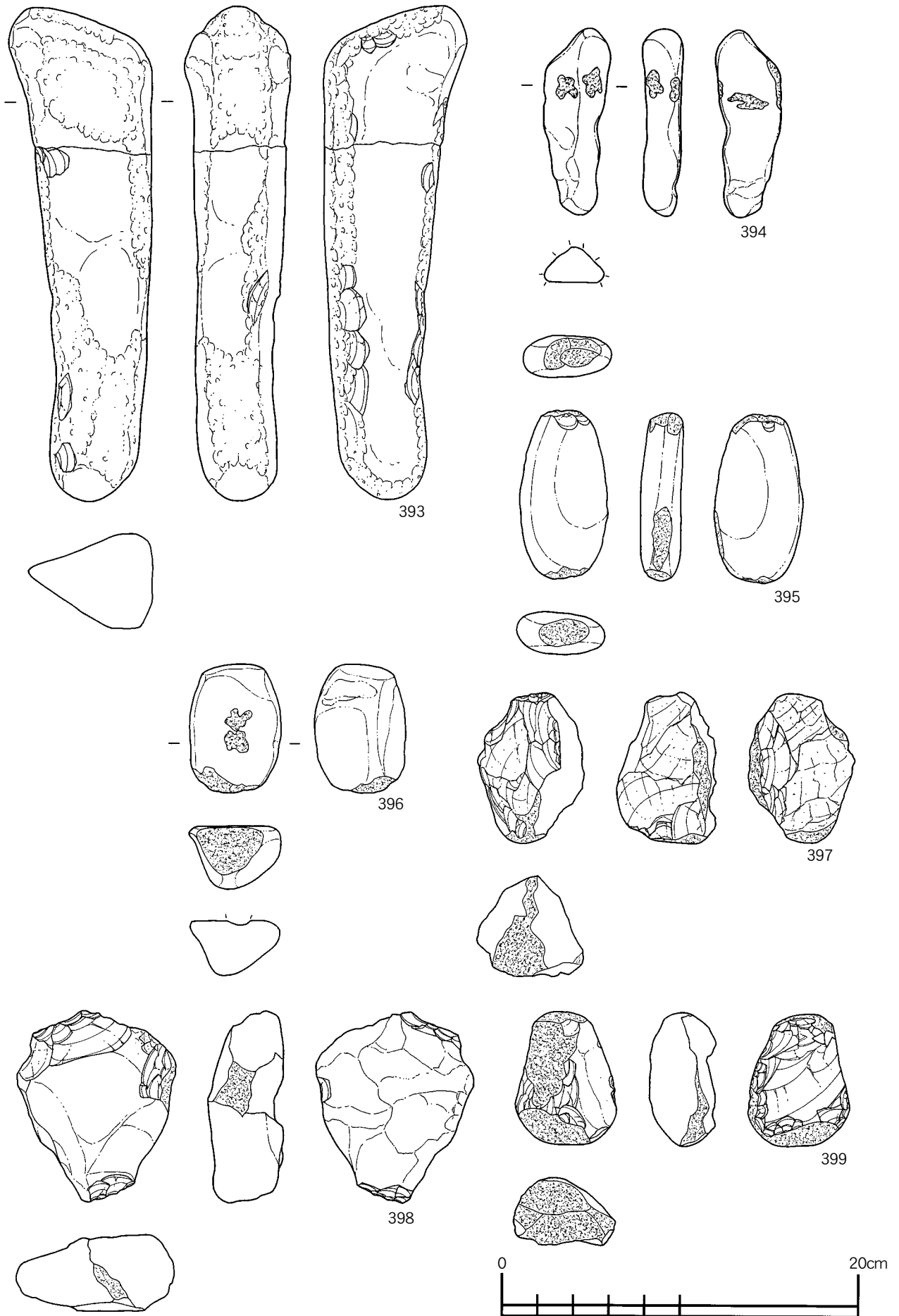
第323図 遺構外出土石器 (39)



第324図 遺構外出土石器 (40)



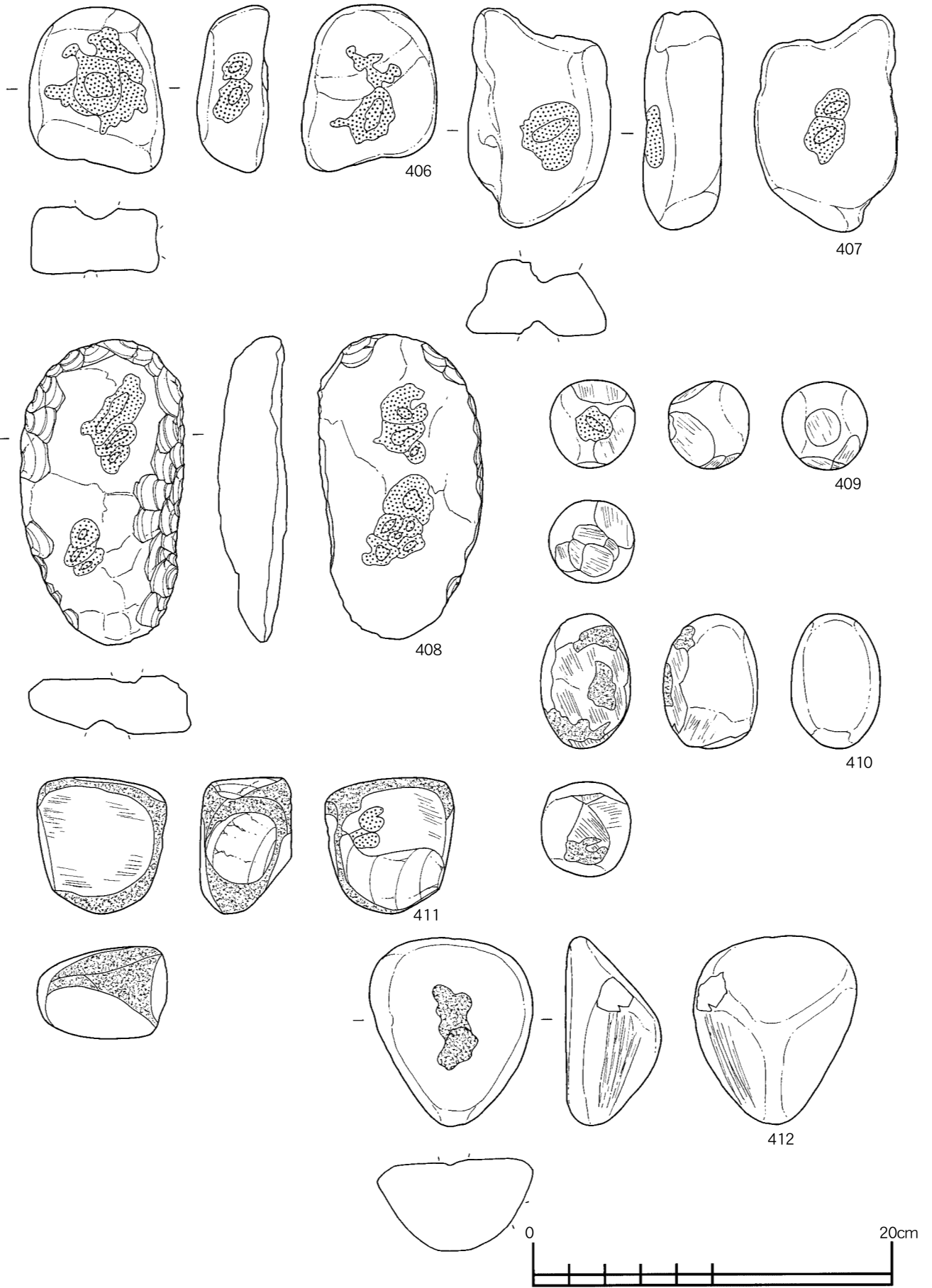
第325 遺構外出土石器 (41)



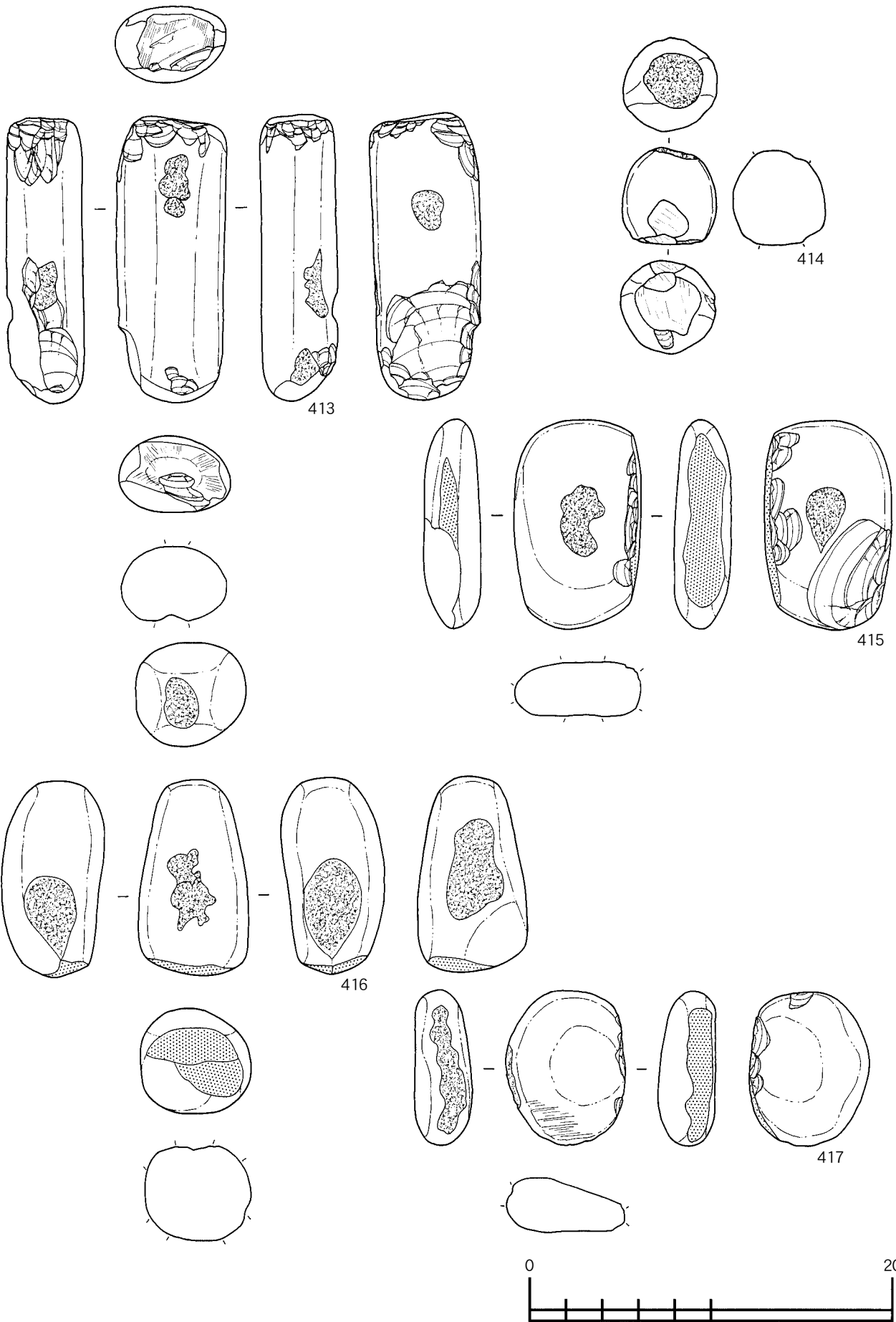
第326図 遺構外出土石器 (42)



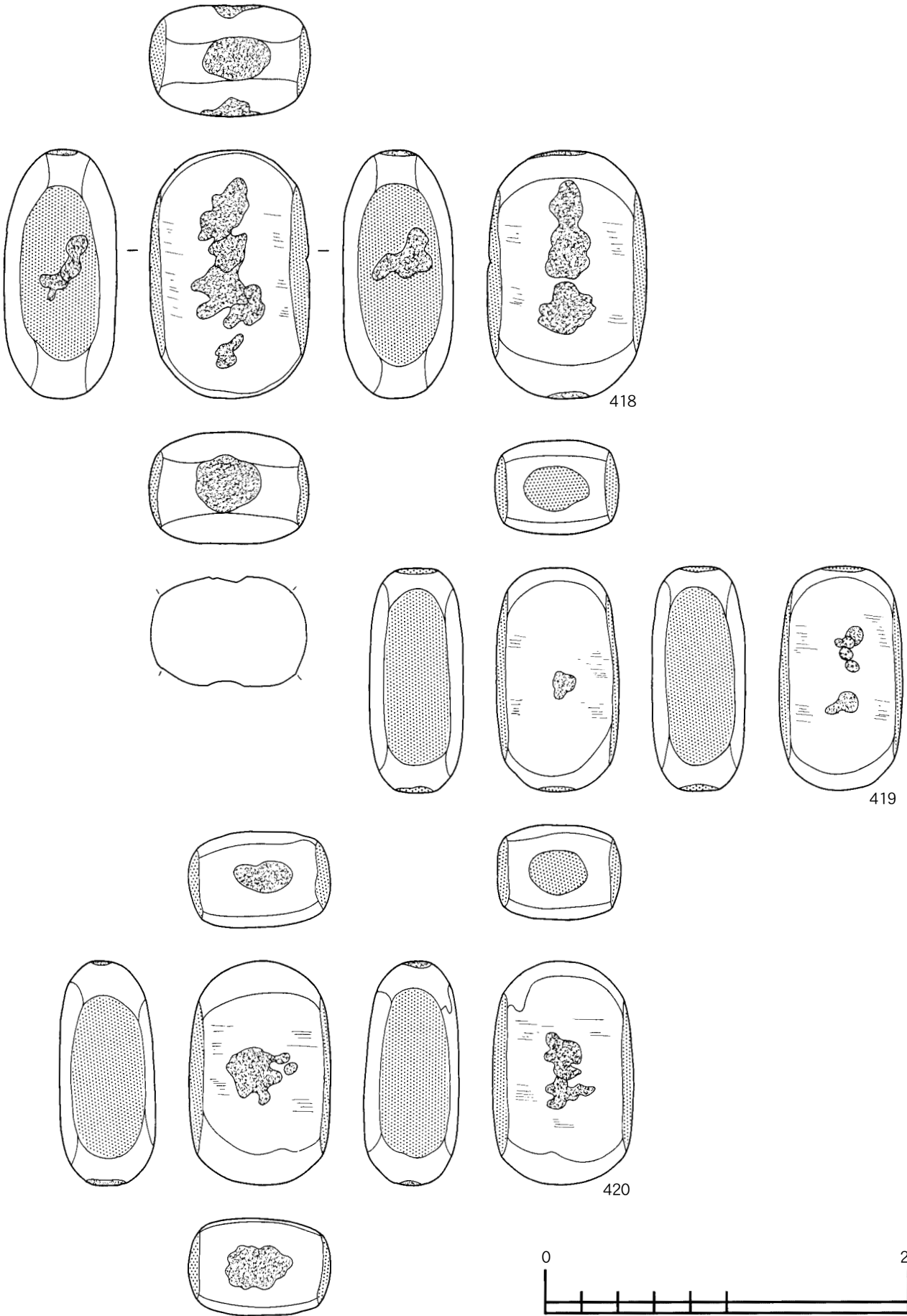
第327図 遺構外出土石器 (43)



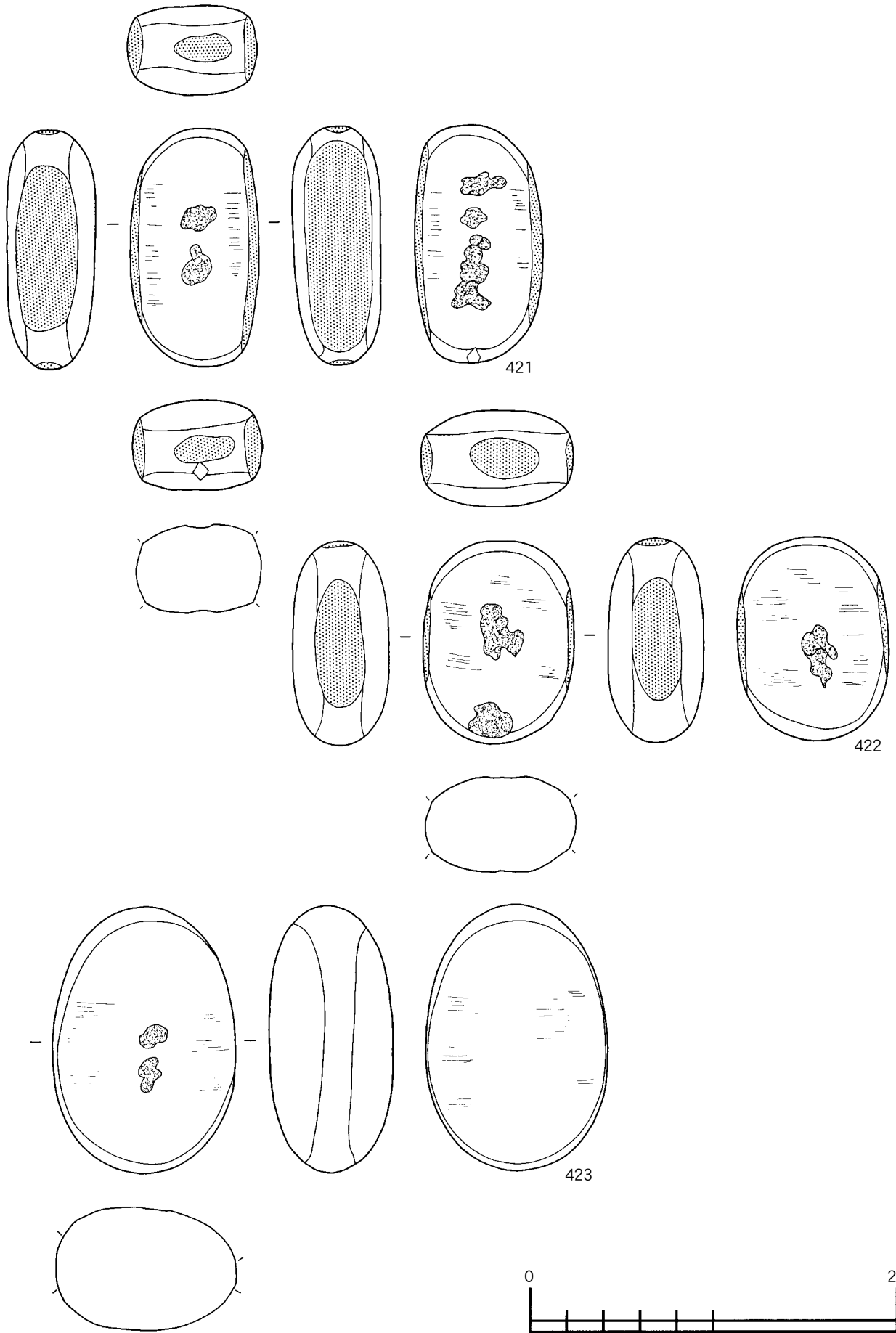
第328図 遺構外出土石器 (44)



第329図 遺構外出土石器 (45)



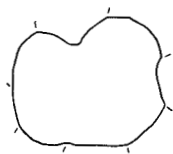
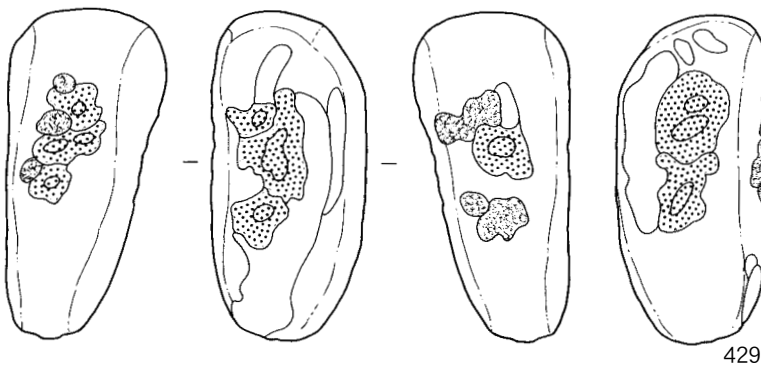
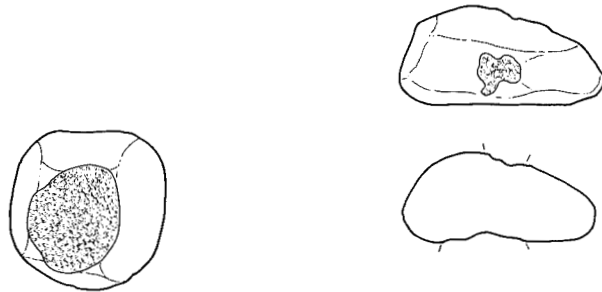
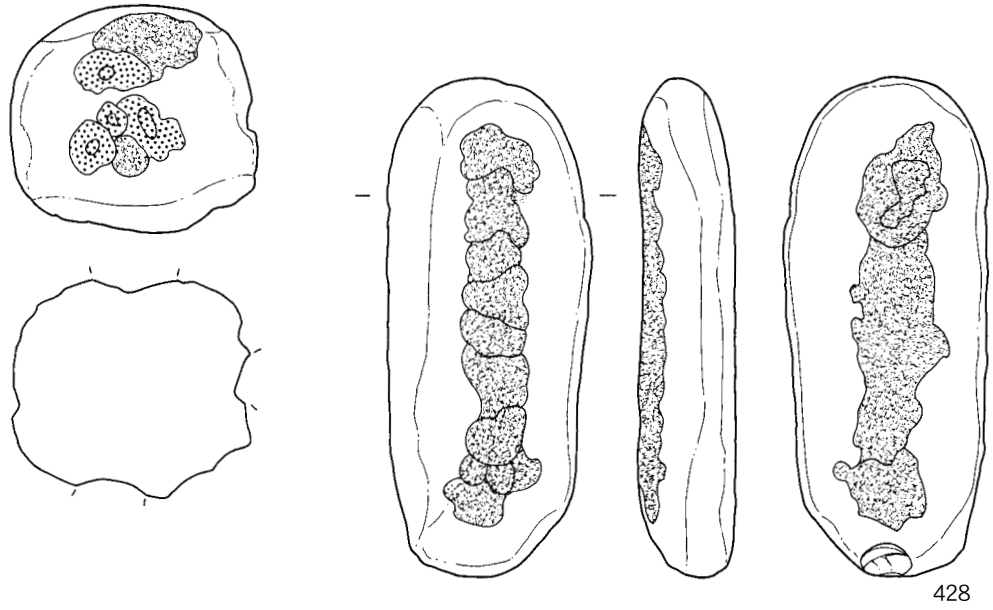
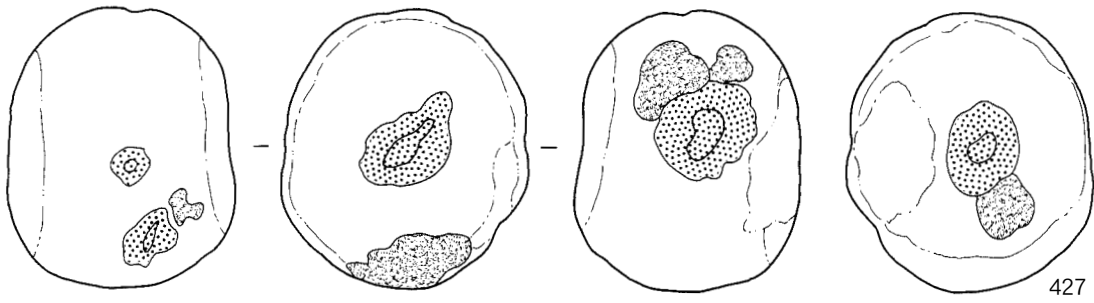
第330図 遺構外出土石器 (46)



第331図 遺構外出土石器 (47)



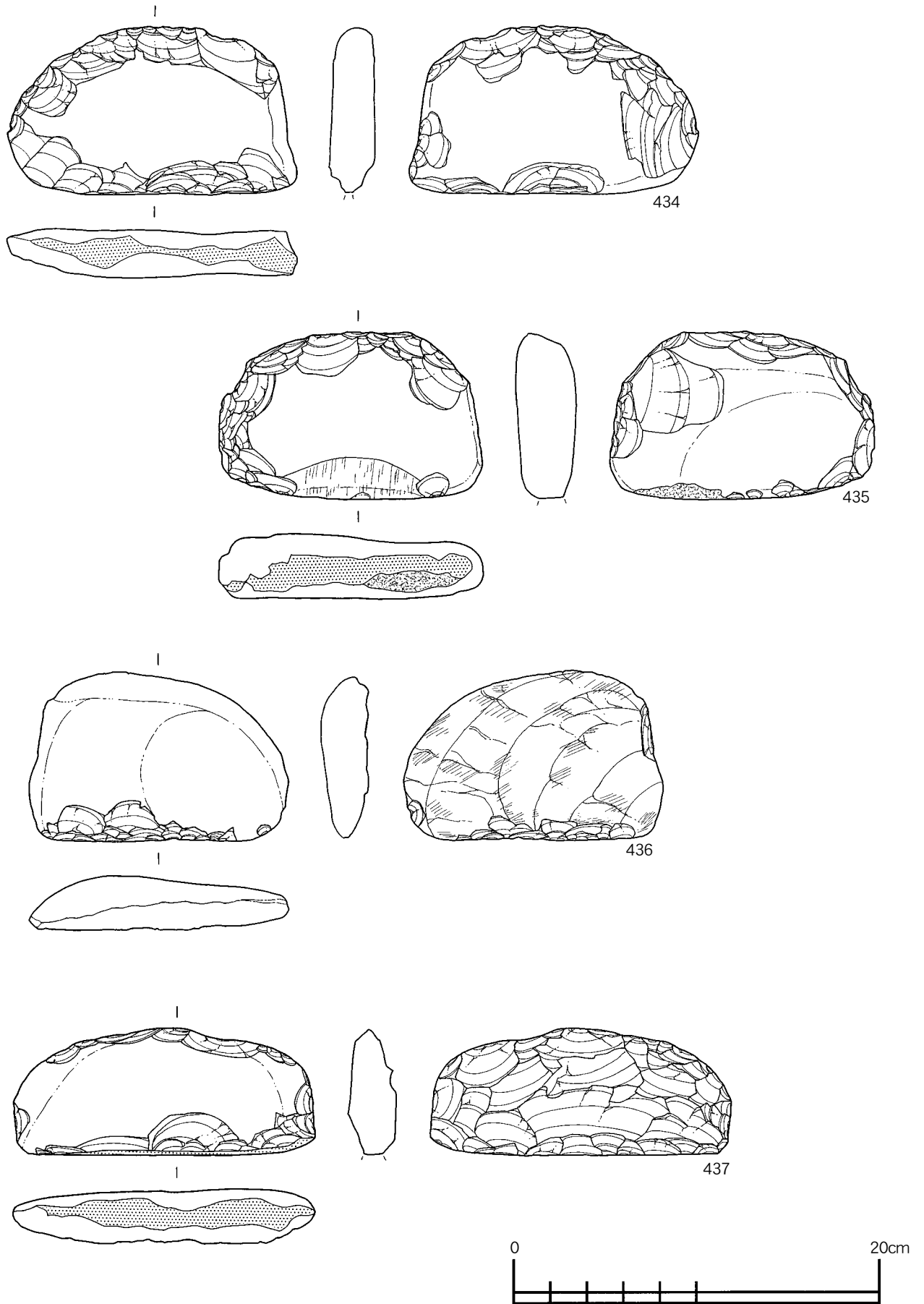
第332図 遺構外出土石器 (48)



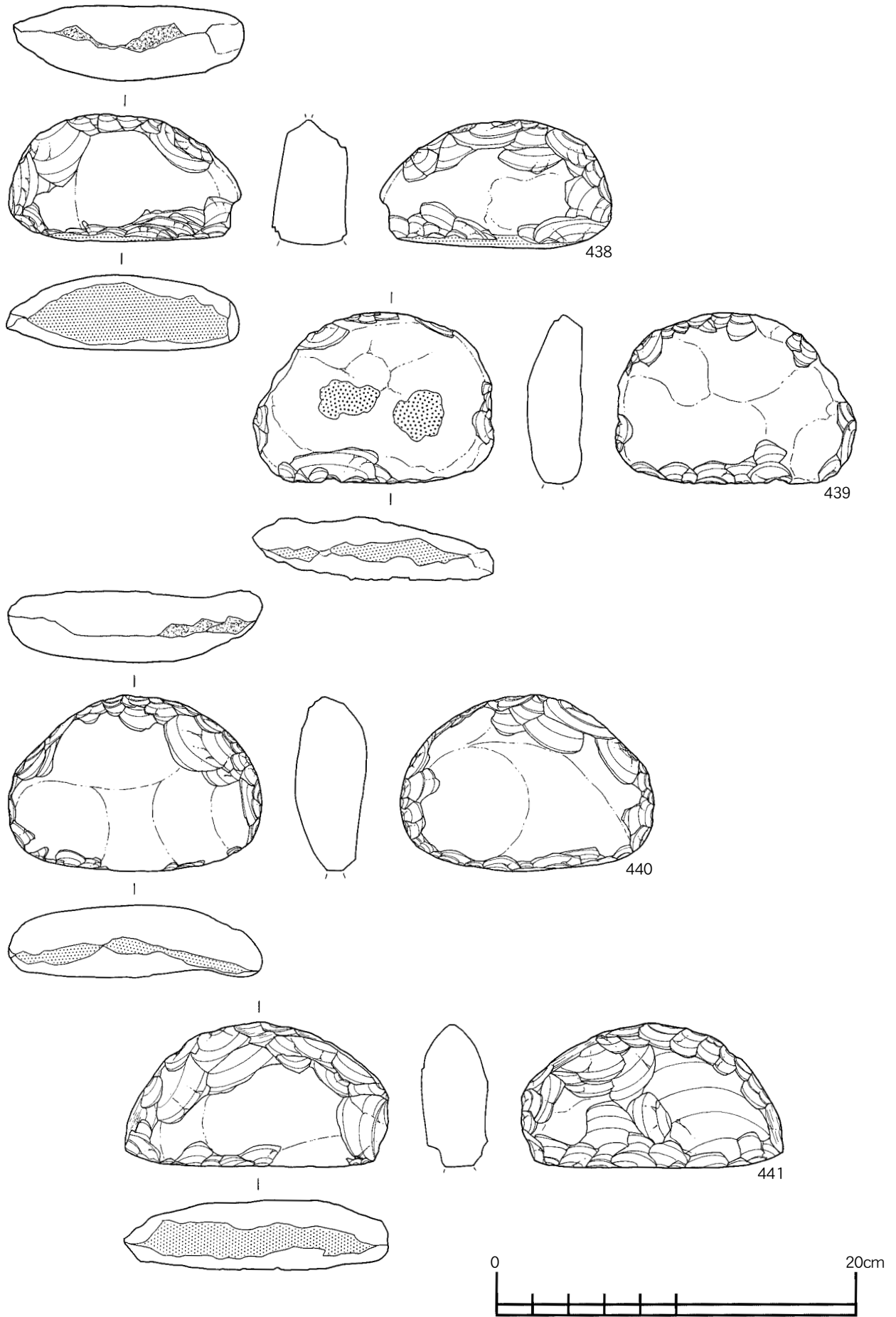
第333図 遺構外出土石器 (49)



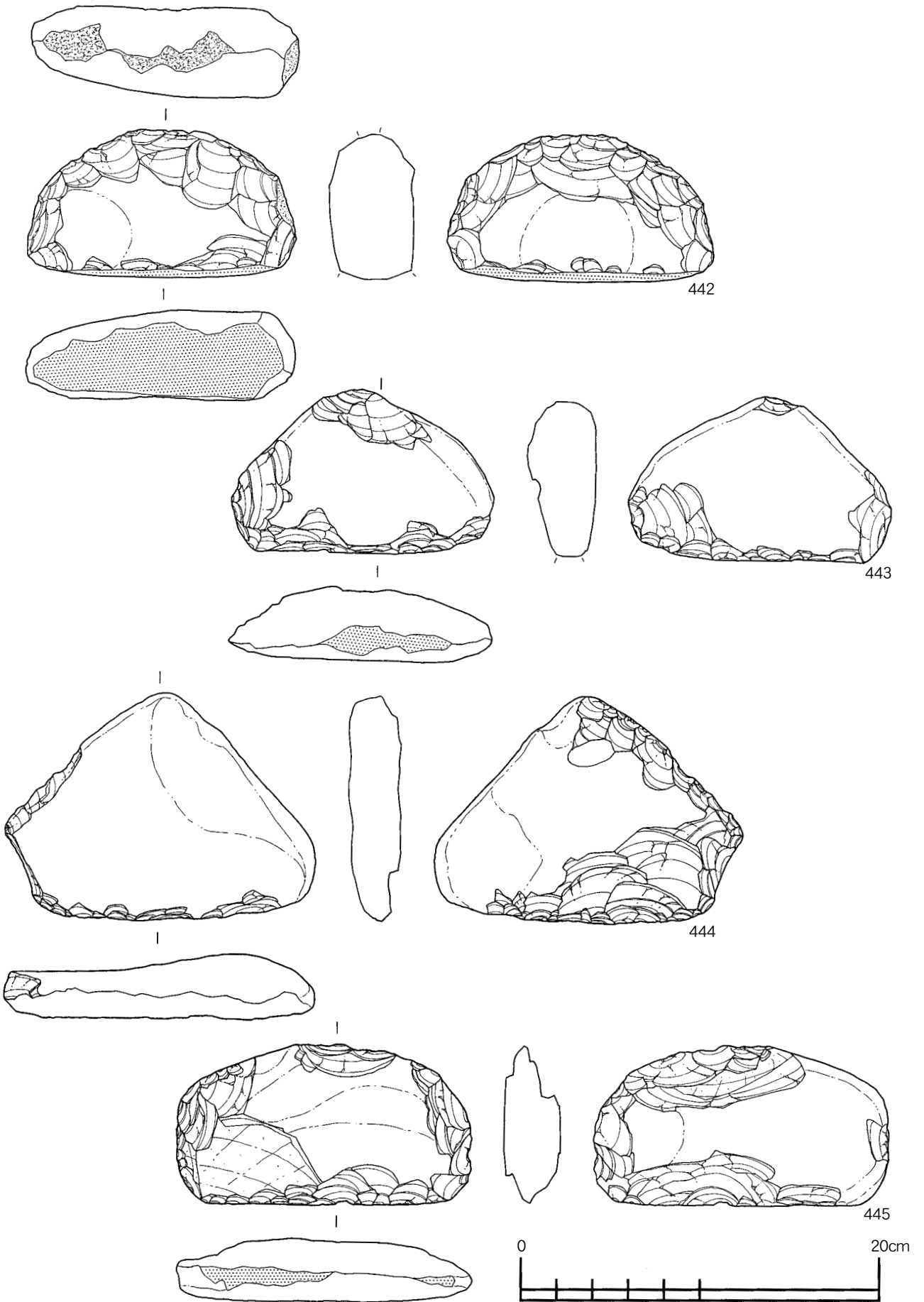
第334図 遺構外出土石器 (50)



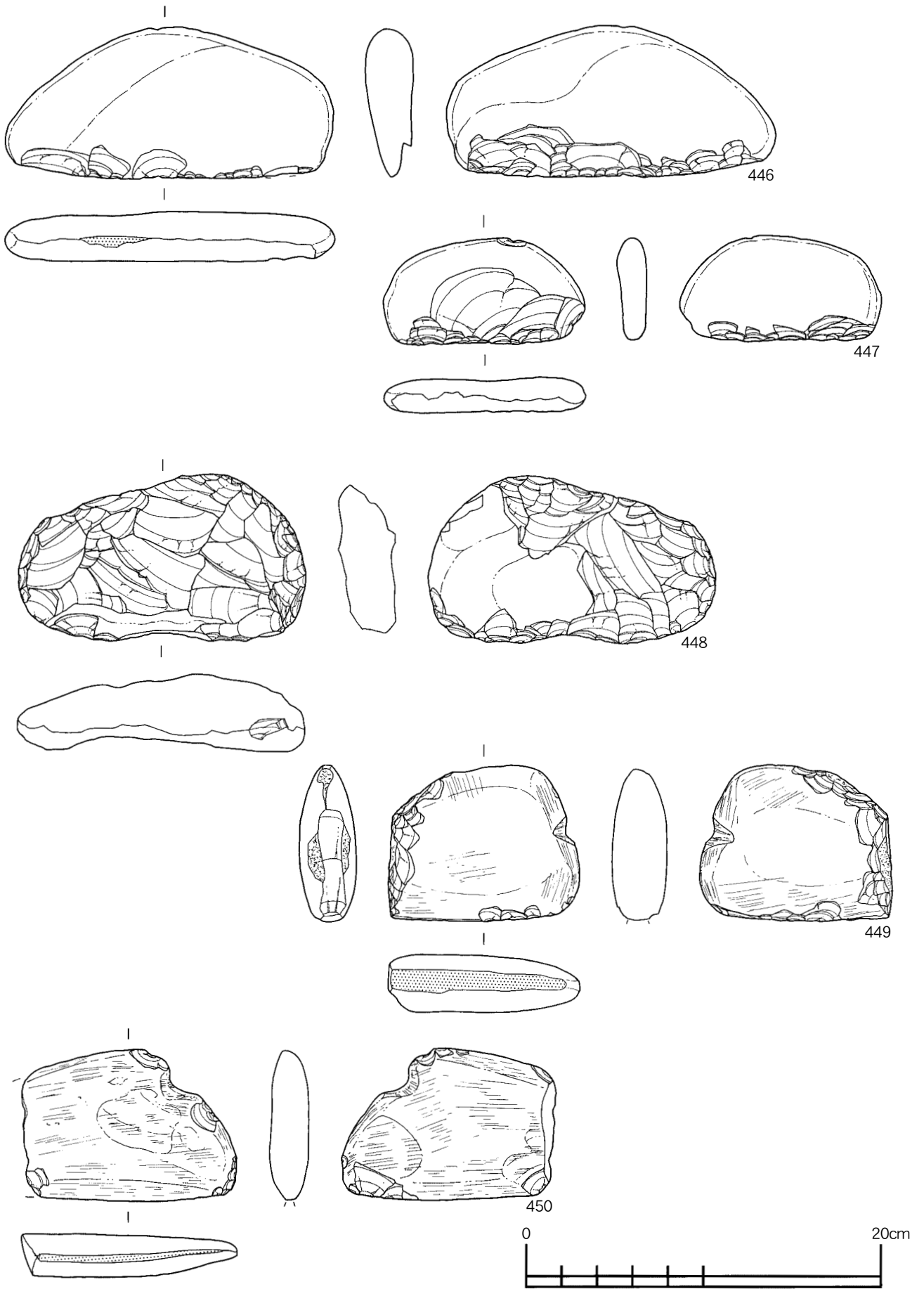
第335図 遺構外出土石器 (51)



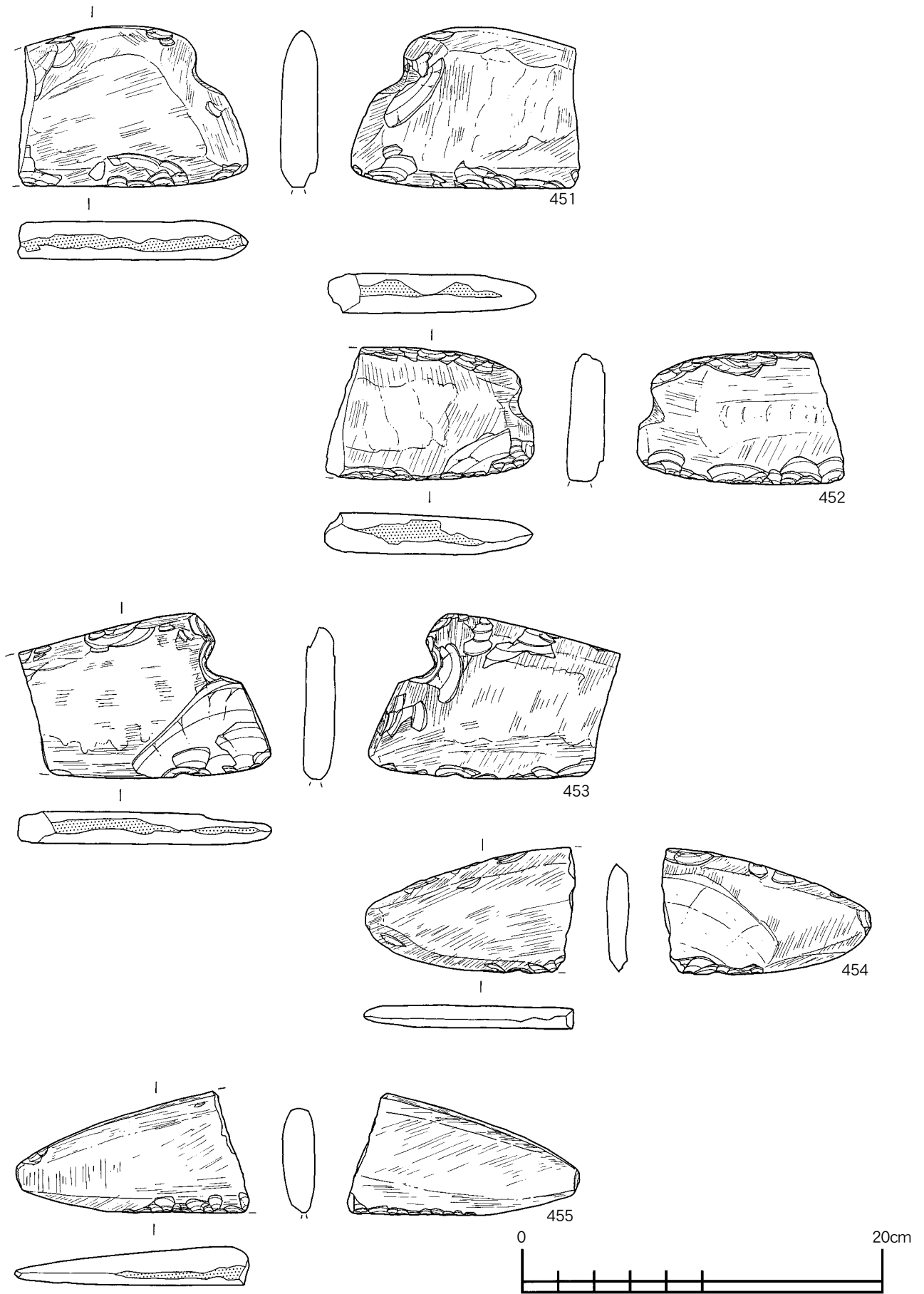
第336図 遺構外出土石器 (52)



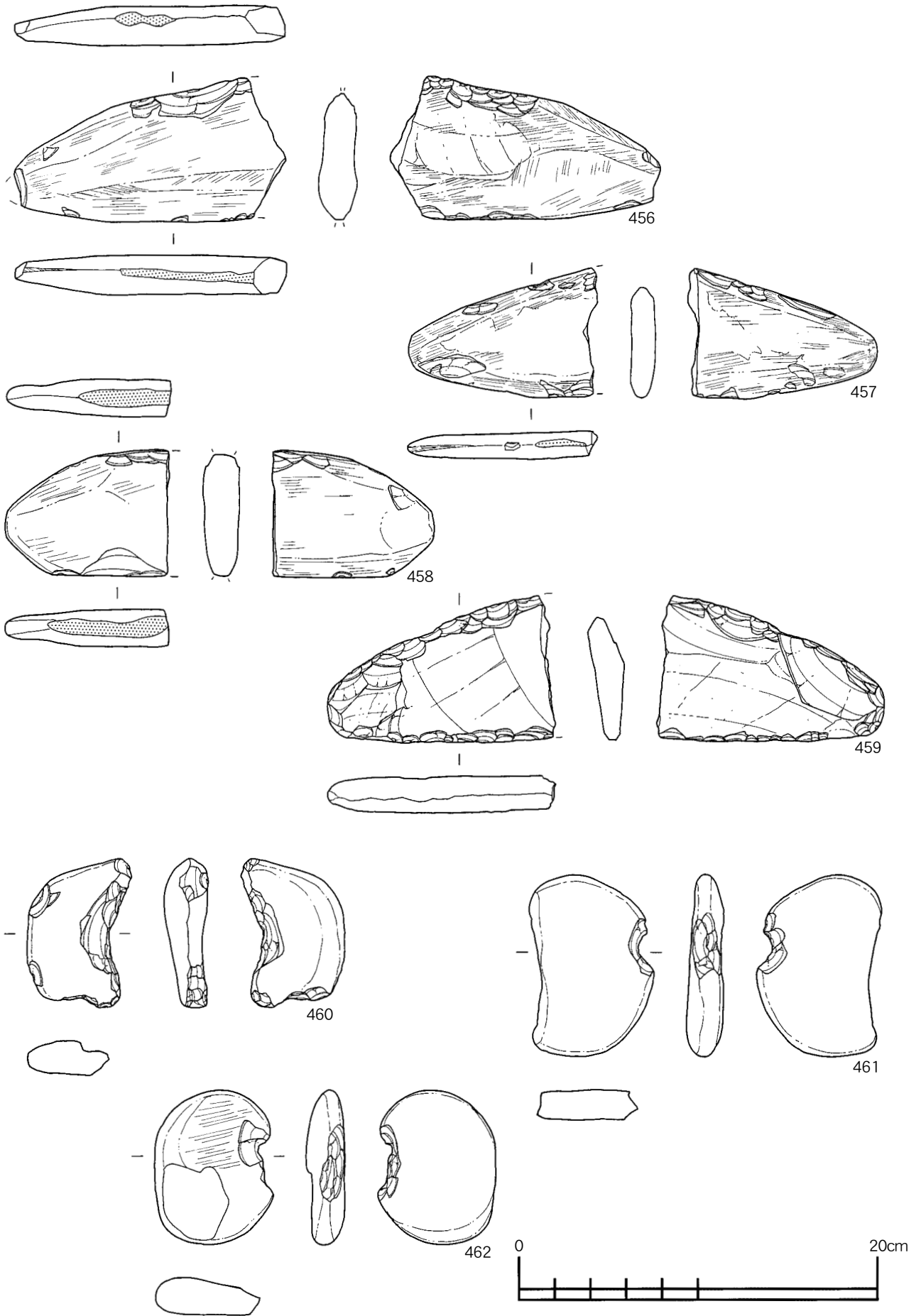
第337図 遺構外出土石器 (53)



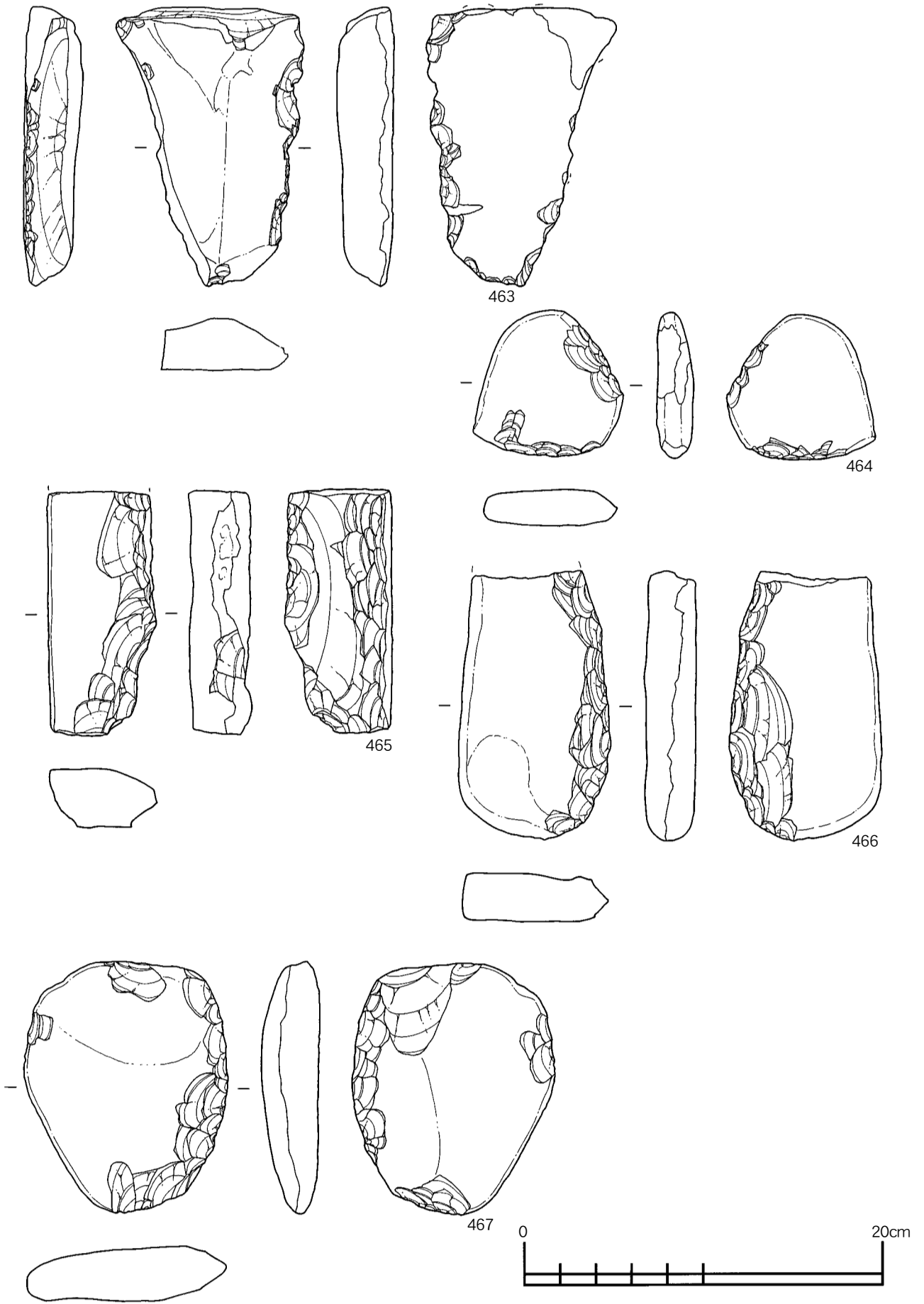
第338図 遺構外出土石器 (54)



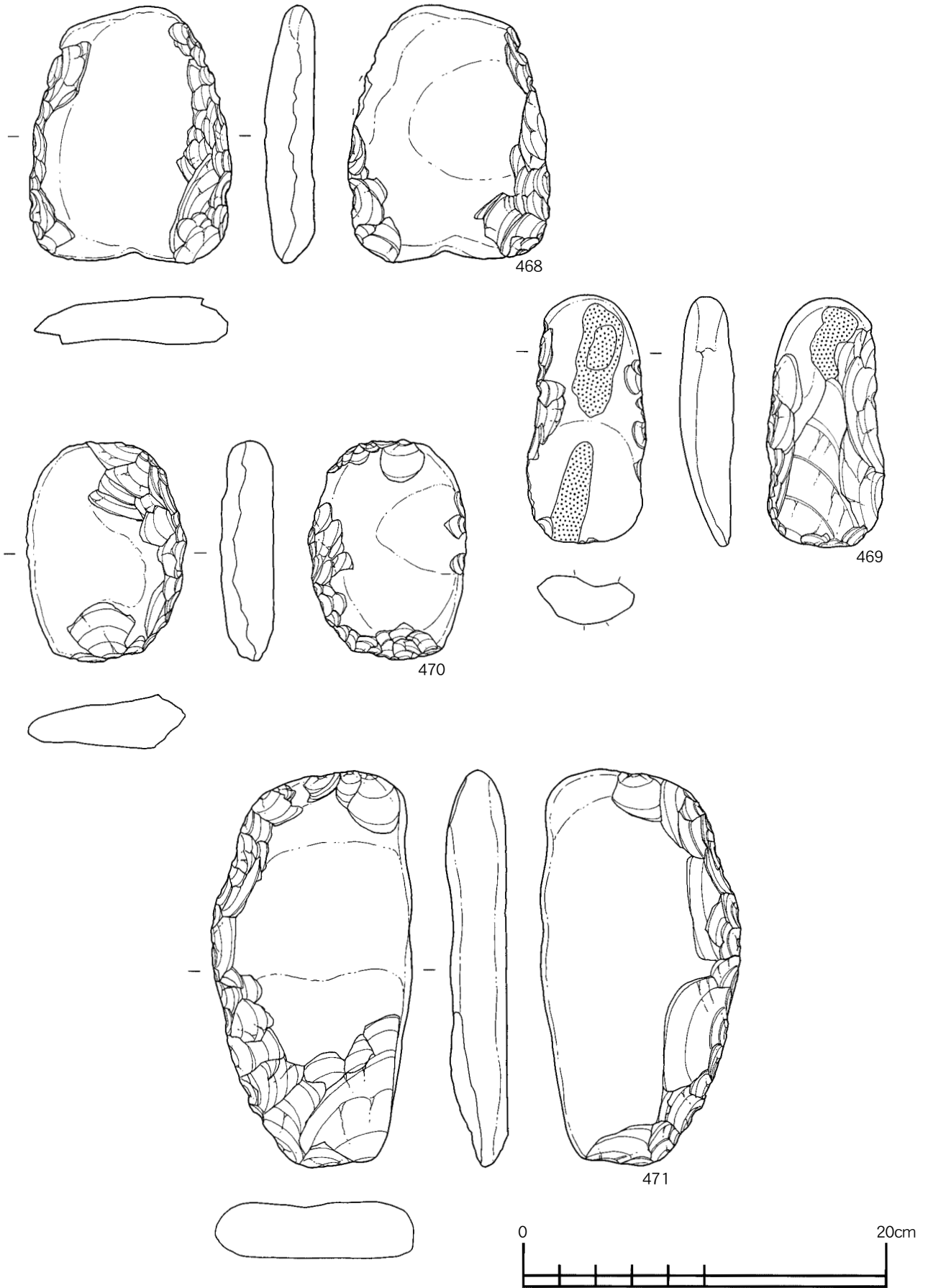
第339図 遺構外出土石器 (55)



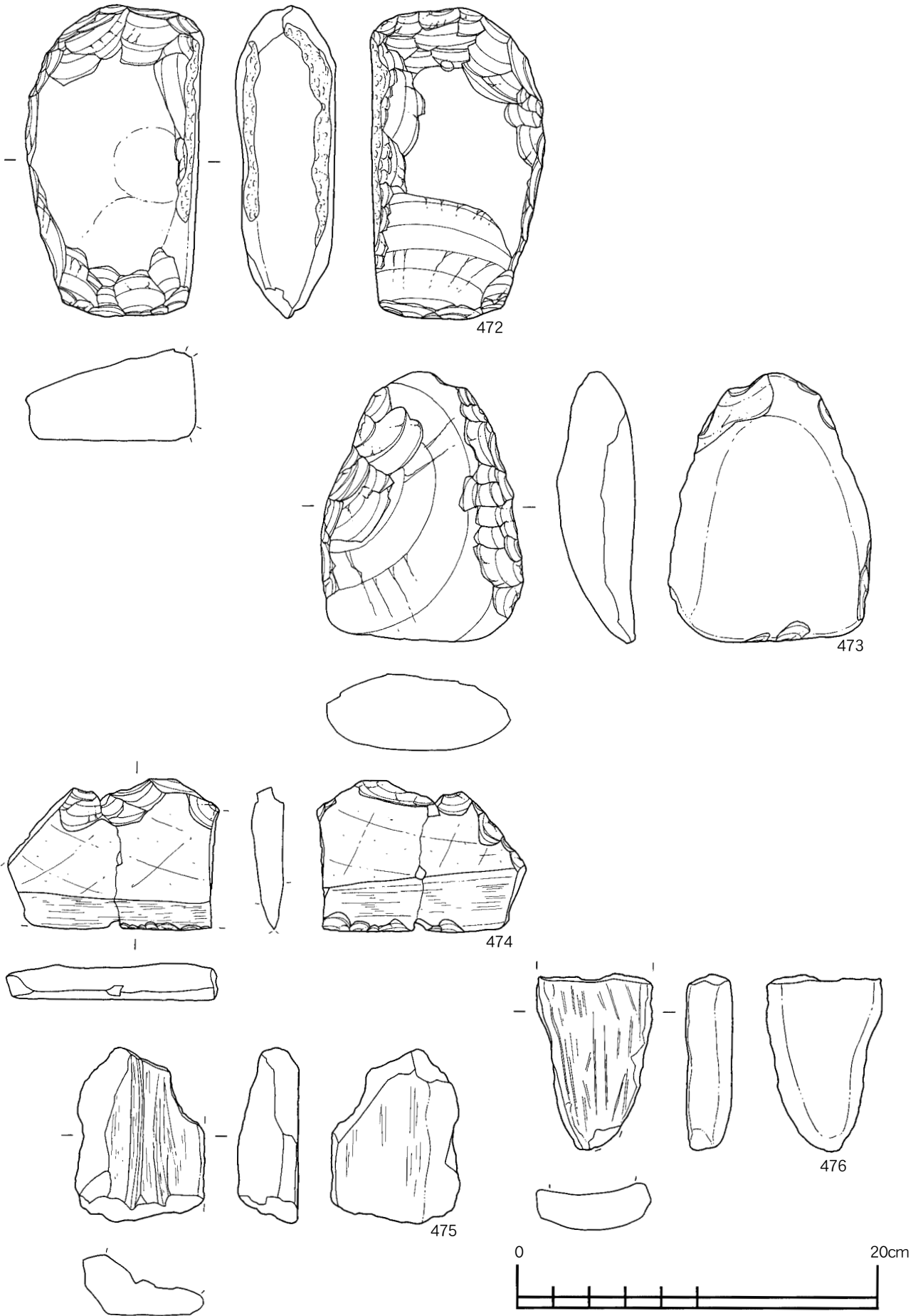
第340図 遺構外出土石器 (56)



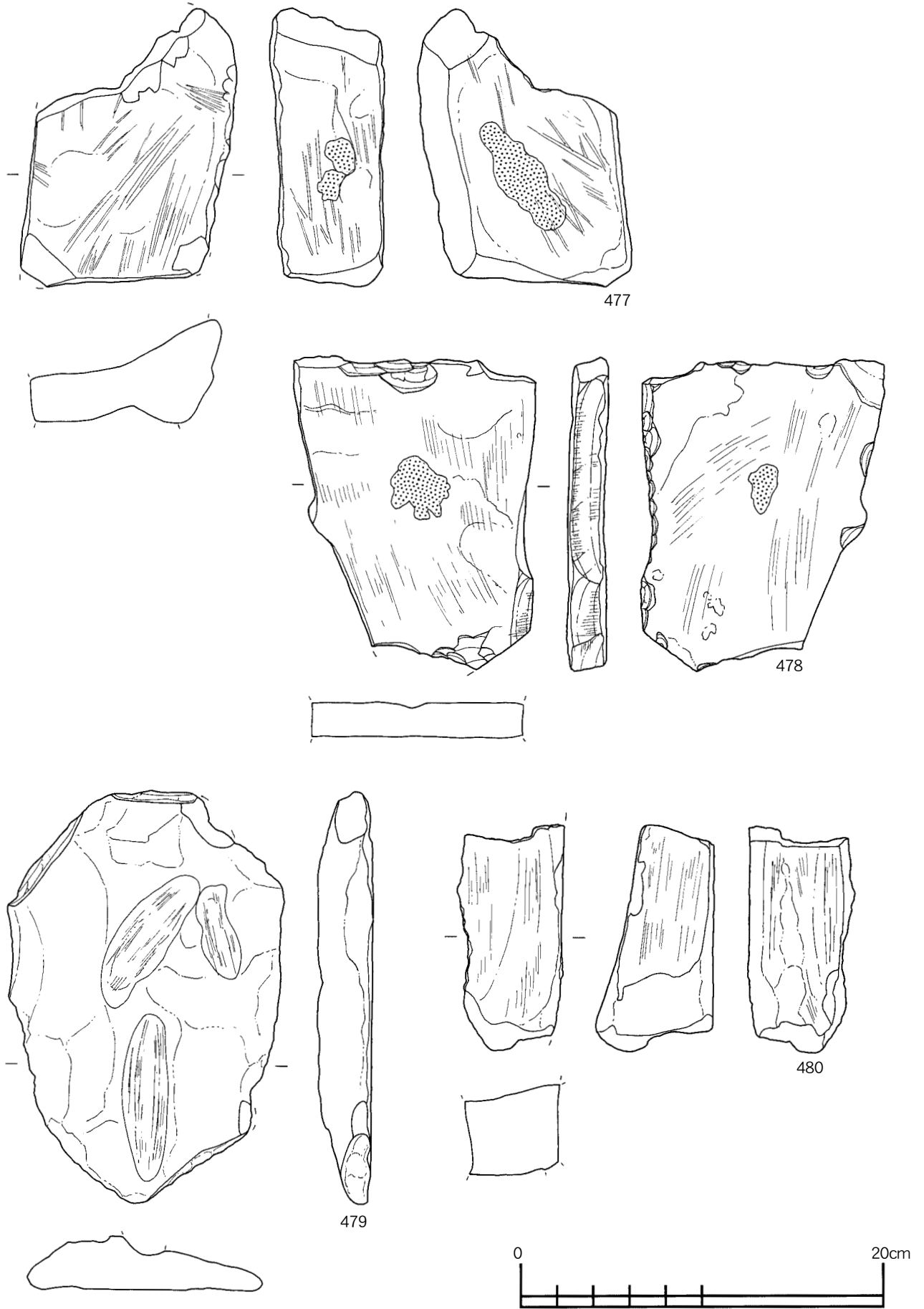
第341図 遺構外出土石器 (57)



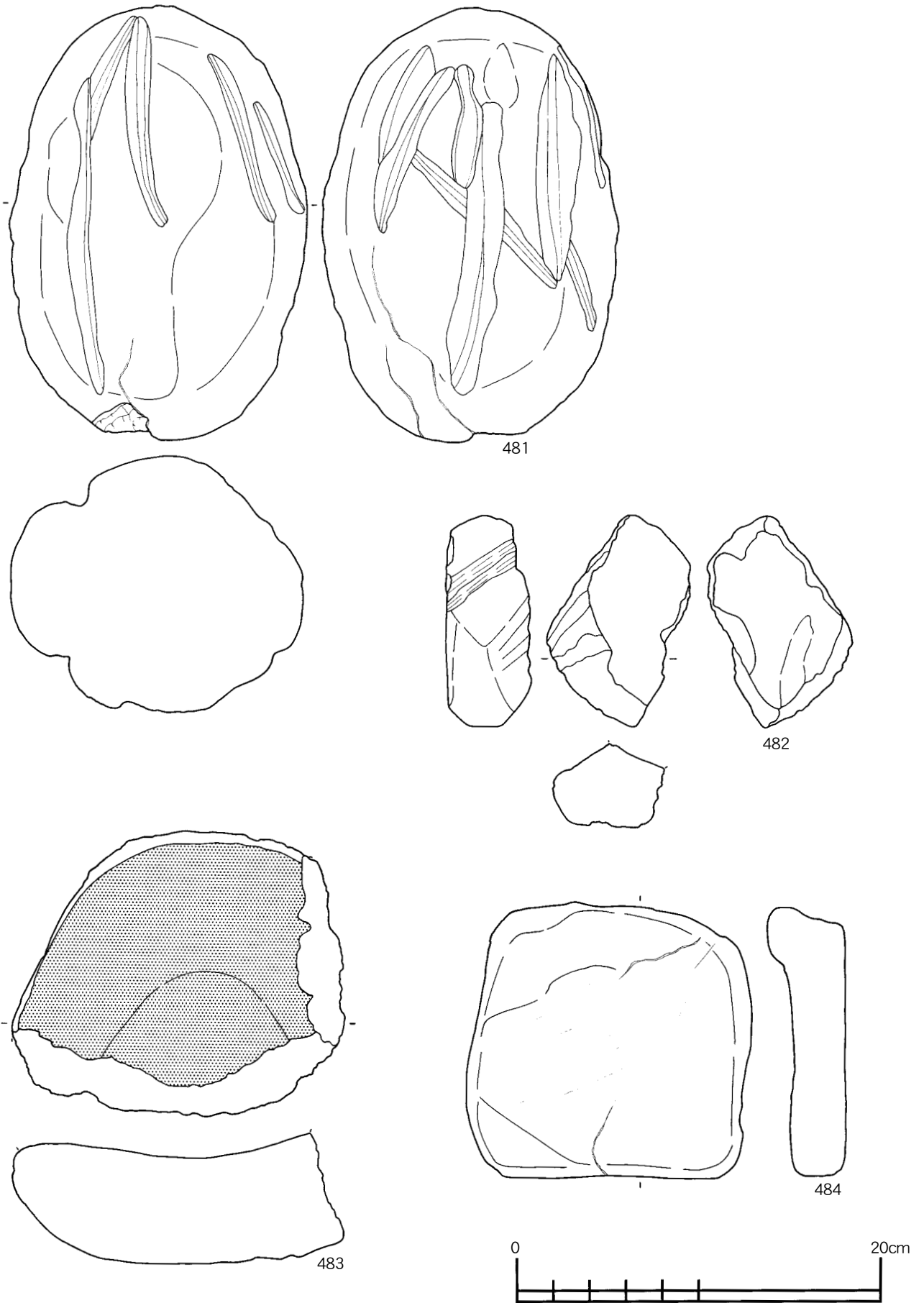
第342図 遺構外出土石器 (58)



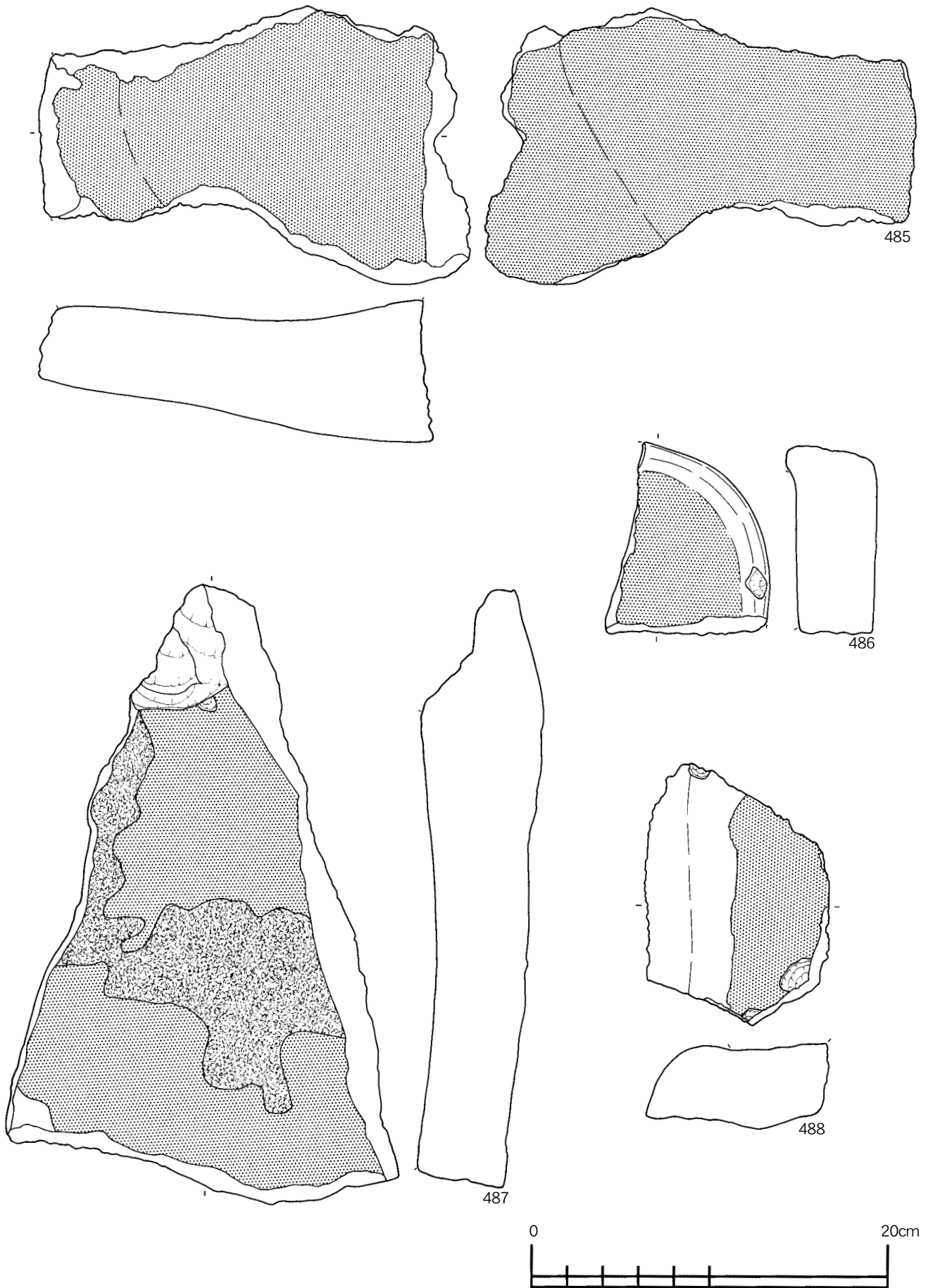
第343図 遺構外出土石器 (59)



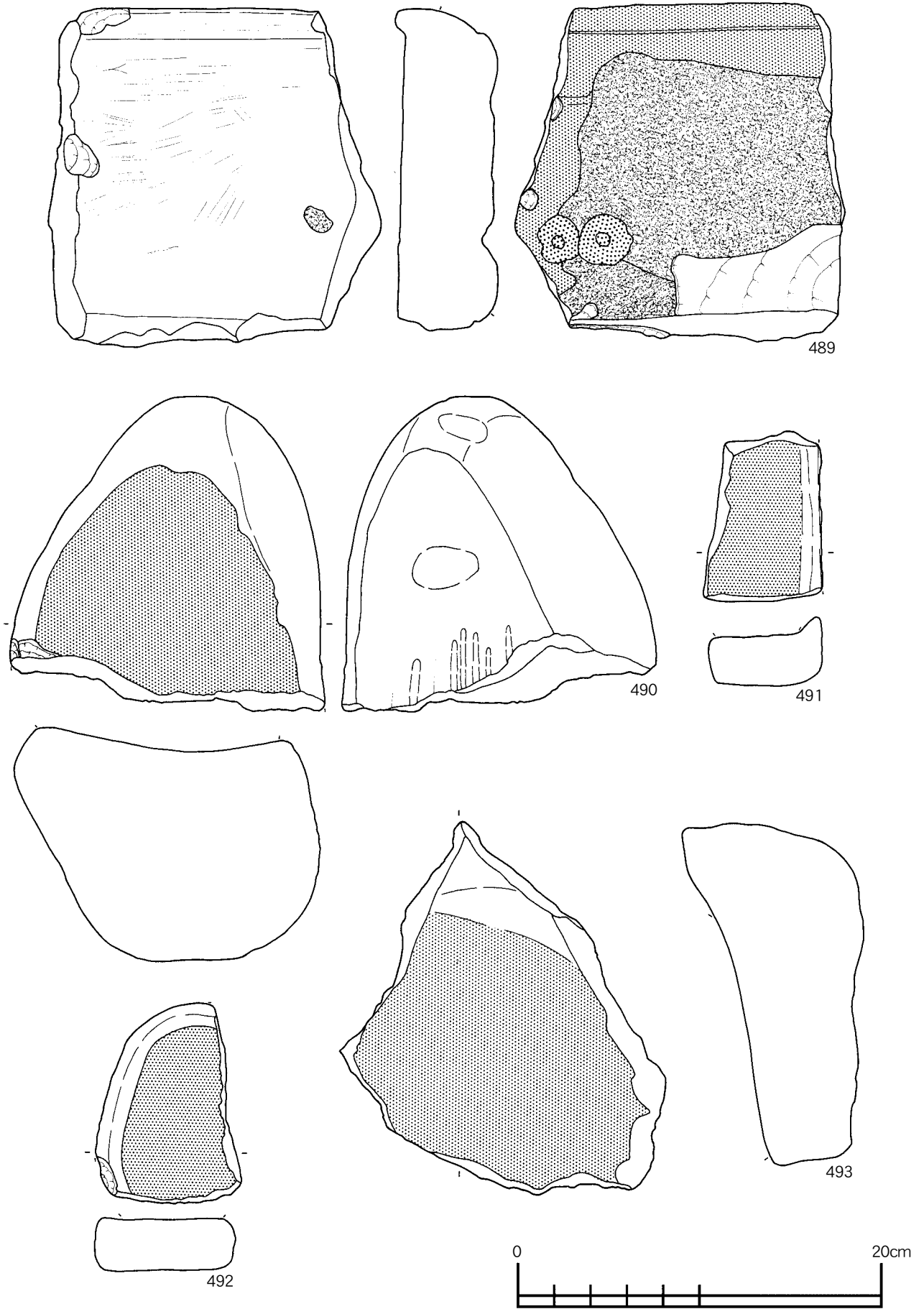
第344図 遺構外出土石器 (60)



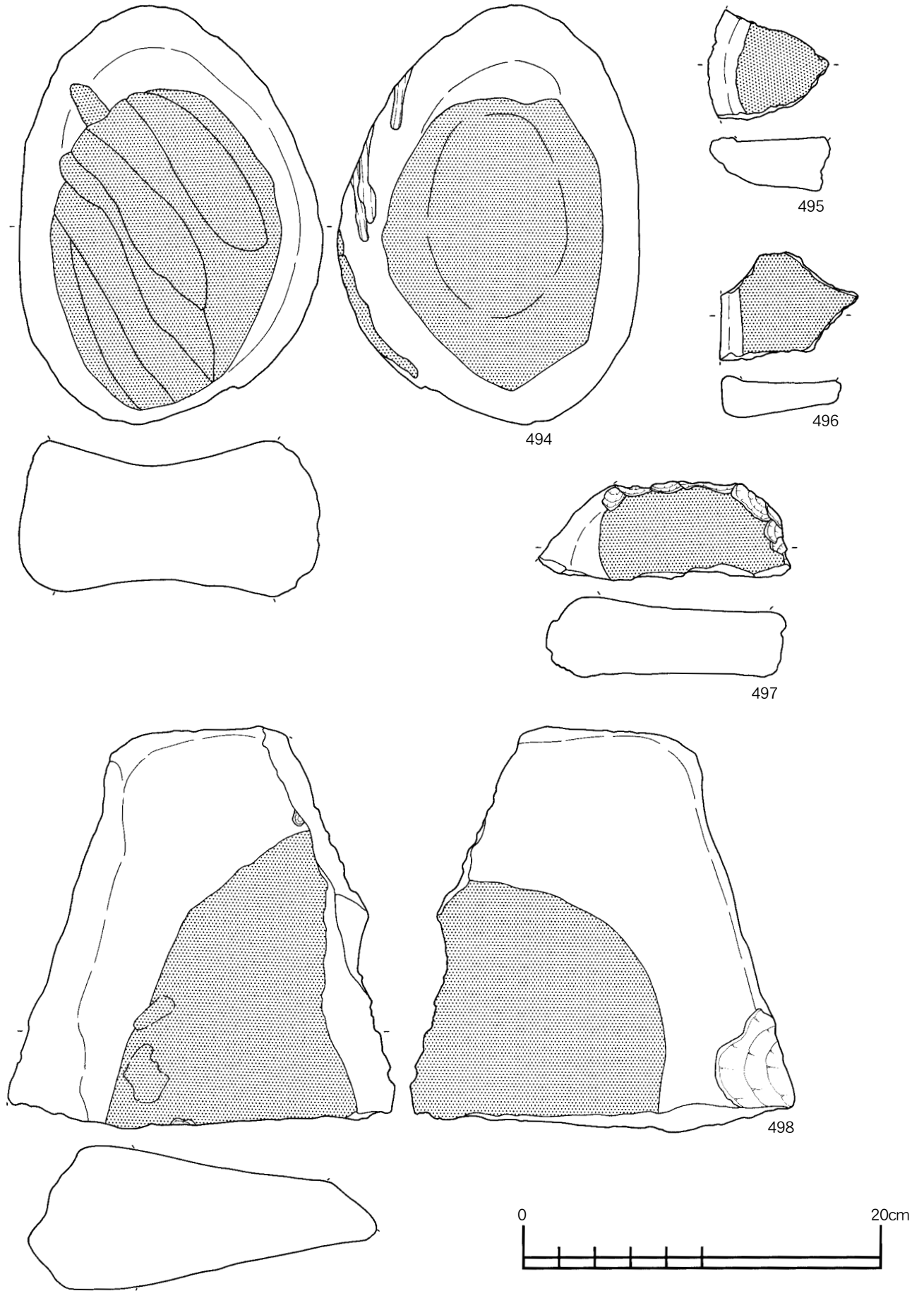
第345図 遺構外出土石器 (61)



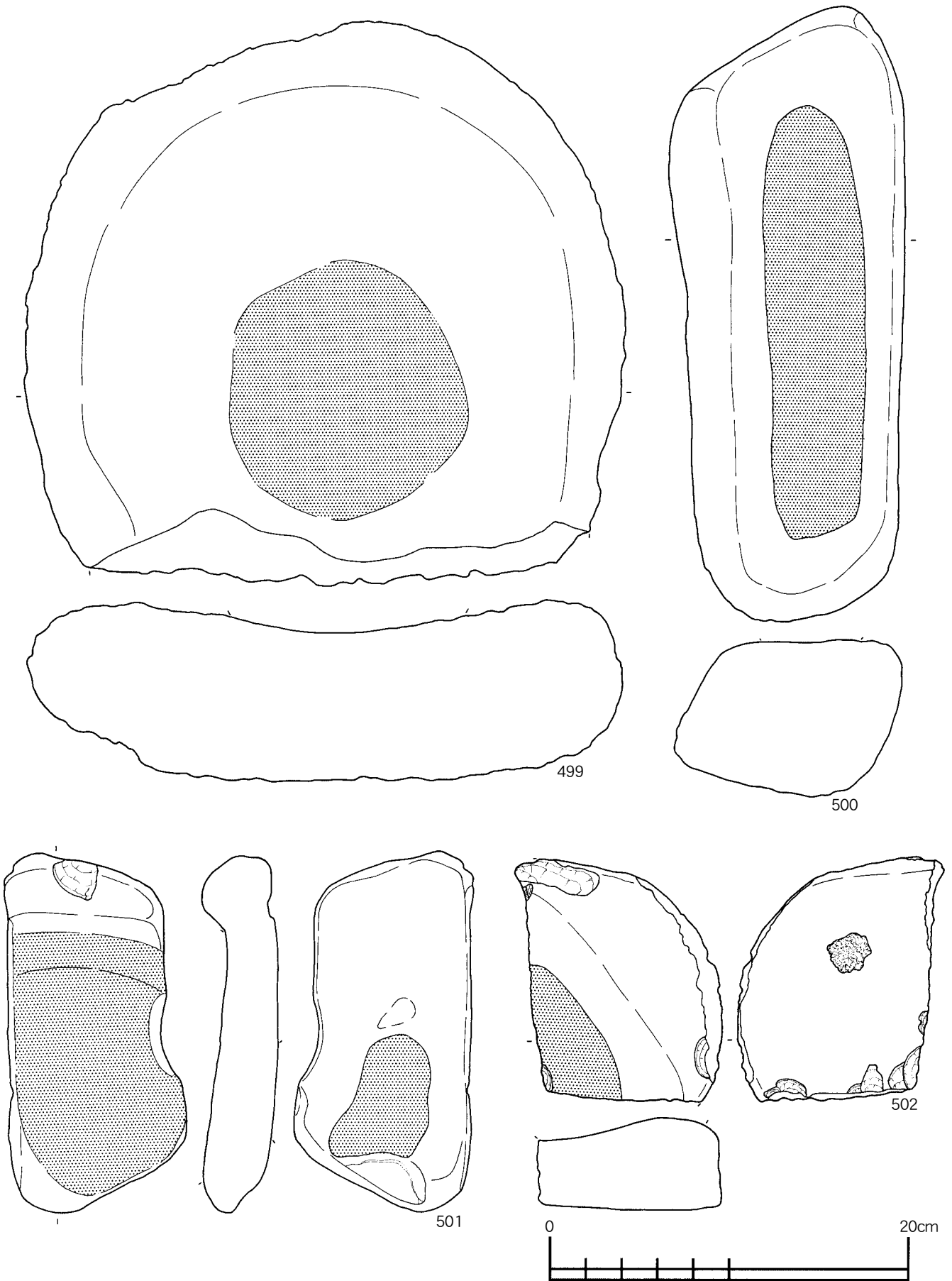
第346図 遺構外出土石器 (62)



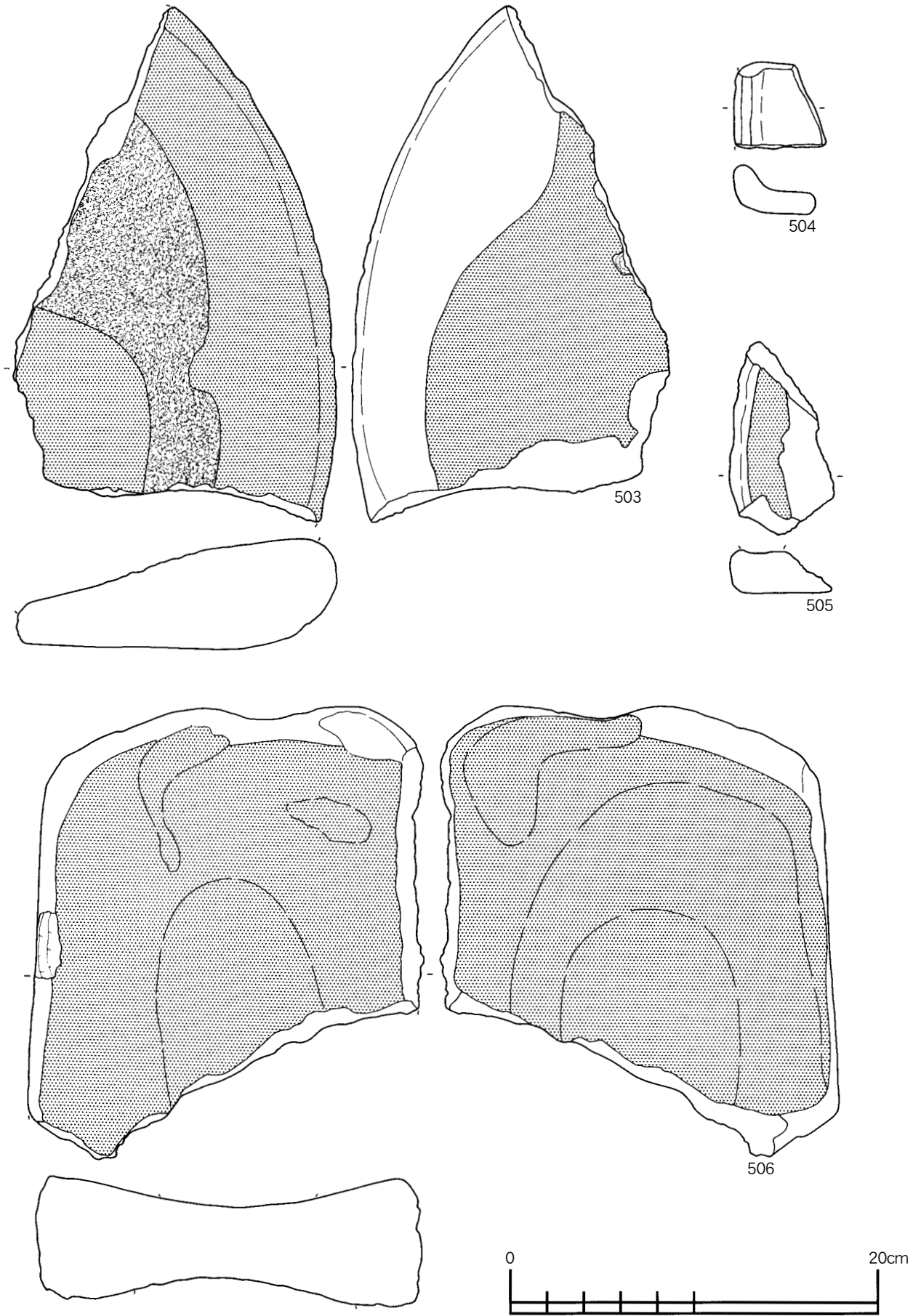
第347図 遺構外出土石器 (63)



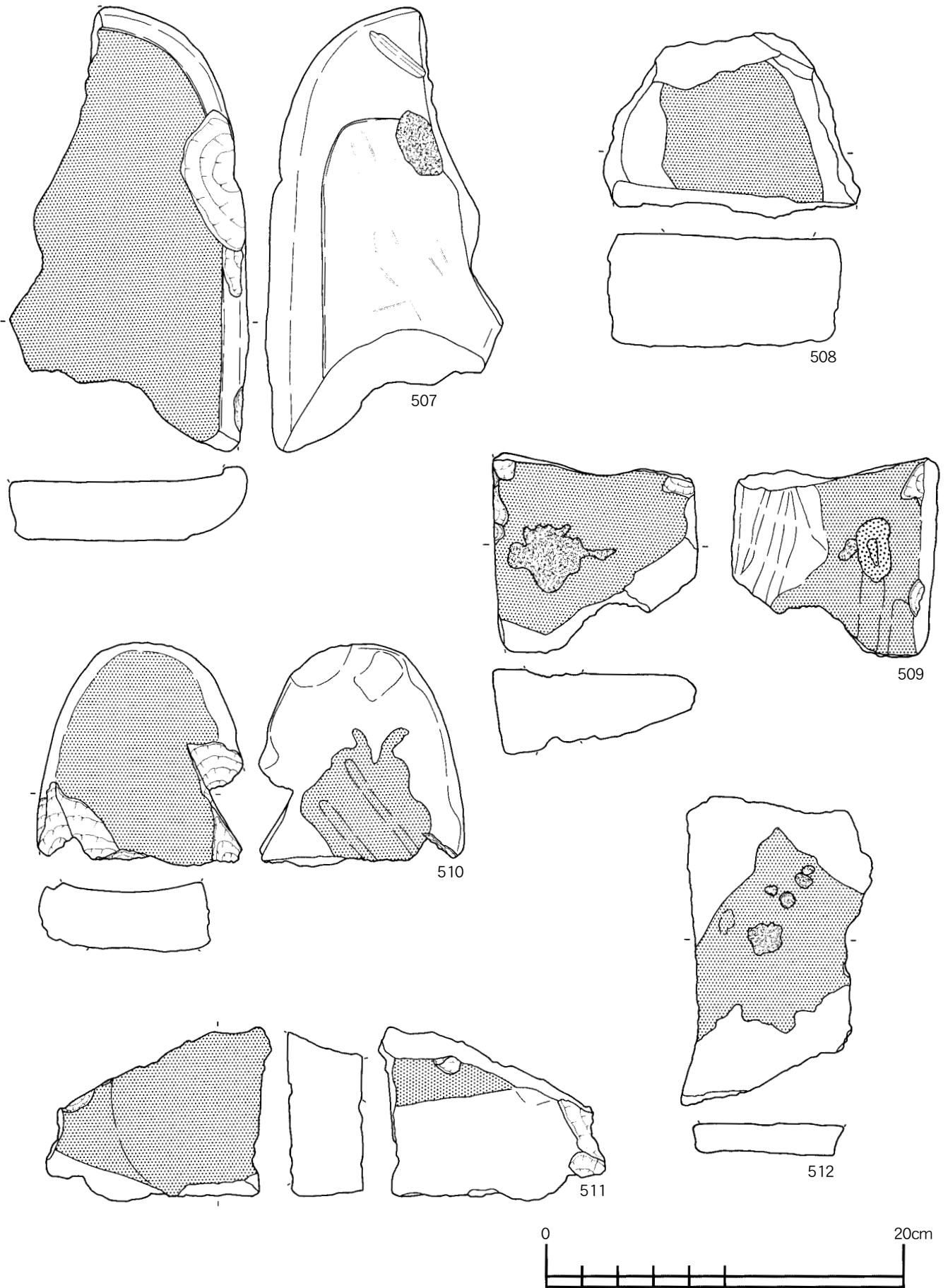
第348図 遺構外出土石器 (64)



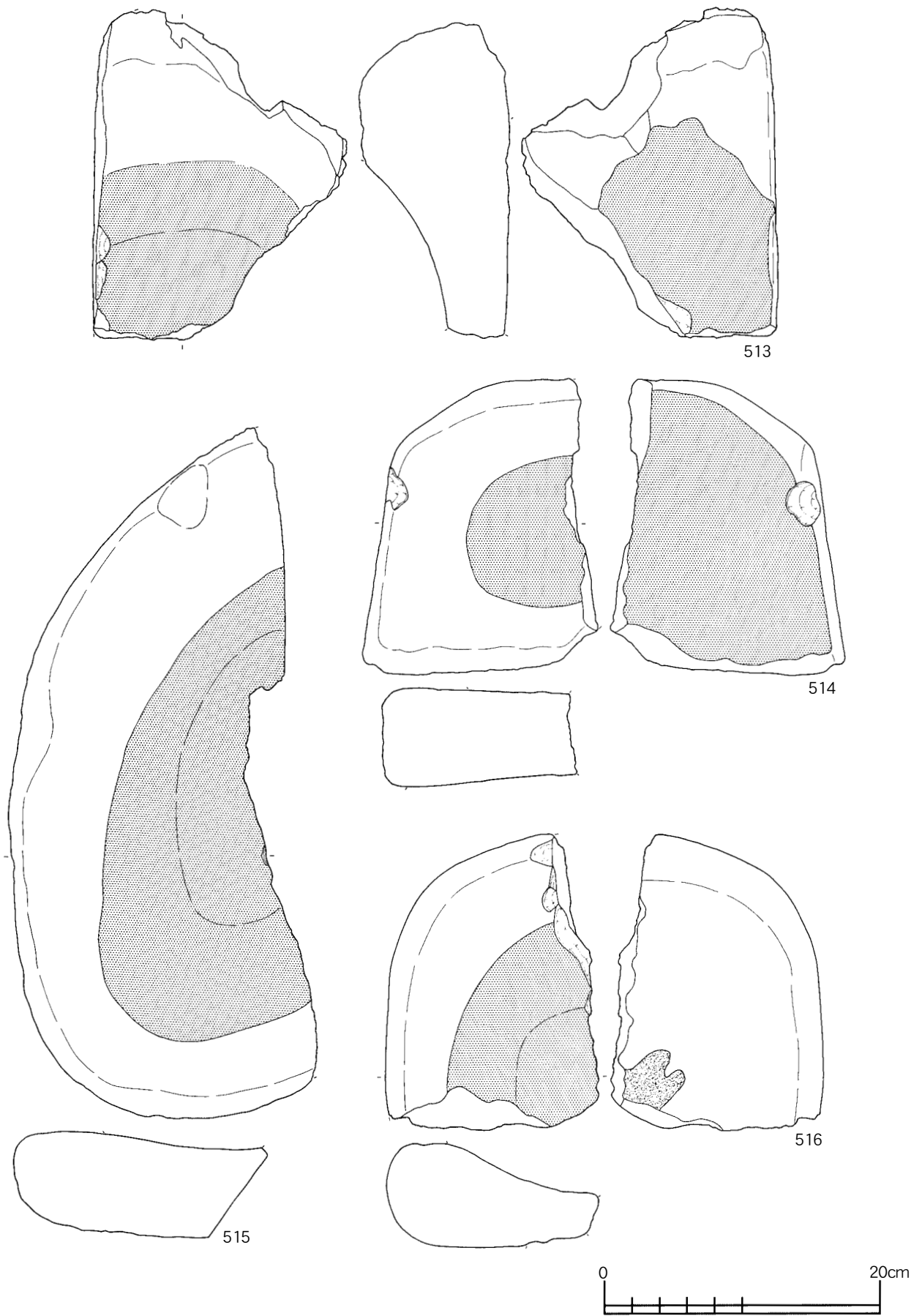
第349図 遺構外出土石器 (65)



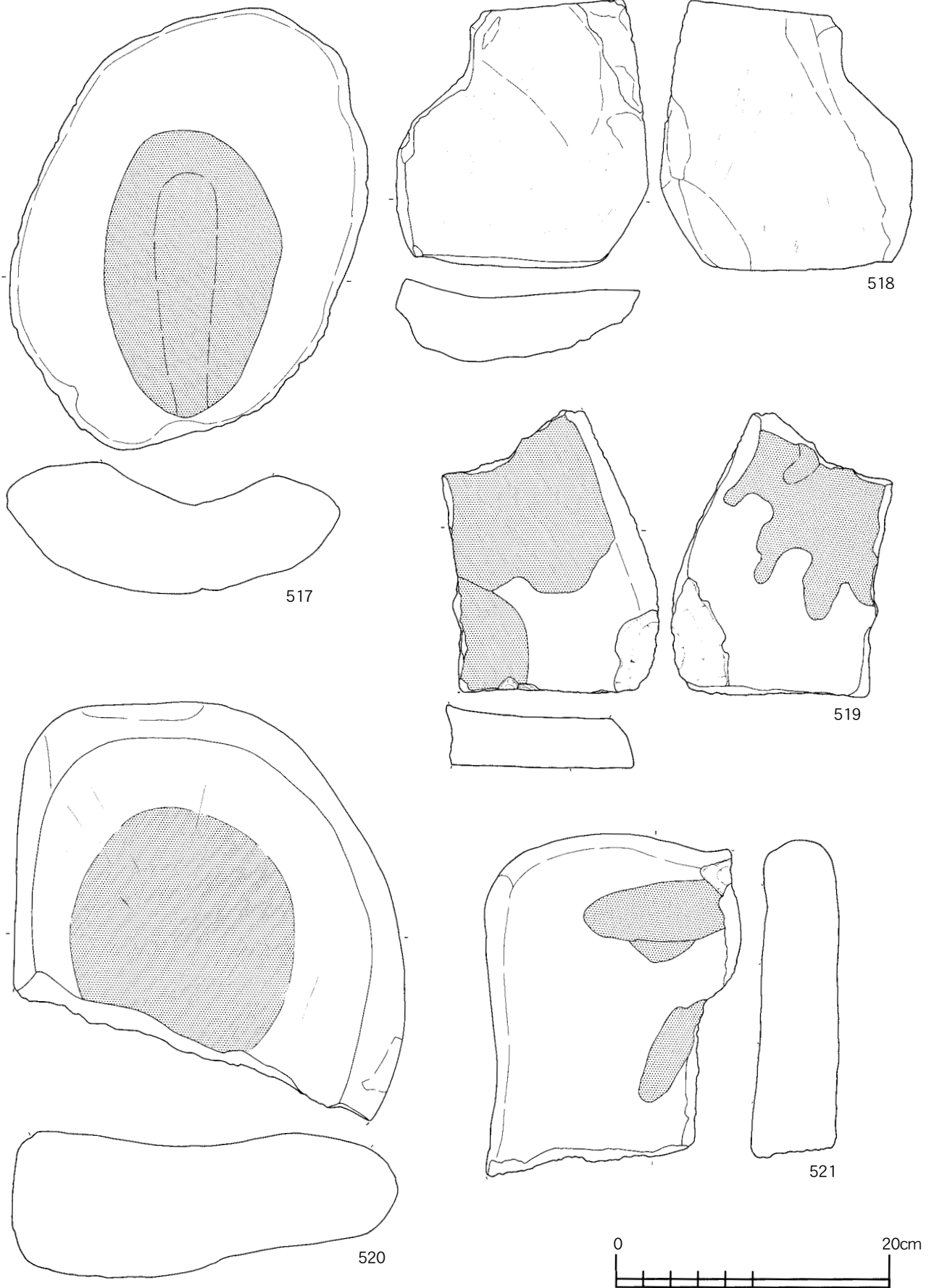
第350図 遺構外出土石器 (66)



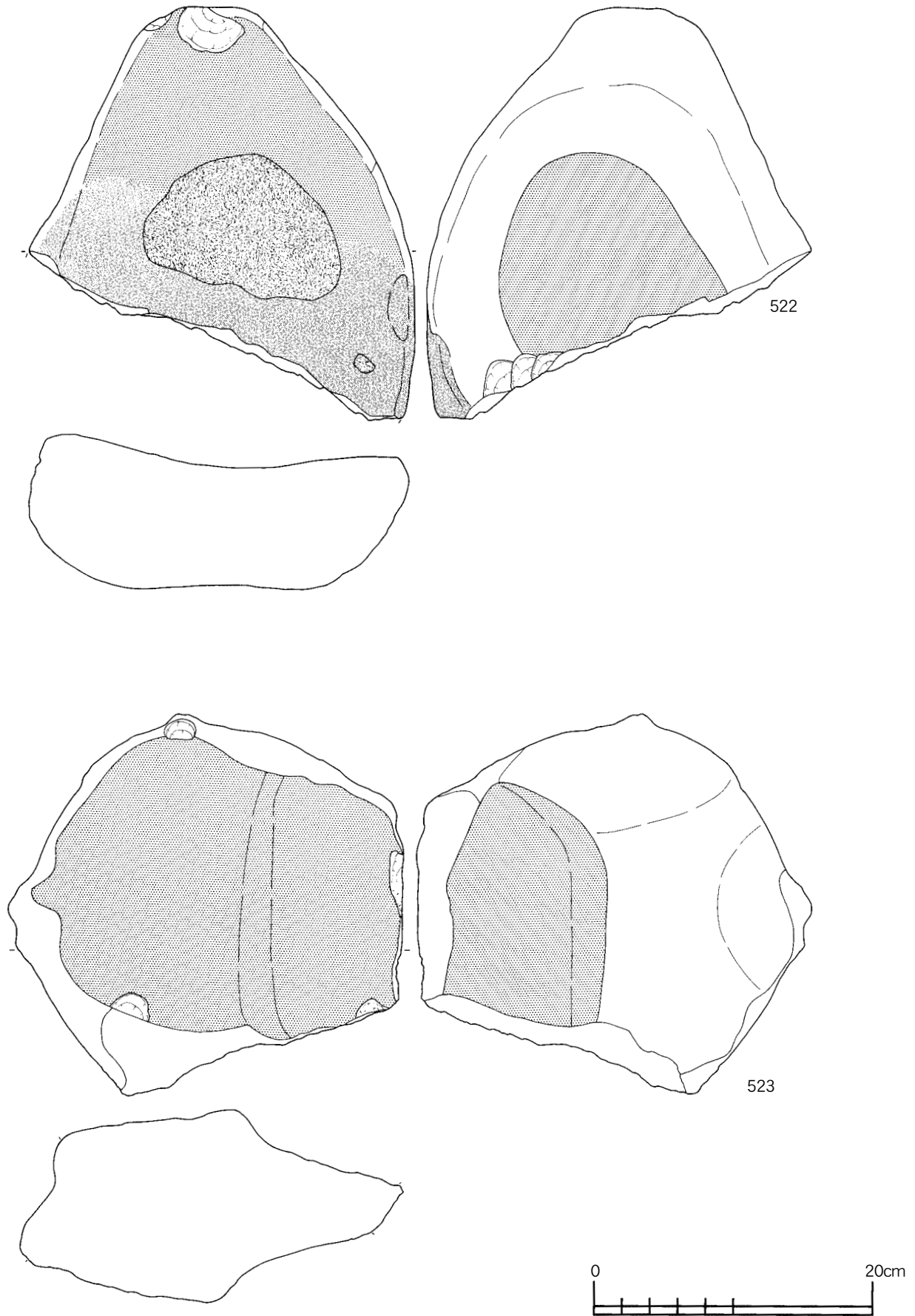
第351図 遺構外出土石器 (67)



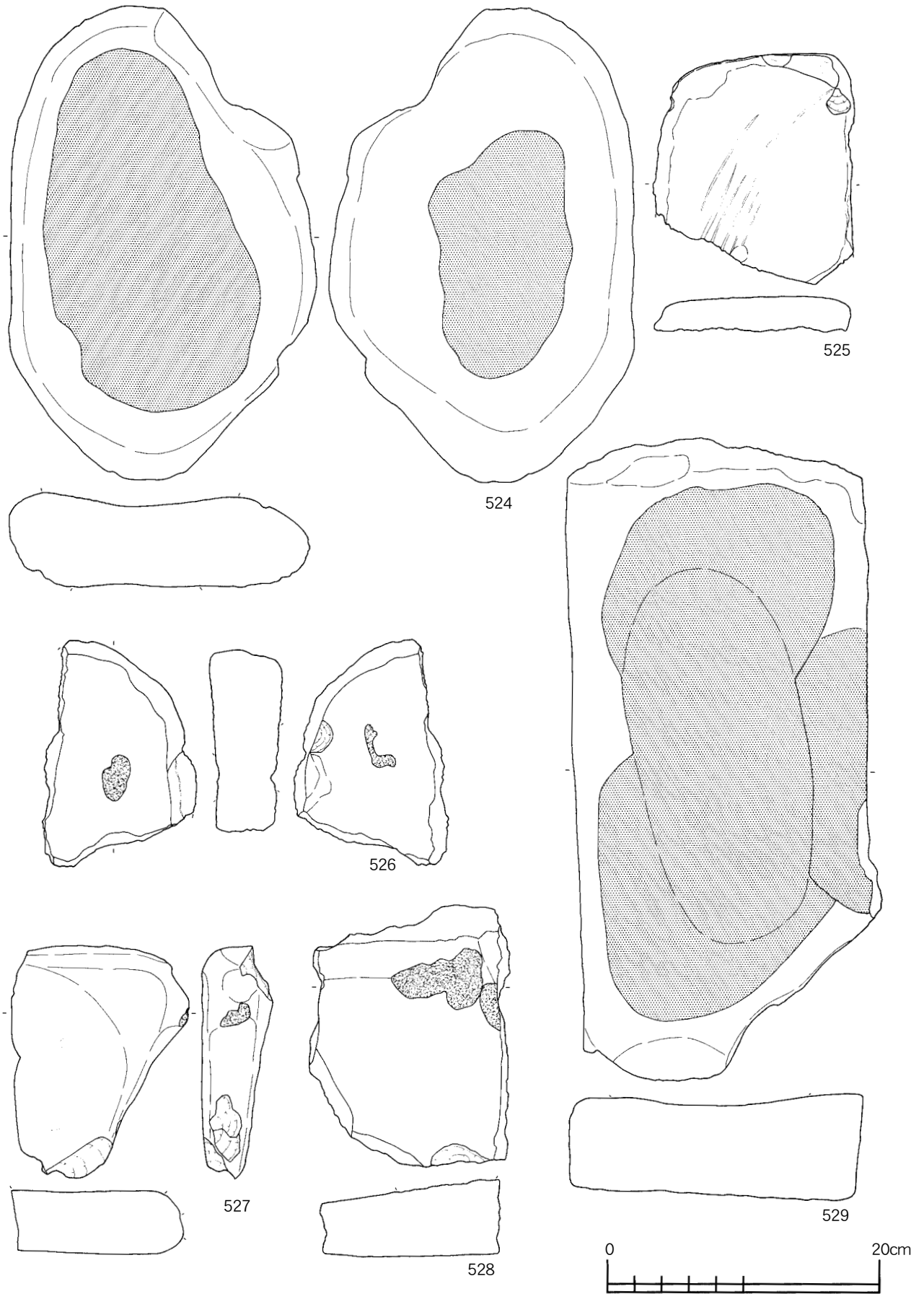
第352図 遺構外出土石器 (68)



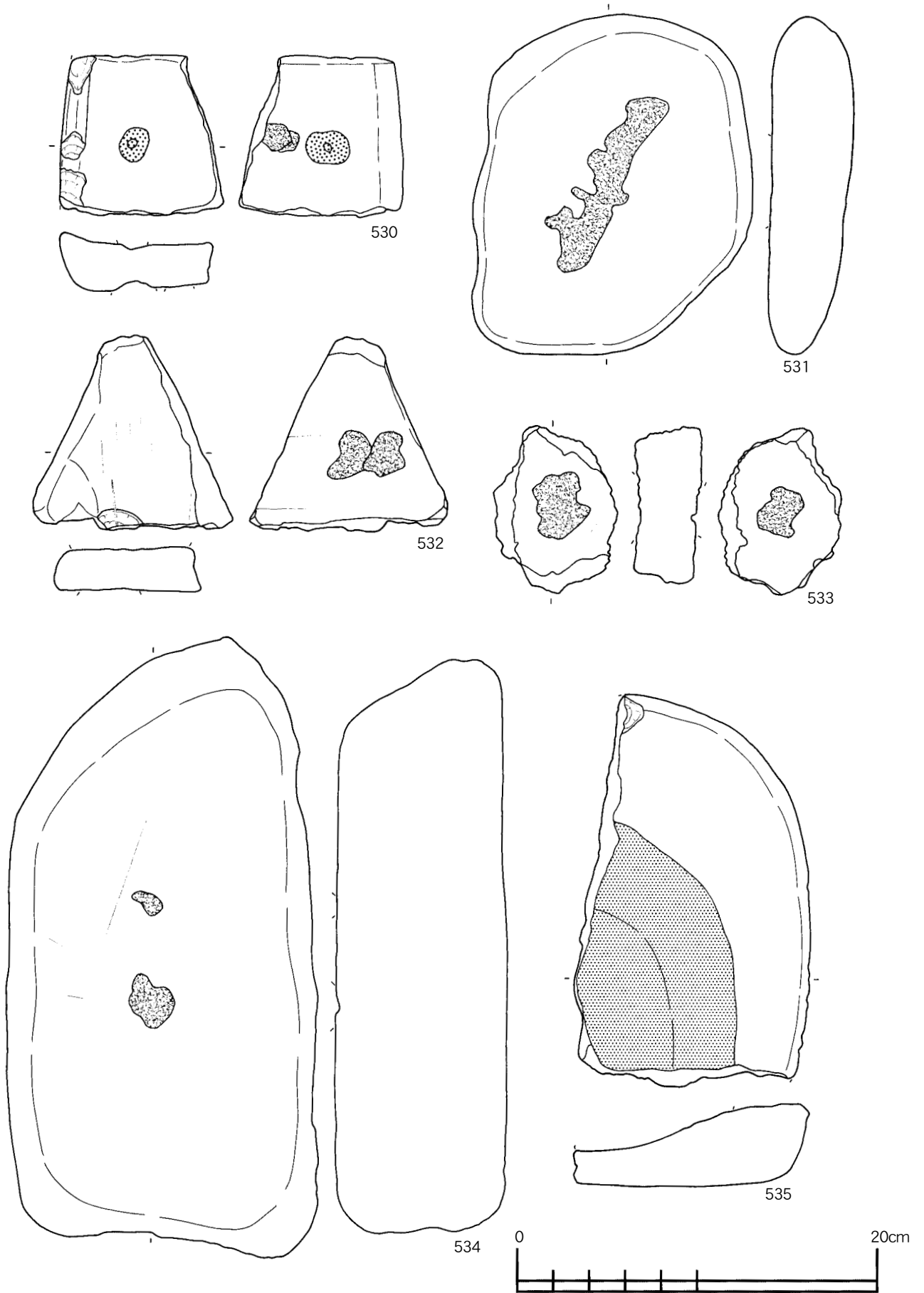
第353図 遺構外出土石器 (69)



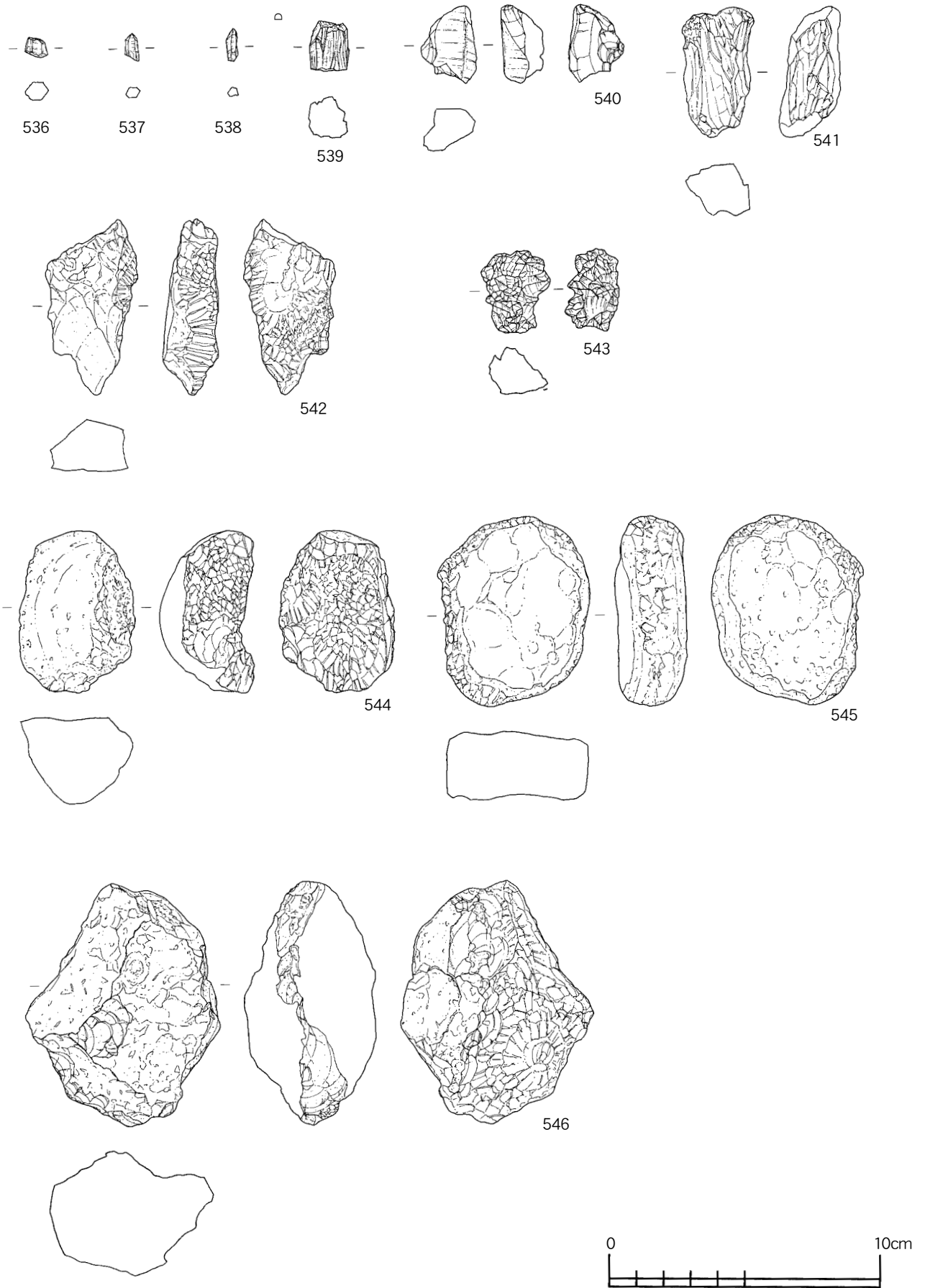
第354図 遺構外出土石器 (70)



第355図 遺構外出土石器 (71)



第356図 遺構外出土石器 (72)



第357図 遺構外出土石器 (73)

3. 土製品

本調査で出土した土製品は、遺構内111点、遺構外438点、計549点である。出土した土製品の種別、数量は、下表のとおりである。なお、平成10年度調査報告（青森市教育委員会 2001 第56集『稲山遺跡発掘調査報告書』）において細分されているものについては、同様の細分を行い、記述することとする。

種 別	遺 構 内	遺 構 外	合 計
土 偶	4	10	14
鐸 形 土 製 品	4	21	25
ミニチュア土器	12	54	66
有 孔 土 製 品		3	3
三 角 形 土 版		1	1
土 版		5	5
腕 輪 状 土 製 品		1	1
靴 形 土 製 品		1	1
茸 形 土 製 品		2	2
動 物 形 土 製 品		1	1
球 状 土 製 品		3	3
碗 状 土 製 品		1	1
土器片利用土製品	90	330	420
焼 成 粘 土 塊	2	5	7
合 計	111	438	549

土偶（第223図28、29、第224図42、49、第358図1～10）

人間の形態を模倣、もしくは抽象化して製作された土製品である。遺構内から4点、遺構外から10点、計14点出土している。完形のものではなく、頭部、胴部、腕部、脚部の破片が出土している。

・頭部（第223図28、29、第358図1）

顔面が円形ないし方形状に整形され、目、鼻と思われる表現が顔面下部に見られるほか、おおむね2列の刺突列による施文が施されるもの（第358図1）、顔面が逆三角形に整形され、目、口、鼻穴が刺突、眉、鼻が隆帯により表現されるもの（第223図28、29）が見られる。

・胴部（第358図2、3、6、7、9）

両腕部も残存し、乳房が貼付により表現され、肩上部から外側へ斜位の貫通孔が施されるもの（第358図2）、乳房が貼付により表現され、連続する短沈線が横位に一条、縦位にほぼ平行に施されるもの（第358図3）、胴部正面、背面に沈線、短沈線により格子目状沈線が施されるもの（第358図6）、胴部正面に渦巻状沈線と斜位の平行沈線、背面に渦巻状沈線と横位、斜位の沈線、側面に縦位の沈線が施されるもの（第358図7）、両脚部も残存し、正面、背面、側面におおむね縦位に刺突列と沈線が施されるもの（第358図9）が見られる。

・腕部（第358図4、5、8）

肩上部から内側へ斜位の貫通孔が施されるもの（第358図4）、肩上部から外側へ斜位の貫通孔が施さ

れるもの(第358図5) 肩上部からやや内側へ斜位の貫通孔が見られるほか、正面、背面、側面に横位、縦位、斜位の短沈線により格子目状沈線が施されるもの(第358図8)が見られる。

・脚部(第224図42、49、第358図10)

すねから下(第224図49) 足首から下(第224図49) 膝から下(第358図10)がそれぞれ残存している。刻目で足の指が表現されているもの(第224図42、第358図10)が見られる。

鐸形土製品(第225図54、65、73、第226図79、第359図11~31)

鐸や鐘等の形状を呈している土製品である。遺構内から4点、遺構外から21点、計25点出土している。形状、文様については、以下のとおりである。

[形状]

- a : 突起の短軸方向に開口部と平行に穿孔されるもの(第225図54、第359図11~14) 20.0%(5点)
- b : 突起の長軸方向に開口部と平行に穿孔されるもの(第225図65、73、第359図15~23) 44.0%(11点)
- c : 二又突起の短軸方向に穿孔されるもの(第359図24) 4.0%(1点)
- d : 二又突起の短軸方向に穿孔されるもの(第359図26) 4.0%(1点)
- e : 二又突起の両端を斜位方向に穿孔されるもの(第359図25) 4.0%(1点)
- f : ほぼ円形の突起に穿孔されるもの(第226図79、第359図28、29) 12.0%(3点)
- g : 突起のないもの。0.0%(0点)
- x : 不明なもの(第359図27、30、31) 12.0%(3点)

[文様]

- a : 無文のもの(第225図54、65、73、第359図11、12、14~19、23、27、30) 56.0%(14点)
- b : 沈線が施されるもの(第226図79、第359図20~22、24、28) 24.0%(6点)
- c : 沈線と刺突の両方が施されるもの(第359図13、25、26、29、31) 20.0%(5点)
- d : 隆帯が施されるもの。0.0%(0点)

ミニチュア土器(第223図18、24~26、第224図30、34、第225図74、第226図82~84、98、108、第360図32~69、第361図70~85)

手捏ねで作られた土器および器高や底径が5cm未満の小型の土器である。遺構内から12点、遺構外から54点、計66点出土している。

器形は、深鉢形が15点(第223図18、24、25、第224図30、34、第226図82~84、98、第360図32~37)、鉢形が33点(第225図74、第360図38、39、41~43、56~69、第361図70~81)、台付鉢が6点(第223図26、第226図108、第361図82~85)、浅鉢が1点(第360図40)、壺形が12点(第360図44~55)である。

文様は、無文のもの(第223図26、30、第360図33、40、44、46、47)、渦巻状沈線(第223図25、第360図36、58)、平行沈線(第360図37、38、51)、沈線と刺突(第360図41、42、43)、縄文(第226図82、第360図32、34、35)などが見られる。

腕輪状土製品(第361図86)

腕輪状の形状を呈する土製品である。遺構外より1点出土している。

両側が突起状の形となっており突起部内側には、刺突によると思われる窪みが各々6個所認められるほか、同様の窪みは片側端部にも1個所認められる。外側中央部には溝が形作られている。また、内側中央部には赤色顔料が残存している。

有孔土製品（第361図87～89）

貫通孔を有する土製品である。遺構外から3点出土している。

貫通孔は、おおむね三角形のもの（第361図87）には側縁から横位に、円柱状のもの（第361図89）には長軸方向に、盤状のもの（第361図88）には正面から背面に穿孔されている。

靴形土製品（第361図90）

靴形を呈する土製品である。遺構外から1点出土している。底部は丸みをおびており、突起状に伸びている端部には、側縁からの貫通孔が見られる。

苜形土製品（第361図91、92）

苜形を呈する土製品である。遺構外から2点出土している。楕円形の笠上部が若干丸みを帯び柄部も見られる完形のもの（第361図91）と、おおむね円形を呈すると思われる平坦な笠上部の残存するもの（第361図92）が見られる。

動物形土製品（第361図93）

動物の形を呈する土製品である。遺構外から1点出土している。

頭部形状より熊を模倣したと思われる、頭部から胴上半及び右前足が残存しており、目が刺突により表現されている。土器底部内面に貼付されていた可能性が考えられる。

三角形土版（第361図95）

平面形が三角形を呈する土版である。遺構外から1点出土している。

表面が球状に丸みを帯びており、裏面は湾曲している。残存部は無文である。

土版（第361図94、96～99）

平面形が円形、方形を呈する土版である。遺構外から5点出土している。破損しているがおおむね方形を呈するもの（第361図94）は、正面と側面に縦位に刺突列及び沈線が施されている。土偶胴部から欠落した可能性も考えられるかもしれない。その他は円形、楕円形を呈する。縁辺に半裁竹管状工具によると思われる刺突が施されるもの（第361図96）も見られる。

土器片利用土製品（第90図2、第223図1～17、19～23、27、第224図31～33、35～41、43～48、50～52、第225図53、55～59、61～64、66～72、75、76、第226図77、78、80、81、85～97、99～107、109、第362図100～134、第363図135～169、第364図170～204、第365図205～240、第366図241～274、第367図275～310、第368図311～345、第369図346、347）

土器の破片を打ち欠きや研磨により、三角形、円形等に形作った土製品である。遺構内から90点、遺

構外から330点、計420点出土している。

(形状)

- ・ 三角形を呈するもの。18.3% (77点)
- ・ 円形を呈するもの。73.5% (309点)
- ・ 楕円形を呈するもの。4.7% (20点)
- ・ 方形を呈するもの。0.7% (3点)
- ・ 貫通孔を有するもの。出土していない。
- ・ その他の形状のもの。2.6% (11点)

(素材)

深鉢形土器の、胴部片が用いられていると思われる。

(破損状況)

完形品ないし一部欠損のものが大半を占める。その他、約半分欠損するものが見られ、一部残存のものは確認していない。しかし、平成10年度の報告にもあるように、本製品の認定にあたって欠損品が認定されにくいという状況が影響している可能性も考えられる。

(加工状況)

- a : 打ち欠きのみのももの。12.3% (52点)
- b : 打ち欠き後、一部に研磨が施されるもの。25.7% (108点)
- c : 全周に研磨が施されるもの。61.9% (260点)

形状毎の加工状況は次の通りである。

- ・ 三角形を呈するもの： a 13点、17点、c 47点。
- ・ 円形を呈するもの： a 34点、b 73点、c 202点。
- ・ 楕円形を呈するもの： a 2点、b 15点、c 3点。
- ・ 方形を呈するもの： a 0点、b 0点、c 3点。
- ・ その他の形状を呈するもの： a 3点、b 3点、c 5点。

球状土製品 (第369図348～350)

球状を呈する土製品である。遺構外から3点出土している。

散発的に刺突やヘラ状工具の痕跡が認められるもの(第369図350)も見られる。

碗状土製品 (第369図351)

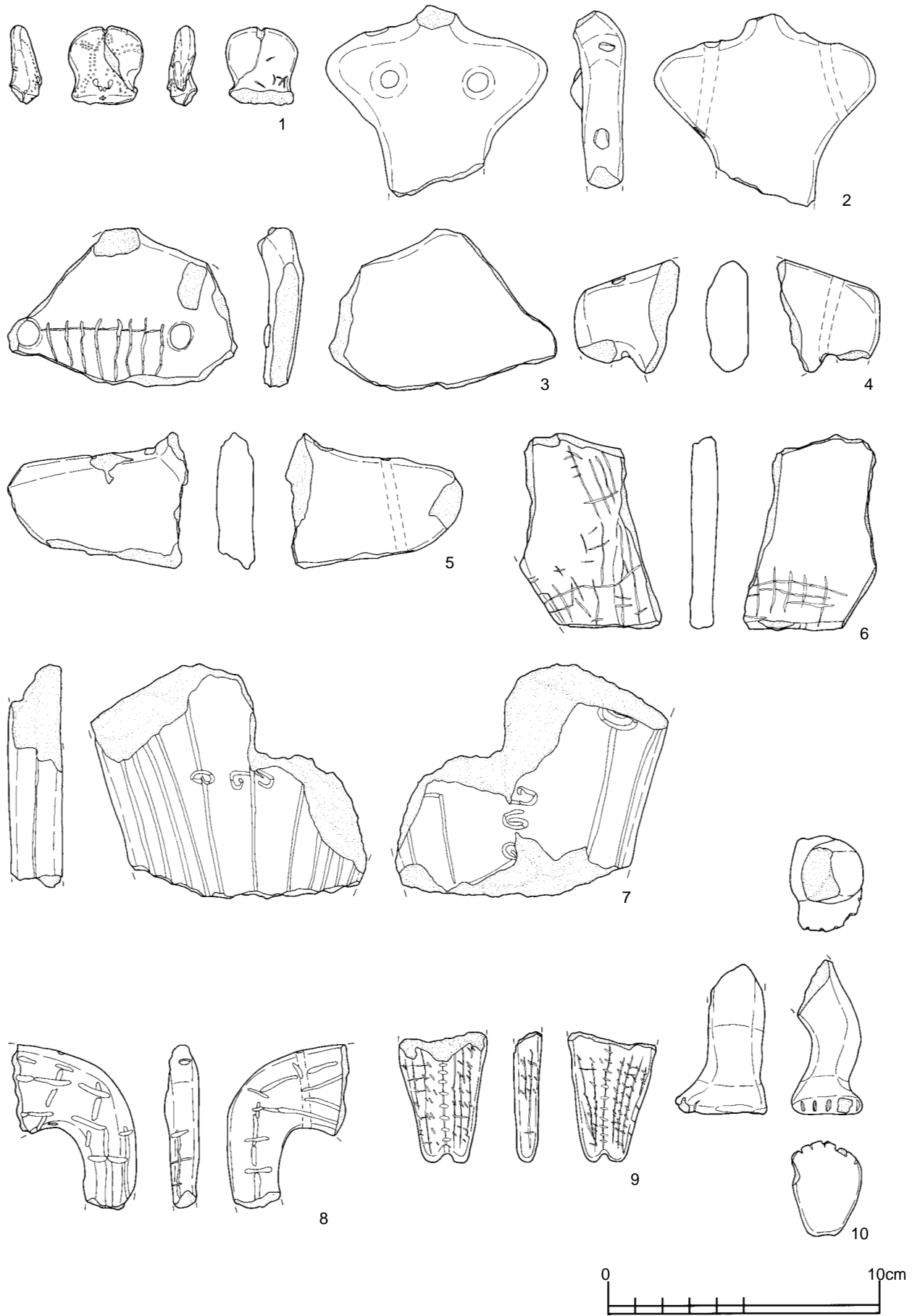
碗状を呈する土製品である。遺構外から1点出土している。

外面が丸みを帯び、内面中央部が窪んでいる。あるいは、苺形土製品の笠部である可能性も考えられる。

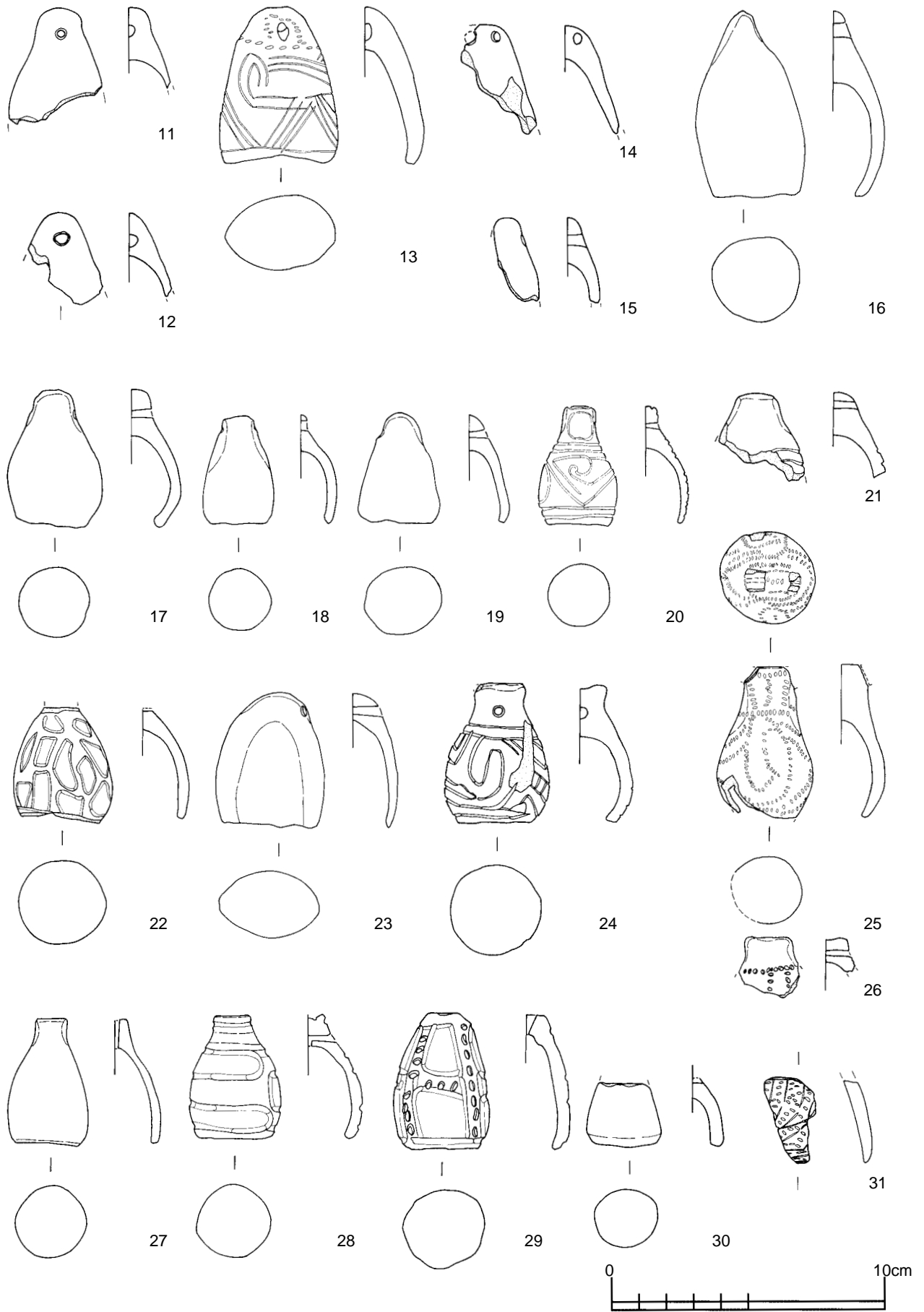
焼成粘土塊 (第90図1、第225図60、第369図352～356)

焼成された不定形の粘土の塊である。遺構内から2点、遺構外から5点、計7点出土している。

一面のみ平坦面を有するもの(第369図352、353) 指頭による調整痕が認められるもの(第225図60、第369図354) 折り曲げられた痕跡が認められるもの(第369図356) 一部工具の痕跡が認められるもの(第369図355) などが見られる。



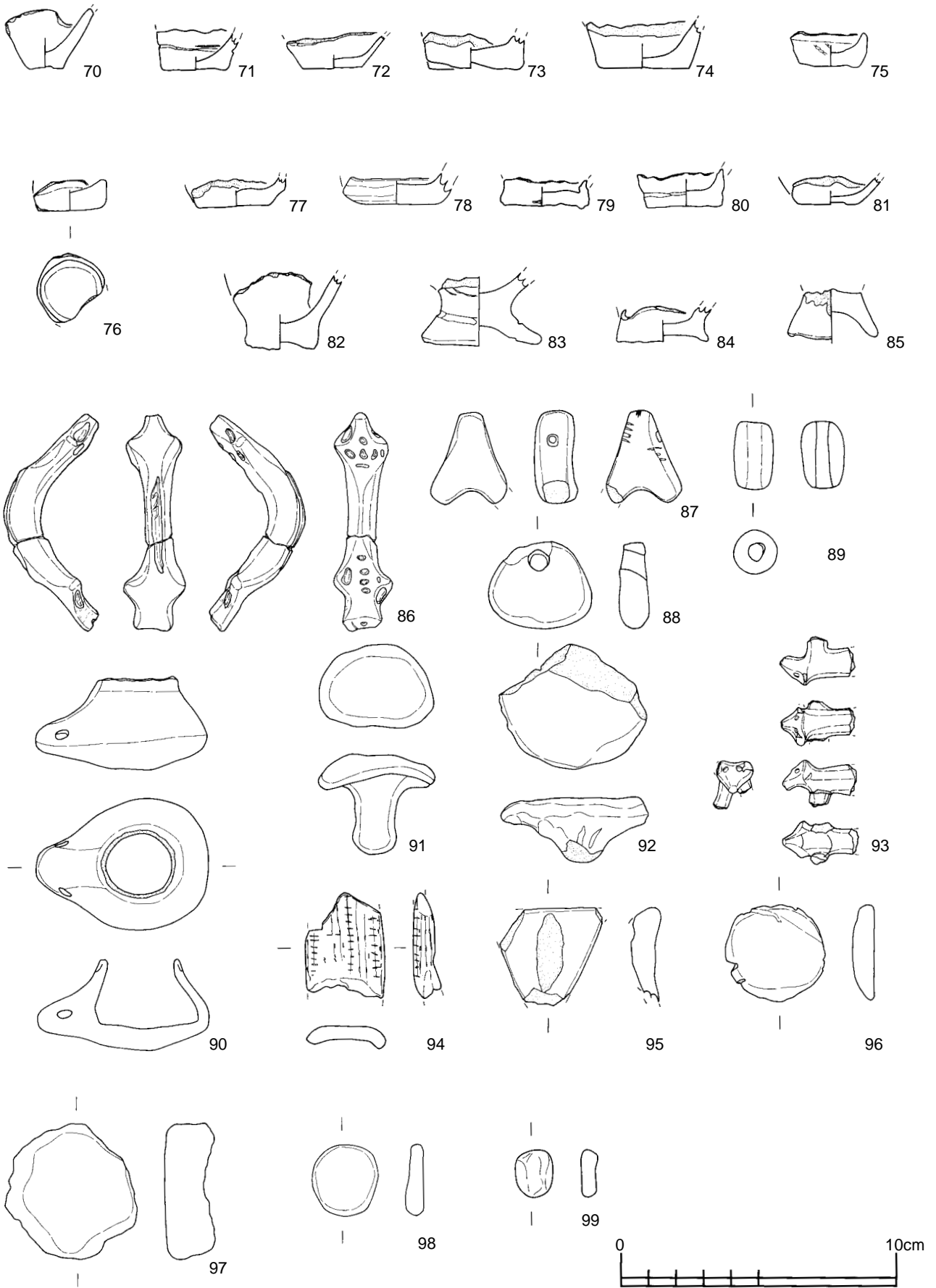
第358図 遺構外出土土製品(1)



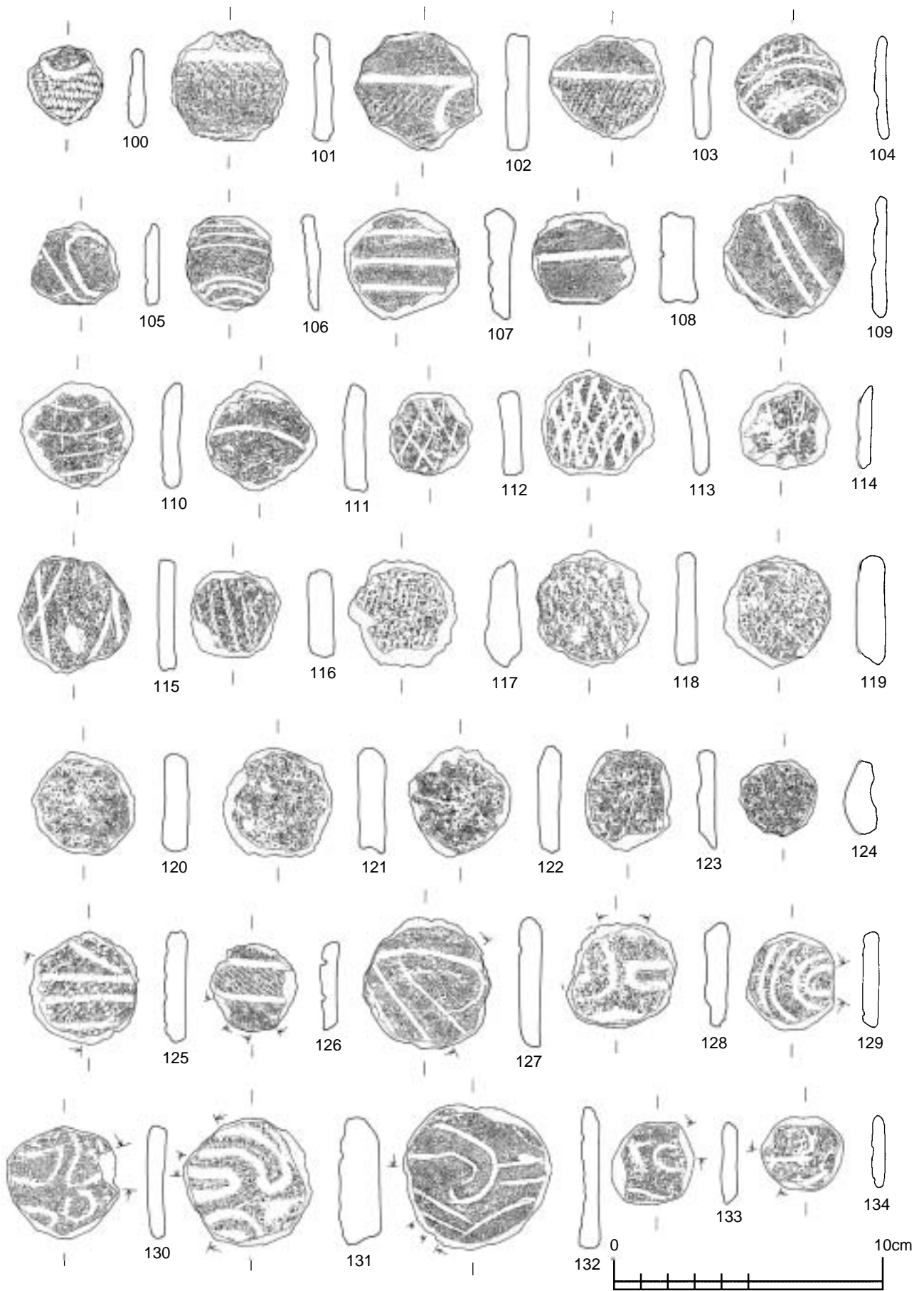
第359図 遺構外出土土製品(2)



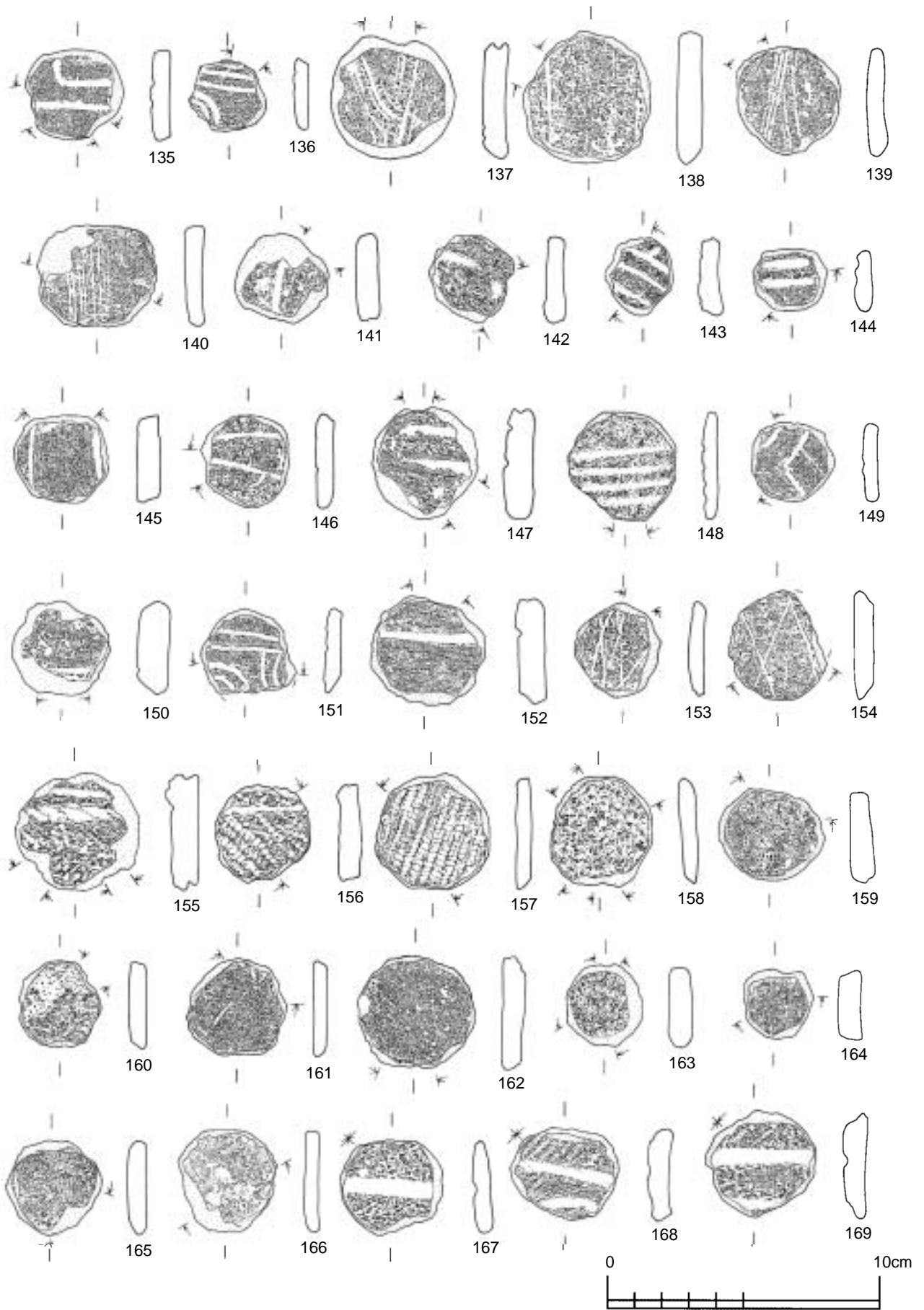
第360図 遺構外出土土製品(3)



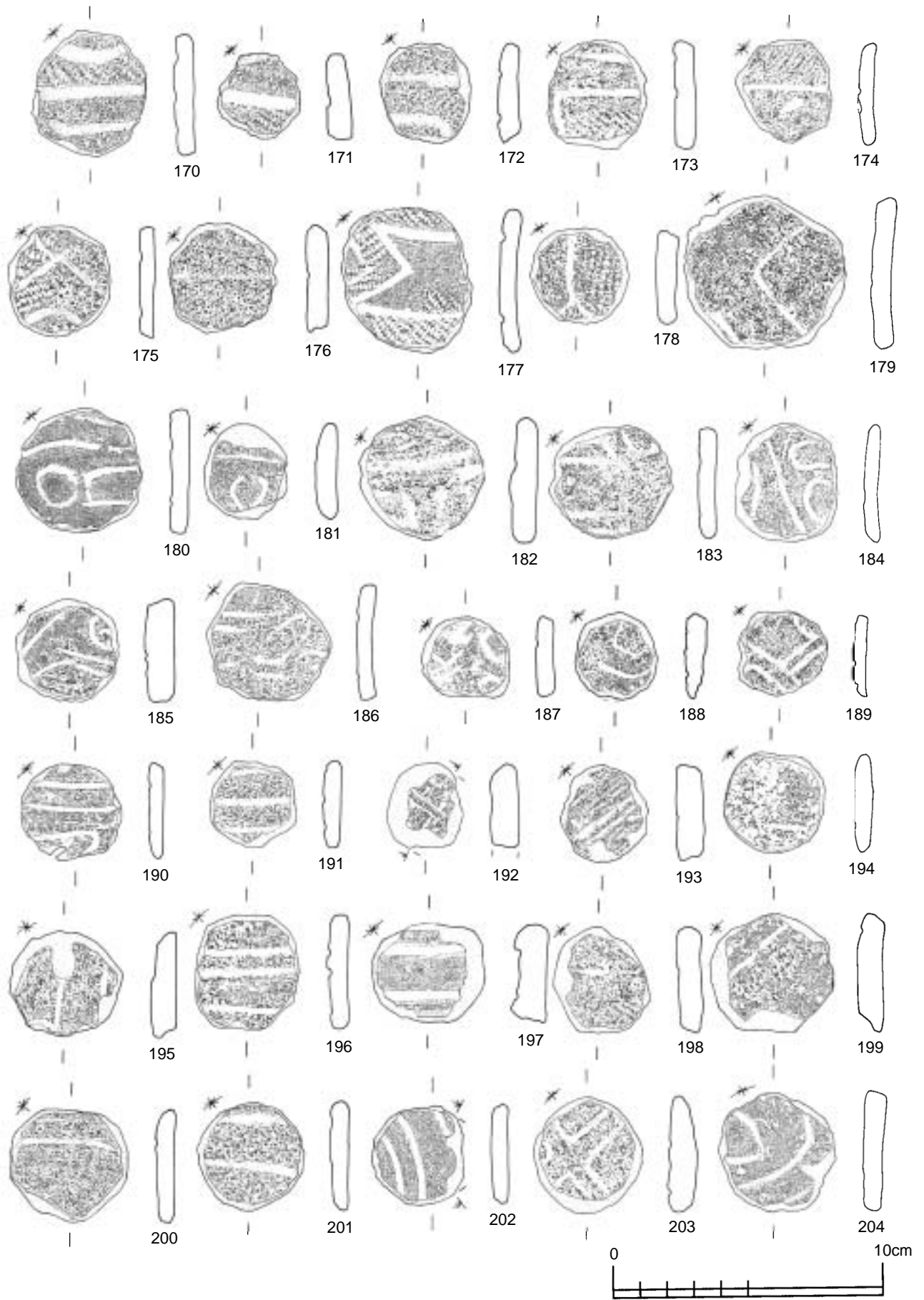
第361図 遺構外出土製品(4)



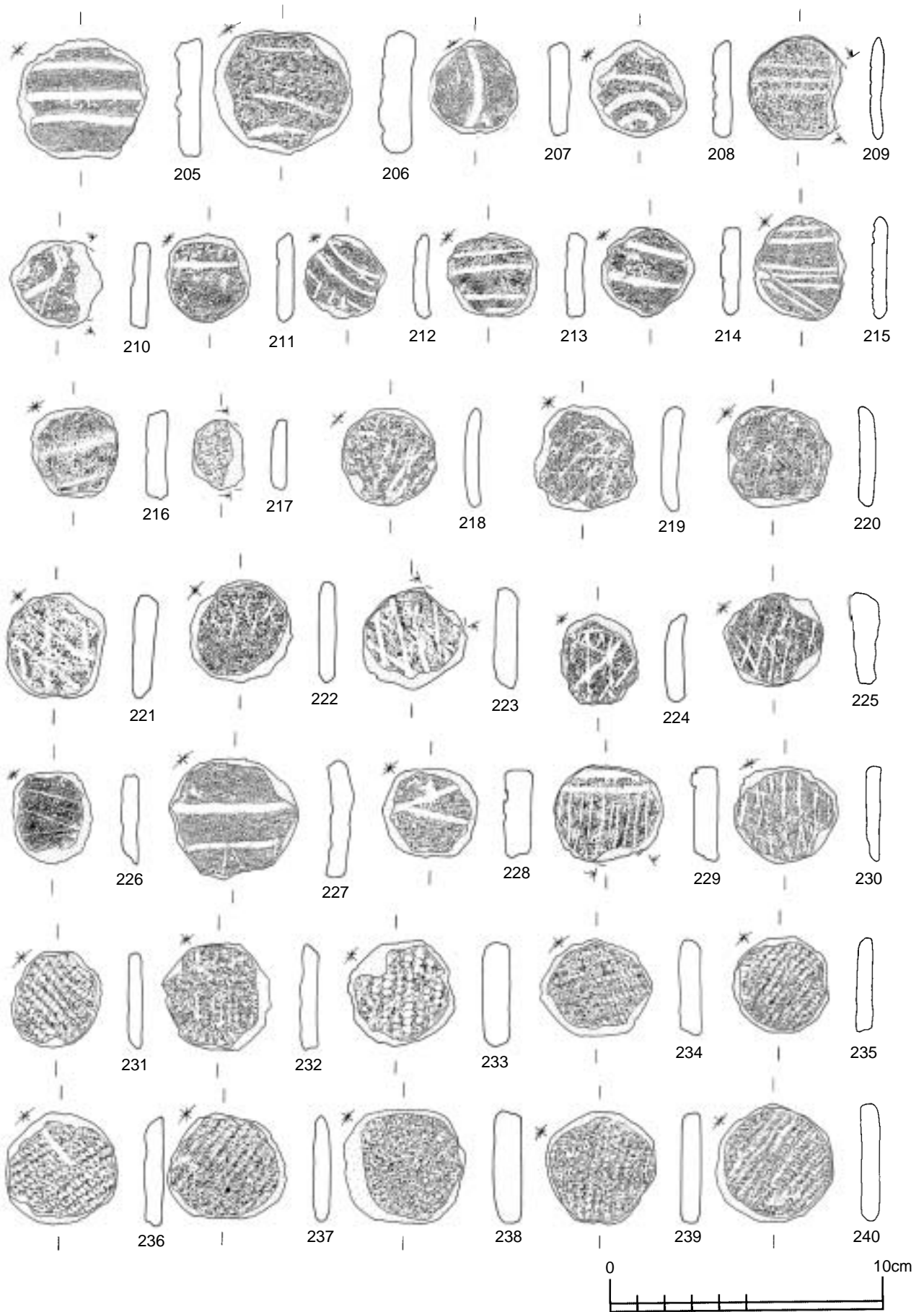
第362図 遺構外出土土製品(5)



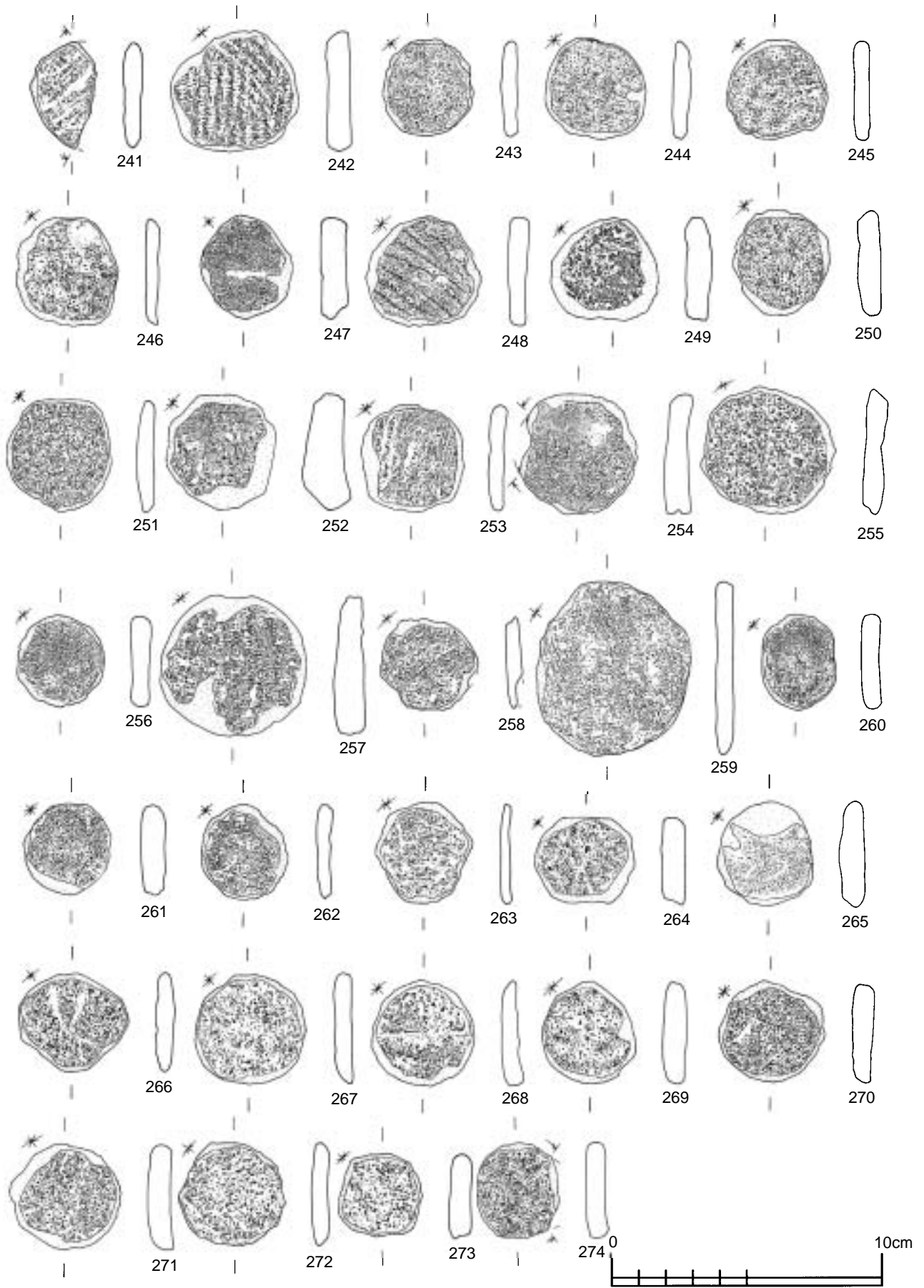
第363図 遺構外出土土製品(6)



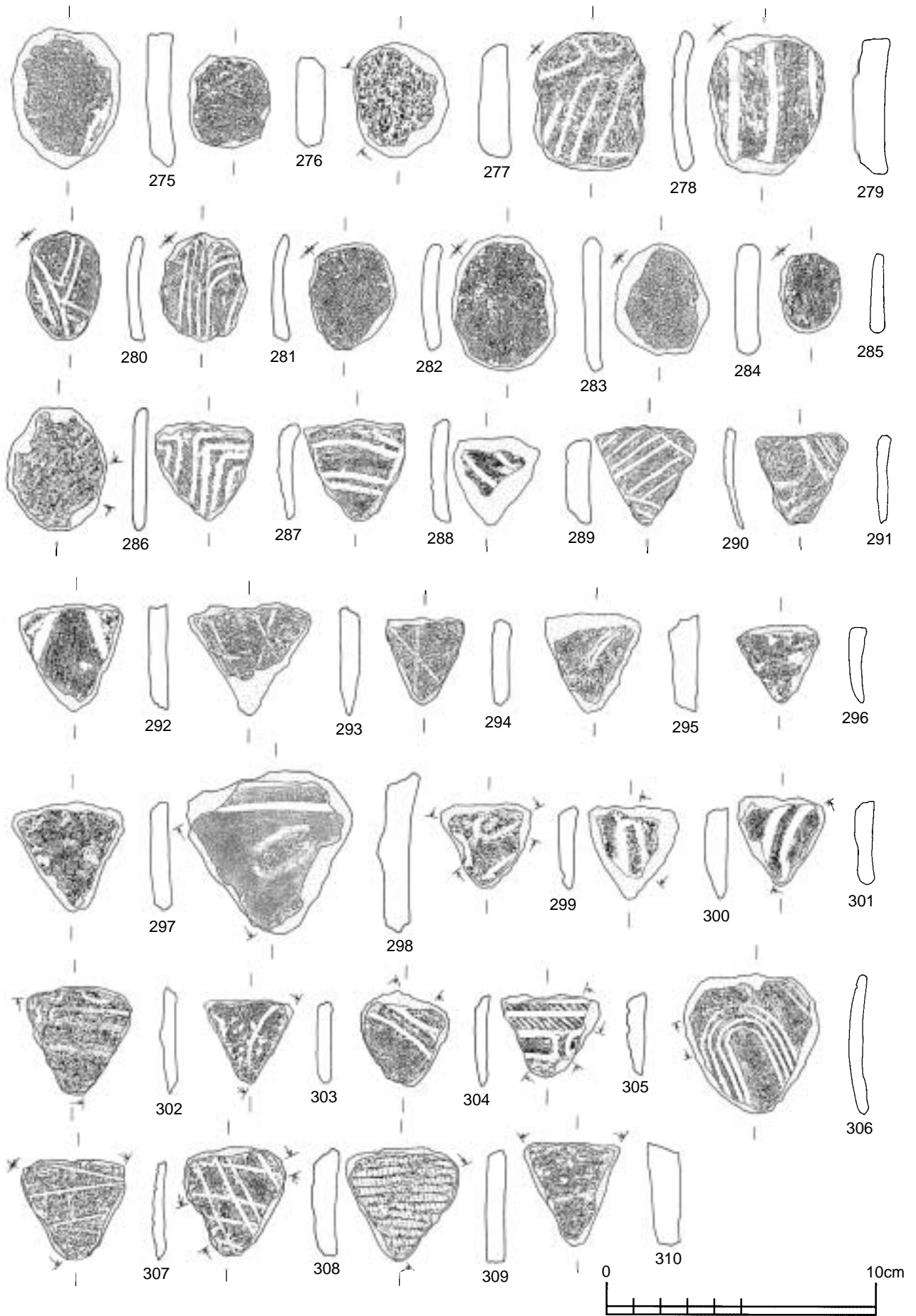
第364図 遺構外出土土製品(7)



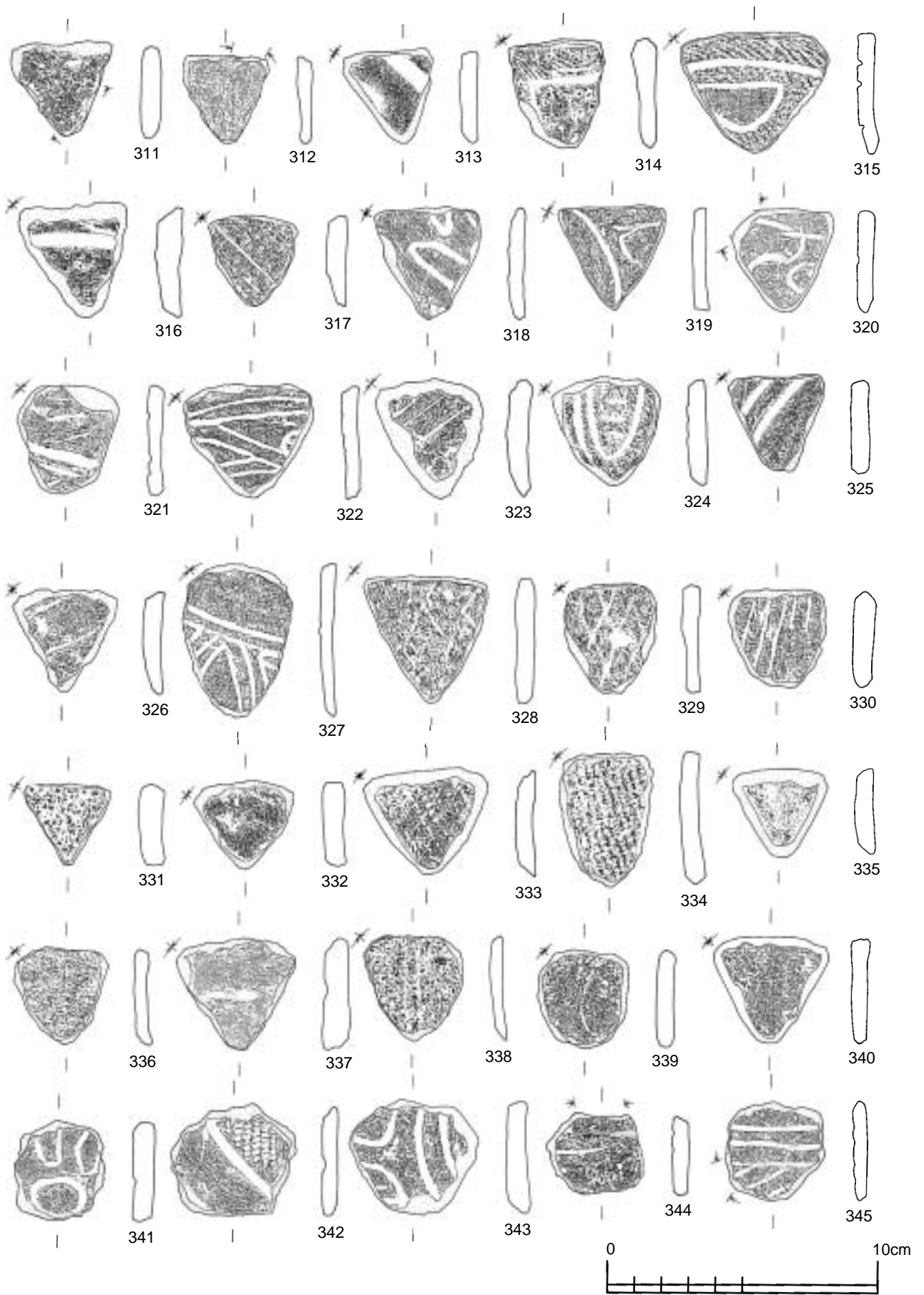
第365図 遺構外出土土製品(8)



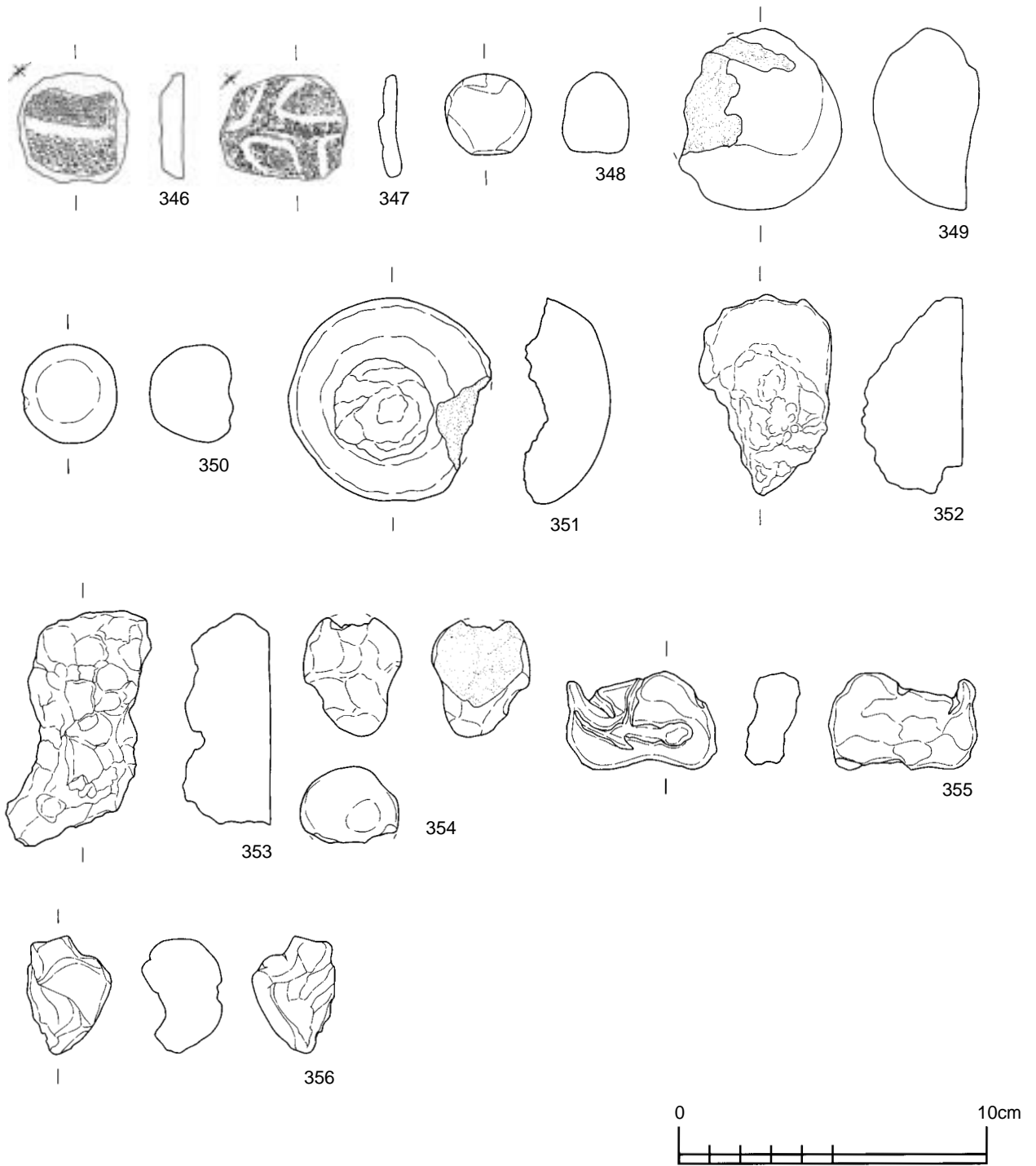
第366図 遺構外出土製品(9)



第367図 遺構外出土土製品(10)



第368図 遺構外出土土製品(11)



第369図 遺構外出土土製品(12)

4. 石製品

本調査で出土した石製品は、遺構内37点、遺構外501点、計538点である。出土した石製品の種別、数量は、下表のとおりである。なお、平成10年度調査報告（青森市教育委員会 2001 第56集 『稲山遺跡発掘調査報告書』）において細分されているものについては、同様の細分を行い、記述することとする。

種 別	遺 構 内	遺 構 外	合 計
三 角 形 岩 版	5	161	166
円 形 岩 版	11	166	177
そ の 他 の 岩 版	2	47	49
有 孔 石 製 品	7	52	59
球 状 石 製 品	2	25	27
碗 状 石 製 品	1	8	9
線 刻 礫	1	1	2
採 集 石 製 品		3	3
石 棒	1	2	3
石 刀	2	8	10
石 冠	1	3	4
軽 石 石 製 品	3	8	11
そ の 他 の 石 製 品	1	17	18
合 計	37	501	538

三角形岩版（第227図1、2、8、9、17、第370図1～22、第371図23～38、第372図39～61、第373図62～87、第374図88～111、第375図112～133、第376図134～153、第377図154～161）

平面が三角形、あるいは三角形に近い形状を呈する岩版である。遺構内から5点、遺構外から161点、計166点が出土している。

[破損状況]

完形品は、全体の19.3%、欠損ないし剥離するものが80.7%と大半を占める。欠損品のうち一部頂角欠損等1/3以下の欠損が30.1%、1/3以上の欠損が13.9%、一部剥離のみでほぼ完形のもの36.7%である。

[形状]

- ・二等辺三角形を呈するもの。75.9%（126点）
- ・正三角形を呈するもの。48.1%（8点）
- ・台形に近い形状を呈するもの。2.4%（4点）
- ・楕円形に近い形状を呈するもの。7.8%（13点）
- ・蒲鉾形を呈するもの。0.0%（0点）
- ・不明のもの。9.0%（15点）

[加工状況]

表面が球状に研磨されるもの95点、平滑に研磨されるもの71点である。

[文様]

三角形岩版に見られる基本的な5種類の単位文様(児玉 1997)は以下の通りである。

- ・斜位直線：平行する刻線が斜めに施される。
- ・弧状線：平行する刻線が弧状に施される。
- ・重弧状線：上記の弧状線の上位に、もう1つの平行する弧状線が施される。
- ・ブーメラン状刻線：2条の刻線の端部が連結しており、ブーメラン状に施される。
- ・渦巻状刻線：渦巻状の刻線が施される。

これら単位文様の組み合わせにより本遺跡の三角形岩版は細分されており、細分毎に以下に示す。

- a類：無文のもの。57.2% (95点)
- b類 - 1：弧状線を右縁辺部に配置するもの。3.0% (5点)
 - 2：弧状線を左縁辺部に配置するもの。1.8% (3点)
 - 3：弧状線を上縁辺部に配置するもの。0.6% (1点)
 - 4：弧状線を左右対称に配置するもの。2.4% (4点)
 - 5：縁辺部全周にわたり弧状線を配置するもの。3.6% (6点)
- c類：斜位直線が左右に交差するもの。1.2% (2点)
- d類 - 1：右傾の斜位直線が施されているもの。7.2% (12点)
 - 2：左傾の斜位直線が施されているもの。0.6% (1点)
- e類 - 1：右傾の斜位直線と右縁辺部に弧状線を配置するもの。1.8% (3点)
 - 2：左傾の斜位直線と右縁辺部に弧状線を配置するもの。0.0% (0点)
- f類 - 1：右傾の斜位直線と左縁辺部に弧状線を配置するもの。0.6% (1点)
 - 2：左傾の斜位直線と左縁辺部に弧状線を配置するもの。0.0% (0点)
- g類 - 1：右傾の斜位直線と左右縁辺部に弧状線を配置するもの。0.6% (1点)
 - 2：左傾の斜位直線と左右縁辺部に弧状線を配置するもの。0.0% (0点)
- h類 - 1：右傾の斜位直線と縁辺部全周にわたり弧状線を配置するもの。0.0% (0点)
 - 2：左傾の斜位直線と縁辺部全周にわたり弧状線を配置するもの。0.0% (0点)
- i類 - 1：重弧状線を右縁辺部に配置するもの。2.4% (4点)
 - 2：重弧状線を左縁辺部に配置するもの。1.2% (2点)
 - 3：重弧状線を上縁辺部に配置するもの。0.0% (0点)
 - 4：重弧状線を左右対称に配置するもの。1.2% (2点)
 - 5：縁辺部全周にわたり重弧状線を配置するもの。0.0% (0点)
 - 6：重弧状線と弧状線を縁辺部に配置するもの。5.4% (9点)
- j類 - 1：右傾の斜位直線と重弧状線を右縁辺部に配置するもの。0.0% (0点)
 - 2：右傾の斜位直線と重弧状線を左縁辺部に配置するもの。0.0% (0点)
 - 3：左傾の斜位直線と重弧状線を右縁辺部に配置するもの。0.0% (0点)
 - 4：左傾の斜位直線と重弧状線を左縁辺部に配置するもの。0.0% (0点)
- k類：ブーメラン状刻線を施すもの。0.0% (0点)

- 1 類 - 1 : 渦巻状刻線を施すもの。1.2% (2 点)
- 2 : 右傾の斜位直線に渦巻状刻線を施すもの。1.2% (2 点)
- 3 : 左傾の斜位直線に渦巻状刻線を施すもの。0.0% (0 点)
- m 類 - 1 : 弧状線、重弧状線および渦巻状刻線を施すもの。0.0% (0 点)
- 2 : 右傾の斜位直線と弧状線、重弧状線および渦巻状刻線を施すもの。0.0% (0 点)
- 3 : 左傾の斜位直線と弧状線、重弧状線および渦巻状刻線を施すもの。0.0% (0 点)
- x 類 : 分類不能および不明のもの。6.6% (11 点)

結果、無文の a 類が半数以上を占める。また、文様をもつものでは、d - 1 類が多数見られる。

[材質] 石質は、泥岩50.0% (83 点) 凝灰岩33.1% (55 点) 安山岩5.4% (9 点) 緑色凝灰岩4.2% (7 点) 頁岩4.2% (7 点) 変朽安山岩1.8% (3 点) 石英安山岩0.6% (1 点) 凝灰角礫岩0.6% (1 点) である。

円形岩版 (第227図 3、6、10、12、15、16、18、第228図22、24、26、27、第377図162~178、第378図179~203、第379図204~227、第380図228~261、第381図262~292、第382図293~327)

平面形が円形を呈する岩版である。遺構内から11点、遺構外から166点、計177点が出土している。

[破損状況] 完形品23.7% (42 点) 一部欠損41.8% (74 点) 約半分欠損25.9% (46 点) 一部残存8.4% (15 点) である。

[加工状況]

a 類 : 表裏両面および側面に平滑的な研磨を施し、断面形が長方形および台形に近い形状を呈するもの。78.5% (139 点)

b 類 : 表裏両面に平滑的な研磨を施し、側面が丸みを帯びているもの。9.0% (16 点)

c 類 : 周縁のすべてを打ち欠きによって整形し、表裏両面に平滑的な研磨を施すもの。6.2% (11 点)

d 類 : 周縁の一部を打ち欠きによって整形し、表裏両面に平滑的な研磨を施すもの。0.5% (1 点)

e 類 : 周縁を打ち欠きと研磨によって整形し、表裏両面に平滑的な研磨を施すもの。5.0% (9 点)

f 類 : 表面を球状、裏面を平滑的に研磨し、断面形が蒲鉾状を呈するもの。0.5% (1 点)

[材質] 石質は、凝灰岩51.4% (91 点) 頁岩18.0% (32 点) 安山岩11.2% (20 点) 緑色凝灰岩10.7% (19 点) 泥岩3.9% (7 点) 変朽安山岩1.6% (3 点) 石英安山岩1.1% (2 点) 熔結凝灰岩1.1% (2 点) 凝灰角礫岩0.5% (1 点) である。

その他の岩版 (第90図 6、第227図13、第383図328~346、第384図347~368、第385図369~374)

平面形が三角形および円形以外の岩版である。遺構内から2点、遺構外から47点、計49点が出土している。

形状は、楕円形ないし不整楕円形を呈するもの34点、方形を呈するもの7点、台形を呈するもの1点、不明なもの7点である。

石質は、凝灰岩51.0% (25 点) 泥岩14.2% (7 点) 緑色凝灰岩10.2% (5 点) 安山岩10.2% (5 点) 頁岩8.1% (4 点) 変朽安山岩4.0% (2 点) 凝灰角礫岩2.0% (1 点) である。

有孔石製品（第90図7、9、第227図7、11、第228図19、21、25、第385図375～392、第386図393～404、第387図405～426）

孔を有する石製品である。遺構内から7点、遺構外から52点、計59点出土している。

穿孔された人工的な孔を有するものと、孔を有する自然礫とが見られる。なお、後者は加工痕が見られず、いわゆる「製品」では無いが、孔を有する観点から選択・搬入された可能性を考慮し、本項で記述することとする。

人工的な孔を有するものでは、楕円形を呈するもの9点（第227図11、第385図376、382、384、385、388、391、第386図393）、円形を呈するもの3点（第90図7）、半円形を呈するもの9点（第385図375、377～380、383、386、387、390）、球形のもの1点（第385図381）、不整形のもの1点（第385図389）が認められた。うち穿孔が1個所のもの17点、2個所のもの1点である。

孔を有する自然礫では、形状は多様であるが、おおむね楕円形および不整楕円形のもの（第386図394～404、第387図405～426）が大半を占め、その他不整形のもの（第228図25）が認められる。

石質は、凝灰岩35.5%（21点）、変朽安山岩18.6%（11点）、泥岩16.9%（10点）、安山岩13.5%（8点）、頁岩5.0%（3点）、石英安山岩3.3%（2点）、緑色凝灰岩1.6%（1点）、熔結凝灰岩1.6%（1点）、玉髓1.6%（1点）、珪質頁岩1.6%（1点）である。

球状石製品（第227図5、14、第388図427～440、第389図441～451）

球状に整形している石製品である。遺構内から2点、遺構外から25点、計27点出土している。

欠損品（第389図444～451）も見られる。

石質は、凝灰岩85.1%（23点）、泥岩14.8%（4点）である。

碗状石製品（第227図4、第389図452～459）

球状の凹部を有する石製品である。遺構内から1点、遺構外から8点、計9点出土している。

石質は、凝灰岩55.5%（5点）、泥岩44.4%（4点）である。

線刻礫（第228図30、第390図460）

線刻が施されている礫である。遺構内から1点、遺構外から1点、計2点出土している。

石質は、凝灰岩2点である。

採集石製品（第390図461～463）

特異な形態を呈する自然礫で、縄文人が製品もしくは道具として意図的に採集してきたと考えられるものである。なお、これらは加工痕が見られず、いわゆる「製品」では無いが、本遺跡のこれまでの調査報告書で、同様のものを「採集石製品」の名称で報告している点、また、それらには一部加工痕の認められるものも含まれている点から、今回も同じ名称の項で記述することとする。遺構外から3点出土している。瓢箪形を呈するもの（第390図1）、窪みの見られるもの（第390図462）、不整三角形のもの（第390図463）とが見られる。

石質は、珪質頁岩、変朽安山岩、玉髓各1点である。

石棒（第90図8、第391図483、484）

棒の形態に加工している石製品である。遺構内から1点、遺構外から2点、計3点が出土している。石質は、石英安山岩2点、石英安山岩1点である。断面形状が三角形のもの（第391図483）も見られる。

石刀（第90図5、第228図20、第391図475～482）

刀の形態に加工している石製品である。遺構内から2点、遺構外から8点、計10点が出土している。石質は、粘板岩90.0%（9点）、輝緑凝灰岩10.0%（1点）である。溝が見られるもの（第391図481、482）も見られる。

石冠（第228図29、第391図485～487）

三角柱状の形態を呈する石製品である。遺構内から1点、遺構外から3点、計4点が出土している。側面に敲打痕と凹痕の見られるもの（第228図29）、端部や表面に磨痕の認められるもの（第391図486、487）が見られる。

石質は、安山岩2点、変朽安山岩2点である。

軽石石製品（第90図3、4、第228図28、第392図492～499）

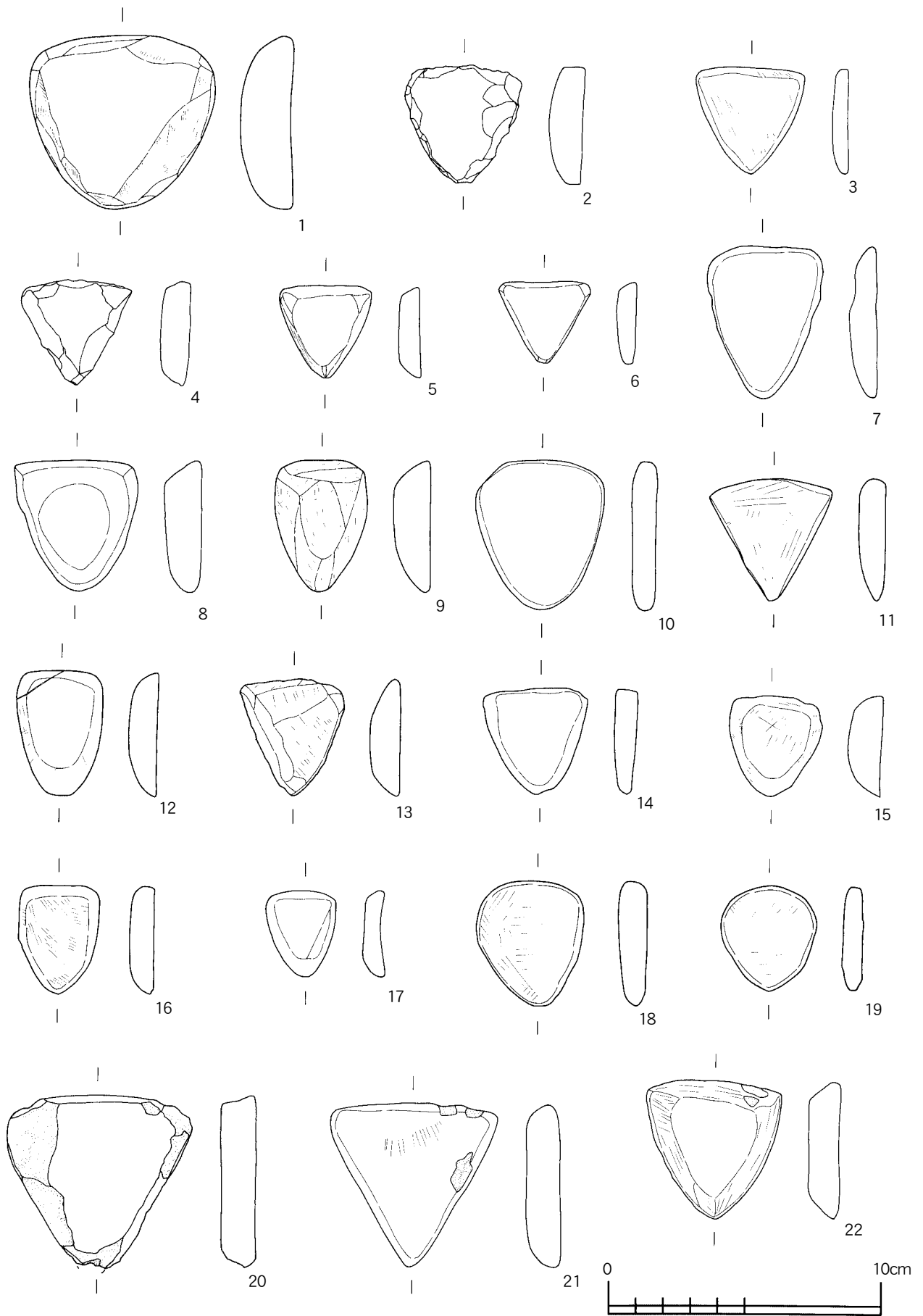
軽石を素材とし加工しているものである。

平坦な面が見られるもの（第90図3、第392図492、493、495～497）、湾曲した滑らかな面が見られるもの（第392図494）、球状に滑らかな面が見られるもの（第90図4、第392図498、499）などがある。

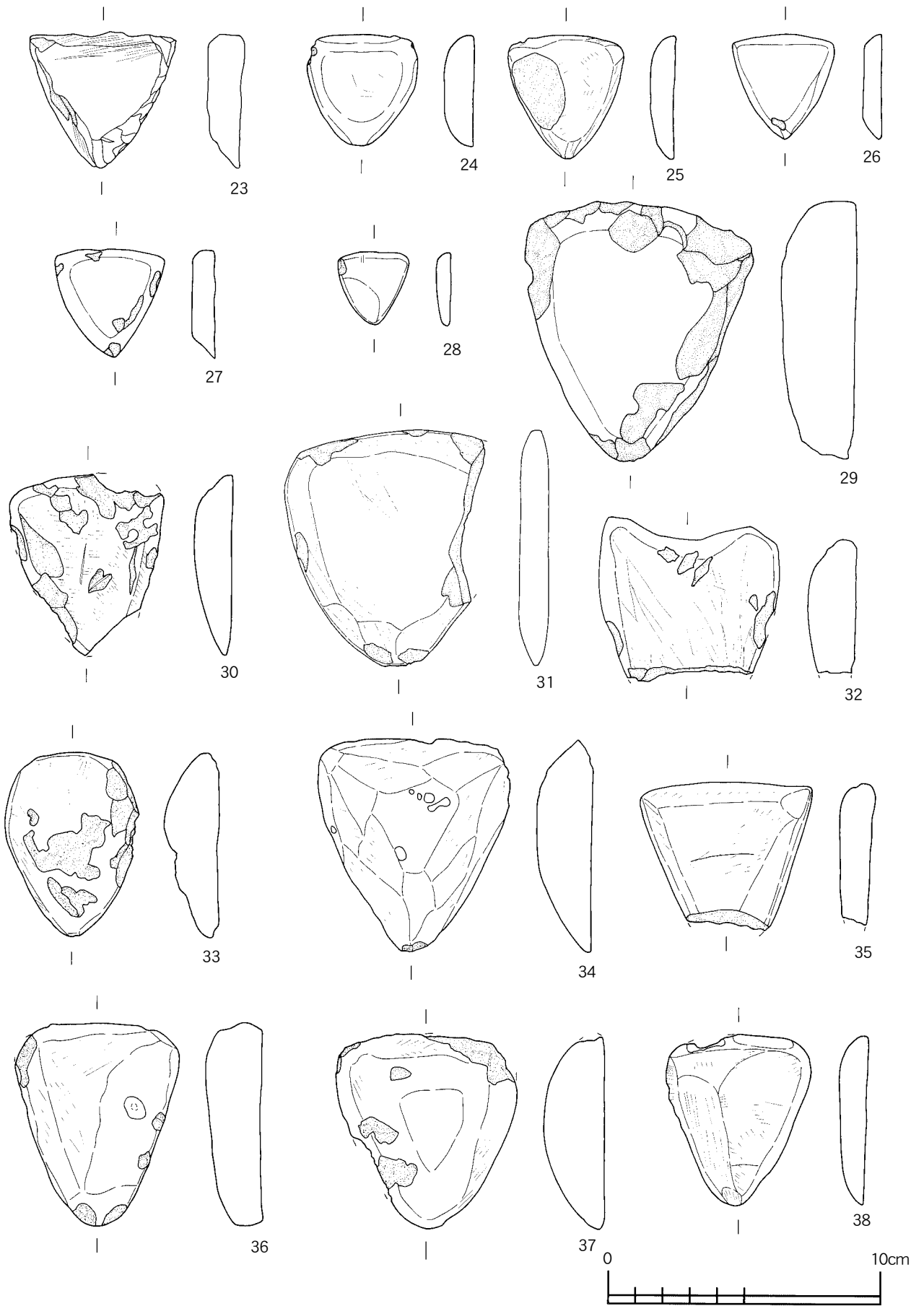
石質は軽石である。

その他の石製品（第228図23、第390図464～474、第392図488～491、500、501）

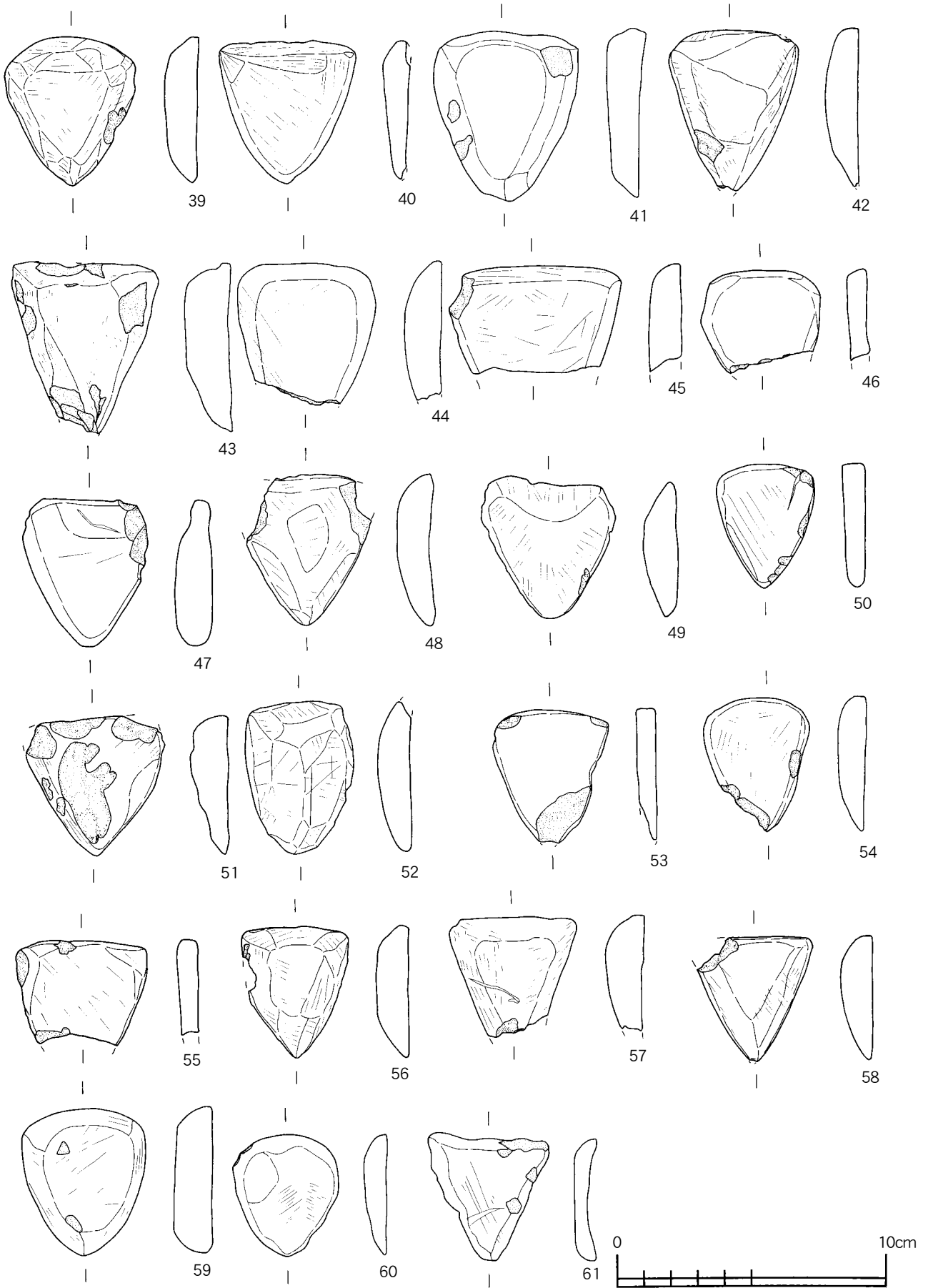
上記に含まれないものを一括した。遺構内から1点、遺構外から17点、計18点が出土している。刻線により施文されているもの（第390図464～466）、盤状で側縁に溝が認められるもの（第390図467）、中央部に孔、側縁に溝および鍵状の刻目が見られるもの（第390図468）、おおむね棒状を呈し、部分的に研磨痕の認められるもの（第390図470～474）、底面が円形ないし方形で断面が三角形を呈し、刻目や溝の施されるもの（第392図488～491）、瑪瑙を素材とし滑らかに研磨されているもの（第228図23、第392図500）などが見られる。



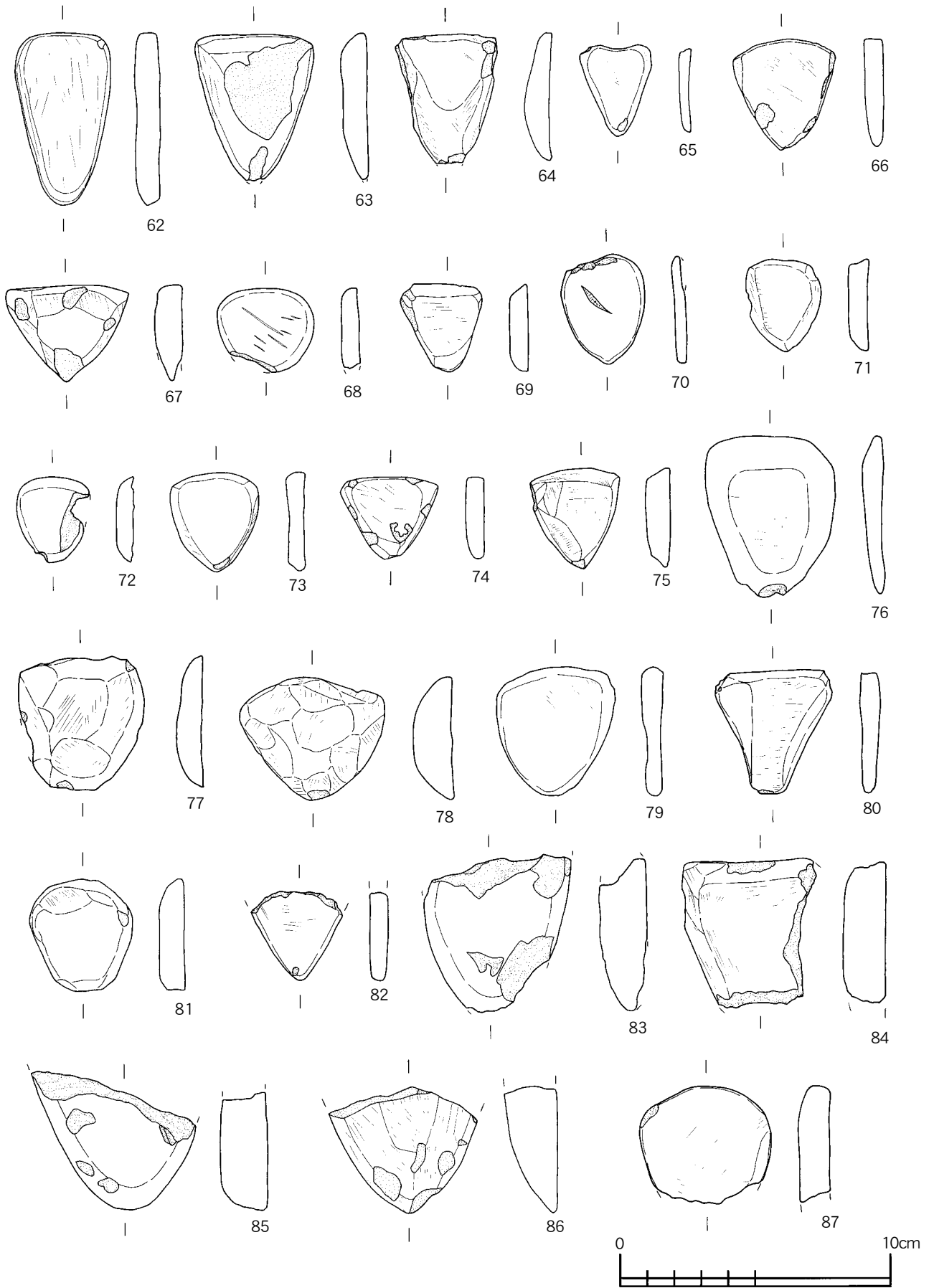
第370図 遺構外出土石製品 (1)



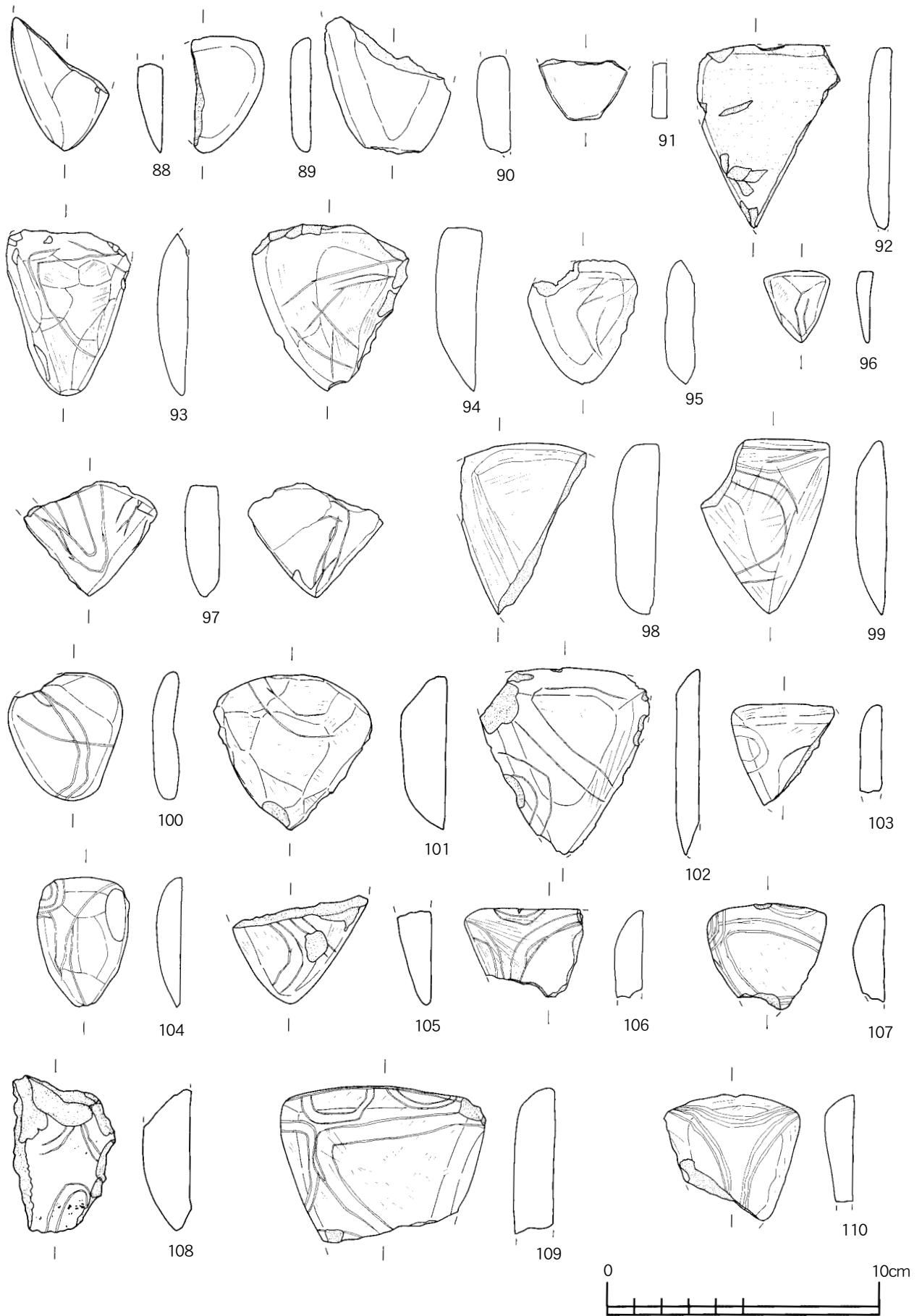
第371図 遺構外出土石製品 (2)



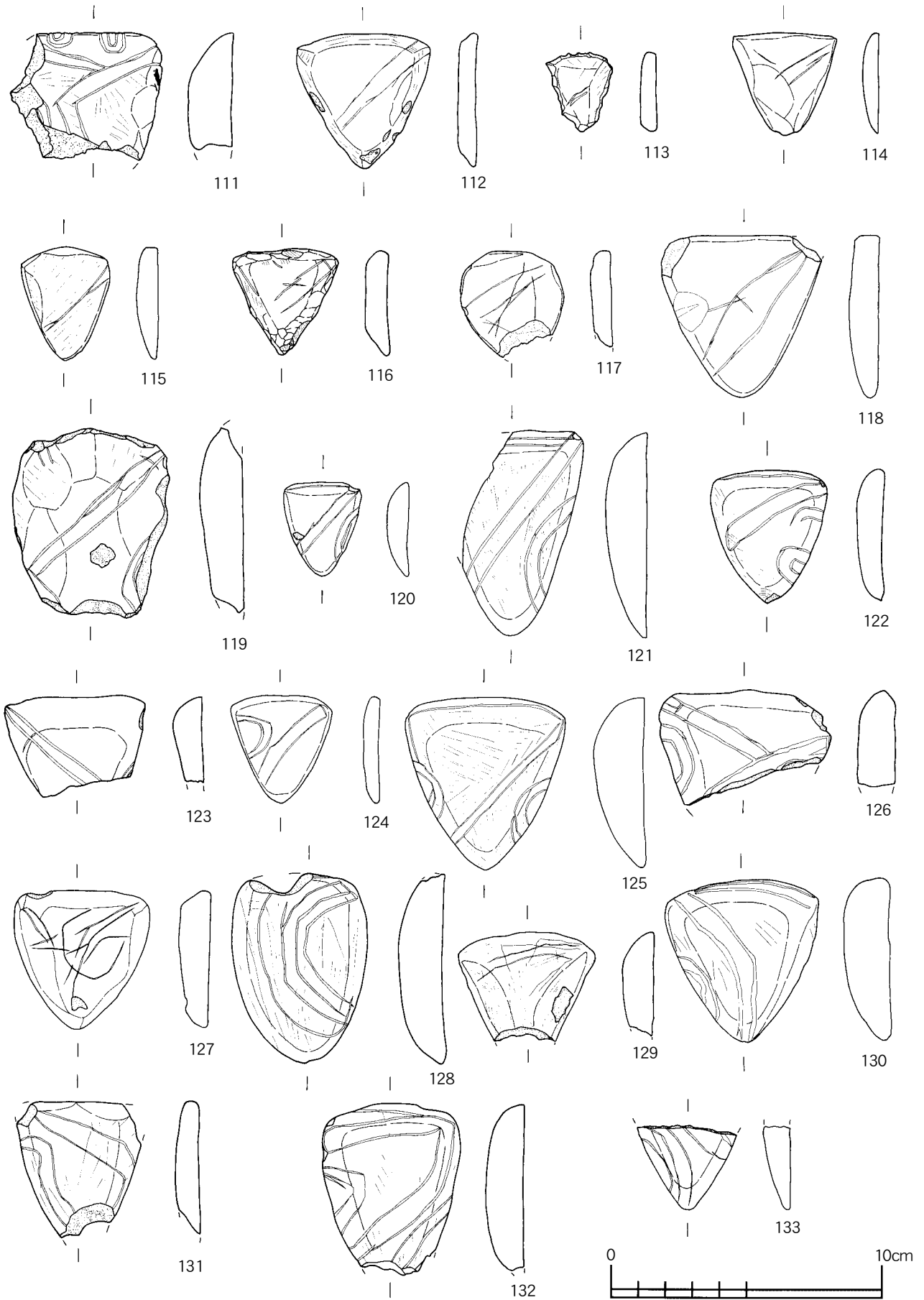
第372図 遺構外出土石製品 (3)



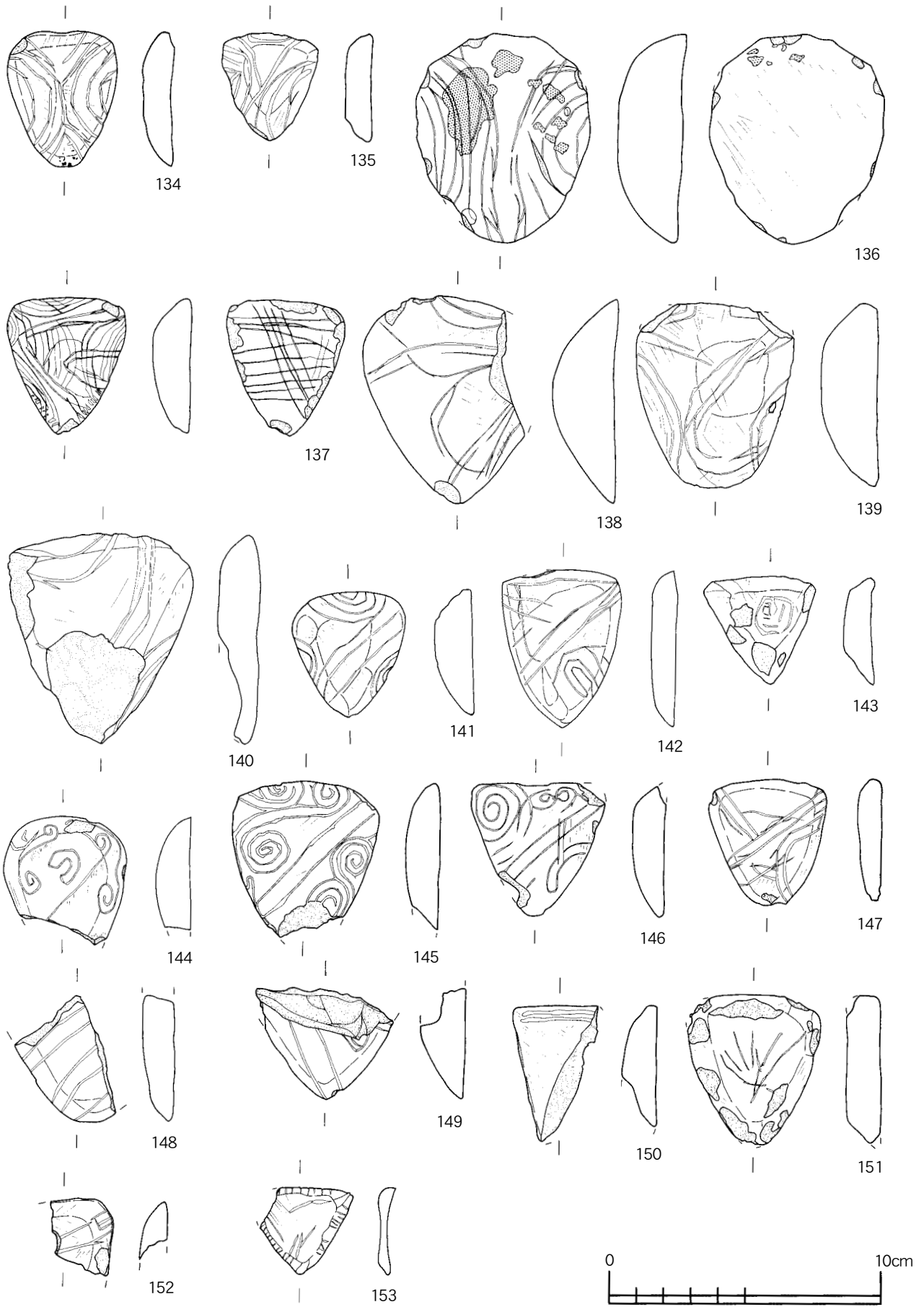
第373図 遺構外出土石製品 (4)



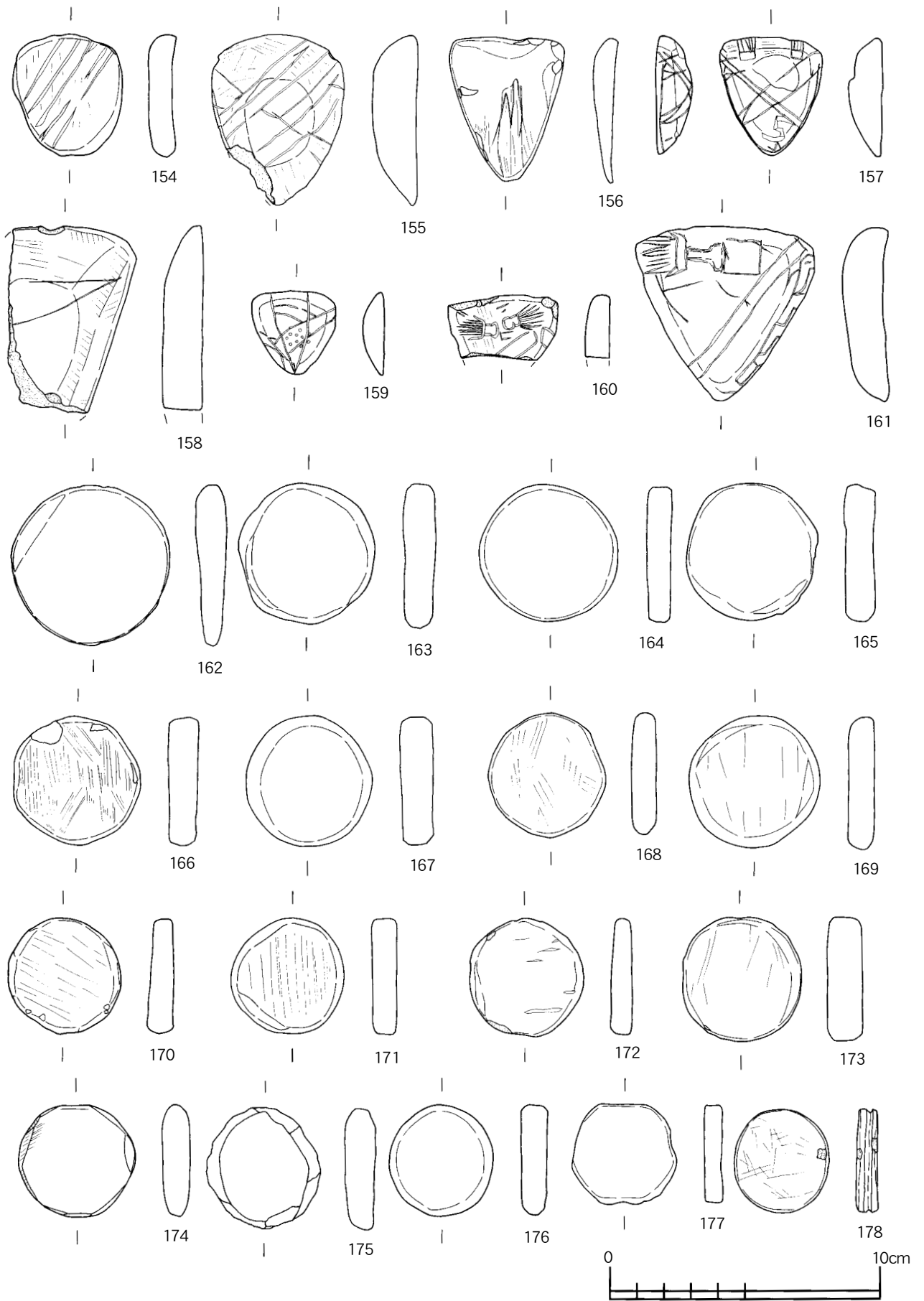
第374図 遺構外出土石製品 (5)



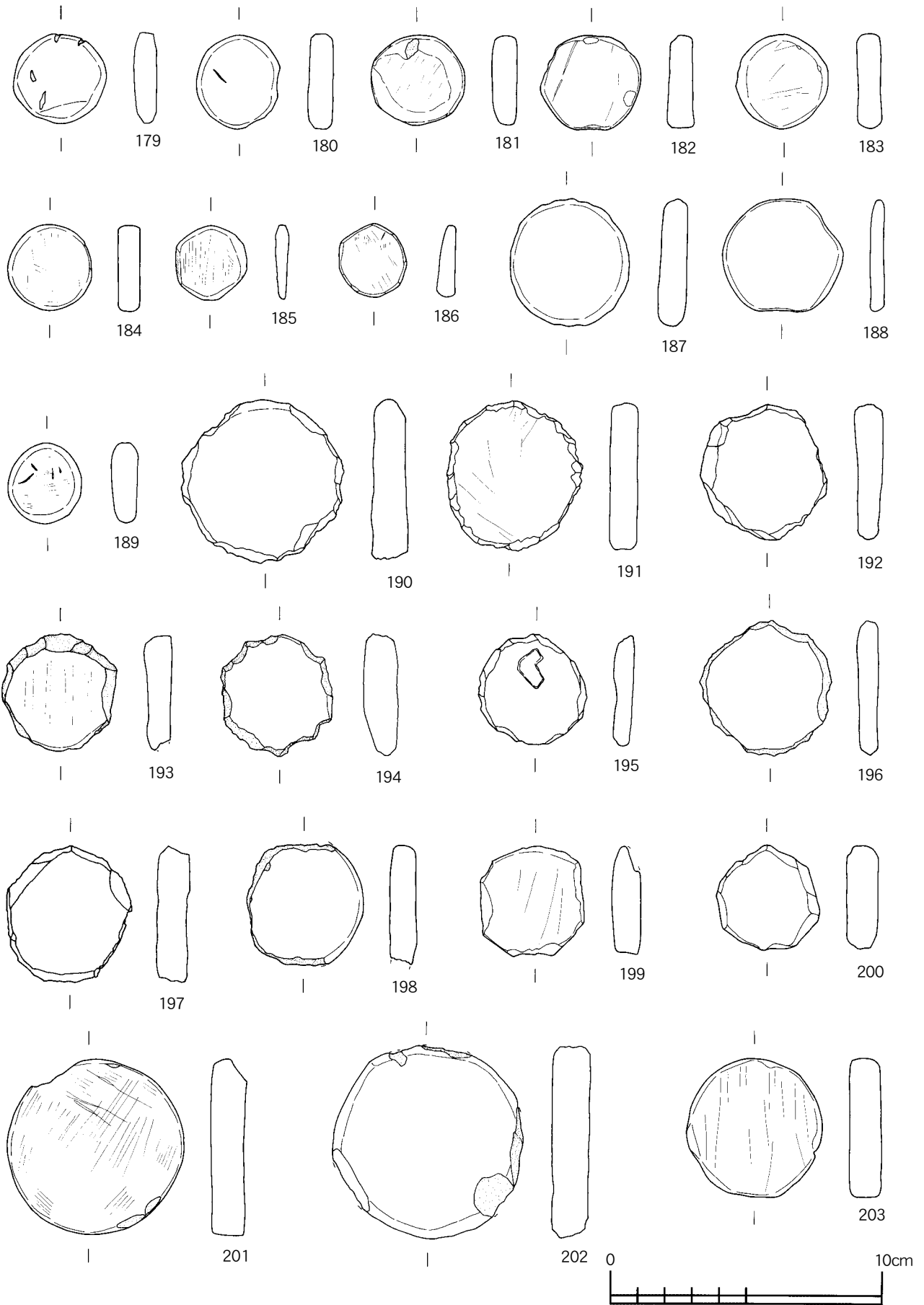
第375図 遺構外出土石製品 (6)



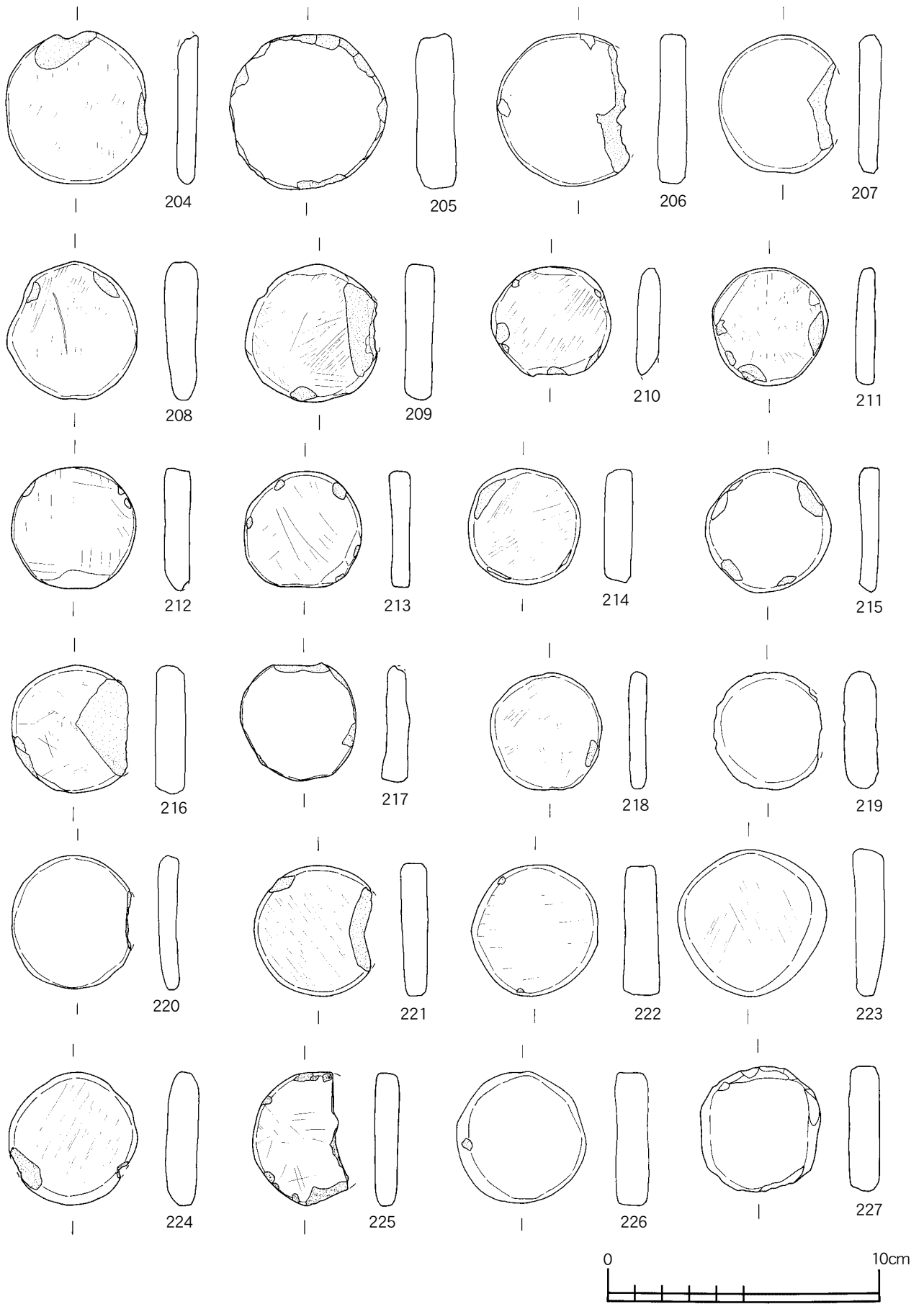
第376図 遺構外出土石製品 (7)



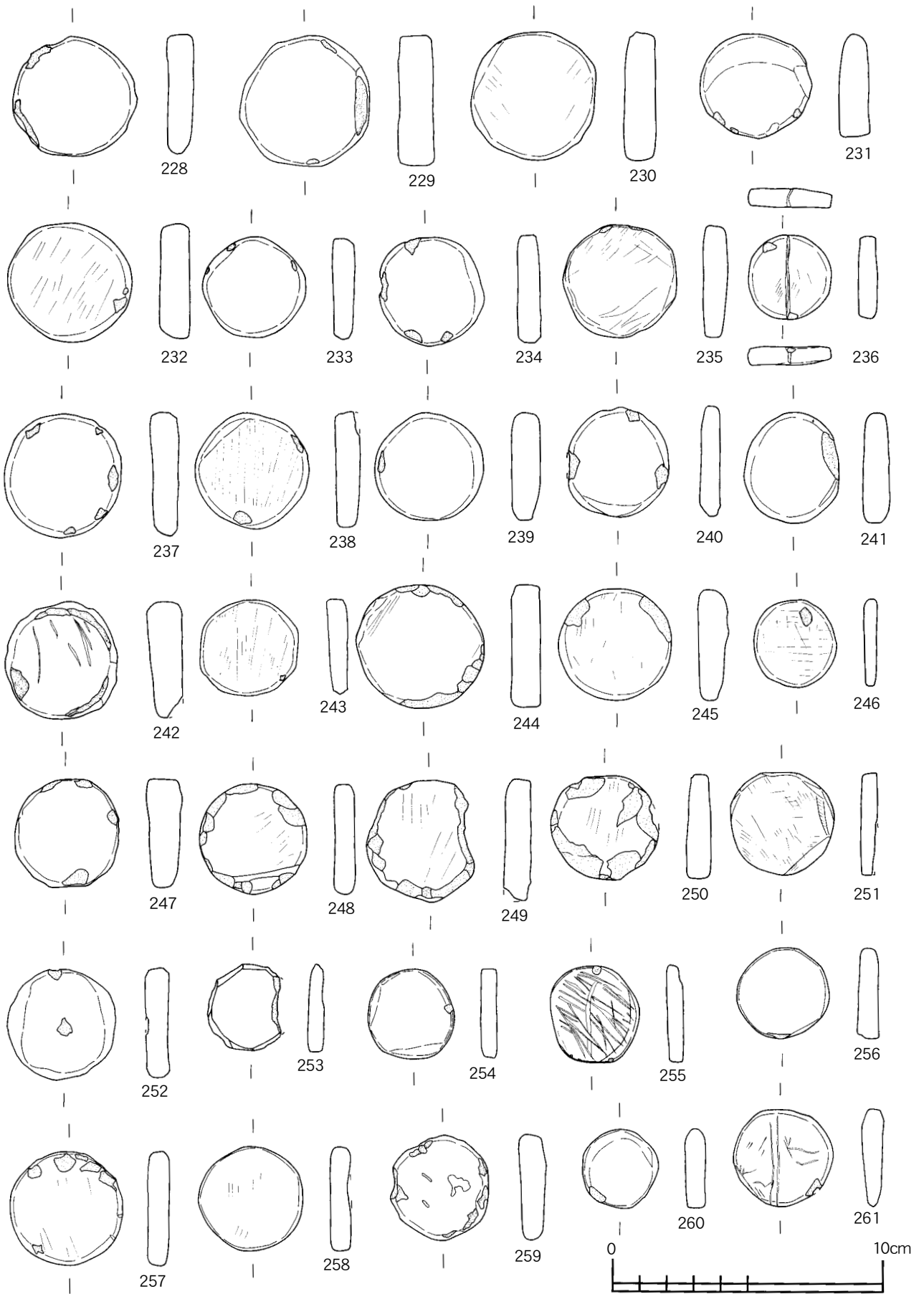
第377図 遺構外出土石製品 (8)



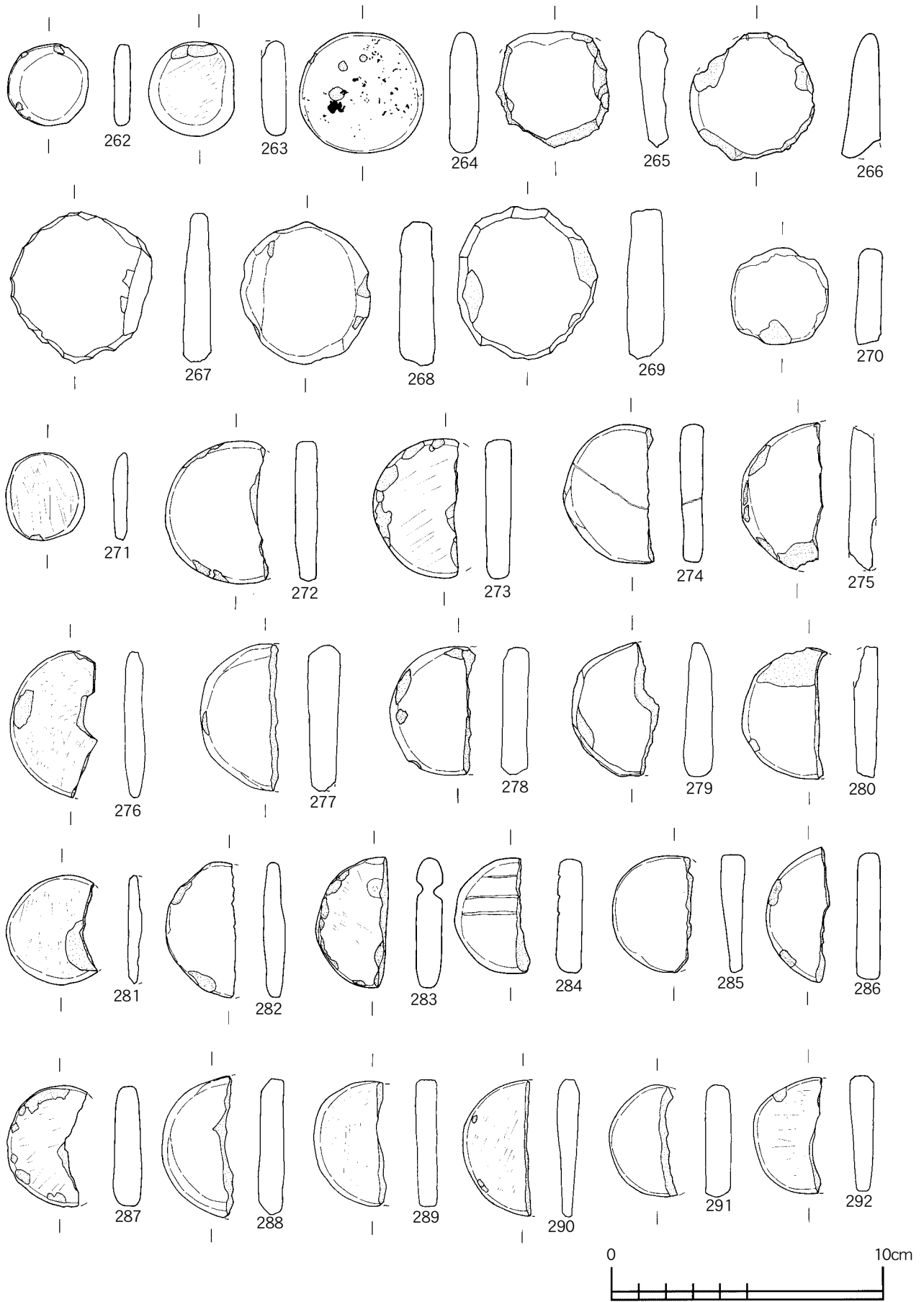
第378図 遺構外出土石製品 (9)



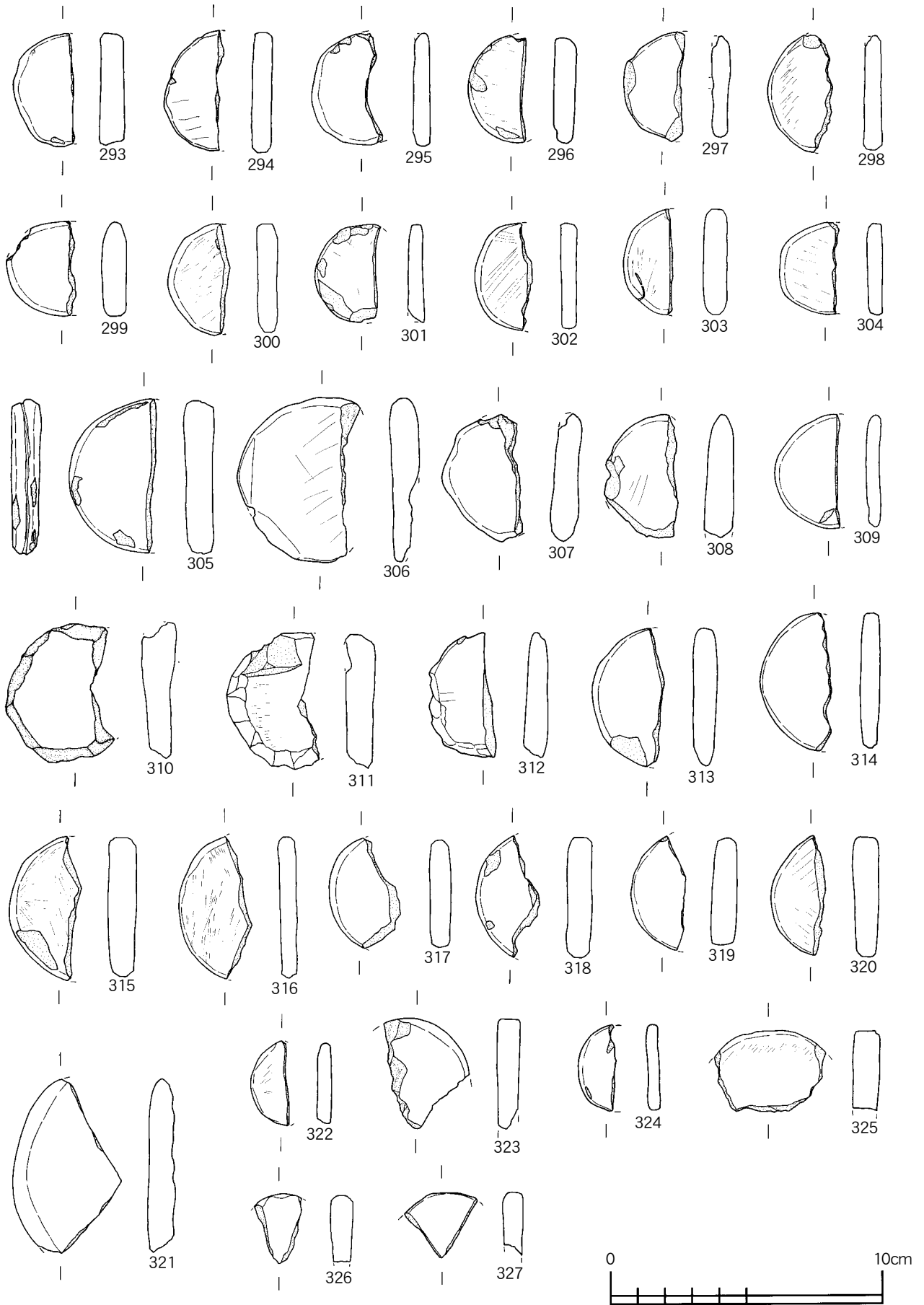
第379図 遺構外出土石製品 (10)



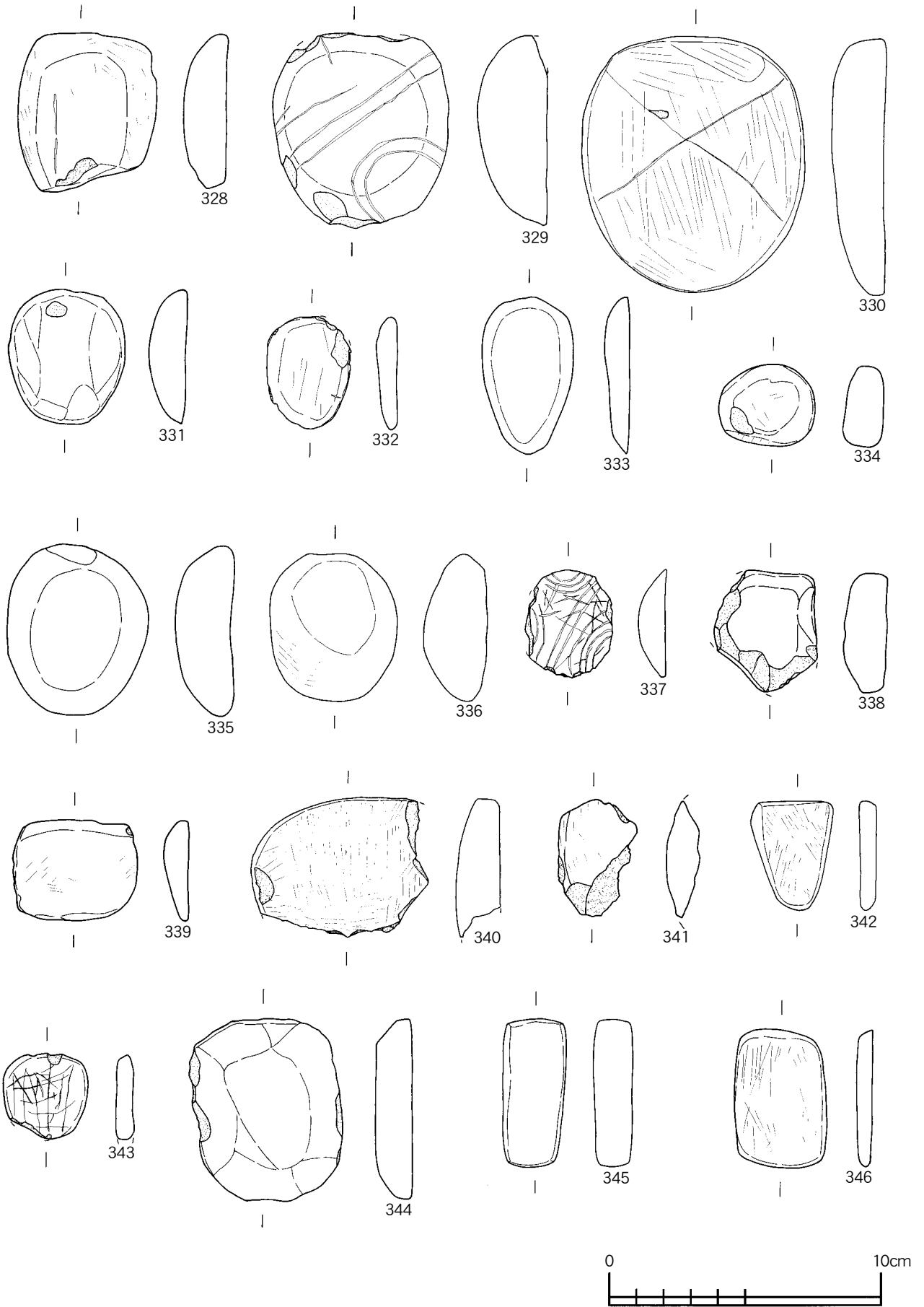
第380図 遺構外出土石製品 (11)



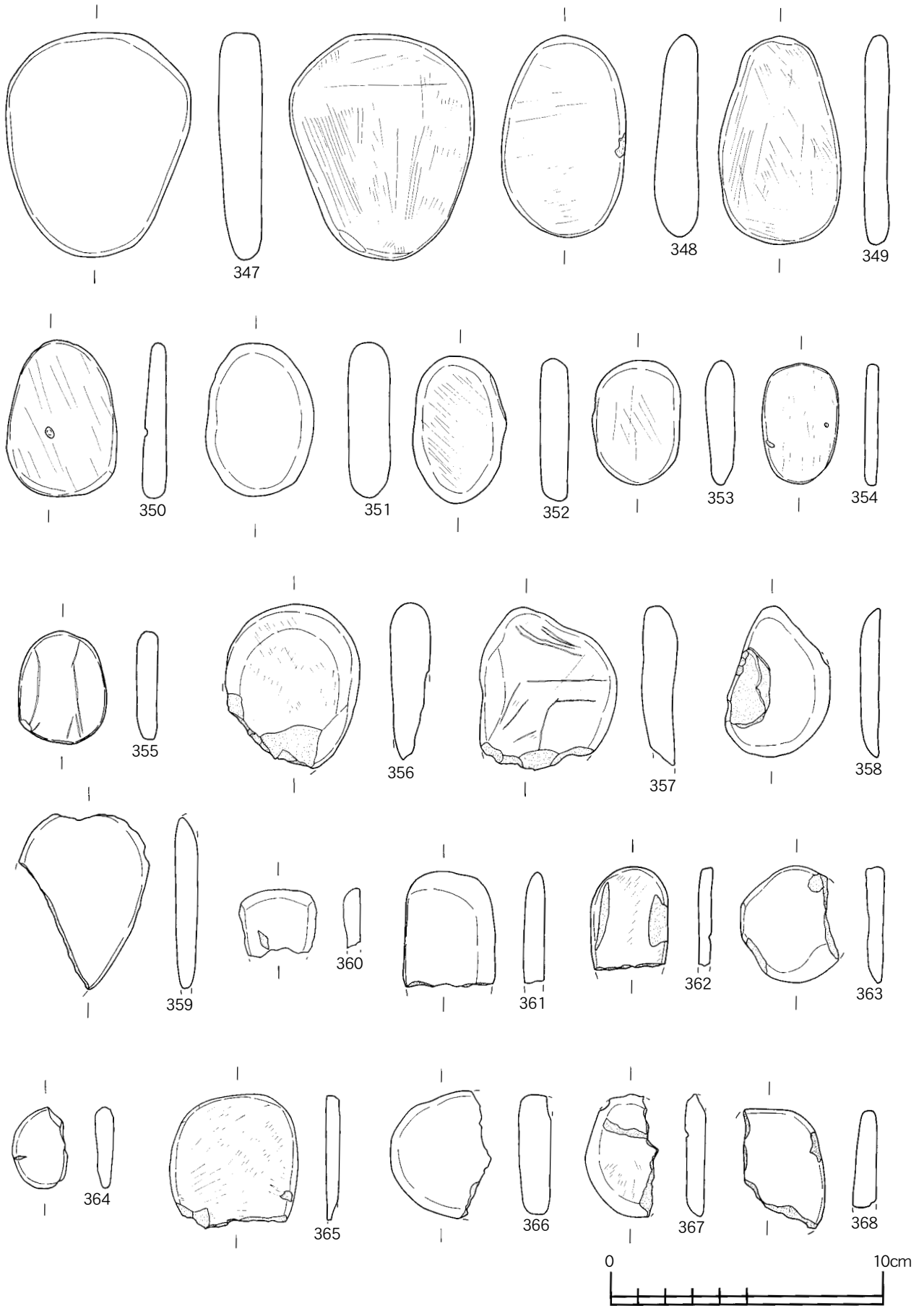
第381図 遺構外出土石製品 (12)



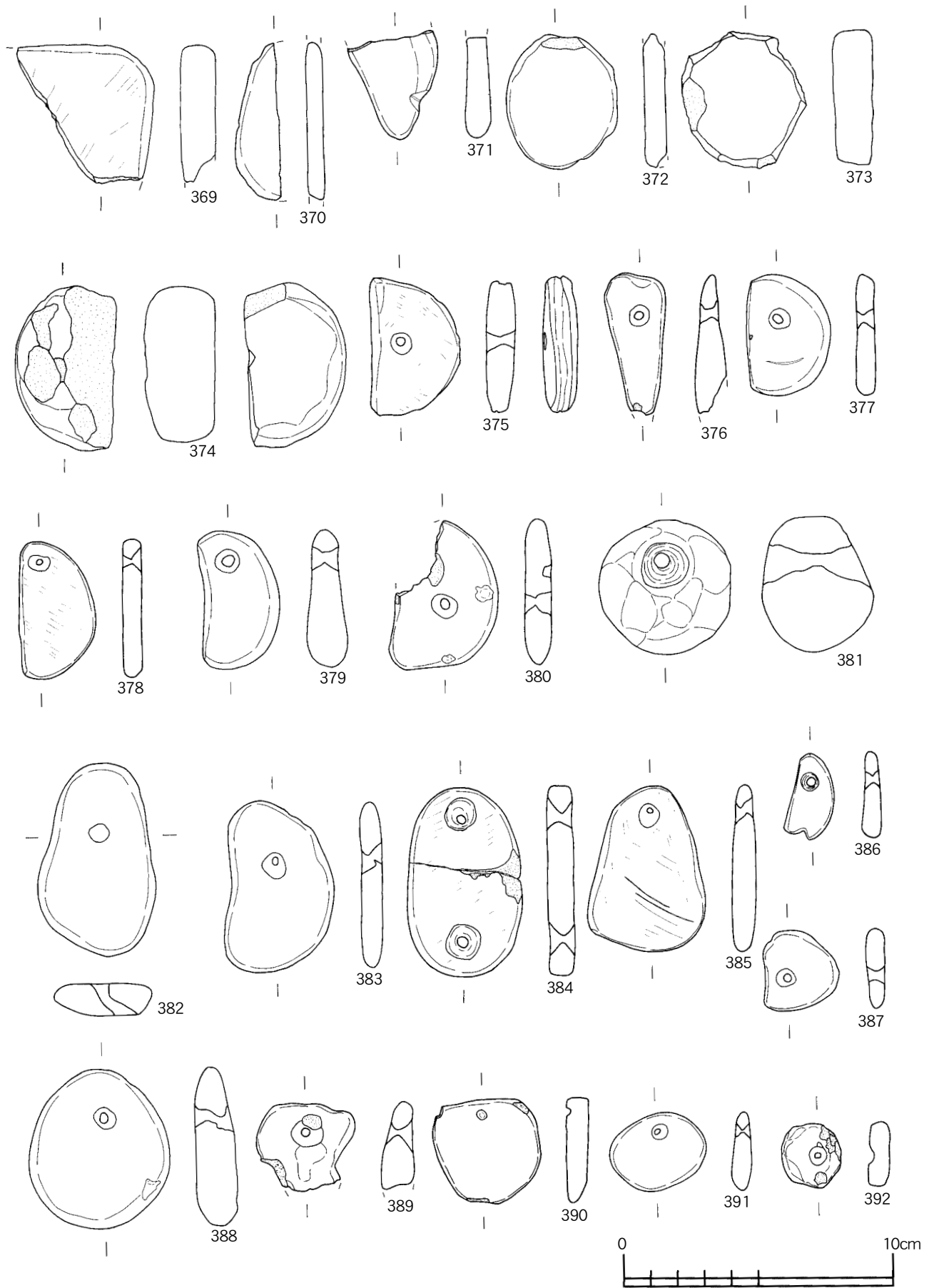
第382図 遺構外出土石製品 (13)



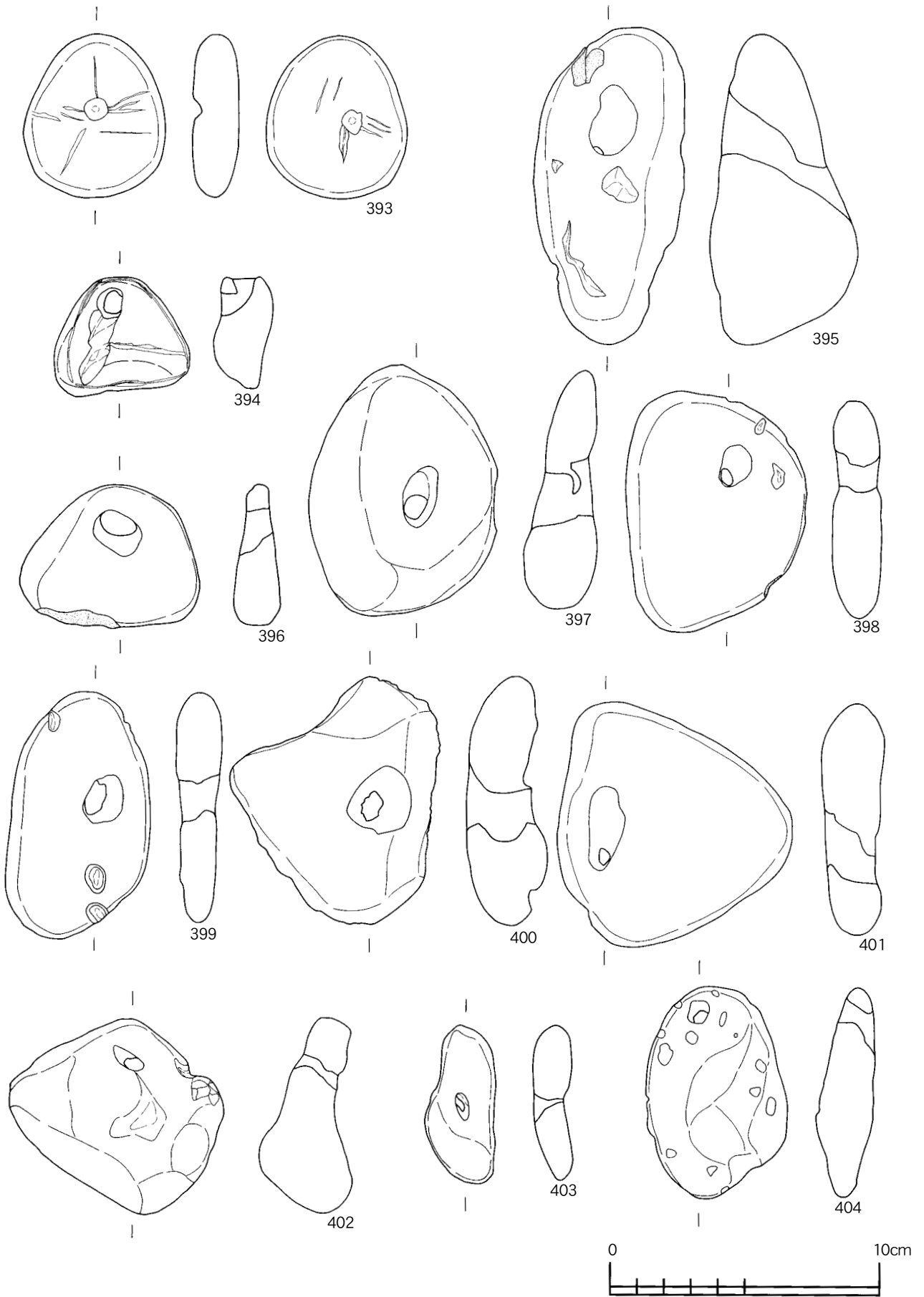
第383図 遺構外出土石製品 (14)



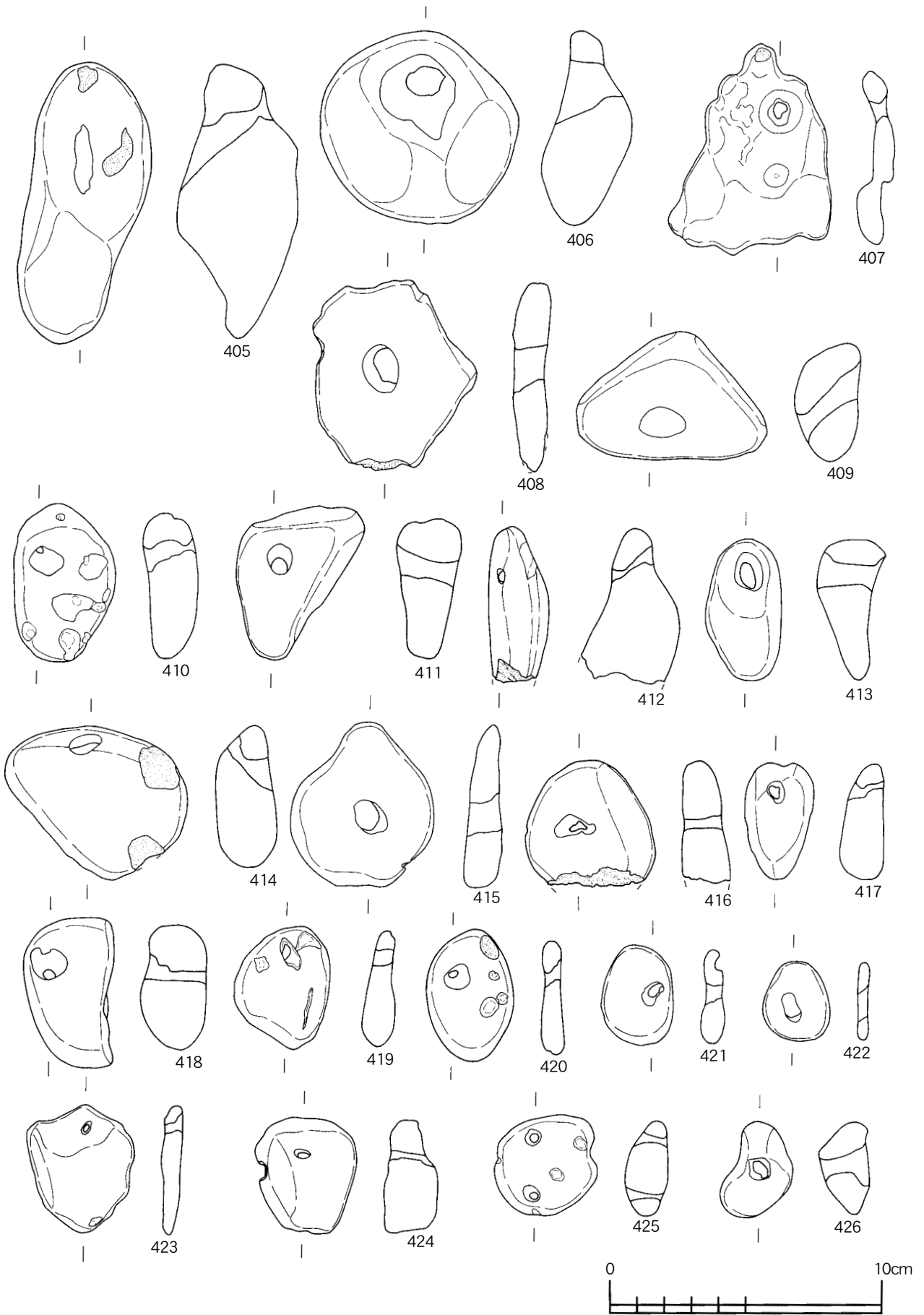
第384図 遺構外出土石製品 (15)



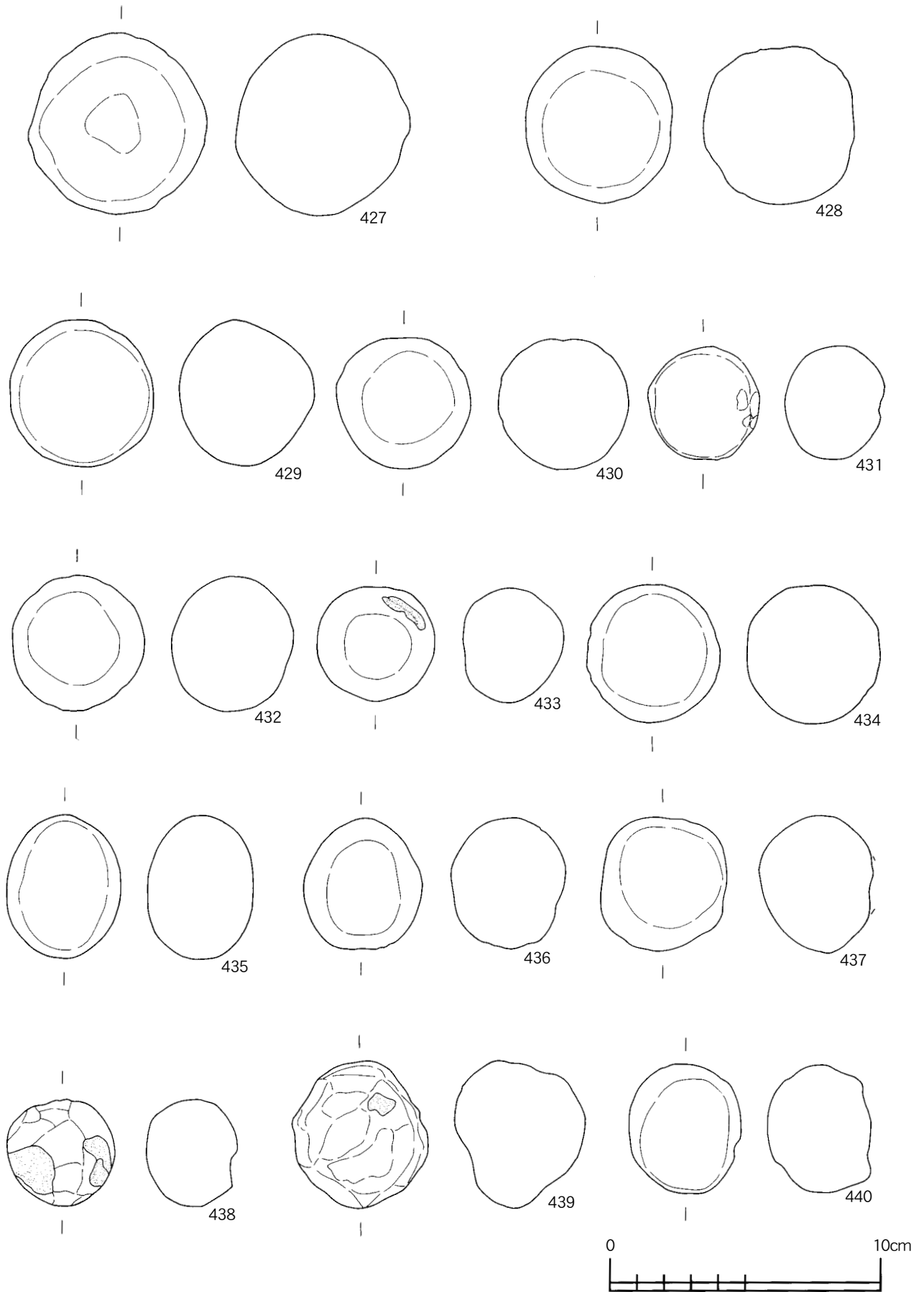
第385図 遺構外出土石製品 (16)



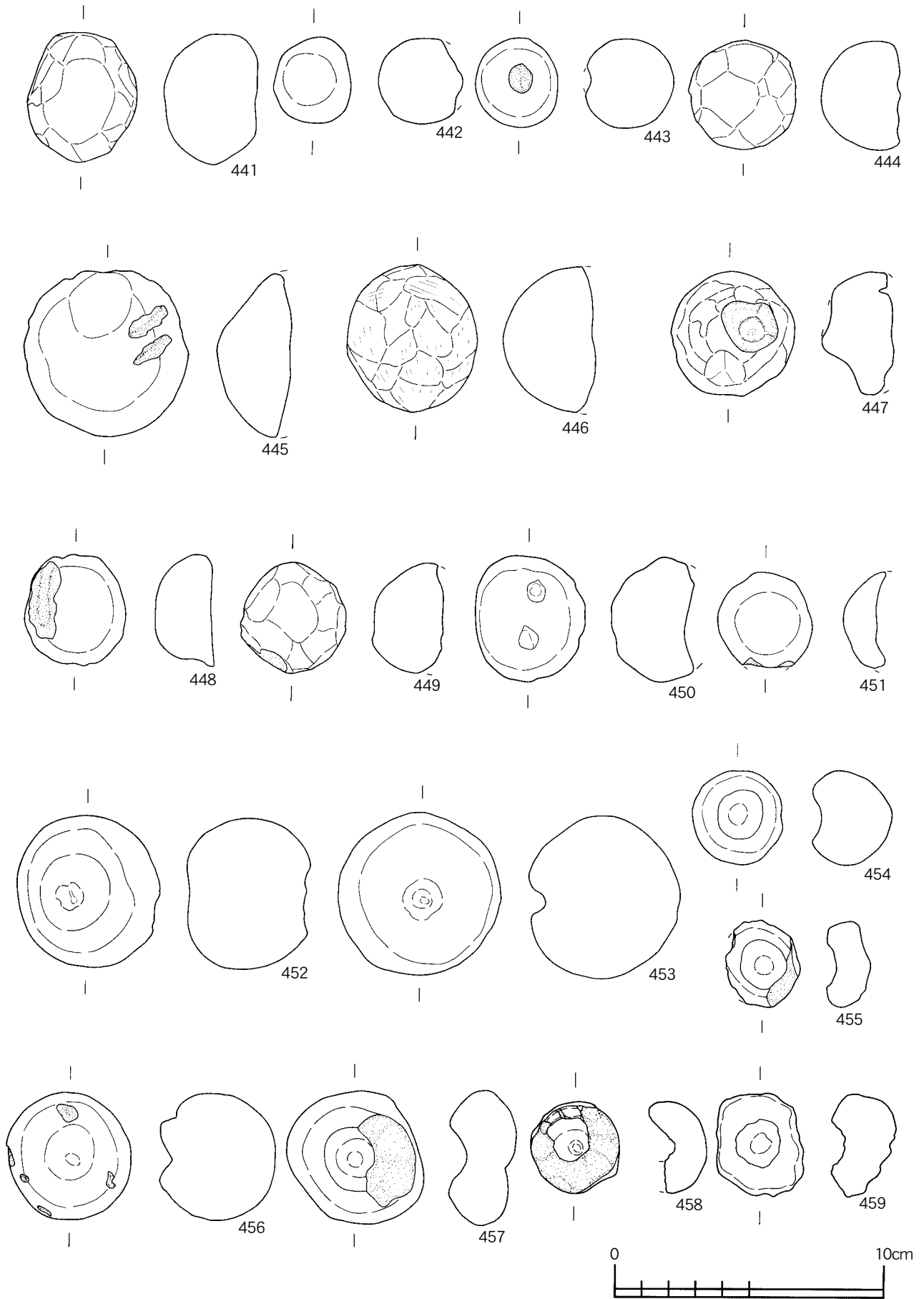
第386図 遺構外出土石製品 (17)



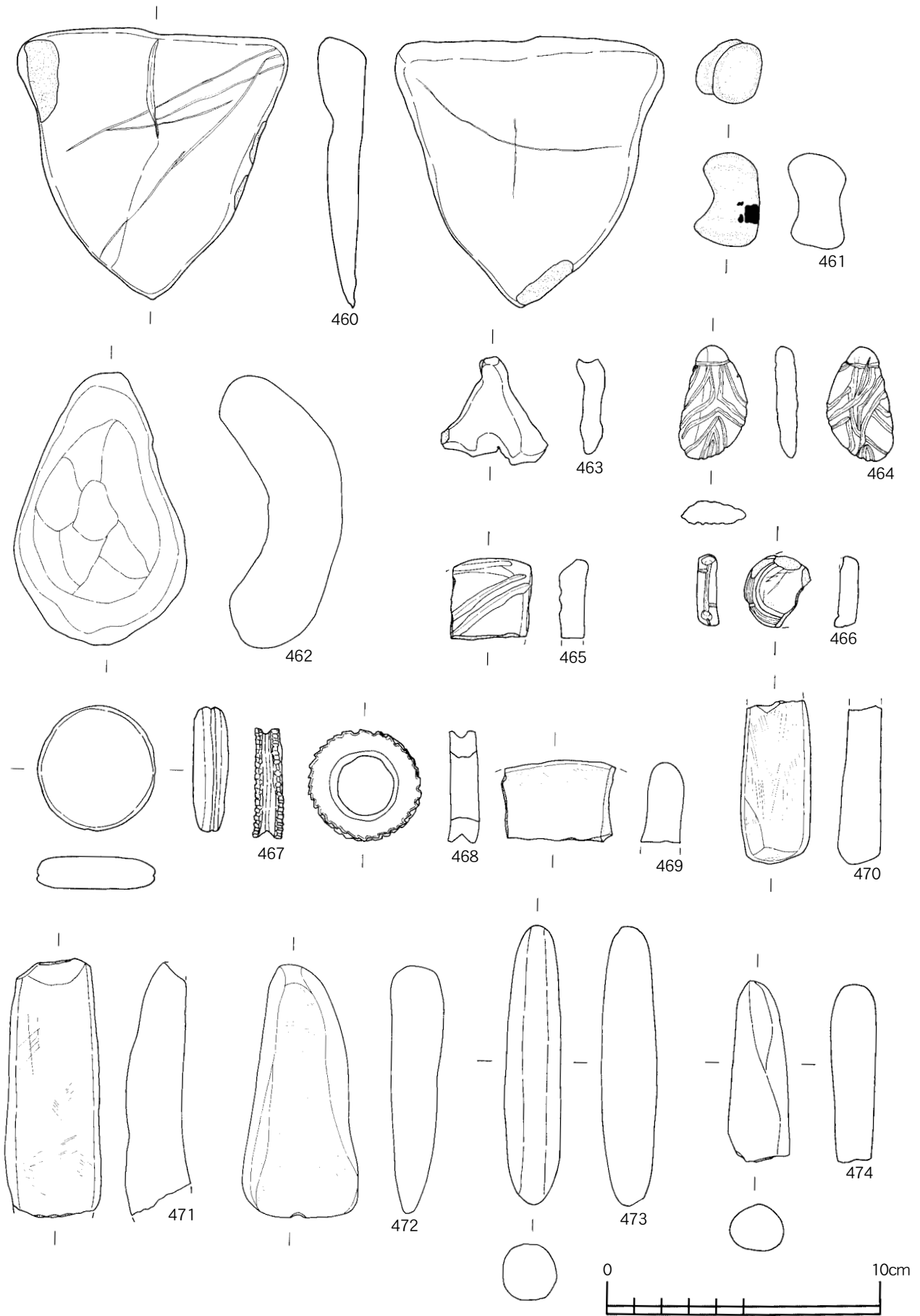
第387図 遺構外出土石製品 (18)



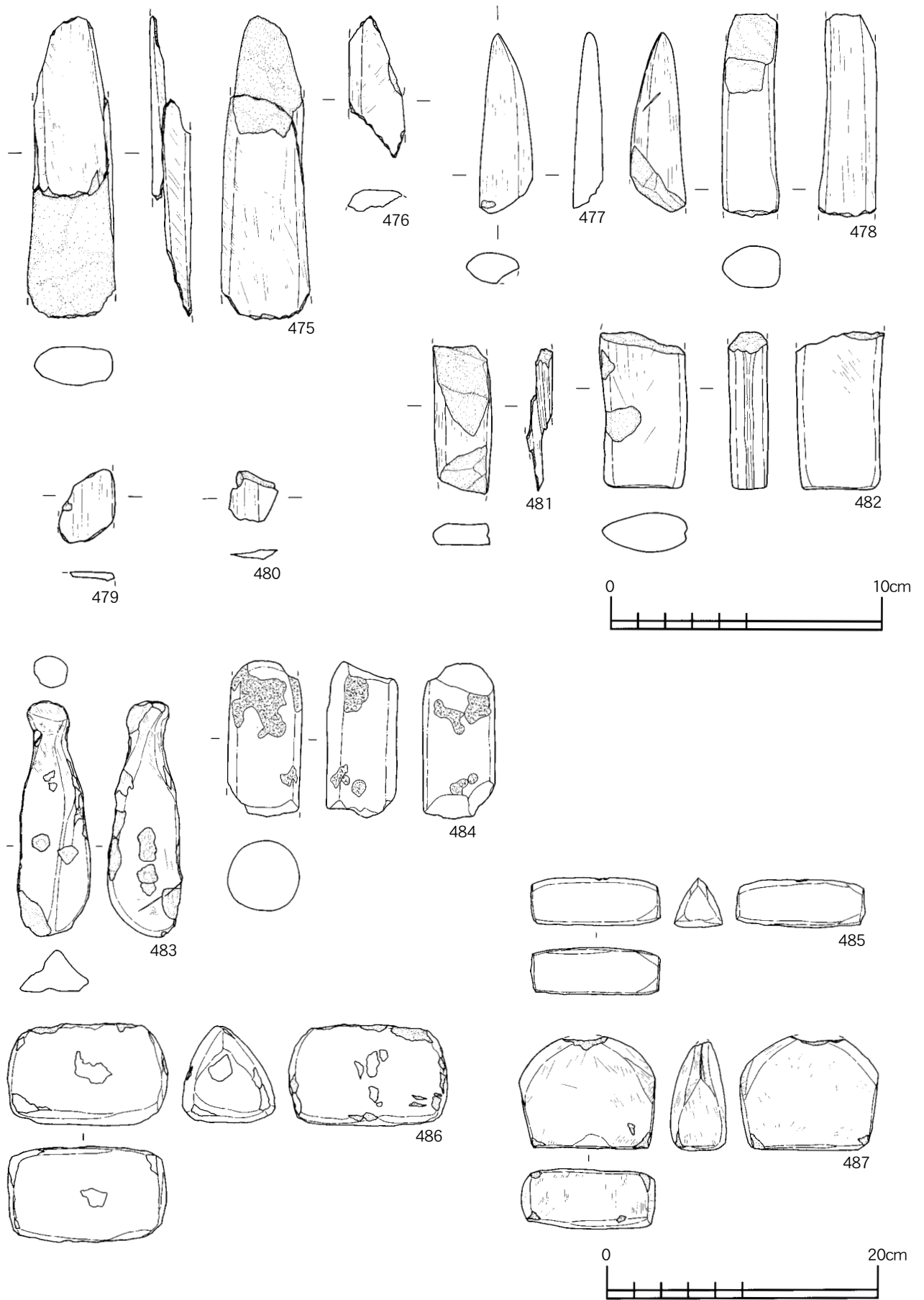
第388図 遺構外出土石製品 (19)



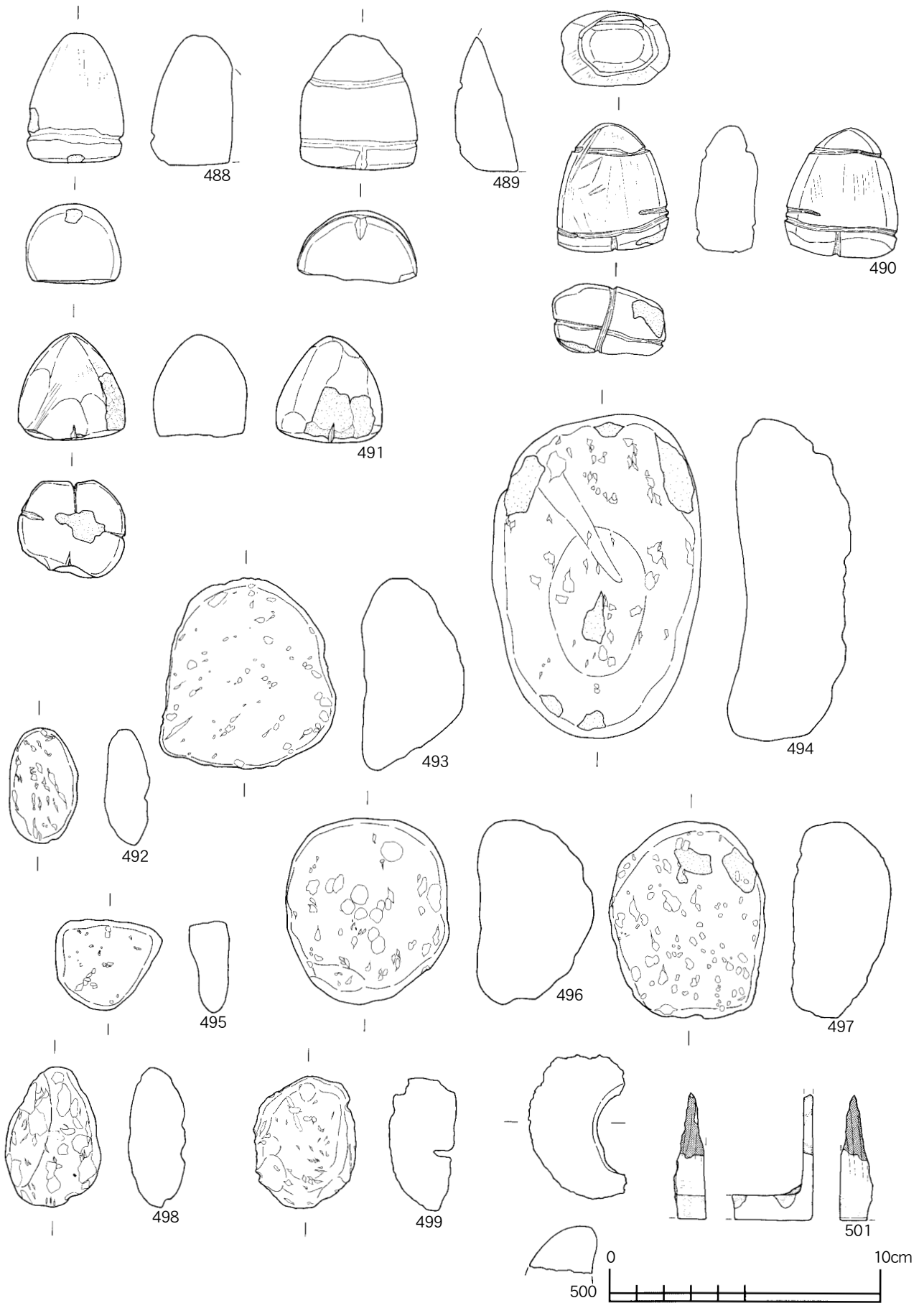
第389図 遺構外出土石製品 (20)



第390図 遺構外出土石製品 (21)



第391図 遺構外出土石製品 (22)



第392図 遺構外出土石製品 (23)

平成12年度調査のまとめ

稲山遺跡は、青森市諏訪沢字山辺に所在する。

本遺跡は、青森市東部の山地に位置し、砥取山から北東に伸びる小山地の末端部に相当する稲山の南丘陵、標高10～40mに位置する。調査対象区は遺跡の北側にあたり、調査区中央部は、丘陵が一部南に突き出し、台地状の地形となっている。西側は緩やかな丘陵、東側は平坦に近い地形である。

本遺跡の発掘調査は、平成10年度より実施しており、平成12年度調査は、第三次調査に相当する。平成12年度調査においては、調査対象区東側や中央部の台地上を主体に調査面積5,452㎡の発掘調査を実施した。

調査の結果、竪穴式住居跡11軒、土坑613基、埋設土器遺構15基、配石遺構8基、溝状遺構4基、焼土遺構3基を検出した。竪穴式住居跡は、縄文時代前期中葉の時期と思われるもの2軒、縄文時代前期末葉の時期と思われるもの9軒である。土坑は、縄文時代前期と思われるもの86基、前期ないし前期以前と思われるもの2基、前期ないし前期以降と思われるもの6基、縄文時代後期と思われるもの234基、後期ないし後期以前と思われるもの20基、後期ないし後期以降と思われるもの13基、時期が不明なもの252基である。埋設土器遺構は、縄文時代前期末葉と思われるもの10基、縄文時代前期後半と思われるもの3基、縄文時代後期前半と思われるもの2基である。配石遺構は時期を特定できるような遺物の出土は見られなかったが確認層より縄文時代後期初頭から前葉と思われる。溝状遺構も遺物の出土はないが他遺構との重複関係より縄文時代前期以降と思われるもの1基、縄文時代後期以前と思われるもの2基、縄文時代後期以降と思われるもの1基である。焼土遺構は、他遺構との重複関係より縄文時代後期以降と思われるもの1基、時期不明なもの2基である。

これらの遺構は、縄文時代前期、後期ともにほとんどがこれまでの調査と同様調査区中央部の台地上で検出しており、台地を取り囲むように濃密に分布している。土坑については新たに、これまでの袋状、フラスコ状のものと異なる、平面形が隅丸長方形や長い楕円形を呈するタイプのものを検出しており、これらには、第 群土器と石器との共伴関係が一部見られる。また、埋設土器遺構では、縄文時代前期以外に縄文時代後期前葉のものを検出した。また、詳細な時期は不明であるが、溝状遺構や焼土遺構を検出した。

出土遺物は、土器、石器、土製品、石製品等段階ボール箱換算で計550箱が出土している。検出遺構と同様調査区中央部の台地上で大半が出土している。出土土器は、第 群、第 群土器である。第 群土器では、四足を伸ばした動物をモチーフにしていると思われる狩猟文土器も出土している。石器は、遺構内外より剥片石器1,712点、石斧118点、礫石器1,787点、水晶28点、計3,645点と多数出土している。土製品並びに石製品では、これまでの調査と同様、土器片土器片利用土製品や三角形岩版、円形岩版が多数出土している。

また、調査区東端部では、遺構は無く、流れ込みと思われる状況で散発的な遺物の出土が見られるのみであったことから全面調査には至らないと判断した。この地点の出土遺物については、本遺跡の主体部と思われる調査区中央部からのものとは距離的にも考えにくく、平成14年度本遺跡の東方で新たに稲山(2)遺跡が確認されたこともあり、本遺跡外より東側への関連が考えられる。

本遺跡の発掘調査は、これまで平成10年度から平成13年度の四次にわたり実施しており、調査対象範囲のうち残る1,173㎡については、平成15年度に調査を予定している状況である。

最後になりましたが、本遺跡の現地調査並びに整理作業・報告書刊行作業にわたり、ご指導ご協力を賜った関係各位に深くお礼を申し上げます。

引用・参考文献

- | | | | |
|--------------|------|-------|-------------------------------|
| 青森県教育委員会 | 1978 | 第38集 | 『熊沢遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森県教育委員会 | 1987 | 第103集 | 『大石平遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森県立郷土館 | 1995 | 第35集 | 『木造町田小屋野貝塚』 |
| 青森市教育委員会 | 1996 | 第30集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 1997 | 第35集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 1998 | 第40集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 1999 | 第45集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 2000 | 第48集 | 『熊沢遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 2000 | 第50集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 2001 | 第55集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 2001 | 第56集 | 『稲山遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 2001 | 第57集 | 『稲山遺跡発掘調査概報』 |
| 青森市教育委員会 | 2002 | 第60集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 2002 | 第61集 | 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 2002 | 第62集 | 『稲山遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市蚩沢遺跡発掘調査団 | 1979 | | 『蚩沢遺跡』 |
| 児玉大成 | 1997 | | 「三角形岩版について」『青森県考古学』10 青森県考古学会 |
| 成田滋彦 | 1989 | | 「入江・十腰内 式土器様式」『縄文土器大観』4 小学館 |
| 三宅徹也 | 1989 | | 「円筒土器下層様式」『縄文土器大観』1 小学館 |
| 村越 潔 | 1974 | | 『円筒土器文化』 雄山閣 |

報 告 書 抄 録

ふりがな	いなやまいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	稲山遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第66集							
編著者名	小野貴之							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030 8555 青森県青森市中央一丁目22 - 5 TEL 017 - 734 - 1111							
発行年月日	西暦 2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測値系		調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
いな 稲	やま 山	02201	045	40°	140°	20000522	5,452	道路建設（東北縦貫自動車道八戸線建設工事並びに高規格道路建設促進事業）に伴う事前調査
				49°	49°	20001031		
12°	18°							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
いな 稲	やま 山 集落跡	縄文	竪穴式住居跡	11軒	縄文土器			
			土坑	613基	石器			
			埋設土器遺構	15基	土製品			
			配石遺構	8基	石製品			
			溝状遺構	4基				
			焼土遺構	3基				

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962 『三内霊園遺跡調査概報』	青森市埋蔵文化財調査報告書	
"	2	1965 『四ツ石遺跡調査概報』	"	第37集 1998 『新町野遺跡発掘調査報告書』
"	3	1967 『玉清水遺跡調査概報』	"	第38集 1998 『野木遺跡発掘調査報告書』
"	4	1970 『三内丸山遺跡調査概報』	"	第39集 1998 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
"	5	1971 『野木和遺跡調査報告書』	"	第40集 1998 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	6	1971 『玉清水 遺跡発掘調査報告書』	"	第41集 1998 『野木遺跡発掘調査概報』
"	7	1971 『大浦遺跡調査報告書』	"	第42集 1998 『熊沢遺跡発掘調査概報』
"	8	1973 『孫内遺跡発掘調査報告書』	"	第43集 1999 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
		1979 『蚩沢遺跡』	"	第44集 1999 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
		1983 『四戸橋遺跡調査報告書』	"	第45集 1999 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	"	第46集 1999 『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
"	1985	『長森遺跡発掘調査報告書』	"	第47集 1999 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	"	第48集 2000 『熊沢遺跡発掘調査報告書』
"	1987	『横内城跡発掘調査報告書』	"	第49集 2000 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』	"	第50集 2000 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			"	第51集 2000 『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡 発掘調査報告書』
"	第16集	1991 『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	"	第52集 2000 『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
"	第17集	1992 『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	"	第53集 2000 『市内遺跡発掘調査報告書』
"	第18集	1993 『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』	"	第54集 2001 『新町野遺跡発掘調査報告書』 野木遺跡発掘調査報告書』
"	第19集	1993 『市内遺跡発掘調査報告書』	"	第55集 2001 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	第20集	1993 『小牧野遺跡発掘調査概報』	"	第56集 2001 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第21集	1994 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第57集 2001 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	第22集	1994 『小三内遺跡発掘調査報告書』	"	第58集 2001 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報』
"	第23集	1994 『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』	"	第59集 2001 『市内遺跡発掘調査報告書』
"	第24集	1995 『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』	"	第60集 2002 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	第25集	1995 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第61集 2002 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
"	第26集	1995 『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』	"	第62集 2002 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第27集	1996 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	"	第63集 2002 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	第28集	1996 『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』	"	第64集 2002 『市内遺跡発掘調査報告書』
"	第29集	1996 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第65集 2003 『雲谷山吹(4)~(7)遺跡発掘調査報告書』
"	第30集	1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』	"	第66集 2003 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第31集	1997 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第67集 2003 『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
"	第32集	1997 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	"	第68集 2003 『近野遺跡発掘調査報告書』
"	第33集	1997 『新町野遺跡試掘調査報告書』	"	第69集 2003 『市内遺跡発掘調査報告書11』
"	第34集	1997 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』	"	第70集 2003 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	第35集	1997 『小牧野遺跡発掘調査報告書』		
"	第36集	1998 『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』		

青森市埋蔵文化財調査報告書第66集

稲山遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成 15 年 3 月 31 日

発 行 青 森 市 教 育 委 員 会
〒030 8555 青森市中央一丁目22 5
TEL 017 734 1111

印 刷 青森オフセット印刷株式会社
〒030 0802 青森市本町二丁目11 16
TEL 017 775 1431

